

中部国際空港沖公有水面埋立事業
環境影響評価書

資料編

令和2年3月

国土交通省
中部地方整備局

本書に掲載した地図は、国土地理院発行の電子地形図 20 万及び基盤地図情報を加工して作成したものです。

資料編 目次

頁

第3章 3.1 自然的状況に係る資料

3.1.1 海棲哺乳類（スナメリ）の確認状況	3.1-1
付表 3.1-1 伊勢湾・三河湾におけるスナメリの発見数	3.1-1
付図 3.1-1 伊勢湾・三河湾及び遠州灘における海棲哺乳類のストランディング例数 （平成24年～平成28年）	3.1-2
付図 3.1-2 海棲哺乳類の漂着地点（平成24年～平成28年）	3.1-3
3.1.2 海棲爬虫類（アカウミガメ）の確認状況	3.1-4
付図 3.1-3 アカウミガメ上陸地点	3.1-4
付表 3.1-2 知多半島西側における海棲爬虫類の産卵状況	3.1-5
付図 3.1-4 知多半島西側における海棲爬虫類の主な産卵場所	3.1-6
付図 3.1-5 知多半島周辺におけるアカウミガメの上陸及び産卵地	3.1-7

第8章 8.4 水質に係る資料

伊勢湾シミュレーターの計算条件及び現況再現結果	8.4-1
8.4.1 伊勢湾シミュレーターの計算条件	8.4-1
付図 8.4-1 海岸線及び水深	8.4-2
付図 8.4-2 計算格子	8.4-6
付表 8.4-1 鉛直方向の計算格子	8.4-10
付表 8.4-2 湾口部の潮汐の調和定数	8.4-11
付図 8.4-3 湾口部の境界条件に用いた調査点位置	8.4-12
付図 8.4-4 湾口部の境界条件の水温・塩分の経時変化	8.4-12
付図 8.4-5 流入河川等の位置（伊勢湾）	8.4-14
付表 8.4-3 一級河川のH-Q式	8.4-15
付図 8.4-6 河川流量	8.4-15
付表 8.4-4 水温・塩分の初期値	8.4-16
付図 8.4-7 気温の空間分布の推定に用いた観測地点	8.4-17
付図 8.4-8 鉛直粘性及び拡散係数の設定手順	8.4-18
付表 8.4-5 一級河川のL-Q式	8.4-20
付表 8.4-6 中小河川の発生負荷量	8.4-21
付図 8.4-9 河川の負荷量の経日変化	8.4-22
付表 8.4-7 水質の初期値	8.4-24
付表 8.4-8 水質モデルのパラメーター	8.4-25
付図 8.4-10 TOCからCODへの換算式	8.4-34
8.4.2 伊勢湾シミュレーターの現況再現結果	8.4-35
付表 8.4-9 現況再現の計算条件	8.4-35
付図 8.4-11 潮流楕円の観測値と計算値の比較	8.4-37

付図 8.4-12	平均流ベクトルの観測値と計算値の比較	8.4-54
付図 8.4-13	水温の観測値と計算値の比較	8.4-59
付図 8.4-14	塩分の観測値と計算値の比較	8.4-62
付図 8.4-15	COD の観測値と計算値の比較	8.4-66
付図 8.4-16	全窒素の観測値と計算値の比較	8.4-70
付図 8.4-17	全燐の観測値と計算値の比較	8.4-74
付図 8.4-18	溶存酸素量の観測値と計算値の比較	8.4-78
その他水質に係る資料		8.4-81
付表 8.4-10	化学的酸素要求量 (COD) の経年変化 (公共用水域)	8.4-81
付図 8.4-19	地点別 COD の経年変化 (全層、年間の 75%値)	8.4-83
付表 8.4-11	全窒素 (T-N) の経年変化 (公共用水域)	8.4-85
付図 8.4-20	地点別全窒素の経年変化 (上層年平均値)	8.4-87
付表 8.4-12	全燐 (T-P) の経年変化 (公共用水域)	8.4-89
付図 8.4-21	地点別全燐の経年変化 (上層年平均値)	8.4-91
付図 8.4-22	溶存酸素の鉛直分布 (事業者実施調査)	8.4-93
付表 8.4-13	溶存酸素量の測定結果の概要 (三重県)	8.4-105
付図 8.4-23	地点別溶存酸素量の経年変化及び鉛直分布 (三重県)	8.4-107
付図 8.4-24	貧酸素水塊の分布 (愛知県水産試験場)	8.4-113
付図 8.4-25	水温の鉛直分布 (事業者実施調査)	8.4-118
付図 8.4-26	地点別水温の経年変化 (三重県)	8.4-130
付図 8.4-27	水温測定結果 (三重県 月平均値 上層)	8.4-132
付図 8.4-28	塩分の鉛直分布 (事業者実施調査)	8.4-133
付図 8.4-29	地点別塩分の経年変化 (三重県 年平均値 上層)	8.4-145
付図 8.4-30	塩分測定結果 (三重県 月平均値 上層)	8.4-147
付図 8.4-31	流向別流速出現頻度分布	8.4-148
付図 8.4-32	M ₂ 分潮の潮流楕円の水平分布	8.4-170
付図 8.4-33	潮流楕円	8.4-179
付図 8.4-34	平均大潮期流況	8.4-199
付図 8.4-35	恒流の水平分布	8.4-208
付図 8.4-36	潮流楕円の経年変化	8.4-217
付図 8.4-37	期間平均流ベクトルの経年変化	8.4-221
付図 8.4-38	流向別流速出現頻度分布	8.4-225
付図 8.4-39	海水の流れ調査地点及び平均流ベクトル	8.4-230
付表 8.4-14	予測対象年度の選定に係る異常年検定の結果	8.4-236
付図 8.4-40	埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果	8.4-242
付図 8.4-41	埋立ての途中形状及び完成時における化学的酸素要求量の予測結果	8.4-254
付図 8.4-42	埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果	8.4-262
付図 8.4-43	埋立ての途中形状及び完成時における全窒素の予測結果	8.4-274
付図 8.4-44	埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果	8.4-282

付図 8.4-45	埋立ての途中形状及び完成時における全燐の予測結果	8.4-294
付図 8.4-46	埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果	8.4-302
付図 8.4-47	埋立ての途中形状及び完成時における溶存酸素の予測結果	8.4-314

第8章 8.6 その他水環境に係る資料

付図 8.6-1	埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果（上げ潮時）	8.6-1
付図 8.6-2	埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果（下げ潮時）	8.6-13
付図 8.6-3	埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果（平均流）	8.6-25
付図 8.6-4	埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果 （空港島周辺、上げ潮時）	8.6-37
付図 8.6-5	埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果 （空港島周辺、下げ潮時）	8.6-49
付図 8.6-6	埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果 （空港島周辺、平均流）	8.6-61
付図 8.6-7	埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果 （狭域、上げ潮時）	8.6-73
付図 8.6-8	埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果 （狭域、下げ潮時）	8.6-81
付図 8.6-9	埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果 （狭域、平均流）	8.6-89

第8章 8.8 動物に係る資料

付図 8.8-1	営巣地の確認状況	8.8-1
付表 8.8-1	動物プランクトン出現状況	8.8-2
付図 8.8-2	動物プランクトン出現状況	8.8-5
付表 8.8-2	底生生物の出現状況	8.8-17
付図 8.8-3	底生生物の出現状況	8.8-21
付表 8.8-3	付着生物（動物）の出現状況（目視観察調査）	8.8-33
付表 8.8-4	付着生物（動物）の出現状況（粹取り調査）	8.8-36
付図 8.8-4	付着生物（動物）の出現状況（粹取り調査）	8.8-39
付表 8.8-5	魚卵出現状況	8.8-45
付表 8.8-6	不明卵の卵径	8.8-50
付図 8.8-5	魚卵出現状況	8.8-51
付表 8.8-7	稚仔魚出現状況	8.8-66
付図 8.8-6	稚仔魚出現状況	8.8-71
付表 8.8-8	魚類等（底生魚類等）の出現状況	8.8-86
付図 8.8-7	魚類等（底生魚類等）の出現状況	8.8-92
付表 8.8-9	魚類等（浮魚類等）の出現状況	8.8-104

付図 8.8-8	魚類等（浮魚類等）の出現状況	8.8-109
付表 8.8-10	干潟生物（底生生物）の出現状況	8.8-121
付表 8.8-11	干潟生物（幼稚仔：砕波帯ネット）の出現状況	8.8-124
付表 8.8-12	干潟生物（幼稚仔：水流噴射式ネット）の出現状況	8.8-125
付表 8.8-13	底生生物（アマモ場）の出現状況	8.8-126
付表 8.8-14	葉上生物（アマモ場）の出現状況	8.8-128
付表 8.8-15	葉上生物（空港島護岸）の出現状況	8.8-130
付表 8.8-16	魚卵（アマモ場）の出現状況	8.8-132
付表 8.8-17	幼稚仔（アマモ場）の出現状況	8.8-133
付表 8.8-18	魚類等（空港島護岸）の出現状況	8.8-136
付図 8.8-9	スナメリ確認位置	8.8-138
付図 8.8-10	重要な種の確認状況（鳥類）	8.8-140
付図 8.8-11	重要な種の確認状況（海生動物）	8.8-189

第8章 8.9 植物に係る資料

付表 8.9-1	植物プランクトン出現状況	8.9-1
付図 8.9-1	植物プランクトン出現状況	8.9-6
付表 8.9-2	海草藻類目視観察結果	8.9-17
付図 8.9-2	海草藻類分布状況（目視観察調査）	8.9-18
付表 8.9-3	海草藻類出現状況（粹取り調査）	8.9-24
付図 8.9-3	海草藻類分布状況（粹取り調査）	8.9-26
付表 8.9-4	付着生物（植物）の目視観察調査結果	8.9-38
付表 8.9-5	付着生物（植物）の出現状況（粹取り調査）	8.9-40
付図 8.9-4	付着生物（植物）の分布状況（粹取り調査）	8.9-42

3.1 自然的状況に係る資料

3.1.1 海棲哺乳類（スナメリ）の確認状況

1. 自然環境保全基礎調査

「自然環境保全基礎調査 海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査報告書」（環境庁自然保護局、平成10年）によれば、伊勢湾と三河湾では船舶を用いた調査により1,900頭の生息個体数が推定されている。

また、「自然環境保全基礎調査 海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査（スナメリ生息調査）報告書」（環境省自然環境局、平成14年）によると、伊勢湾及び三河湾において航空機による調査を実施し、解析の結果、伊勢湾3,038頭、三河湾705頭を暫定的な推定個体数としている。

航空機による調査で確認されたスナメリの頭数は、付表3.1-1のとおりである。親子づれの発見は全体で63組あり、全発見頭数に対する親子づれが占める割合は、36.1%であった。

付表 3.1-1 伊勢湾・三河湾におけるスナメリの発見数

調査日	1次発見			2次発見			合計（1次+2次）		
	群数	頭数	親子組数	群数	頭数	親子組数	群数	頭数	親子組数
平成12年5月15日	68	144	25	15	31	7	83	175	32
平成12年5月16日	32	58	6	4	24	2	36	82	8
平成12年5月22日午前	3	11	0	27	67	20	30	78	20
平成12年5月22日午後	6	14	3	0	0	0	6	14	3
合計	109	227	34	46	122	29	155	349	63

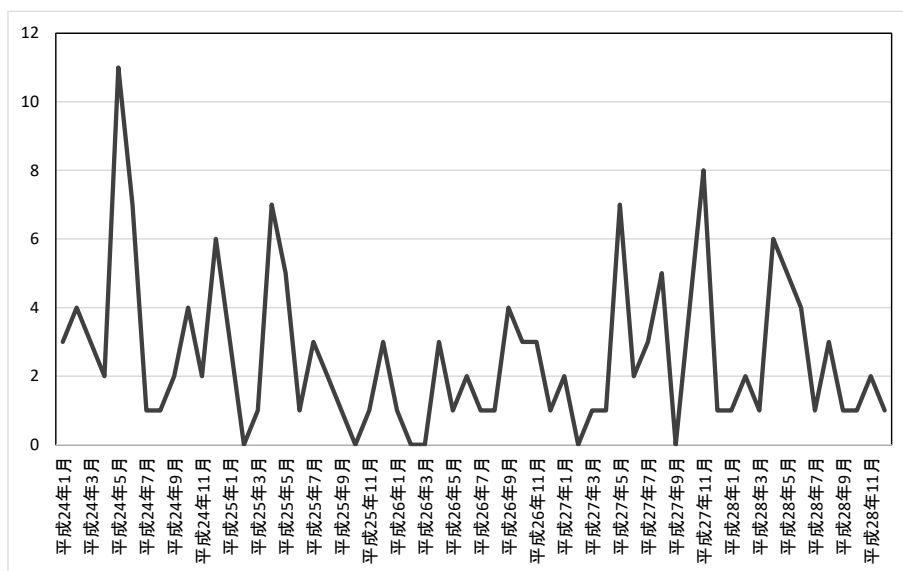
注：1次発見は、あらかじめ決められた調査ラインを指定高度、指定速度で左右の観察者が同時に観察しているときの発見を示し、2次発見は、往復路を含む上記の条件に当てはまらない発見を示す。

（「自然環境保全基礎調査 海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査（スナメリ生息調査）報告書」
（環境省自然環境局、平成14年）より作成）

2. 南知多ビーチランドの資料

伊勢湾、三河湾及び遠州灘における平成 24 年から平成 28 年の 5 年間に於ける海棲哺乳類のストランディング※は、付図 3.1-1 及び付図 3.1-2 のとおりである。

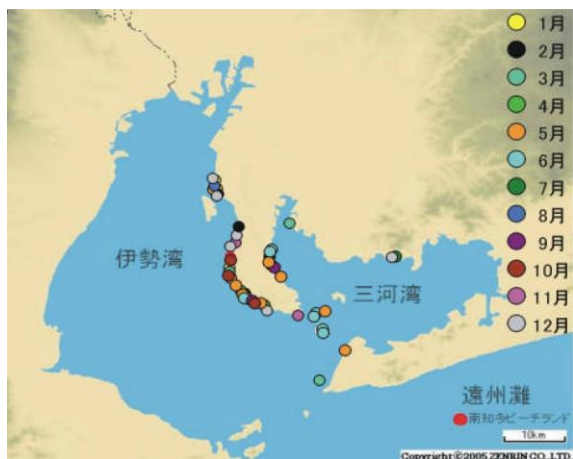
海棲哺乳類の漂着地点は、伊勢湾では中部国際空港付近の蒲池海岸及び中部国際空港の南部に位置する奥田海岸、野間海岸、小野浦海岸等である。



付図 3.1-1 伊勢湾、三河湾及び遠州灘における海棲哺乳類のストランディング例数（平成 24 年～平成 28 年）

「2012～2016 年にストランディングした海棲哺乳類について」
（南知多ビーチランド HP）より作成

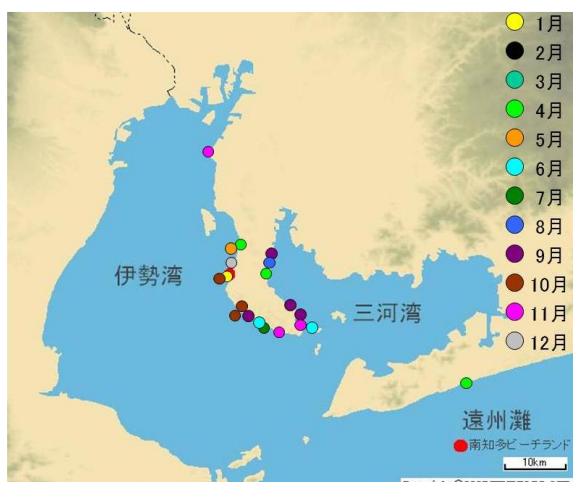
※ストランディングとは（一財）日本鯨類研究所によると「海棲哺乳類が海岸線から陸地側へ生きた状態で座礁したり、死んだ状態で漂着し、自力で本来の生息域に戻ることができなくなる」とされている。



平成 24 年



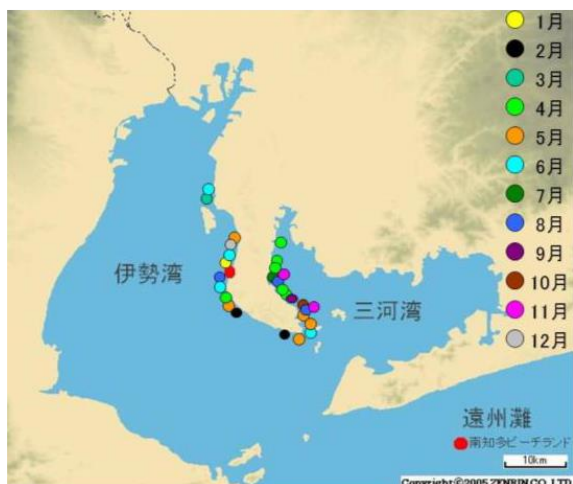
平成 25 年



平成 26 年



平成 27 年



平成 28 年

付図 3.1-2 海棲哺乳類の漂着地点（平成 24 年～平成 28 年）

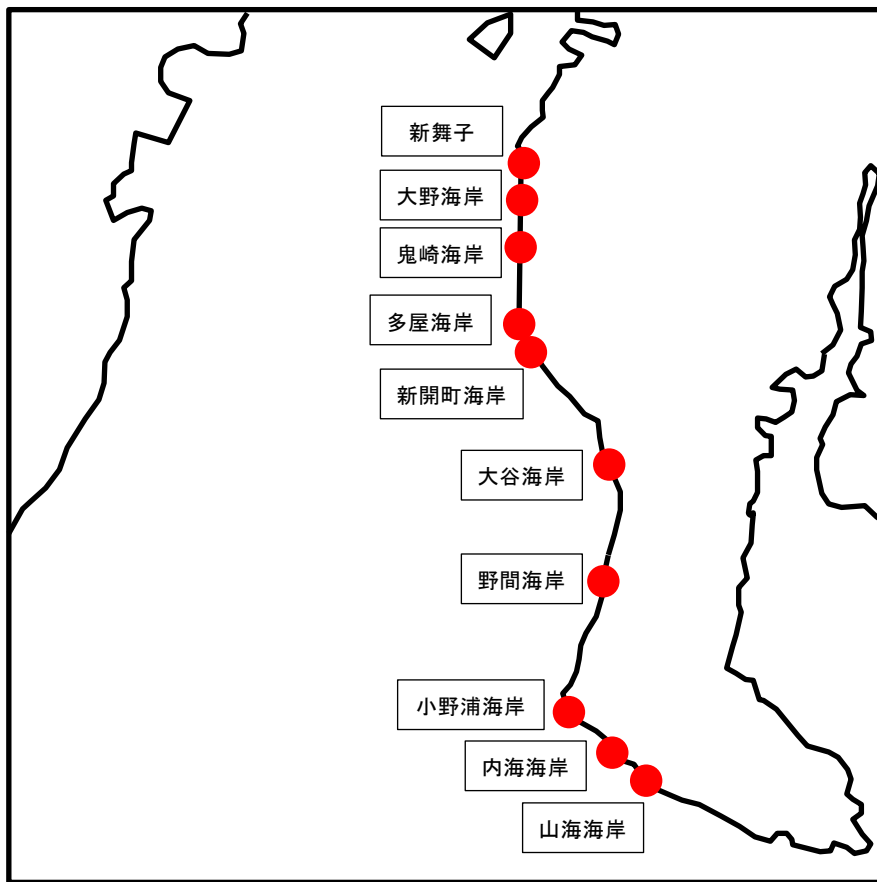
「2012～2016 年にストランディングした海棲哺乳類について」
 （南知多ビーチランド HP）より作成

3.1.2 海棲爬虫類（アカウミガメ）の確認状況

1. 自然環境保全基礎調査

「自然環境保全基礎調査 海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査報告書」（環境庁自然保護局、平成 10 年）によれば、愛知県の伊勢湾側では、多屋海岸、小野浦、内海東浜、山海で 1～10 頭の産卵上陸が記録されている。

また、「自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（ウミガメ調査）報告書」（環境省自然環境局、平成 14 年）による知多半島の伊勢湾側におけるアカウミガメの上陸記録は付図 3.1-3 のとおりである。



注：地形は、出典の図面を参考に作成した。

付図 3.1-3 アカウミガメ上陸地点

〔「自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査（ウミガメ調査）報告書」
（環境省自然環境局、平成 14 年）より作成〕

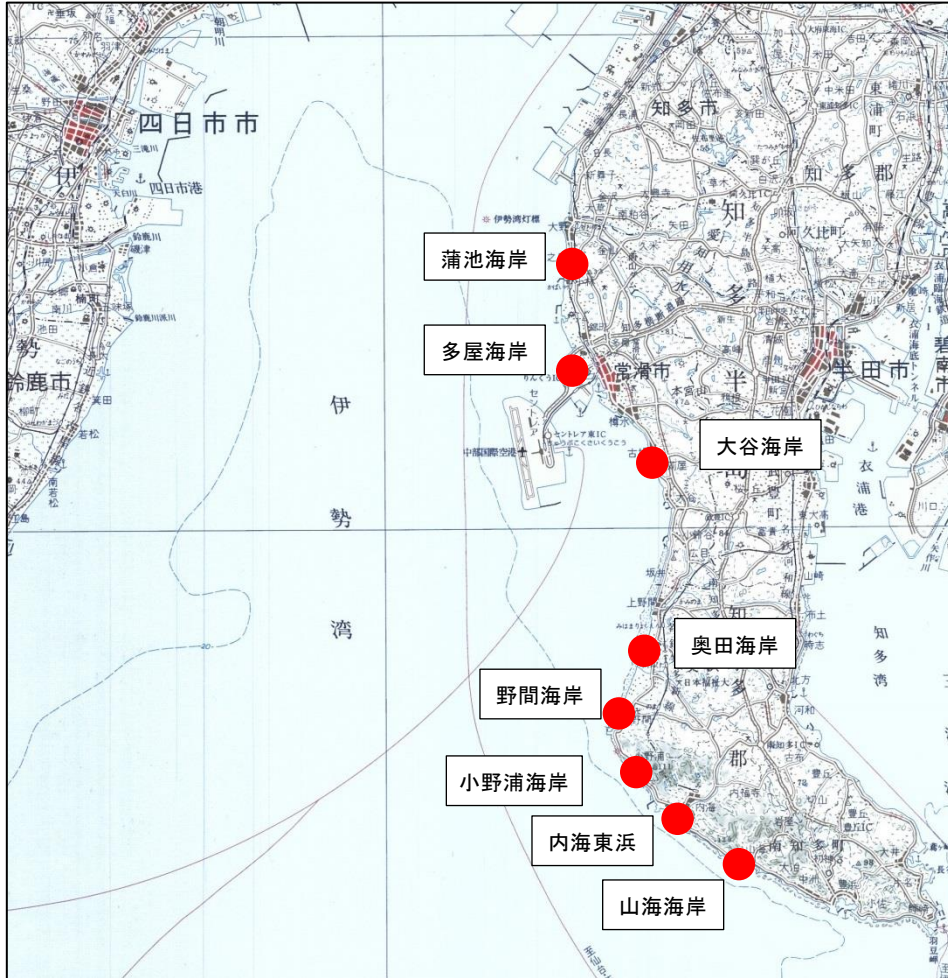
2. 南知多ビーチランドの資料

平成 22 年～平成 28 年の 7 年間に於ける海棲爬虫類の産卵状況は、付表 3.1-2 及び付図 3.1-4 のとおりであり、知多半島西側では常滑市蒲池海岸～山海海水浴場に至る海岸でウミガメ類が確認されている。産卵している種はすべてアカウミガメである。

付表 3.1-2 知多半島西側における海棲爬虫類の産卵状況

年	確認日	場所	備考
平成 22 年	6 月 24 日	奥田（北奥田）海岸	アカウミガメ
	7 月 9 日	山海海岸	アカウミガメ
	7 月 18 日	奥田（南奥田）海岸	アカウミガメ
	7 月？日	多屋海岸	アカウミガメ
	7 月？日	奥田（南奥田）海岸	アカウミガメ
平成 23 年	6 月 22 日	奥田（中奥田）海岸	アカウミガメ
	7 月 14 日	奥田（南奥田）海岸	アカウミガメ
平成 24 年	7 月 11 日	大谷海岸	アカウミガメ
	8 月 8 日	奥田（中真田）海岸	アカウミガメ
	8 月 10 日	奥田（南奥田）海岸	アカウミガメ
	8 月 25 日	野間海岸	アカウミガメ
	産卵日不明	内海東浜	アカウミガメ
平成 25 年	7 月 11 日	奥田海岸	アカウミガメ
	7 月 31 日	蒲池海岸	アカウミガメ
	—	りんくうビーチ（常滑市）	アカウミガメ（雌。産卵には至らなかった。）
平成 26 年	6 月 20 日	小野浦海岸	アカウミガメ
	7 月 4 日	奥田海岸	アカウミガメ
	7 月 20 日	小野浦海岸	アカウミガメ
平成 27 年	—	奥田海岸	アカウミガメ（台風により卵流出）
	8 月 12 日	若松海岸	アカウミガメ
平成 28 年	6 月 7 日	内海つぶてヶ浦	アカウミガメ
	6 月 26 日	若松海岸	アカウミガメ

〔「知多半島周辺におけるウミガメ類産卵状況及び死亡漂着情報」
（南知多ビーチランド HP）より作成〕



付図 3.1-4 知多半島西側における海棲爬虫類の主な産卵場所
 (「知多半島周辺におけるウミガメ類産卵状況及び死亡漂着情報」
 (南知多ビーチランドHP) より作成)

3. 国土交通省の情報（伊勢湾環境データベース）

伊勢湾環境データベースによるアカウミガメの上陸、産卵の確認状況は、付図 3.1-5 のとおりであり、平成元（1992）年～平成 15（2003）年の愛知県側において、年に 0～5 回程度でアカウミガメの上陸、産卵が確認されている。



付図 3.1-5 知多半島周辺におけるアカウミガメの上陸及び産卵地

注：1. 知多半島沿岸の情報を抜粋した。

2. アカウミガメ上陸・産卵地点は平成元（1992）年～平成 15（2003）年の調査結果である。

〔「伊勢湾環境データベース」（国土交通省中部地方整備局 HP）より作成〕

8.4 水質に係る資料

伊勢湾シミュレーターの計算条件及び現況再現結果

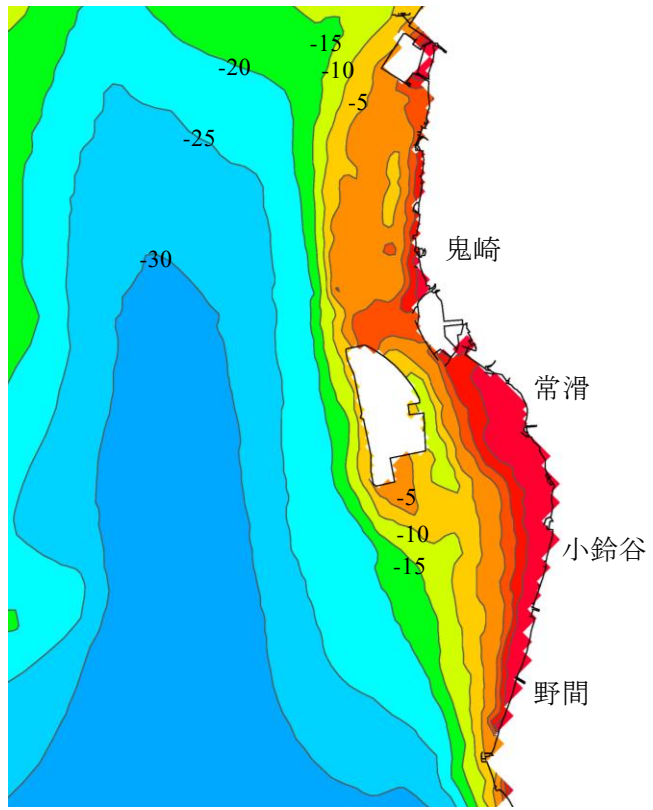
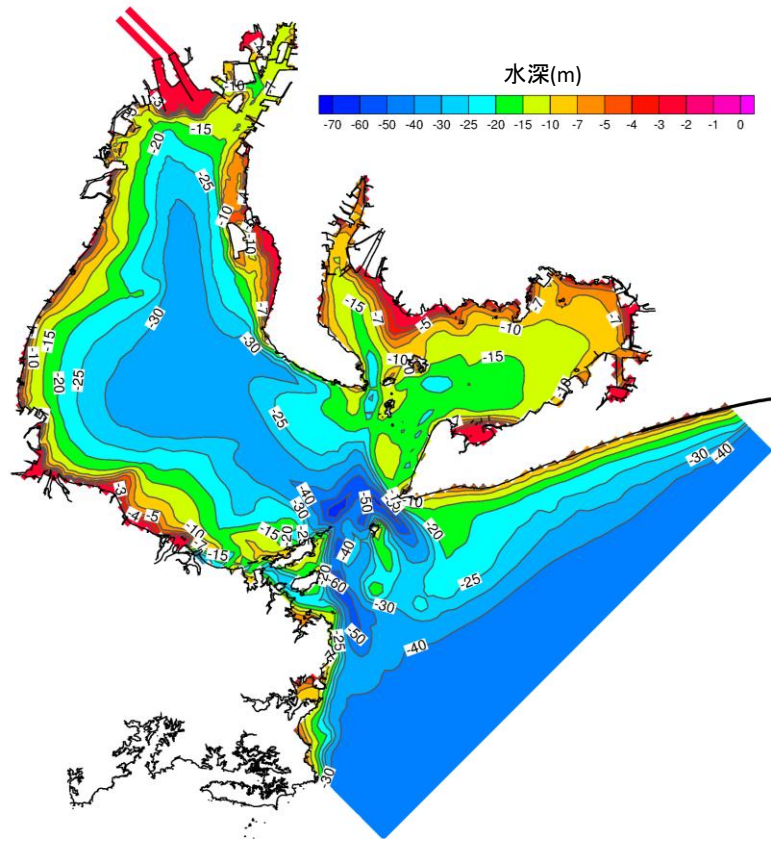
8.4.1 伊勢湾シミュレーターの計算条件

1. 計算条件

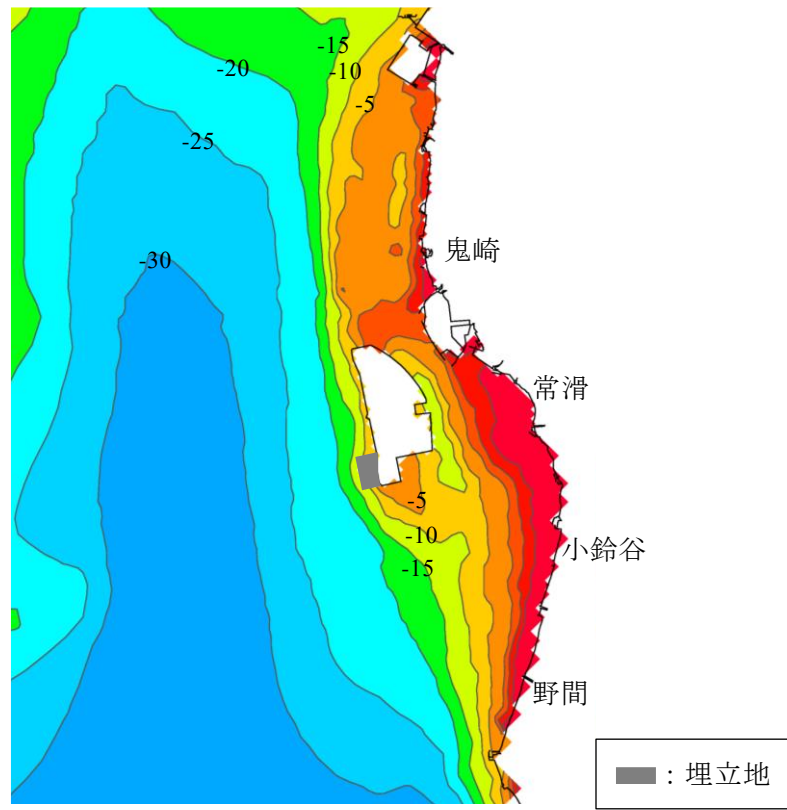
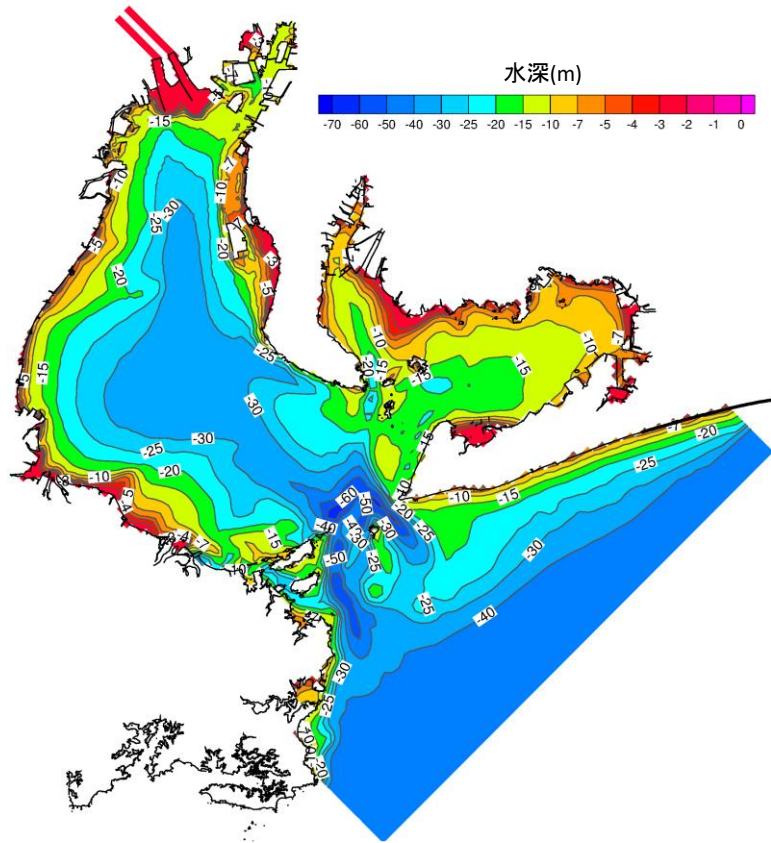
(1) 地形

計算に用いた海岸線及び水深は付図 8.4-1、海岸線及び水深図の作成に用いた資料は以下のとおりであり、埋立地なしと埋立地ありの 2 ケースについて埋立地の存在による影響を予測した。また、埋立地の存在に伴う水環境への影響については、工事の途中段階での形状 2 ケースについても予測を行った。

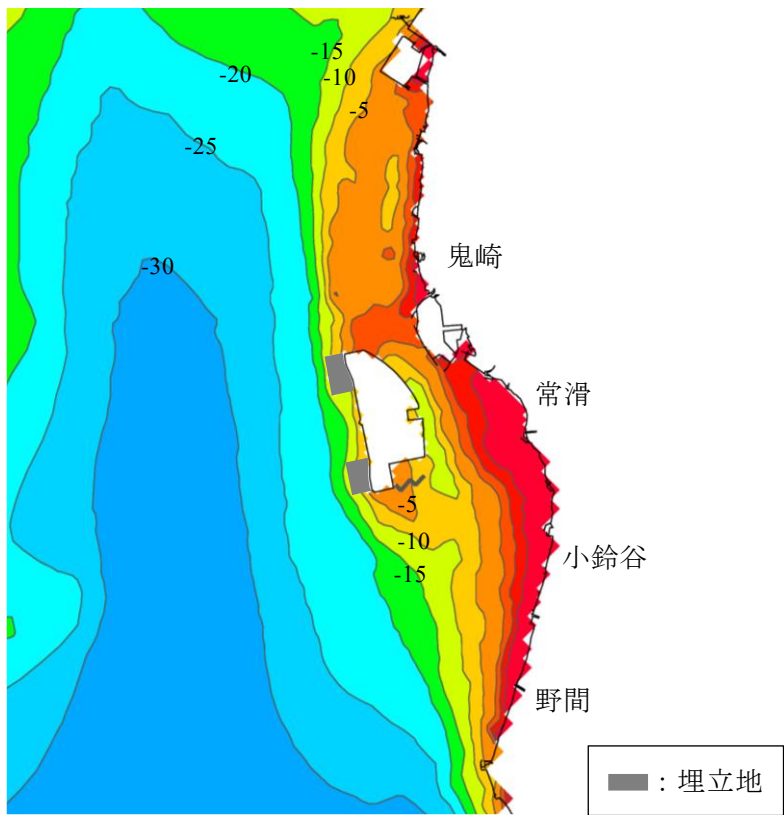
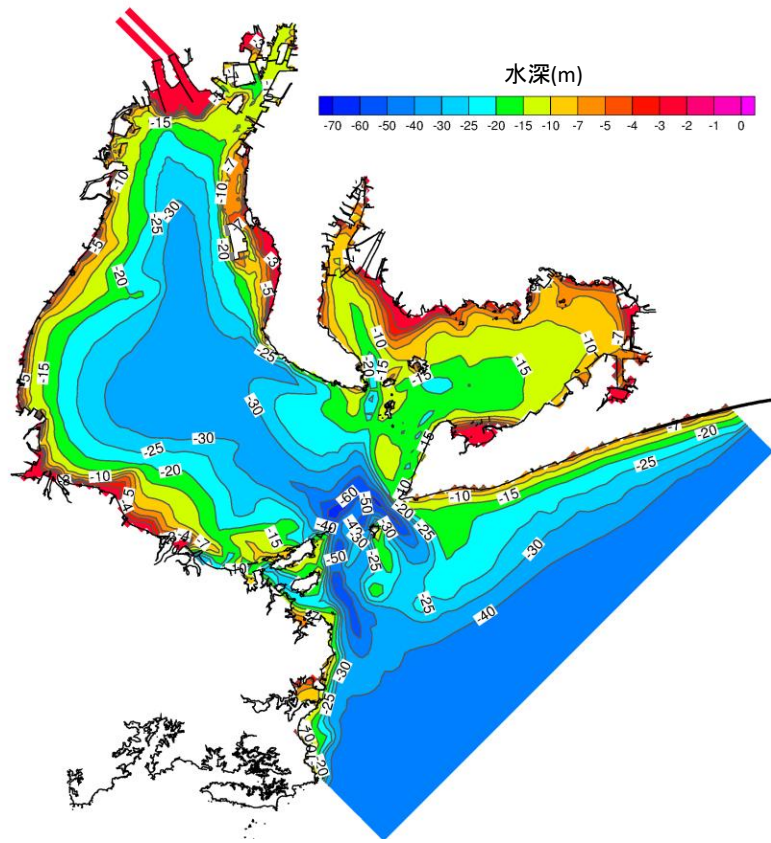
- ・「海底地形デジタルデータ M7000 シリーズ 遠州灘 ver2.0」 (日本水路協会)
- ・「航海用海図 W1055A」 (日本水路協会、平成 26 年)
- ・「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年)



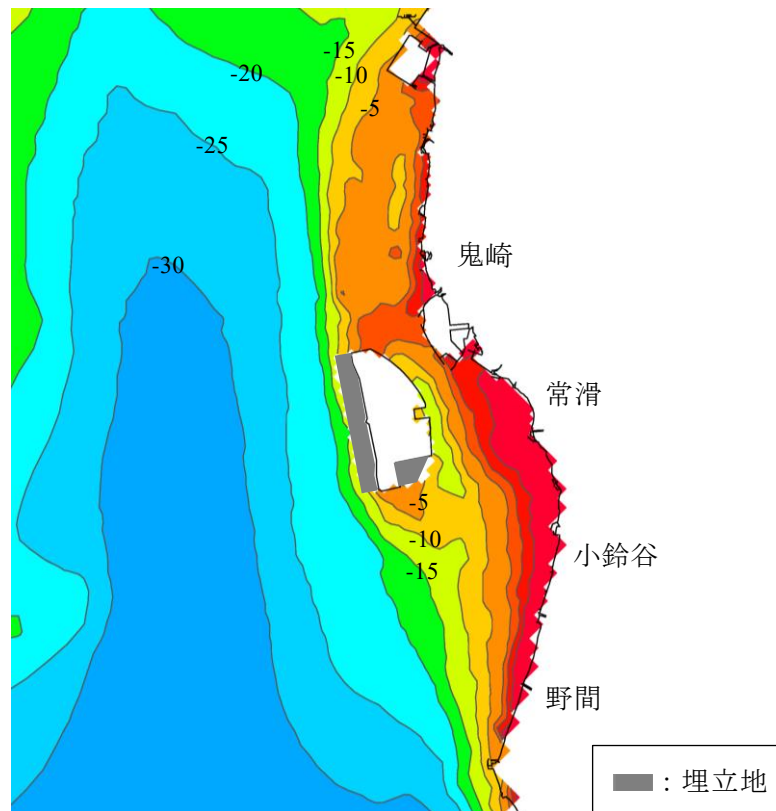
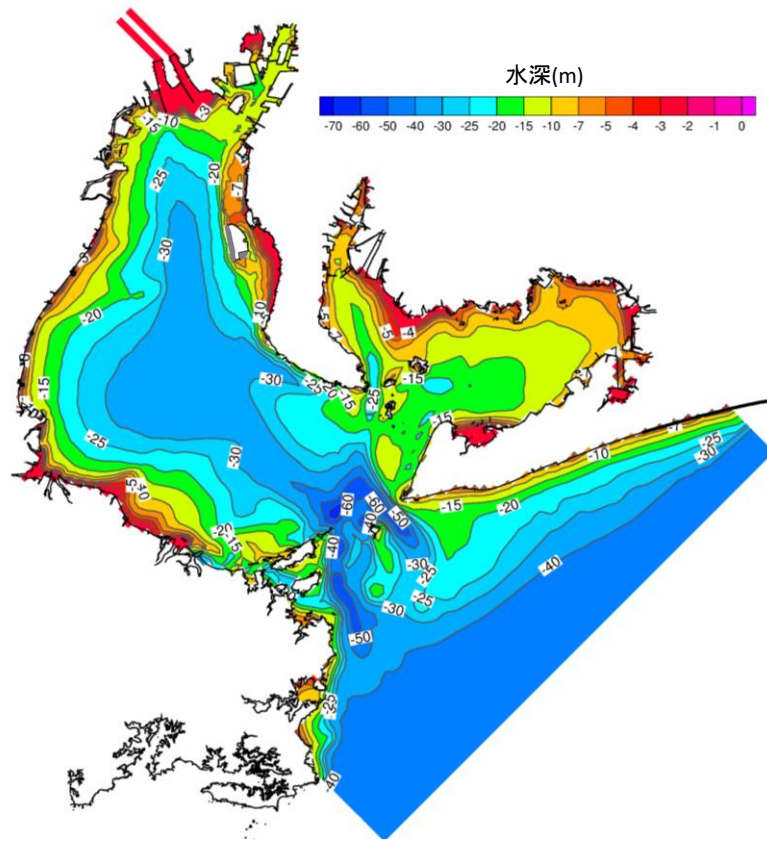
付図 8. 4-1(1) 海岸線及び水深（埋立地なし）



付図 8.4-1(2) 海岸線及び水深（埋立地あり、途中形状①）



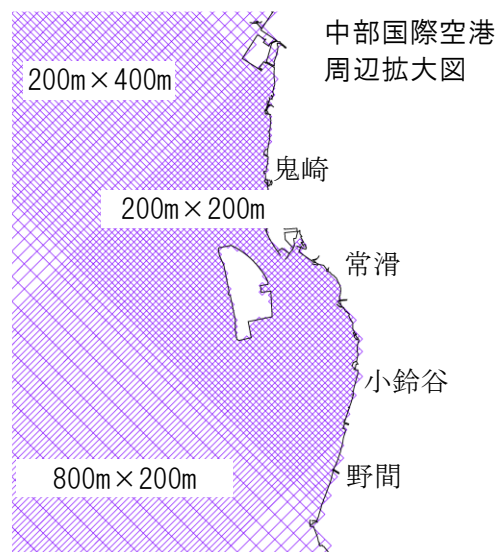
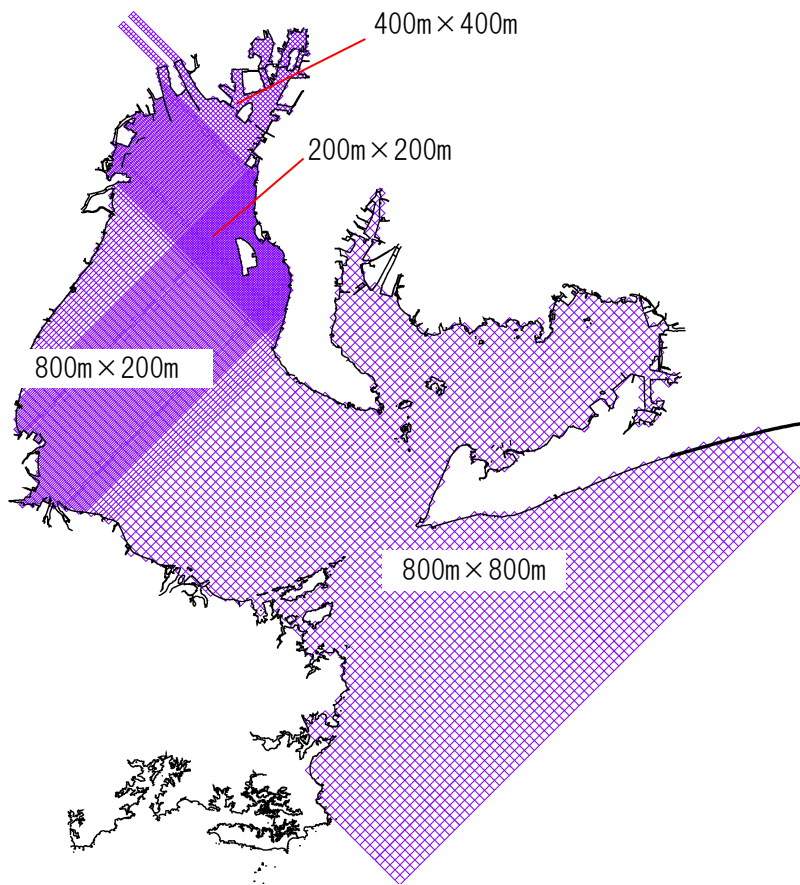
付図 8.4-1(3) 海岸線及び水深（埋立地あり、途中形状②）



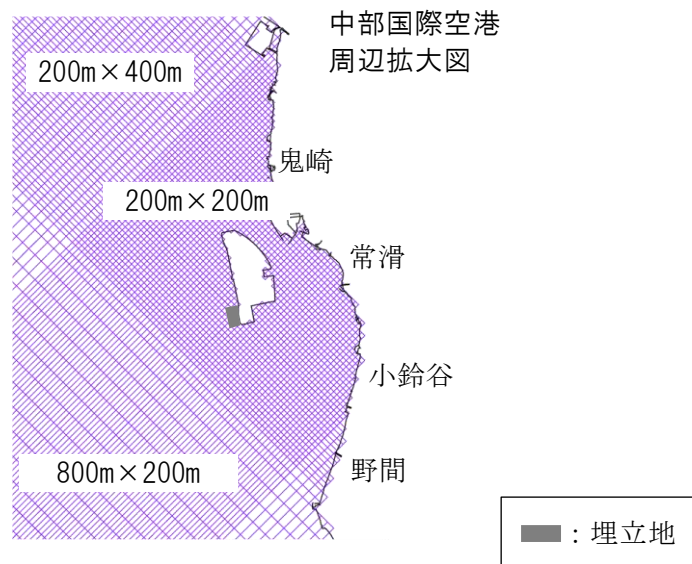
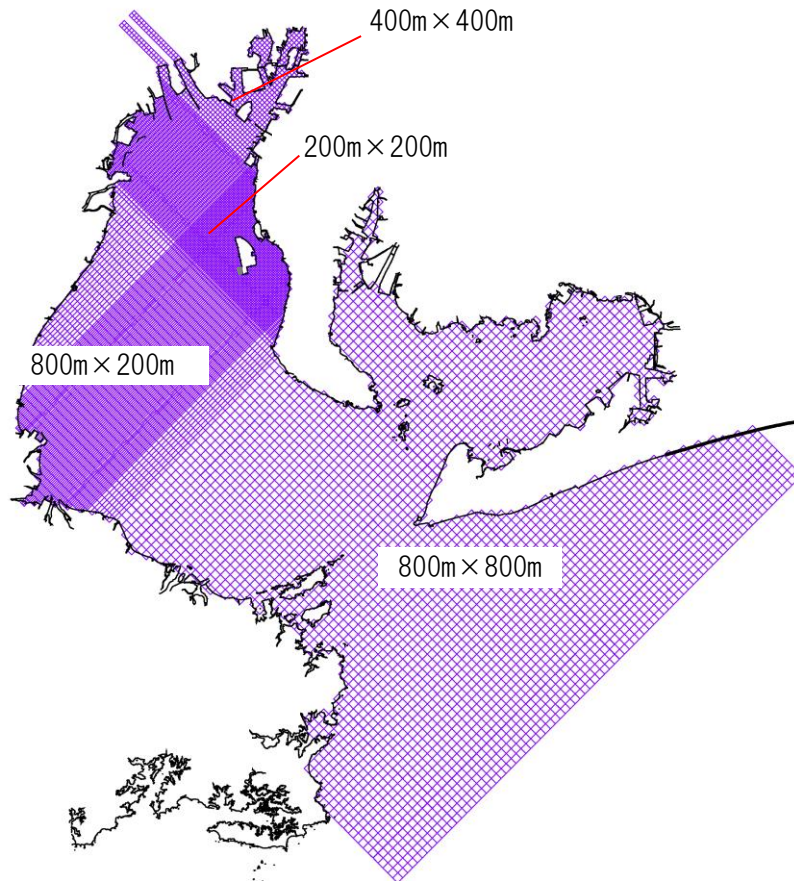
付図 8. 4-1 (4) 海岸線及び水深 (埋立地あり)

(2) 計算格子

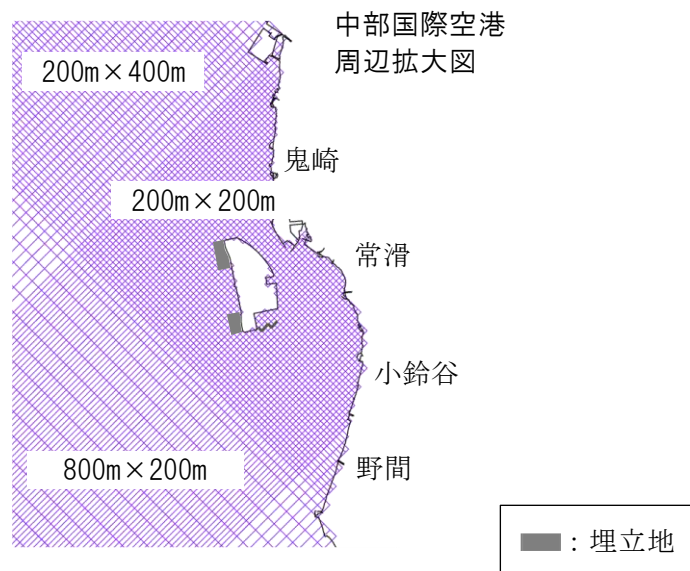
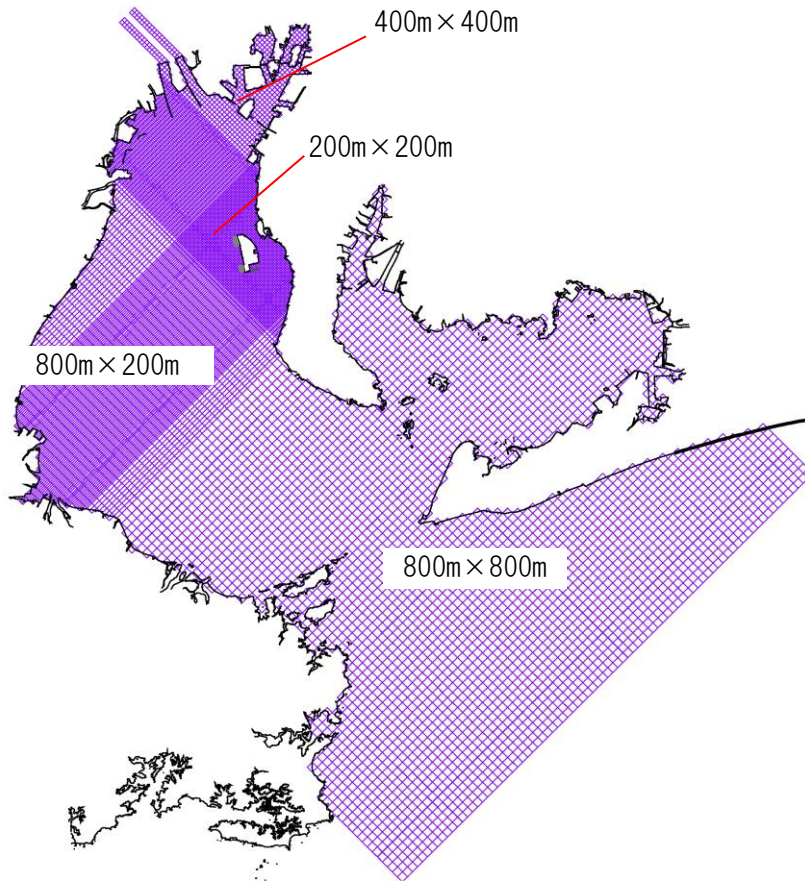
計算格子は付図 8.4-2 のとおりであり、最大格子幅 800m、最小格子幅 200m とし、対象事業実施区域周辺の計算格子を細分化した。



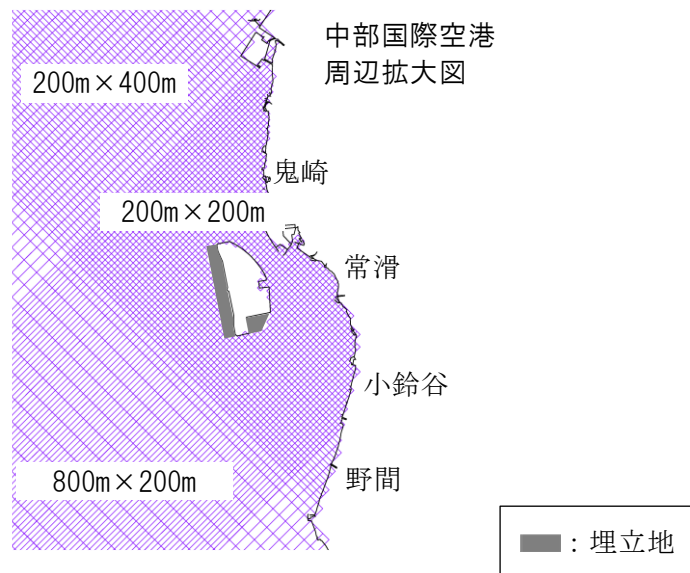
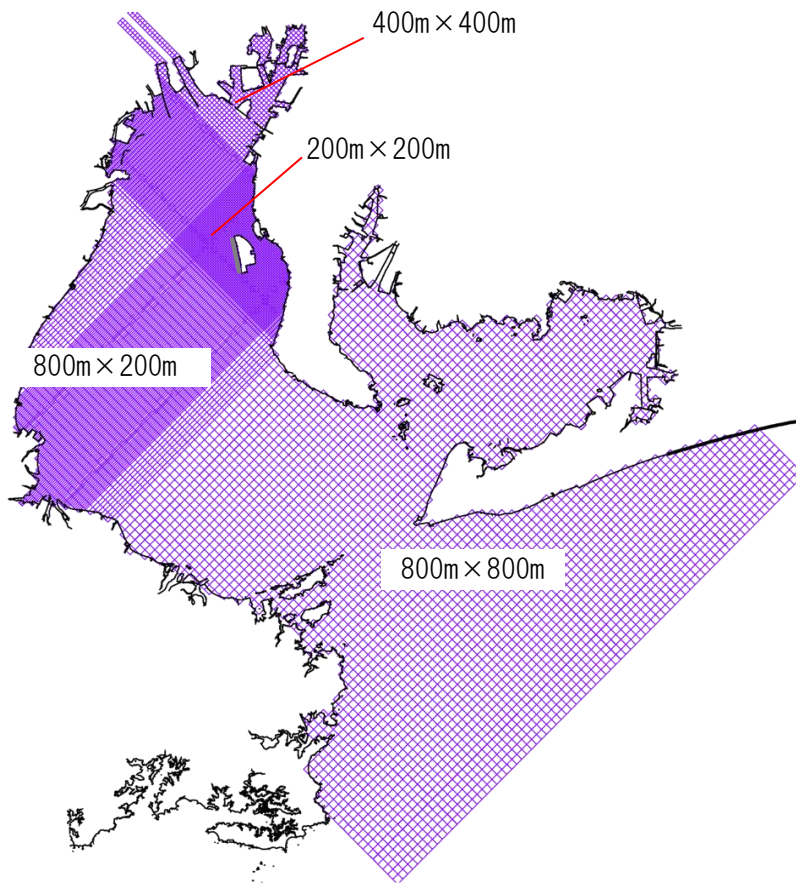
付図 8.4-2(1) 計算格子 (埋立地なし)



付図 8.4-2(2) 計算格子 (埋立地あり、途中形状①)



付図 8.4-2(3) 計算格子 (埋立地あり、途中形状②)



付図 8.4-2(4) 計算格子 (埋立地あり)

鉛直方向の計算格子は、付表 8.4-1 のとおり全 35 層に分割し、水深 4m までは 0.5m 間隔とした。

付表 8.4-1 鉛直方向の計算格子

層数	水深	層数	水深
3 層	0.0~0.5m	20 層	15.0~17.0m
4 層	0.5~1.0m	21 層	17.0~19.0m
5 層	1.0~1.5m	22 層	19.0~21.0m
6 層	1.5~2.0m	23 層	21.0~23.0m
7 層	2.0~2.5m	24 層	23.0~25.0m
8 層	2.5~3.0m	25 層	25.0~27.0m
9 層	3.0~3.5m	26 層	27.0~29.0m
10 層	3.5~4.0m	27 層	29.0~31.0m
11 層	4.0~5.0m	28 層	31.0~33.0m
12 層	5.0~6.0m	29 層	33.0~35.0m
13 層	6.0~7.0m	30 層	35.0~37.0m
14 層	7.0~8.0m	31 層	37.0~39.0m
15 層	8.0~9.0m	32 層	39.0~41.0m
16 層	9.0~10.0m	33 層	41.0~50.0m
17 層	10.0~11.0m	34 層	50.0~70.0m
18 層	11.0~13.0m	35 層	70.0~100.0m
19 層	13.0~15.0m		

注：1. 第 1、2 層は潮位が上昇時のみ用いられる予備の格子
2. 水深は平均水面の位置をゼロとした基準

(3) 境界条件

① 海面

海面摩擦応力 $\tau_{surface}$ は、海面における風と海水の摩擦によって風の持つ運動量が海水に移動する効果を表し、以下の式を用いて算出した。

$$\tau_{surface} = \rho_a C_D \mathbf{W} \|\mathbf{W}\|$$

$$\|\mathbf{W}\| = \sqrt{W_x^2 + W_y^2}$$

ここで、 \mathbf{W} は風速ベクトル (m/s)、 W_x 、 W_y は風速ベクトルの x、y 方向成分 (m/s)、 ρ_a は海面上の空気密度 (kg/m³)、 C_D は海面摩擦係数である。

なお、海面摩擦係数 C_D は風速の関数とし、以下の式を用いて算出した。

$$C_D = A(1 + B \|\mathbf{W}\|)$$

$$A = 1.28 \times 10^{-3}, B = -1.89 \times 10^{-2} (\|\mathbf{W}\| < 8 \text{ m/s})$$

$$A = 5.81 \times 10^{-4}, B = 1.078 \times 10^{-1} (\|\mathbf{W}\| \geq 8 \text{ m/s})$$

② 海底面

海面摩擦応力 τ_{bottom} は、以下の式を用いて算出した。

$$\tau_{bottom} = \rho C_B \mathbf{u}_b \|\mathbf{u}_b\|$$

ここで、 \mathbf{u}_b は海底面上の摩擦速度 (m/s)、 C_B は海底面摩擦係数である。

③ 湾口部

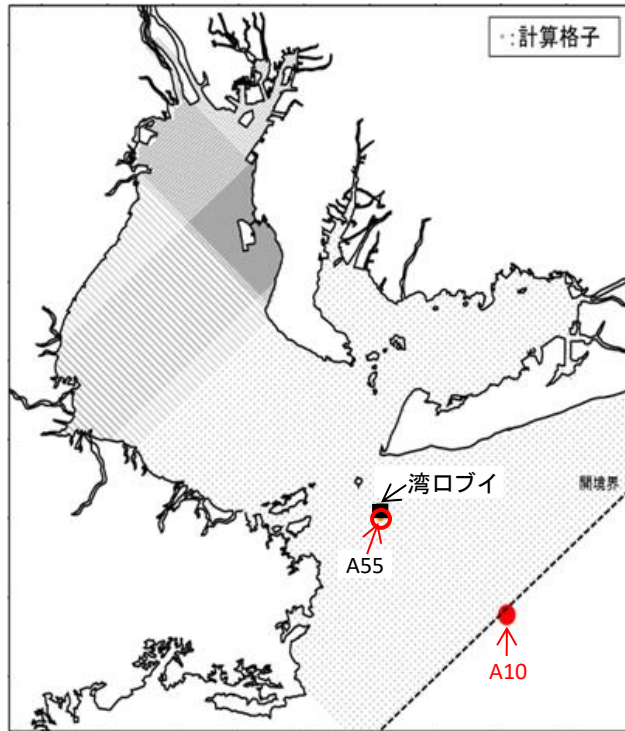
湾口部の潮位は、外洋での長周期成分を含む主要 14 分潮 (Sa、Ssa、Mm、MSf、Mf、Q₁、O₁、P₁、S₁、K₁、N₂、M₂、S₂、K₂) の潮汐に、検潮所 (鳥羽) で観測された潮位偏差を加えたものを用いた。開境界で与えた潮汐の調和定数は付表 8.4-2 のとおりである。

付表 8.4-2 湾口部の潮汐の調和定数

分潮	振幅 (cm)	位相 (deg)	分潮	振幅 (cm)	位相 (deg)	分潮	振幅 (cm)	位相 (deg)
Sa	12.0	148.2	Q ₁	3.5	149.3	N ₂	7.8	156.8
Ssa	2.4	39.9	O ₁	16.5	155.3	M ₂	43.7	162.9
Mm	1.1	112.5	P ₁	7.2	175.8	S ₂	19.9	185.6
MSf	0.9	76.2	S ₁	0.7	4.4	K ₂	5.5	183.4
Mf	0.9	136.8	K ₁	22.0	179.7			

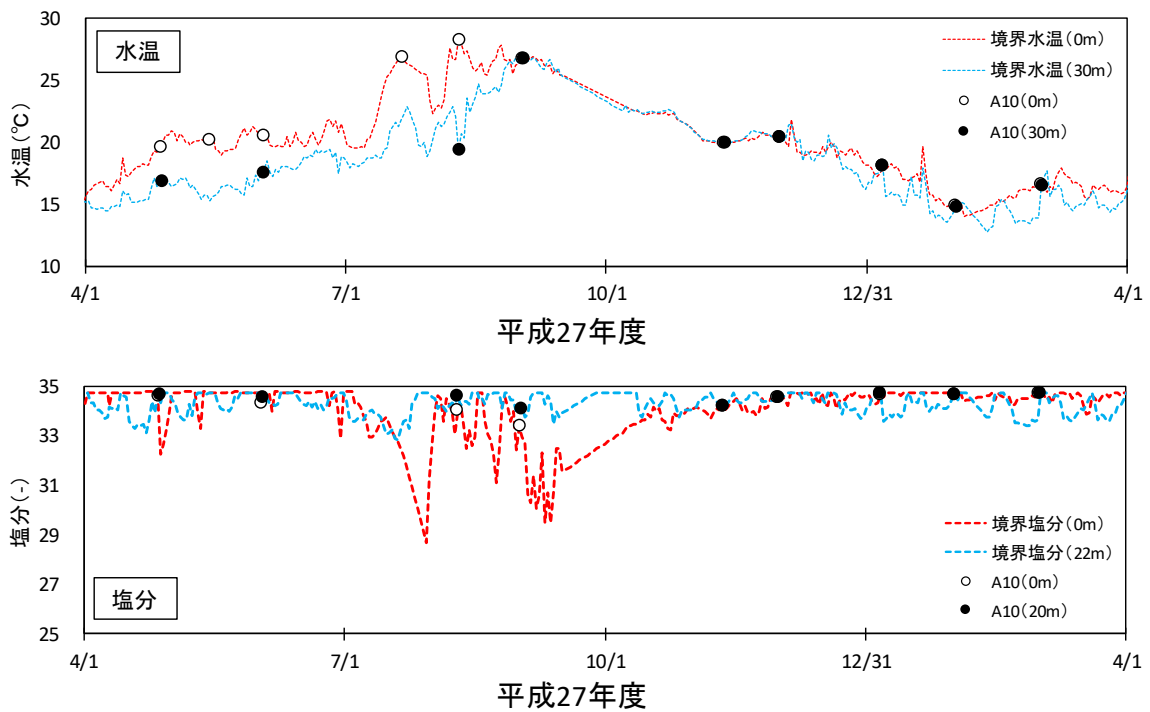
湾口部における水温・塩分条件に用いた地点は付図 8.4-3 のとおりであり、愛知県水産試験場が月 1 回実施している沿岸定線調査の結果 (地点 A10)、及び伊勢湾湾口ブイによる 30 分毎の水温・塩分の連続調査結果を基に設定した。

開境界で与えた水温・塩分の経時変化は、付図 8.4-4 のとおりである。



付図 8. 4-3 湾口部の境界条件に用いた調査点位置

注：湾ロブイは国土交通省による常時観測点、A10は愛知県水産試験場による月1回の沿岸定線調査点



付図 8. 4-4 湾口部の境界条件の水温・塩分の経時変化

④ 流入河川等

(ア) 一級河川

一級河川の位置は付図 8.4-5 のとおりである。伊勢湾内に流入する河川のうち一級河川流量については、各河川の水位観測所のデータから H-Q 式を用いて推定した。各河川の H-Q 式は付表 8.4-3 のとおりである。水温については各観測所のデータを基に設定し、塩分については 0 と設定した。算定した一級河川の流量は、付図 8.4-6 のとおりである。

(イ) 中小河川

一級河川以外の中小河川の位置は付図 8.4-5 のとおりである。中小河川の流量については、アメダスによる降水量及び各河川の流域面積から、降水が全ての河川から流出すると仮定し、基底流量と変動流量に分けて以下のように算定した。

$$(\text{流量}) = (\text{基底流量}) + (\text{変動流量})$$

$$(\text{基底流量}) = (\text{年降水量の } 50\%) \times (\text{各河川の流域面積}) \times \text{流出係数}$$

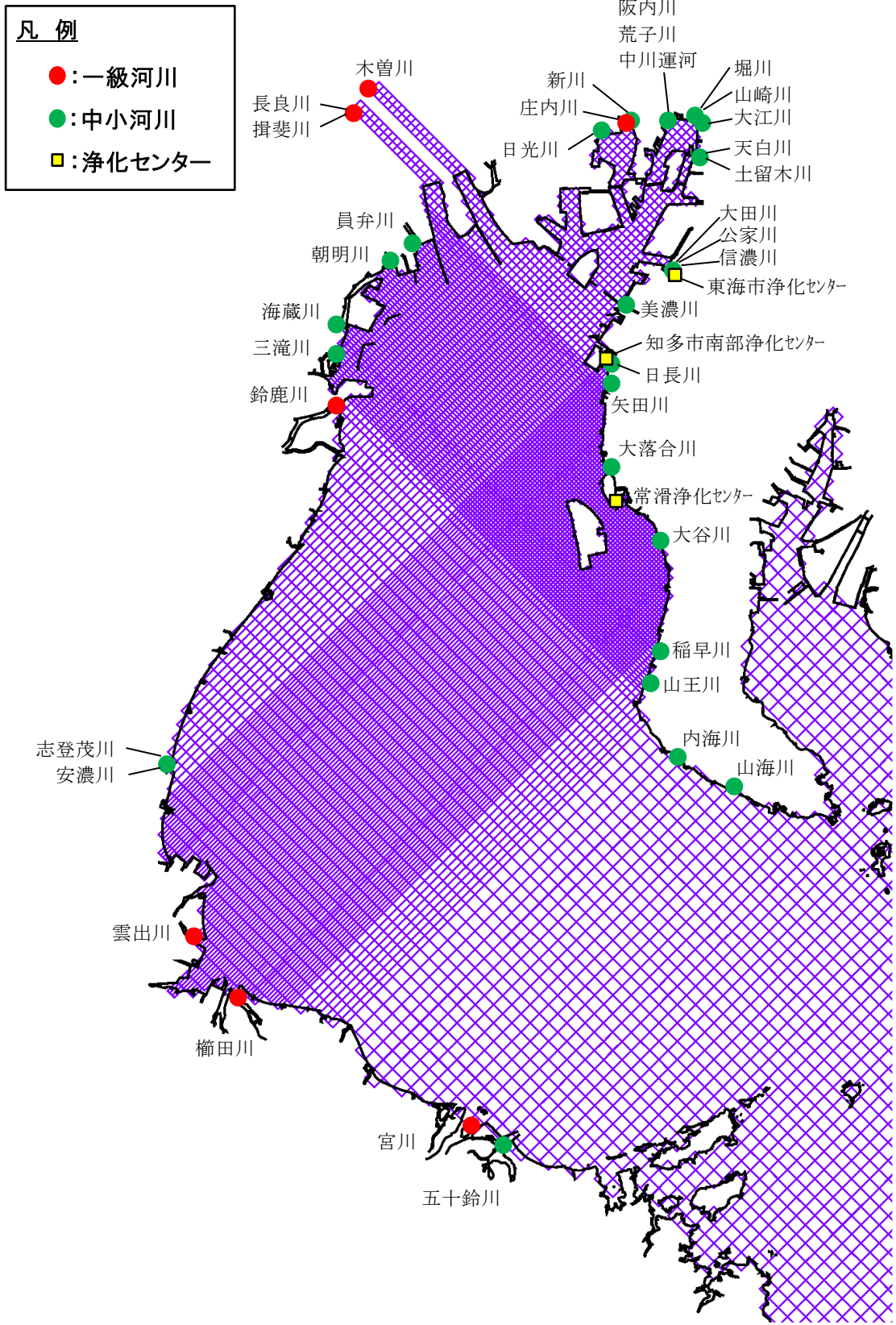
$$(\text{変動流量}) = (\text{各日の日降水量の } 50\%) \times (\text{各河川の流域面積}) \times \text{流出係数}$$

※流出係数は 0.5 とした

(ウ) 浄化センター

浄化センターの位置は付図 8.4-5 のとおりである。浄化センターからの流量については、常滑浄化センター、東海市浄化センター、知多市南部浄化センターの月毎の放流量のデータを基に設定した。その他の浄化センターについては、中小河川に含んだ形で考慮した。

中小河川及び浄化センターの合計流量は、付図 8.4-6 のとおりである。

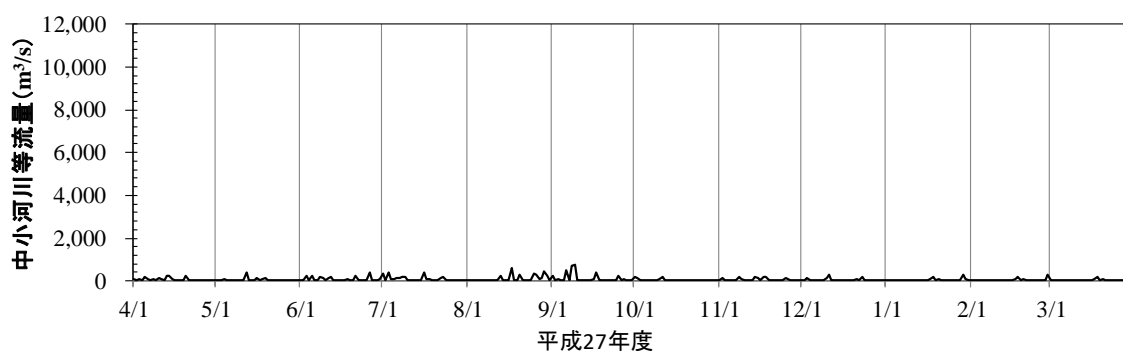
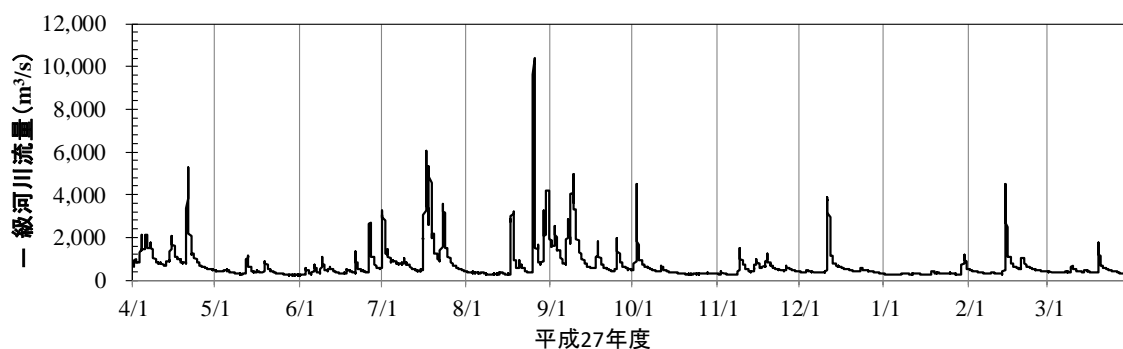


付図 8.4-5 流入河川等の位置 (伊勢湾)

付表 8.4-3 一級河川の H - Q 式

河川名	水位観測所	H-Q 式
揖斐川	烏江	$Q=47.2 \times H^2 - 264.1 \times H + 369.7$
揖斐川	高湊	$Q=7.2 \times H^2 - 10.6 \times H + 4.4$
揖斐川	万石	$Q=60.3 \times H^2 + 218.3 \times H + 180.5$
木曾川	笠松	$Q=135.5 \times H^2 - 668.8 \times H + 727.4$
庄内川	枇杷島	$Q=41.4 \times H^2 - 34.8 \times H - 19.9$
長良川	墨俣	$Q=72.1 \times H^2 + 564.9 \times H + 1107.2$
櫛田川	櫛田橋	$Q=46.3 \times H^2 + 104.8 \times H + 10.5$
雲出川	雲出橋	$Q=227.7 \times H^2 - 391.1 \times H + 123.2$
鈴鹿川	河原田	$Q=91.2 \times H^2 - 107.6 \times H + 31.7$
鈴鹿川	高岡	$Q=32.7 \times H^2 + 28.8 \times H + 6.3$
宮川	岩出	$Q=68.5 \times H^2 + 205.5 \times H + 154.1$

注：Q (m³/s) : 河川流量、H(m) : 水位



付図 8.4-6 河川流量（上図：一級河川、下図：中小河川及び浄化センター）

(4) 初期値

水質の初期値は付表 8.4-4 のとおり全域一様に与え、平成 23 年 11 月から計算を行い、予測対象年度である平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日の 1 年間の計算を実施した。

付表 8.4-4 水温・塩分の初期値

項目	単位	値
水温	℃	20.0
塩分	psu	32.0

(5) 気象条件

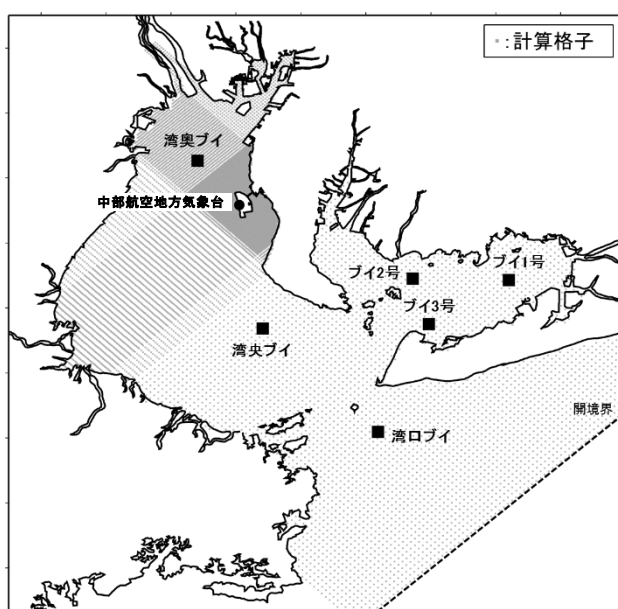
① 大気放射量

大気放射量は、二宮ほか（1996）に従い、名古屋地方気象台のデータから推算した。

出典：二宮秀興，赤坂裕，松尾陽：AMeDAS のデータを用いた時刻別大気放射量の推定法，
空気調和・衛生工学論文集 No.60, pp.133-144, (1996)

② 気温

気温は、中部航空地方気象台、伊勢湾モニタリングブイ及び三河湾のブイによる観測データを空間補間し、海上気温の空間分布を推定した。空間分布の推定に用いた観測地点は付図 8.4-7 のとおりである。



付図 8.4-7 気温の空間分布の推定に用いた観測地点

③ 風向風速

海上風は、メソ数値予報モデル GPV（以下「MSM-GPV」という）を使用した。MSM-GPV は、気象庁のメソ数値予報モデルの初期値として用いられる客観解析データであり、5km メッシュで3 時間毎のデータである。このため1 時間毎の風向・風速データに線型補間したものを与えた。

(6) 乱流モデル

① 水平方向

水平方向の水平粘性及び拡散係数は、Smagorinsky モデルより設定した。

② 鉛直方向

鉛直方向の粘性及び拡散係数は、中村ほか（1989）及び Henderson（1982）の2つの方法により算定し、両手法で算定した鉛直拡散（粘性）係数のうち値の大きい方をそのメッシュの鉛直拡散（粘性）係数として設定した。鉛直方向の粘性及び拡散係数の設定手順は、付図 8.4-8 のとおりである。

【鉛直方向の粘性及び拡散係数の設定手順】	
① 中村モデルを用いて鉛直拡散（粘性）係数を算定し、これを K_{zn} とする。 ② Henderson モデルを用いて鉛直拡散（粘性）係数を算定し、これを K_{zh} とする。 ③ K_{zn} と K_{zh} を比較し、値の大きい方をそのメッシュの鉛直拡散（粘性）係数とする。	
中村ほか（1989）の計算式 （中村モデル）	Henderson（1982）の計算式 （Henderson モデル）
【鉛直拡散係数】 $K_{zn} = \frac{\kappa w_s z}{S_c} \exp(-k_* z) \frac{1}{(1 + \alpha R_i^\gamma)^n}$	【鉛直拡散係数】 $K_{zh} = K_{z0} \frac{1}{(1 + \alpha R_i^\gamma)^n}$
【減衰定数】 $k_* = A_0 \sin \phi / U, \quad A_0 = 2.00$	【勾配型リチャードソン数】 $R_i = - \frac{\left(\frac{g}{\rho_0} \right) \left(\frac{\partial \rho}{\partial z} \right)}{\left(\frac{\partial u}{\partial z} \right)^2}$
【リチャードソン数】 $R_i = \frac{-1 + [1 + 40N^2 \kappa^2 z^2 / (w_s^2 \exp(-2k_* z))]}{20}$	
ここで、 κ : カルマン定数, w_s : 海面摩擦速度, U : 風速, z : 各層水深, S_c : 乱流シュミット数, N : ブラント・バイサラ振動数, ϕ : 緯度	ここで、 $K_{z0} = 3.0 \text{ (cm}^2/\text{s)}, \alpha = 37, \gamma = 2, n = 1$

中村由行, 西田克司, 早川典生, 西村肇: 沿岸海域における鉛直拡散係数の推定法に関する研究, 海岸工学論文集, 第 36 巻, pp.809-813, (1989)
 B.Henderson-Sellers: A simple formula for vertical eddy diffusion coefficients under conditions nonneutral stability, Journal of Geophysical Research, Vol.87, No.C8, (1982)

より作成

付図 8.4-8 鉛直粘性及び拡散係数の設定手順

2. 水質計算条件

(1) 地形

水質計算に用いる地形は、「資料編 第8章 8.4 水質に係る資料 8.4.1 伊勢湾シミュレーターの計算条件 1.計算条件 (1)地形」に記載のとおりである。

(2) 計算格子

水質計算に用いる計算格子は、「資料編 第8章 8.4 水質に係る資料 8.4.1 伊勢湾シミュレーターの計算条件 1.計算条件 (2)計算格子」に記載のとおりである。

(3) 境界条件

① 湾口部

水質の湾口部開境界条件に用いた地点は付図 8.4-3 のとおりであり、調査地点での月1回の観測データを線形補完により1日毎のデータとして設定した。

② 流入河川等

(ア) 一級河川

一級河川の位置は付図 8.4-5 のとおりである。一級河川の負荷量は、以下の L-Q 式から推定し、推定に用いた L-Q 式の諸係数は付表 8.4-5 のとおりである。算定した一級河川の負荷量の経日変化は付図 8.4-9 のとおりである。

$$L = aQ^b$$

L (g/s)	: 負荷量
Q (m ³ /s)	: 河川流量
a, b	: 係数

(イ) 中小河川

中小河川の位置は付図 8.4-5 のとおりである。中小河川の負荷量は、「平成 25 年度および平成 27 年度 水質総量削減に係る発生負荷量等算定調査業務報告書」（環境省）に掲載されている負荷量データを、算定した流量で除することにより河川ごとに負荷濃度を算定した。算定した河川毎の負荷濃度は付表 8.4-6 のとおりである。この濃度が常に一定であると仮定し、各日の流量を乗じたものを日々の負荷量とした。

(ウ) 浄化センター

浄化センターの位置は付図 8.4-5 のとおりである。これらの浄化センターからの負荷量については、月毎の放流量、放流水質のデータを入手しそれを基に設定した。

その他の浄化センターについては、中小河川に含んだ形で考慮した。

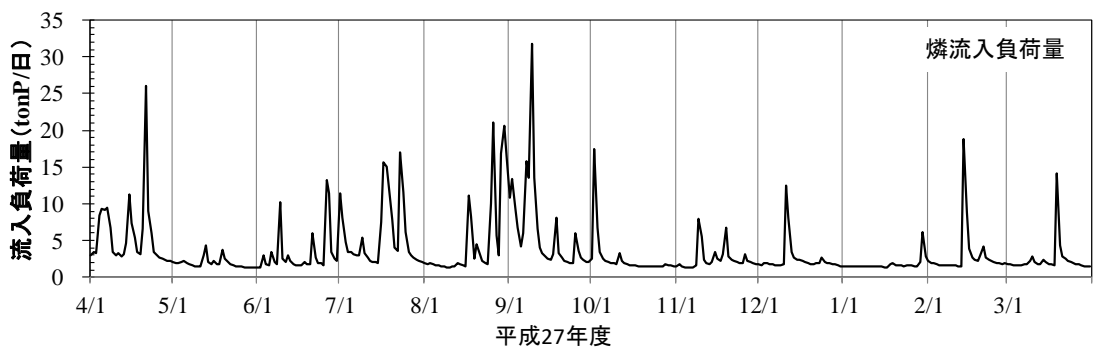
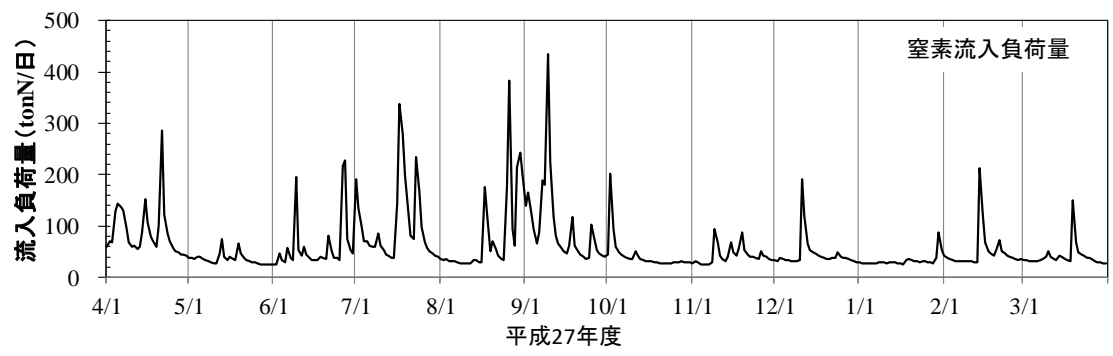
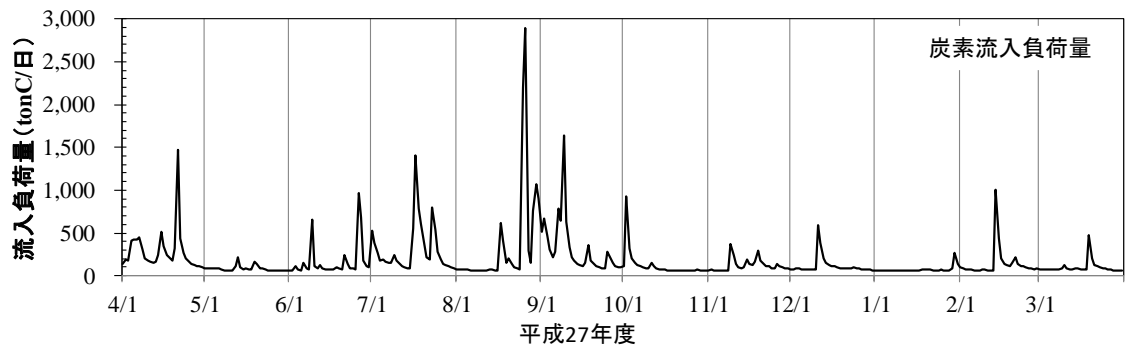
中小河川及び浄化センターの合計負荷量は、付図 8.4-9 のとおりである。

付表 8.4-5 一級河川の L-Q 式

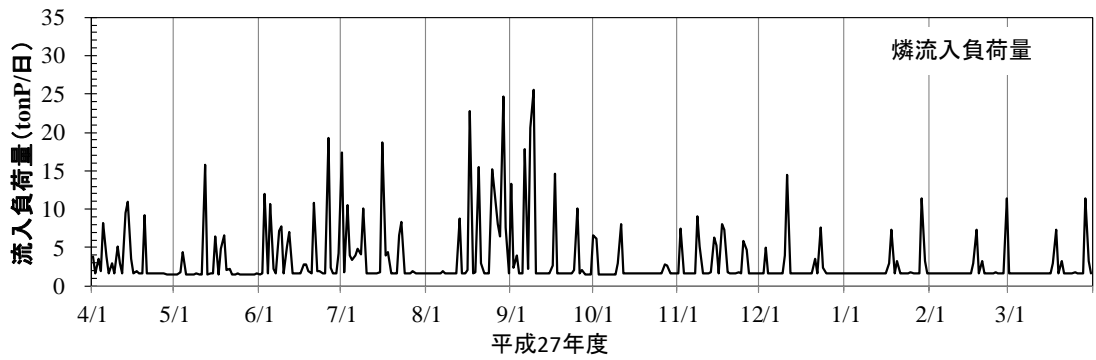
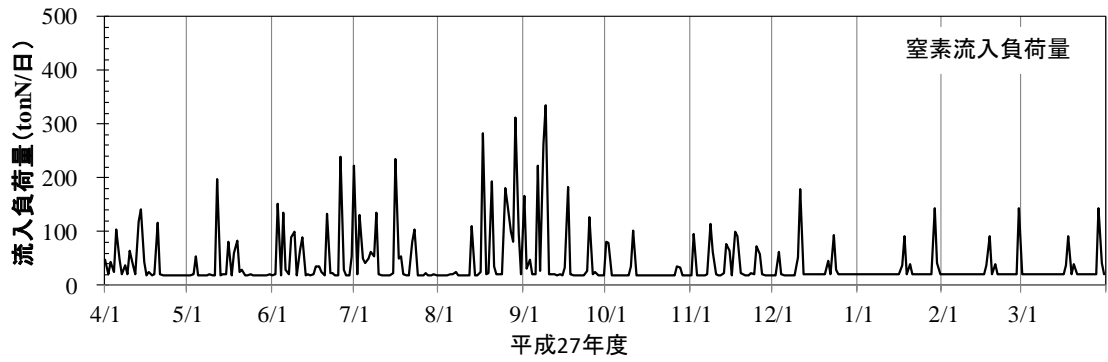
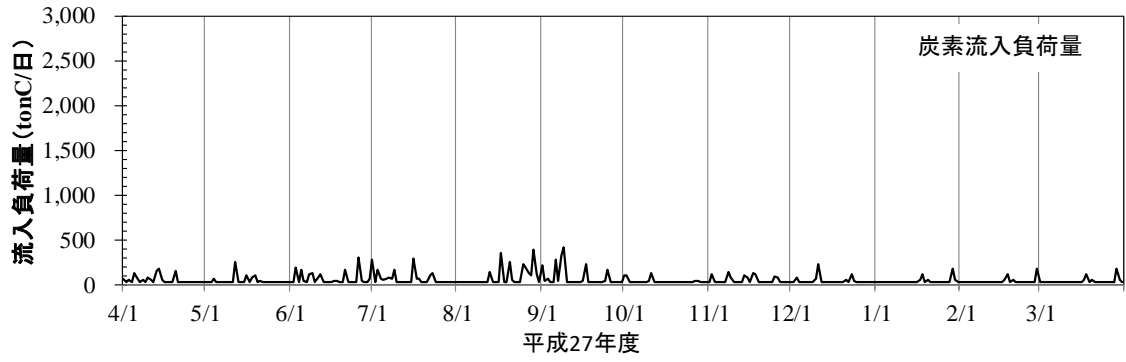
河川名	L:COD(g/s)	L:T-N(g/s)	L:T-P(g/s)
揖斐川	Q (m ³ /s) = 常時 a= 4.407 b= 0.852	Q(m ³ /s) = 常時 a= 1.287 b= 0.960	Q(m ³ /s) = 常時 a= 0.1594 b= 0.7781
木曾川	Q (m ³ /s) < 144.4 a=38.490 b= 0.420	Q(m ³ /s) < 361.9 a=10.680 b= 0.500	Q(m ³ /s) < 468.9 a= 0.7480 b= 0.4660
	144.4 < Q(m ³ /s) < 454.0 a= 0.240 b= 1.440	361.9 < Q(m ³ /s) < 581.3 a= 0.010 b= 1.670	468.9 < Q(m ³ /s) a= 0.0200 b= 1.2000
	454.0 < Q(m ³ /s) a= 0.430 b= 1.350	581.3 < Q(m ³ /s) a= 0.590 b= 1.040	—
庄内川	Q (m ³ /s) < 30.7 a=38.490 b= 0.420	Q(m ³ /s) < 20.2 a=10.680 b= 0.500	Q(m ³ /s) < 17.5 a= 0.7500 b= 0.4700
	30.7 < Q(m ³ /s) < 126.9 a= 0.390 b= 1.760	20.2 < Q(m ³ /s) < 402.6 a= 1.080 b= 1.260	17.5 < Q(m ³ /s) < 200.3 a= 0.0400 b= 1.5000
	126.9 < Q(m ³ /s) a= 9.620 b= 1.100	402.6 < Q(m ³ /s) a= 2.660 b= 1.110	200.3 < Q(m ³ /s) a= 0.2100 b= 1.1900
長良川	Q (m ³ /s) = 常時 a= 7.107 b= 0.776	Q(m ³ /s) = 常時 a= 2.694 b= 0.797	Q(m ³ /s) = 常時 a= 0.1170 b= 0.8140
櫛田川	Q (m ³ /s) = 常時 a= 1.737 b= 1.023	Q (m ³ /s) = 常時 a= 0.880 b= 1.022	Q (m ³ /s) = 常時 a= 0.0138 b= 1.0849
雲出川	Q (m ³ /s) < 259.0 a= 2.011 b= 1.133	Q(m ³ /s) < 166.0 a= 1.157 b= 0.947	Q(m ³ /s) < 70.0 a= 0.0220 b= 0.9720
	259.0 < Q(m ³ /s) a= 0.004 b= 2.252	166.0 < Q(m ³ /s) a= 0.119 b= 1.392	70.0 < Q(m ³ /s) a= 0.0016 b= 1.5880
鈴鹿川	Q (m ³ /s) < 9.9 a= 2.164 b= 0.934	Q(m ³ /s) < 9.9 a= 4.229 b= 0.816	Q(m ³ /s) < 9.9 a= 0.0805 b= 0.7236
	9.9 < Q(m ³ /s) a= 0.238 b= 1.959	9.9 < Q(m ³ /s) a= 0.639 b= 1.509	9.9 < Q(m ³ /s) a= 0.0075 b= 1.7884
宮川	Q (m ³ /s) = 常時 a= 0.700 b= 1.107	Q (m ³ /s) = 常時 a= 0.780 b= 0.949	Q (m ³ /s) = 常時 a= 0.0490 b= 1.2372

付表 8. 4-6 中小河川の発生負荷量

河川名	TOC(g/m ³)	T-N(g/m ³)	T-P(g/m ³)	河川名	TOC(g/m ³)	T-N(g/m ³)	T-P(g/m ³)
員弁川	7.6	6.1	0.49	日光川	14.1	8.0	0.73
朝明川	8.8	6.6	0.57	新川	14.2	9.1	0.83
海蔵川	9.0	7.0	0.56	阪内川	8.6	6.3	0.54
三滝川	8.5	5.9	0.56	荒子川	7.9	5.3	0.71
志登茂川	11.5	8.3	0.90	中川運河	6.6	3.4	0.50
安濃川	8.8	7.0	0.61	堀川	26.2	29.4	1.58
五十鈴川	5.6	4.3	0.36	山崎川	13.2	17.3	0.72
				大江川	43.0	43.8	2.21
				天白川	24.7	24.5	2.15
				土留木川	49.8	82.4	1.47
				大田川	11.6	9.0	0.56
				公家川	7.2	3.2	0.43
				信濃川	2.0	1.2	0.14
				美濃川	18.6	8.5	1.11
				日長川	2.9	1.1	0.09
				矢田川	3.3	2.9	0.33
				大落合川	32.2	21.4	1.79
				大谷川	6.2	5.1	0.44
				稲早川	4.5	3.7	0.66
				山王川	2.7	3.6	0.39
				内海川	4.7	3.9	0.56
				山海川	10.2	5.5	0.94



付図 8.4-9(1) 河川の負荷量の経日変化 (一級河川)



付図 8.4-9(2) 河川の負荷量の経日変化 (中小河川及び浄化センター)

(4) 初期値

水質の初期値は付表 8.4-7 のとおり全域一様に与え、平成 23 年 11 月から計算を行い、予測対象年度である平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日の 1 年間の計算を実施した。

付表 8.4-7 水質の初期値

項 目		単 位	値
植物プランクトン	炭素量	molC m ⁻³	2.0×10 ⁻²
	余剰窒素量	molN m ⁻³	5.4×10 ⁻⁴
	余剰リン量	molP m ⁻³	3.2×10 ⁻⁵
動物プランクトン		molC m ⁻³	1.0×10 ⁻³
懸濁態有機物	懸濁態有機炭素	molC m ⁻³	1.4×10 ⁻²
	懸濁態有機窒素	molN m ⁻³	2.8×10 ⁻³
	懸濁態有機リン	molP m ⁻³	2.5×10 ⁻⁵
溶存態有機物	利用可能溶存態有機炭素	molC m ⁻³	0.0
	溶存態有機炭素	molC m ⁻³	7.8×10 ⁻²
	溶存態有機窒素	molN m ⁻³	1.6×10 ⁻²
	溶存態有機リン	molP m ⁻³	1.4×10 ⁻⁴
好気性細菌		molC m ⁻³	2.0×10 ⁻³
原生動物	繊毛虫	molC m ⁻³	1.0×10 ⁻³
	HNF	molC m ⁻³	1.5×10 ⁻³
無機態栄養塩	リン酸態リン	molP m ⁻³	6.1×10 ⁻⁴
	アンモニア態窒素	molN m ⁻³	2.9×10 ⁻⁴
	亜硝酸態窒素	molN m ⁻³	2.5×10 ⁻⁴
	硝酸態窒素	molN m ⁻³	1.5×10 ⁻³
	ケイ酸	molSi m ⁻³	1.7×10 ⁻²
溶存酸素		molO ₂ m ⁻³	2.2×10 ⁻¹

(5) 水質計算パラメーター

水質計算に用いたパラメーターは付表 8.4-8 のとおりである。

付表 8.4-8(1) 水質モデルのパラメーター（珪藻）

計算項目	単位	設定値
0°Cでの最大光合成速度（最適水温型）	s ⁻¹	5.81×10 ⁻⁵
植物プランクトンの最適水温	°C ⁻¹	25.0
植物プランクトンの最適光量	W m ⁻²	99.07
光合成に対する余剰栄養塩の制限比	-	0.2
光合成に対する細胞外分泌の割合	-	0.135
細胞外分泌割合のクロロフィル係数	Lμg ⁻¹	2.01×10 ⁻³
0°Cでの最大呼吸速度	s ⁻¹	2.31×10 ⁻⁷
呼吸速度の温度活性係数	°C ⁻¹	5.24×10 ⁻²
呼吸に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	6.25×10 ⁻²
自然死亡速度	s ⁻¹	2.31×10 ⁻⁷
最大リン摂取速度	s ⁻¹	4.17×10 ⁻⁴
リン摂取の半飽和定数	molP m ⁻³	5.00×10 ⁻⁴
最大細胞内リン保持量のサブシステムクオタに対する比	-	2.0
最大窒素摂取速度	s ⁻¹	1.39×10 ⁻⁴
アンモニア摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	5.00×10 ⁻³
亜硝酸摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	5.00×10 ⁻³
硝酸摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	5.00×10 ⁻³
最大細胞内窒素保持量のサブシステムクオタに対する比	-	2.0
アンモニアによる硝酸摂取の抑制係数	m ⁻³ molN ⁻¹	1.462×10 ³
定常な沈降速度	m s ⁻¹	-2.31×10 ⁻⁶
日周期鉛直移動の上昇速度	m s ⁻¹	0
日周期鉛直移動の下昇速度	m s ⁻¹	0
上昇を始める時刻	hour	6.0
上昇を終わる時刻	hour	18.0
植物プランクトンのサブシステムクオタの N/C	molN molC ⁻¹	1.33×10 ⁻¹
植物プランクトンのサブシステムクオタの P/C	molP molC ⁻¹	6.67×10 ⁻³
植物プランクトンのサブシステムクオタの Si/C	molSi molC ⁻¹	0
植物プランクトンの O ₂ /C	molO ₂ molC ⁻¹	1.40
植物プランクトンの Chl.-a/C	mgL ⁻¹ (molC m ⁻³) ⁻¹	240.0
植物プランクトンの分解速度別の存在割合 (易分解、準易分解、難分解)	-	0.930 0.020 0.050

付表 8.4-8(2) 水質モデルのパラメーター(ユーカンピア)

計算項目	単位	設定値
最大光合成速度	s ⁻¹	注
セルクオタの制限値	-	0.2
光量に関する半飽和定数	W m ⁻²	注
最適光量	W m ⁻²	注
自然死亡速度	s ⁻¹	1.16×10 ⁻⁷
定常的な沈降速度	m s ⁻¹	3.47×10 ⁻⁵
最大窒素摂取速度	s ⁻¹	1.36×10 ⁻⁴
最大リン摂取速度	s ⁻¹	2.78×10 ⁻³
リン摂取の半飽和定数	molP m ⁻³	5.00×10 ⁻⁴
アンモニア摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	2.59×10 ⁻³
亜硝酸摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	2.59×10 ⁻³
硝酸摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	2.59×10 ⁻³
最大窒素保持量のサブシステムクオタに対する比	-	4
最大リン保持量のサブシステムクオタに対する比	-	8

注：ユーカンピアの増殖速度 V は、下式のとおり算出するものとし、その設定パラメーターは下表のとおりである。

$$V = V_{\max} \times \frac{I - I_0}{I - I_k}$$

水温の範囲	最大光合成速度 V_{\max} (s ⁻¹)	最適光量 I_0 (W m ⁻²)	半飽和定数 I_k (W m ⁻²)
7.00 ~ 8.50	1.139×10 ⁻⁵	0.58	4.09
8.50 ~ 10.75	1.227×10 ⁻⁵	0.82	4.99
10.75 ~ 13.75	1.574×10 ⁻⁵	0.92	6.87
13.75 ~ 17.50	2.118×10 ⁻⁵	1.10	8.71
17.50 ~ 22.50	3.565×10 ⁻⁵	1.73	10.28
22.50 ~	3.495×10 ⁻⁵	1.63	11.31

付表 8. 4-8(3) 水質モデルのパラメーター (ANF)

計算項目	単位	設定値
0°Cでの最大光合成速度	s ⁻¹	1.17×10 ⁻⁵
植物プランクトンの温度活性係数	°C ⁻¹	6.33×10 ⁻²
植物プランクトンの最適光量	W m ⁻²	99.07
光合成に対する余剰栄養塩の制限比	-	0.2
光合成に対する細胞外分泌の割合	-	0.135
細胞外分泌割合のクロロフィル係数	Lµg ⁻¹	2.01×10 ⁻³
0°Cでの最大呼吸速度	s ⁻¹	3.47×10 ⁻⁷
呼吸速度の温度活性係数	°C ⁻¹	5.24×10 ⁻²
呼吸に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	6.25×10 ⁻²
自然死亡速度	m ³ molC ⁻¹ s ⁻¹	3.00×10 ⁻⁴
最大リン摂取速度	s ⁻¹	4.17×10 ⁻⁴
リン摂取の半飽和定数	molP m ⁻³	5.00×10 ⁻⁴
最大細胞内リン保持量のサブシステムクオタに対する比	-	2.0
最大窒素摂取速度	s ⁻¹	1.39×10 ⁻⁴
アンモニア摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	5.00×10 ⁻³
亜硝酸摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	5.00×10 ⁻³
硝酸摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	5.00×10 ⁻³
最大細胞内窒素保持量のサブシステムクオタに対する比	-	2.0
アンモニアによる硝酸摂取の抑制係数	m ⁻³ molN ⁻¹	1.462×10 ³
定常な沈降速度	m s ⁻¹	0.0
日周期鉛直移動の上昇速度	m s ⁻¹	0
日周期鉛直移動の下降速度	m s ⁻¹	0
上昇を始める時刻	hour	6.0
上昇を終わる時刻	hour	18.0
植物プランクトンのサブシステムクオタの N/C	molN molC ⁻¹	1.33×10 ⁻¹
植物プランクトンのサブシステムクオタの P/C	molP molC ⁻¹	6.67×10 ⁻³
植物プランクトンのサブシステムクオタの Si/C	molSi molC ⁻¹	0
植物プランクトンの O ₂ /C	molO ₂ molC ⁻¹	1.40
植物プランクトンの Chl.-a/C	mgL ⁻¹ (molC m ⁻³) ⁻¹	240.0
植物プランクトンの分解速度別の存在割合 (易分解、準易分解、難分解)	-	0.930 0.020 0.050

注：ANF (Autotrophic nanoflagellate) は独立栄養性微小鞭毛虫の略称である。

付表 8. 4-8(4) 水質モデルのパラメーター (シアノバクテリア)

計算項目	単位	設定値
0°Cでの最大光合成速度	s ⁻¹	1.63×10 ⁻⁵
植物プランクトンの温度活性係数	°C ⁻¹	6.33×10 ⁻²
植物プランクトンの最適光量	W m ⁻²	99.07
光合成に対する余剰栄養塩の制限比	-	0.2
光合成に対する細胞外分泌の割合	-	0.135
細胞外分泌割合のクロロフィル係数	Lμg ⁻¹	2.01×10 ⁻³
0°Cでの最大呼吸速度	s ⁻¹	3.47×10 ⁻⁷
呼吸速度の温度活性係数	°C ⁻¹	5.24×10 ⁻²
呼吸に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	6.25×10 ⁻²
自然死亡速度	m ³ molC ⁻¹ s ⁻¹	5.00×10 ⁻⁴
最大リン摂取速度	s ⁻¹	4.17×10 ⁻⁴
リン摂取の半飽和定数	molP m ⁻³	5.00×10 ⁻⁴
最大細胞内リン保持量のサブシステムクオタに対する比	-	2.0
最大窒素摂取速度	s ⁻¹	1.39×10 ⁻⁴
アンモニア摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	5.00×10 ⁻³
亜硝酸摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	5.00×10 ⁻³
硝酸摂取の半飽和定数	molN m ⁻³	5.00×10 ⁻³
最大細胞内窒素保持量のサブシステムクオタに対する比	-	2.0
アンモニアによる硝酸摂取の抑制係数	m ⁻³ molN ⁻¹	1.462×10 ³
定常な沈降速度	m s ⁻¹	0.0
日周期鉛直移動の上昇速度	m s ⁻¹	0
日周期鉛直移動の下降速度	m s ⁻¹	0
上昇を始める時刻	hour	6.0
上昇を終わる時刻	hour	18.0
植物プランクトンのサブシステムクオタの N/C	molN molC ⁻¹	1.33×10 ⁻¹
植物プランクトンのサブシステムクオタの P/C	molP molC ⁻¹	6.67×10 ⁻³
植物プランクトンのサブシステムクオタの Si/C	molSi molC ⁻¹	0
植物プランクトンの O ₂ /C	molO ₂ molC ⁻¹	1.40
植物プランクトンの Chl.-a/C	mgL ⁻¹ (molC m ⁻³) ⁻¹	240.0
植物プランクトンの分解速度別の存在割合 (易分解、準易分解、難分解)	-	0.930 0.020 0.050

付表 8.4-8(5) 水質モデルのパラメーター(動物プランクトン)

計算項目	単位	設定値
植物プランクトン捕食の選好係数 (珪藻、大型珪藻、ANF、シアノバクテリア)	-	1,0,0,0
懸濁態有機物摂食の選好係数：(易分解、準易分解、難分解)	-	1,0,0
原生動物捕食の選好係数：(繊毛虫、HNF)	-	0.5,0
好気性細菌捕食の選好係数	-	0
0°Cにおける植物プランクトンの最大捕食速度	s ⁻¹	2.20×10 ⁻⁶
動物プランクトンの温度活性係数	°C ⁻¹	6.93×10 ⁻²
捕食に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	3.13×10 ⁻²
動物プランクトンのイブレフ定数		6.00×10 ¹
飼料濃度の下限値	molC m ⁻³	8.36×10 ⁻³
植物プランクトンの同化効率：(珪藻、大型珪藻、ANF、シアノバクテリア)	-	0.7,0,0,0
懸濁態有機物の同化効率：(易分解、準易分解、難分解)	-	0.7,0,0
原生動物の同化効率：(繊毛虫、HNF)	-	0.7,0
好気性細菌の同化効率	-	0
分解速度分画 k 種の同化効率 (易分解、準易分解、難分解)	-	8.75×10 ⁻¹ 4.81×10 ⁻⁵ 0
排糞・残渣量のうち、懸濁態有機物に配分される割合	-	0.5
0°Cにおける静止呼吸速度	s ⁻¹	1.09×10 ⁻⁷
静止呼吸に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	1.56×10 ⁻²
捕食活動に対する活動呼吸の割合	-	0.2
動物プランクトンの自然死亡速度	m ³ molC ⁻¹ s ⁻¹	7.00×10 ⁻⁴
動物プランクトンの N/C	molN molC ⁻¹	1.20×10 ⁻¹
動物プランクトンの P/C	molP molC ⁻¹	3.88×10 ⁻³
動物プランクトンの呼吸量に対する酸素消費割合	molO ₂ molC ⁻¹	1.24
動物プランクトンの分解速度別の存在割合 (易分解、準易分解、難分解)	-	0.930 0.020 0.050

付表 8.4-8(6) 水質モデルのパラメーター(せん毛虫)

計算項目	単位	設定値
0°Cでの捕食速度	s ⁻¹	1.72×10 ⁻⁶
原生動物の温度活性係数	°C ⁻¹	8.00×10 ⁻²
原生動物のイブレフ定数	m ³ molC ⁻¹	8.00×10 ²
飼料濃度の下限値[molC m ⁻³]	molC m ⁻³	1.00×10 ⁻⁴
植物プランクトン捕食の選好係数 (珪藻、大型珪藻、ANF、シアノバクテリア)	-	0.05,0,1,0
原生動物捕食の選好係数:(織毛虫、HNF)	-	0,1
好気性細菌捕食の選好係数[-]	-	0
原生動物の植物プランクトン捕食に対する同化効率 (珪藻、大型珪藻、ANF、シアノバクテリア)	-	0.7,0,0.7,0
原生動物の原生動物捕食に対する同化効率	-	0,0.7
原生動物の好気性細菌捕食に対する同化効率	-	0
分解速度分画 k 種の同化効率 (易分解、準易分解、難分解)	-	8.75×10 ⁻¹ 4.81×10 ⁻⁵ 0
捕食に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	1.56×10 ⁻²
排糞・残渣量のうち、懸濁態有機物に配分される割合	-	0.33
0°Cにおける静止呼吸速度	s ⁻¹	3.12×10 ⁻⁷
静止呼吸に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	1.56×10 ⁻²
捕食活動に対する活動呼吸の割合	-	0.2
自然死亡速度	m ³ molC ⁻¹ s ⁻¹	5.00×10 ⁻⁵
原生動物の N/C	molN molC ⁻¹	1.20×10 ⁻¹
原生動物の P/C	molP molC ⁻¹	3.88×10 ⁻³
原生動物の呼吸量に対する酸素消費割合	molO ₂ molC ⁻¹	1.24
原生動物の分解速度別の存在割合 (易分解、準易分解、難分解)	-	0.930 0.020 0.050

付表 8. 4-8(7) 水質モデルのパラメーター(HNF)

計算項目	単位	設定値
0°Cでの捕食速度	s ⁻¹	6.00×10 ⁻⁶
原生動物の温度活性係数	°C ⁻¹	6.93×10 ⁻²
原生動物のイブレフ定数	m ³ molC ⁻¹	1.20×10 ³
飼料濃度の下限値[molC m ⁻³]	molC m ⁻³	1.00×10 ⁻⁴
植物プランクトン捕食の選好係数 (珪藻、大型珪藻、ANF、シアノバクテリア)	-	0,0,0,1
原生動物捕食の選好係数：(織毛虫、HNF)	-	0,0
好気性細菌捕食の選好係数[-]	-	0.2
原生動物の植物プランクトン捕食に対する同化効率 (珪藻、大型珪藻、ANF、シアノバクテリア)	-	0,0,0,0.7
原生動物の原生動物捕食に対する同化効率	-	0,0
原生動物の好気性細菌捕食に対する同化効率	-	0.7
分解速度分画 k 種の同化効率 (易分解、準易分解、難分解)	-	8.75×10 ⁻¹ 4.81×10 ⁻⁵ 0
捕食に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	1.56×10 ⁻²
排糞・残渣量のうち、懸濁態有機物に配分される割合	-	0.33
0°Cにおける静止呼吸速度	s ⁻¹	2.47×10 ⁻⁷
静止呼吸に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	1.56×10 ⁻²
捕食活動に対する活動呼吸の割合	-	0.2
自然死亡速度	m ³ molC ⁻¹ s ⁻¹	6.00×10 ⁻⁵
原生動物の N/C	molN molC ⁻¹	1.20×10 ⁻¹
原生動物の P/C	molP molC ⁻¹	3.88×10 ⁻³
原生動物の呼吸量に対する酸素消費割合	molO ₂ molC ⁻¹	1.24
原生動物の分解速度別の存在割合 (易分解、準易分解、難分解)	-	0.930 0.020 0.050

注：HNF (Heterotrophic nanoflagellate) は従属栄養性微小鞭毛虫の略称である。

付表 8.4-8(8) 水質モデルのパラメーター(脱窒)

計算項目	単位	設定値
硝酸の摂取速度	molC m ⁻³ s ⁻¹	5.00×10 ⁻⁹
脱窒菌の温度活性係数	°C ⁻¹	6.93×10 ⁻²
脱窒に対する ADOC の半飽和定数	molN m ⁻³	5.00×10 ⁻³
脱窒に対する硝酸の半飽和定数	molN m ⁻³	1.00×10 ⁻³
脱窒に対するリンの半飽和定数	molP m ⁻³	1.00×10 ⁻⁴
脱窒菌の活動限界溶存酸素濃度	molO ₂ m ⁻³	6.25×10 ⁻²
脱窒菌の N/C	molN molC ⁻¹	1.97×10 ⁻¹

付表 8.4-8(9) 水質モデルのパラメーター(好気性細菌)

計算項目	単位	設定値
0°Cでの ADOC の最大摂取速度	s ⁻¹	2.85×10 ⁻⁵
好気性細菌の温度活性係数	°C ⁻¹	6.93×10 ⁻²
好気性細菌が活動を停止する溶存酸素濃度	molO ₂ m ⁻³	3.13×10 ⁻³
摂取活動に対する ADOC の半飽和定数	molNm ⁻³	3.69×10 ⁻³
摂取活動に対する窒素の半飽和定数	molNm ⁻³	7.14×10 ⁻⁴
摂取活動に対するリンの半飽和定数	molPm ⁻³	3.23×10 ⁻⁴
0°Cでの有機物の最大分解速度 (易分解、準易分解、難分解)	s ⁻¹	5.00×10 ⁻⁵ 1.00×10 ⁻⁶ 5.00×10 ⁻⁸
0°Cでの溶存態有機物の最大分解速度 (易分解、準易分解、難分解)	s ⁻¹	3.00×10 ⁻³ 5.00×10 ⁻⁵ 2.00×10 ⁻⁷
ADOC の同化効率	-	0.50
0°Cにおける死亡速度	m ³ molC ⁻¹ s ⁻¹	3.00×10 ⁻⁴
死亡速度の温度係数	°C ⁻¹	6.93×10 ⁻²
好気性細菌が死亡したときに懸濁有機物になる割合	-	0
好気性細菌の N/C	molN molC ⁻¹	1.97×10 ⁻¹
好気性細菌の P/C	molP molC ⁻¹	2.01×10 ⁻²
好気性細菌の呼吸量に対する酸素消費割合	molO ₂ molC ⁻¹	1.75
好気性細菌の分解速度の存在割合 (易分解、準易分解、難分解)	molC molC ⁻¹	0.930 0.020 0.050

付表 8. 4-8(10) 水質モデルのパラメーター(嫌気性細菌)

計算項目	単位	設定値
0°Cでの嫌気性細菌による有機物の最大分解速度 (易分解、準易分解、難分解)	s ⁻¹	5.00×10 ⁻⁸ 5.00×10 ⁻¹⁰ 1.00×10 ⁻¹¹
0°Cでの嫌気性細菌による溶存態有機物の最大分解速度 (易分解、準易分解、難分解)	s ⁻¹	1.00×10 ⁻⁶ 5.00×10 ⁻⁸ 1.00×10 ⁻¹⁰
嫌氣的分解の温度係数	°C ⁻¹	6.93×10 ⁻²
嫌気性細菌の活動限界溶存酸素濃度	molO ₂ m ⁻³	1.56×10 ⁻²
懸濁態有機物の好氣的分解に対する溶存態無機物生成の割合 (易分解、準易分解、難分解)	-	0.6 0.6 0.6
懸濁態有機物の嫌氣的分解に対する溶存態無機物生成の割合 (易分解、準易分解、難分解)	-	0.6 0.6 0.6
懸濁態有機物の沈降速度 (易分解、準易分解、難分解)	m s ⁻¹	2.3×10 ⁻⁵ 2.3×10 ⁻⁵ 2.3×10 ⁻⁵

付表 8. 4-8(11) 水質モデルのパラメーター(栄養塩)

計算項目	単位	設定値
0°Cでのアンモニアの酸化反応速度	s ⁻¹	6.25×10 ⁻⁷
アンモニアの酸化反応速度の温度係数	°C ⁻¹	6.93×10 ⁻²
アンモニアの酸化反応に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	1.56×10 ⁻²
0°Cでの亜硝酸の硝化反応速度	s ⁻¹	2.50×10 ⁻⁶
硝化反応速度の温度係数	°C ⁻¹	6.93×10 ⁻²
硝化反応に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	1.56×10 ⁻²
ケイ酸の沈降速度	m s ⁻¹	0
0°Cでの硫化水素の酸化反応速度	s ⁻¹	2.00×10 ⁻⁴
反応速度の温度係数	°C ⁻¹	6.93×10 ⁻²
硫化水素の酸化反応に対する溶存酸素の半飽和定数	molO ₂ m ⁻³	1.00×10 ⁻³
酸化反応(アンモニア→亜硝酸)に対する酸素消費割合	molO ₂ molN ⁻¹	1.5
硝化反応(亜硝酸→硝酸)に対する酸素消費割合	molO ₂ molN ⁻¹	0.5
硫化水素の酸化反応に対する酸素消費割合	molO ₂ molS ⁻¹	2.0
液相のシュミット数[-]	-	558

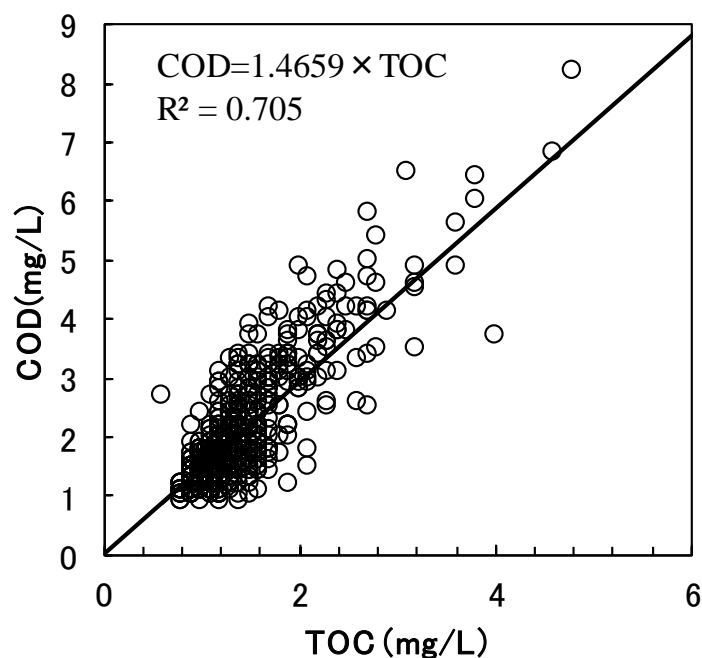
付表 8.4-8(12) 水質モデルのパラメーター(その他水質)

計算項目	単位	設定値
湾に固有のクロロフィル量に依存しない消散係数	m ⁻¹	0.35
消散係数パラメーター1	m ⁻¹ (μg/L) ⁻¹	0.0088
消散係数パラメーター2	m ⁻¹ (μg/L) ^{-2/3}	0.054
計算開始時刻と午前零時との時刻差	s	0

(6) その他

① 化学的酸素要求量の換算式

化学的酸素要求量 (COD) については、現地調査で得られた COD と TOC の関係式から推定した。COD と TOC の関係式は付図 8.4-10 のとおりである。



付図 8.4-10 TOC から COD への換算式

注：TOC と COD の換算式に用いたデータは事業者実施調査の調査点 No.1～23 地点の平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月の各月データより推定した。

② 底生生物

底生生物については、平成 25～27 年の農林水産関係市町村別統計の採貝漁獲量から生物量を設定した。生物量は水深 6m 以浅の浅海域に配置し、場所ごとの生物量の大小は市町村別の統計値を参考に設定した。

8.4.2 伊勢湾シミュレーターの現況再現結果

1. 現況再現性の確認

現況再現の計算条件は付表 8.4-9 のとおりである。現況再現は現地調査で得られた観測値との整合を確認するため、現地調査データが最も取得されている平成 26 年度の気象・海象条件を用いて再現計算を行った。

付表 8.4-9 現況再現の計算条件

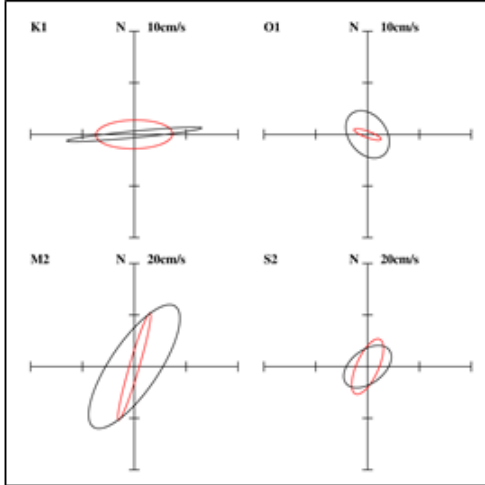
項目		現況再現計算ケース
地形		埋立地なし（現況地形）
計算格子		水平：200～800m の可変格子、鉛直：全 35 層
計算ステップ		60 秒
河川	流量	<ul style="list-style-type: none"> 一級河川：10 河川（木曾川、揖斐川、長良川、庄内川、豊川、矢作川、鈴鹿川、榑田川、雲出川、宮川）の水位データより推定 中小河川：47 河川を取扱い、流域面積・降水量より推定 その他：知多半島沿いの 3 つの浄化センターからの放水
	水温・塩分	<ul style="list-style-type: none"> 一級河川：水温は各河川での実測値を使用・塩分は 0 と設定 中小河川：最寄りの一級河川と同じ値を使用 その他：浄化センターの放水及び取排水については実データに基づき設定
	負荷量	<ul style="list-style-type: none"> 一級河川：10 河川（木曾川、揖斐川、長良川、庄内川、豊川、矢作川、鈴鹿川、榑田川、雲出川、宮川）ごとに L-Q 式を作成し、COD、T-N、T-P を推定 中小河川：水質総量削減に係る発生負荷量算定調査業務報告書の年間負荷量（COD、T-N、T-P）を使用 その他：知多半島沿いの 3 つの浄化センターからの月別値を使用
事業所排水		新名古屋火力、川越火力、知多第二火力、四日市火力について実績データに基づき設定
開境界	潮位	長周期成分を含む 14 分潮の潮汐を使用（天文潮位＋潮位偏差）
	水温・塩分	愛知県沿岸定線地点 A10 及び湾口ブイの観測値をもとに設定
	水質	水質調査地点 A55 の観測値を使用
初期値及び助走期間		水温・塩分、水質を全域一様に与え、平成 23 年 11 月から計算を行い、再現対象年度である平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日の 1 年間の計算を実施
気象	気温	伊勢湾・三河湾のブイ、中部航空地方気象台での観測値を空間補間
	風	メソ数値予報モデル GPV の値を空間補間
	日射・雨量等	名古屋地方気象台での観測値を全メッシュ様に与える
生物種構成		<ul style="list-style-type: none"> 植物プランクトン： 4 種（珪藻・ユーカンピア・ANF・シアノバクテリア） 動物プランクトン： 1 種 原生動物： 2 種（繊毛虫・HNF）
乱流モデル		<ul style="list-style-type: none"> 水平渦動粘性・拡散係数： Smagorinsky(1963)の手法を使用 鉛直渦動粘性・拡散係数： 中村モデル + Henderson モデル
底生生物		平成 25～27 年の農林水産関係市町村別統計の採貝漁獲量から生物量を設定

(1) 潮流の再現性

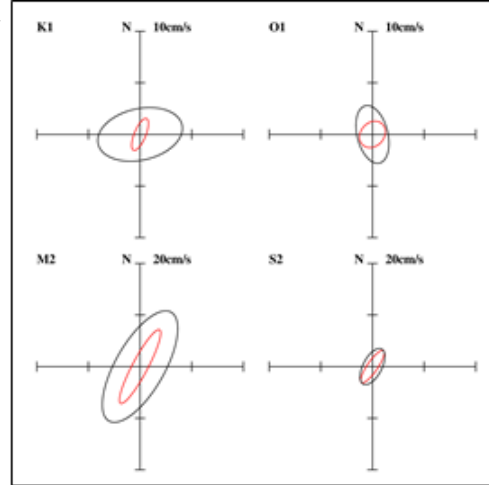
潮流の再現性は、平成 26 年度の事業者実施調査結果で得られた潮流楕円（主要 4 分潮）を比較することにより確認した。

観測結果と計算結果の主要 4 分潮の比較は、付図 8.4-11 のとおりである。各季ともに潮流楕円の長軸の方向、大きさは観測結果と概ね一致しており、伊勢湾における潮流を再現していると判断される。

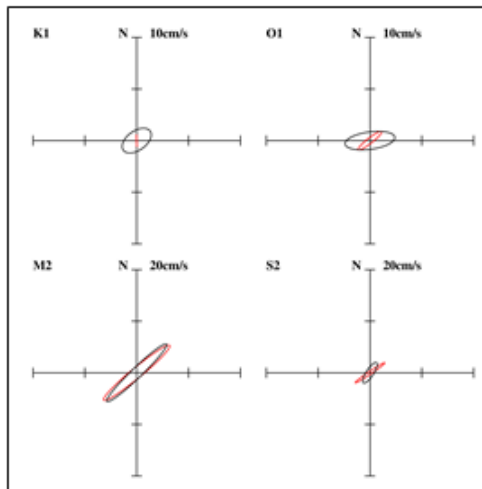
No.1-2
上層



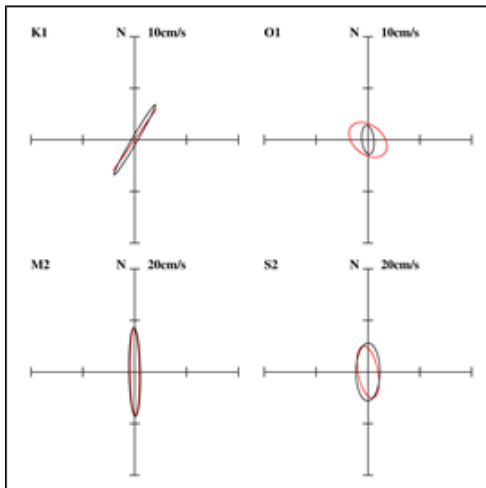
No.1-2
中層



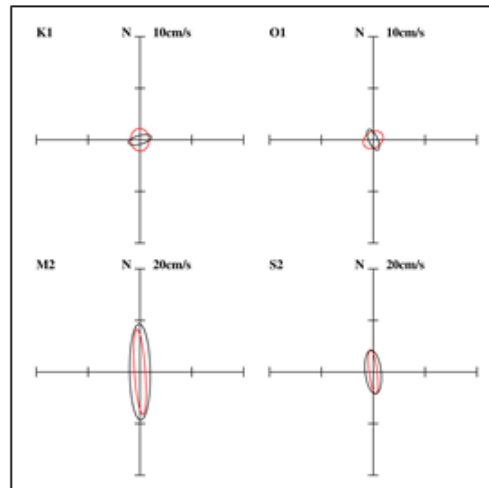
No.1-2
底層



No.5
上層



No.5
中層



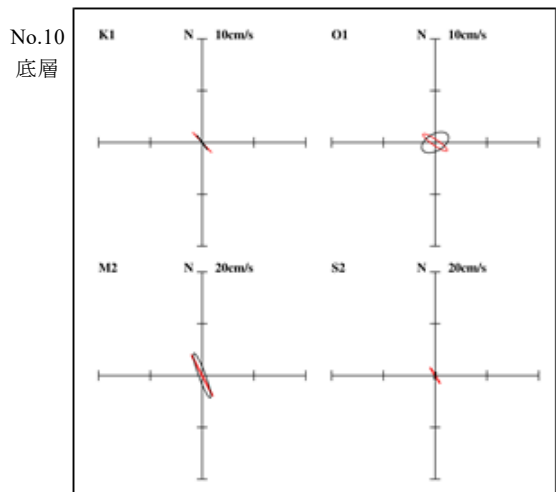
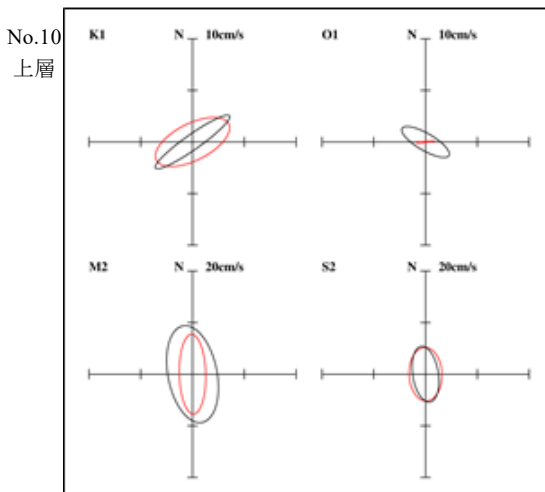
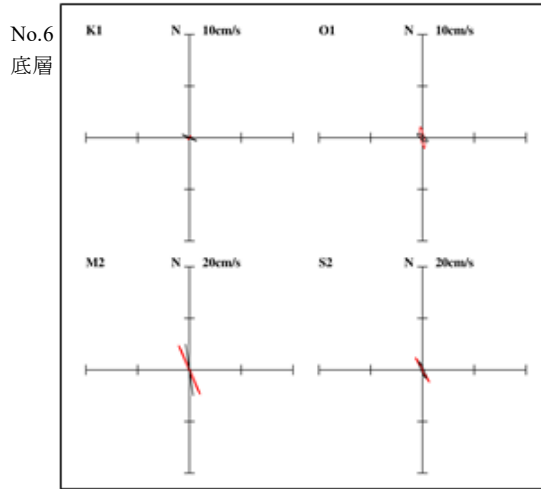
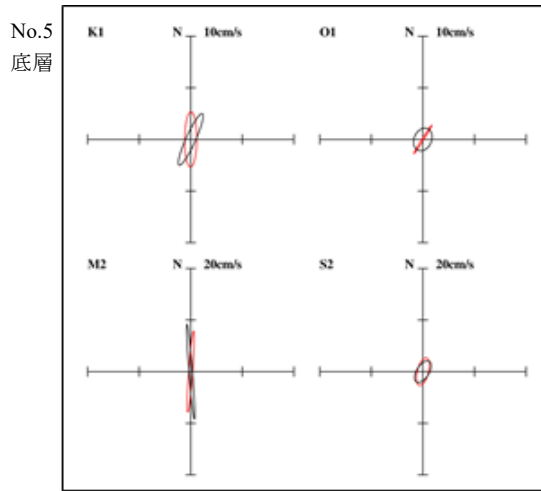
— : 観測値

— : 計算値

付図 8.4-11(1) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (春季)

- 注：1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 5 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.1-2	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m



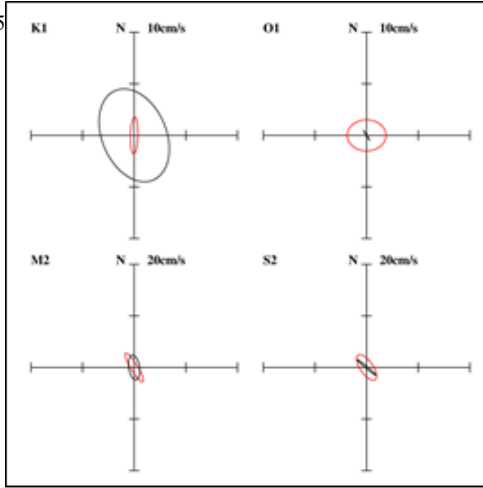
— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11 (2) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (春季)

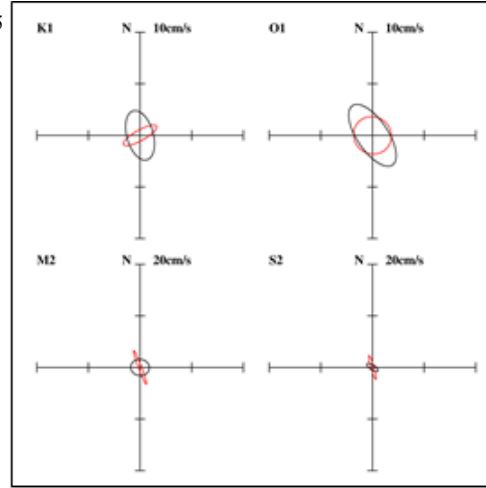
注 : 1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 5 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.6	-	-	海底上 1m
No.10	海面下 2m	-	海底上 1m

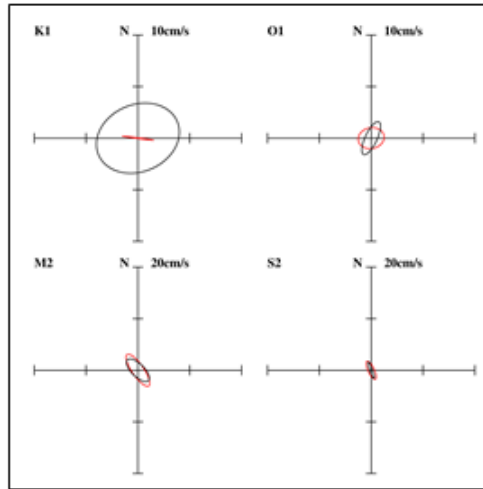
No.15
上層



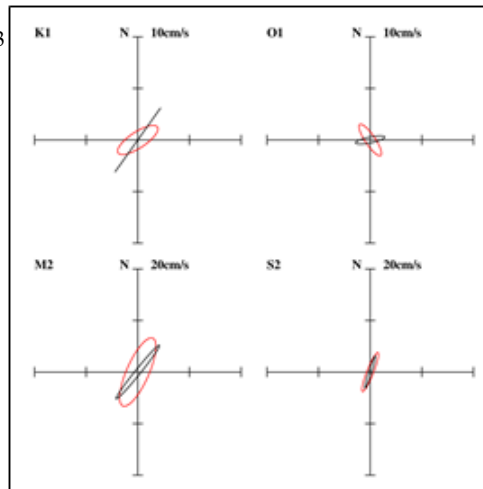
No.15
中層



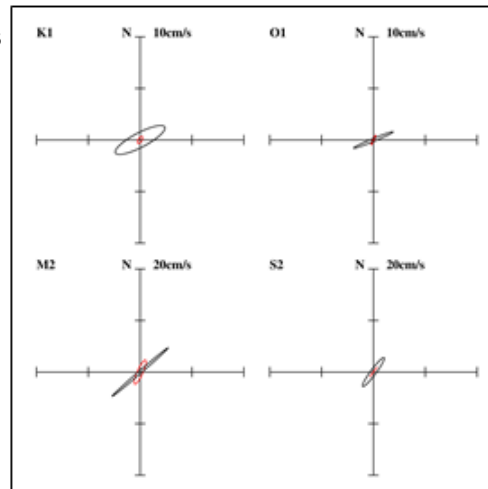
No.15
底層



No.53
上層



No.53
底層



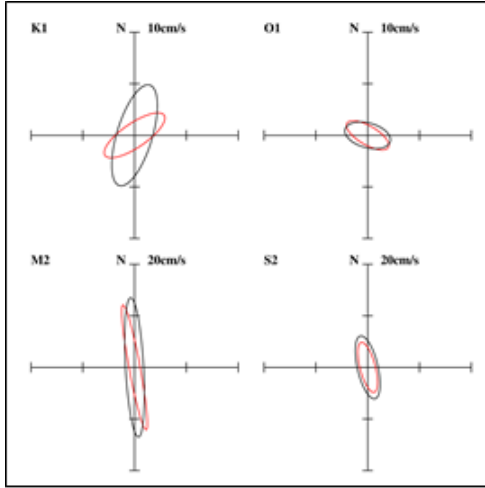
— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11 (3) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (春季)

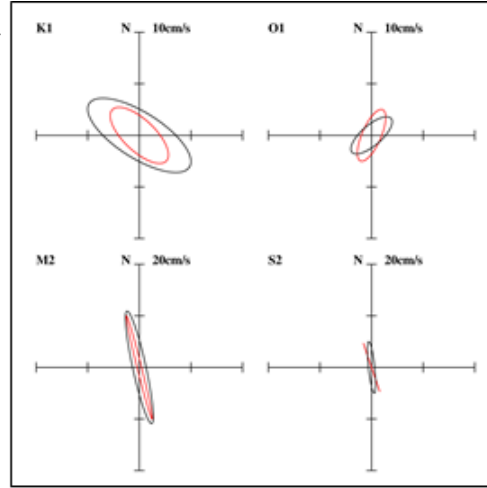
- 注：1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 5 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.15	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.53	海面下 2m	-	海底上 1m

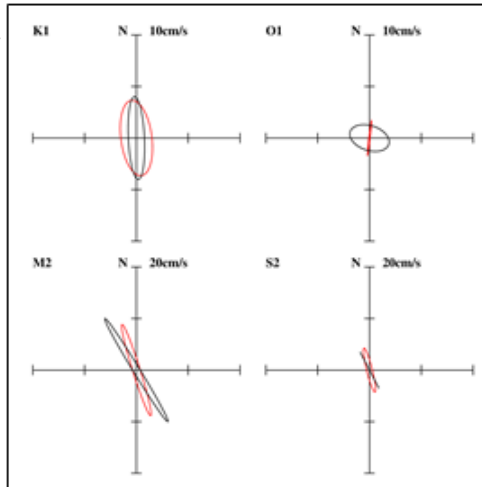
No.54
上層



No.54
中層



No.54
底層



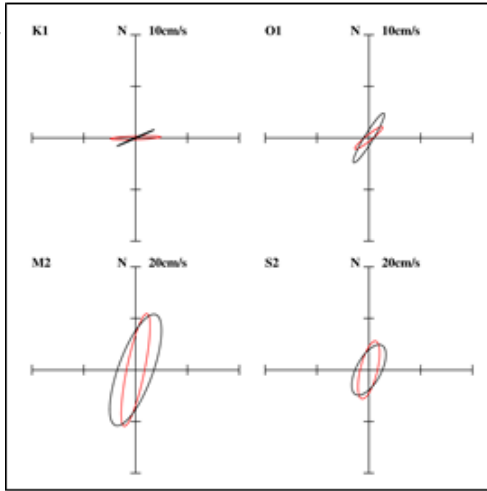
— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11(4) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (春季)

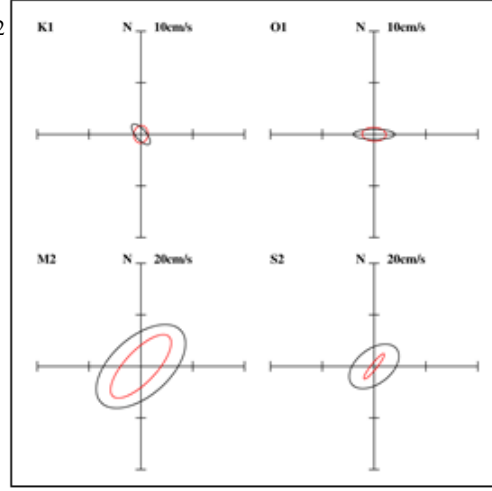
- 注：1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 5 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.54	海面下 2m	海面下 10m	海面下 20.5m

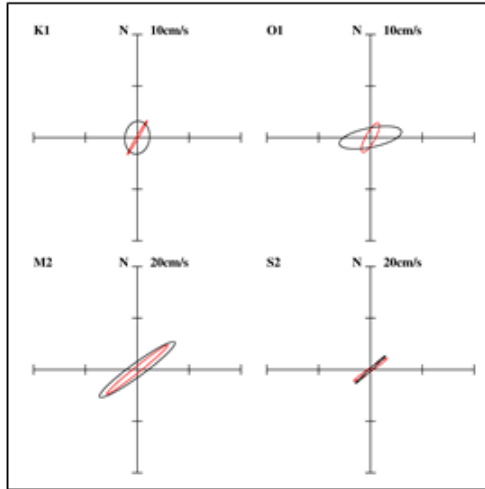
No.1-2
上層



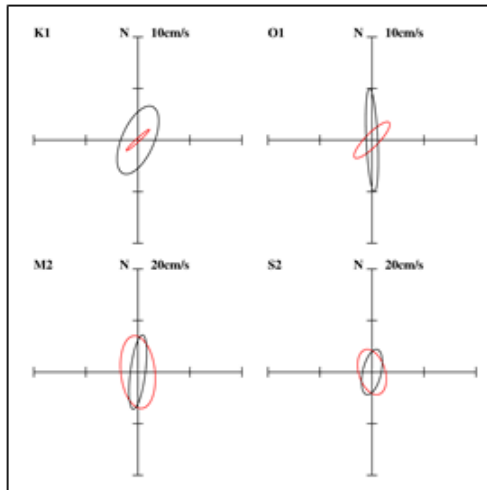
No.1-2
中層



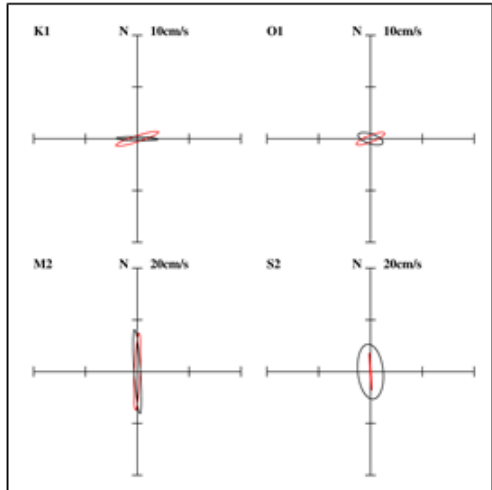
No.1-2
底層



No.5
上層



No.5
中層

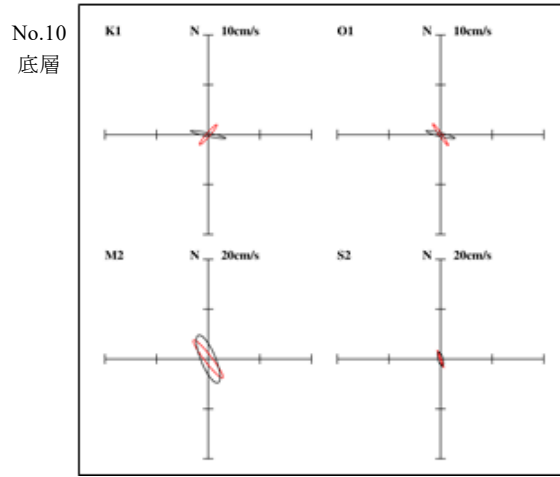
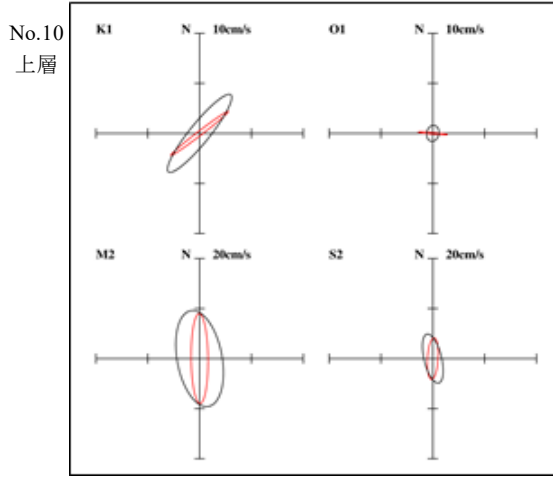
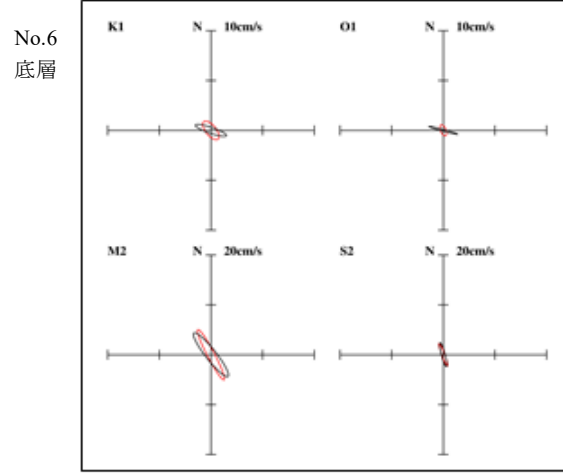
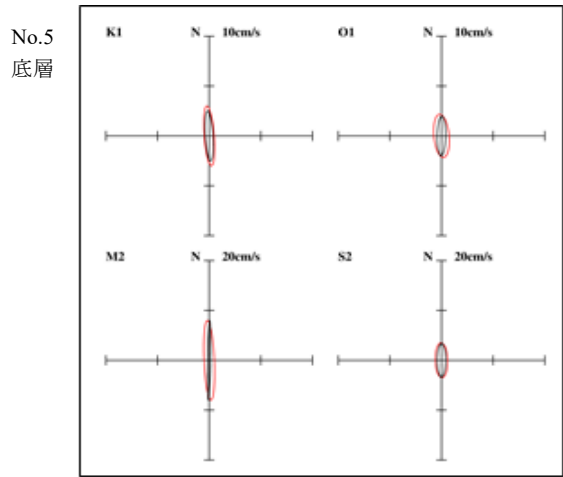


— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11 (5) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (夏季)

- 注：1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 8 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.1-2	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m

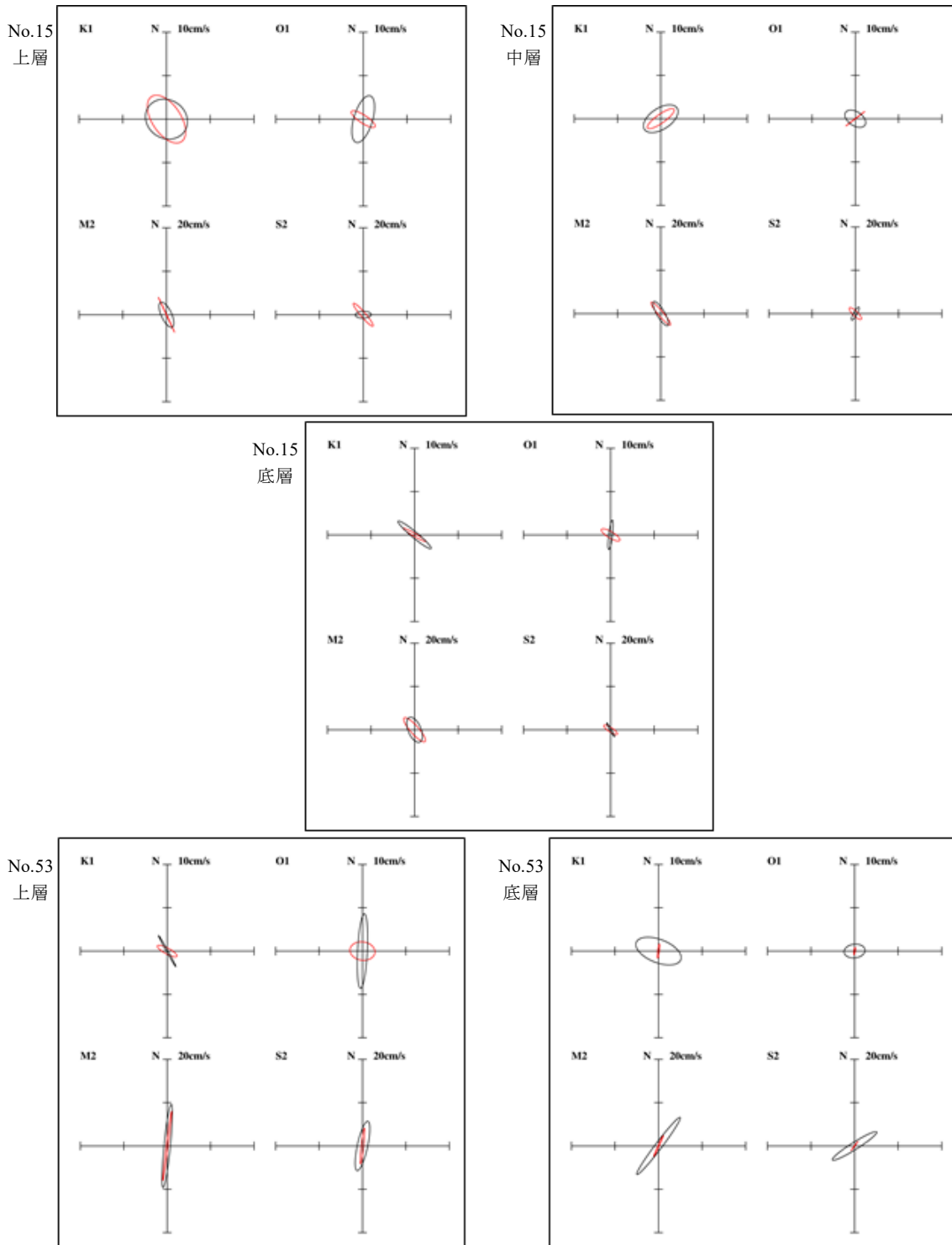


— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11(6) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (夏季)

- 注 : 1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 8 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.6	-	-	海底上 1m
No.10	海面下 2m	-	海底上 1m

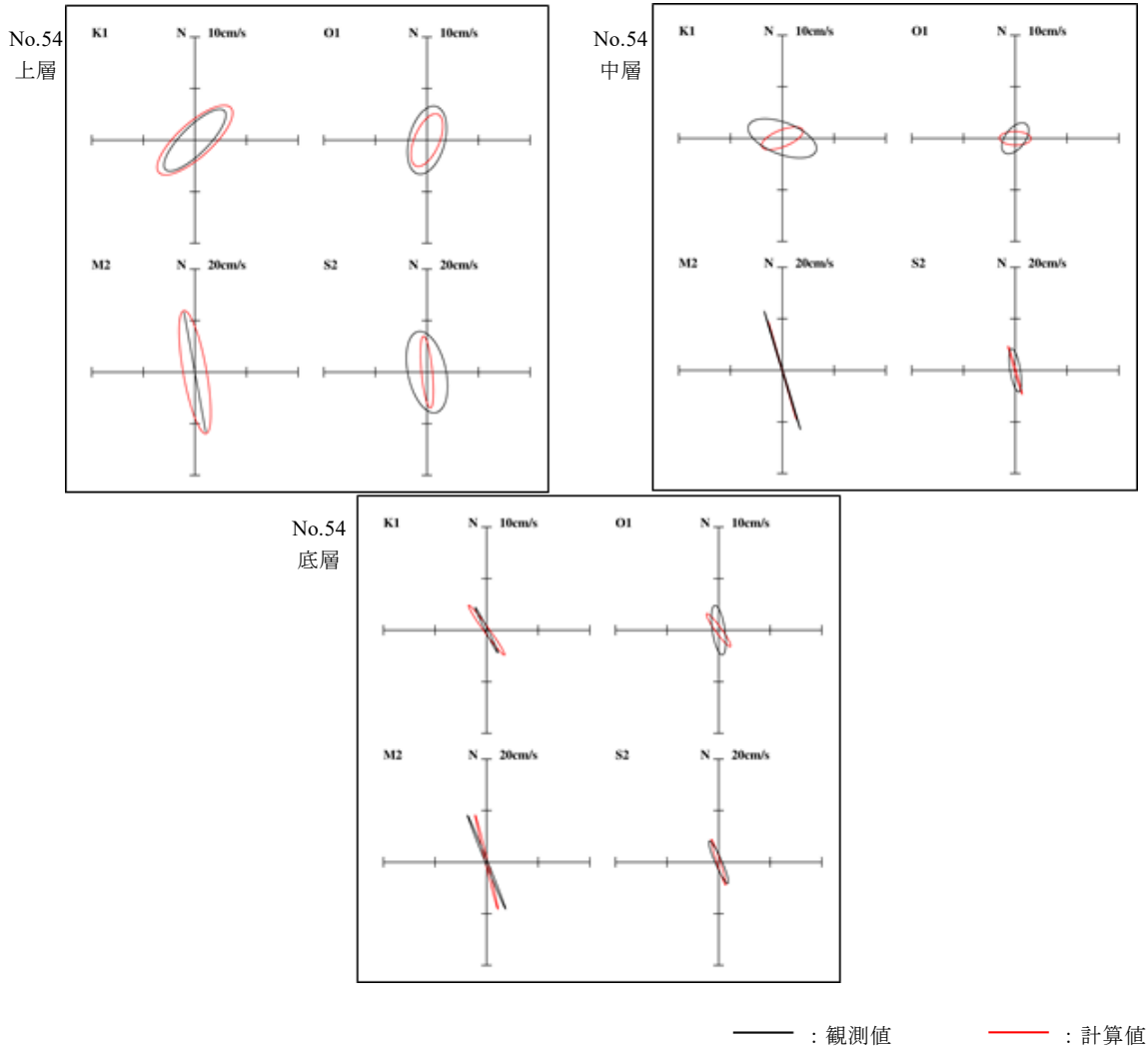


— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11 (7) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (夏季)

- 注：1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 8 月の調和解析結果。
 2. 各地点の測定層は以下のとおり。

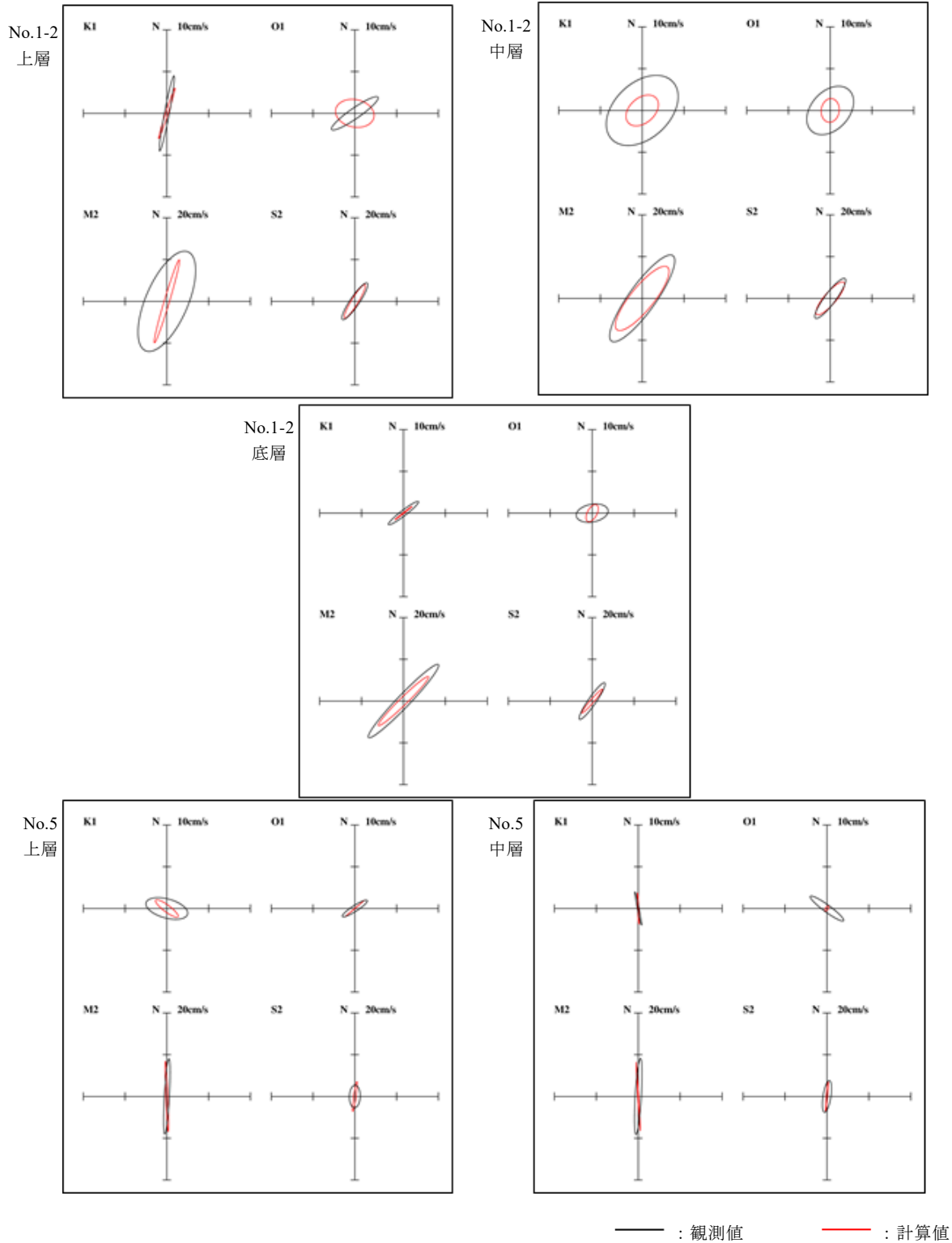
地点	上層	中層	底層
No.15	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.53	海面下 2m	-	海底上 1m



付図 8.4-11 (8) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (夏季)

- 注：1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 8 月の調和解析結果。
 2. 各地点の測定層は以下のとおり。

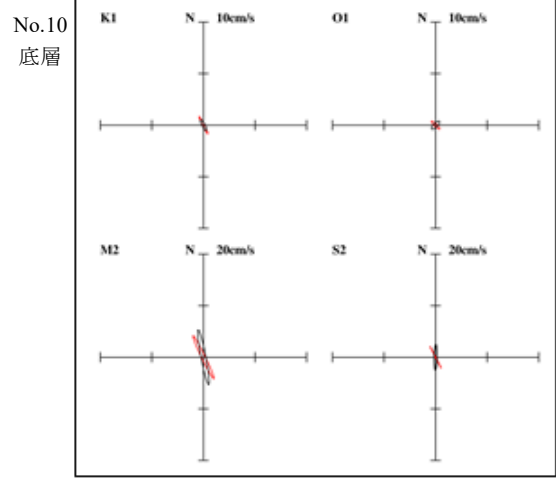
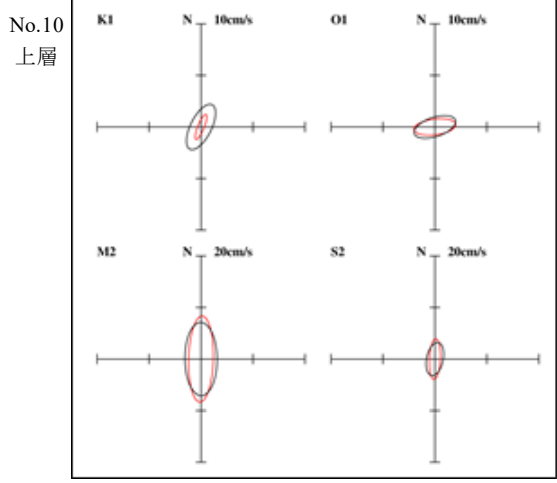
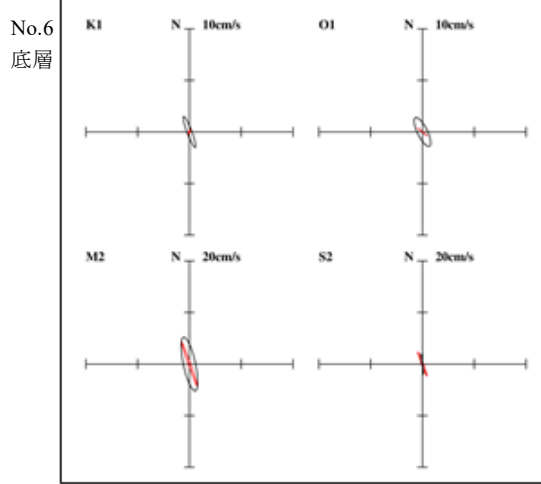
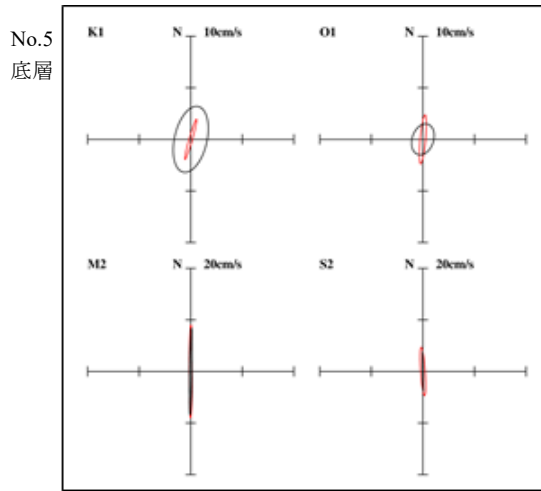
地点	上層	中層	底層
No.54	海面下 2m	海面下 10m	海面下 20.5m



付図 8.4-11 (9) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (秋季)

注 : 1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 11 月の調和解析結果。
 2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.1-2	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m



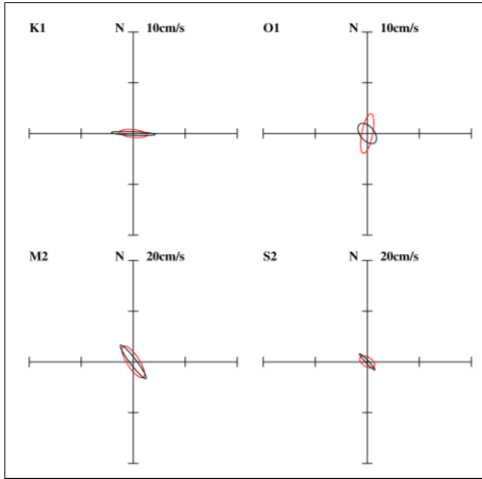
— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11(10) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (秋季)

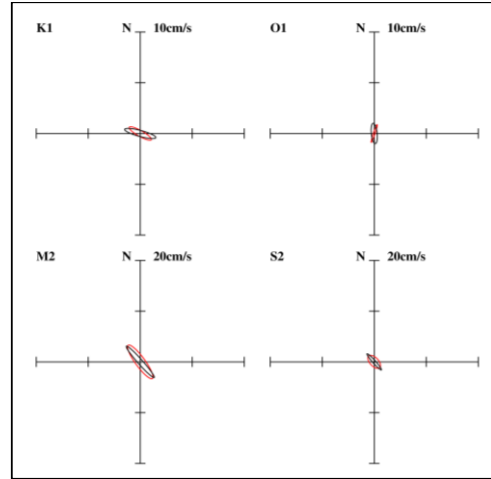
注 : 1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 11 月の調和解析結果。
 2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.6	-	-	海底上 1m
No.10	海面下 2m	-	海底上 1m

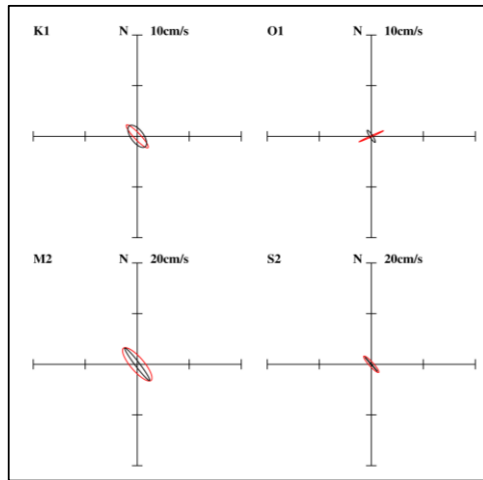
No.15
上層



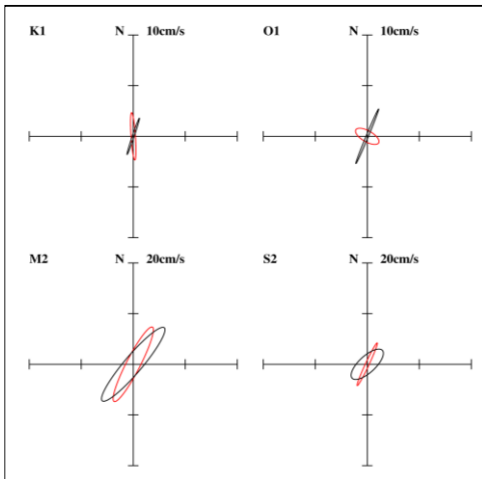
No.15
中層



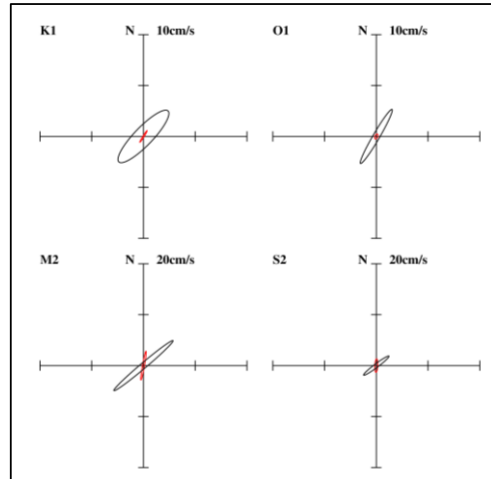
No.15
底層



No.53
上層



No.53
底層



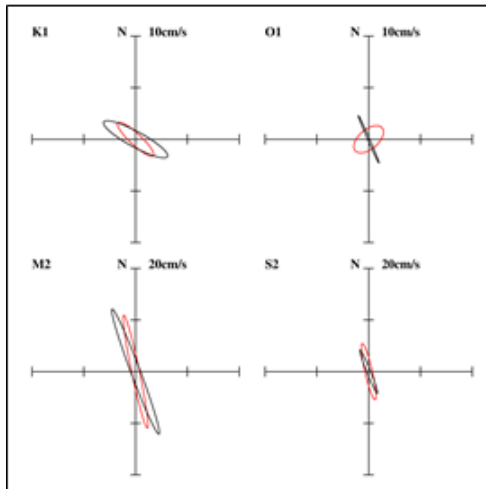
— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11(11) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (秋季)

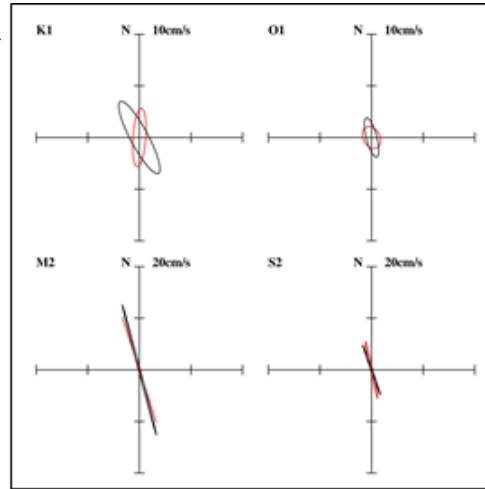
注：1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 11 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.15	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.53	海面下 2m	-	海底上 1m

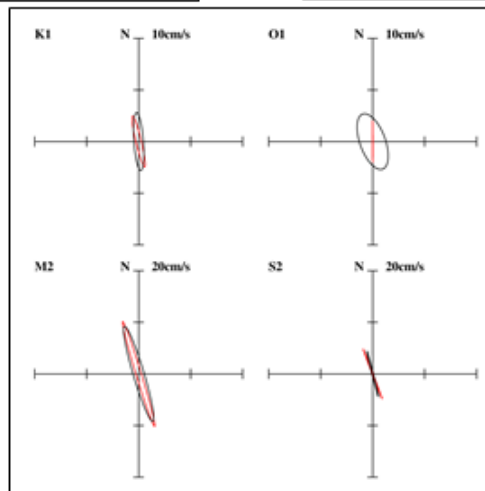
No.54
上層



No.54
中層



No.54
底層



— : 観測値

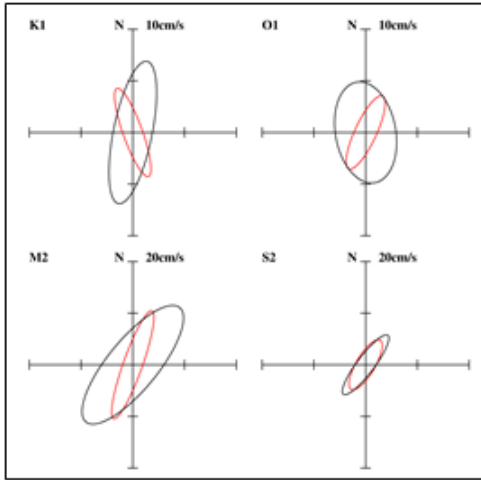
— : 計算値

付図 8.4-11(12) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (秋季)

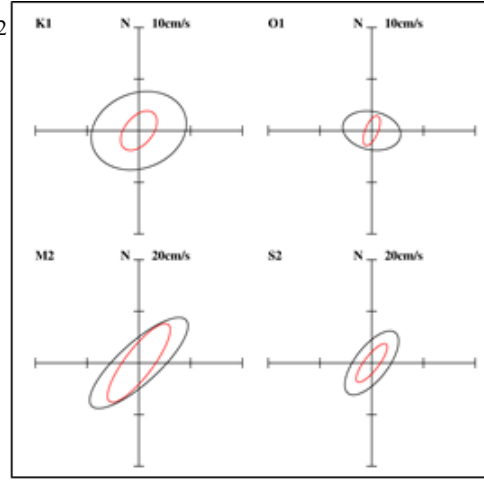
- 注：1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 11 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.54	海面下 2m	海面下 10m	海面下 20.5m

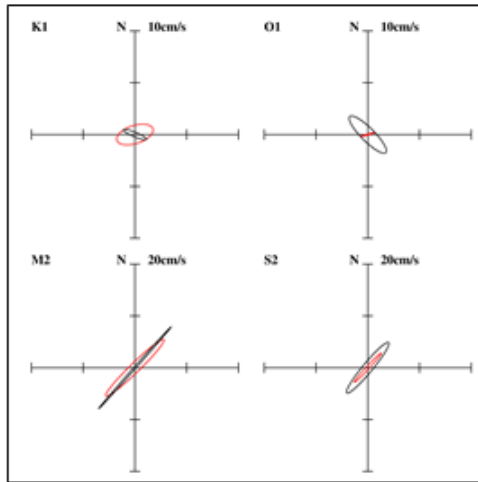
No.1-2
上層



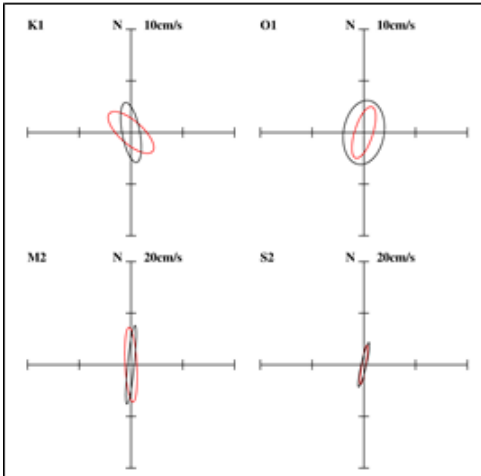
No.1-2
中層



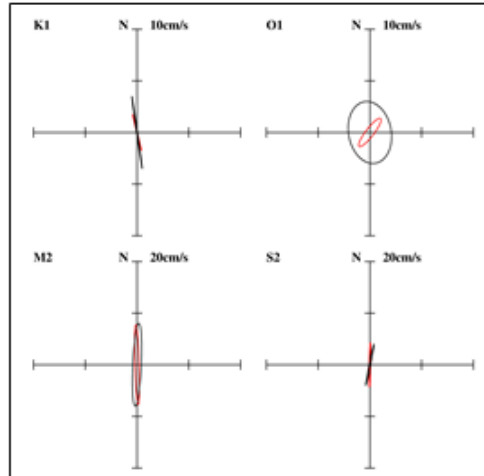
No.1-2
底層



No.5
上層



No.5
中層

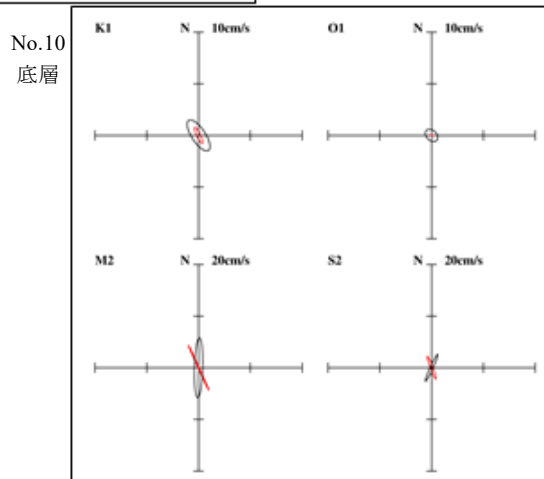
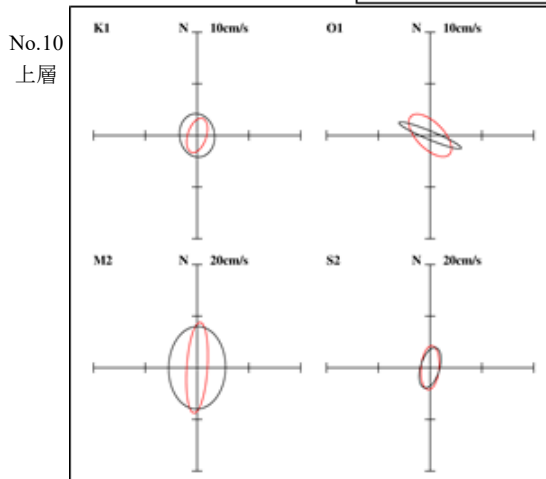
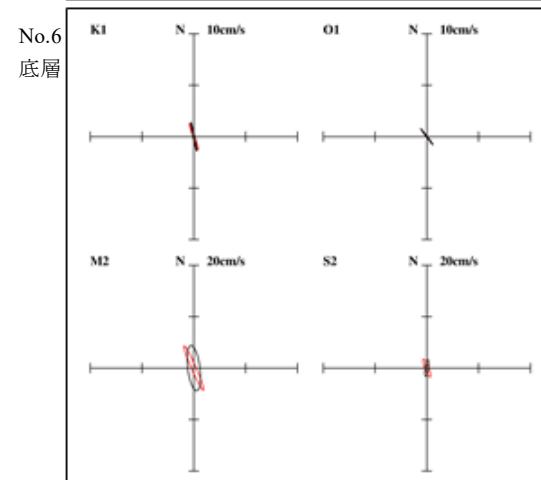
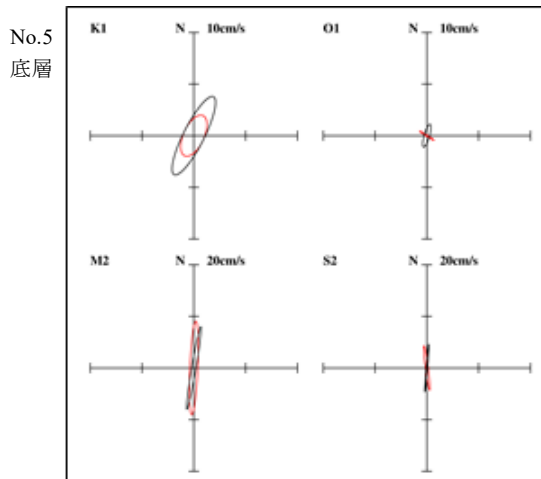


— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11 (13) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (冬季)

注：1. 観測値、計算値ともに平成 27 年 1-2 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.1-2	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m

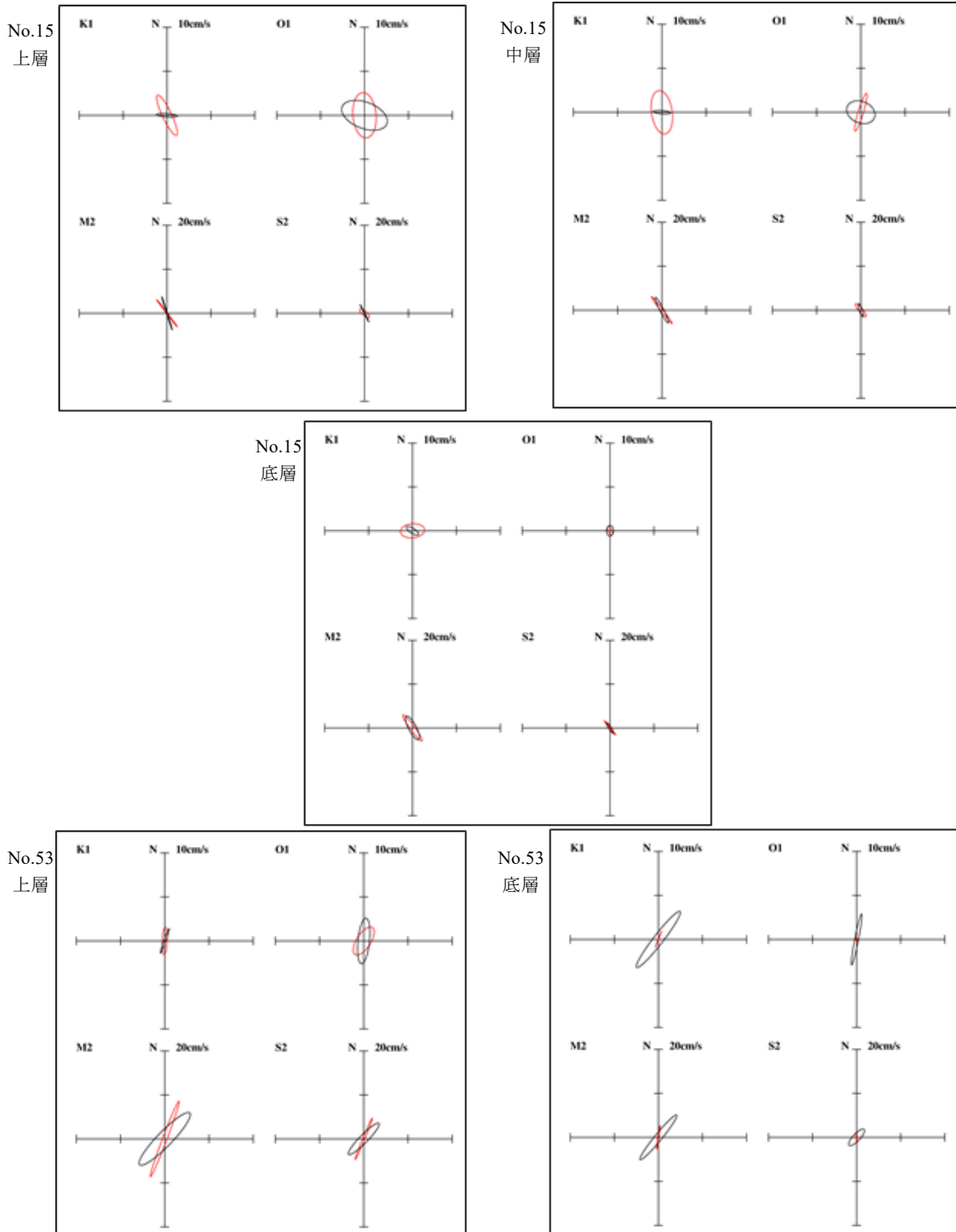


— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11 (14) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (冬季)

注：1. 観測値、計算値ともに平成 27 年 1-2 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.6	-	-	海底上 1m
No.10	海面下 2m	-	海底上 1m



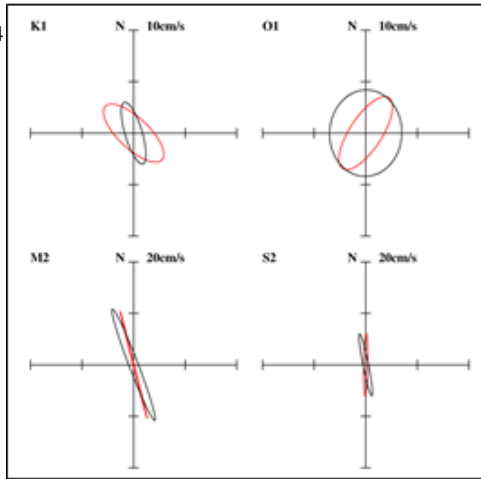
— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11 (15) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (冬季)

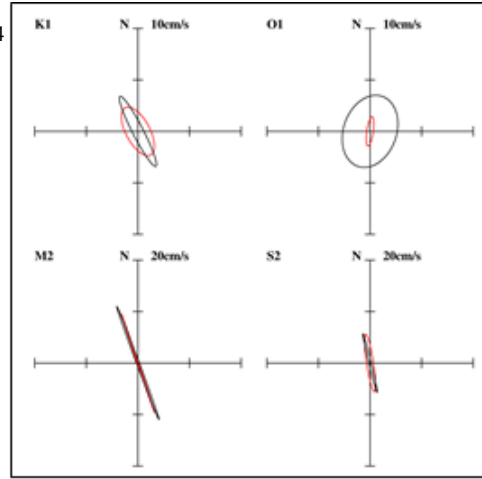
注 : 1. 観測値、計算値ともに平成 27 年 1-2 月の調和解析結果。
 2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.15	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.53	海面下 2m	-	海底上 1m

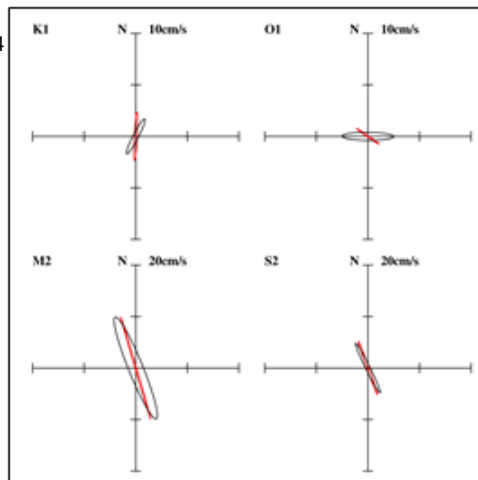
No.54
上層



No.54
中層



No.54
底層



— : 観測値 — : 計算値

付図 8.4-11 (16) 潮流楕円の観測値と計算値の比較 (冬季)

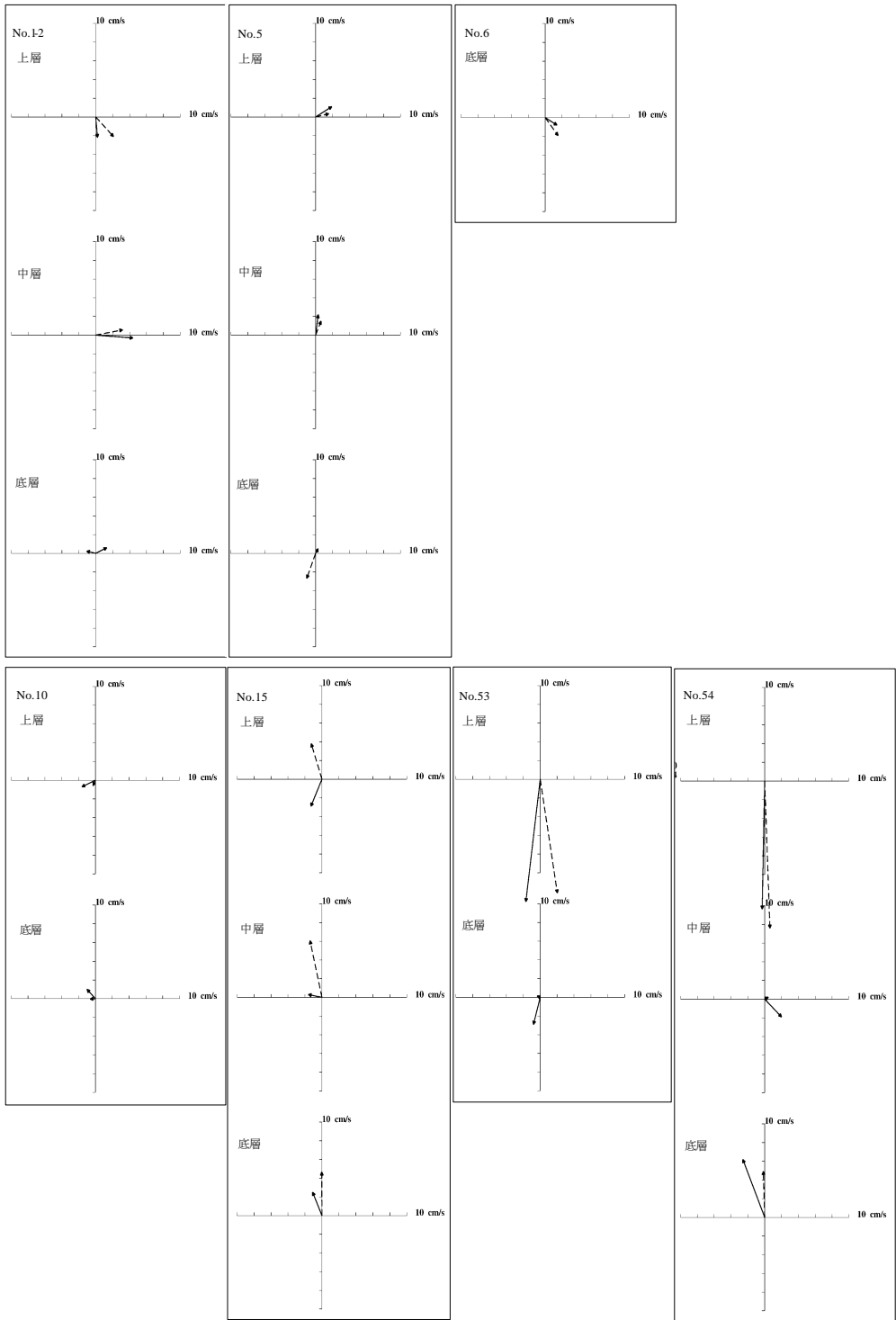
- 注：1. 観測値、計算値ともに平成 27 年 1-2 月の調和解析結果。
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.54	海面下 2m	海面下 10m	海面下 20.5m

(2) 平均流の再現性

平均流の再現性は、平成 26 年度の事業者実施調査結果で得られた期間平均流ベクトルを比較することにより確認した。

観測結果と計算結果の平均流ベクトルの比較は、付図 8.4-12 のとおりである。各季ともに平均流ベクトルと観測値と概ね一致しており、伊勢湾における平均流を再現していると判断される。



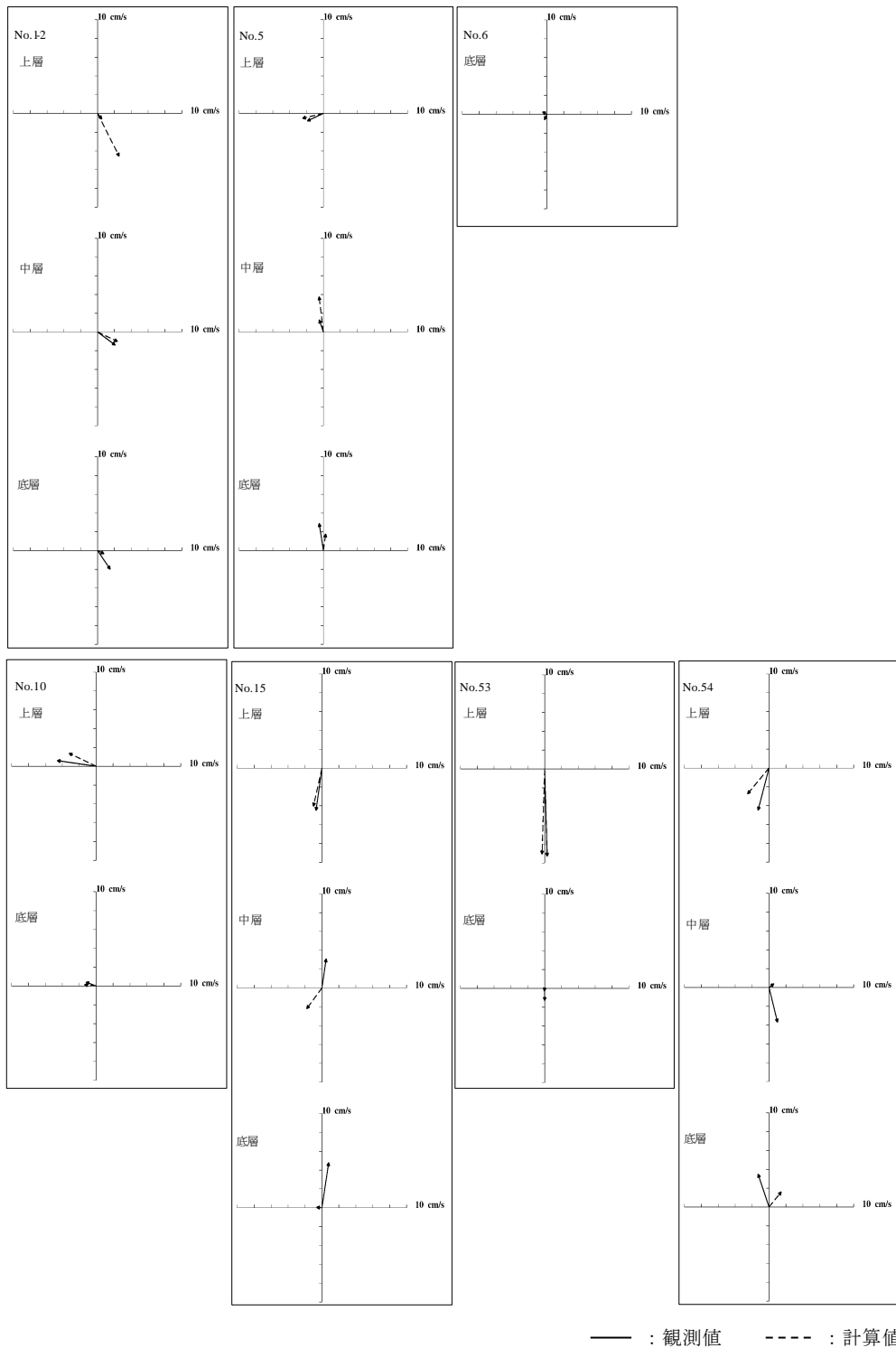
— : 観測値 - - - : 計算値

付図 8.4-12(1) 平均流ベクトルの観測値と計算値の比較 (春季)

注：1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 5 月の調和解析結果。

2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.1-2	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.6	-	-	海底上 1m
No.10	海面下 2m	-	海底上 1m
No.15	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.53	海面下 2m	-	海底上 1m
No.54	海面下 2m	海面下 10m	海面下 20.5m

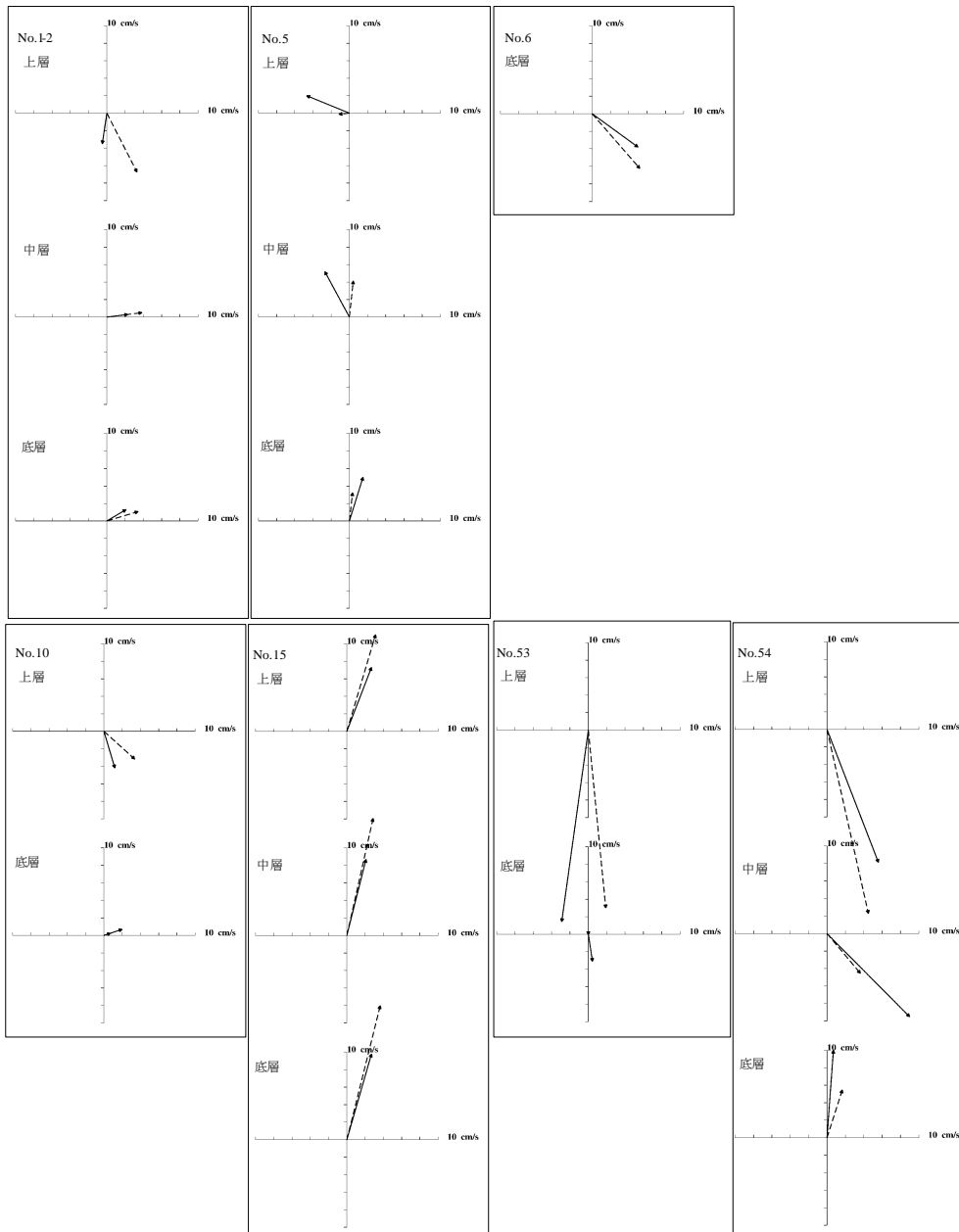


付図 8.4-12(2) 平均流ベクトルの観測値と計算値の比較 (夏季)

注：1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 8 月の調和解析結果。

2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.1-2	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.6	-	-	海底上 1m
No.10	海面下 2m	-	海底上 1m
No.15	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.53	海面下 2m	-	海底上 1m
No.54	海面下 2m	海面下 10m	海面下 20.5m



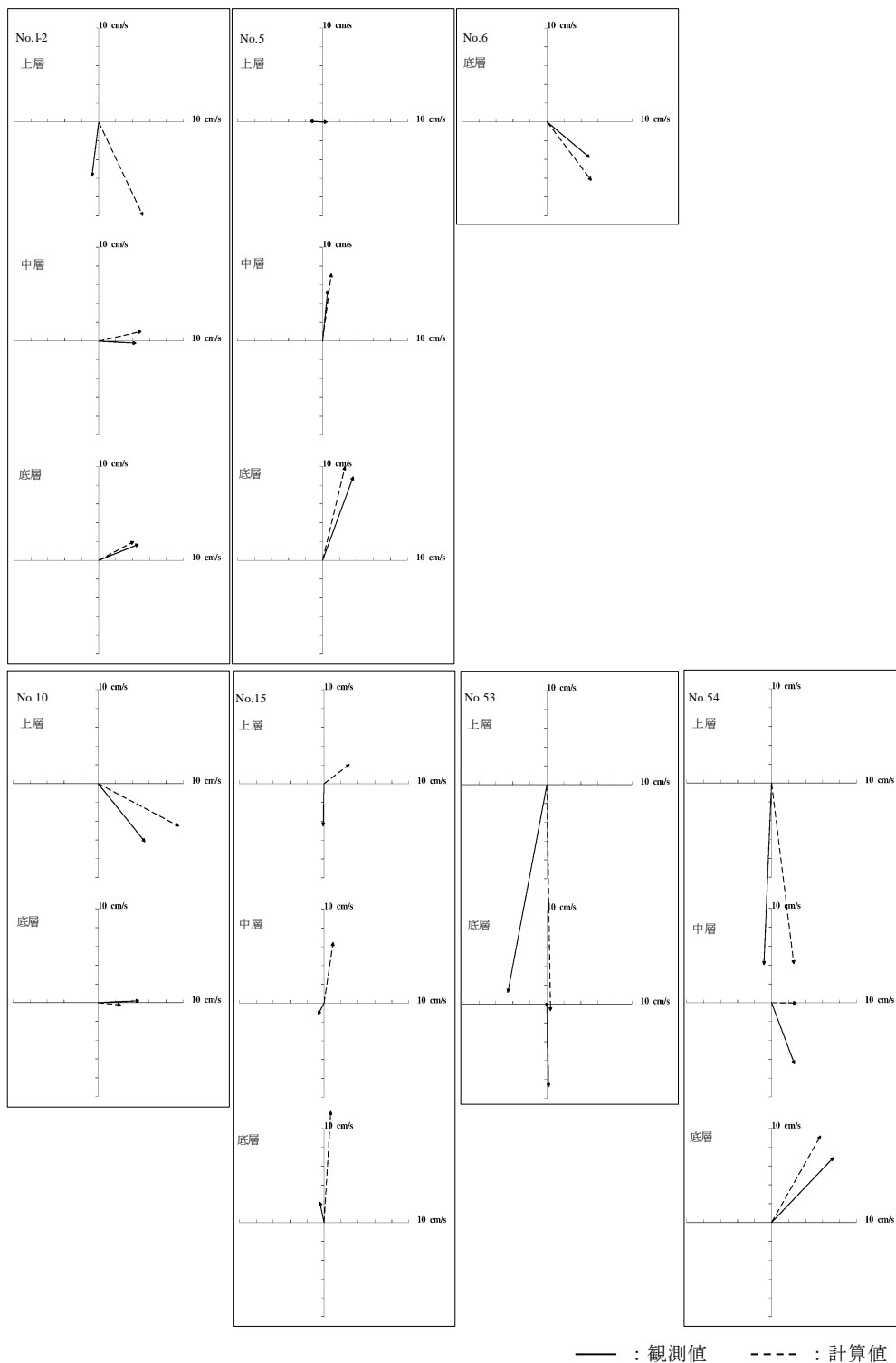
—— : 観測値 - - - - : 計算値

付図 8.4-12(3) 平均流ベクトルの観測値と計算値の比較 (秋季)

注 : 1. 観測値、計算値ともに平成 26 年 11 月の調和解析結果。

2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.1-2	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.6	-	-	海底上 1m
No.10	海面下 2m	-	海底上 1m
No.15	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.53	海面下 2m	-	海底上 1m
No.54	海面下 2m	海面下 10m	海面下 20.5m



付図 8.4-12(4) 平均流ベクトルの観測値と計算値の比較 (冬季)

注：1. 観測値、計算値ともに平成 27 年 2 月の調和解析結果。

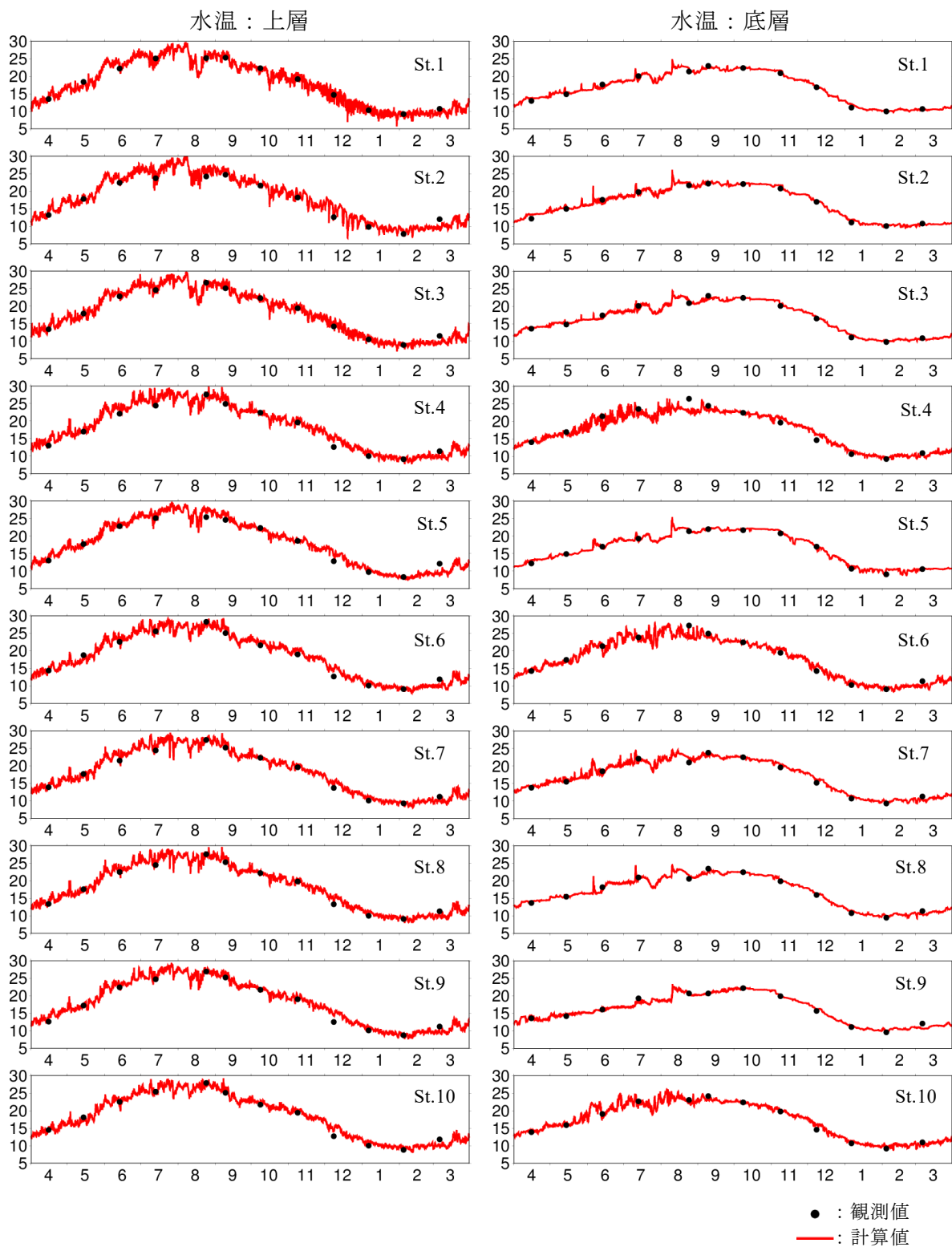
2. 各地点の測定層は以下のとおり。

地点	上層	中層	底層
No.1-2	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.5	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.6	-	-	海底上 1m
No.10	海面下 2m	-	海底上 1m
No.15	海面下 2m	海面下 5m	海面下 10m
No.53	海面下 2m	-	海底上 1m
No.54	海面下 2m	海面下 10m	海面下 20.5m

(3) 水温・塩分の再現性

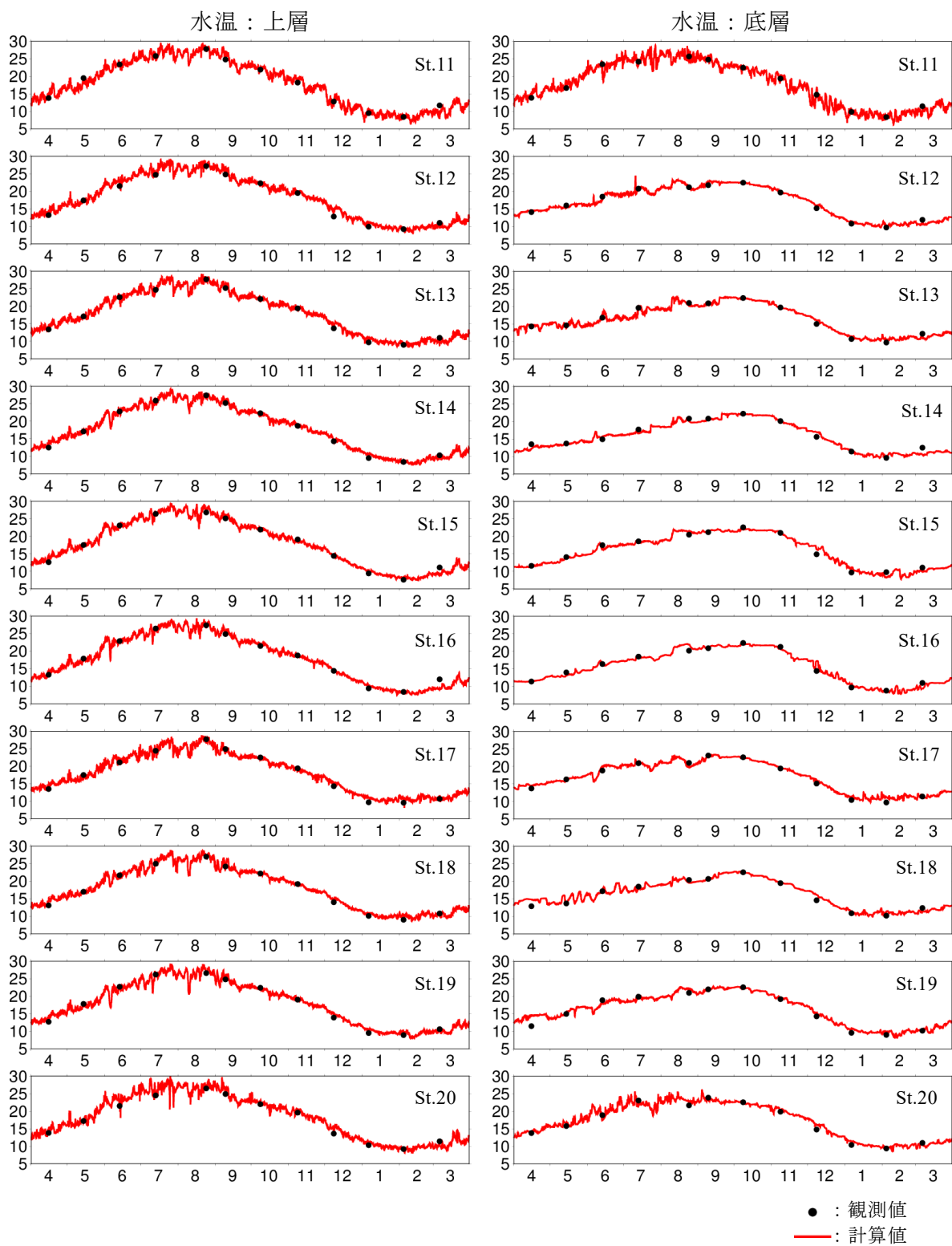
水温・塩分の再現性は、平成 26 年度の事業者実施調査で得られた水温・塩分の観測値と比較することにより確認した。

事業者が調査を実施した 23 地点での各月の水温及び塩分の比較は付図 8.4-13 及び付図 8.4-14 のとおりである。計算結果の水温・塩分は観測結果と概ね一致しており、現況の水温・塩分を再現していると判断される。



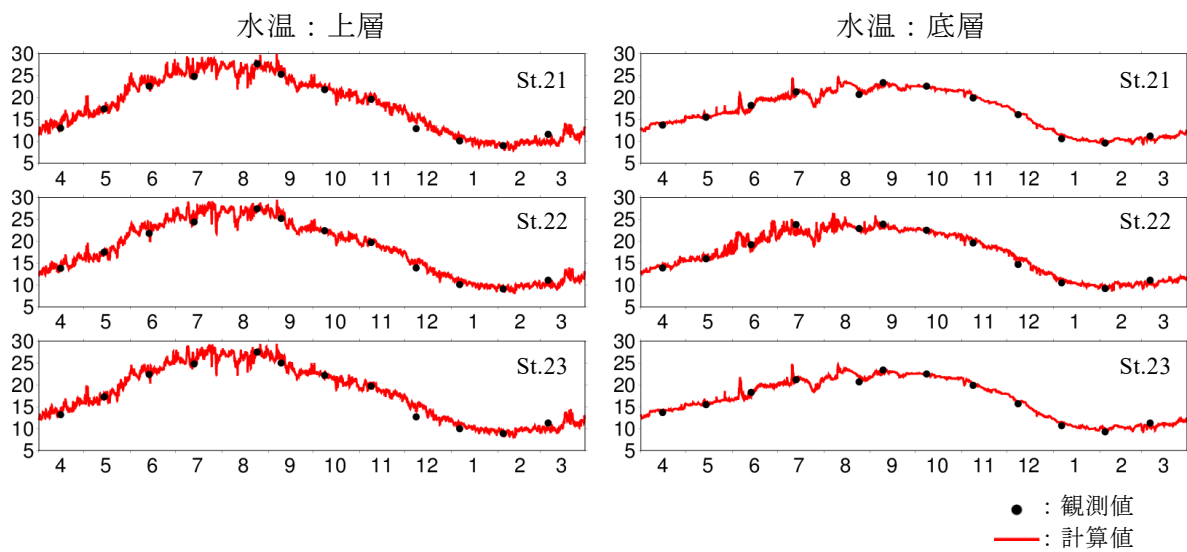
付図 8.4-13(1) 水温の観測値と計算値の比較（左図：上層、右図：底層）

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は水温（℃）を表す。



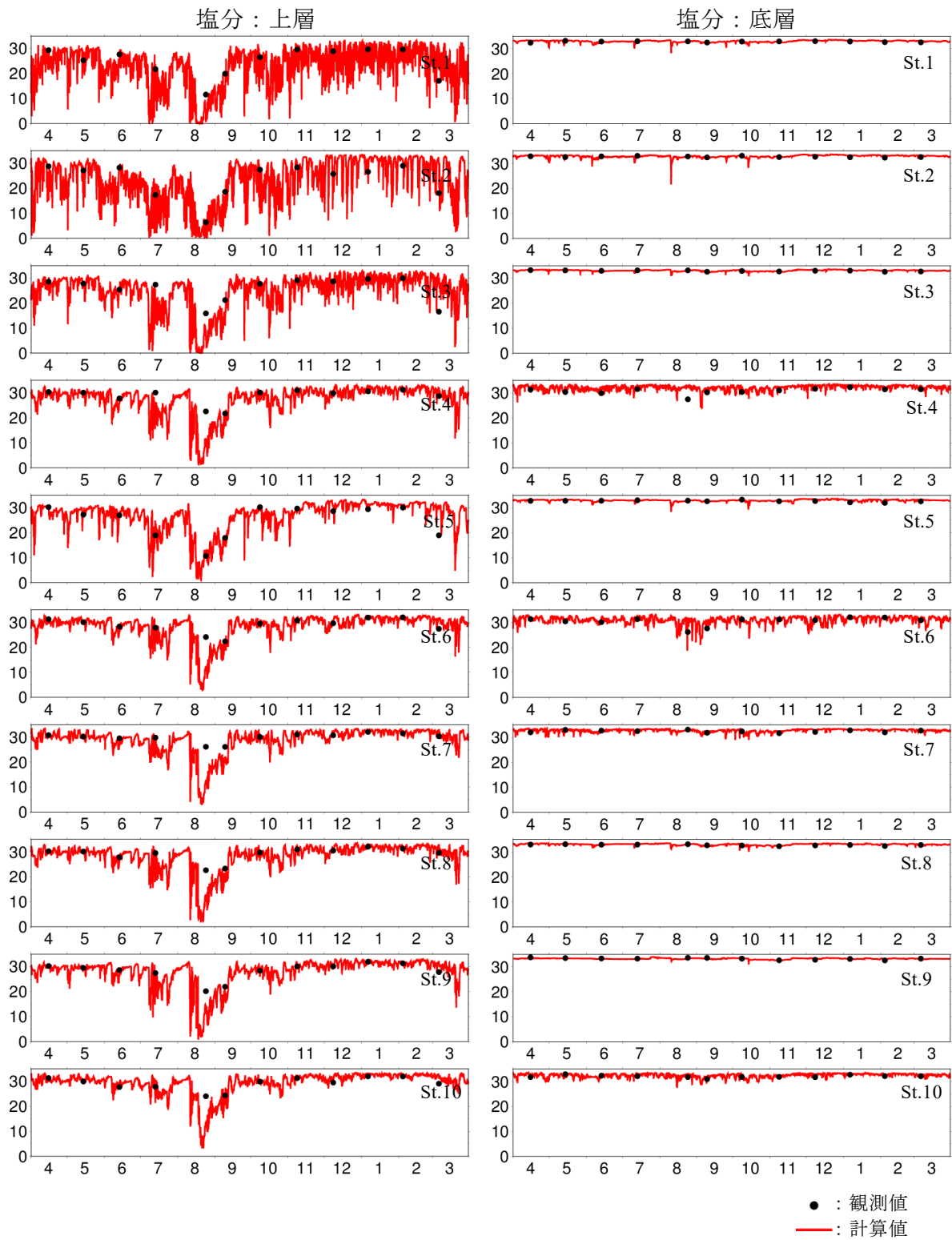
付図 8.4-13(2) 水温の観測値と計算値の比較（左図：上層、右図：底層）

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は水温（℃）を表す。



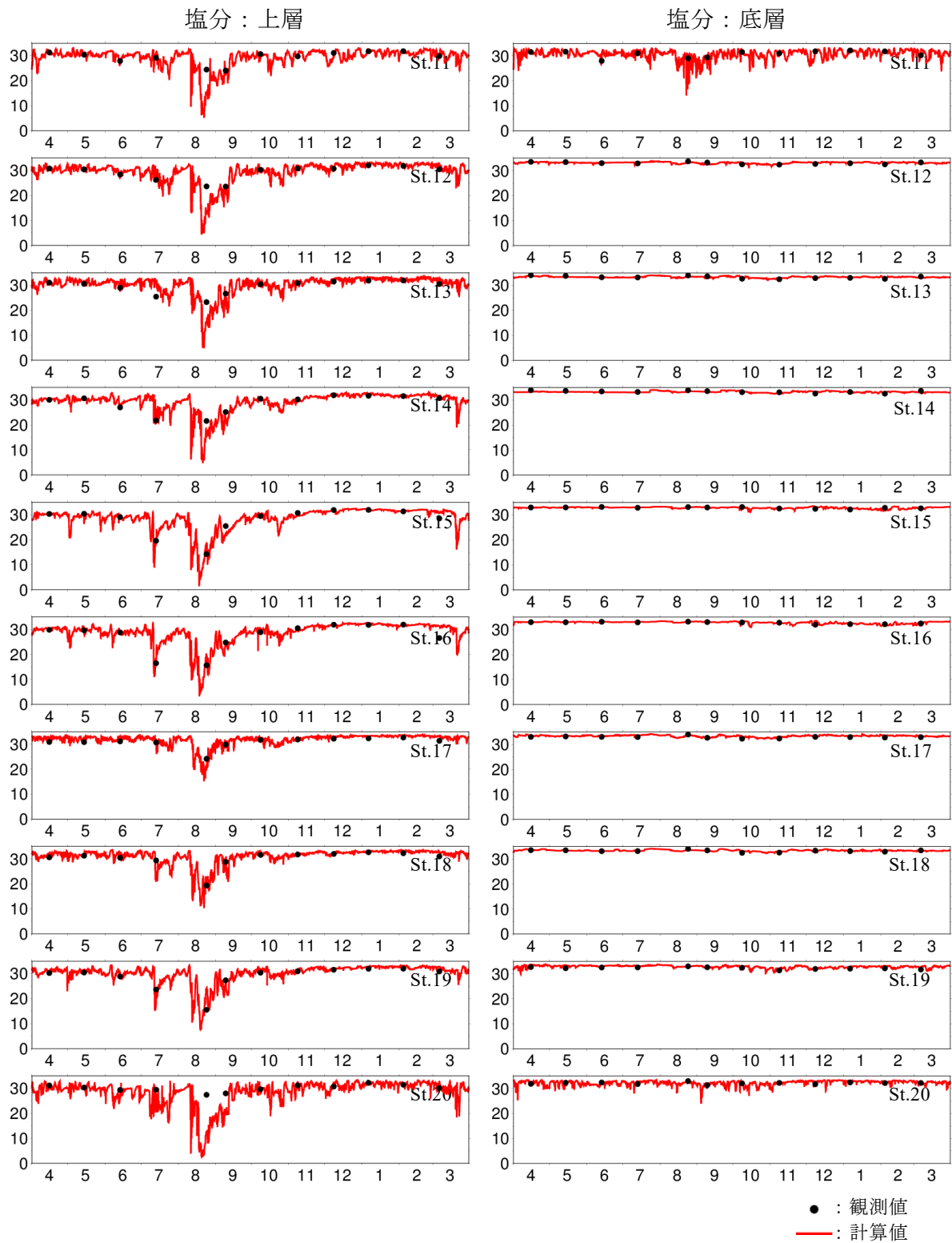
付図 8.4-13(3) 水温の観測値と計算値の比較 (左図：上層、右図：底層)

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は水温 (°C) を表す。



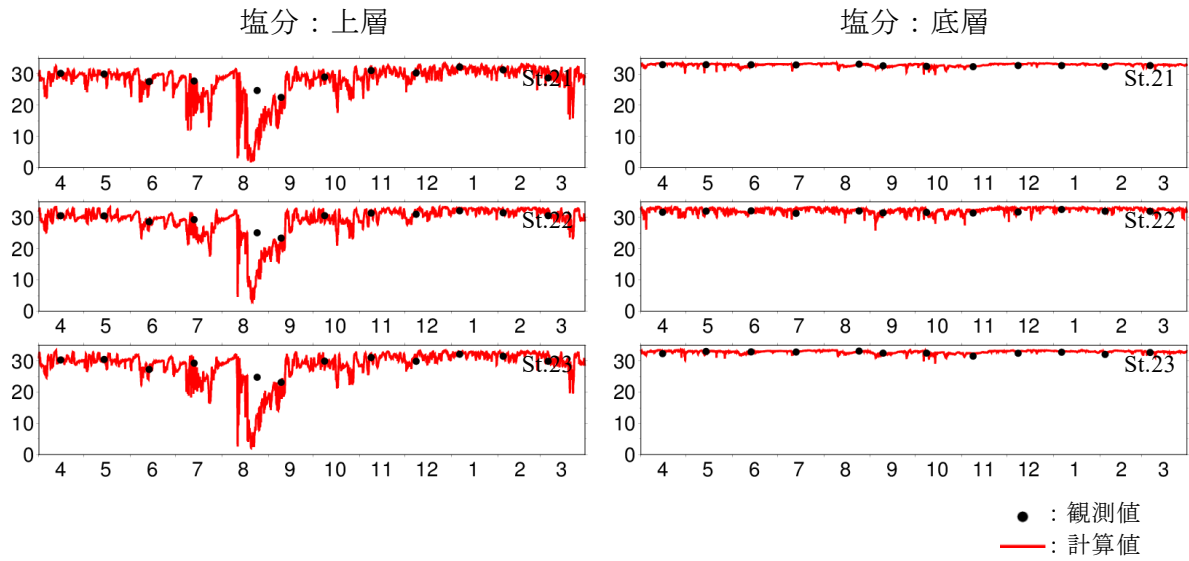
付図 8.4-14(1) 塩分の観測値と計算値の比較（左図：上層、右図：底層）

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は塩分を表す。



付図 8.4-14(2) 塩分の観測値と計算値の比較（左図：上層、右図：底層）

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は塩分を表す。



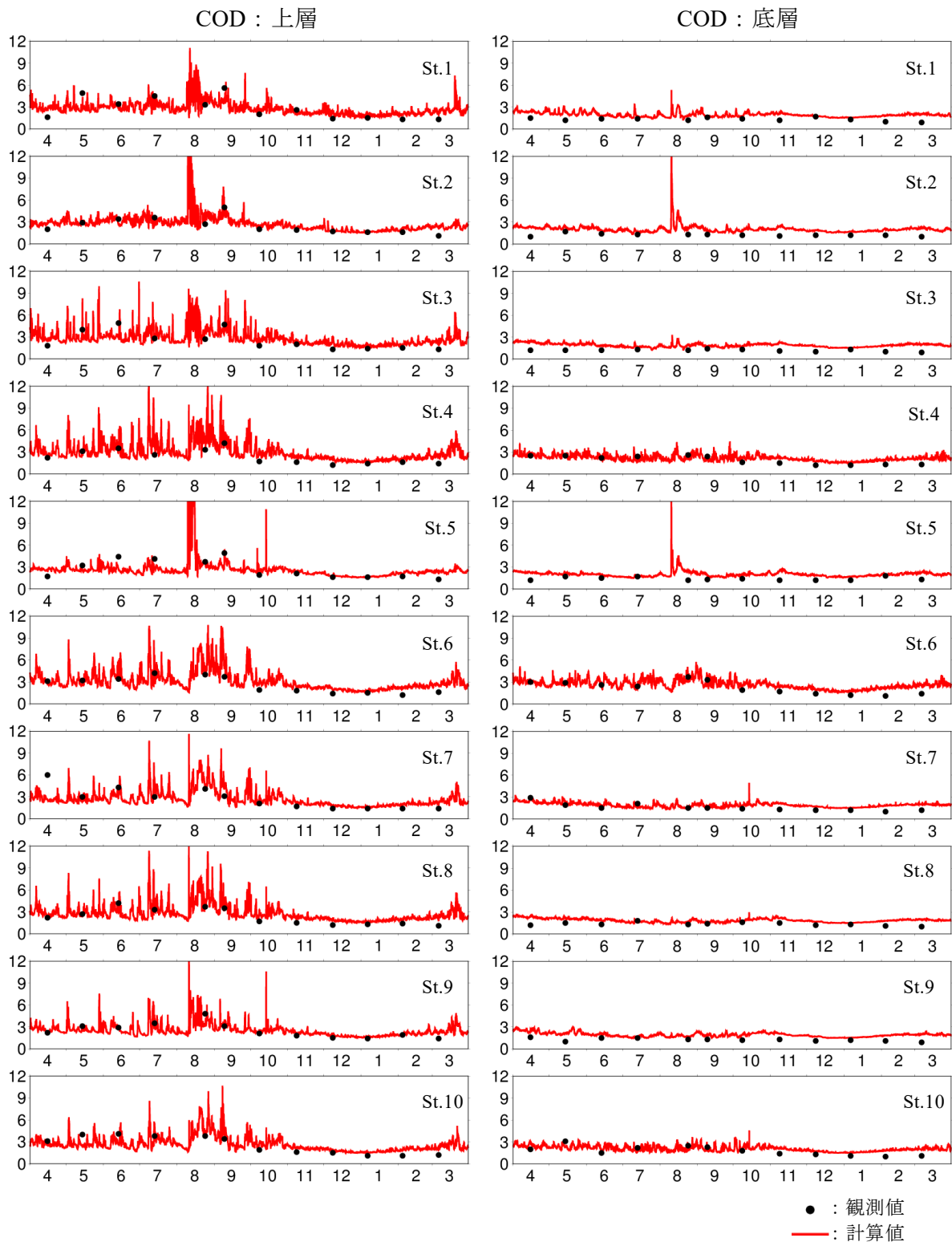
付図 8.4-14(3) 塩分の観測値と計算値の比較（左図：上層、右図：底層）

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は塩分を表す。

(4) COD の再現性

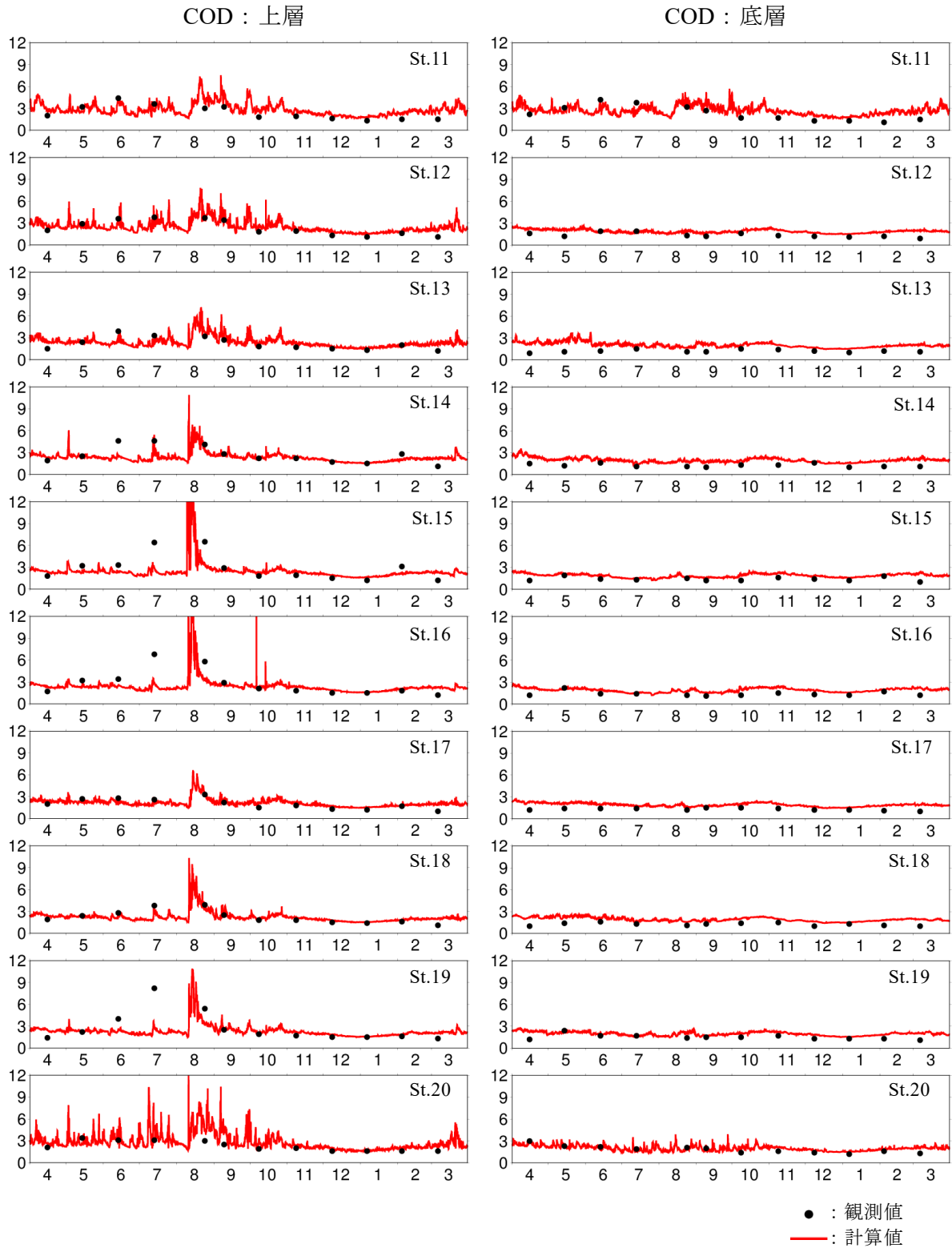
COD の再現性は、平成 26 年度の事業者実施調査で得られた COD の観測値と比較することにより確認した。

事業者が調査を実施した 23 地点での各月の COD の比較は付図 8.4-15 のとおりである。観測結果の COD は計算結果と概ね一致しており、現況の COD を再現していると判断される。



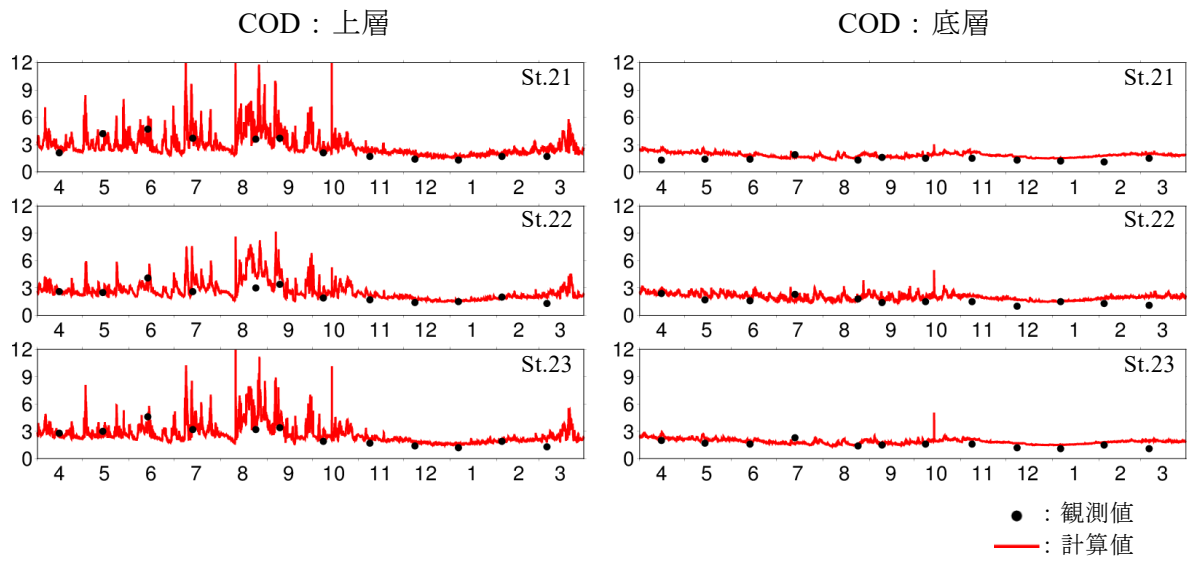
付図 8.4-15(1) COD の観測値と計算値の比較 (左図 : 上層、右図 : 底層)

注 : 横軸は平成 26 年度の月、縦軸は COD (mg/L) を表す。



付図 8.4-15(2) COD の観測値と計算値の比較 (左図 : 上層、右図 : 底層)

注 : 横軸は平成 26 年度の月、縦軸は COD (mg/L) を表す。



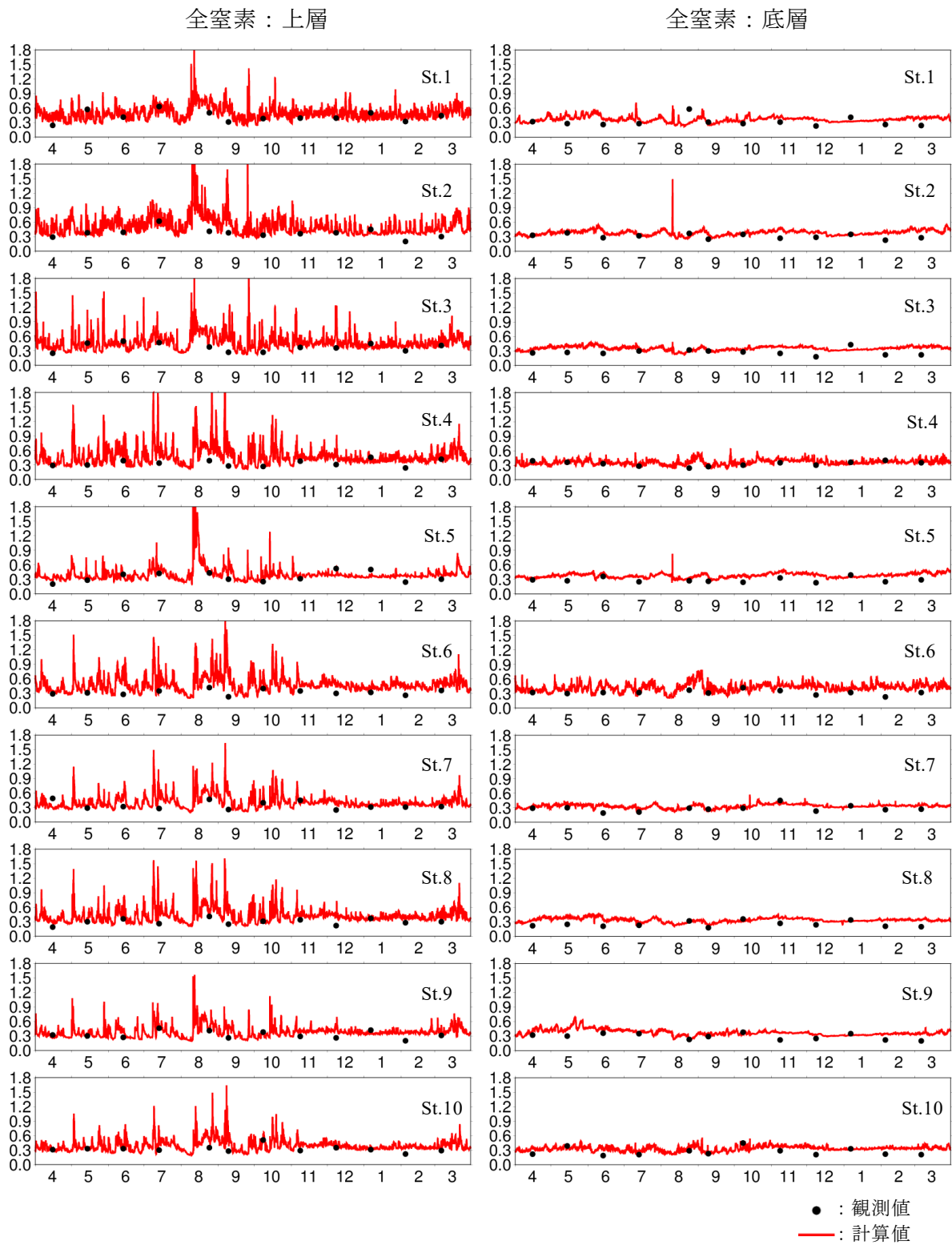
付図 8.4-15(3) COD の観測値と計算値の比較 (左図：上層、右図：底層)

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は COD (mg/L) を表す。

(5) 全窒素の再現性

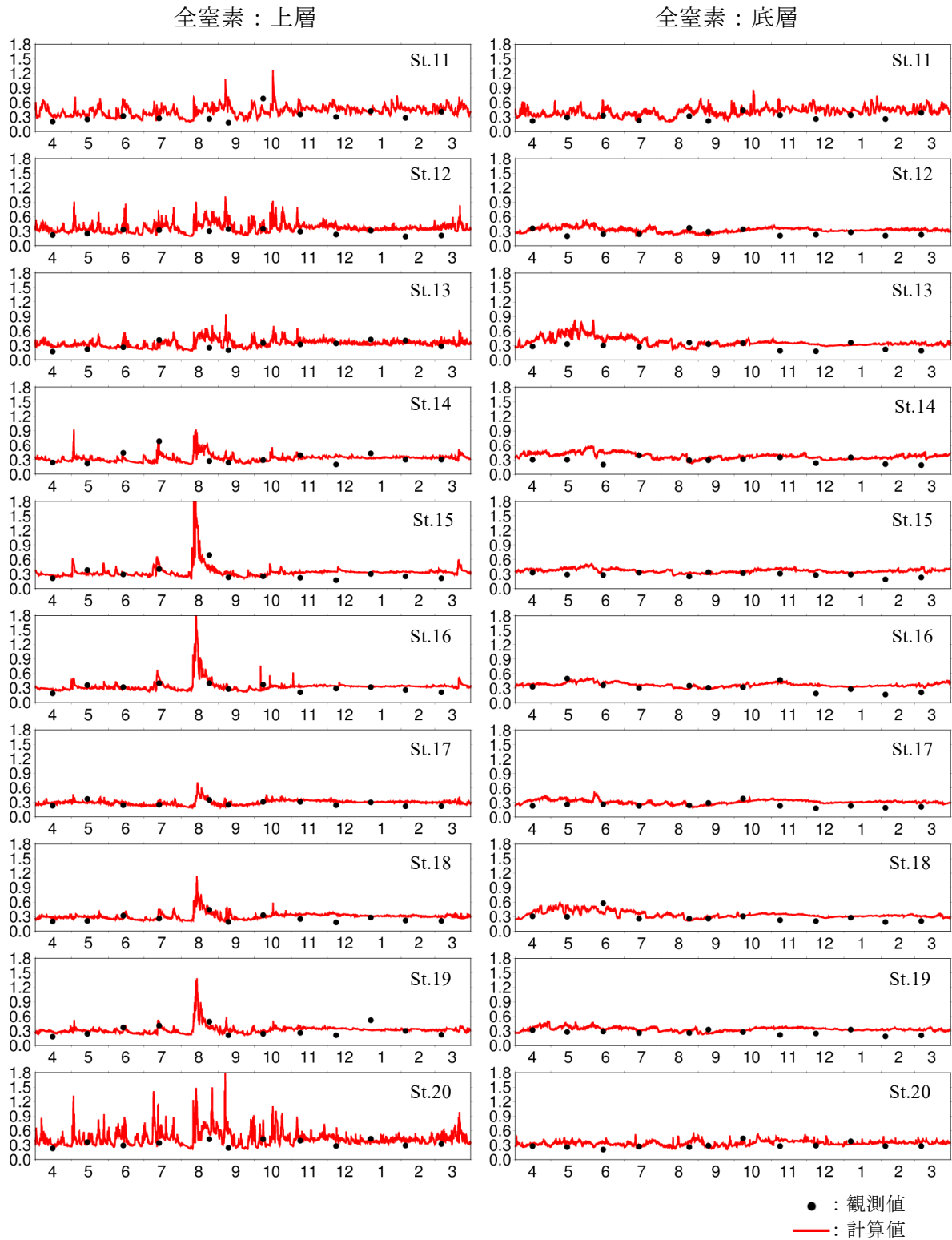
全窒素の再現性は、平成 26 年度の事業者実施調査で得られた全窒素の観測値と比較することにより確認した。

事業者が調査を実施した 23 地点での各月の全窒素の比較は付図 8.4-16 のとおりである。観測結果の全窒素は計算結果と概ね一致しており、現況の全窒素を再現していると判断される。



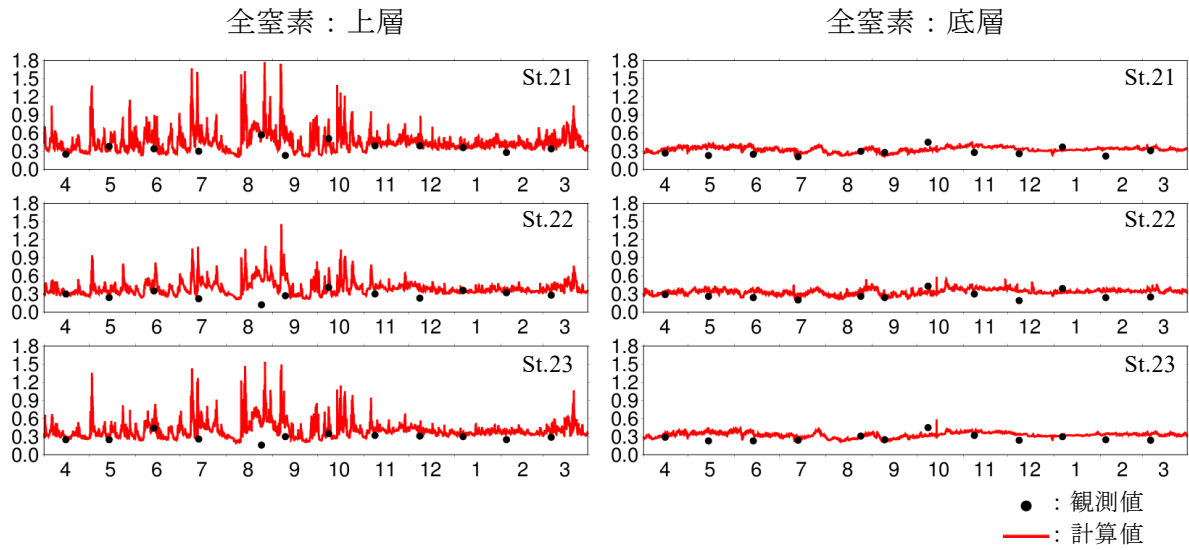
付図 8.4-16(1) 全窒素の観測値と計算値の比較（左図：上層、右図：底層）

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は全窒素（mg/L）を表す。



付図 8.4-16(2) 全窒素の観測値と計算値の比較 (左図：上層、右図：底層)

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は全窒素 (mg/L) を表す。



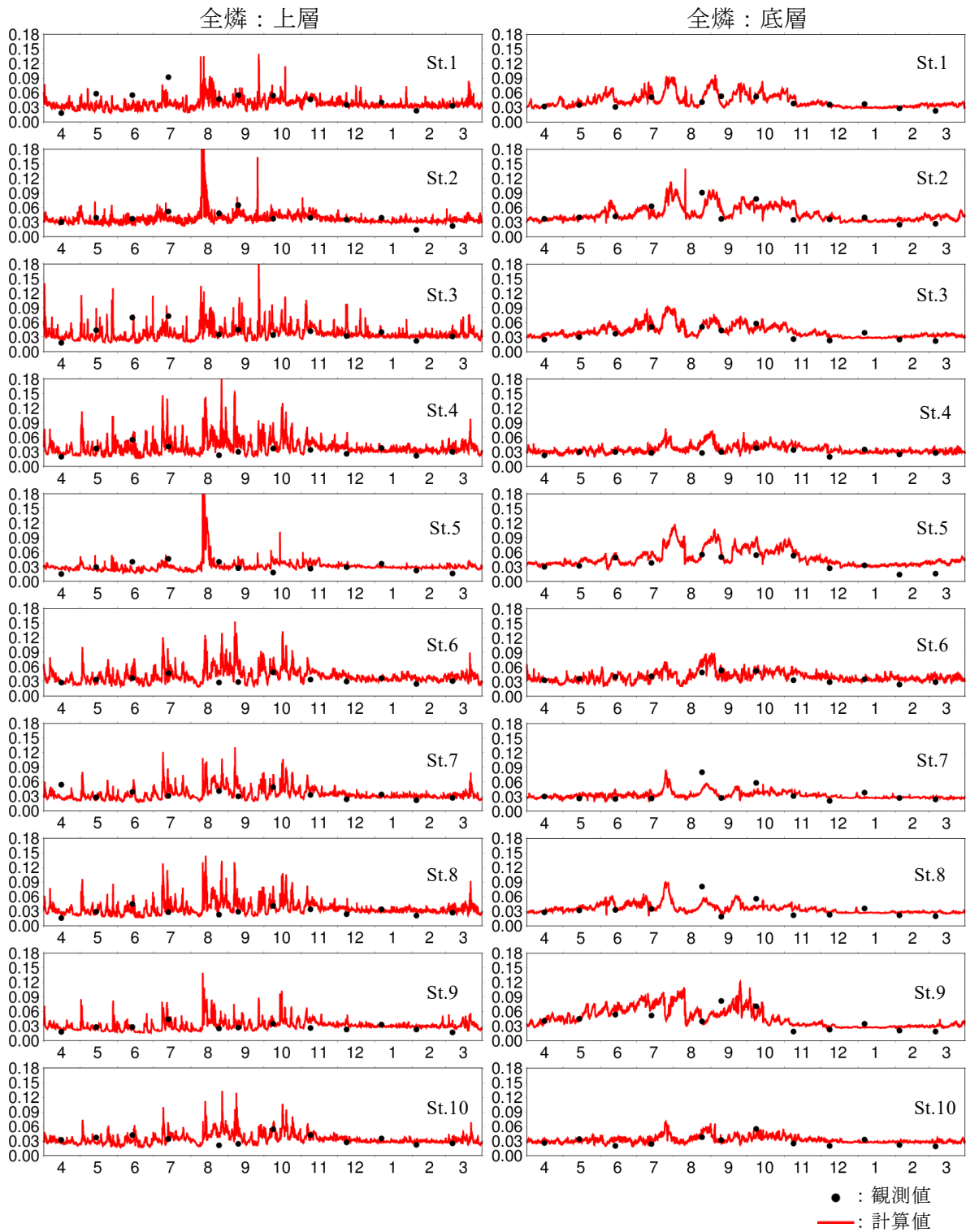
付図 8.4-16(3) 全窒素の観測値と計算値の比較（左図：上層、右図：底層）

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は全窒素（mg/L）を表す。

(6) 全燐の再現性

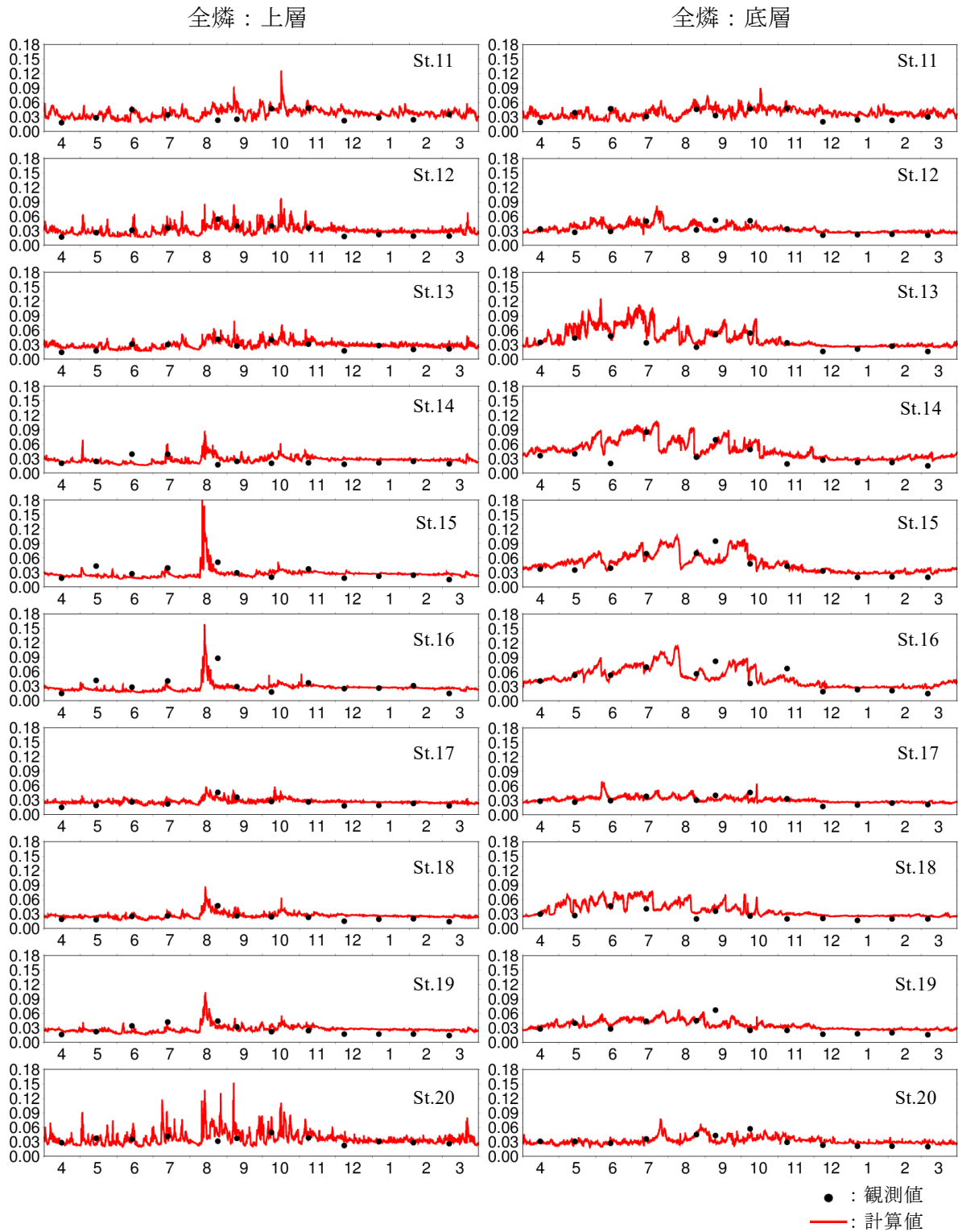
全燐の再現性は、平成 26 年度の事業者実施調査で得られた全燐の観測値と比較することにより確認した。

事業者が調査を実施した 23 地点での各月の全燐の比較は付図 8.4-17 のとおりである。観測結果の全燐は計算結果と概ね一致しており、現況の全燐を再現していると判断される。



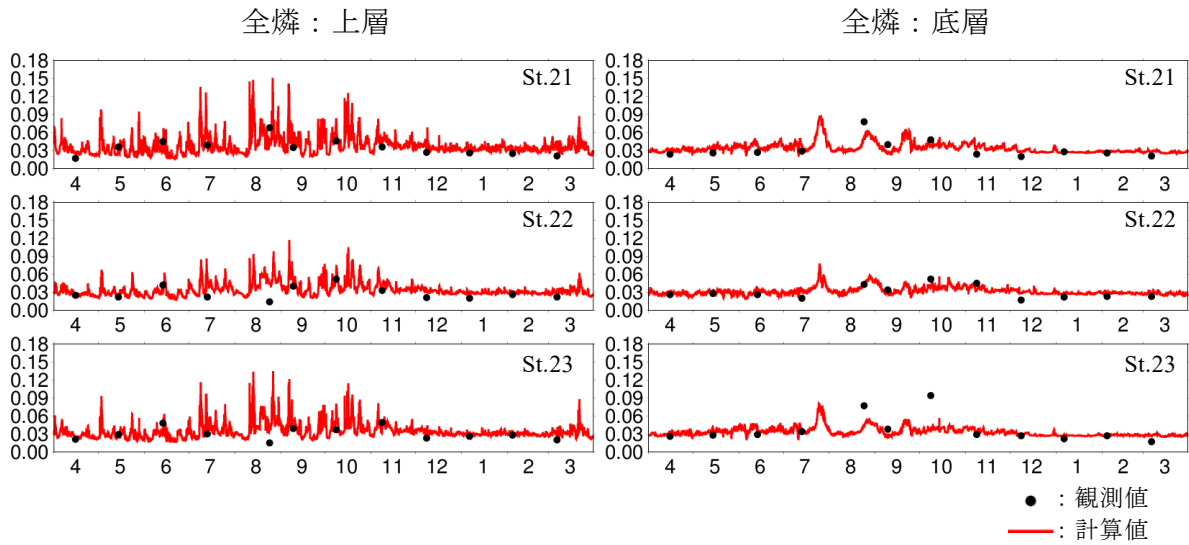
付図 8.4-17(1) 全燐の観測値と計算値の比較（左図：上層、右図：底層）

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は全燐（mg/L）を表す。



付図 8.4-17(2) 全磷の観測値と計算値の比較（左図：上層、右図：底層）

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は全磷（mg/L）を表す。



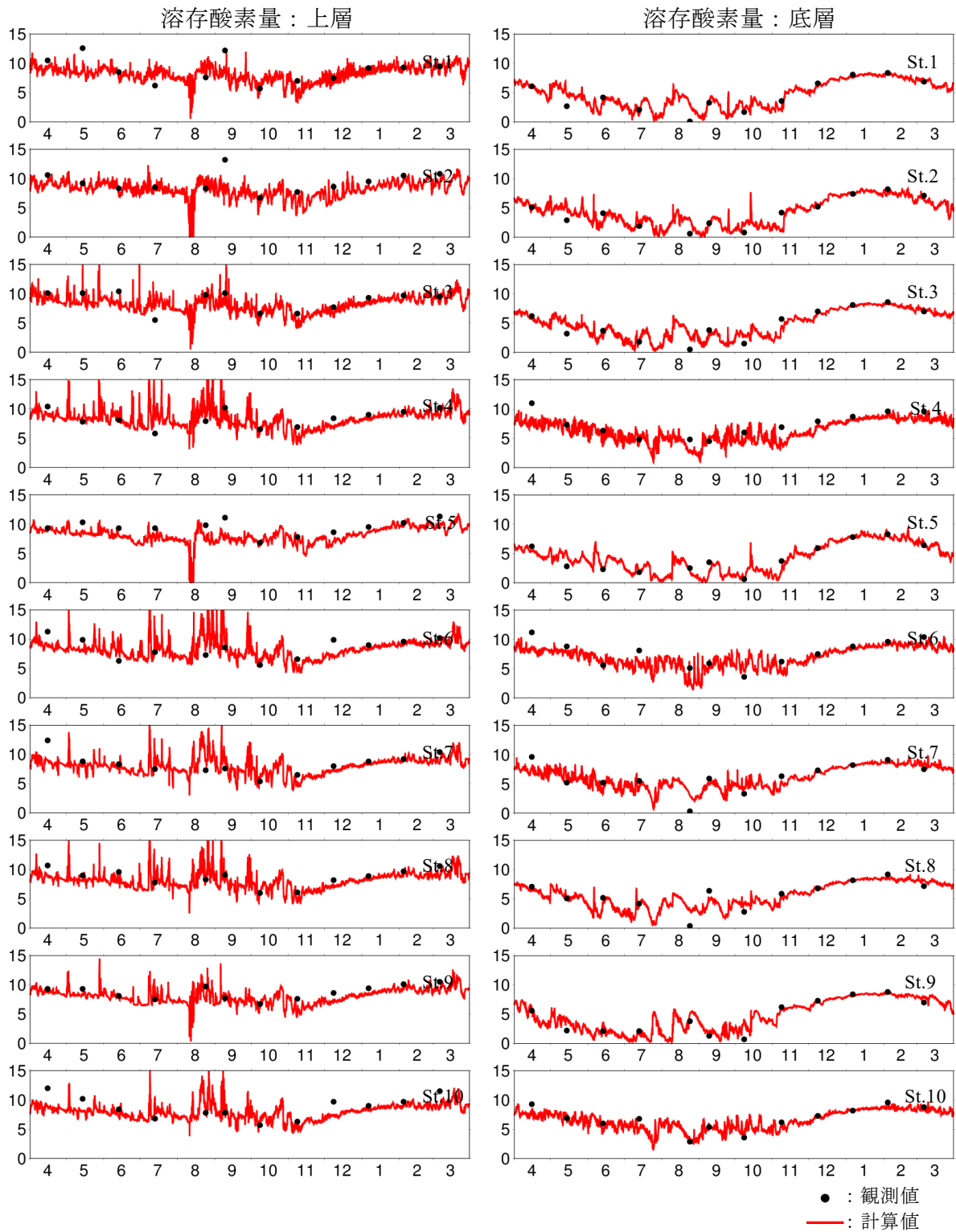
付図 8.4-17(3) 全燐の観測値と計算値の比較（左図：上層、右図：底層）

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は全燐（mg/L）を表す。

(7) 溶存酸素量の再現性

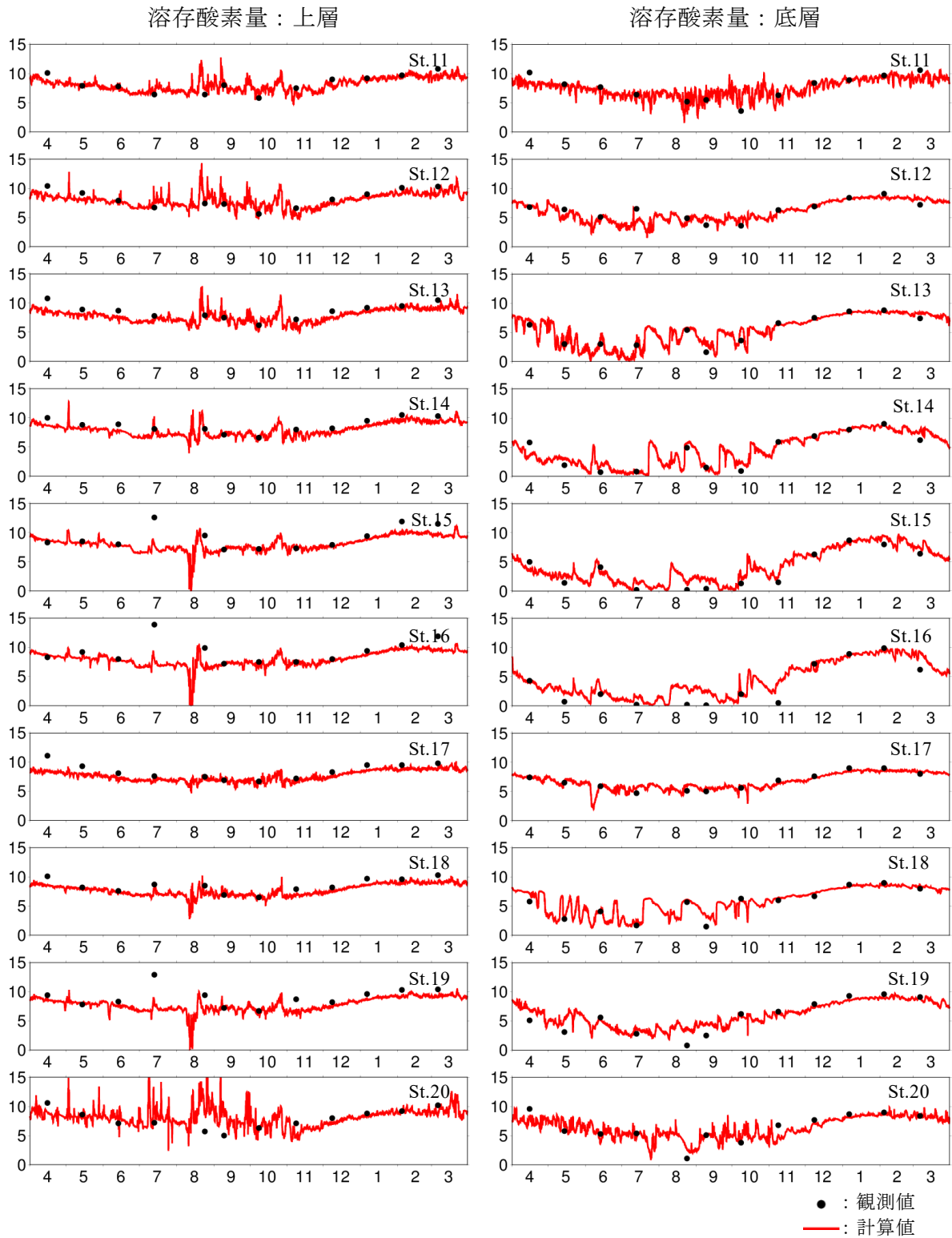
溶存酸素量の再現性は、平成 26 年度の事業者実施調査で得られた溶存酸素量の観測値と比較することにより確認した。

事業者が調査を実施した 23 地点での各月の溶存酸素量の比較は付図 8.4-18 のとおりである。観測結果の溶存酸素量は計算結果と概ね一致しており、現況の溶存酸素量を再現していると判断される。



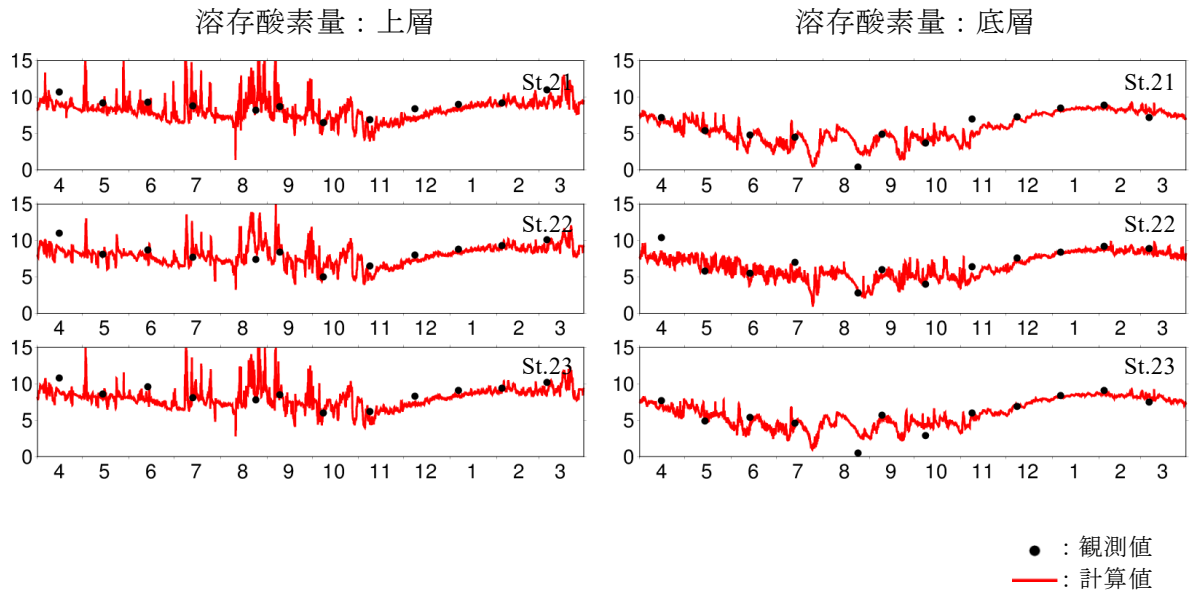
付図 8.4-18(1) 溶存酸素量の観測値と計算値の比較 (左図：上層、右図：底層)

注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は溶存酸素量 (mg/L) を表す。



付図 8.4-18(2) 溶存酸素量の観測値と計算値の比較 (左図: 上層、右図: 底層)

注: 横軸は平成 26 年度の月、縦軸は溶存酸素量 (mg/L) を表す。



付図 8.4-18(3) 溶存酸素量の観測値と計算値の比較 (左図：上層、右図：底層)
 注：横軸は平成 26 年度の月、縦軸は溶存酸素量 (mg/L) を表す。

その他水質に係る資料

付表 8.4-10(1) 化学的酸素要求量 (COD) の経年変化 (公共用水域)

(単位 : mg/L)

調査地点 年度	M-3 (愛知県)				M-4 (愛知県)				N-3* (愛知県)			
	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n
平成 24	2.0	6.9	4.5	0/24	2.1	10	4.0	1/24	1.9	5.5	3.7	0/24
平成 25	1.7	6.8	4.4	0/24	1.7	7.6	4.8	0/24	1.5	7.3	3.7	0/24
平成 26	1.5	6.5	4.0	0/24	0.8	8.8	4.2	1/24	1.1	5.3	3.7	0/24
平成 27	1.4	5.5	4.0	0/24	0.9	5.6	3.5	0/24	1.4	7.1	3.1	0/24
平成 28	1.6	6.6	4.3	0/24	1.3	8.7	4.7	1/24	1.1	6.8	3.6	0/24
環境基準	C 類型 : 8 以下				C 類型 : 8 以下				C 類型 : 8 以下			

調査地点 年度	N-4* (愛知県)				N-5* (愛知県)				N-6* (愛知県)			
	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n
平成 24	1.9	7.6	3.6	9/24	1.4	4.4	2.7	3/12	1.7	8.7	4.0	20/24
平成 25	1.5	4.3	3.7	11/24	1.7	3.9	3.4	4/12	1.7	5.9	3.6	19/24
平成 26	1.1	5.6	3.6	14/24	1.4	6.8	3.7	5/12	0.9	4.8	3.5	18/24
平成 27	0.8	3.9	2.6	6/24	1.4	4.1	3.0	3/12	0.8	4.4	2.7	11/24
平成 28	1.1	6.9	3.3	9/24	1.9	4.8	3.0	3/12	1.3	5.8	2.9	15/24
環境基準	B 類型 : 3 以下				B 類型 : 3 以下				A 類型 : 2 以下			

調査地点 年度	N-7* (愛知県)				N-8* (愛知県)				N-9* (愛知県)			
	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n
平成 24	1.3	4.9	3.0	15/24	<0.5	3.4	1.9	12/36	0.9	3.3	2.1	8/24
平成 25	1.5	4.2	3.3	16/24	0.9	2.9	2.0	17/36	0.9	3.6	2.4	10/24
平成 26	1.1	6.2	3.1	15/24	0.5	4.2	2.3	13/36	1.0	3.7	2.5	11/24
平成 27	1.2	5.0	2.8	14/24	0.7	3.4	2.1	12/36	0.8	4.1	3.0	11/24
平成 28	1.5	4.4	2.7	18/24	0.5	3.6	1.5	13/36	1.1	3.1	2.1	7/24
環境基準	A 類型 : 2 以下				A 類型 : 2 以下				A 類型 : 2 以下			

調査地点 年度	N-12 (愛知県)				N-13 (愛知県)			
	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n
平成 24	1.6	4.2	2.6	3/12	0.7	3.4	1.9	9/24
平成 25	1.3	5.4	3.2	4/12	0.8	3.2	2.6	14/24
平成 26	1.2	5.2	2.6	2/12	1.1	4.3	2.9	12/24
平成 27	0.7	6.0	2.9	3/12	0.9	3.9	2.5	12/24
平成 28	1.5	3.6	2.3	2/12	1.0	4.1	2.2	9/24
環境基準	B 類型 : 3 以下				A 類型 : 2 以下			

注 : 1. 調査地点は、図 8.4.1-2(1)に対応する。

2. 「最小」は測定データの年最小値、「最大」は測定データの年最大値を示す。

3. 「m/n」の m は環境基準値を超える検体数を示し、n は総検体数を示す。

4. *印を付した調査地点は、環境基準点を示す。

5. 化学的酸素要求量 (COD) の 75%値は、n 個の日間平均値を小さいものから順に並べた時の (0.75×n) 番目の数値である。

「あいちの環境 平成 24~28 年度公共用水域の水質等調査結果」 (愛知県 HP) より作成

付表 8.4-10(2) 化学的酸素要求量 (COD) の経年変化 (公共用水域)

(単位 : mg/L)

調査地点 年度	Y-1* (三重県)				Y-2 (三重県)				YS-3* (三重県)			
	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n
平成 24	1.8	5.0	3.8	0/24	1.8	4.9	4.2	0/12	1.0	4.8	3.3	12/36
平成 25	1.8	7.4	2.9	0/24	1.7	7.4	3.2	0/12	1.3	5.8	2.7	8/36
平成 26	1.3	5.8	3.3	0/24	1.3	5.3	4.2	0/12	1.2	5.6	3.3	9/36
平成 27	1.6	5.5	4.0	0/24	1.7	6.1	3.3	0/12	1.0	6.4	2.6	6/36
平成 28	1.6	6.1	3.3	0/24	1.6	5.5	3.2	0/12	1.2	5.5	2.8	9/36
環境基準	C 類型 : 8 以下				C 類型 : 8 以下				B 類型 : 3 以下			

調査地点 年度	YS-4* (三重県)				YS-5* (三重県)				T-1* (三重県)			
	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n
平成 24	1.0	4.7	3.1	12/36	0.7	4.6	2.9	20/36	1.2	4.8	2.9	7/24
平成 25	1.1	6.6	2.9	7/36	0.9	6.5	2.6	23/36	1.1	3.9	2.6	4/24
平成 26	1.1	6.5	3.7	12/36	0.9	5.9	3.0	19/36	1.5	4.6	2.9	5/24
平成 27	1.4	6.6	2.9	8/36	1.2	16	3.4	25/36	1.6	3.5	2.7	4/24
平成 28	1.3	6.1	3.0	7/36	0.8	5.2	2.5	17/36	1.1	4.4	2.9	4/24
環境基準	B 類型 : 3 以下				A 類型 : 2 以下				B 類型 : 3 以下			

調査地点 年度	T-2* (三重県)				T-3* (三重県)				I-4* (三重県)			
	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n
平成 24	1.4	3.4	2.9	4/24	1.3	3.6	3.0	7/24	1.2	3.6	2.3	1/12
平成 25	1.2	5.3	2.8	2/24	1.6	5.3	2.5	2/24	1.6	5.0	2.3	1/12
平成 26	1.5	4.6	2.7	4/24	1.3	3.8	2.9	5/24	1.5	3.1	2.8	1/12
平成 27	1.4	3.8	3.0	6/24	1.6	3.4	2.9	4/24	1.9	3.3	2.5	1/12
平成 28	1.2	4.1	2.7	3/24	1.4	4.2	2.8	5/24	1.0	3.2	2.0	1/12
環境基準	B 類型 : 3 以下				B 類型 : 3 以下				B 類型 : 3 以下			

調査地点 年度	I-1 (三重県)				I-2 (三重県)			
	最小	最大	75%値	m/n	最小	最大	75%値	m/n
平成 24	1.5	3.5	2.3	5/12	1.1	3.4	2.9	6/12
平成 25	1.8	4.4	2.5	5/12	1.7	4.9	2.3	7/12
平成 26	1.2	3.9	3.5	7/12	0.9	4.4	2.2	6/12
平成 27	1.6	3.0	2.8	7/12	1.4	2.6	2.1	4/12
平成 28	1.1	4.0	2.6	6/12	1.0	3.5	2.4	5/12
環境基準	A 類型 : 2 以下				A 類型 : 2 以下			

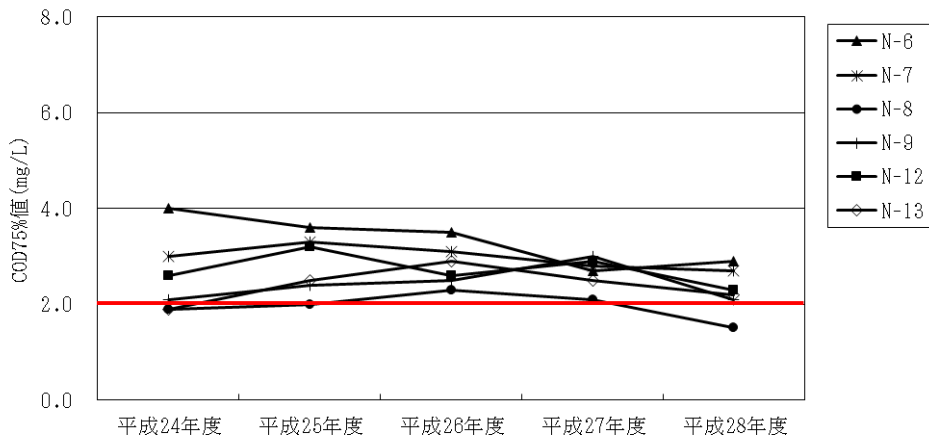
注 : 1. 調査地点は、図 8.4.1-2(1)に対応する。

- 「最小」は測定データの年最小値、「最大」は測定データの年最大値を示す。
- 「m/n」の m は環境基準値を超える検体数を示し、n は総検体数を示す。
- *印を付した調査地点は、環境基準点を示す。
- 化学的酸素要求量 (COD) の 75%値は、n 個の日間平均値を小さいものから順に並べた時の (0.75×n) 番目の数値である。
- 三重県の地点名とその略称は下表のとおりである。

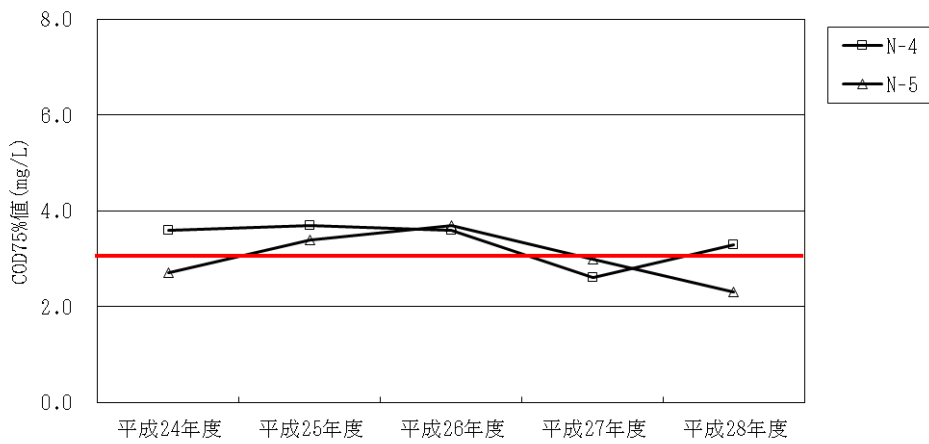
名称	略称	名称	略称
四日市港 (甲) S t 1	Y-1	津松阪地先海域 S t 2	T-2
四日市港 (甲) S t 2	Y-2	津松阪地先海域 S t 3	T-3
四日市鈴鹿 (甲) S t 3	YS-3	伊勢地先海域 S t 4	I-4
四日市鈴鹿 (甲) S t 4	YS-4	伊勢湾 (二) S t 1	I-1
四日市鈴鹿 (乙) S t 5	YS-5	伊勢湾 (二) S t 2	I-2
津松阪地先海域 S t 1	T-1		

〔「三重の環境 河川、海域 (公共用水域) 及び地下水調査結果」 (三重県 HP) より作成〕

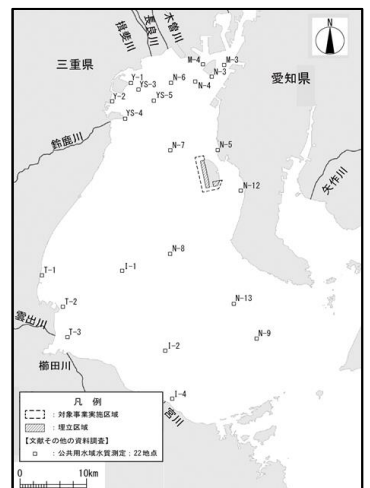
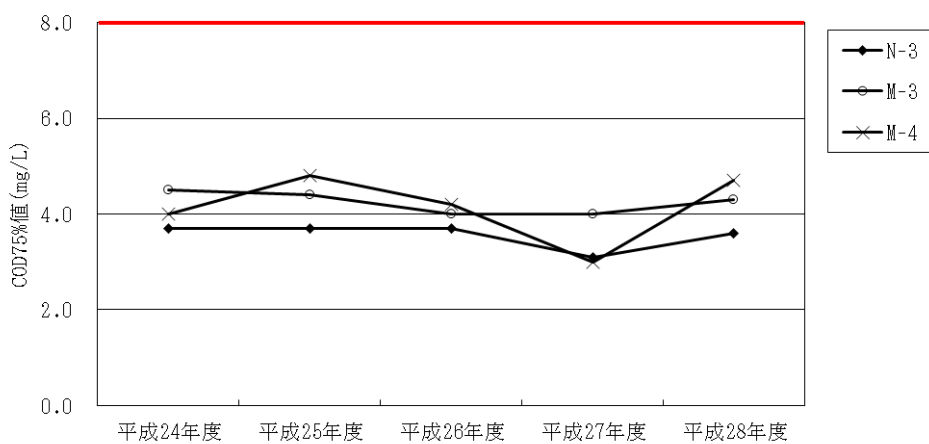
愛知県 A 類型



愛知県 B 類型



愛知県 C 類型

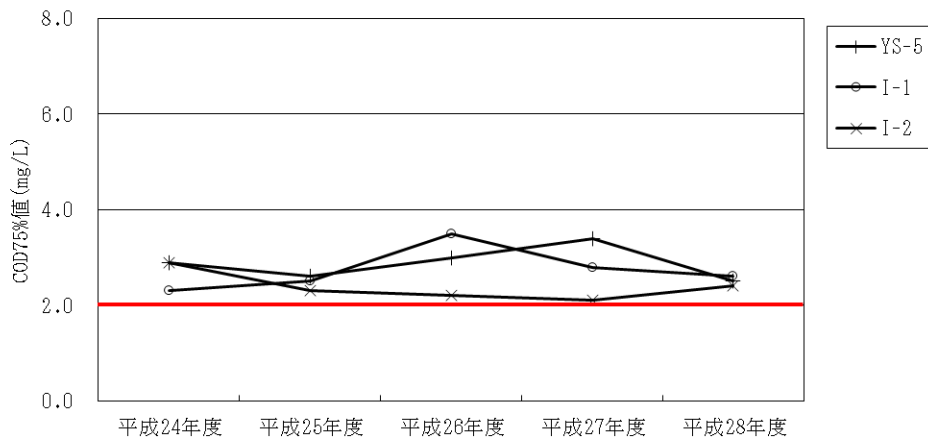


注：赤線は環境基準値を示す。

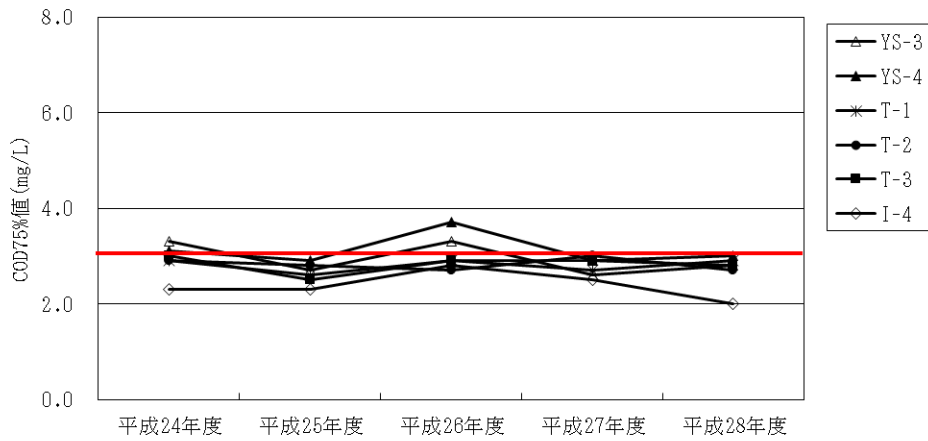
付図 8.4-19(1) 地点別 COD の経年変化（全層、年間の 75%値）

「あいちの環境 平成 24～28 年度公共用水域の水質等調査結果」（愛知県 HP）より作成

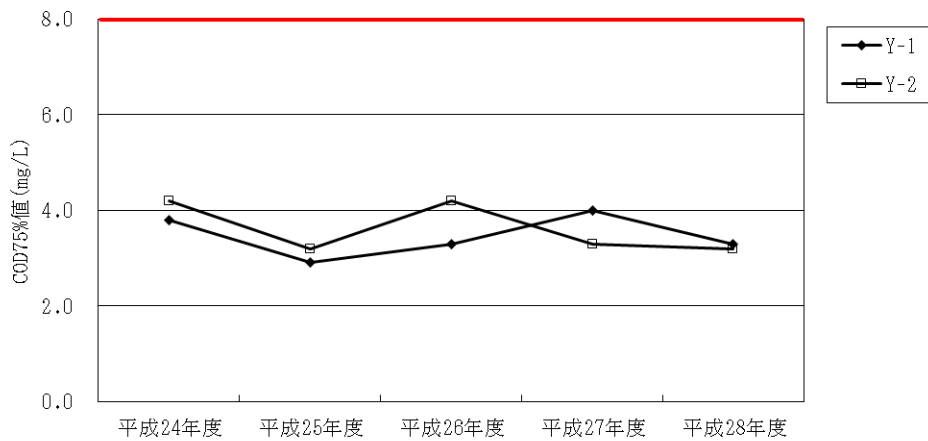
三重県 A 類型



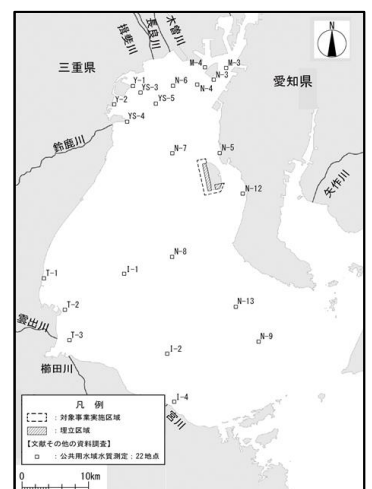
三重県 B 類型



三重県 C 類型



三重県地点名称	略称
四日市港 (甲) S t 1	Y-1
四日市港 (甲) S t 2	Y-2
四日市鈴鹿 (甲) S t 3	YS-3
四日市鈴鹿 (甲) S t 4	YS-4
四日市鈴鹿 (乙) S t 5	YS-5
津松阪地先海域 S t 1	T-1
津松阪地先海域 S t 2	T-2
津松阪地先海域 S t 3	T-3
伊勢地先海域 S t 4	I-4
伊勢湾 (一) S t 1	I-1
伊勢湾 (二) S t 2	I-2



注：赤線は環境基準値を示す。

付図 8.4-19(2) 地点別 COD の経年変化 (全層、年間の 75%値)

「三重の環境 河川、海域 (公共用水域) 及び地下水調査結果」 (三重県 HP) より作成

付表 8.4-11(1) 全窒素 (T-N) の経年変化 (公共用水域)

(単位 : mg/L)

調査地点 年度	M-3 (愛知県)				M-4 (愛知県)				N-3* (愛知県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.38	1.4	0.85	4/12	0.34	1.3	0.67	2/12	0.33	1.0	0.60	0/12
平成 25	0.53	1.1	0.71	1/12	0.39	0.80	0.55	0/12	0.36	0.69	0.52	0/12
平成 26	0.55	1.1	0.83	1/12	0.37	1.6	0.64	1/12	0.33	0.76	0.53	0/12
平成 27	0.48	1.3	0.90	3/12	0.30	0.89	0.62	0/12	0.34	1.0	0.60	0/12
平成 28	0.41	1.2	0.77	2/12	0.26	0.90	0.60	0/12	0.35	0.88	0.60	0/12
環境基準	IV類型 : 1.0 以下				IV類型 : 1.0 以下				IV類型 : 1.0 以下			

調査地点 年度	N-4* (愛知県)				N-5* (愛知県)				N-6* (愛知県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.28	1.2	0.48	1/12	0.20	0.45	0.32	5/12	0.24	1.0	0.47	3/12
平成 25	0.33	0.55	0.44	0/12	0.12	0.40	0.25	1/12	0.29	0.71	0.41	1/12
平成 26	0.30	0.70	0.43	0/12	0.21	0.43	0.30	5/12	0.24	0.48	0.35	0/12
平成 27	0.23	0.81	0.45	0/12	0.26	0.73	0.40	9/12	0.24	0.54	0.38	0/12
平成 28	0.26	0.61	0.37	0/12	0.23	0.41	0.32	8/12	0.21	0.51	0.34	0/12
環境基準	IV類型 : 1.0 以下				II類型 : 0.3 以下				III類型 : 0.6 以下			

調査地点 年度	N-7* (愛知県)				N-8* (愛知県)				N-9* (愛知県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.17	0.70	0.36	6/12	0.16	0.87	0.29	12/24	0.19	0.48	0.34	7/12
平成 25	0.15	0.33	0.24	1/12	0.14	0.40	0.22	2/24	0.16	0.52	0.23	2/12
平成 26	0.17	0.53	0.33	5/12	0.15	0.50	0.25	11/24	0.13	0.35	0.23	2/12
平成 27	0.20	0.53	0.37	8/12	0.17	0.57	0.28	14/24	0.16	0.42	0.26	3/12
平成 28	0.20	0.43	0.28	3/12	0.17	0.41	0.26	2/12	0.16	0.35	0.26	3/12
環境基準	II類型 : 0.3 以下				II類型 : 0.3 以下				II類型 : 0.3 以下			

調査地点 年度	N-12 (愛知県)				N-13* (愛知県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.21	0.46	0.32	6/12	0.20	0.47	0.29	4/12
平成 25	0.11	0.29	0.24	0/12	0.09	0.26	0.18	0/12
平成 26	0.20	0.43	0.28	3/12	0.16	0.33	0.23	3/12
平成 27	0.20	0.48	0.32	6/12	0.18	0.48	0.28	3/12
平成 28	0.18	0.47	0.30	7/12	0.16	0.36	0.25	3/12
環境基準	II類型 : 0.3 以下				II類型 : 0.3 以下			

注 : 1. 調査地点は、図 8.4.1-2(1)に対応する。

2. 「平均」は上層の年平均値を示す。

3. 「最小」は測定データの年最小値、「最大」は測定データの年最大値を示す。

4. 「m/n」の m は環境基準値を超える検体数を示し、n は総検体数を示す。

5. *印を付した調査地点は、環境基準点を示す。

「あいちの環境 平成 24~28 年度公共用水域の水質等調査結果」 (愛知県 HP) より作成

付表 8.4-11(2) 全窒素 (T-N) の経年変化 (公共用水域)

(単位 : mg/L)

調査地点 年度	Y-1* (三重県)				Y-2 (三重県)				YS-3* (三重県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.10	0.58	0.33	0/12	0.17	0.77	0.46	0/12	0.25	0.59	0.35	0/12
平成 25	0.26	0.47	0.34	0/12	0.3	0.81	0.47	0/12	0.23	0.55	0.35	0/12
平成 26	0.26	0.57	0.40	0/12	0.26	1.3	0.57	1/12	0.17	0.59	0.43	0/12
平成 27	0.18	0.53	0.32	0/12	0.28	1.2	0.59	1/12	0.22	0.58	0.37	0/12
平成 28	0.23	0.79	0.41	0/12	0.34	0.69	0.47	0/12	0.22	0.76	0.38	1/12
環境基準	IV類型 : 1.0 以下				IV類型 : 1.0 以下				III類型 : 0.6 以下			

調査地点 年度	YS-4* (三重県)				YS-5* (三重県)				T-1* (三重県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.16	0.60	0.34	0/12	0.16	0.61	0.34	1/12	0.13	0.41	0.23	3/12
平成 25	0.17	0.57	0.35	1/12	0.20	0.59	0.41	0/12	0.17	0.60	0.27	3/12
平成 26	0.30	0.84	0.46	2/12	0.26	0.61	0.45	1/12	0.17	0.66	0.32	4/12
平成 27	0.15	0.65	0.36	1/12	0.21	2.6	0.54	1/12	0.16	0.34	0.24	2/12
平成 28	0.17	0.96	0.44	2/12	0.21	0.60	0.40	0/24	0.14	1.0	0.31	4/12
環境基準	III類型 : 0.6 以下				III類型 : 0.6 以下				II類型 : 0.3 以下			

調査地点 年度	T-2* (三重県)				T-3* (三重県)				I-4* (三重県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.13	0.44	0.27	4/12	0.11	0.46	0.25	3/12	0.14	0.41	0.27	4/12
平成 25	0.14	0.34	0.21	1/14	0.13	0.62	0.27	3/14	0.15	0.41	0.24	2/12
平成 26	0.15	0.52	0.25	2/12	0.15	0.63	0.29	4/12	0.16	0.42	0.25	2/12
平成 27	0.14	0.42	0.22	2/12	0.17	0.54	0.27	4/12	0.17	0.73	0.27	3/12
平成 28	0.15	0.55	0.25	2/12	0.17	0.93	0.33	4/12	0.15	0.44	0.24	1/12
環境基準	II類型 : 0.3 以下				II類型 : 0.3 以下				II類型 : 0.3 以下			

調査地点 年度	I-1 (三重県)				I-2 (三重県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.08	0.38	0.21	2/12	0.05	0.46	0.26	4/12
平成 25	0.12	0.29	0.19	0/12	0.15	0.26	0.19	0/12
平成 26	0.15	0.57	0.25	2/12	0.13	0.36	0.20	1/12
平成 27	0.12	0.41	0.19	1/12	0.12	0.24	0.16	0/12
平成 28	0.14	0.41	0.21	1/12	0.15	0.32	0.19	1/12
環境基準	II類型 : 0.3 以下				II類型 : 0.3 以下			

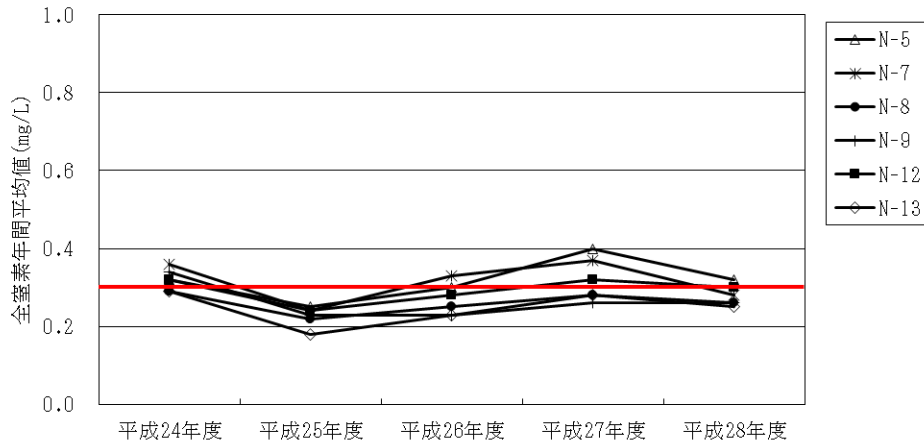
注 : 1. 調査地点は、図 8.4.1-2(1)に対応する。

- 「平均」は上層の年平均値を示す。
- 「最小」は測定データの年最小値、「最大」は測定データの年最大値を示す。
- 「m/n」の m は環境基準値を超える検体数を示し、n は総検体数を示す。
- *印を付した調査地点は、環境基準点を示す。
- 三重県の地点名とその略称は下表のとおりである。

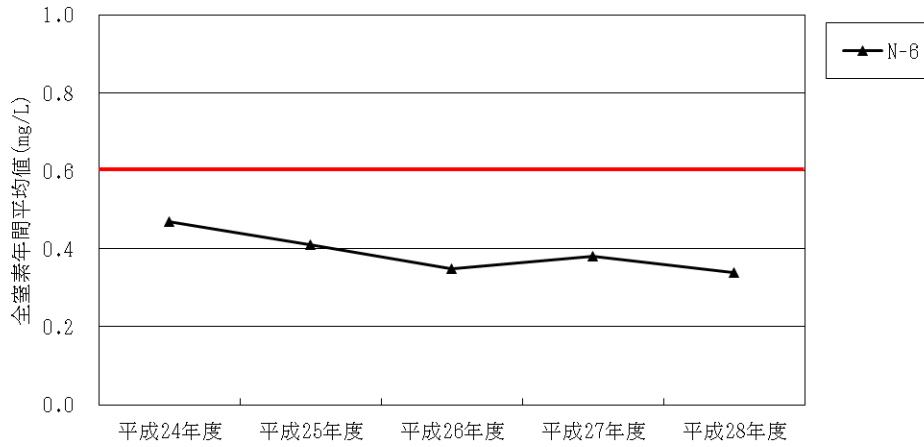
名称	略称	名称	略称
四日市港 (甲) S t 1	Y-1	津松阪地先海域 S t 2	T-2
四日市港 (甲) S t 2	Y-2	津松阪地先海域 S t 3	T-3
四日市鈴鹿 (甲) S t 3	YS-3	伊勢地先海域 S t 4	I-4
四日市鈴鹿 (甲) S t 4	YS-4	伊勢湾 (二) S t 1	I-1
四日市鈴鹿 (乙) S t 5	YS-5	伊勢湾 (二) S t 2	I-2
津松阪地先海域 S t 1	T-1		

「三重の環境 河川、海域 (公共用水域) 及び地下水調査結果」 (三重県 HP) より作成

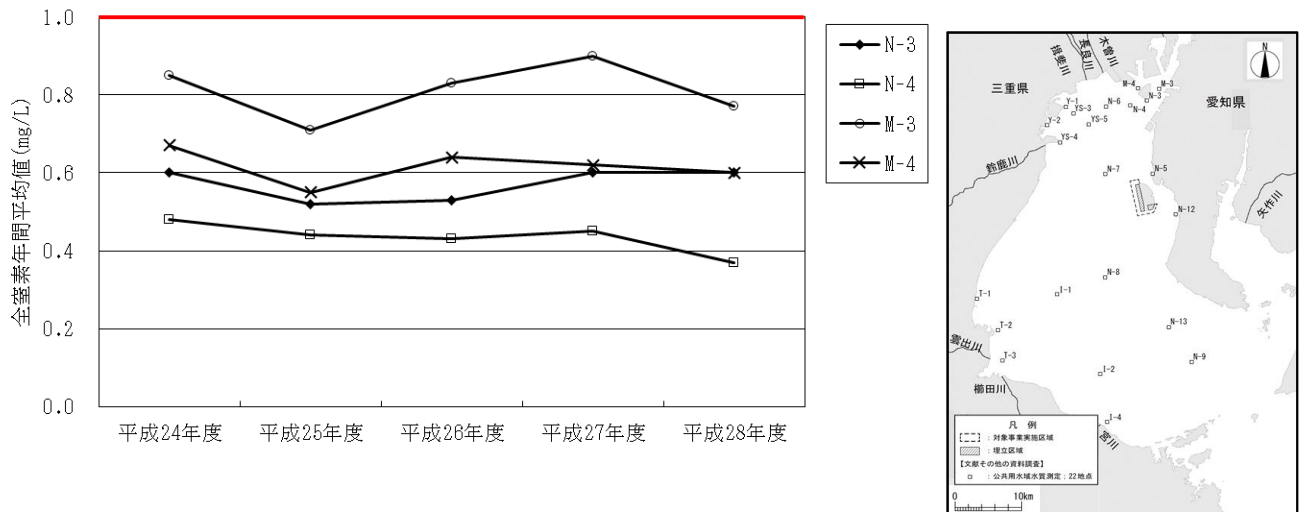
愛知県 II 類型



愛知県 III 類型



愛知県 IV 類型

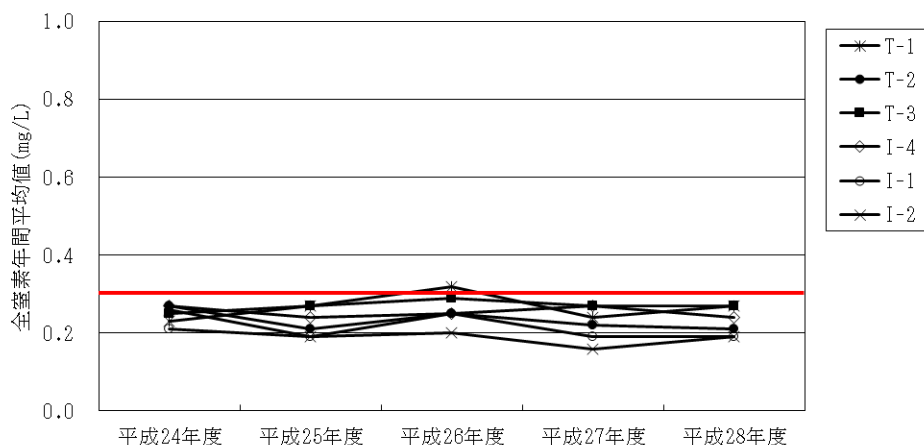


注：赤線は環境基準値を示す。

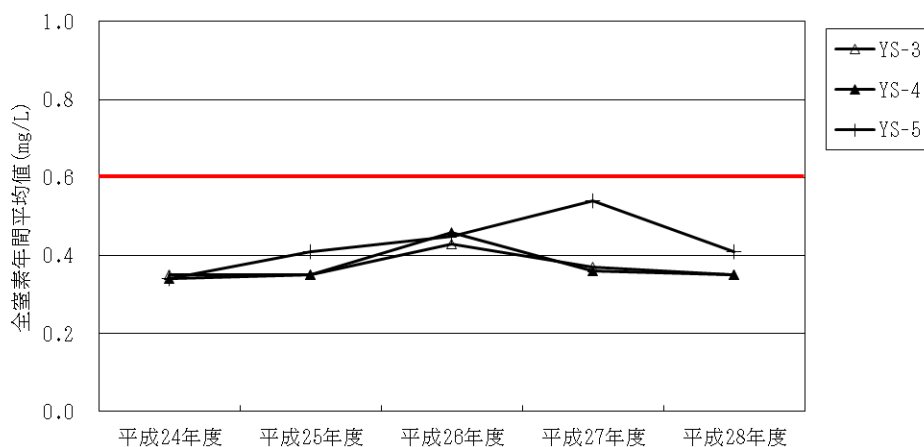
付図 8.4-20(1) 地点別全窒素の経年変化（上層年平均値）

「あいちの環境 平成 24～28 年度公共用水域の水質等調査結果」（愛知県 HP）より作成

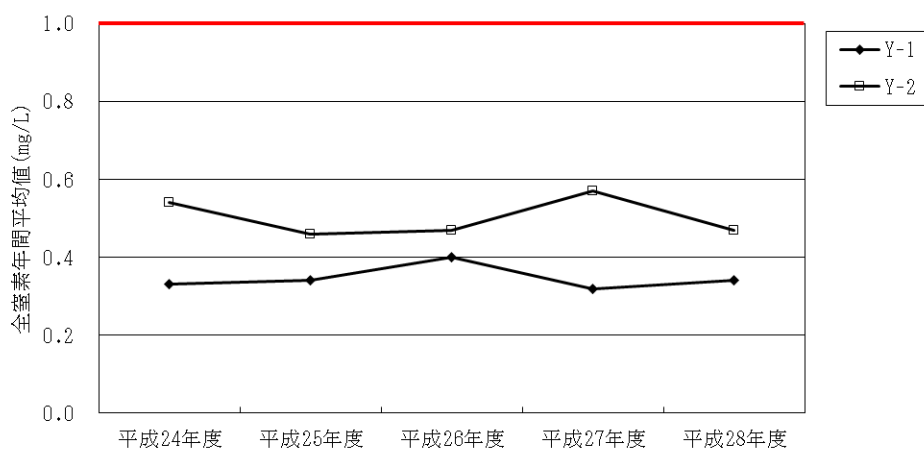
三重県 II 類型



三重県 III 類型



三重県 IV 類型



三重県地点名称	略称
四日市港 (甲) S t 1	Y-1
四日市港 (甲) S t 2	Y-2
四日市鈴鹿 (甲) S t 3	YS-3
四日市鈴鹿 (甲) S t 4	YS-4
四日市鈴鹿 (乙) S t 5	YS-5
津松阪地先海域 S t 1	T-1
津松阪地先海域 S t 2	T-2
津松阪地先海域 S t 3	T-3
津松阪地先海域 S t 4	T-4
伊勢湾 (二) S t 1	I-1
伊勢湾 (二) S t 2	I-2



注：赤線は環境基準値を示す。

付図 8.4-20(2) 地点別全窒素の経年変化 (上層年平均値)

「三重の環境 河川、海域 (公共用水域) 及び地下水調査結果」 (三重県 HP) より作成

付表 8.4-12(1) 全磷 (T-P) の経年変化 (公共用水域)

(単位 : mg/L)

調査地点 年度	M-3 (愛知県)				M-4 (愛知県)				N-3* (愛知県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.043	0.15	0.088	5/12	0.031	0.18	0.082	5/12	0.026	0.13	0.065	2/12
平成 25	0.039	0.15	0.072	2/12	0.037	0.11	0.061	2/12	0.026	0.084	0.053	0/12
平成 26	0.051	0.18	0.084	3/12	0.047	0.15	0.072	1/12	0.036	0.079	0.055	0/12
平成 27	0.042	0.14	0.091	7/12	0.031	0.13	0.066	2/12	0.029	0.10	0.066	1/12
平成 28	0.037	0.19	0.089	5/12	0.029	0.18	0.079	2/12	0.038	0.13	0.073	3/12
環境基準	IV 類型 : 0.09 以下				IV 類型 : 0.09 以下				IV 類型 : 0.09 以下			

調査地点 年度	N-4* (愛知県)				N-5* (愛知県)				N-6* (愛知県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.023	0.11	0.056	1/12	0.018	0.10	0.043	5/12	0.018	0.090	0.053	6/12
平成 25	0.022	0.073	0.044	0/12	0.017	0.045	0.029	3/12	0.018	0.091	0.042	3/12
平成 26	0.033	0.072	0.049	0/12	0.010	0.042	0.027	5/12	0.027	0.066	0.043	4/12
平成 27	0.025	0.086	0.048	0/12	0.014	0.063	0.035	9/12	0.024	0.074	0.044	2/12
平成 28	0.026	0.075	0.048	0/12	0.017	0.055	0.033	7/12	0.022	0.076	0.050	5/12
環境基準	IV 類型 : 0.09 以下				II 類型 : 0.03 以下				III 類型 : 0.05 以下			

調査地点 年度	N-7* (愛知県)				N-8* (愛知県)				N-9* (愛知県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.011	0.14	0.045	6/12	0.015	0.11	0.034	13/24	0.014	0.11	0.030	3/12
平成 25	0.016	0.040	0.025	2/12	0.011	0.079	0.021	8/24	0.012	0.026	0.019	0/12
平成 26	0.007	0.047	0.028	5/12	0.005	0.18	0.022	11/24	0.007	0.084	0.026	2/12
平成 27	0.019	0.062	0.032	4/12	0.011	0.058	0.024	11/24	0.015	0.032	0.022	1/12
平成 28	0.011	0.057	0.027	5/12	0.010	0.043	0.021	2/12	0.010	0.026	0.016	2/12
環境基準	II 類型 : 0.03 以下				II 類型 : 0.03 以下				II 類型 : 0.03 以下			

調査地点 年度	N-12 (愛知県)				N-13* (愛知県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.022	0.085	0.039	6/12	0.016	0.10	0.031	3/12
平成 25	0.013	0.049	0.028	5/12	0.012	0.026	0.018	0/12
平成 26	0.011	0.042	0.025	4/12	0.010	0.028	0.018	0/12
平成 27	0.017	0.056	0.033	6/12	0.010	0.033	0.022	1/12
平成 28	0.013	0.053	0.028	4/12	0.007	0.034	0.019	2/12
環境基準	II 類型 : 0.03 以下				II 類型 : 0.03 以下			

注 : 1. 調査地点は、図 8.4.1-2(1)に対応する。

2. 「平均」は上層の年平均値を示す。

3. 「最小」は測定データの年最小値、「最大」は測定データの年最大値を示す。

4. 「m/n」の m は環境基準値を超える検体数を示し、n は総検体数を示す。

5. *印を付した調査地点は、環境基準点を示す。

〔「あいちの環境 平成 24~28 年度公共用水域の水質等調査結果」 (愛知県 HP) より作成〕

付表 8.4-12(2) 全磷 (T-P) の経年変化 (公共用水域)

(単位 : mg/L)

調査地点 年度	Y-1* (三重県)				Y-2 (三重県)				YS-3* (三重県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.013	0.095	0.043	1/12	0.019	0.096	0.050	1/12	0.017	0.087	0.053	6/12
平成 25	0.024	0.060	0.040	0/12	0.028	0.091	0.047	1/12	0.019	0.064	0.038	2/12
平成 26	0.033	0.098	0.055	1/12	0.027	0.14	0.062	1/12	0.021	0.090	0.048	4/12
平成 27	0.023	0.075	0.053	0/12	0.031	0.087	0.060	0/12	0.028	0.095	0.054	7/12
平成 28	0.025	0.090	0.055	0/12	0.034	0.089	0.054	0/12	0.024	0.079	0.049	6/12
環境基準	IV類型 : 0.09 以下				IV類型 : 0.09 以下				III類型 : 0.05 以下			

調査地点 年度	YS-4* (三重県)				YS-5* (三重県)				T-1* (三重県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.019	0.068	0.042	5/12	0.022	0.10	0.052	6/12	0.007	0.068	0.032	6/12
平成 25	0.012	0.064	0.038	2/12	0.014	0.068	0.042	4/12	0.015	0.049	0.029	5/12
平成 26	0.024	0.063	0.045	5/12	0.024	0.10	0.048	5/12	0.016	0.070	0.041	7/12
平成 27	0.018	0.088	0.046	4/12	0.028	0.45	0.082	7/12	0.021	0.051	0.036	8/12
平成 28	0.018	0.073	0.045	5/12	0.027	0.081	0.049	6/12	0.017	0.11	0.041	5/12
環境基準	III類型 : 0.05 以下				III類型 : 0.05 以下				II類型 : 0.03 以下			

調査地点 年度	T-2* (三重県)				T-3* (三重県)				I-4* (三重県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.013	0.050	0.034	7/12	0.013	0.056	0.034	6/12	0.010	0.11	0.042	9/12
平成 25	0.012	0.041	0.025	3/12	0.012	0.059	0.026	2/12	0.014	0.039	0.026	3/12
平成 26	0.015	0.047	0.030	6/12	0.013	0.078	0.032	4/12	0.016	0.044	0.029	5/12
平成 27	0.019	0.047	0.031	6/12	0.025	0.058	0.038	8/12	0.019	0.073	0.035	8/12
平成 28	0.014	0.047	0.028	5/12	0.018	0.088	0.041	7/12	0.019	0.038	0.027	3/12
環境基準	II類型 : 0.03 以下				II類型 : 0.03 以下				II類型 : 0.03 以下			

調査地点 年度	I-1 (三重県)				I-2 (三重県)			
	最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
平成 24	0.015	0.070	0.034	7/12	0.015	0.074	0.038	8/12
平成 25	0.009	0.042	0.022	2/12	0.013	0.053	0.025	4/12
平成 26	0.014	0.077	0.029	4/12	0.012	0.037	0.024	3/12
平成 27	0.016	0.047	0.028	4/12	0.016	0.044	0.025	3/12
平成 28	0.014	0.038	0.026	3/12	0.015	0.042	0.023	2/12
環境基準	II類型 : 0.03 以下				II類型 : 0.03 以下			

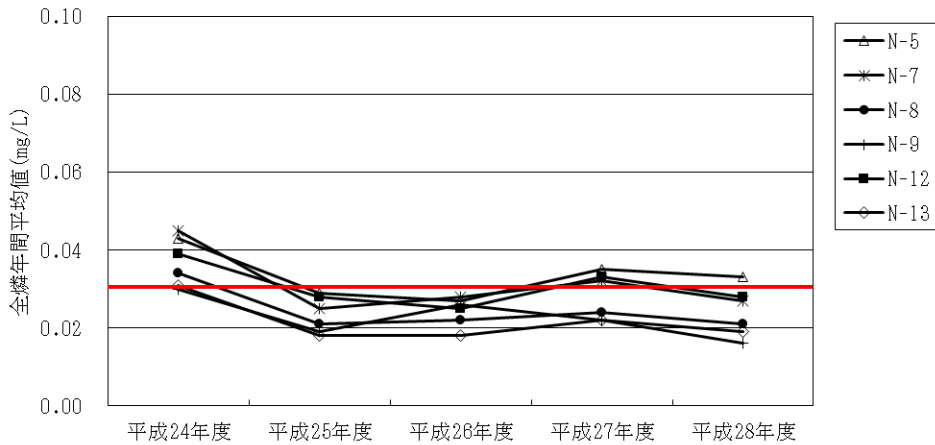
注 : 1. 調査地点は、図 8.4.1-2(1)に対応する。

- 「平均」は上層の年平均値を示す。
- 「最小」は測定データの年最小値、「最大」は測定データの年最大値を示す。
- 「m/n」の m は環境基準値を超える検体数を示し、n は総検体数を示す。
- *印を付した調査地点は、環境基準点を示す。
- 三重県の地点名とその略称は下表のとおりである。

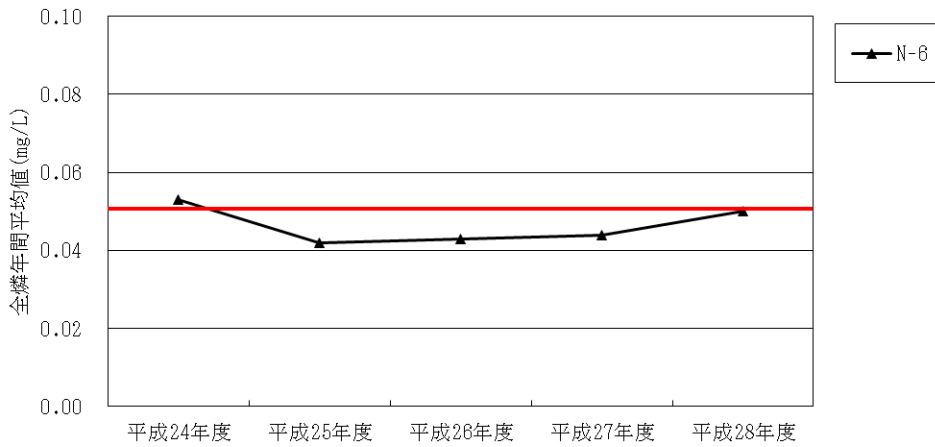
名称	略称	名称	略称
四日市港 (甲) S t 1	Y-1	津松阪地先海域 S t 2	T-2
四日市港 (甲) S t 2	Y-2	津松阪地先海域 S t 3	T-3
四日市鈴鹿 (甲) S t 3	YS-3	伊勢地先海域 S t 4	I-4
四日市鈴鹿 (甲) S t 4	YS-4	伊勢湾 (二) S t 1	I-1
四日市鈴鹿 (乙) S t 5	YS-5	伊勢湾 (二) S t 2	I-2
津松阪地先海域 S t 1	T-1		

〔「三重の環境 河川、海域 (公共用水域) 及び地下水調査結果」 (三重県 HP) より作成〕

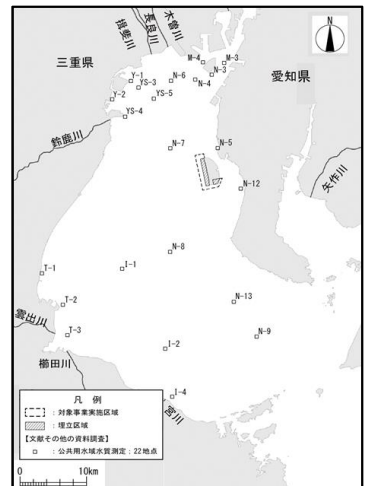
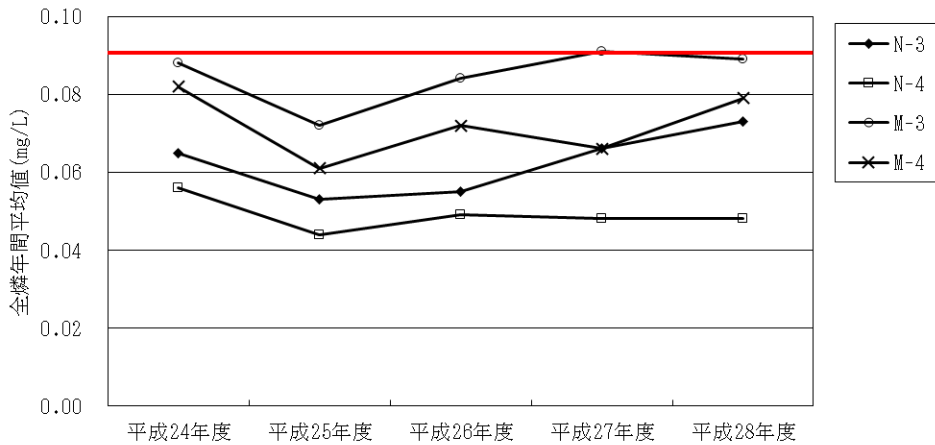
愛知県 II 類型



愛知県 III 類型



愛知県 IV 類型

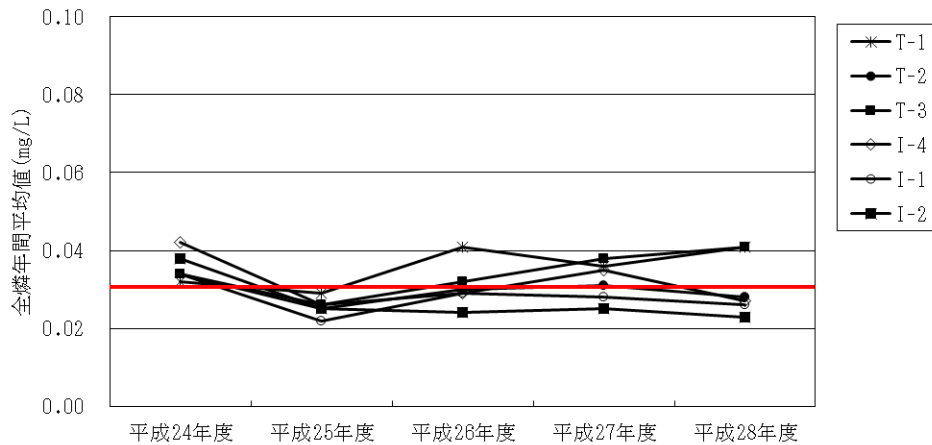


注：赤線は環境基準値を示す。

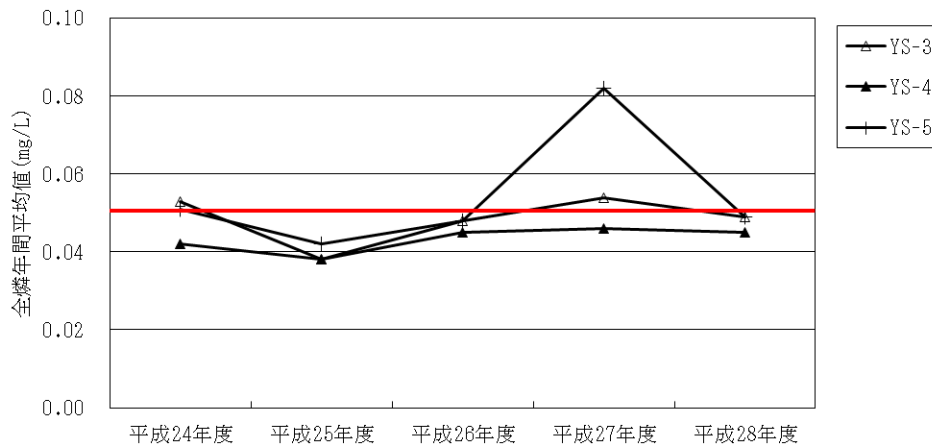
付図 8.4-21(1) 地点別全燐の経年変化（上層年平均値）

「あいちの環境 平成 24～28 年度公共用水域の水質等調査結果」（愛知県 HP）より作成

三重県 II 類型

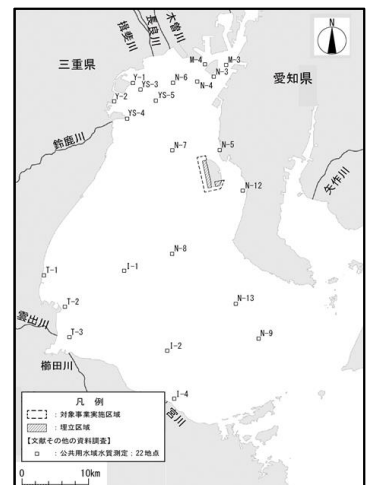
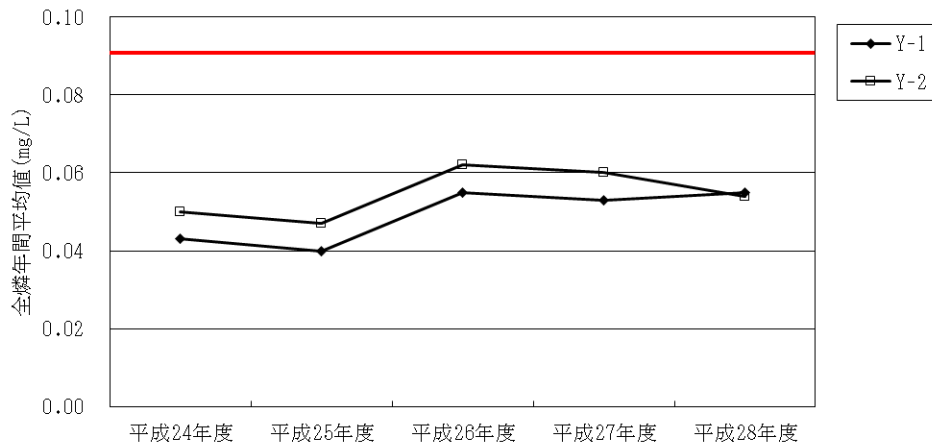


三重県 III 類型



三重県地点名称	略称
四日市港 (甲) S t 1	Y-1
四日市港 (甲) S t 2	Y-2
四日市鈴鹿 (甲) S t 3	YS-3
四日市鈴鹿 (甲) S t 4	YS-4
四日市鈴鹿 (乙) S t 5	YS-5
津松阪地先海域 S t 1	T-1
津松阪地先海域 S t 2	T-2
津松阪地先海域 S t 3	T-3
伊勢地先海域 S t 4	I-4
伊勢湾 (二) S t 1	I-1
伊勢湾 (二) S t 2	I-2

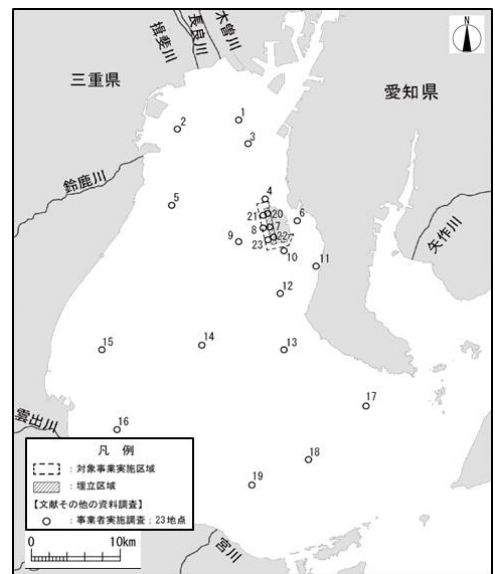
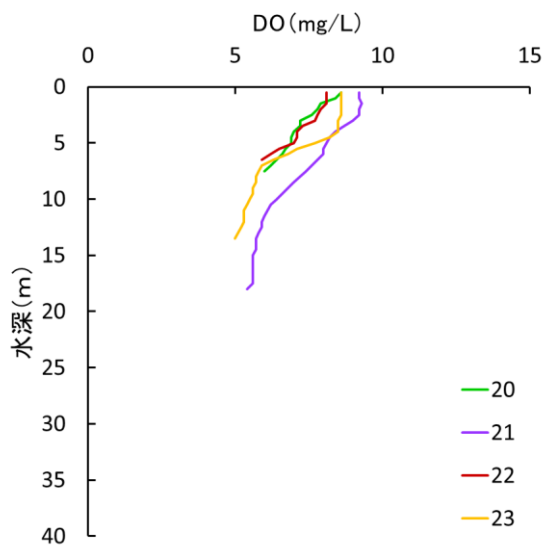
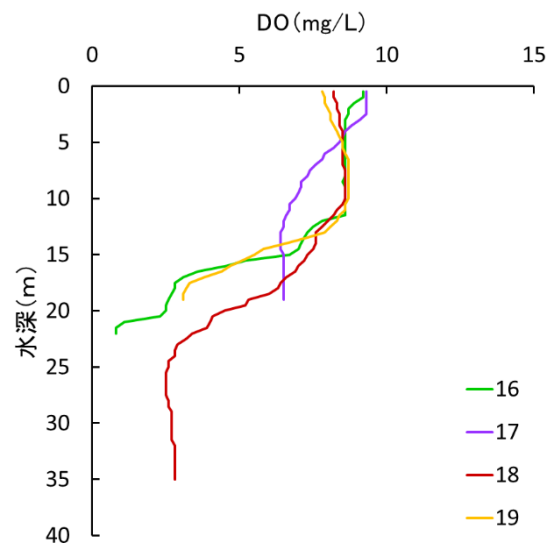
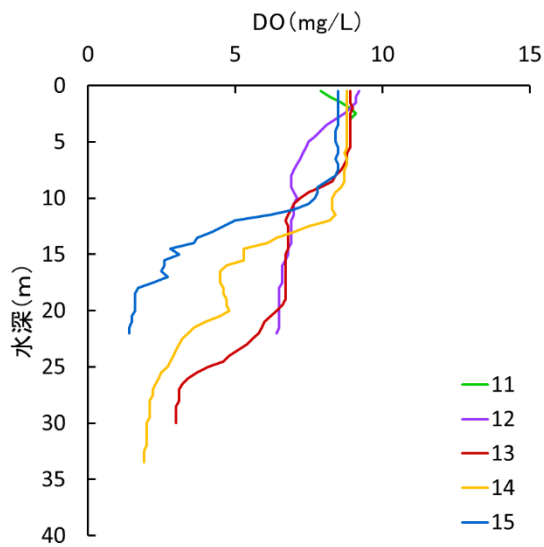
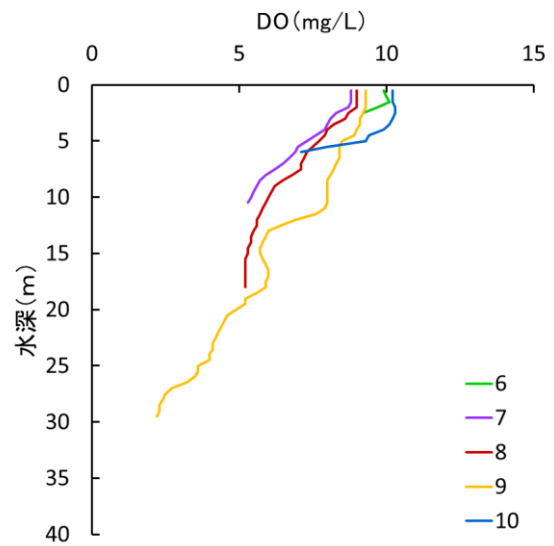
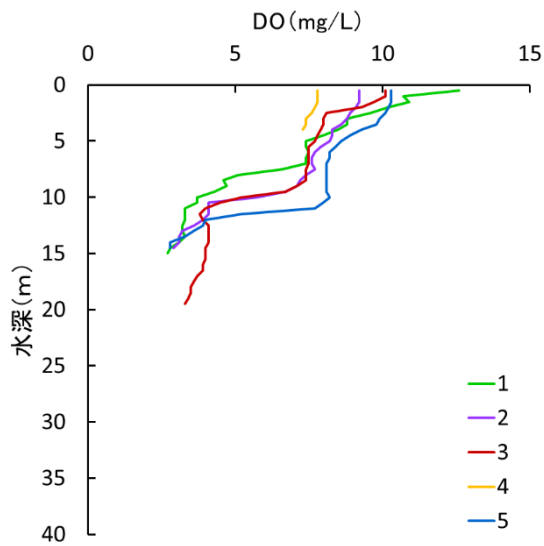
三重県 IV 類型



注：赤線は環境基準値を示す。

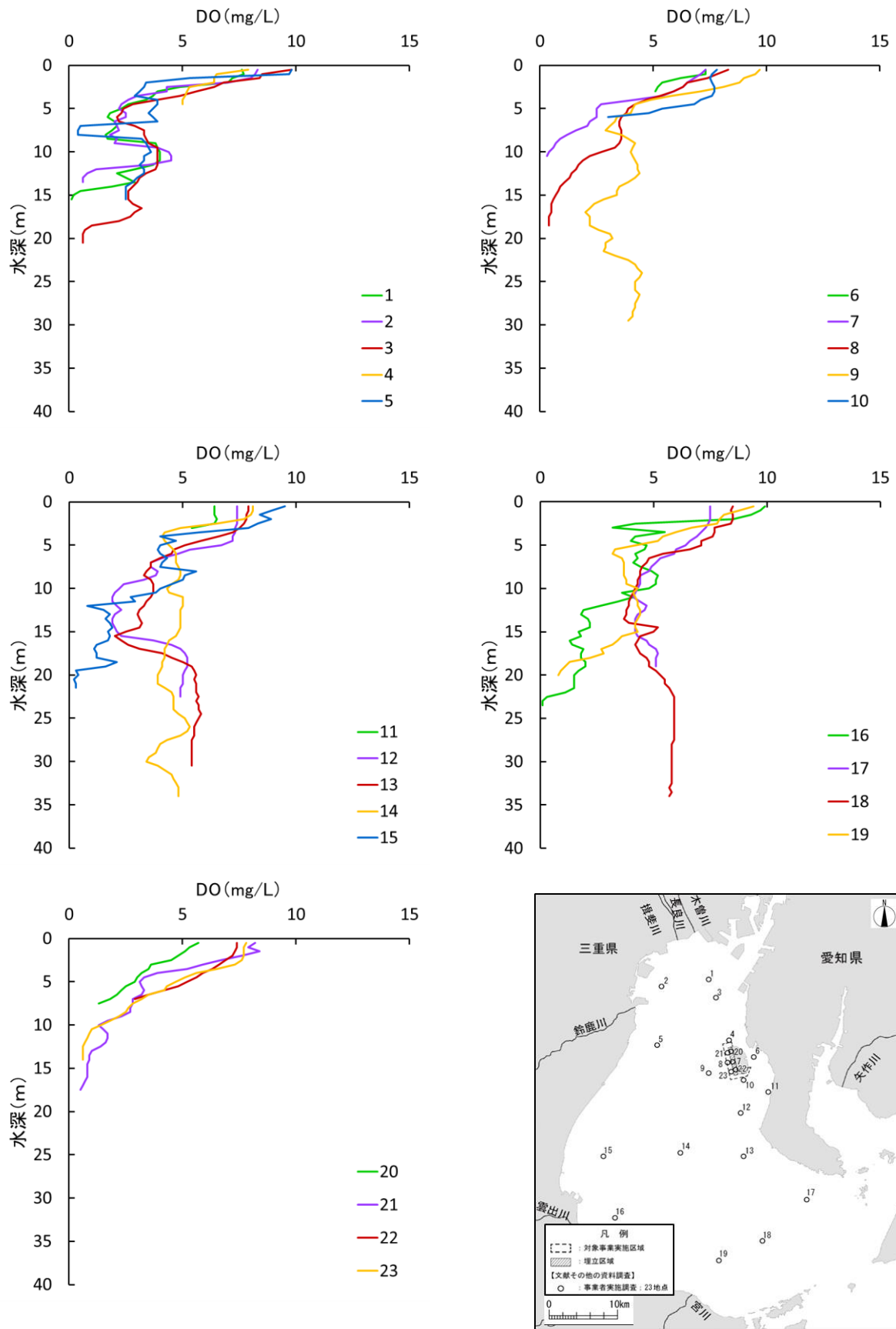
付図 8.4-21 (2) 地点別全燐の経年変化 (上層年平均値)

「三重の環境 河川、海域 (公共用水域) 及び地下水調査結果」 (三重県 HP) より作成



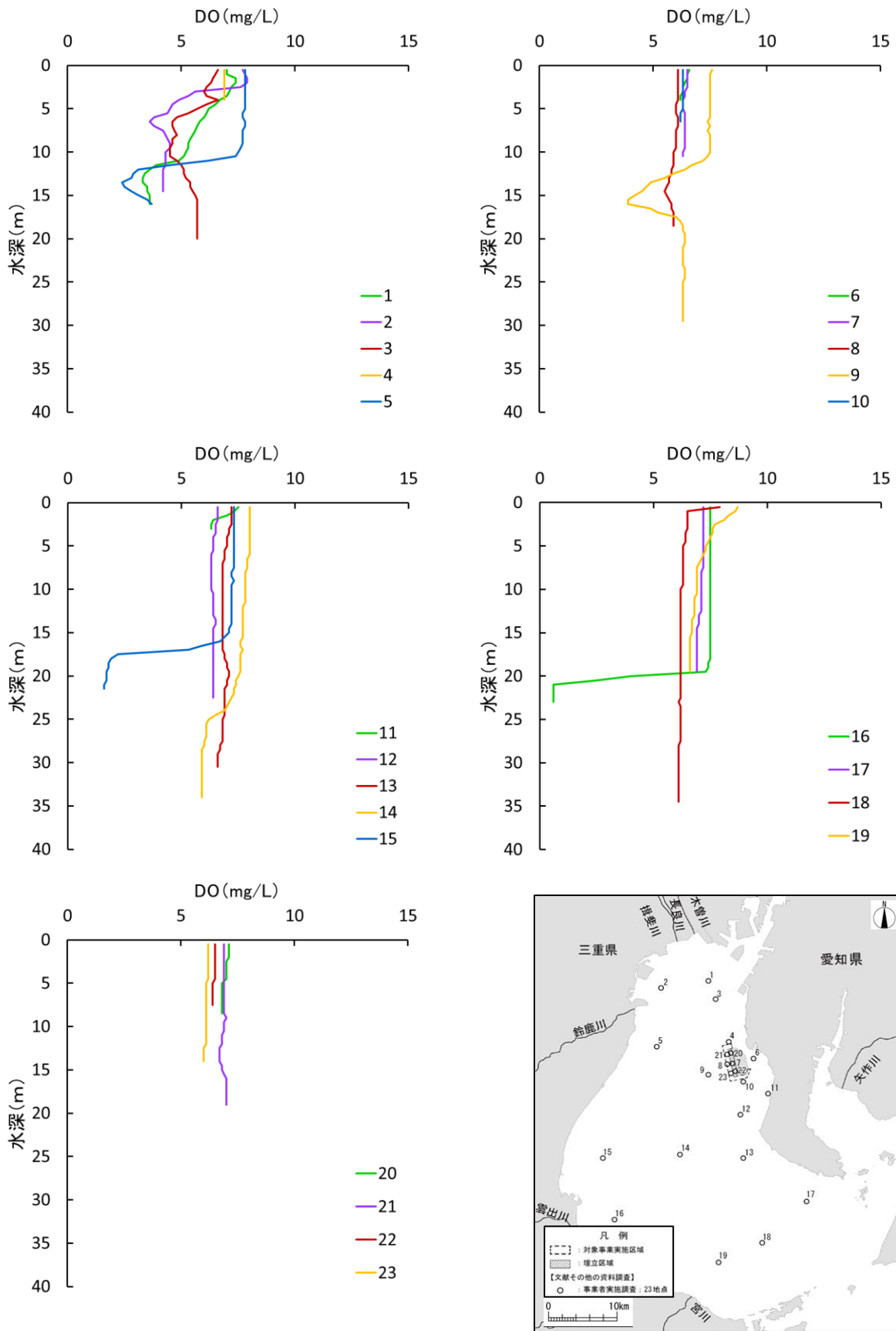
付図 8.4-22(1) 溶存酸素の鉛直分布（事業者実施調査、平成 26 年 5 月）

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成〕



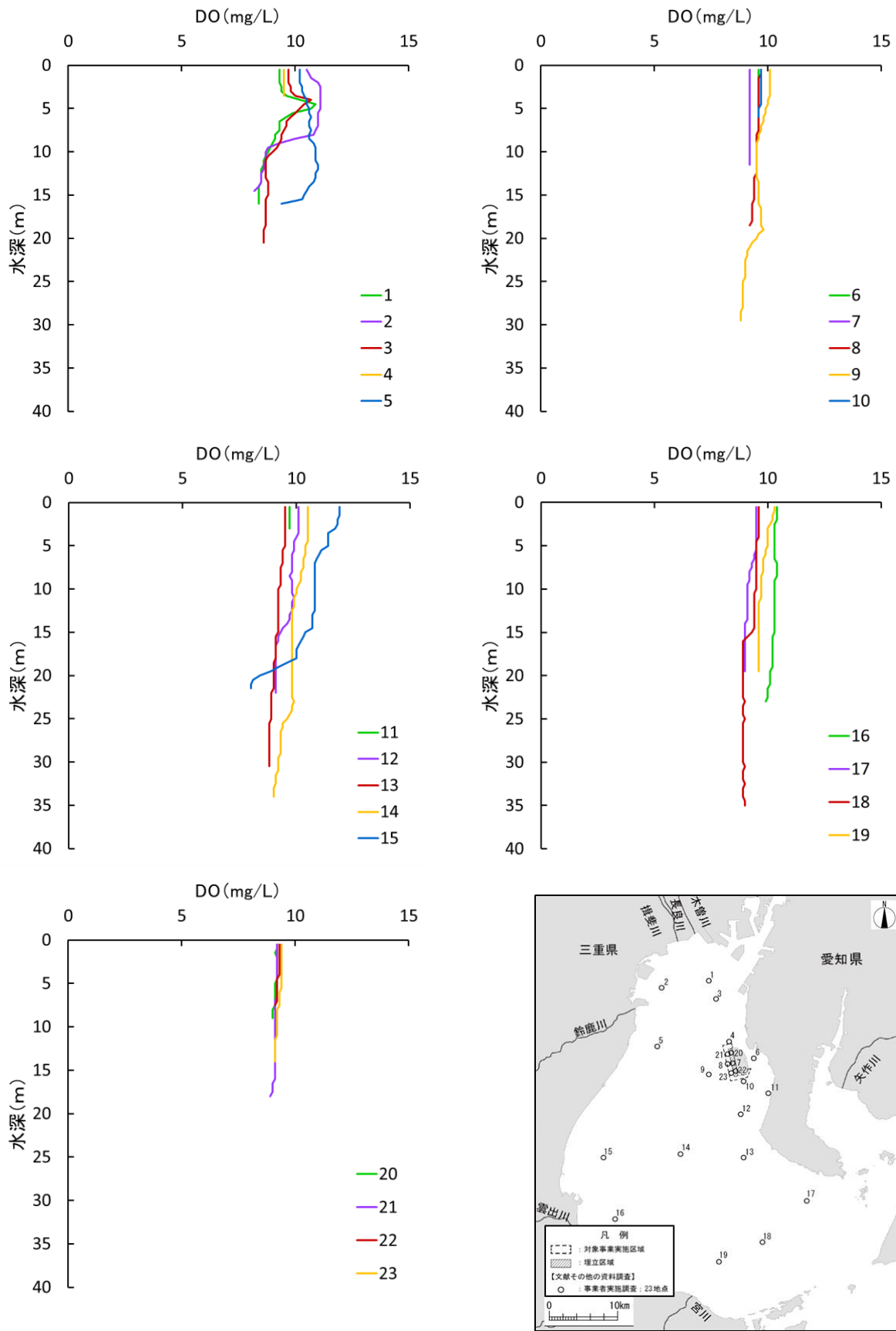
付図 8.4-22 (2) 溶存酸素の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 26 年 8 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



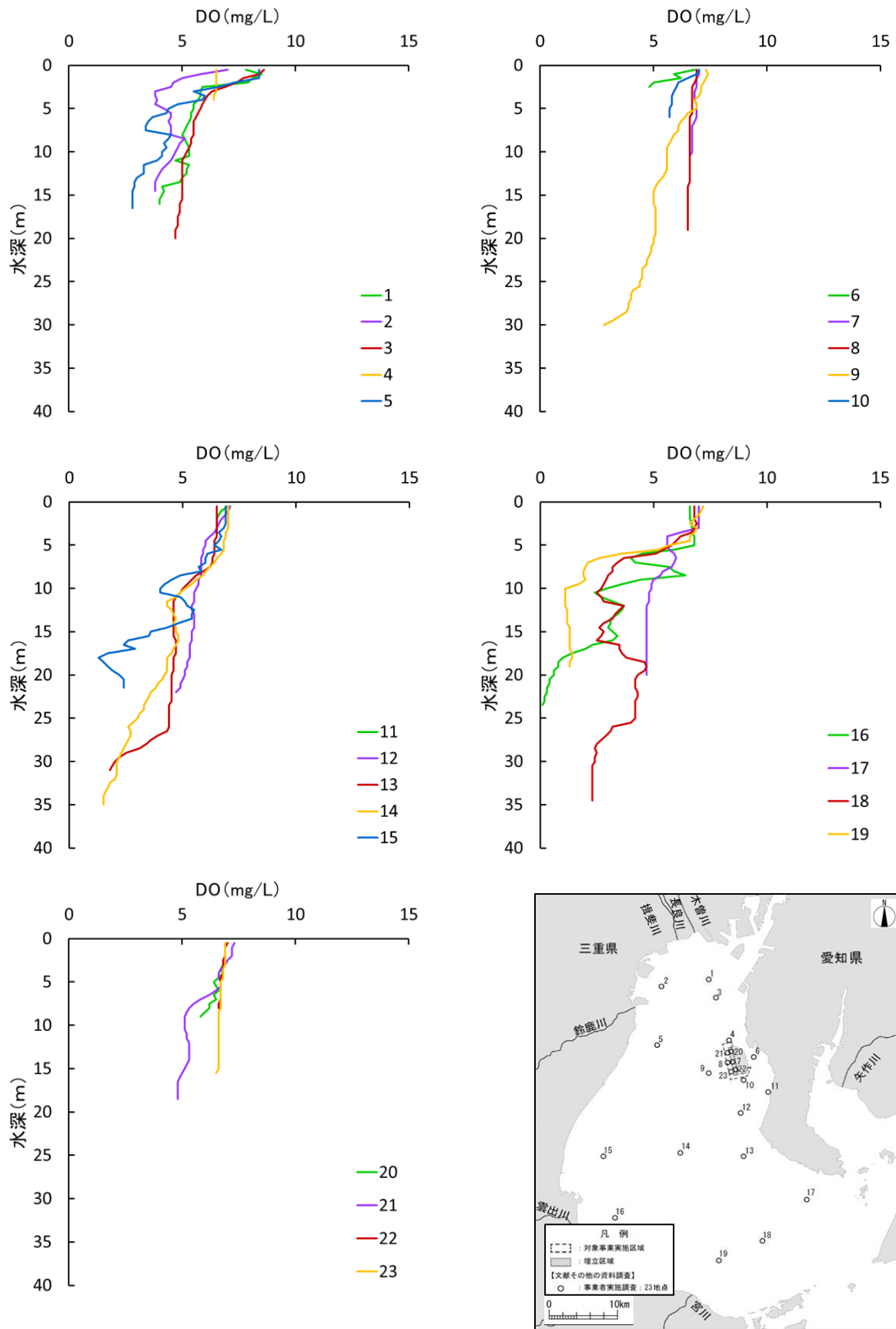
付図 8.4-22(3) 溶存酸素の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 26 年 11 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



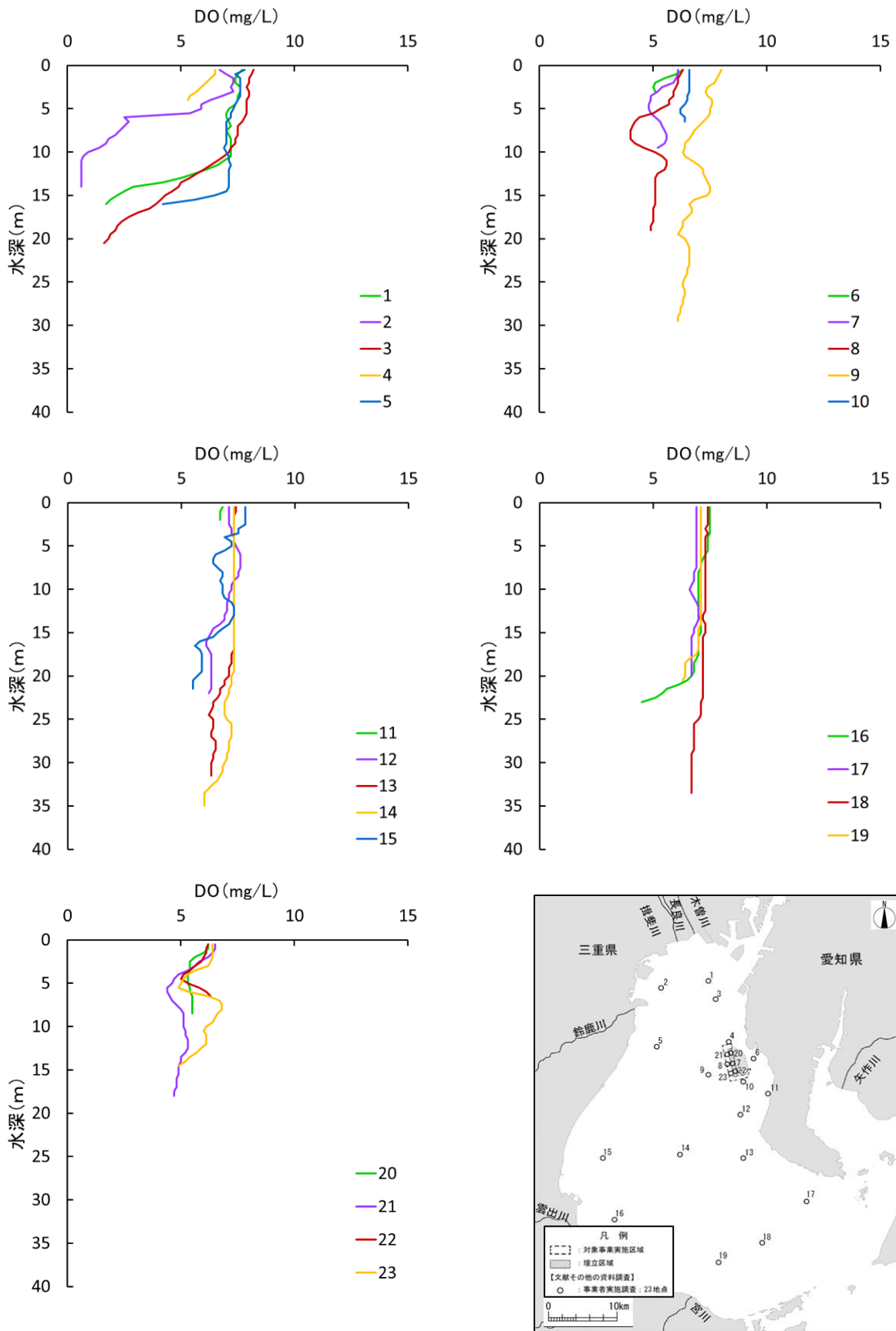
付図 8.4-22(4) 溶存酸素の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 27 年 2 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



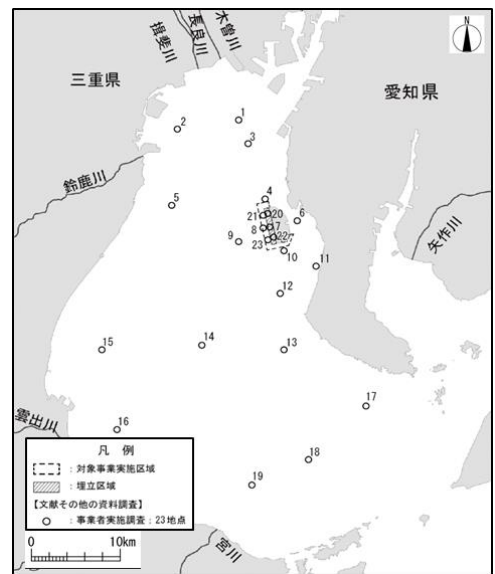
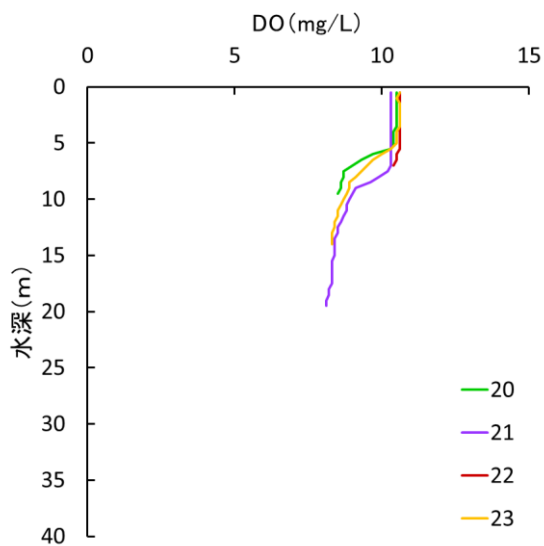
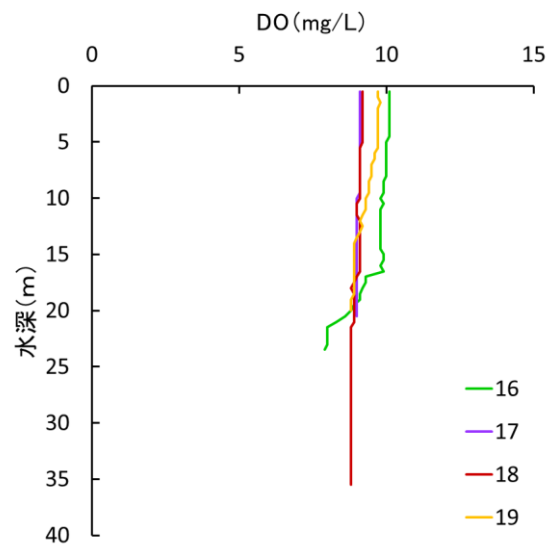
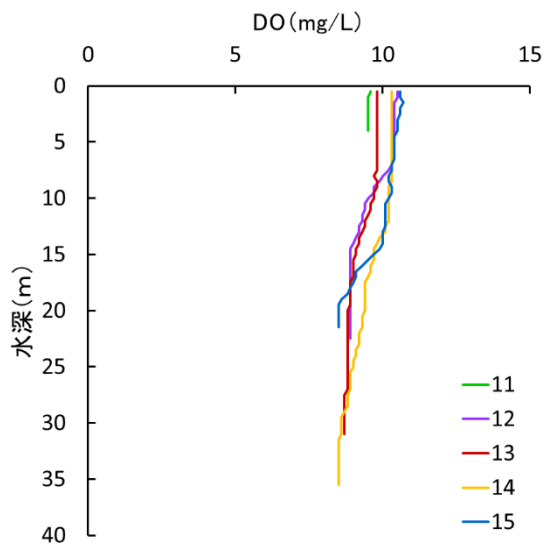
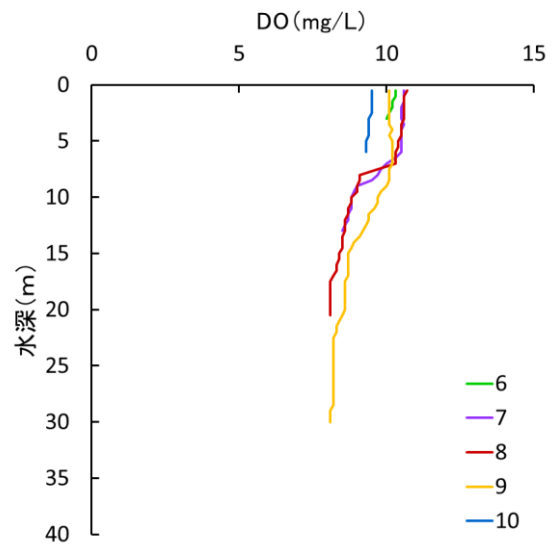
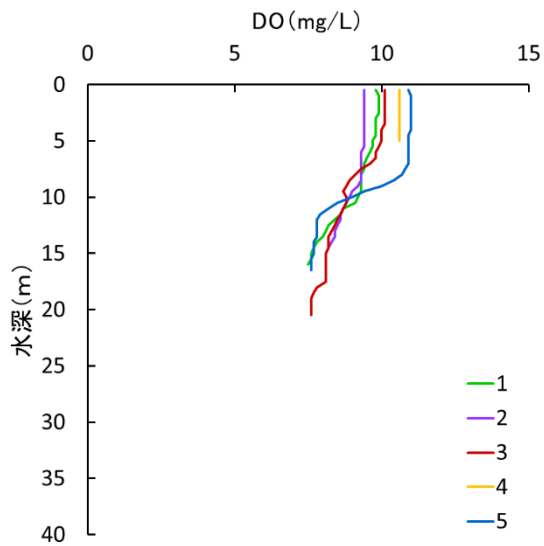
付図 8.4-22(6) 溶存酸素の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 27 年 8 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



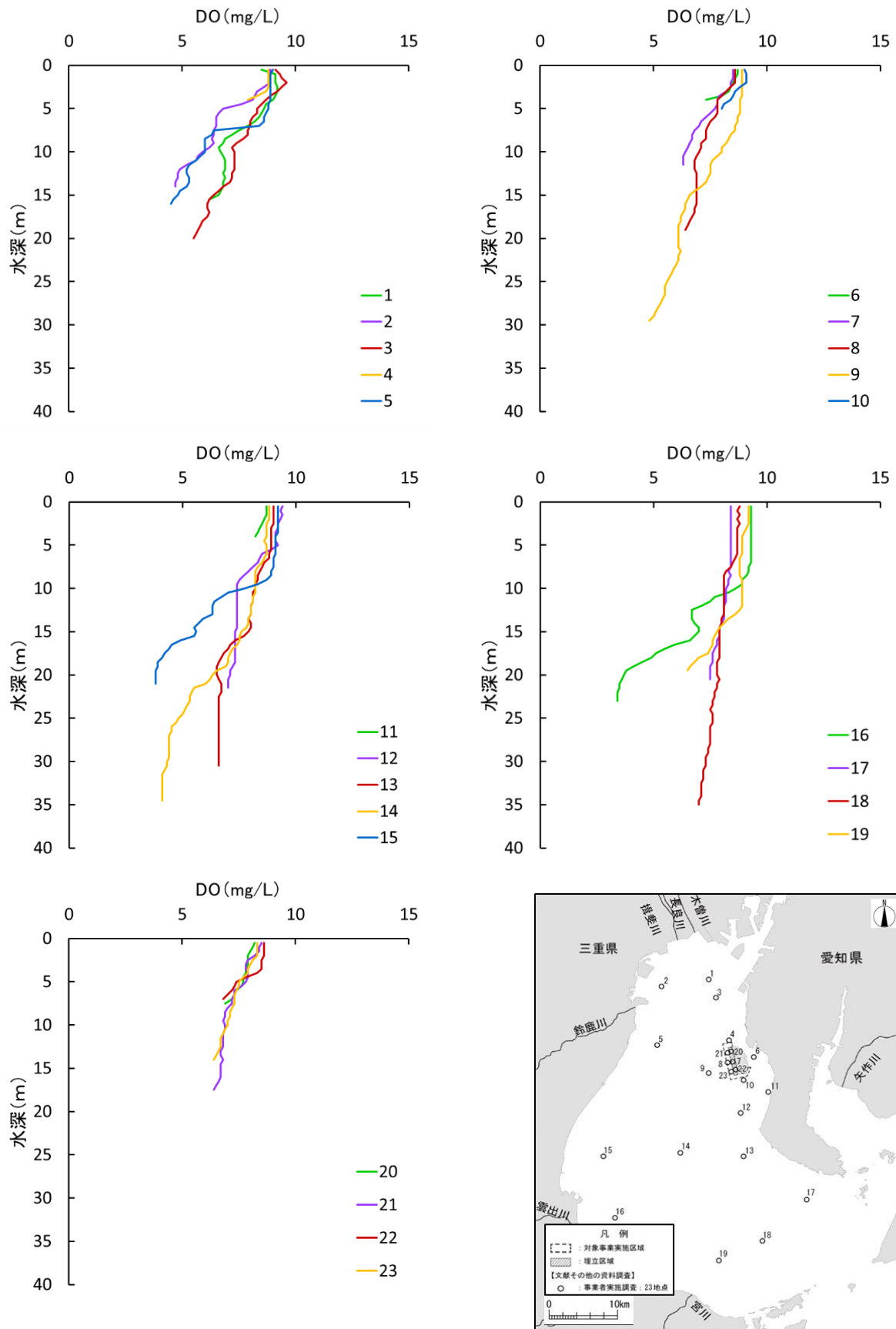
付図 8.4-22(7) 溶存酸素の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 27 年 11 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



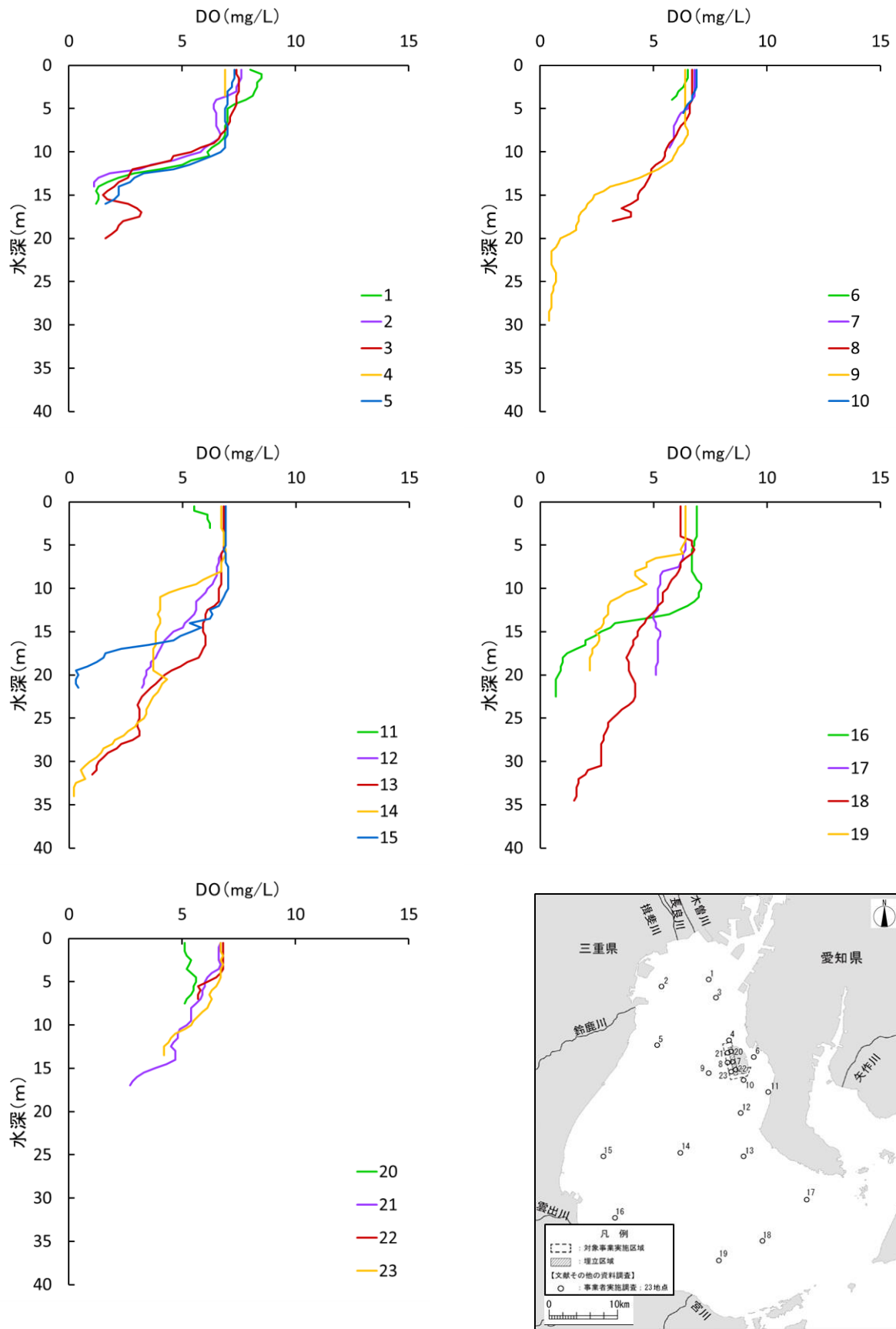
付図 8.4-22(8) 溶存酸素の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 28 年 2 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



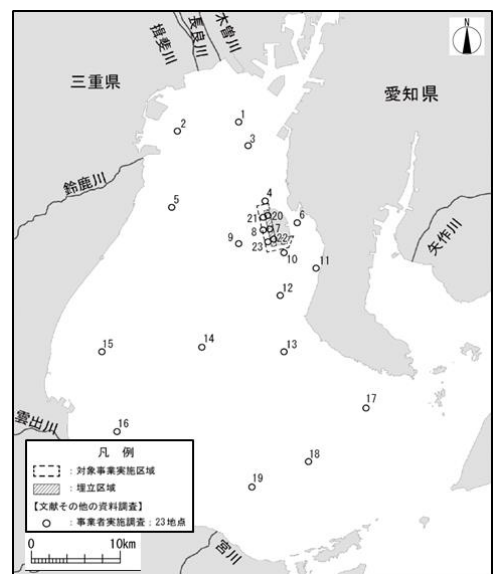
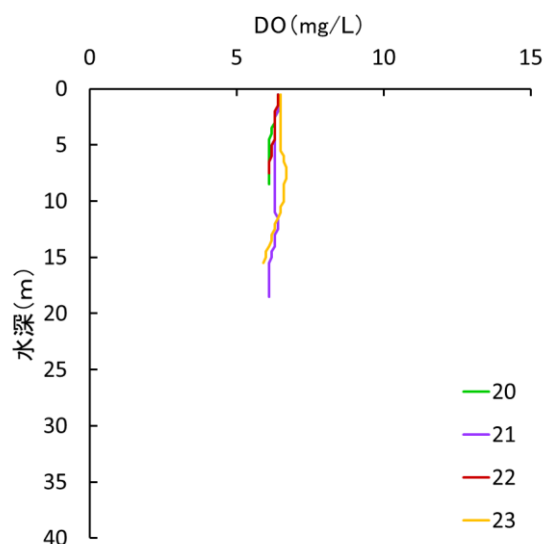
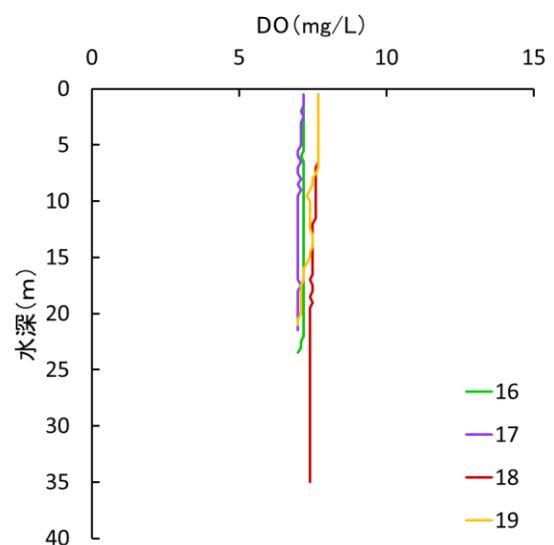
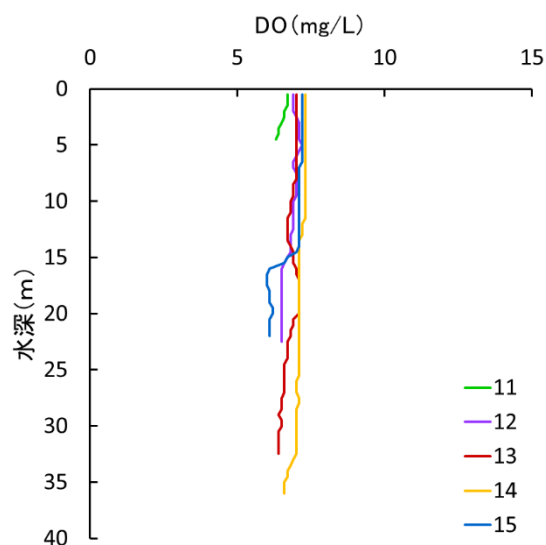
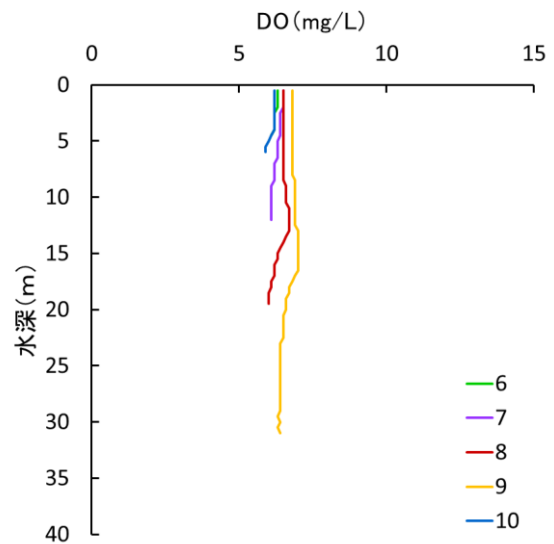
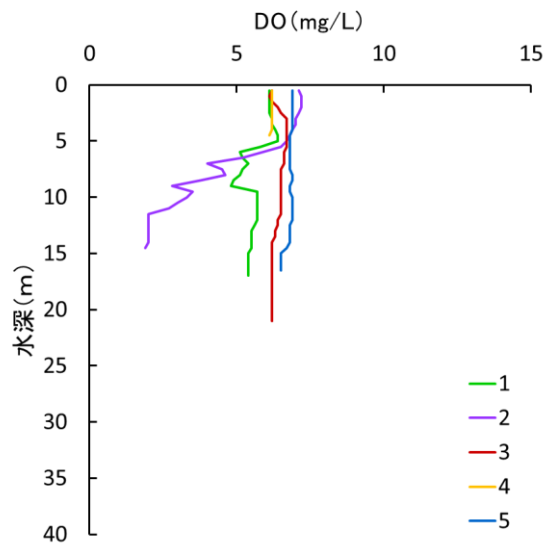
付図 8.4-22(9) 溶存酸素の鉛直分布（事業者実施調査、平成 28 年 5 月）

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成〕



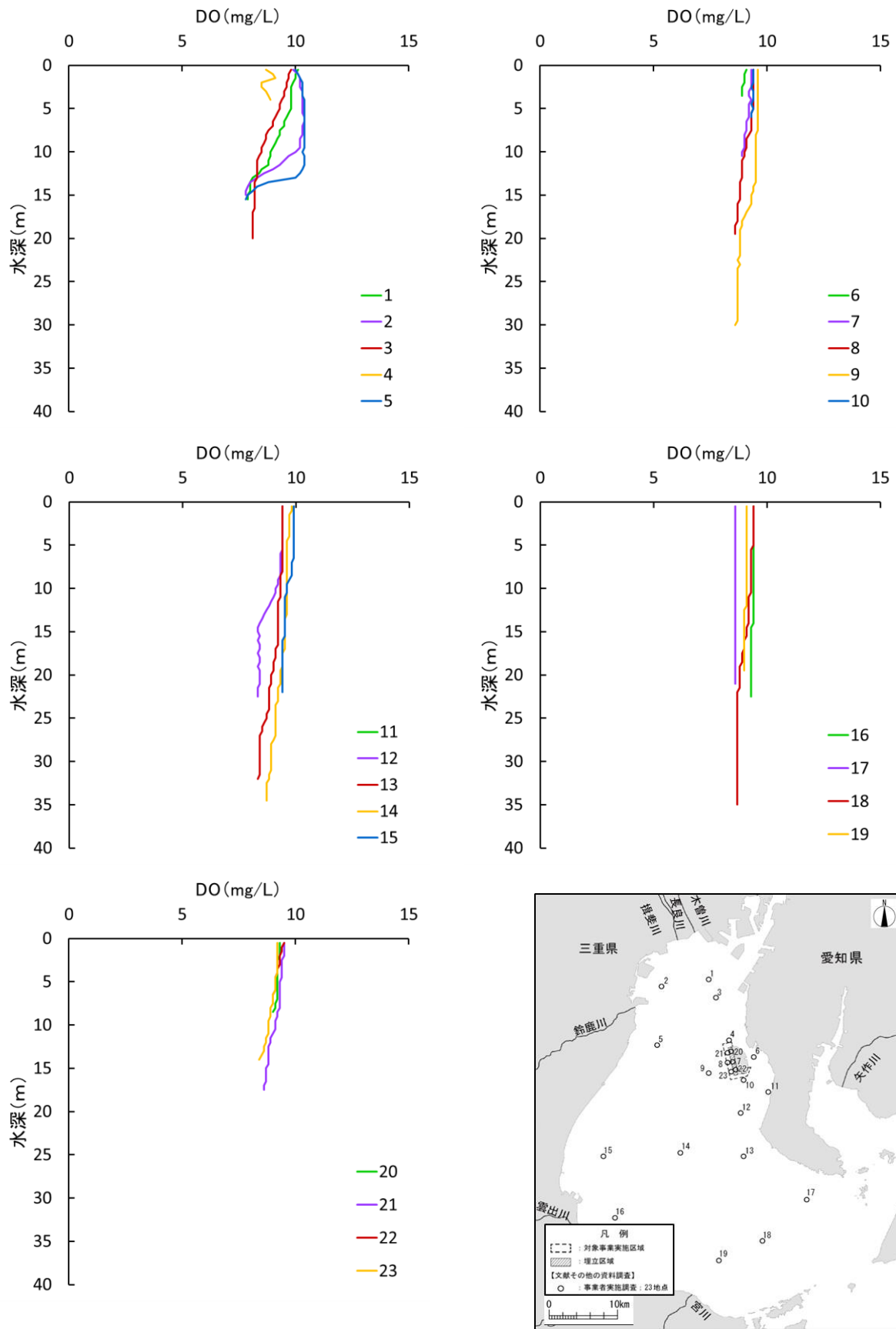
付図 8.4-22(10) 溶存酸素の鉛直分布（事業者実施調査、平成 28 年 8 月）

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 〔国土交通省中部地方整備局、平成 29 年〕より作成



付図 8.4-22(11) 溶存酸素の鉛直分布（事業者実施調査、平成 28 年 11 月）

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成〕



付図 8.4-22(12) 溶存酸素の鉛直分布（事業者実施調査 平成 29 年 2 月）

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 〔国土交通省中部地方整備局、平成 29 年〕より作成

付表 8.4-13(1) 溶存酸素量の測定結果の概要（三重県）

(単位：mg/L)

年度	調査地点 測定層	S-1			S-2			S-4			S-5		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
平成 24	上層	6.6	12.2	9.2	7.0	12.4	9.2	6.8	11.3	8.6	5.7	10.7	8.5
	中層	4.4	11.8	8.3	5.6	12.0	8.7	6.2	10.9	8.3	6.0	11.3	8.7
	底層	0.2	8.2	5.1	0.9	8.3	5.0	1.6	10.1	6.0	0.0	8.8	4.1
平成 25	上層	5.4	11.7	9.2	4.1	11.5	8.2	4.6	11.1	8.6	5.2	10.5	8.4
	中層	3.2	11.0	8.1	2.9	11.5	8.0	3.0	11.2	8.2	3.9	10.5	8.1
	底層	2.4	10.5	6.2	0.2	8.2	4.5	1.2	8.6	5.5	0.2	8.7	3.9
平成 26	上層	5.3	10.4	8.1	5.2	10.7	8.2	6.0	12.6	8.3	6.0	12.0	8.2
	中層	3.4	9.7	6.9	5.0	11.6	7.9	5.4	12.5	8.1	5.4	11.8	8.0
	底層	1.0	9.0	4.9	0.3	9.0	4.5	1.0	9.9	6.1	0.0	9.5	4.0
平成 27	上層	6.9	14.2	10.3	6.8	14.7	10.7	7.8	13.9	10.3	7.5	11.7	9.9
	中層	1.6	10.5	7.1	3.4	10.4	7.6	1.1	14.1	8.4	4.9	13.3	8.9
	底層	1.1	8.6	6.2	1.1	7.9	4.0	1.0	8.8	4.9	0.5	7.8	3.8
平成 28	上層	5.3	12.2	8.7	7.3	12.1	9.2	7.5	11.3	9.5	7.4	11.7	9.3
	中層	0.9	9.9	5.3	3.0	9.9	7.0	1.6	11.4	7.6	5.1	10.8	8.2
	底層	0.3	8.5	4.5	0.6	7.7	4.3	0.4	9.4	4.6	0.5	9.1	3.7

年度	調査地点 測定層	S-6			S-8			S-9			S-10		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
平成 24	上層	6.3	11.2	8.4	6.4	10.7	8.3	6.9	11.3	8.7	6.5	10.1	8.6
	中層	5.3	10.8	8.2	6.4	10.7	8.3	6.1	11.3	8.4	6.4	10.9	8.3
	底層	0.1	8.5	4.5	0.0	8.4	4.7	0.3	10.8	5.2	0.0	8.7	4.5
平成 25	上層	5.5	9.9	8.0	6.4	11.5	8.7	7.5	10.3	8.9	7.1	9.9	8.5
	中層	5.3	9.8	8.0	5.7	10.7	8.5	6.9	10.3	8.5	5.1	9.7	8.2
	底層	0.2	8.5	4.2	0.2	9.4	4.0	0.2	10.1	5.0	0.3	9.0	4.0
平成 26	上層	5.4	11.7	8.0	6.2	11.5	8.1	4.9	11.8	8.1	6.2	10.9	8.1
	中層	5.3	10.5	7.9	5.7	11.6	8.1	5.2	11.8	8.0	5.9	11.0	8.0
	底層	0.2	9.5	4.3	0.0	9.8	4.1	1.0	10.9	5.2	0.0	9.6	3.9
平成 27	上層	7.2	11.2	9.5	7.2	12.9	9.4	7.7	12.8	9.6	7.3	12.0	9.2
	中層	3.8	10.8	8.5	7.2	11.6	9.2	5.6	10.6	8.6	6.6	12.3	9.1
	底層	0.4	8.7	3.9	0.5	8.3	4.2	0.4	9.9	4.9	0.6	8.7	4.4
平成 28	上層	6.6	9.8	8.6	6.6	11.1	9.0	6.3	10.9	8.6	6.1	13.4	8.6
	中層	4.7	9.8	7.4	5.8	10.3	8.4	6.4	10.2	8.4	5.9	10.0	8.0
	底層	0.1	8.3	3.9	0.1	9.0	4.1	0.1	9.1	4.8	0.0	9.1	4.1

付表 8.4-13(2) 溶存酸素量の測定結果の概要（三重県）

(単位：mg/L)

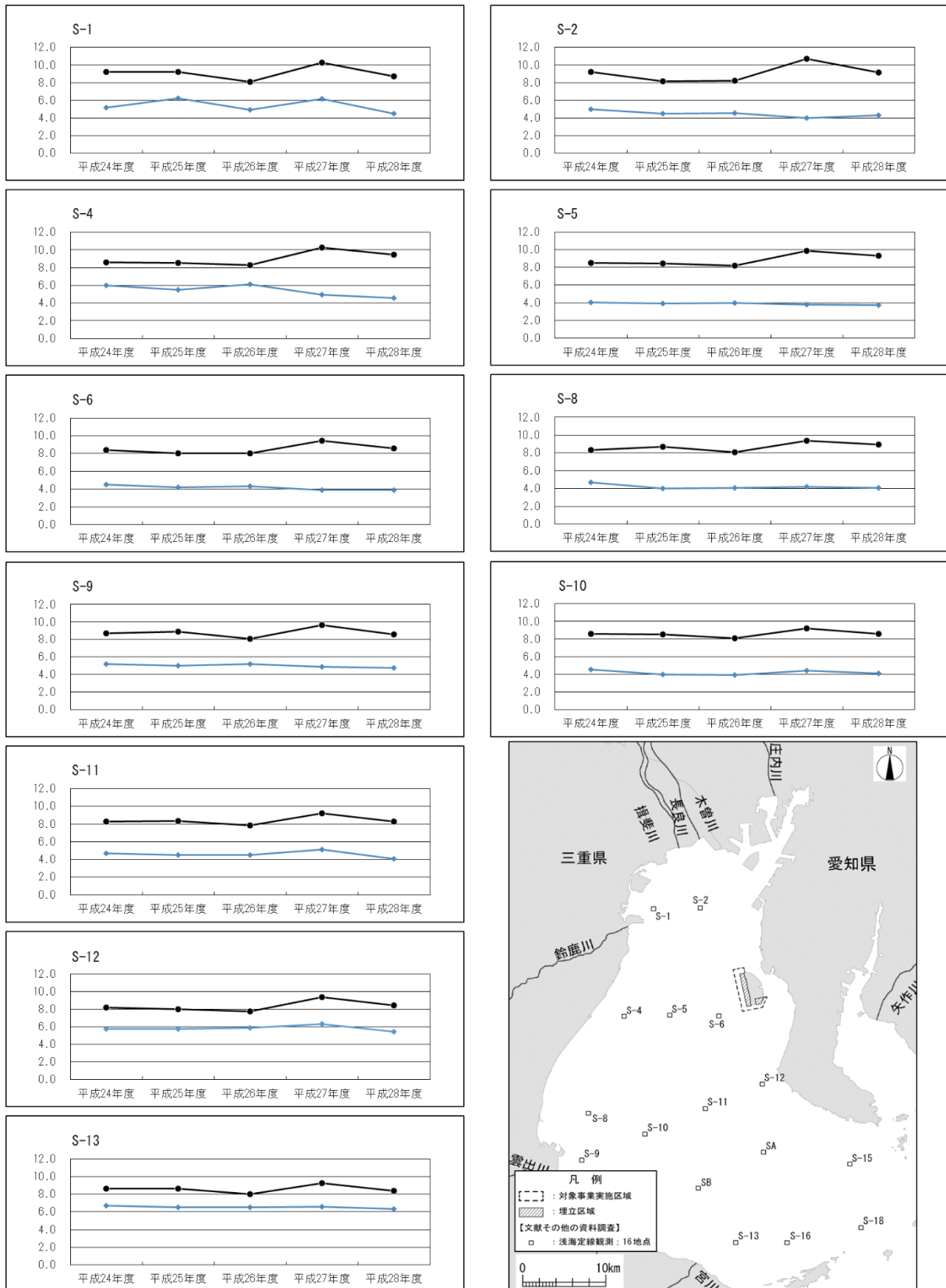
年度	調査地点 測定層	S-11			S-12			S-13			S-15		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
平成 24	上層	6.7	10.3	8.3	6.4	10.8	8.2	6.4	10.6	8.6	6.7	9.3	8.0
	中層	6.0	10.3	8.1	6.3	10.6	8.1	6.4	10.6	8.3	6.6	9.1	7.9
	底層	0.1	8.4	4.7	1.7	8.5	5.7	2.4	10.5	6.7	3.9	8.6	6.6
平成 25	上層	7.0	9.9	8.3	5.6	10.2	8.0	7.1	9.9	8.6	7.0	9.5	8.1
	中層	5.8	9.9	8.2	5.1	10.0	7.9	6.8	9.9	8.4	6.9	9.4	8.0
	底層	0.1	8.9	4.5	1.3	8.9	5.8	2.7	9.6	6.5	5.0	9.0	6.8
平成 26	上層	5.4	10.8	7.8	5.3	10.3	7.8	5.5	11.7	8.0	6.1	10.0	7.7
	中層	5.5	10.7	7.9	5.6	10.2	7.6	5.3	11.1	7.8	6.1	10.0	7.7
	底層	0.1	9.6	4.5	2.2	9.6	5.8	1.3	10.8	6.5	4.9	9.7	6.7
平成 27	上層	7.2	12.0	9.2	7.3	11.4	9.4	6.4	11.4	9.2	7.2	12.0	8.8
	中層	7.2	12.4	8.8	5.3	10.3	7.7	5.5	10.5	8.6	6.6	11.8	8.4
	底層	0.4	8.8	5.1	4.0	9.1	6.3	2.4	9.7	6.6	5.5	8.9	7.1
平成 28	上層	6.6	9.4	8.3	6.2	10.2	8.4	6.4	10.2	8.4	6.0	8.7	7.7
	中層	4.1	9.3	7.8	4.7	9.0	7.1	6.3	10.0	8.1	5.6	9.0	7.6
	底層	0.1	8.3	4.1	1.7	8.2	5.5	2.8	9.1	6.3	4.4	8.6	6.7

年度	調査地点 測定層	S-16			S-18			SA			SB		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
平成 24	上層	6.4	10.1	8.0	5.8	8.9	7.7	6.3	9.5	8.1	6.5	10.5	8.6
	中層	6.3	10.0	8.0	5.8	8.9	7.8	6.1	9.7	8.0	6.4	10.6	8.3
	底層	3.1	8.7	6.3	3.3	8.2	6.3	0.1	8.5	5.0	0.2	10.5	5.5
平成 25	上層	7.3	9.7	8.3	7.0	9.5	8.0	6.6	10.0	8.2	7.4	10.0	8.8
	中層	6.8	9.7	8.2	6.8	9.4	7.9	6.1	10.0	8.1	7.3	9.9	8.6
	底層	2.0	9.7	6.5	5.1	8.4	6.8	0.7	8.9	5.7	0.2	9.8	5.9
平成 26	上層	5.8	12.0	8.1	6.4	10.1	7.7	5.5	10.3	7.7	5.2	10.5	7.8
	中層	5.5	10.8	8.0	6.3	10.0	7.6	5.5	10.1	7.8	4.2	10.7	8.0
	底層	3.2	10.6	6.8	3.1	9.6	6.4	0.3	9.3	5.3	0.9	10.4	5.5
平成 27	上層	7.5	11.3	8.9	6.7	11.5	8.6	7.5	11.9	9.4	7.2	11.7	9.2
	中層	5.3	11.4	8.5	6.1	10.2	8.3	7.0	12.1	8.6	6.7	11.6	9.0
	底層	3.5	9.9	6.7	4.3	8.4	7.0	0.9	8.7	5.6	0.8	9.9	5.5
平成 28	上層	6.1	9.6	8.2	5.8	9.3	7.8	6.0	9.1	8.0	6.5	9.9	8.3
	中層	6.1	9.6	7.9	5.8	9.1	7.6	5.9	12.5	8.1	6.3	9.8	7.9
	底層	3.0	8.8	6.3	4.4	8.1	6.5	0.4	8.4	5.3	0.2	9.0	4.9

- 注：1. 調査地点は、図 8.4.1-2(2)に対応する。
 2. 「上層」は 0m、「中層」は海面下 5m、「底層」は海底上 1m である。
 3. 三重県の地点名とその略称は下表のとおりである。

三重県地点 名称	略称	三重県地点 名称	略称
1	S-1	11	S-11
2	S-2	12	S-12
4	S-4	13	S-13
5	S-5	15	S-15
6	S-6	16	S-16
8	S-8	18	S-18
9	S-9	A	SA
10	S-10	B	SB

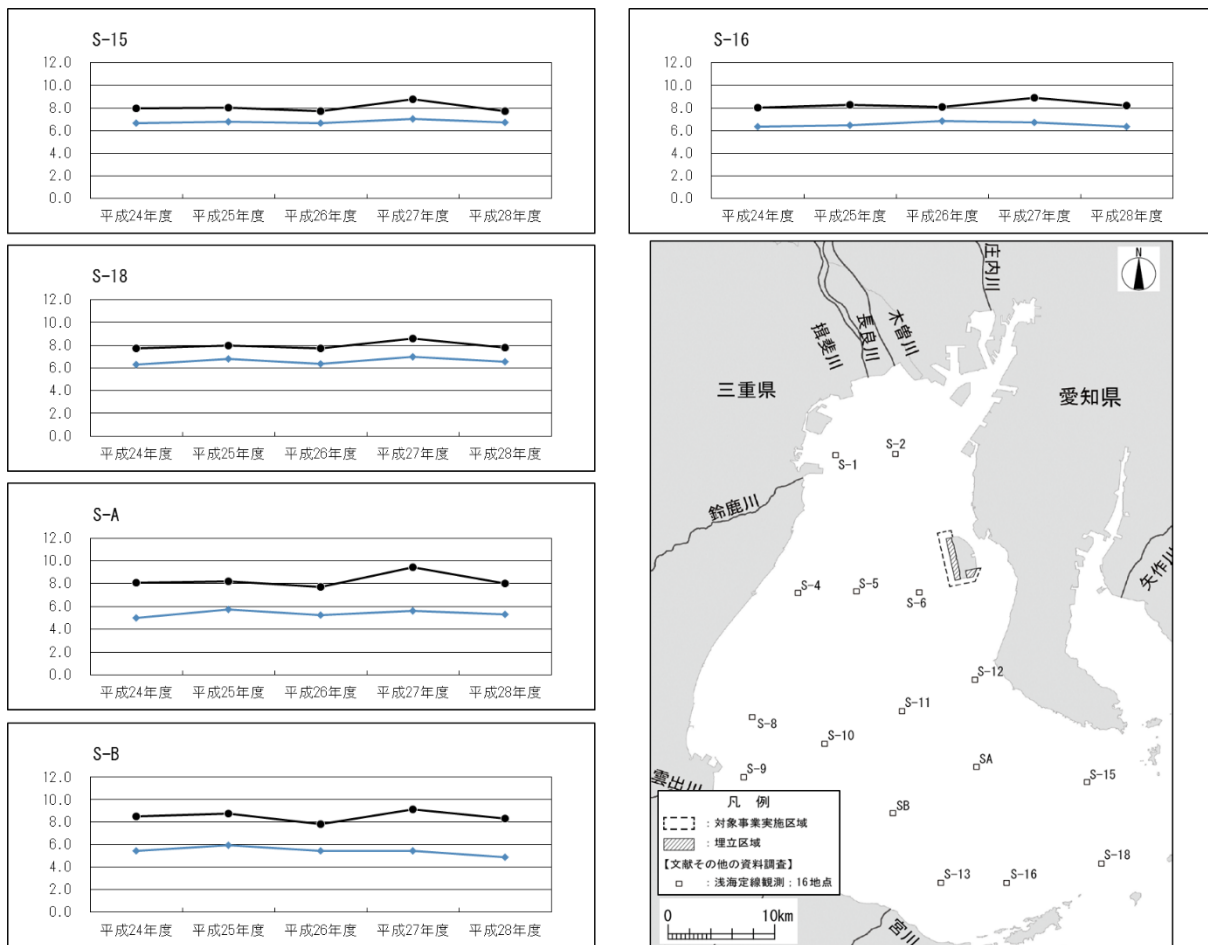
〔「浅海定線観測結果（平成 24～28 年度）」（三重県 HP）より作成〕



注：黒線は上層、青線は底層の結果を示す。

付図 8.4-23(1) 地点別溶存酸素量の経年変化及び鉛直分布（三重県）

〔「浅海定線観測結果（平成24～28年度）」（三重県HP）より作成〕

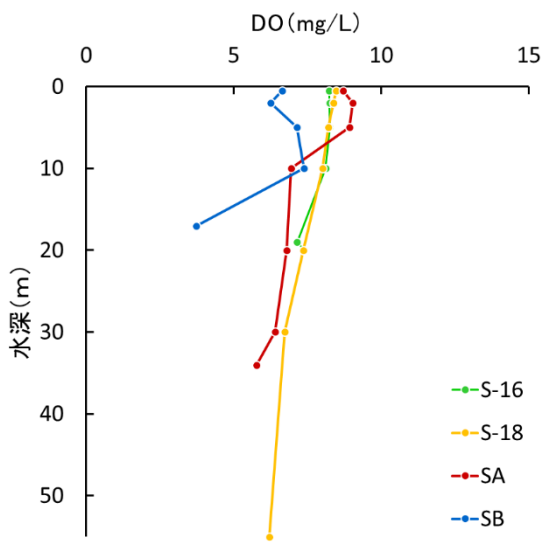
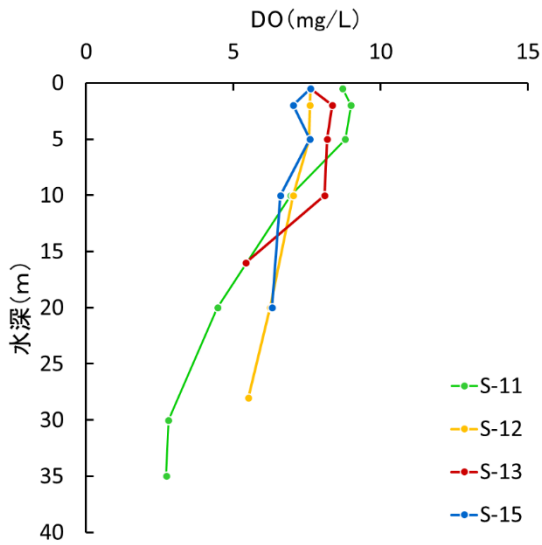
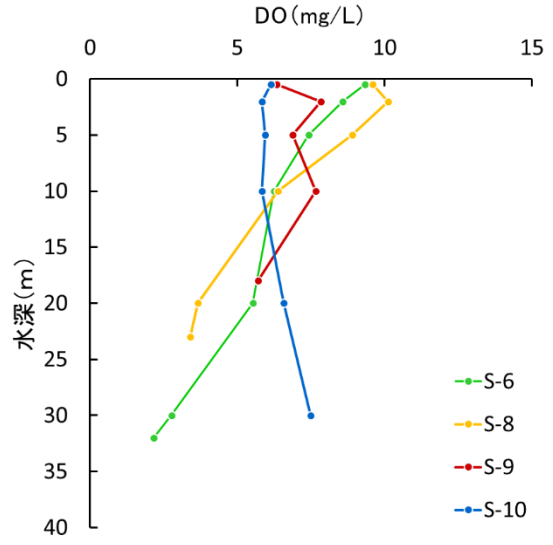
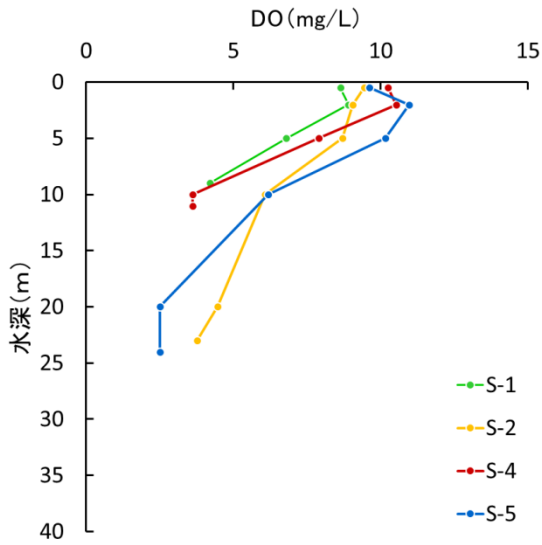


付図 8.4-23(2) 地点別溶存酸素量の経年変化及び鉛直分布（三重県）

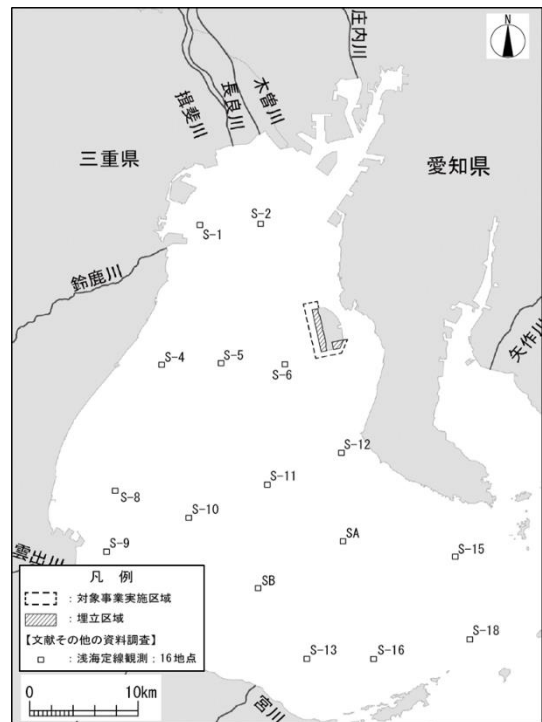
注：1. 黒線は上層、青線は底層の結果を示す。
 2. 三重県の地点名とその略称は下表のとおりである。

三重県地点 名称	略称	三重県地点 名称	略称
1	S-1	11	S-11
2	S-2	12	S-12
4	S-4	13	S-13
5	S-5	15	S-15
6	S-6	16	S-16
8	S-8	18	S-18
9	S-9	A	SA
10	S-10	B	SB

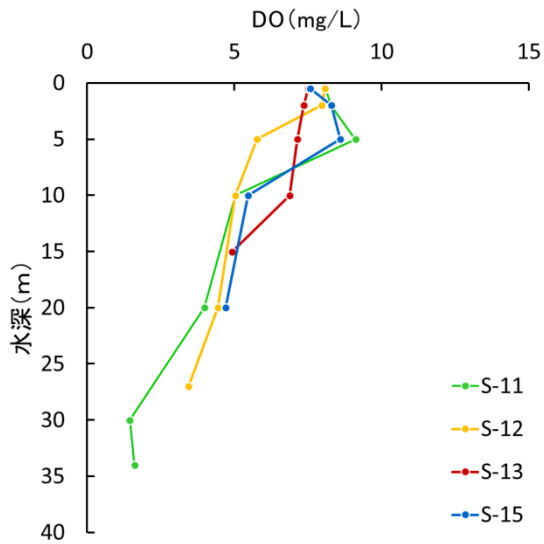
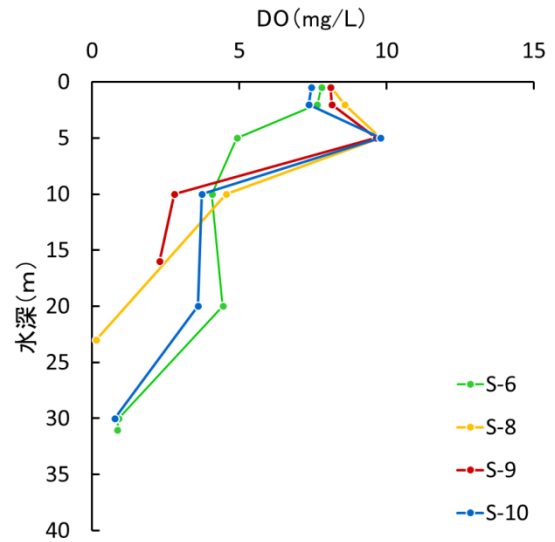
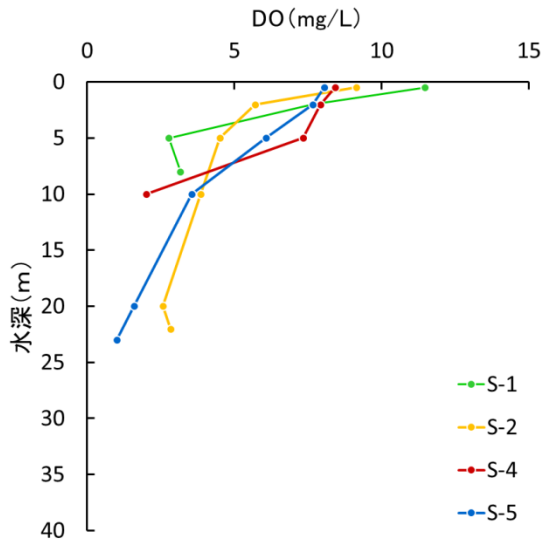
〔「浅海定線観測結果（平成24～28年度）」（三重県HP）より作成〕



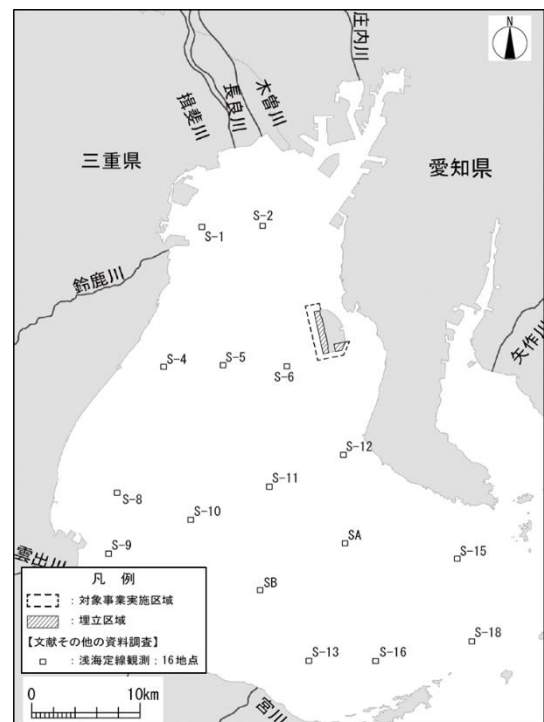
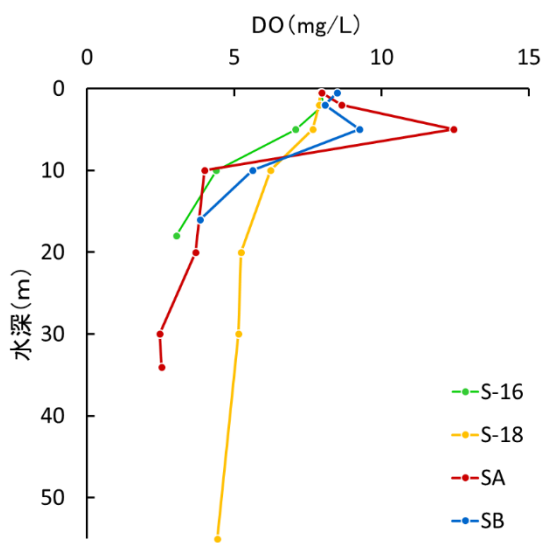
三重県地点 名称	略称	三重県地点 名称	略称
1	S-1	11	S-11
2	S-2	12	S-12
4	S-4	13	S-13
5	S-5	15	S-15
6	S-6	16	S-16
8	S-8	18	S-18
9	S-9	A	SA
10	S-10	B	SB



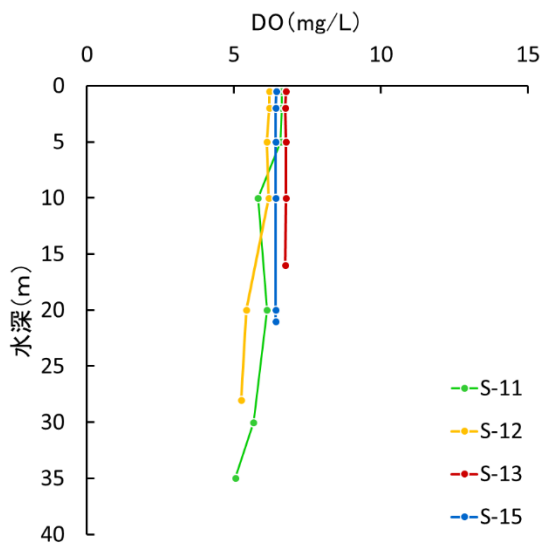
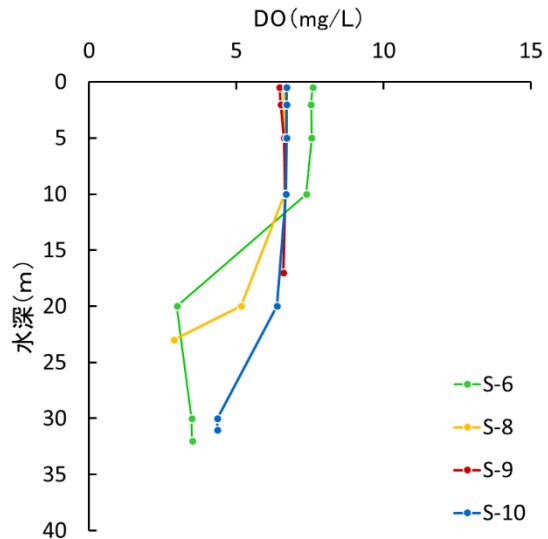
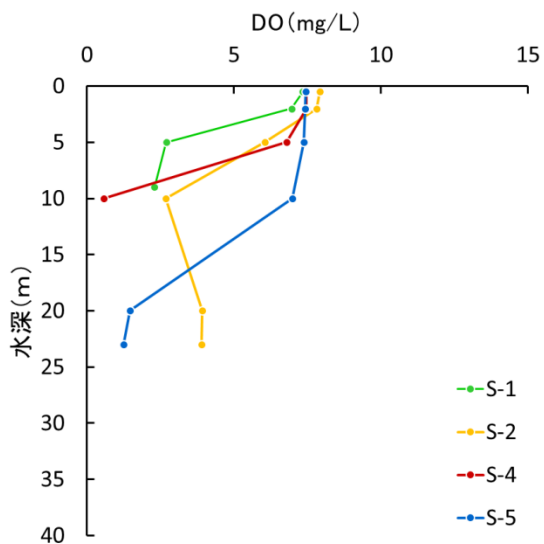
付図 8.4-23(3) 地点別溶存酸素量の経年変化及び鉛直分布(三重県 H28 年 5 月)
 [「浅海定線観測結果(平成 28 年度)」(三重県 HP)より作成]



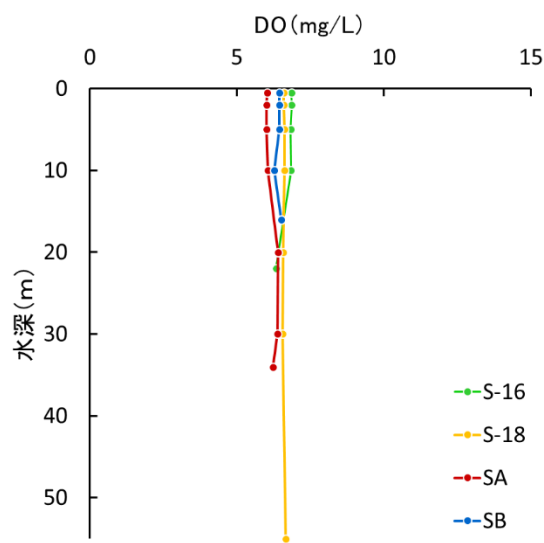
三重県地点 名称	略称	三重県地点 名称	略称
1	S-1	11	S-11
2	S-2	12	S-12
4	S-4	13	S-13
5	S-5	15	S-15
6	S-6	16	S-16
8	S-8	18	S-18
9	S-9	A	SA
10	S-10	B	SB



付図 8.4-23(4) 地点別溶存酸素量の経年変化及び鉛直分布(三重県 H28年8月)
 [「浅海定線観測結果(平成28年度)」(三重県HP)より作成]

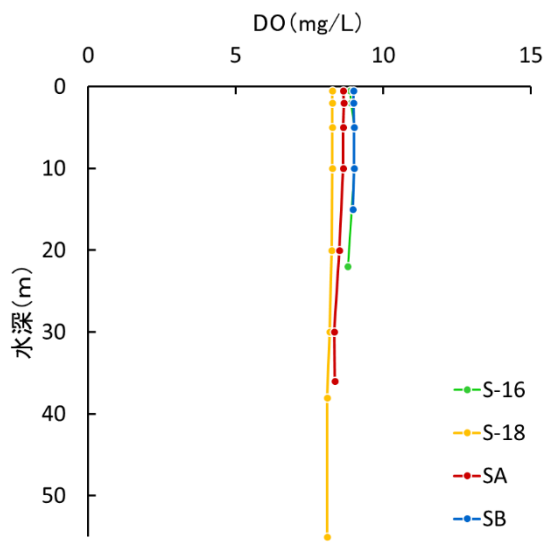
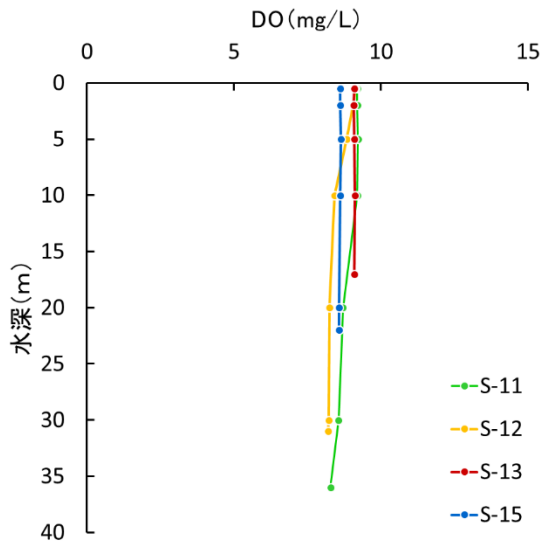
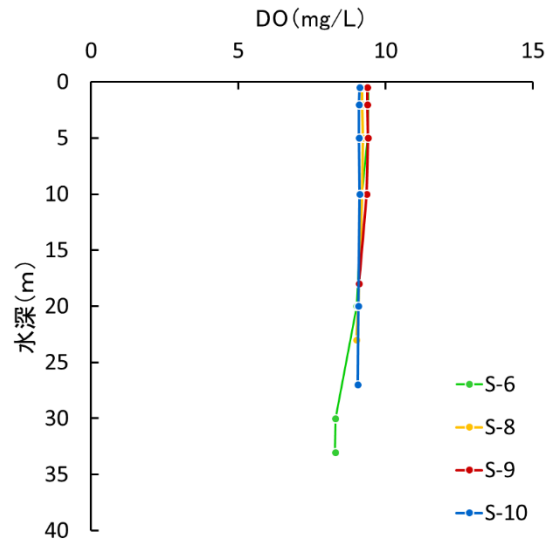
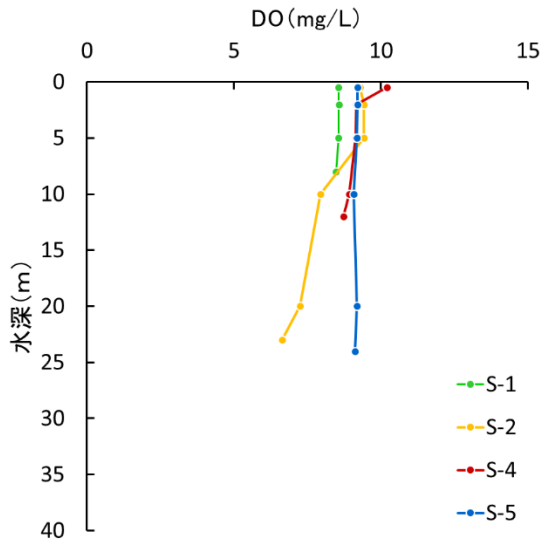


三重県地点名称	略称	三重県地点名称	略称
1	S-1	11	S-11
2	S-2	12	S-12
4	S-4	13	S-13
5	S-5	15	S-15
6	S-6	16	S-16
8	S-8	18	S-18
9	S-9	A	SA
10	S-10	B	SB

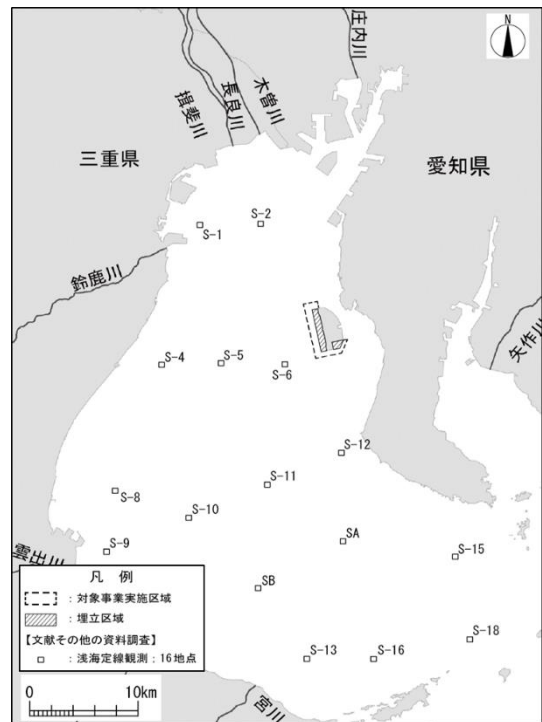


付図 8.4-23(5) 地点別溶存酸素量の経年変化及び鉛直分布(三重県 H28 年 11 月)

〔「浅海定線観測結果(平成 28 年度)」(三重県 HP)より作成〕

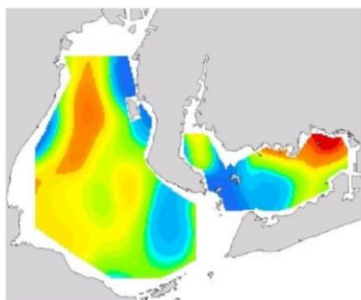


三重県地点 名称	略称	三重県地点 名称	略称
1	S-1	11	S-11
2	S-2	12	S-12
4	S-4	13	S-13
5	S-5	15	S-15
6	S-6	16	S-16
8	S-8	18	S-18
9	S-9	A	SA
10	S-10	B	SB

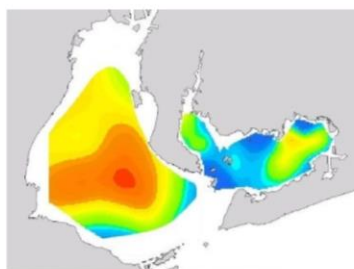


付図 8.4-23(6) 地点別溶存酸素量の経年変化及び鉛直分布(三重県 H29年2月)
 [「浅海定線観測結果(平成24~28年度)」(三重県HP)より作成]

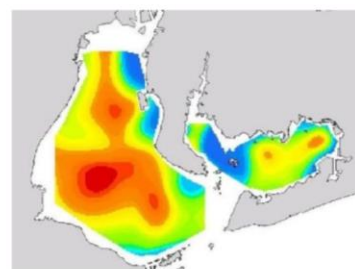
貧酸素水塊の分布(平成24年)



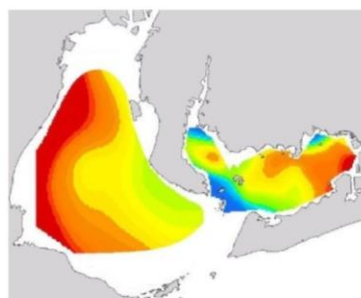
伊勢湾:6月1日、三河湾:6月4、5日



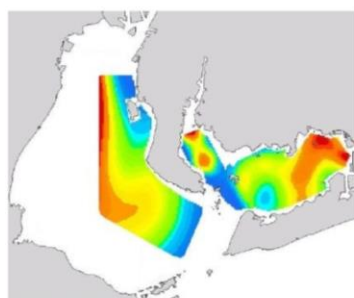
伊勢湾・三河湾:6月27日



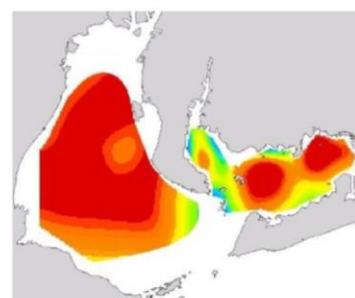
伊勢湾:7月2、5日、三河湾:7月4、5日



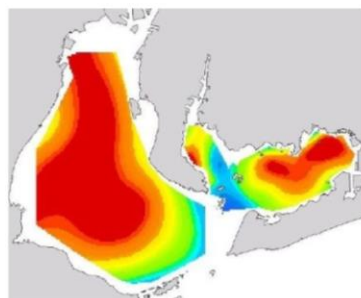
伊勢湾・三河湾:7月23、25日



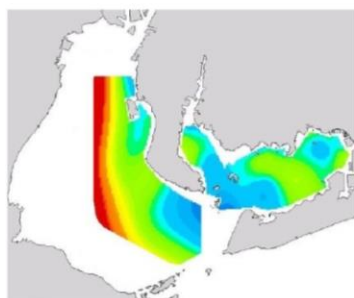
伊勢湾:8月3日、三河湾:8月1、2日



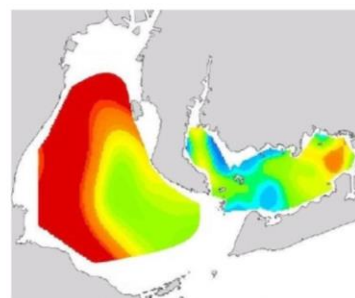
伊勢湾・三河湾:8月22、27日



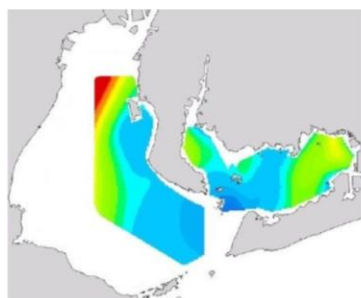
伊勢湾:9月6日、三河湾:9月5日



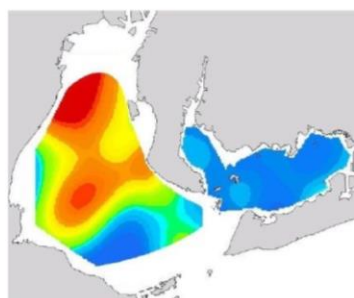
伊勢湾:9月19日、三河湾:9月20、21日



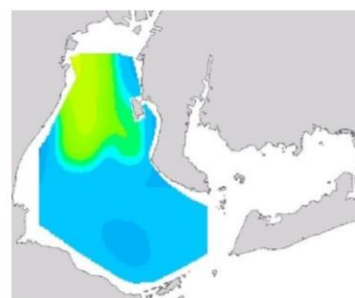
伊勢湾・三河湾:9月25、27日



伊勢湾:10月2日、三河湾:10月3、4日



伊勢湾・三河湾:10月18、19、22日



伊勢湾:11月5日

凡例:溶存酸素飽和度(%)

120-200	66-70	31-35
111-120	61-65	26-30
101-110	56-60	21-25
91-100	51-55	16-20
81-90	46-50	11-15
76-80	41-45	6-10
71-75	36-40	0-5

酸素飽和度	酸素濃度	魚介類への影響
50%	約4.0ppm	魚類・甲殻類に悪影響
30%	約2.4ppm	貝類・底生魚類の生存困難
10%	約0.8ppm	全ての底生生物の生存困難

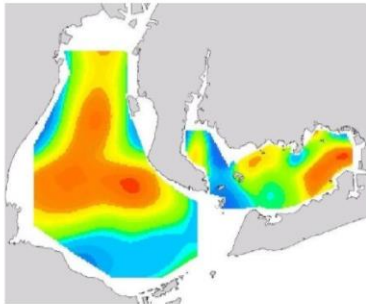
※観測水深:底層

※愛知県水産試験場では、溶存酸素飽和度50%以下を低酸素、30%以下を貧酸素としている。

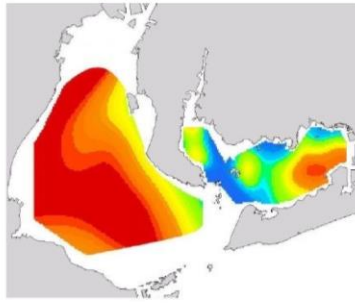
付図 8.4-24(1) 貧酸素水塊の分布(愛知県水産試験場 平成24年)

[「愛知県水産試験場:伊勢・三河湾貧酸素情報(H24-1号~15号)」より作成]

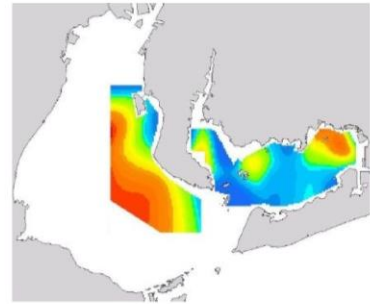
貧酸素水塊の分布(平成25年)



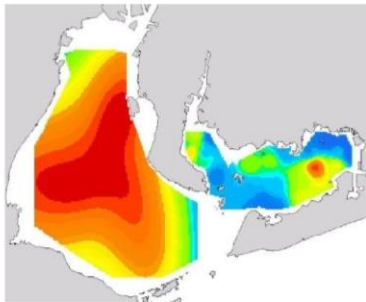
伊勢湾:6月3、6日、三河湾:6月4、5日



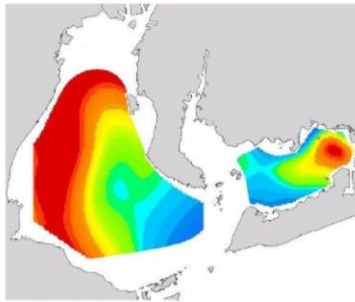
伊勢湾:6月28日、三河湾:6月25日



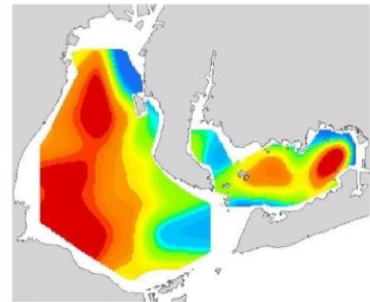
伊勢湾:7月1日、三河湾:7月2、3日



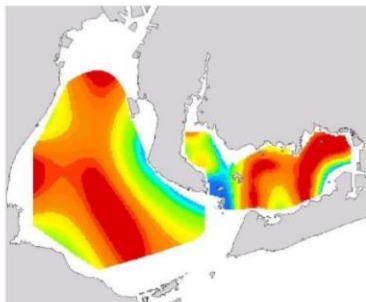
伊勢湾:7月8日、三河湾:7月12日



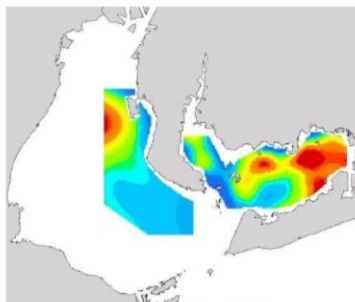
伊勢湾:7月22日、三河湾:7月25日



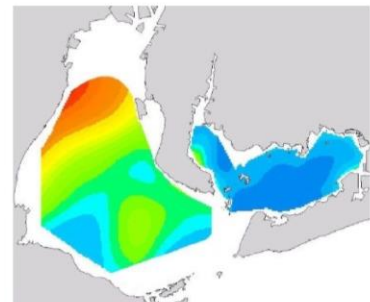
伊勢湾:8月2、5日、三河湾:8月1、2日



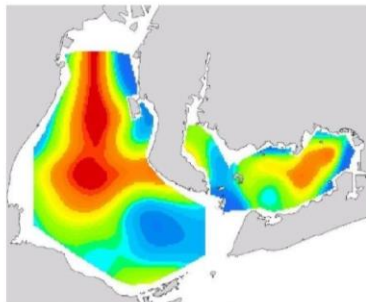
伊勢湾・三河湾:8月20日



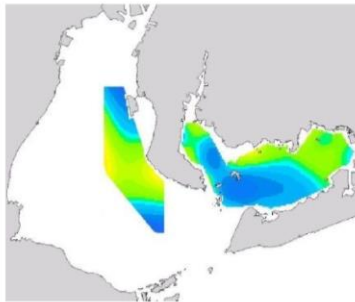
伊勢湾:9月2日、三河湾:9月3、4日



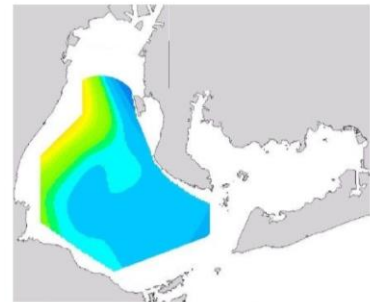
伊勢湾・三河湾:9月17日



伊勢湾:10月1日、三河湾:10月2、3日



伊勢湾:10月21日、三河湾:10月22日



伊勢湾:10月30日

凡例: 溶存酸素飽和度(%)

120-200	66-70	31-35
111-120	61-65	26-30
101-110	56-60	21-25
91-100	51-55	16-20
81-90	46-50	11-15
76-80	41-45	6-10
71-75	36-40	0-5

酸素飽和度	酸素濃度	魚介類への影響
50%	約4.0ppm	魚類・甲殻類に悪影響
30%	約2.4ppm	貝類・底生魚類の生存困難
10%	約0.8ppm	全ての底生生物の生存困難

※観測水深:底層

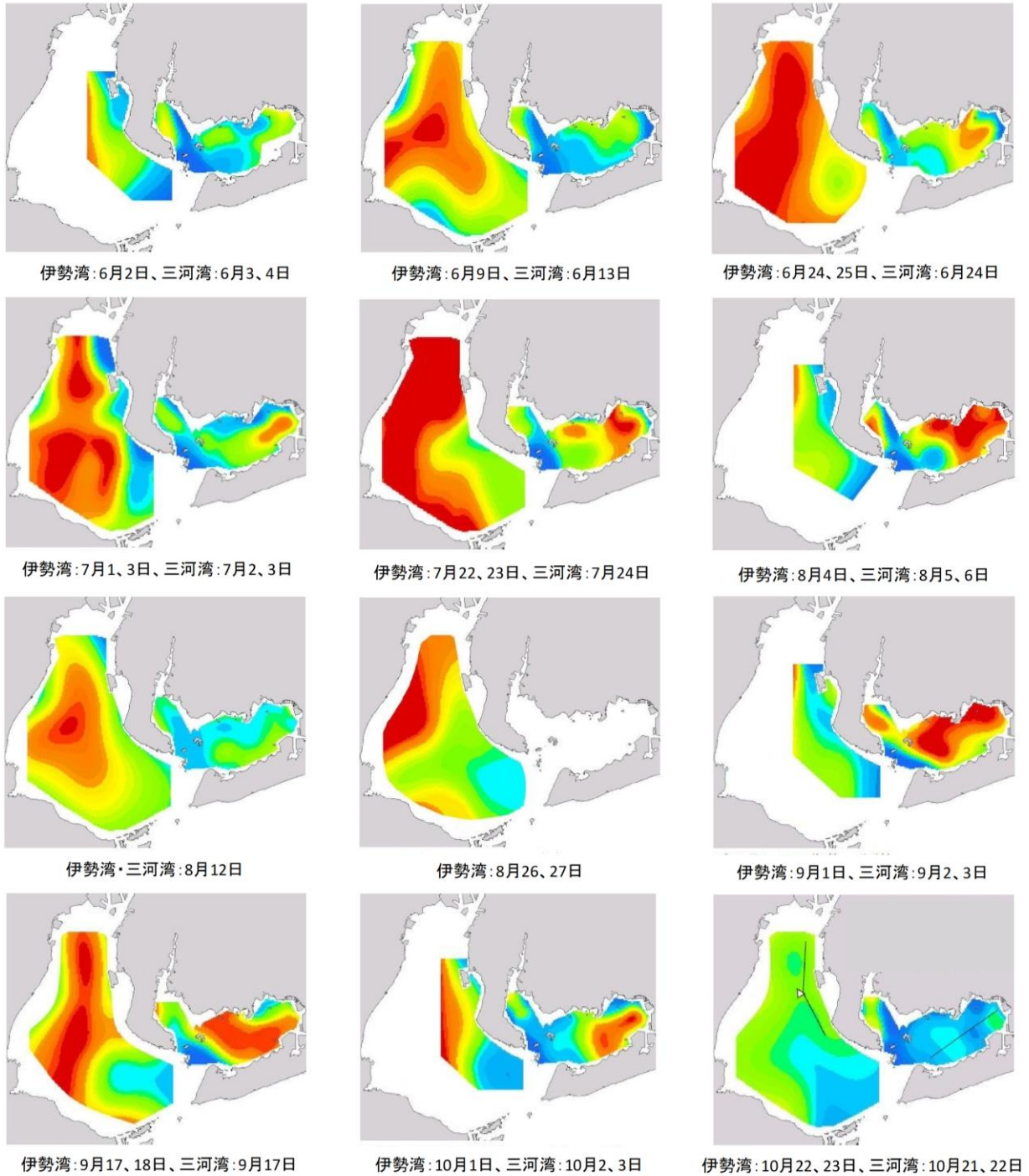
※愛知県水産試験場では、溶存酸素飽和度50%以下を低酸素、30%以下を貧酸素としている。

付図 8.4-24(2)

貧酸素水塊の分布(愛知県水産試験場 平成25年)

[「愛知県水産試験場:伊勢・三河湾貧酸素情報(H25-1号~14号)」より作成]

貧酸素水塊の分布(平成26年)



凡例: 溶存酸素飽和度(%)

120-200	66-70	31-35
111-120	61-66	26-30
101-110	56-60	21-25
91-100	51-55	16-20
81-90	46-50	11-15
76-80	41-45	6-10
71-75	36-40	0-5

酸素飽和度	酸素濃度	魚介類への影響
50%	約4.0ppm	魚類・甲殻類に悪影響
30%	約2.4ppm	貝類・底生魚類の生存困難
10%	約0.8ppm	全ての底生生物の生存困難

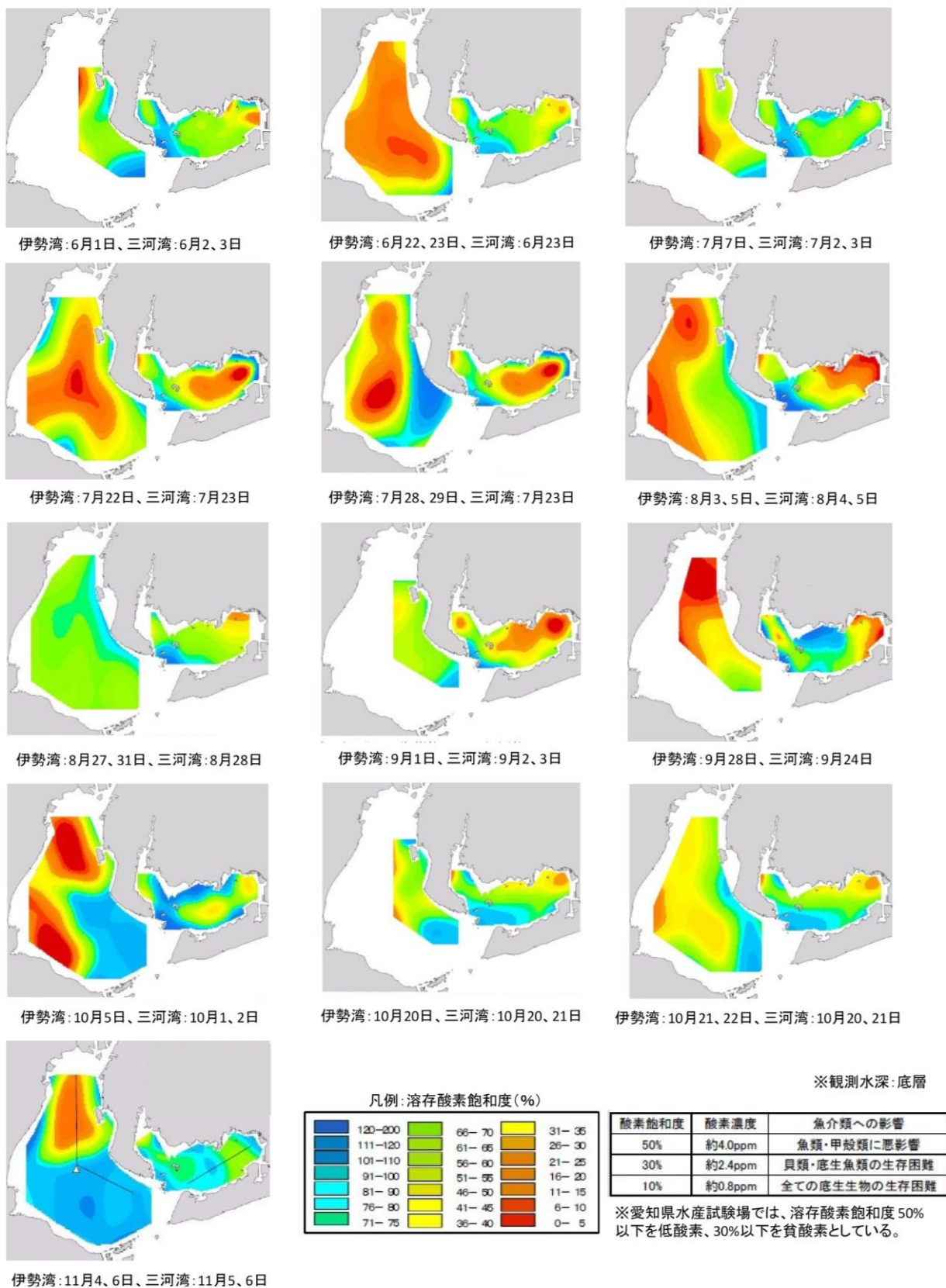
※観測水深: 底層

※愛知県水産試験場では、溶存酸素飽和度 50%以下を低酸素、30%以下を貧酸素としている。

付図 8.4-24(3) 貧酸素水塊の分布(愛知県水産試験場 平成26年)

[「愛知県水産試験場: 伊勢・三河湾貧酸素情報(H26-1号~15号)」より作成]

貧酸素水塊の分布(平成27年)

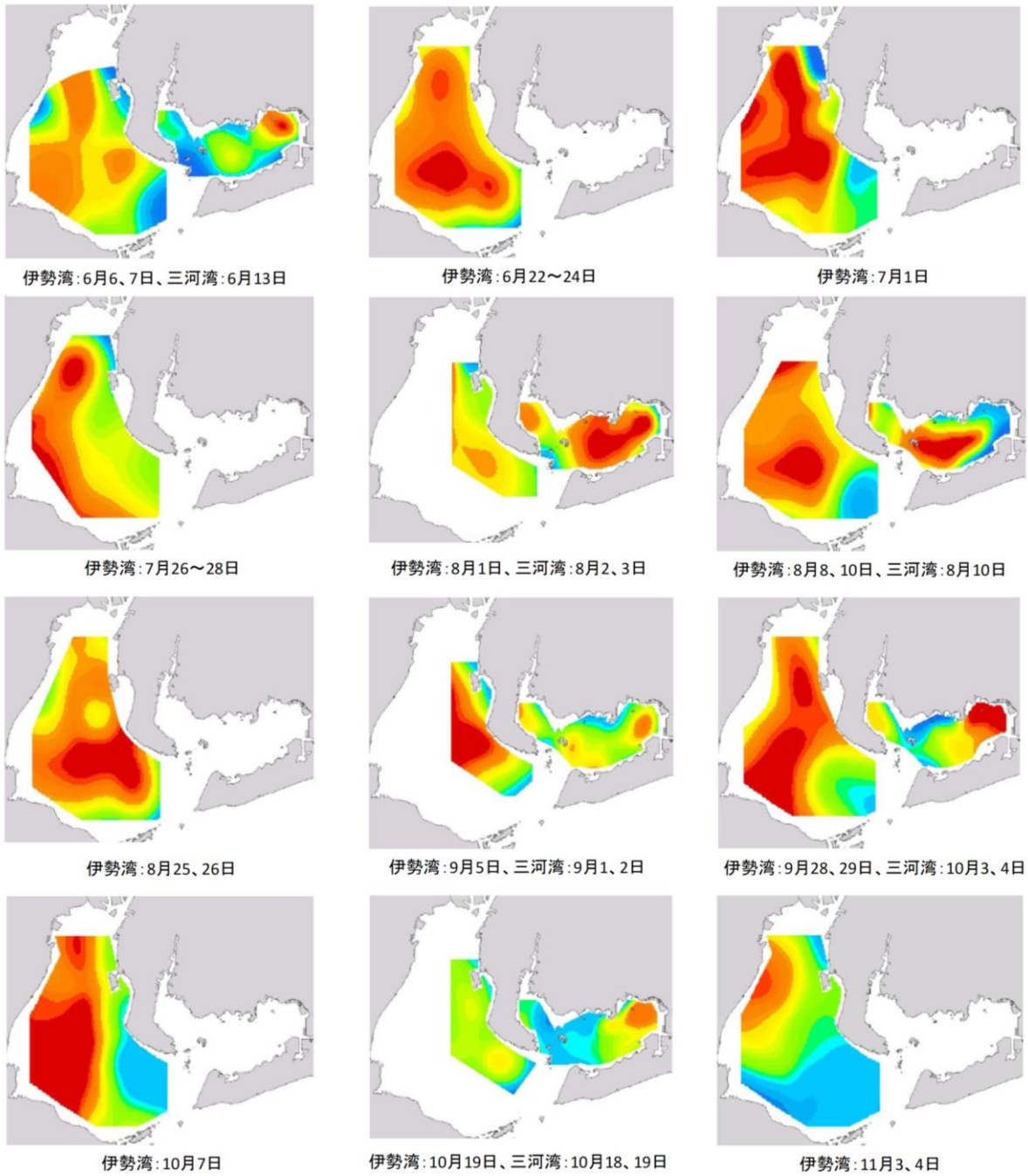


付図 8.4-24(4)

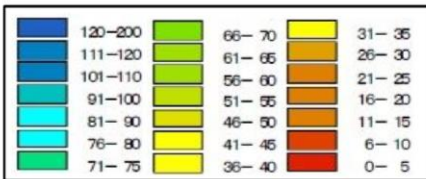
貧酸素水塊の分布(愛知県水産試験場 平成27年)

[「愛知県水産試験場:伊勢・三河湾貧酸素情報(H27-1号~20号)」より作成]

貧酸素水塊の分布(平成28年)



凡例: 溶存酸素飽和度(%)



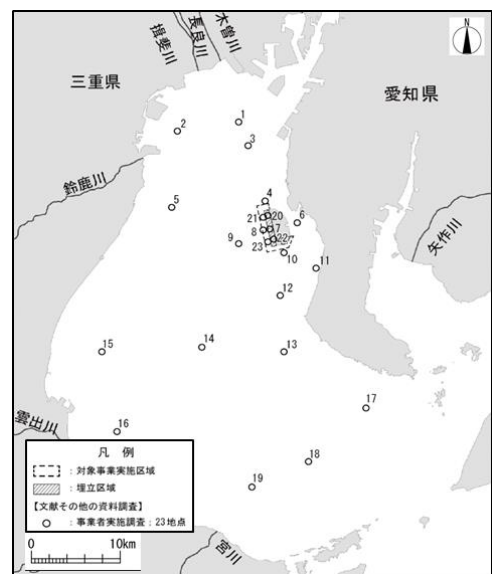
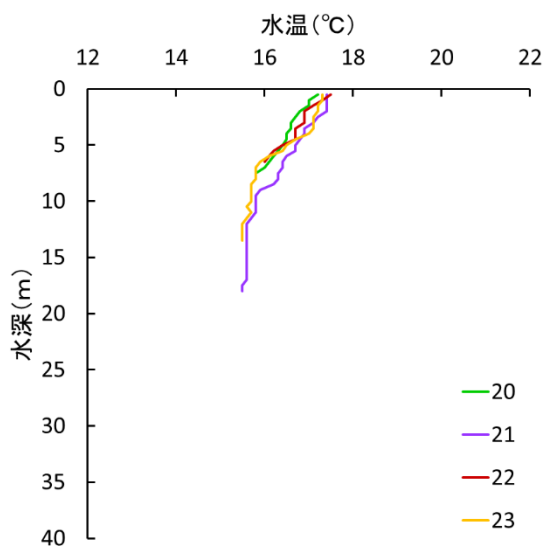
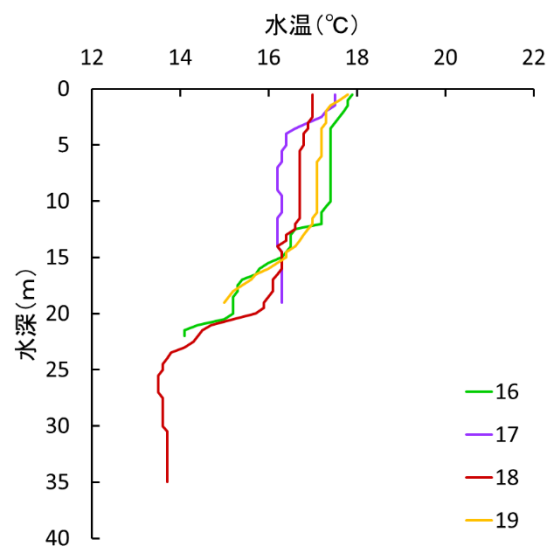
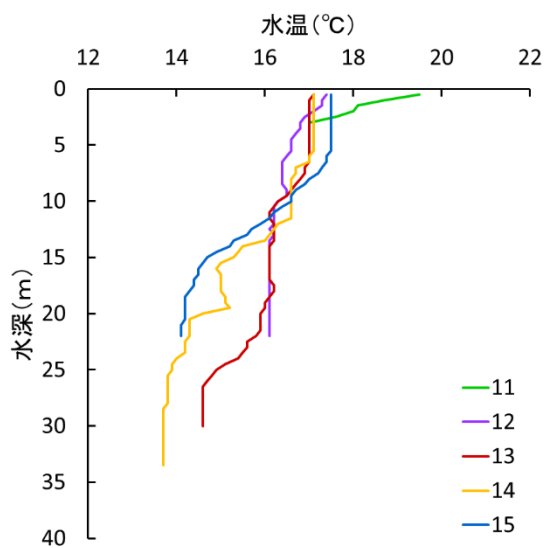
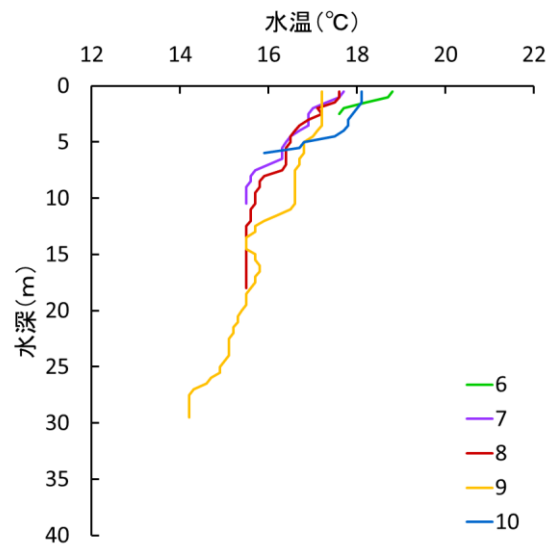
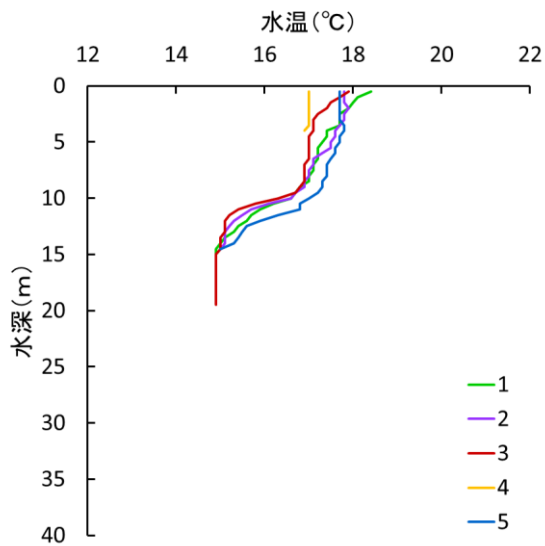
酸素飽和度	酸素濃度	魚介類への影響
50%	約4.0ppm	魚類・甲殻類に悪影響
30%	約2.4ppm	貝類・底生魚類の生存困難
10%	約0.8ppm	全ての底生生物の生存困難

※観測水深: 底層

※愛知県水産試験場では、溶存酸素飽和度50%以下を低酸素、30%以下を貧酸素としている。

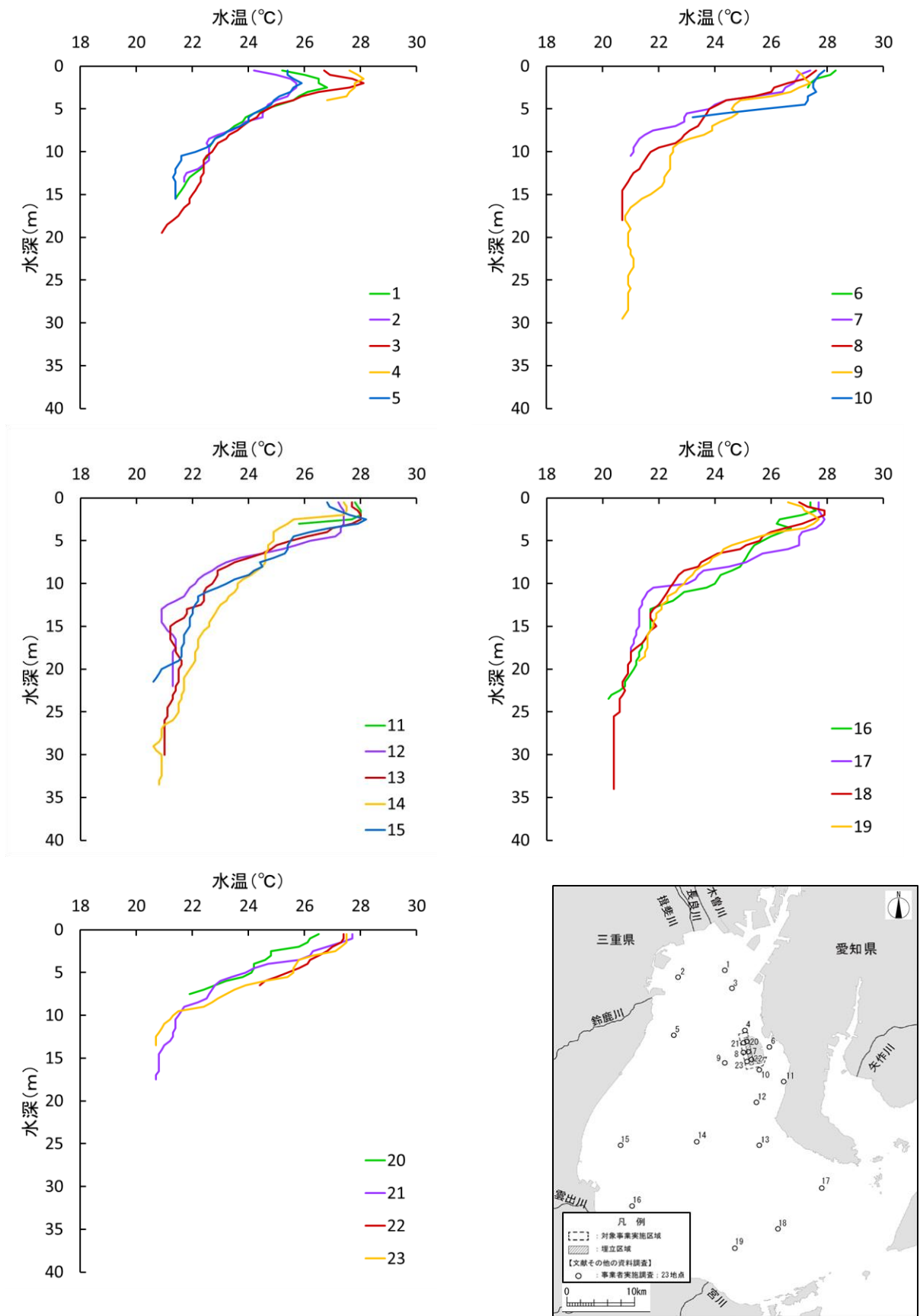
付図 8.4-24(5) 貧酸素水塊の分布(愛知県水産試験場 平成28年)

[「愛知県水産試験場: 伊勢・三河湾貧酸素情報(H28-1号~21号)」より作成]



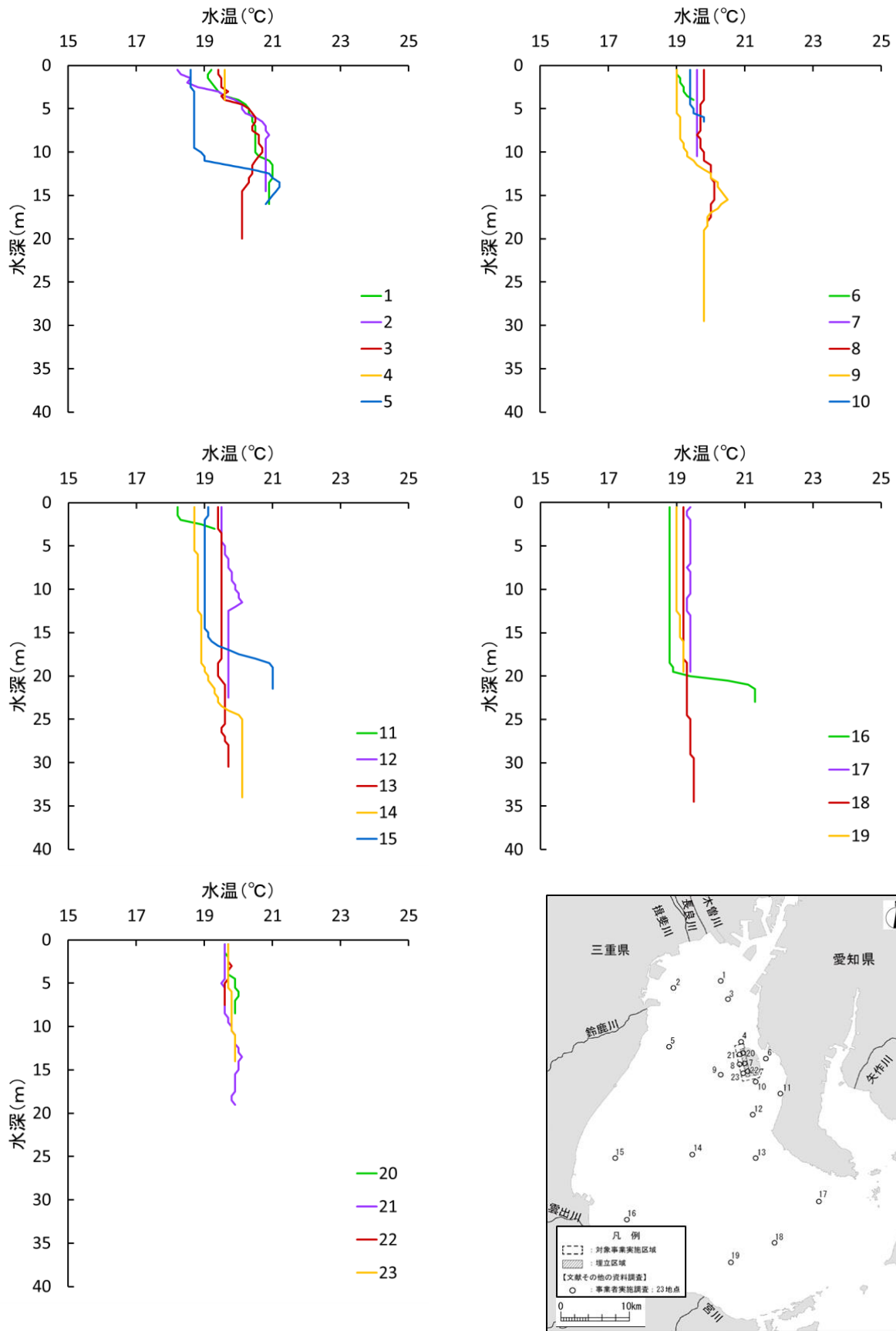
付図 8.4-25(1) 水温の鉛直分布（事業者実施調査、平成 26 年 5 月）

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成〕



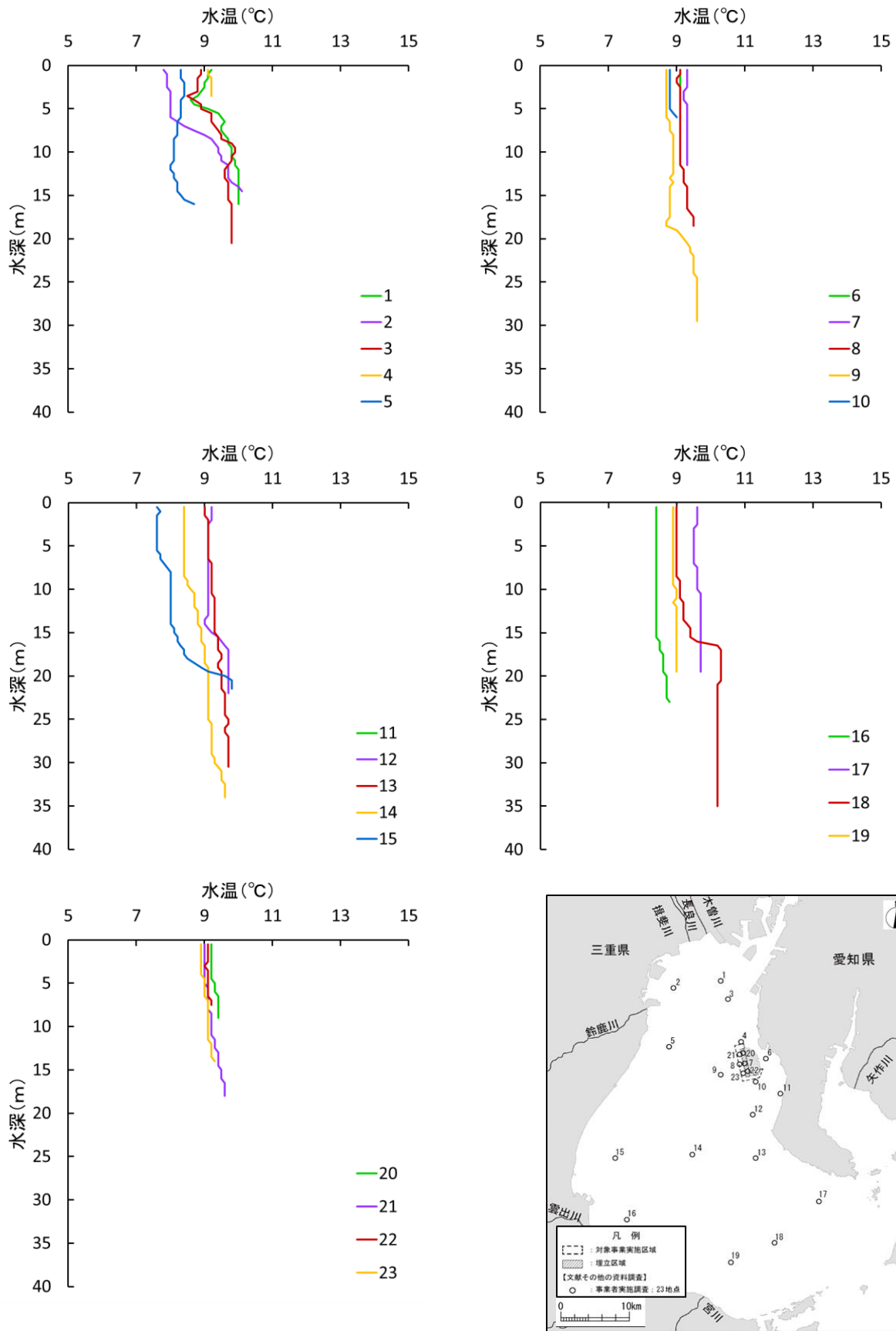
付図 8.4-25(2) 水温の鉛直分布（事業者実施調査、平成 26 年 8 月）

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成〕



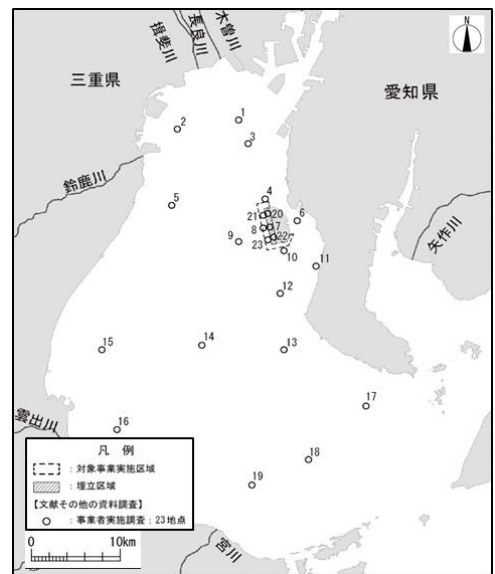
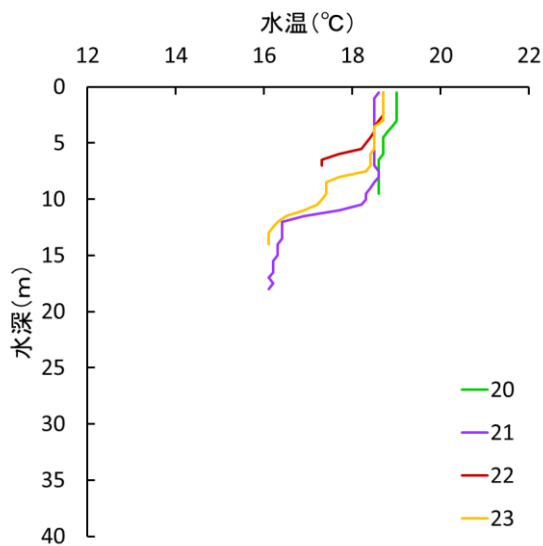
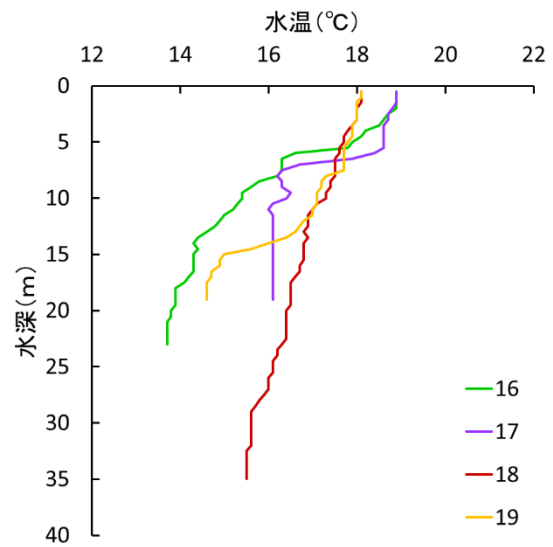
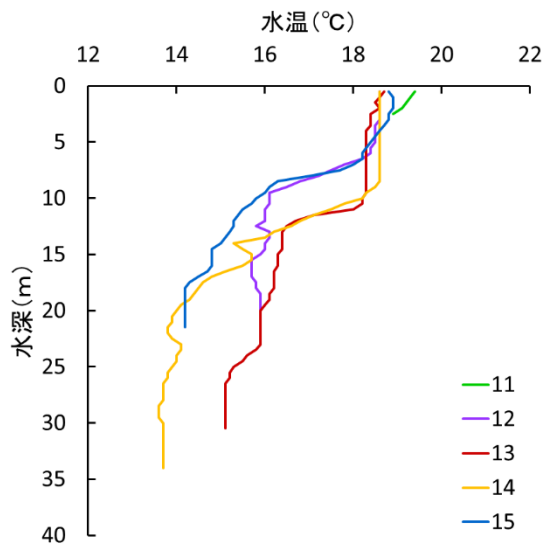
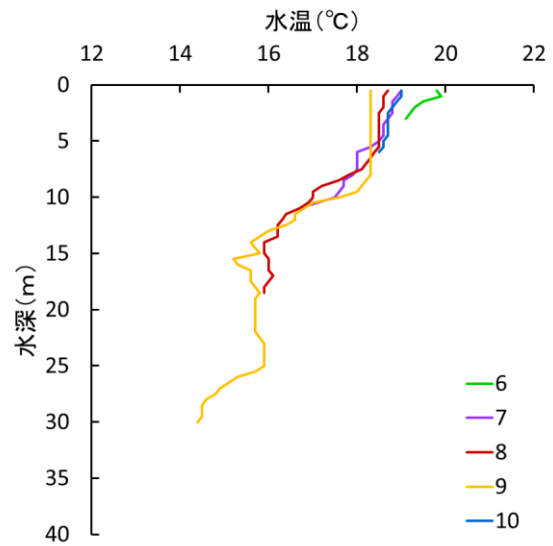
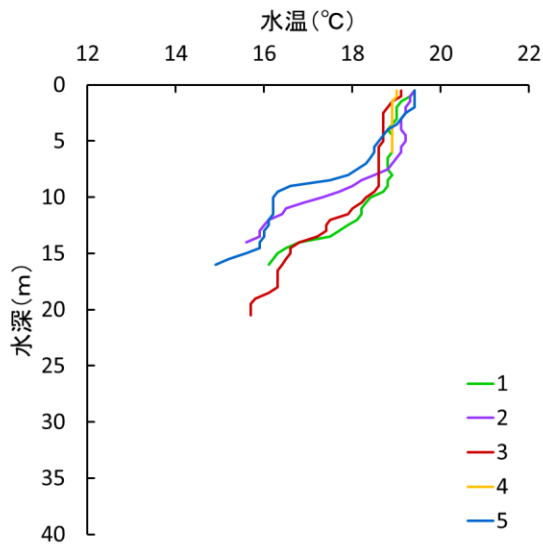
付図 8.4-25(3) 水温の鉛直分布（事業者実施調査、平成 26 年 11 月）

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成〕



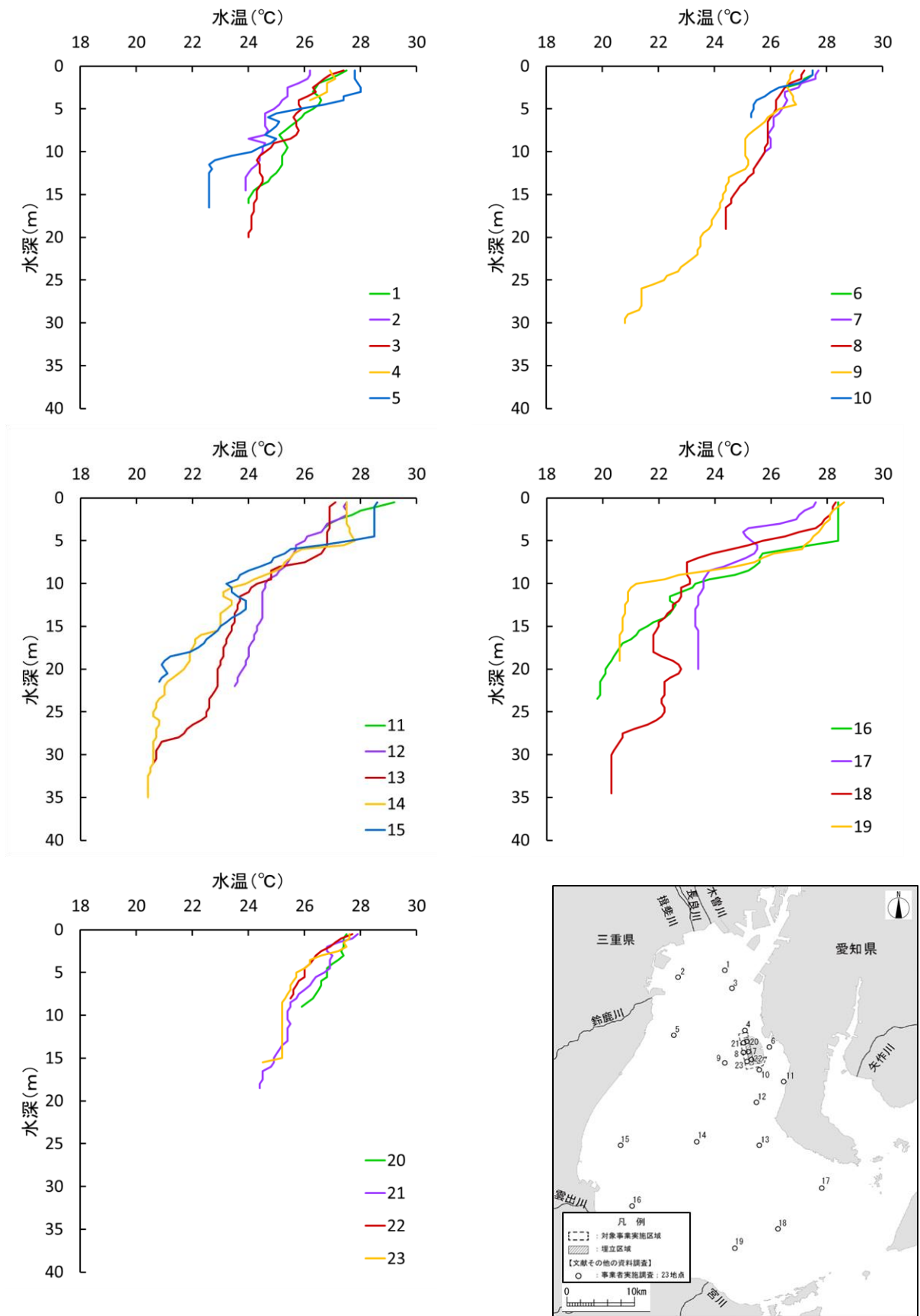
付図 8.4-25(4) 水温の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 27 年 2 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



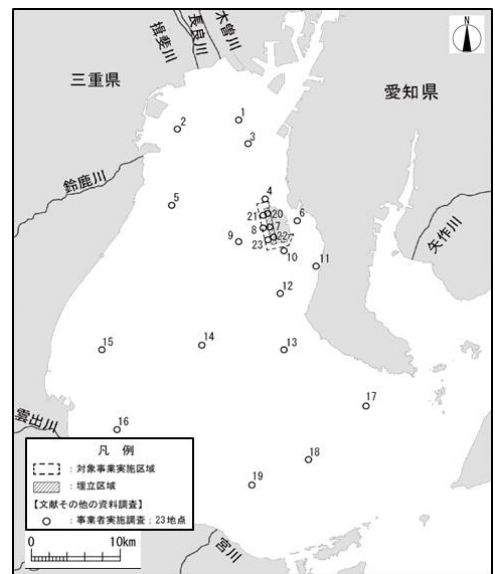
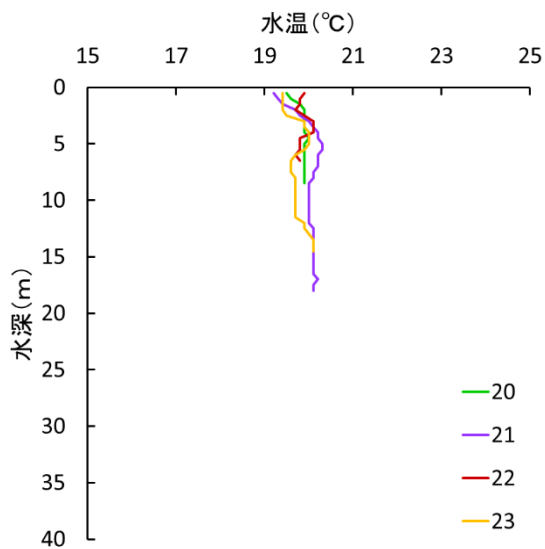
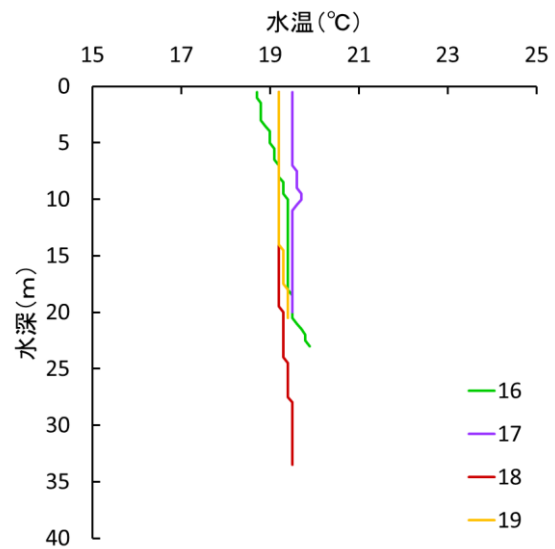
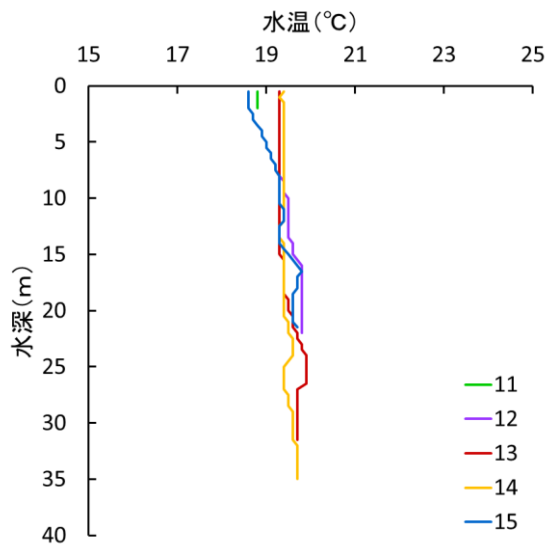
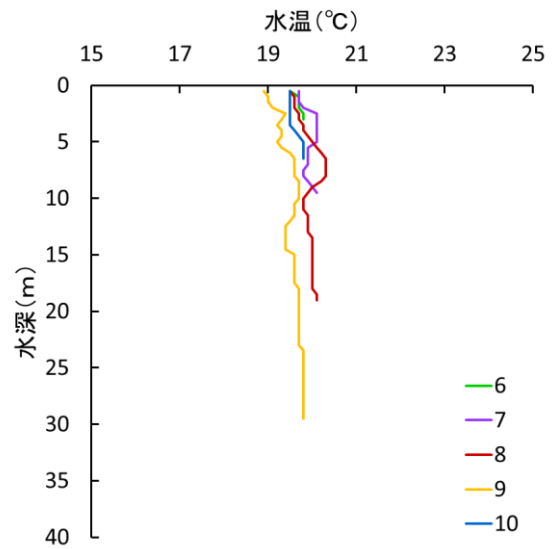
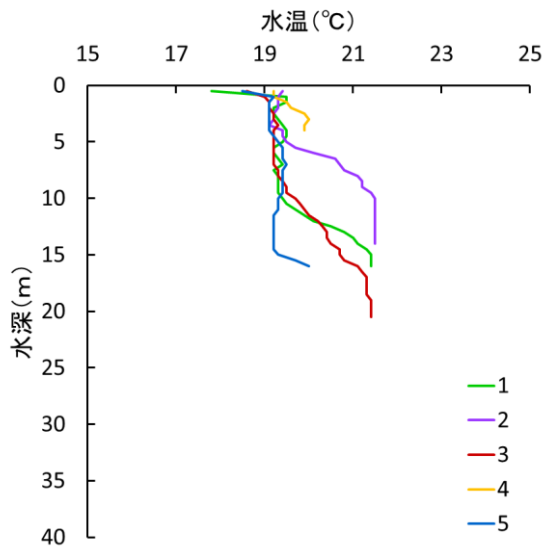
付図 8.4-25(5) 水温の鉛直分布（事業者実施調査、平成 27 年 5 月）

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成〕



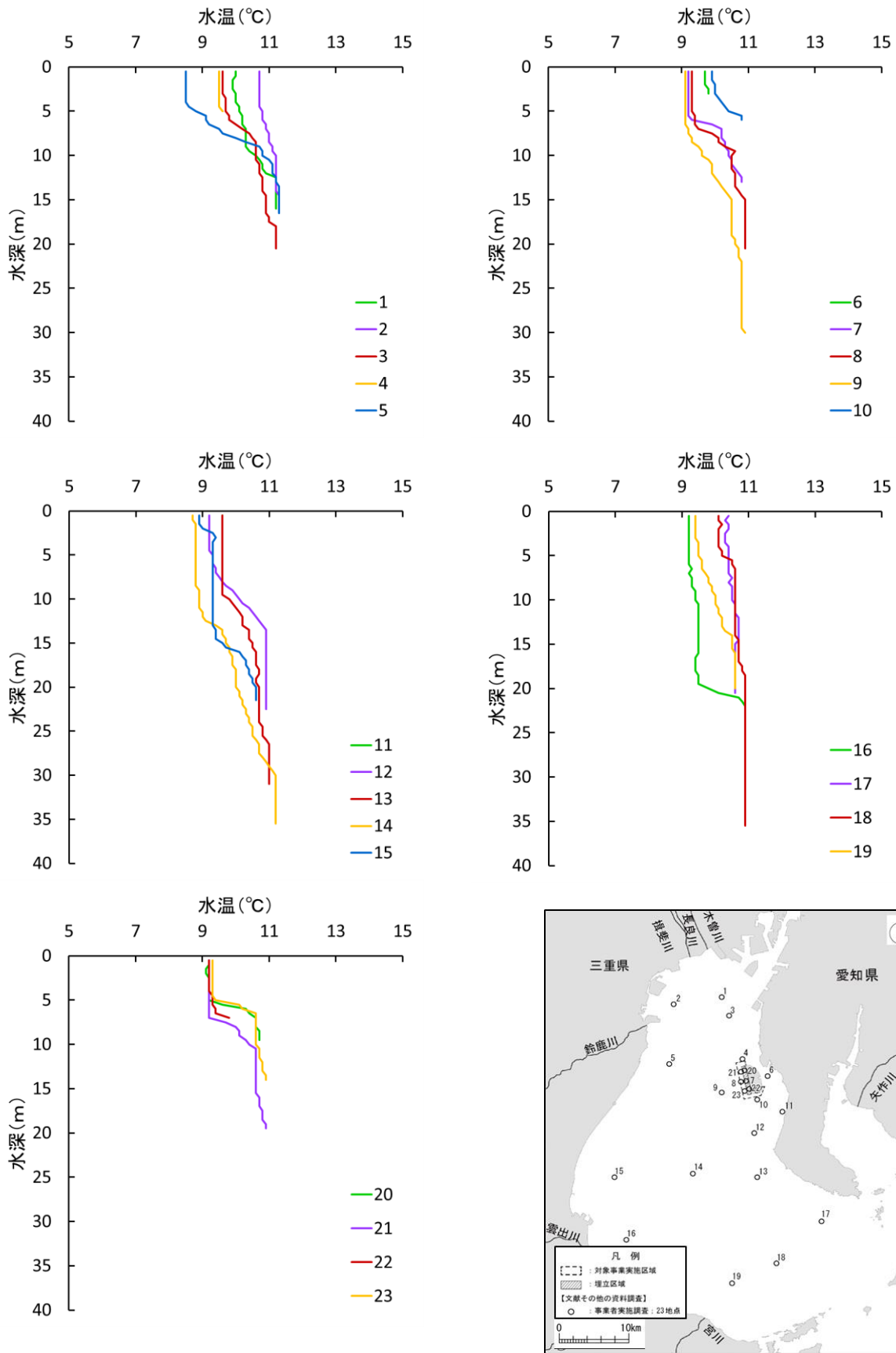
付図 8.4-25(6) 水温の鉛直分布（事業者実施調査、平成 27 年 8 月）

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成〕



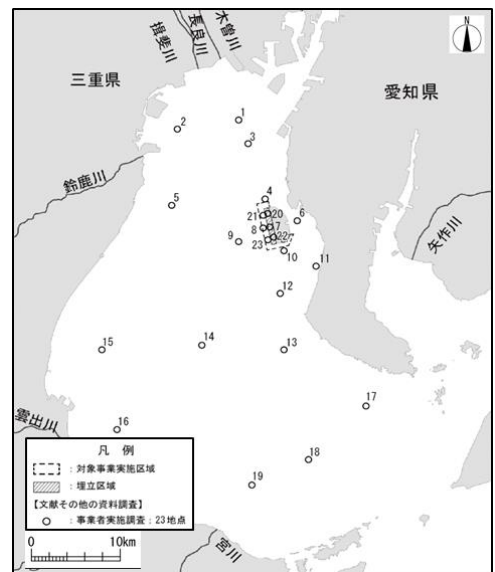
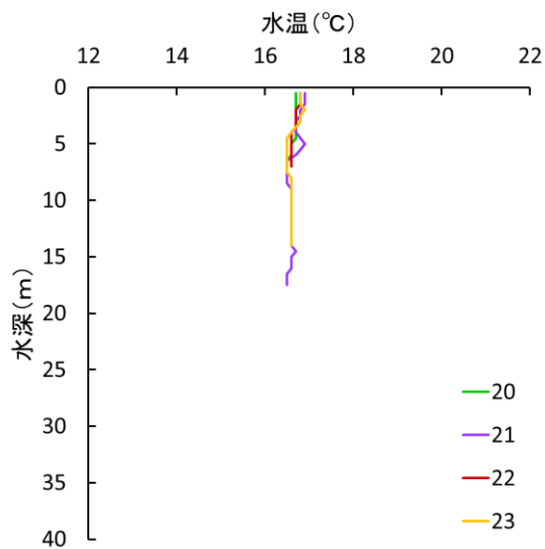
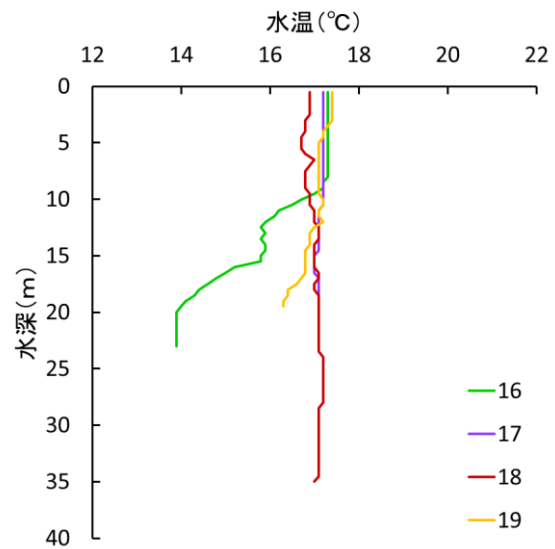
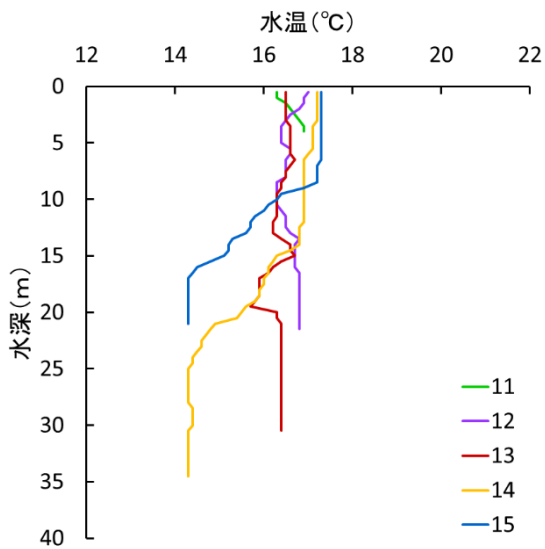
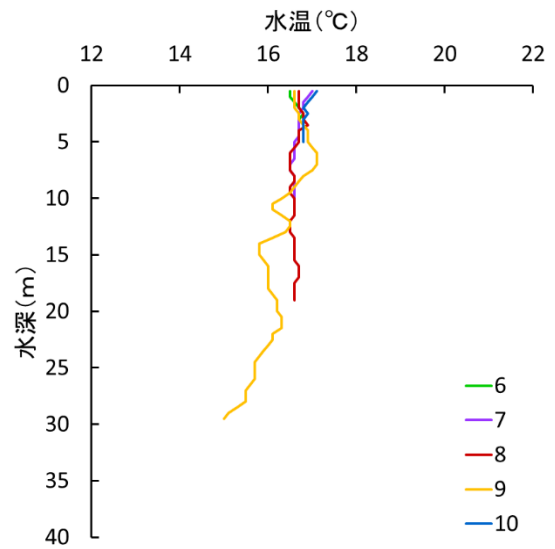
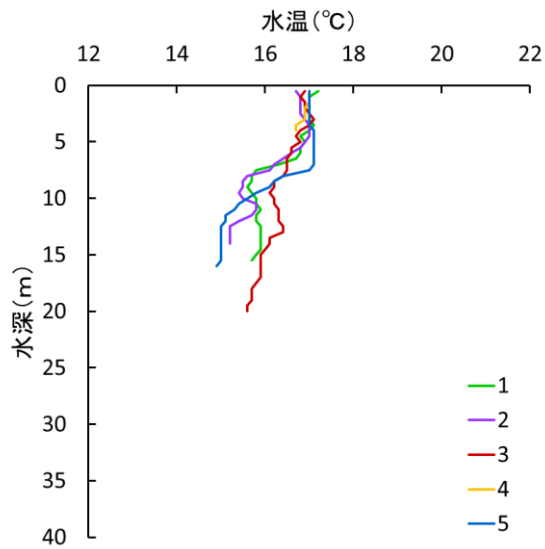
付図 8.4-25(7) 水溫の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 27 年 11 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



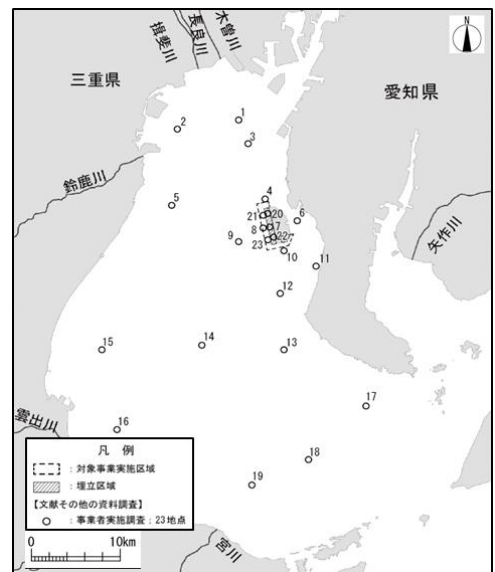
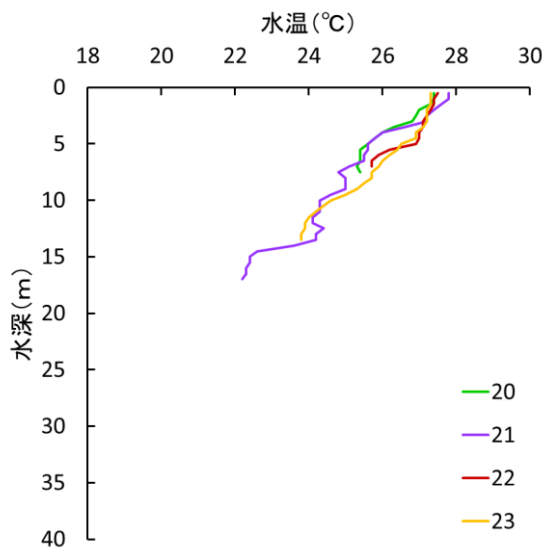
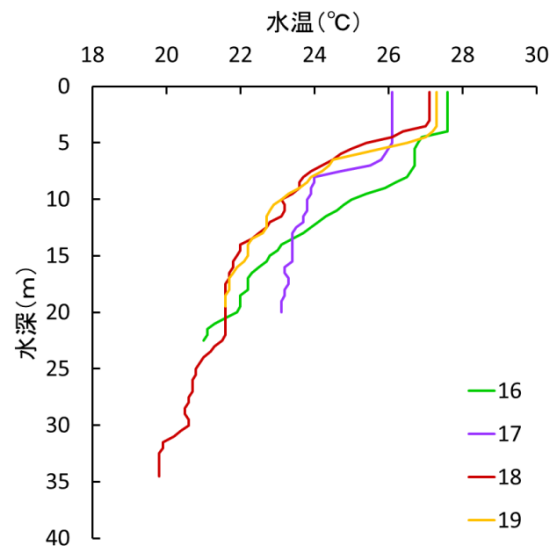
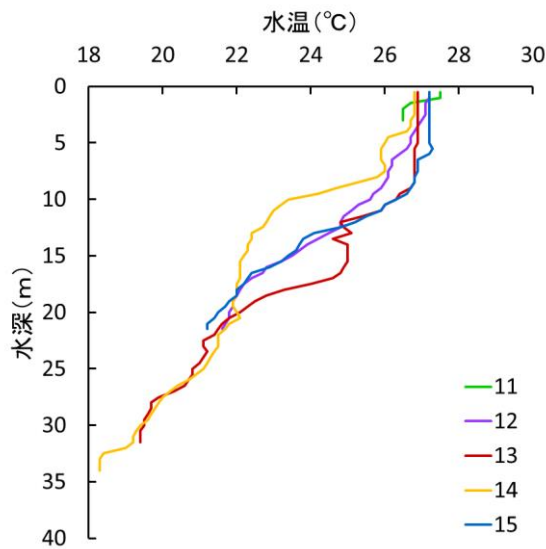
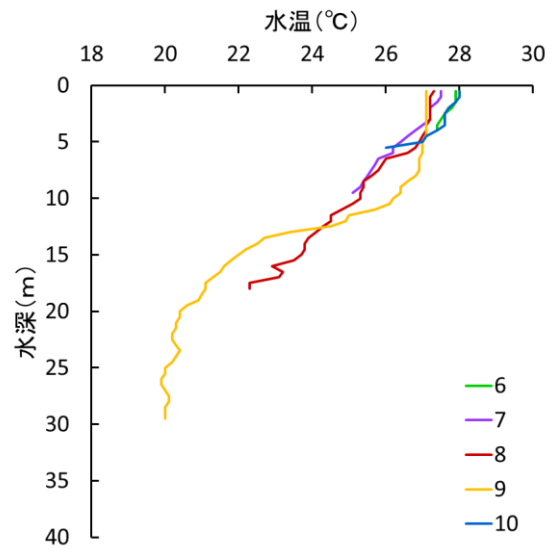
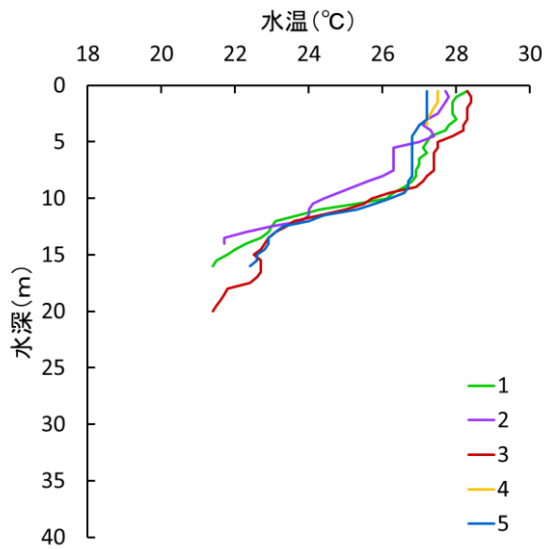
付図 8.4-25(8) 水温の鉛直分布（事業者実施調査、平成 28 年 2 月）

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成〕



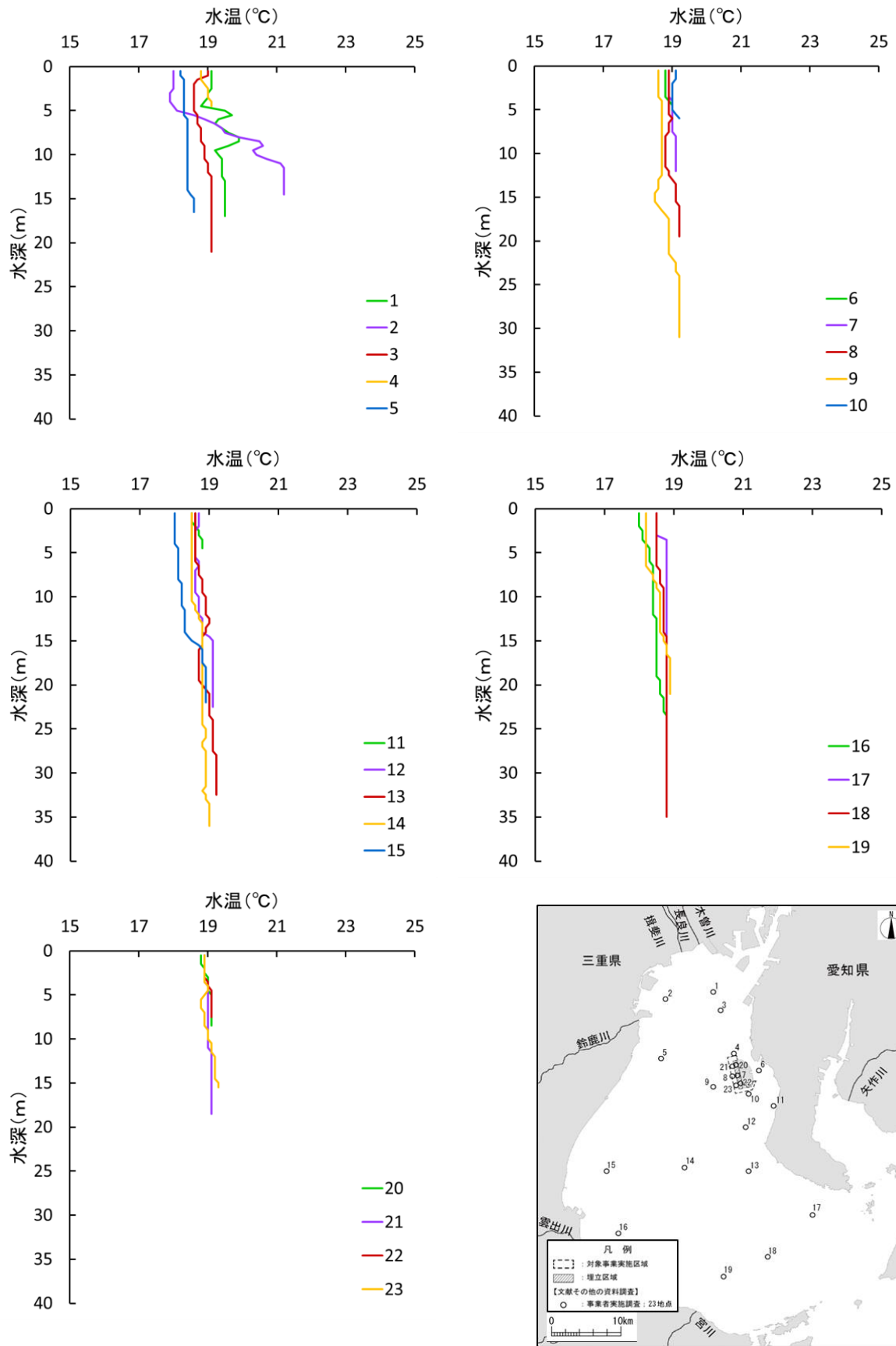
付図 8.4-25(9) 水溫の鉛直分布（事業者実施調査、平成 28 年 5 月）

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成〕



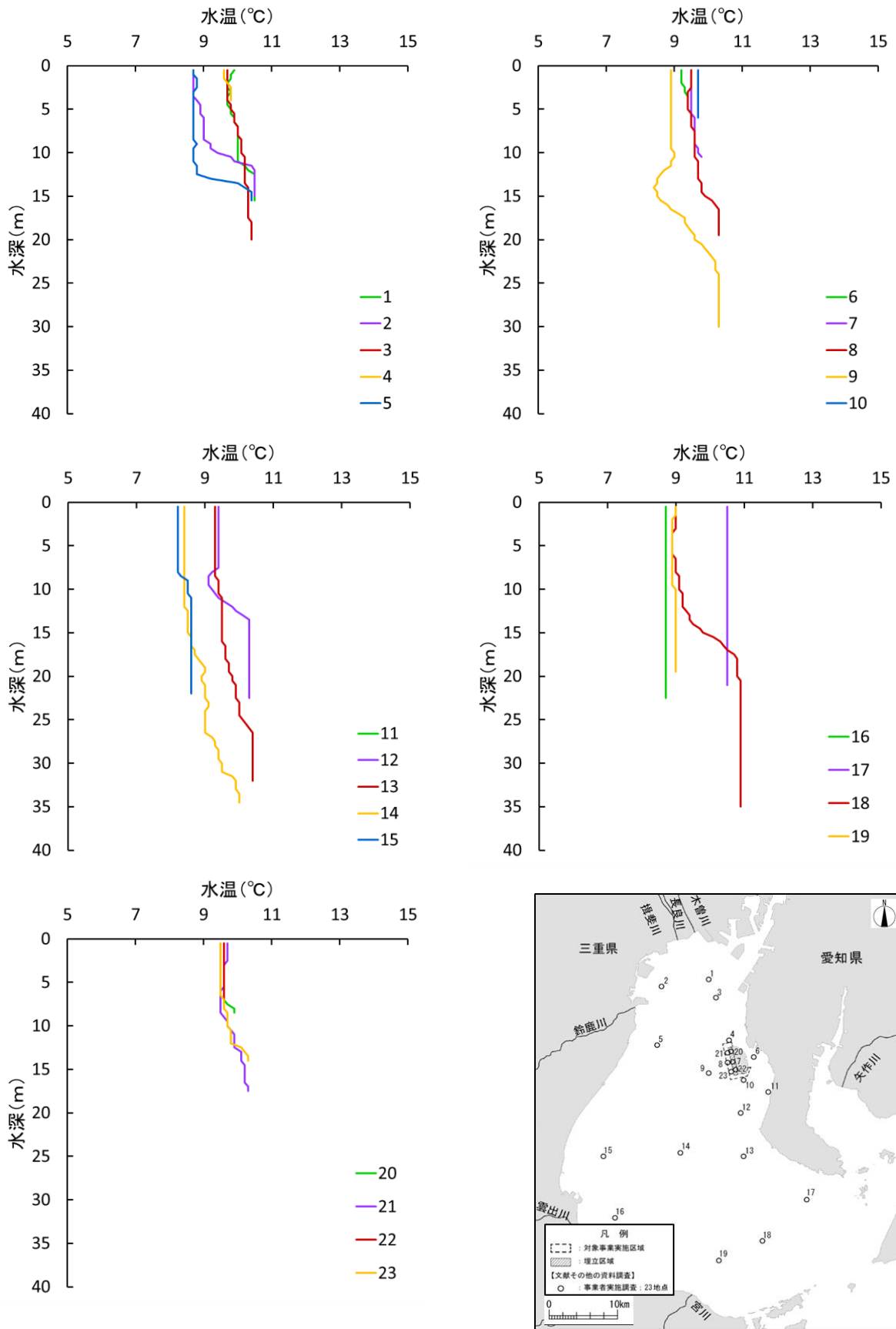
付図 8.4-25(10) 水温の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 28 年 8 月)

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成〕



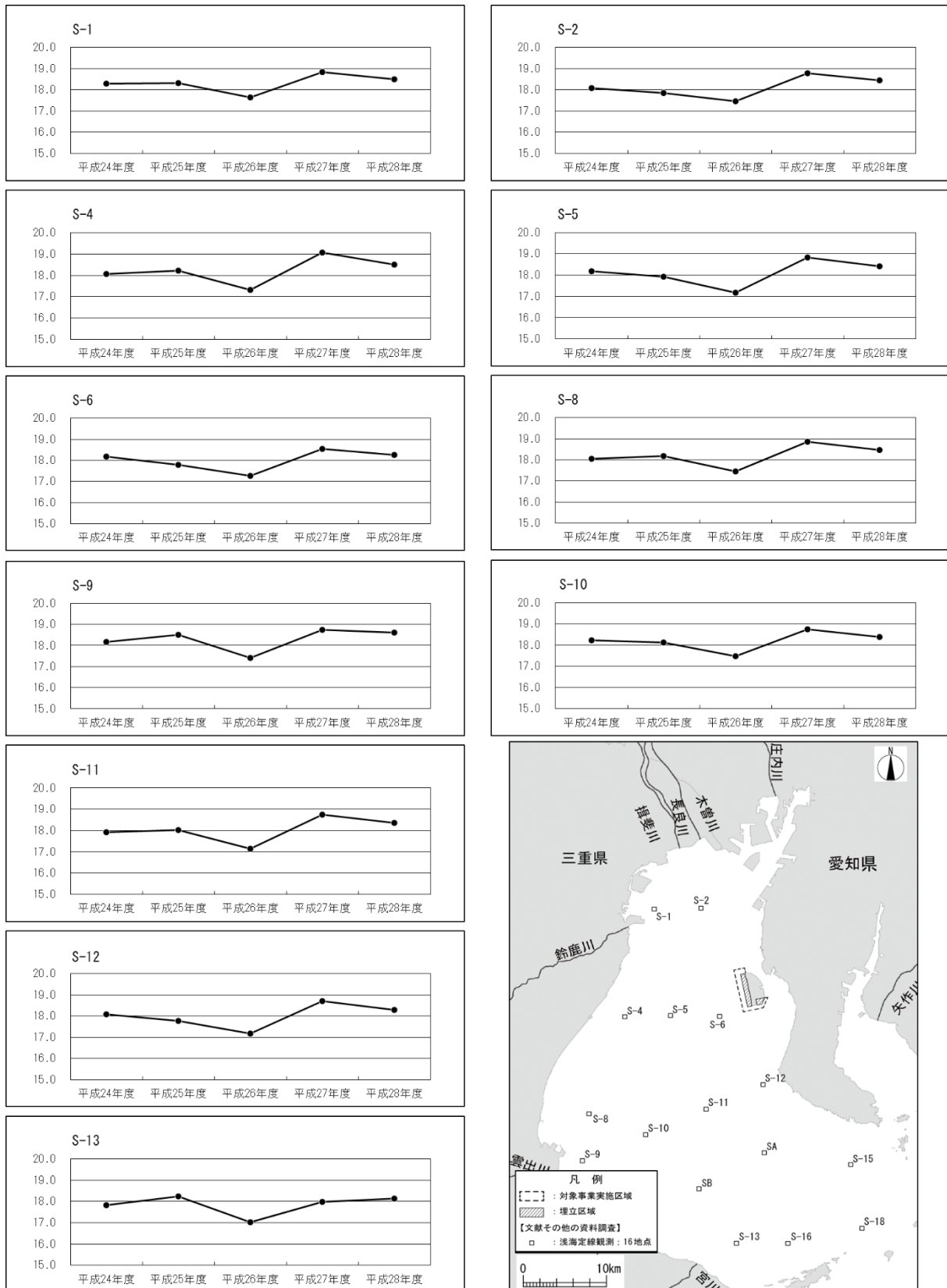
付図 8.4-25(11) 水温の鉛直分布（事業者実施調査、平成 28 年 11 月）

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 （国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成



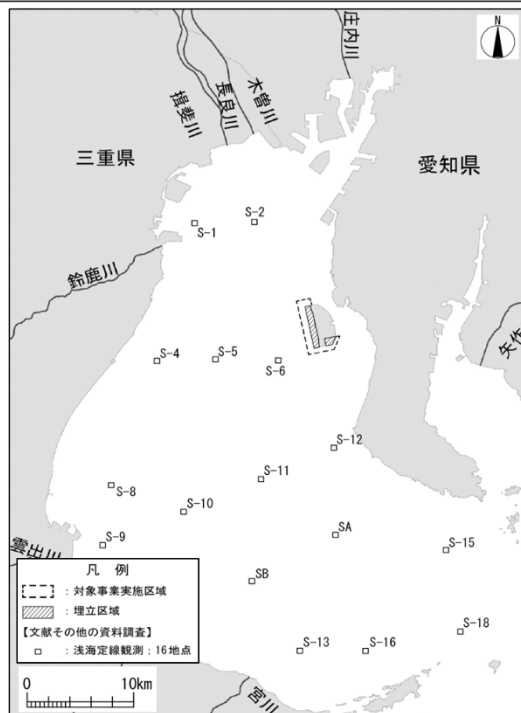
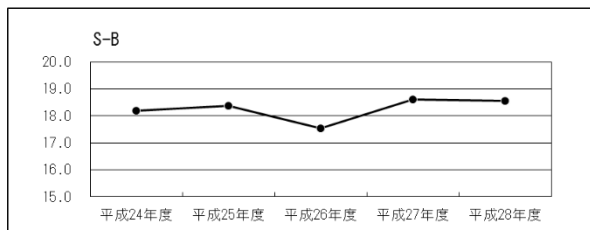
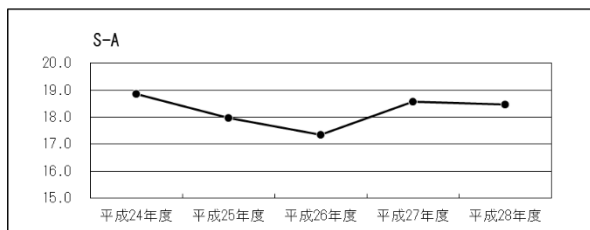
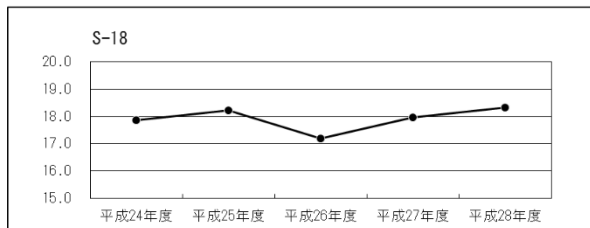
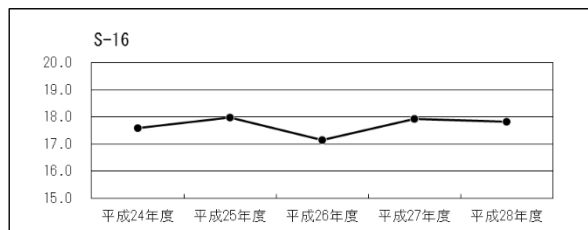
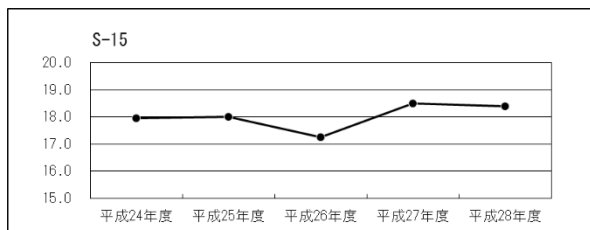
付図 8.4-25(12) 水温の鉛直分布（事業者実施調査、平成 29 年 2 月）

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 〔国土交通省中部地方整備局、平成 29 年〕より作成



付図 8.4-26(1) 地点別水温の経年変化（三重県 年平均値 上層）

〔「浅海定線観測結果（平成24～28年度）」（三重県HP）より作成〕

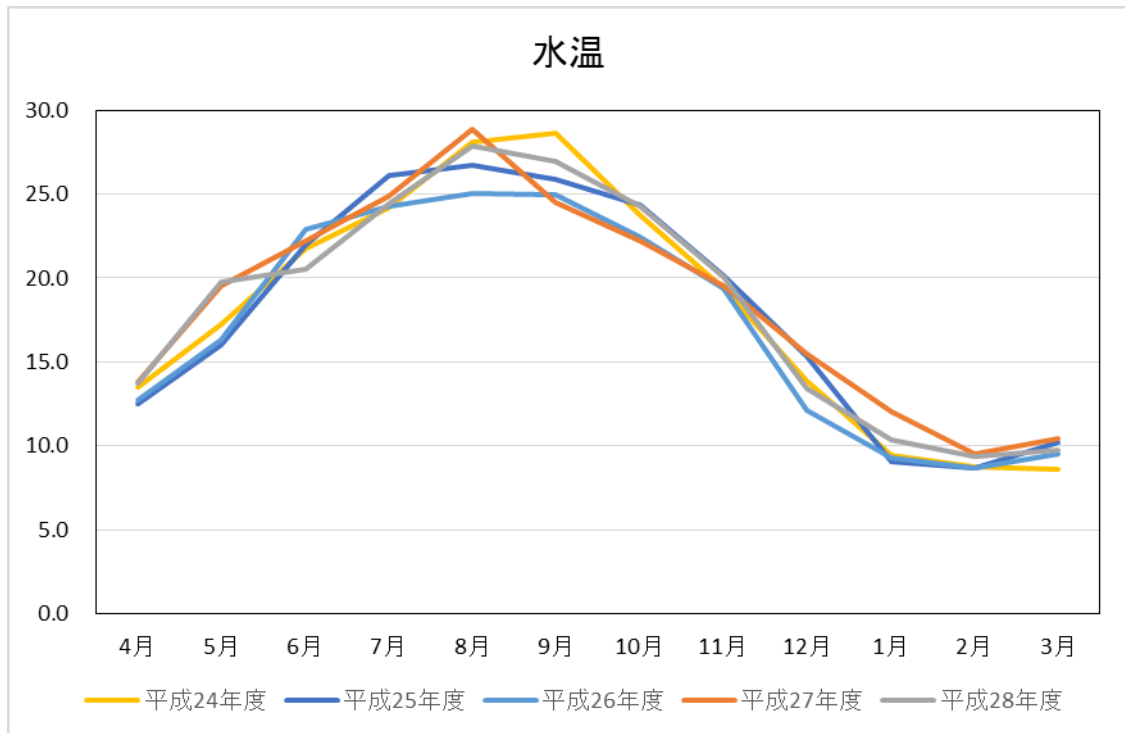


付図 8.4-26(2) 地点別水温の経年変化（三重県 年平均値 上層）

注：三重県の地点名とその略称は下表のとおりである。

三重県地点 名称	略称	三重県地点 名称	略称
1	S-1	11	S-11
2	S-2	12	S-12
4	S-4	13	S-13
5	S-5	15	S-15
6	S-6	16	S-16
8	S-8	18	S-18
9	S-9	A	SA
10	S-10	B	SB

〔「浅海定線観測結果（平成24～28年度）」（三重県HP）より作成〕



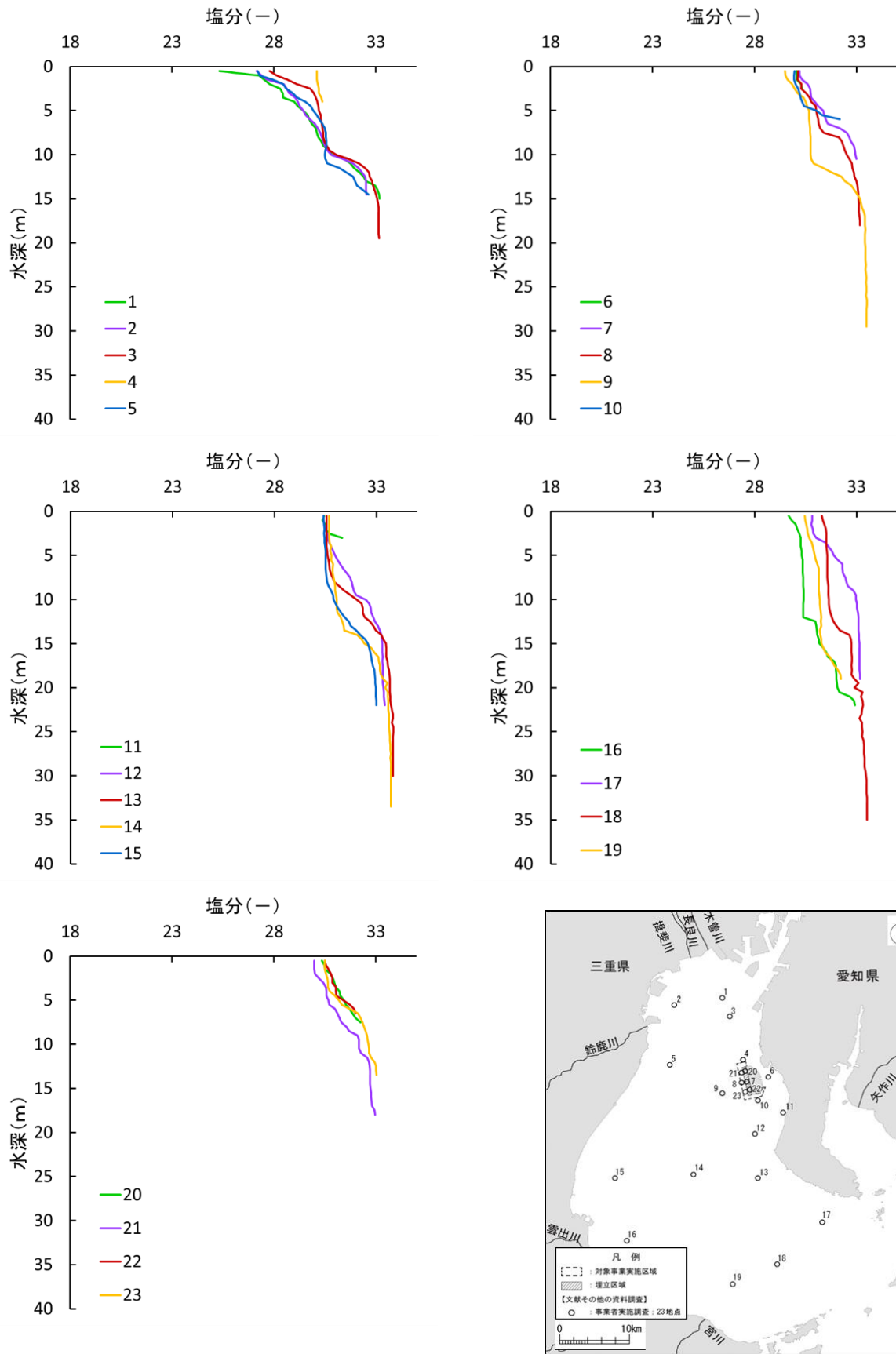
(単位：℃)

月 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成 24	13.5	17.2	21.7	24.2	28.1	28.6	23.7	19.4	13.9	9.4	8.8	8.6
平成 25	12.5	16.0	21.9	26.1	26.8	25.9	24.3	20.2	15.3	9.1	8.7	10.2
平成 26	12.7	16.3	22.9	24.3	25.1	25.0	22.5	19.4	12.1	9.3	8.7	9.6
平成 27	13.8	19.5	22.2	24.9	28.8	24.5	22.2	19.5	15.5	12.1	9.5	10.4
平成 28	13.7	19.8	20.5	24.4	27.9	26.9	24.3	20.1	13.4	10.4	9.4	9.8

付図 8.4-27 水温測定結果 (三重県 月平均値 上層)

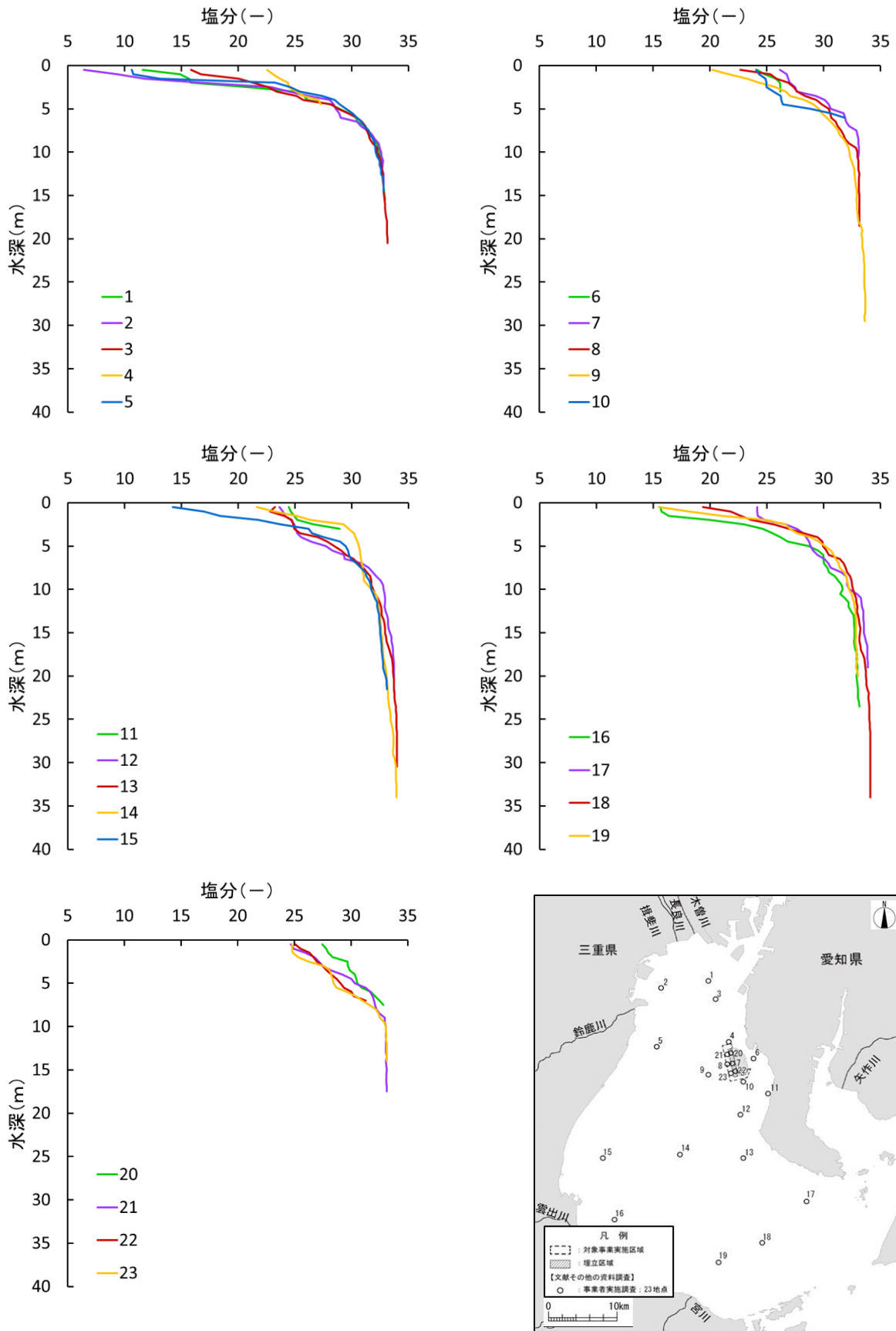
注：全地点の平均を示す。

〔「浅海定線観測結果 (平成 24~28 年度)」 (三重県 HP) より作成〕



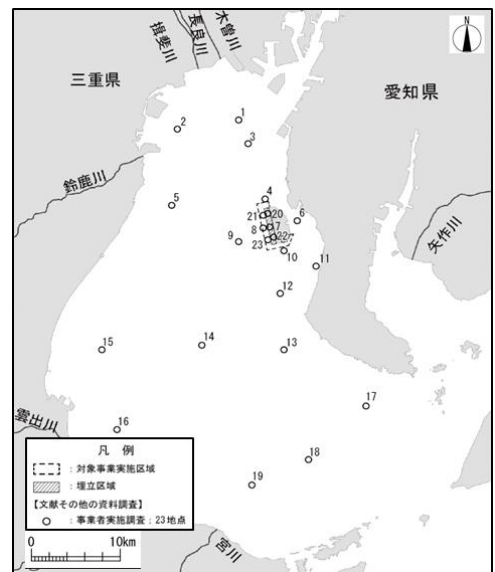
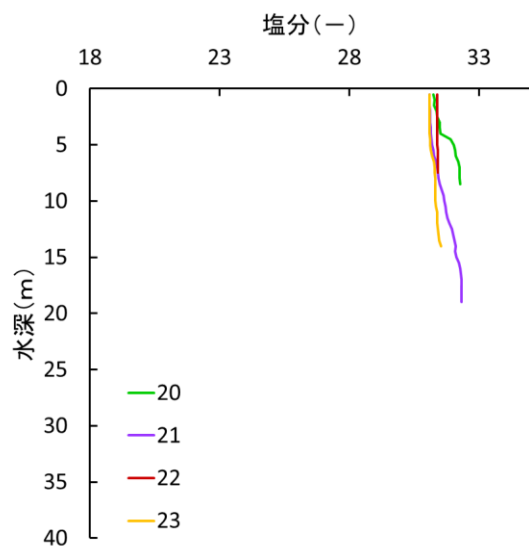
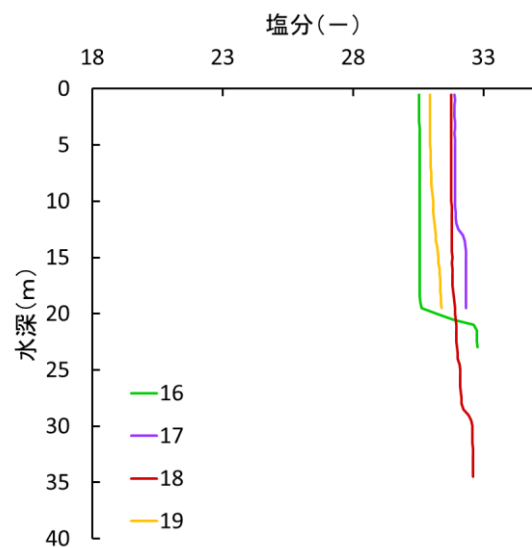
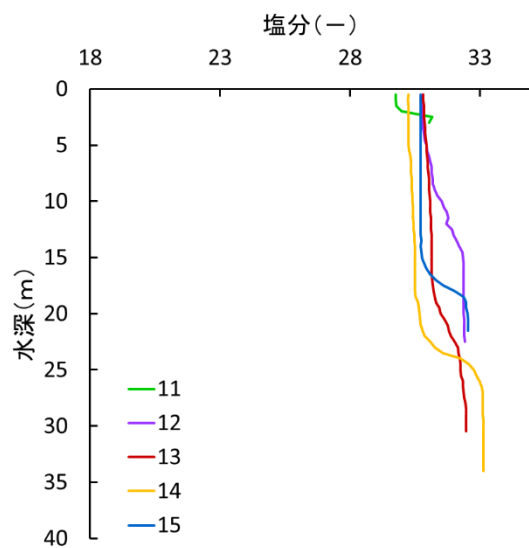
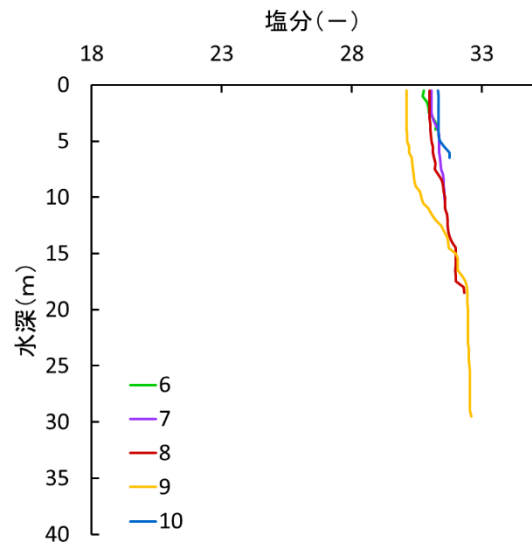
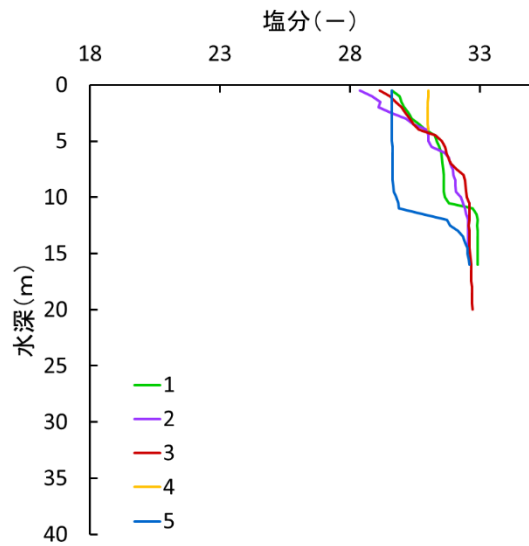
付図 8.4-28(1) 塩分の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 26 年 5 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



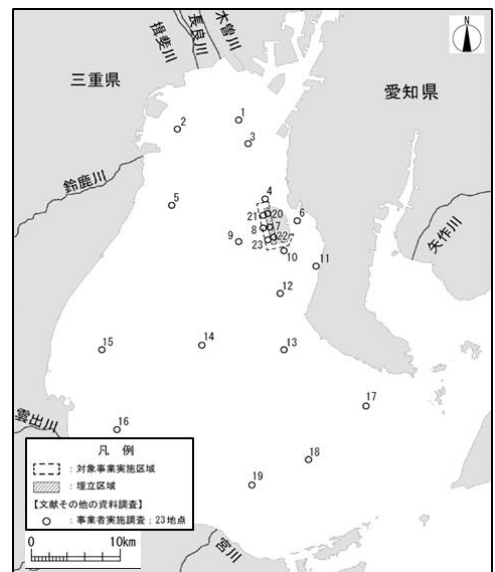
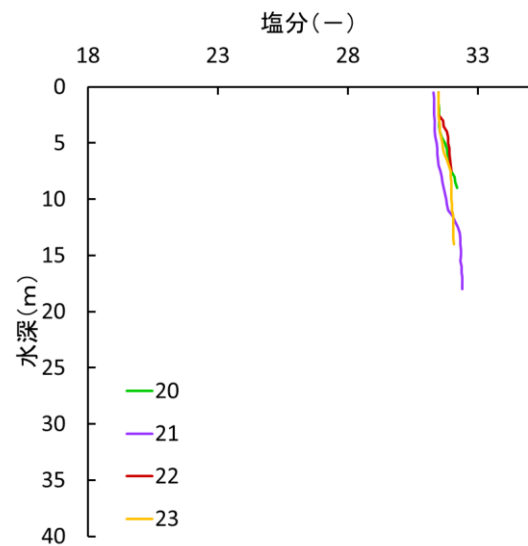
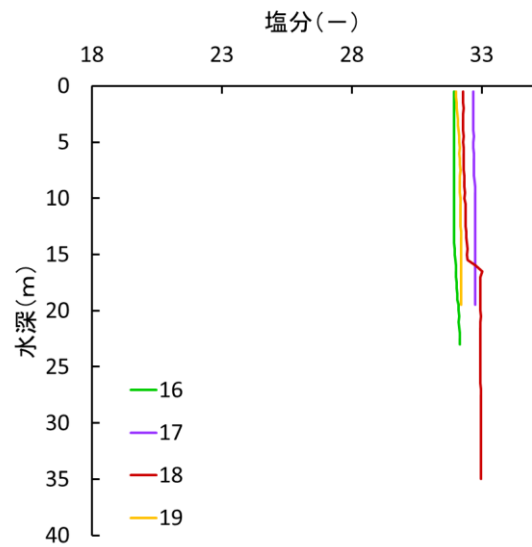
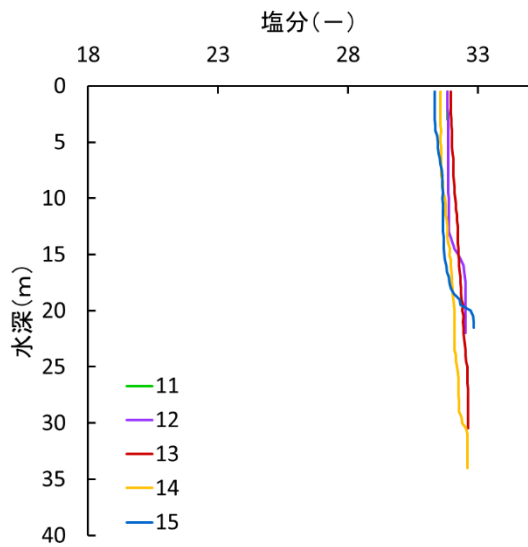
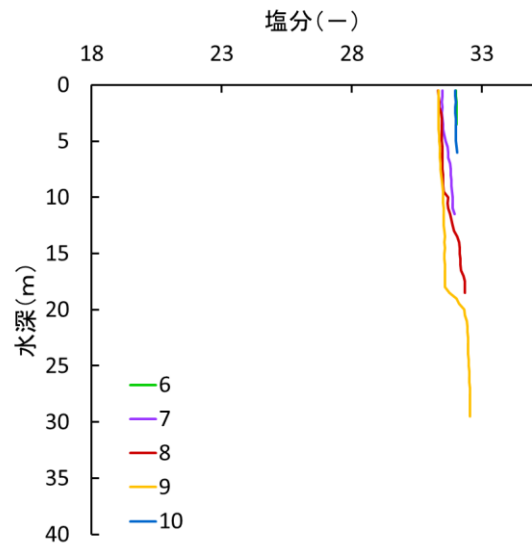
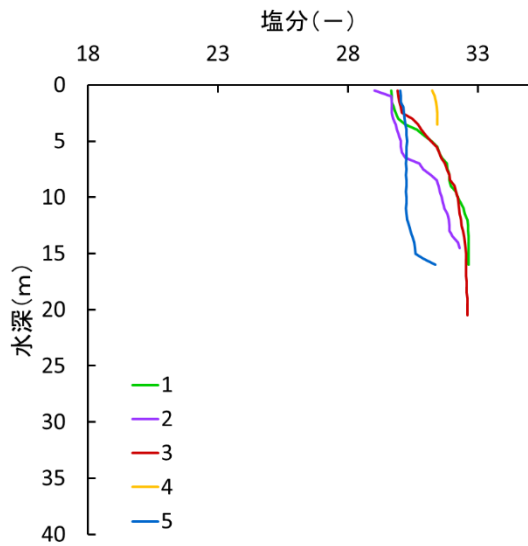
付図 8.4-28(2) 塩分の鉛直分布（事業者実施調査、平成 26 年 8 月）

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成〕



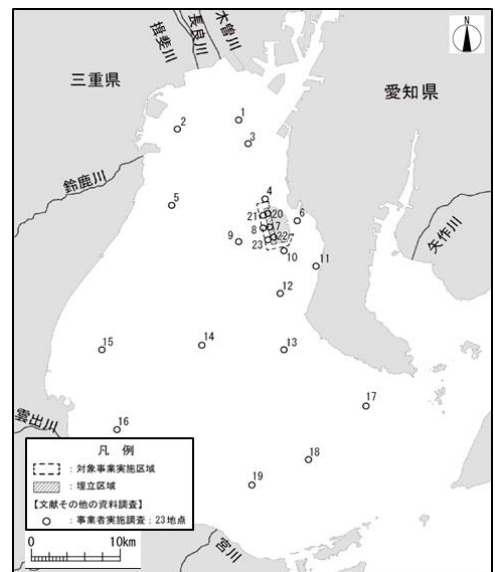
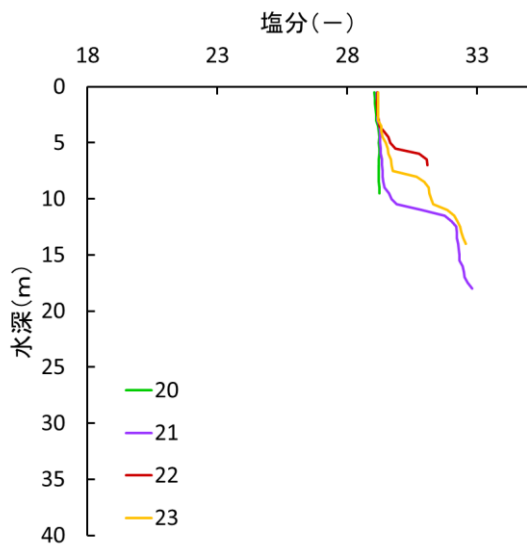
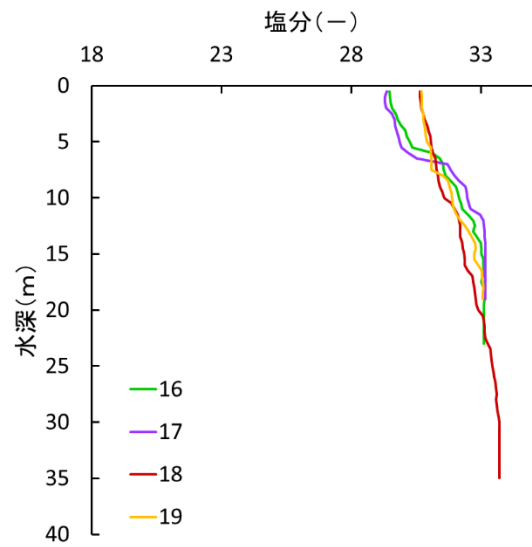
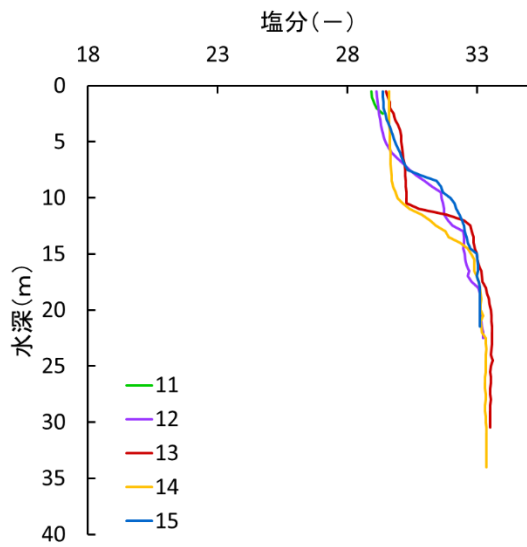
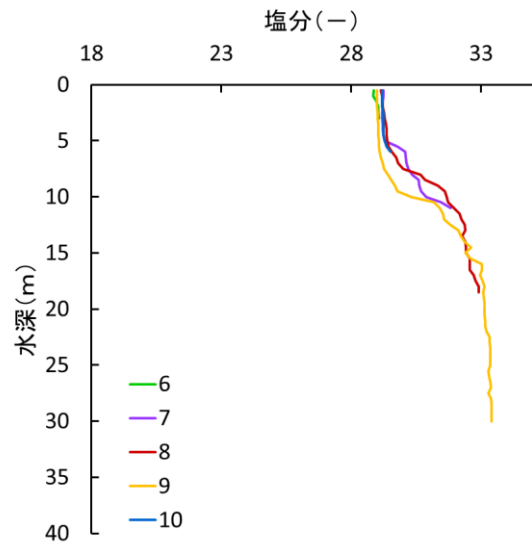
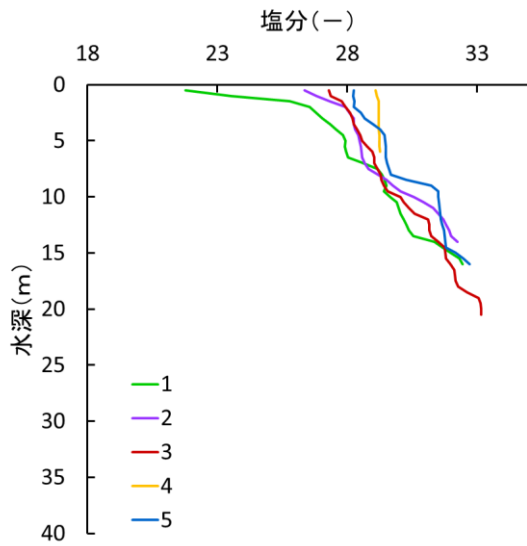
付図 8.4-28(3) 塩分の鉛直分布（事業者実施調査、平成 26 年 11 月）

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成〕



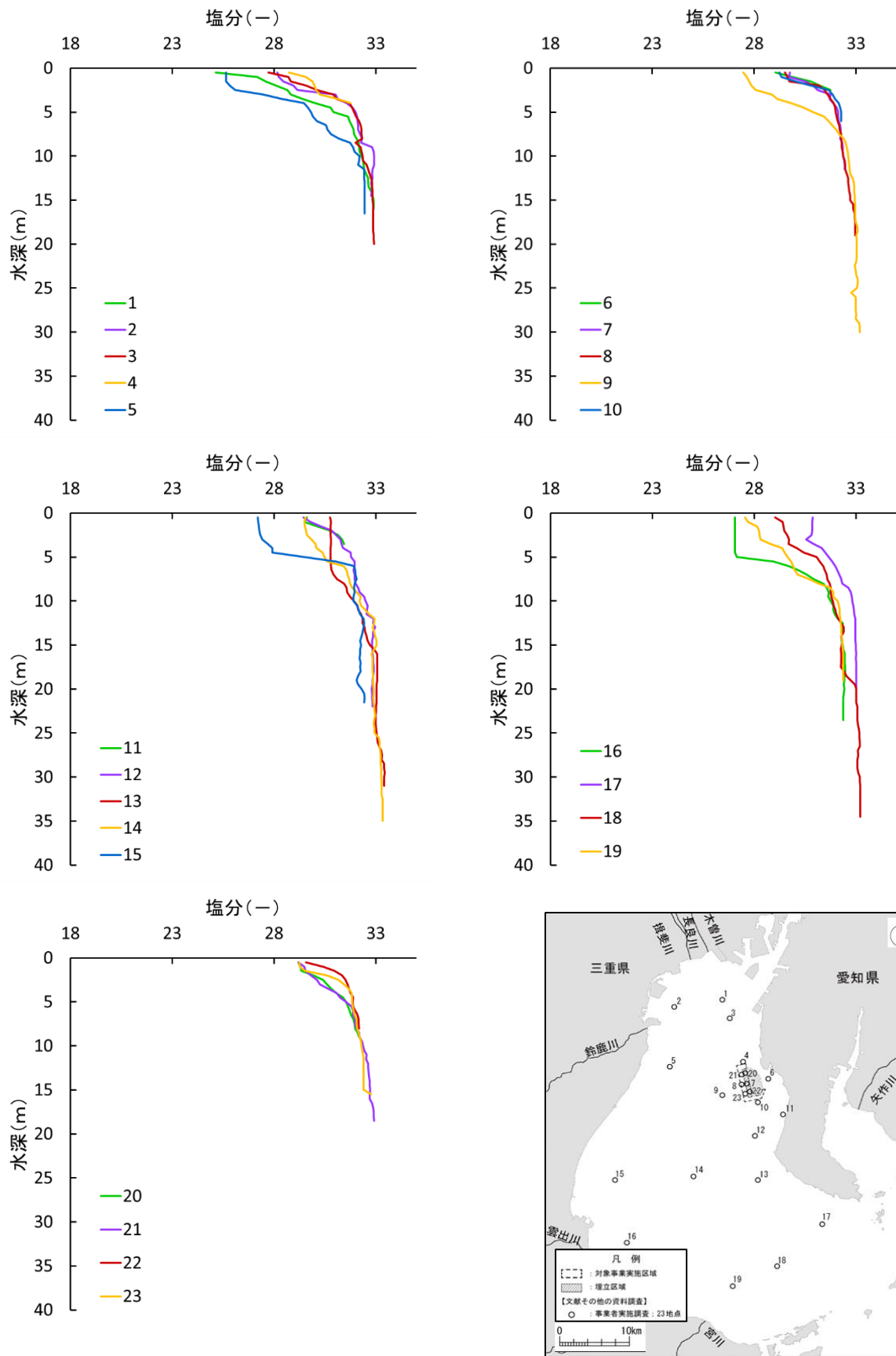
付図 8.4-28(4) 塩分の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 27 年 2 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



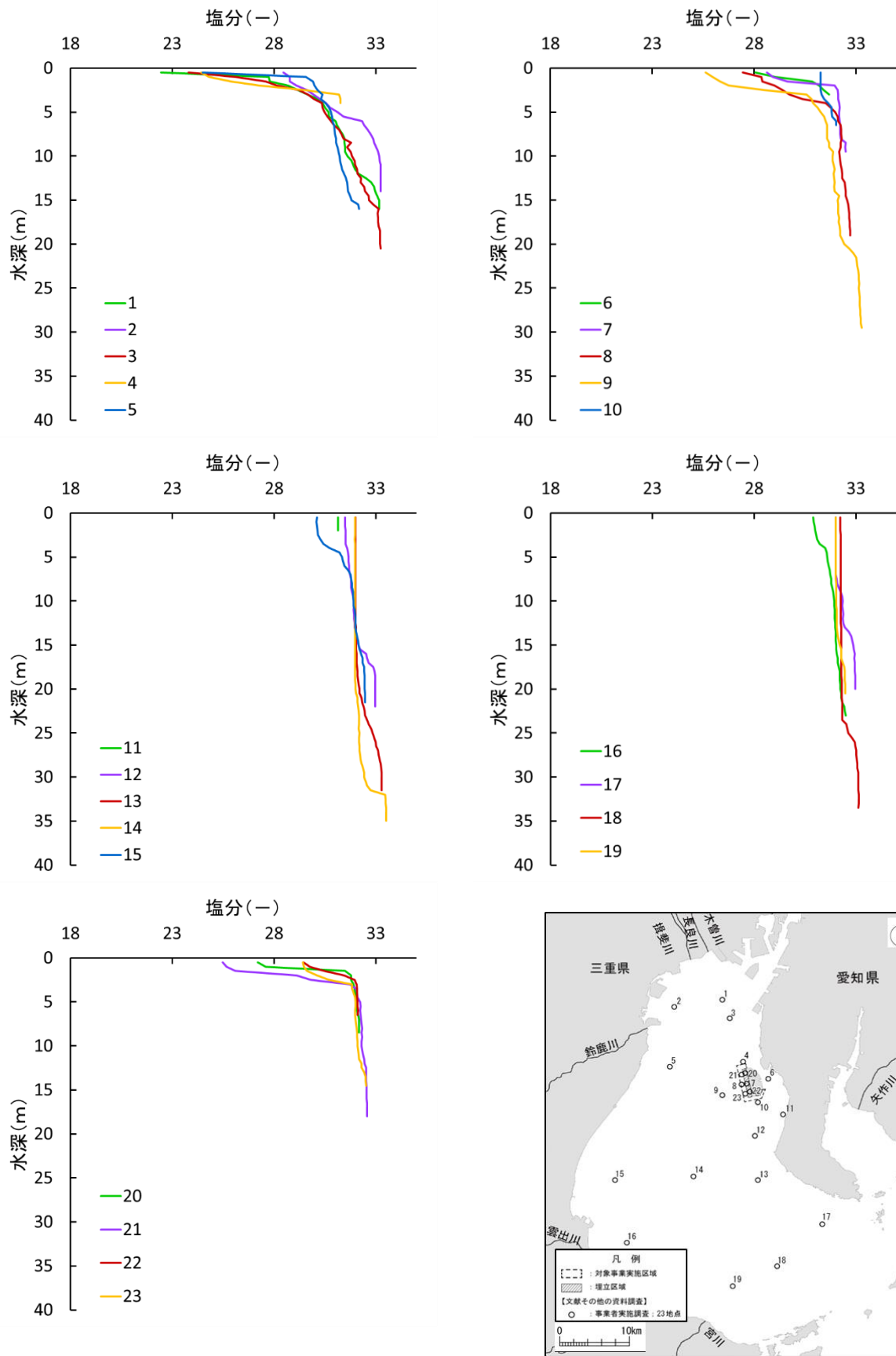
付図 8.4-28(5) 塩分の鉛直分布（事業者実施調査、平成 27 年 5 月）

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成〕



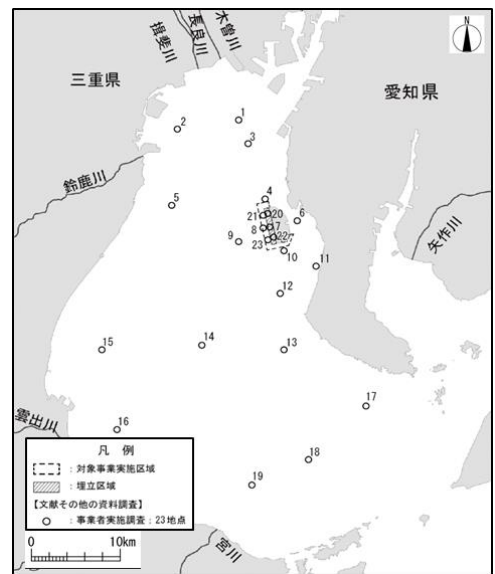
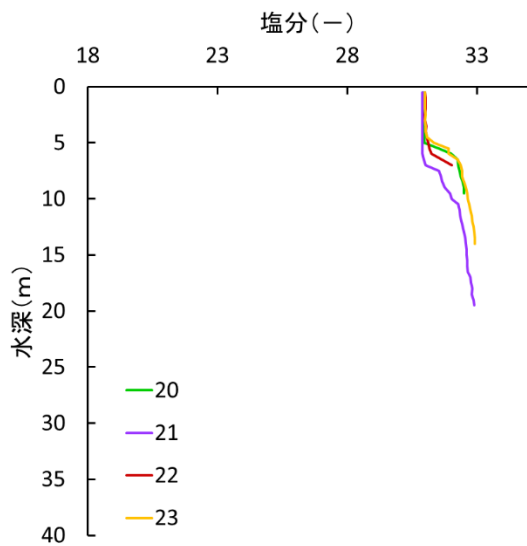
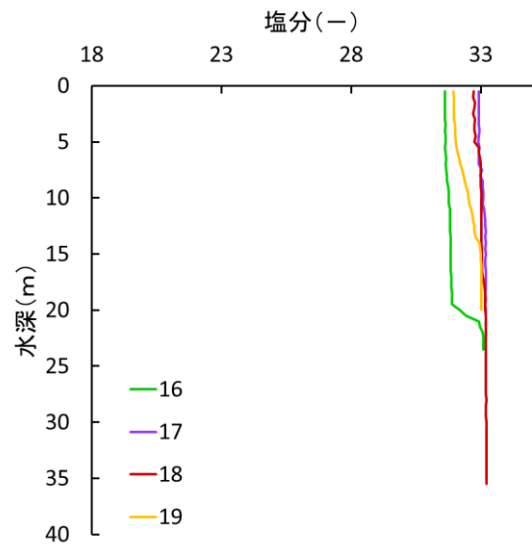
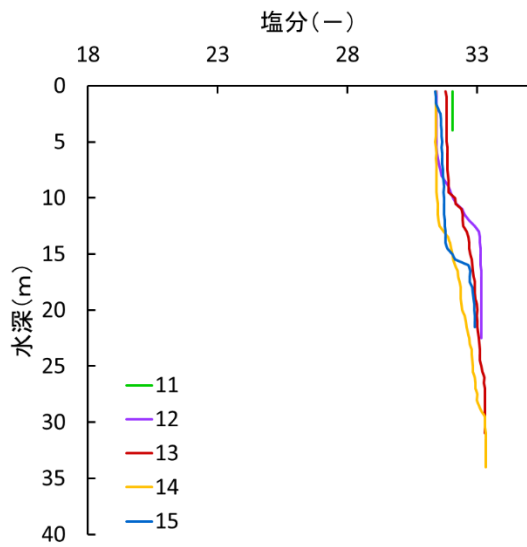
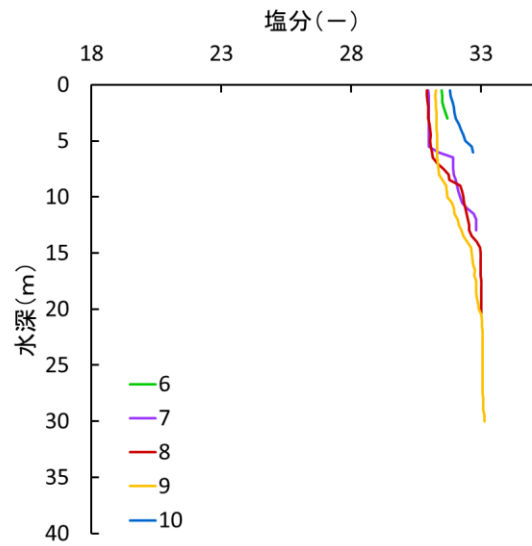
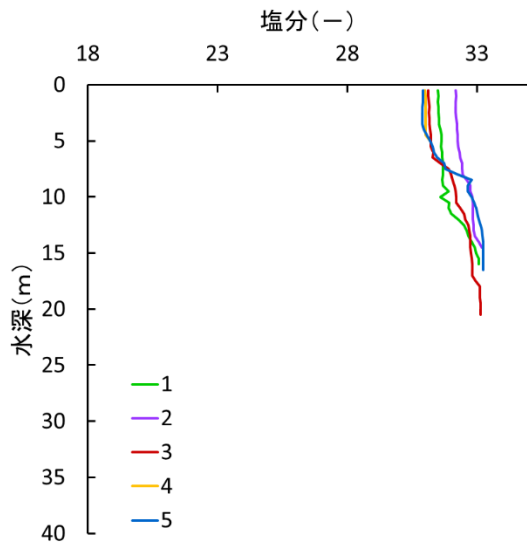
付図 8.4-28(6) 塩分の鉛直分布（事業者実施調査、平成 27 年 8 月）

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成〕



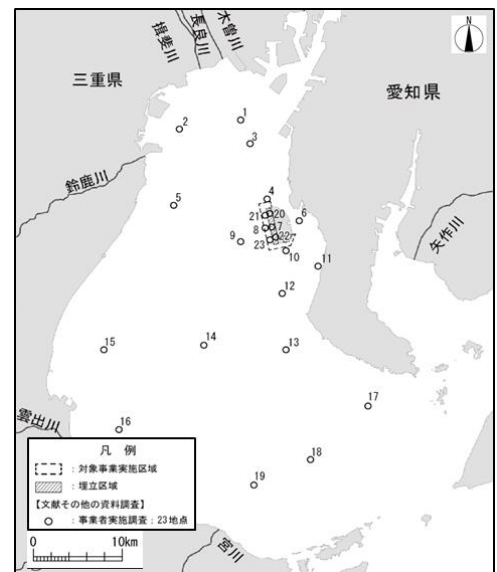
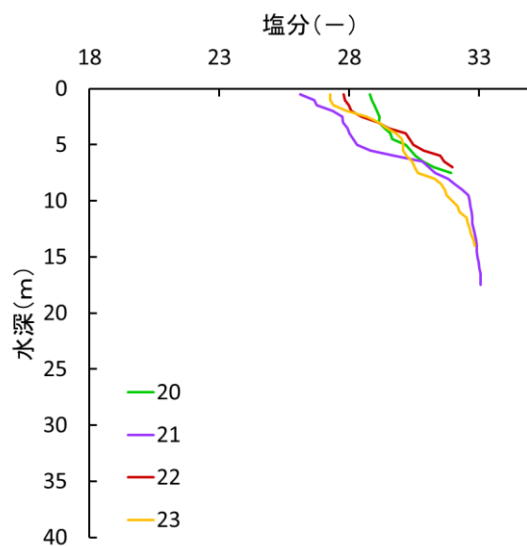
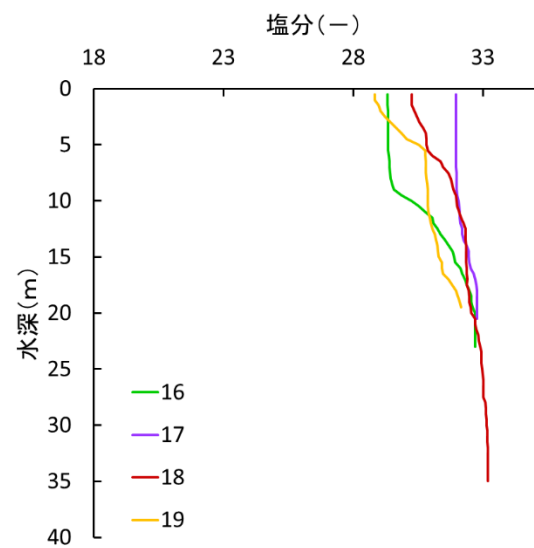
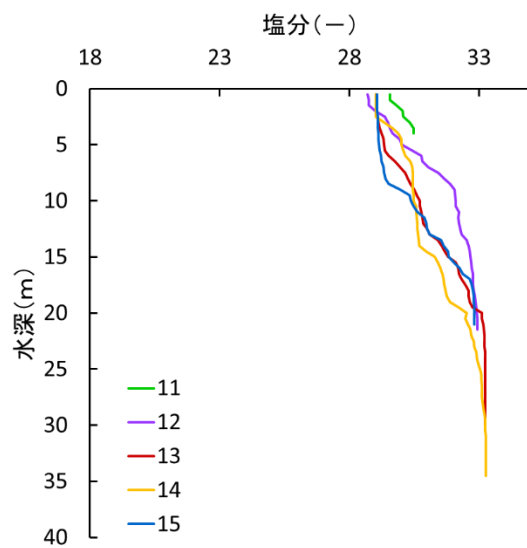
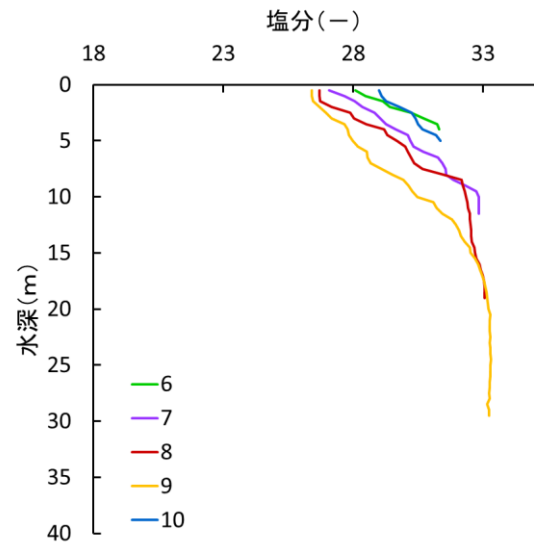
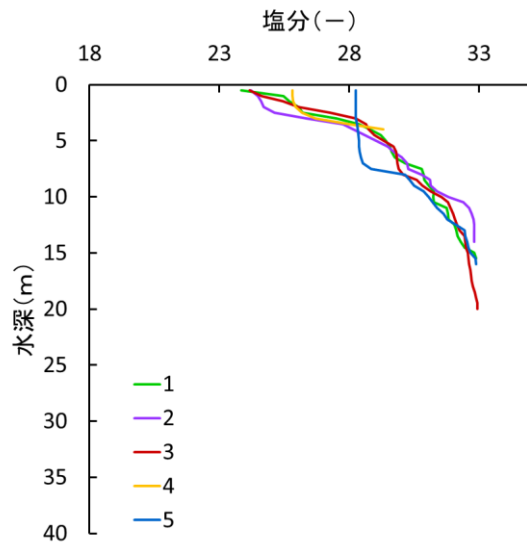
付図 8.4-28(7) 塩分の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 27 年 11 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



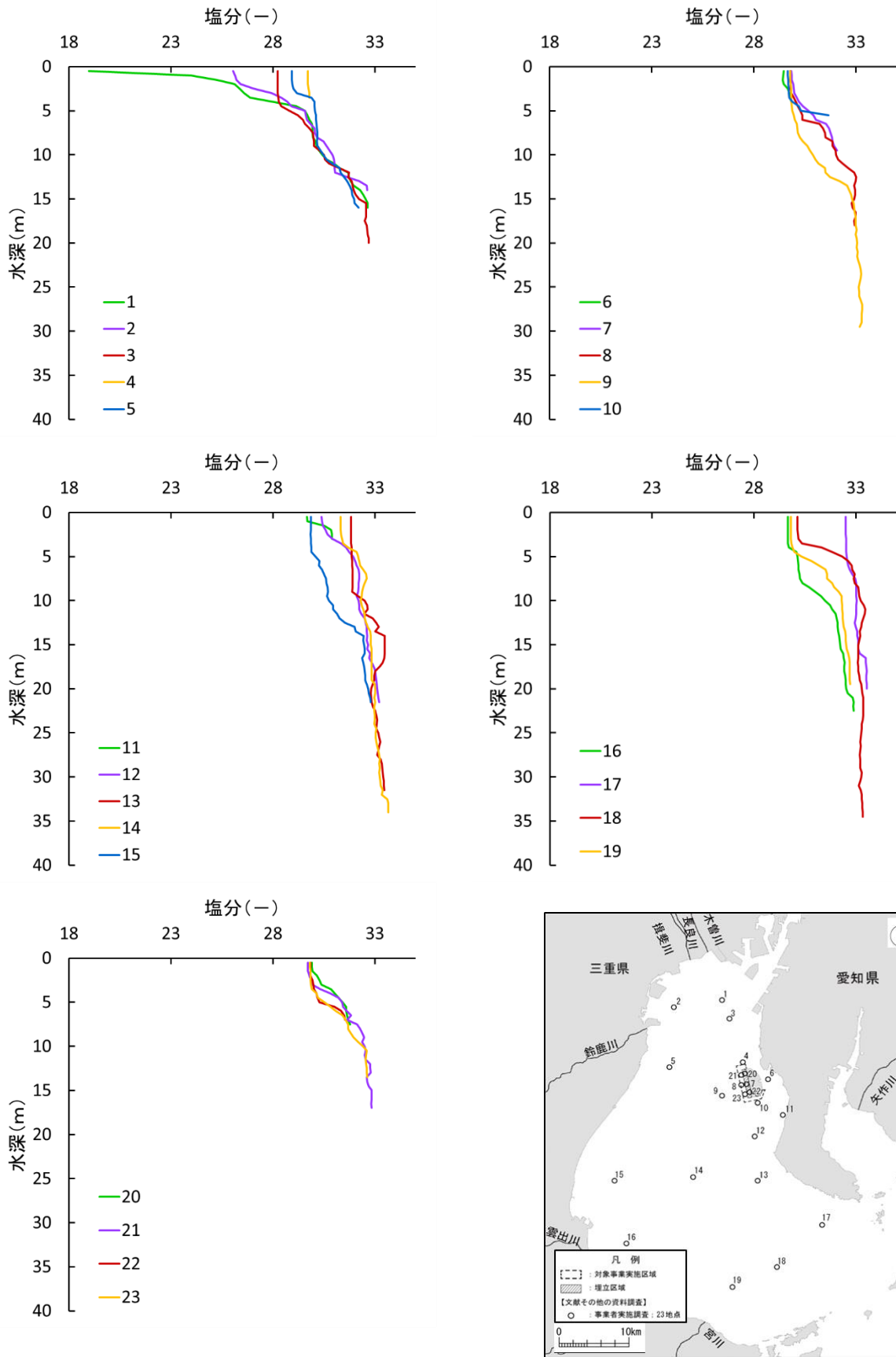
付図 8.4-28(8) 塩分の鉛直分布（事業者実施調査、平成 28 年 2 月）

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成〕



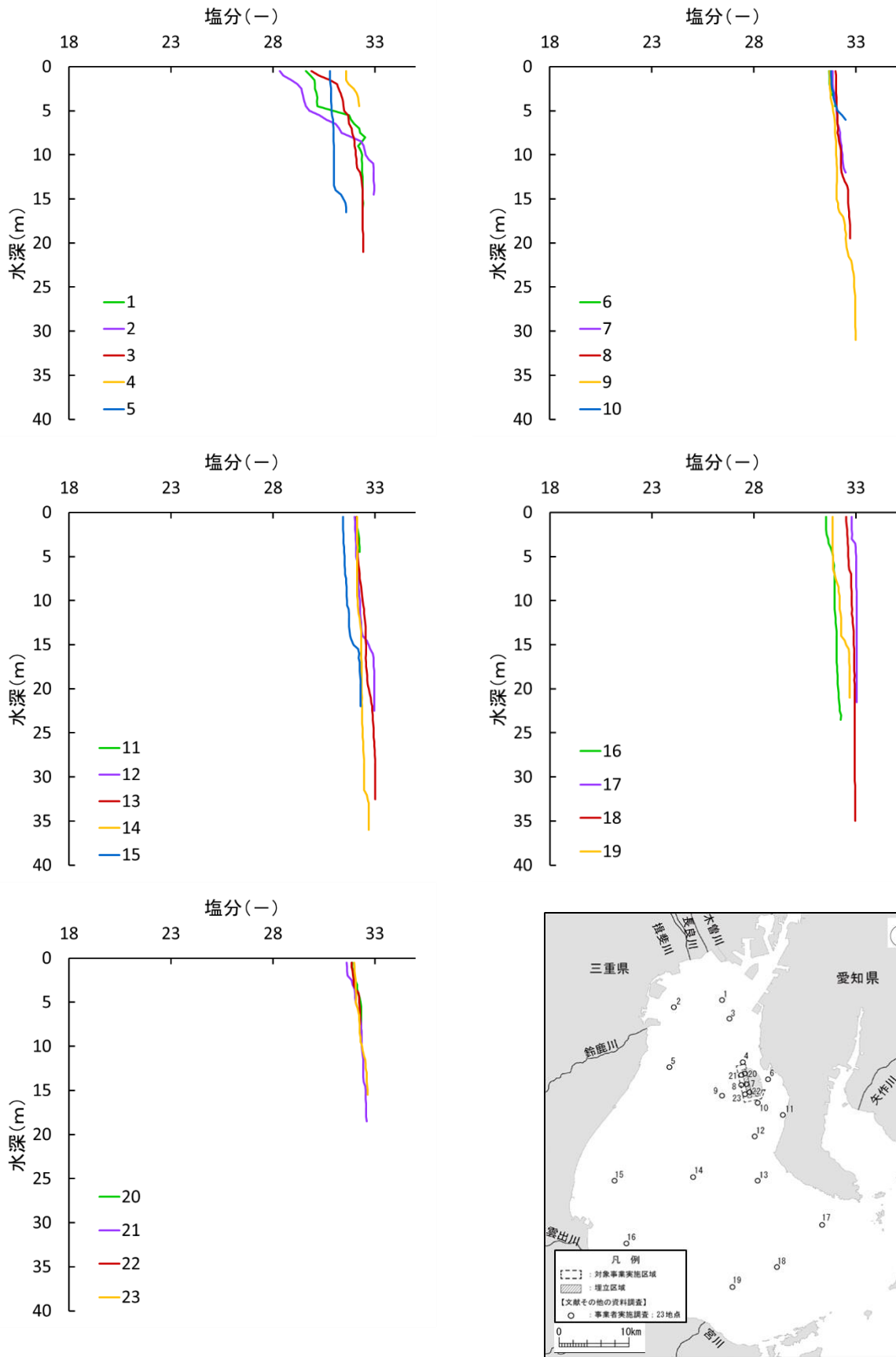
付図 8.4-28(9) 塩分の鉛直分布（事業者実施調査、平成 28 年 5 月）

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成〕



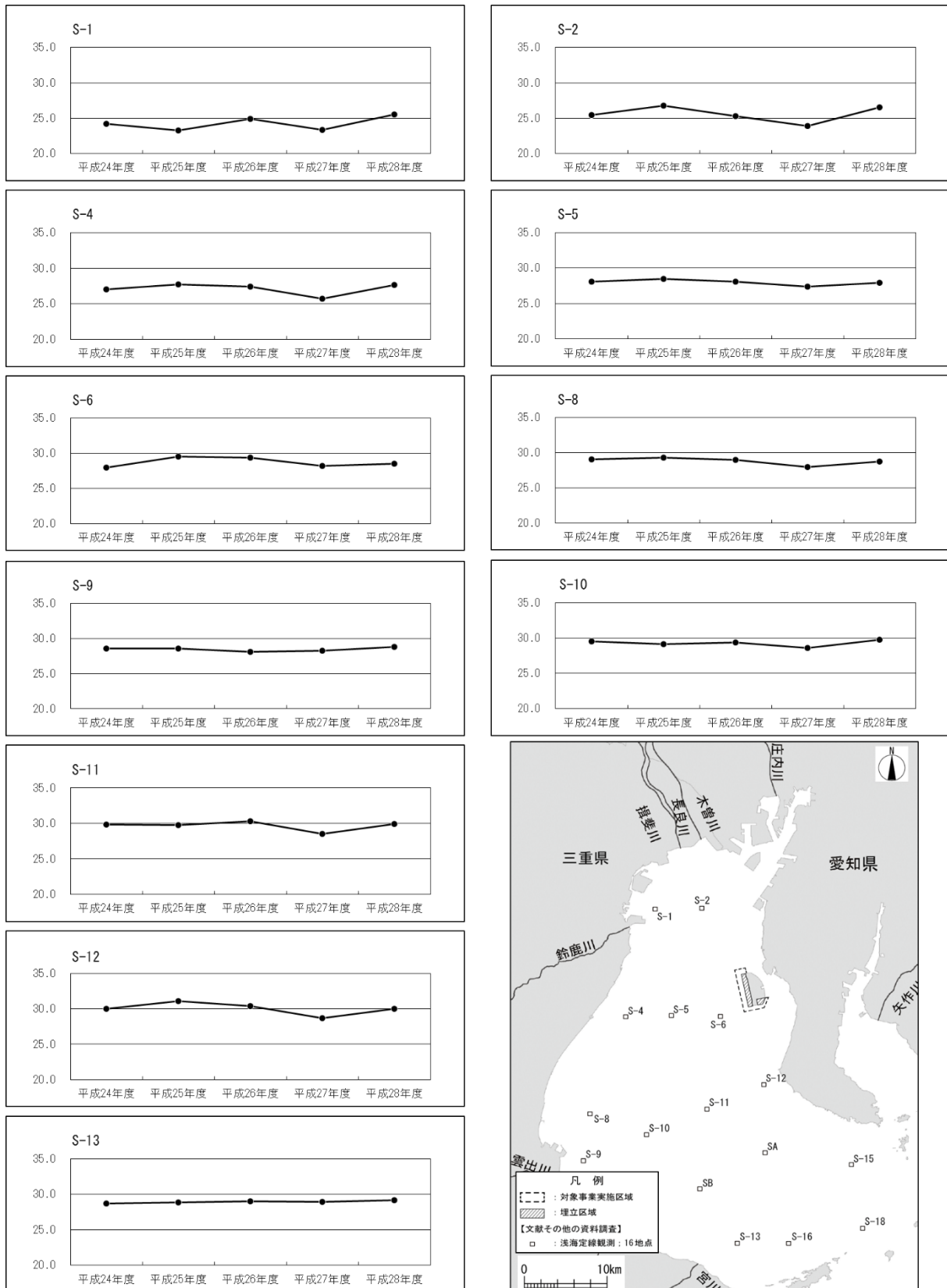
付図 8.4-28(10) 塩分の鉛直分布（事業者実施調査、平成 28 年 8 月）

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成〕



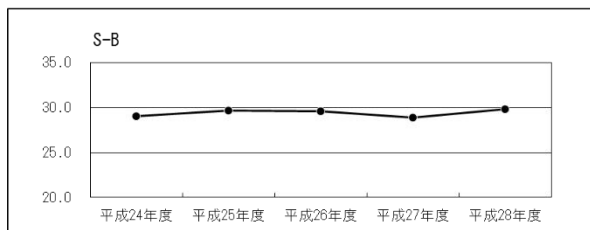
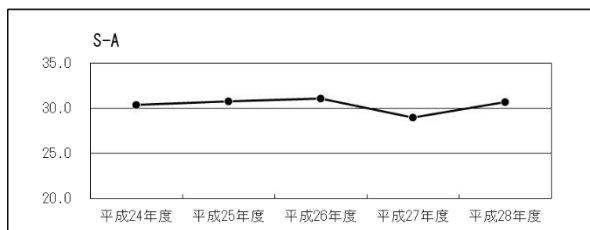
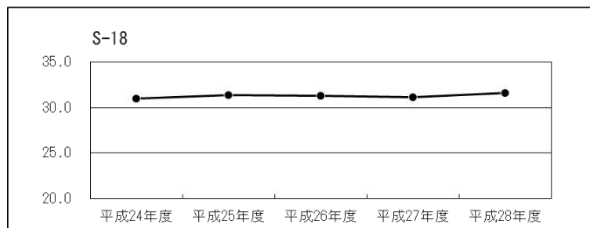
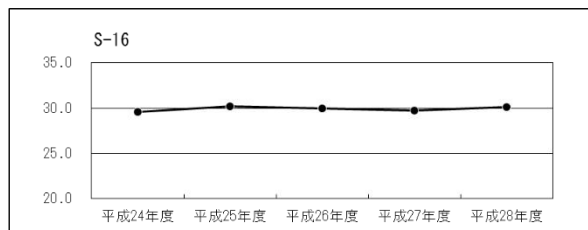
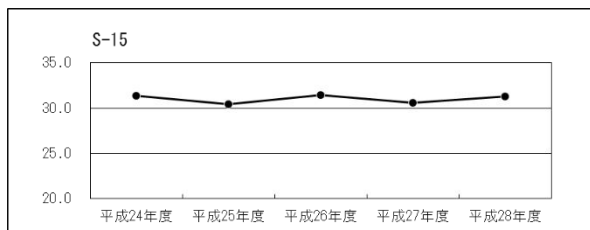
付図 8.4-28(11) 塩分の鉛直分布 (事業者実施調査、平成 28 年 11 月)

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成〕



付図 8.4-29(1) 地点別塩分の経年変化（三重県 年平均値 上層）

〔「浅海定線観測結果（平成24～28年度）」（三重県HP）より作成〕

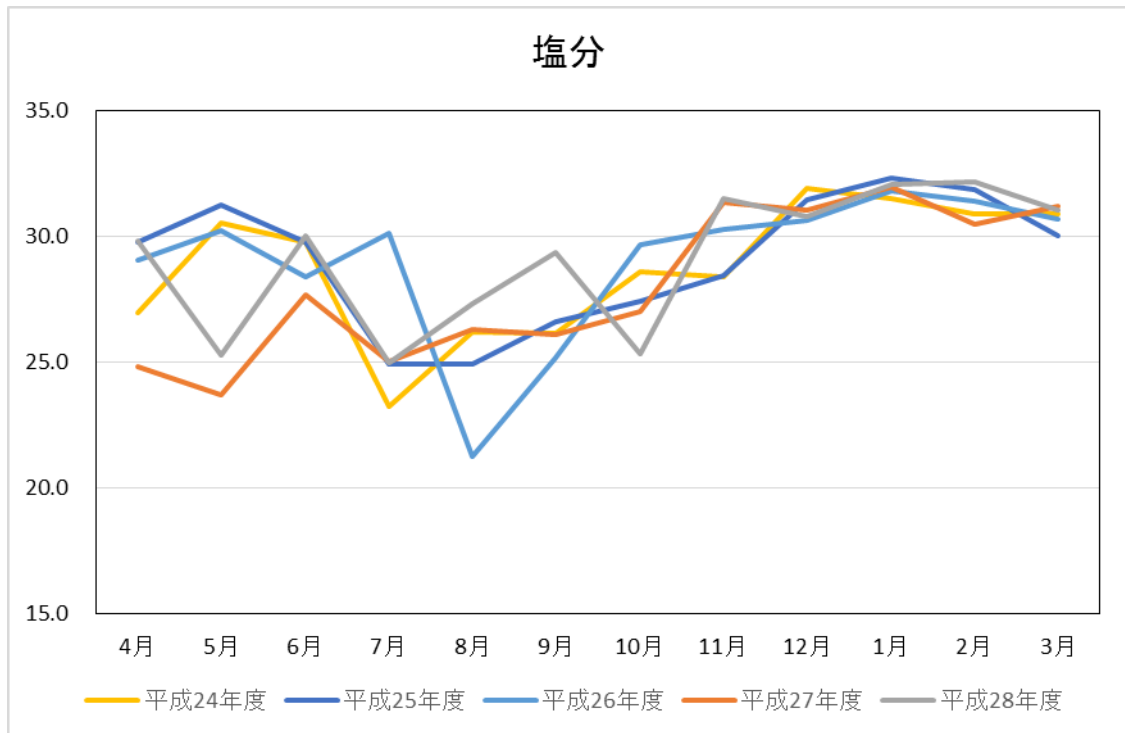


付図 8.4-29(2) 地点別塩分の経年変化 (三重県 年平均値 上層)

注：三重県の地点名とその略称は下表のとおりである。

三重県地点 名称	略称	三重県地点 名称	略称
1	S-1	11	S-11
2	S-2	12	S-12
4	S-4	13	S-13
5	S-5	15	S-15
6	S-6	16	S-16
8	S-8	18	S-18
9	S-9	A	SA
10	S-10	B	SB

〔「浅海定線観測結果 (平成 24～28 年度)」 (三重県 HP) より作成〕



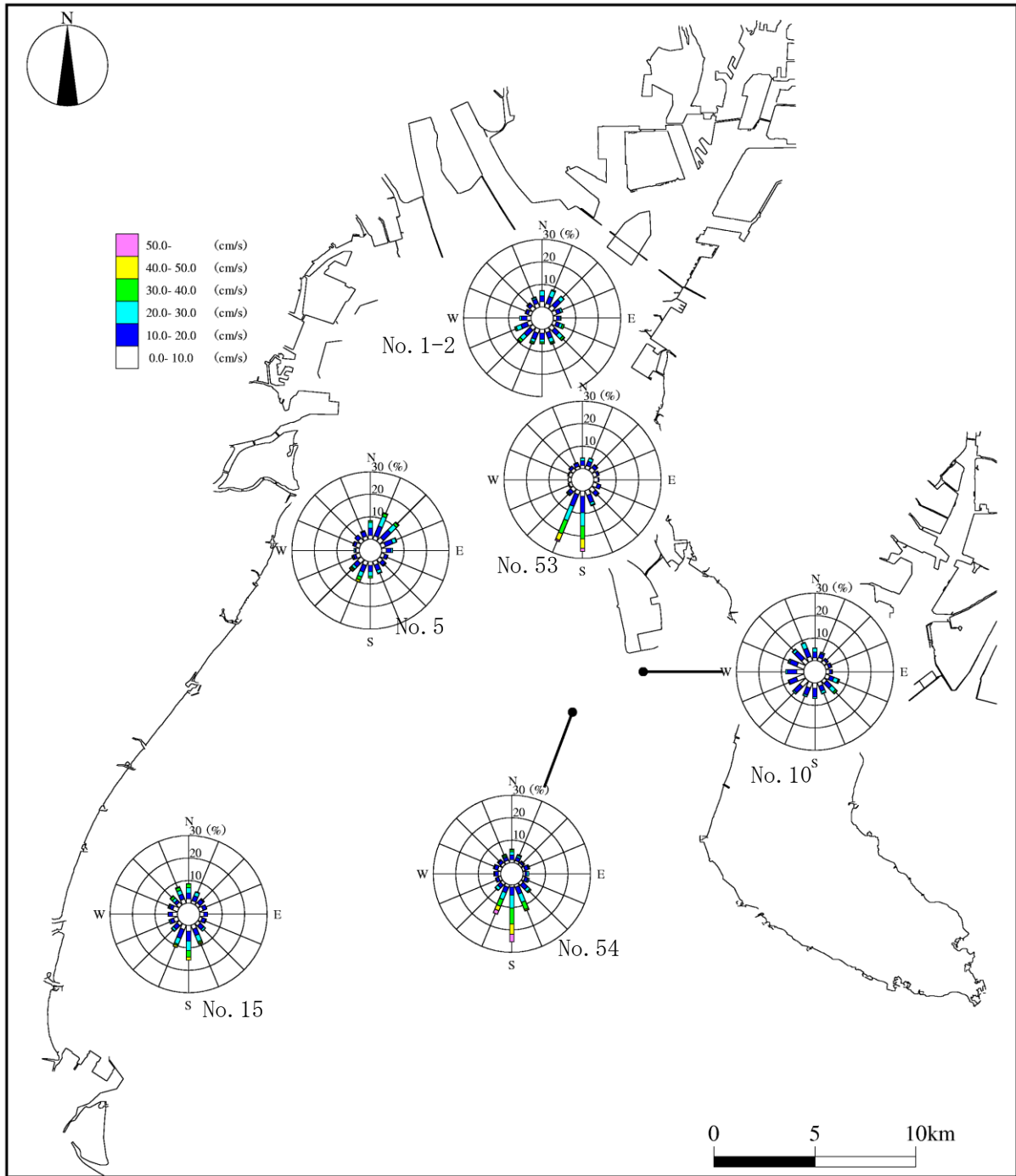
(単位：－)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成 24	26.98	30.52	29.76	23.26	26.18	26.15	28.56	28.38	31.88	31.49	30.90	30.85
平成 25	29.77	31.25	29.77	24.93	24.91	26.62	27.44	28.42	31.44	32.32	31.84	30.03
平成 26	29.04	30.22	28.38	30.10	21.26	25.15	29.67	30.24	30.62	31.79	31.36	30.67
平成 27	24.80	23.72	27.69	24.99	26.31	26.07	27.02	31.32	31.03	31.93	30.47	31.18
平成 28	29.79	25.30	30.00	24.97	27.33	29.35	25.33	31.49	30.78	32.05	32.14	31.02

付図 8.4-30 塩分測定結果 (三重県 月平均値 上層)

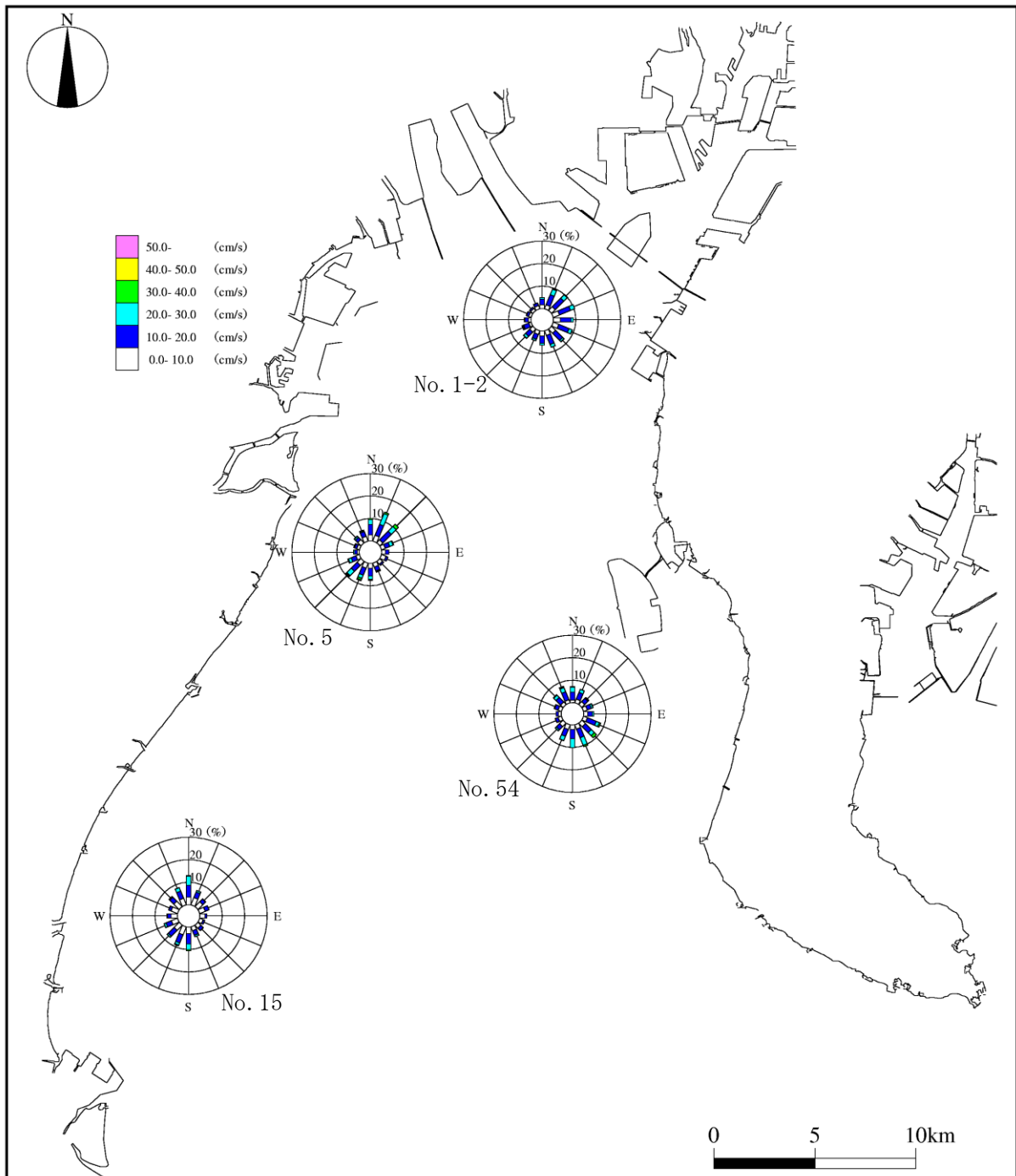
注：全地点の平均を示す。

[「浅海定線観測結果 (平成 24～28 年度)」 (三重県 HP) より作成]



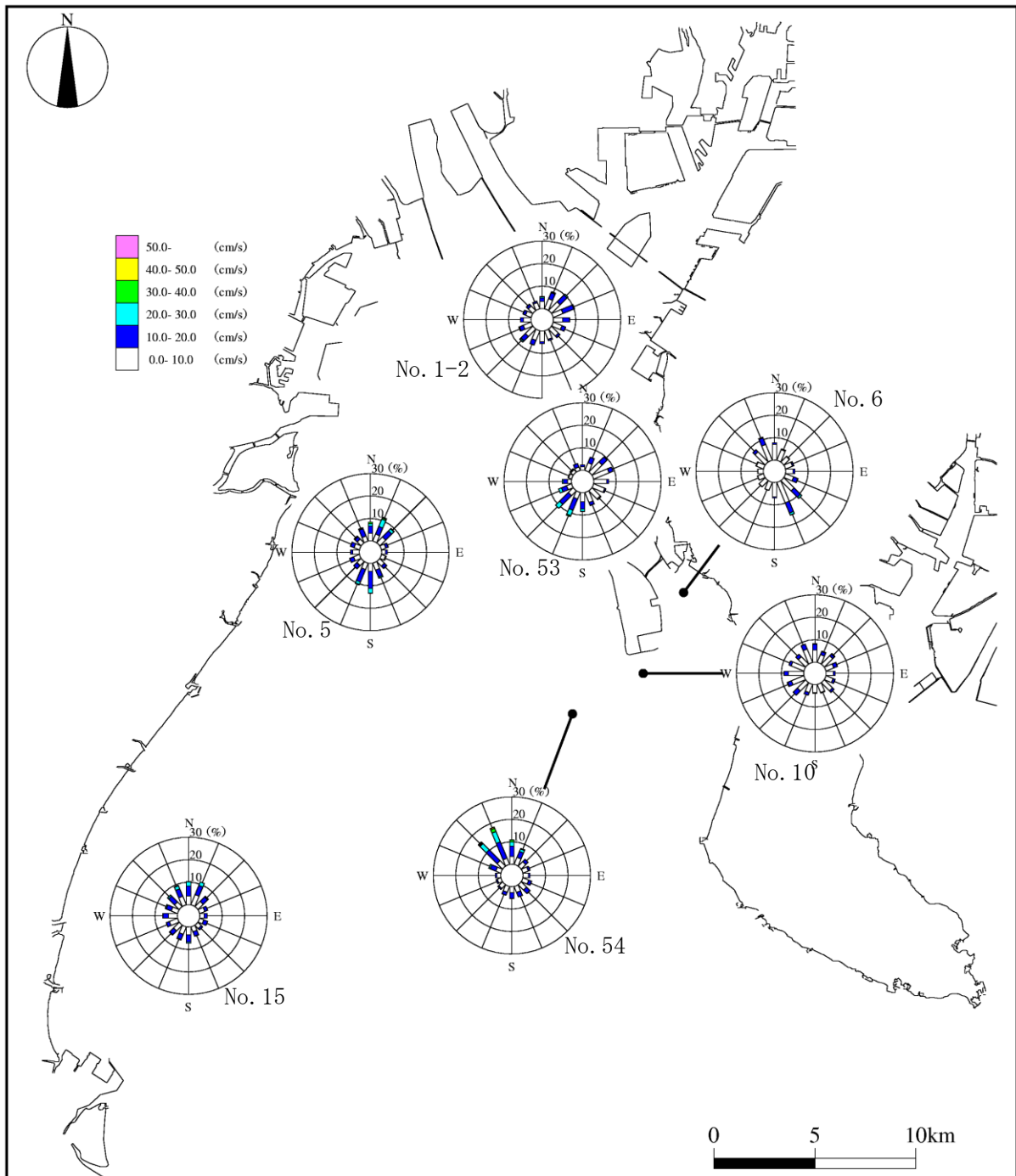
付図 8.4-31(1) 流向別流速出現頻度分布 (上層、平成 26 年 5 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



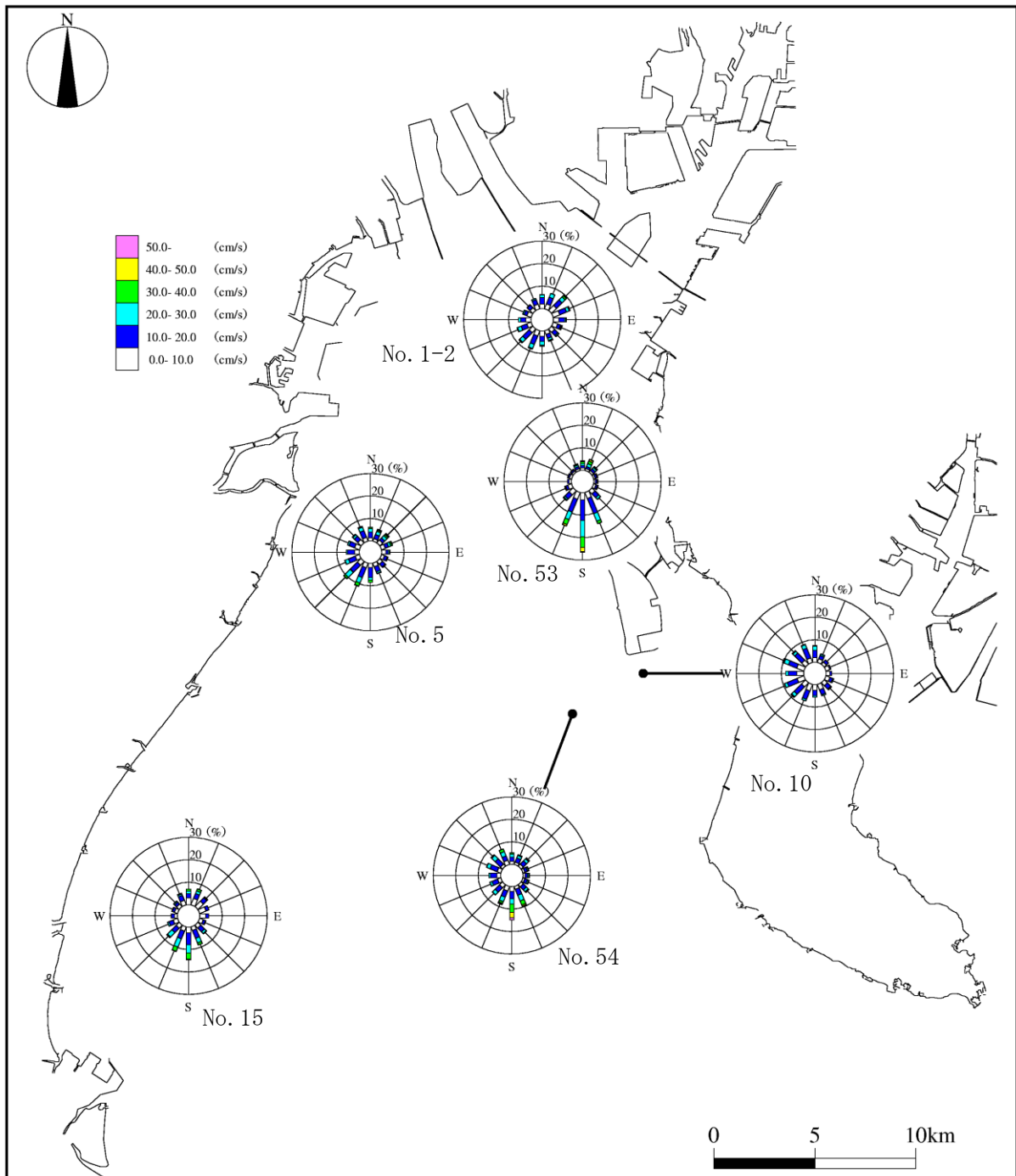
付図 8.4-31(2) 流向別流速出現頻度分布 (中層、平成 26 年 5 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



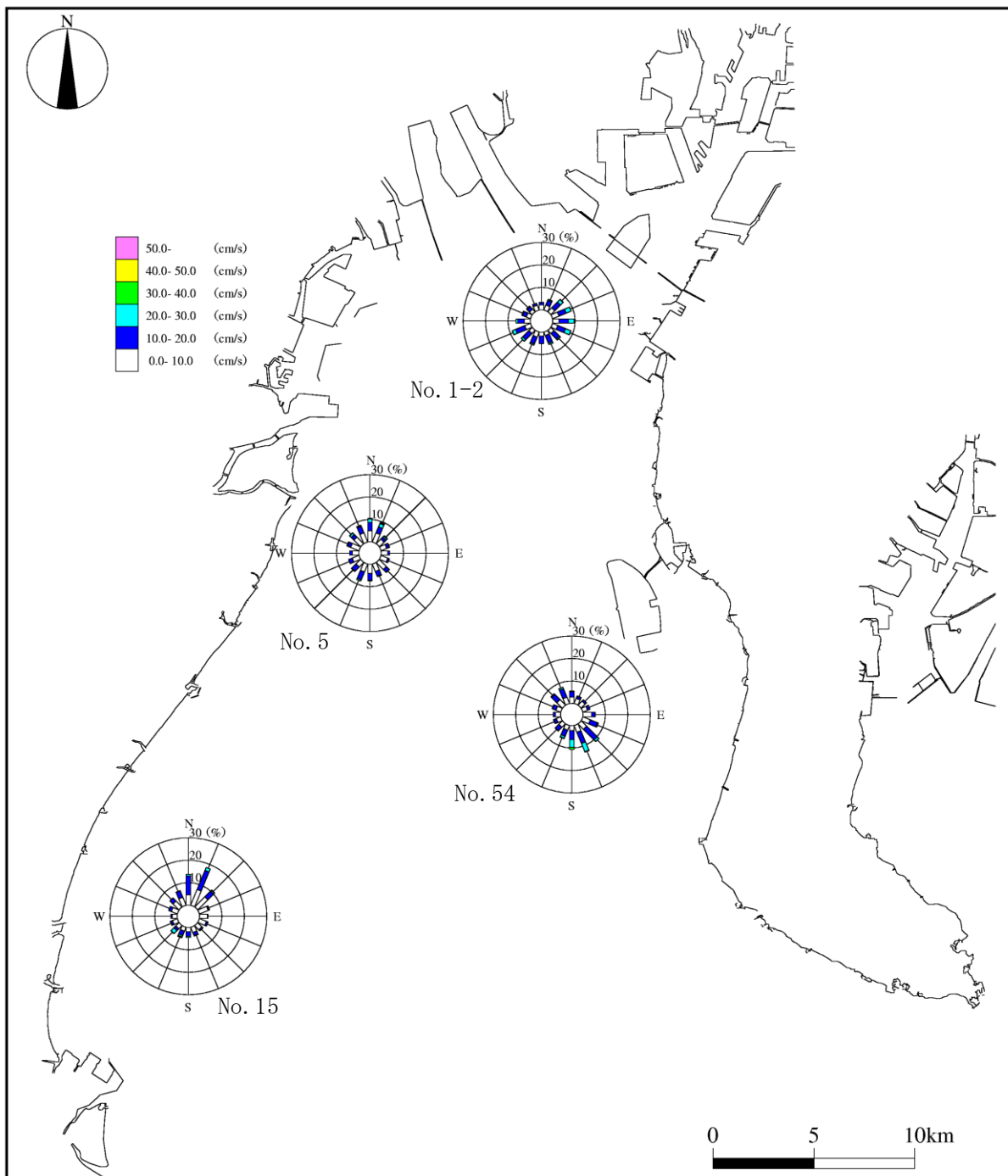
付図 8.4-31(3) 流向別流速出現頻度分布 (底層、平成 26 年 5 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



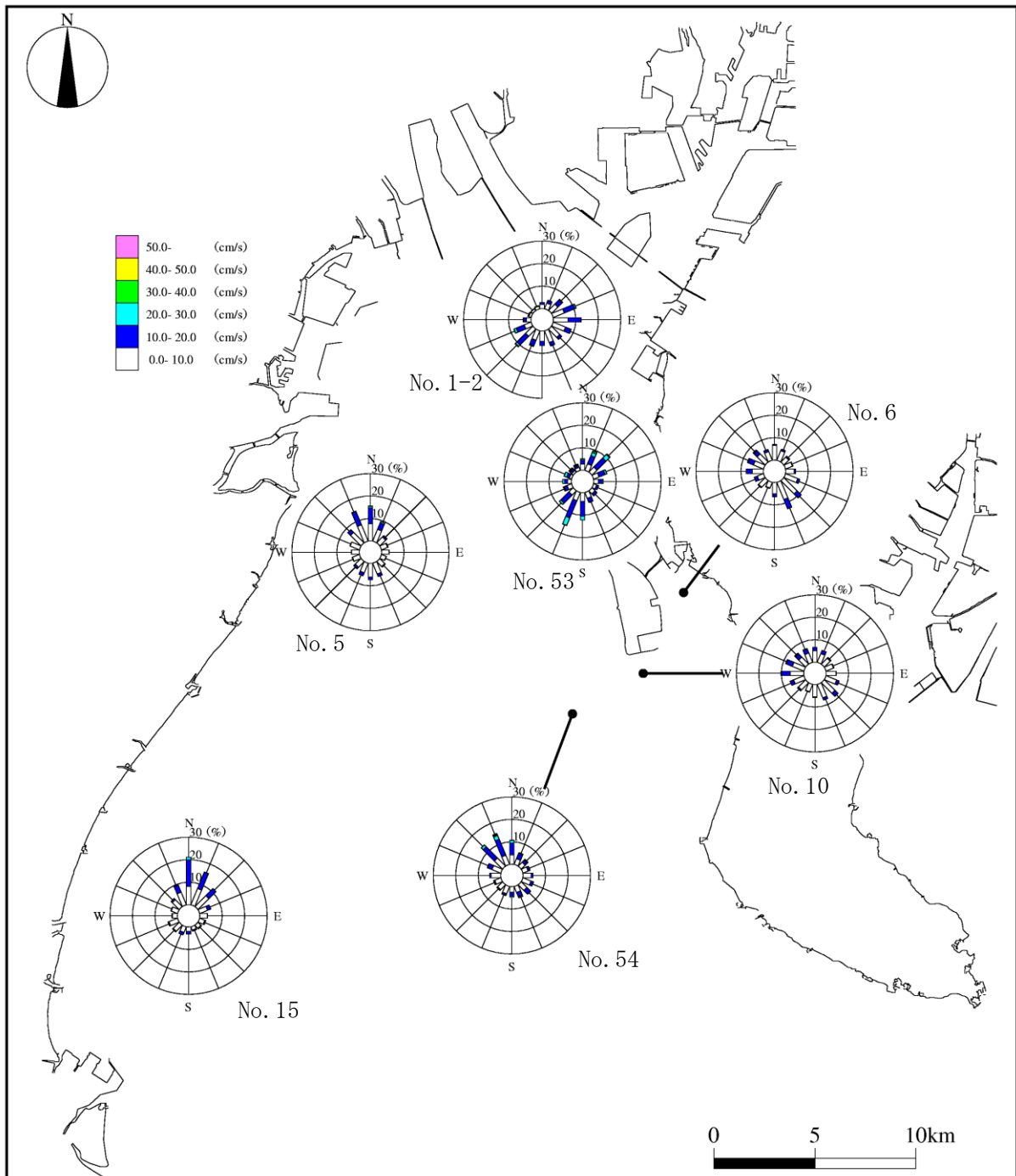
付図 8.4-31(4) 流向別流速出現頻度分布（上層、平成 26 年 8 月）

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 （国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成



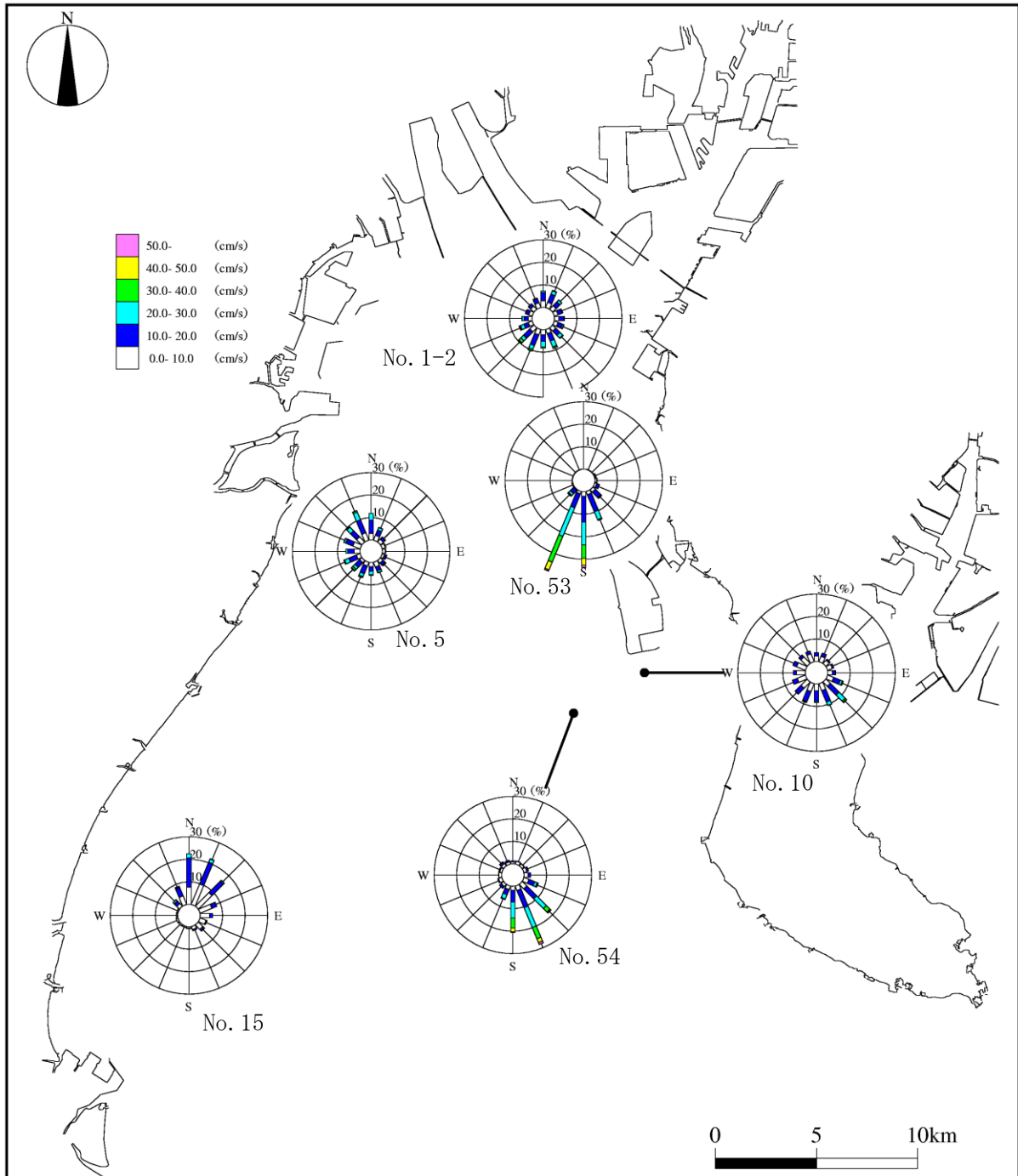
付図 8.4-31(5) 流向別流速出現頻度分布 (中層、平成 26 年 8 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



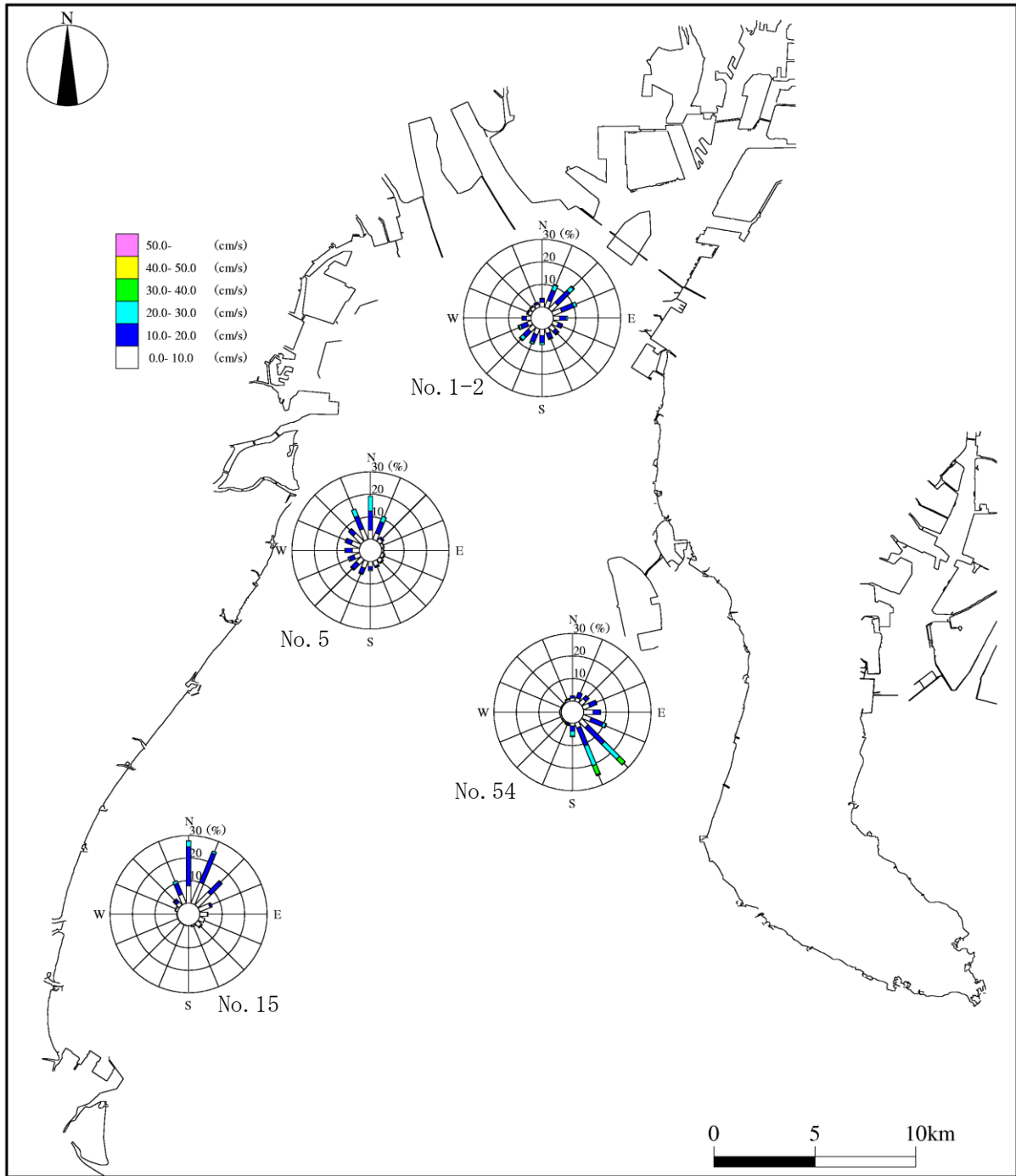
付図 8.4-31(6) 流向別流速出現頻度分布 (底層、平成 26 年 8 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



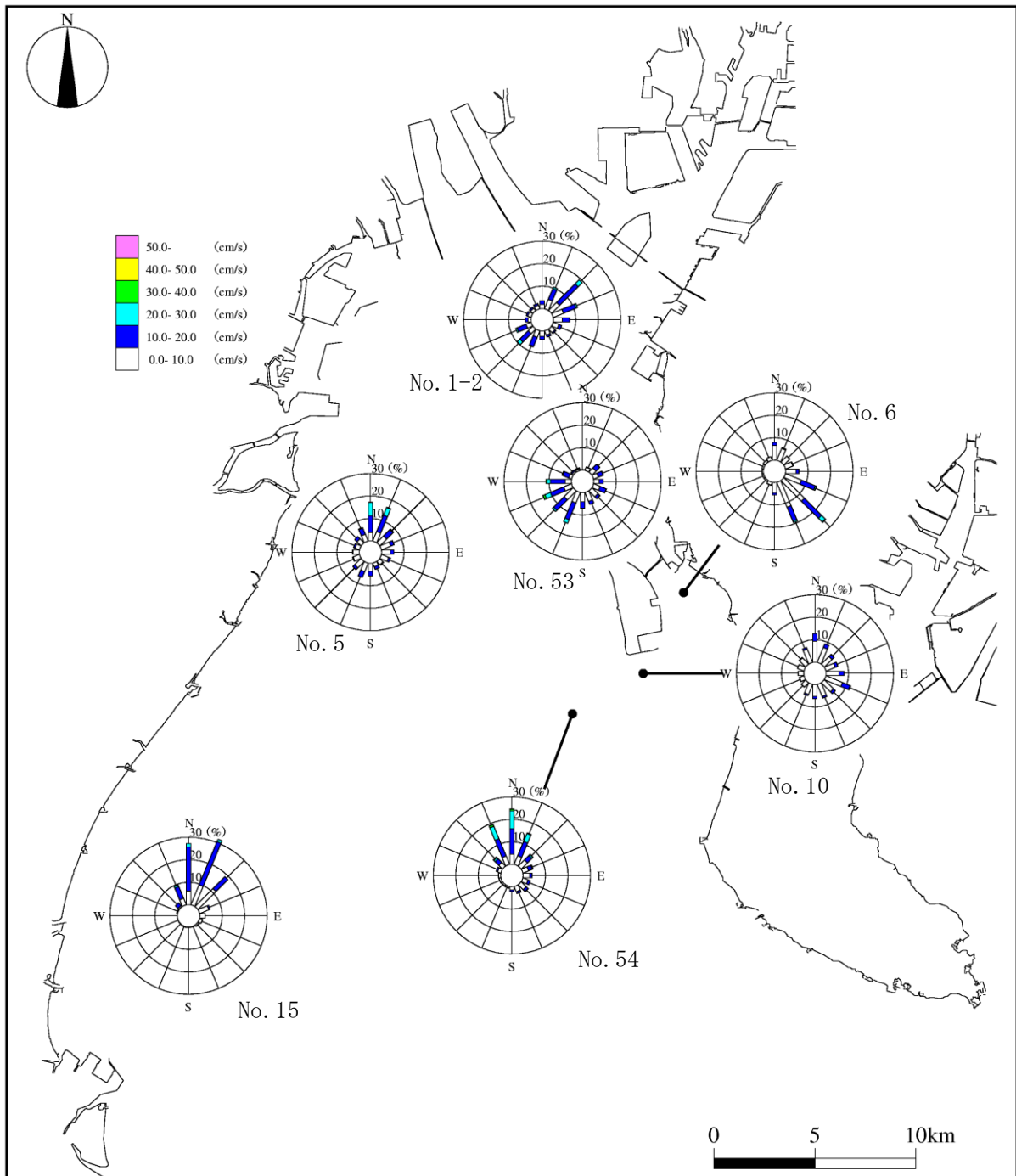
付図 8.4-31(7) 流向別流速出現頻度分布(上層、平成26年11月)

〔平成25年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成27年)より作成



付図 8.4-31(8) 流向別流速出現頻度分布 (中層、平成 26 年 11 月)

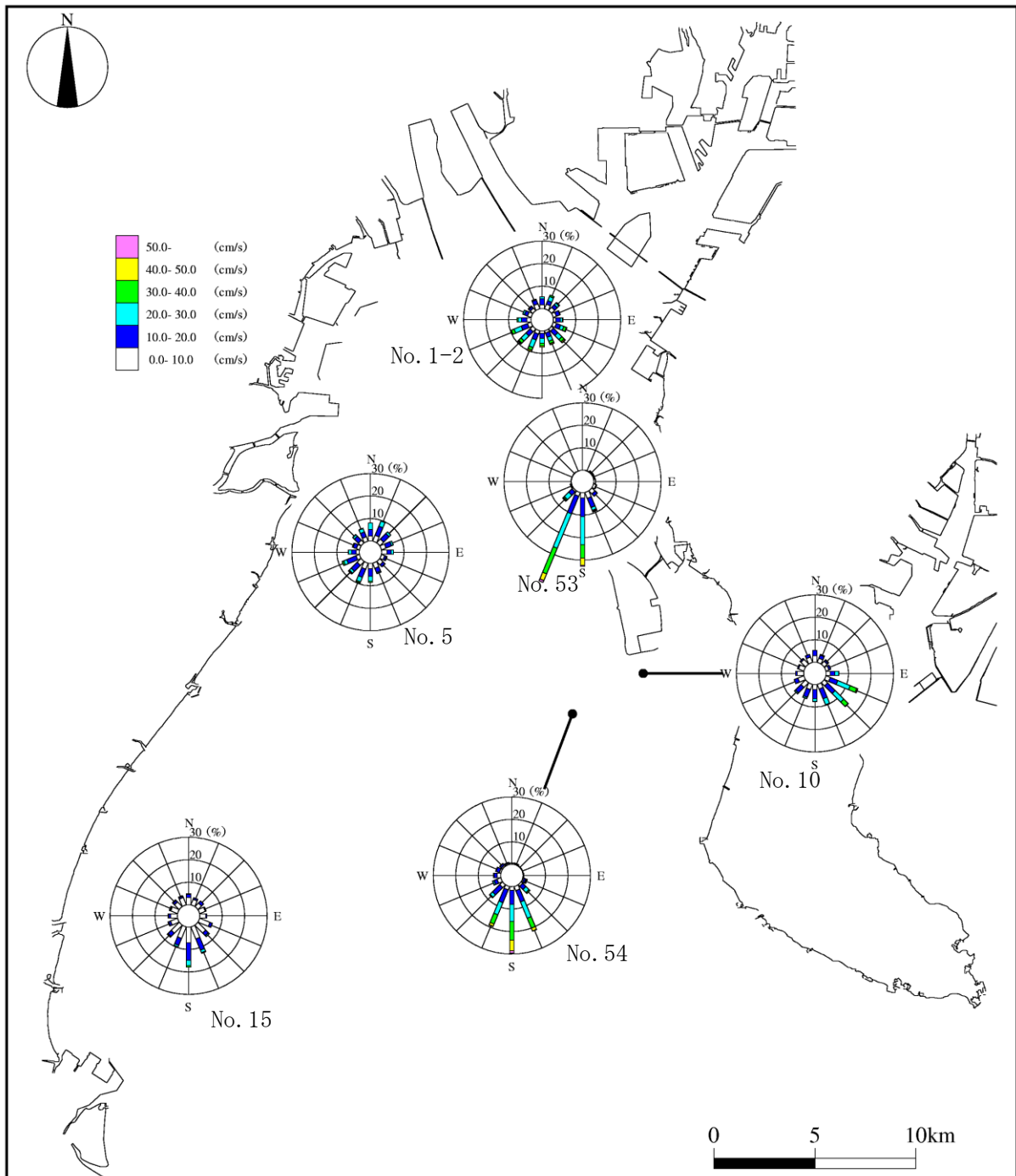
〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.4-31(9) 流向別流速出現頻度分布（底層、平成 26 年 11 月）

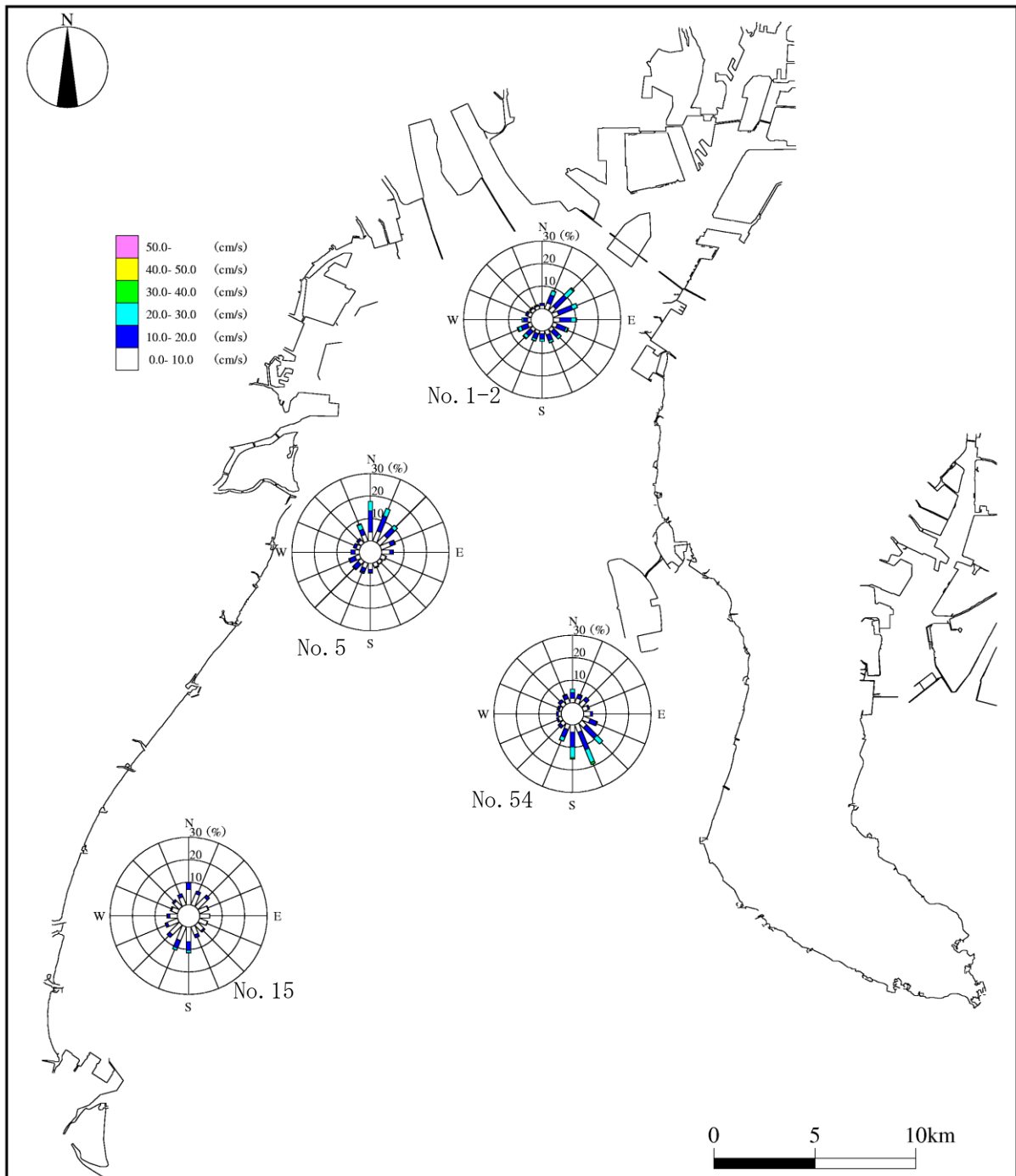
注：No.53 の底層は、11 月 14 日 8:50～11 月 22 日 13:50 の期間が欠測となったため、参考値として示した。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



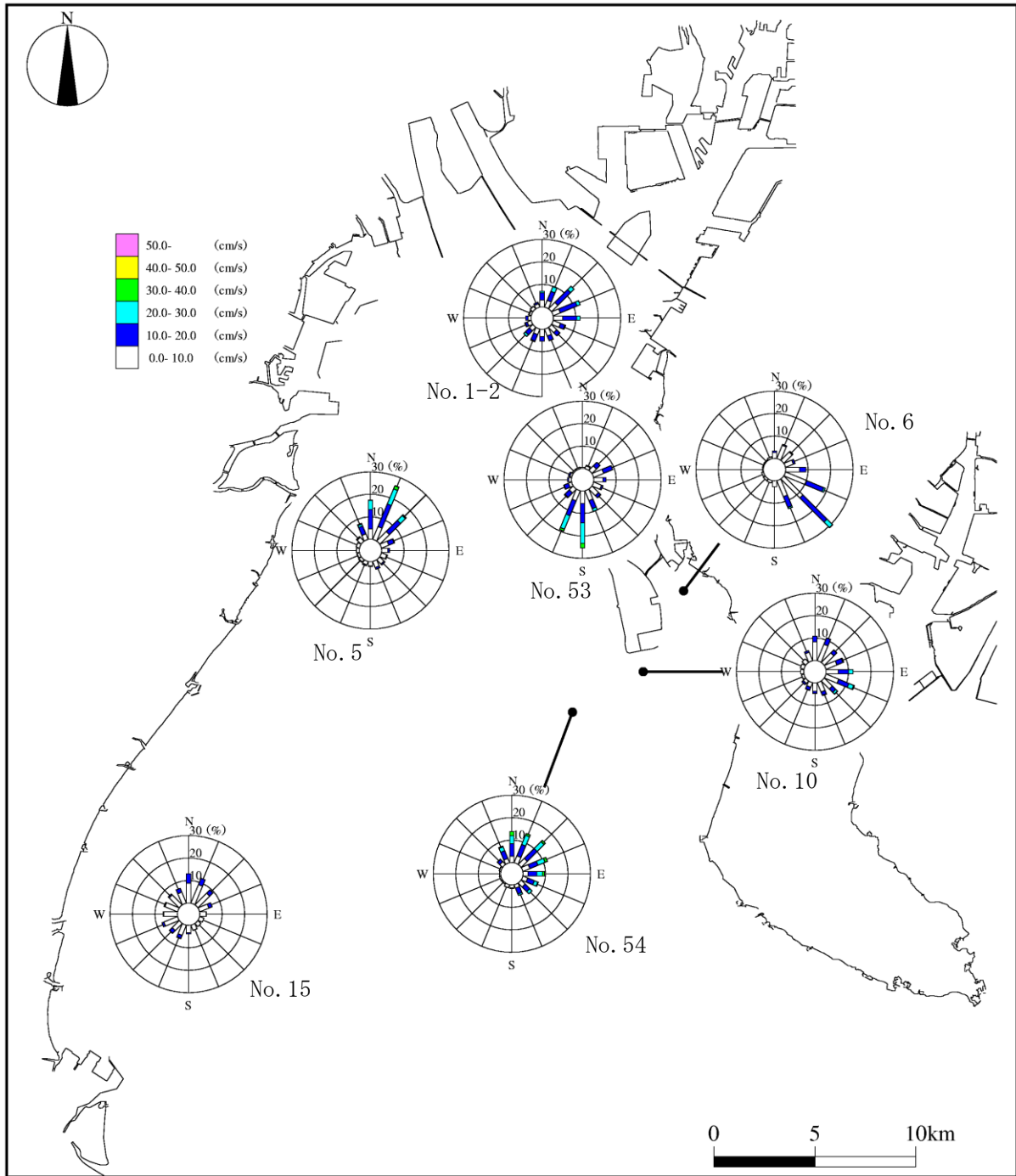
付図 8.4-31(10) 流向別流速出現頻度分布 (上層、平成 27 年 1~2 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



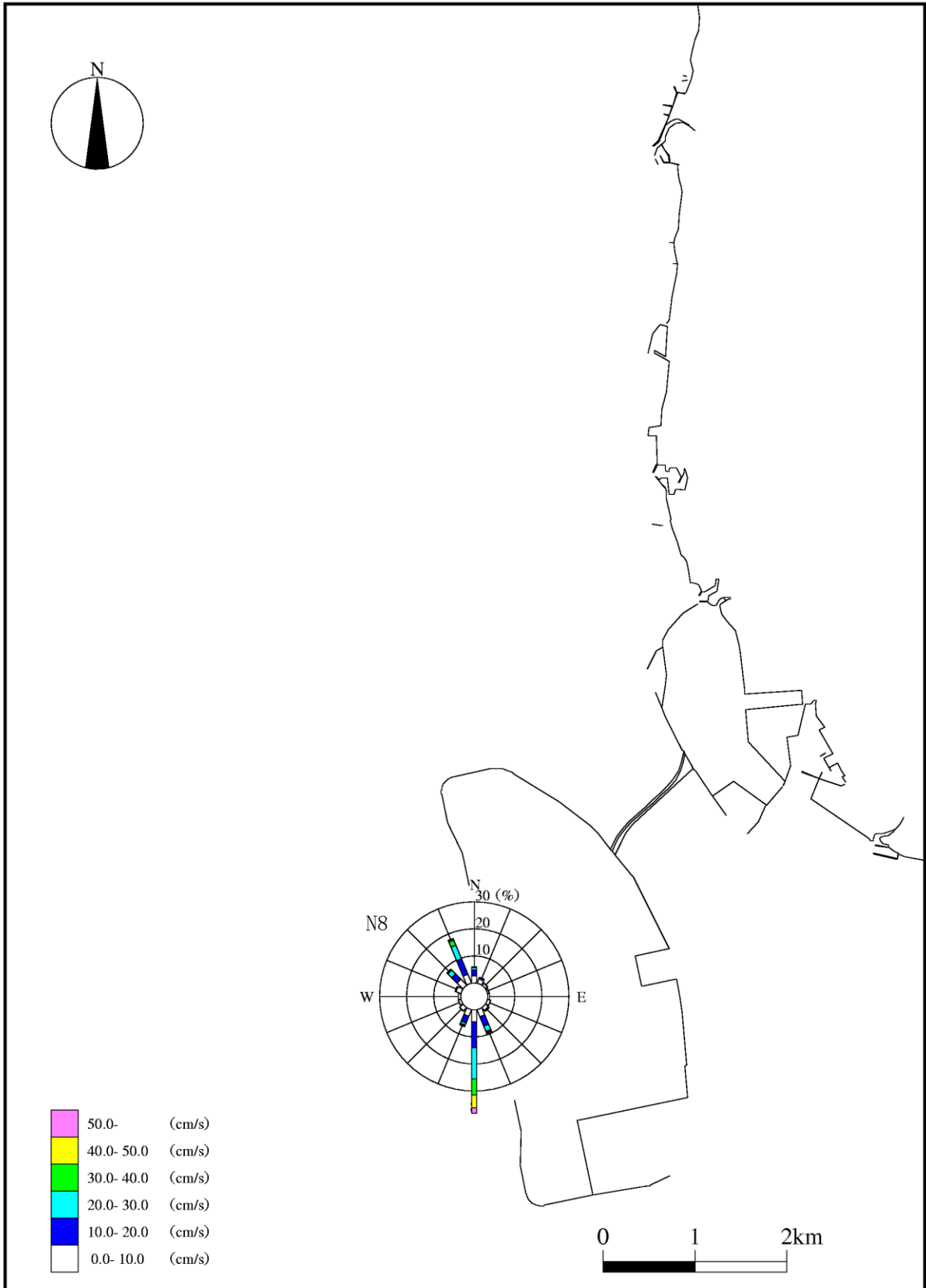
付図 8.4-31(11) 流向別流速出現頻度分布 (中層、平成 27 年 1~2 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



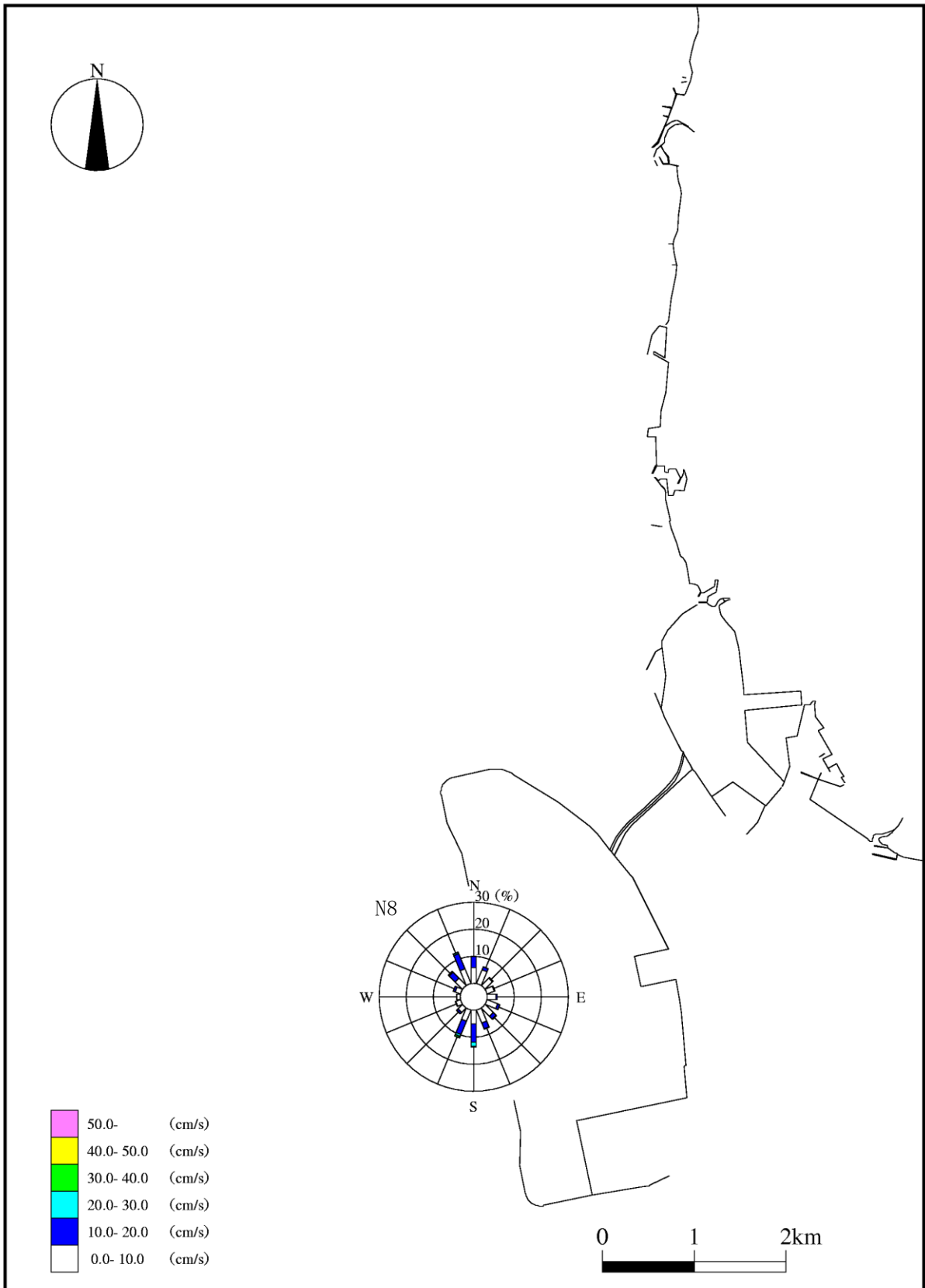
付図 8.4-31(12) 流向別流速出現頻度分布 (底層、平成 27 年 1~2 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



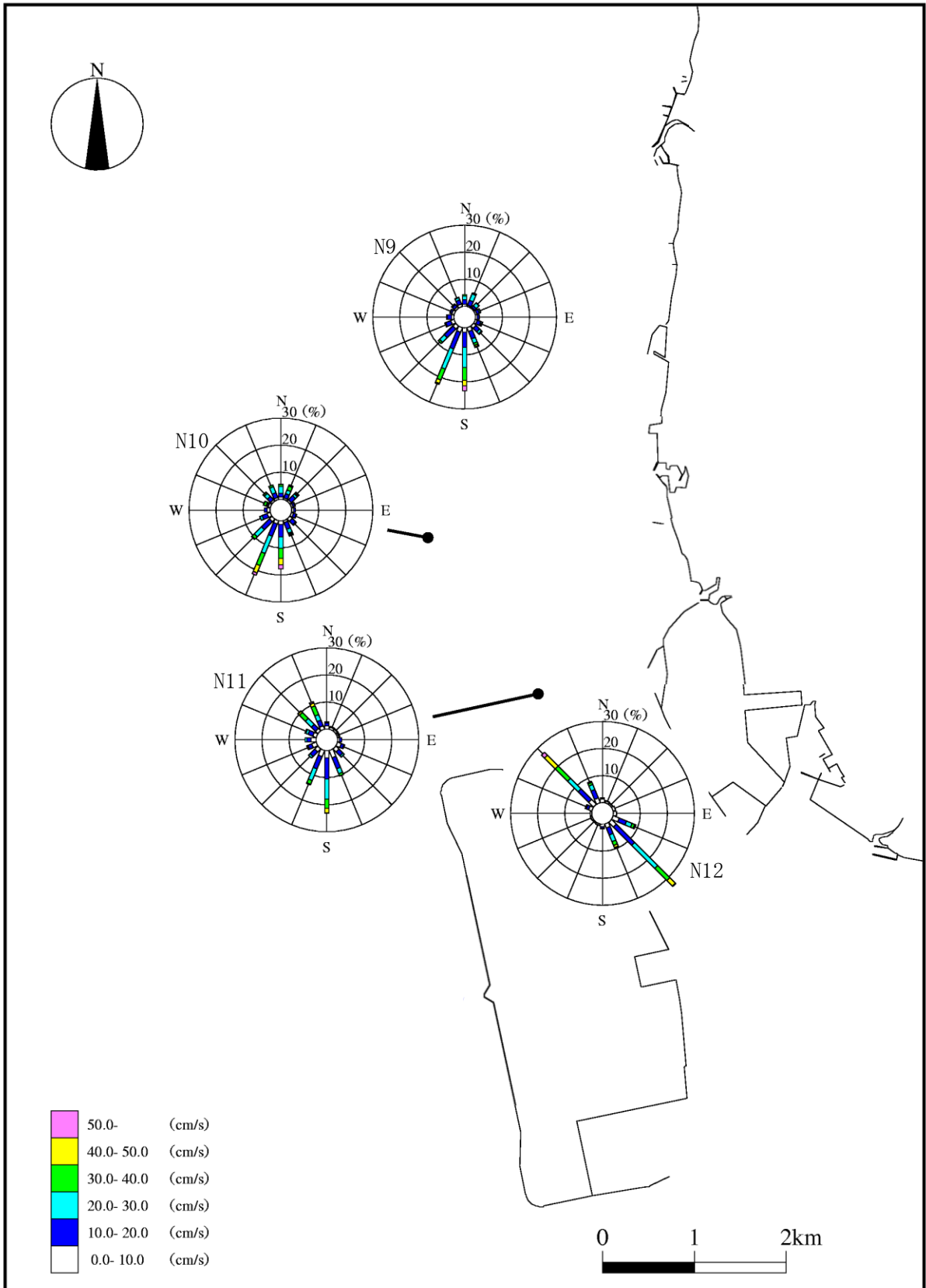
付図 8. 4-31 (13) 流向別流速出現頻度分布 (上層、平成 27 年 5 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



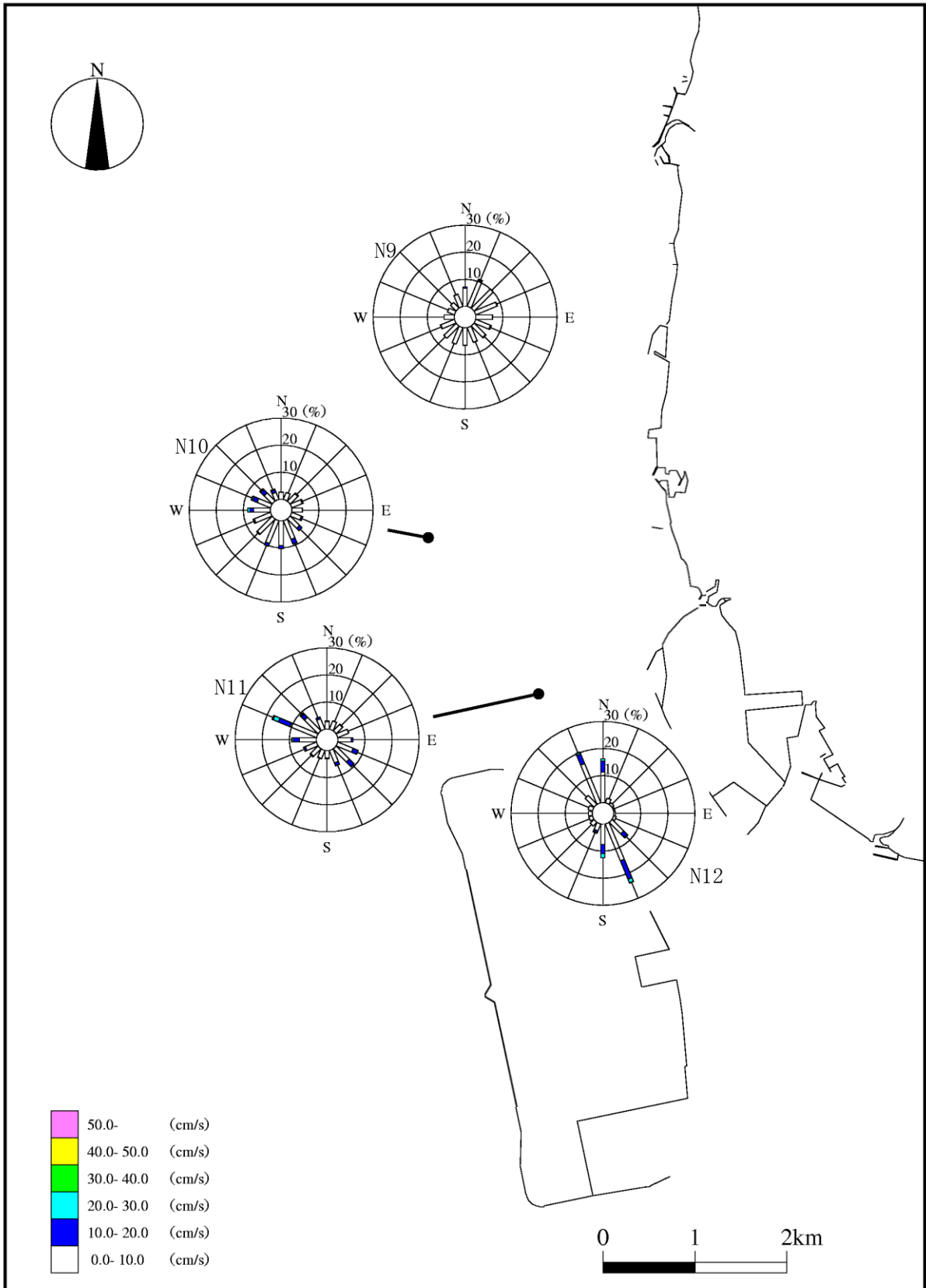
付図 8. 4-31 (14) 流向別流速出現頻度分布 (底層、平成 27 年 5 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



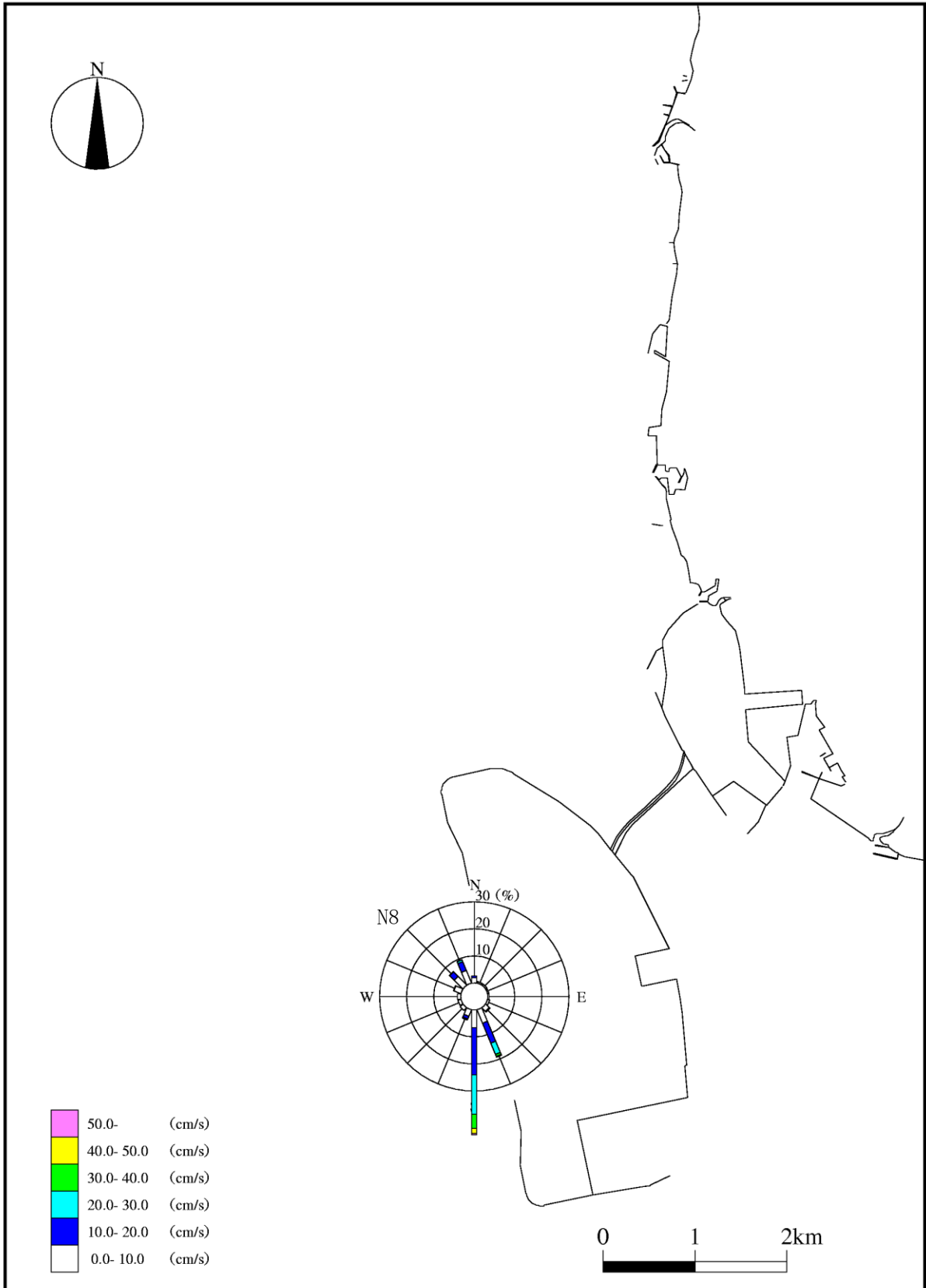
付図 8. 4-31 (15) 流向別流速出現頻度分布 (上層、平成 27 年 8 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



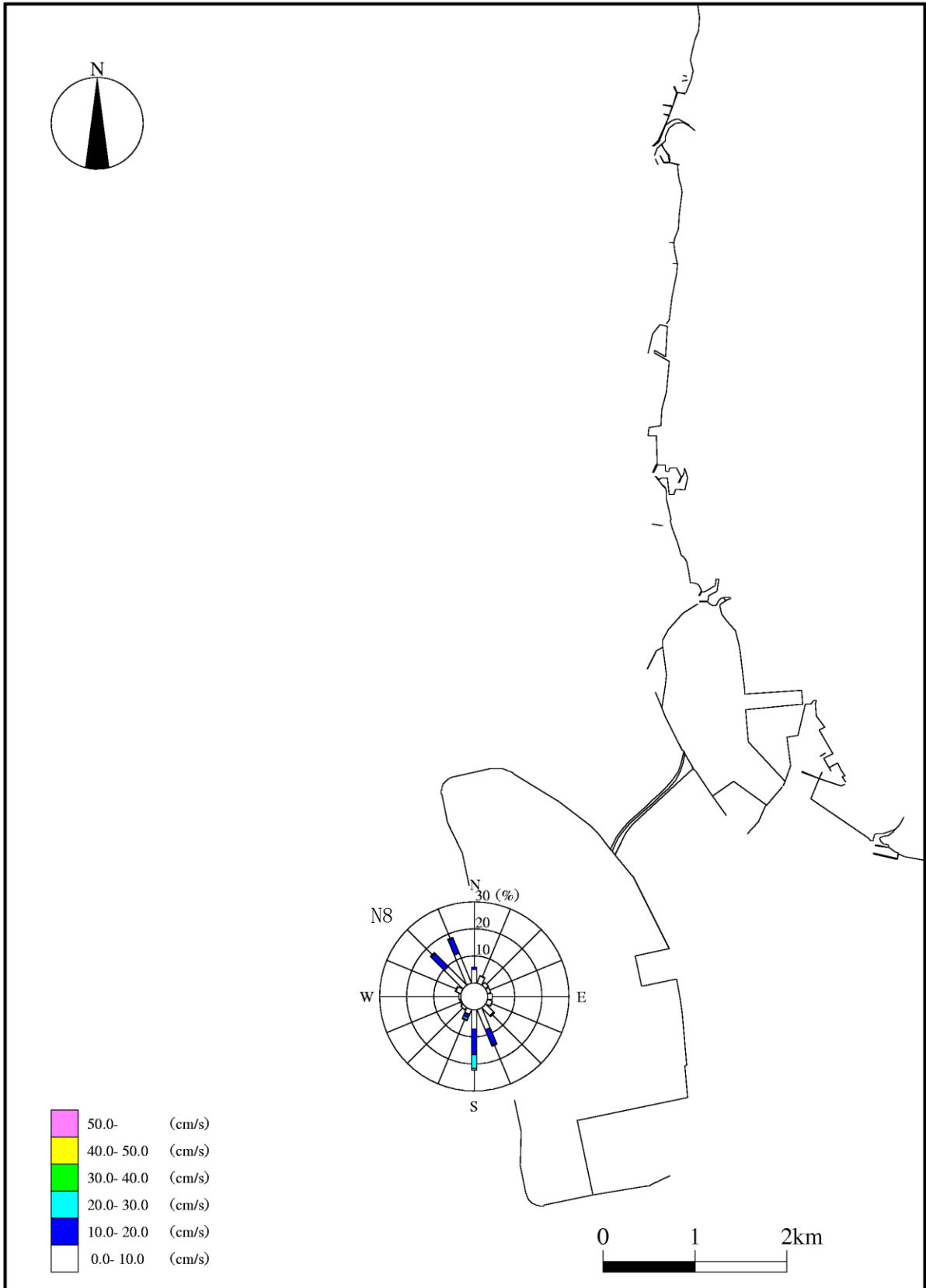
付図 8. 4-31 (16) 流向別流速出現頻度分布 (底層、平成 27 年 8 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



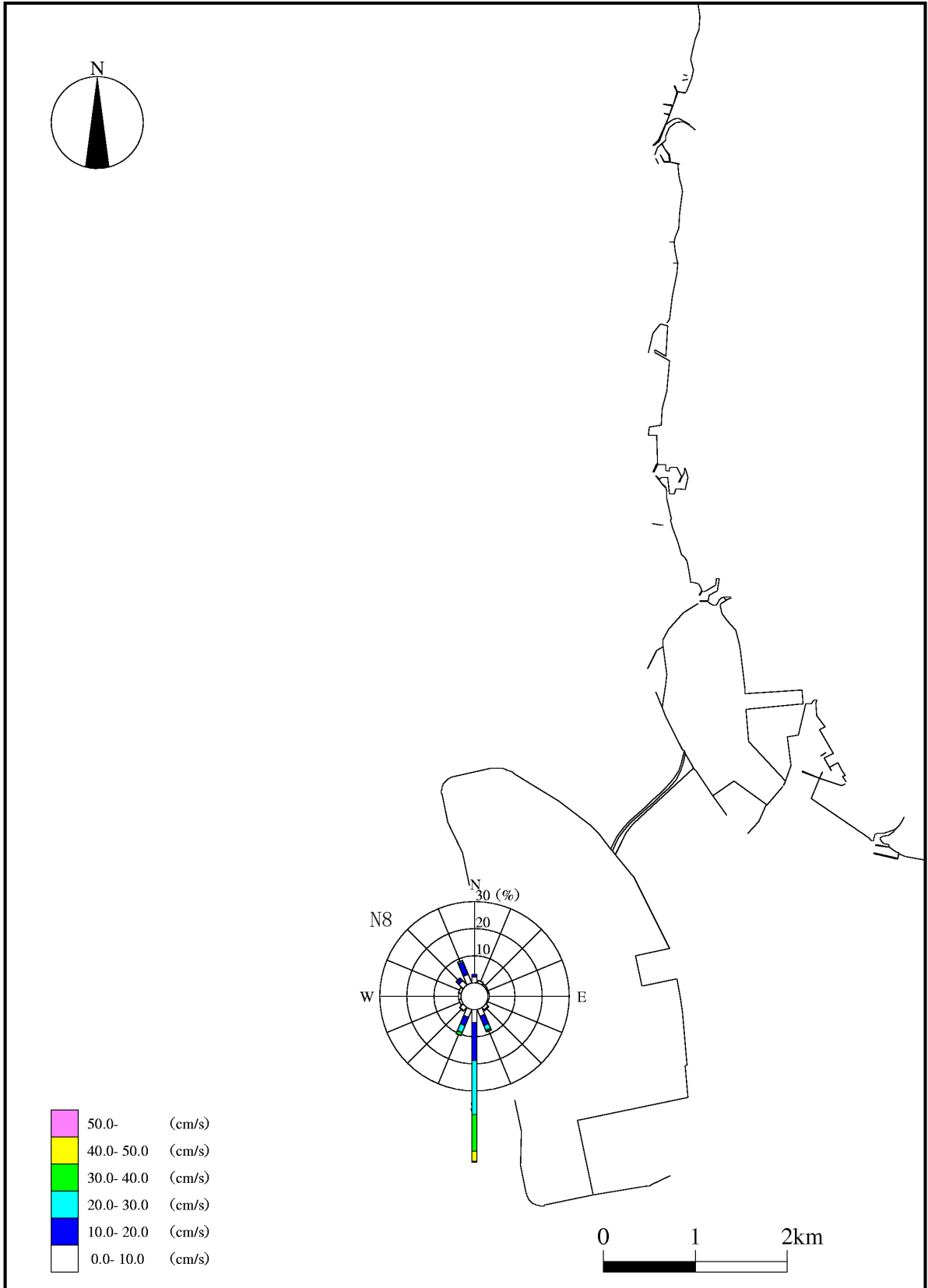
付図 8.4-31 (17) 流向別流速出現頻度分布 (上層、平成 27 年 11 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



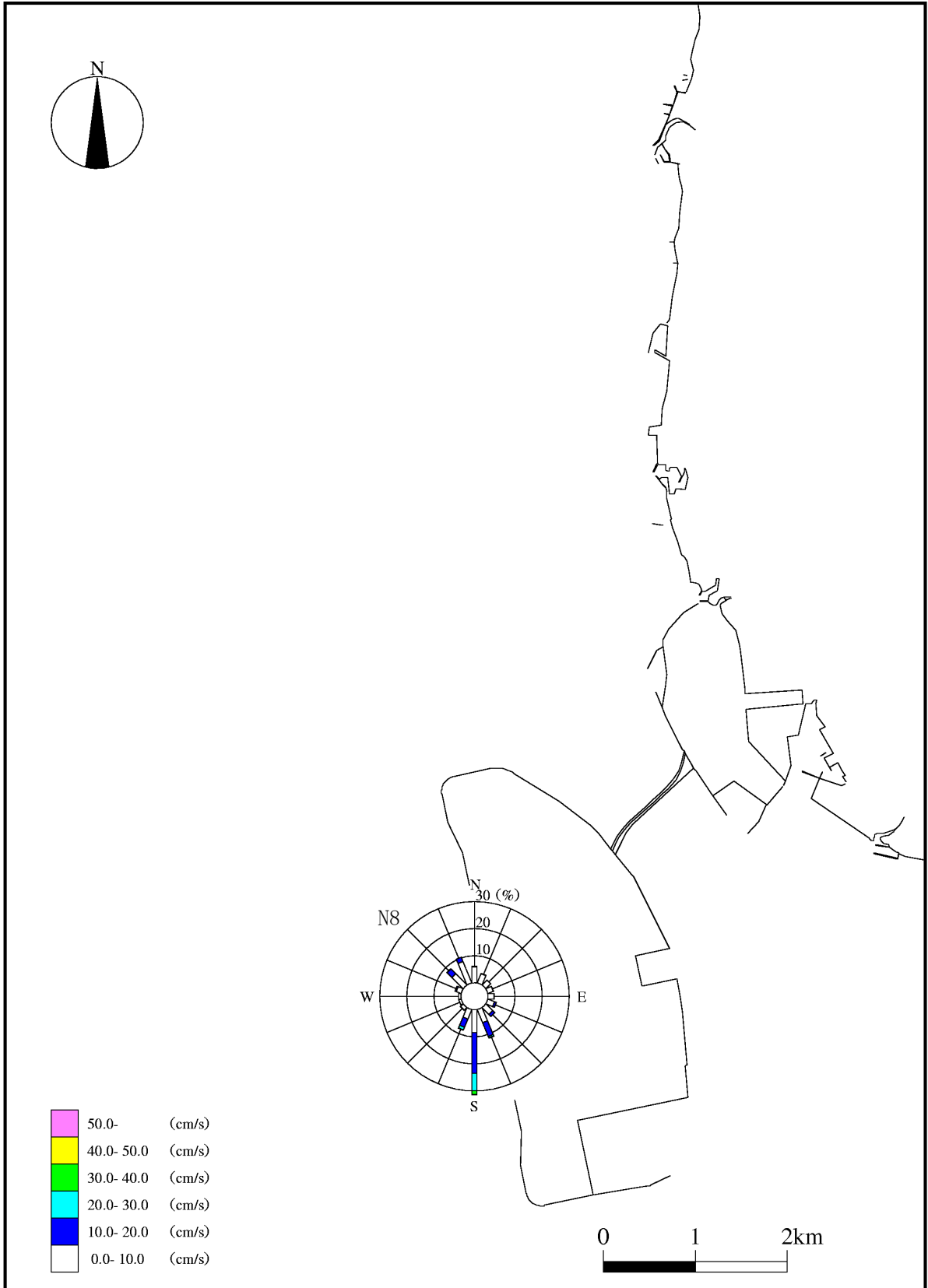
付図 8.4-31 (18) 流向別流速出現頻度分布 (底層、平成 27 年 11 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



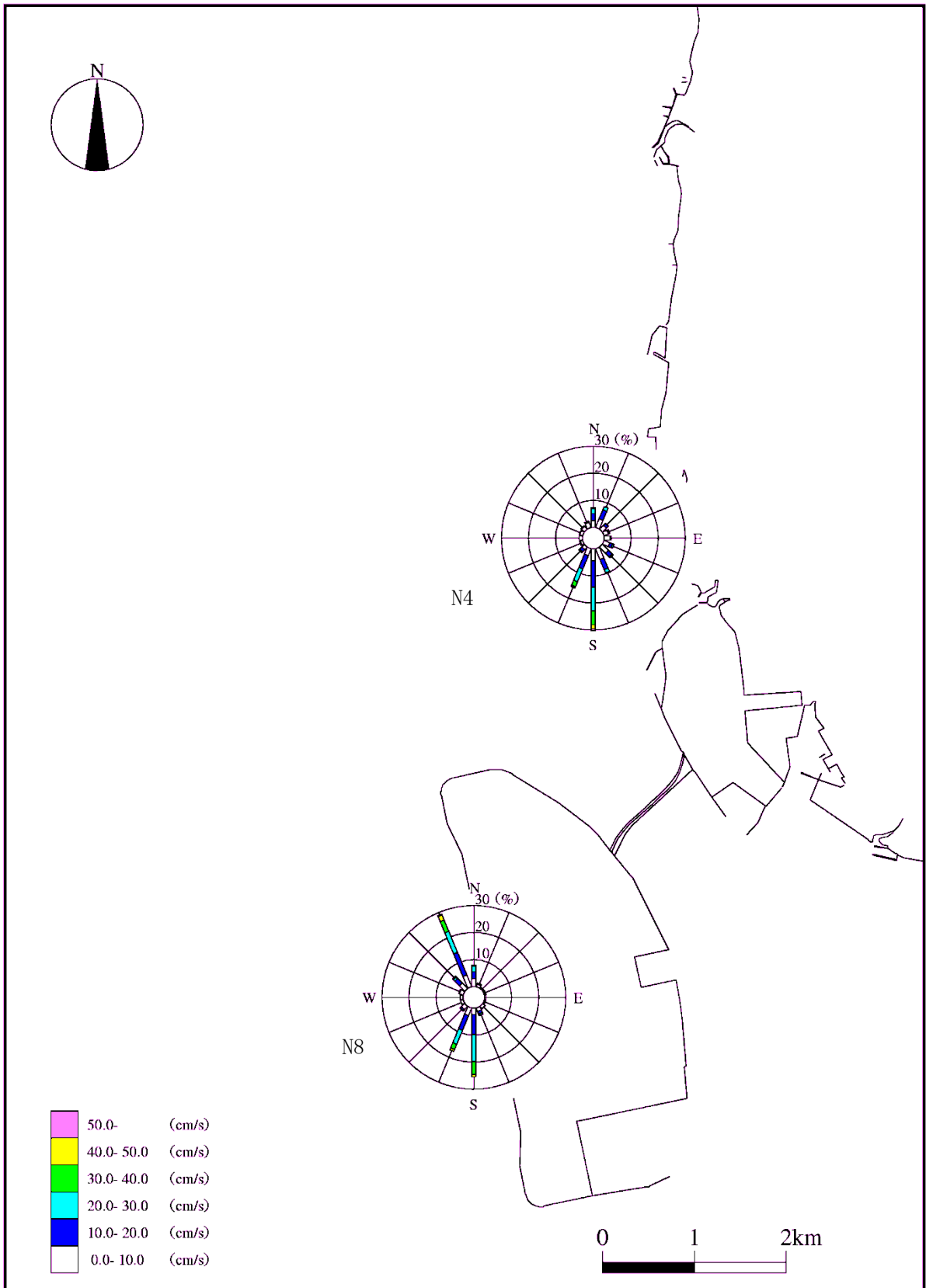
付図 8. 4-31 (19) 流向別流速出現頻度分布 (上層、平成 28 年 2 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



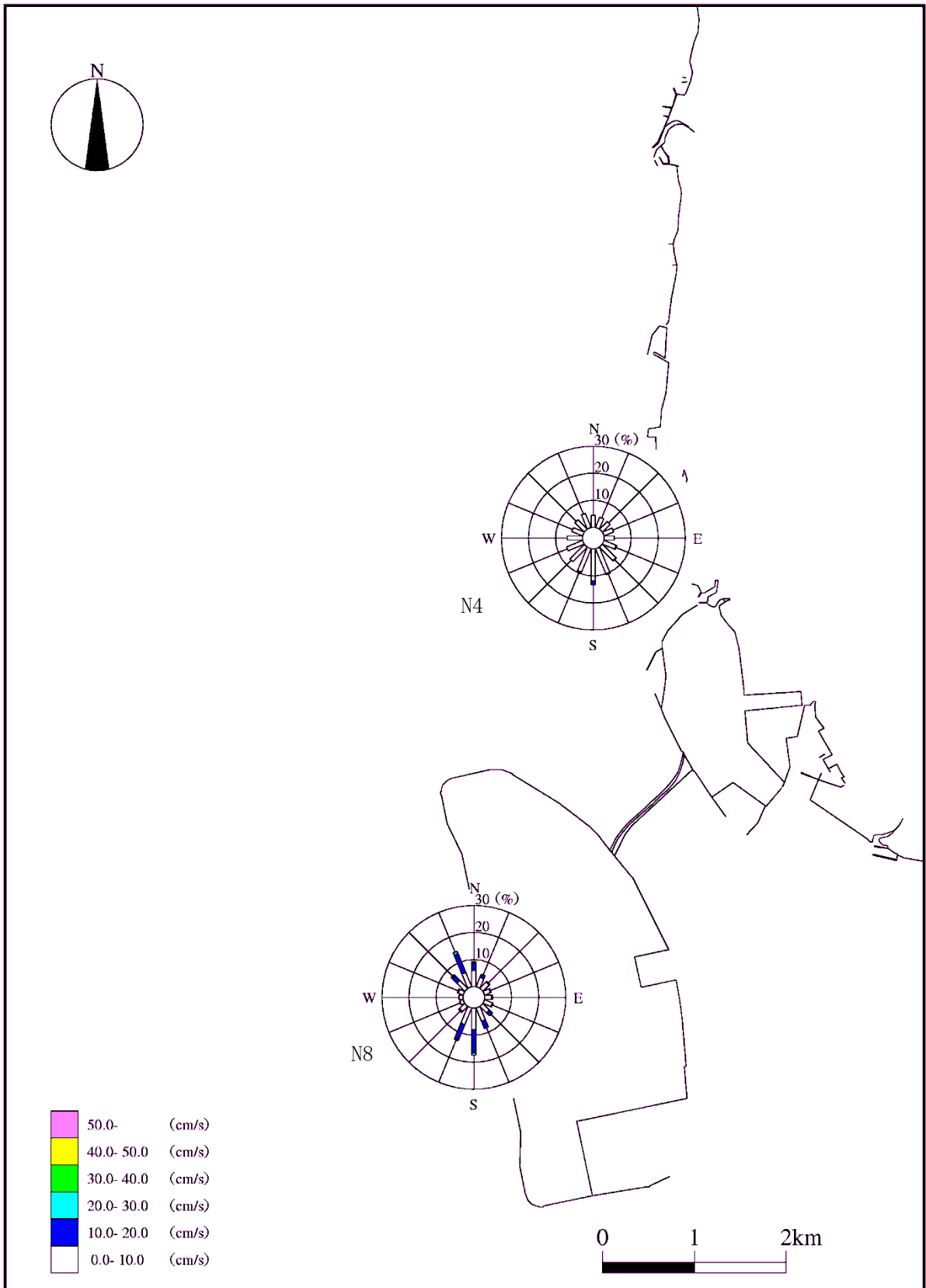
付図 8. 4-31 (20) 流向別流速出現頻度分布 (底層、平成 28 年 2 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



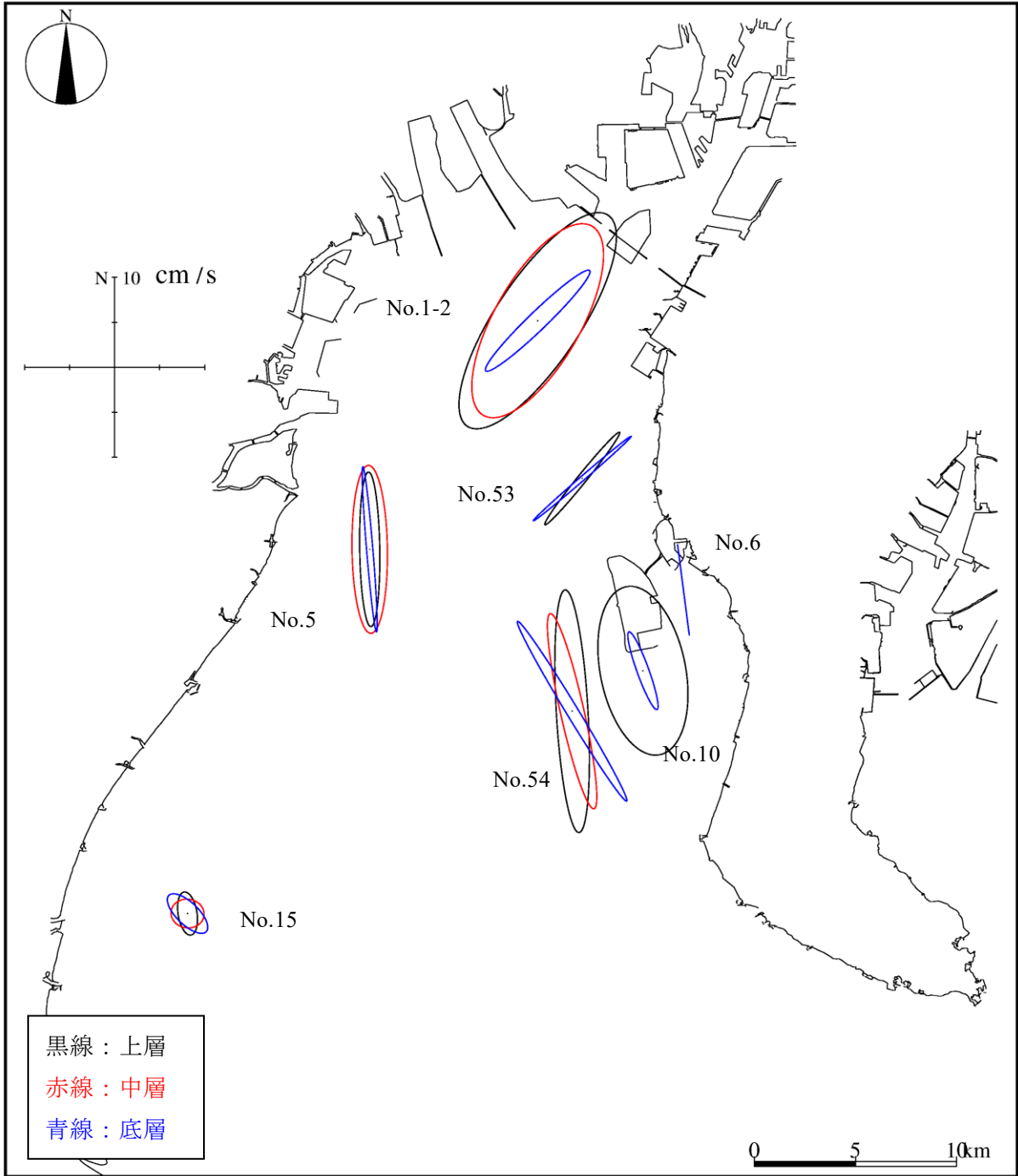
付図 8. 4-31 (21) 流向別流速出現頻度分布 (上層、平成 28 年 8 月)

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成〕



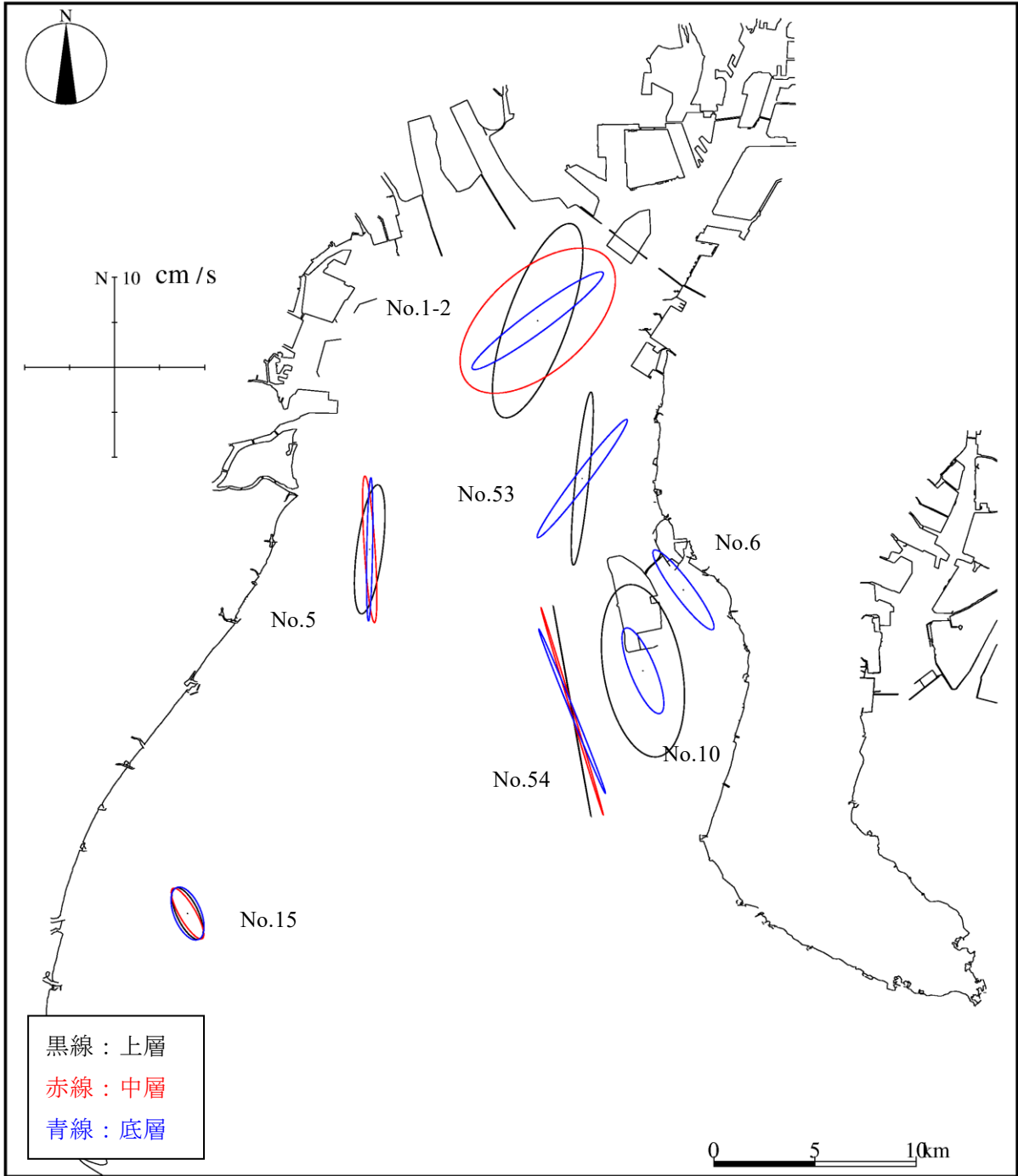
付図 8. 4-31 (22) 流向別流速出現頻度分布 (底層、平成 28 年 8 月)

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成〕



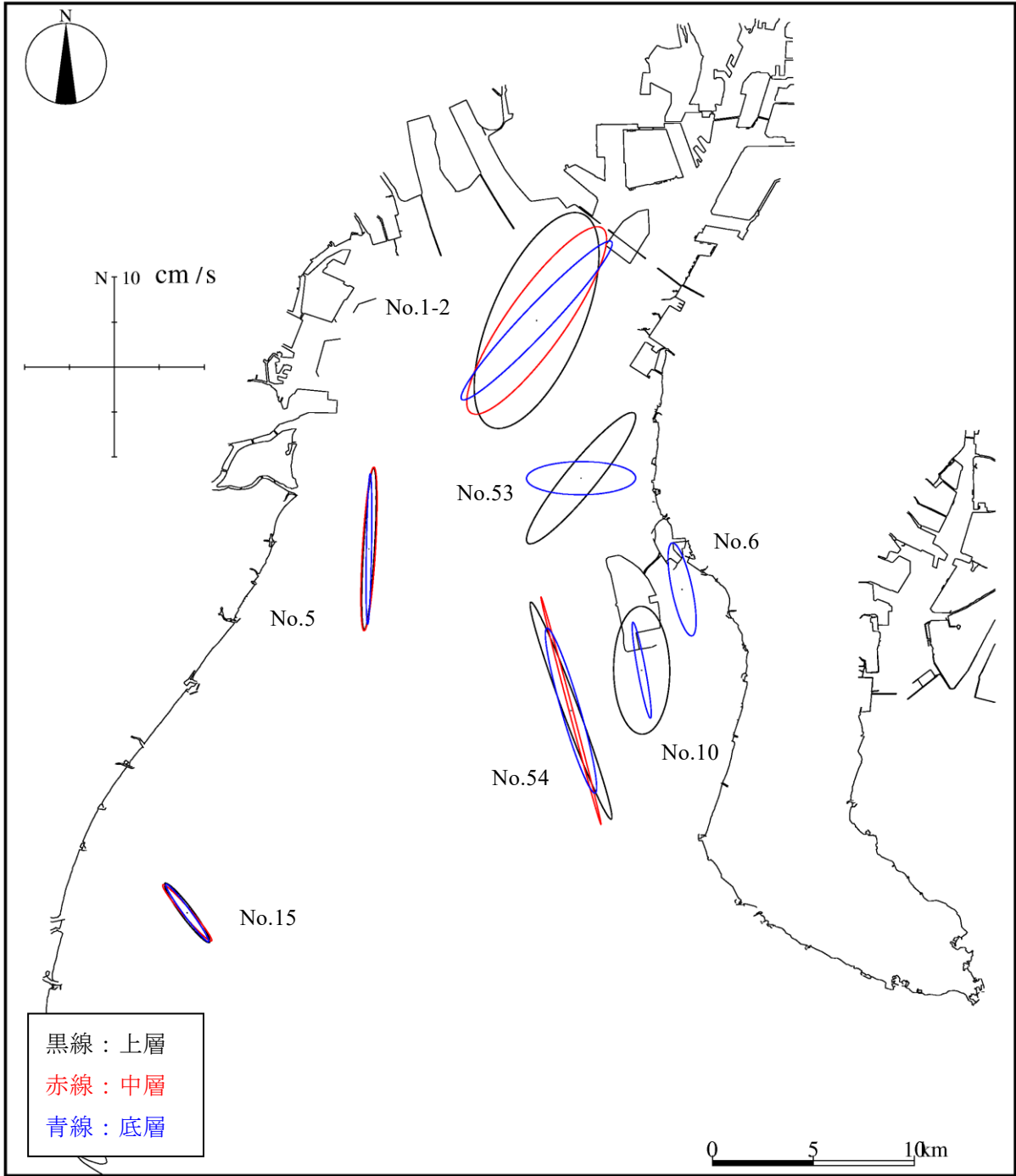
付図 8.4-32(1) M_2 分潮の潮流楕円の水平分布（平成 26 年 5 月）

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 （国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成



付図 8.4-32(2) M_2 分潮の潮流楕円の水平分布（平成 26 年 8 月）

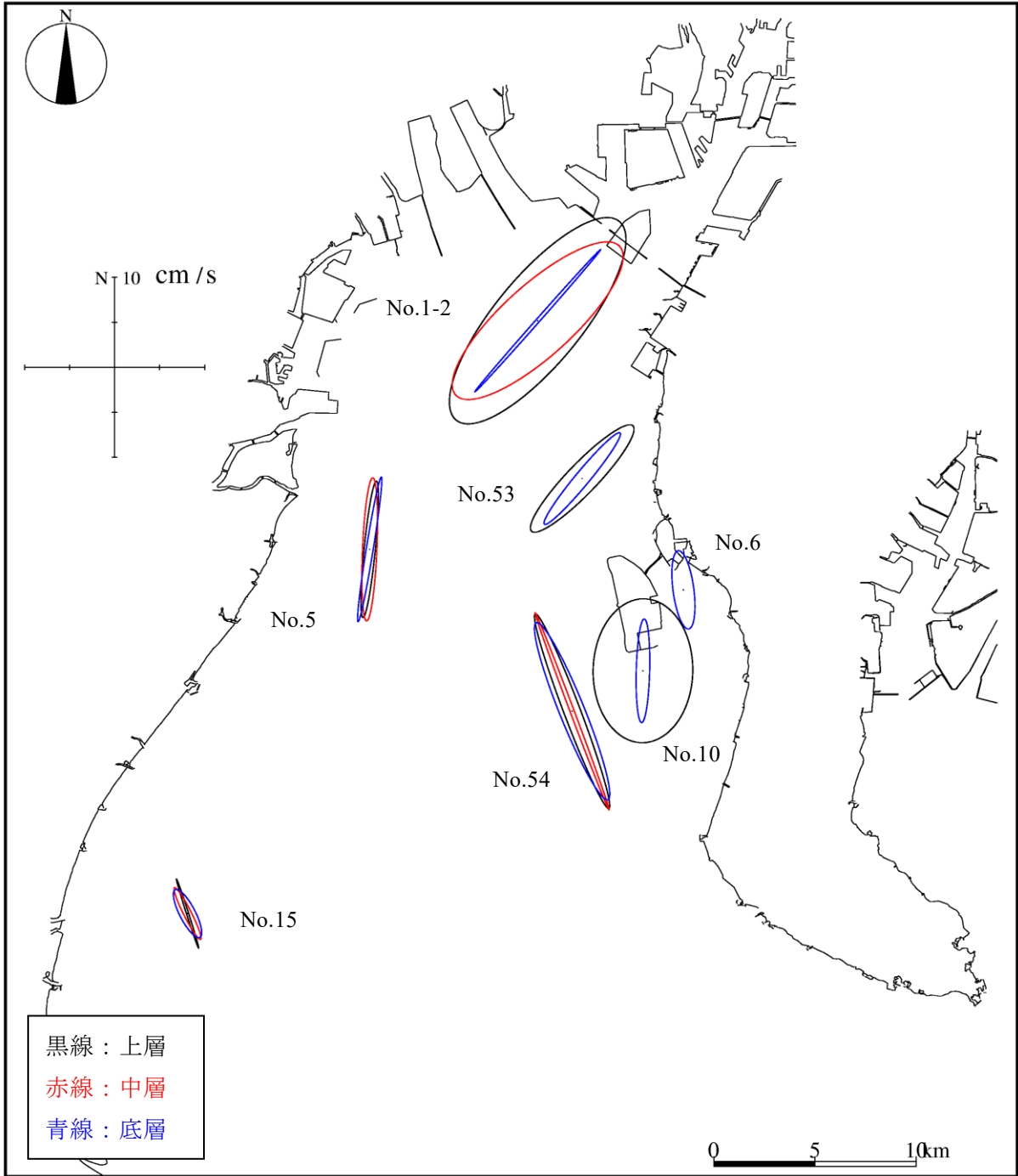
〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 （国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成



付図 8. 4-32 (3) M_2 分潮の潮流楕円の水平分布 (平成 26 年 11 月)

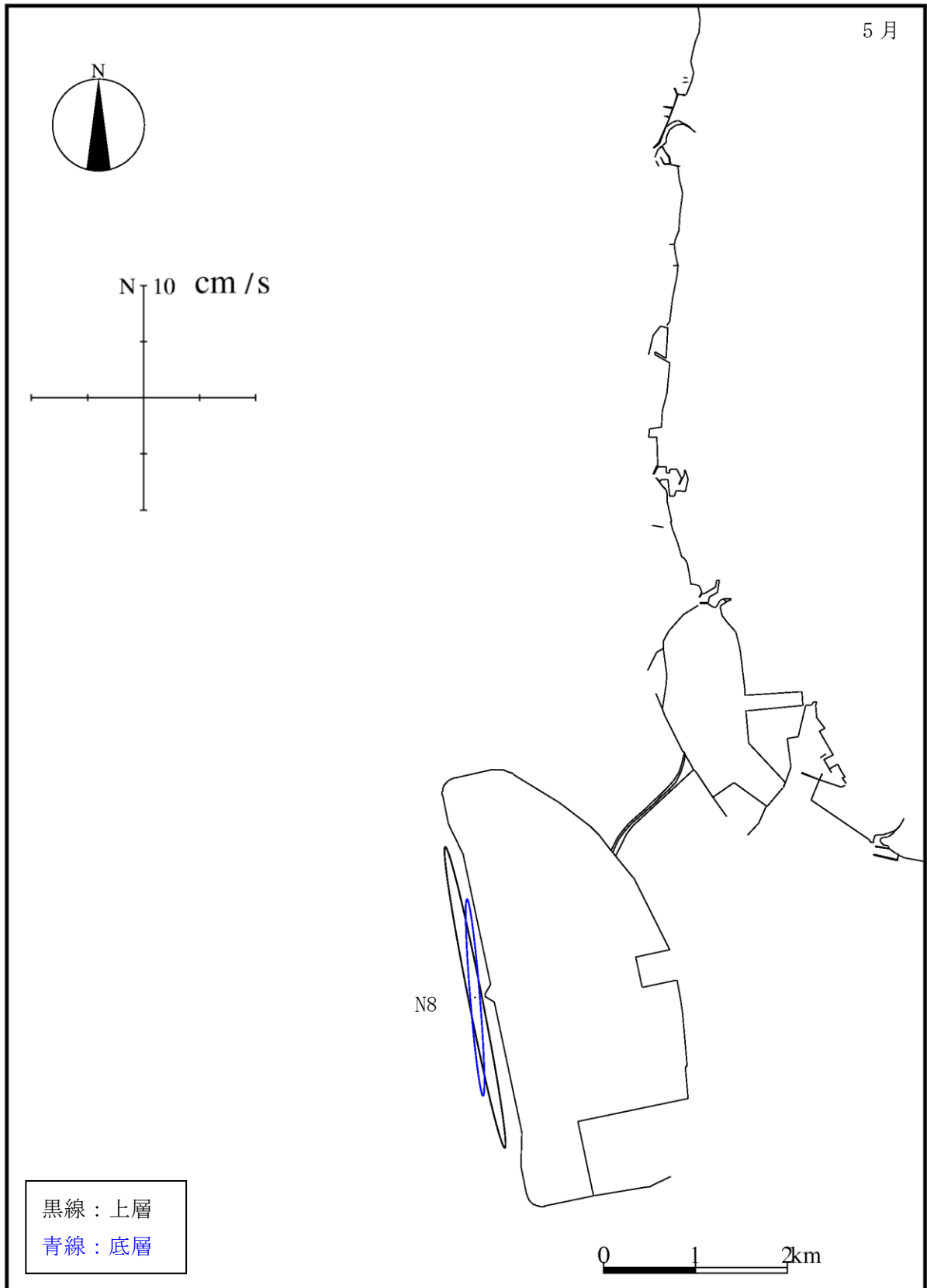
注 : No.53 の底層は、11 月 14 日 8:50~11 月 22 日 13:50 の期間が欠測となったため、参考値として示した。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



付図 8. 4-32 (4) M_2 分潮の潮流楕円の水平分布 (平成 27 年 1~2 月)

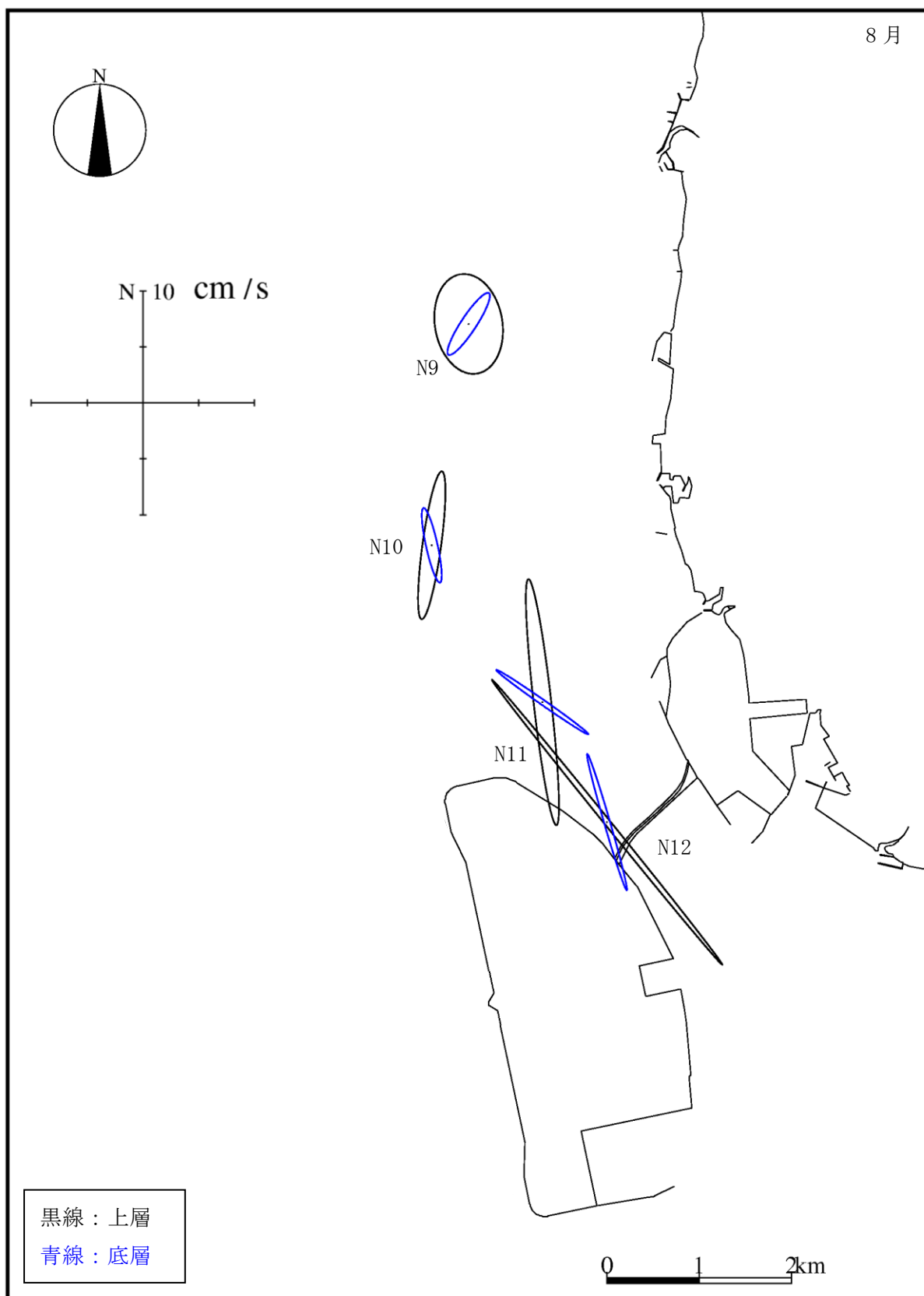
〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.4-32(5)

M_2 分潮の潮流楕円の水平分布 (平成 27 年 5 月)

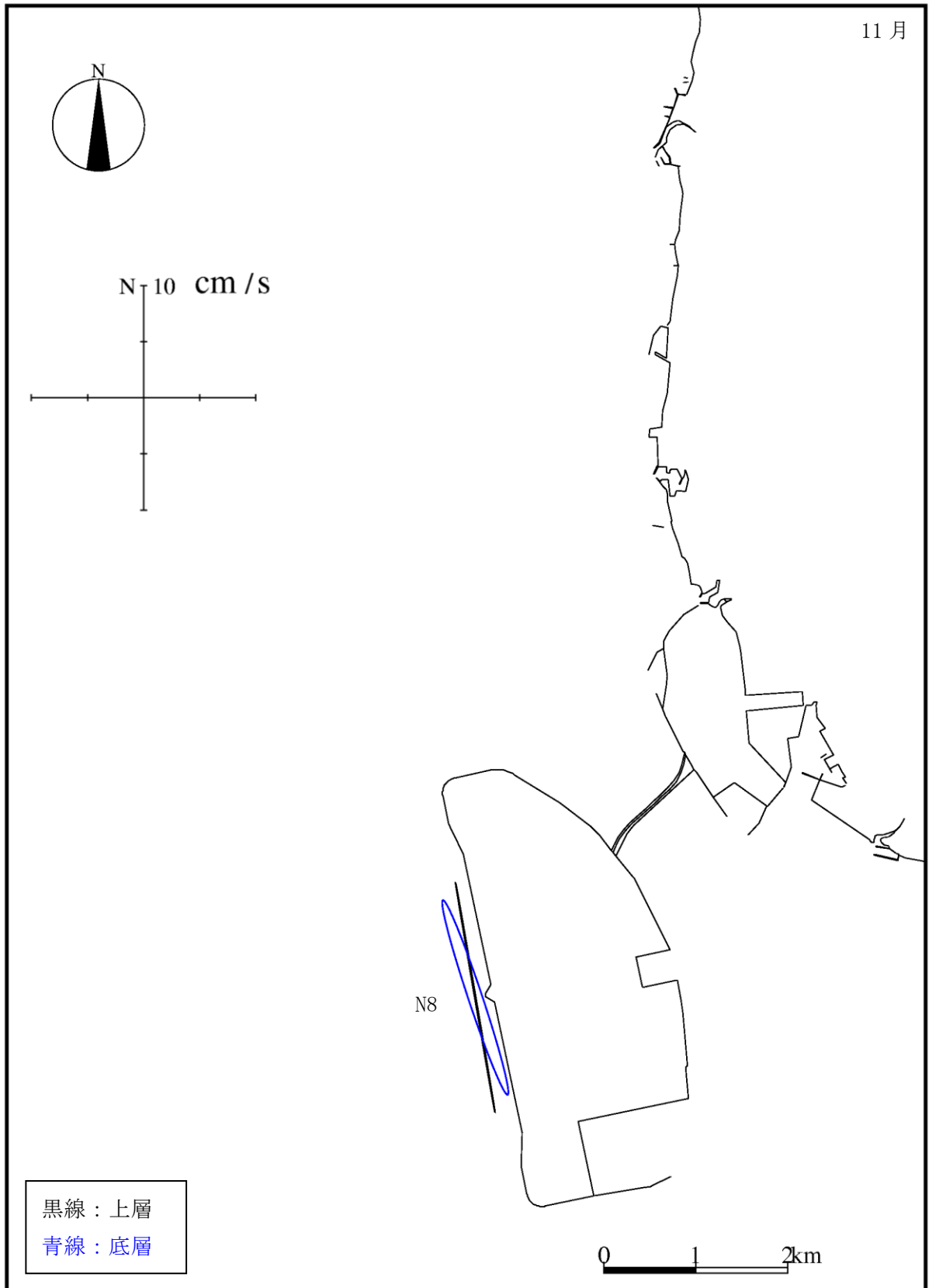
〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



付図 8.4-32(6)

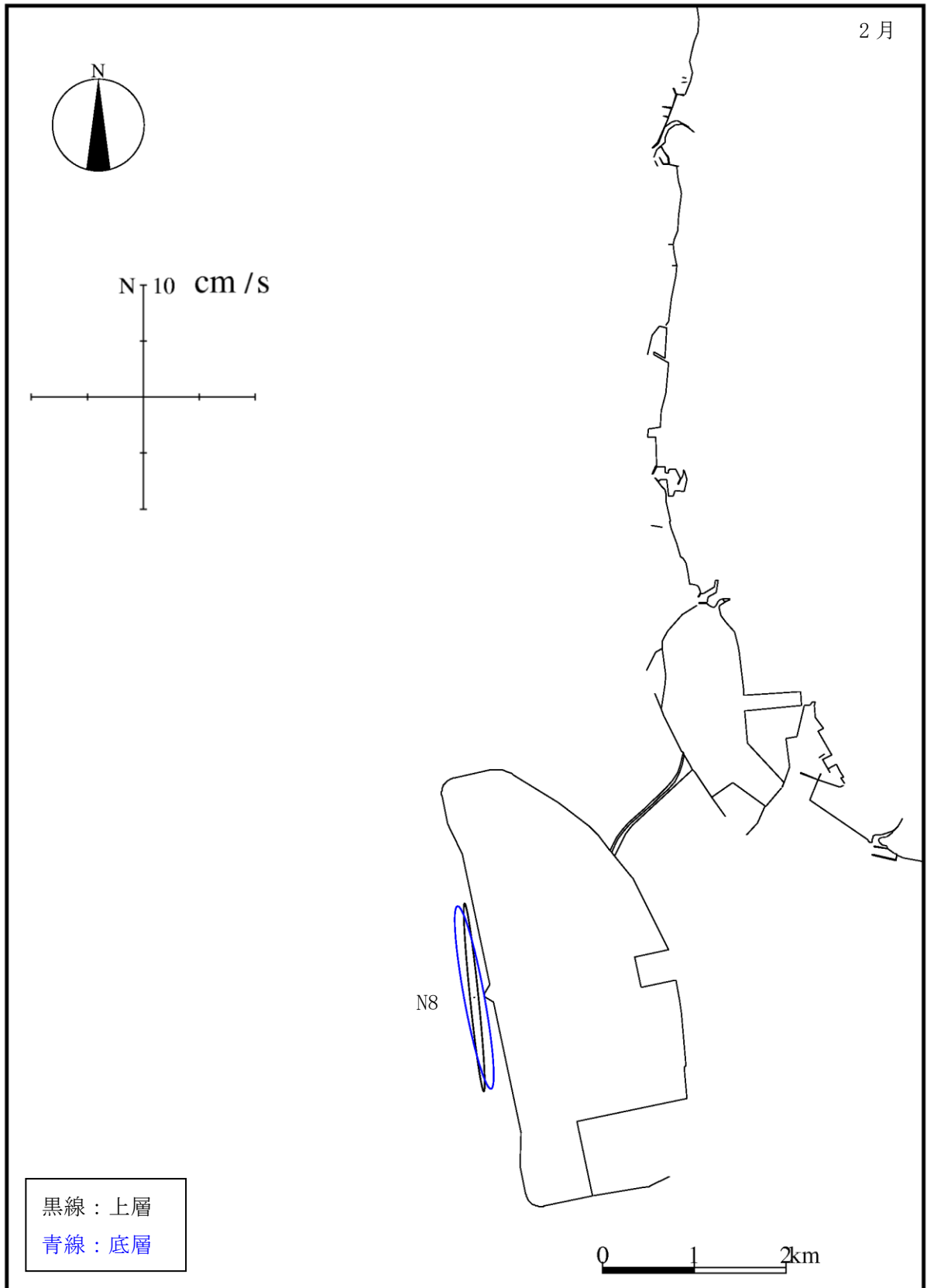
M_2 分潮の潮流楕円の水平分布 (平成 27 年 8 月)

〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



付図 8.4-32(7) M_2 分潮の潮流楕円の水平分布（平成27年11月）

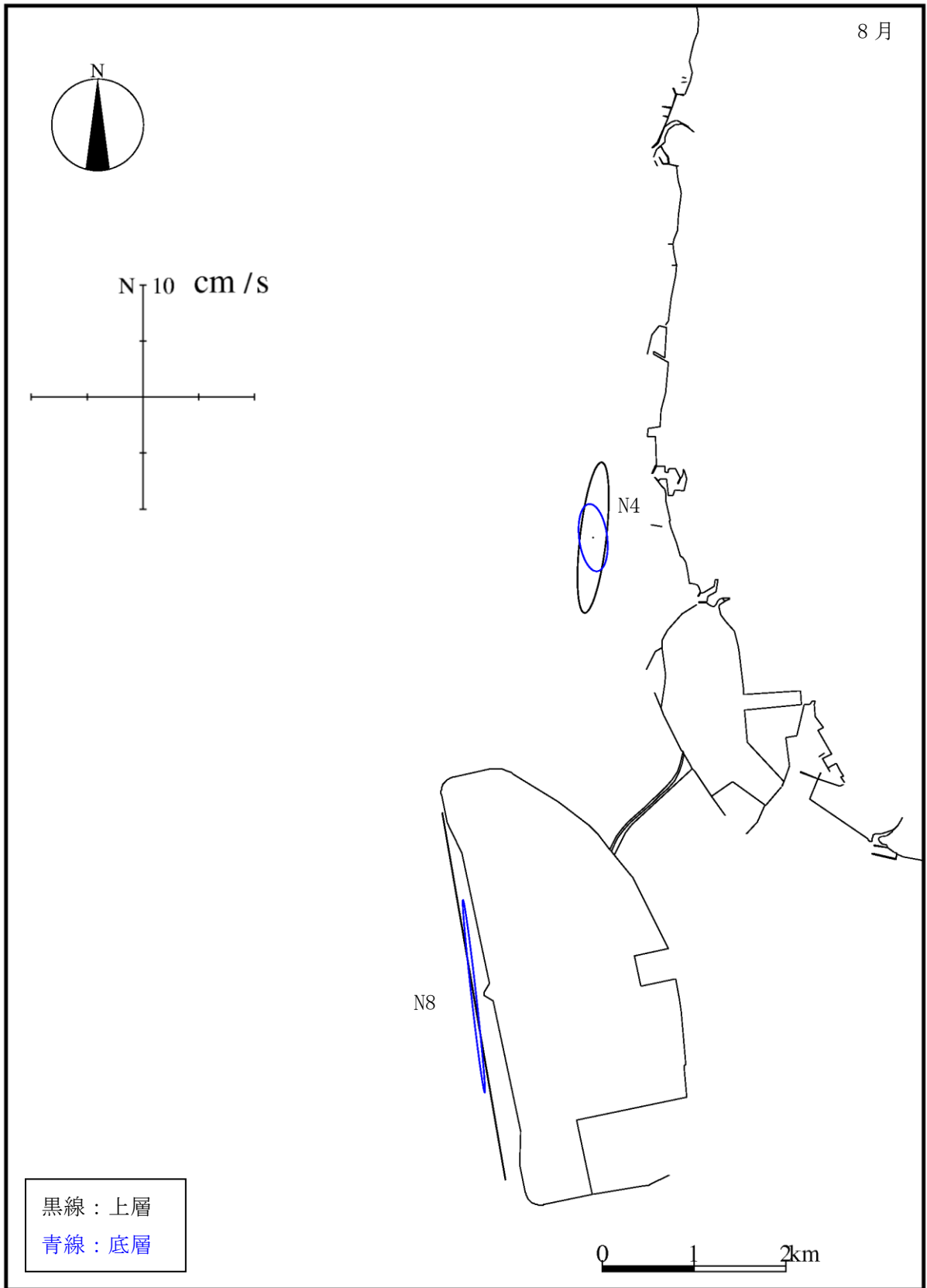
〔平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 （国土交通省中部地方整備局、平成28年）より作成



付図 8.4-32(8)

M_2 分潮の潮流楕円の水平分布 (平成 28 年 2 月)

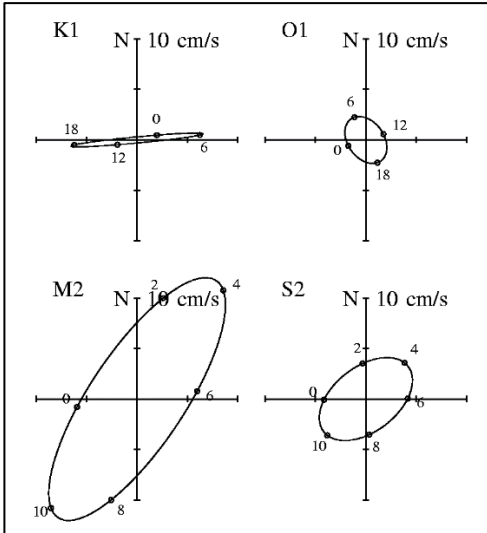
〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



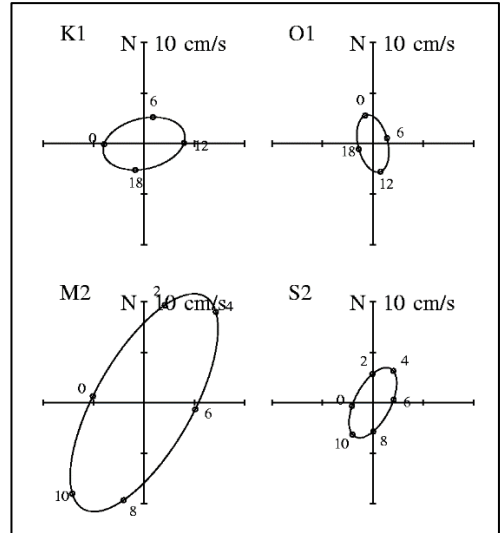
付図 8.4-32(9) M_2 分潮の潮流楕円の水平分布 (平成 28 年 8 月)

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

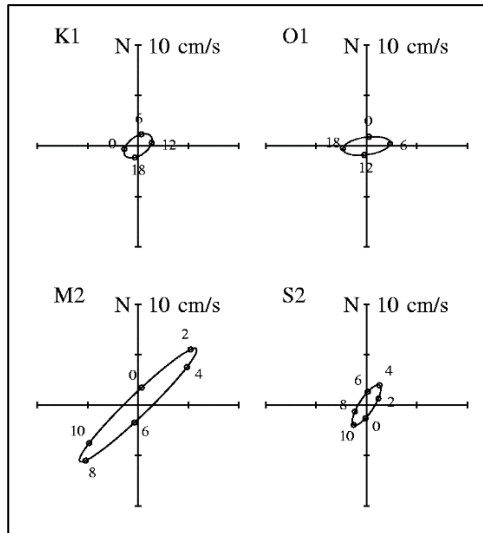
No.1-2
上層



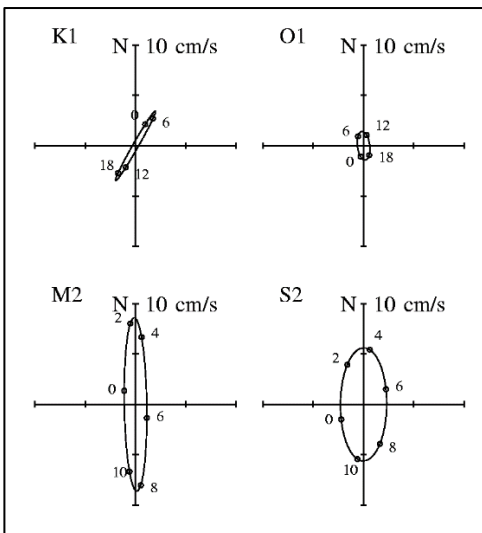
No.1-2
中層



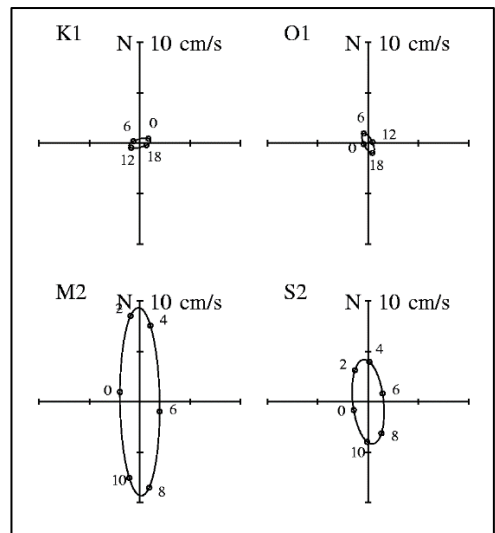
No.1-2
底層



No.5
上層



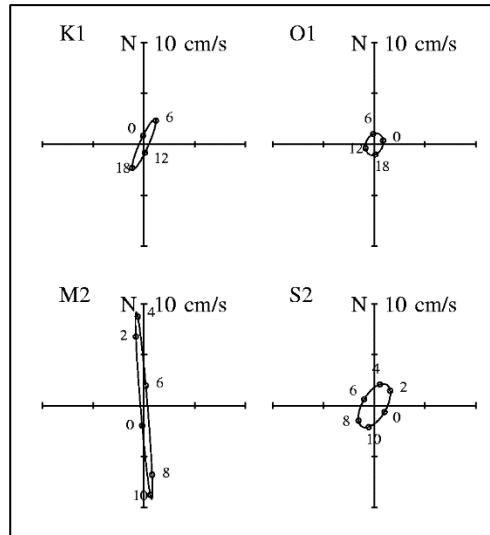
No.5
中層



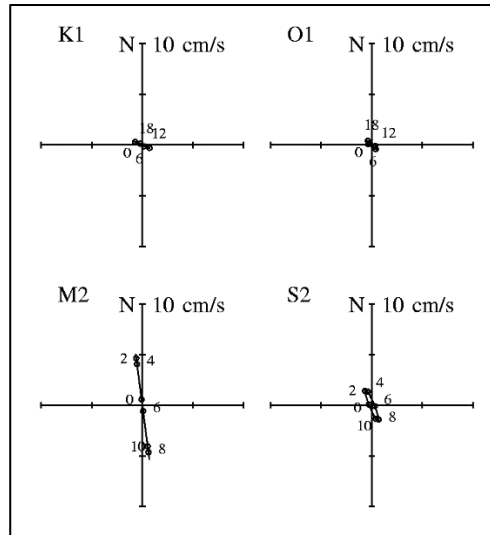
付図 8.4-33(1) 潮流楕円(平成 26 年 5 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
〔国土交通省中部地方整備局、平成 27 年〕より作成〕

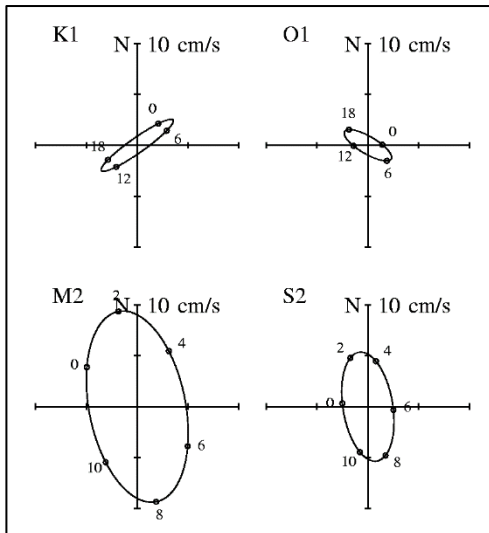
No.5
底層



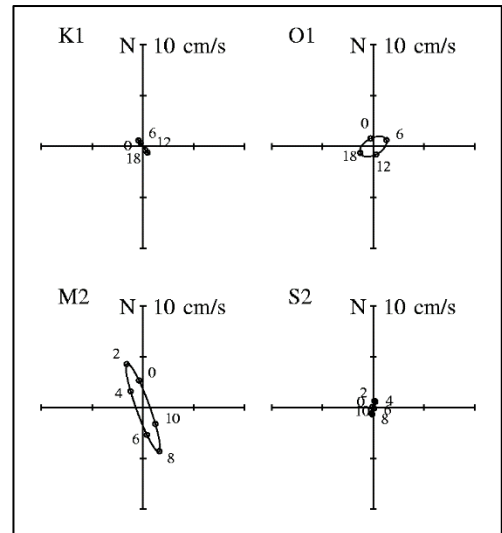
No.6
底層



No.10
上層



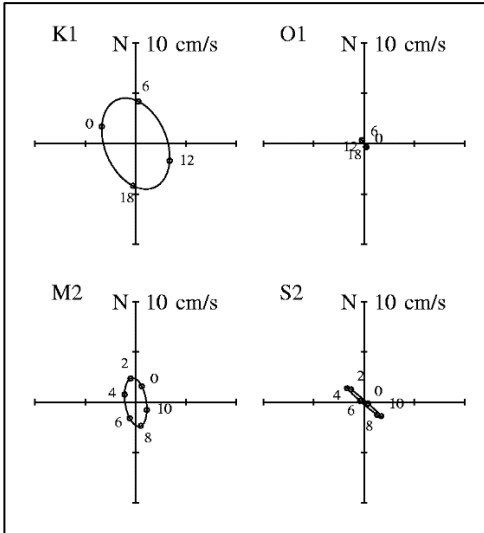
No.10
底層



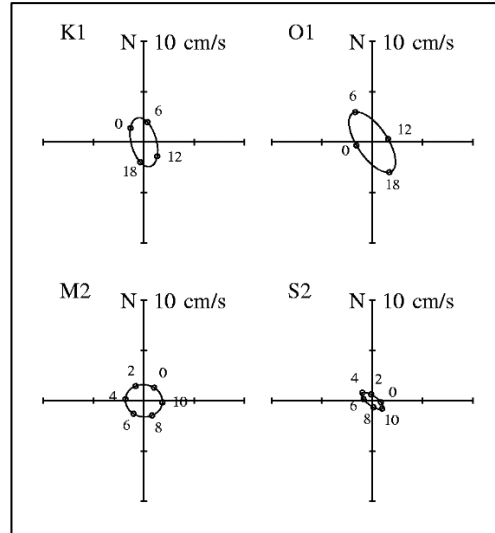
付図 8.4-33(2) 潮流楕円(平成 26 年 5 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

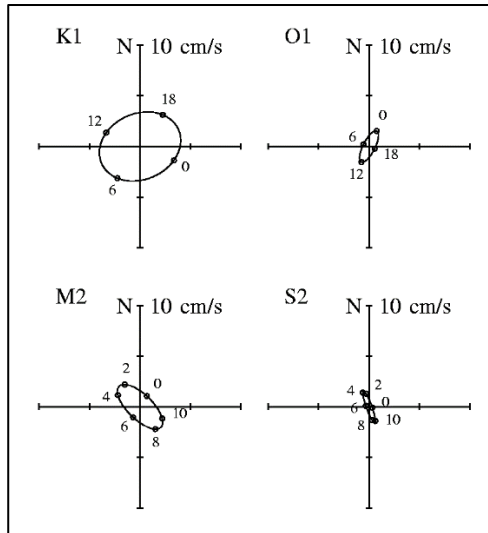
No.15
上層



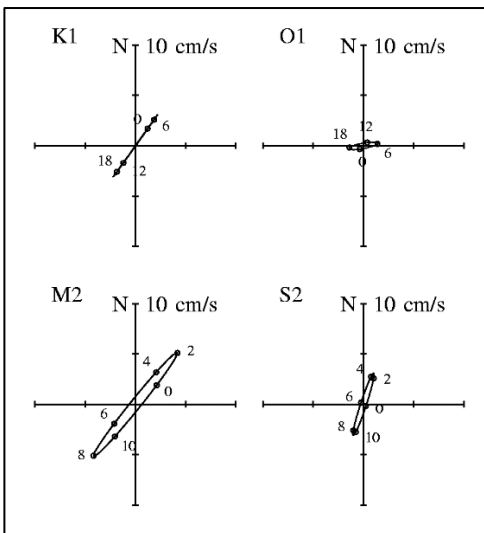
No.15
中層



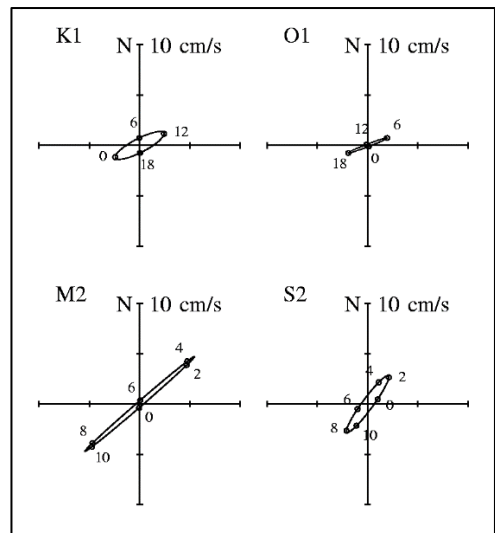
No.15
底層



No.53
上層



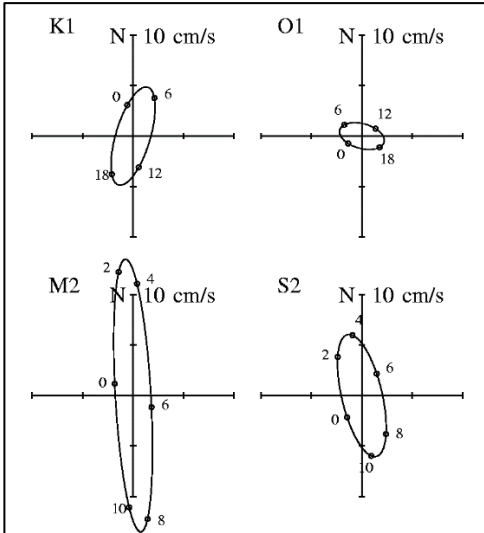
No.53
底層



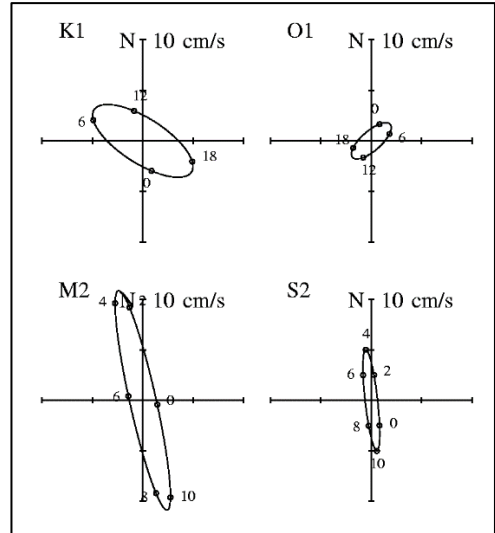
付図 8.4-33(3) 潮流楕円(平成 26 年 5 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 27 年〕より作成

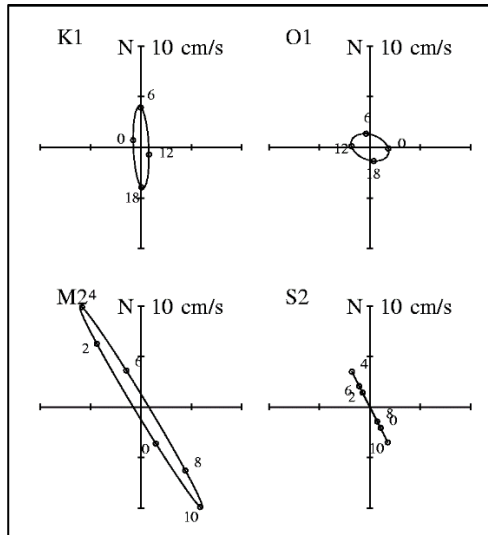
No.54
上層



No.54
中層



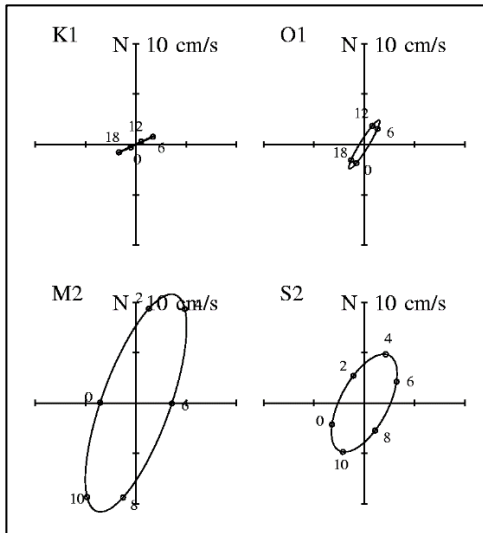
No.54
底層



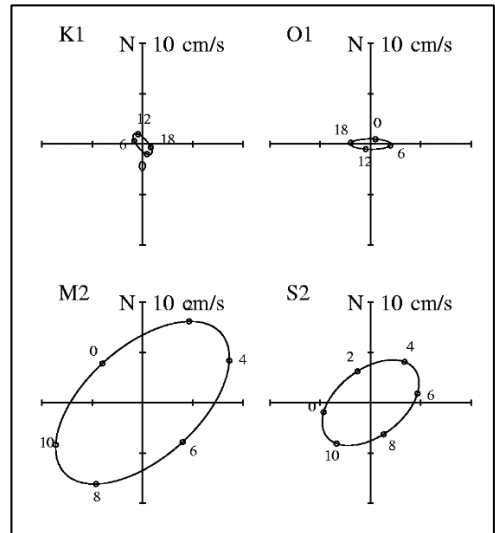
付図 8.4-33(4) 潮流楕円(平成 26 年 5 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 27 年〕より作成

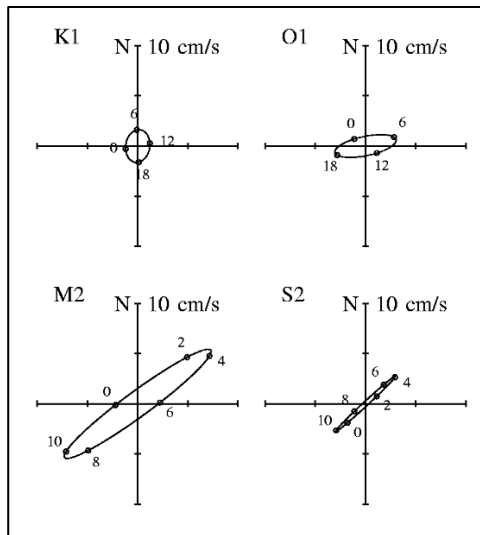
No.1-2
上層



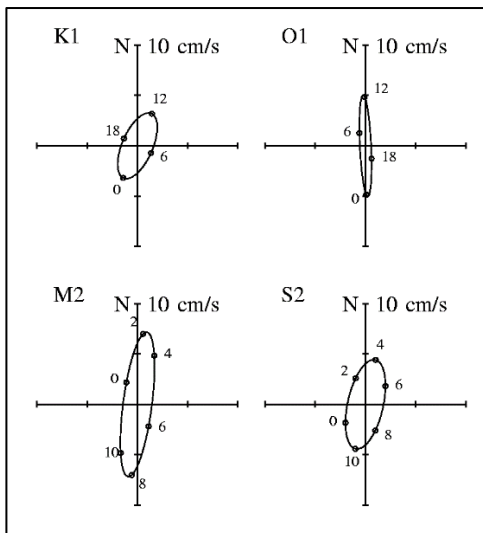
No.1-2
中層



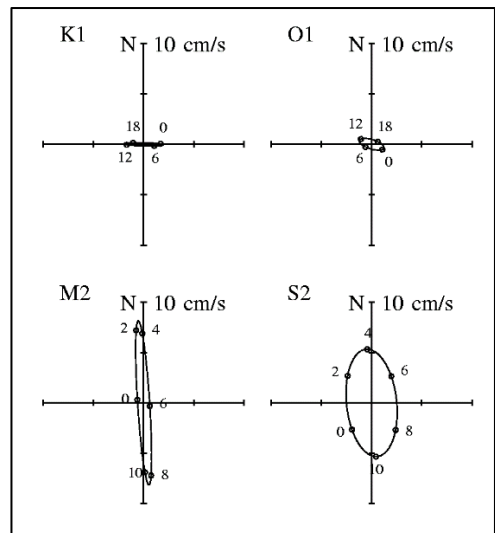
No.1-2
底層



No.5
上層



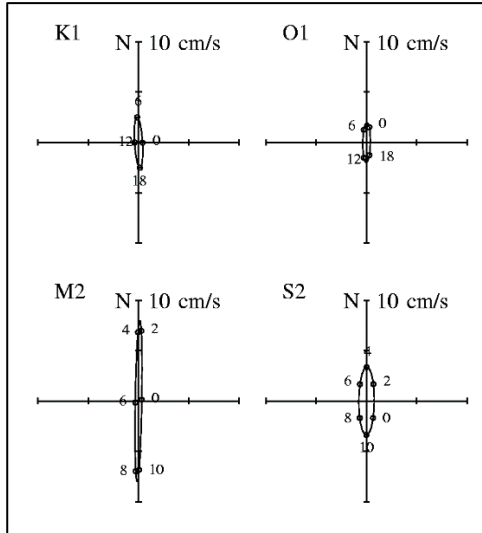
No.5
中層



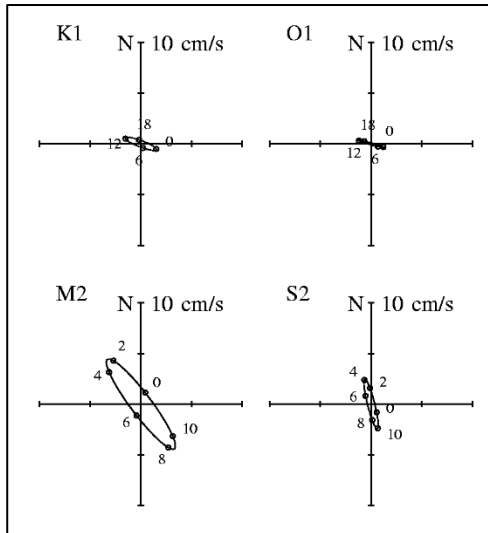
付図 8.4-33(5) 潮流楕円(平成 26 年 8 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

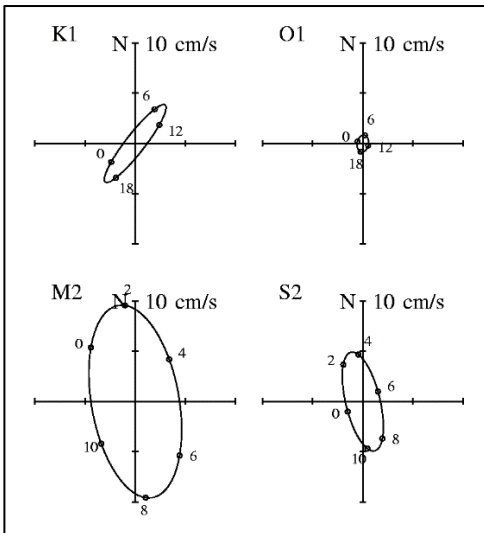
No.5
底層



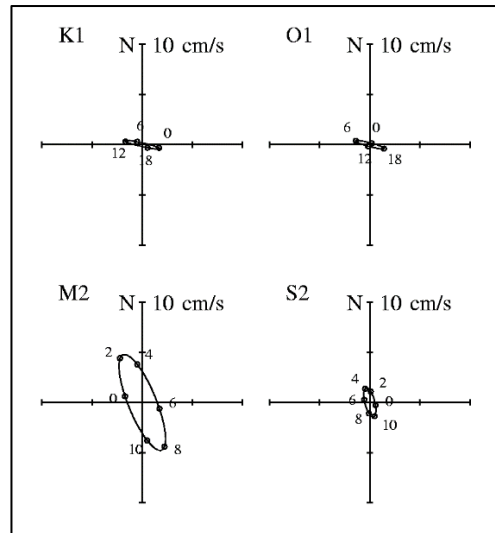
No.6
底層



No.10
上層



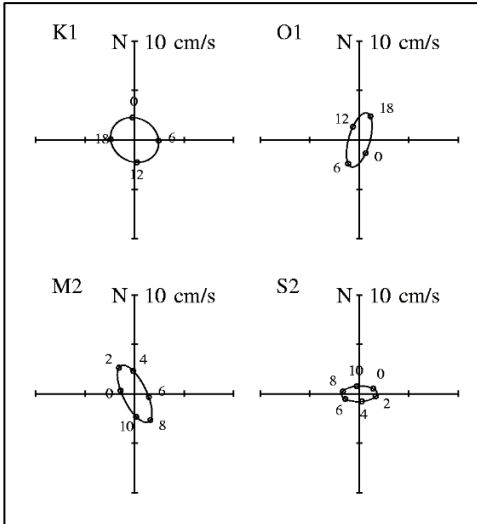
No.10
底層



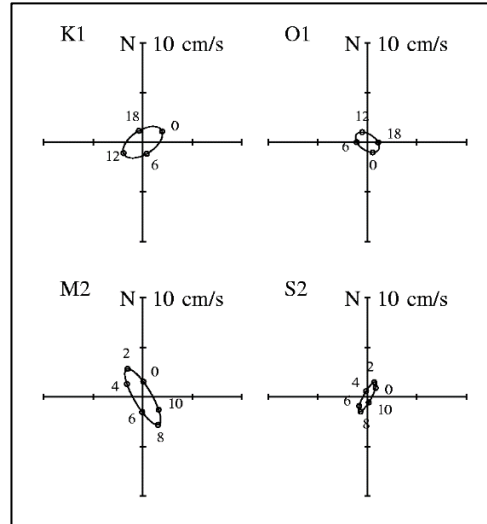
付図 8.4-33(6) 潮流楕円(平成 26 年 8 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

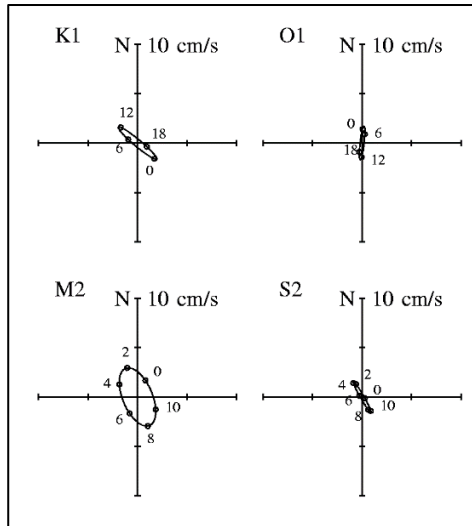
No.15
上層



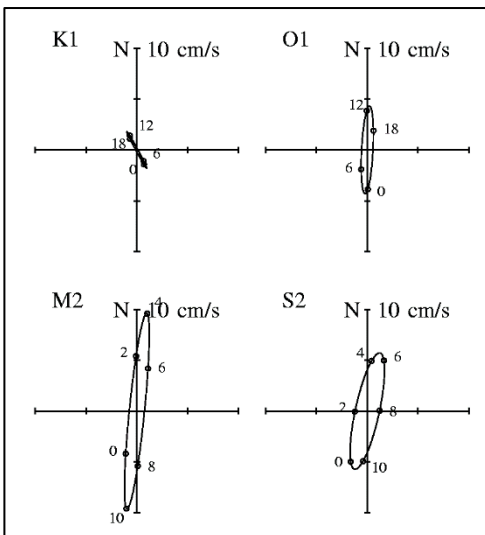
No.15
中層



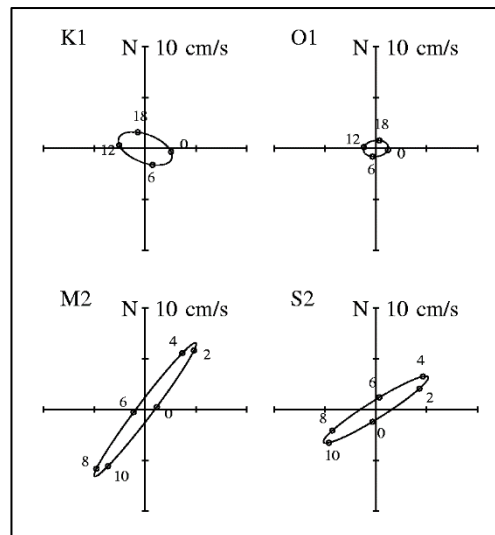
No.15
底層



No.53
上層



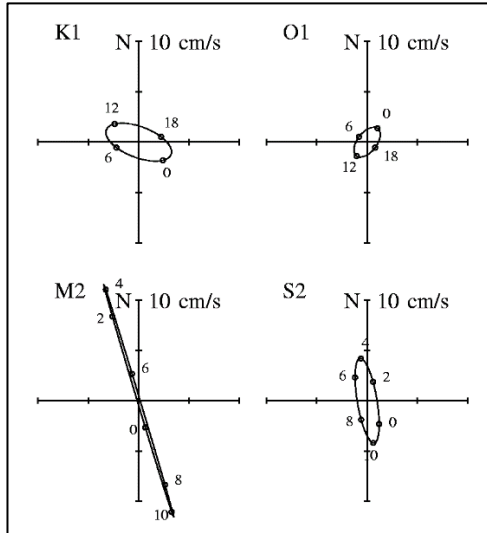
No.53
底層



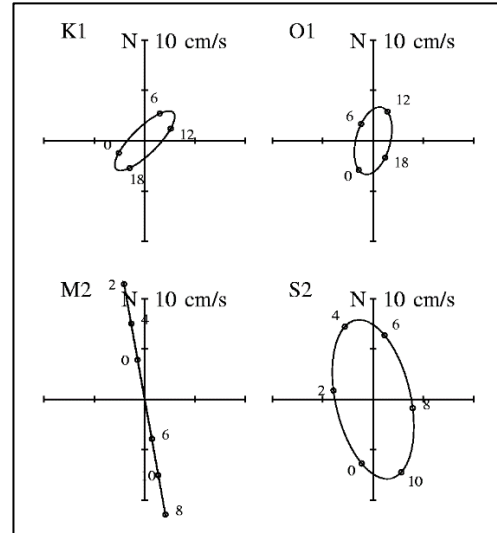
付図 8.4-33(7) 潮流楕円(平成 26 年 8 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

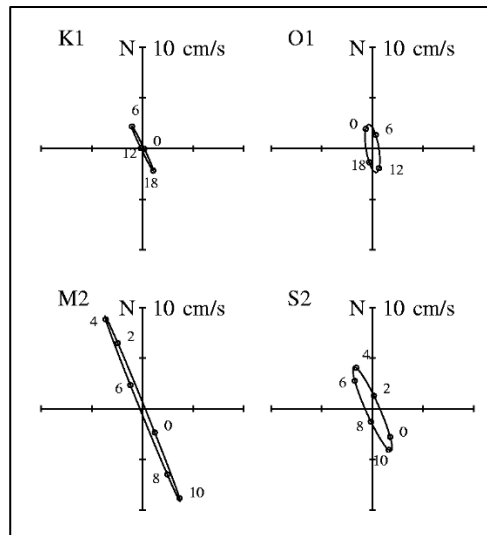
No.54
上層



No.54
中層

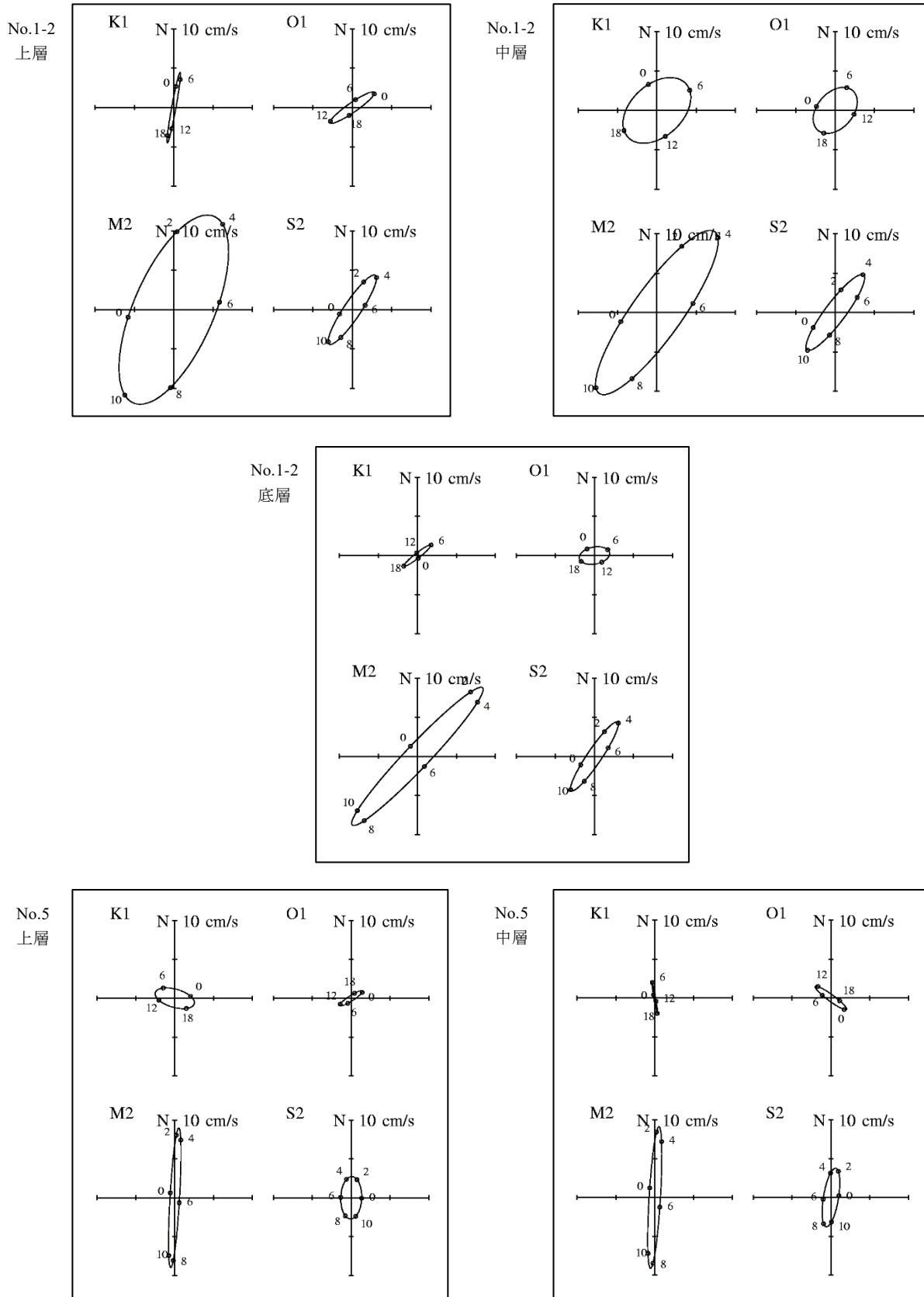


No.54
底層



付図 8.4-33(8) 潮流楕円(平成 26 年 8 月)

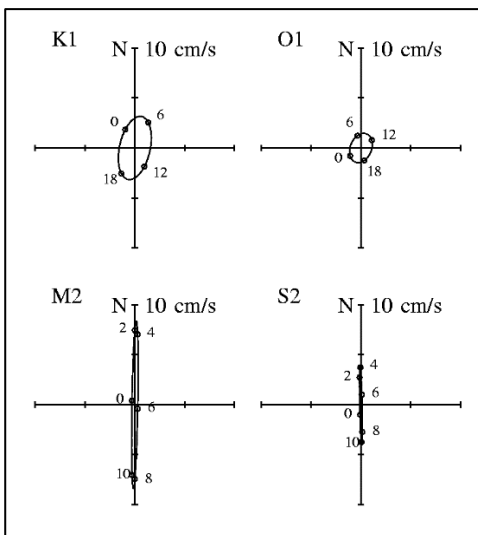
〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 27 年〕より作成



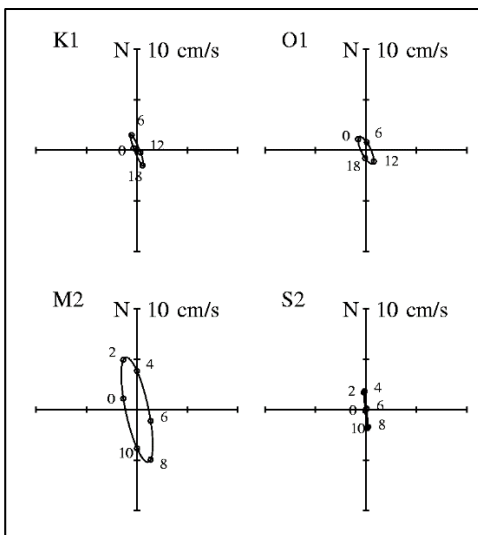
付図 8.4-33 (9) 潮流楕円(平成 26 年 11 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

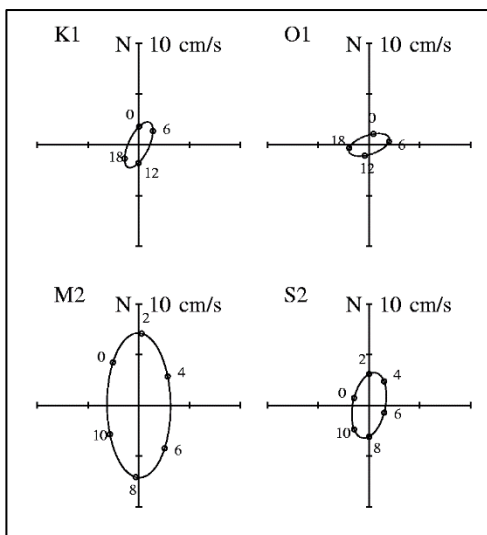
No.5
底層



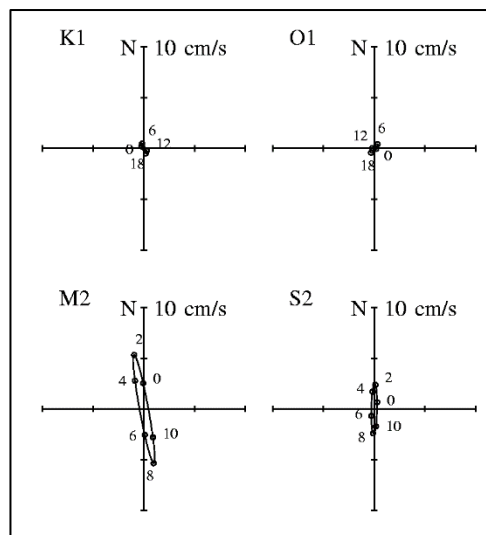
No.6
底層



No.10
上層



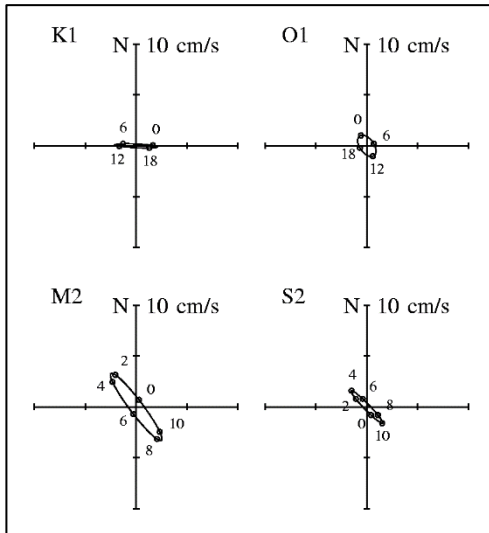
No.10
底層



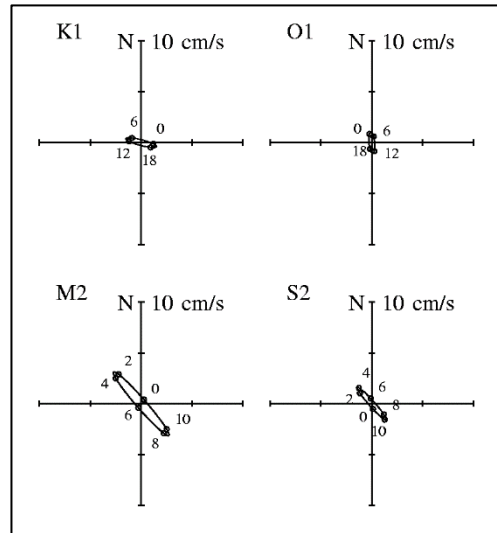
付図 8.4-33(10) 潮流楕円(平成 26 年 11 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

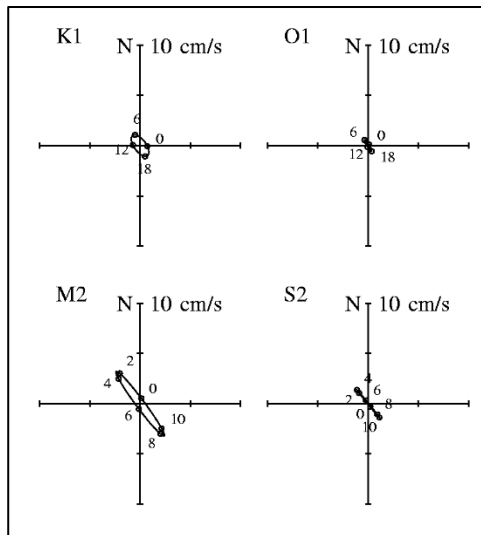
No.15
上層



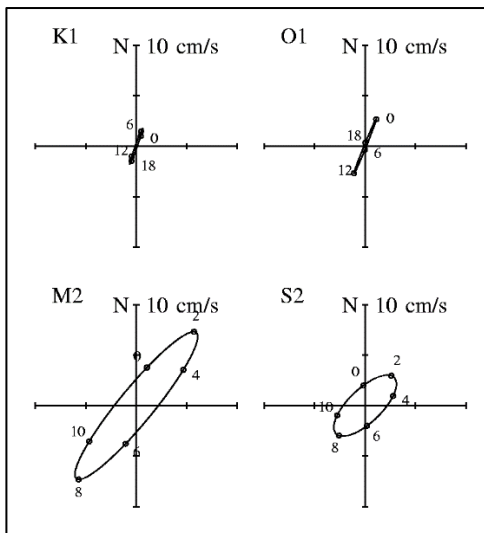
No.15
中層



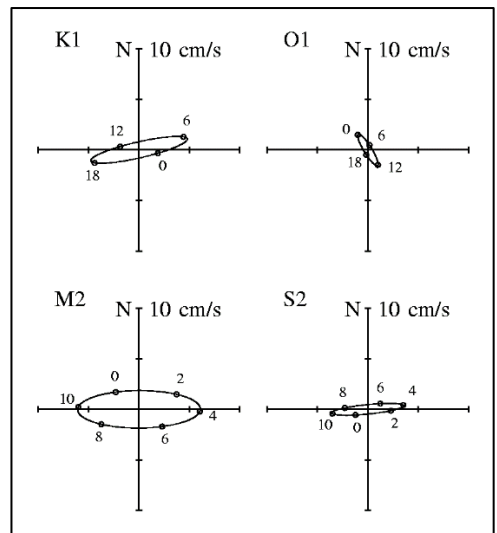
No.15
底層



No.53
上層



No.53
底層

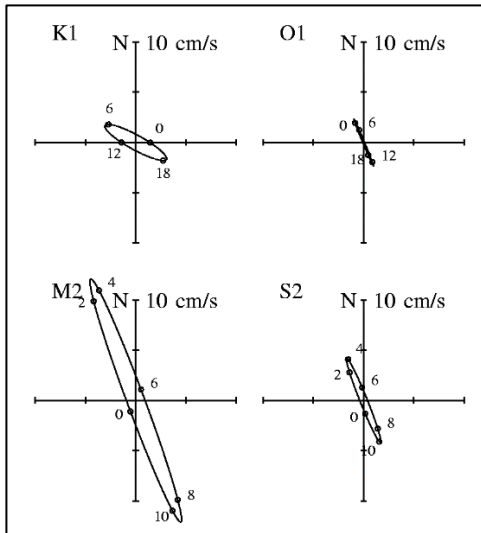


付図 8.4-33(11) 潮流楕円(平成 26 年 11 月)

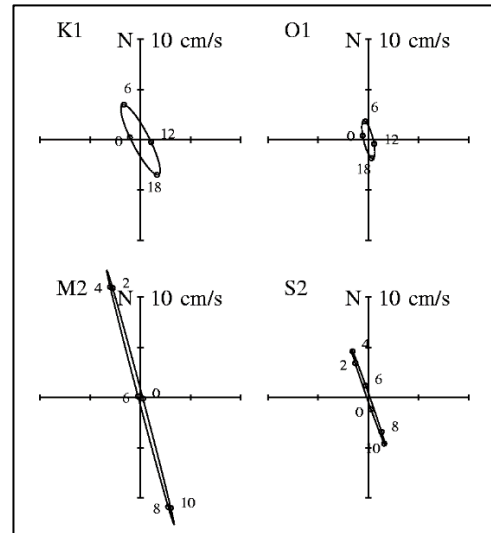
注: No.53 の底層は、11 月 14 日 8:50~11 月 22 日 13:50 の期間が欠測となったため、参考値として示した。

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
(国土交通省中部地方整備局 平成 27 年) より作成

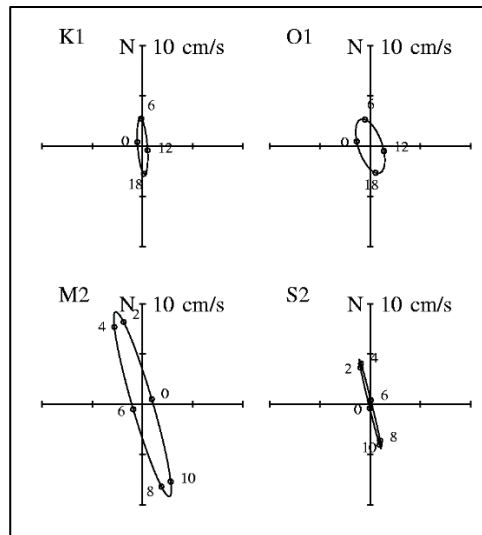
No.54
上層



No.54
中層



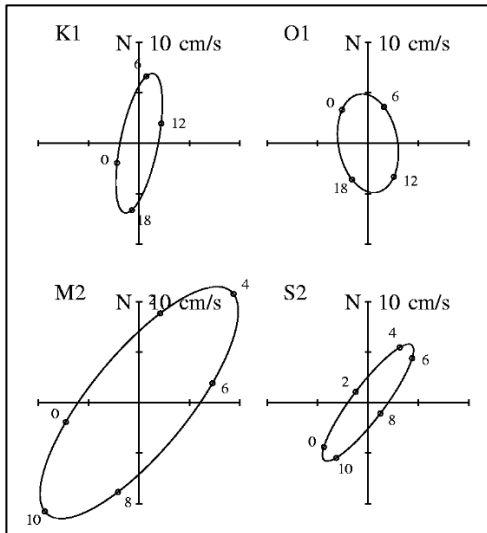
No.54
底層



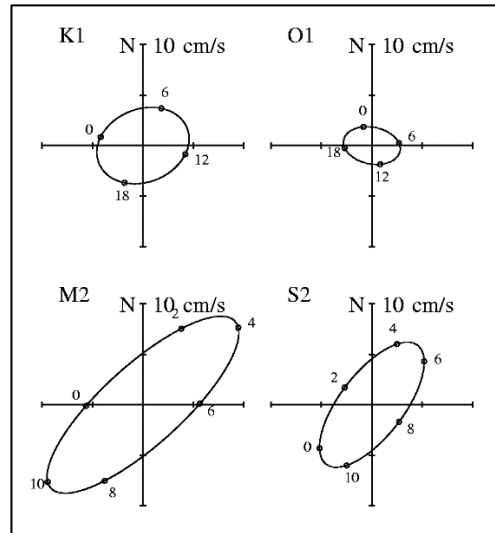
付図 8.4-33(12) 潮流楕円(平成 26 年 11 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 27 年〕より作成

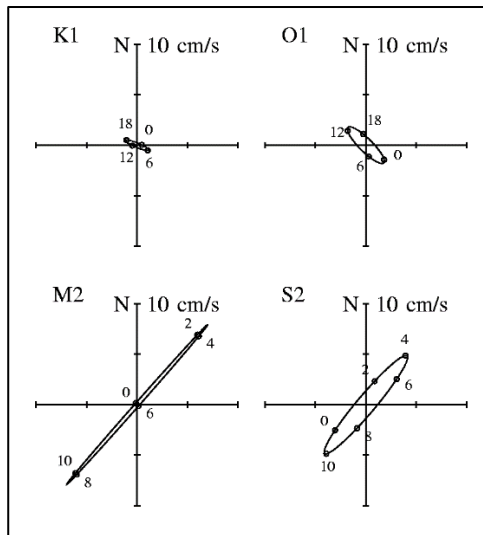
No.1-2
上層



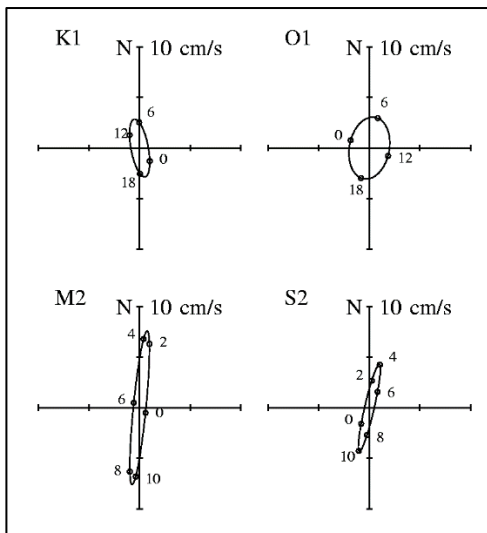
No.1-2
中層



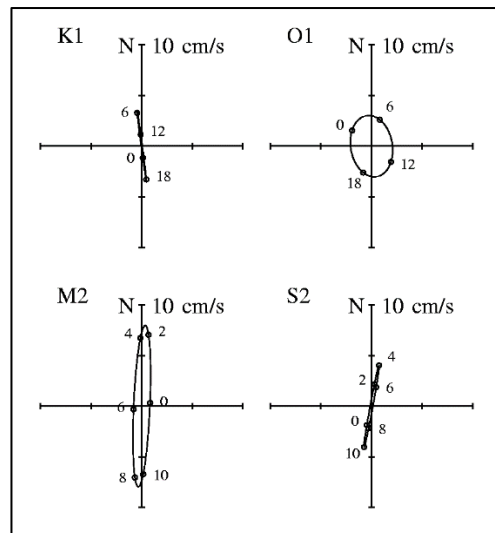
No.1-2
底層



No.5
上層



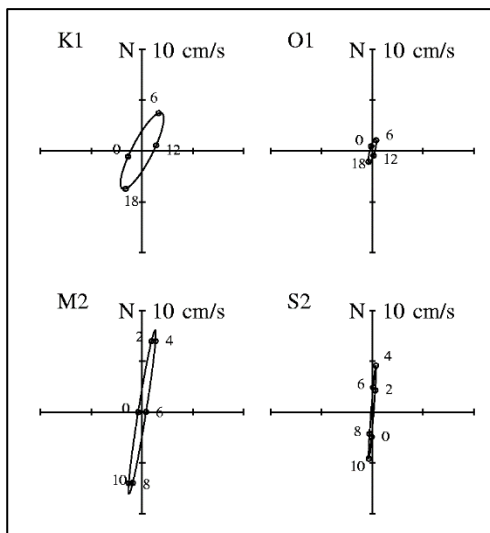
No.5
中層



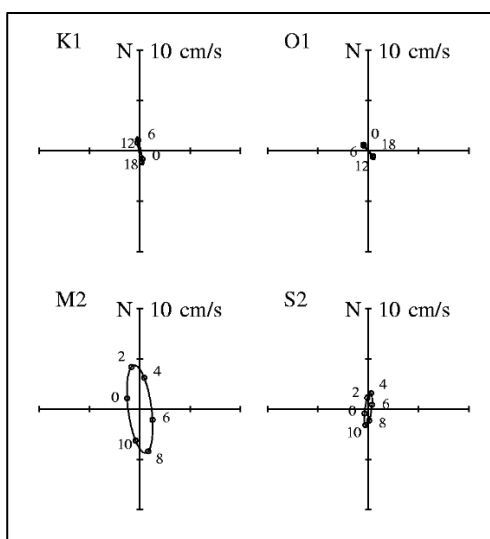
付図 8.4-33 (13) 潮流楕円 (平成 27 年 1~2 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
〔国土交通省中部地方整備局、平成 27 年〕より作成〕

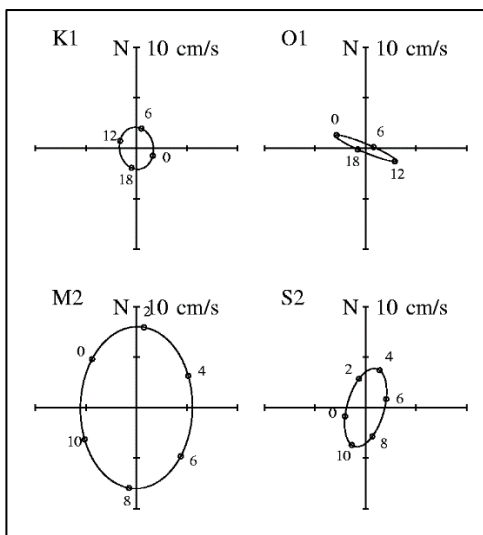
No.5
底層



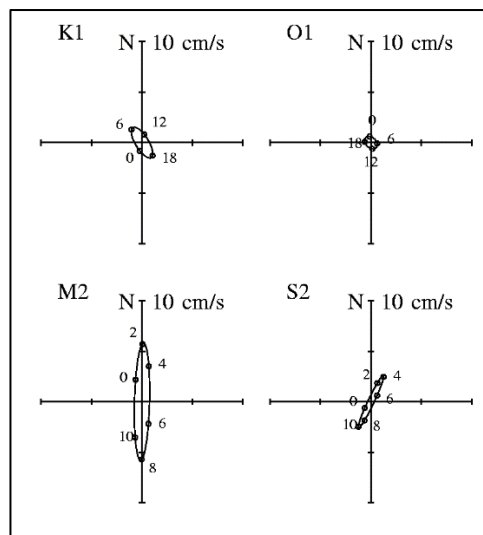
No.6
底層



No.10
上層



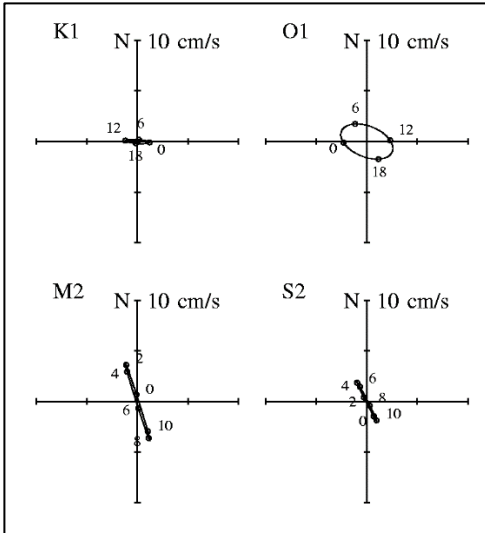
No.10
底層



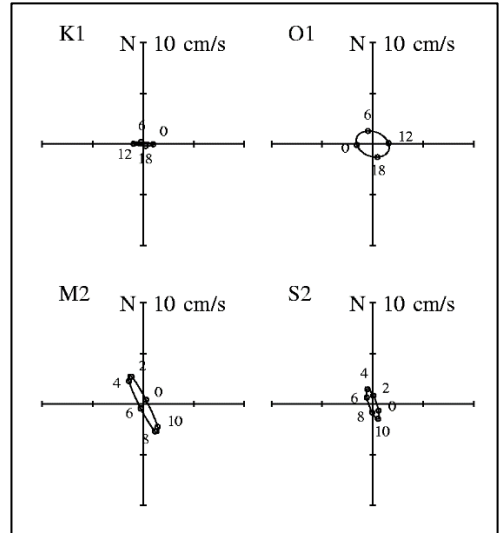
付図 8.4-33(14) 潮流楕円(平成 27 年 1~2 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

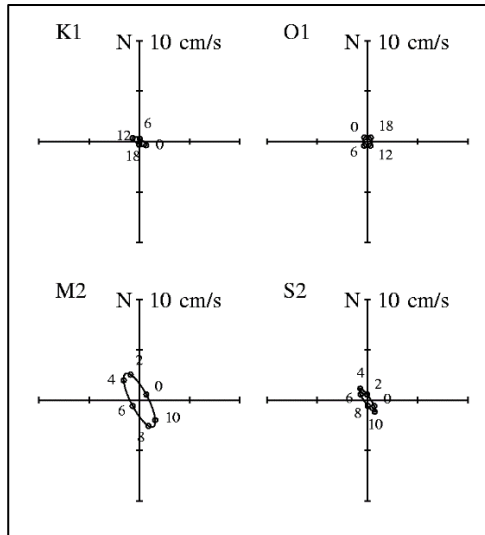
No.15
上層



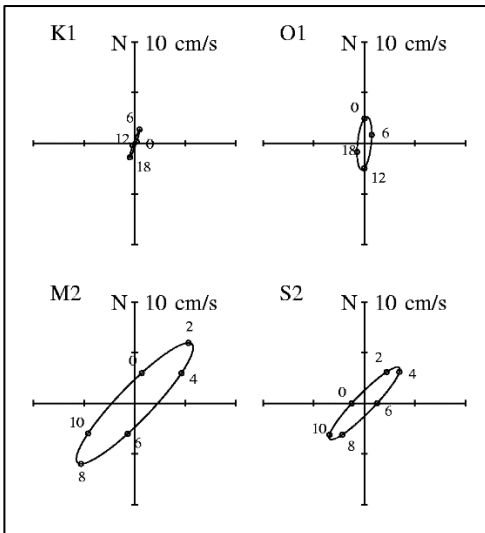
No.15
中層



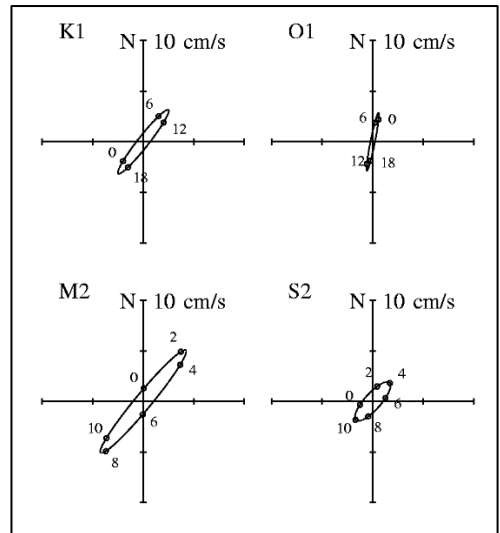
No.15
底層



No.53
上層



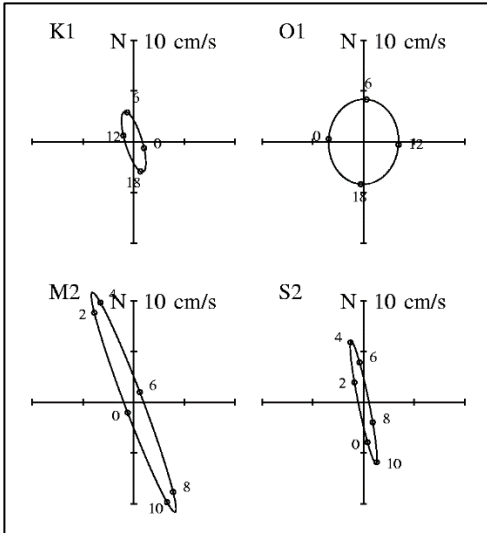
No.53
底層



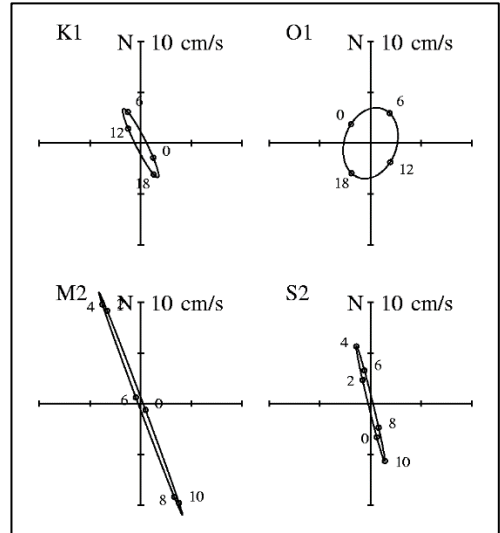
付図 8.4-33 (15) 潮流楕円 (平成 27 年 1~2 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

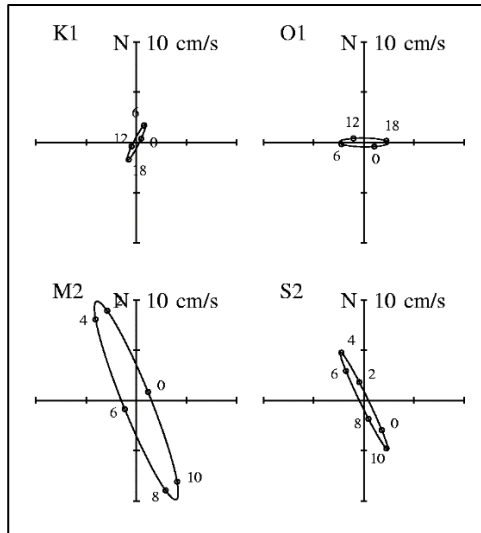
No.54
上層



No.54
中層



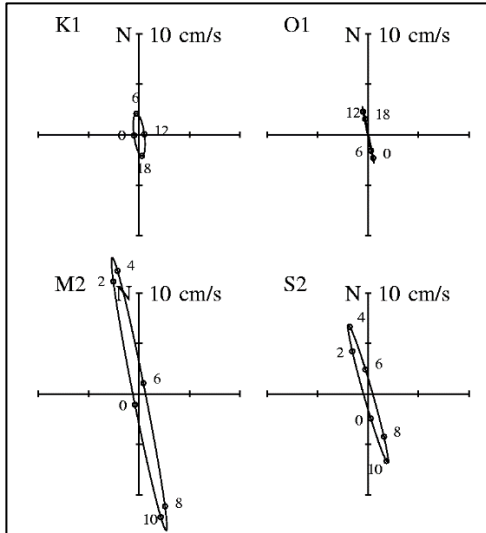
No.54
底層



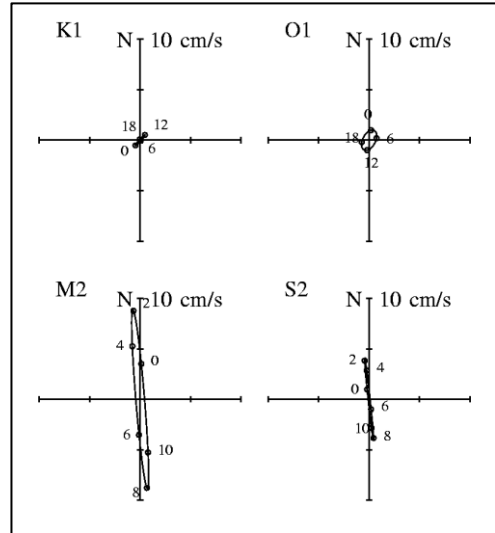
付図 8.4-33(16) 潮流楕円(平成 27 年 1~2 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 27 年〕より作成

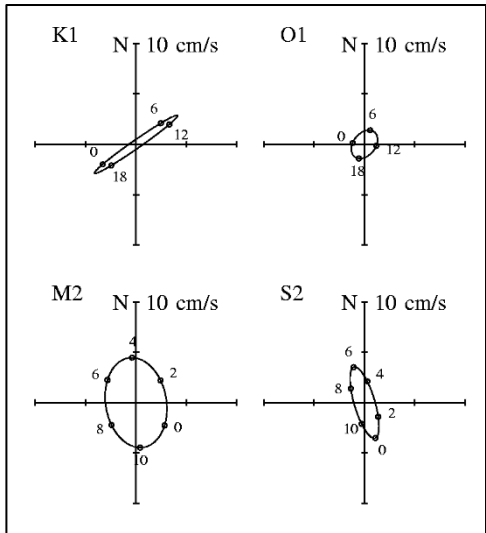
5月
N8 上層



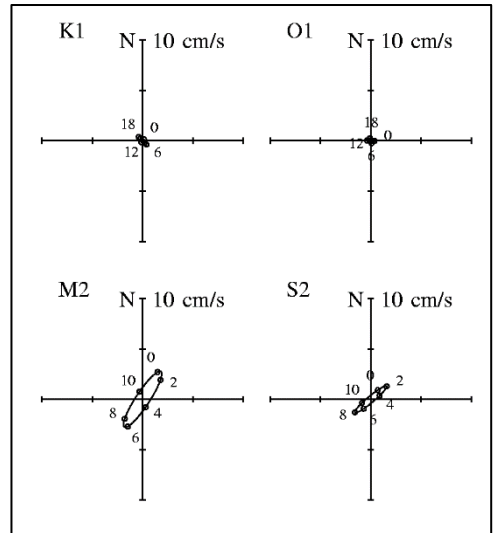
5月
N8 底層



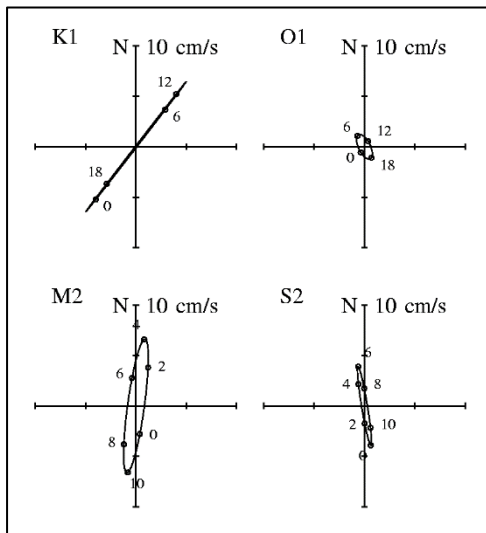
8月
N9 上層



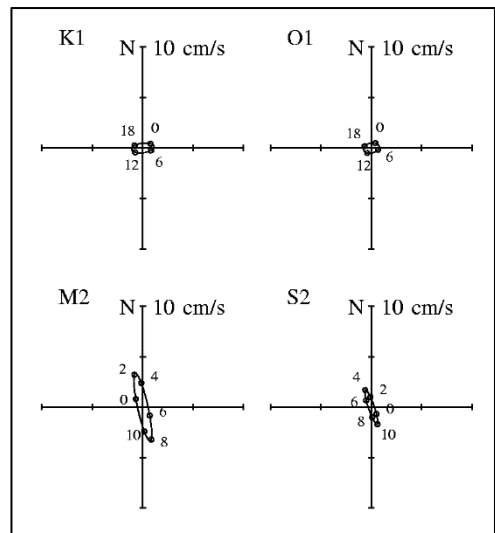
8月
N9 底層



8月
N10 上層



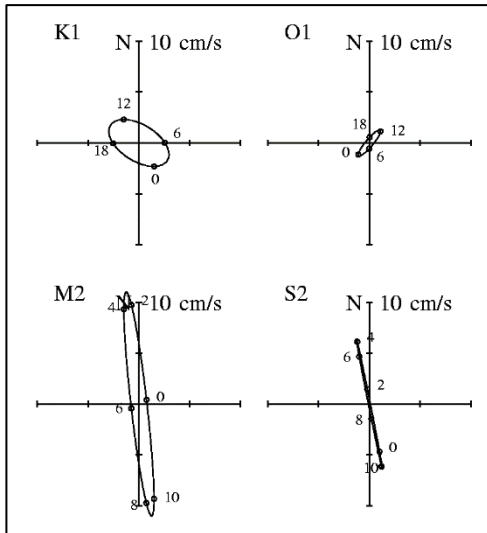
8月
N10 底層



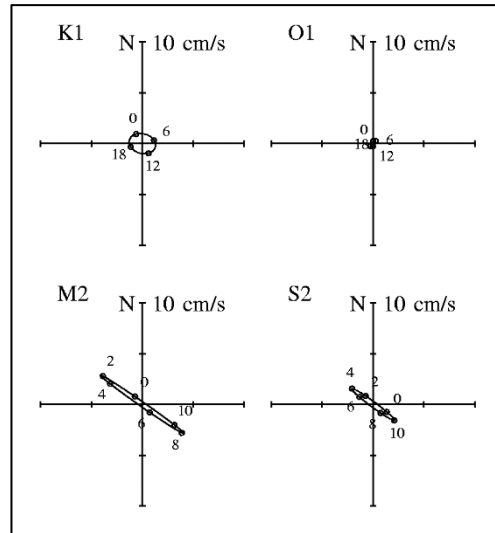
付図 8.4-33(17) 潮流橢円(平成 27 年 5 月、8 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕

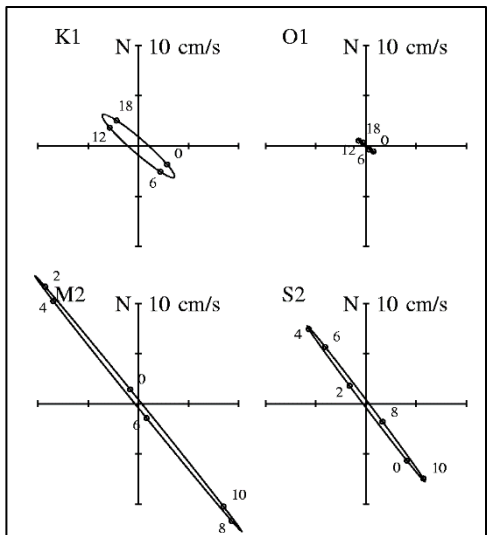
8月
N11 上層



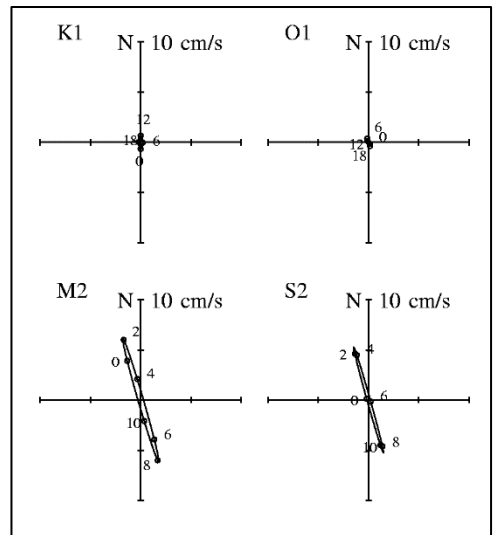
8月
N11 底層



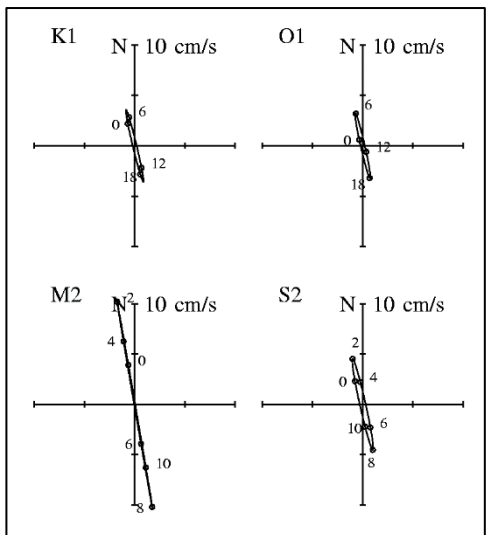
8月
N12 上層



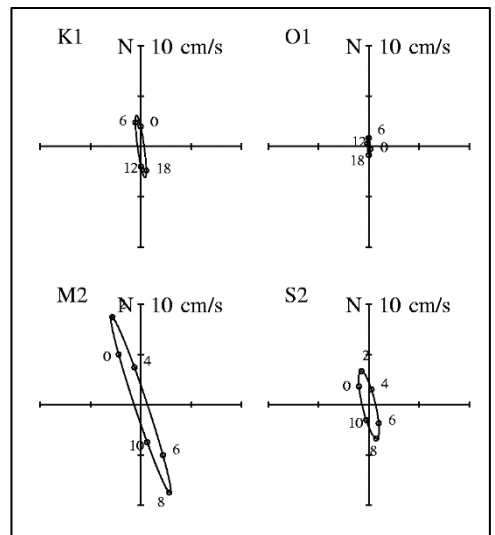
8月
N12 底層



11月
N8 上層



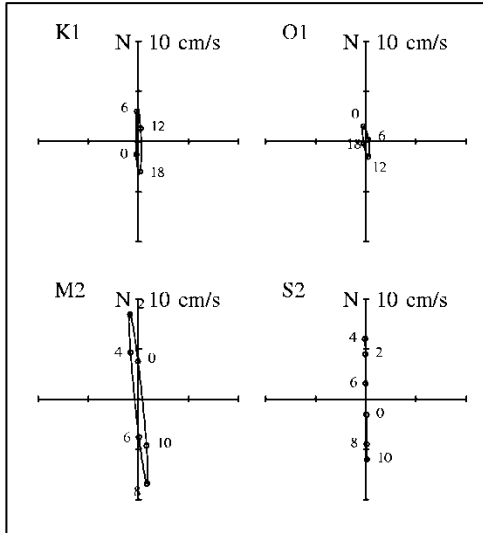
11月
N8 底層



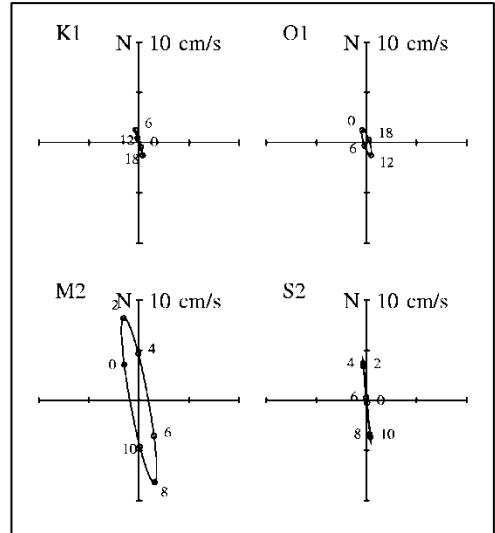
付図 8.4-33(18) 潮流橢円(平成 27 年 8 月、11 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕

2月
N8上層



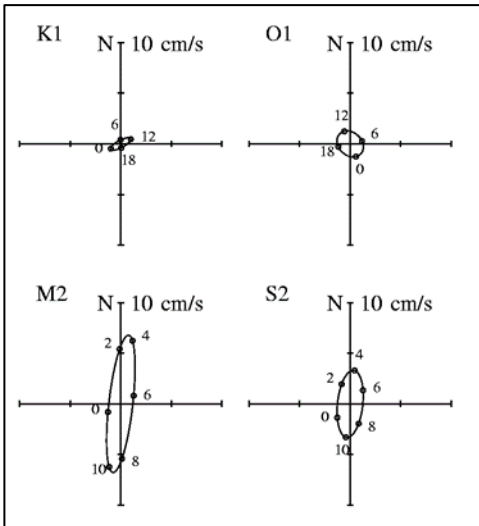
2月
N8底層



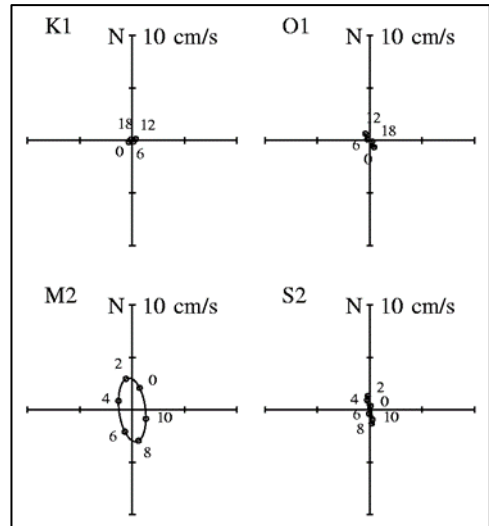
付図 8.4-33(19) 潮流楕円(平成28年2月)

〔平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成28年〕より作成

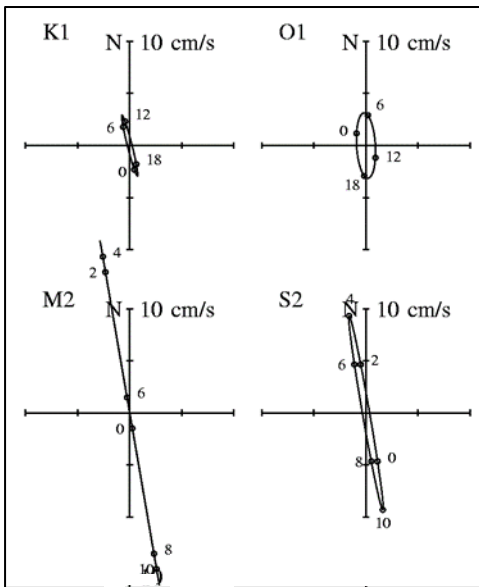
8月
N4上層



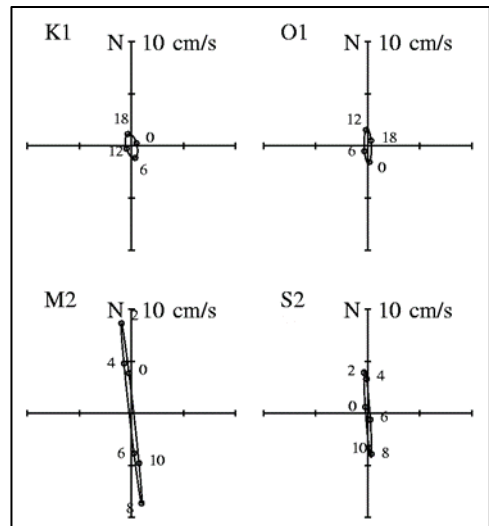
8月
N4底層



8月
N8上層

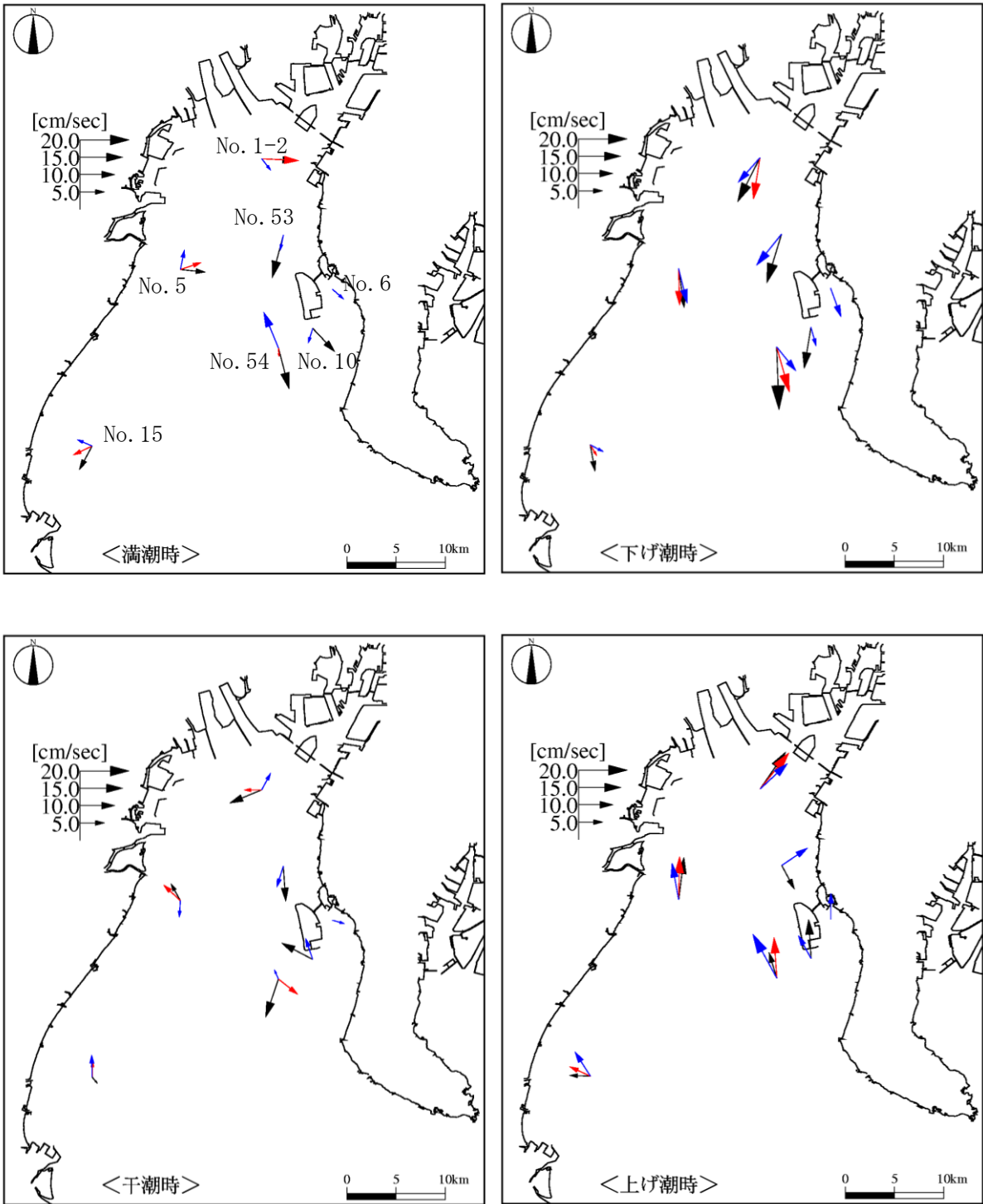


8月
N8底層



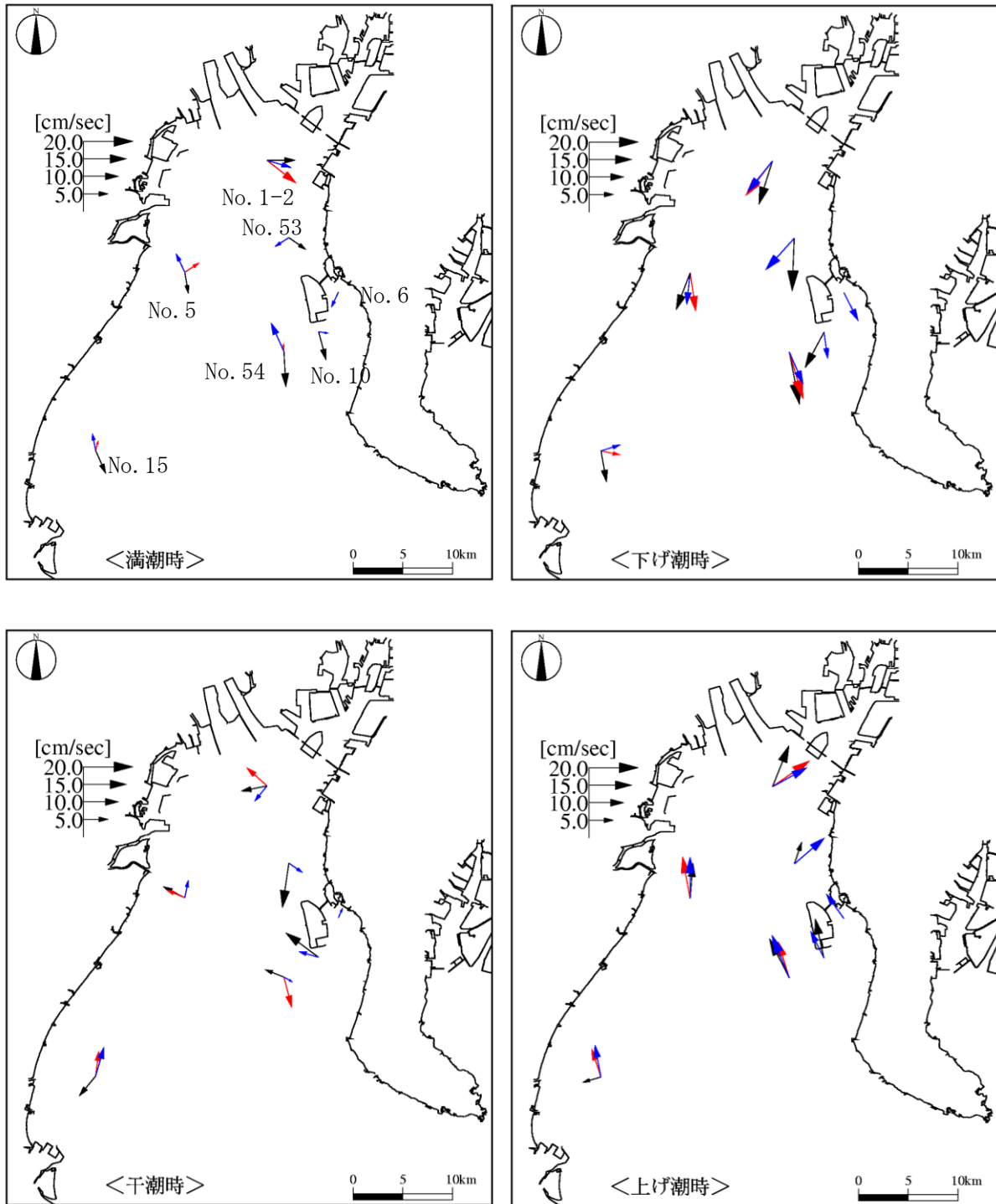
付図 8.4-33 (20) 潮流橢円(平成 28 年 8 月)

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 29 年〕より作成



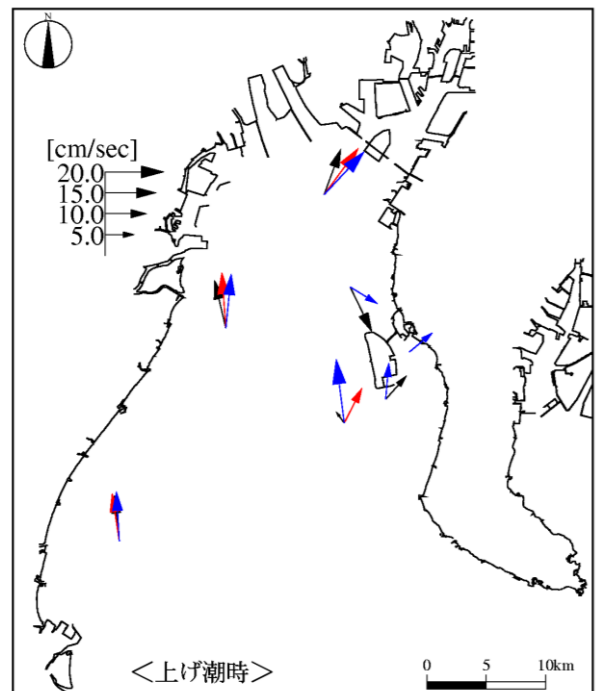
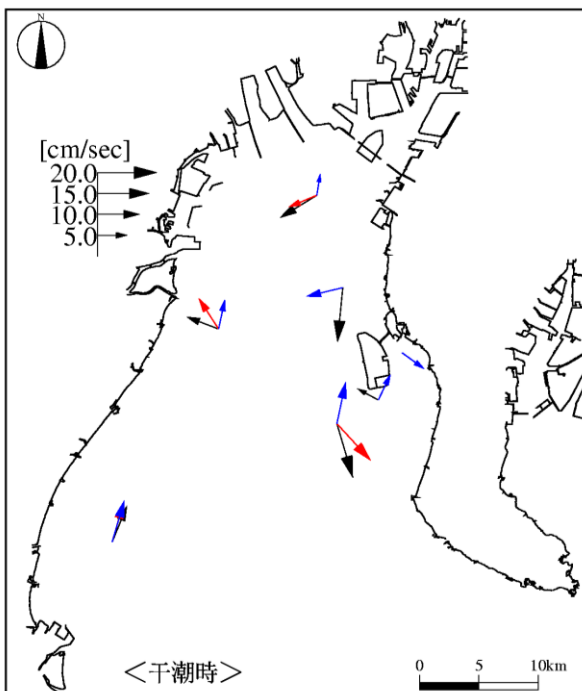
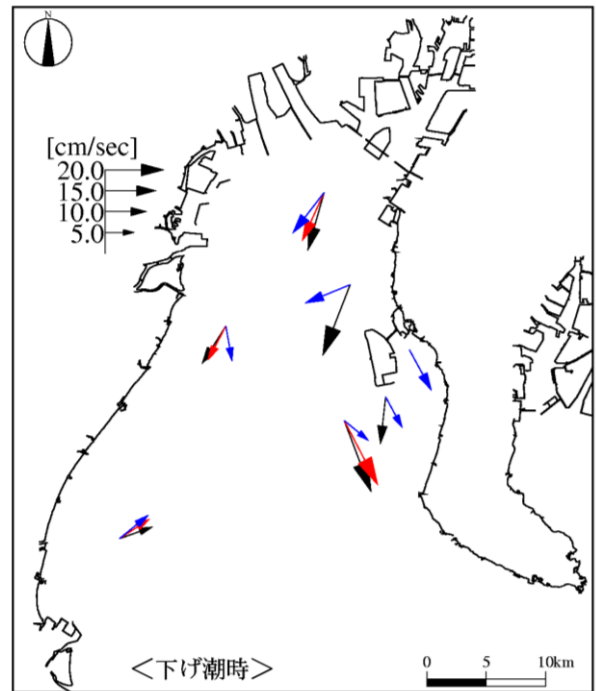
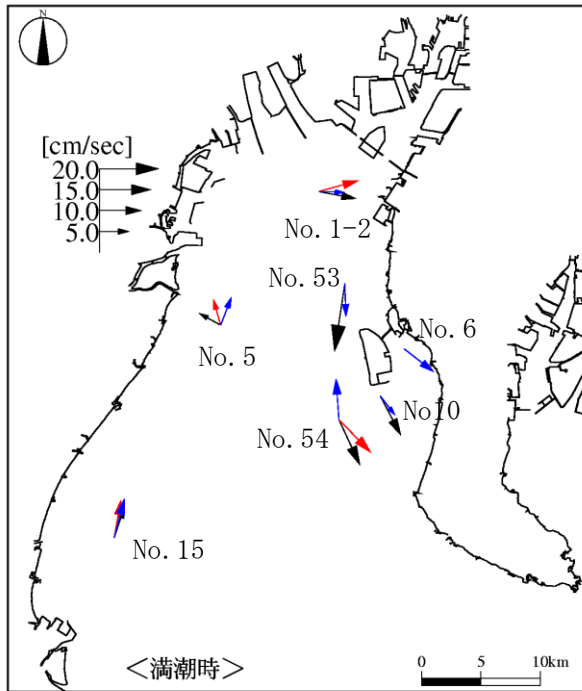
付図 8.4-34(1) 平均大潮期流況 (平成 26 年 5 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.4-34(2) 平均大潮期流況 (平成 26 年 8 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成

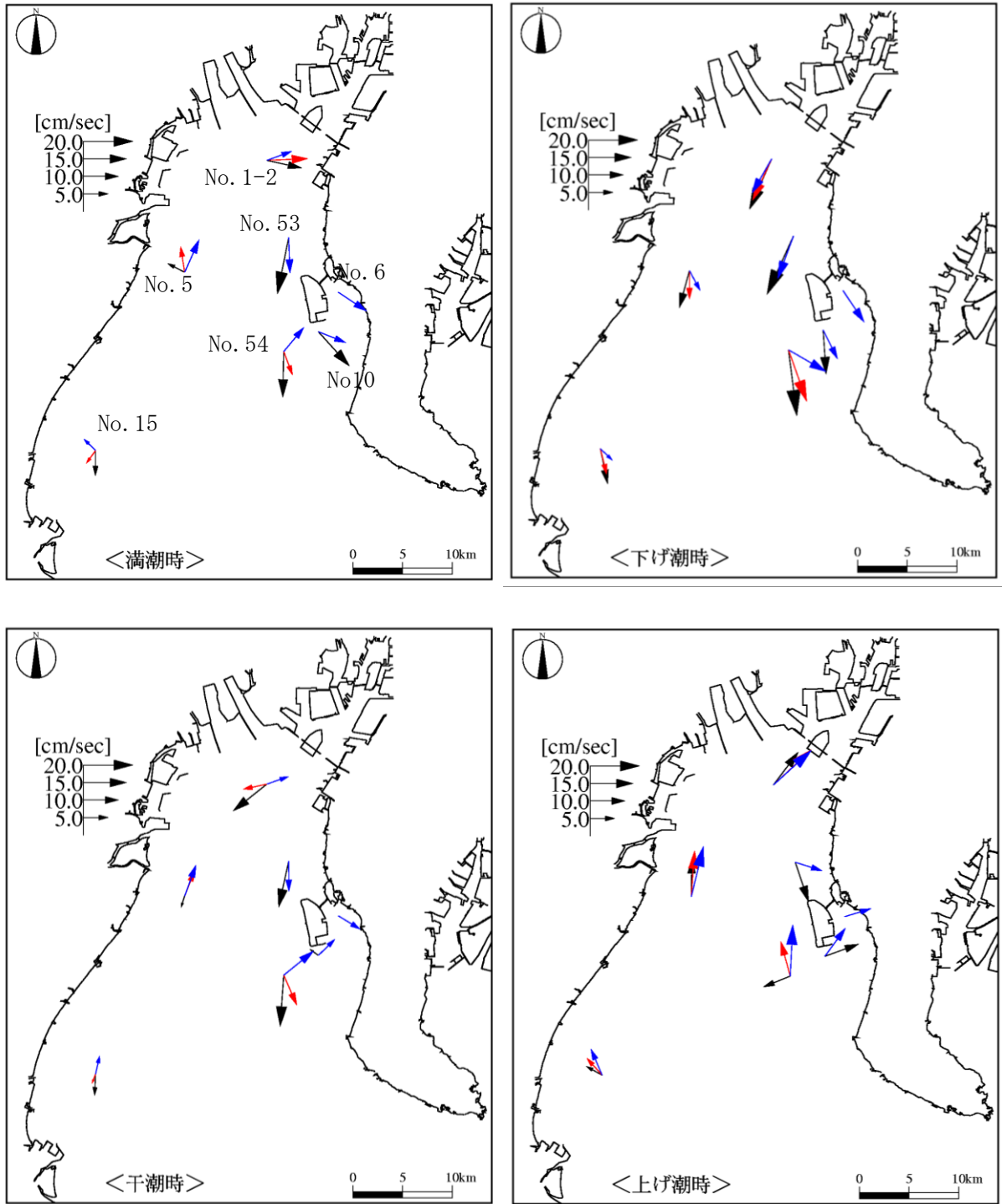


黒線：上層
 赤線：中層
 青線：底層

付図 8.4-34(3) 平均大潮期流況 (平成 26 年 11 月)

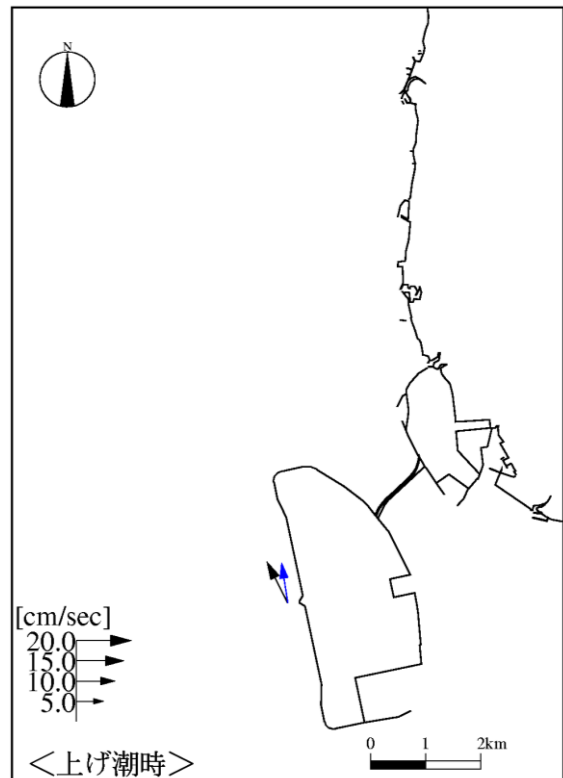
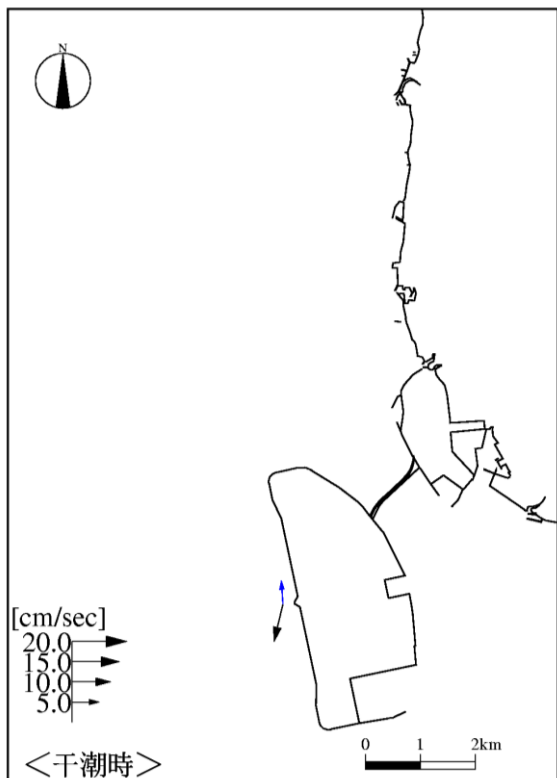
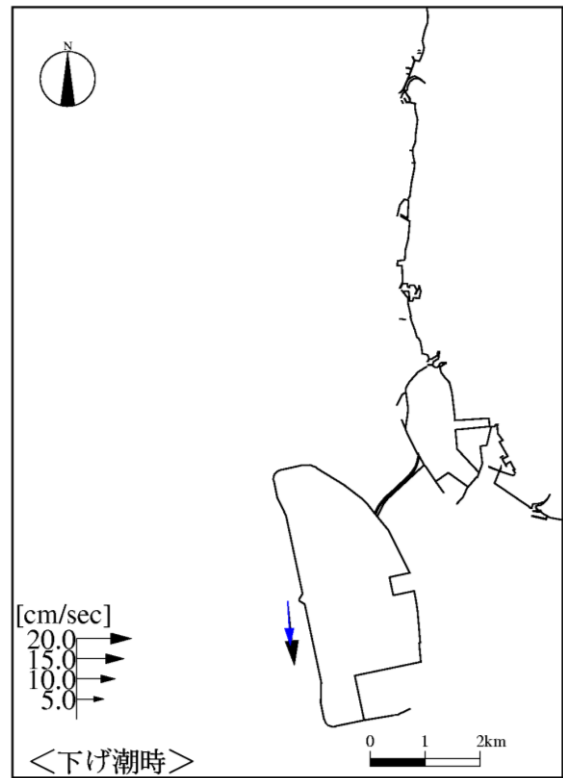
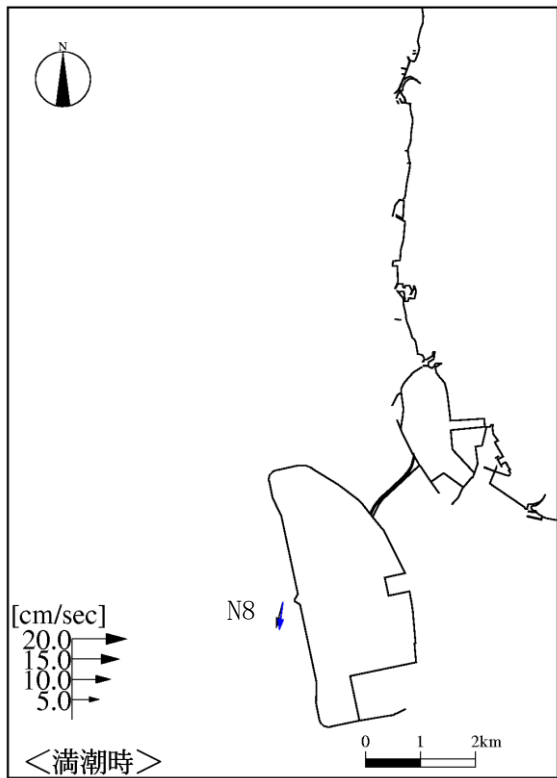
注：No.53 の底層は、11 月 14 日 8:50～11 月 22 日 13:50 の期間が欠測となったため、参考値として示した。

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局 平成 27 年) より作成



付図 8.4-34(4) 平均大潮期流況 (平成 27 年 1~2 月)

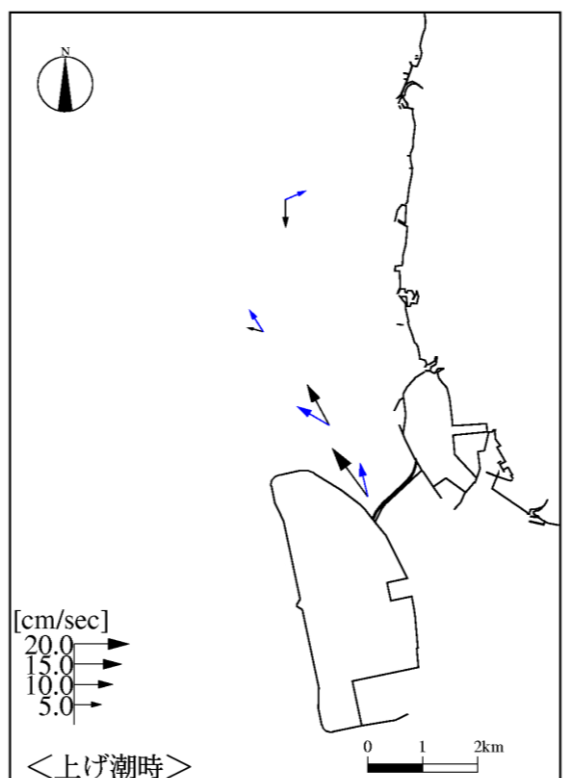
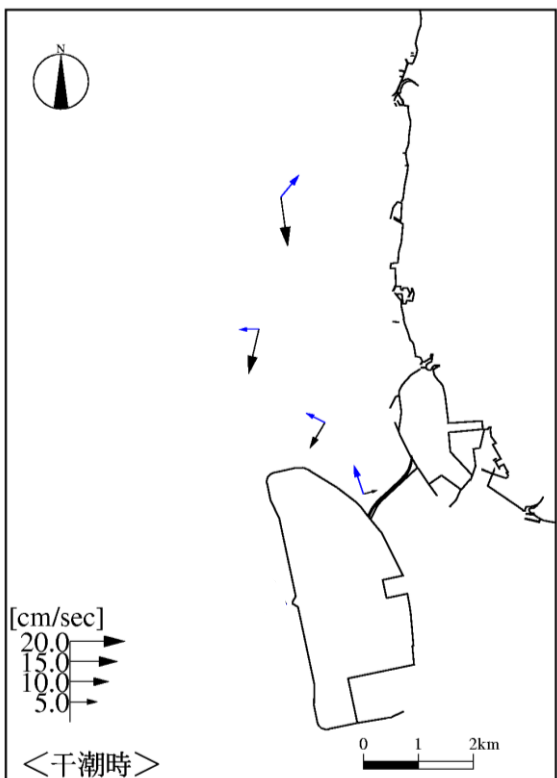
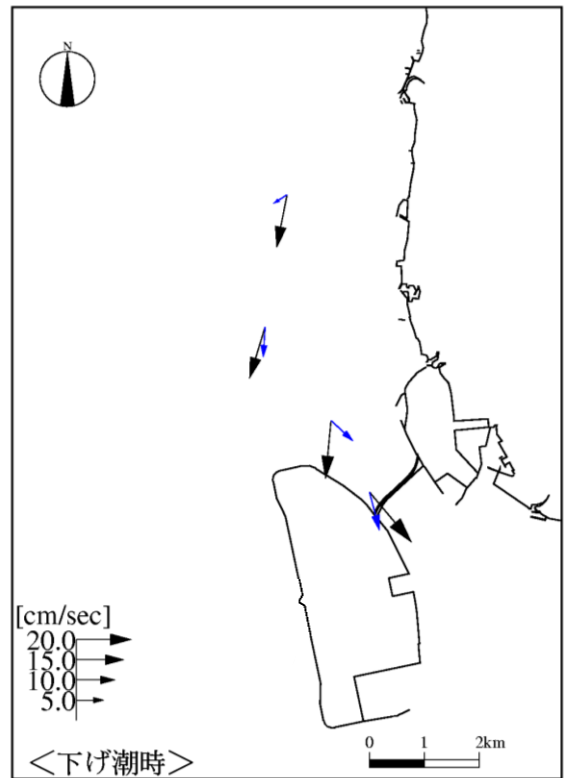
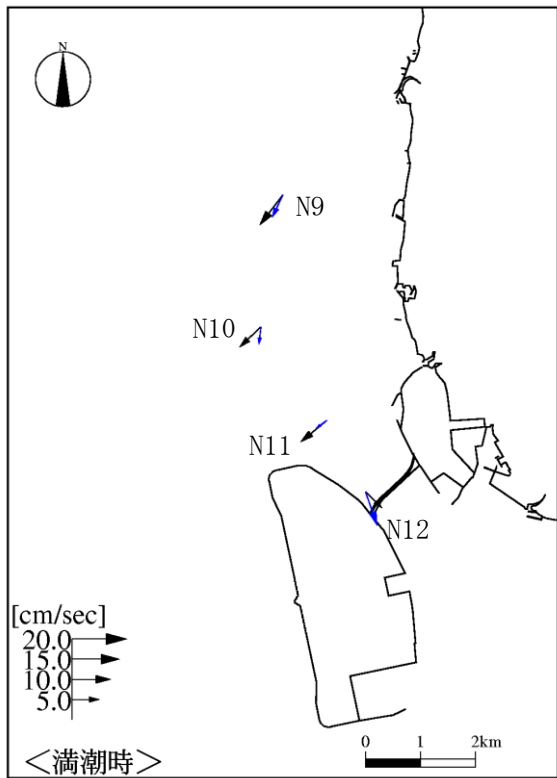
〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



黒線：上層
青線：底層

付図 8.4-34(5) 平均大潮期流況（平成 27 年 5 月）

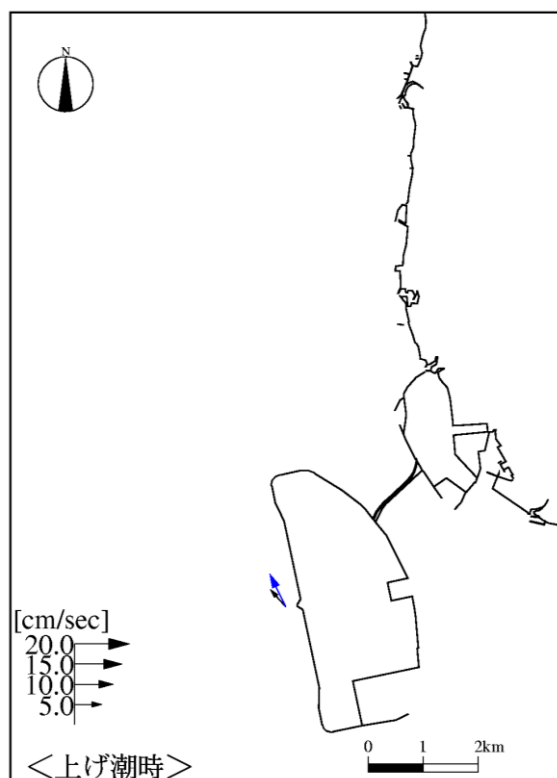
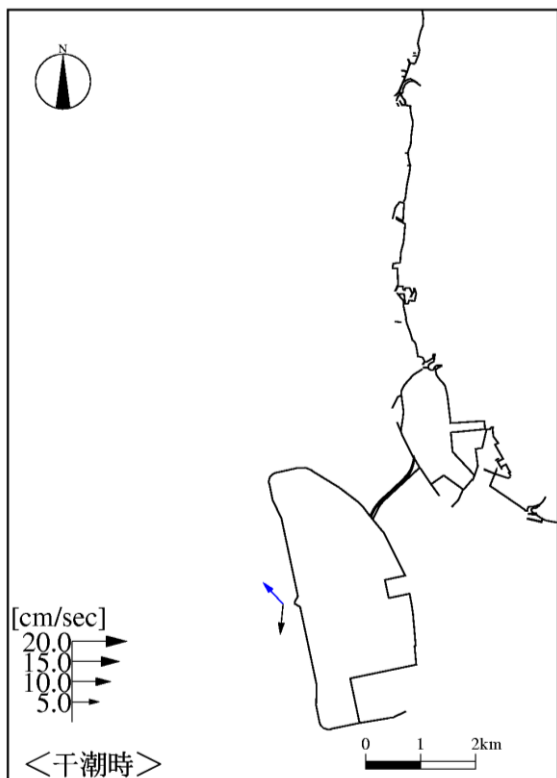
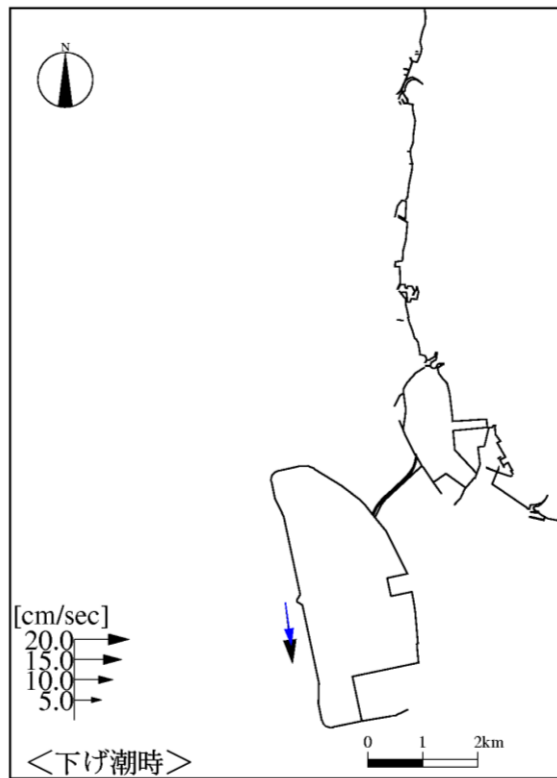
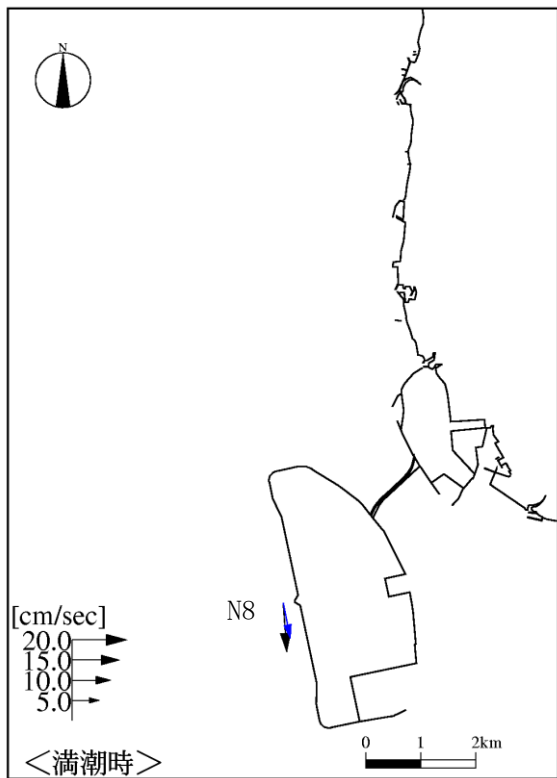
〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）より作成



黒線：上層
青線：底層

付図 8.4-34(6) 平均大潮期流況 (平成 27 年 8 月)

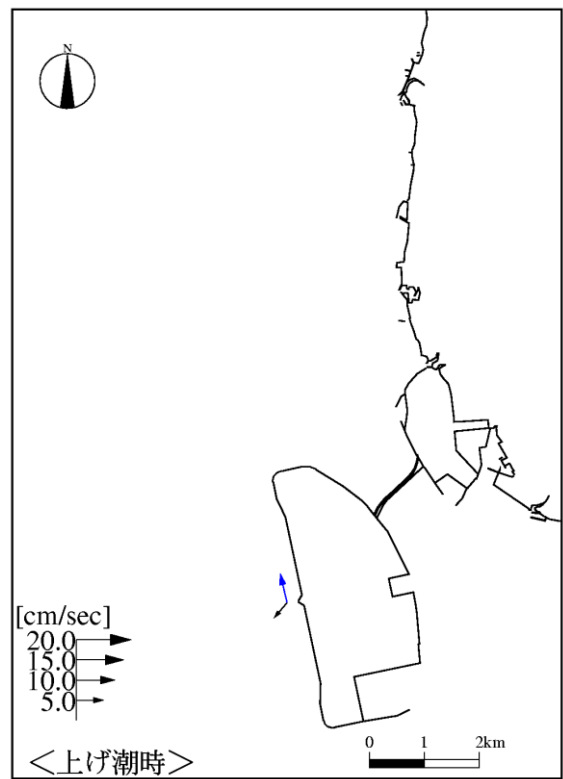
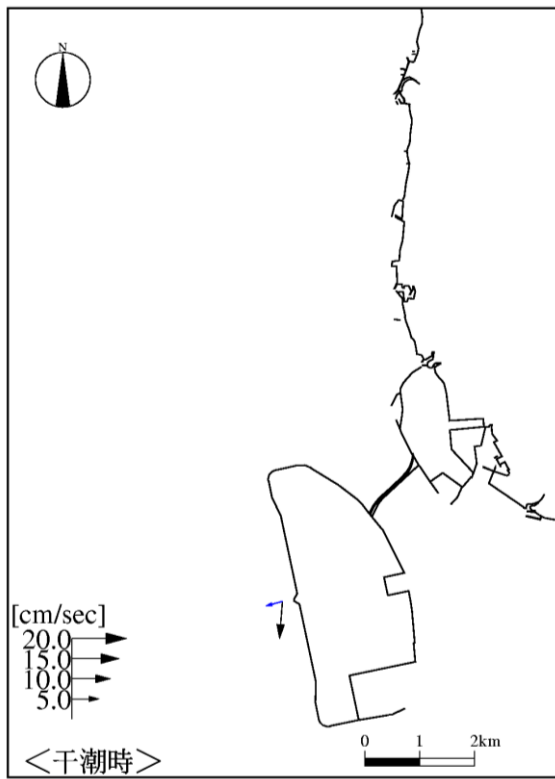
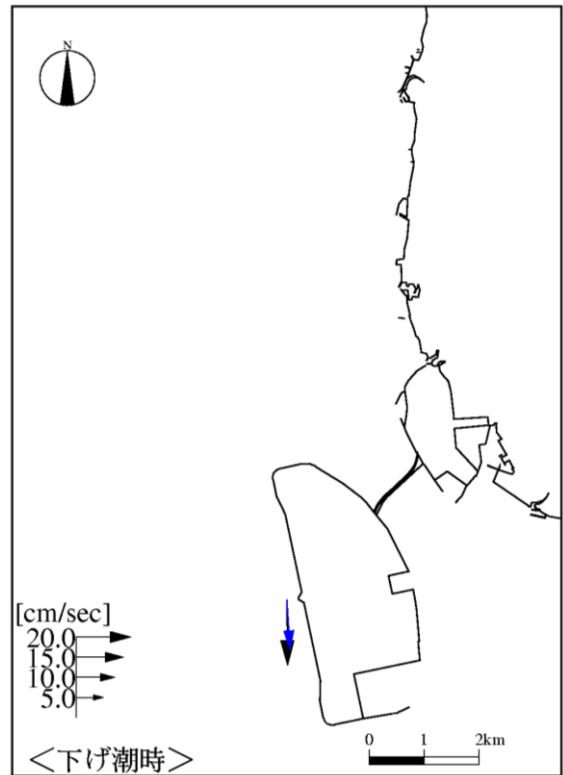
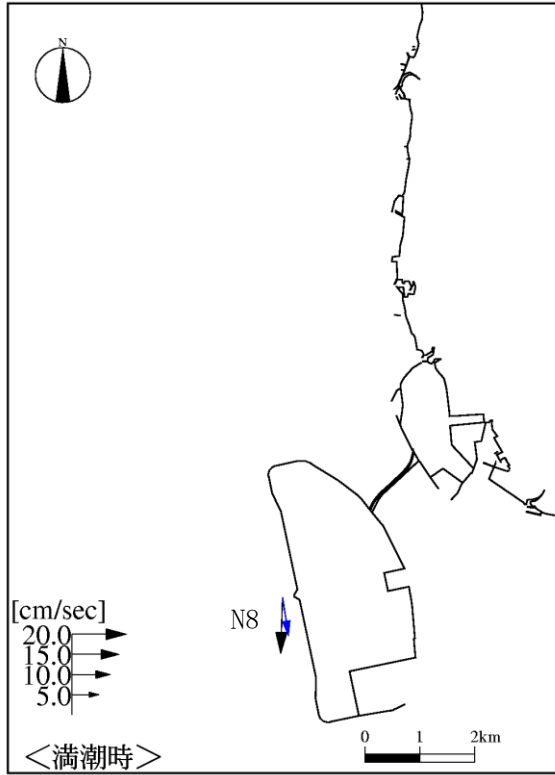
〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局 平成 28 年〕より作成



黒線：上層
青線：底層

付図 8.4-34(7) 平均大潮期流況（平成 27 年 11 月）

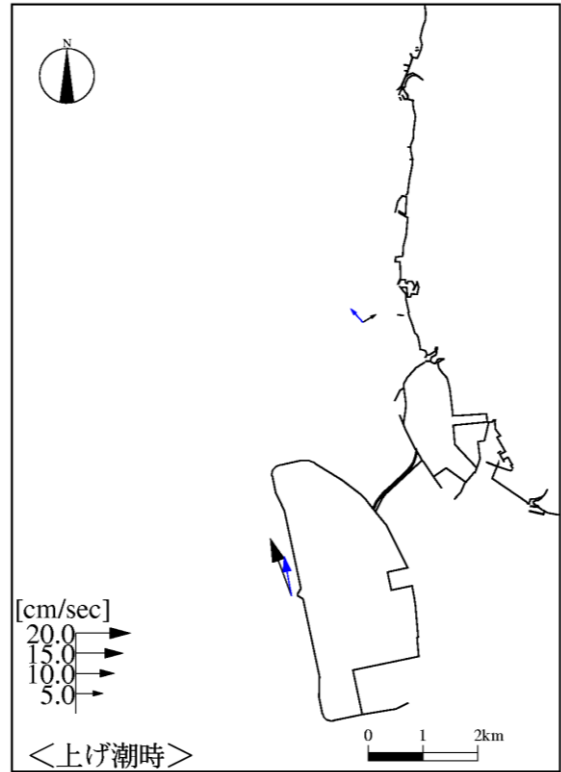
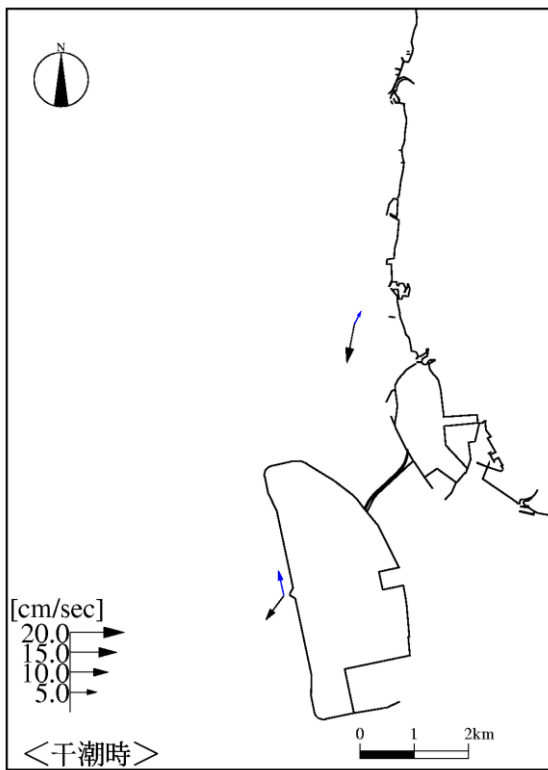
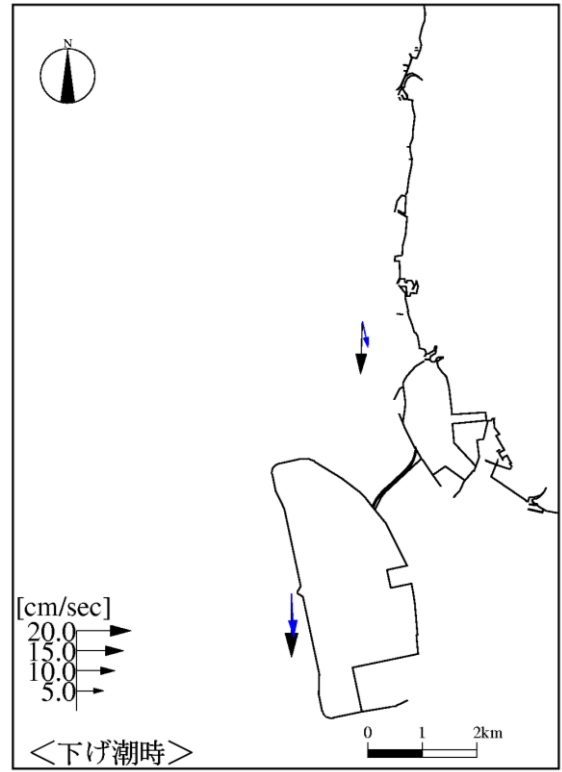
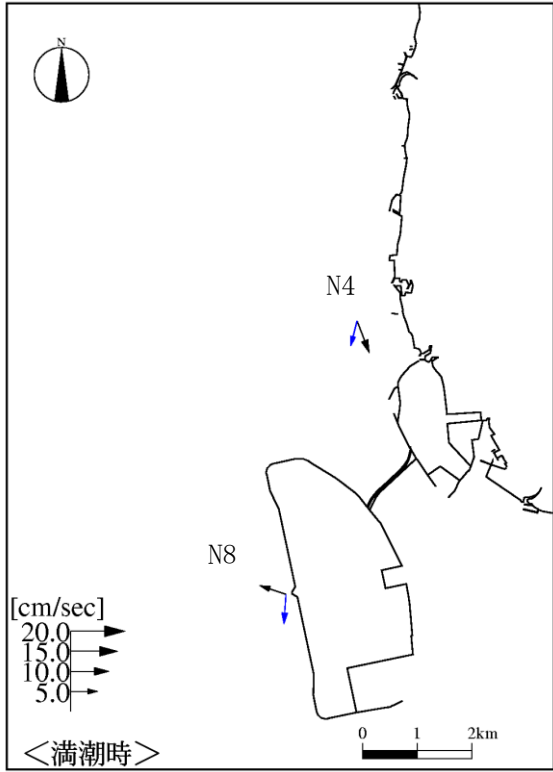
〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局 平成 28 年〕より作成



黒線：上層
青線：底層

付図 8.4-34(8) 平均大潮期流況（平成 28 年 2 月）

〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局 平成 28 年〕より作成

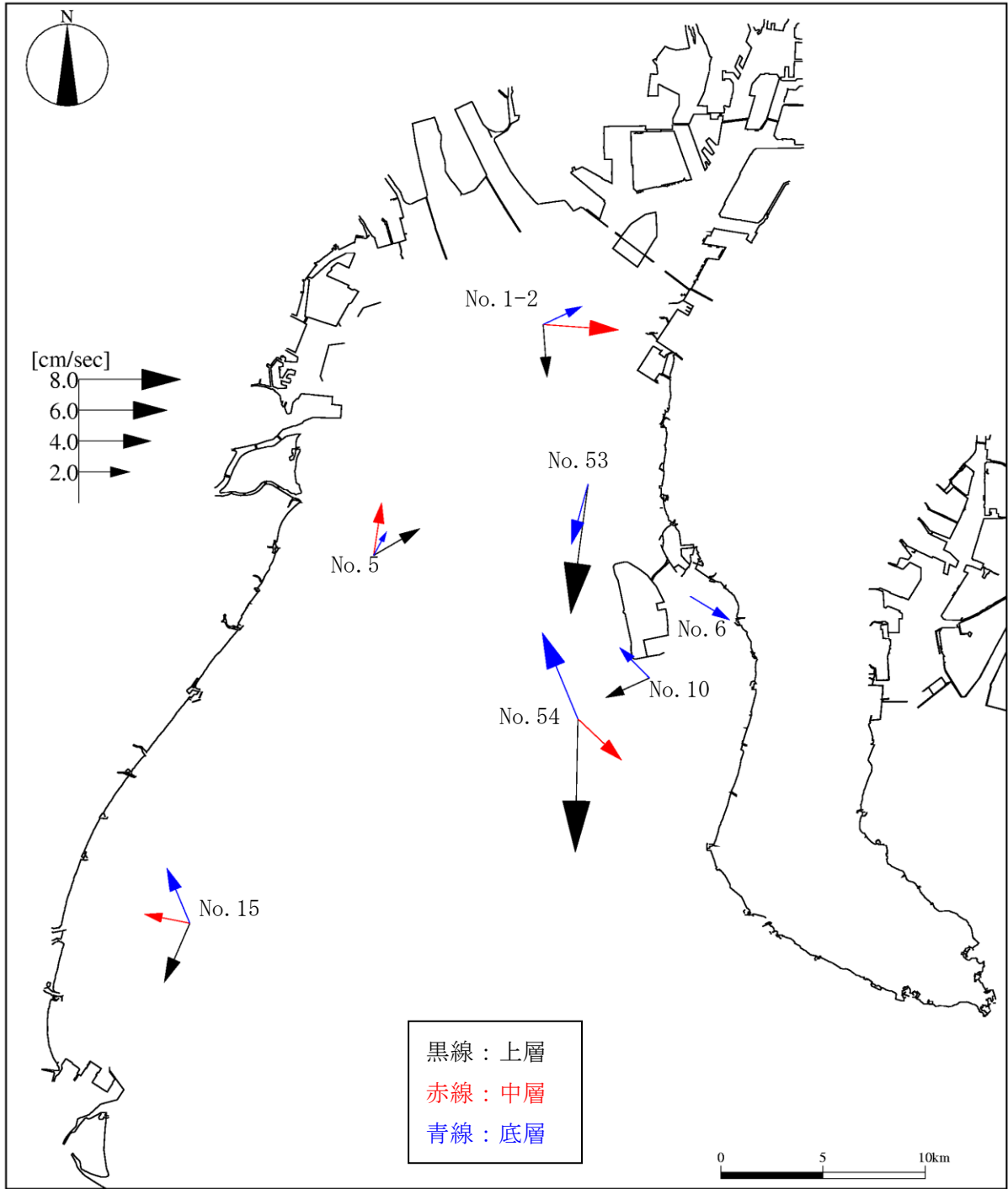


黒線：上層

青線：底層

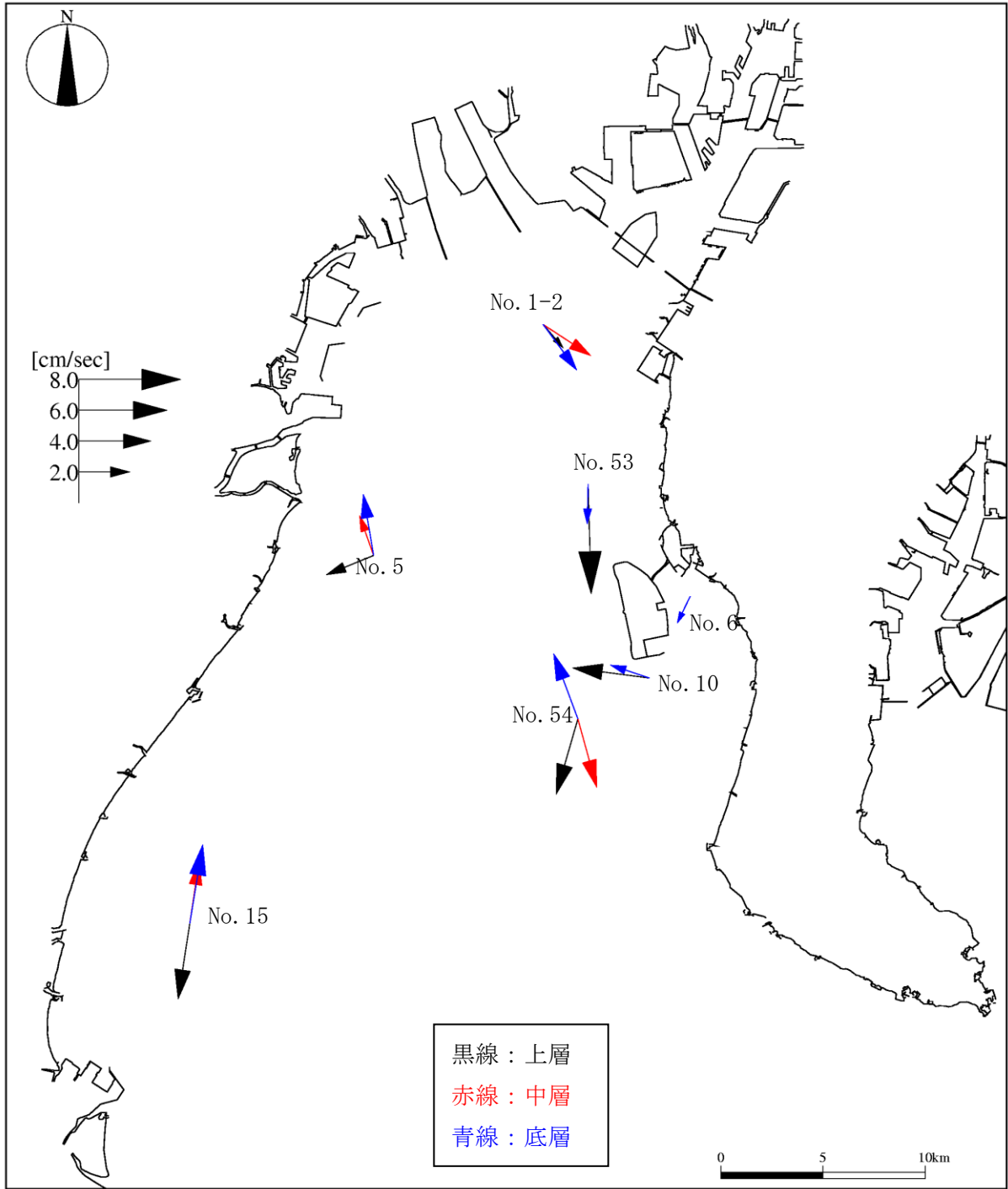
付図 8.4-34(9) 平均大潮期流況（平成 28 年 8 月）

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 （国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）より作成



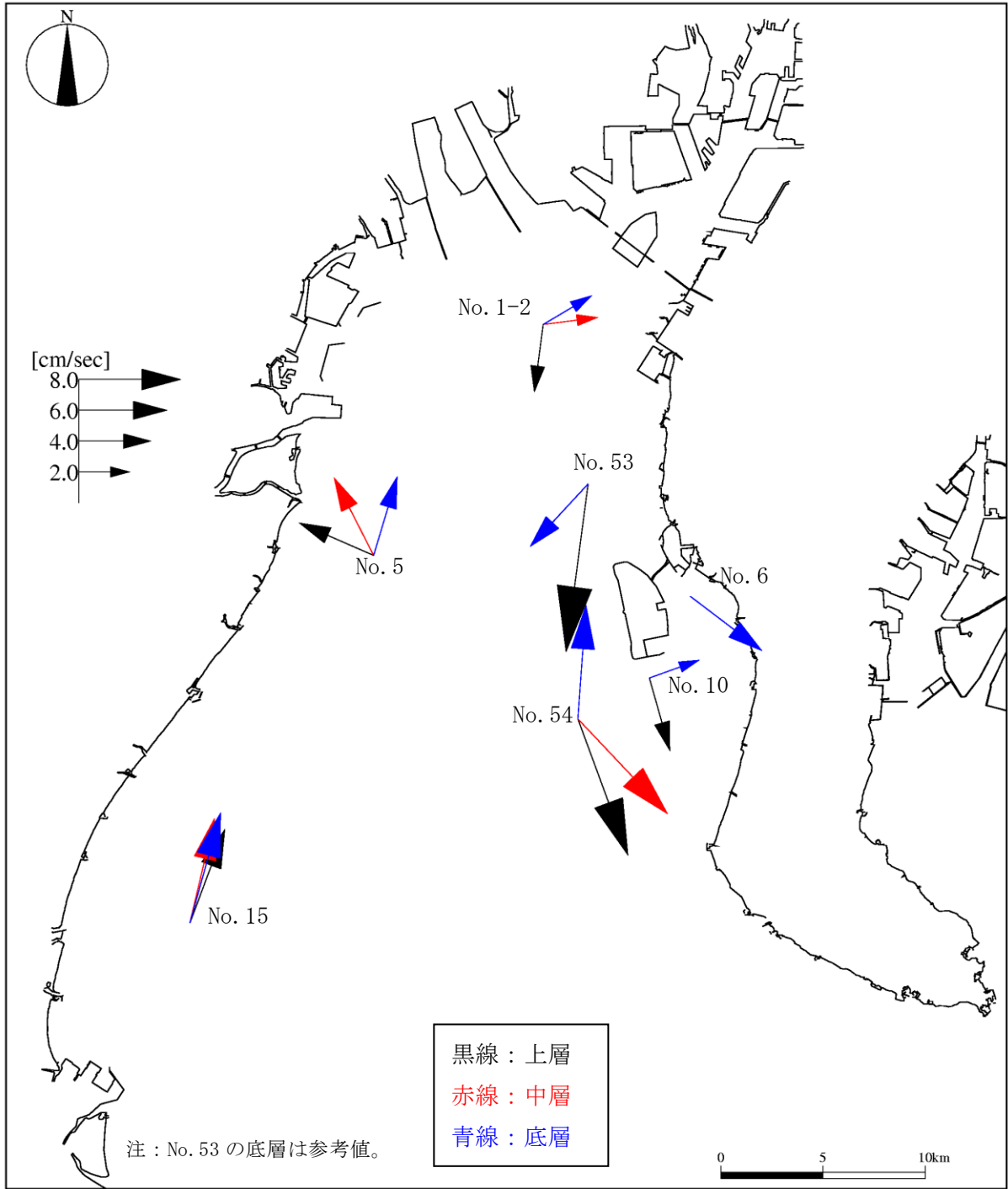
付図 8.4-35(1) 恒流の水平分布 (平成 26 年 5 月)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.4-35 (2) 恒流の水平分布 (平成 26 年 8 月)

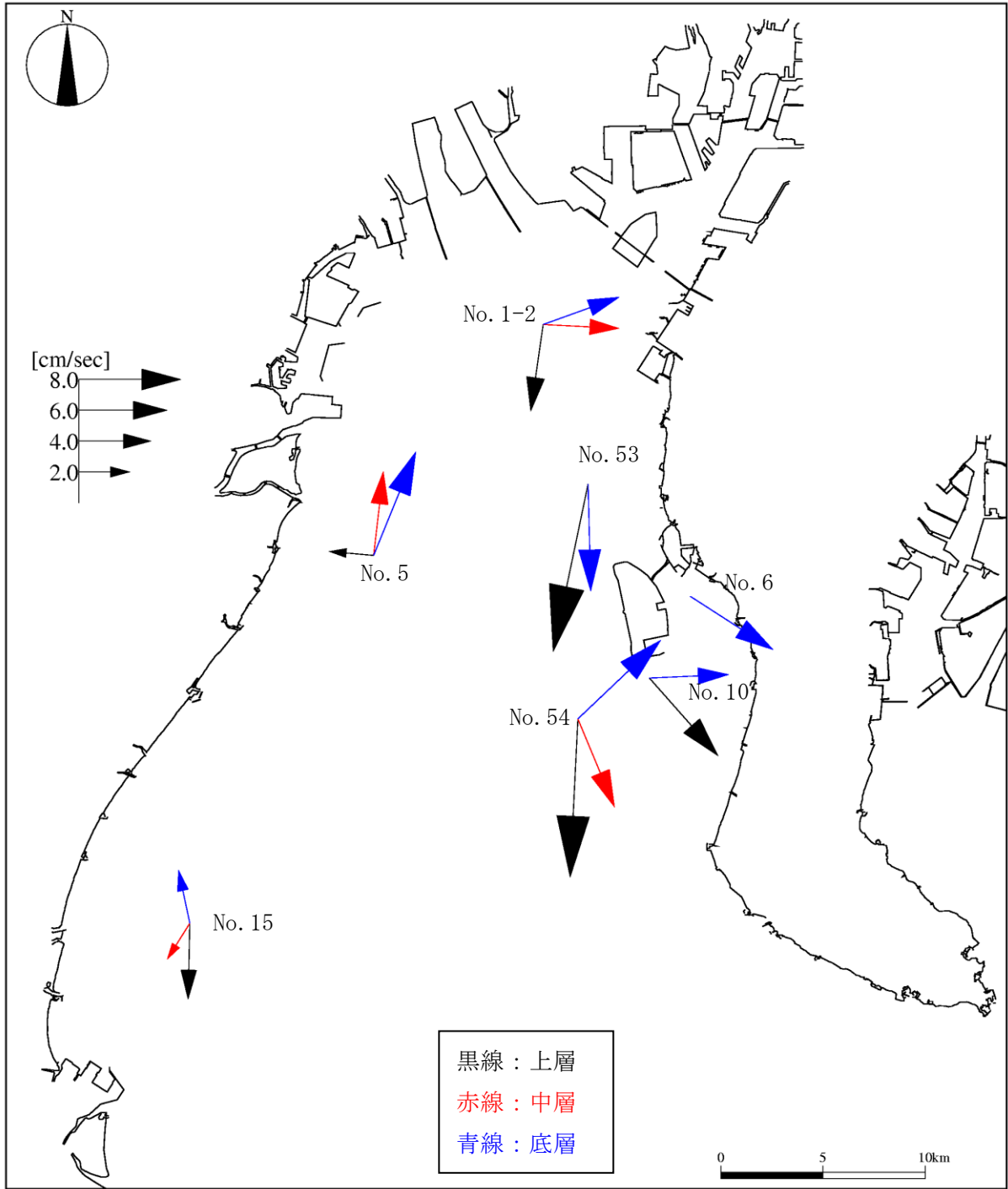
〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.4-35(3) 恒流の水平分布(平成 26 年 11 月)

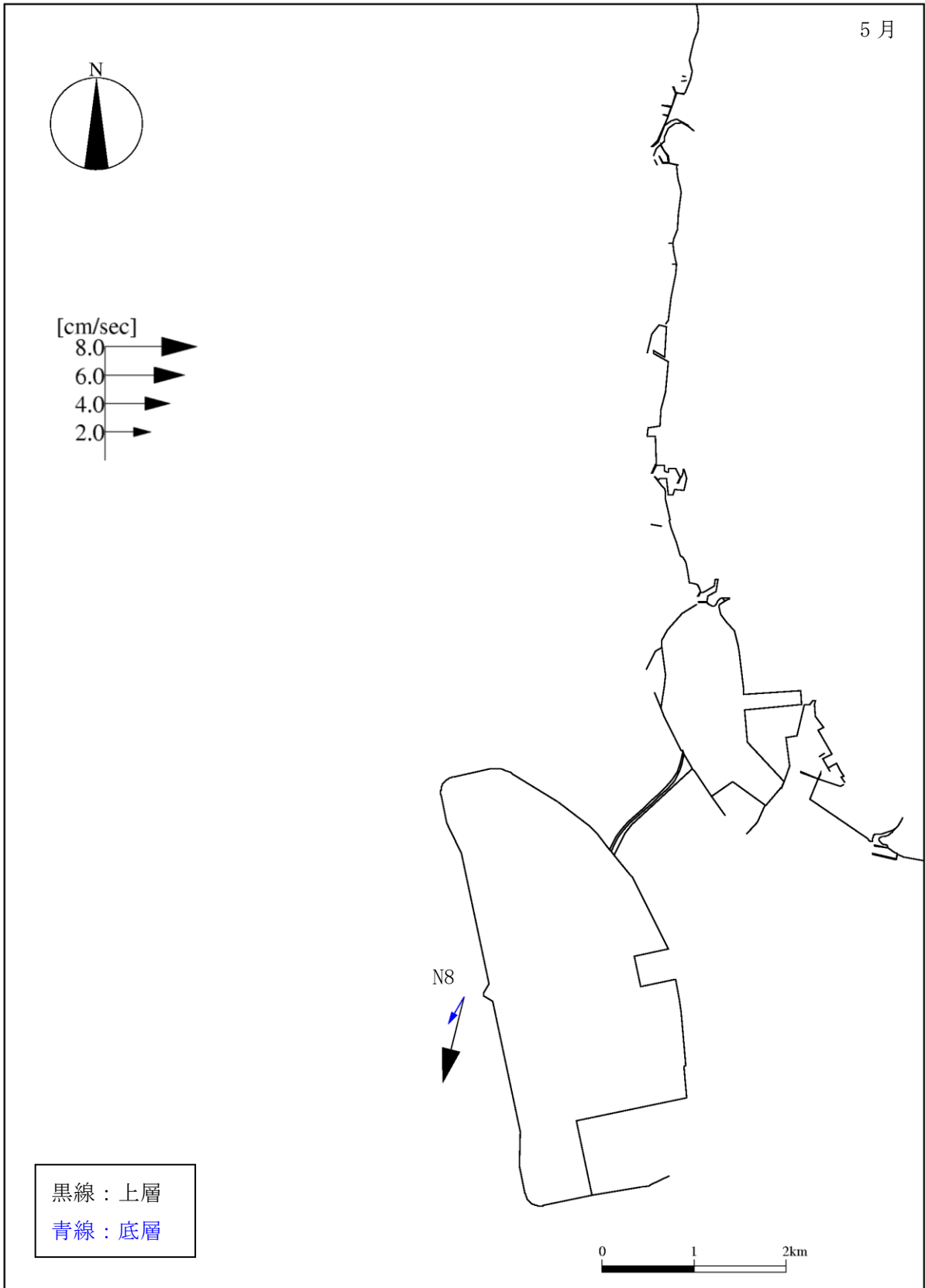
注：No.53 の底層は、11 月 14 日 8:50～11 月 22 日 13:50 の期間が欠測となったため、参考値として示した。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局 平成 27 年) より作成〕



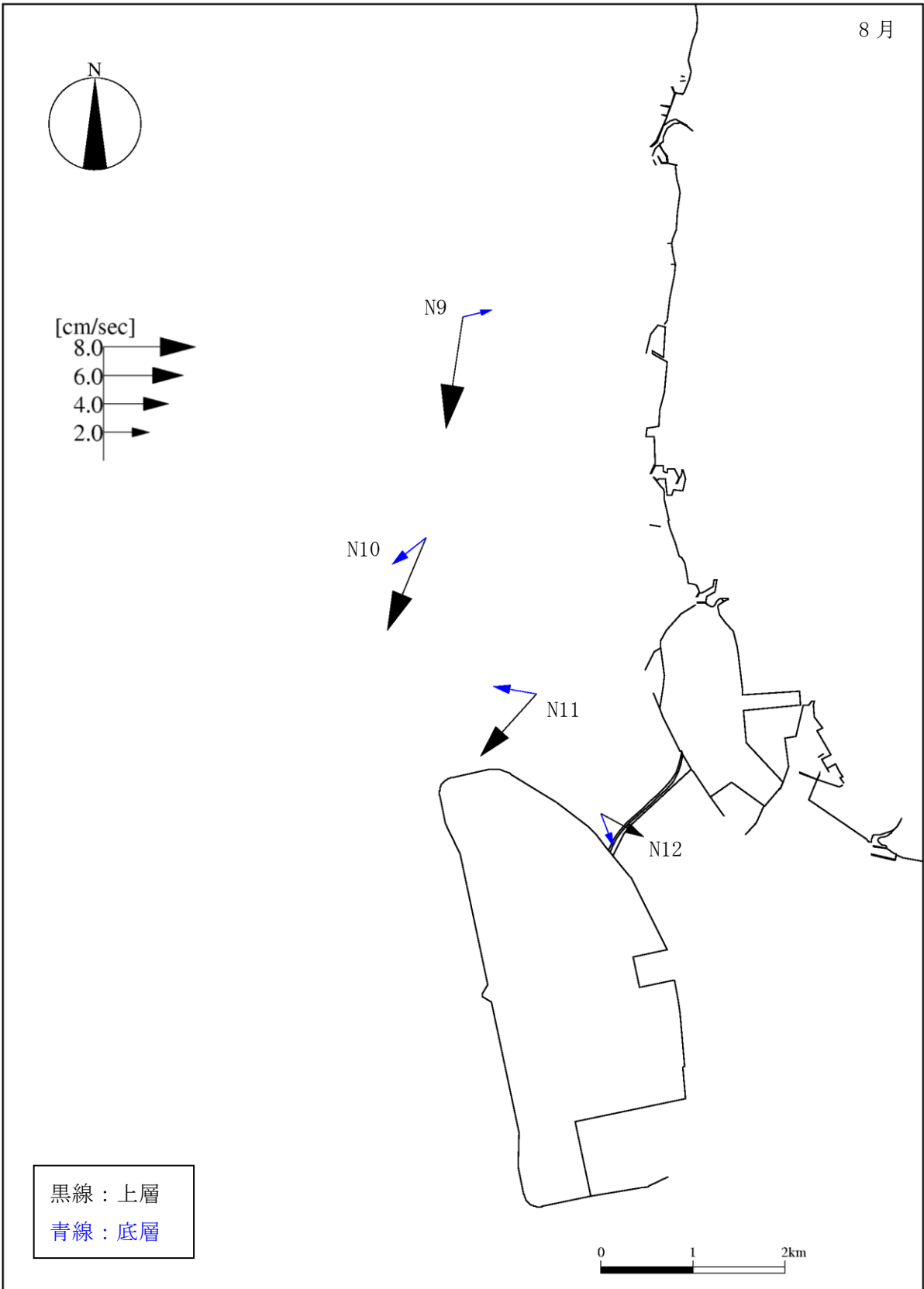
付図 8. 4-35 (4) 恒流の水平分布 (平成 27 年 1~2 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



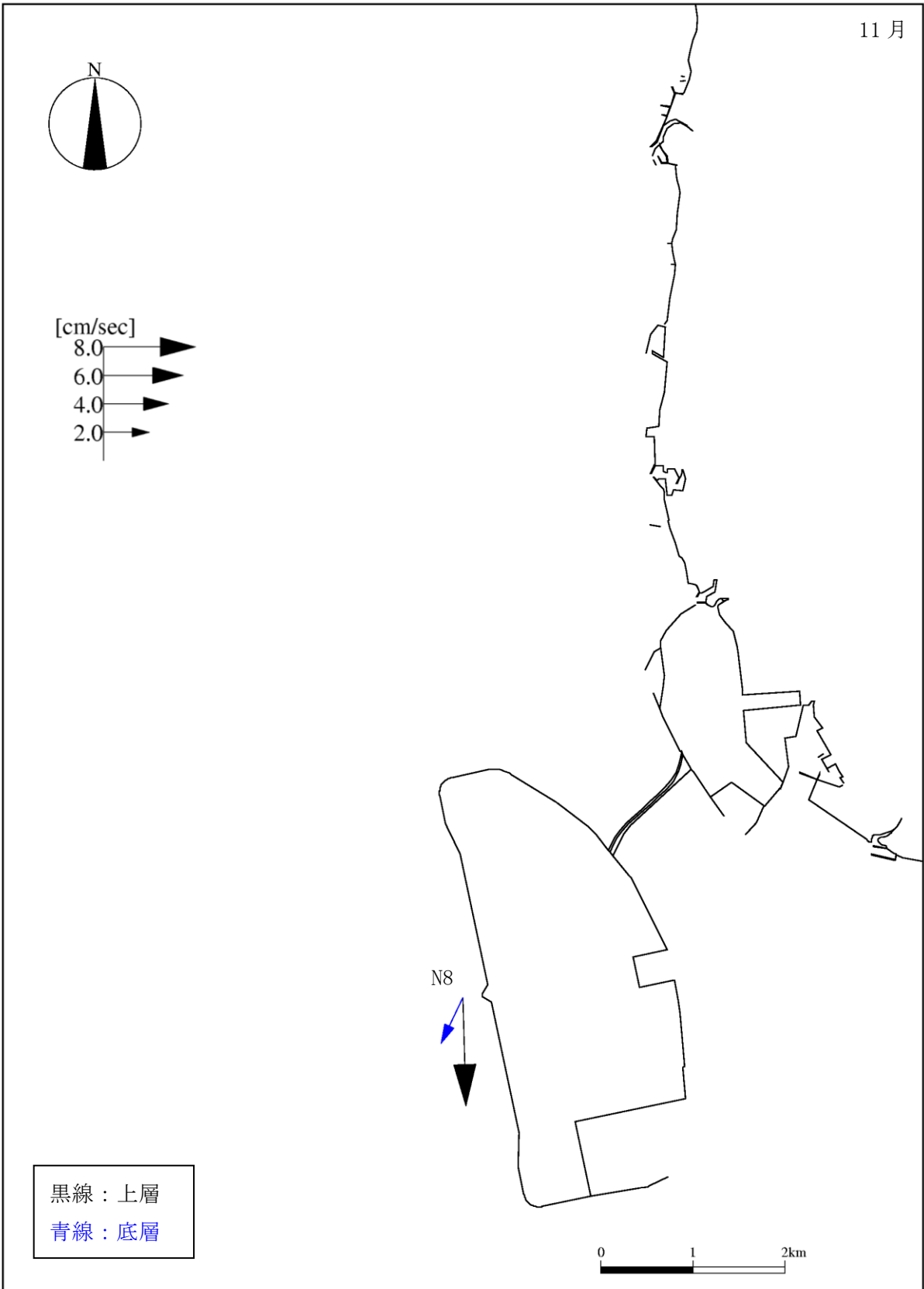
付図 8.4-35(5) 恒流の水平分布(平成 27 年 5 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



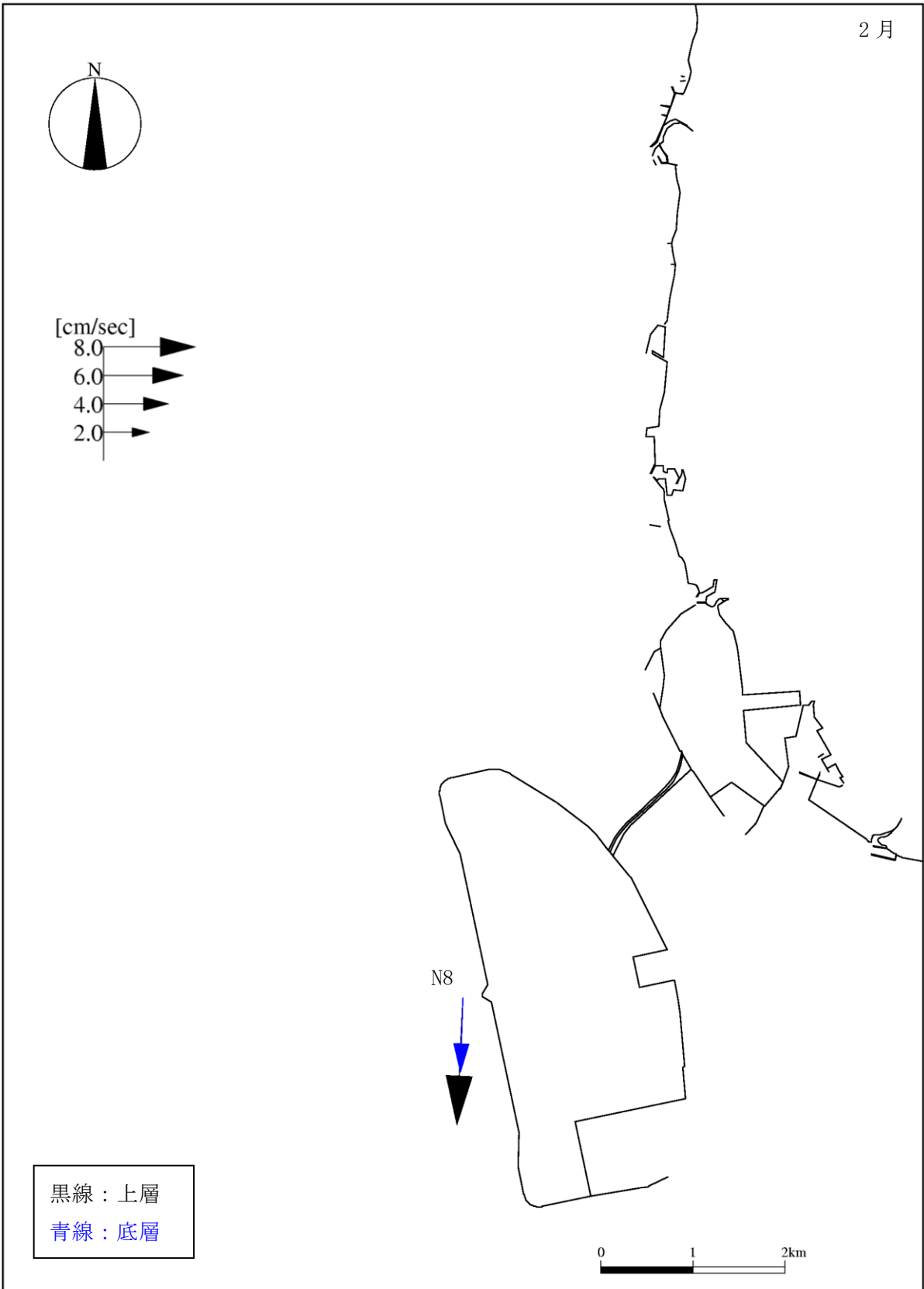
付図 8.4-35(6) 恒流の水平分布(平成 27 年 8 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



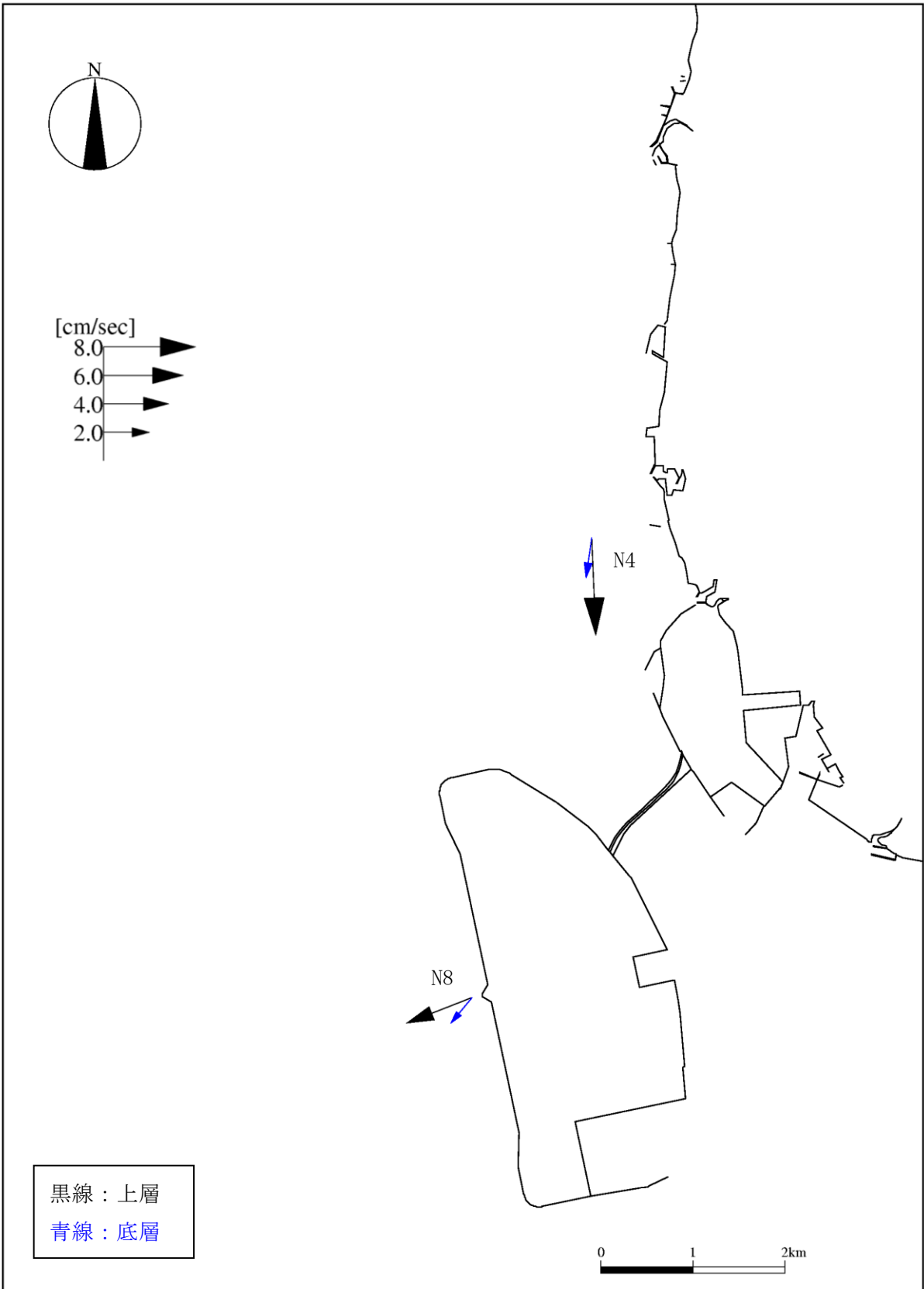
付図 8.4-35(7) 恒流の水平分布(平成 27 年 11 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



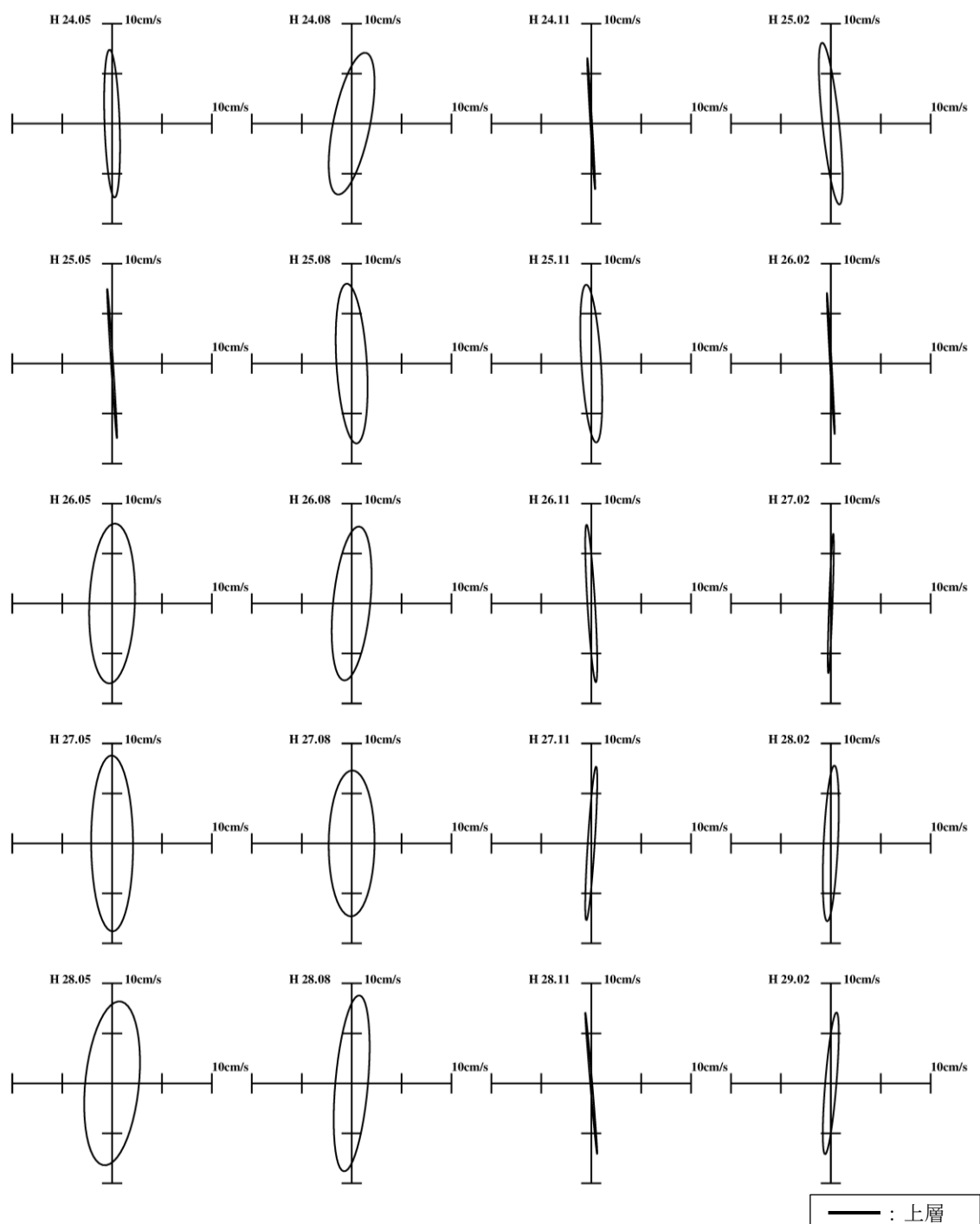
付図 8. 4-35 (8) 恒流の水平分布 (平成 28 年 2 月)

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕



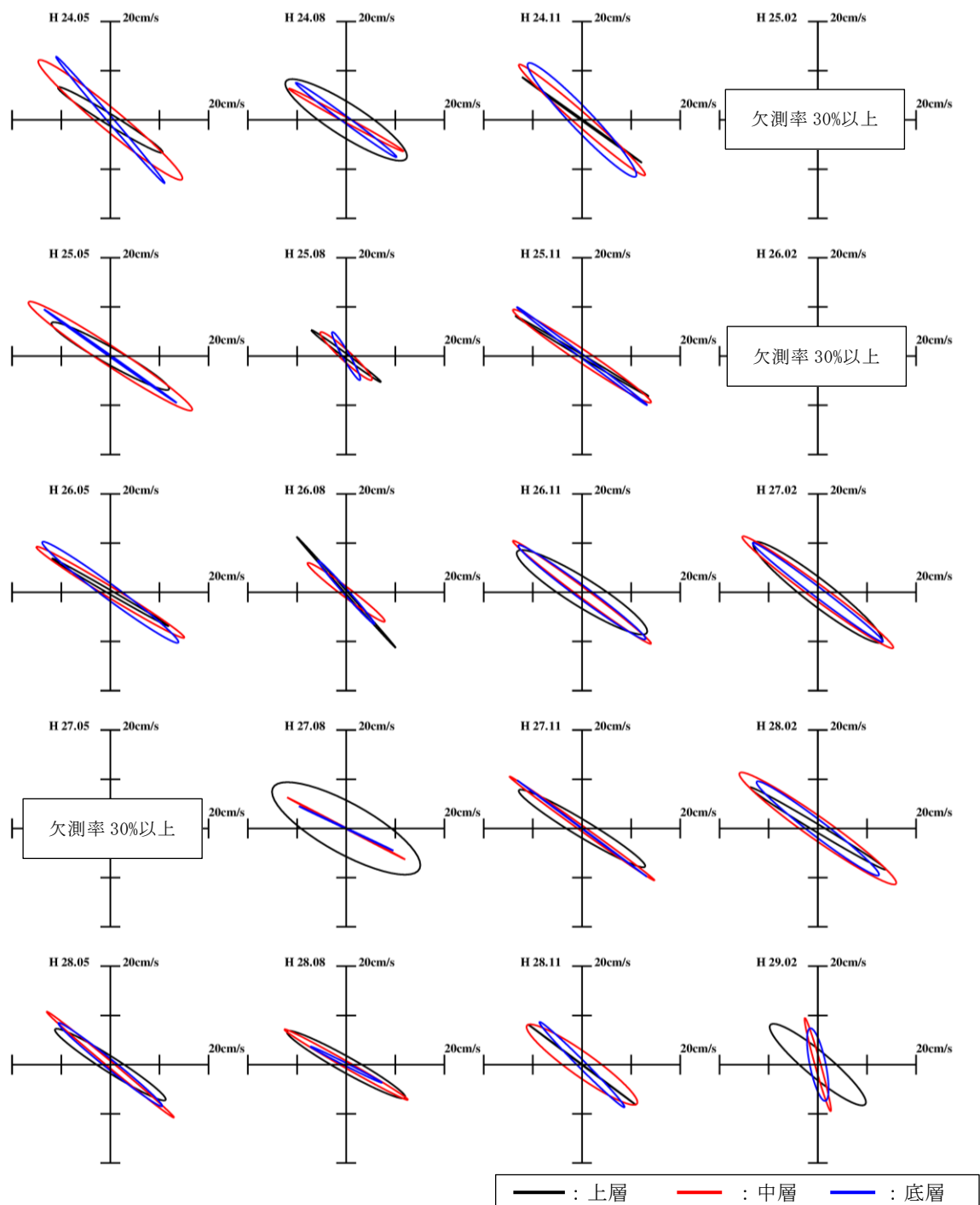
付図 8.4-35(9) 恒流の水平分布(平成 28 年 8 月)

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.4-36(1) 潮流楕円の経年変化 (湾奥)

[「全国港湾海洋波浪情報網」(国土交通省港湾局)より作成]

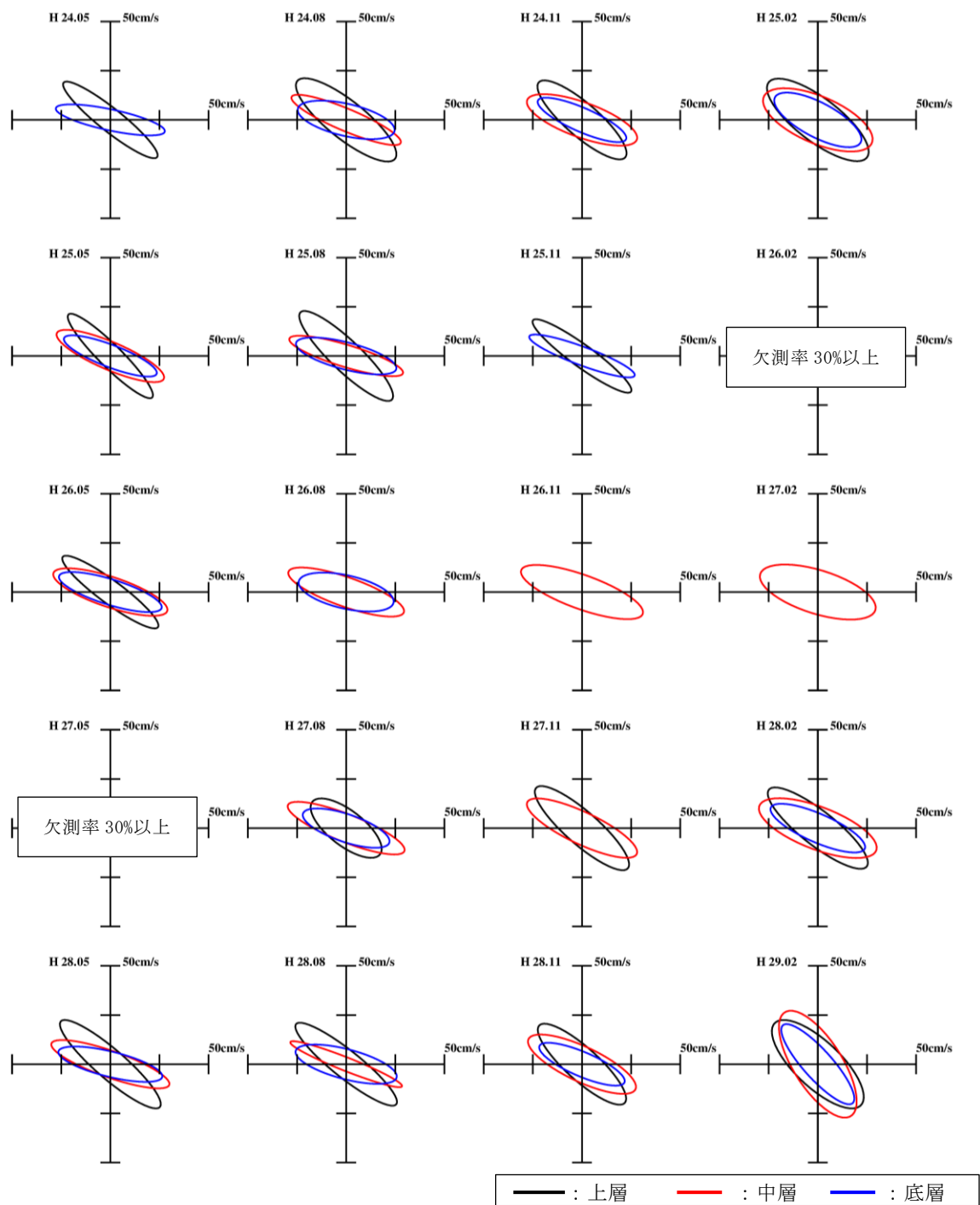


付図 8. 4-36 (2) 潮流楕円の経年変化 (湾央)

注：1. データの欠測率 30%以上の場合は解析から除外した。

2. 欠測は、平成 25 年 2 月全層、平成 26 年 2 月全層、平成 27 年 5 月全層。

〔「水質定点観測リアルタイム情報」(国土交通省中部地方整備局 HP) より作成〕

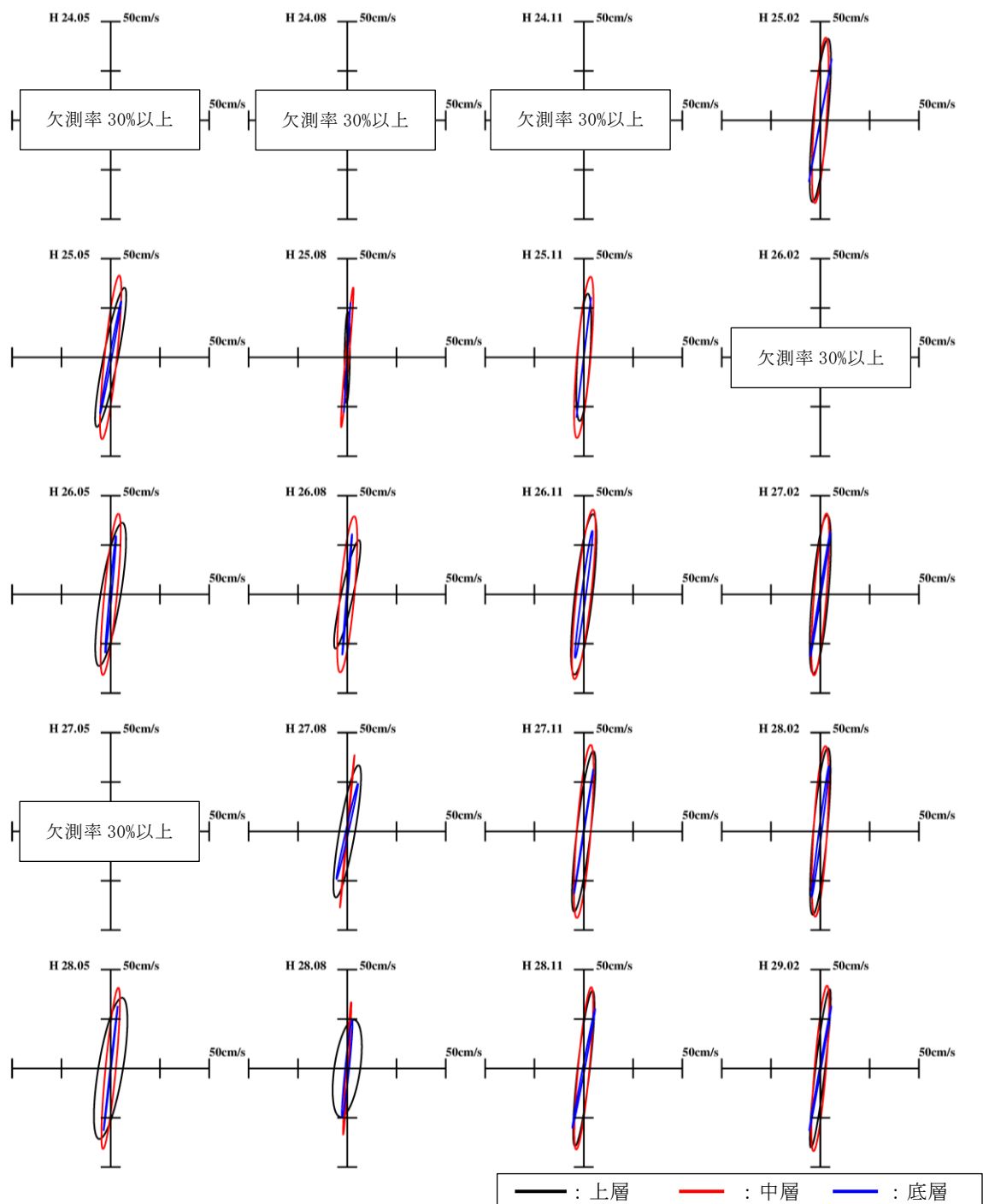


付図 8.4-36(3) 潮流楕円の経年変化（湾口）

注：1. データの欠測率 30%以上の場合は解析から除外した。

2. 欠測は、平成 24 年 5 月中層、平成 25 年 11 月中層、平成 26 年 2 月全層、平成 26 年 8 月上層、平成 26 年 11 月上底層、平成 27 年 2 月上底層、平成 27 年 5 月全層、平成 27 年 11 月底層。

〔「水質定点観測リアルタイム情報」（国土交通省中部地方整備局 HP）より作成〕

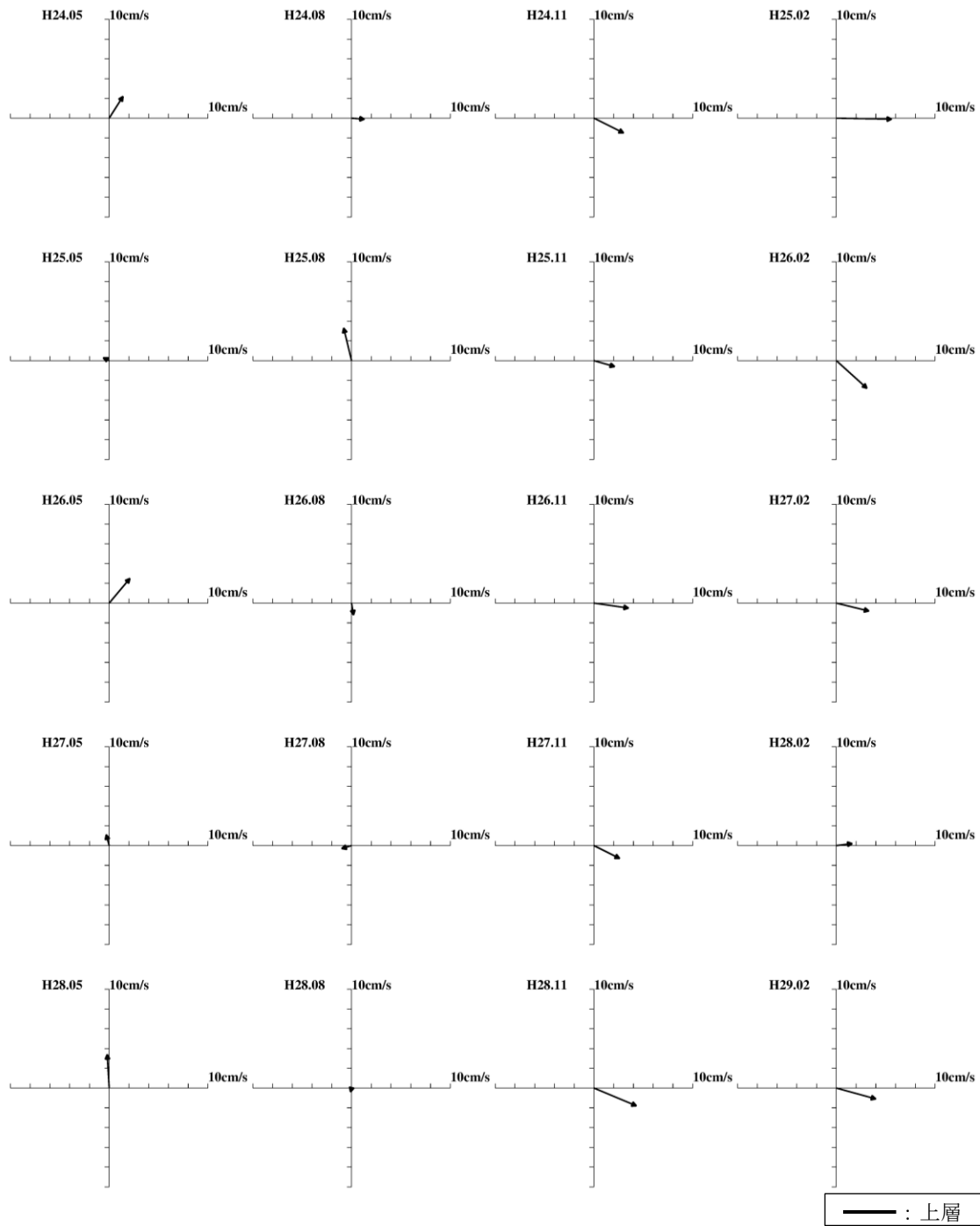


付図 8.4-36(4) 潮流楕円の経年変化（中山水道）

注：1. データの欠測率 30%以上の場合は解析から除外した。

2. 欠測は、平成 24 年 5 月全層、平成 24 年 8 月全層、平成 24 年 11 月全層、平成 26 年 2 月全層、平成 27 年 5 月全層。

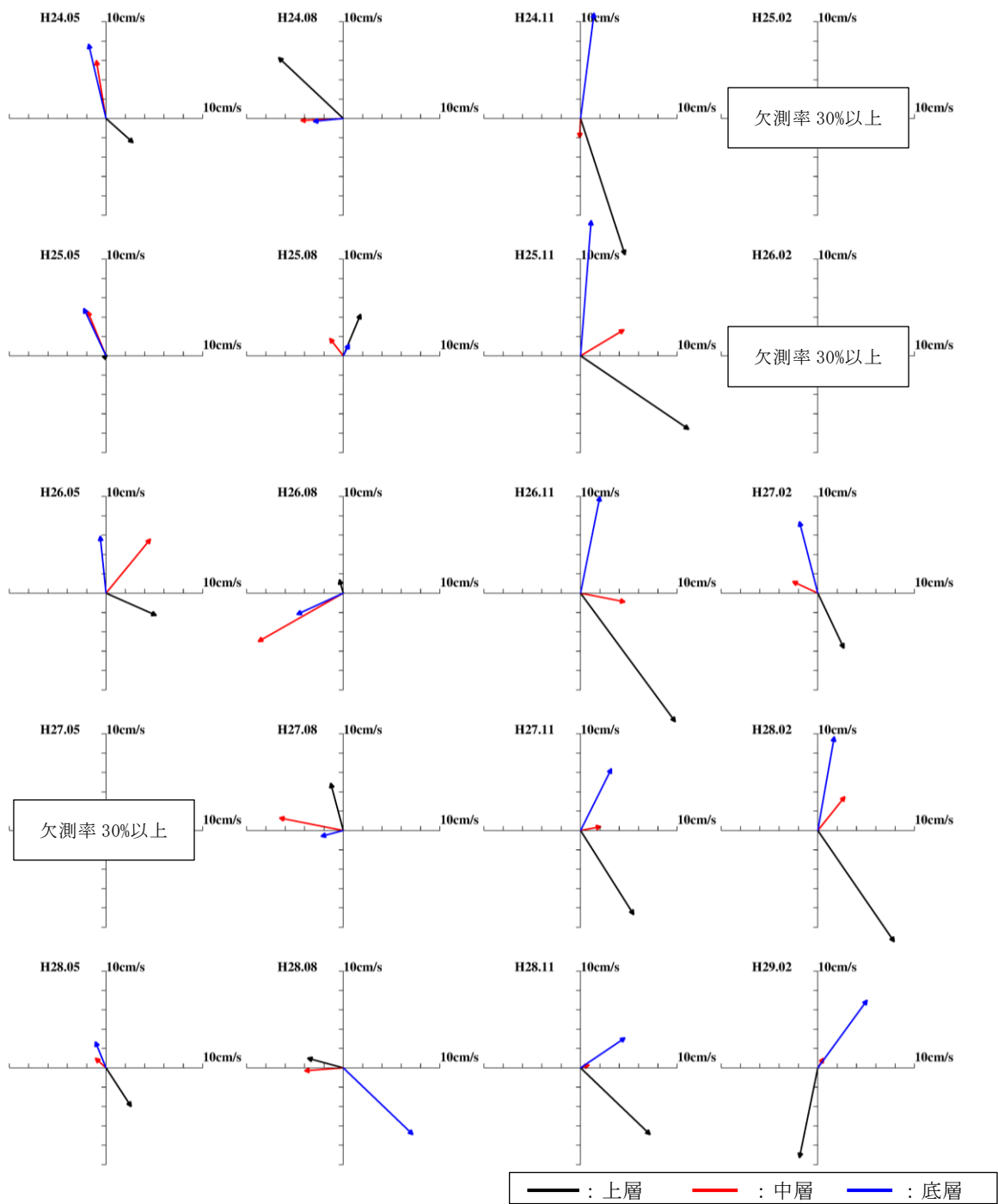
〔「水質定点観測リアルタイム情報」（国土交通省中部地方整備局 HP）より作成〕



付図 8. 4-37(1)

期間平均流ベクトルの経年変化（湾奥、上層）

〔「全国港湾海洋波浪情報網」（国土交通省港湾局）より作成〕

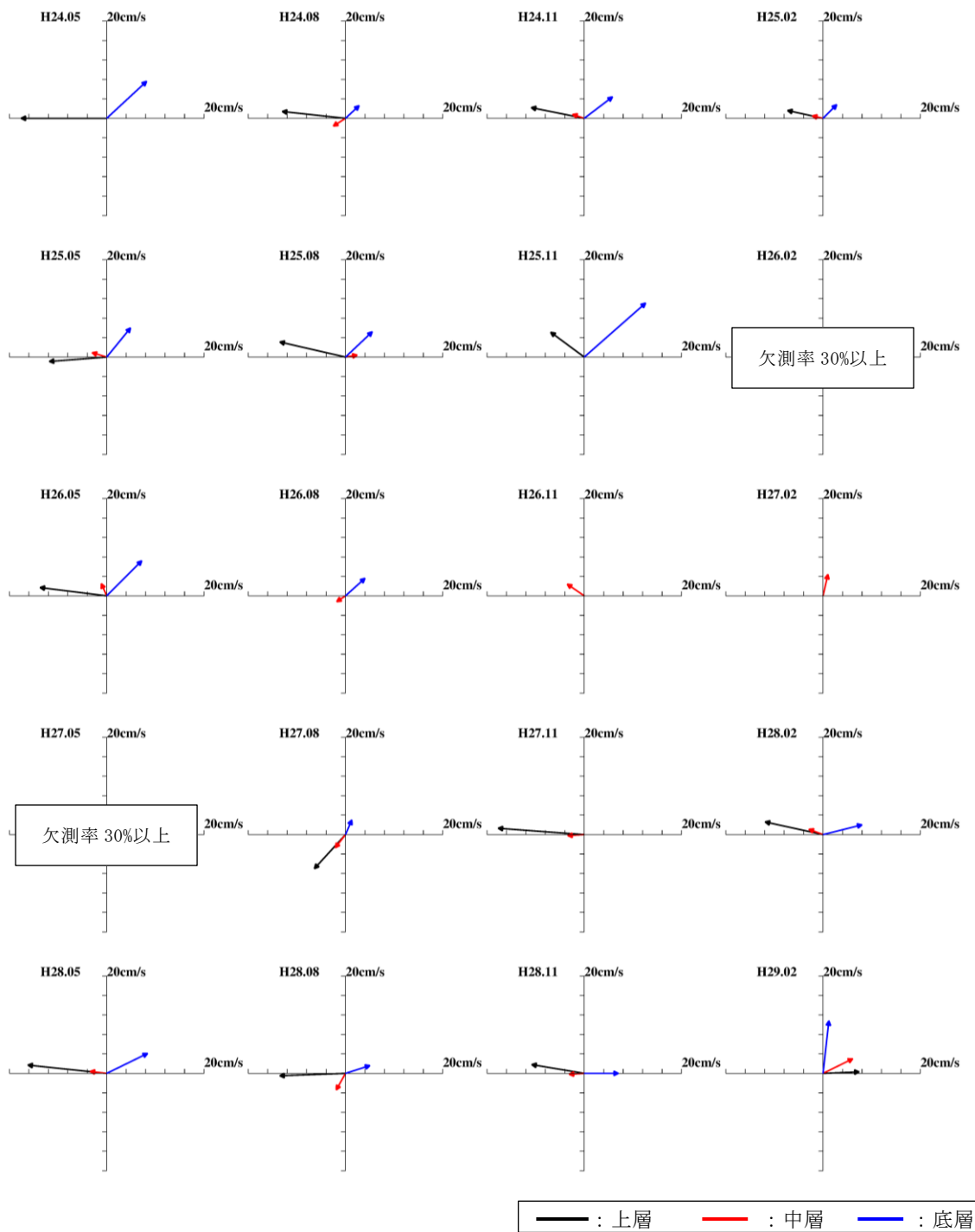


付図 8.4-37(2) 期間平均流ベクトルの経年変化（湾央）

注：1. データの欠測率 30%以上の場合は解析から除外した。

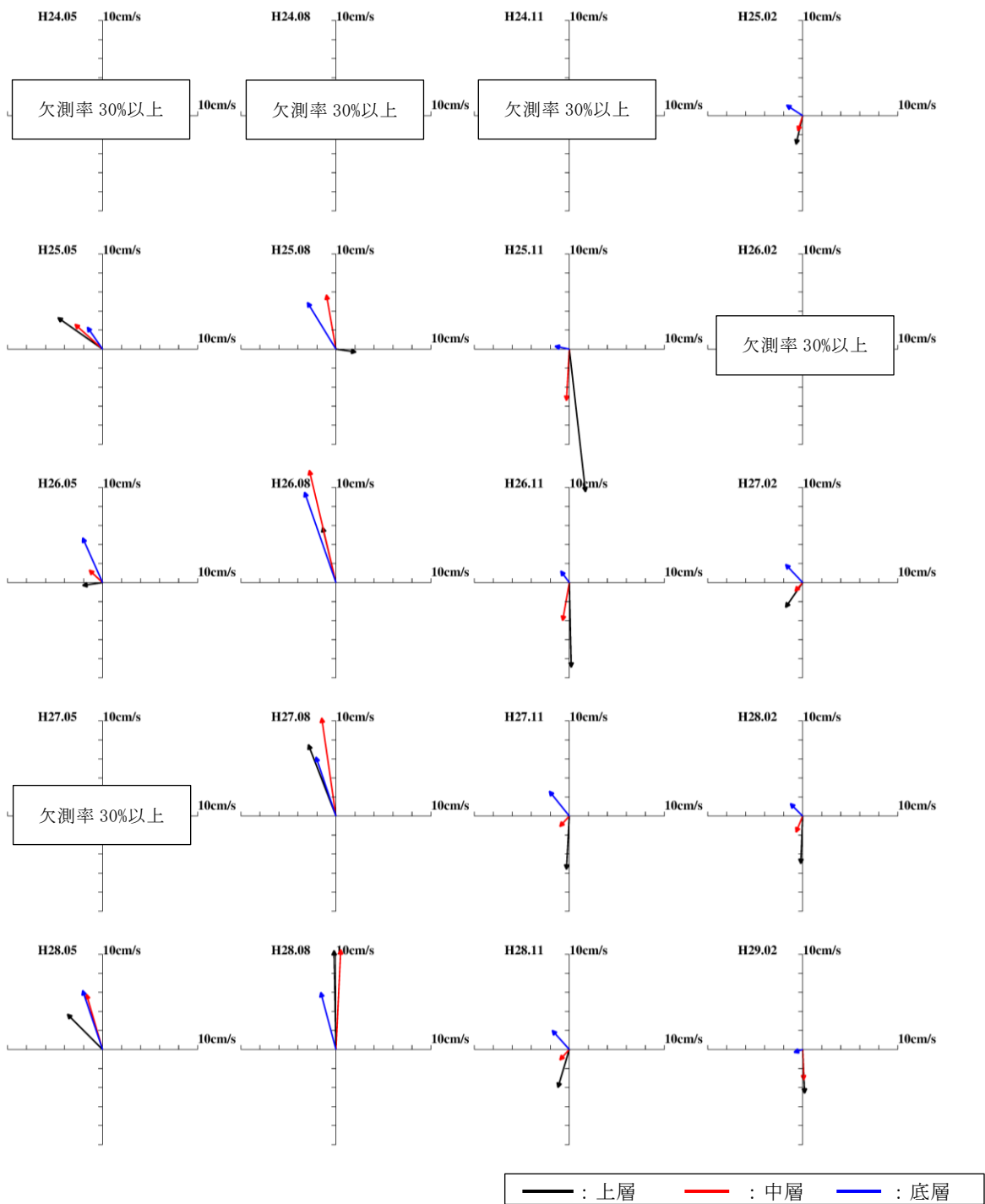
2. 欠測は、平成 25 年 2 月全層、平成 26 年 2 月全層、平成 27 年 5 月全層。

〔「水質定点観測リアルタイム情報」（国土交通省中部地方整備局 HP）より作成〕



付図 8.4-37(3) 期間平均流ベクトルの経年変化（湾口）

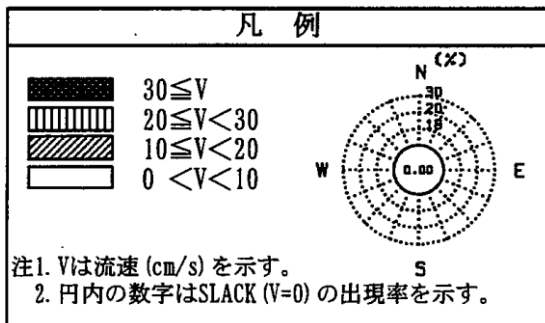
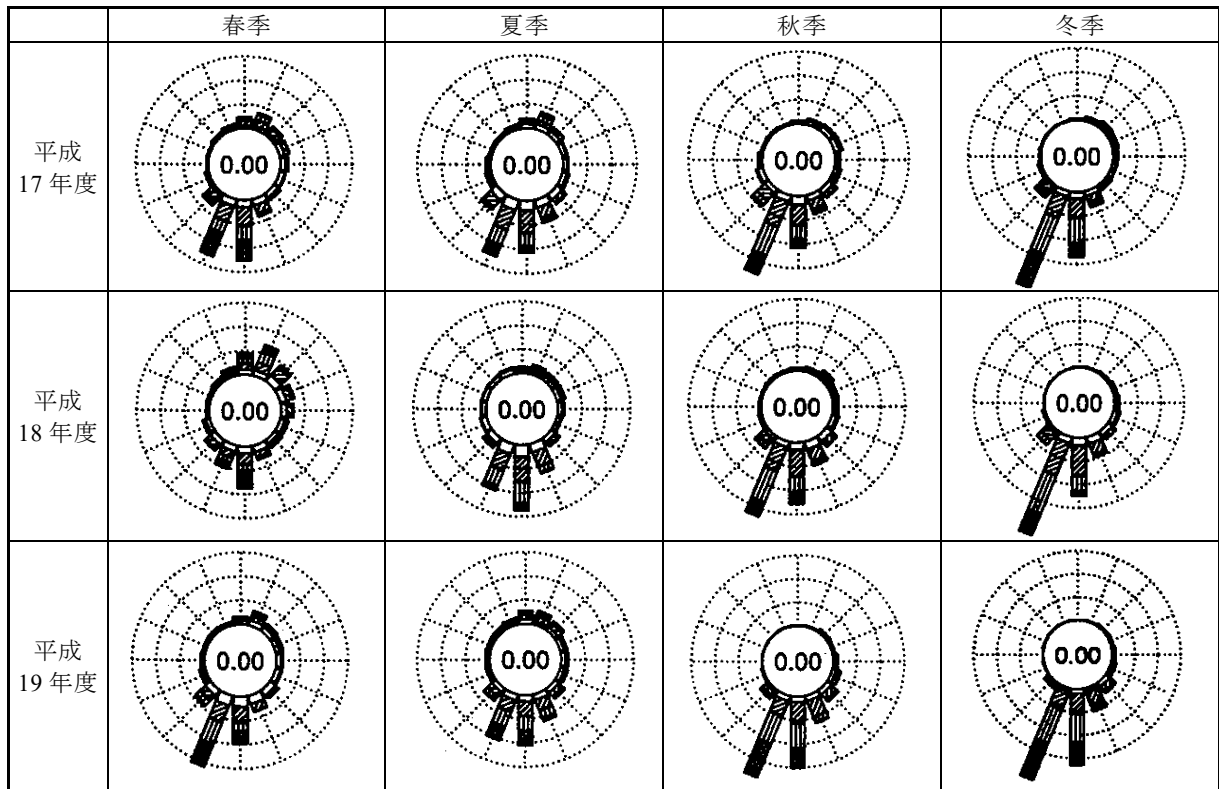
- 注：1. データの欠測率 30%以上の場合は解析から除外した。
 2. 欠測は、平成 24 年 5 月中層、平成 25 年 11 月中層、平成 26 年 2 月全層、平成 26 年 8 月上層、平成 26 年 11 月上底層、平成 27 年 2 月上底層、平成 27 年 5 月全層、平成 27 年 11 月底層。
 [「水質定点観測リアルタイム情報」（国土交通省中部地方整備局 HP）より作成]



付図 8.4-37(4) 期間平均流ベクトルの経年変化 (中山水道)

注：1. データの欠測率 30%以上の場合は解析から除外した。
 2. 欠測は、平成 24 年 5 月全層、平成 24 年 8 月全層、平成 24 年 11 月全層、平成 26 年 2 月全層、平成 27 年 5 月全層。

〔「水質定点観測リアルタイム情報」 (国土交通省中部地方整備局 HP) より作成〕

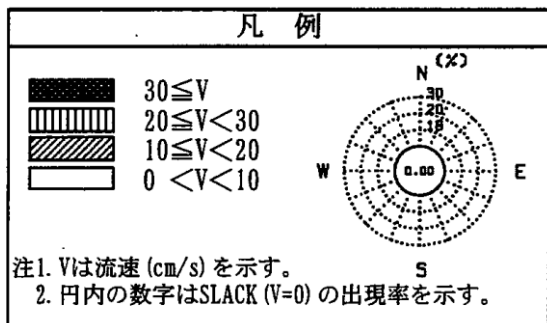
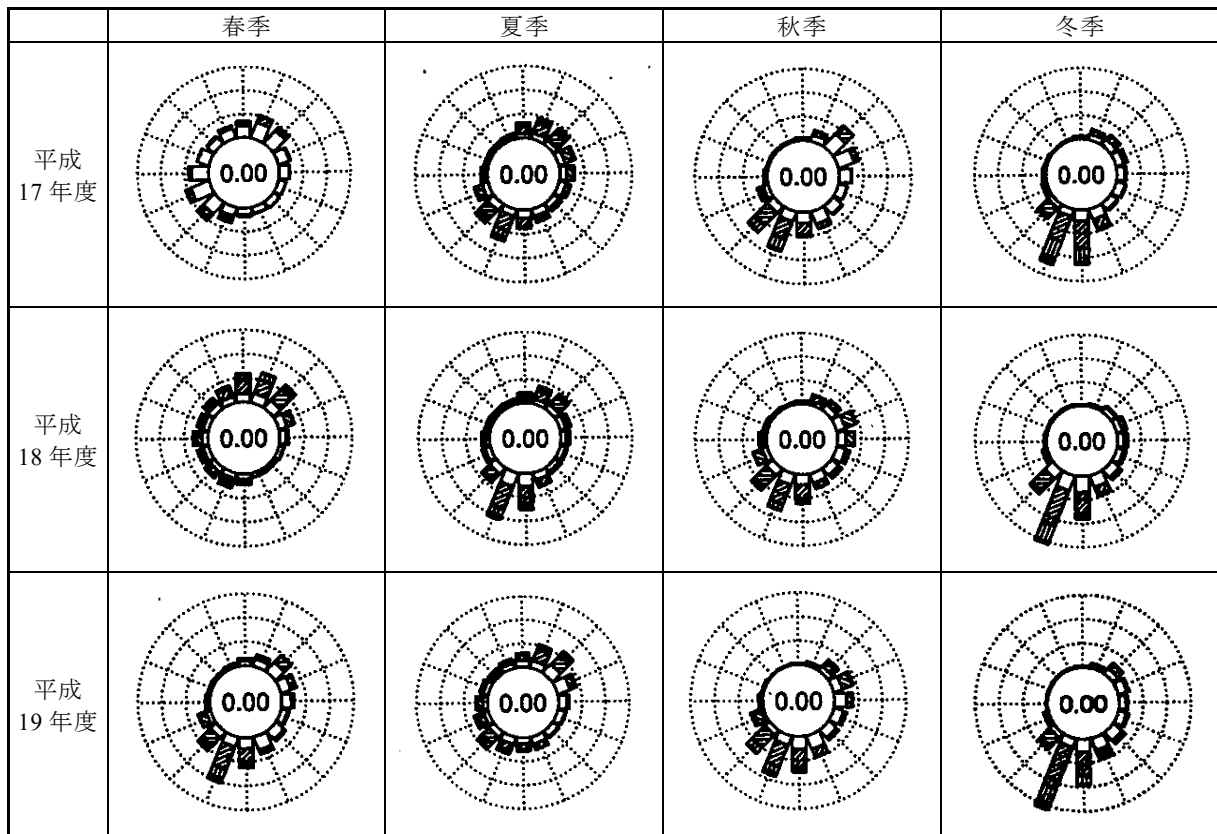


- 注：1. 平成17年8月に空港島南側護岸の工事が終了している。
2. 平成17年度の夏季調査から調査位置を東に50m程度移動している。



付図 8. 4-38 (1) 流向別流速出現頻度分布 (蒲池沖：上層)

〔「空港島及び空港対岸部に係る平成19年度環境監視結果年報」
(中部国際空港株式会社・愛知県、平成20年) より作成〕

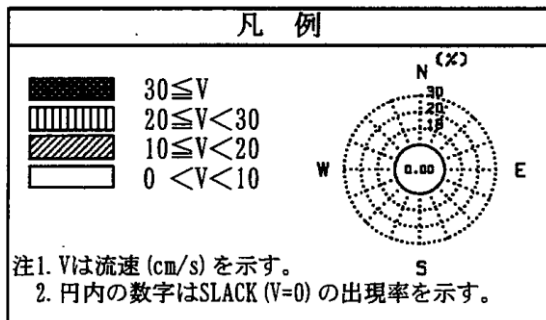
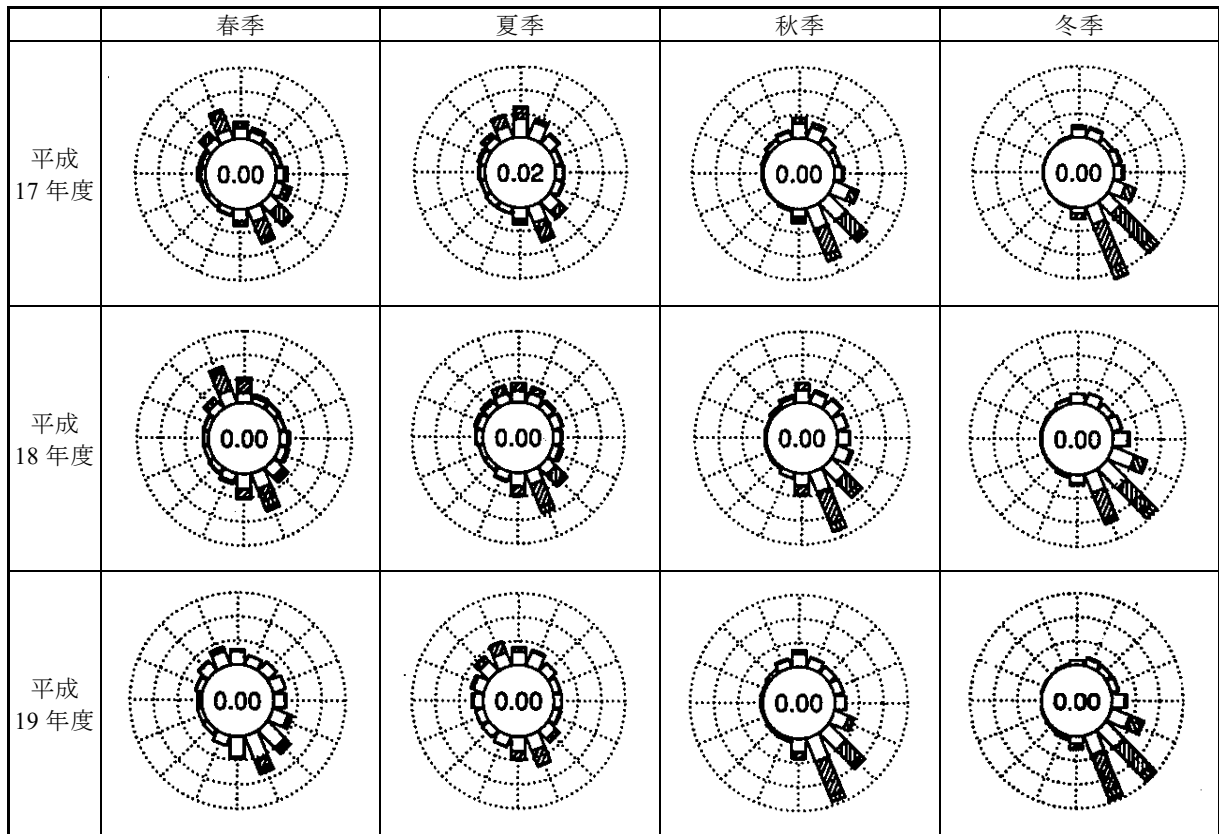


- 注：1. 平成17年8月に空港島南側護岸の工事が終了している。
 2. 平成17年度の夏季調査から調査位置を東に50m程度移動している。



付図 8.4-38(2) 流向別流速出現頻度分布（蒲池沖：底層）

〔「空港島及び空港対岸部に係る平成19年度環境監視結果年報」
 （中部国際空港株式会社・愛知県、平成20年）より作成〕

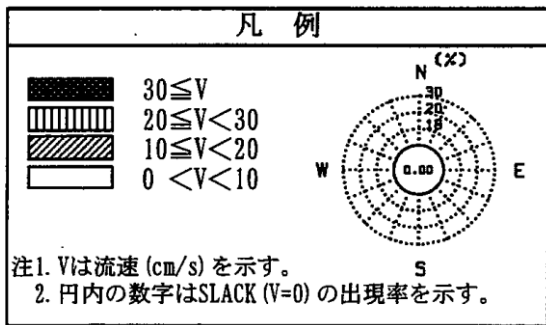
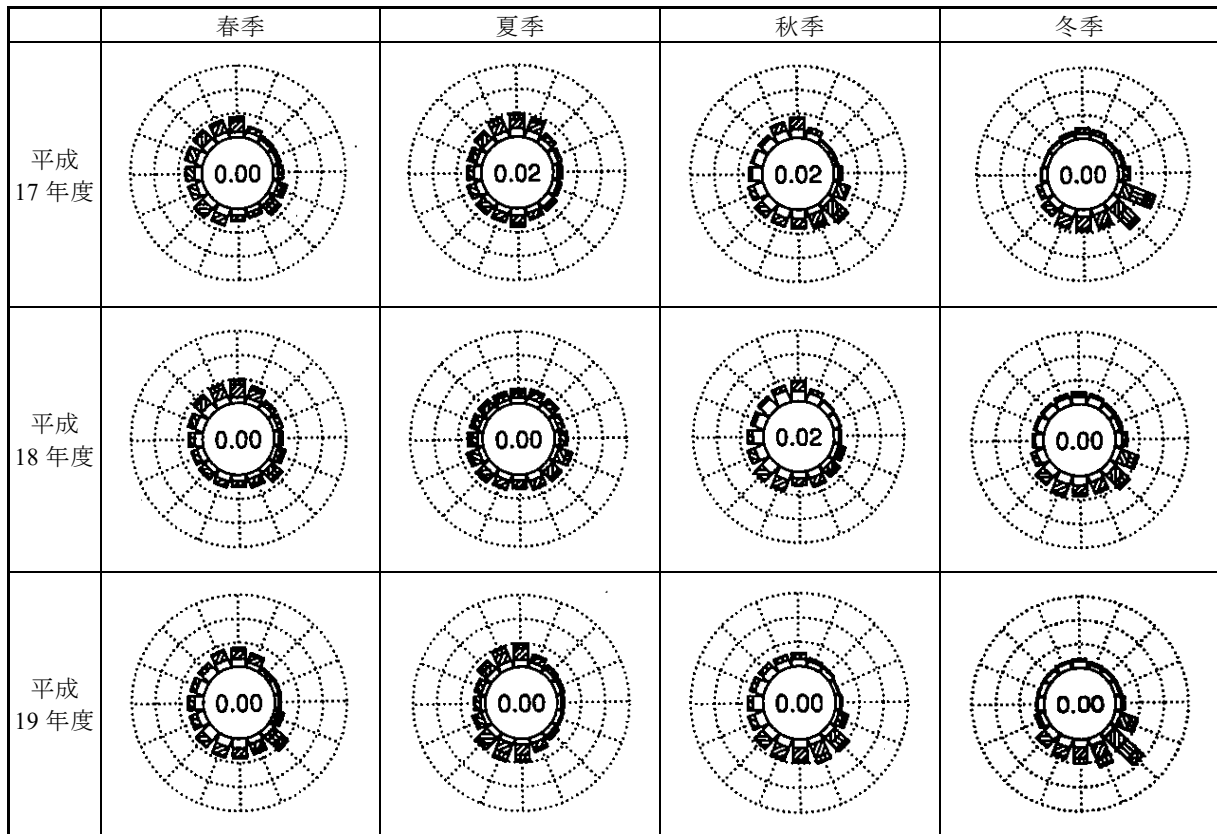


注：平成 17 年 8 月に空港島南側護岸の工事が終了している。



付図 8. 4-38 (3) 流向別流速出現頻度分布 (樽水沖：底層)

〔「空港島及び空港対岸部に係る平成 19 年度環境監視結果年報」
 (中部国際空港株式会社・愛知県、平成 20 年) より作成〕

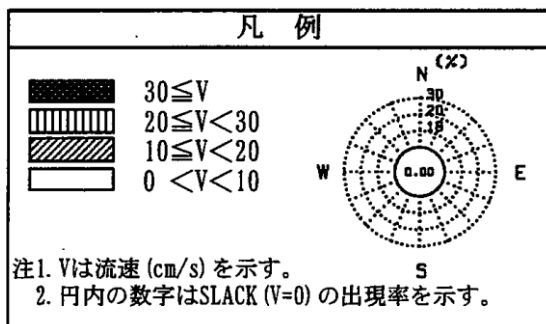
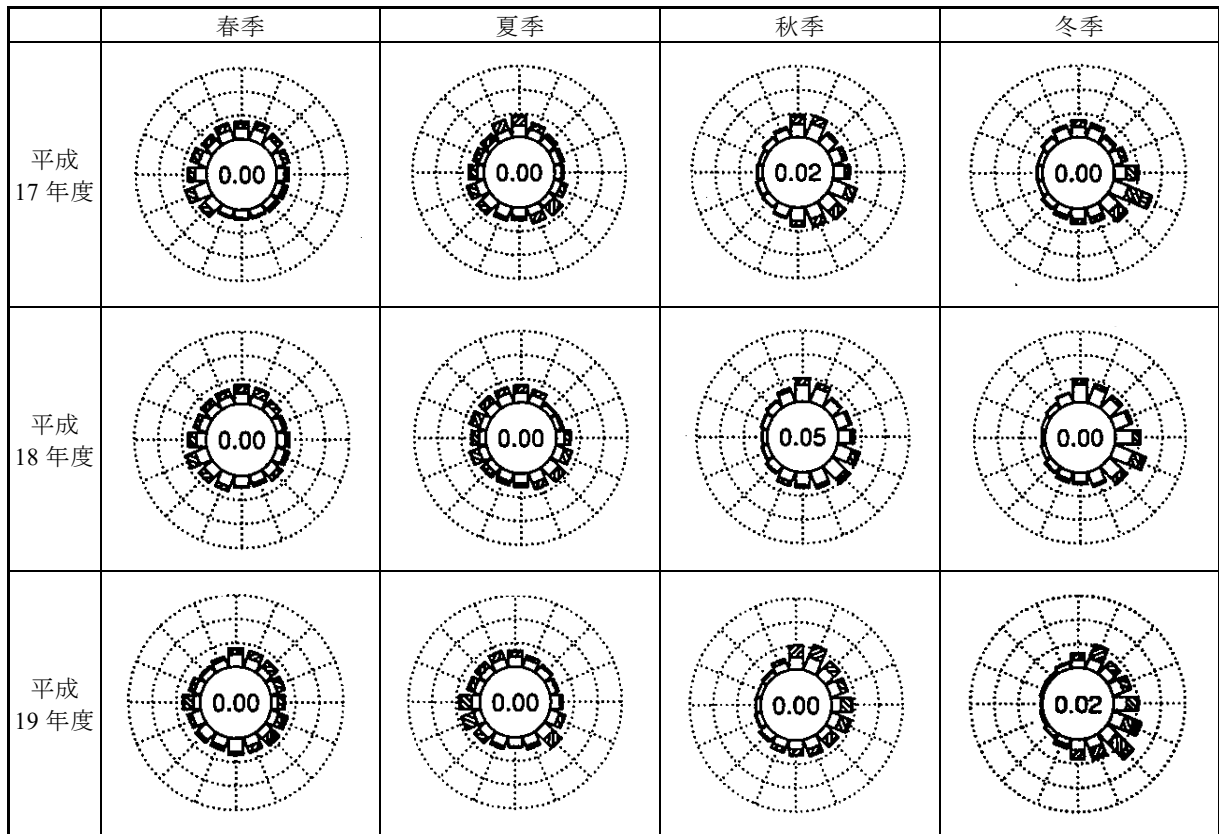


注：平成 17 年 8 月に空港島南側護岸の工事が終了している。

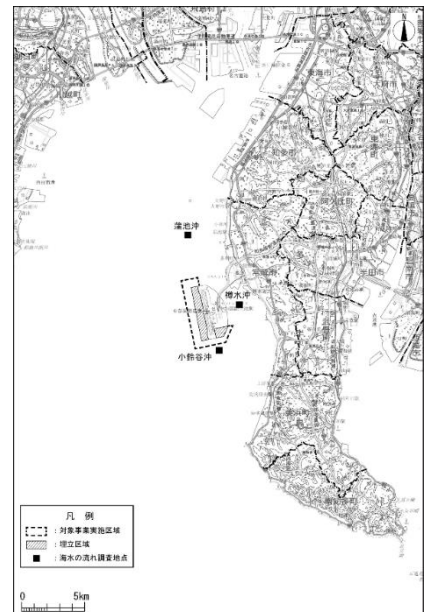


付図 8.4-38(4) 流向別流速出現頻度分布 (小鈴谷沖：上層)

〔「空港島及び空港対岸部に係る平成 19 年度環境監視結果年報」
 (中部国際空港株式会社・愛知県、平成 20 年) より作成〕

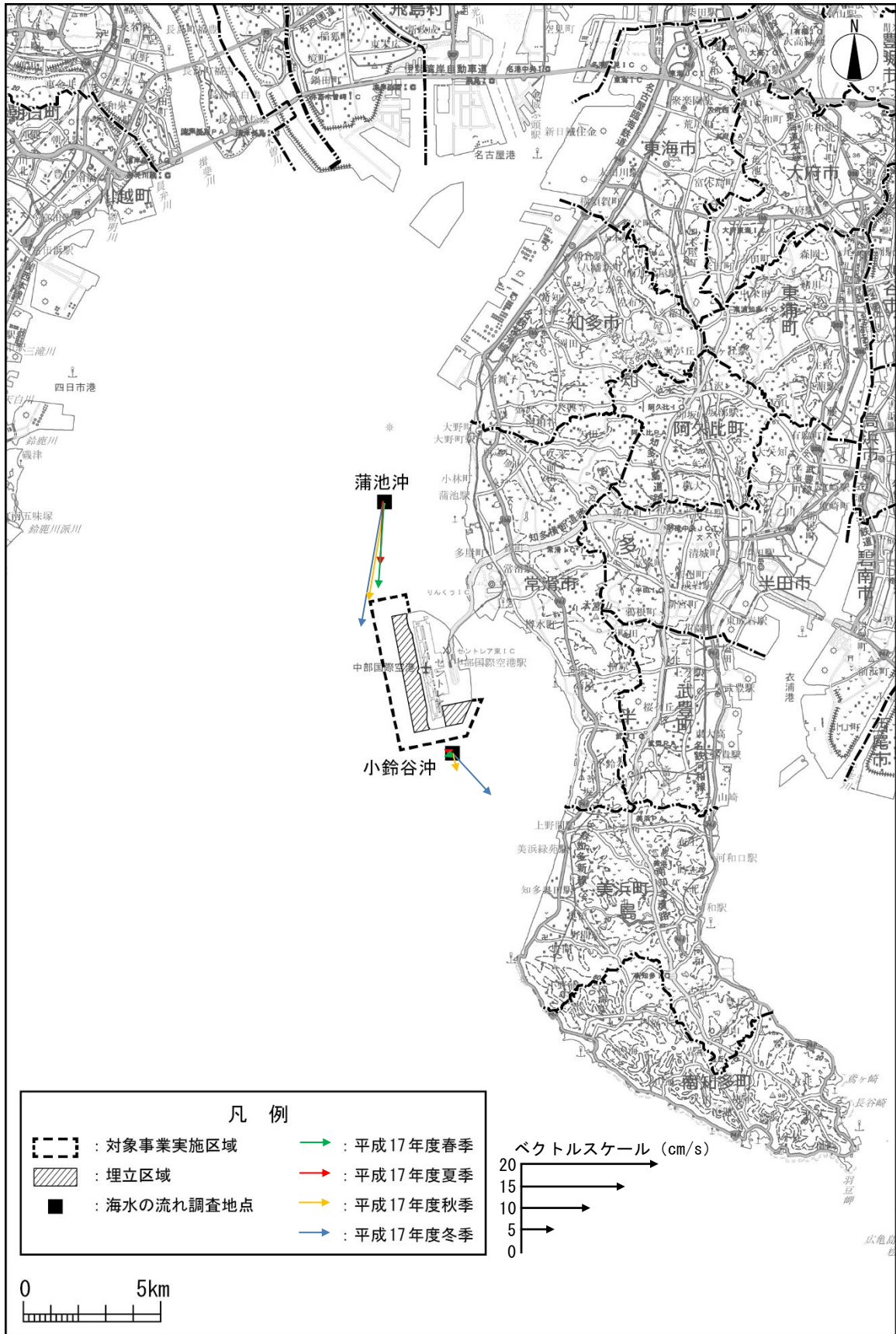


注：平成 17 年 8 月に空港島南側護岸の工事が終了している。



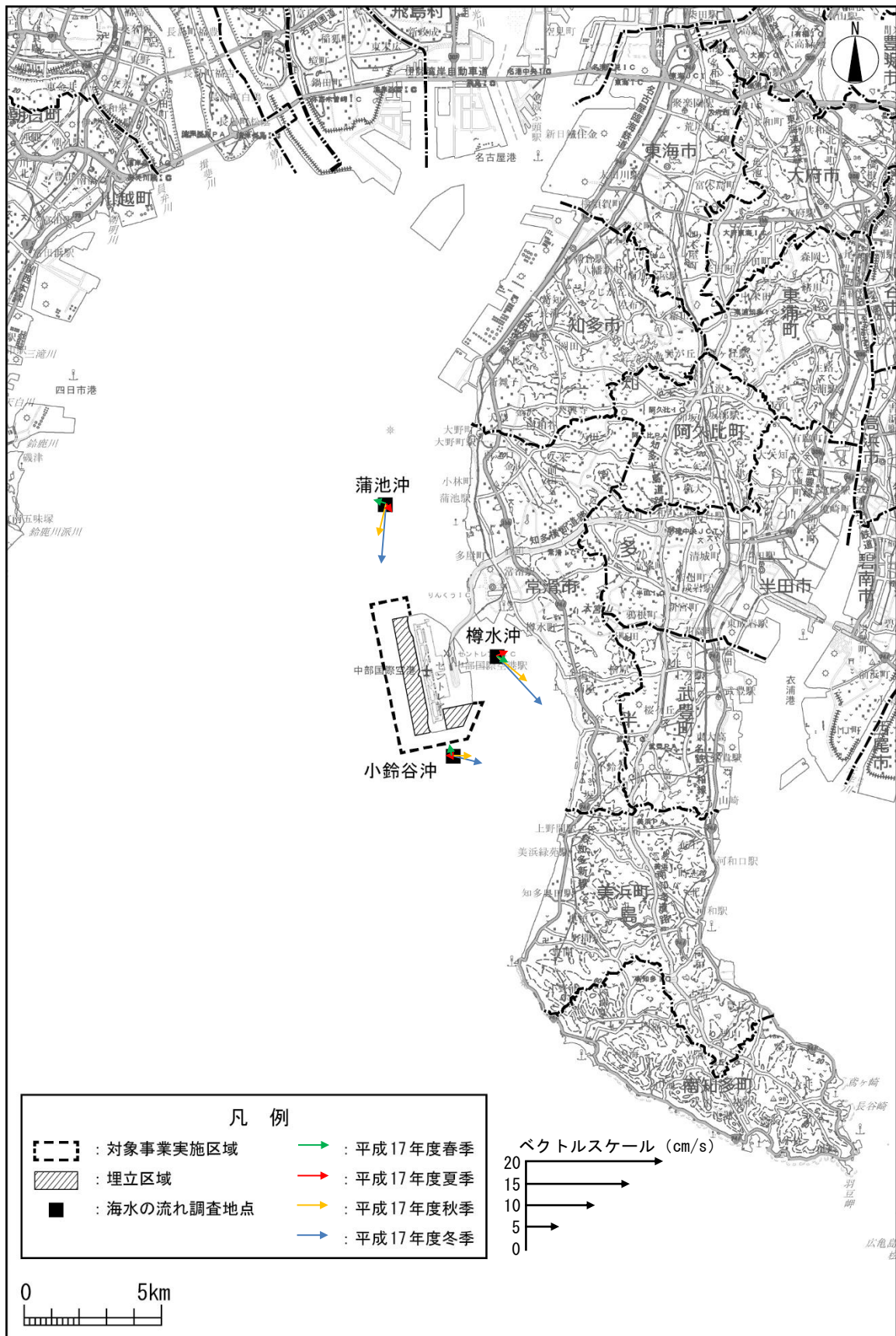
付図 8. 4-38 (5) 流向別流速出現頻度分布 (小鈴谷沖：底層)

〔「空港島及び空港対岸部に係る平成 19 年度環境監視結果年報」
(中部国際空港株式会社・愛知県、平成 20 年) より作成〕



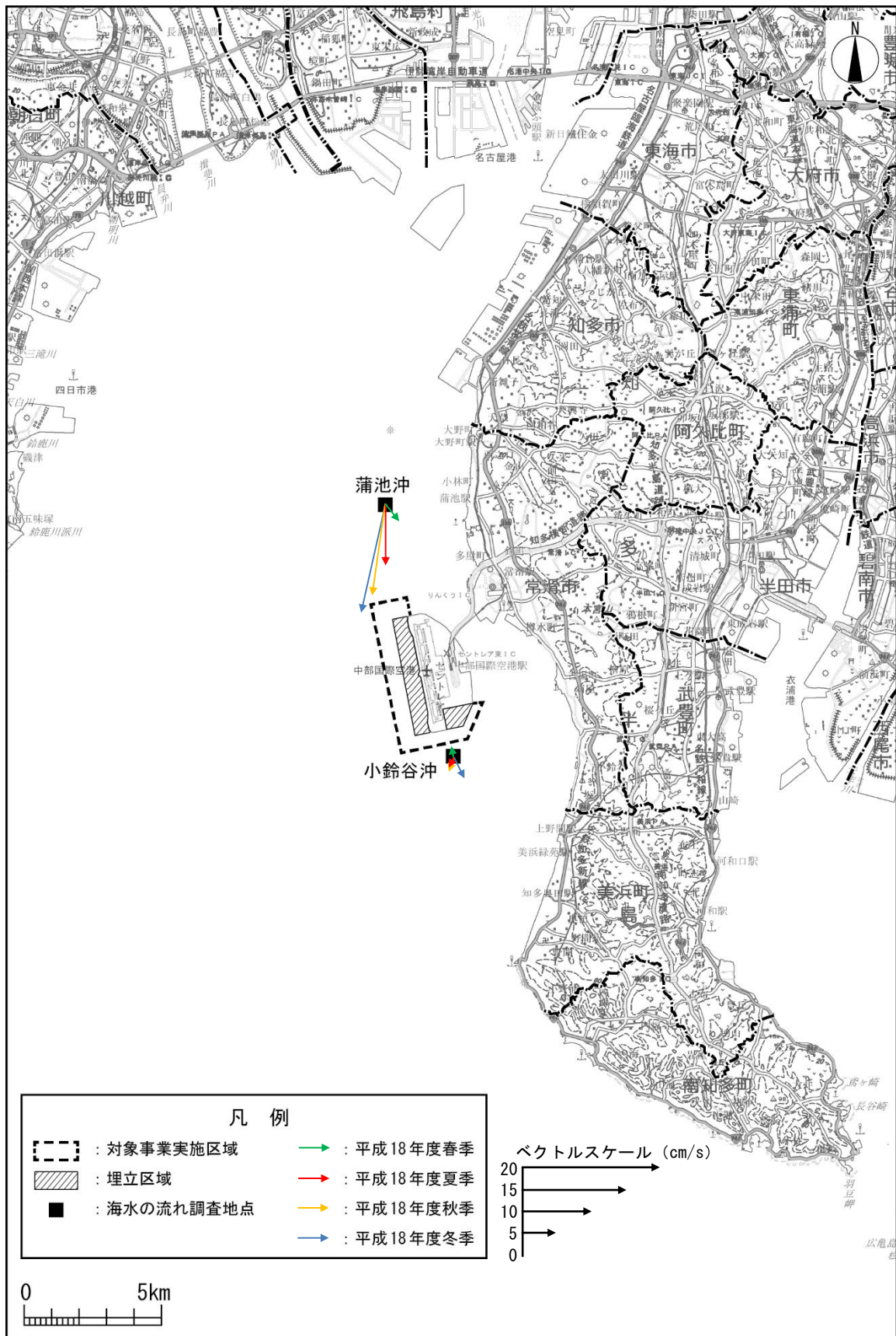
付図 8.4-39(1) 海水の流れ調査地点及び平均流ベクトル（上層）

〔空港島及び空港対岸部に係る平成17年度環境監視結果年報〕
 （中部国際空港株式会社・愛知県、平成18年）より作成



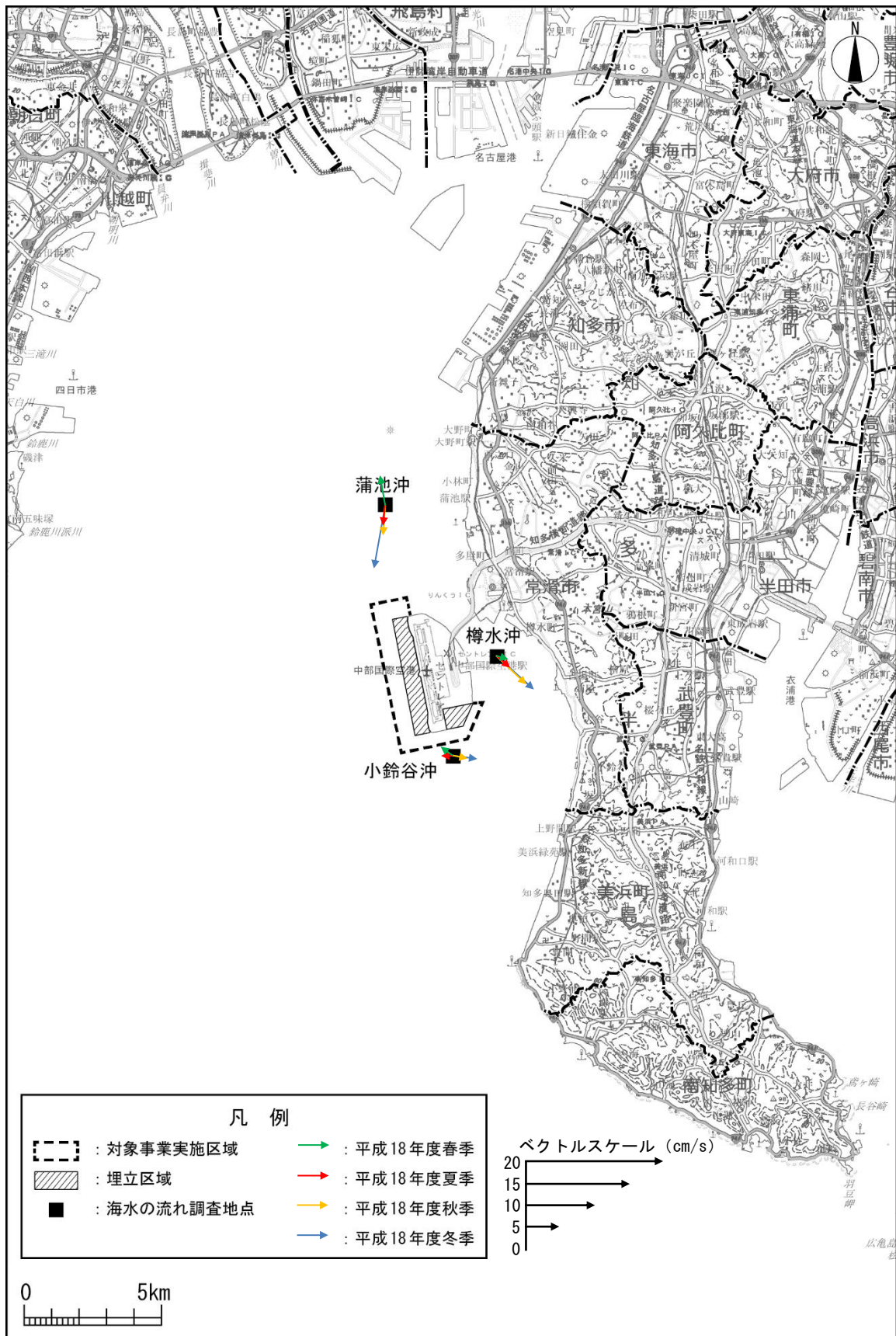
付図 8.4-39(2) 海水の流れ調査地点及び平均流ベクトル（底層）

〔「空港島及び空港対岸部に係る平成17年度環境監視結果年報」
 (中部国際空港株式会社・愛知県、平成18年)より作成〕



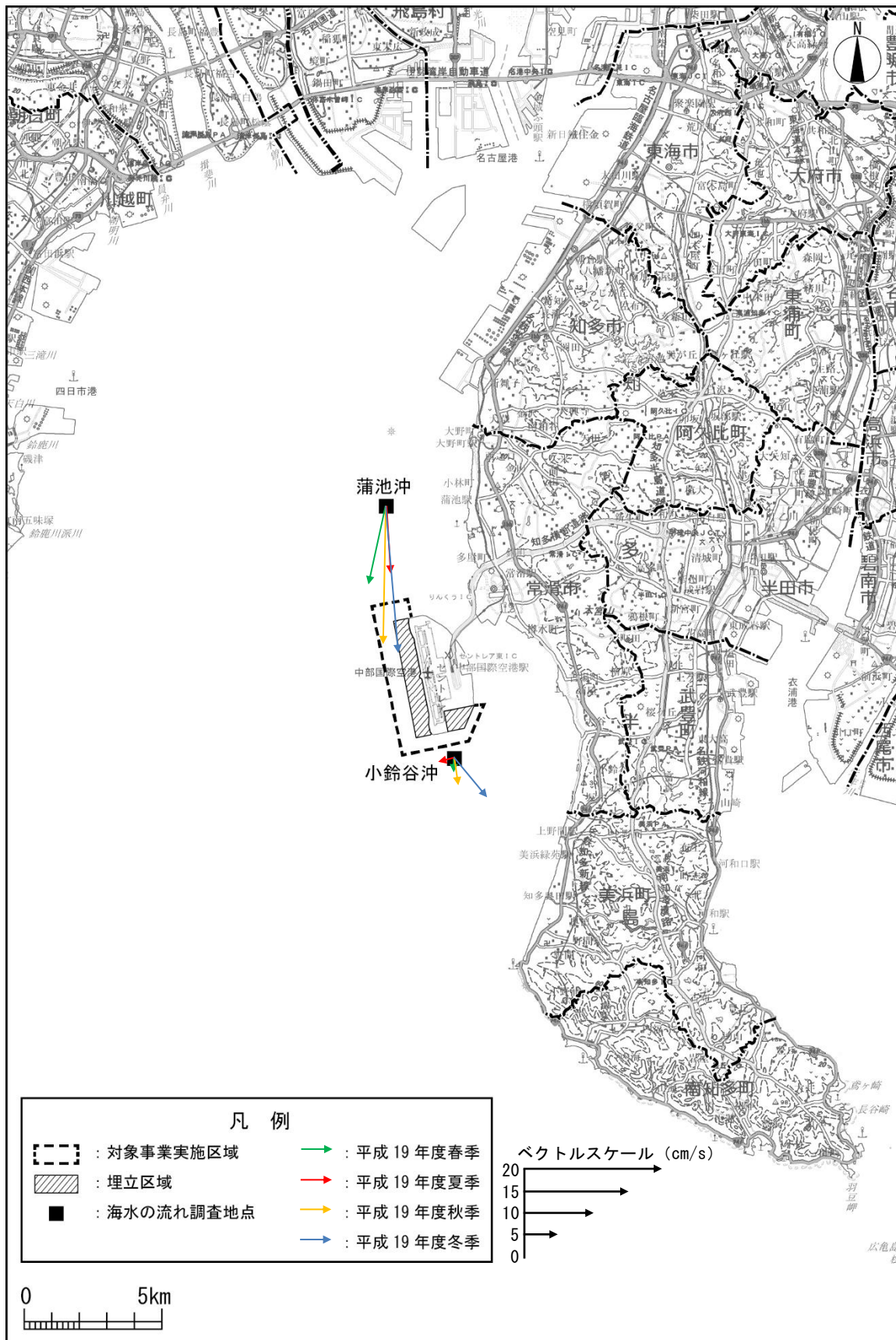
付図 8.4-39(3) 海水の流れ調査地点及び平均流ベクトル（上層）

〔空港島及び空港対岸部に係る平成18年度環境監視結果年報〕
 （中部国際空港株式会社・愛知県、平成19年）より作成



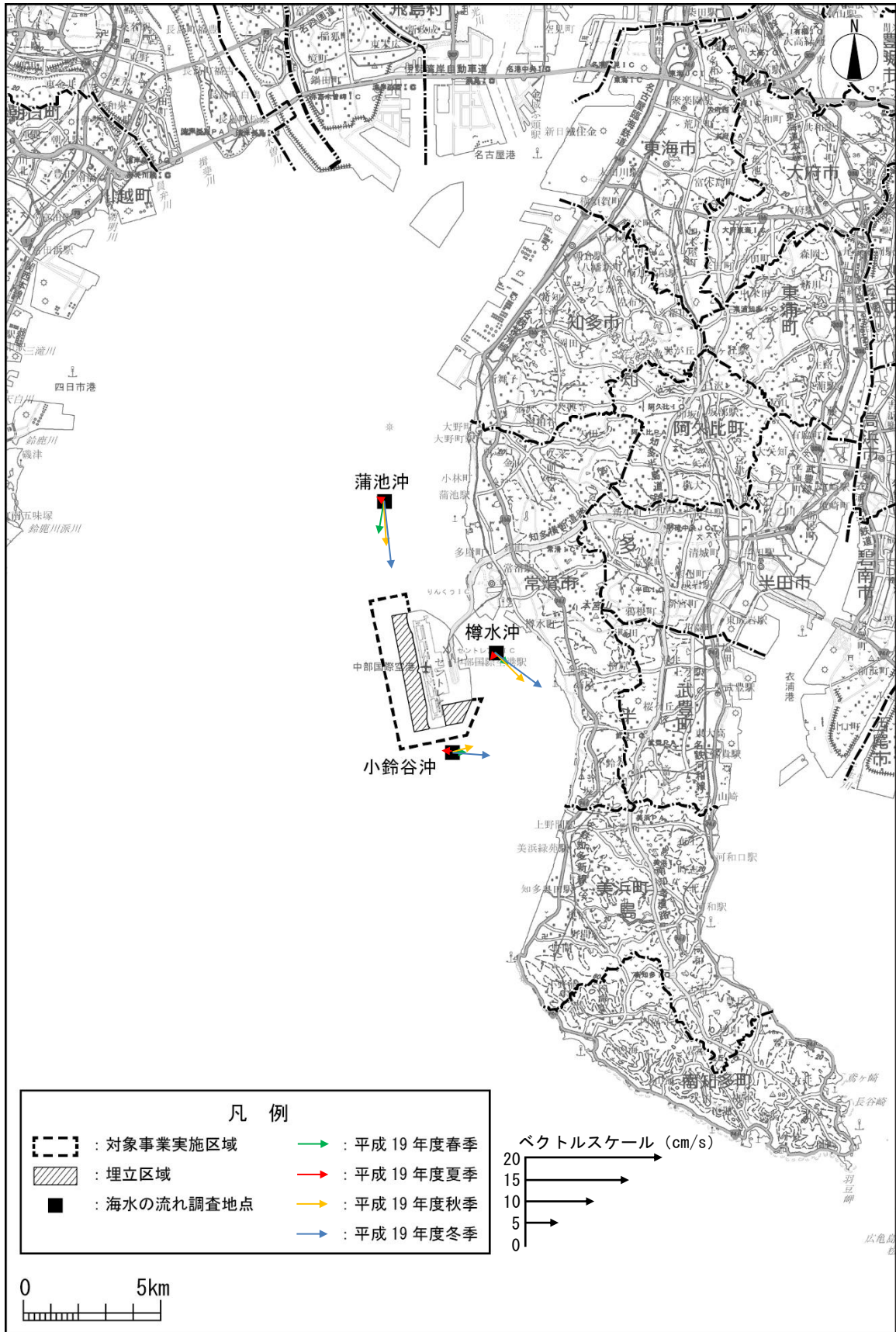
付図 8.4-39(4) 海水の流れ調査地点及び平均流ベクトル（底層）

〔「空港島及び空港対岸部に係る平成18年度環境監視結果年報」
 （中部国際空港株式会社・愛知県、平成19年）より作成〕



付図 8.4-39(5) 海水の流れ調査地点及び平均流ベクトル（上層）

〔空港島及び空港対岸部に係る平成19年度環境監視結果年報〕
 （中部国際空港株式会社・愛知県、平成20年）より作成



付図 8.4-39(6) 海水の流れ調査地点及び平均流ベクトル（底層）

〔空港島及び空港対岸部に係る平成19年度環境監視結果年報〕
 （中部国際空港株式会社・愛知県、平成20年）より作成

付表 8.4-14(1) 予測対象年度の選定に係る異常年検定の結果（気温）

気温 (°C)	統計年度										平均 X	標準 偏差 S	H26年度			H27年度			H28年度			棄却限界 (5%) 上限 下限	
	出現数												出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×	出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×	出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×		
	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度													
～0	0	24	0	4	3	2	8	26	9	3	8	9	0	0.57	○	14	0.34	○	9	0.01	○	32	0
0～5	183	962	231	702	375	482	791	795	848	697	607	271	557	0.03	○	344	0.77	○	523	0.08	○	1,285	0
5～10	555	1,786	1,855	1,703	1,819	1,854	1,686	1,803	1,744	1,870	1,668	396	1,982	0.52	○	1,590	0.03	○	1,764	0.05	○	2,658	677
10～20	294	2,561	3,327	3,081	3,283	3,123	2,950	2,873	2,833	2,664	2,699	880	2,806	0.01	○	3,438	0.58	○	2,860	0.03	○	4,901	496
20～30	0	3,278	3,233	3,104	3,074	3,247	2,924	3,063	3,113	3,244	2,828	1,000	3,319	0.20	○	3,221	0.13	○	3,463	0.33	○	5,329	327
30～	0	148	114	190	206	52	400	224	213	282	183	114	96	0.48	○	177	0.00	○	140	0.12	○	468	0

付表 8.4-14(2) 予測対象年度の選定に係る異常年検定の結果（風向）

風向 (方位)	統計年度										平均 X	標準 偏差 S	H26年度			H27年度			H28年度			棄却限界 (5%) 上限 下限	
	出現数												出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×	出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×	出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×		
	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度													
NNE	25	248	248	313	347	279	235	278	257	221	245	86	260	0.02	○	251	0.00	○	288	0.20	○	460	30
NE	22	185	192	214	234	166	159	190	179	158	170	57	190	0.10	○	174	0.00	○	185	0.06	○	313	27
ENE	12	164	155	183	191	151	142	147	173	144	146	50	144	0.00	○	160	0.06	○	153	0.02	○	271	21
E	9	171	141	164	180	161	207	225	211	138	161	61	178	0.07	○	186	0.14	○	162	0.00	○	313	9
ESE	33	516	569	581	584	697	557	650	791	541	552	200	634	0.14	○	597	0.04	○	622	0.10	○	1,053	51
SE	22	630	627	638	628	612	651	706	782	586	588	207	649	0.07	○	598	0.00	○	723	0.35	○	1,105	72
SSE	11	470	414	462	458	453	567	506	485	469	430	152	508	0.22	○	497	0.16	○	446	0.01	○	811	48
S	13	361	379	357	338	354	390	342	311	368	321	111	391	0.33	○	374	0.19	○	329	0.00	○	598	45
SSW	11	275	289	265	234	275	286	261	243	268	241	83	274	0.13	○	262	0.05	○	244	0.00	○	447	34
SW	15	212	272	187	209	191	199	202	177	222	189	66	183	0.01	○	244	0.57	○	187	0.00	○	355	23
WSW	27	309	302	227	243	249	286	248	256	313	246	83	261	0.03	○	273	0.09	○	230	0.03	○	453	39
W	100	777	577	621	603	660	796	674	616	700	612	194	722	0.26	○	608	0.00	○	528	0.15	○	1,098	127
WNW	134	799	777	800	828	872	917	904	832	818	768	227	763	0.00	○	783	0.00	○	750	0.01	○	1,337	199
NW	233	1,671	1,692	1,612	1,580	1,553	1,562	1,534	1,588	1,670	1,470	438	1,579	0.05	○	1,674	0.18	○	1,831	0.56	○	2,565	374
NNW	219	1,244	1,272	1,222	1,161	1,232	1,135	1,171	1,164	1,276	1,110	317	1,214	0.09	○	1,268	0.20	○	1,339	0.43	○	1,902	317
N	146	709	839	925	926	839	654	734	672	856	730	228	800	0.08	○	815	0.11	○	734	0.00	○	1,300	160
CALM	0	19	15	13	11	16	17	12	23	12	14	6	10	0.32	○	18	0.39	○	8	0.74	○	29	0

付表 8.4-14(3) 予測対象年度の選定に係る異常年検定の結果（風速）

風速 (m/s)	統計年度										平均 X	標準 偏差 S	H26年度			H27年度			H28年度			棄却限界 (5%) 上限 下限	
	出現数												出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×	出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×	出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×		
	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度													
～1.0	0	19	15	13	32	177	160	127	151	164	86	75	26	0.52	○	50	0.19	○	27	0.50	○	274	0
1.0～2.0	33	353	391	335	353	858	881	748	679	778	541	284	796	0.66	○	885	1.20	○	769	0.53	○	1,252	0
2.0～3.0	91	1,143	1,242	1,043	1,170	1,301	1,265	1,241	1,161	1,173	1,083	356	1,305	0.32	○	1,322	0.37	○	1,249	0.18	○	1,974	192
3.0～4.0	123	1,331	1,299	1,392	1,451	1,295	1,219	1,260	1,109	1,207	1,169	380	1,204	0.01	○	1,270	0.06	○	1,261	0.05	○	2,119	219
4.0～6.0	232	2,243	2,208	2,307	2,394	2,012	2,011	1,979	2,012	1,880	1,928	618	1,991	0.01	○	1,967	0.00	○	1,972	0.00	○	3,475	381
6.0～8.0	191	1,398	1,484	1,559	1,377	1,241	1,272	1,387	1,418	1,342	1,267	389	1,208	0.02	○	1,229	0.01	○	1,244	0.00	○	2,240	293
8.0～	362	2,273	2,121	2,135	1,981	1,876	1,952	2,042	2,230	2,216	1,919	562	2,099	0.08	○	1,897	0.00	○	2,125	0.11	○	3,325	513

付表 8.4-14(4) 予測対象年度の選定に係る異常年検定の結果（降水量）

降水量 (mm)	統計年度										平均 X	標準 偏差 S	H26年度			H27年度			H28年度			棄却限界 (5%) 上限 下限	
	出現数												出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×	出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×	出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×		
	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度													
～5	1,027	8,696	8,700	8,723	8,682	8,687	8,697	8,716	8,704	8,707	7,934	2,427	8,687	0.08	○	8,720	0.09	○	8,700	0.08	○	14,005	1,863
5～10	2	35	49	44	60	52	40	51	37	37	41	16	53	0.50	○	48	0.17	○	42	0.01	○	80	1
10～20	0	9	11	14	17	14	19	12	18	14	13	5	19	1.05	○	13	0.00	○	16	0.28	○	26	0
20～30	0	0	0	3	1	5	4	5	1	2	2	2	1	0.24	○	3	0.16	○	2	0.00	○	7	0
30～	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0.08	○	0	0.08	○	0	0.08	○	2	0

付表 8.4-14(5) 予測対象年度の選定に係る異常年検定の結果（日射量）

日射量 (MJ/m ²)	統計年度										平均 X	標準 偏差 S	H26年度			H27年度			H28年度			棄却限界 (5%) 上限 下限	
	出現数												出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×	出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×	出現数	検定量 F ₀	判定 採択:○ 棄却:×		
	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度													
～50	2,247	2,236	2,316	2,232	5,120	5,867	5,742	5,901	5,764	5,721	4,315	1,783	5,784	0.56	○	5,844	0.60	○	5,762	0.54	○	8,775	0
50～100	744	736	778	733	752	752	780	780	757	728	754	20	785	2.03	○	783	1.78	○	835	13.86	×	803	705
100～150	607	635	578	595	596	578	629	626	644	625	611	24	622	0.17	○	583	1.16	○	583	1.16	○	671	552
150～200	548	562	551	541	571	545	551	560	572	587	559	14	519	6.22	×	537	1.87	○	553	0.13	○	595	523
200～250	468	493	464	519	493	460	492	431	499	487	481	25	481	0.00	○	463	0.41	○	477	0.02	○	543	418
250～	544	502	476	553	517	557	559	485	523	612	533	41	568	0.61	○	574	0.84	○	547	0.10	○	635	431

付表 8.4-14(6) 予測対象年度の選定に係る異常年検定の結果（河川流量：H26 年度）

河川名	流量 (m³/s)	統計年度										平均 X	標準 偏差 S	H26 年度			棄却限界(5%)	
		出現数												出現数	検定量 F₀	判定 採択：○ 棄却：×		
		H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度						上限	下限
木曾川	～150	-	-	-	4,436	4,215	3,212	2,354	2,477	3,215	3,647	3,365	2,509	4,116	0.07	○	9,921	0
	150～300	-	-	-	3,104	2,510	2,867	3,361	3,052	3,618	3,067	3,083	2,208	3,388	0.01	○	8,852	0
	300～450	-	-	-	680	1,316	929	1,383	1,517	1,117	1,029	1,139	855	742	0.16	○	3,374	0
	450～600	-	-	-	238	415	609	599	717	415	378	482	379	228	0.34	○	1,471	0
	600～750	-	-	-	95	85	397	327	247	121	243	216	195	88	0.33	○	726	0
	750～	-	-	-	231	219	746	736	774	274	396	482	428	198	0.33	○	1,601	0
揖斐川	～50	3,566	5,459	6,042	7,299	5,024	5,463	4,002	3,644	3,126	4,188	4,781	1,307	3,556	0.72	○	8,052	1,511
	50～100	2,616	1,338	1,077	937	2,568	1,682	2,419	2,357	3,160	3,142	2,130	817	3,243	1.52	○	4,173	86
	100～150	993	932	408	248	597	800	1,266	1,128	1,220	757	835	341	1,197	0.92	○	1,687	0
	150～200	435	577	362	126	229	495	427	585	441	247	392	152	273	0.51	○	772	13
	200～250	157	202	288	41	132	162	212	317	400	103	201	108	146	0.22	○	471	0
	250～	574	224	583	133	210	158	434	753	413	323	381	208	345	0.02	○	900	0
長良川	～50	1,955	4,415	4,008	4,342	3,119	3,491	2,502	2,596	2,334	3,030	3,179	863	2,052	1.40	○	5,338	1,021
	50～100	2,326	1,922	2,364	2,574	3,121	2,545	3,049	2,909	3,712	3,240	2,776	527	3,097	0.30	○	4,094	1,458
	100～150	1,189	1,309	1,062	969	1,206	728	1,253	1,126	1,260	1,125	1,123	172	1,820	13.51	×	1,552	693
	150～200	794	420	498	327	658	680	653	804	572	510	592	155	702	0.41	○	980	203
	200～250	441	189	208	157	272	404	385	361	302	248	297	98	322	0.05	○	542	52
	250～	1,386	505	620	415	384	774	918	988	580	588	716	308	643	0.05	○	1,488	0
庄内川	～10	594	3,391	1,464	-	2,478	1,349	108	66	343	1,468	1,251	1,210	400	0.40	○	4,313	0
	10～20	4,616	4,013	3,099	-	3,412	4,374	5,200	4,310	5,702	4,576	4,367	1,743	5,037	0.12	○	8,776	0
	20～30	1,360	635	1,002	-	1,232	1,083	1,396	2,162	1,404	1,221	1,277	611	1,632	0.27	○	2,822	0
	30～40	638	247	391	-	713	573	632	767	487	544	555	254	607	0.03	○	1,198	0
	40～50	357	122	168	-	266	321	329	444	297	264	285	140	324	0.06	○	639	0
	50～	1,195	352	500	-	659	1,060	1,095	1,035	527	687	790	416	760	0.00	○	1,843	0

注：「-」はデータが公表されていないため対象外を示す。

付表 8.4-14(7) 予測対象年度の選定に係る異常年検定の結果 (河川流量 : H26 年度)

河川名	流量 (m ³ /s)	統計年度										平均	標準偏差	H26 年度			棄却限界(5%)	
		出現数												出現数	検定量 F ₀	判定 採択 : ○ 棄却 : ×		
		H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	X	S				上限	下限
鈴鹿川	～5	4,148	7,604	4,970	4,688	3,137	4,703	5,019	3,864	3,862	6,360	4,836	1,305	4,646	0.02	○	8,100	1,571
	5～10	1,990	734	2,220	1,137	1,570	1,808	2,049	2,432	2,493	1,766	1,820	556	2,340	0.72	○	3,210	430
	10～15	831	159	594	416	806	689	762	848	985	287	638	269	766	0.19	○	1,311	0
	15～20	435	69	290	217	620	363	313	463	433	80	328	173	332	0.00	○	761	0
	20～25	328	37	148	147	274	217	119	376	249	38	193	115	168	0.04	○	482	0
	25～	907	157	538	298	985	514	498	801	738	229	567	286	281	0.81	○	1,283	0
雲出川	～5	3,882	5,325	3,075	5,495	3,205	3,840	3,834	3,472	3,814	5,364	4,131	916	4,123	0.00	○	6,422	1,840
	5～10	2,015	2,292	3,207	2,002	2,441	3,110	2,730	2,209	2,463	2,228	2,470	422	2,409	0.02	○	3,526	1,413
	10～15	849	523	1,177	609	1,226	920	913	1,093	773	371	845	282	880	0.01	○	1,551	140
	15～20	467	203	472	198	622	384	419	632	473	191	406	164	496	0.25	○	816	0
	20～25	304	67	253	99	299	161	260	306	381	55	219	115	238	0.02	○	505	0
	25～	1,243	350	575	381	967	345	604	1,072	856	551	694	321	614	0.05	○	1,497	0
榑田川	～10	5,563	7,092	4,566	6,253	4,342	4,624	4,933	4,921	4,830	6,695	5,382	971	5,214	0.02	○	7,810	2,954
	10～20	1,384	1,109	2,569	1,441	2,326	2,511	1,926	1,828	2,653	1,189	1,894	595	1,963	0.01	○	3,381	406
	20～30	567	274	875	379	700	754	947	479	322	150	545	269	491	0.03	○	1,217	0
	30～40	324	69	233	163	355	307	430	342	216	113	255	116	265	0.01	○	545	0
	40～50	162	40	155	115	223	120	137	199	110	68	133	55	212	1.66	○	272	0
	50～	760	176	338	433	814	444	387	1,015	629	545	554	252	615	0.05	○	1,185	0
宮川	～20	4,312	5,749	4,627	5,977	3,679	4,457	4,496	1,500	5,430	5,680	4,591	1,318	4,826	0.03	○	7,889	1,293
	20～40	1,571	1,619	1,814	1,302	2,152	2,045	1,969	359	1,197	1,700	1,573	525	2,503	2.57	○	2,886	260
	40～60	896	481	695	478	867	735	664	134	408	464	582	233	581	0.00	○	1,165	0
	60～80	484	249	648	249	555	441	606	155	255	208	385	182	180	1.04	○	840	0
	80～100	275	69	317	160	438	255	309	132	92	160	221	117	147	0.32	○	513	0
	100～	1,222	221	659	560	1,069	827	716	934	394	548	715	306	523	0.32	○	1,482	0

付表 8.4-14(8) 予測対象年度の選定に係る異常年検定の結果（河川流量：H27年度）

河川名	流量 (m³/s)	統計年度										平均	標準偏差	H27年度		棄却限界(5%)		
		出現数												出現数	検定量			判定
		H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	X	S			F ₀	採択：○ 棄却：×	
木曾川	～150	-	-	-	2,805	3,244	2,460	914	1,290	2,568	2,475	2,251	1,798	3,225	0.22	○	6,949	0
	150～300	-	-	-	2,674	1,902	2,347	2,823	2,467	2,407	2,602	2,460	1,765	2,268	0.01	○	7,071	0
	300～450	-	-	-	583	943	631	1,242	1,289	898	688	896	695	656	0.09	○	2,712	0
	450～600	-	-	-	212	292	359	569	631	368	296	390	315	201	0.27	○	1,214	0
	600～750	-	-	-	95	58	232	320	216	101	214	177	156	76	0.31	○	585	0
	750～	-	-	-	231	161	571	732	707	258	325	426	384	174	0.32	○	1,430	0
揖斐川	～50	2,337	4,670	4,158	5,458	4,367	4,650	3,031	2,519	2,723	3,140	3,705	1,083	3,486	0.03	○	6,415	996
	50～100	2,221	922	844	634	1,533	1,119	1,580	1,834	1,980	2,267	1,493	588	2,024	0.67	○	2,965	21
	100～150	913	529	380	225	252	360	1,031	914	760	582	595	295	563	0.01	○	1,331	0
	150～200	391	267	355	119	164	267	359	447	363	226	296	105	158	1.41	○	558	33
	200～250	157	67	283	37	109	102	183	239	368	101	165	104	109	0.23	○	426	0
	250～	574	117	580	127	175	102	416	647	406	284	343	210	260	0.13	○	869	0
長良川	～50	961	3,893	2,867	3,122	2,393	3,218	1,166	1,538	1,993	2,151	2,330	952	1,864	0.20	○	4,711	0
	50～100	2,081	1,277	1,638	2,006	2,449	1,619	2,453	2,379	2,331	2,502	2,074	430	2,284	0.20	○	3,149	998
	100～150	1,119	642	892	691	824	514	1,147	849	930	791	840	198	1,042	0.85	○	1,336	344
	150～200	688	270	450	257	470	431	588	662	497	429	474	144	487	0.01	○	836	113
	200～250	403	125	181	135	202	258	355	301	283	210	245	92	245	0.00	○	474	16
	250～	1,348	393	572	389	262	560	891	871	566	510	636	319	554	0.05	○	1,435	0
庄内川	～10	577	2,749	1,464	-	1,719	1,170	40	4	326	1,299	1,039	970	396	0.35	○	3,492	0
	10～20	2,811	2,965	3,075	-	2,506	3,294	3,374	3,063	4,039	3,388	3,168	1,201	3,609	0.11	○	6,205	131
	20～30	1,167	365	1,002	-	954	843	1,233	1,662	1,114	772	1,012	505	1,175	0.08	○	2,290	0
	30～40	577	150	391	-	637	361	595	622	385	422	460	229	499	0.02	○	1,039	0
	40～50	329	89	168	-	229	219	310	343	258	207	239	118	272	0.06	○	537	0
	50～	1,139	282	500	-	555	713	1,048	906	478	512	681	377	649	0.01	○	1,636	0

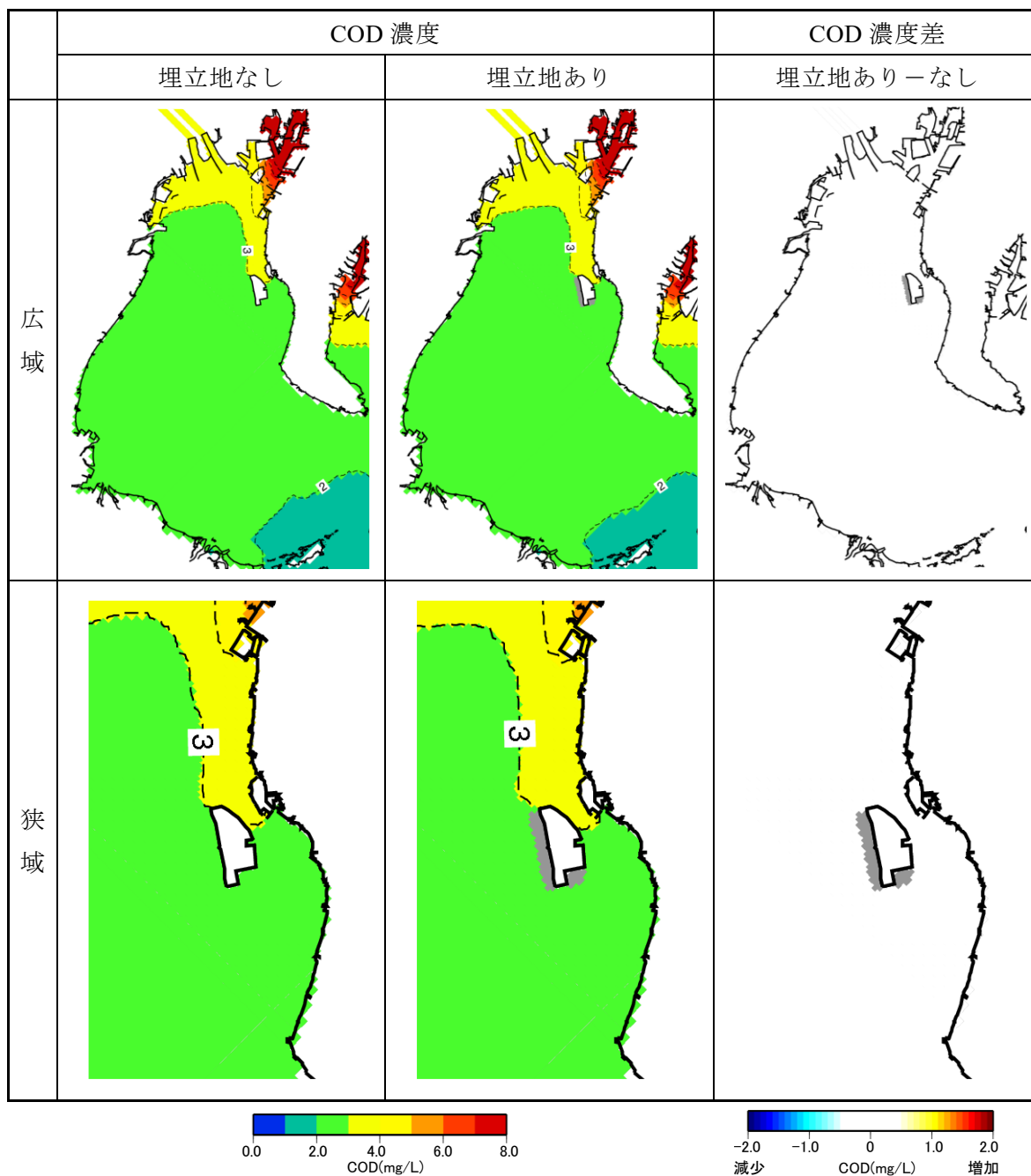
注：1. 「-」はデータが公表されていないため対象外を示す。

2. 平成27年度は、異常年検定の実施時に平成28年1～3月のデータが公表されていなかったため、統計年度との比較は、各年度の4～12月のデータを用いた。

付表 8.4-14(9) 予測対象年度の選定に係る異常年検定の結果（河川流量：H27年度）

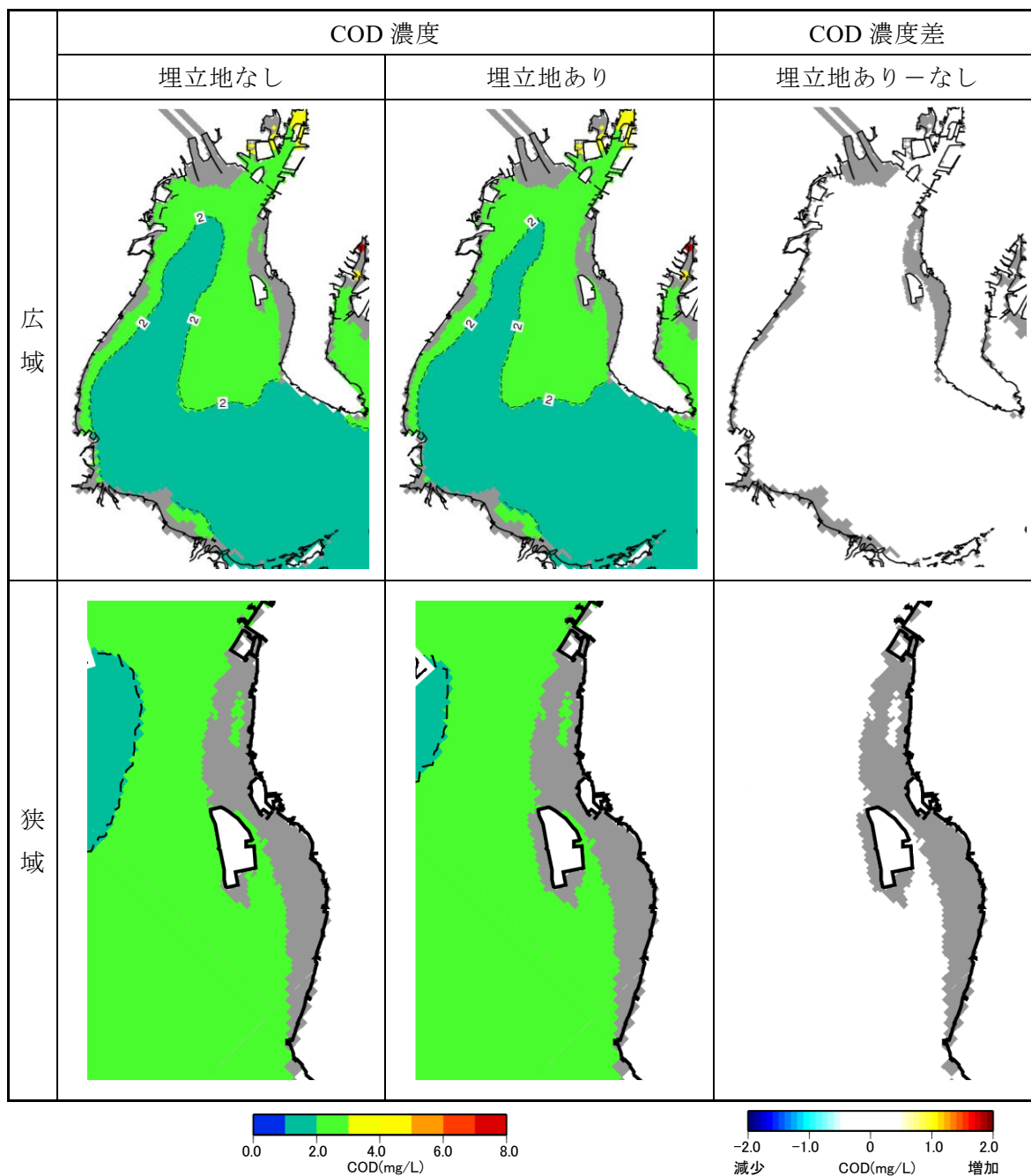
河川名	流量 (m³/s)	統計年度										平均	標準偏差	H27年度		棄却限界(5%)		
		出現数												出現数	検定量 F₀			判定 採択：○ 棄却：×
		H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	X	S			上限	下限	
鈴鹿川	～5	2,374	5,770	3,529	3,955	2,109	3,625	3,335	2,652	2,854	4,360	3,456	1,078	3,385	0.00	○	6,154	759
	5～10	1,658	515	1,552	1,116	806	1,132	1,845	1,803	1,581	1,628	1,364	448	1,656	0.35	○	2,485	242
	10～15	792	105	557	416	602	478	585	673	769	268	525	216	641	0.24	○	1,065	0
	15～20	421	49	285	217	558	280	250	396	413	77	295	158	295	0.00	○	691	0
	20～25	327	26	144	147	246	172	94	345	245	38	178	111	145	0.07	○	456	0
	25～	907	135	533	298	911	447	491	731	738	229	542	275	251	0.92	○	1,229	0
雲出川	～5	2,029	3,851	1,366	3,747	2,109	2,484	1,735	2,340	1,857	3,773	2,529	924	3,075	0.29	○	4,840	219
	5～10	1,708	1,683	2,786	1,678	1,657	2,676	2,680	1,532	2,294	1,695	2,039	509	1,610	0.58	○	3,311	767
	10～15	849	471	1,162	549	1,044	709	902	922	750	335	769	260	685	0.09	○	1,419	120
	15～20	467	198	466	183	592	283	419	534	465	191	380	153	401	0.02	○	761	0
	20～25	304	64	248	95	277	122	260	278	379	55	208	114	215	0.00	○	493	0
	25～	1,243	333	571	348	921	326	604	994	855	551	675	315	614	0.03	○	1,463	0
榑田川	～10	3,438	5,189	2,483	4,414	2,387	3,145	2,787	3,032	2,712	4,924	3,451	1,024	3,671	0.04	○	6,014	889
	10～20	1,349	891	2,516	1,235	2,207	1,946	1,912	1,627	2,611	804	1,710	638	1,494	0.09	○	3,305	115
	20～30	567	256	875	302	667	673	947	440	322	146	520	270	396	0.17	○	1,196	0
	30～40	324	63	233	141	336	290	430	315	216	113	246	115	232	0.01	○	533	0
	40～50	162	37	155	110	216	115	137	171	110	68	128	52	205	1.80	○	258	0
	50～	760	164	338	398	787	431	387	1,015	629	545	545	254	602	0.04	○	1,181	0
宮川	～20	2,515	4,247	2,534	4,228	2,638	3,052	2,360	1,500	3,373	4,044	3,049	914	3,345	0.09	○	5,335	763
	20～40	1,208	1,152	1,752	1,148	1,466	1,697	1,950	359	1,115	1,355	1,320	445	1,921	1.49	○	2,434	206
	40～60	896	417	690	406	720	595	659	134	387	394	530	221	507	0.01	○	1,083	0
	60～80	484	175	648	184	455	293	606	155	255	148	340	192	167	0.67	○	821	0
	80～100	275	47	317	133	386	201	309	132	92	131	202	113	141	0.24	○	485	0
	100～	1,222	190	659	474	935	762	716	934	394	528	681	302	519	0.24	○	1,436	0

注：平成27年度は、異常年検定の実施時に平成28年1～3月のデータが公表されていなかったため、統計年度との比較は、各年度の4～12月のデータを用いた。



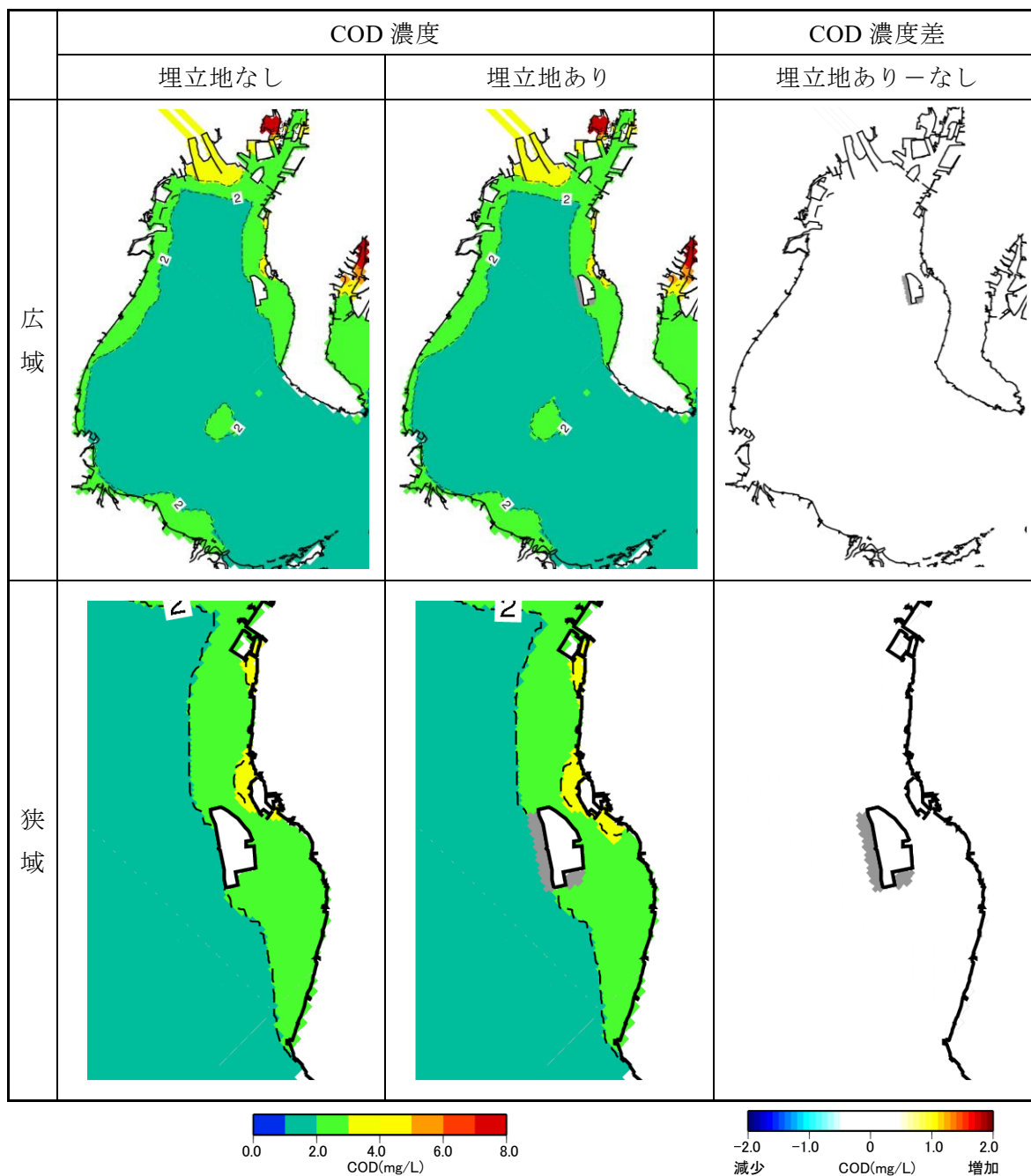
付図 8.4-40(1) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果
(春季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 5 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



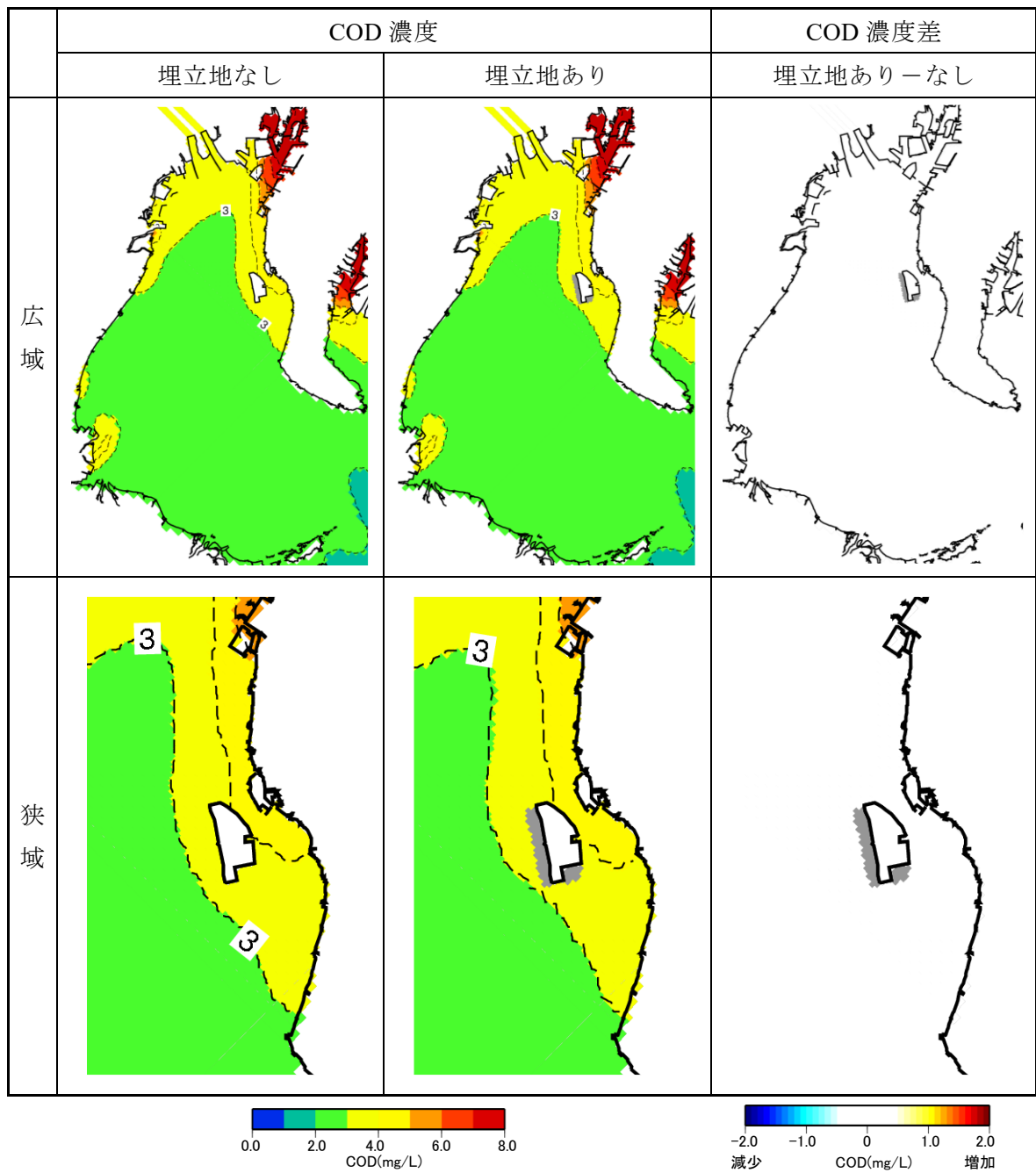
付図 8.4-40(2) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果
(春季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 5 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



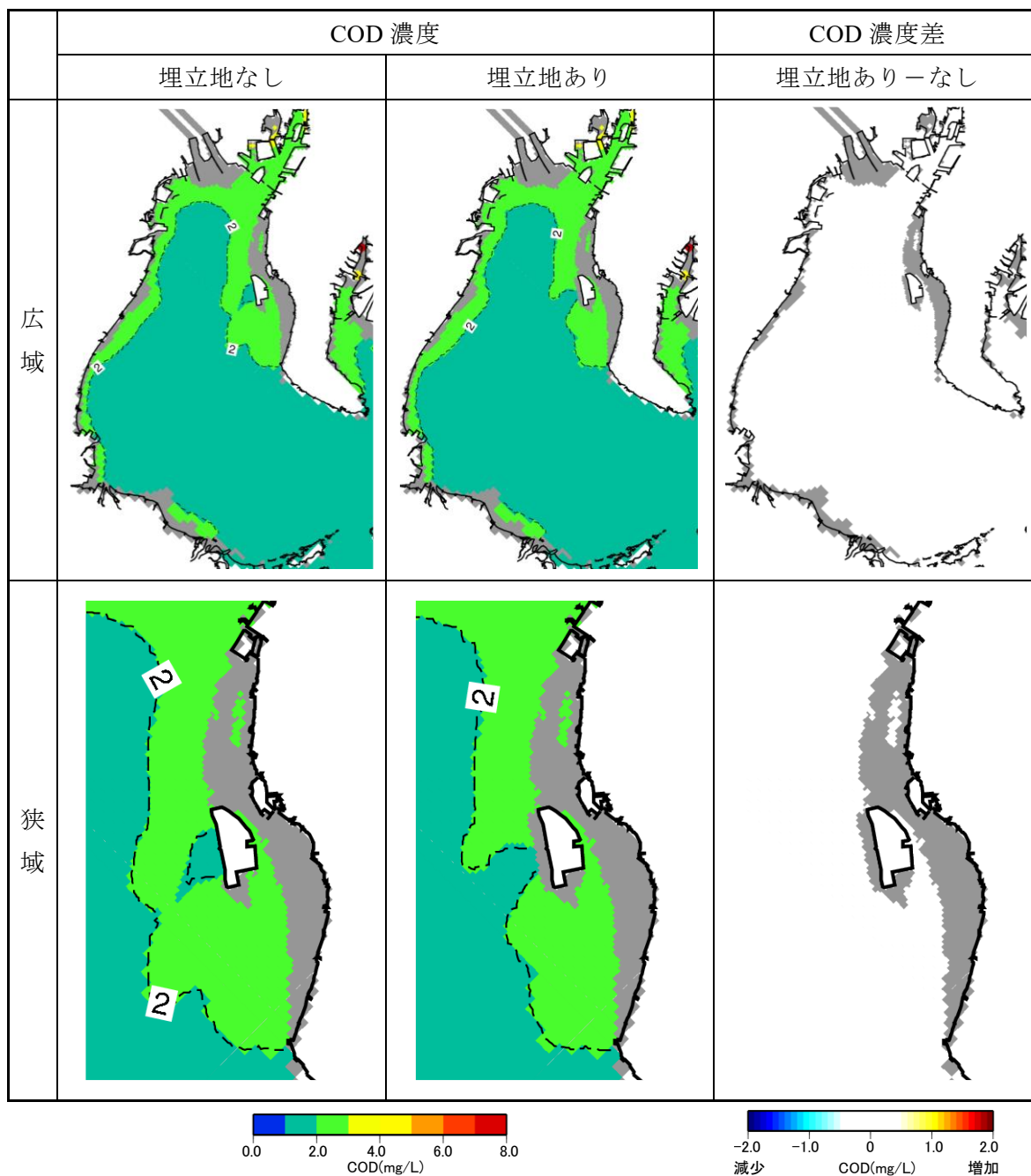
付図 8.4-40(3) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果
(春季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の5月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



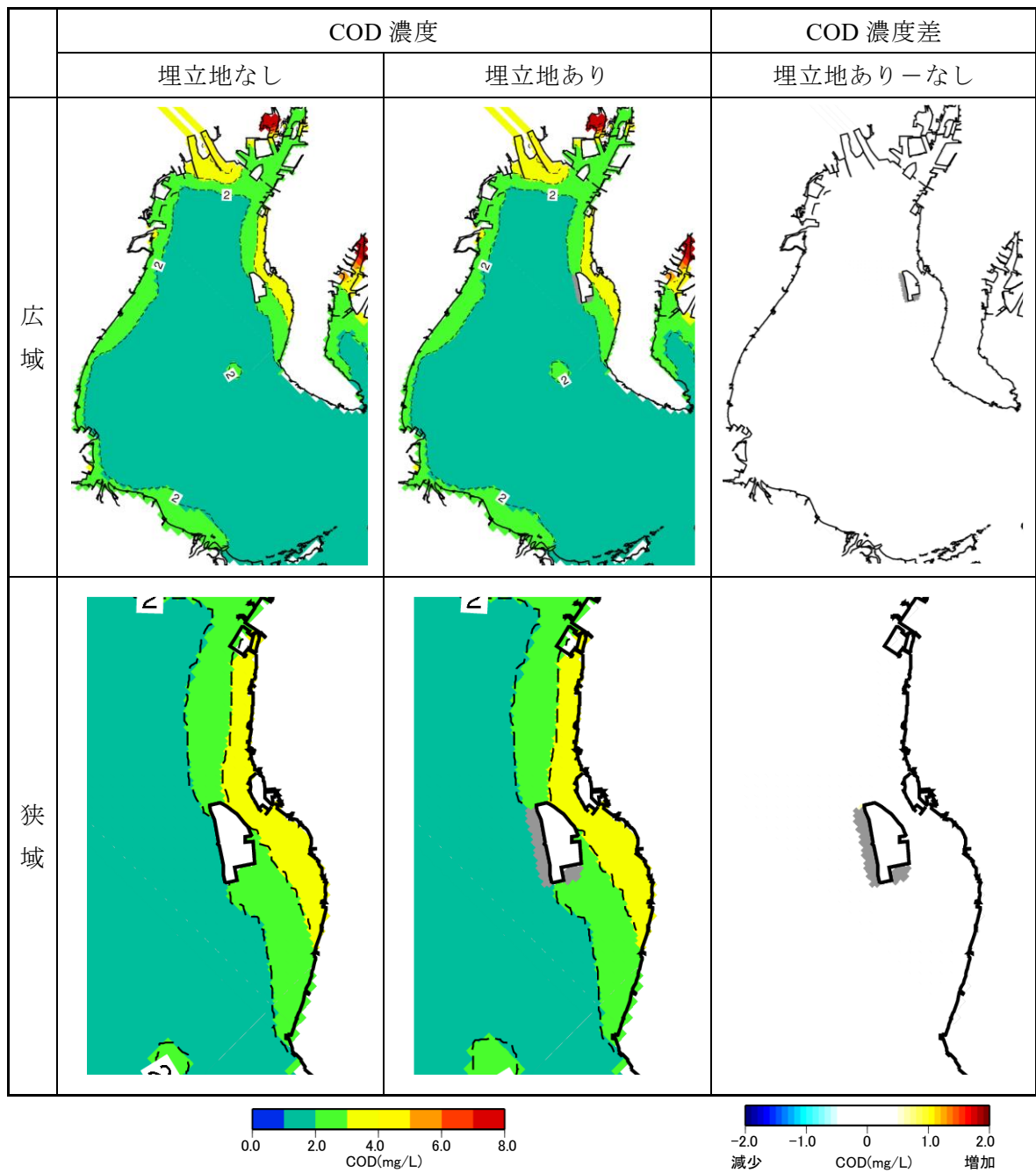
付図 8.4-40(4) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果
(夏季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 8 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



付図 8.4-40(5) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果
(夏季・中層)

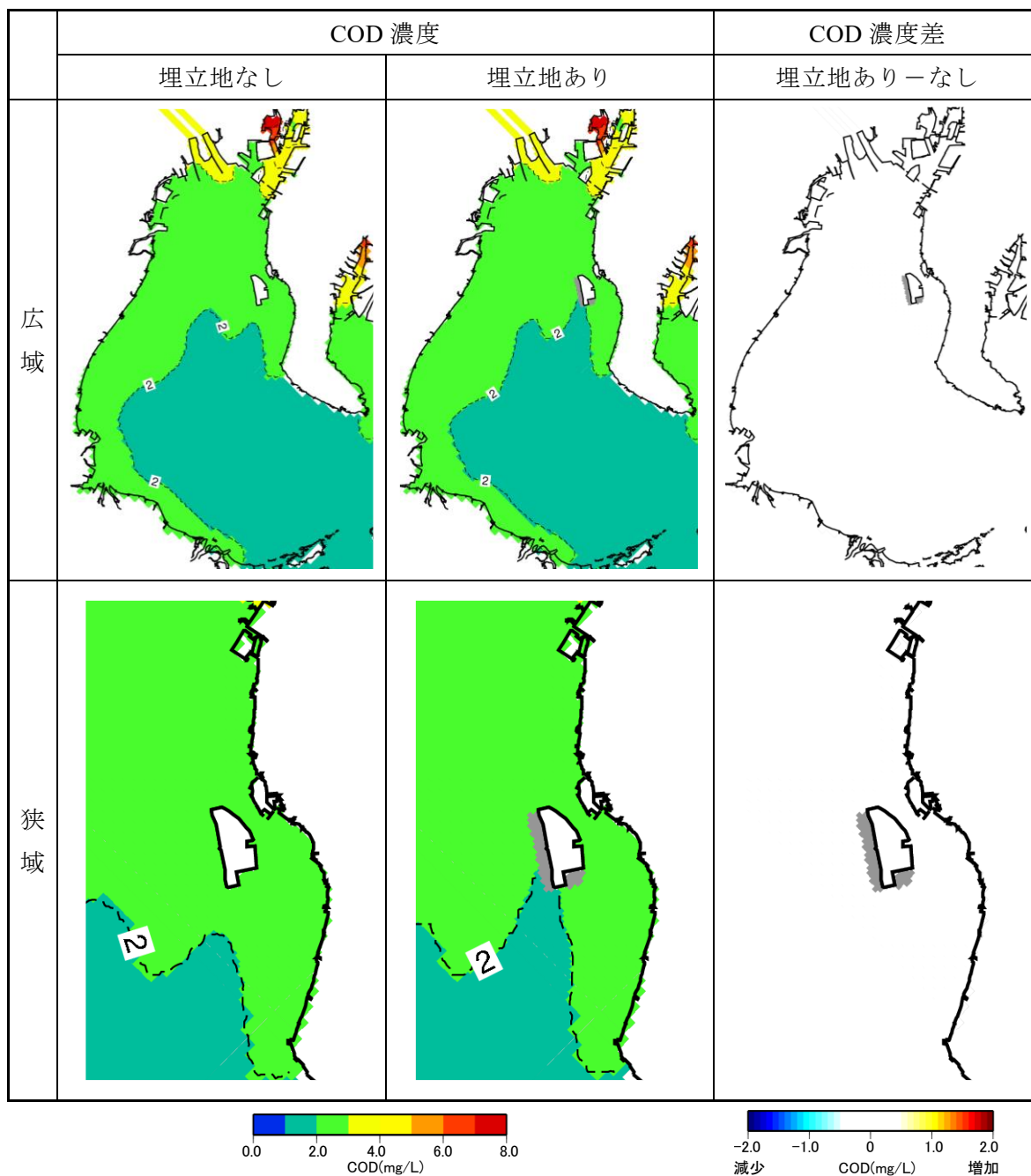
- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 8 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



付図 8.4-40(6) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果

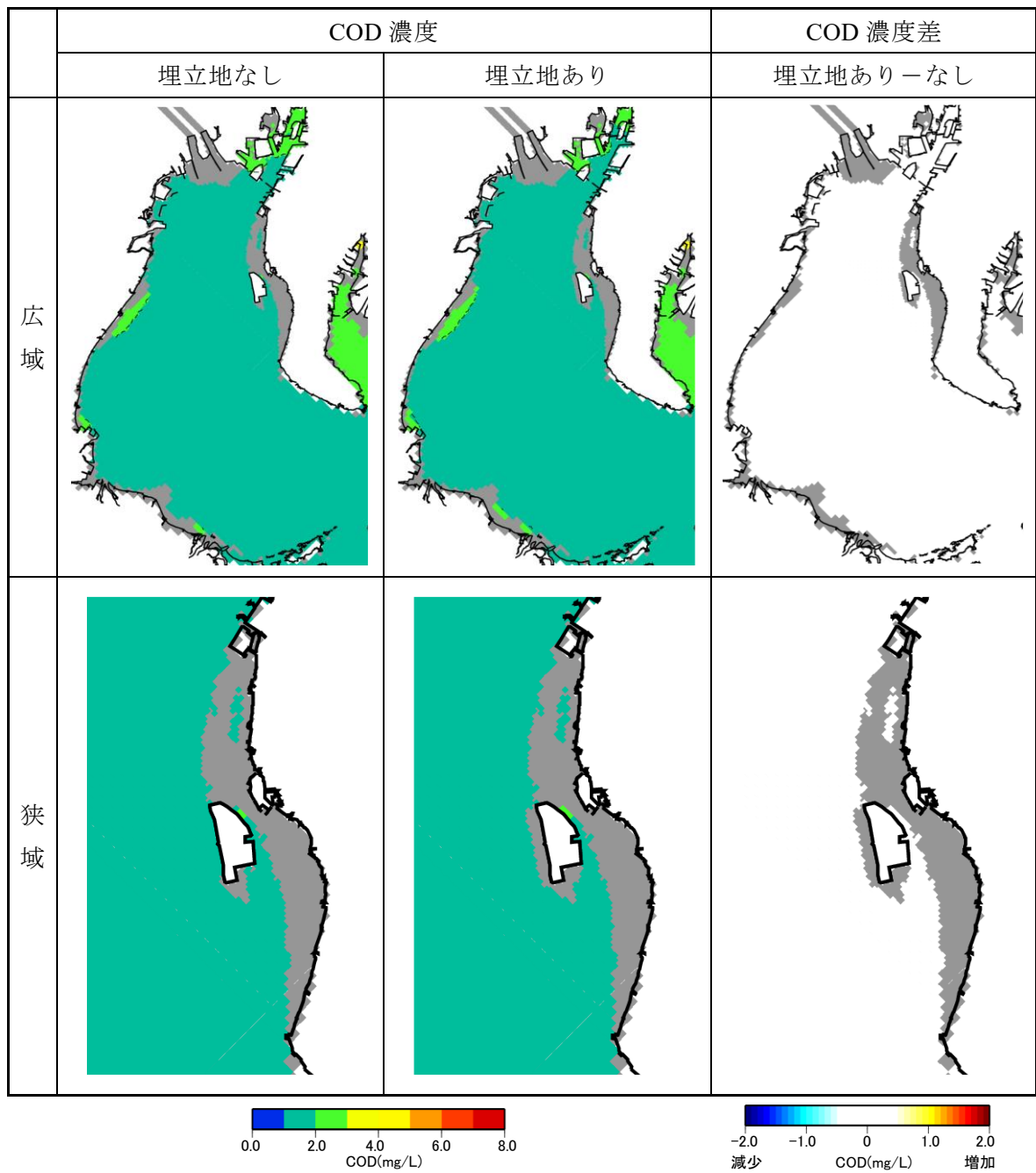
(夏季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の8月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



付図 8.4-40(7) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果
(秋季・上層)

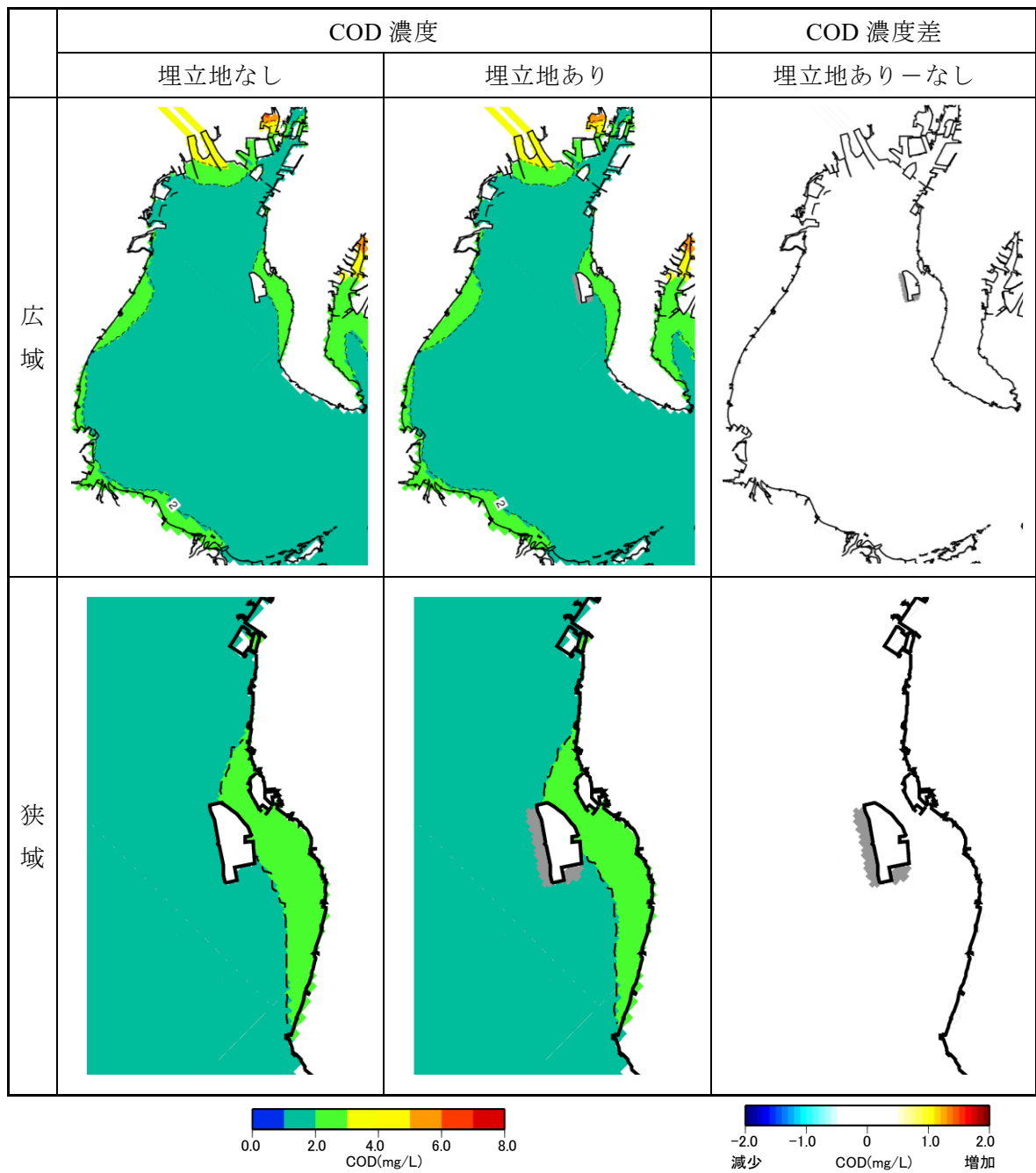
- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 11 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



付図 8.4-40(8) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果

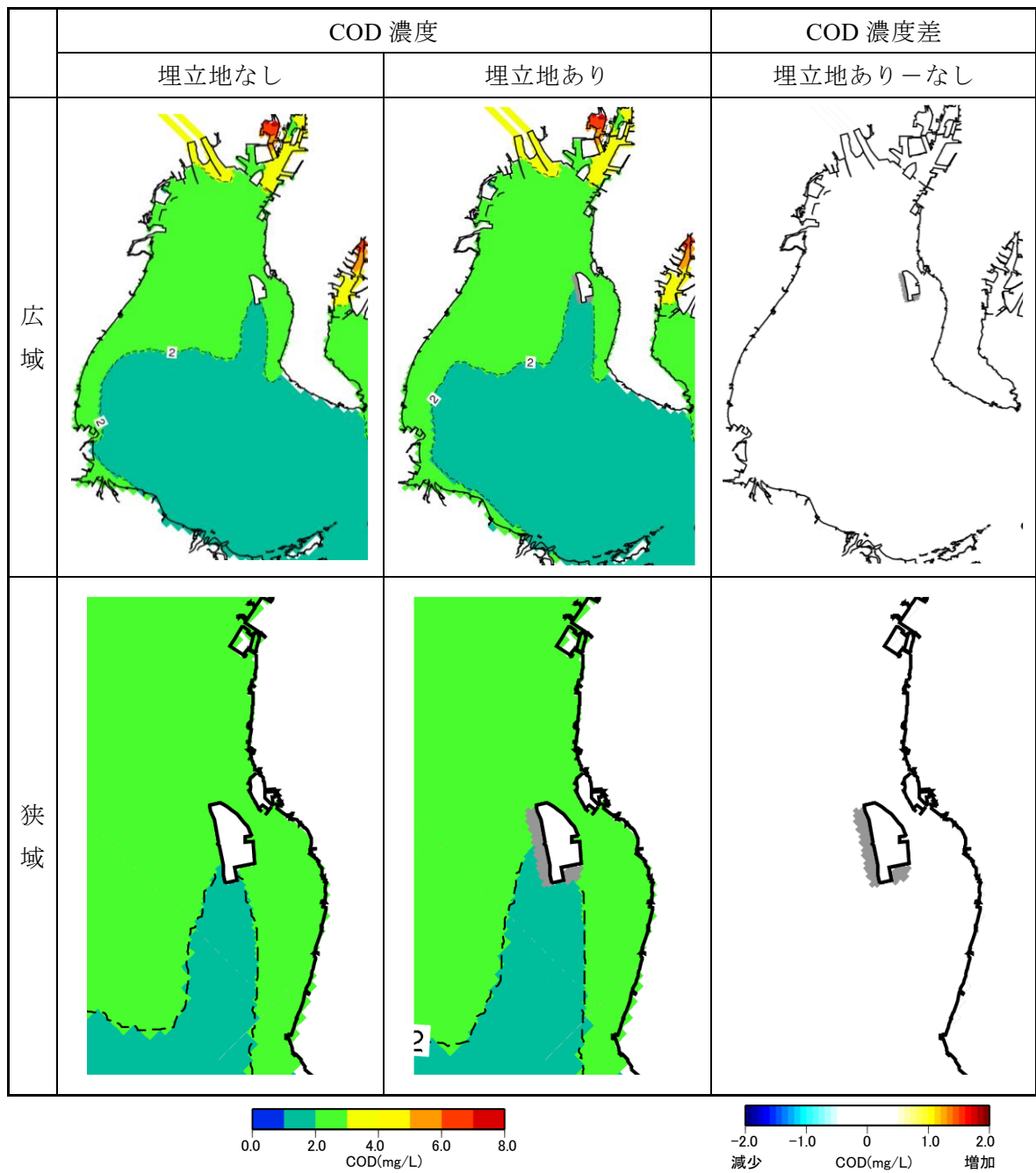
(秋季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 11 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



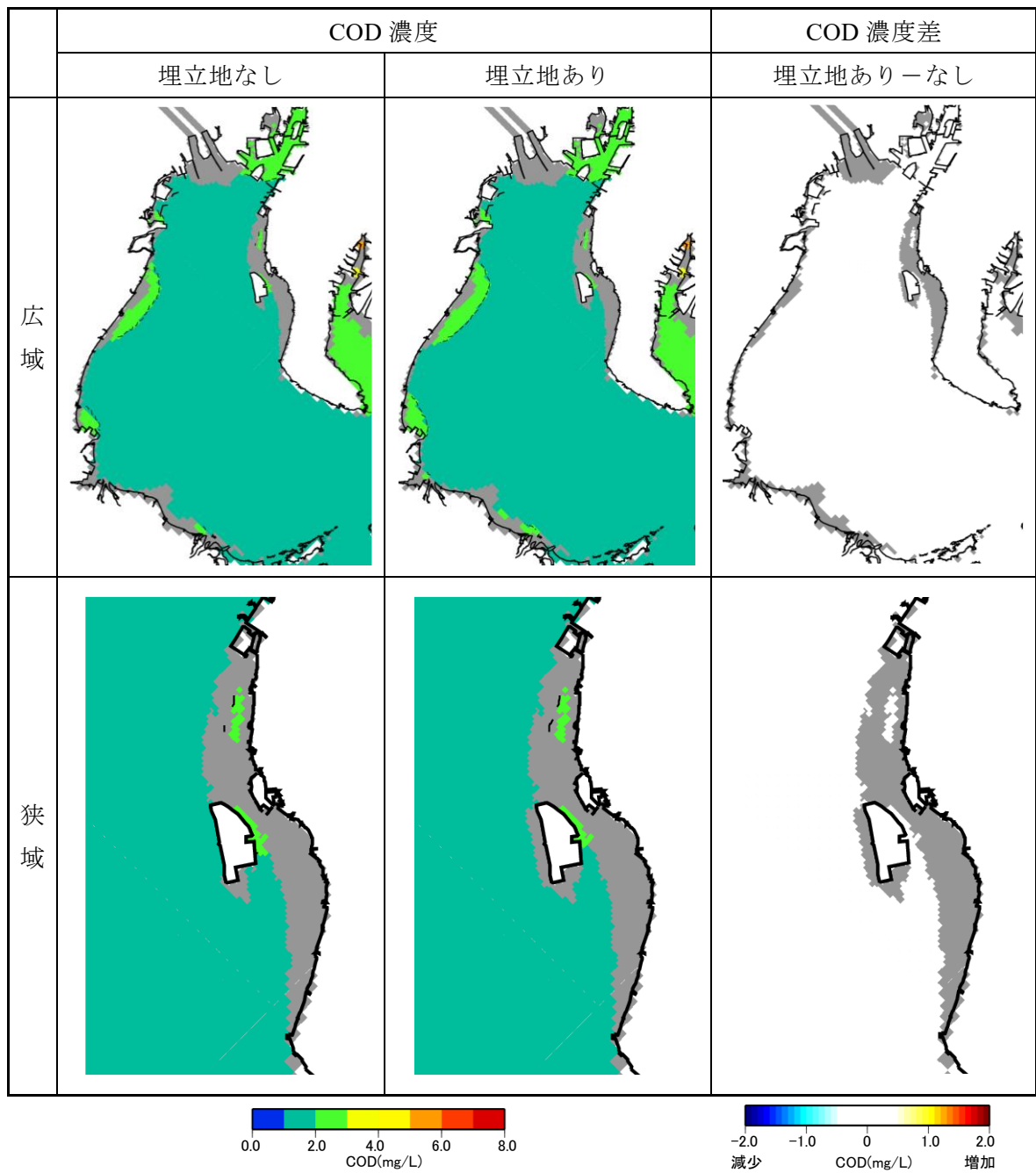
付図 8.4-40(9) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果
(秋季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の11月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



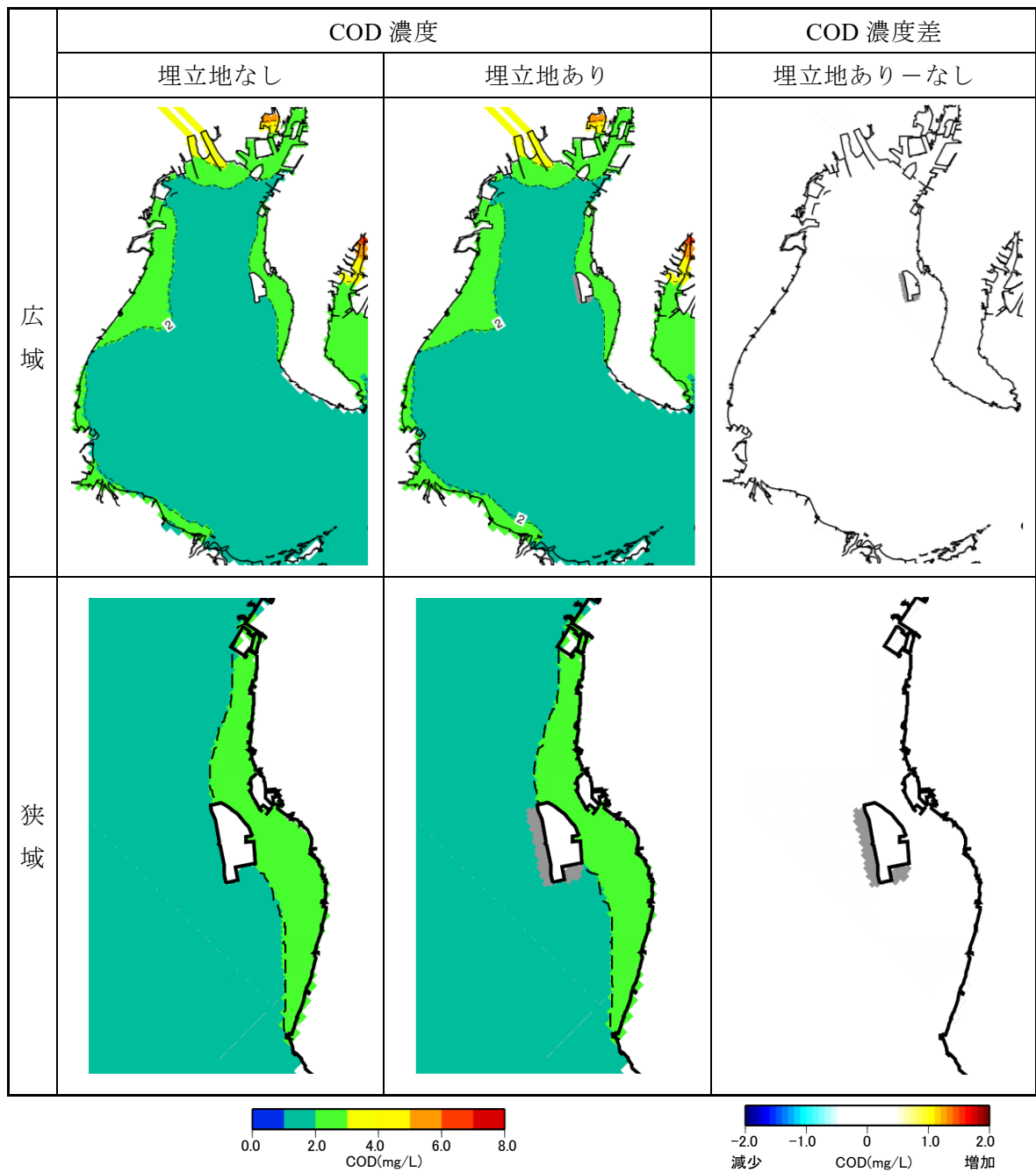
付図 8. 4-40(10) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果
(冬季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 2 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



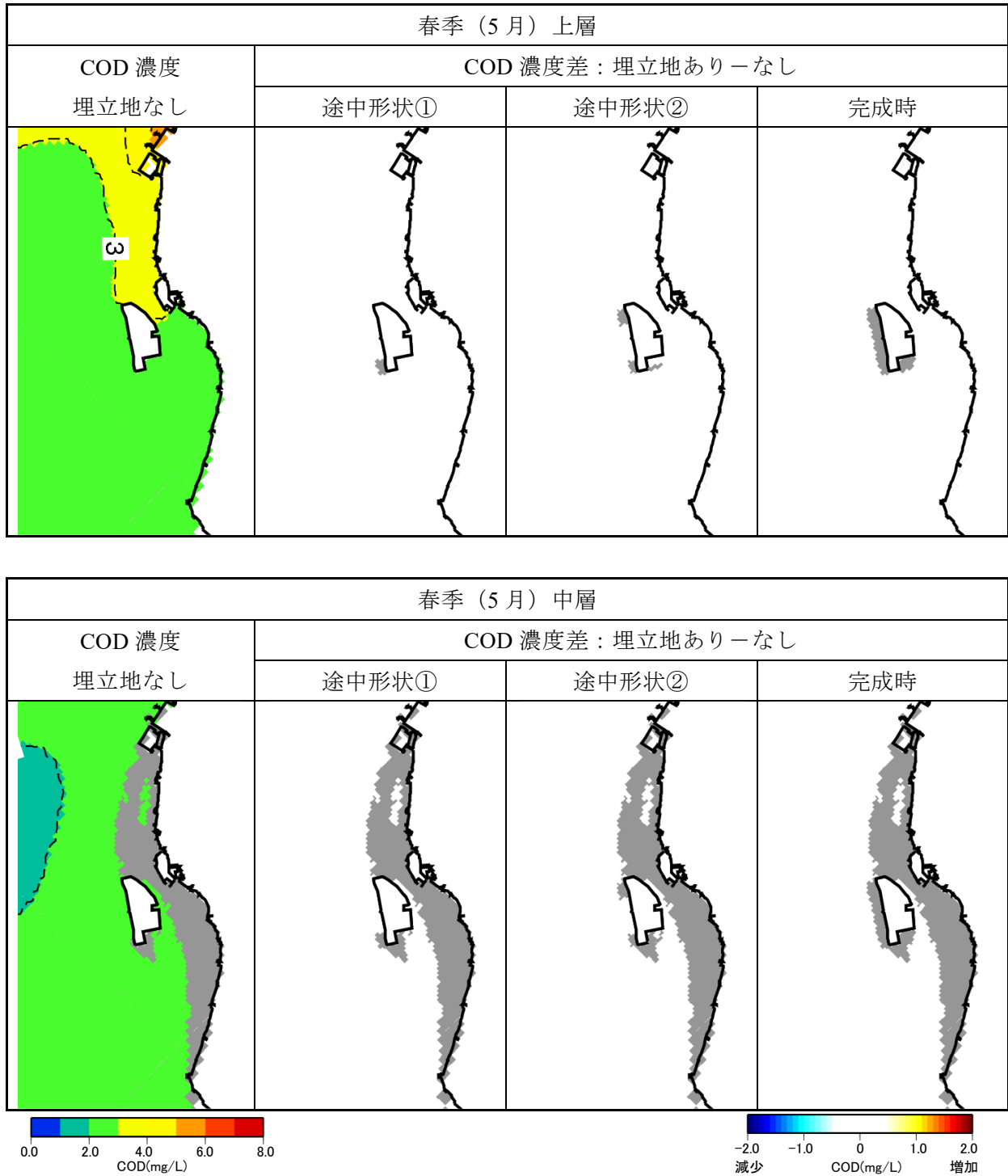
付図 8. 4-40(11) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果
(冬季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 2 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



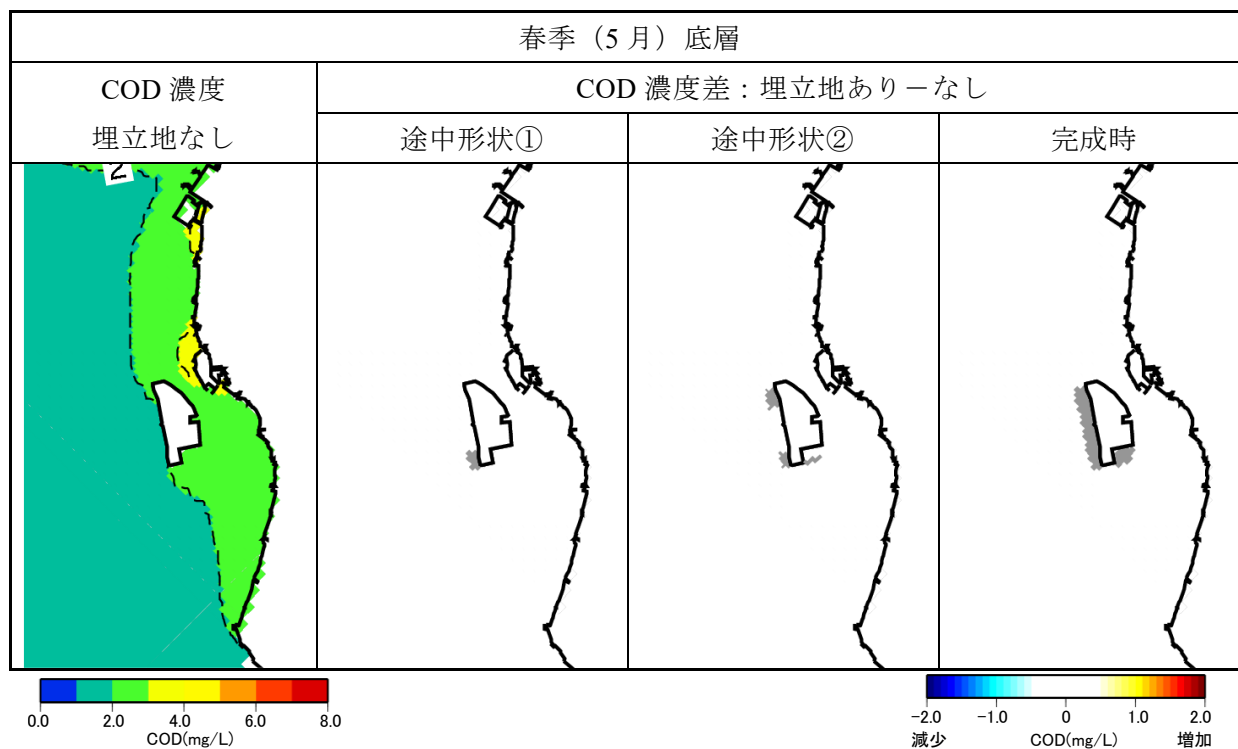
付図 8.4-40(12) 埋立地あり及びなしの場合における化学的酸素要求量の予測結果
(冬季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の2月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



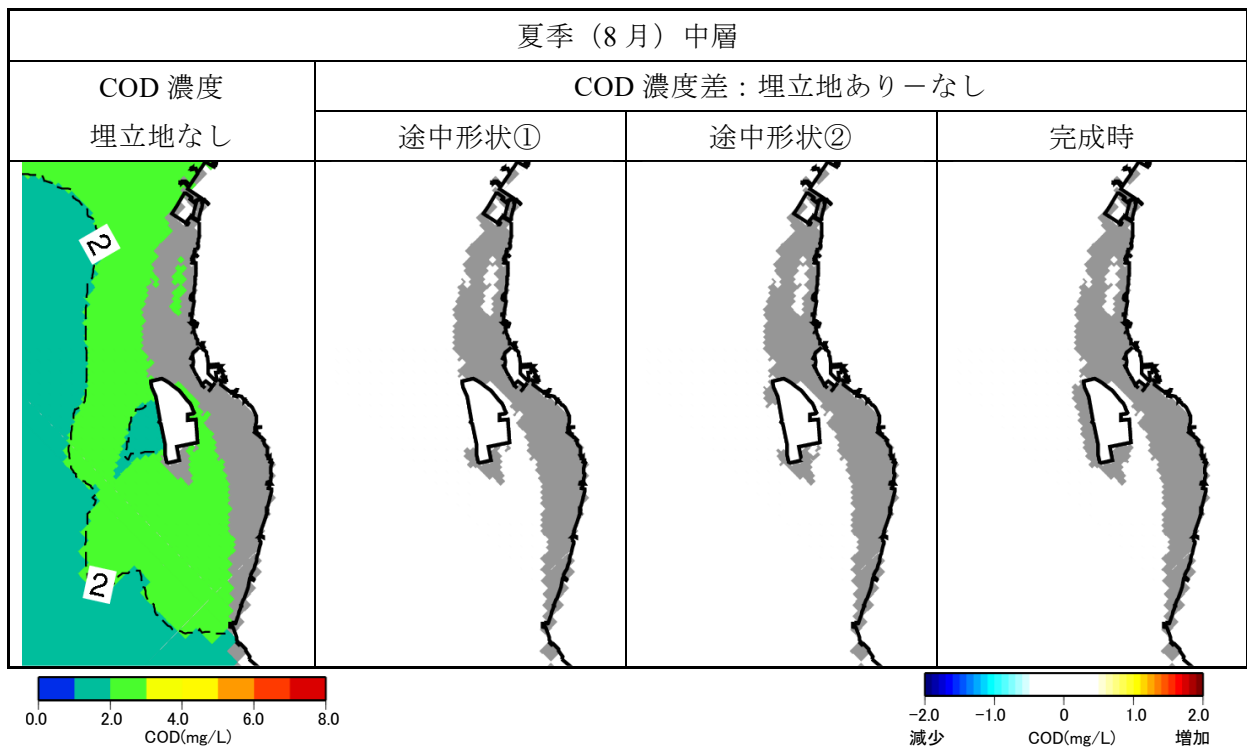
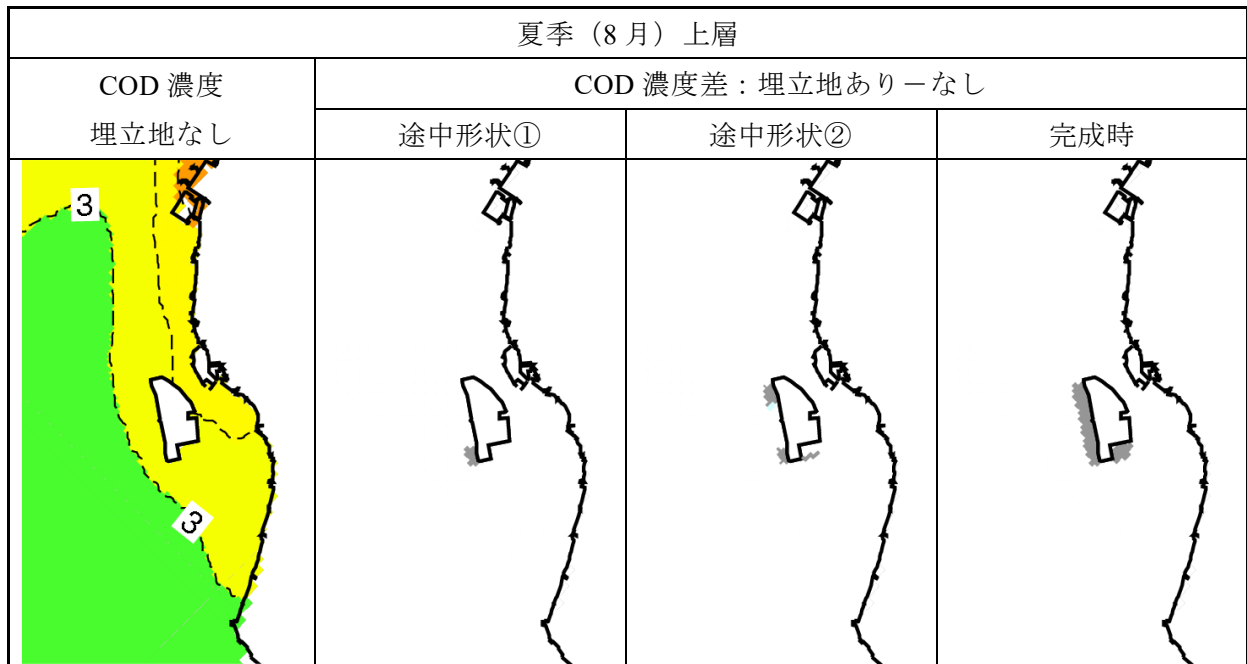
付図 8.4-41(1) 埋立ての途中形状及び完成時における化学的酸素要求量の予測結果
(春季)

- 注：1. 上図は上層（水深 0～0.5m）、下図は中層（水深 7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



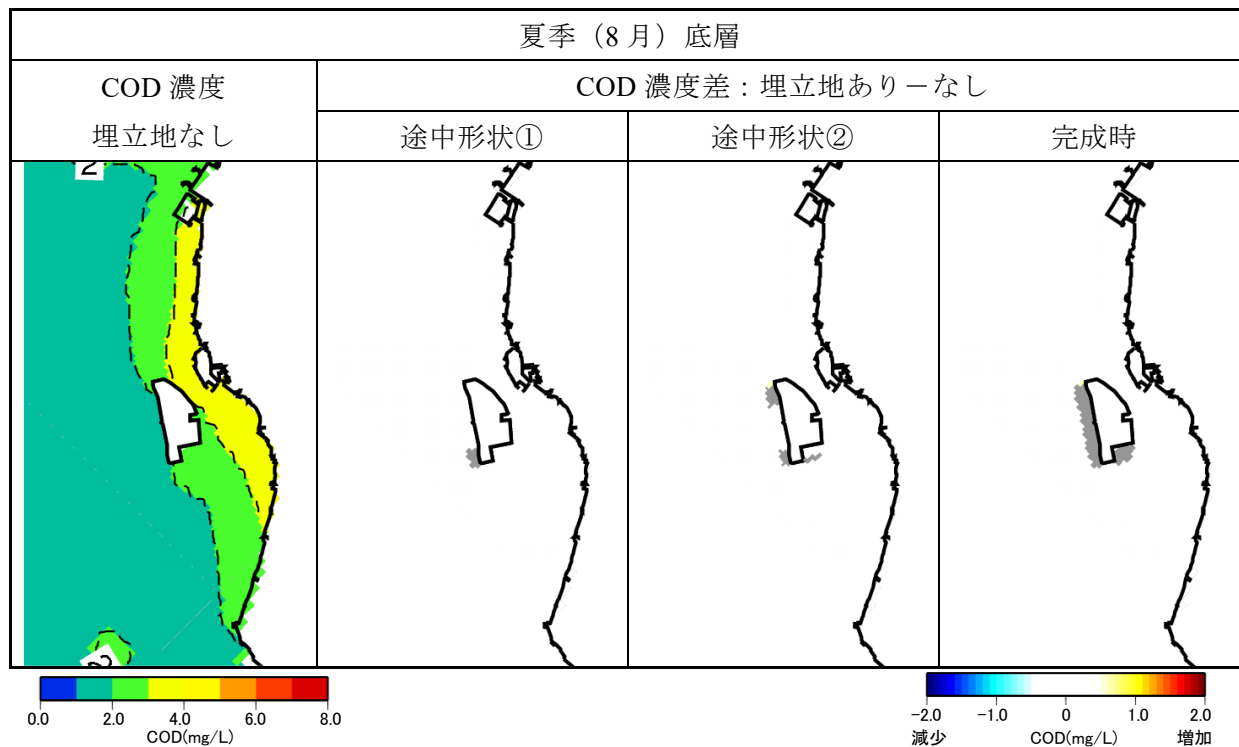
付図 8. 4-41 (2) 埋立ての途中形状及び完成時における化学的酸素要求量の予測結果
(春季)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



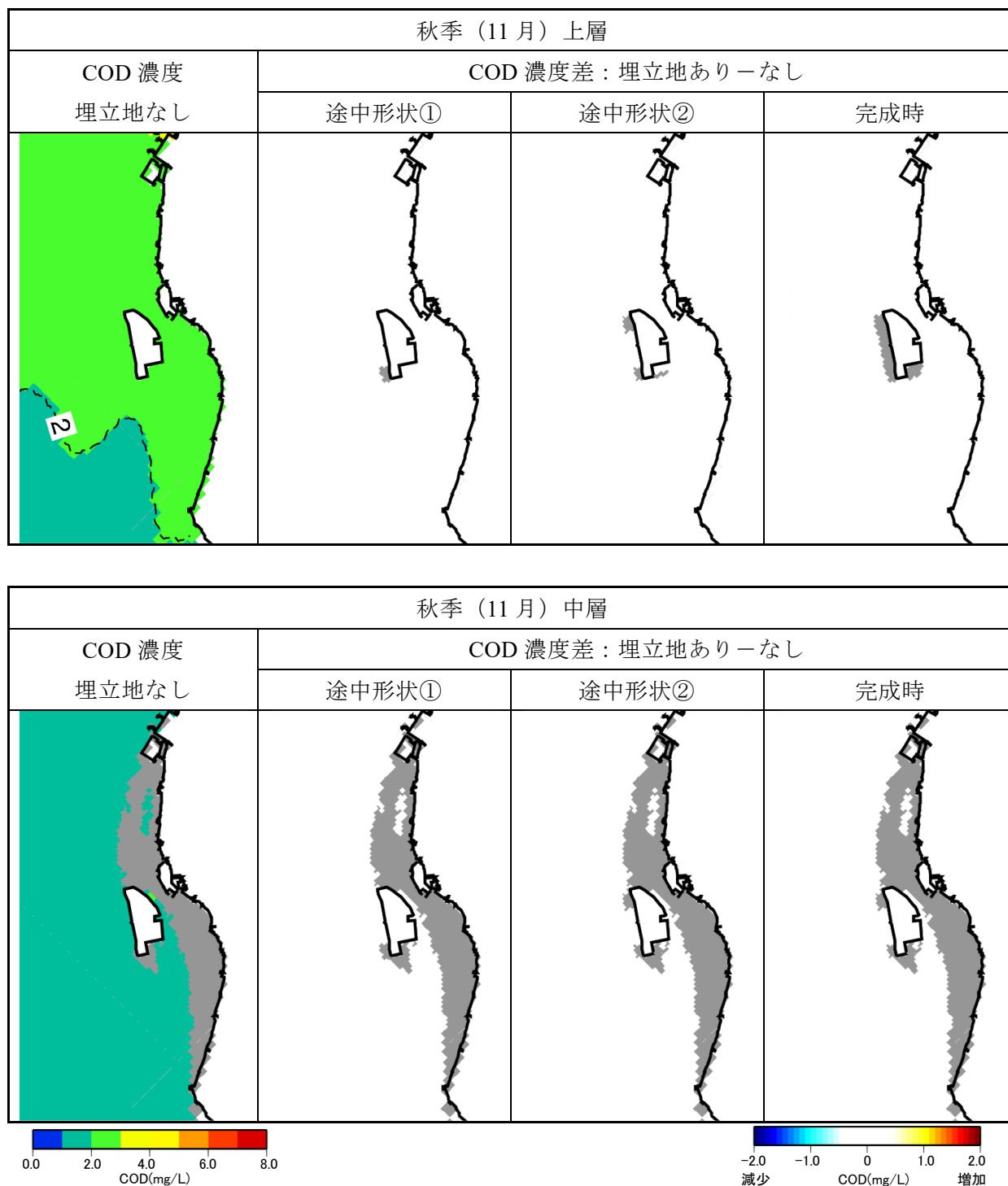
付図 8.4-41(3) 埋立ての途中形状及び完成時における化学的酸素要求量の予測結果
(夏季)

- 注：1. 上図は上層（水深 0～0.5m）、下図は中層（水深 7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



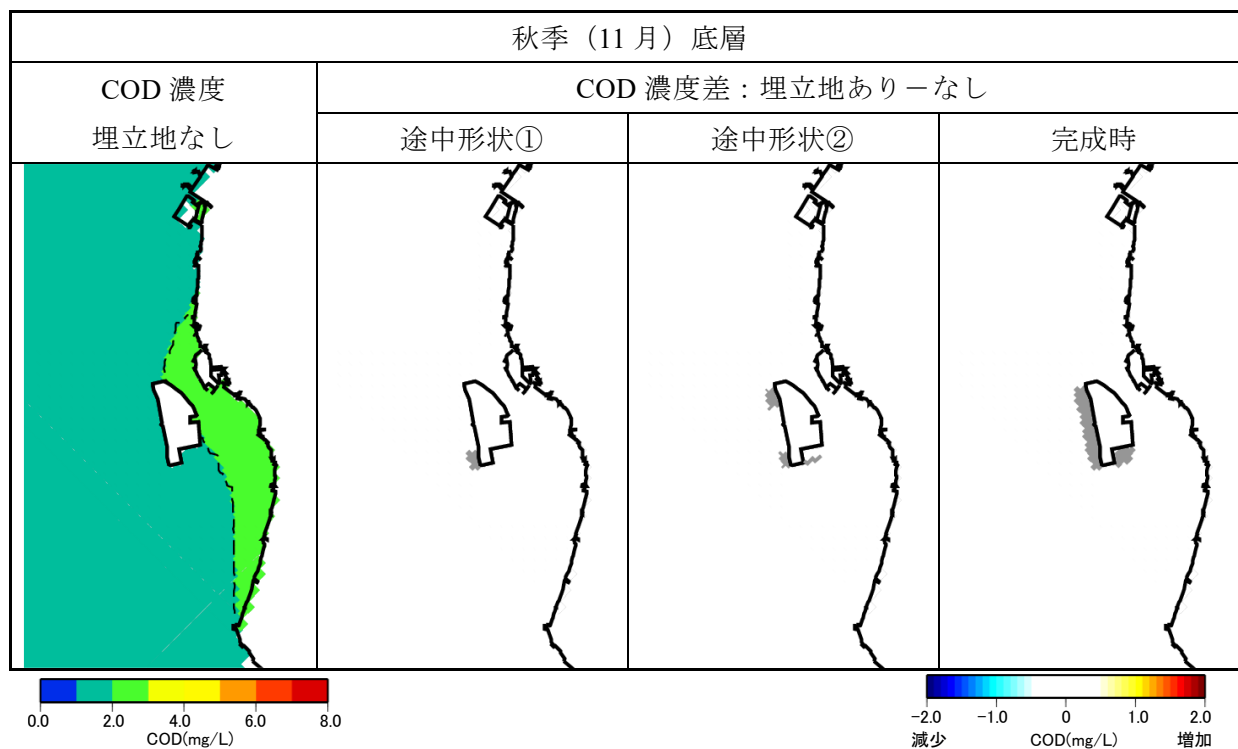
付図 8. 4-41 (4) 埋立ての途中形状及び完成時における化学的酸素要求量の予測結果
(夏季)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



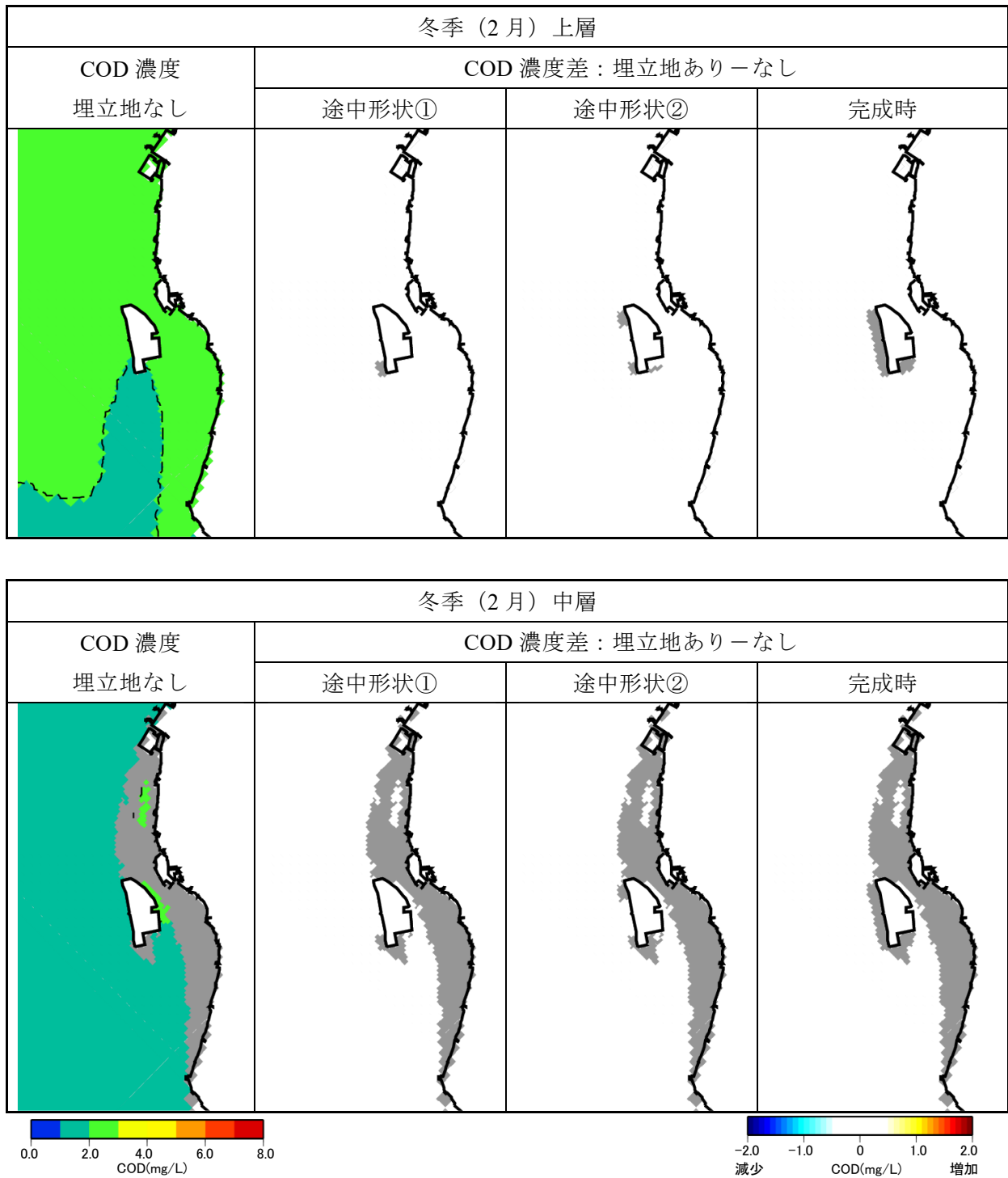
付図 8.4-41(5) 埋立ての途中形状及び完成時における化学的酸素要求量の予測結果
(秋季)

- 注：1. 上図は上層（水深 0～0.5m）、下図は中層（水深 7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



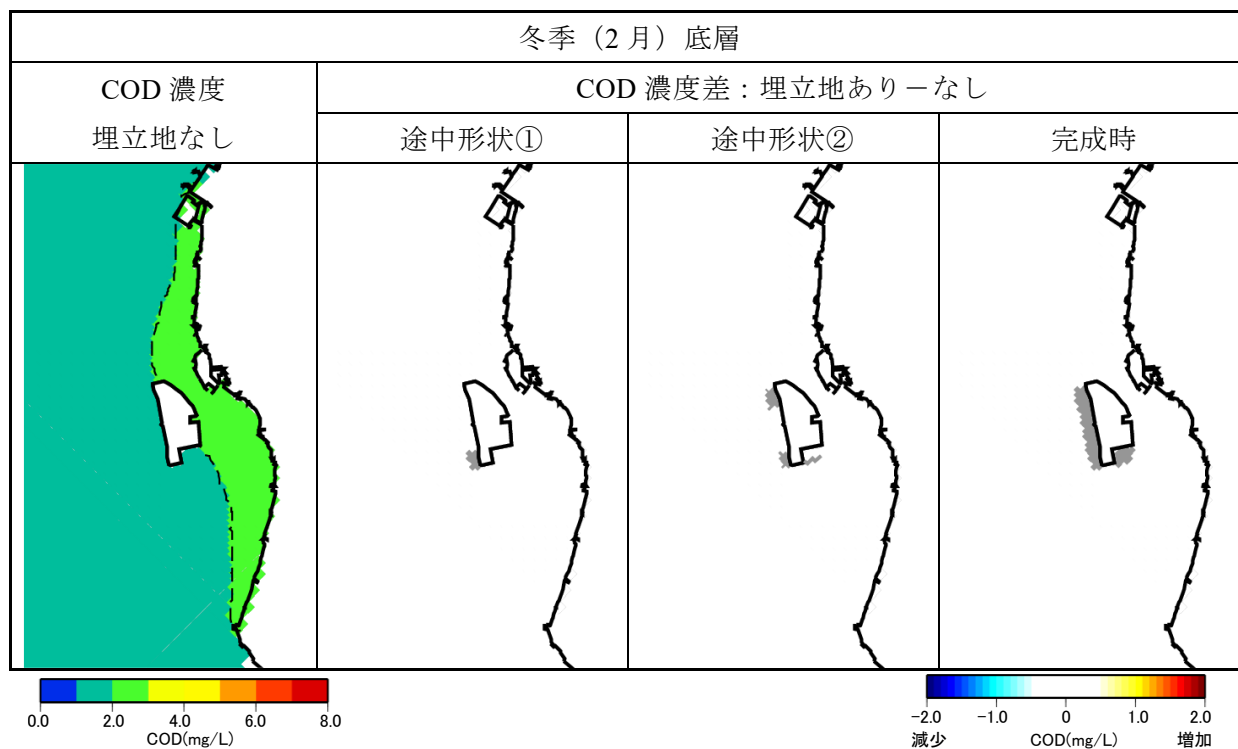
付図 8. 4-41 (6) 埋立ての途中形状及び完成時における化学的酸素要求量の予測結果
(秋季)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



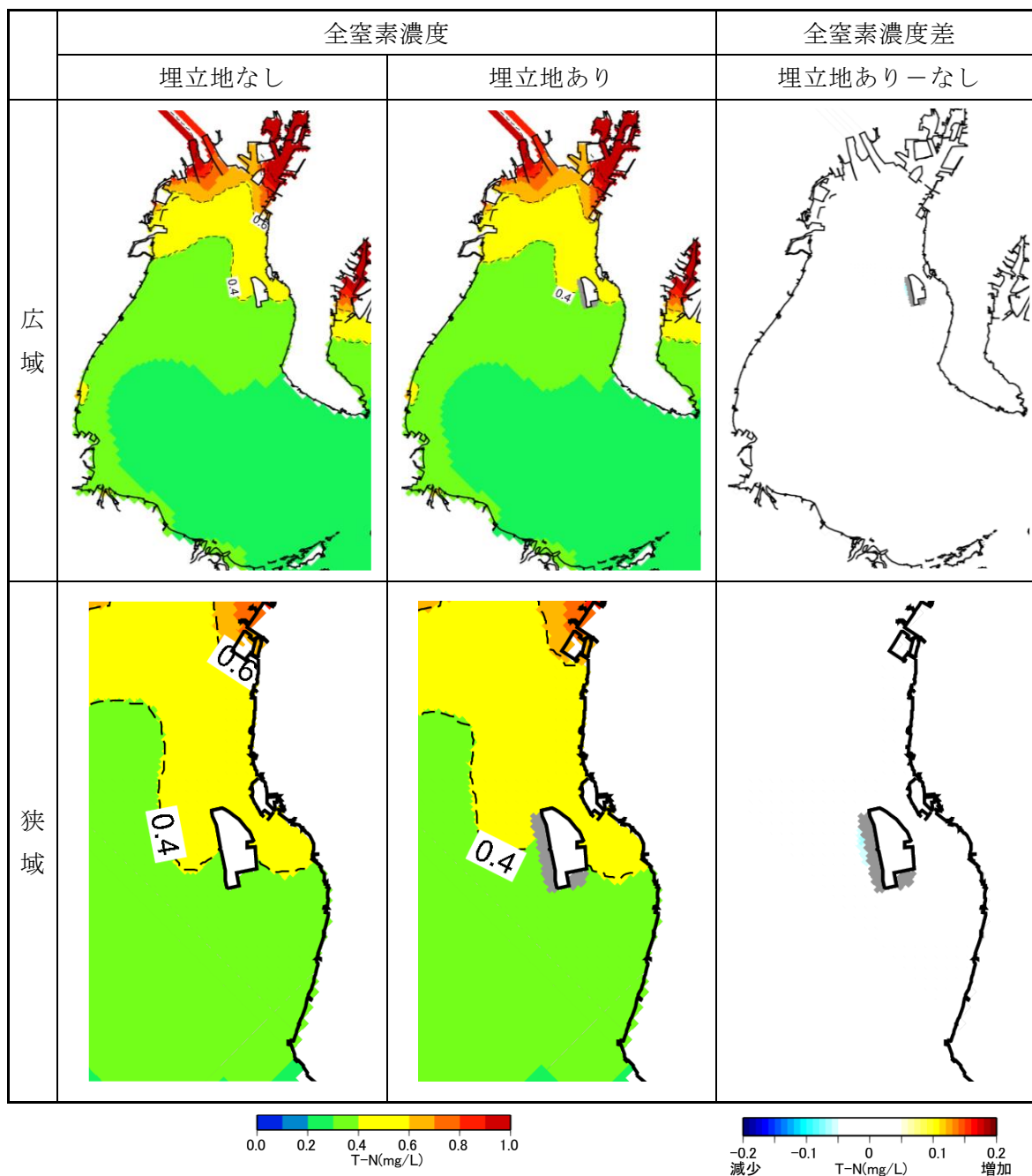
付図 8.4-41(7) 埋立ての途中形状及び完成時における化学的酸素要求量の予測結果
(冬季)

- 注：1. 上図は上層（水深 0～0.5m）、下図は中層（水深 7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



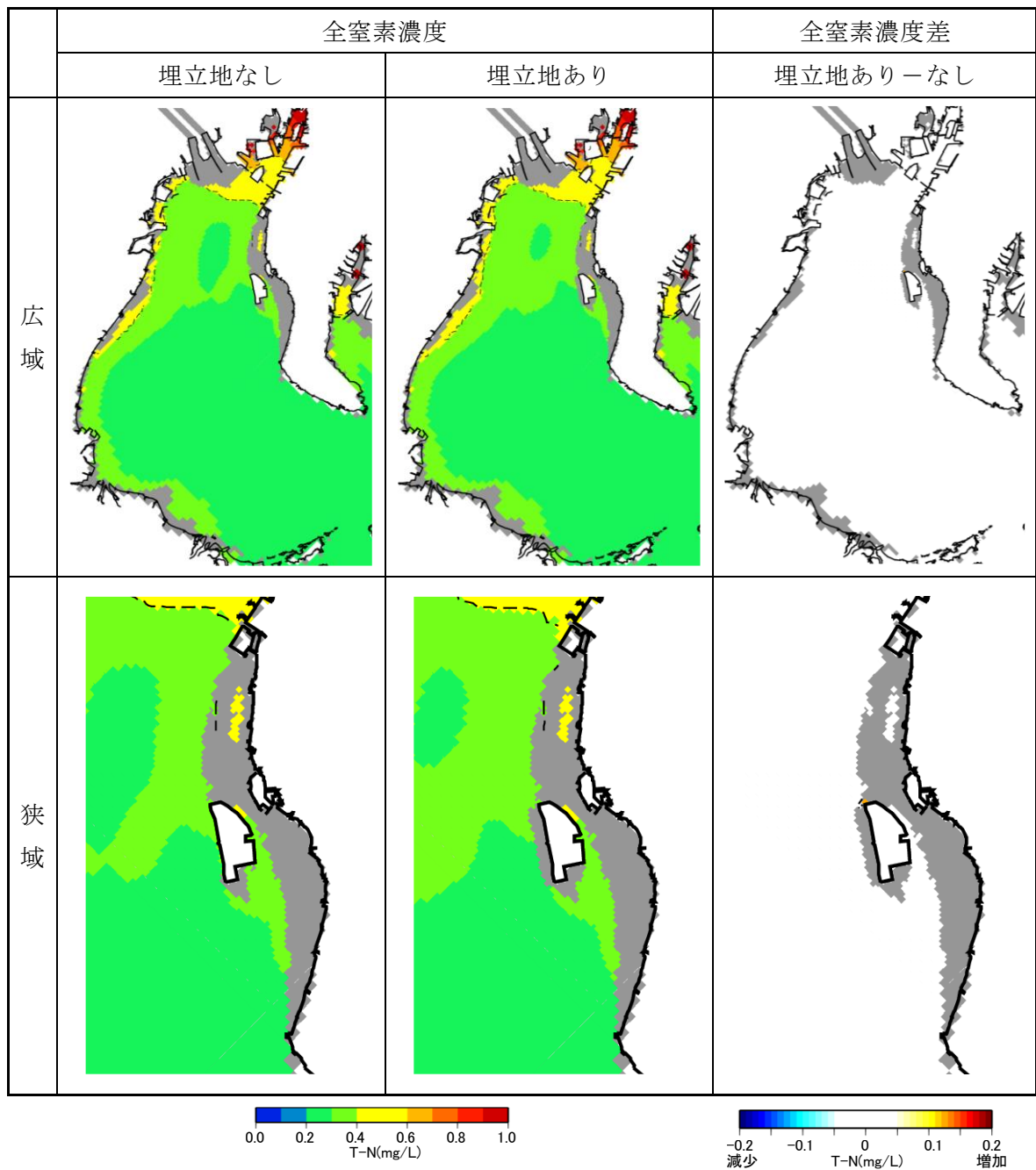
付図 8. 4-41 (8) 埋立ての途中形状及び完成時における化学的酸素要求量の予測結果
(冬季)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



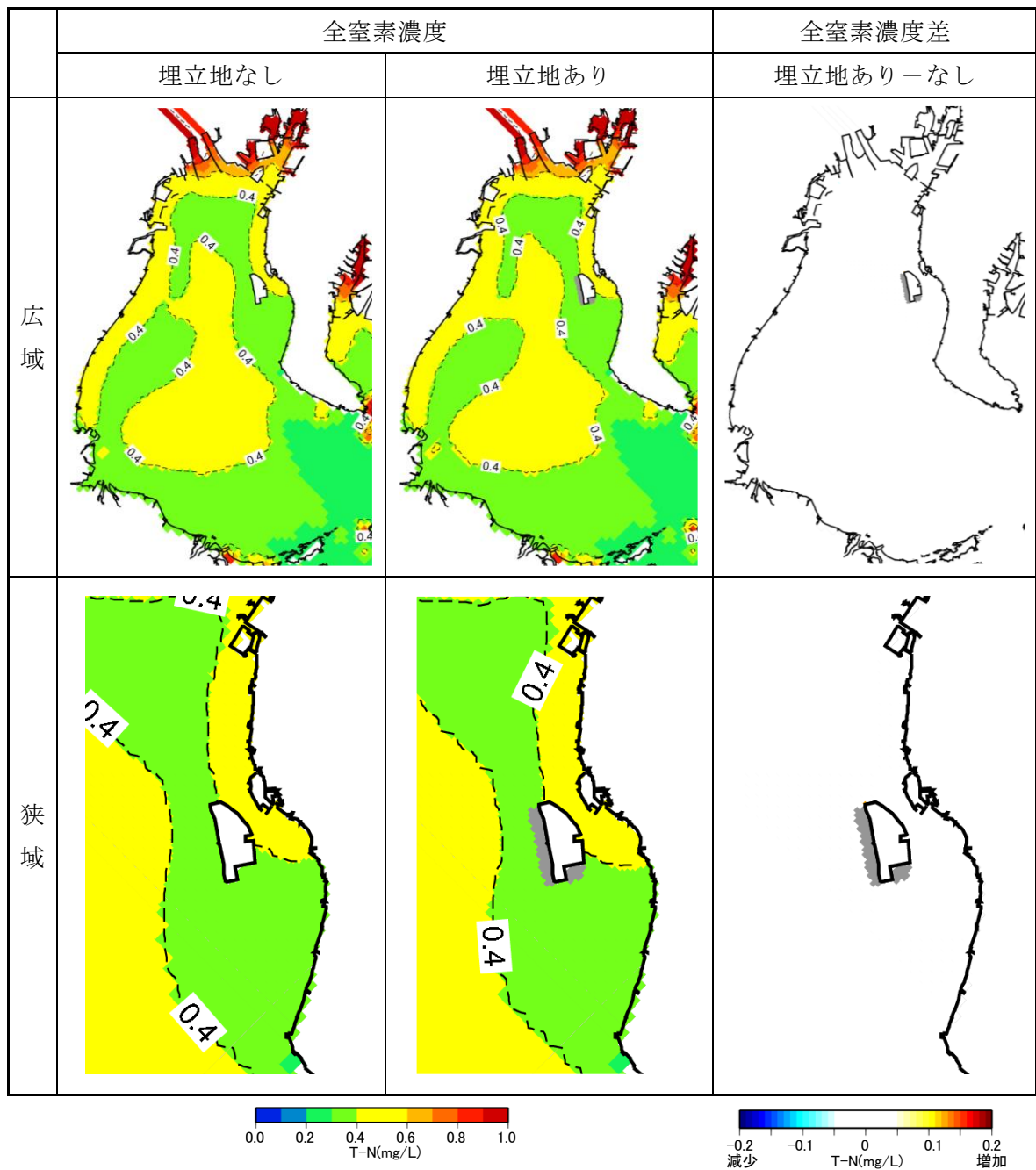
付図 8.4-42(1) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(春季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 5 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



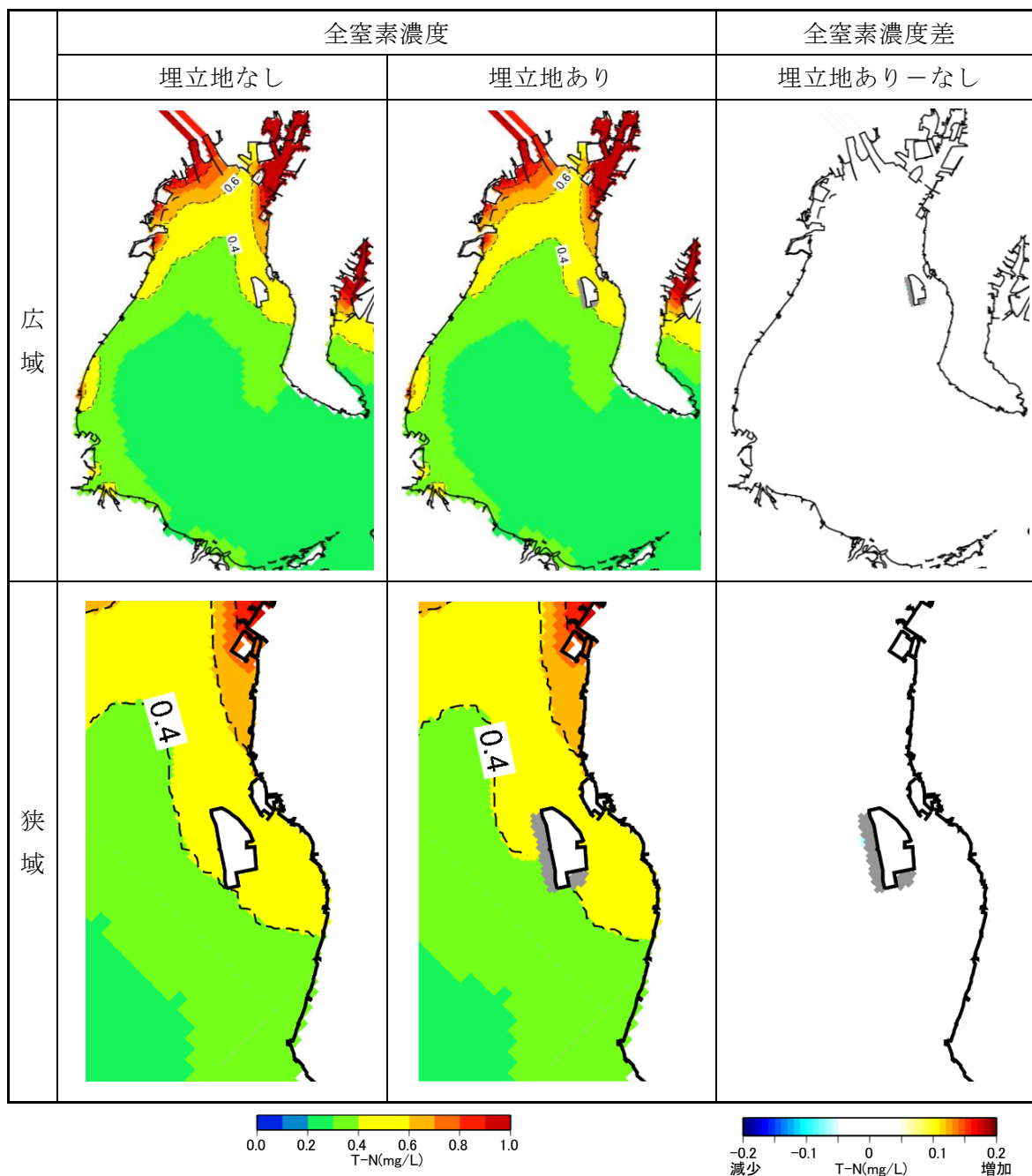
付図 8.4-42(2) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(春季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 5 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



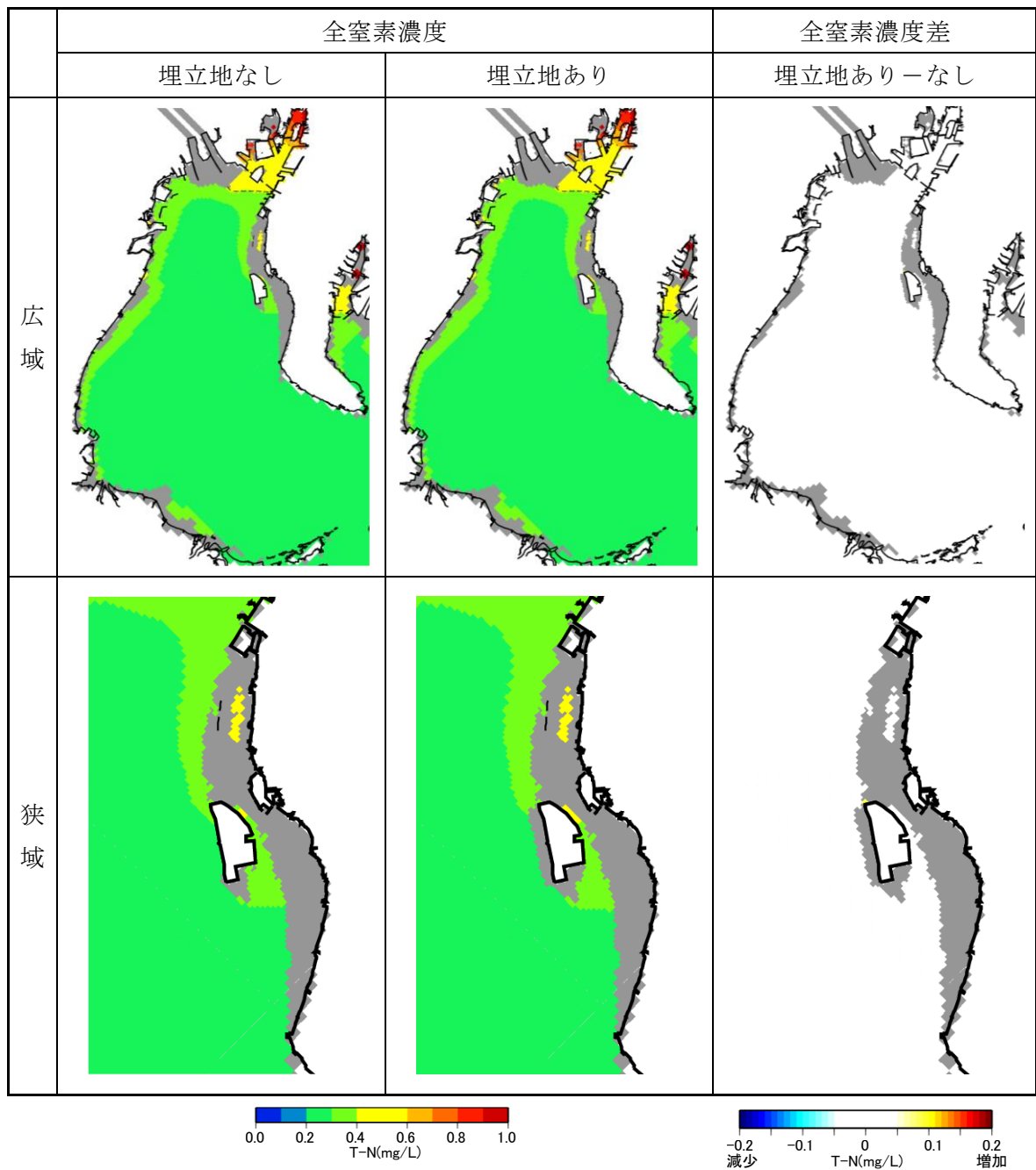
付図 8.4-42(3) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(春季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の5月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.2mg/L間隔で示す。



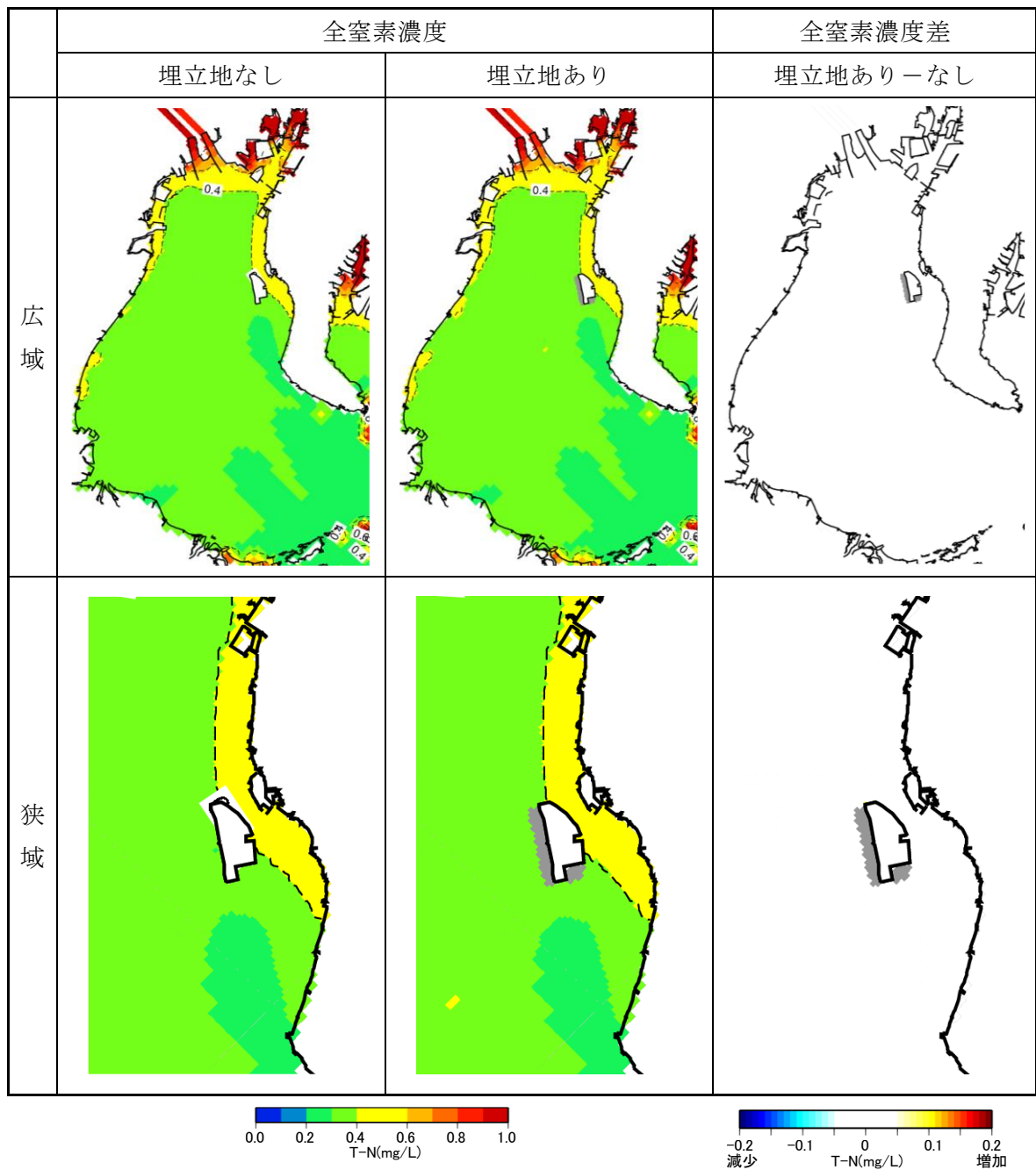
付図 8.4-42(4) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(夏季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 8月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



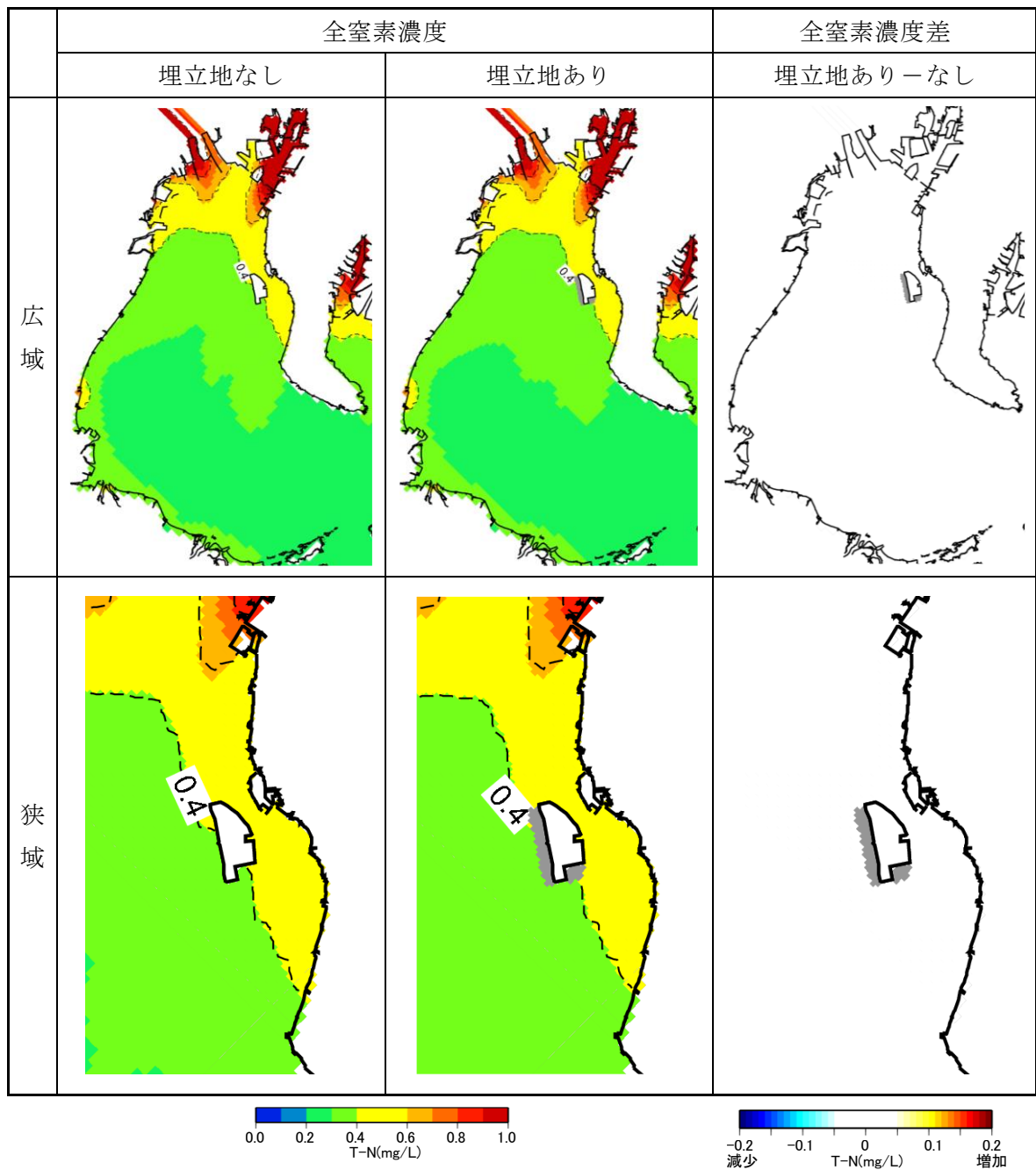
付図 8.4-42(5) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(夏季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 8 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



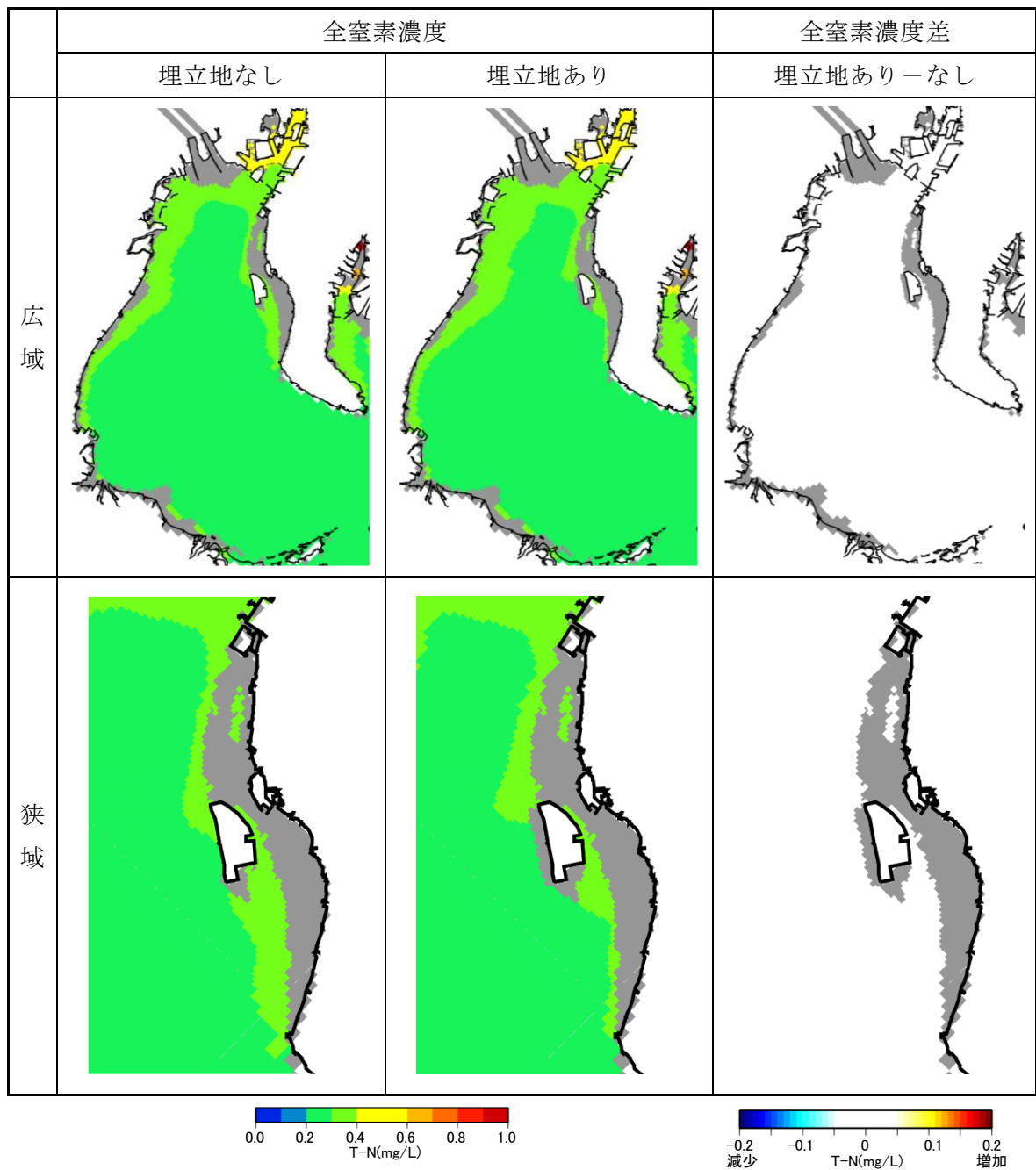
付図 8.4-42(6) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(夏季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の8月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.2mg/L間隔で示す。



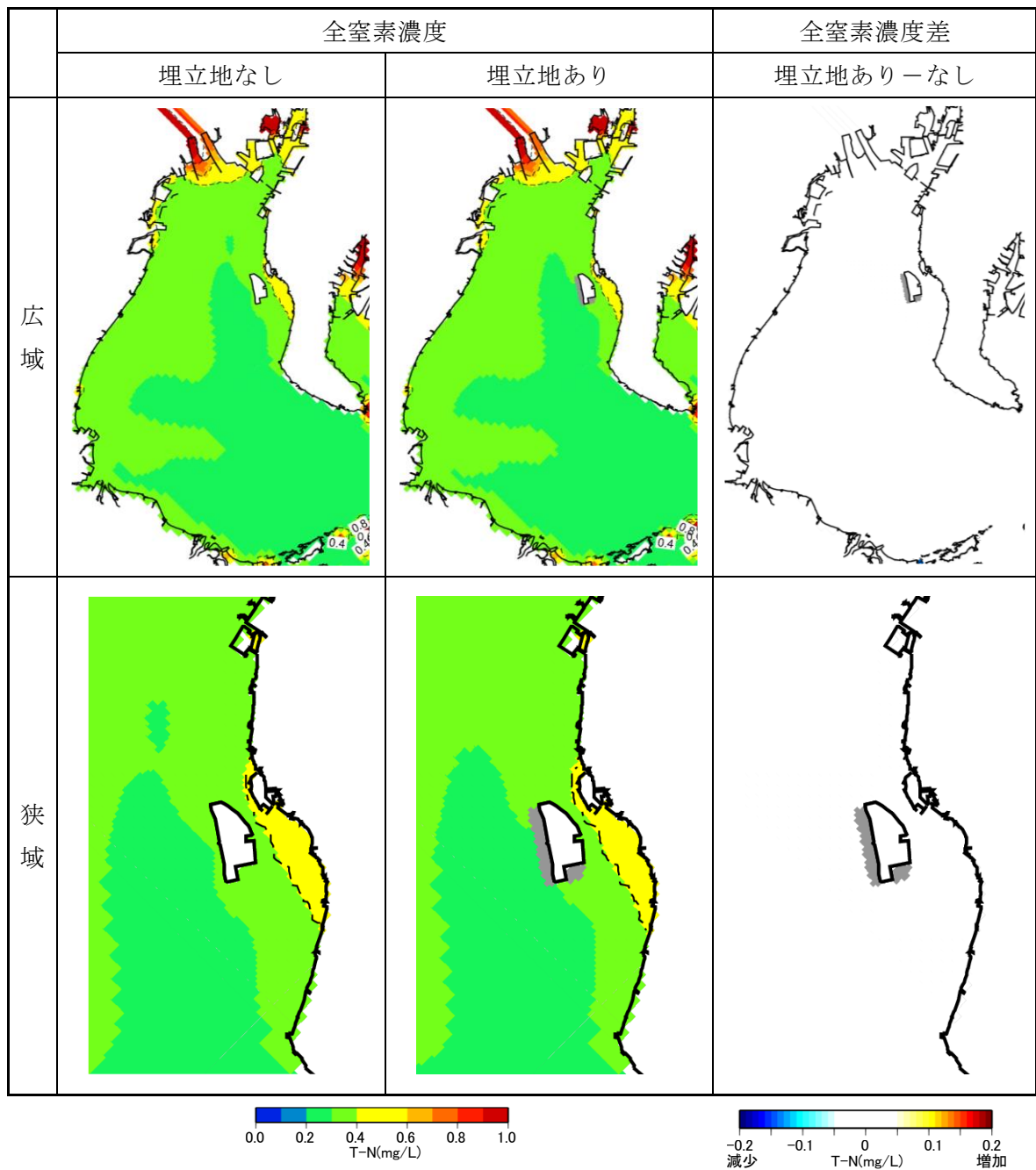
付図 8.4-42(7) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(秋季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 11 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



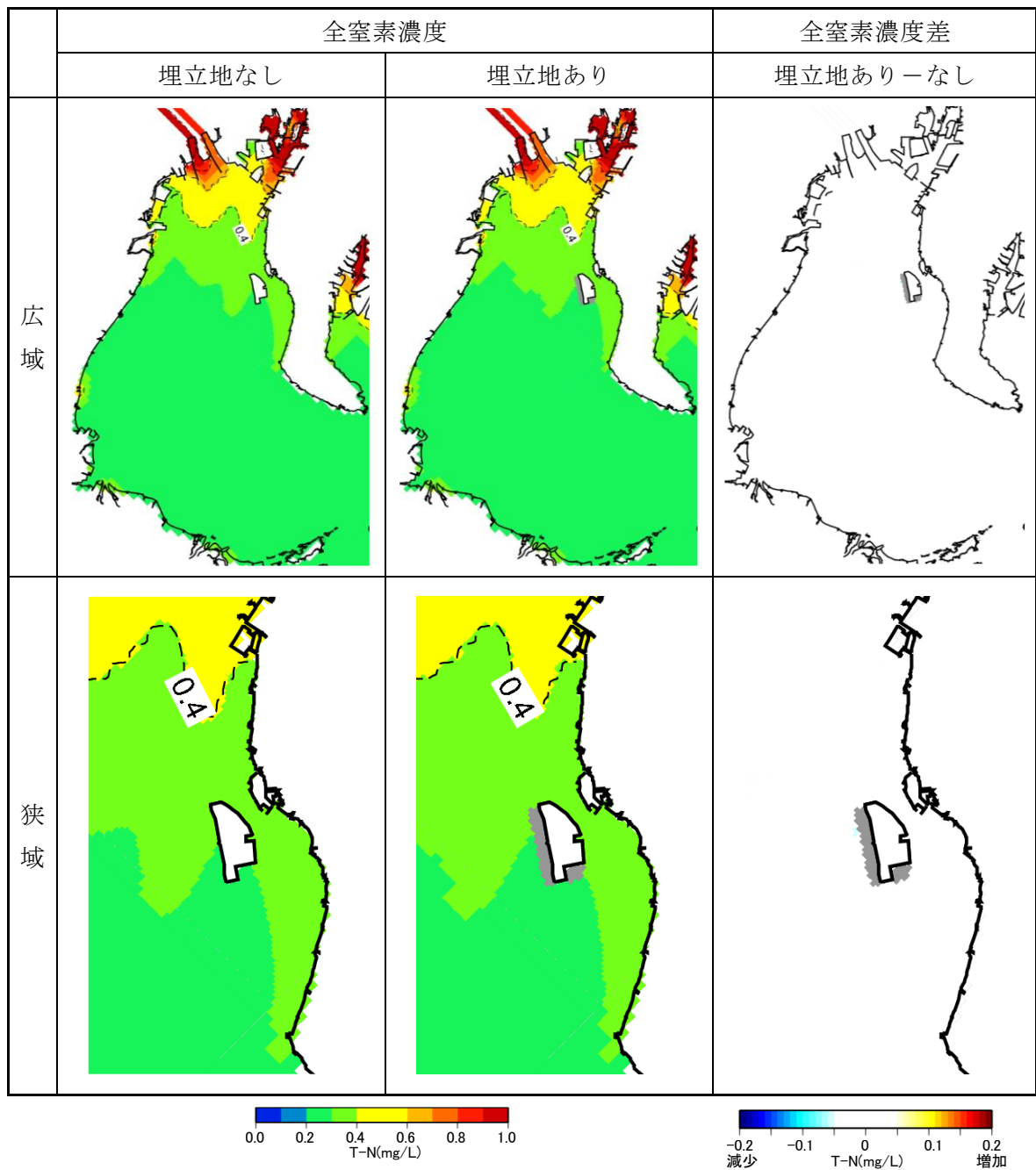
付図 8.4-42(8) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(秋季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 11 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



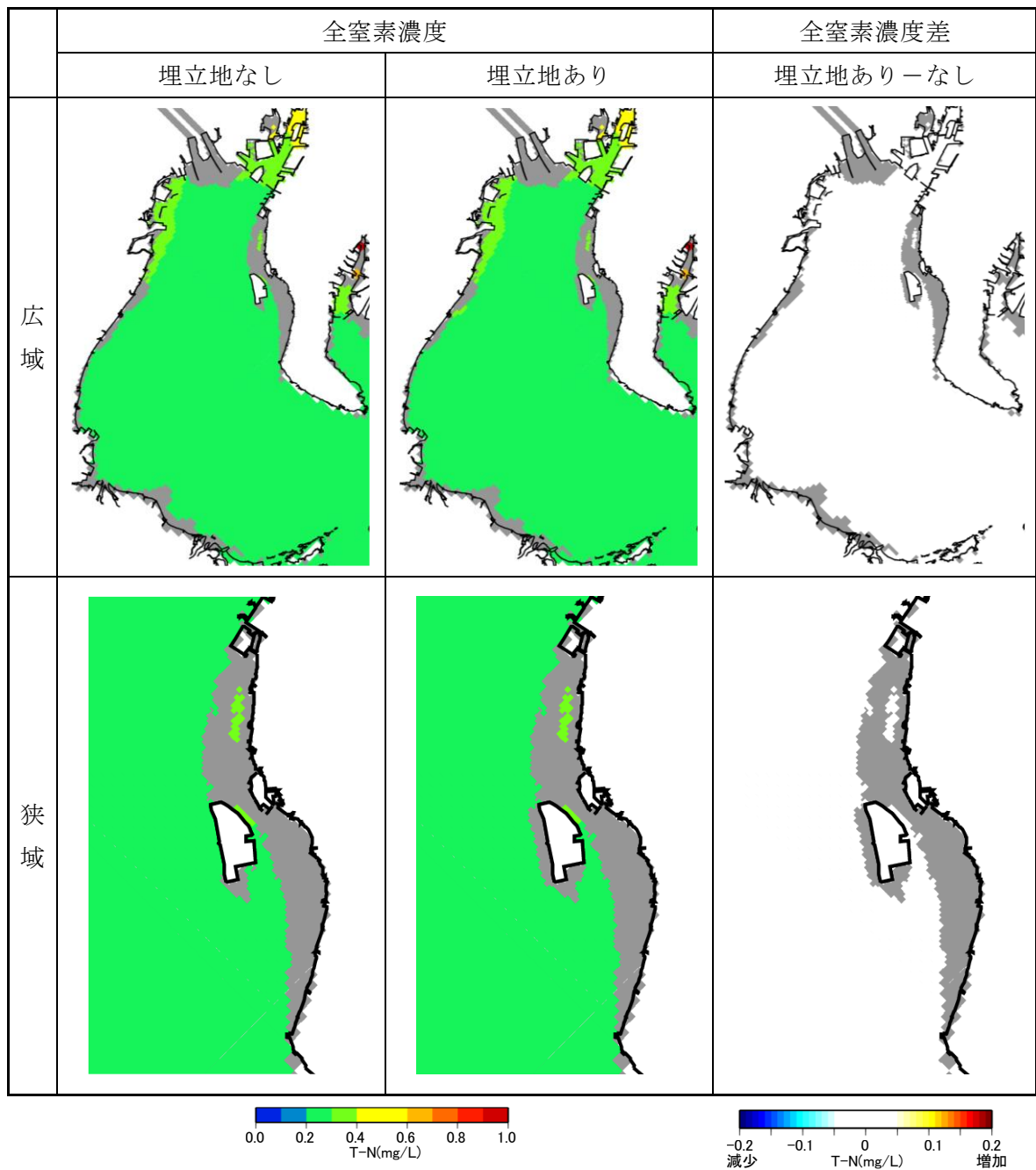
付図 8.4-42(9) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(秋季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の11月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.2mg/L間隔で示す。



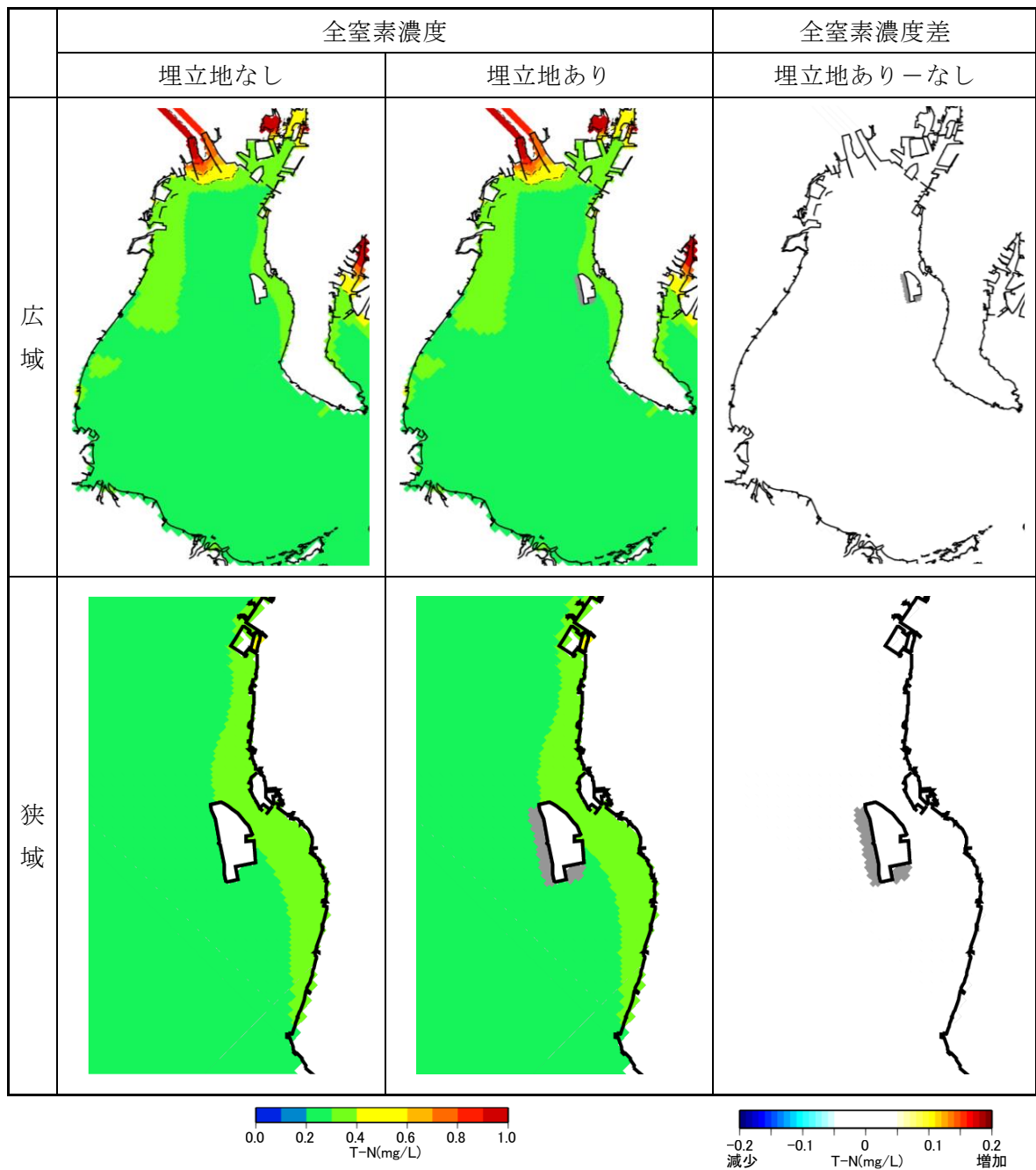
付図 8.4-42(10) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(冬季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 2 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



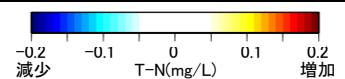
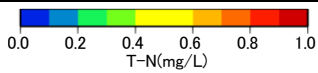
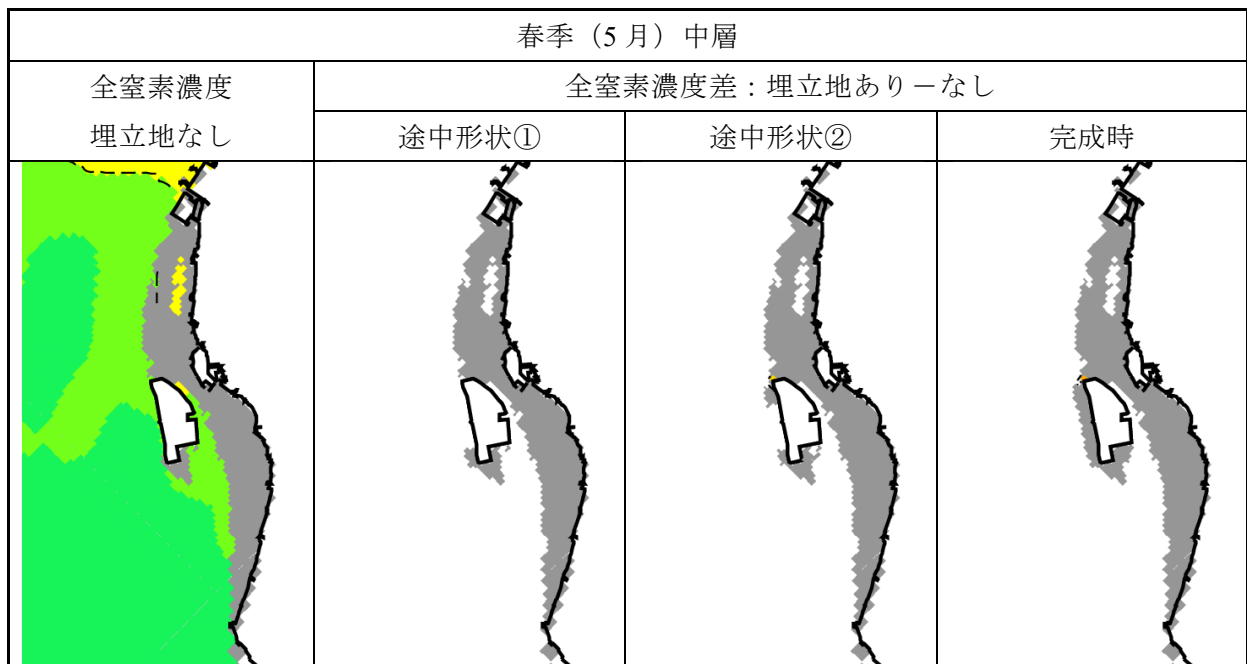
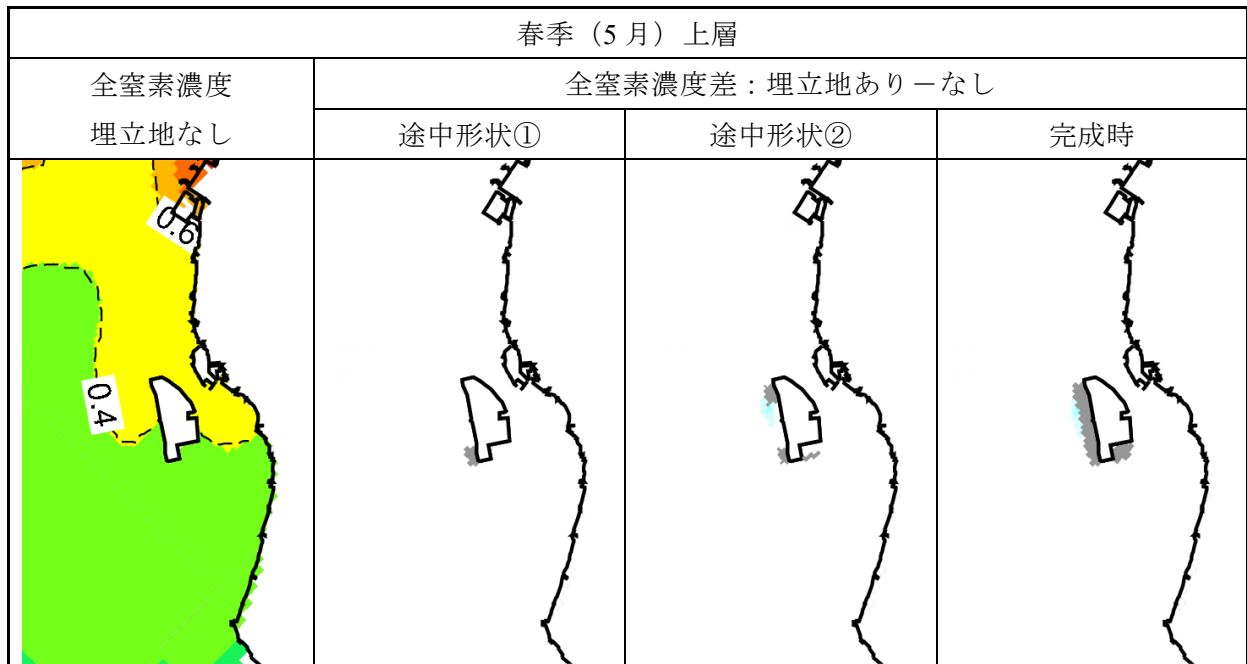
付図 8. 4-42(11) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(冬季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 2 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



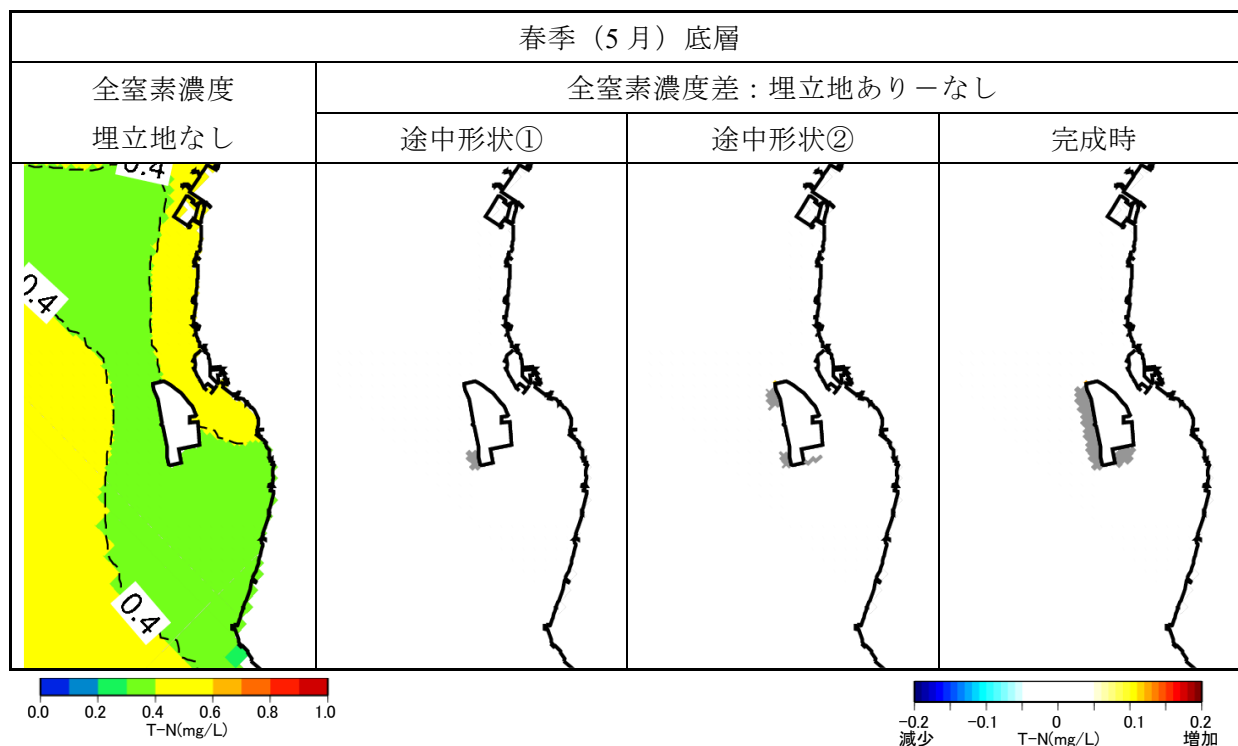
付図 8.4-42(12) 埋立地あり及びなしの場合における全窒素の予測結果
(冬季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の2月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.2mg/L 間隔で示す。



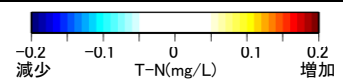
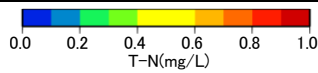
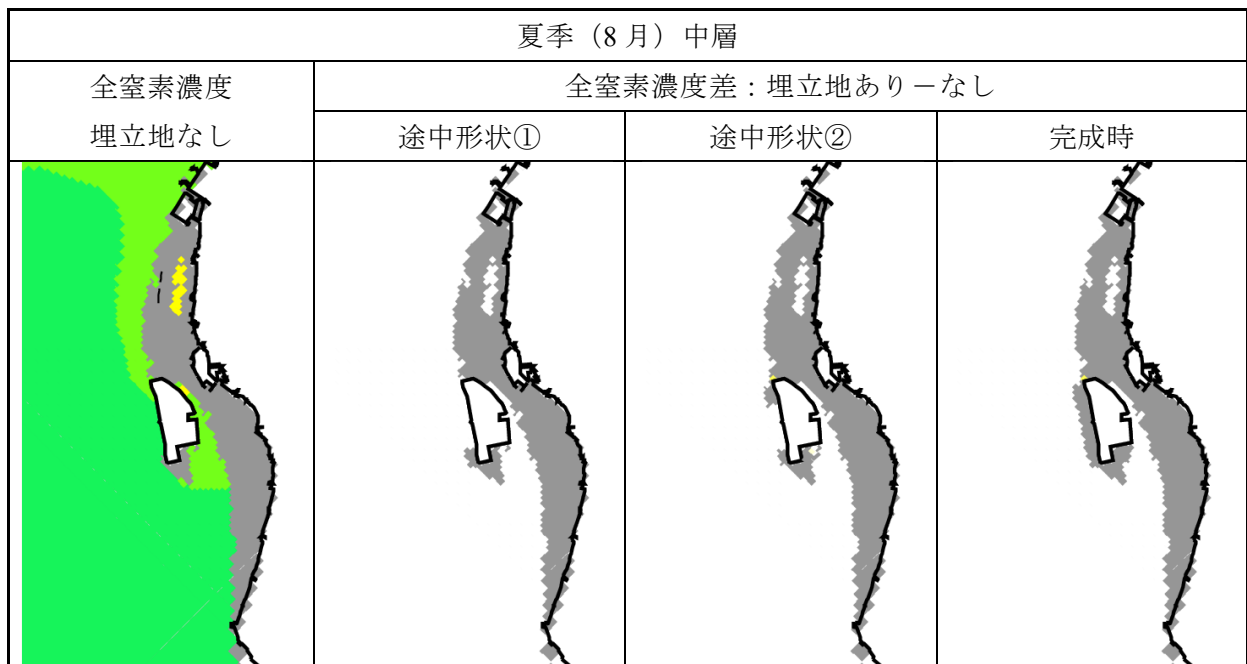
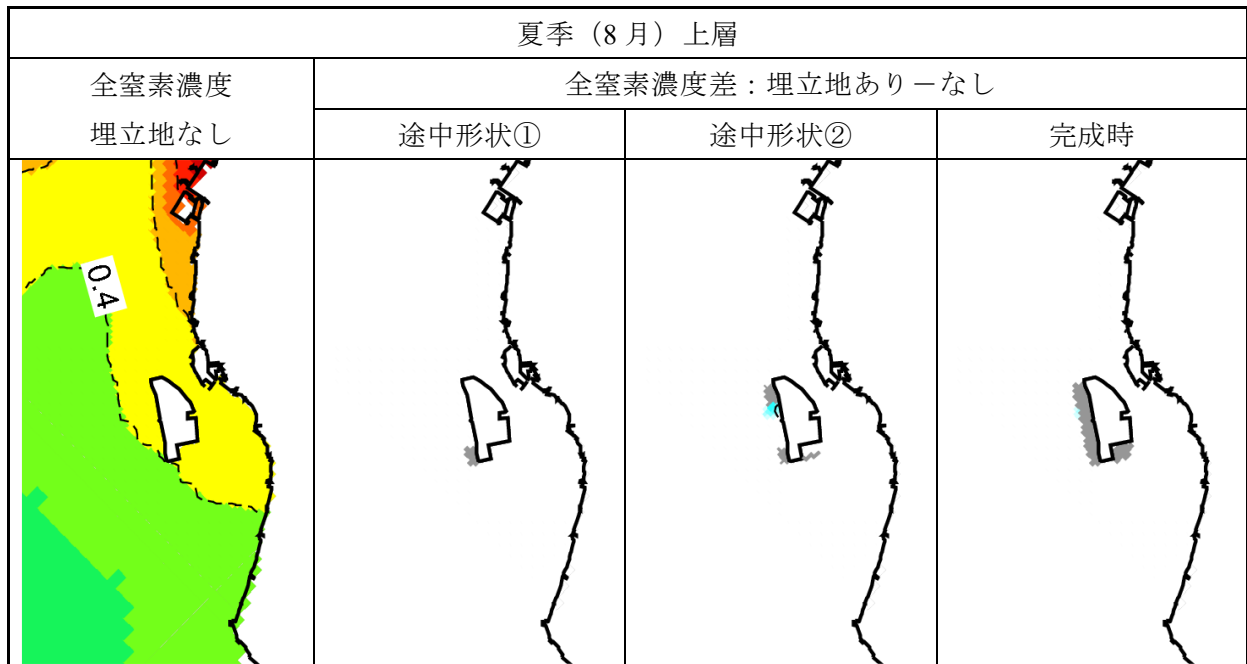
付図 8.4-43(1) 埋立ての途中形状及び完成時における全窒素の予測結果（春季）

- 注：1. 上図は上層（水深 0～0.5m）、下図は中層（水深 7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



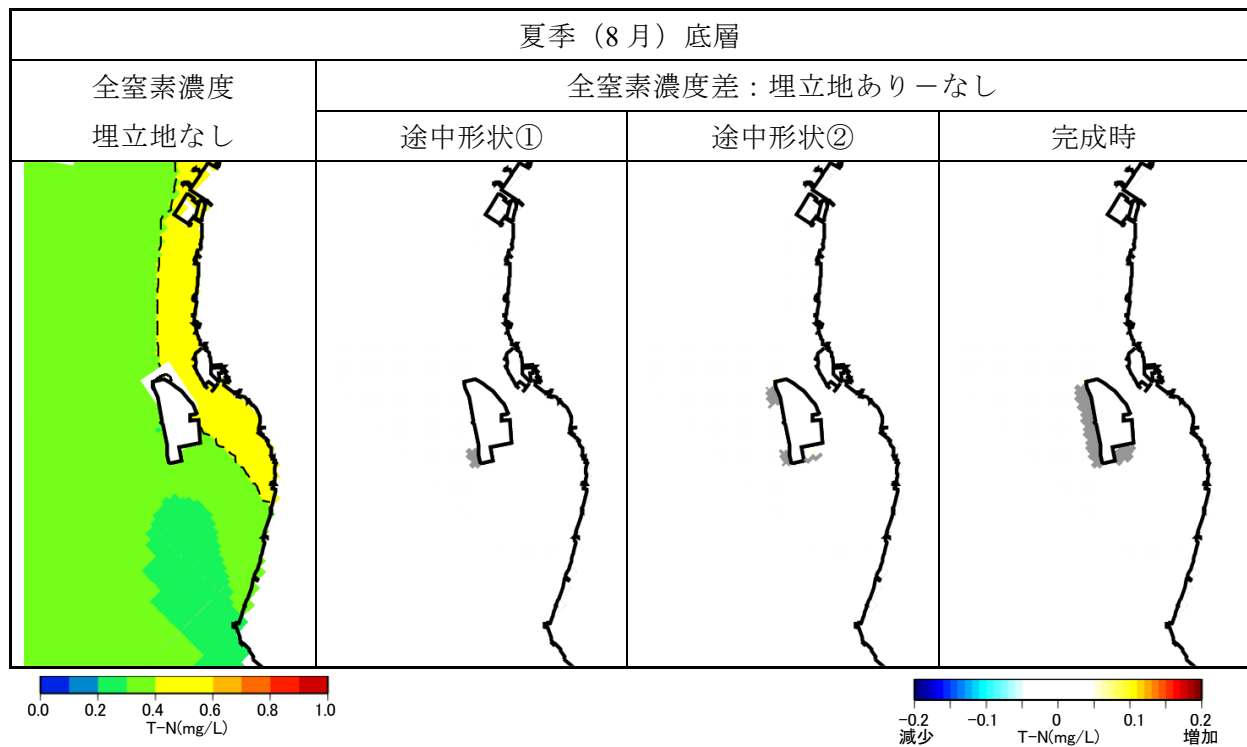
付図 8. 4-43(2) 埋立ての途中形状及び完成時における全窒素の予測結果（春季）

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



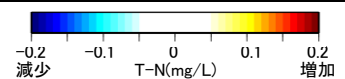
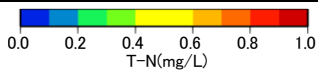
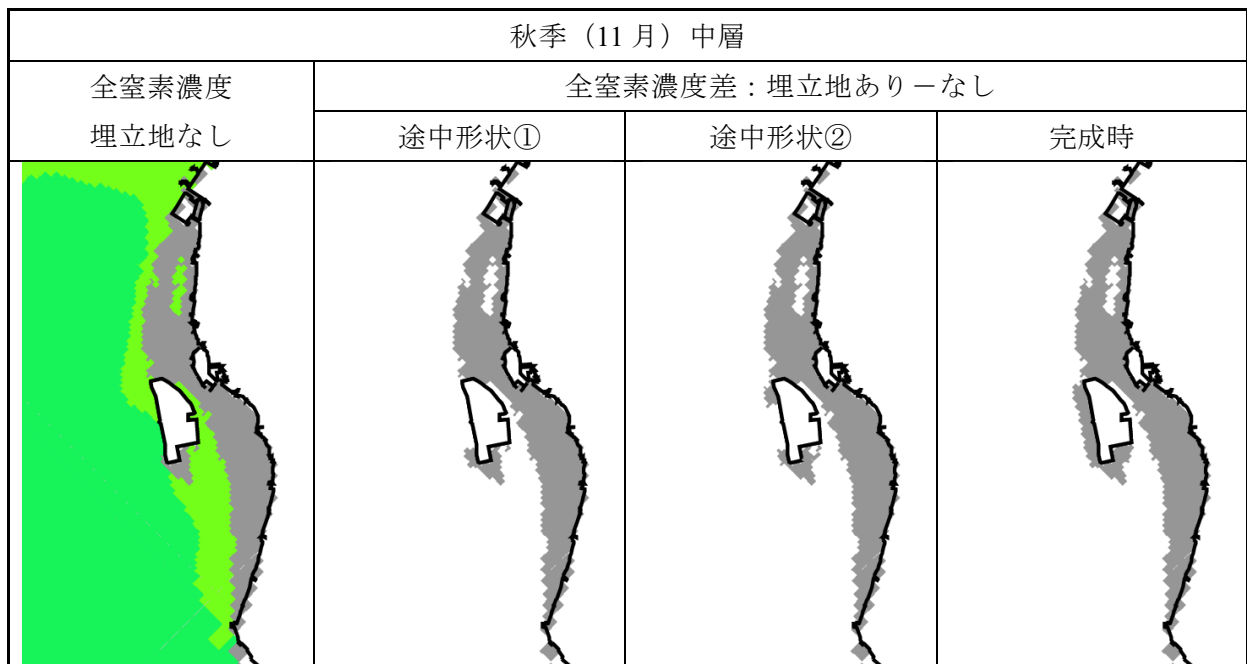
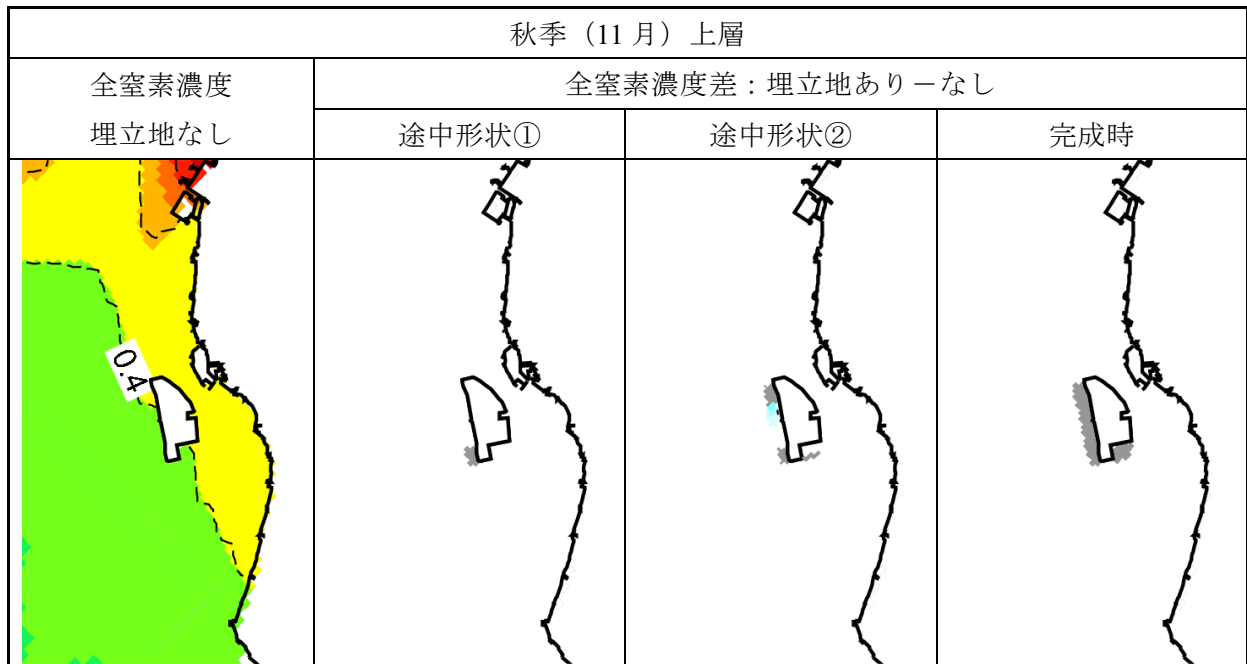
付図 8.4-43(3) 埋立ての途中形状及び完成時における全窒素の予測結果（夏季）

- 注：1. 上図は上層（水深0～0.5m）、下図は中層（水深7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.2mg/L間隔で示す。



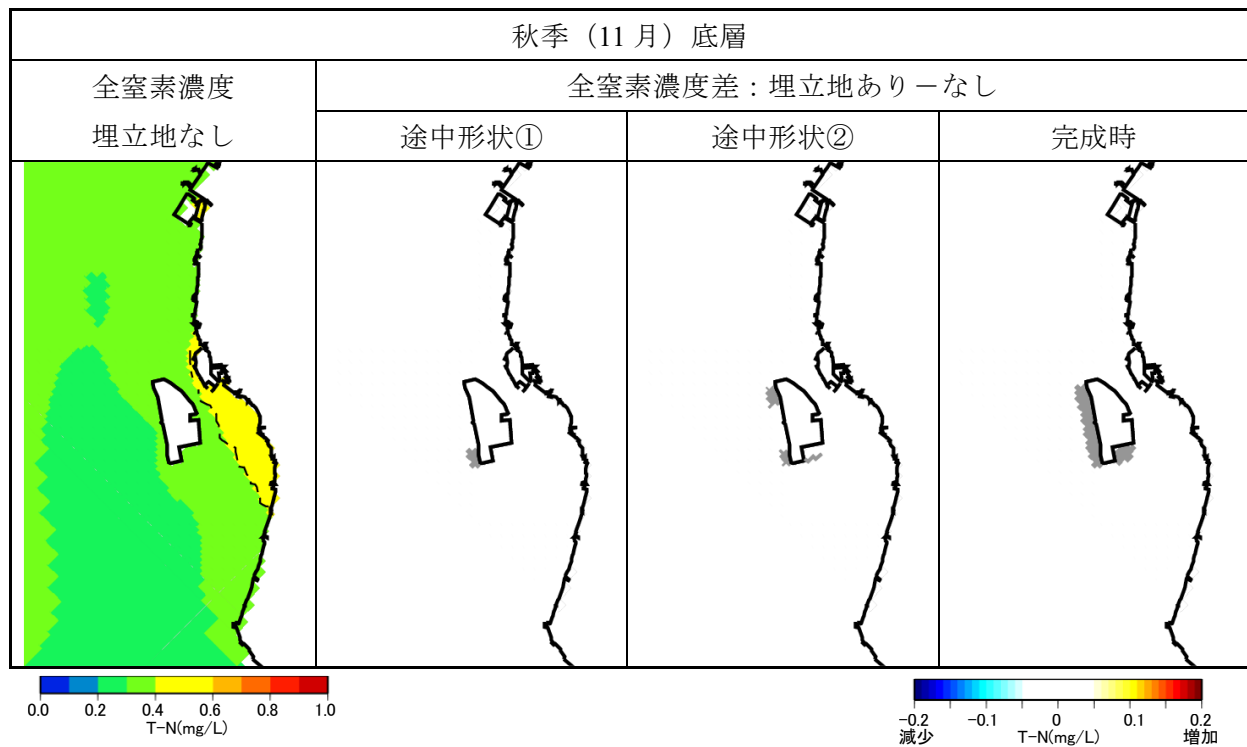
付図 8. 4-43(4) 埋立ての途中形状及び完成時における全窒素の予測結果（夏季）

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



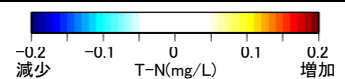
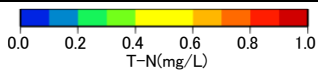
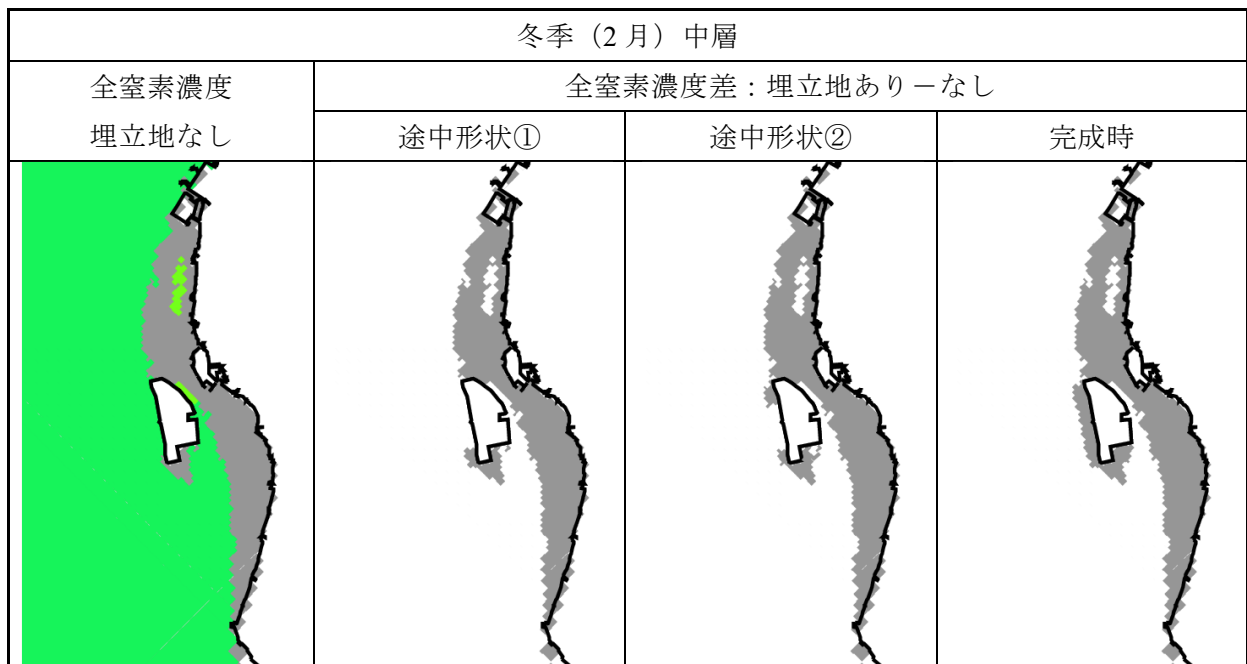
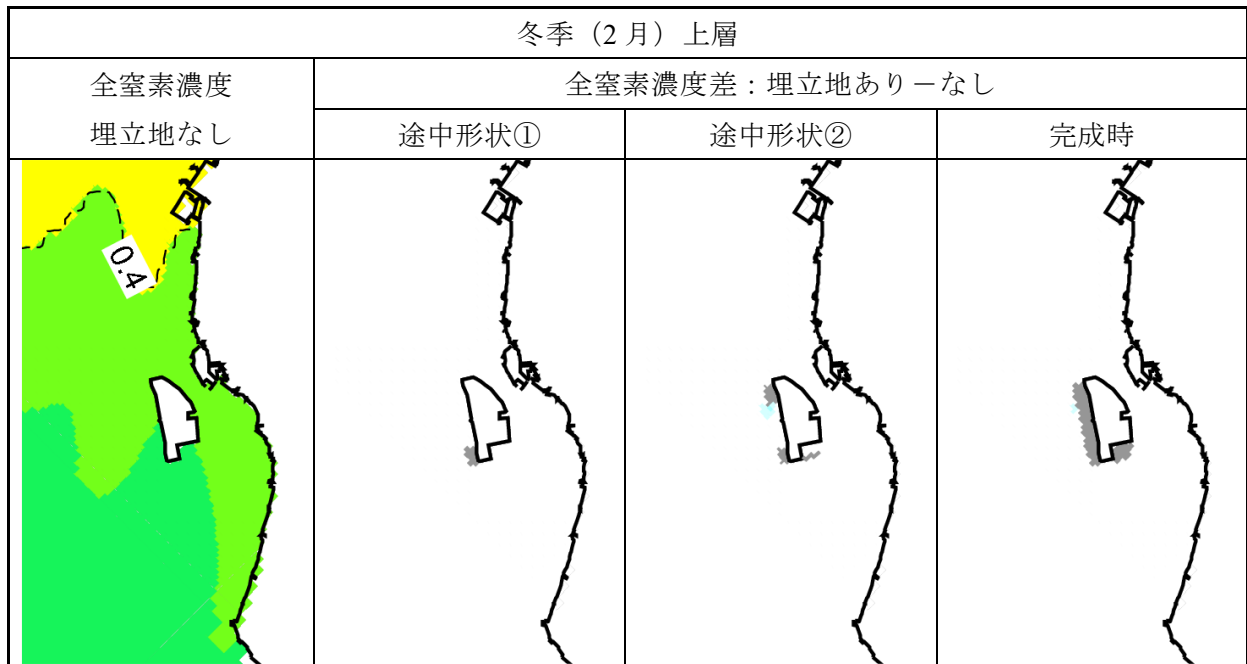
付図 8.4-43(5) 埋立ての途中形状及び完成時における全窒素の予測結果（秋季）

- 注：1. 上図は上層（水深0～0.5m）、下図は中層（水深7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.2mg/L間隔で示す。



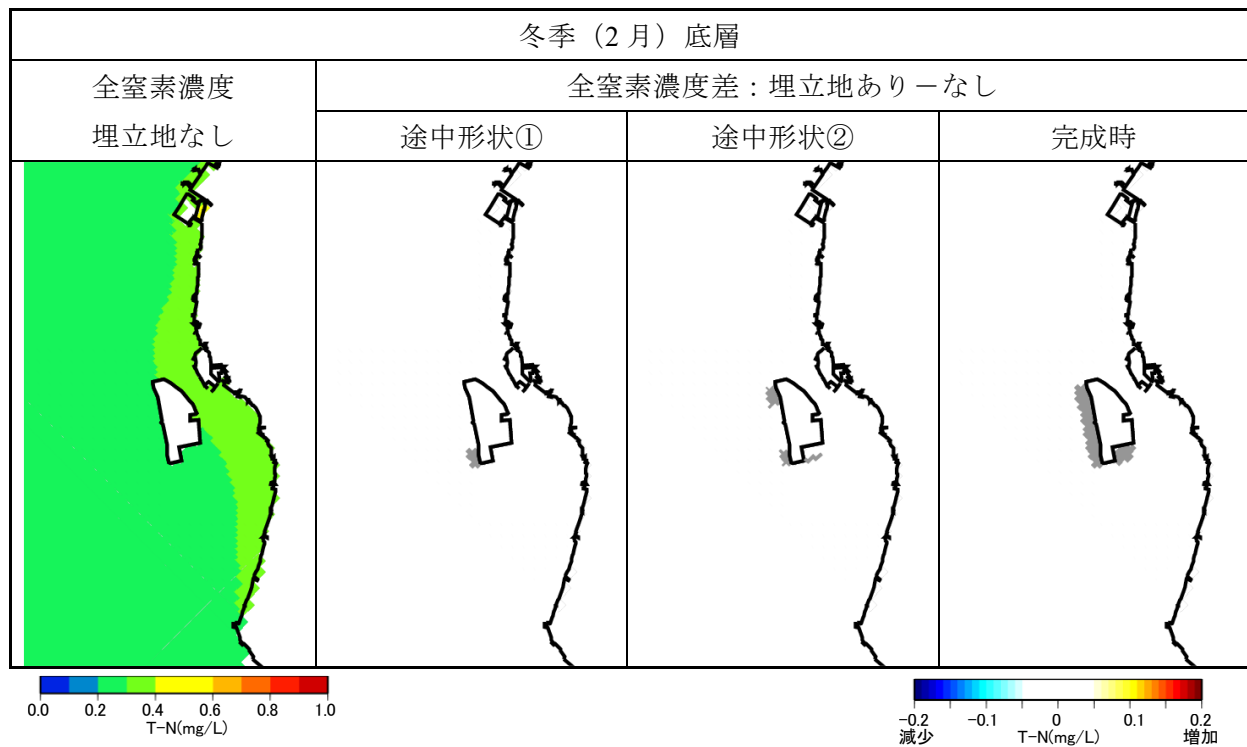
付図 8. 4-43(6) 埋立ての途中形状及び完成時における全窒素の予測結果（秋季）

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



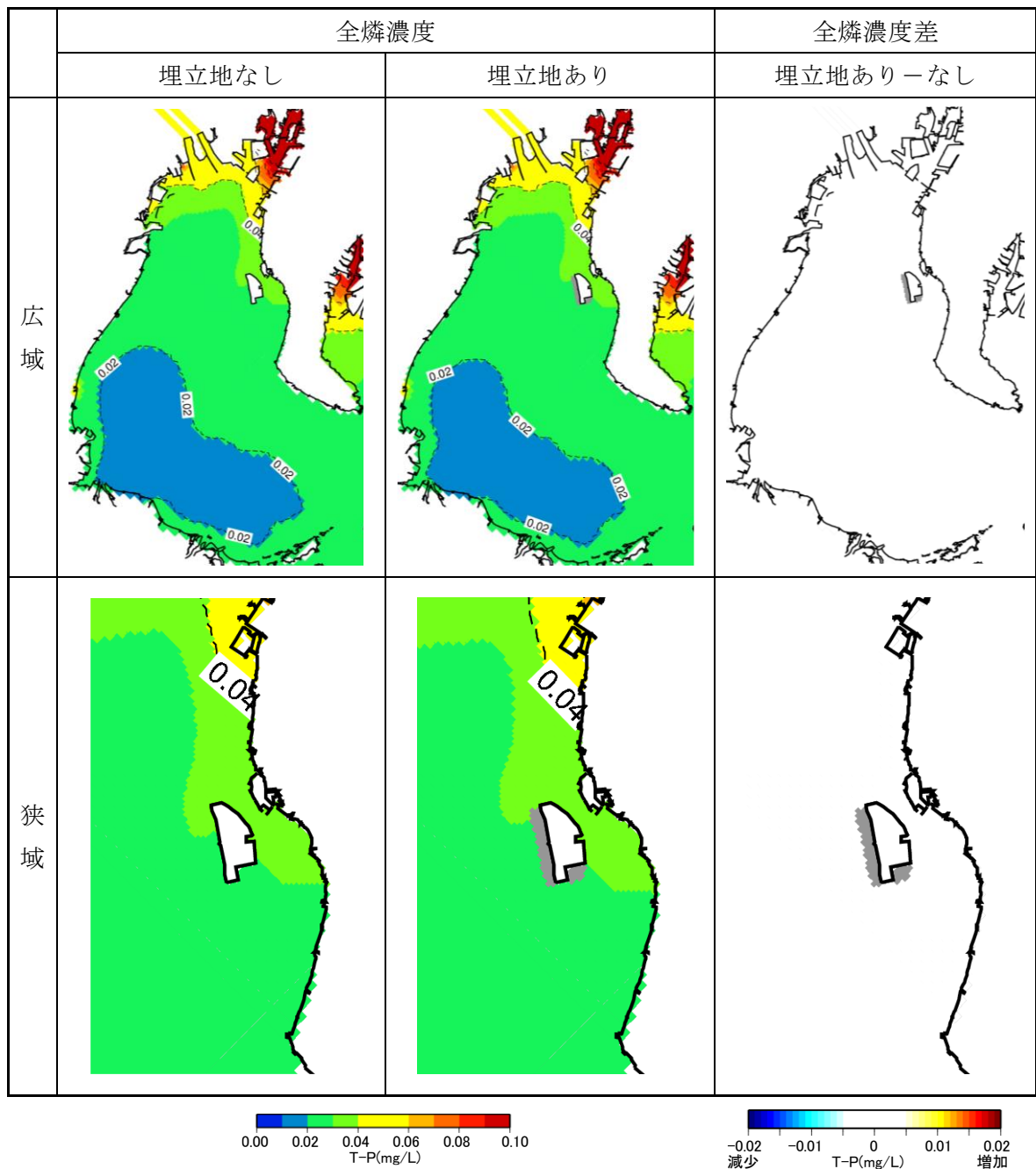
付図 8.4-43(7) 埋立ての途中形状及び完成時における全窒素の予測結果（冬季）

- 注：1. 上図は上層（水深0～0.5m）、下図は中層（水深7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.2mg/L間隔で示す。



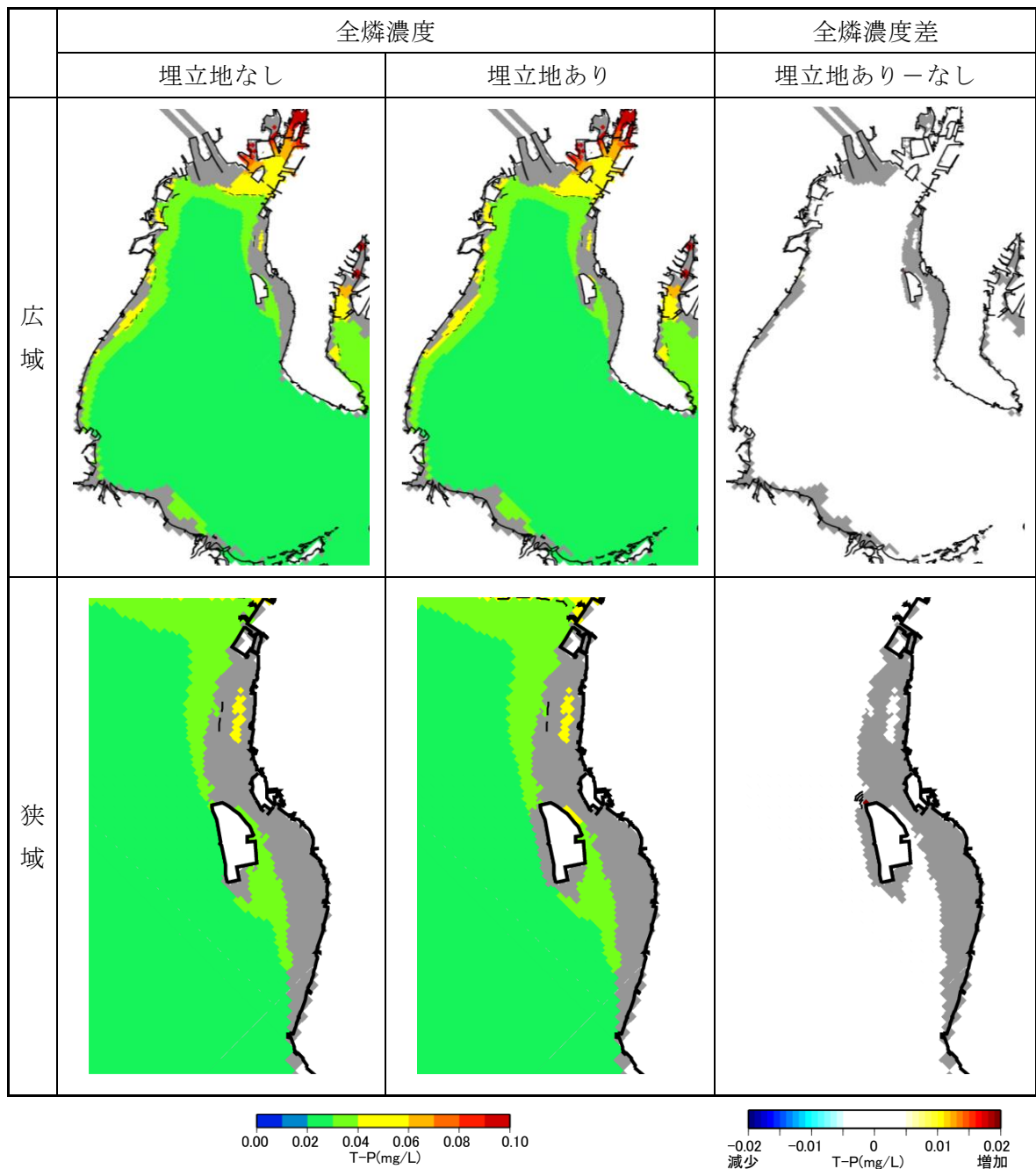
付図 8. 4-43(8) 埋立ての途中形状及び完成時における全窒素の予測結果（冬季）

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.2mg/L 間隔で示す。



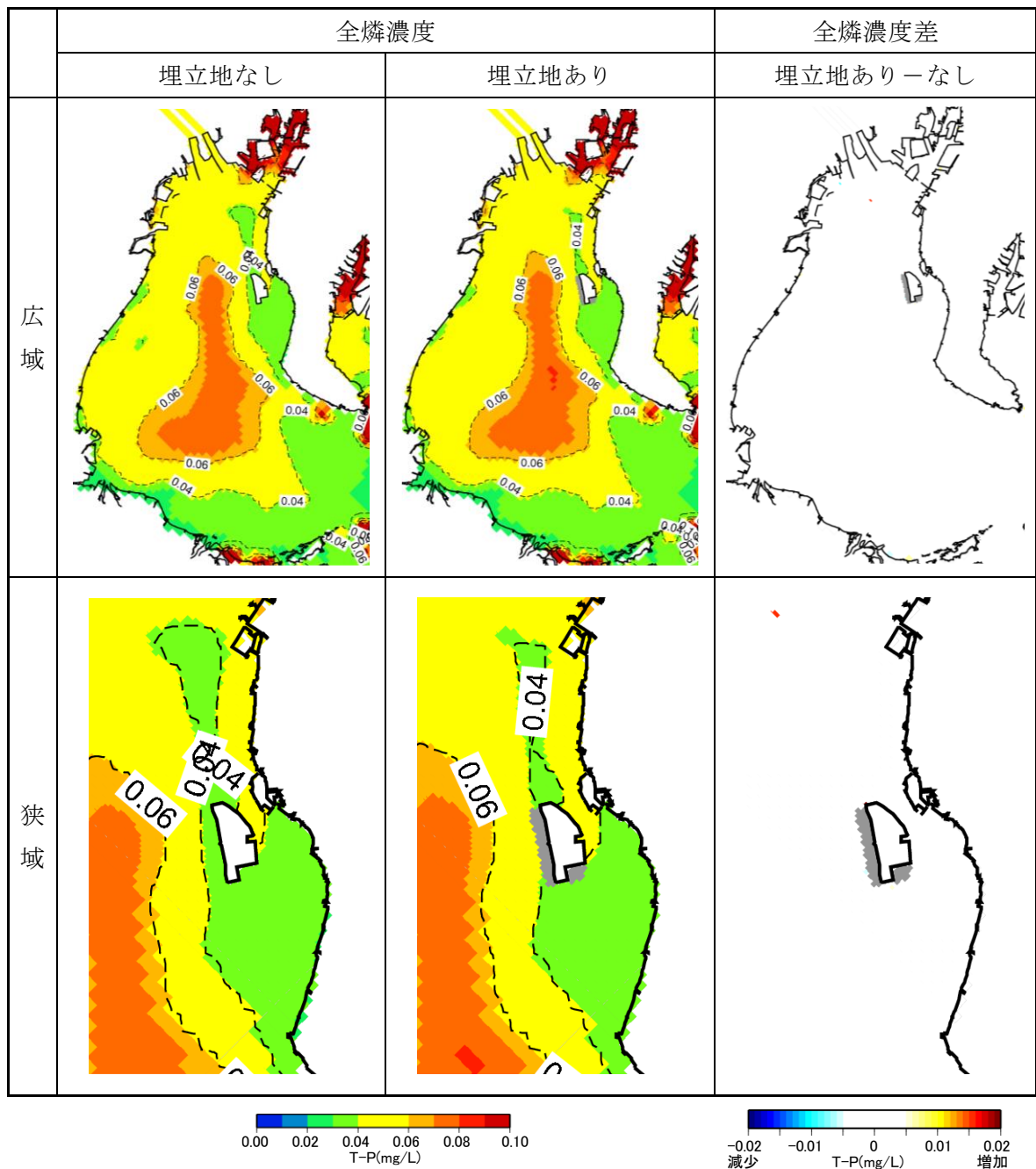
付図 8.4-44(1) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果(春季・上層)

- 注：1. 上層（水深0～0.5m）の5月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.02mg/L間隔で示す。



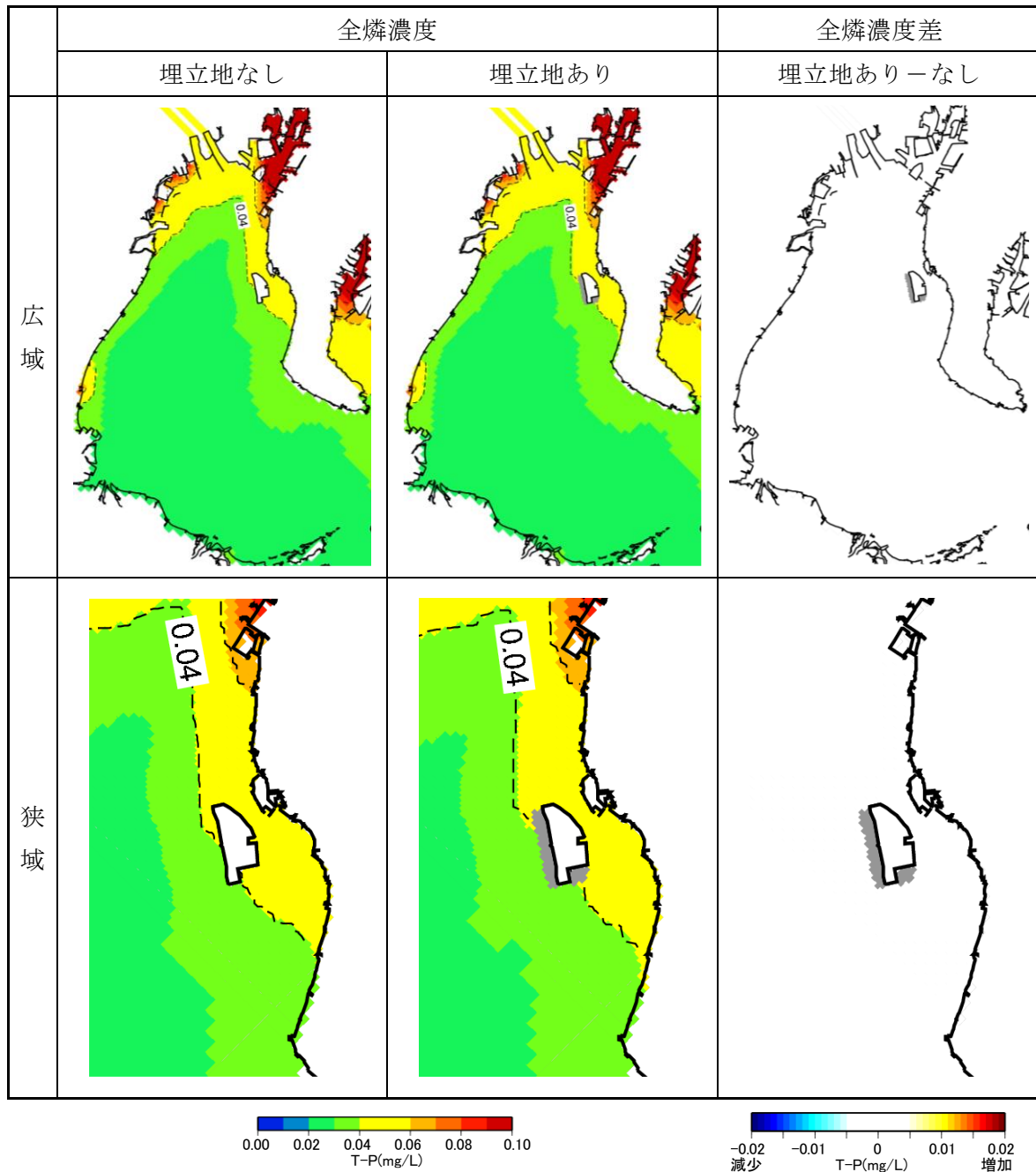
付図 8.4-44(2) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果(春季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 5 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



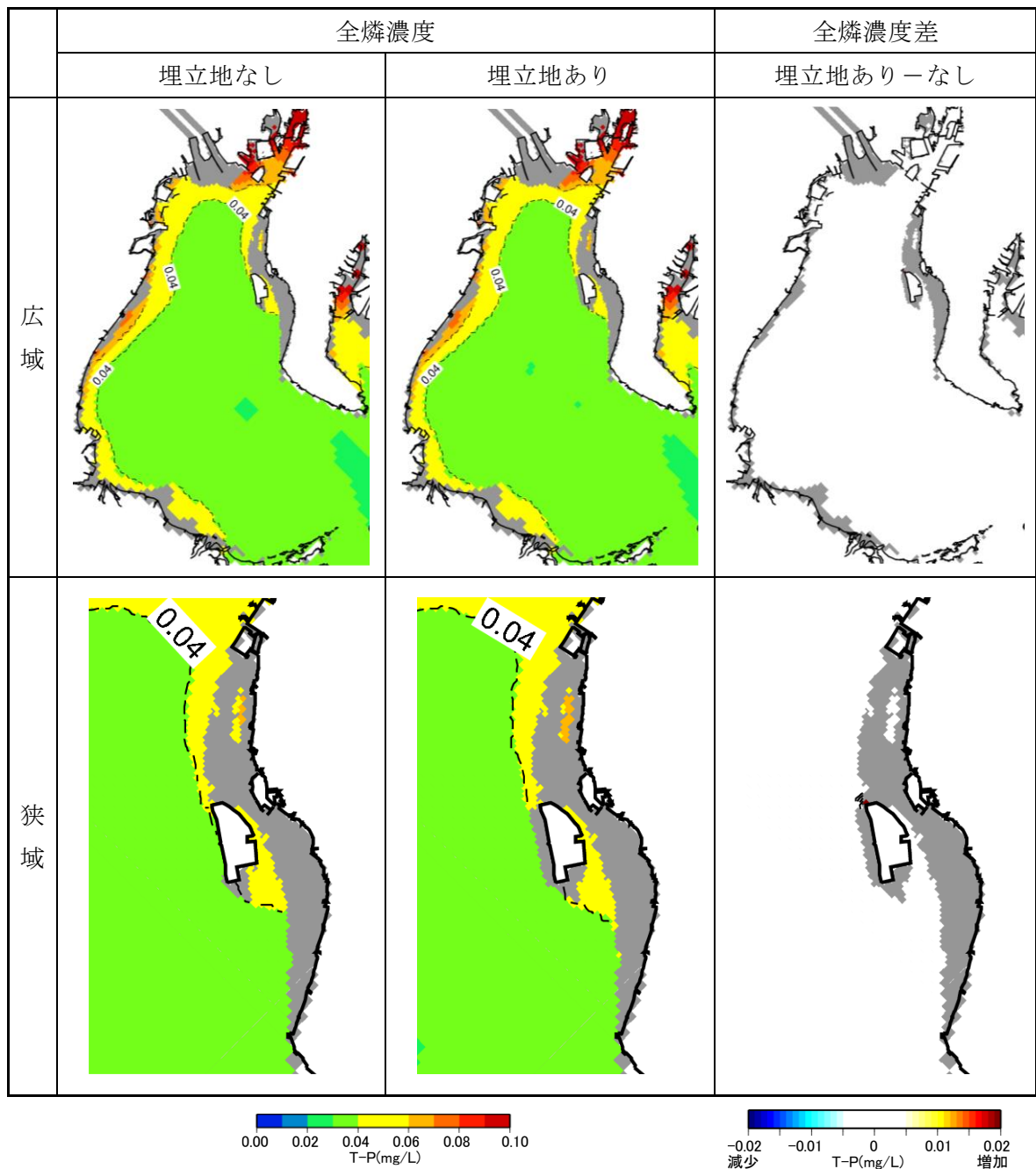
付図 8.4-44(3) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果(春季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の5月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.02mg/L間隔で示す。



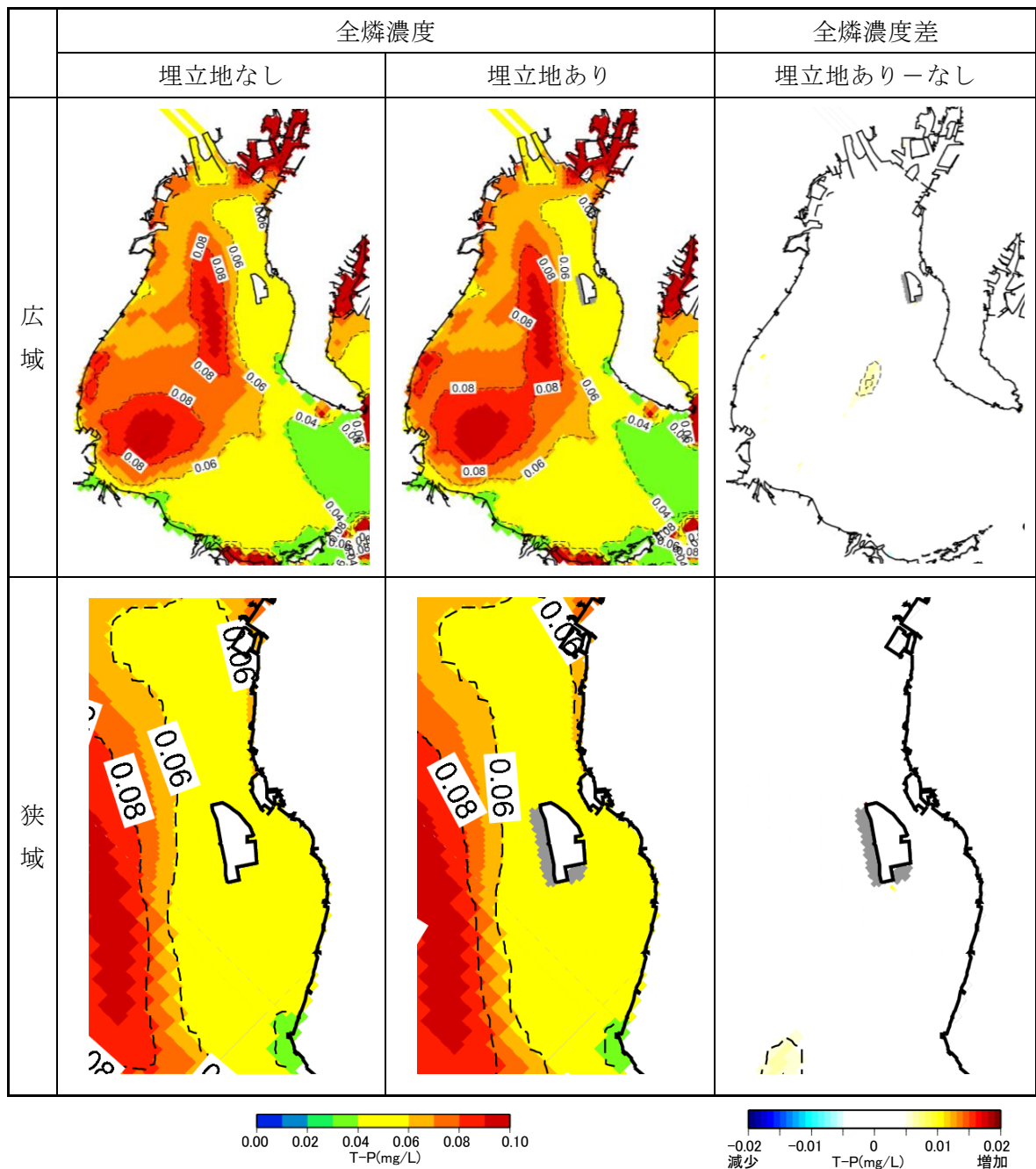
付図 8.4-44(4) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果(夏季・上層)

- 注：1. 上層（水深0～0.5m）の8月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.02mg/L間隔で示す。



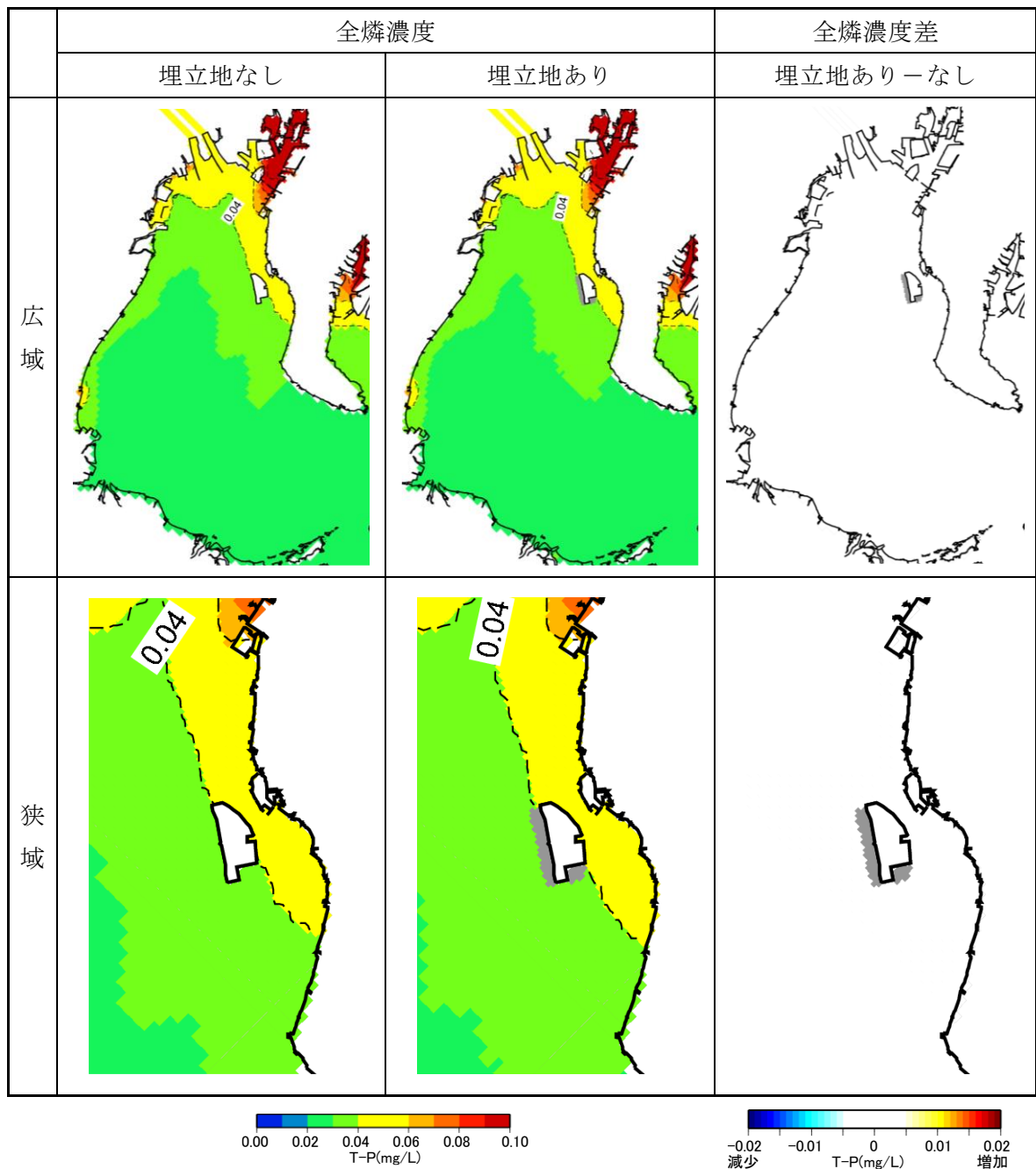
付図 8.4-44(5) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果(夏季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 8月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



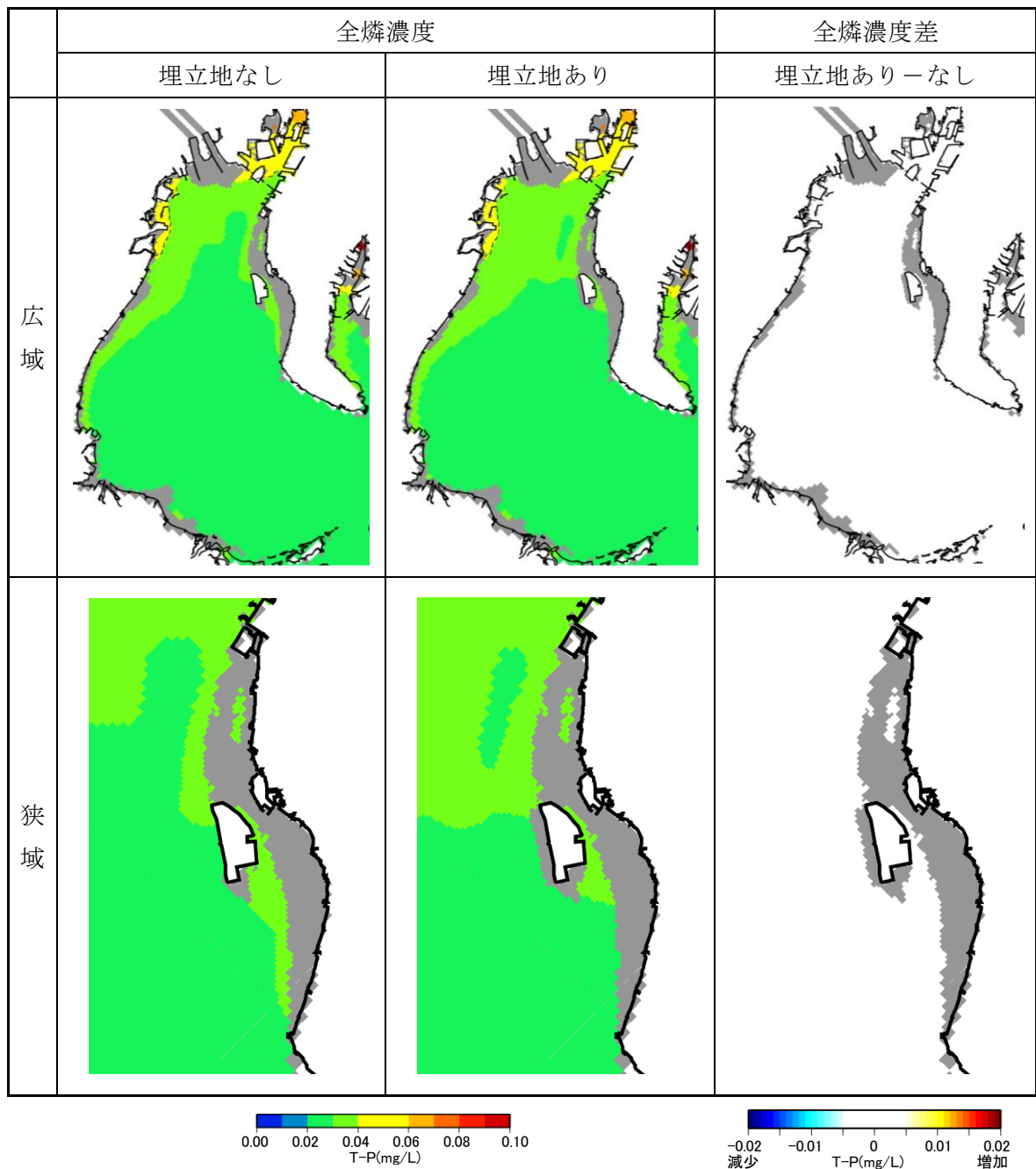
付図 8.4-44(6) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果(夏季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の8月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.02mg/L間隔で示す。



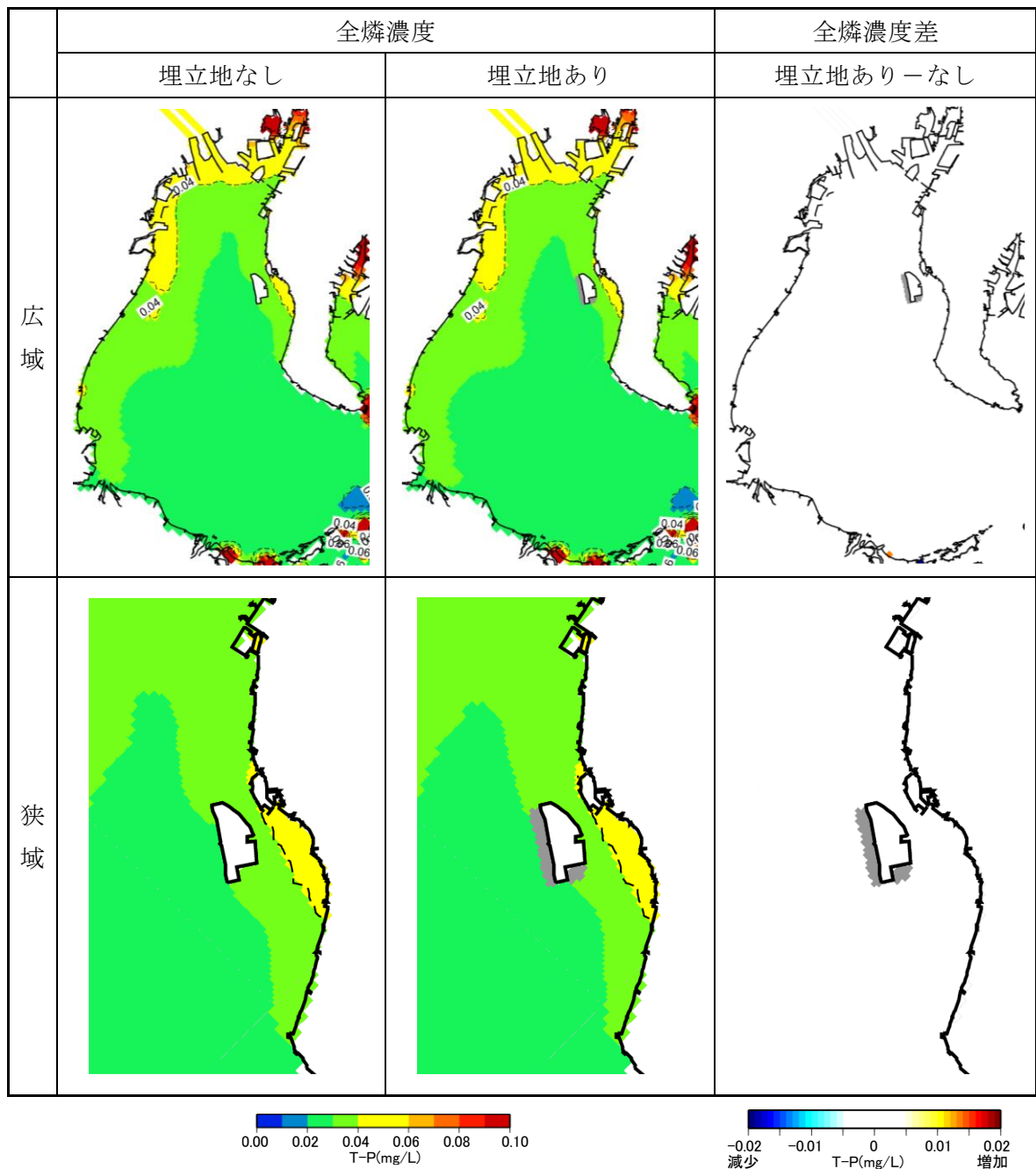
付図 8.4-44(7) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果(秋季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 11 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



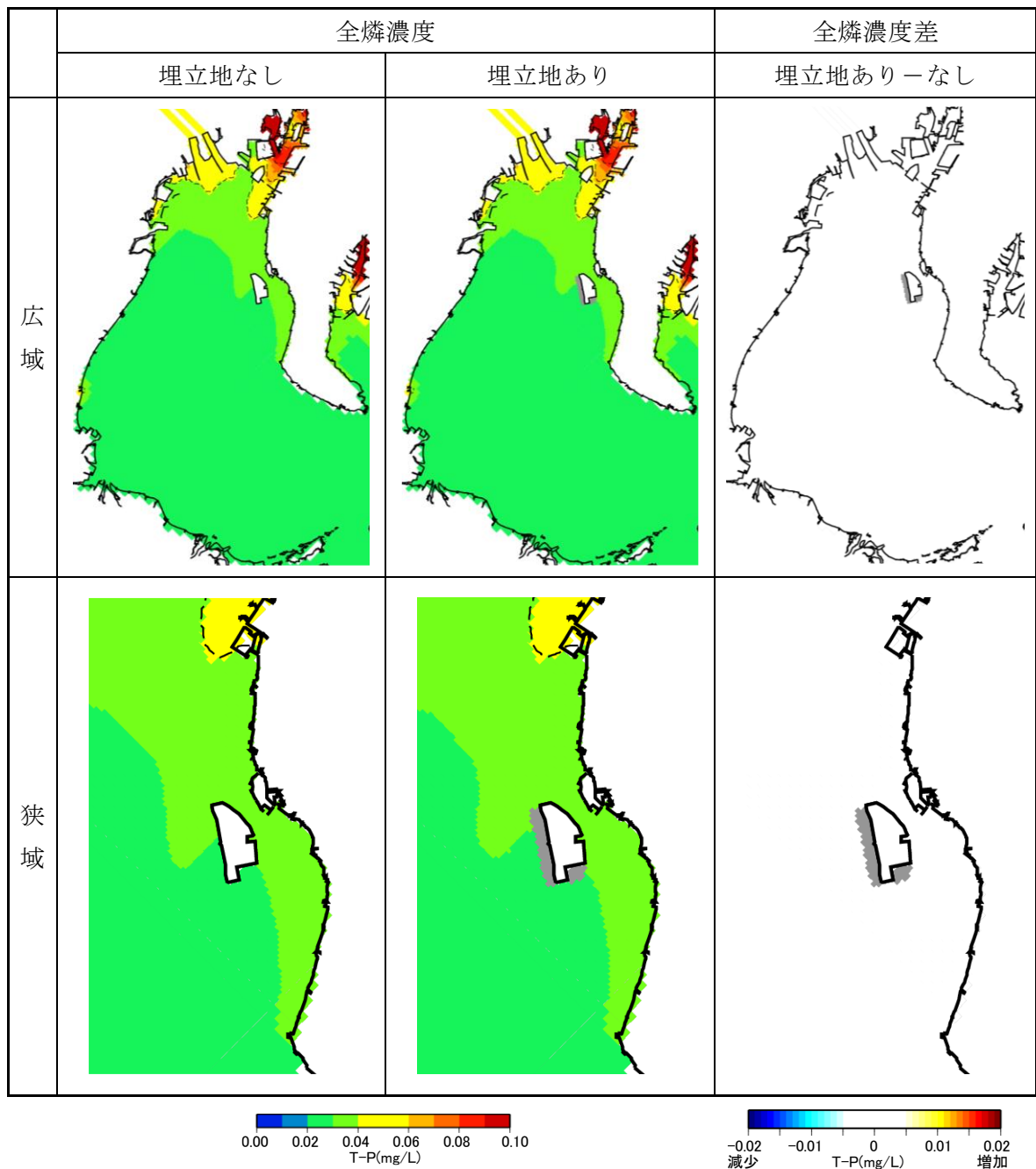
付図 8.4-44(8) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果(秋季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 11 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



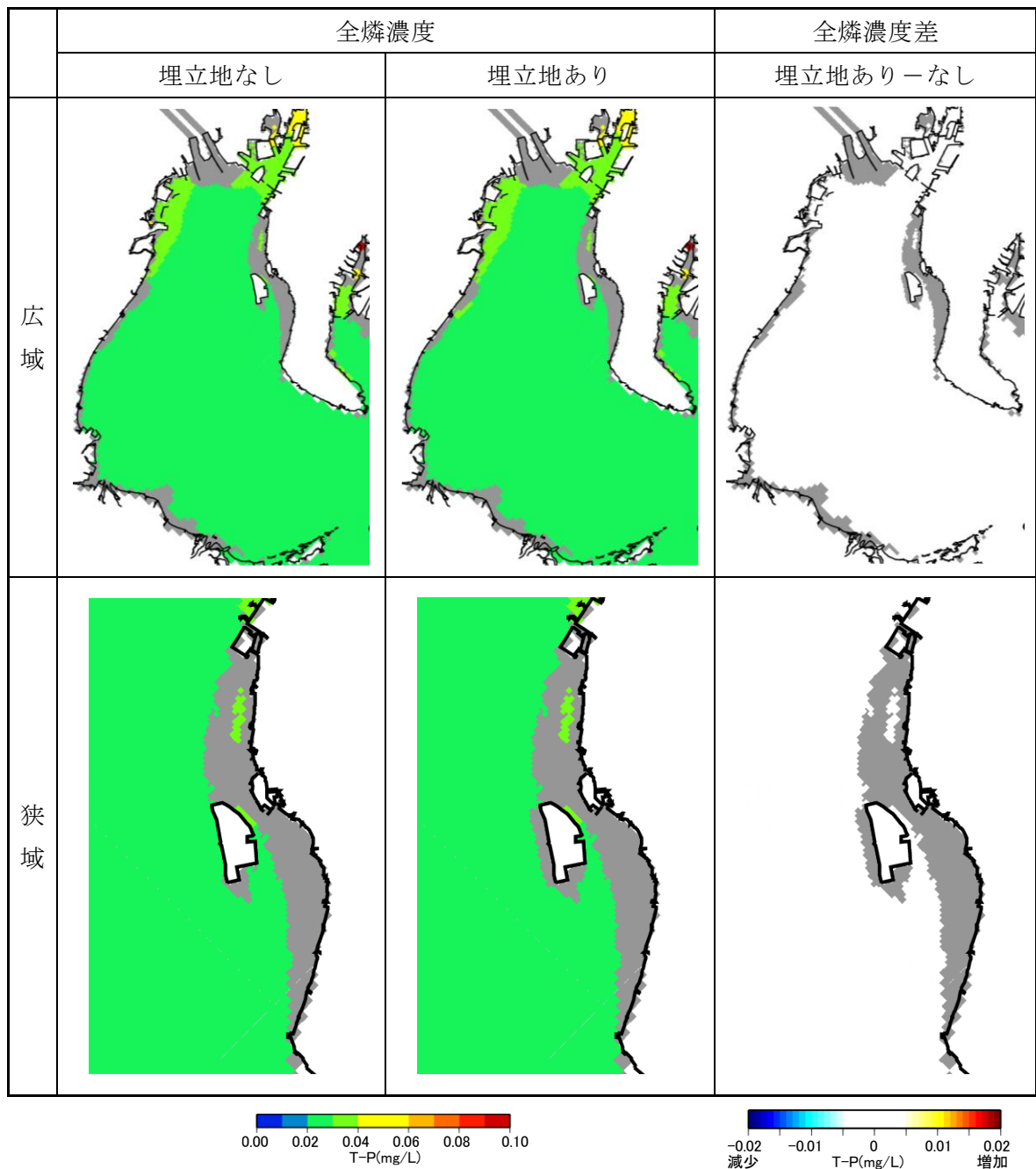
付図 8.4-44(9) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果(秋季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の11月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.02mg/L間隔で示す。



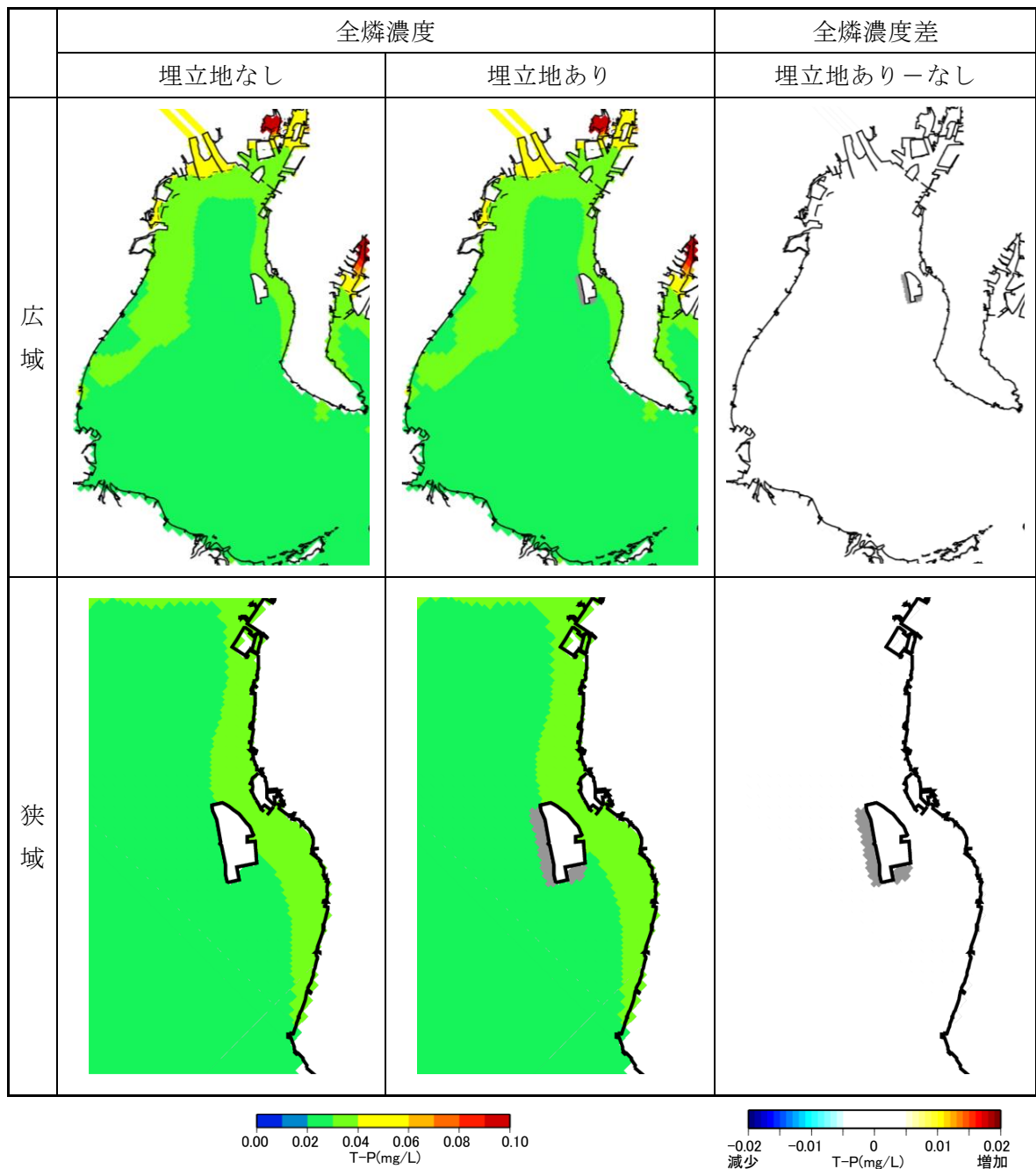
付図 8.4-44(10) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果
(冬季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 2 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



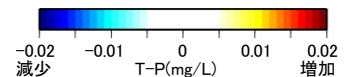
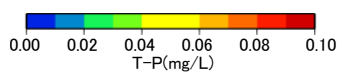
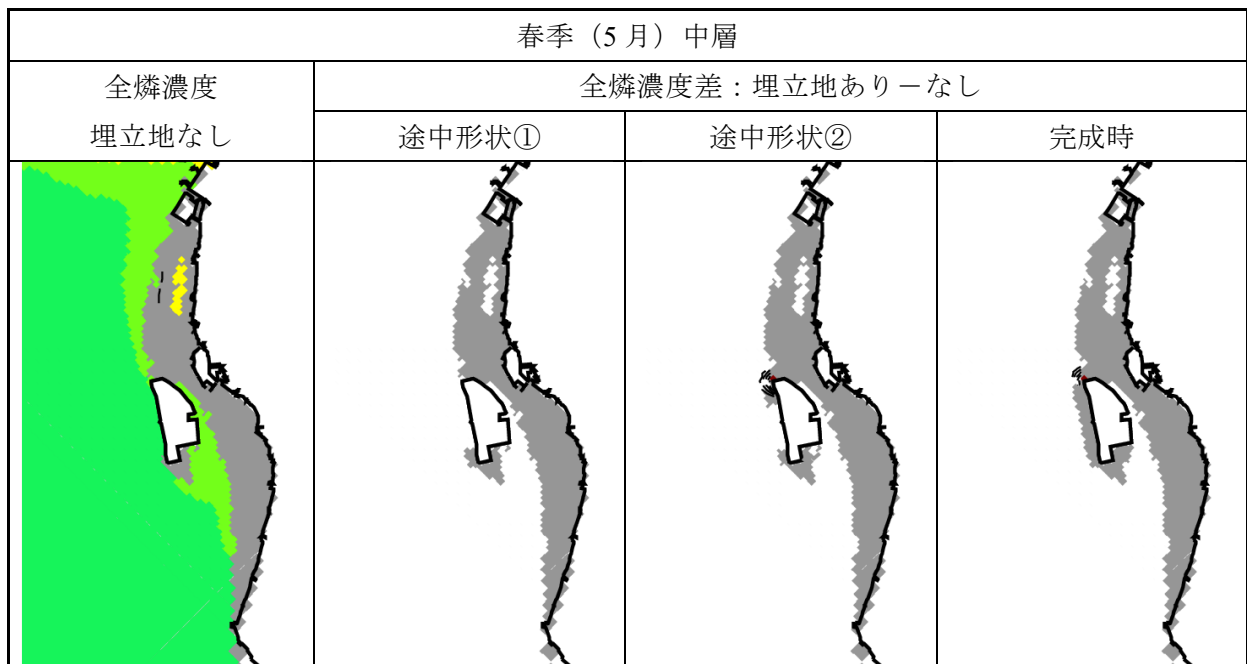
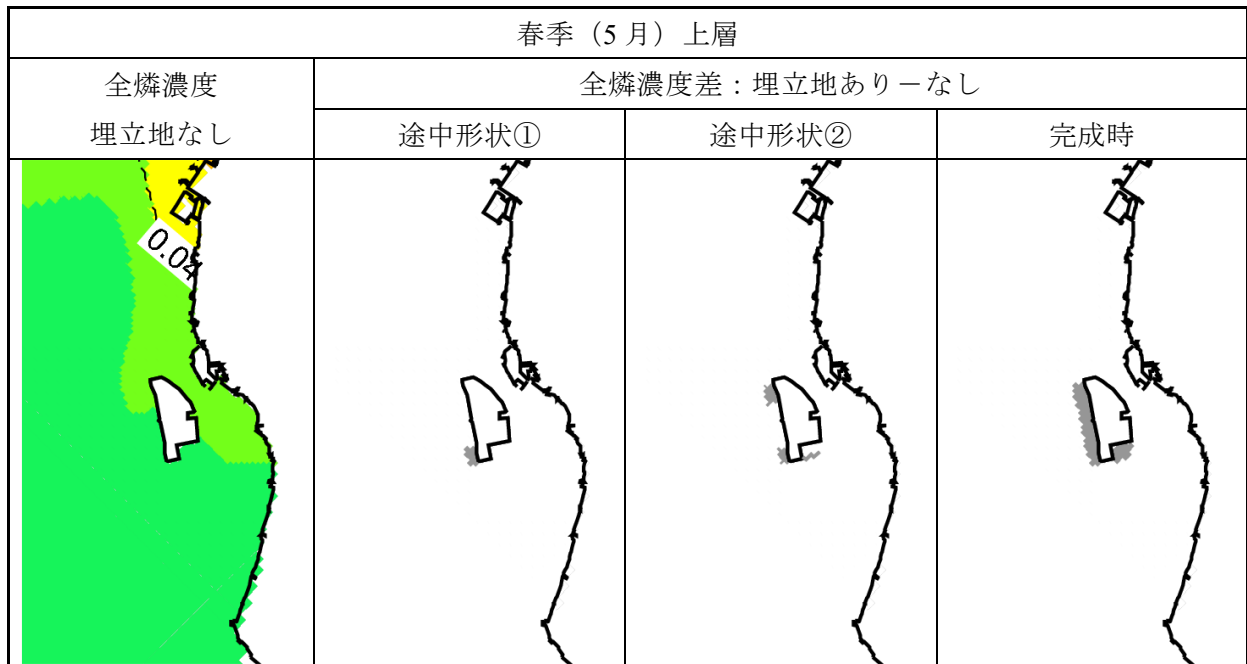
付図 8.4-44(11) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果
(冬季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 2 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



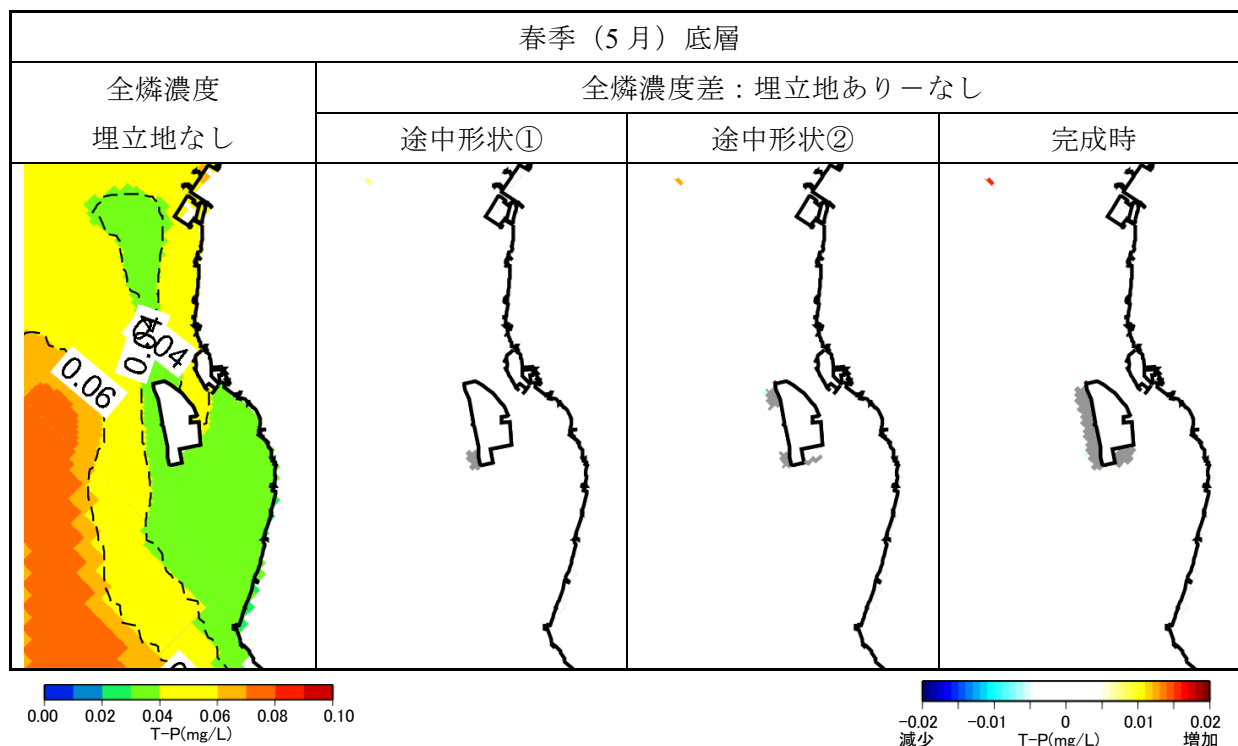
付図 8.4-44(12) 埋立地あり及びなしの場合における全燐の予測結果
(冬季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の2月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.02mg/L間隔で示す。



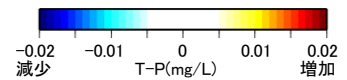
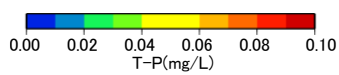
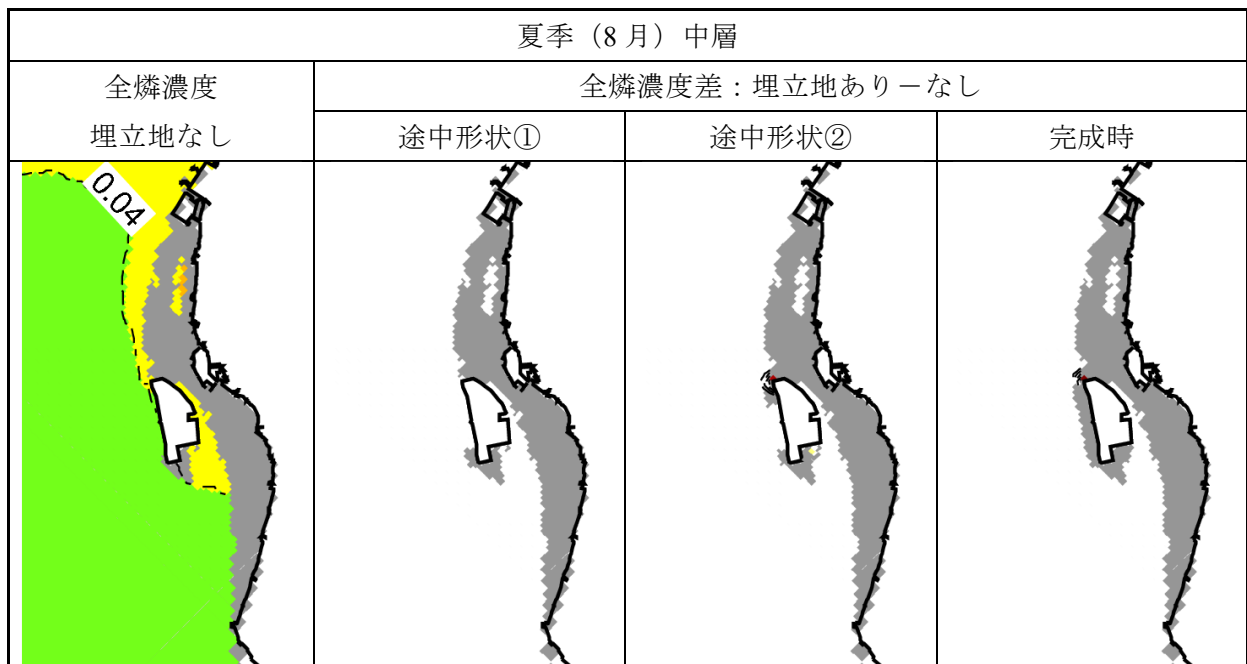
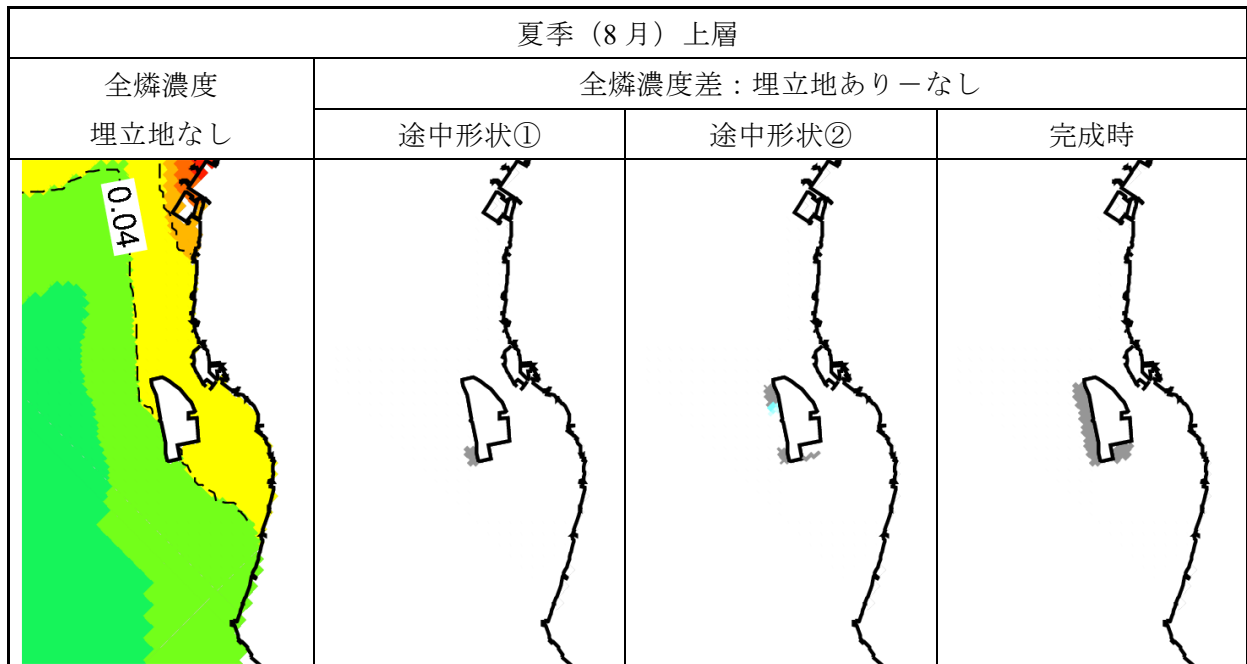
付図 8.4-45(1) 埋立ての途中形状及び完成時における全燐の予測結果（春季）

- 注：1. 上図は上層（水深 0～0.5m）、下図は中層（水深 7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



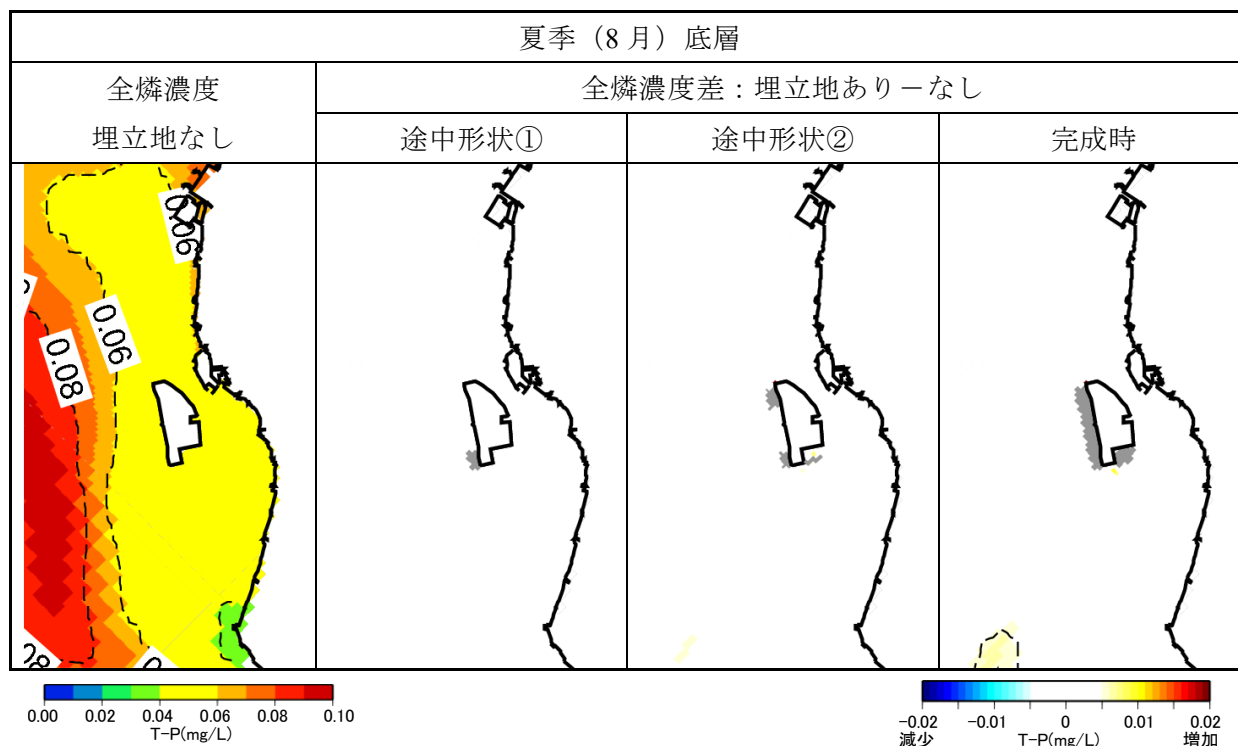
付図 8.4-45 (2) 埋立ての途中形状及び完成時における全燐の予測結果（春季）

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



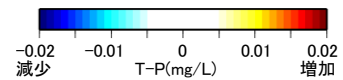
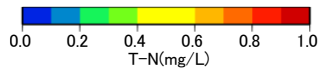
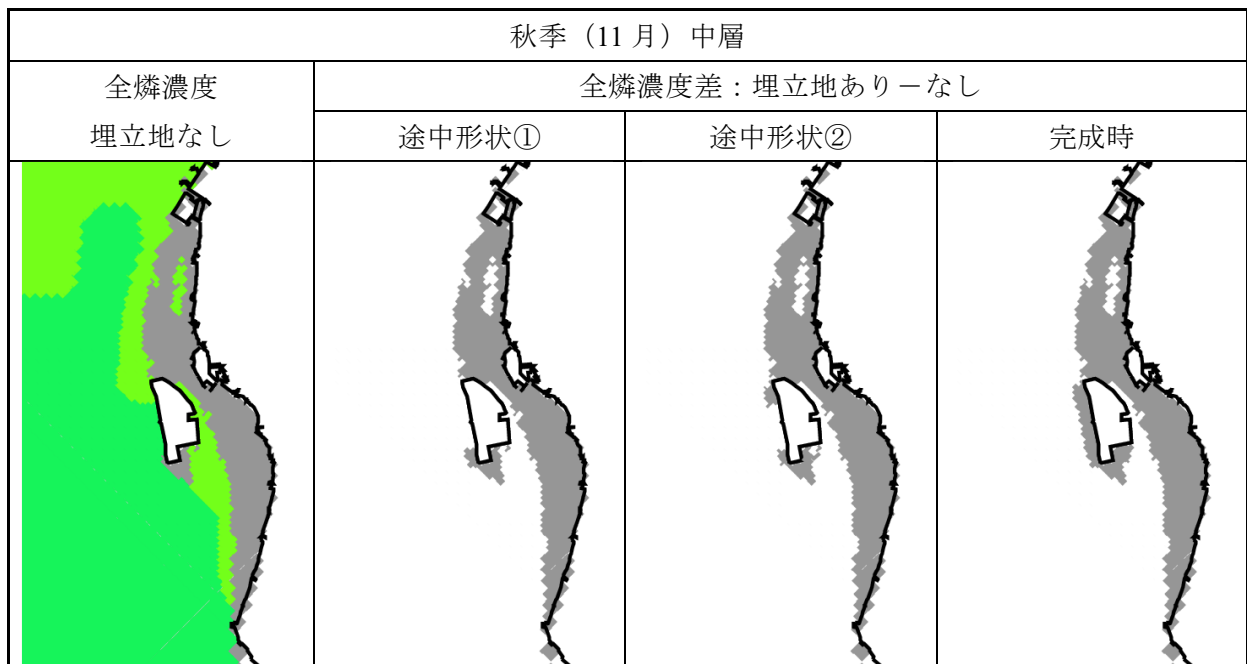
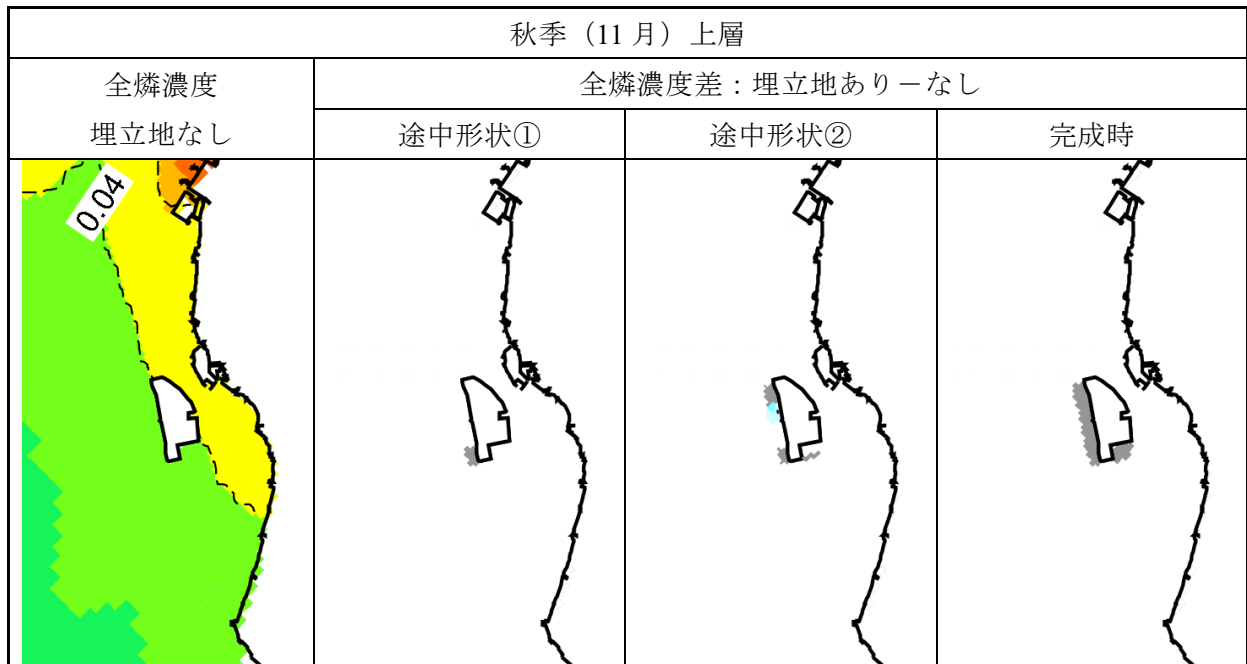
付図 8.4-45 (3) 埋立ての途中形状及び完成時における全燐の予測結果（夏季）

- 注：1. 上図は上層（水深 0～0.5m）、下図は中層（水深 7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



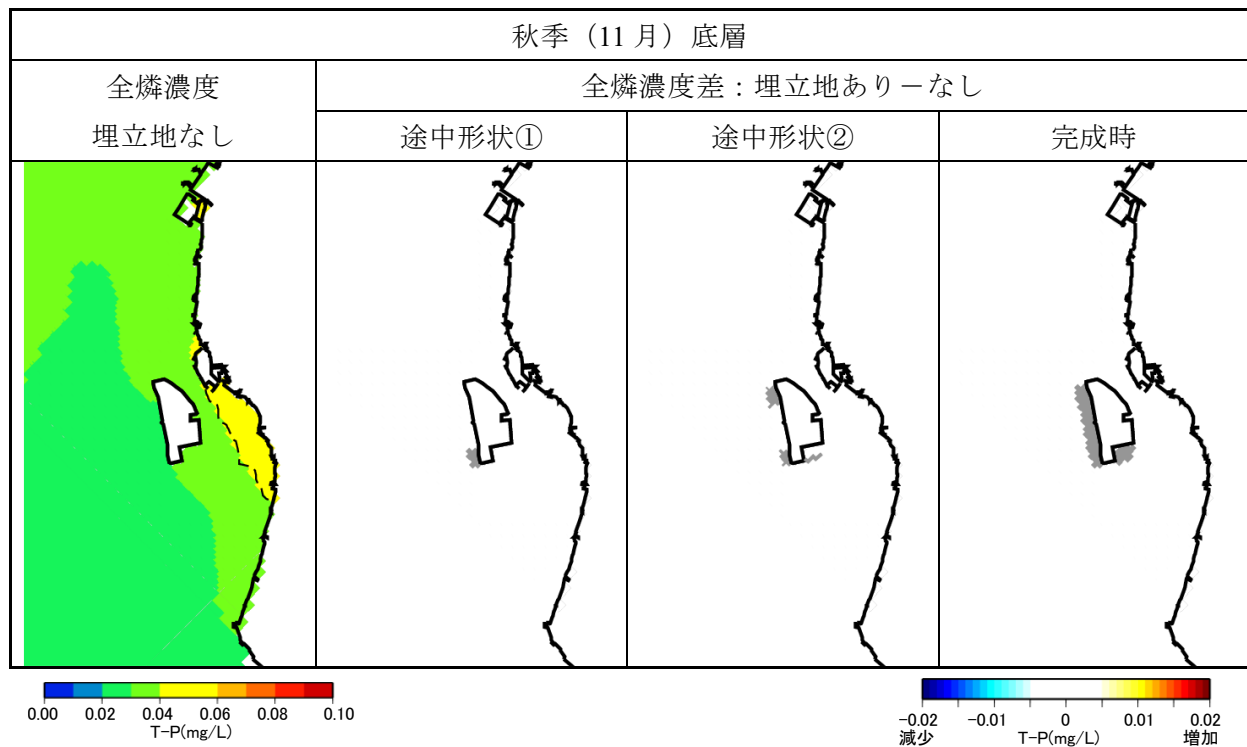
付図 8.4-45(4) 埋立ての途中形状及び完成時における全燐の予測結果（夏季）

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



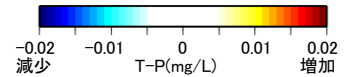
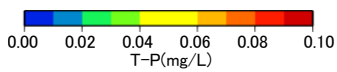
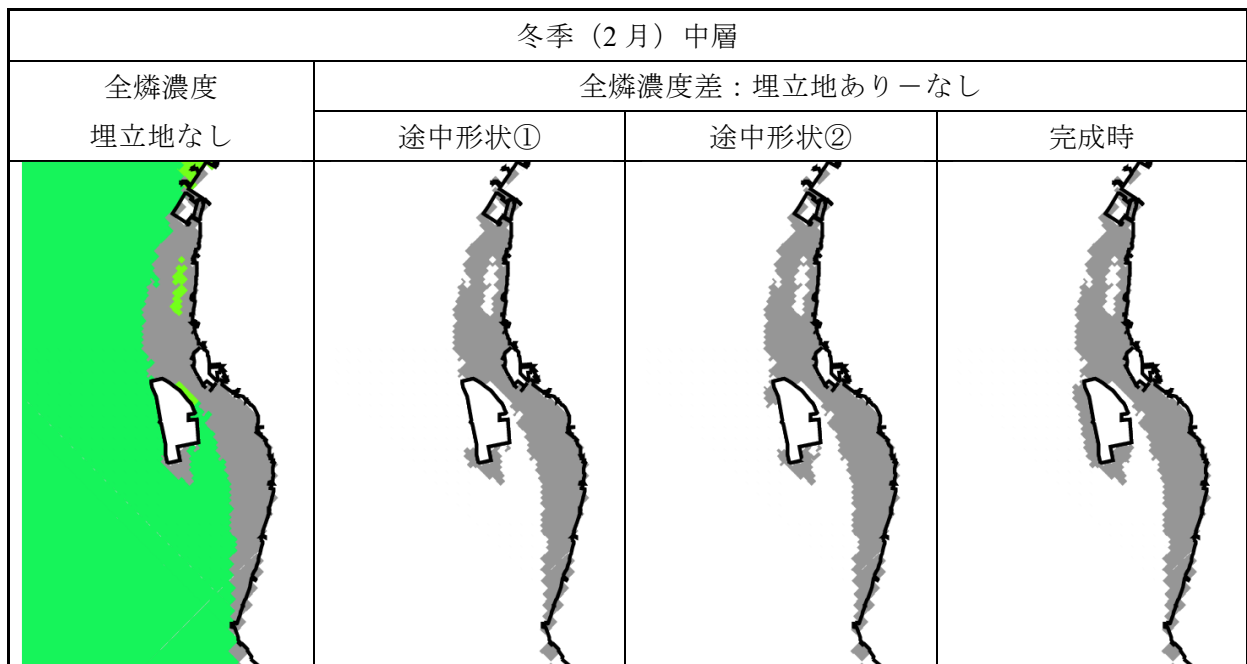
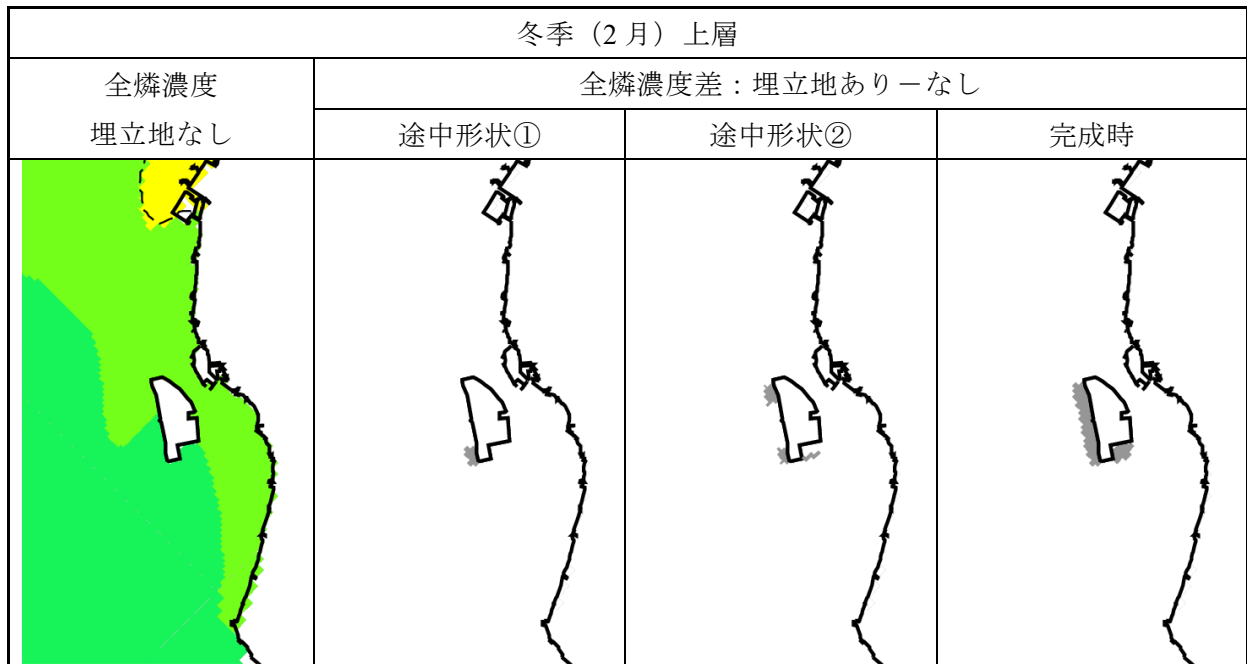
付図 8.4-45 (5) 埋立ての途中形状及び完成時における全燐の予測結果（秋季）

- 注：1. 上図は上層（水深 0～0.5m）、下図は中層（水深 7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



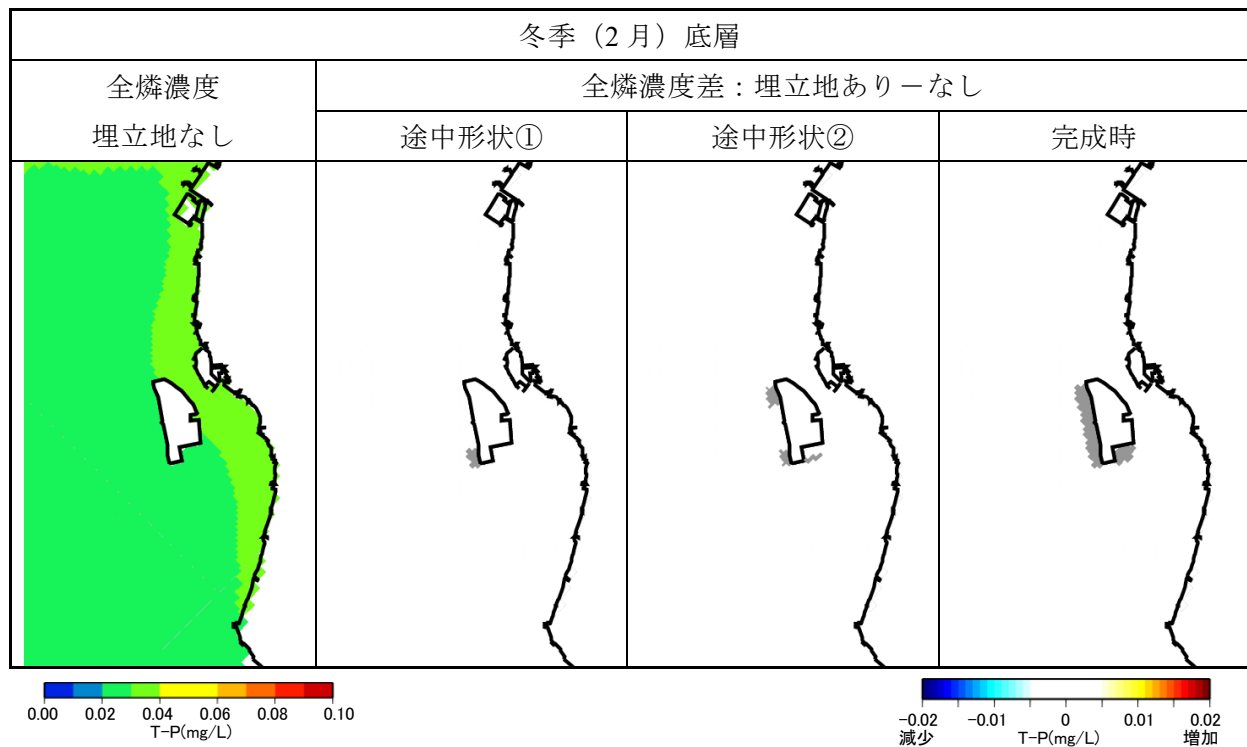
付図 8.4-45 (6) 埋立ての途中形状及び完成時における全燐の予測結果（秋季）

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



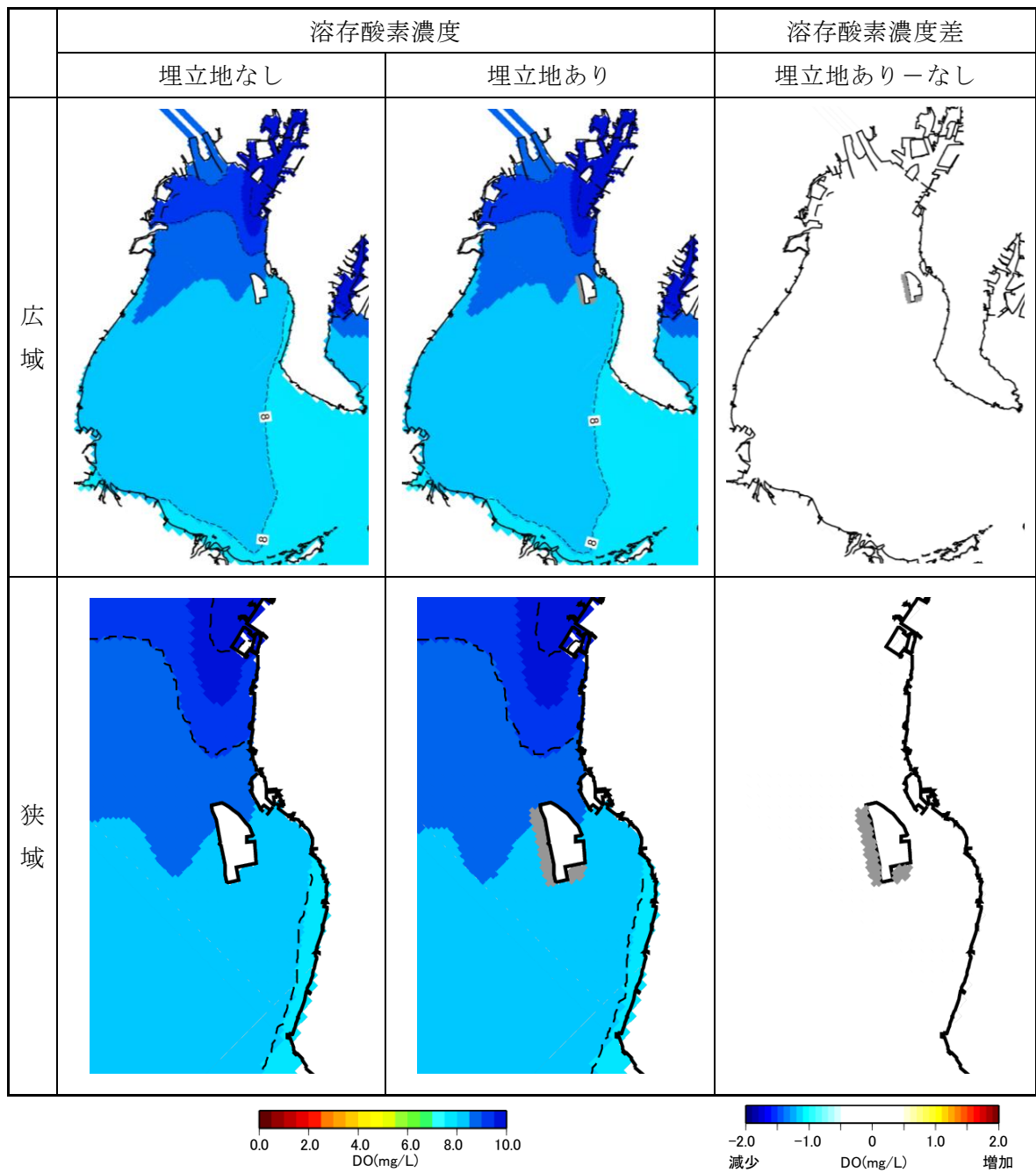
付図 8.4-45(7) 埋立ての途中形状及び完成時における全燐の予測結果（冬季）

- 注：1. 上図は上層（水深0～0.5m）、下図は中層（水深7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は0.02mg/L間隔で示す。



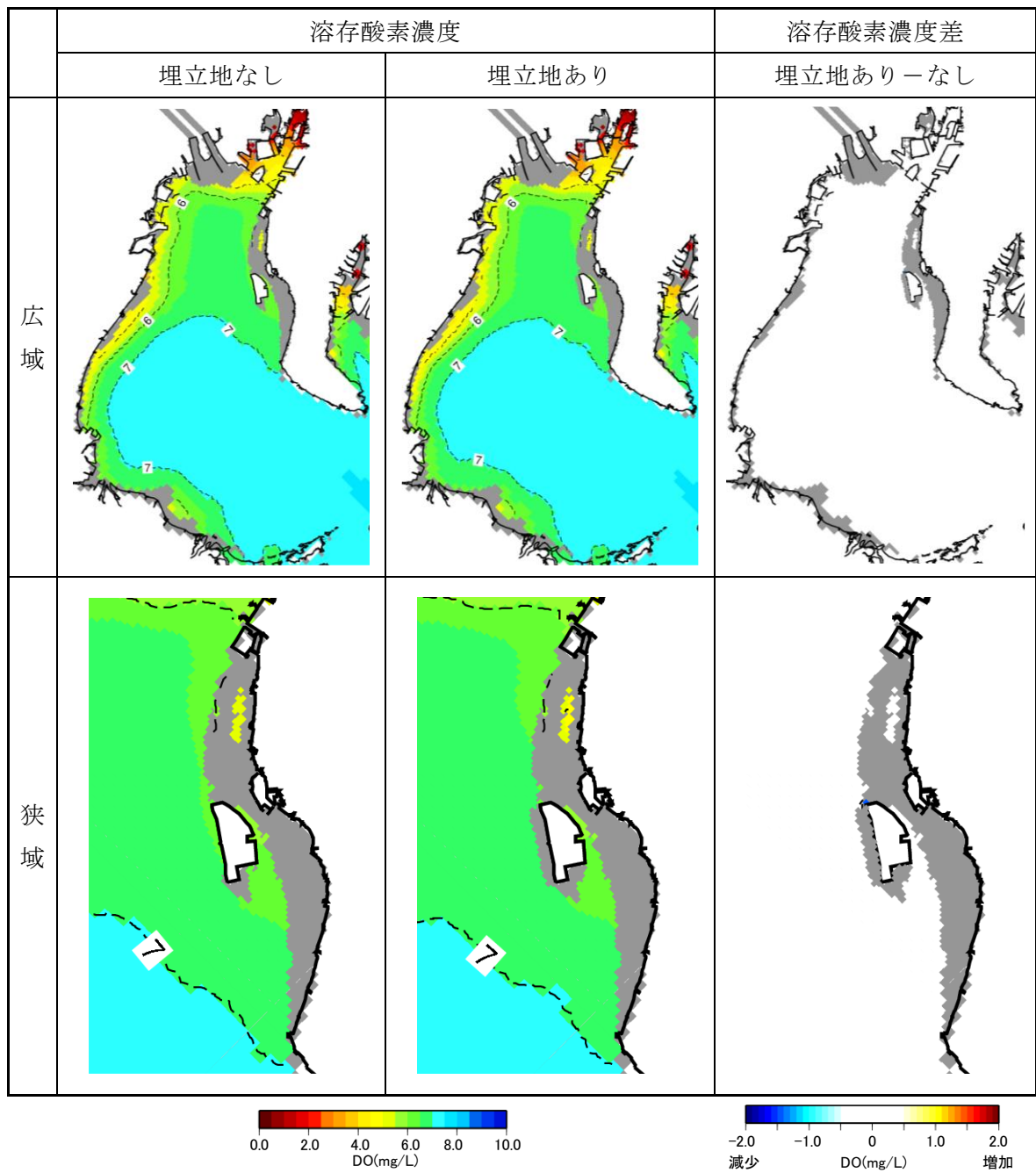
付図 8.4-45 (8) 埋立ての途中形状及び完成時における全燐の予測結果（冬季）

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 0.02mg/L 間隔で示す。



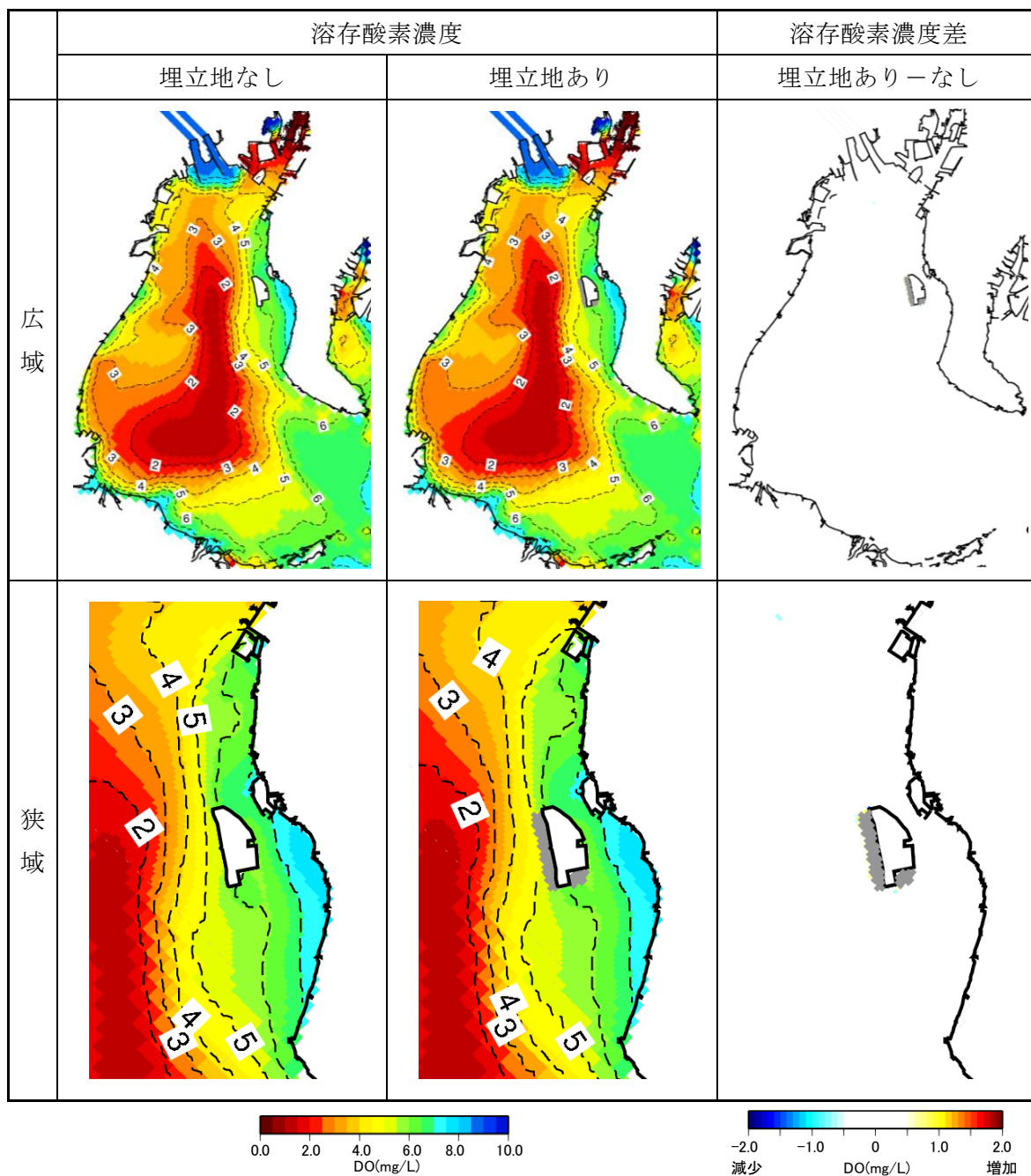
付図 8.4-46(1) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(春季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 5 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



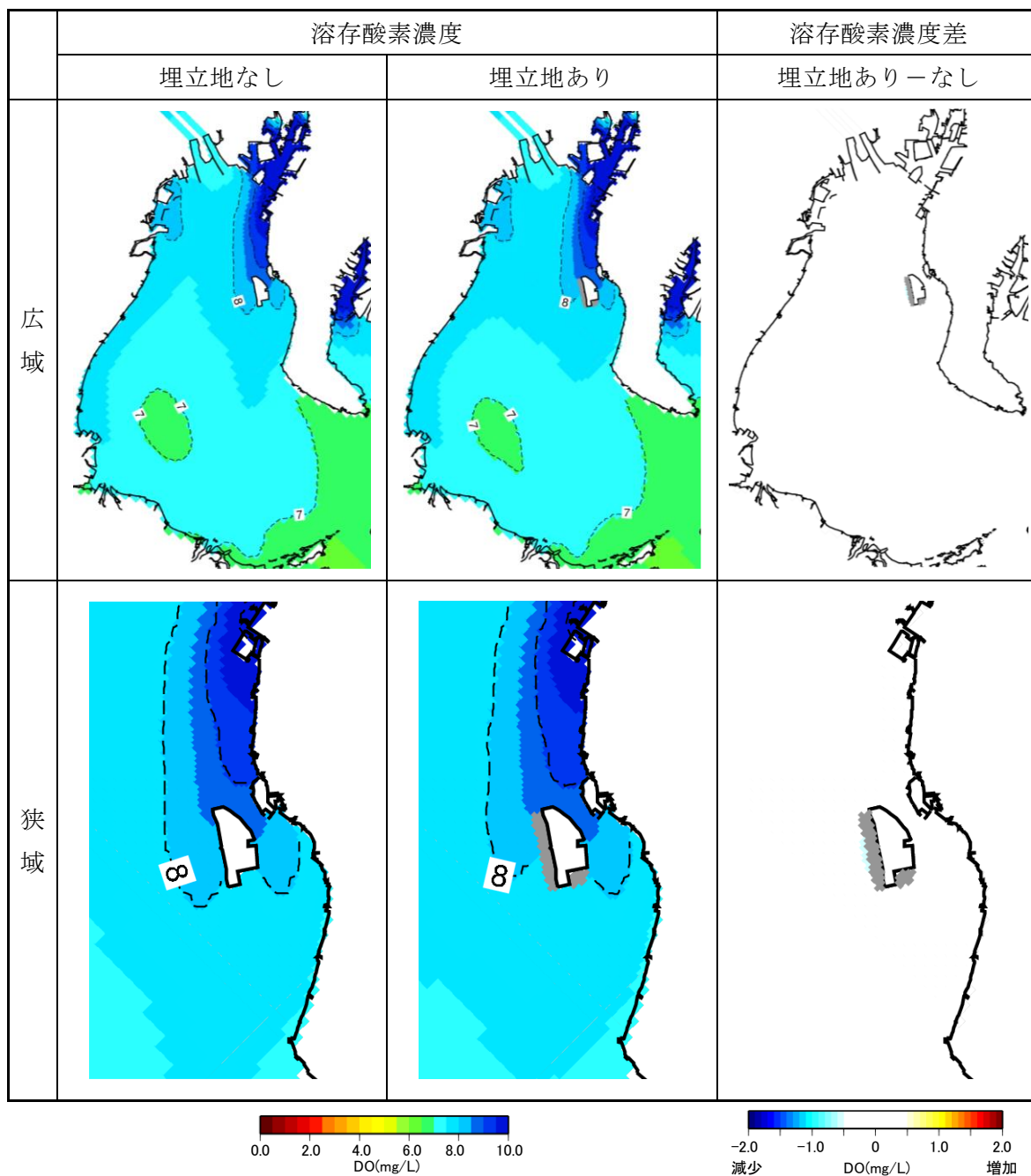
付図 8.4-46(2) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(春季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 5 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



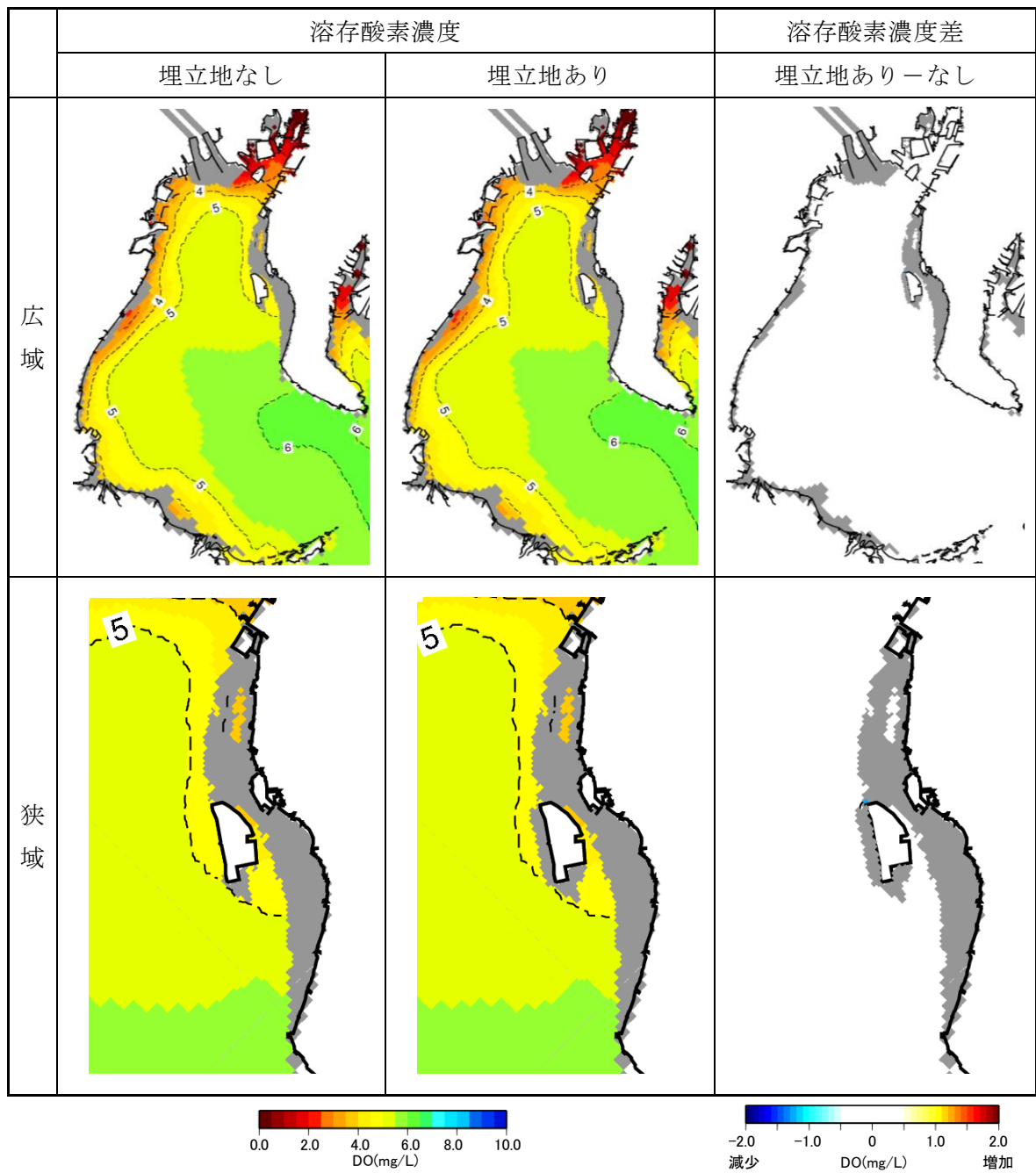
付図 8.4-46(3) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(春季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の5月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



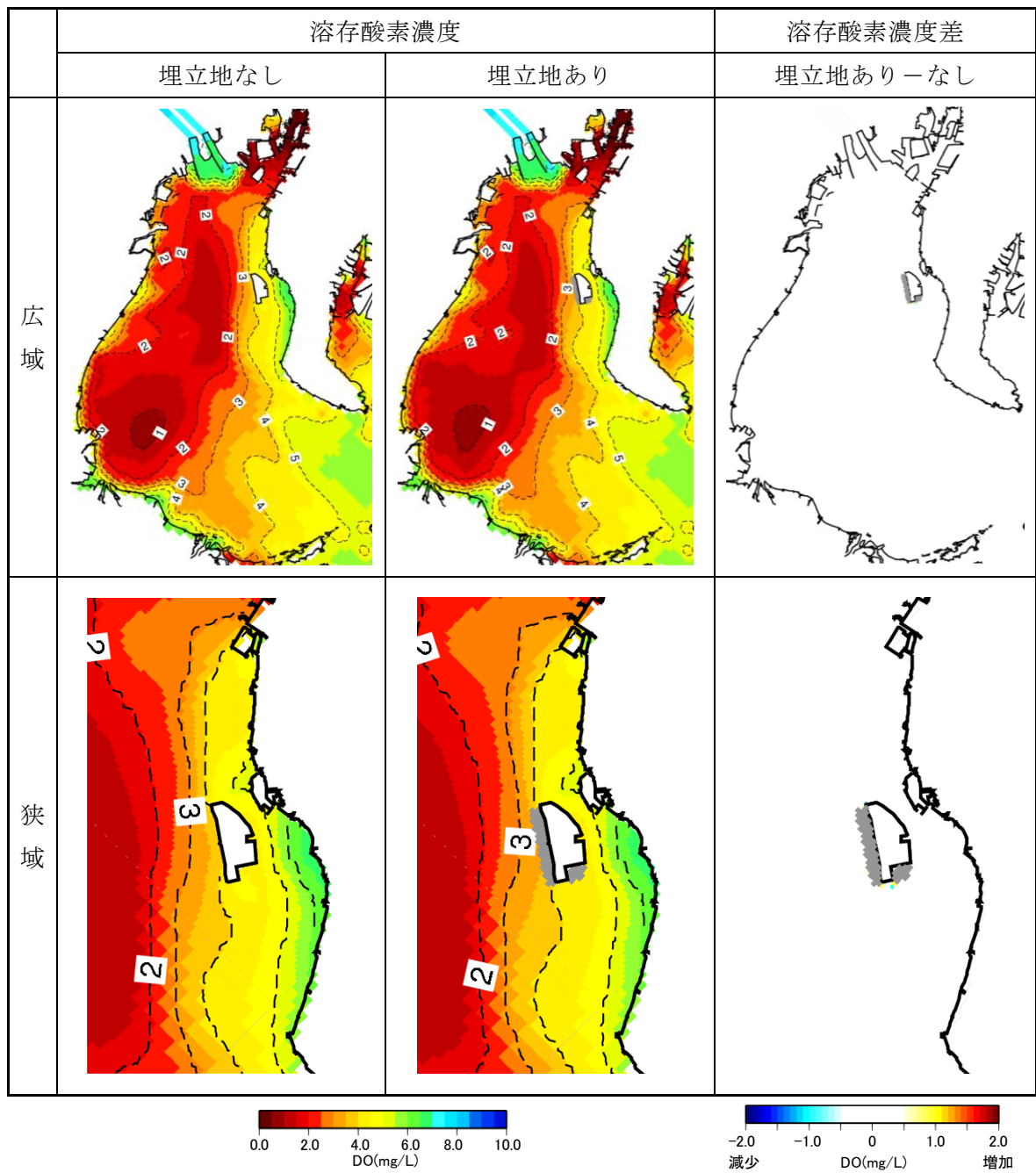
付図 8.4-46(4) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(夏季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 8月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



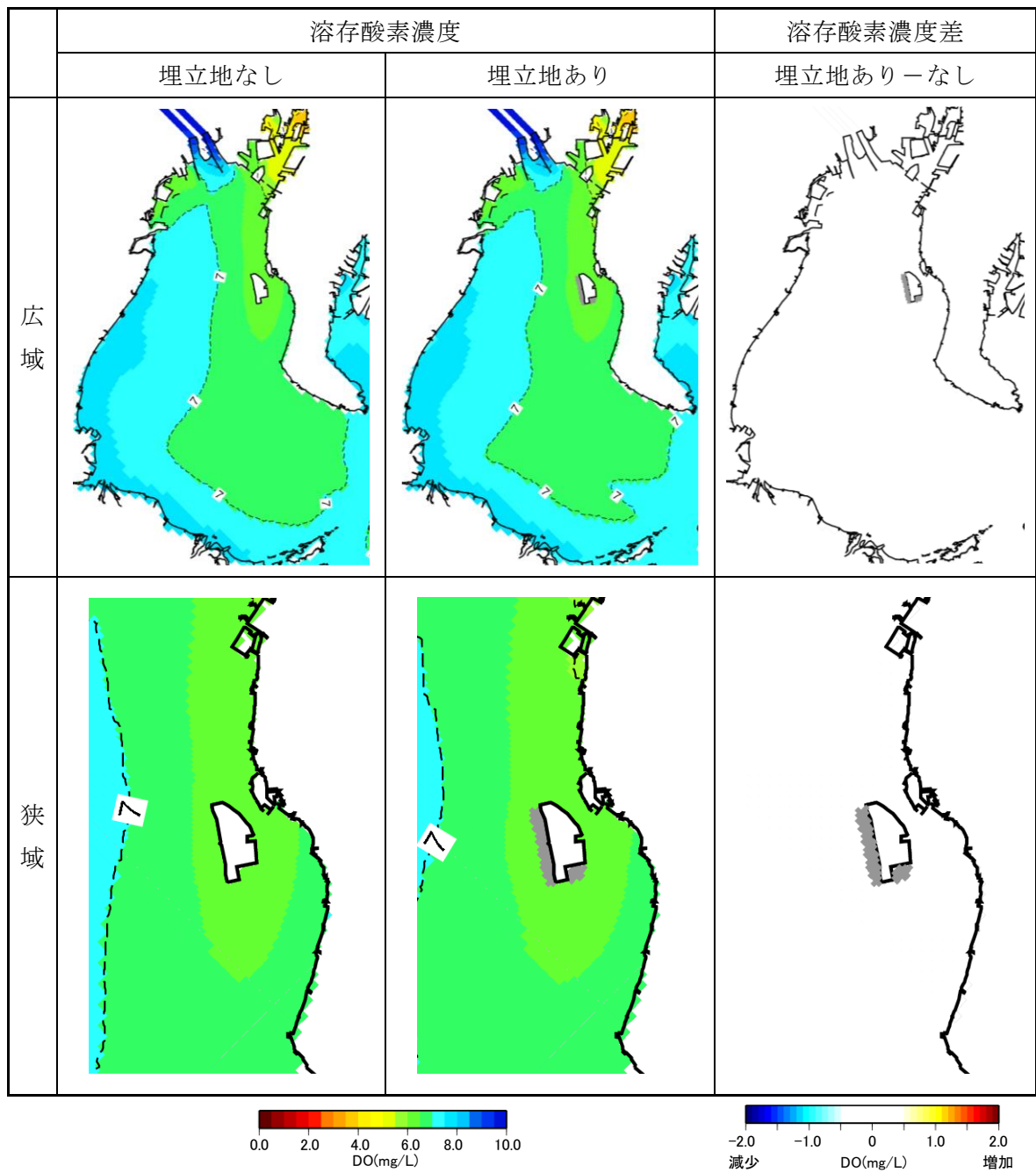
付図 8.4-46(5) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(夏季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 8 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



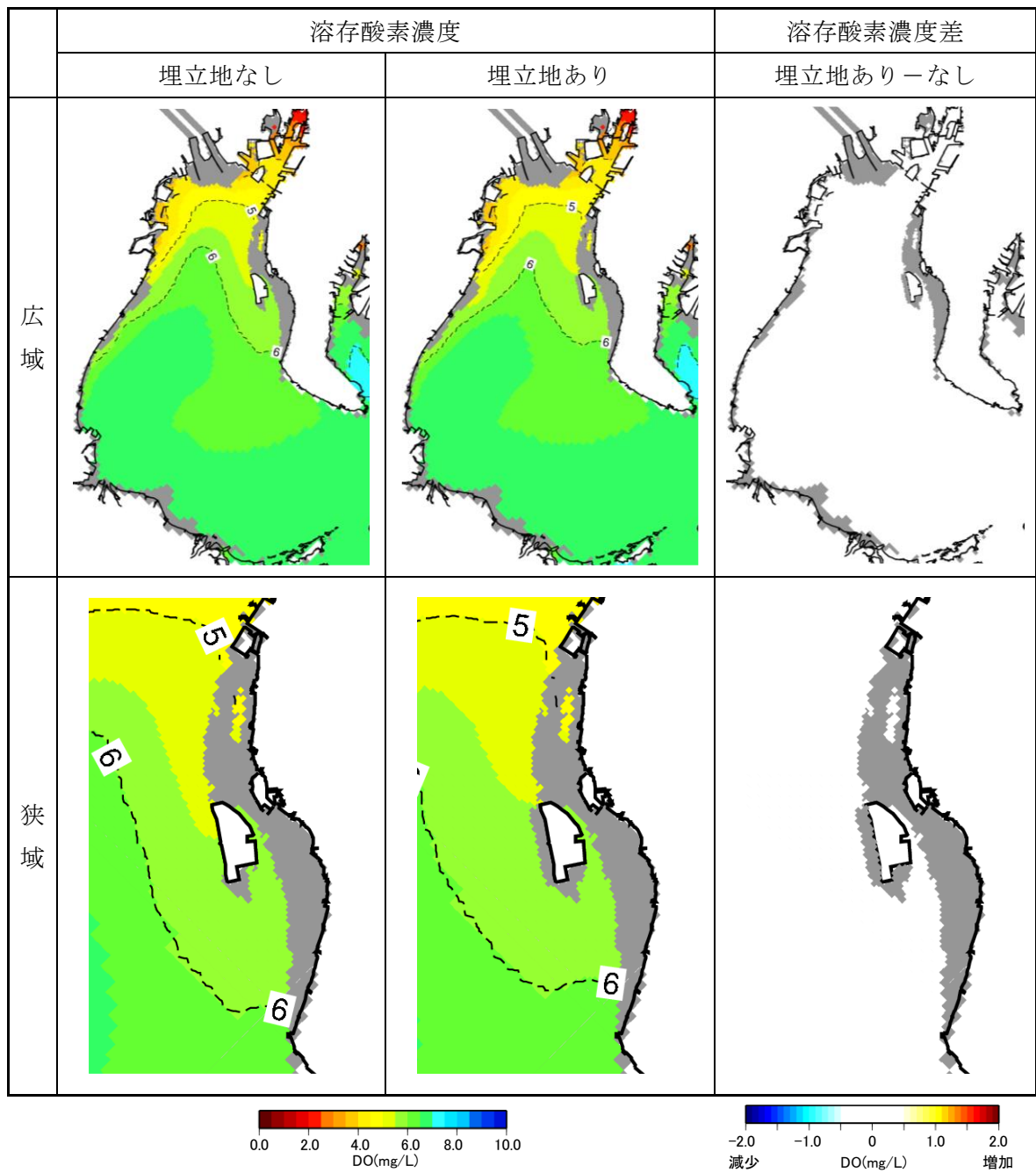
付図 8.4-46(6) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(夏季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の8月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



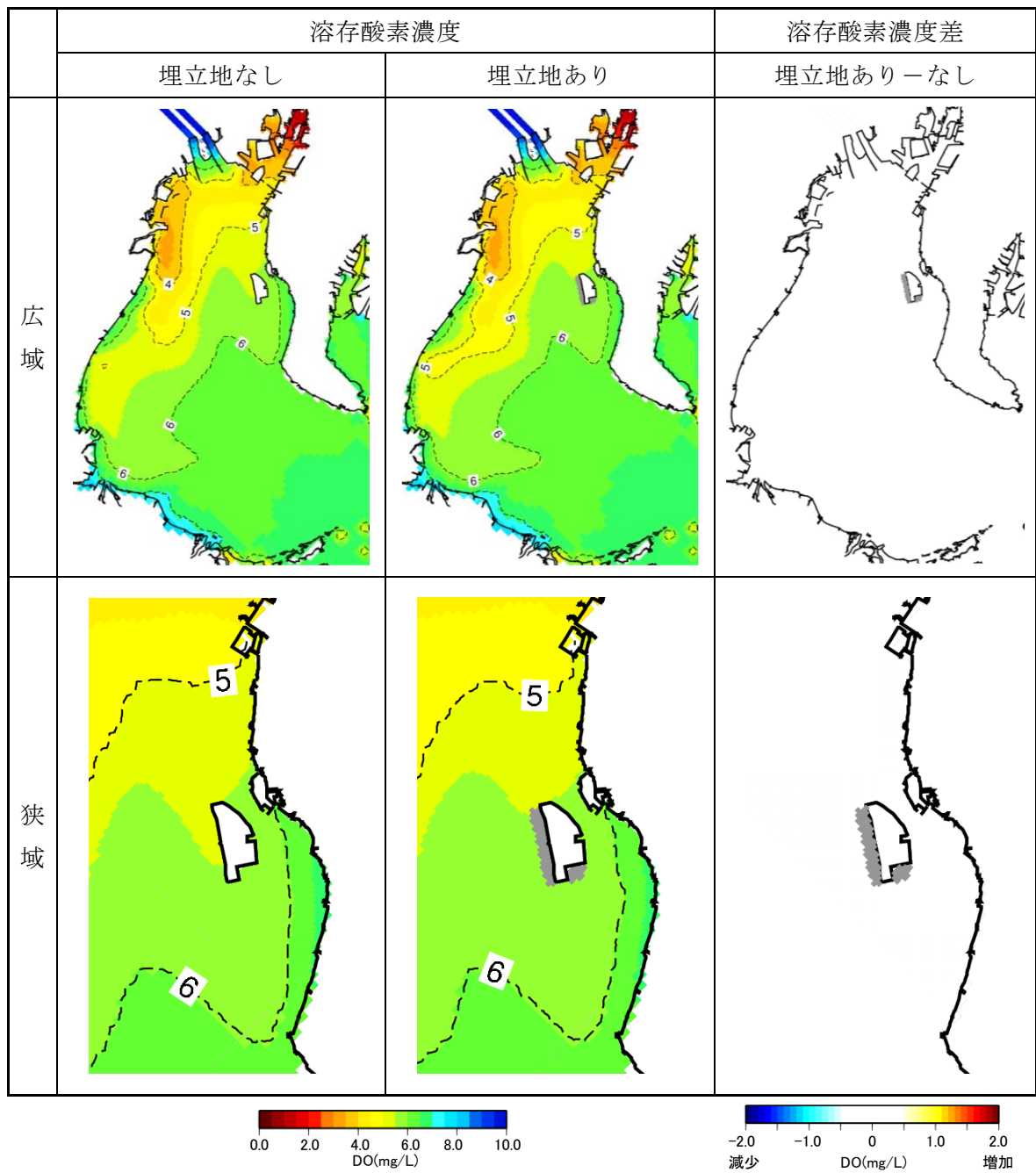
付図 8.4-46(7) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(秋季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 11 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



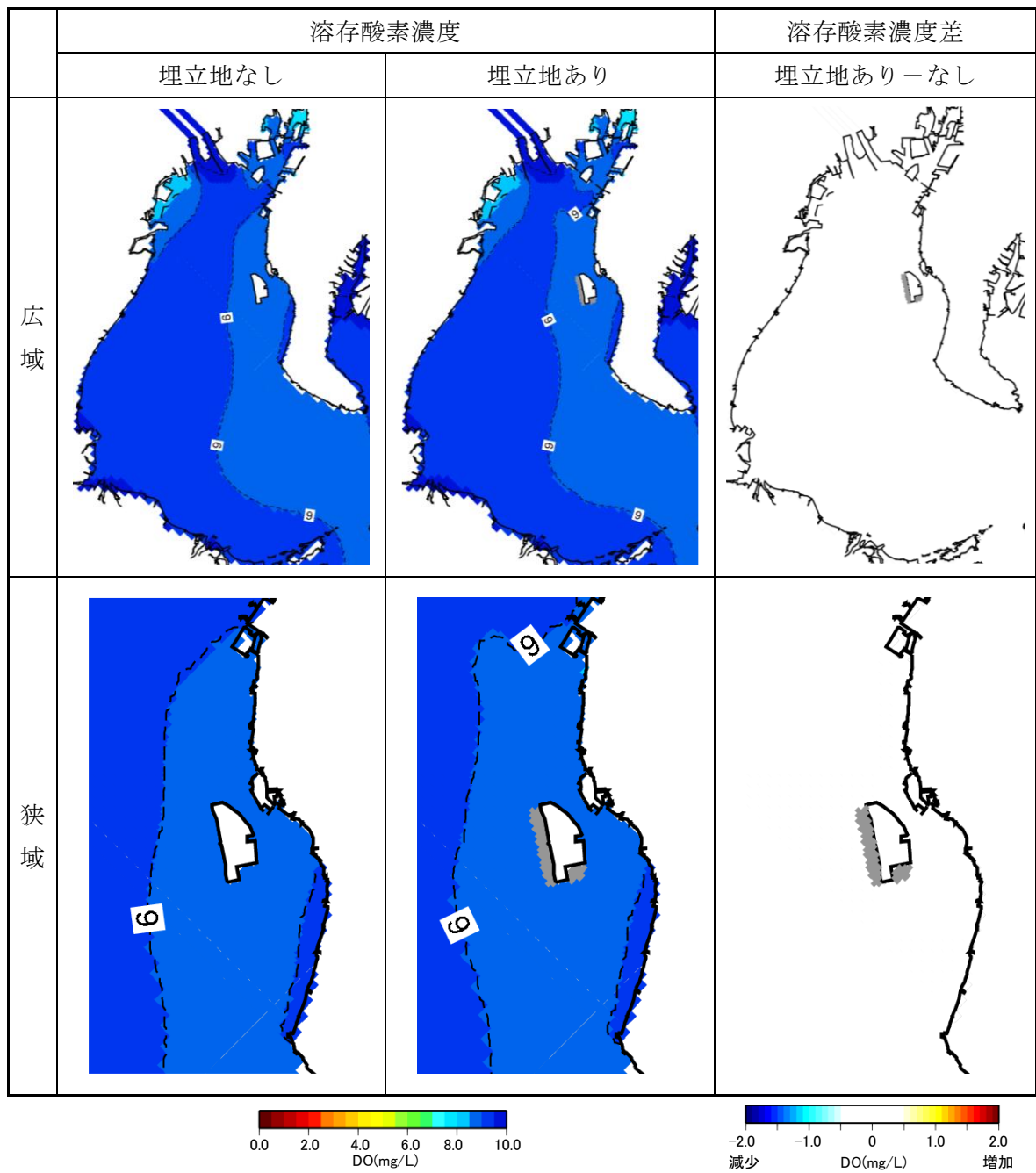
付図 8.4-46(8) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(秋季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 11 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



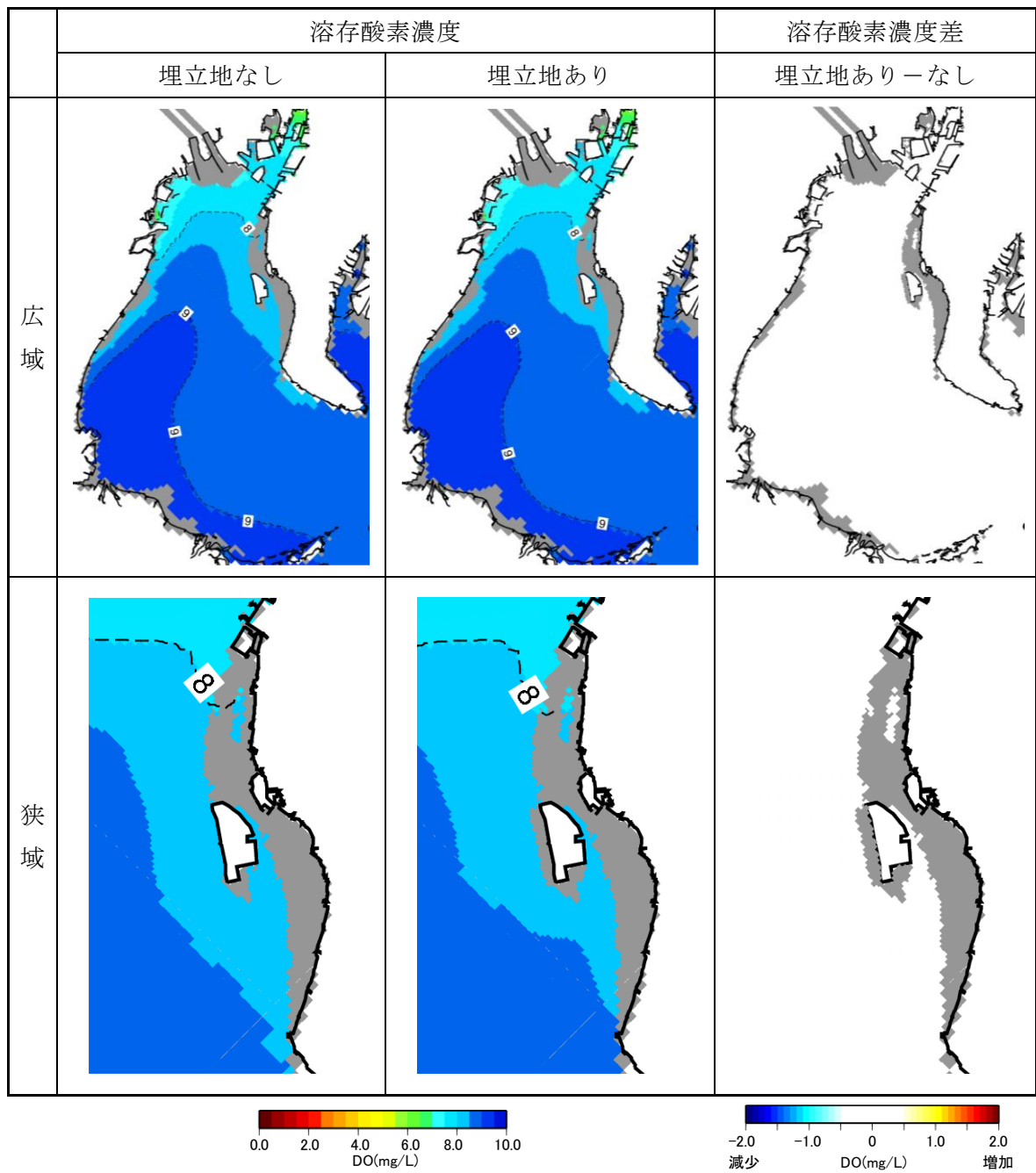
付図 8.4-46(9) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(秋季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の11月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



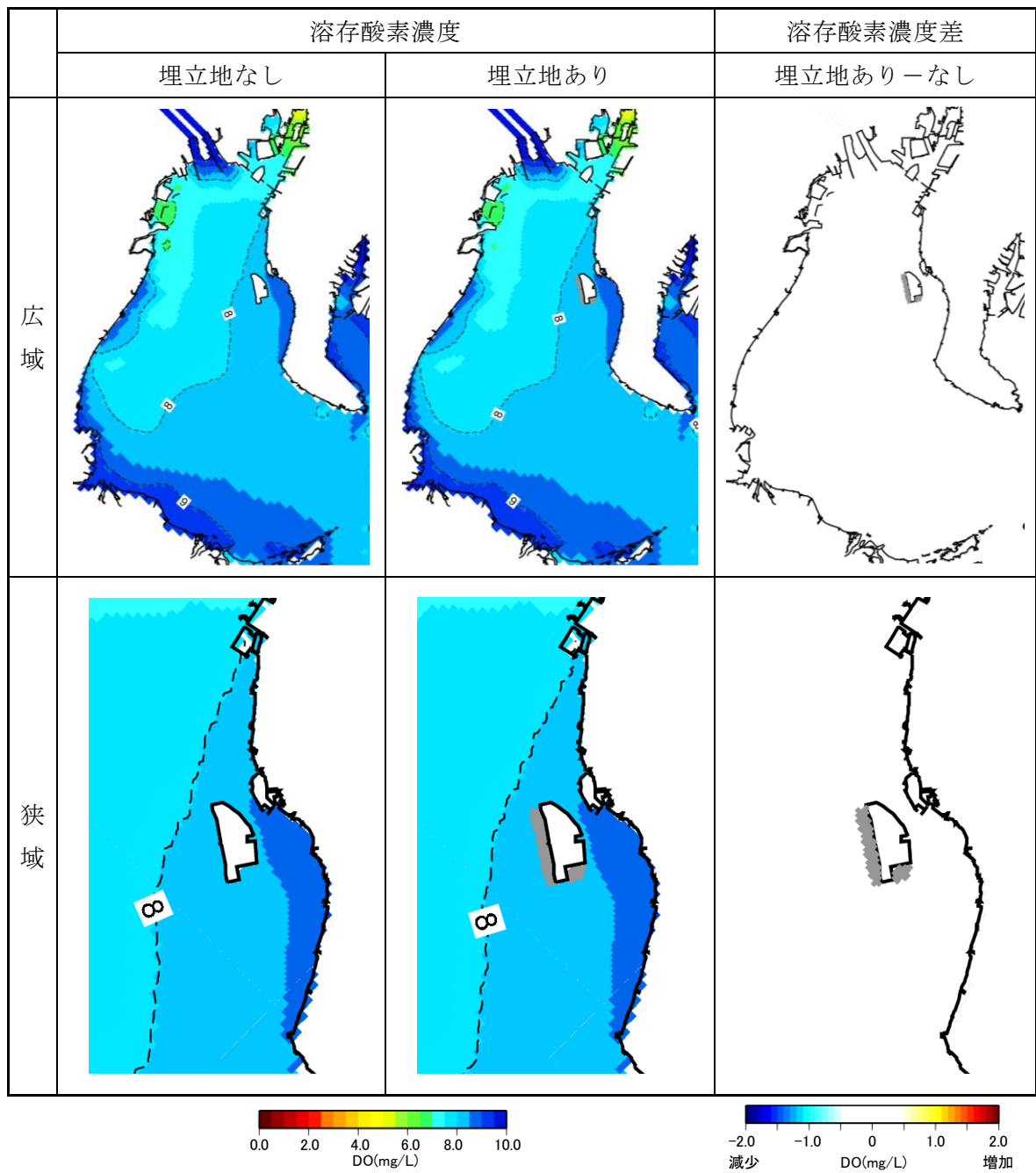
付図 8.4-46(10) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(冬季・上層)

- 注：1. 上層（水深 0～0.5m）の 2 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



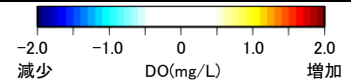
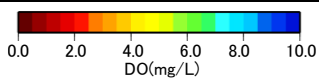
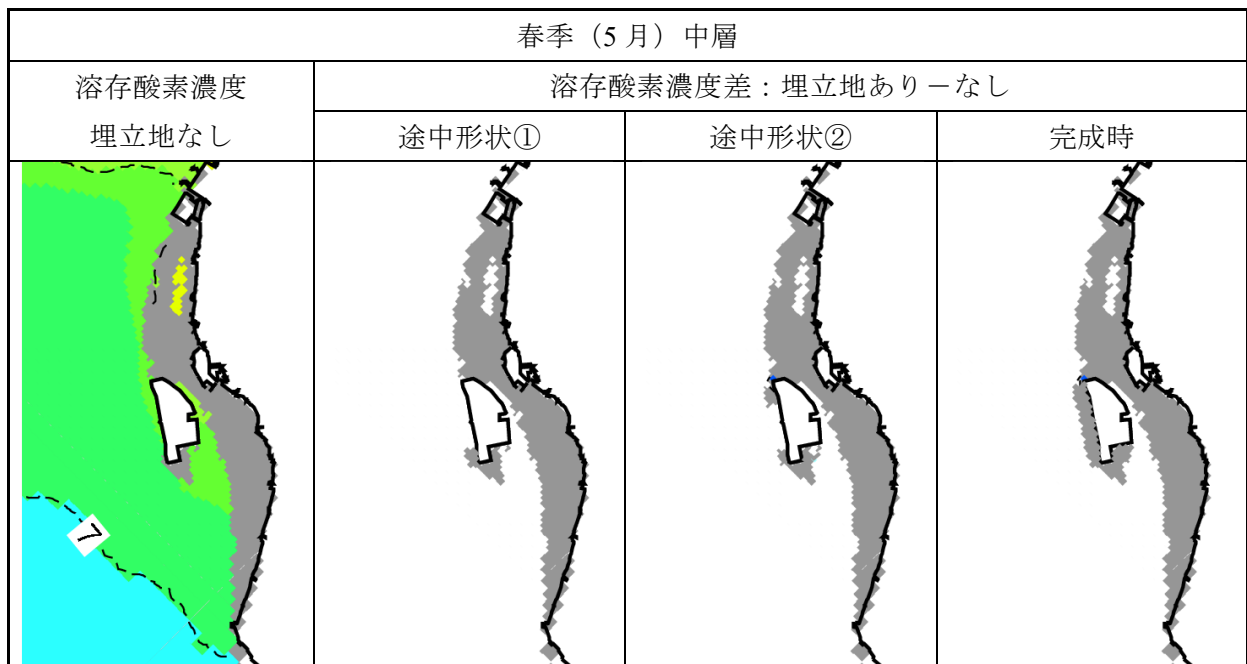
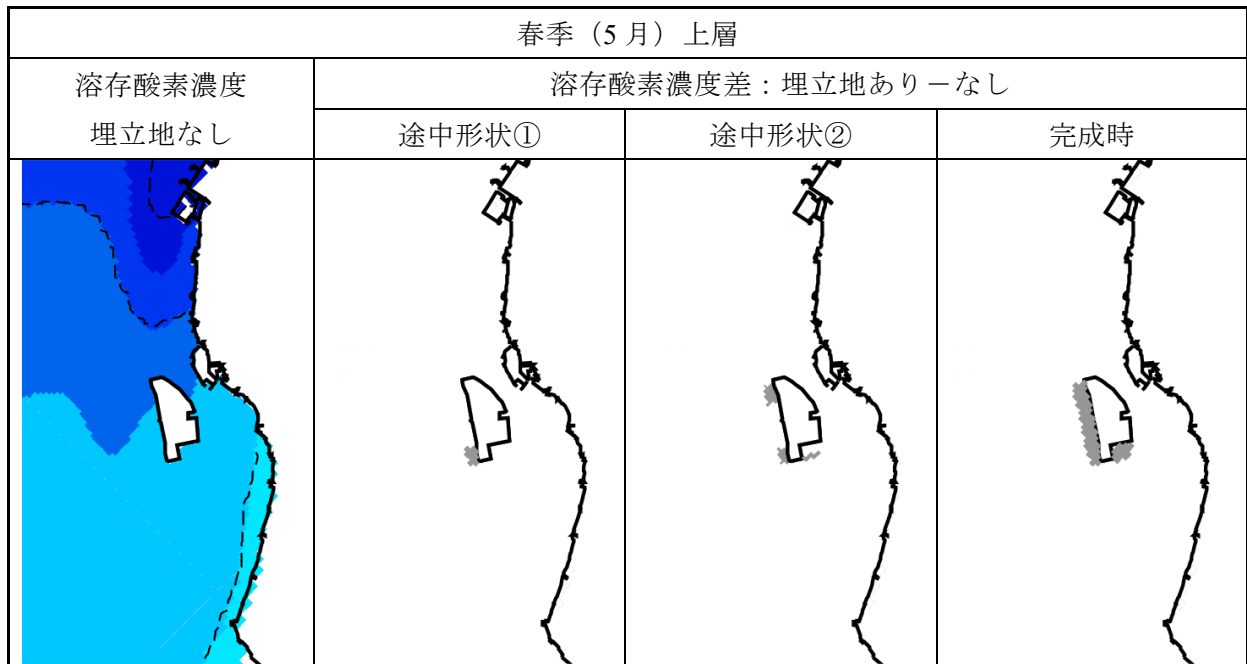
付図 8.4-46(11) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(冬季・中層)

- 注：1. 中層（水深 7～8m）の 2 月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



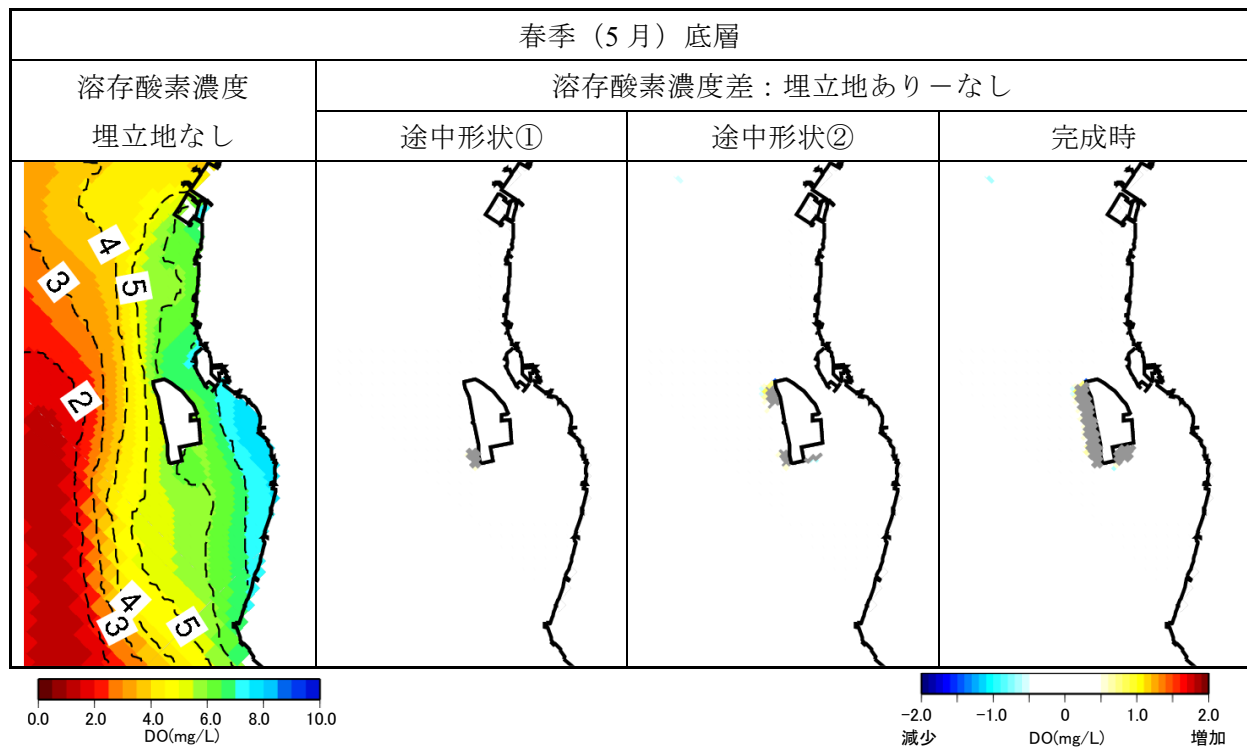
付図 8.4-46(12) 埋立地あり及びなしの場合における溶存酸素の予測結果
(冬季・底層)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の2月の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



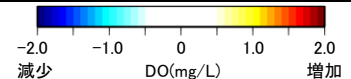
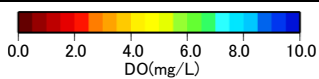
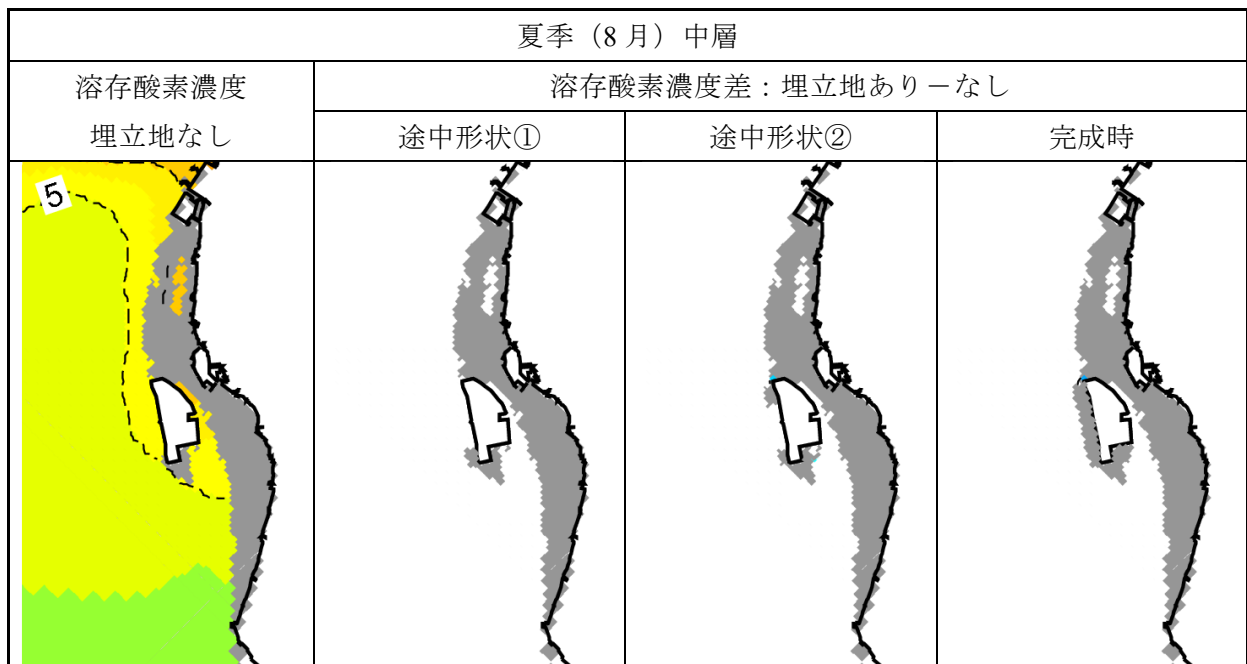
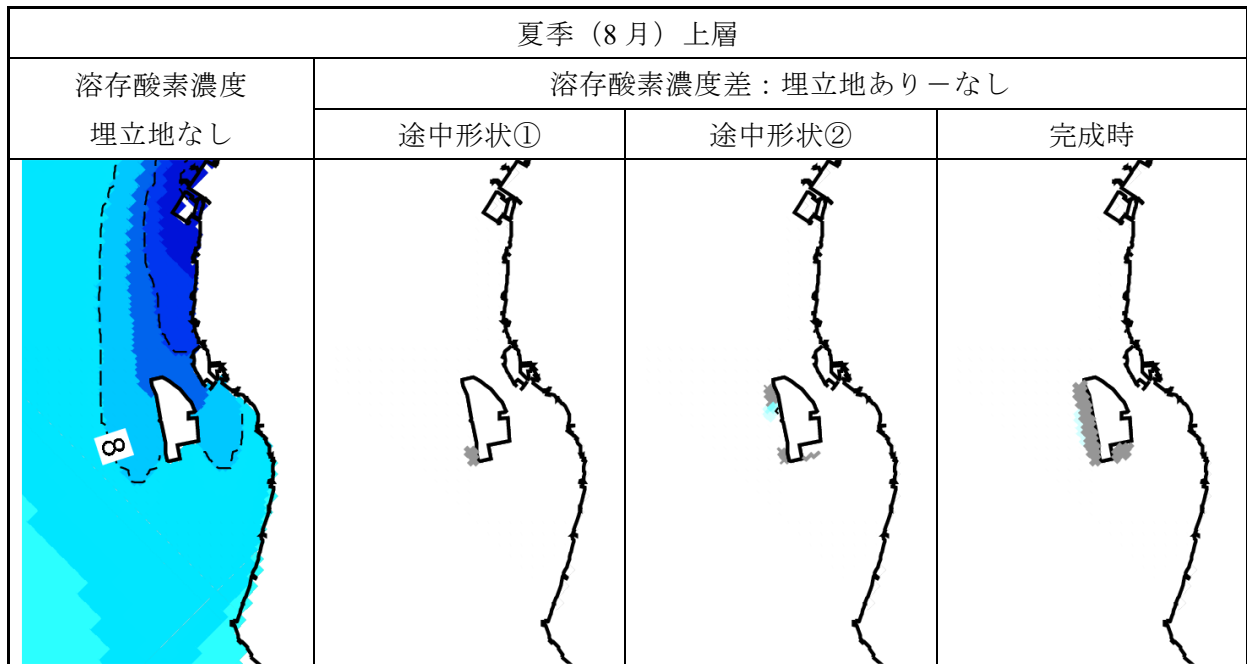
付図 8.4-47(1) 埋立ての途中形状及び完成時における溶存酸素の予測結果(春季)

- 注：1. 上図は上層（水深0～0.5m）、下図は中層（水深7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



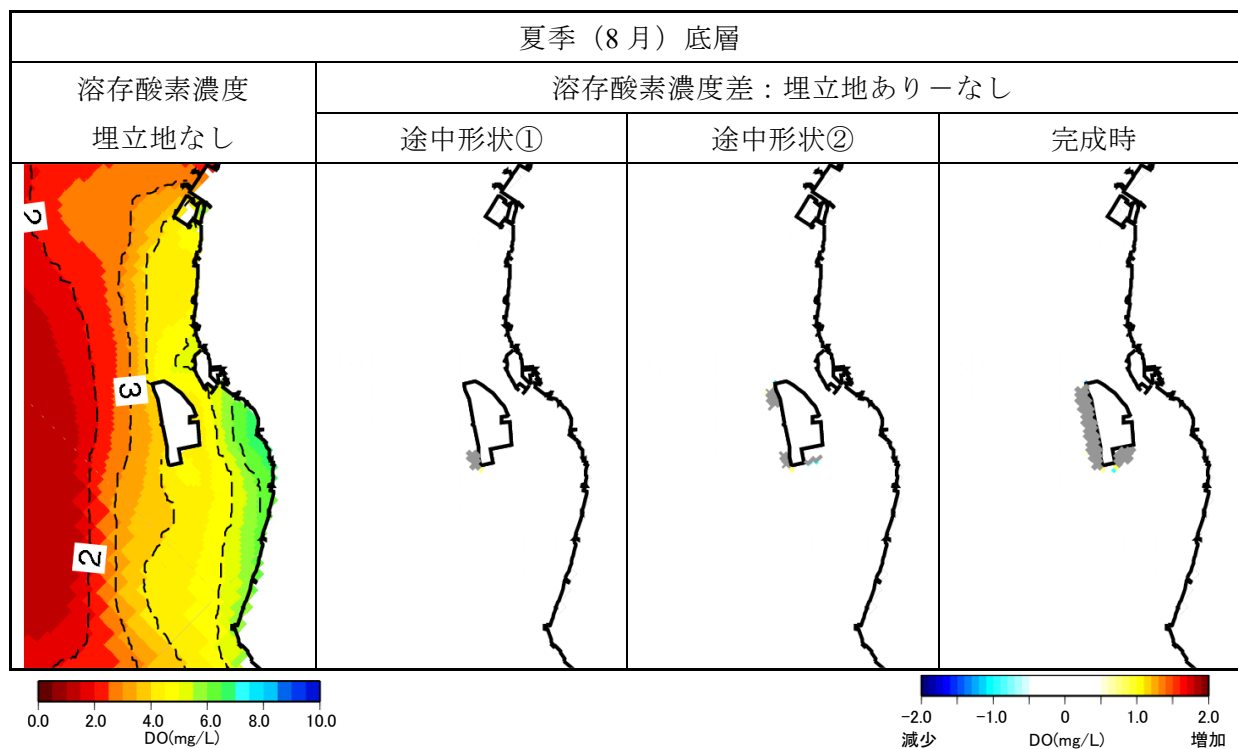
付図 8. 4-47(2) 埋立ての途中形状及び完成時における溶存酸素の予測結果(春季)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



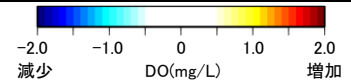
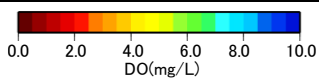
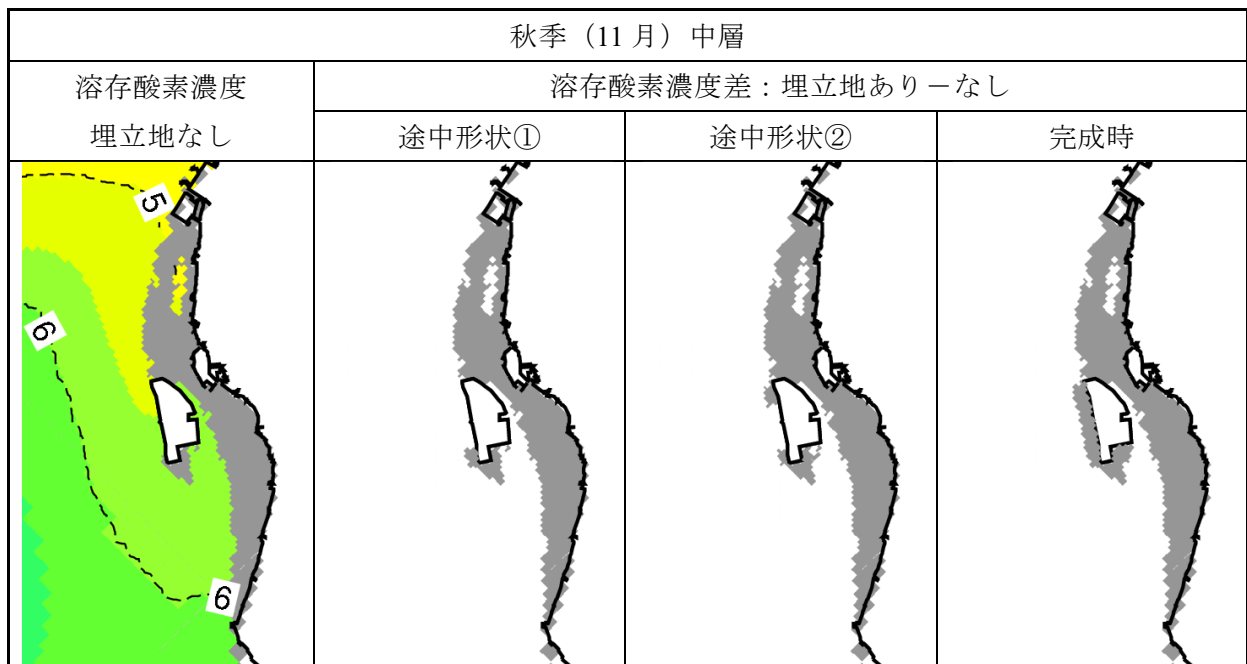
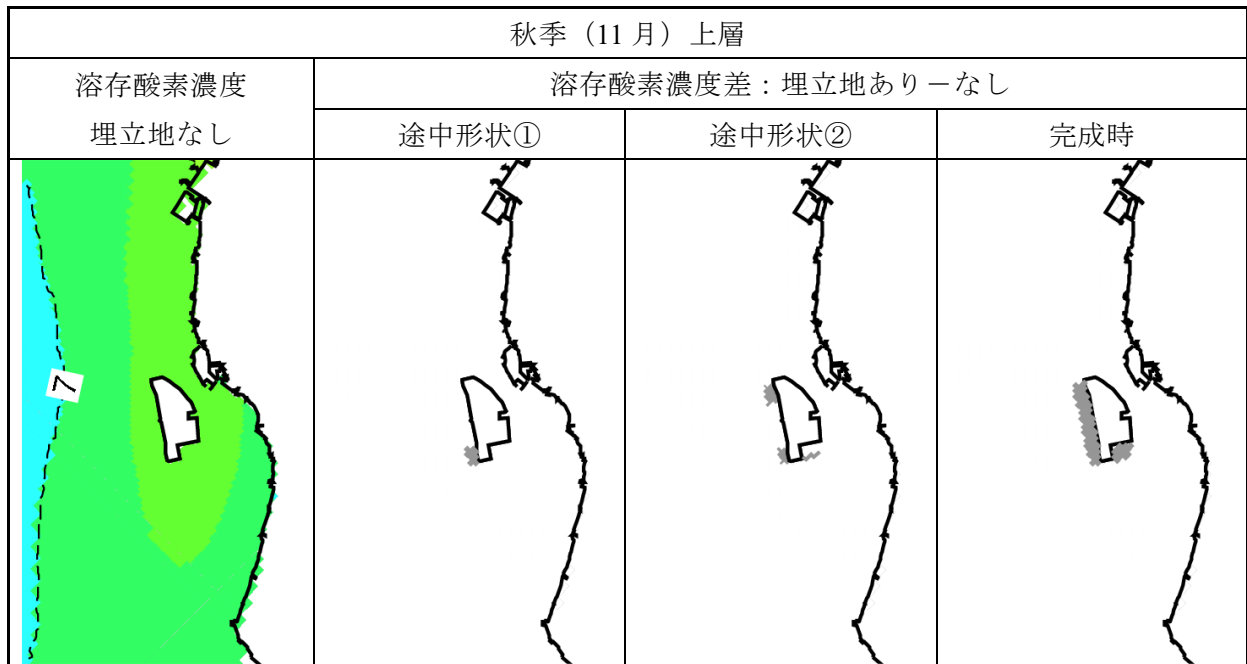
付図 8.4-47(3) 埋立ての途中形状及び完成時における溶存酸素の予測結果(夏季)

- 注：1. 上図は上層（水深0～0.5m）、下図は中層（水深7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



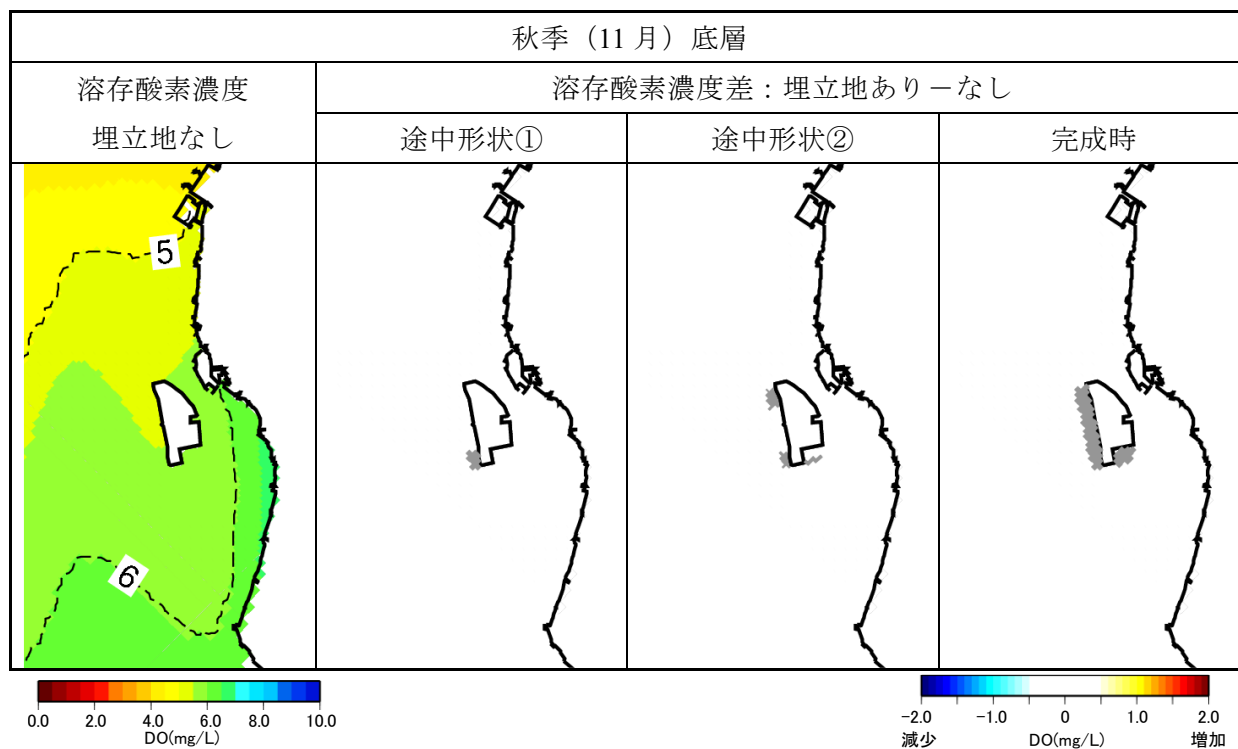
付図 8. 4-47(4) 埋立ての途中形状及び完成時における溶存酸素の予測結果(夏季)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



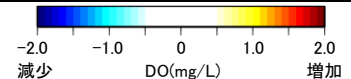
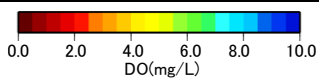
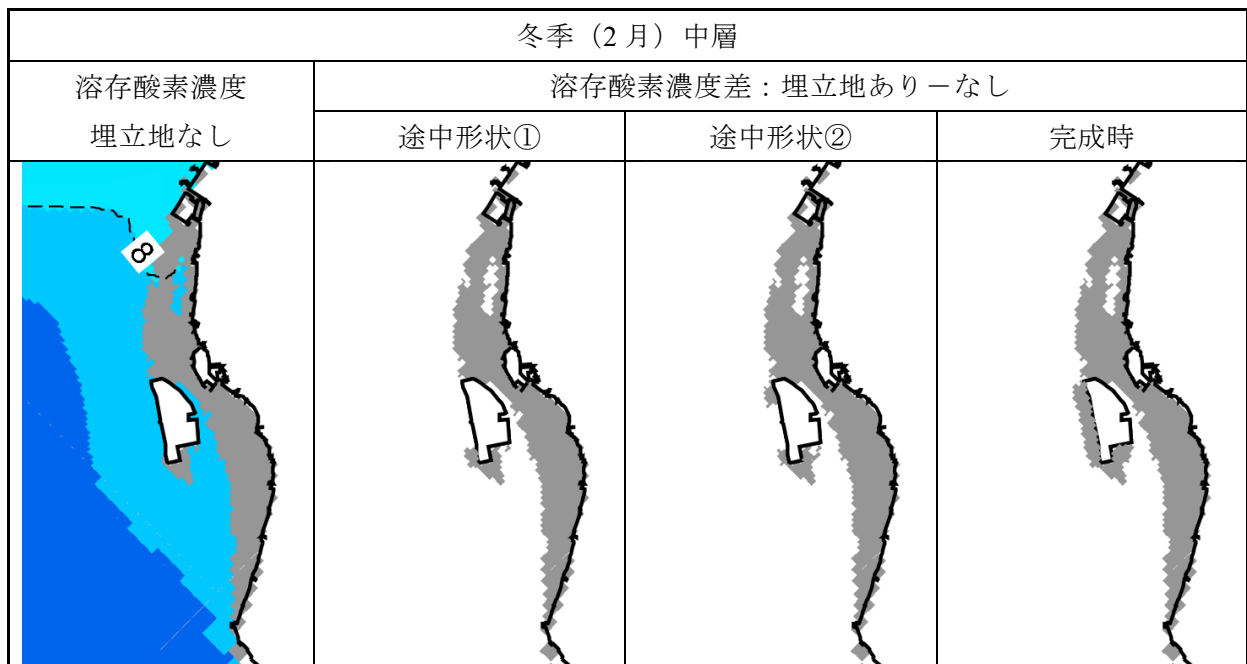
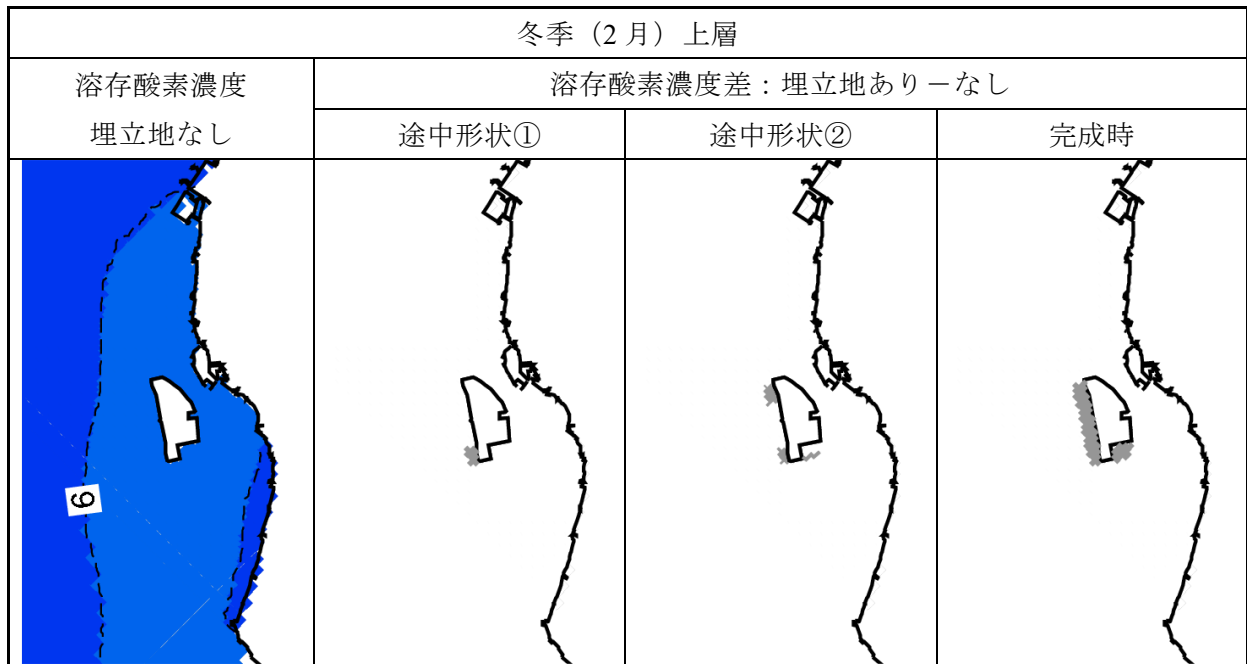
付図 8.4-47(5) 埋立ての途中形状及び完成時における溶存酸素の予測結果(秋季)

- 注：1. 上図は上層（水深0～0.5m）、下図は中層（水深7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



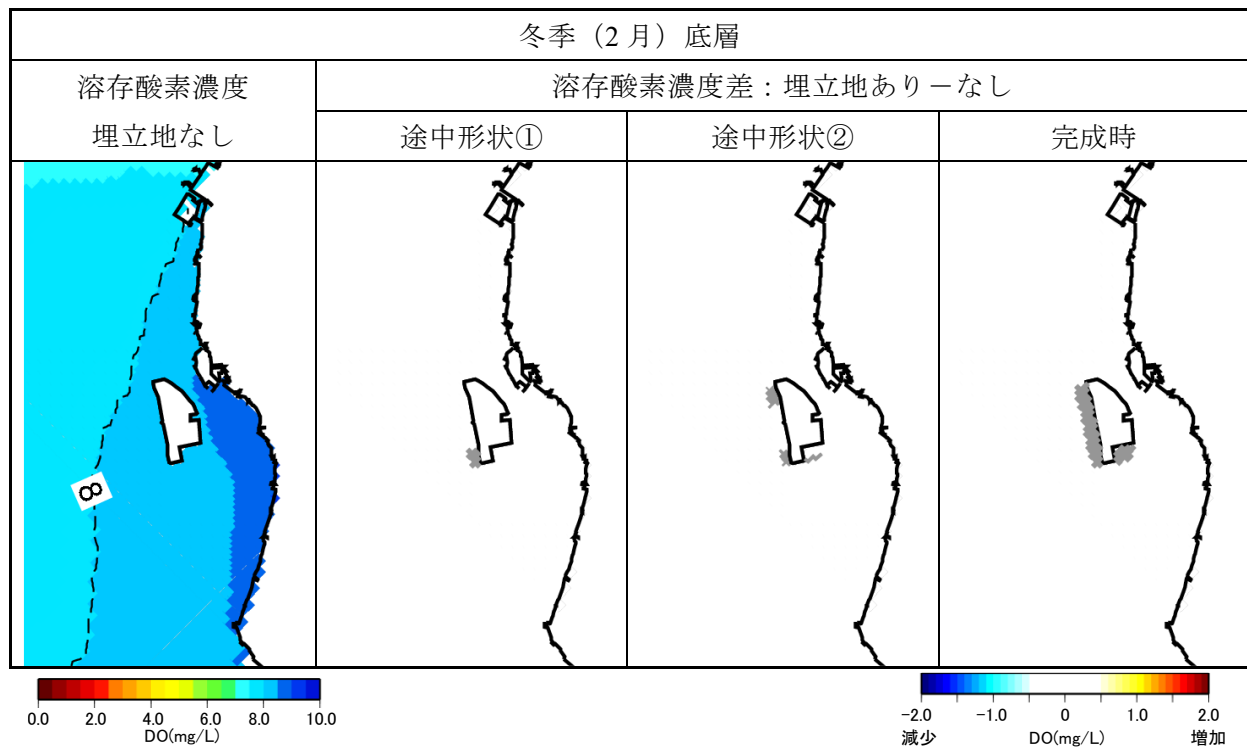
付図 8. 4-47(6) 埋立ての途中形状及び完成時における溶存酸素の予測結果(秋季)

- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は 1mg/L 間隔で示す。



付図 8.4-47(7) 埋立ての途中形状及び完成時における溶存酸素の予測結果(冬季)

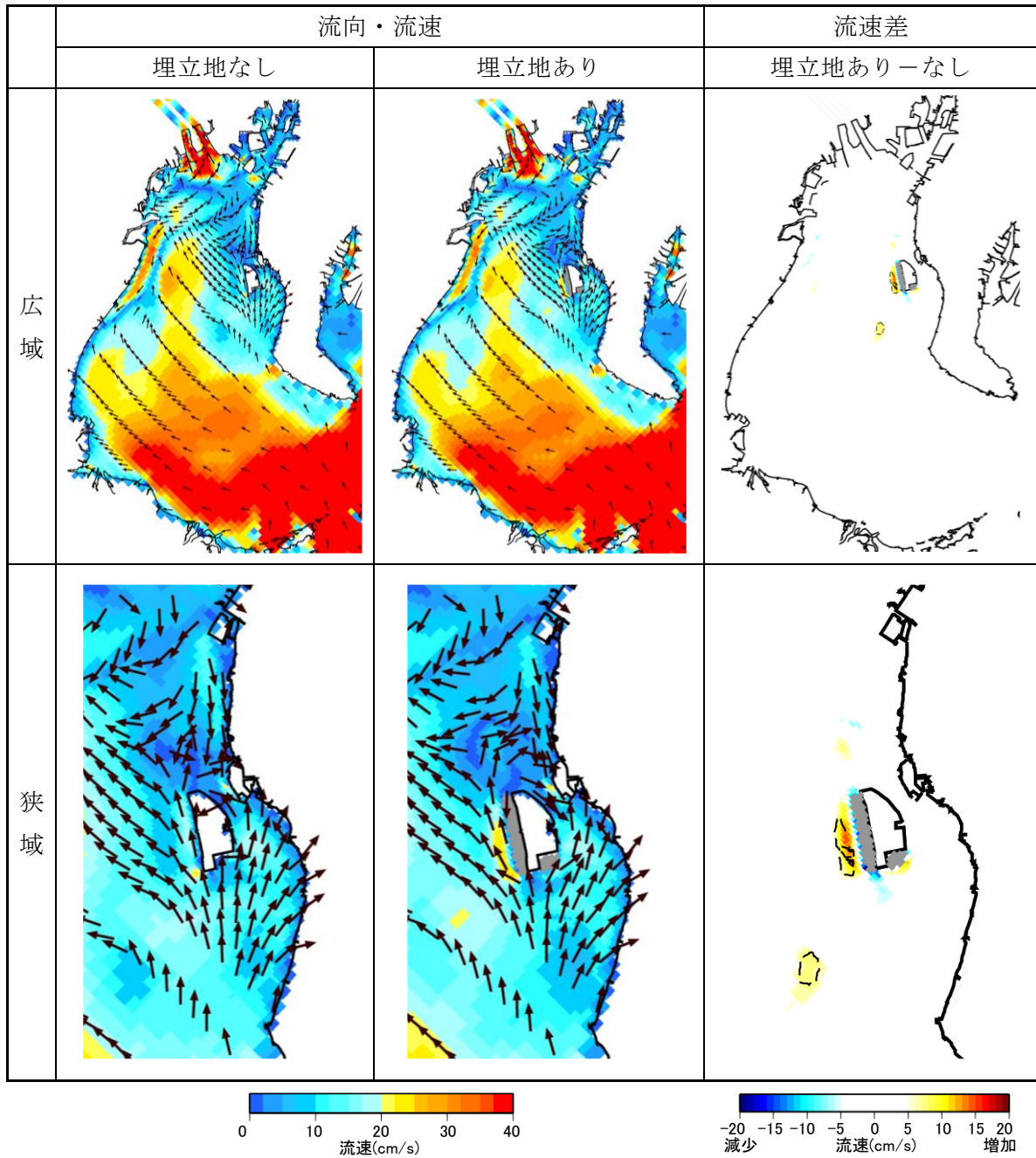
- 注：1. 上図は上層（水深0～0.5m）、下図は中層（水深7～8m）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。



付図 8.4-47(8) 埋立ての途中形状及び完成時における溶存酸素の予測結果(冬季)

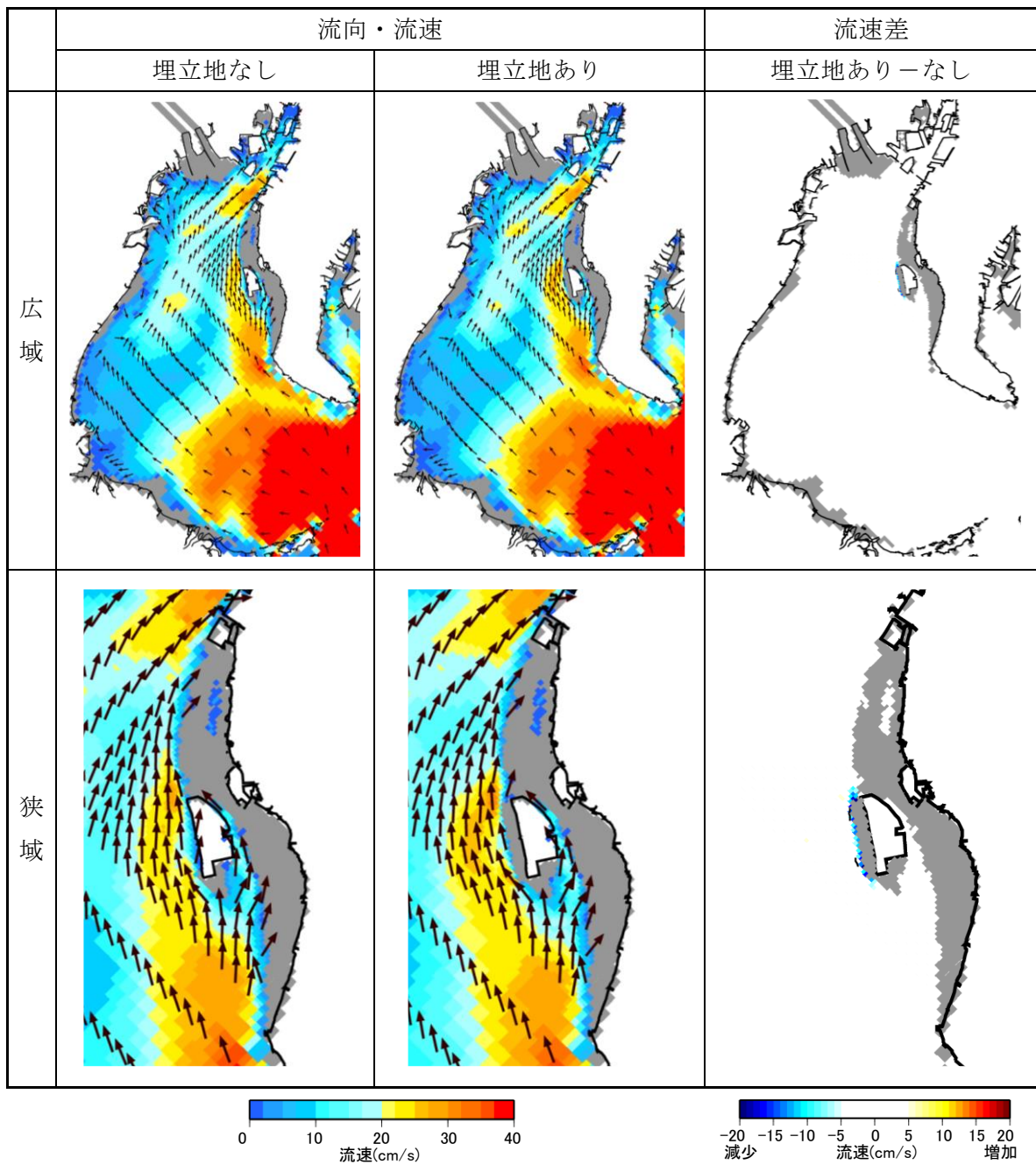
- 注：1. 底層（各計算格子の最下層）の月平均値を表す。
 2. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。
 3. 濃度の等値線は1mg/L間隔で示す。

8.6 その他水環境に係る資料



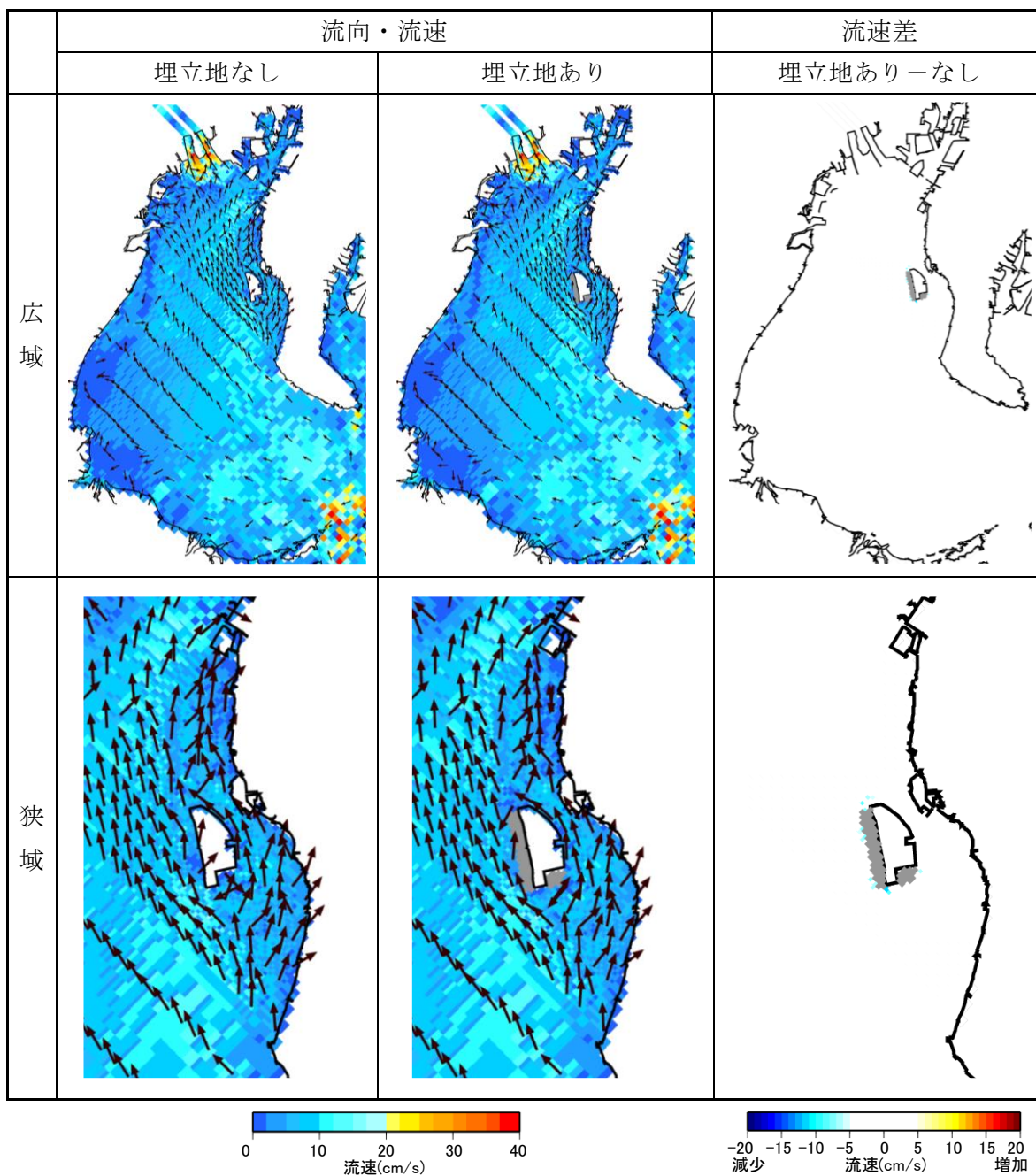
付図 8.6-1(1) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(春季・上層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の5月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



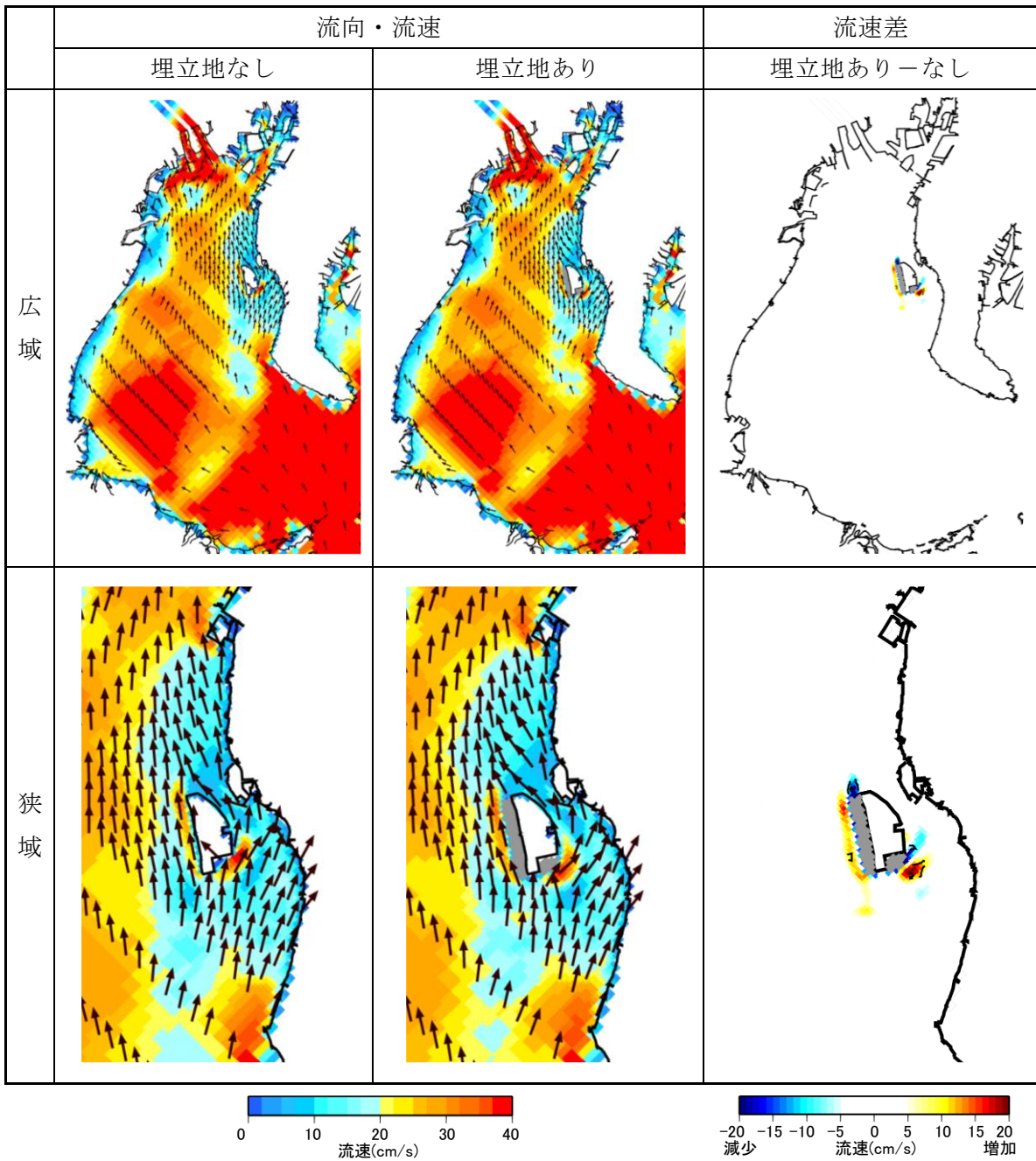
付図 8.6-1 (2) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(春季・中層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 5 月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで表す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



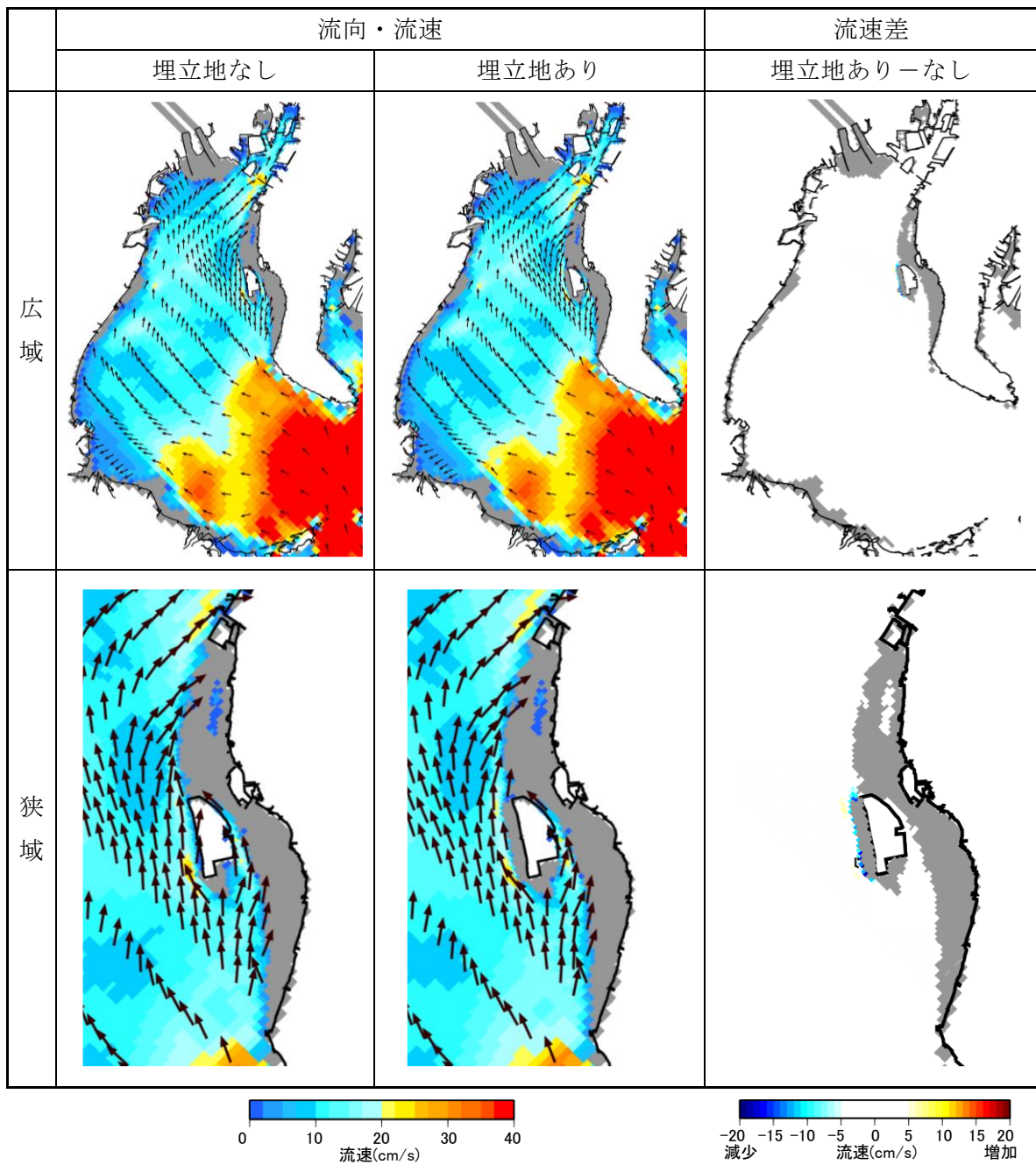
付図 8.6-1 (3) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(春季・底層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の5月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



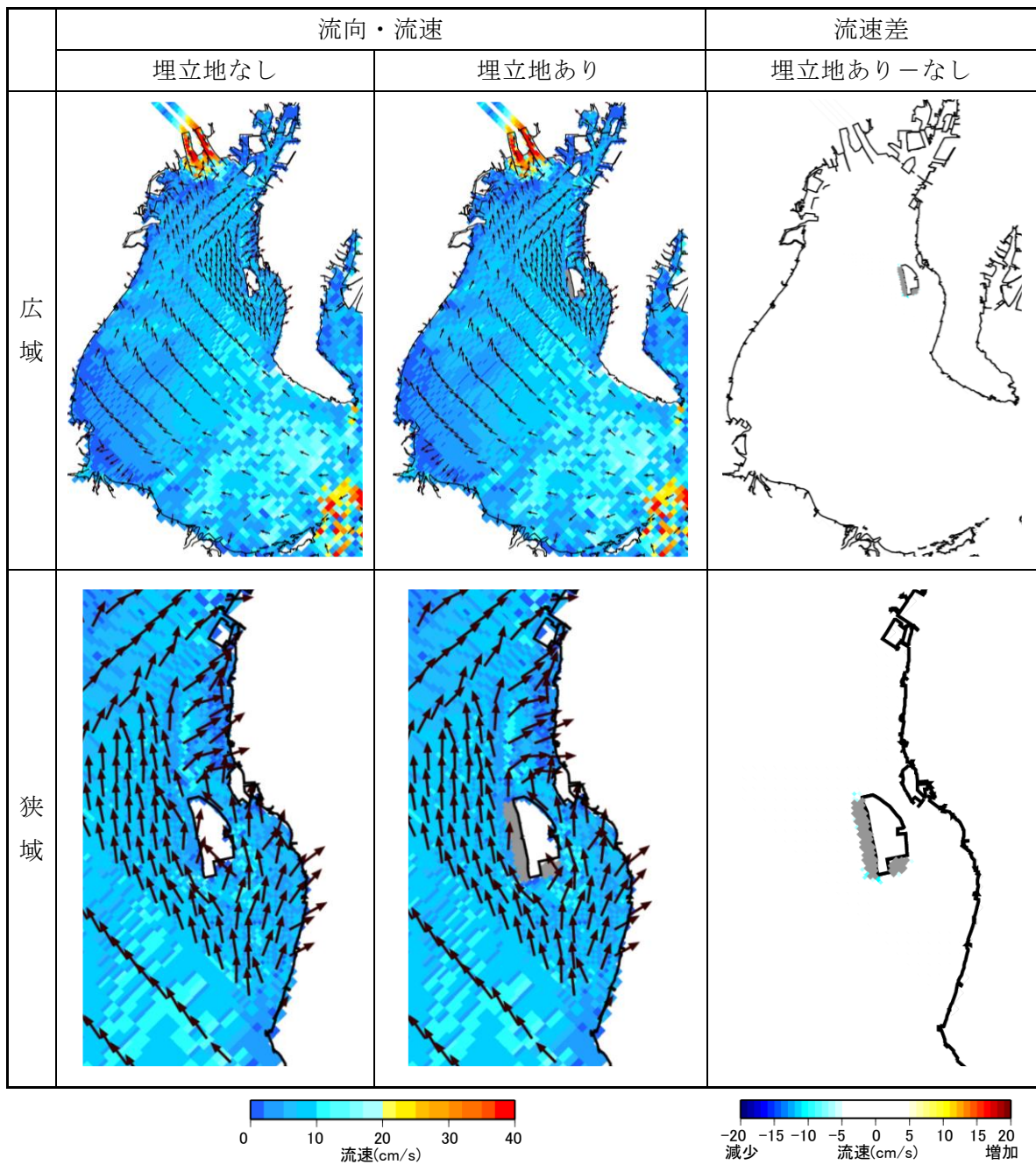
付図 8.6-1(4) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(夏季・上層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深 0～0.5m）の 8 月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



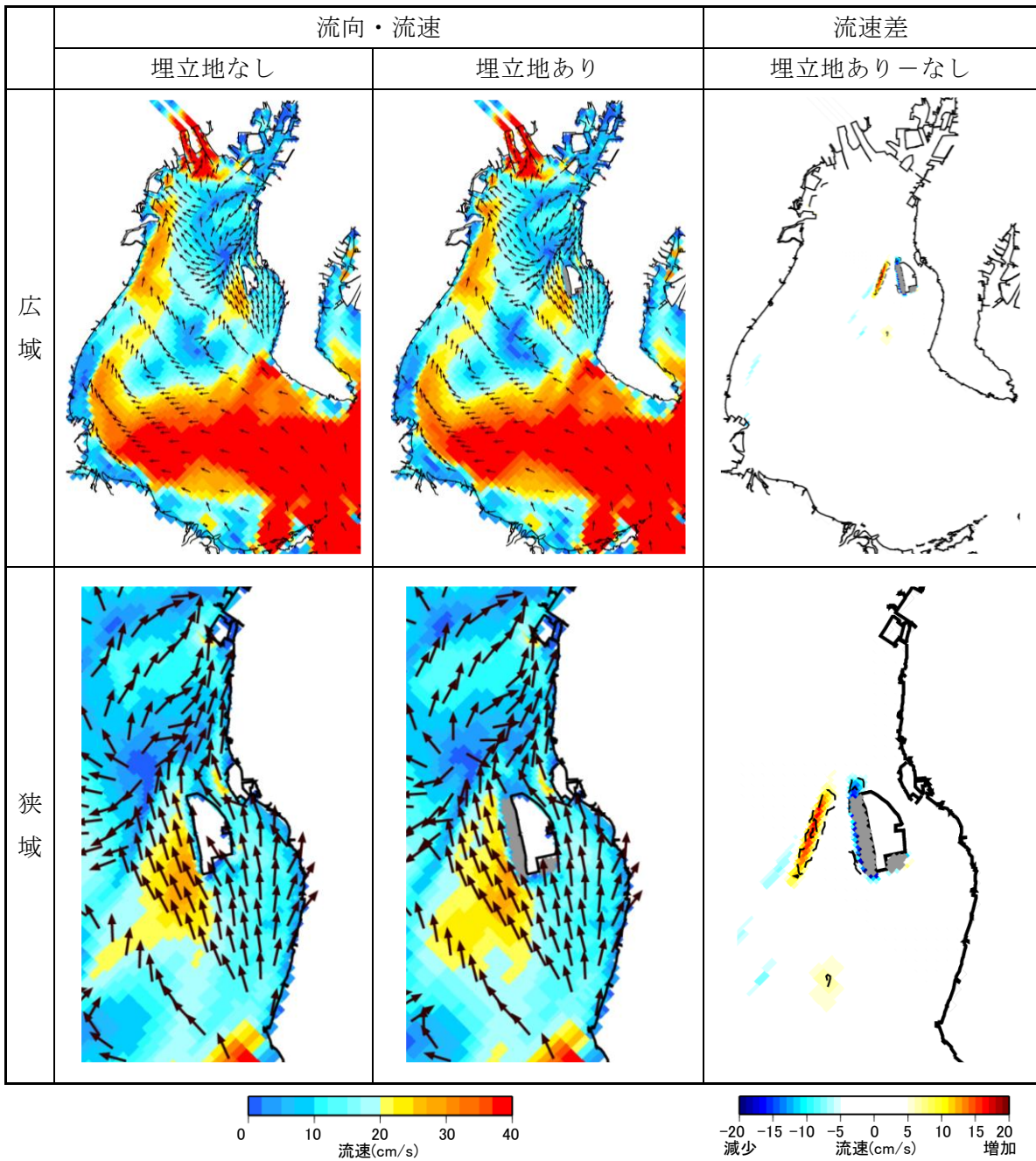
付図 8.6-1 (5) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(夏季・中層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 8 月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで表す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



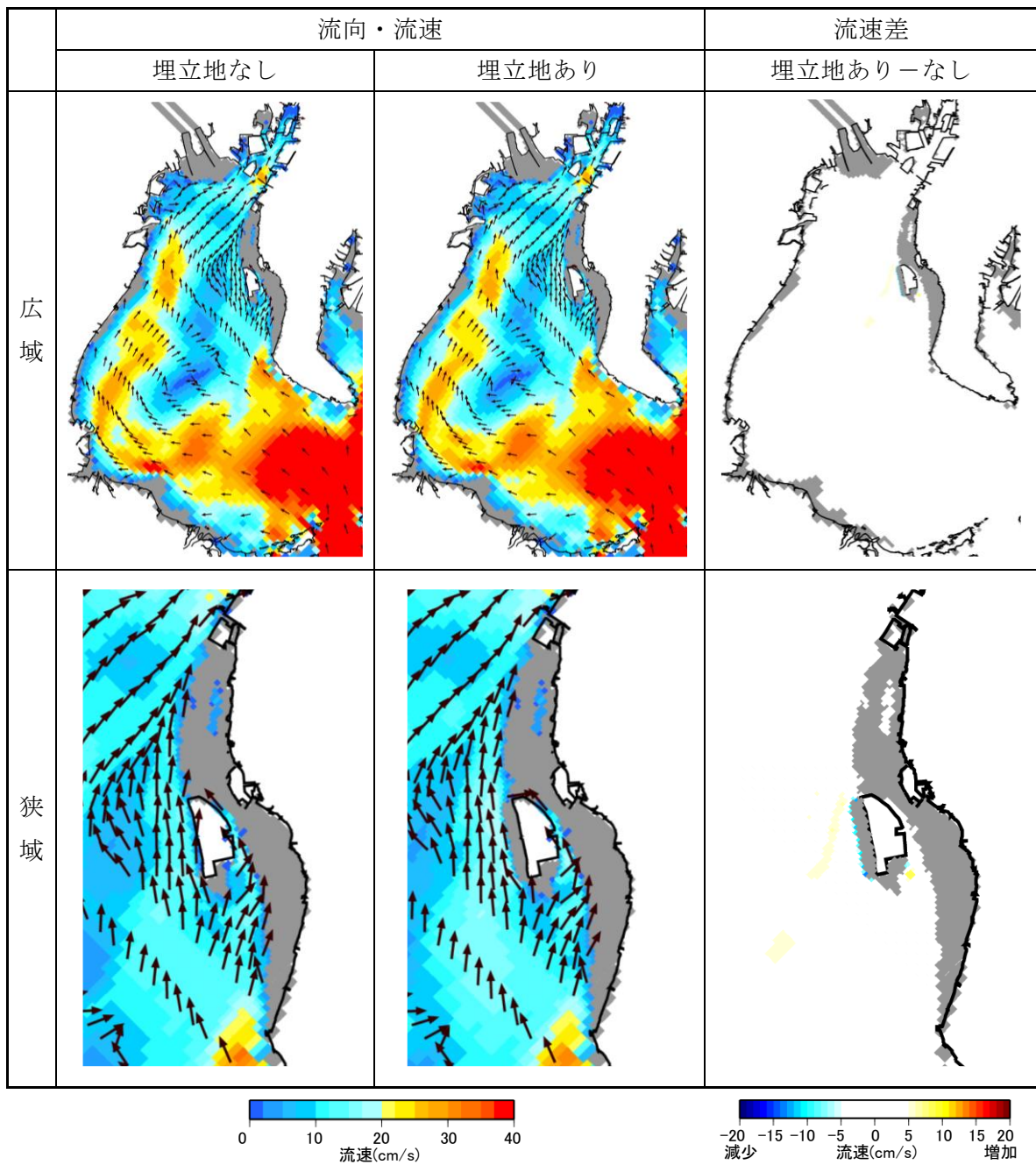
付図 8.6-1(6) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(夏季・底層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の8月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



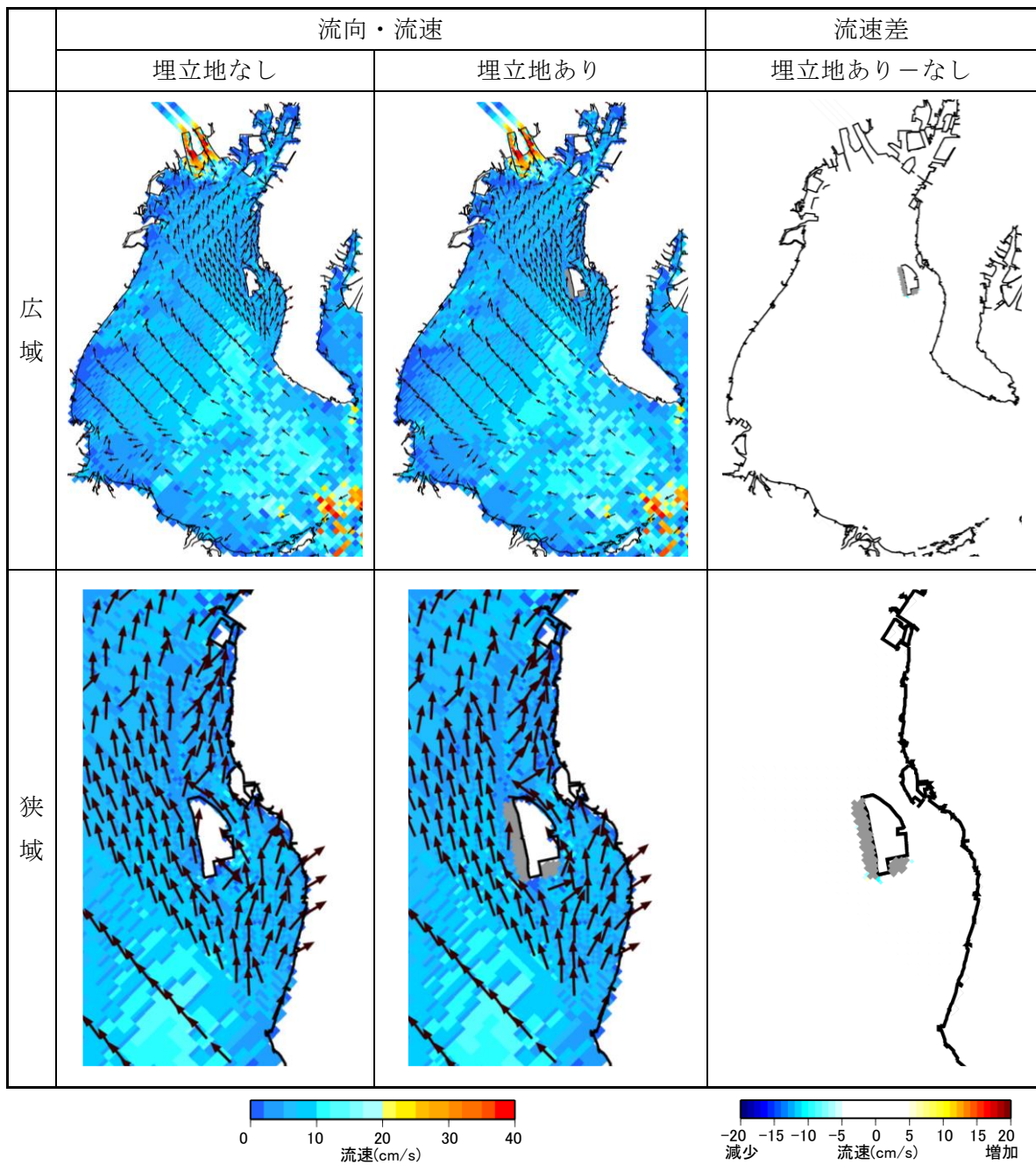
付図 8.6-1(7) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(秋季・上層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深 0～0.5m）の 11 月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで表す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



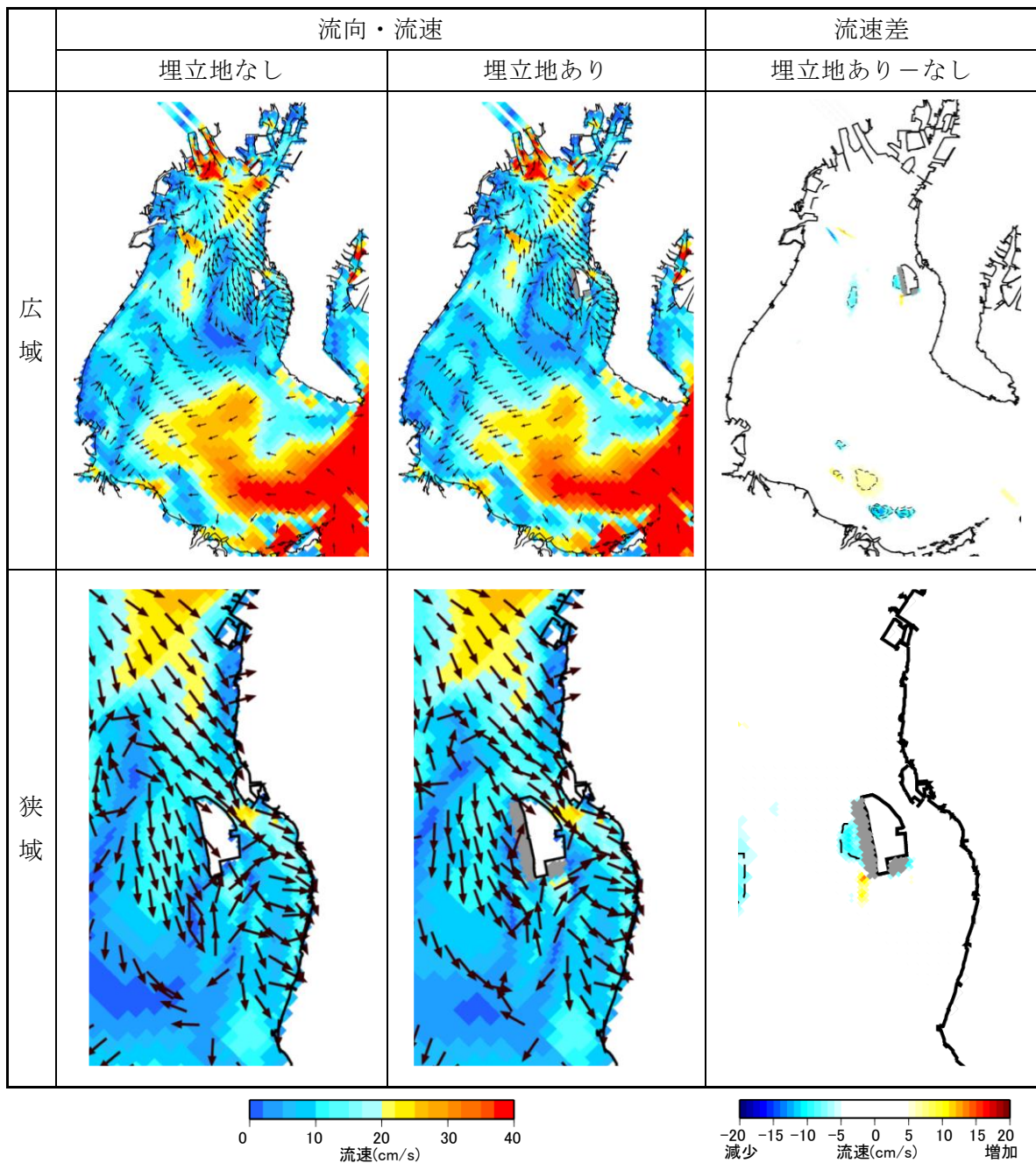
付図 8.6-1 (8) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(秋季・中層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 11 月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



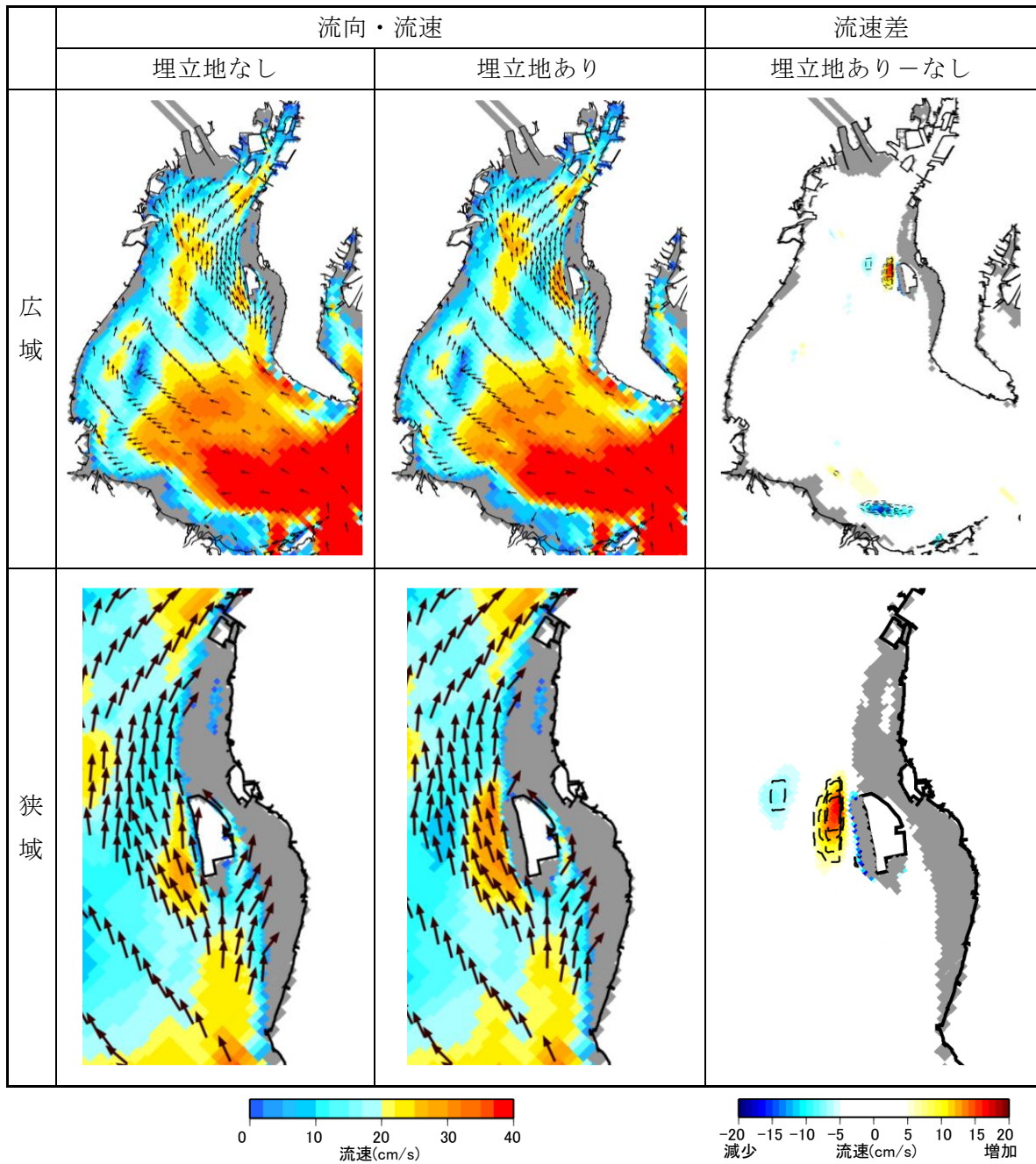
付図 8.6-1(9) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(秋季・底層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の11月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



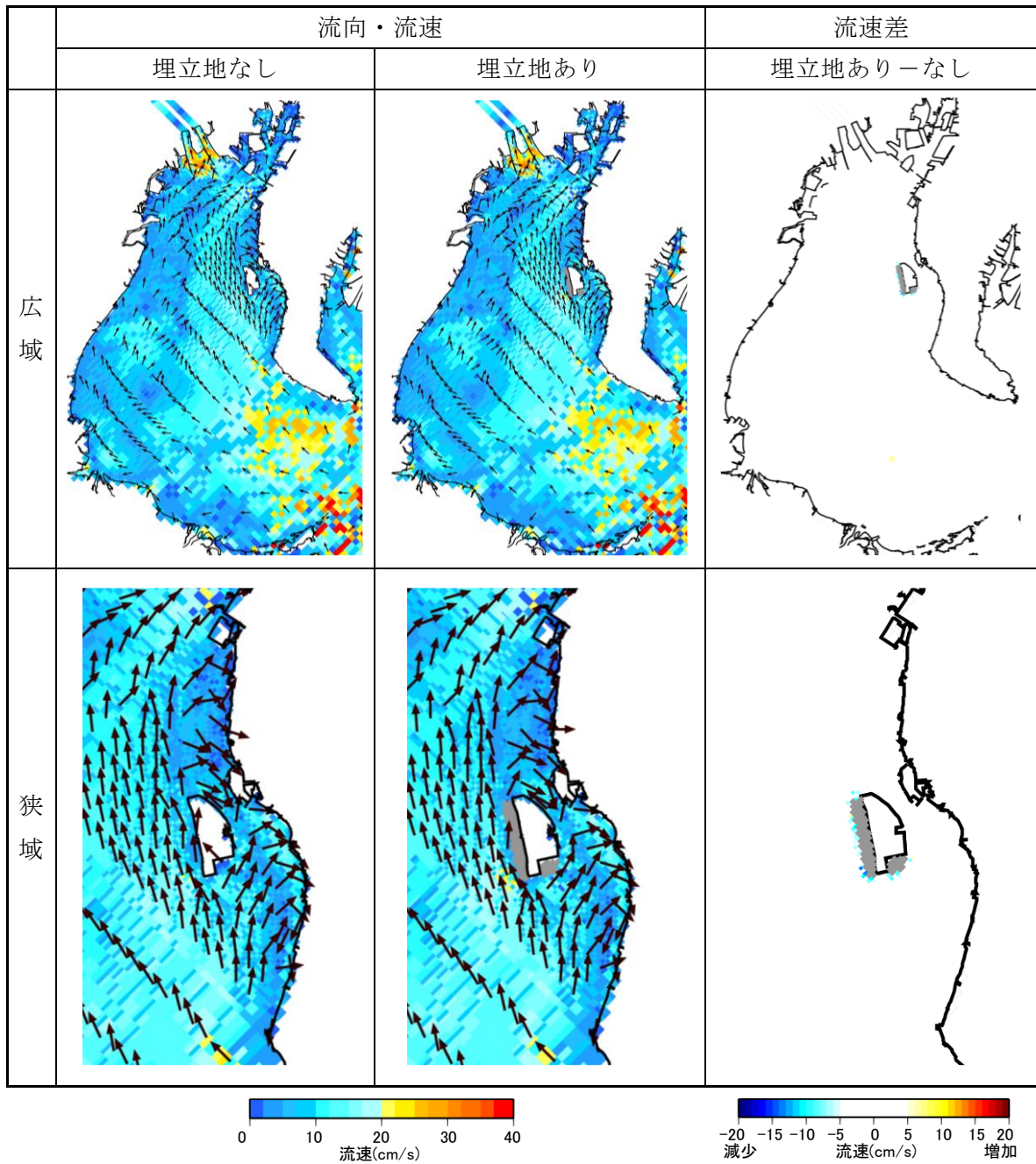
付図 8.6-1(10) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(冬季・上層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深 0～0.5m）の 2 月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



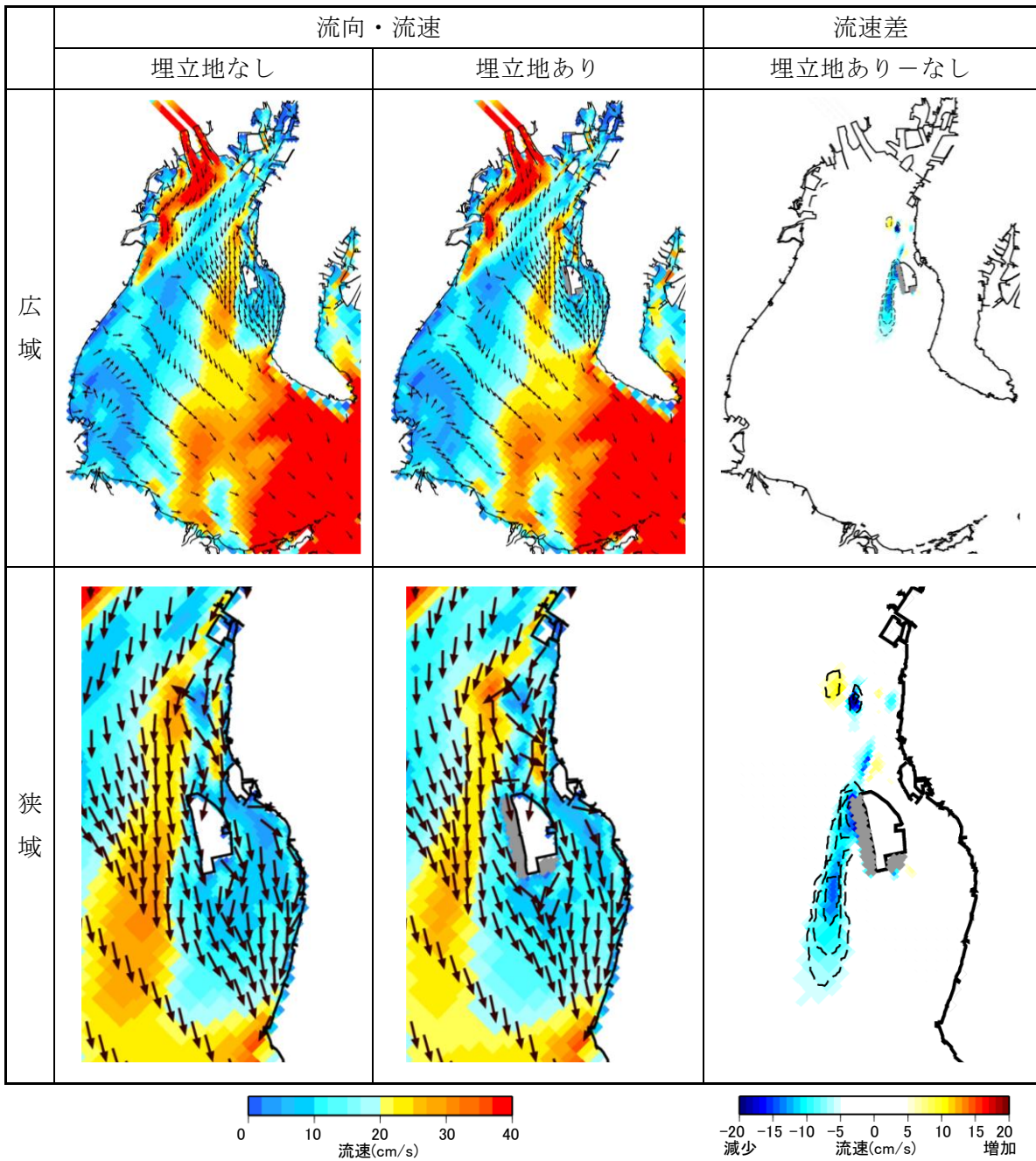
付図 8.6-1(11) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(冬季・中層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 2 月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで表す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



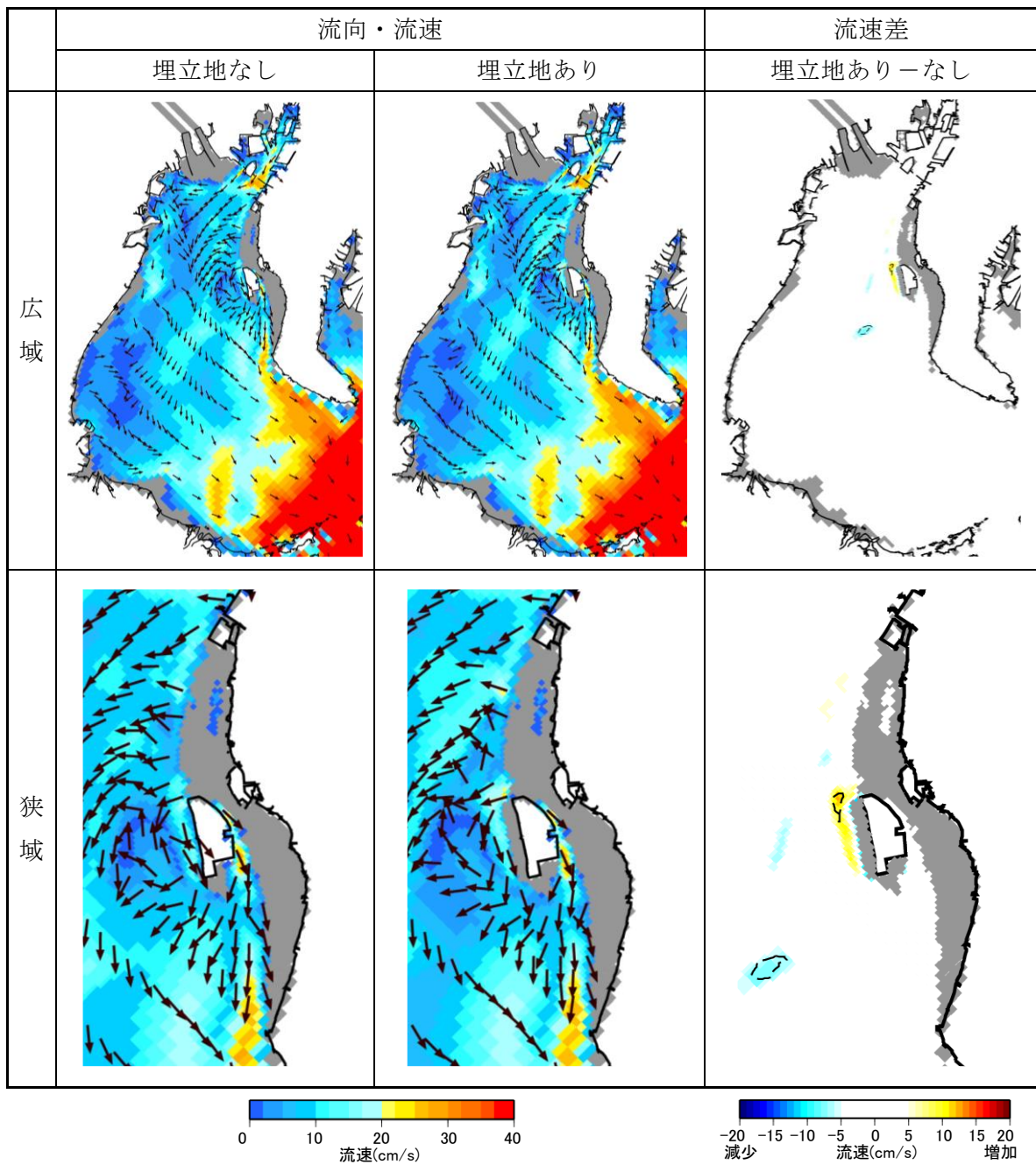
付図 8. 6-1 (12) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(冬季・底層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の2月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



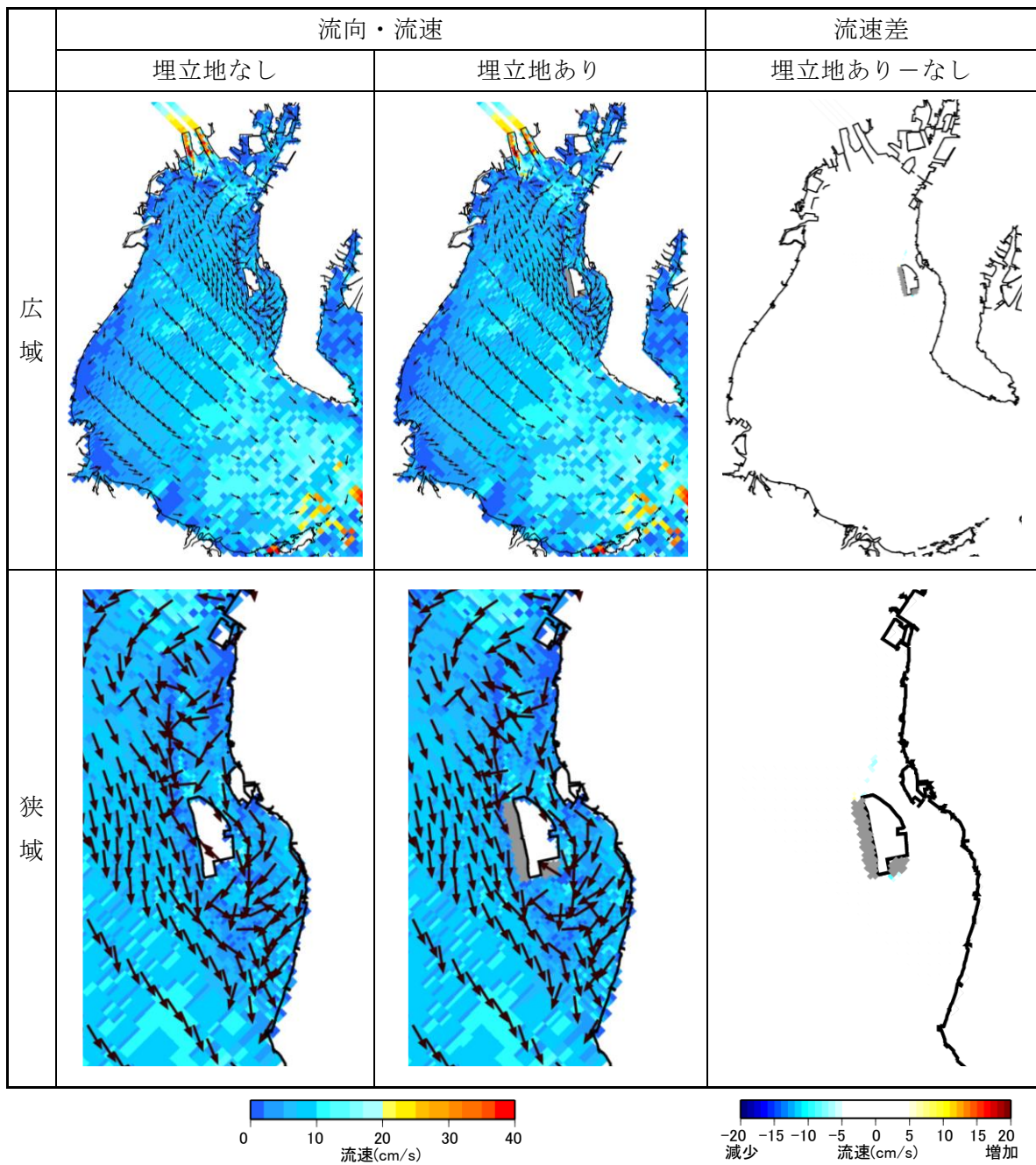
付図 8.6-2(1) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(春季・上層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深 0～0.5m）の 5 月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで表す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



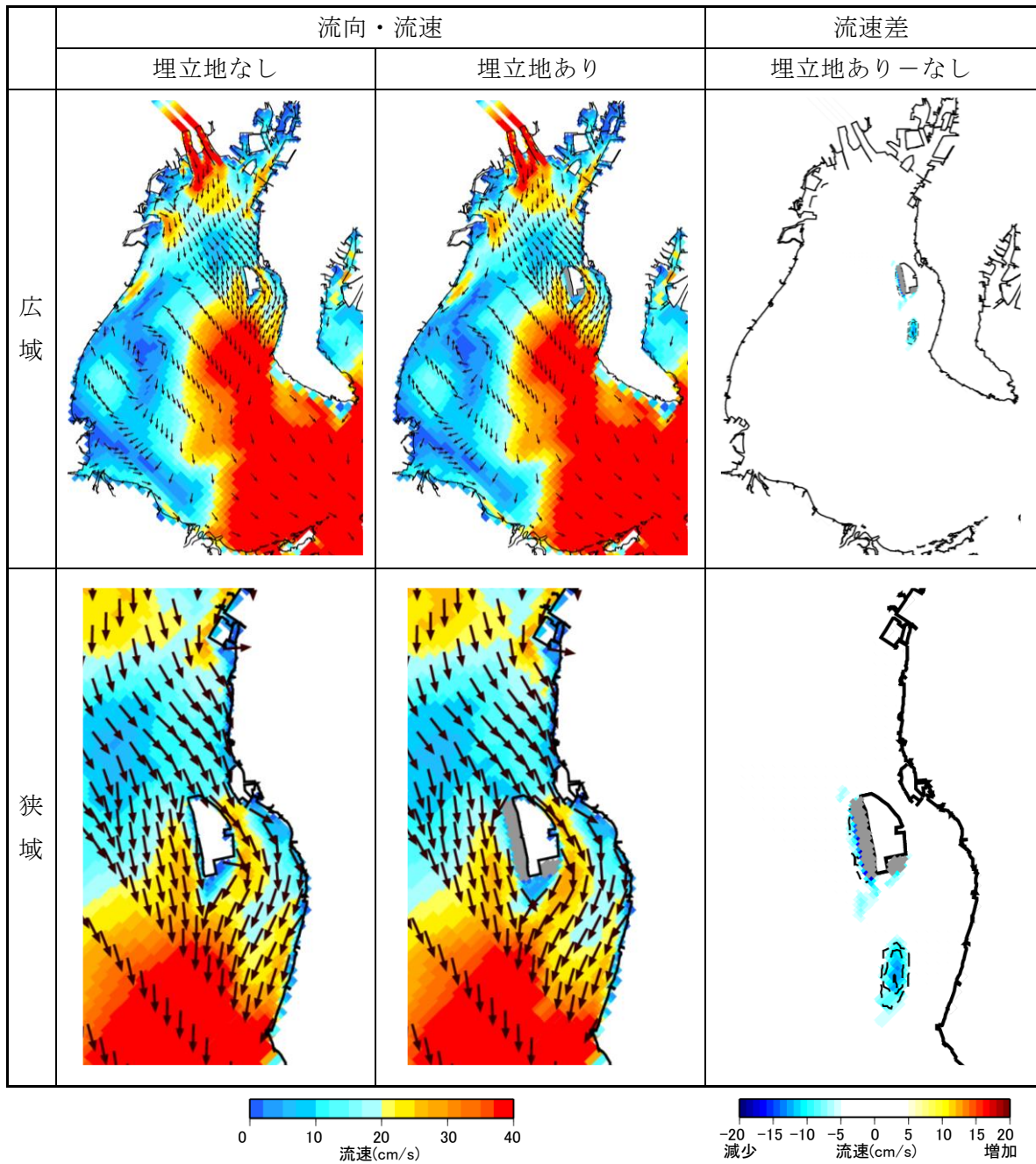
付図 8.6-2(2) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(春季・中層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 5 月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



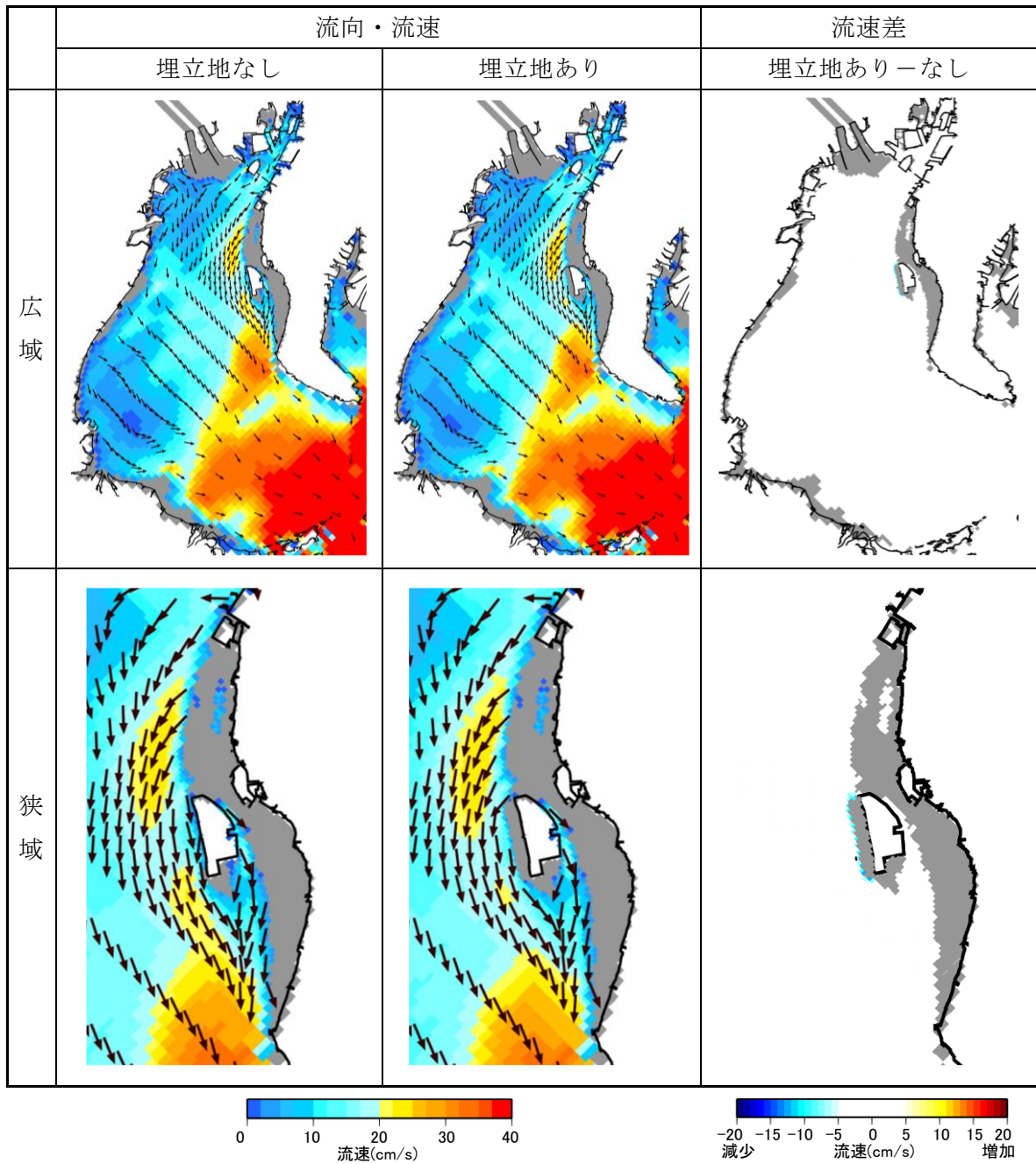
付図 8.6-2(3) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(春季・底層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の5月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



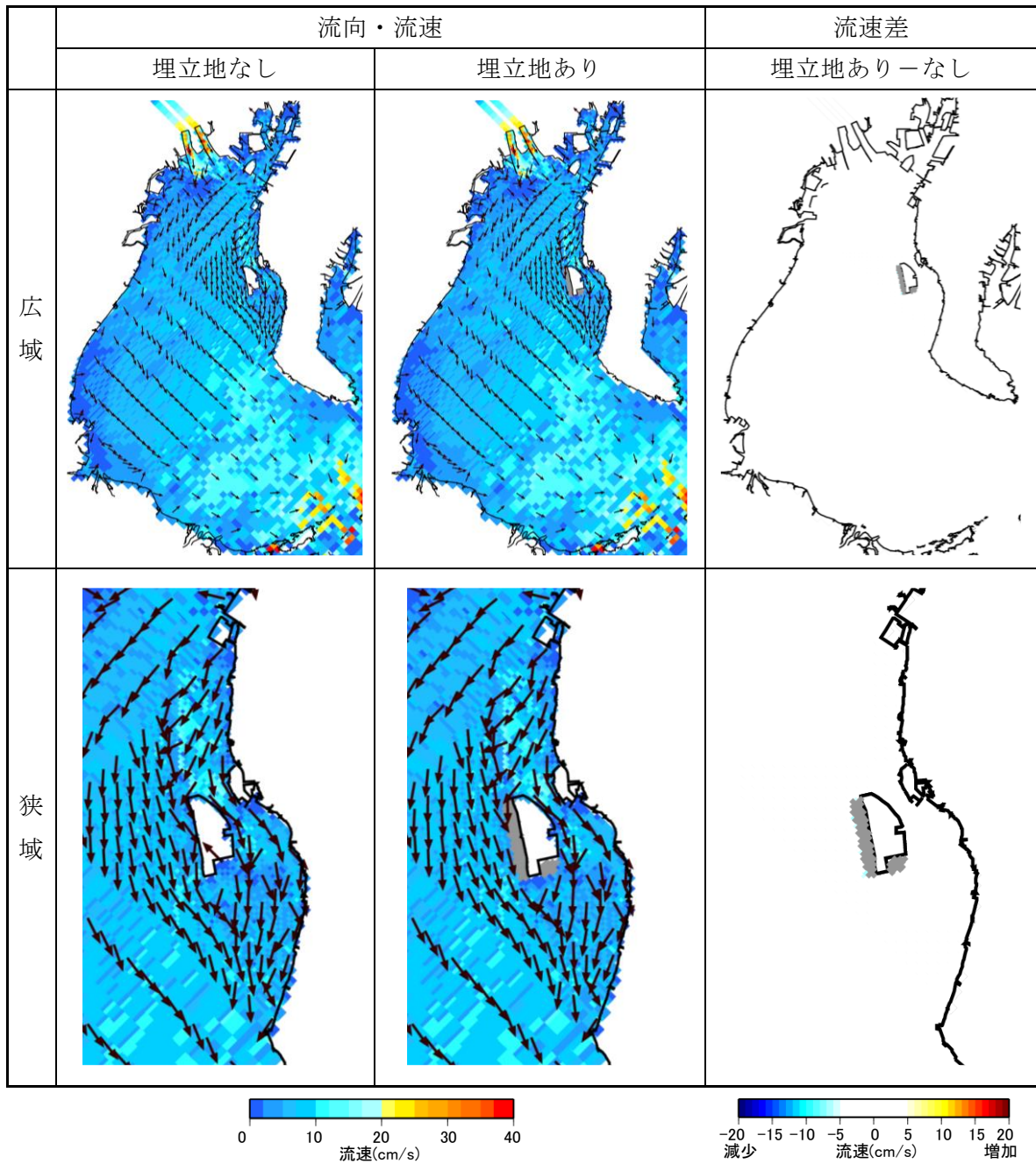
付図 8.6-2(4) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(夏季・上層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深 0～0.5m）の 8 月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで表す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



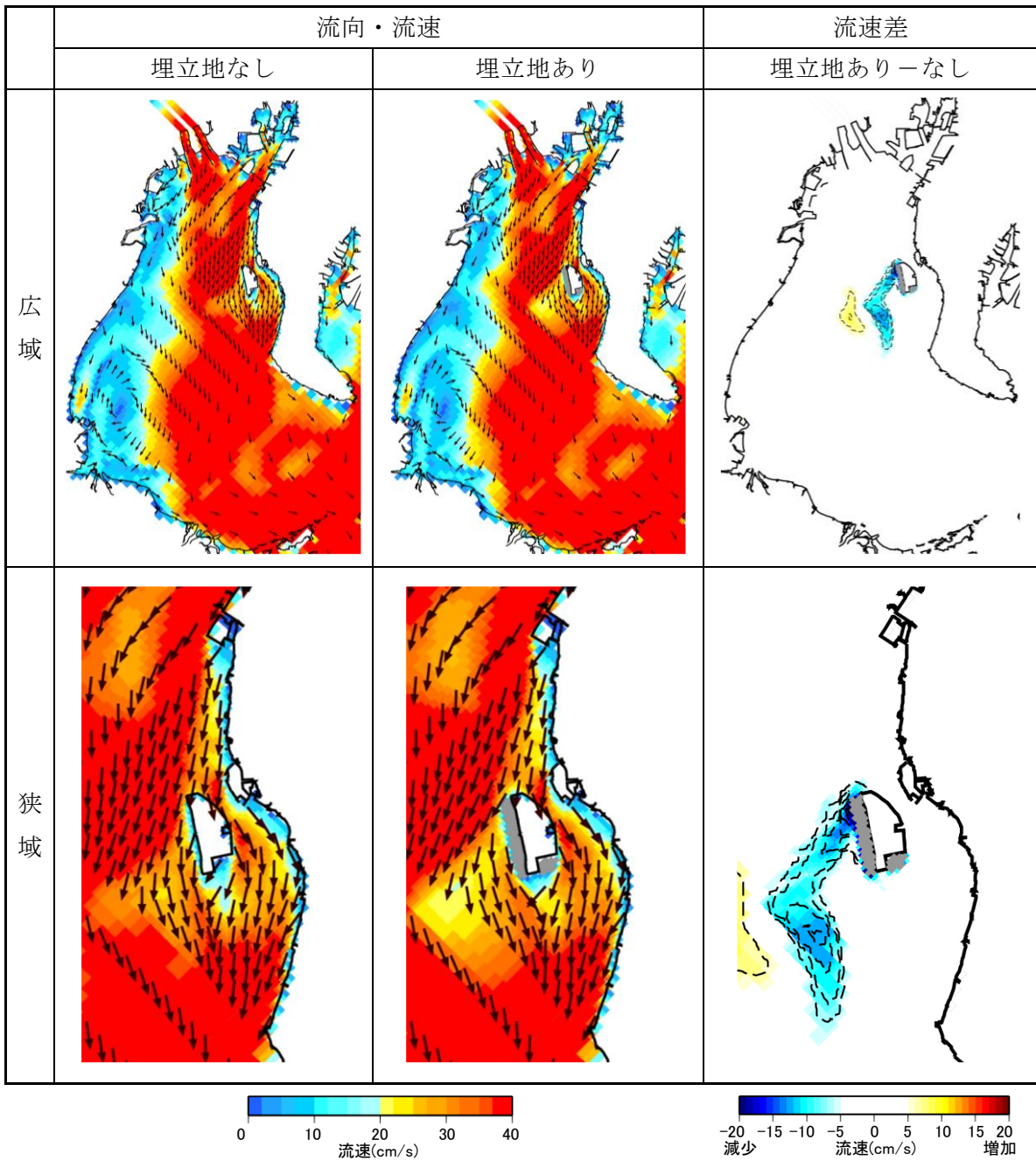
付図 8.6-2(5) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(夏季・中層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 8 月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



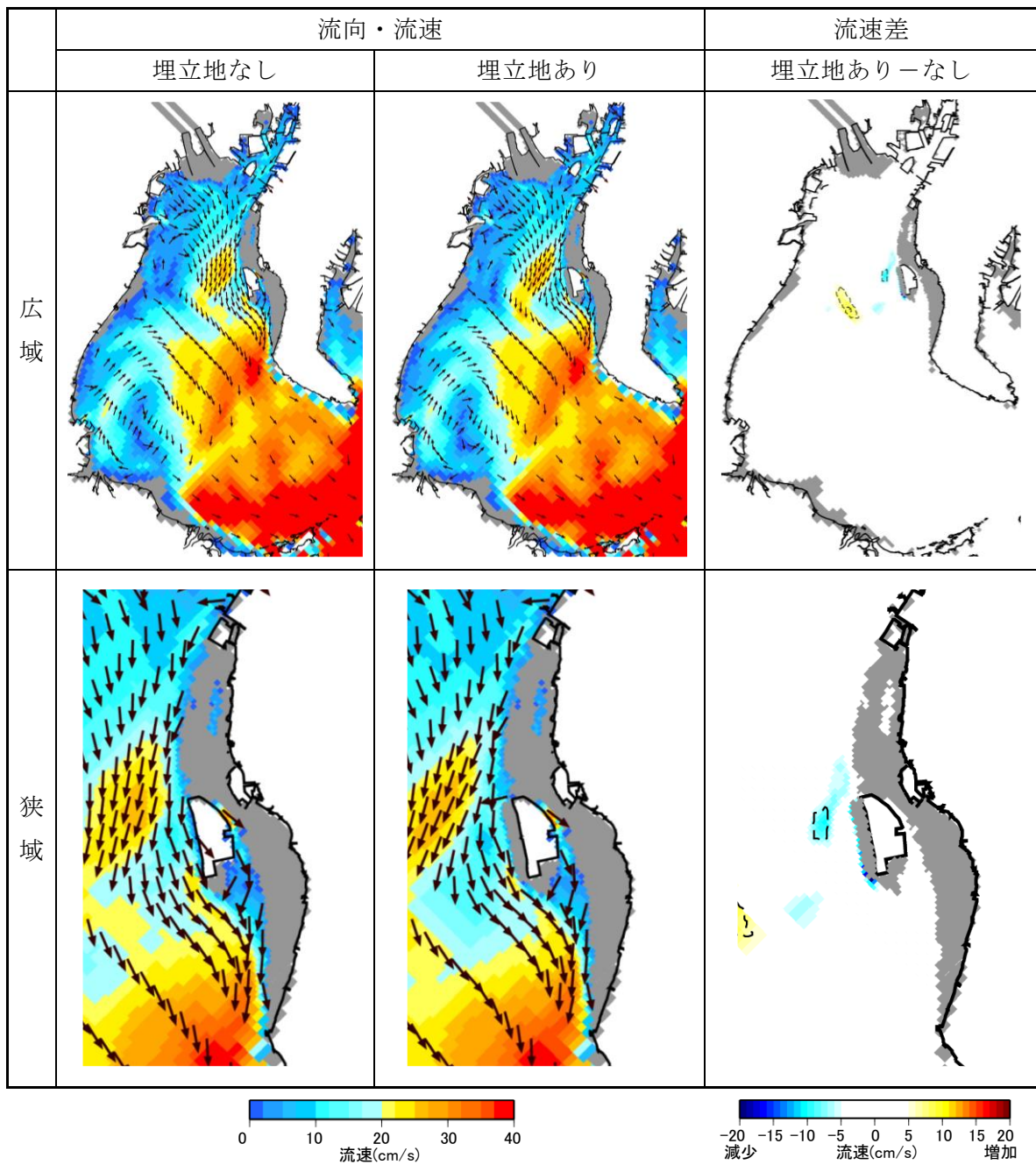
付図 8.6-2(6) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(夏季・底層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の8月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



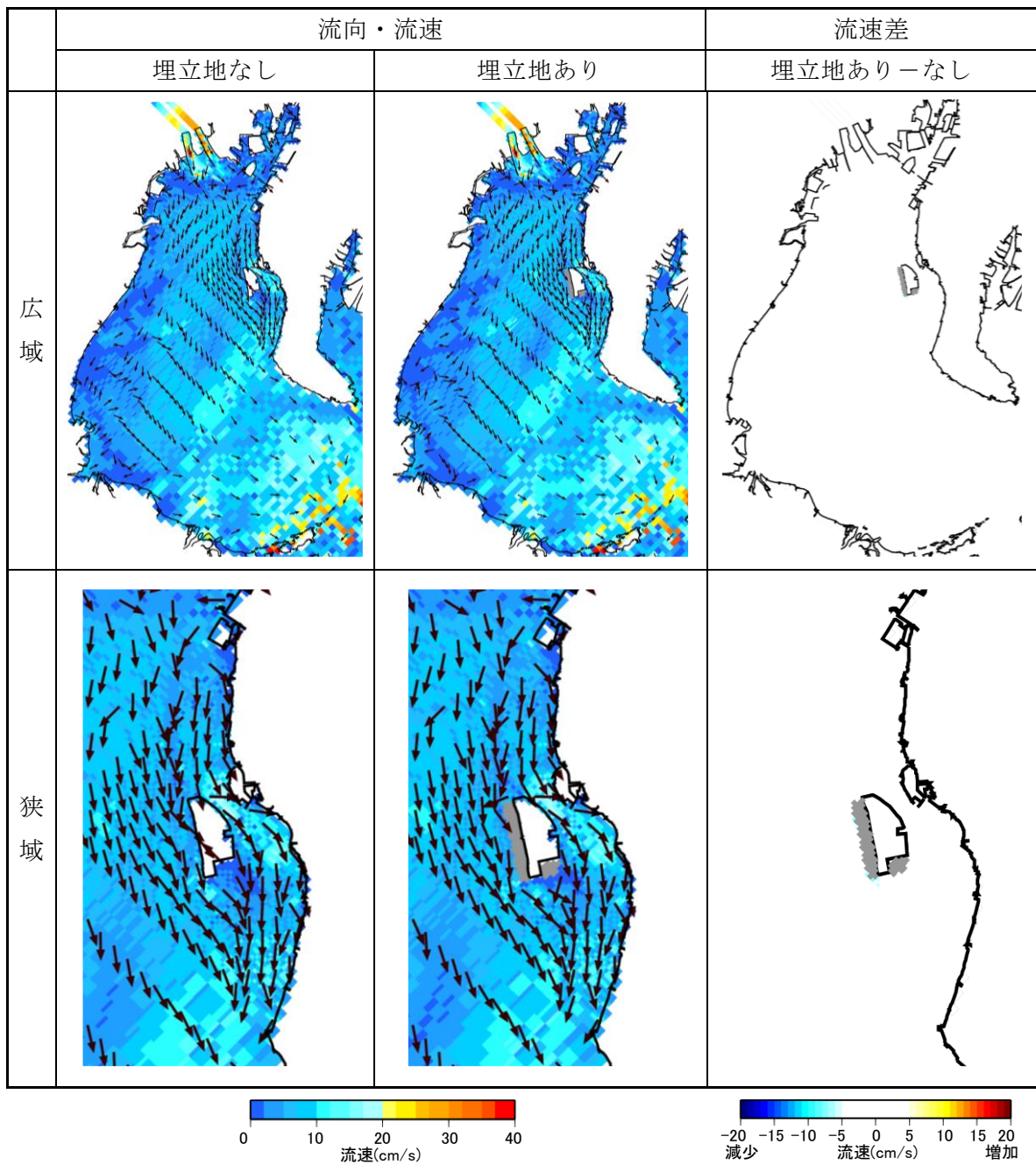
付図 8.6-2(7) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(秋季・上層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深 0～0.5m）の 11 月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



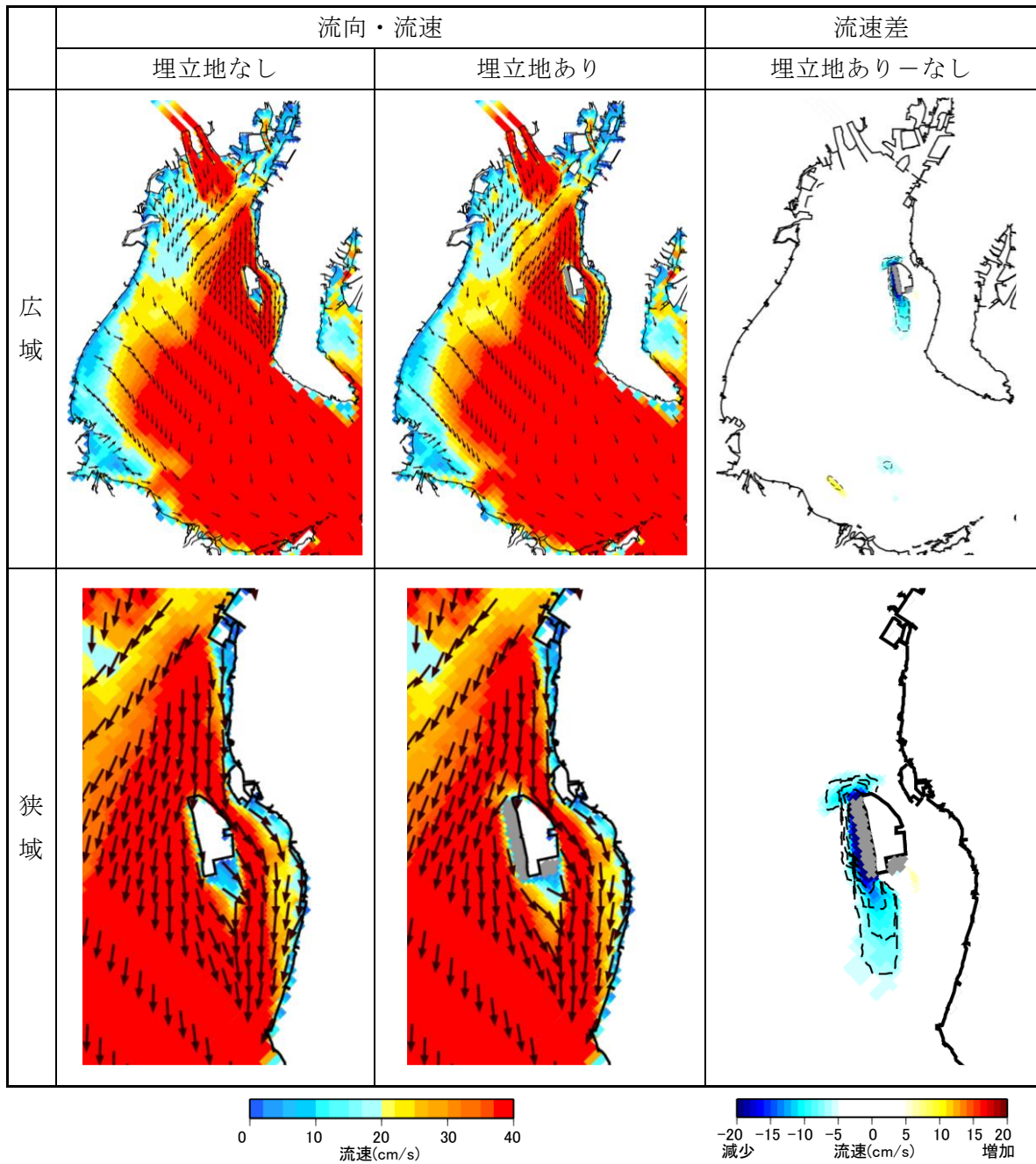
付図 8.6-2(8) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(秋季・中層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 11 月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで表す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



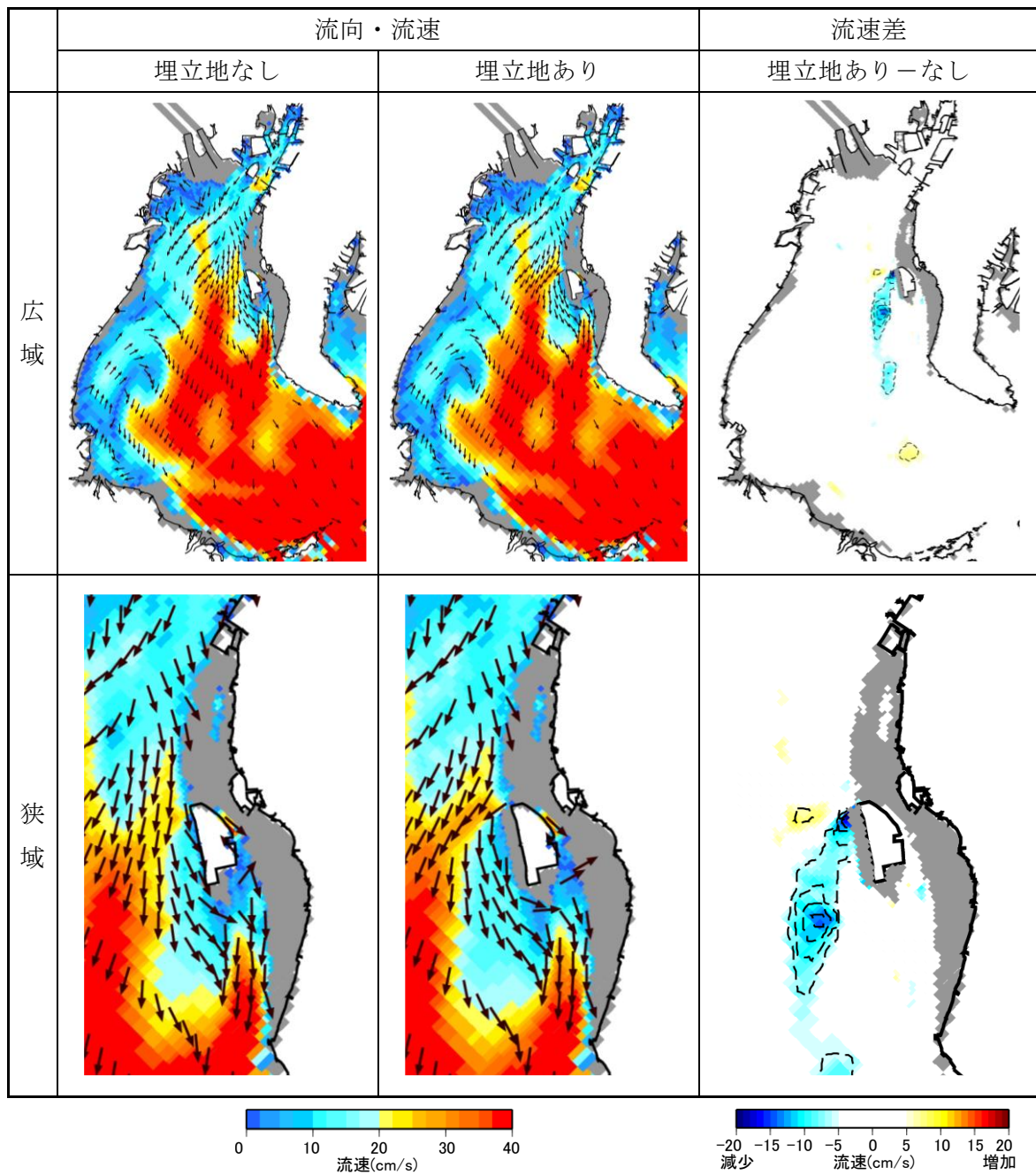
付図 8.6-2(9) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(秋季・底層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の11月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



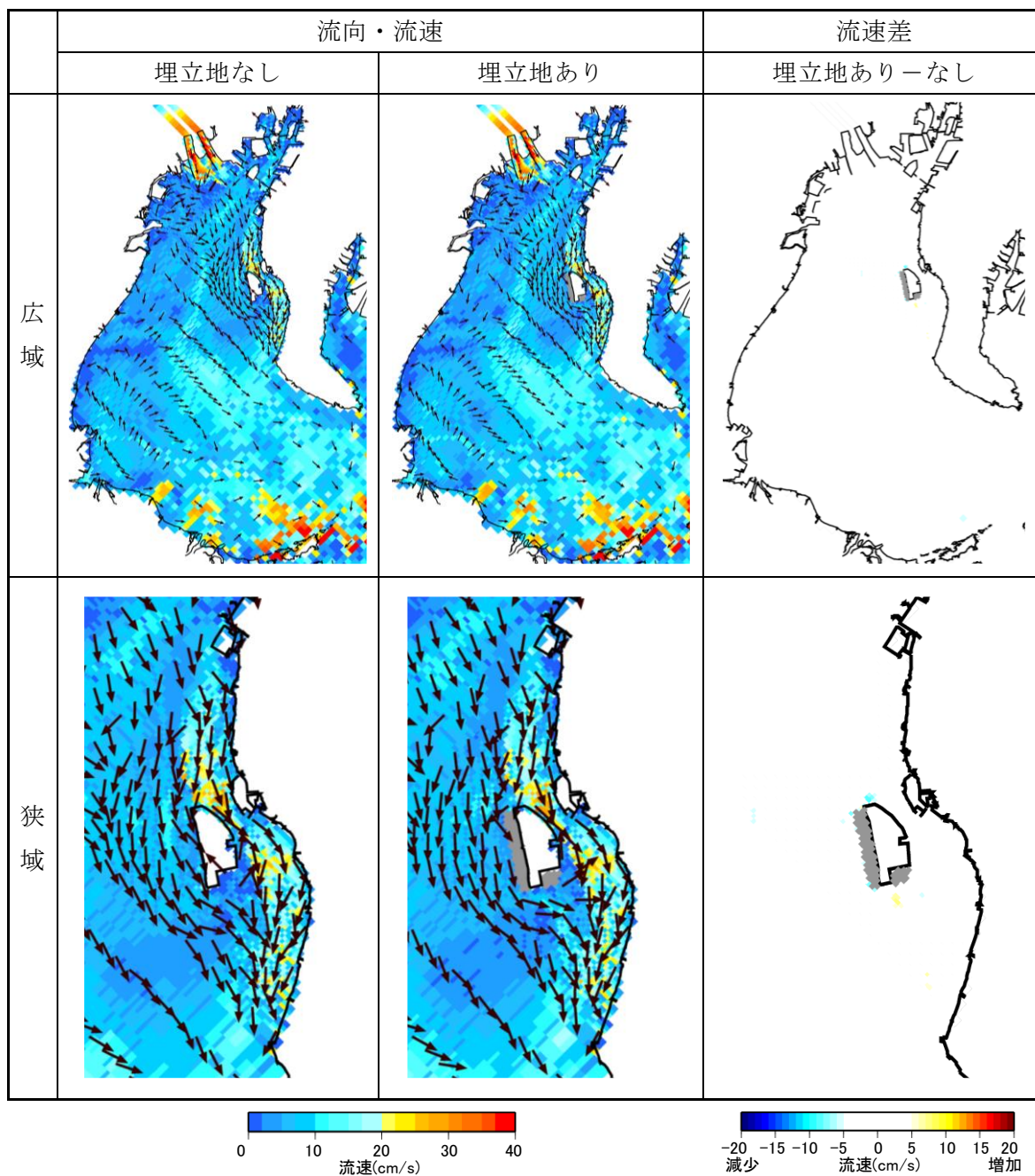
付図 8.6-2(10) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(冬季・上層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深 0～0.5m）の 2 月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで表す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



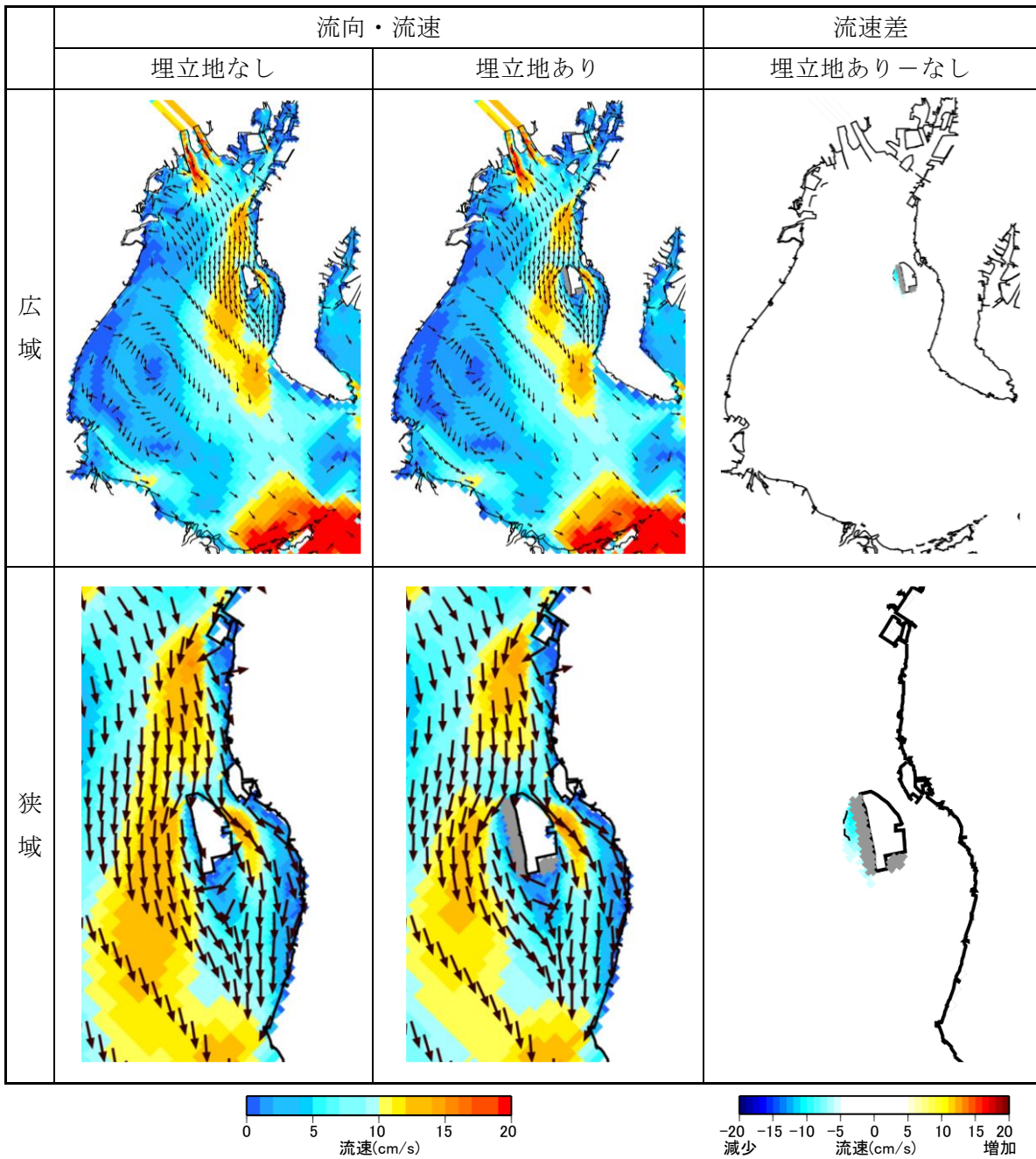
付図 8.6-2(11) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(冬季・中層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 2 月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



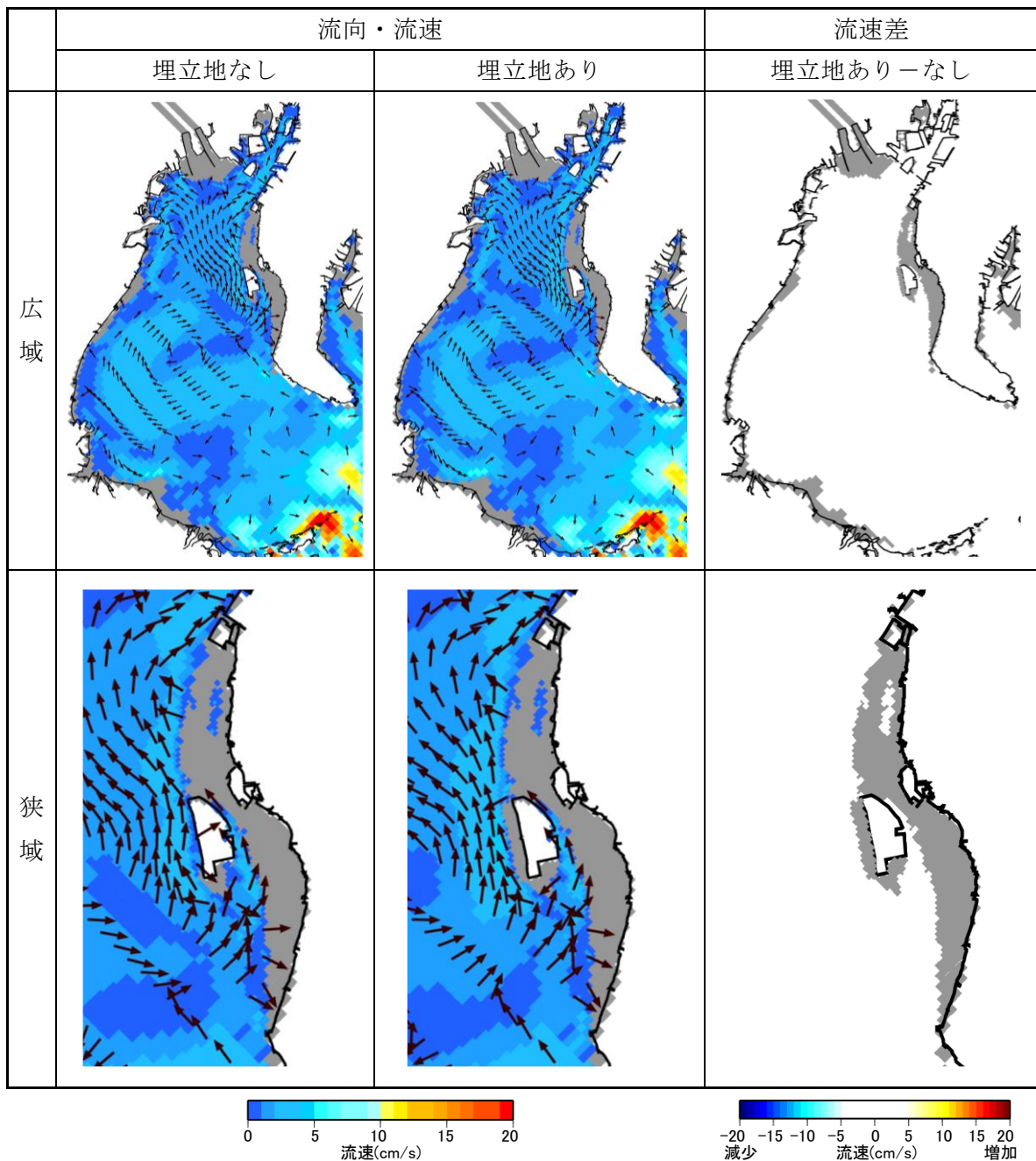
付図 8.6-2(12) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(冬季・底層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の2月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



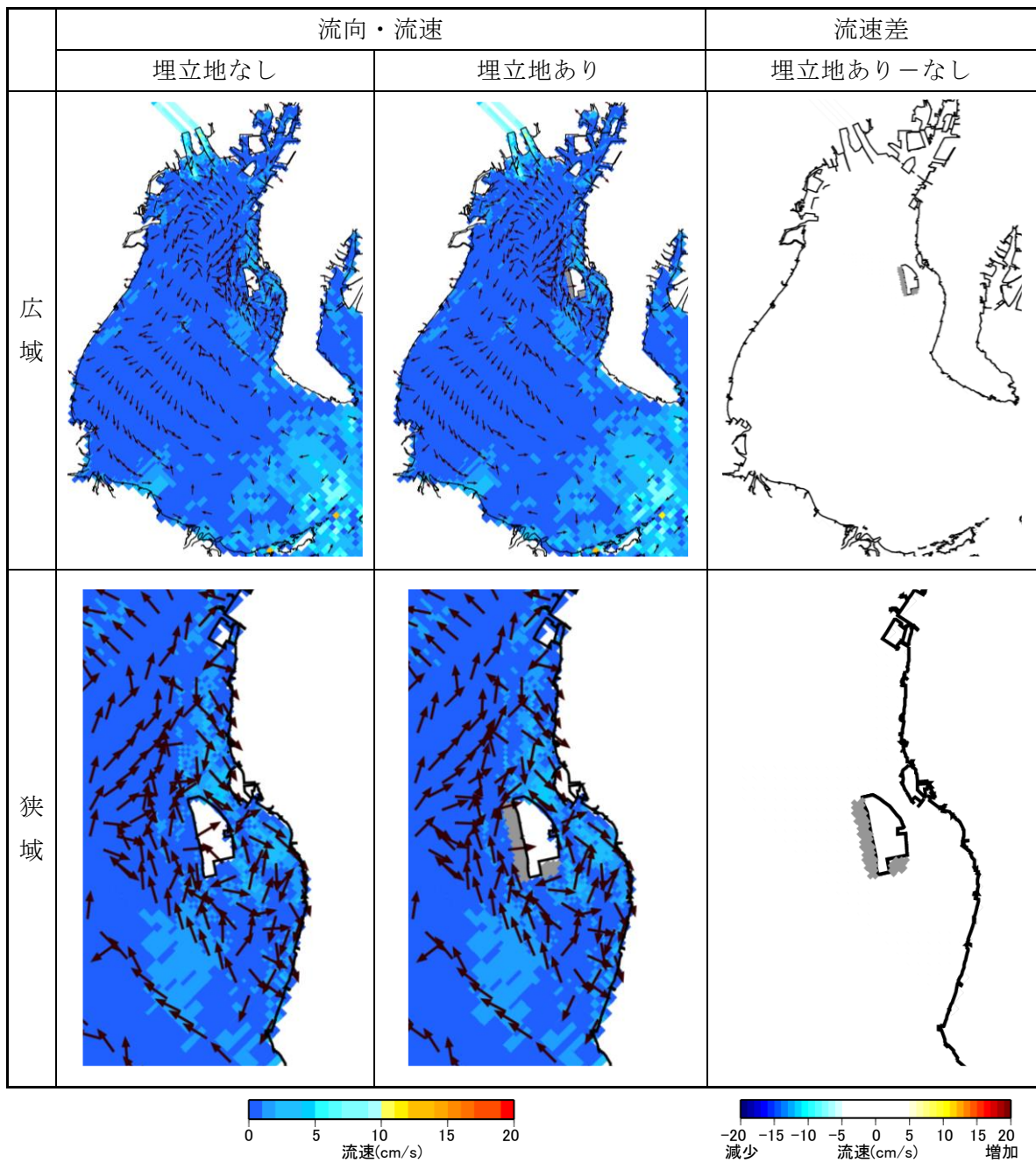
付図 8.6-3(1) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(春季・上層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深 0～0.5m）の 5 月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



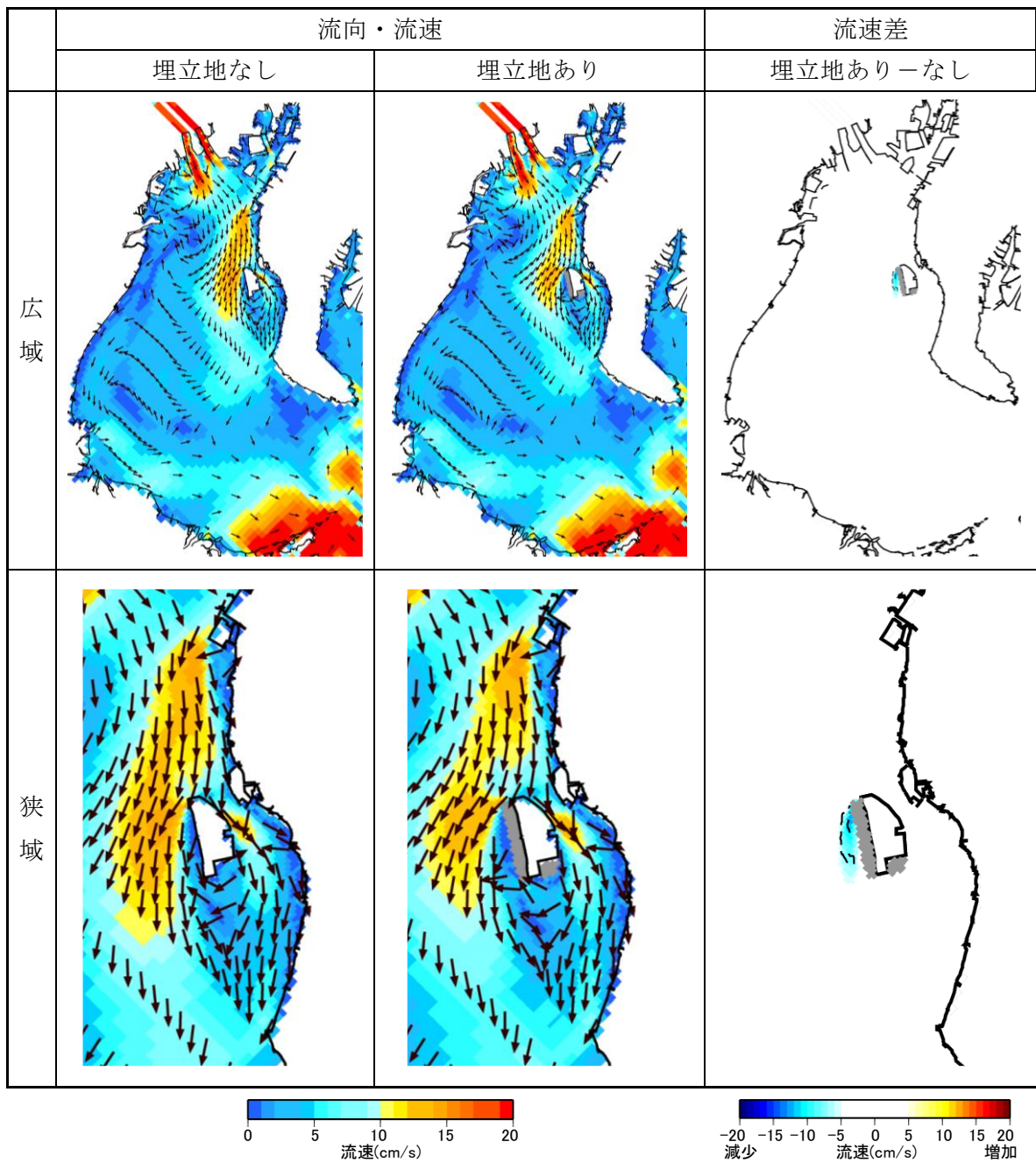
付図 8.6-3(2) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(春季・中層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 5 月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



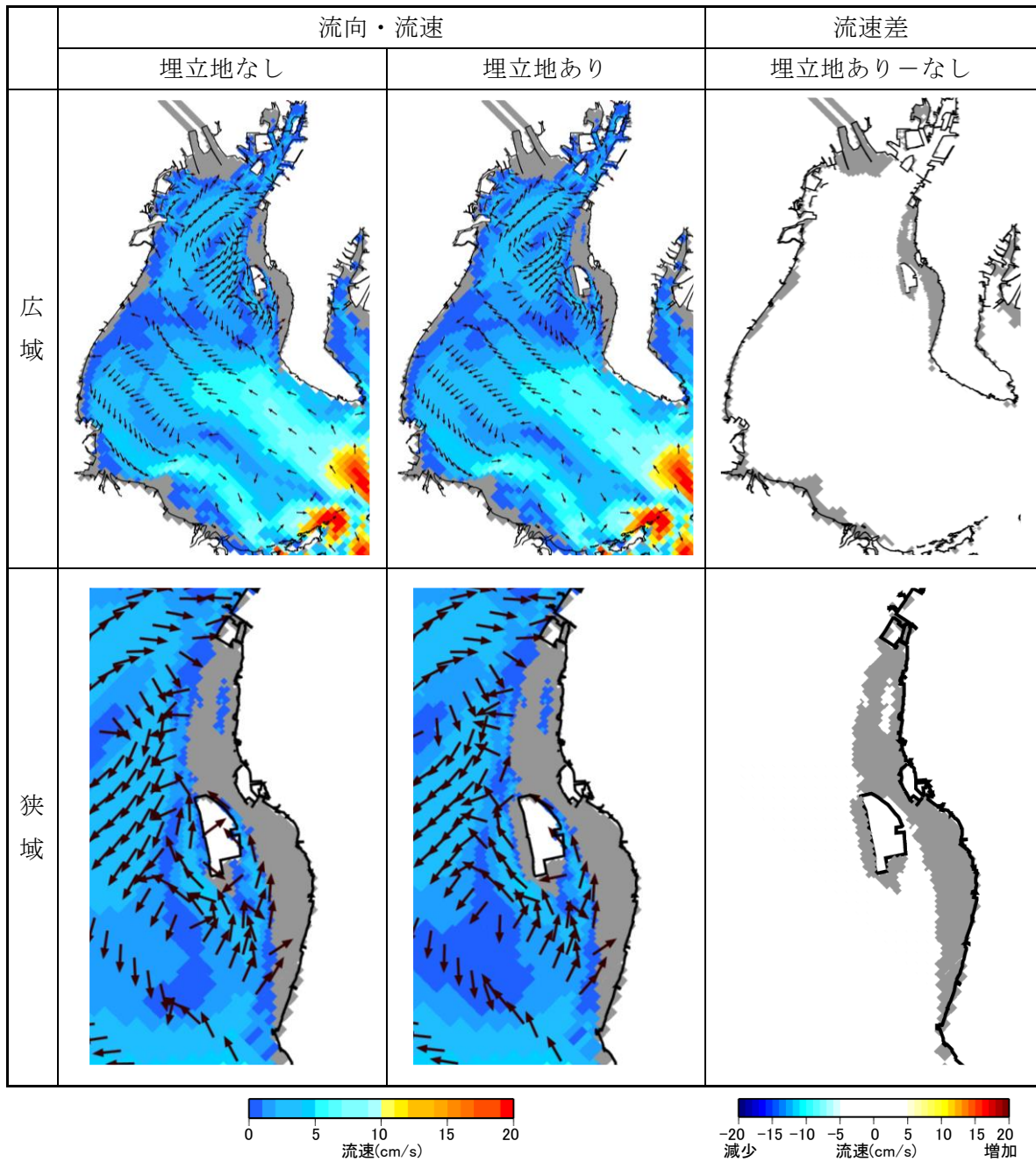
付図 8.6-3 (3) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(春季・底層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の5月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



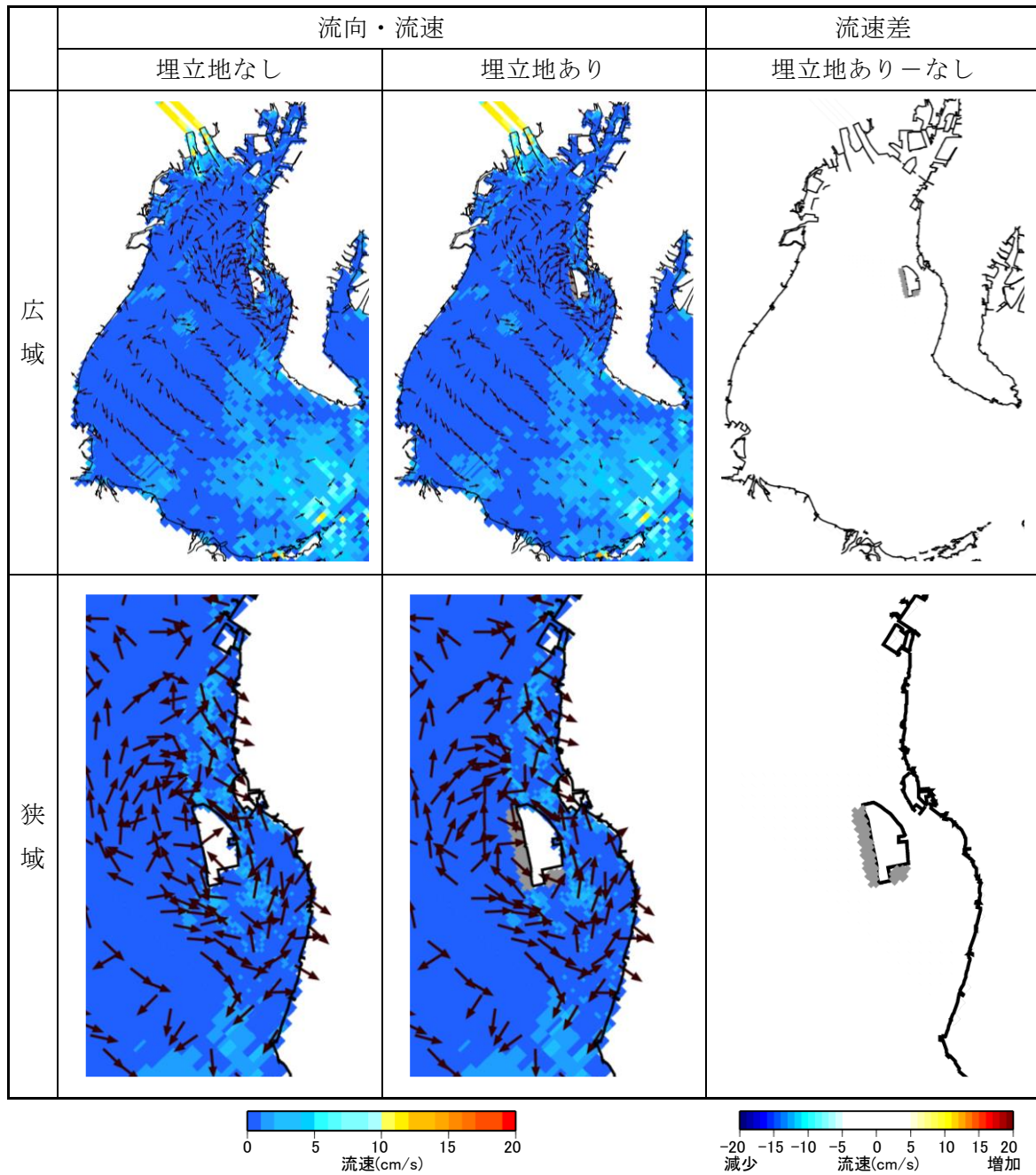
付図 8.6-3(4) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(夏季・上層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深 0～0.5m）の 8 月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



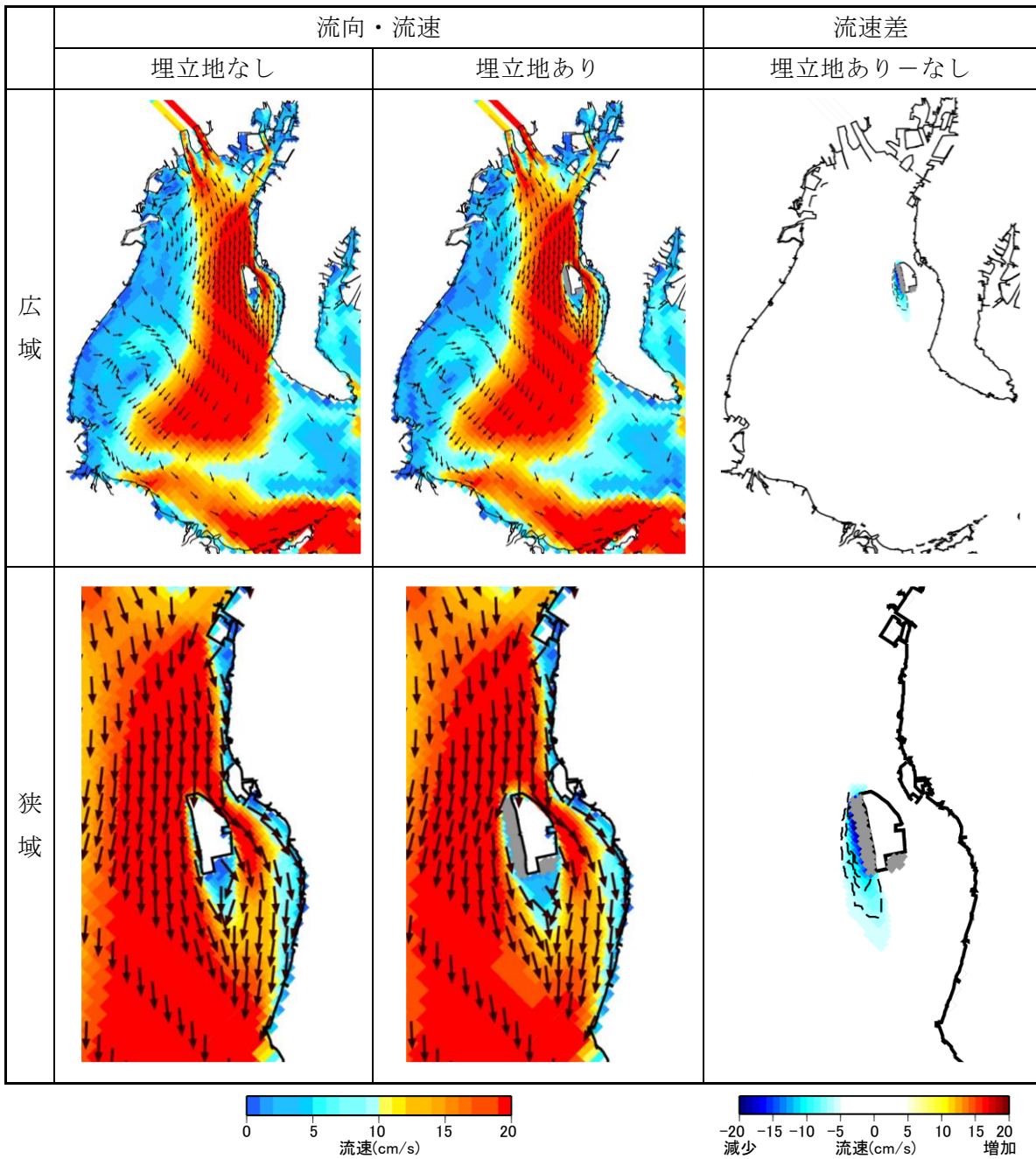
付図 8.6-3(5) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(夏季・中層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 8 月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



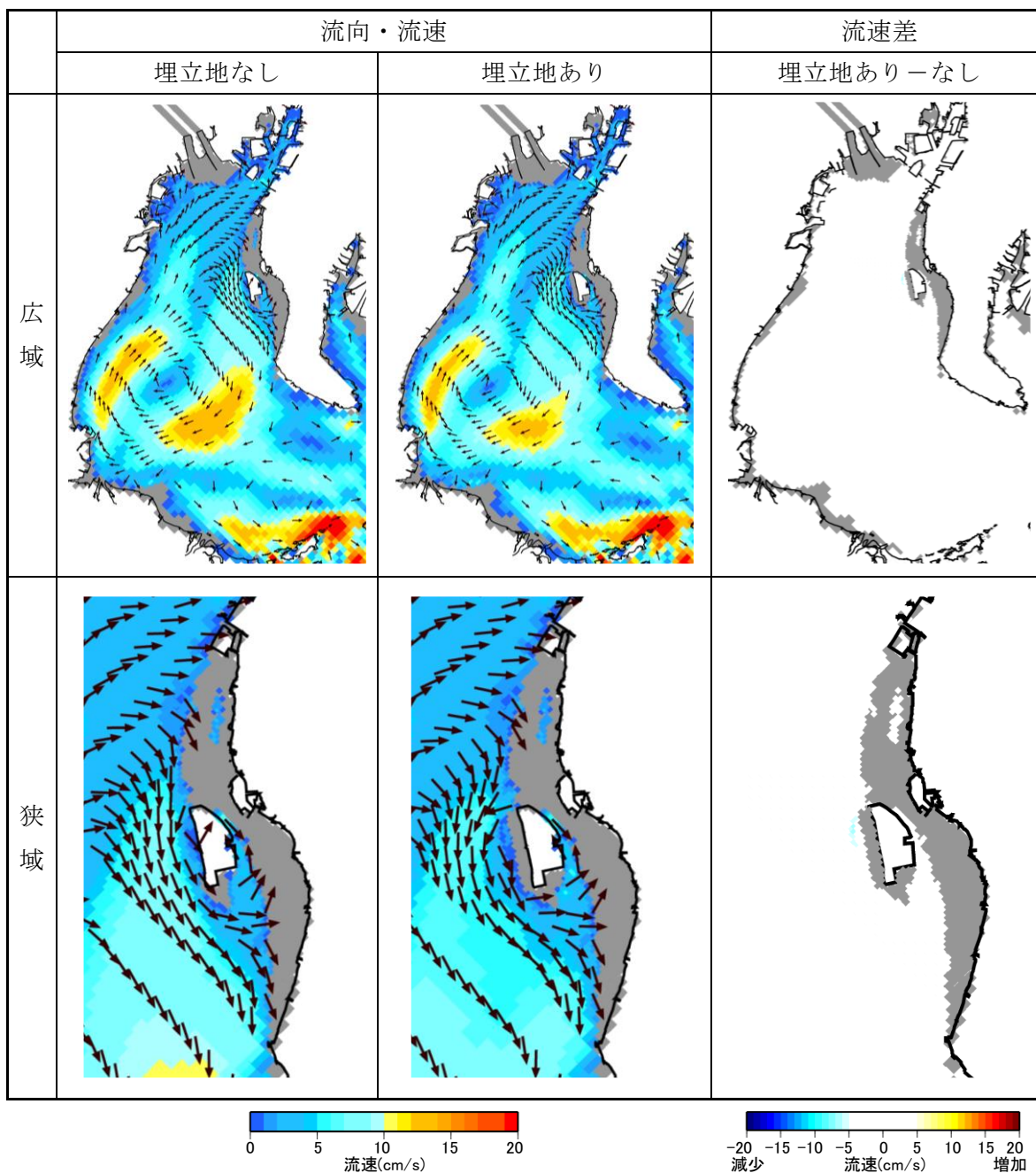
付図 8.6-3(6) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(夏季・底層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の8月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



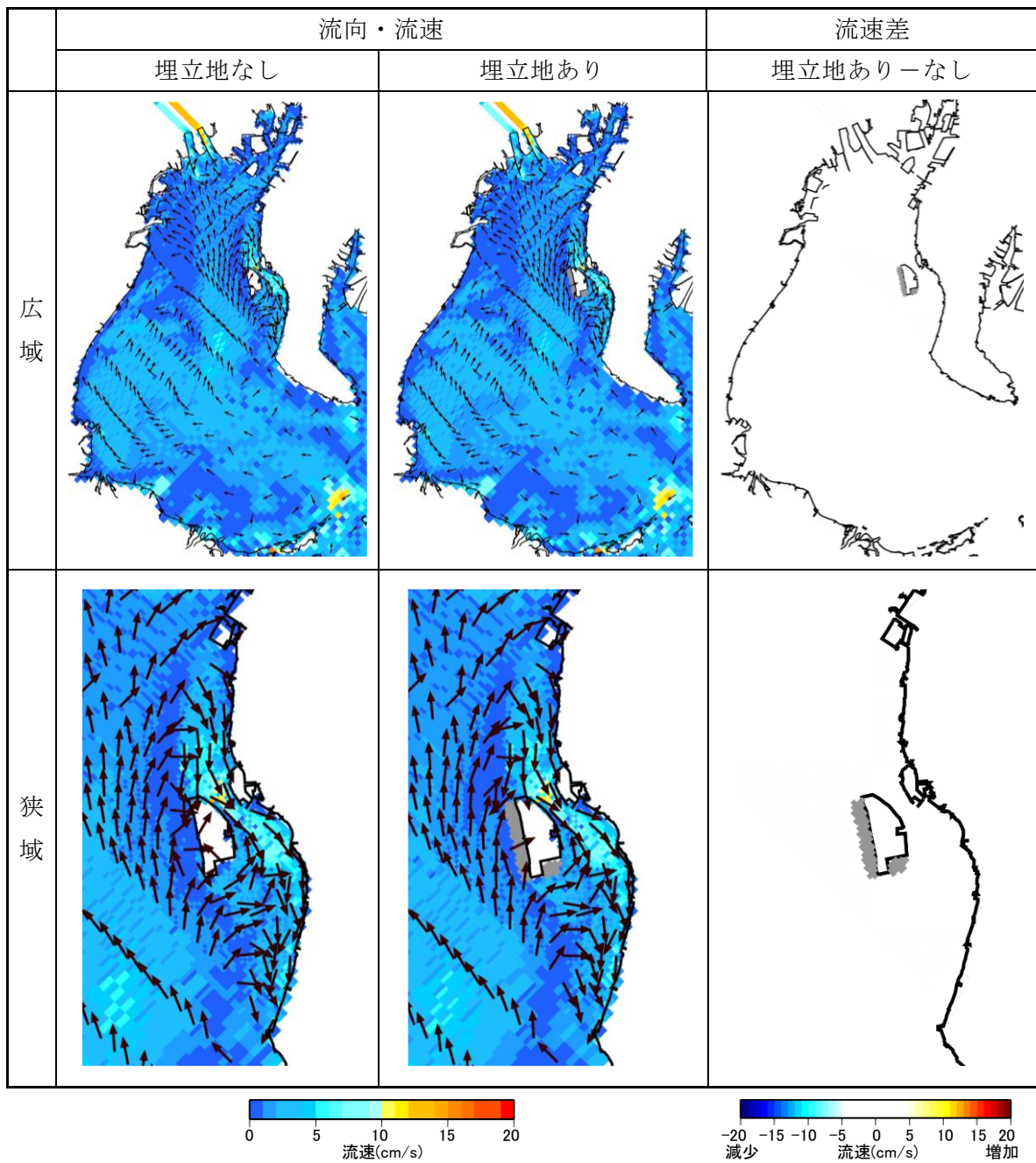
付図 8.6-3(7) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(秋季・上層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の11月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



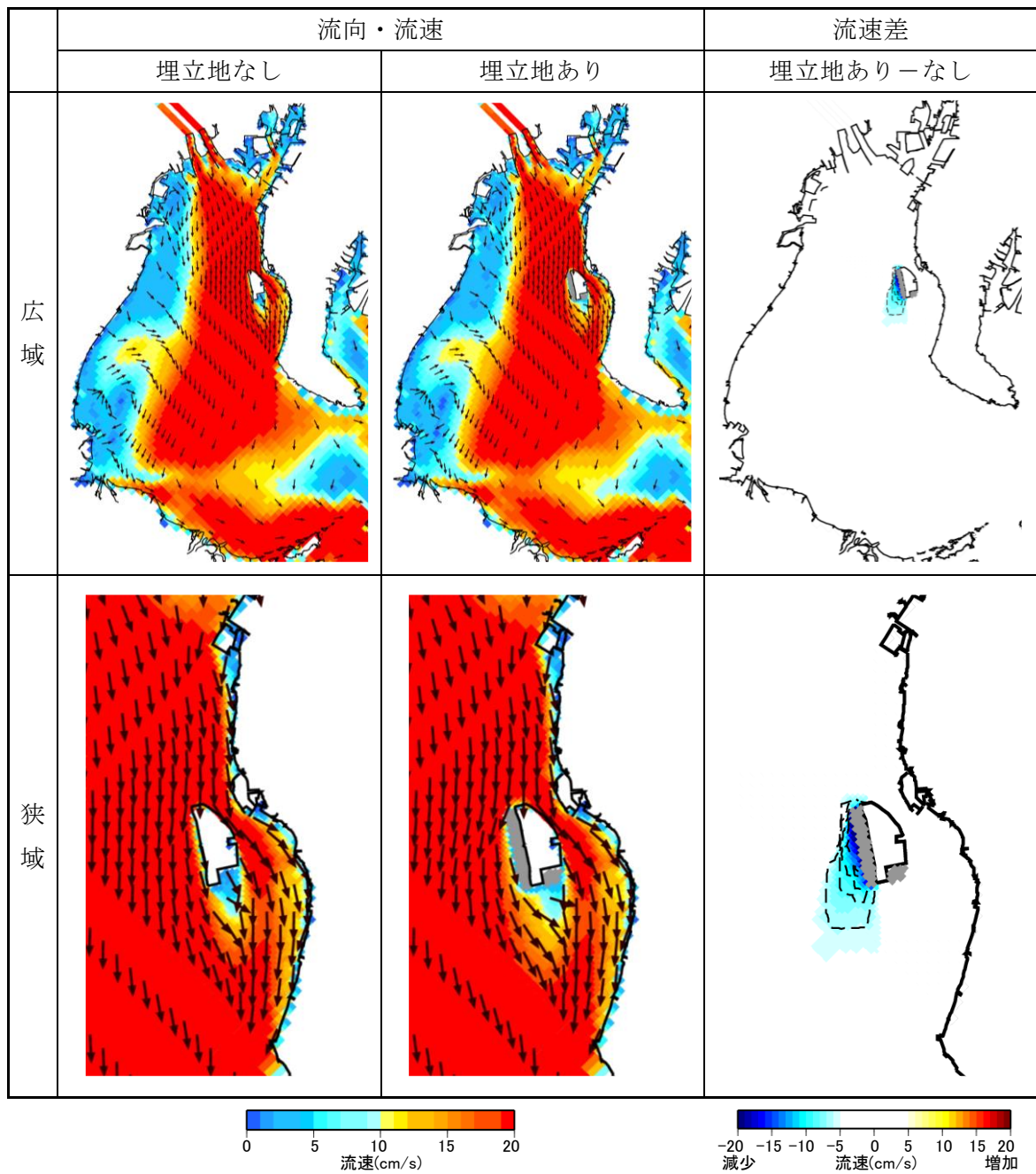
付図 8.6-3(8) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(秋季・中層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 11 月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



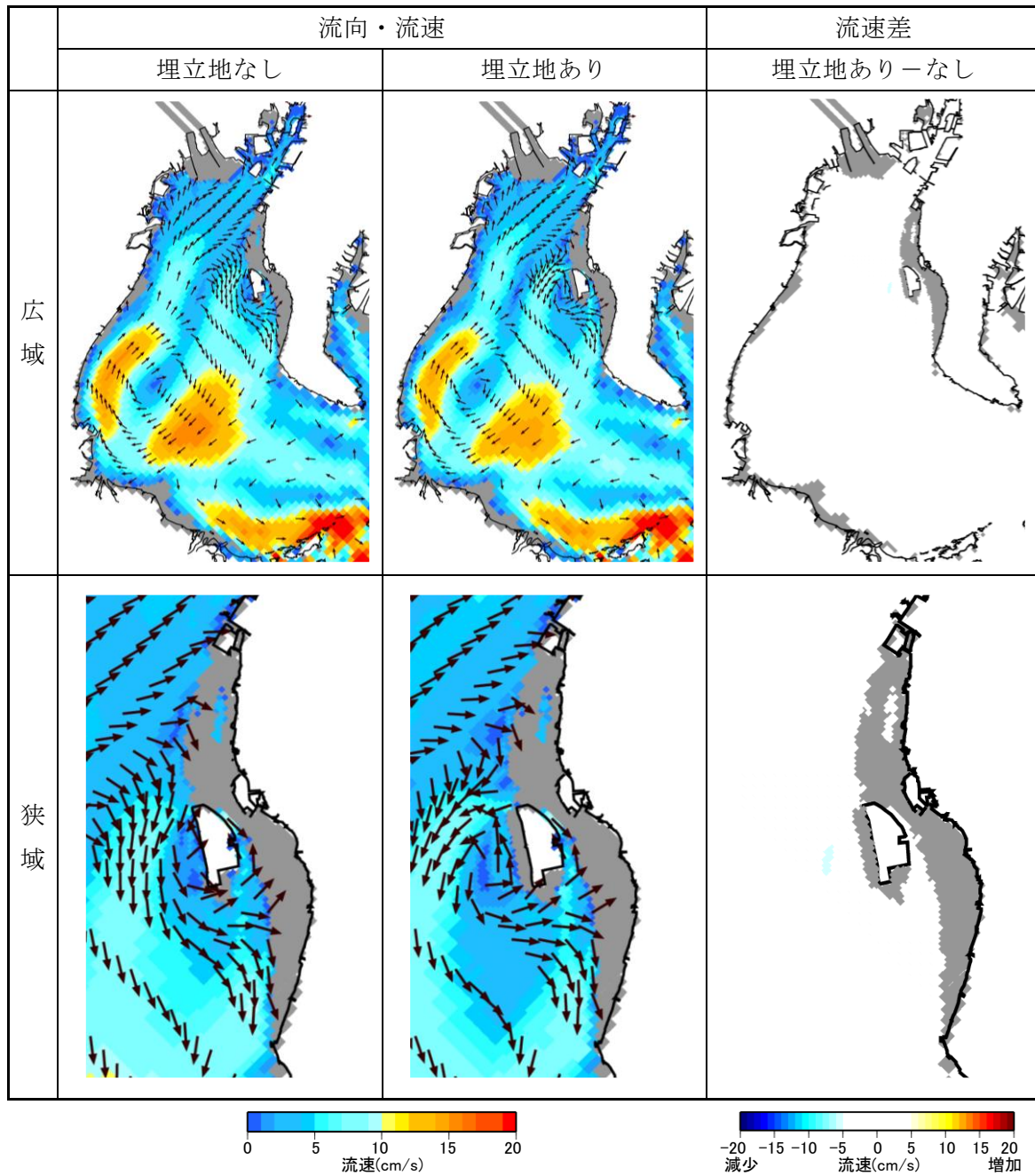
付図 8. 6-3 (9) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(秋季・底層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の11月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



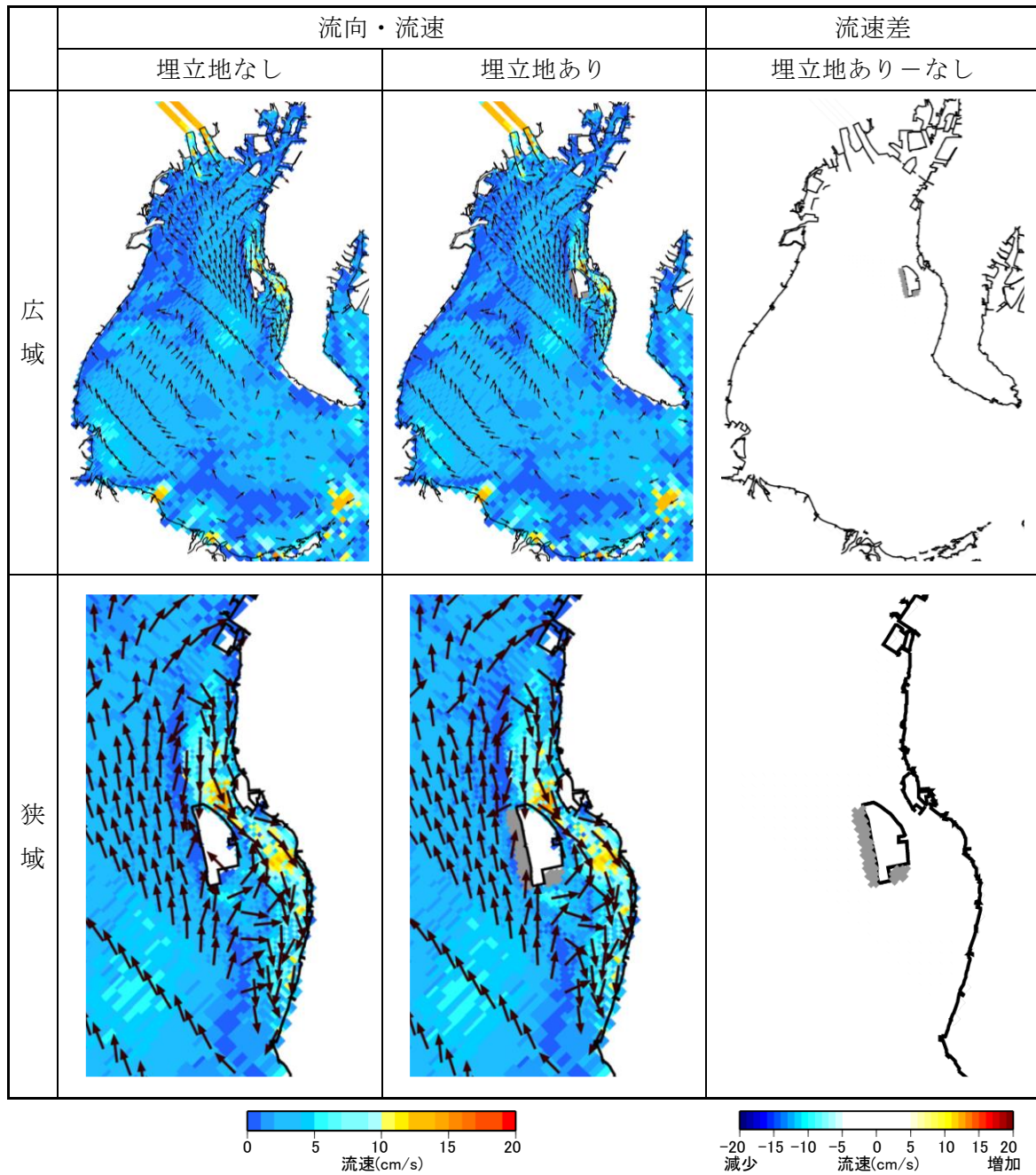
付図 8.6-3(10) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(冬季・上層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深 0～0.5m）の 2 月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



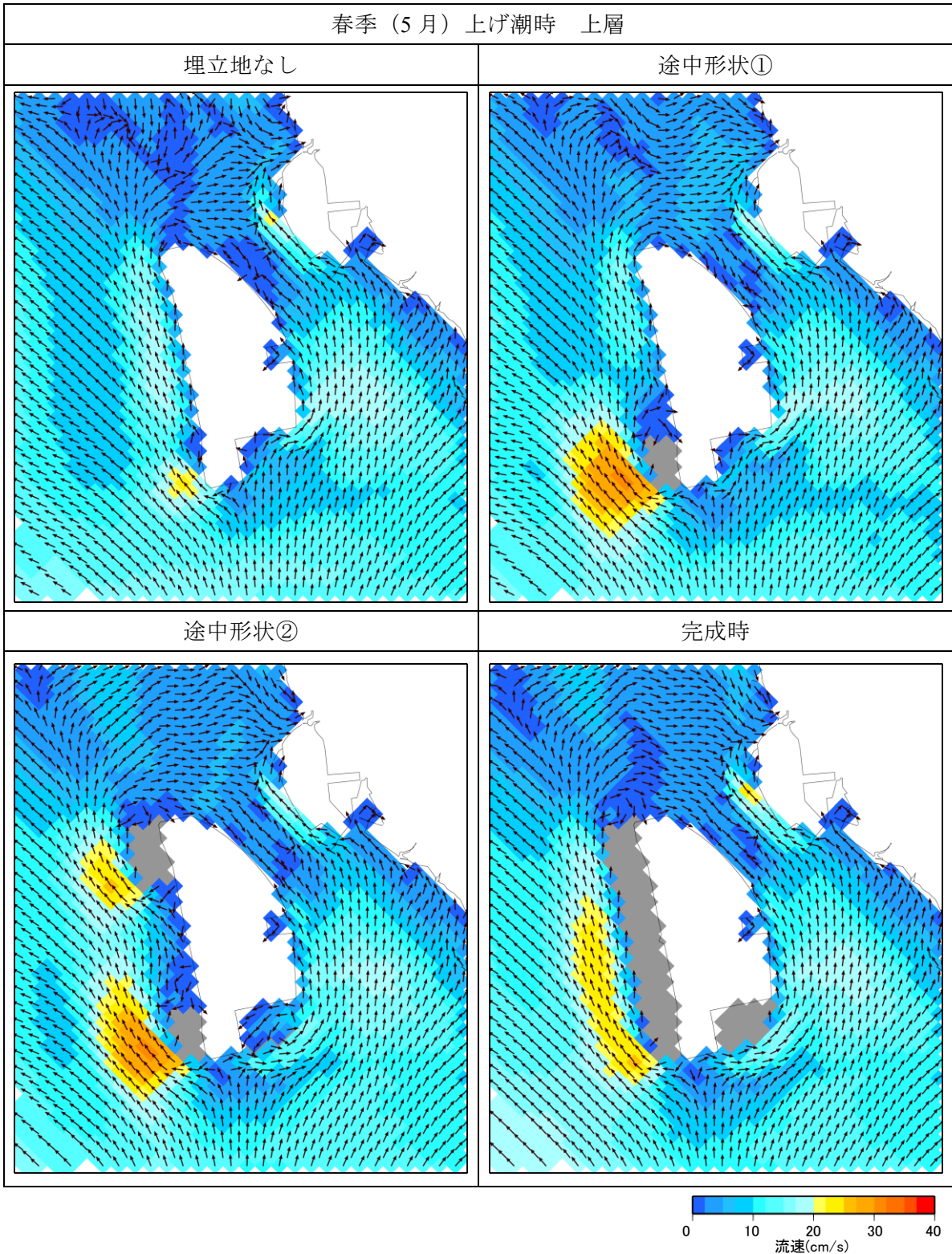
付図 8. 6-3(11) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(冬季・中層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 2月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



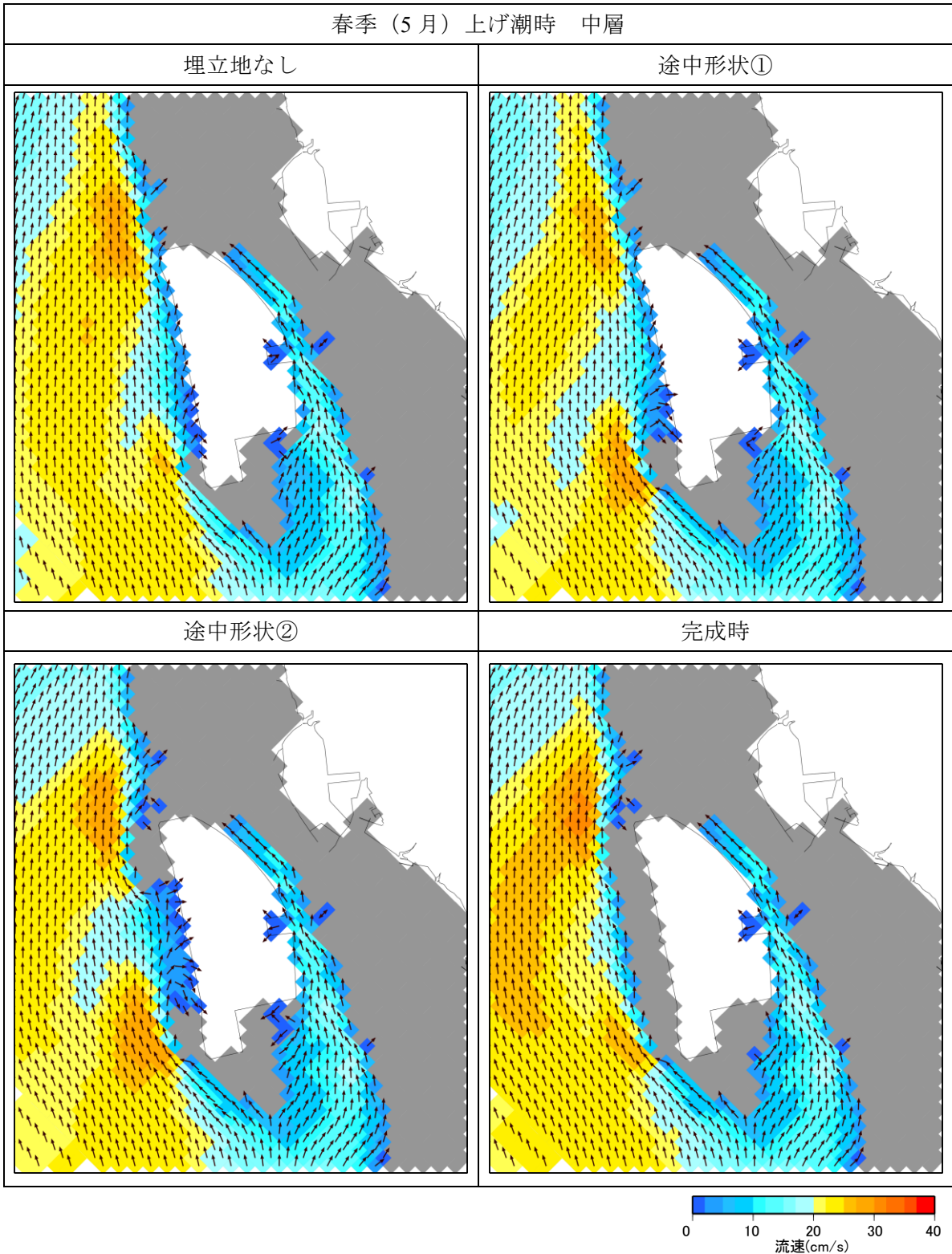
付図 8.6-3(12) 埋立地あり及びなしの場合における流向及び流速の予測結果
(冬季・底層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の2月の月平均、流速差は埋立地ありから埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



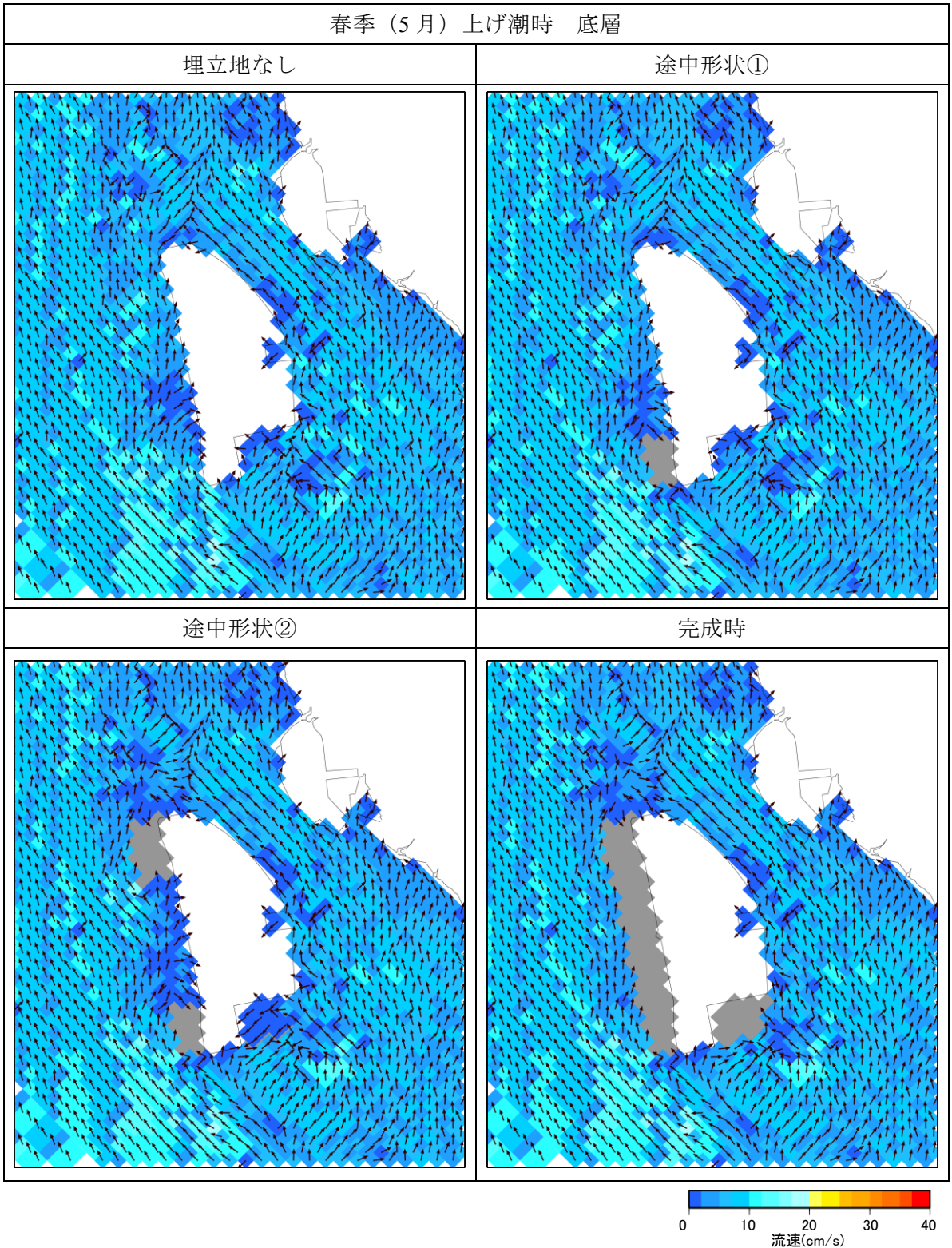
付図 8. 6-4(1) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 （空港島周辺、春季・上層、上げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の5月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



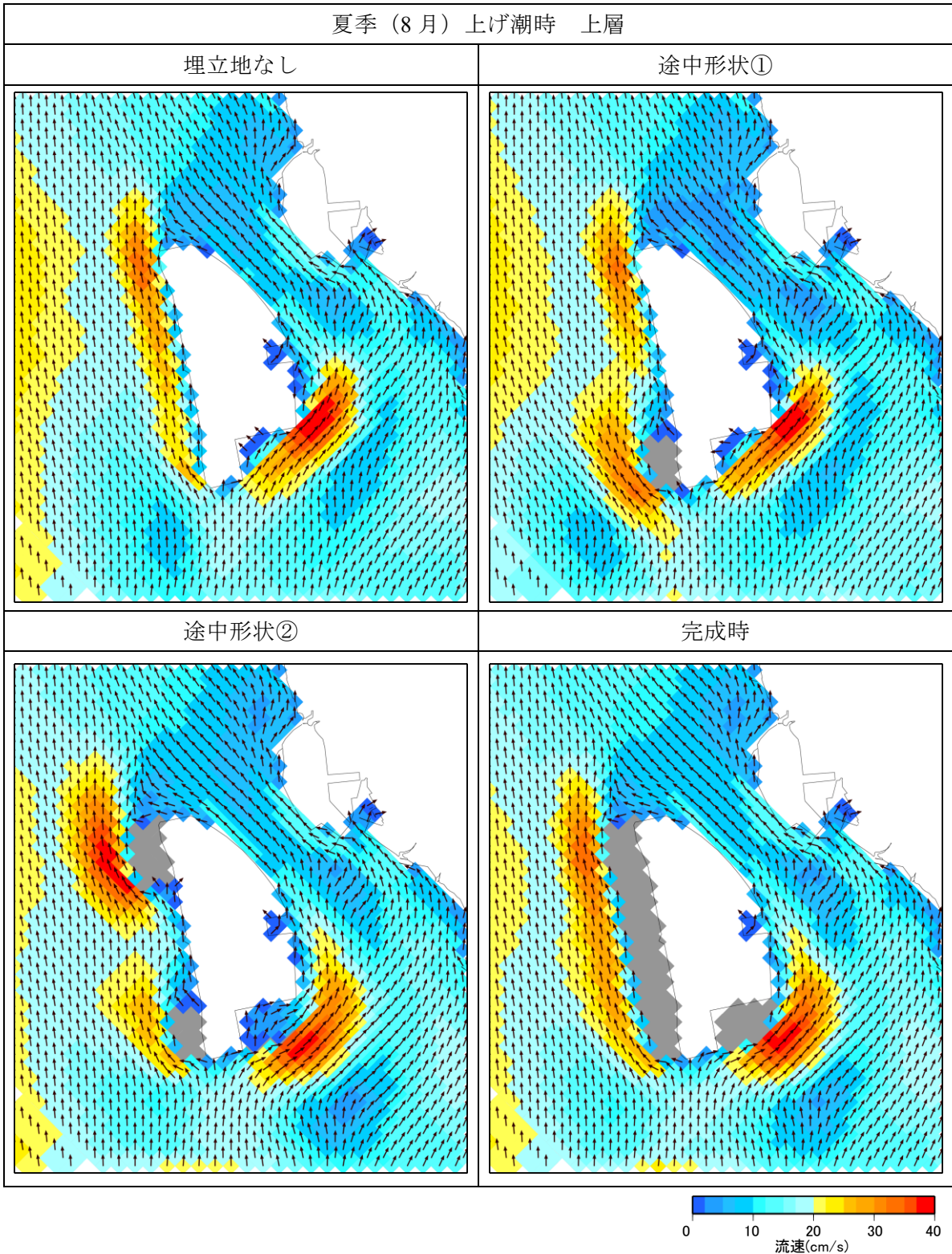
付図 8. 6-4(2) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 （空港島周辺、春季・中層、上げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は中層（水深7～8m）の5月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



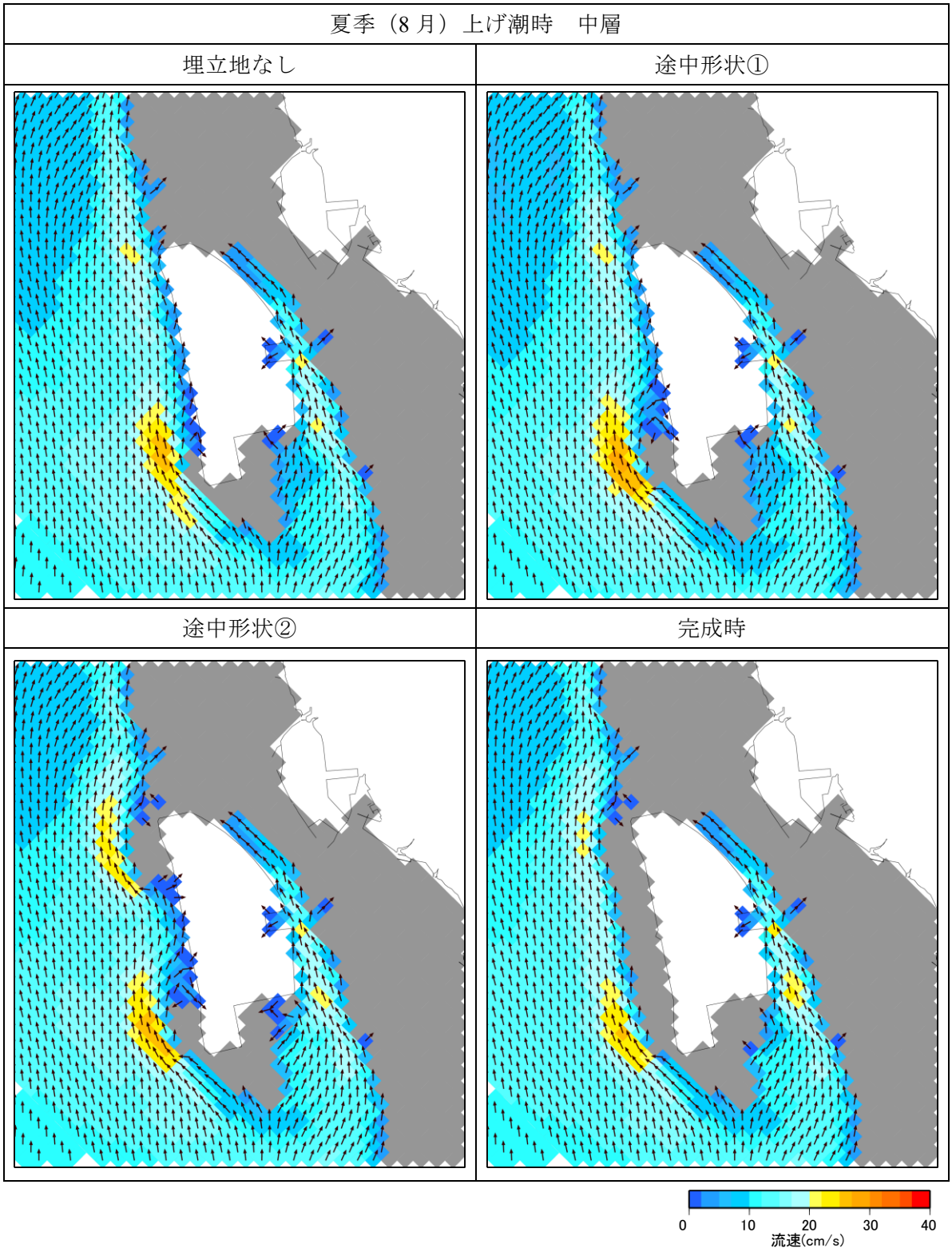
付図 8. 6-4 (3) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 (空港島周辺、春季・底層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の5月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



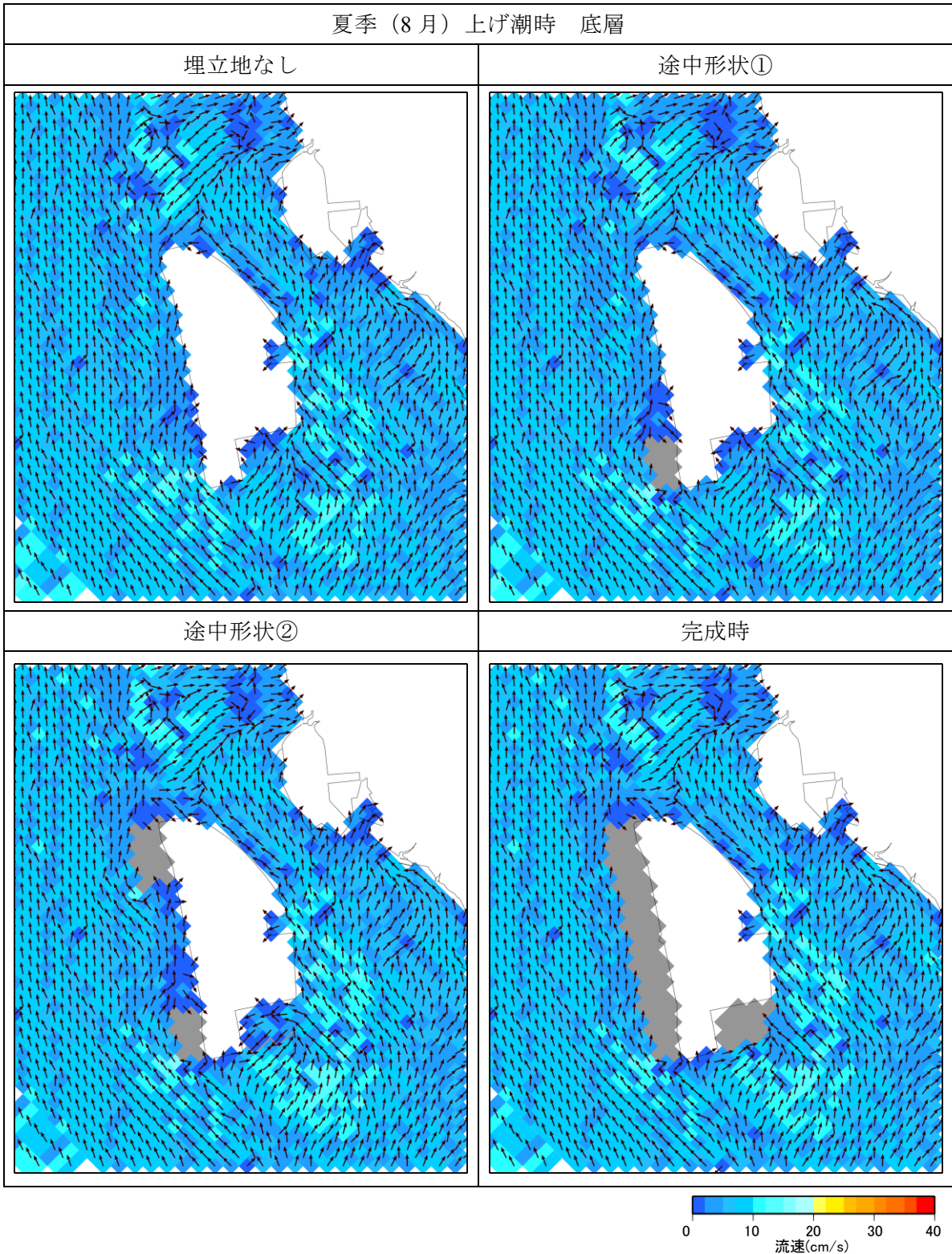
付図 8. 6-4(4) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 （空港島周辺、夏季・上層、上げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の8月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



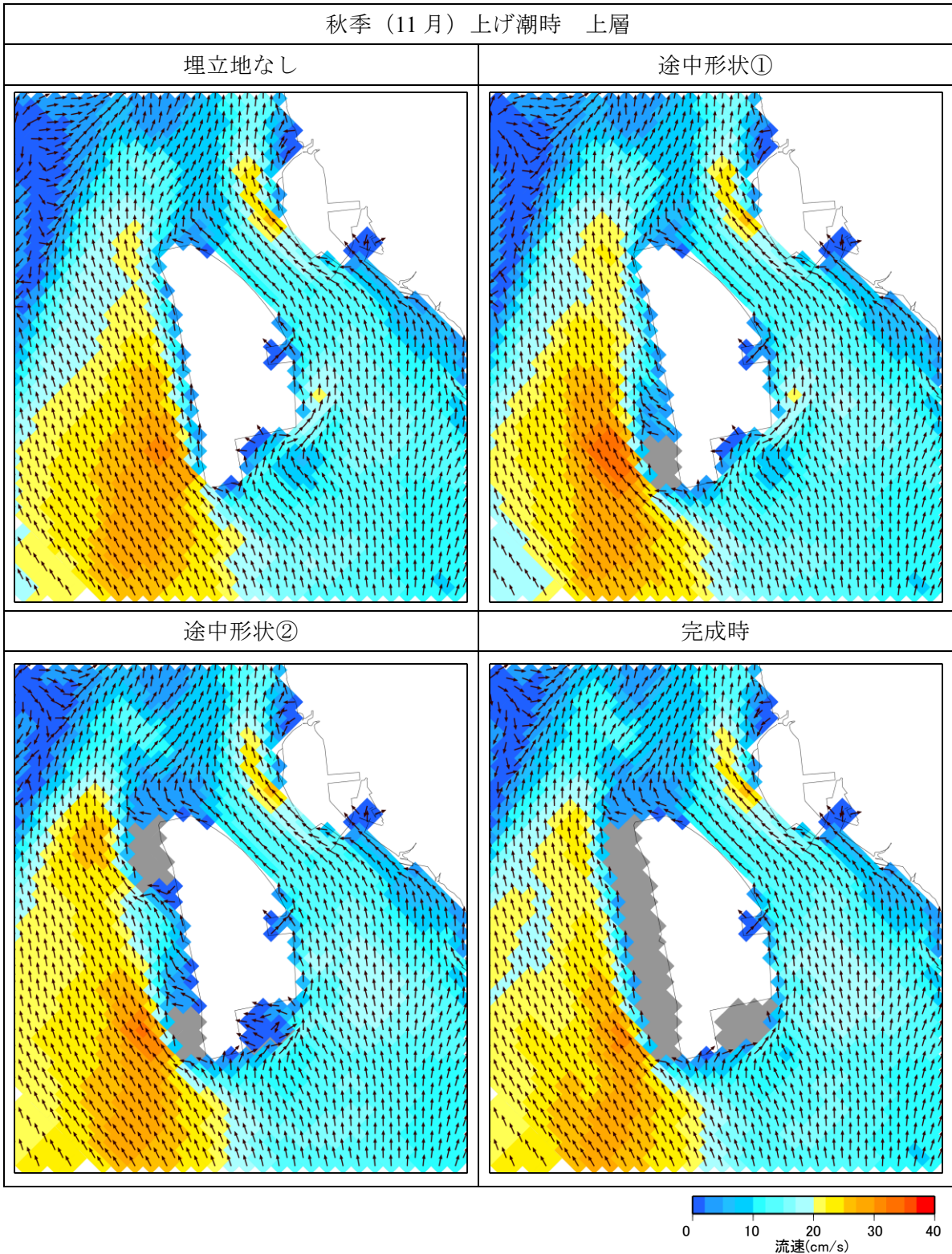
付図 8. 6-4(5) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 （空港島周辺、夏季・中層、上げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 8 月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



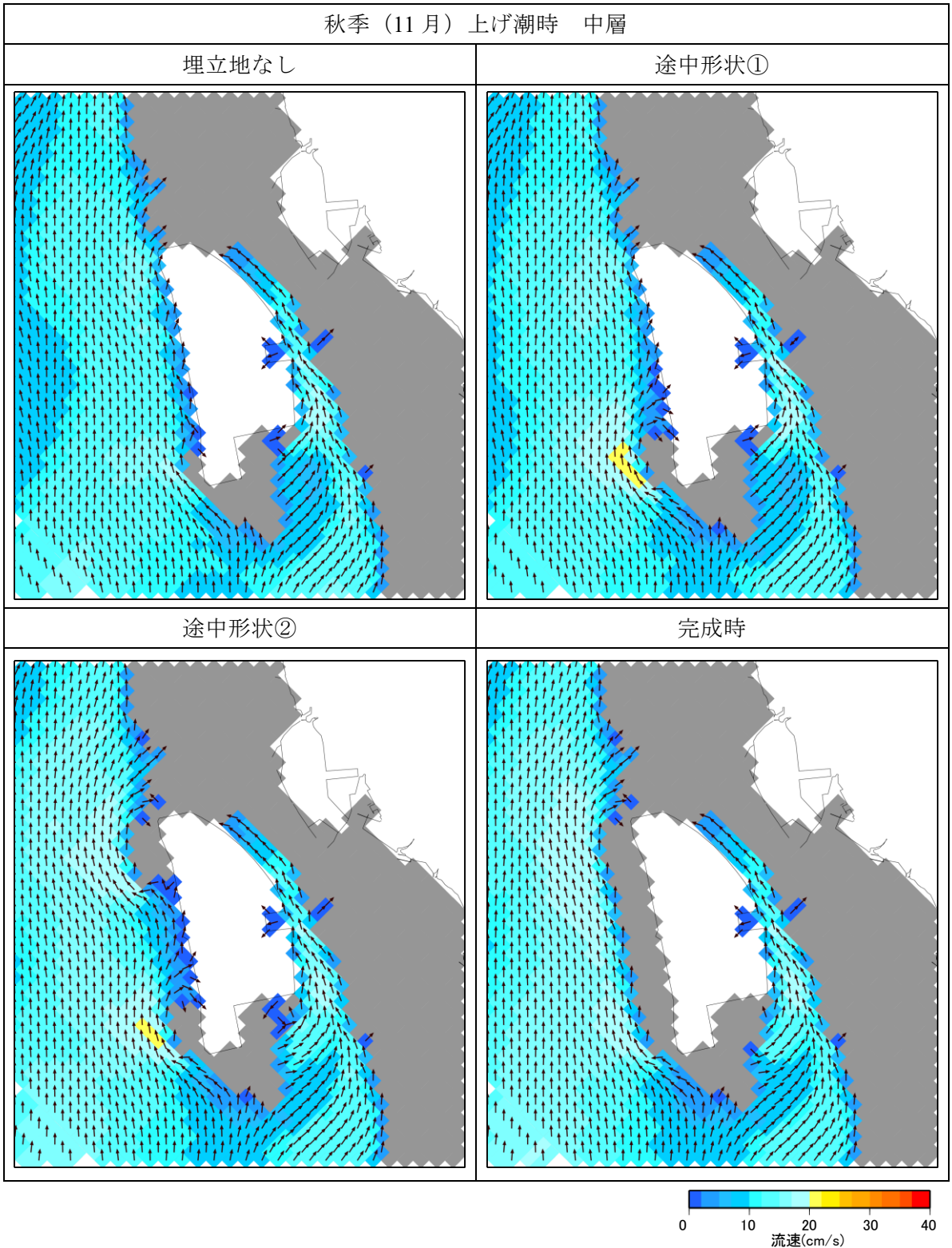
付図 8. 6-4(6) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、夏季・底層、上げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の8月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



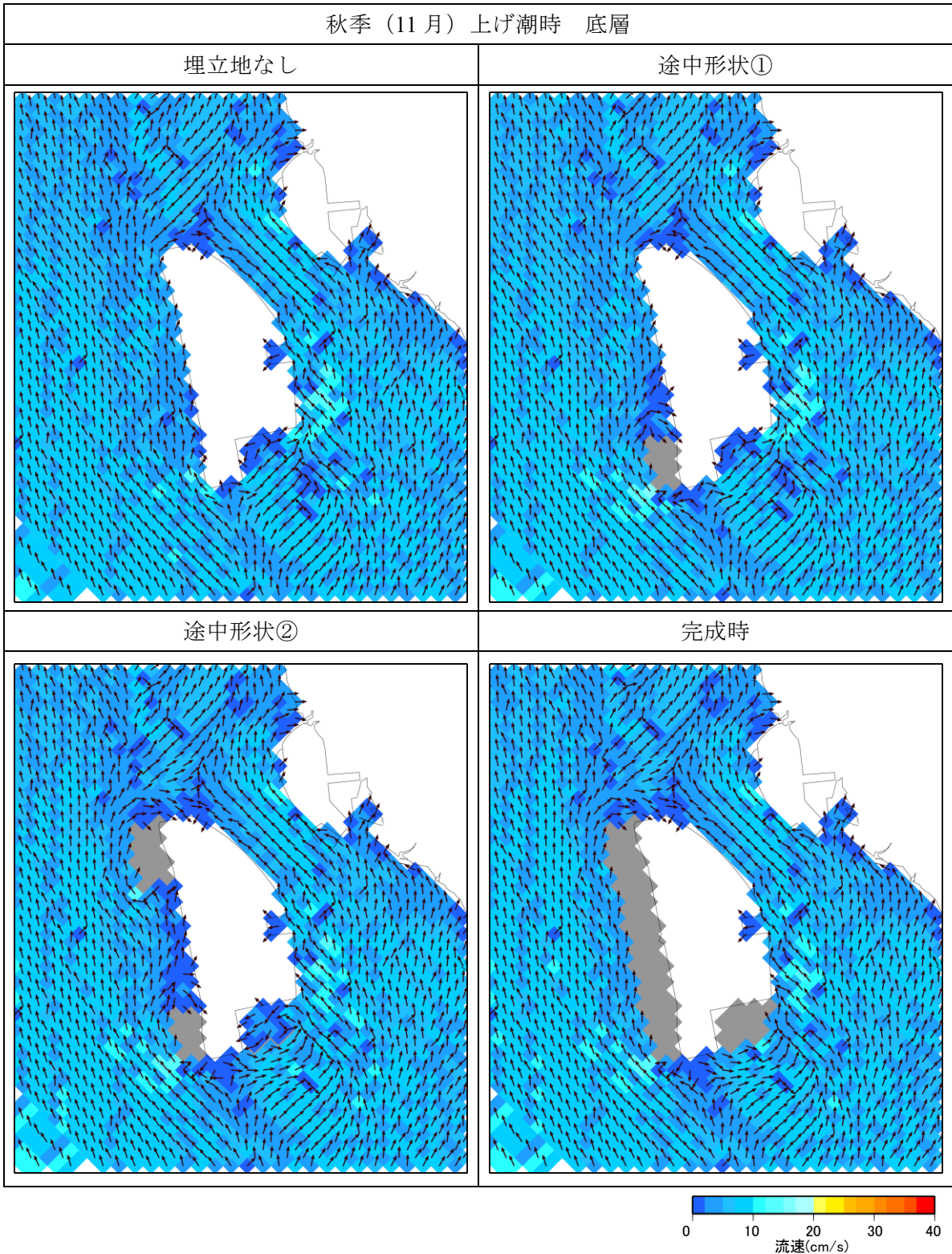
付図 8.6-4(7) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 (空港島周辺、秋季・上層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の11月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



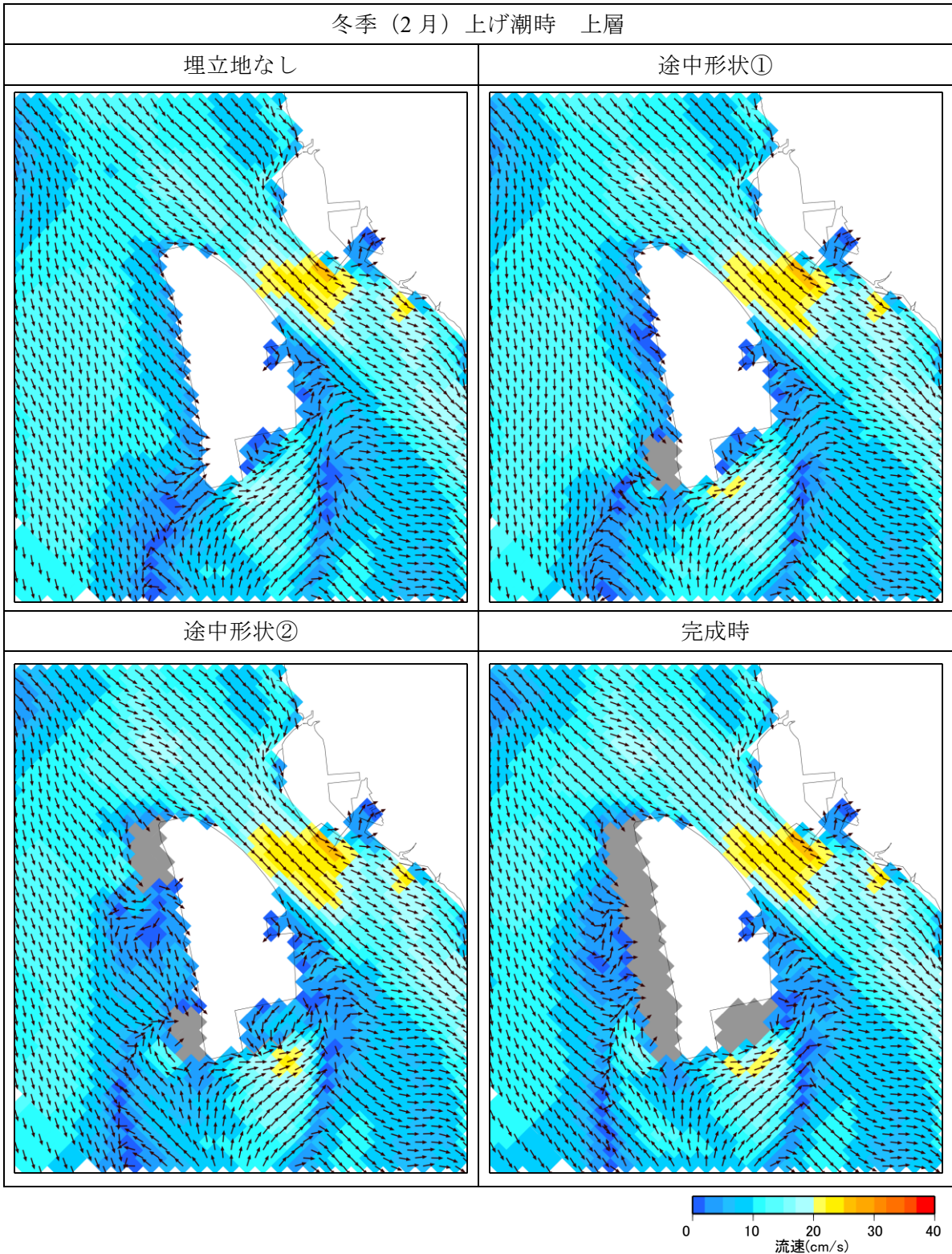
付図 8. 6-4(8) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 （空港島周辺、秋季・中層、上げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 11 月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



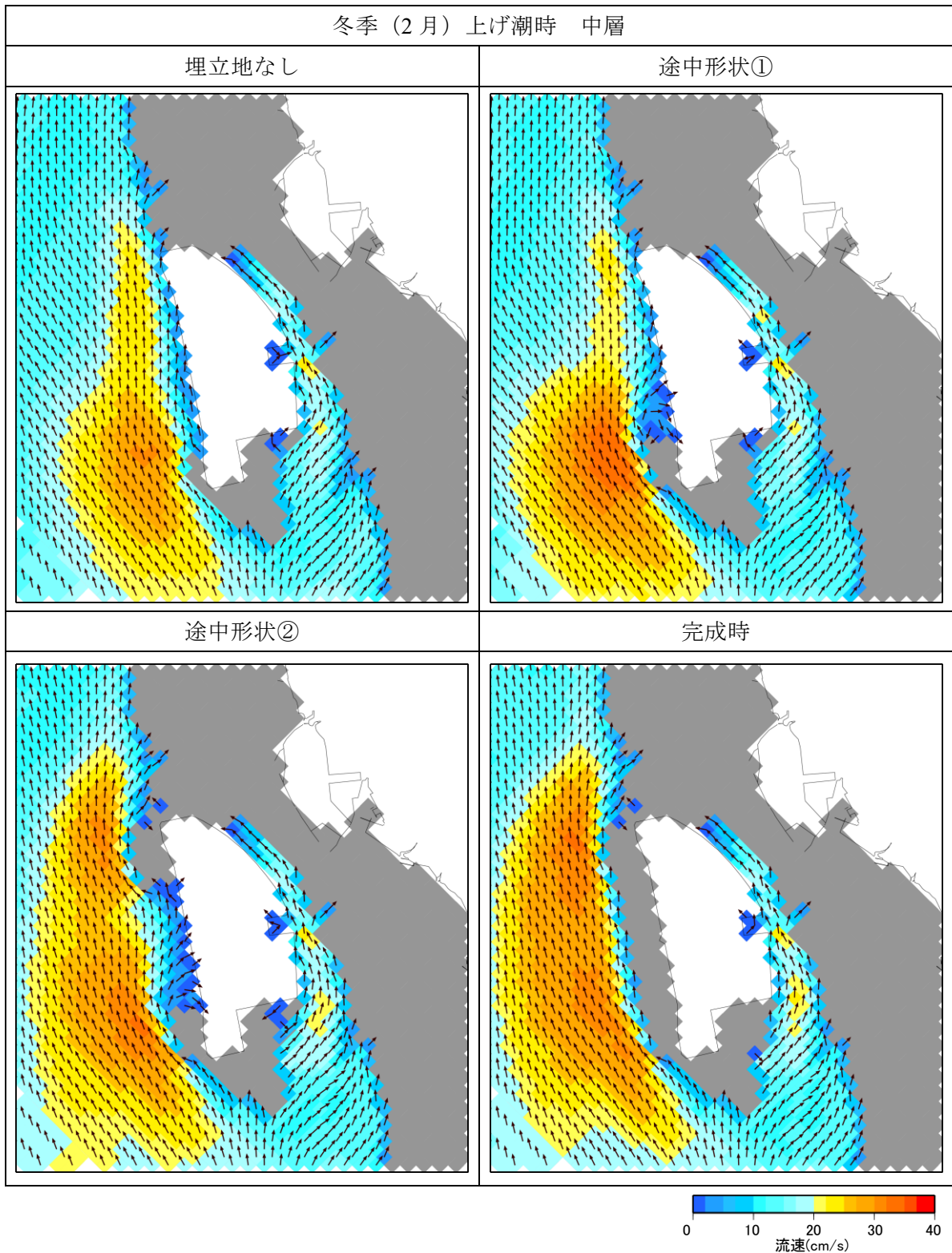
付図 8. 6-4(9) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 (空港島周辺、秋季・底層、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の11月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



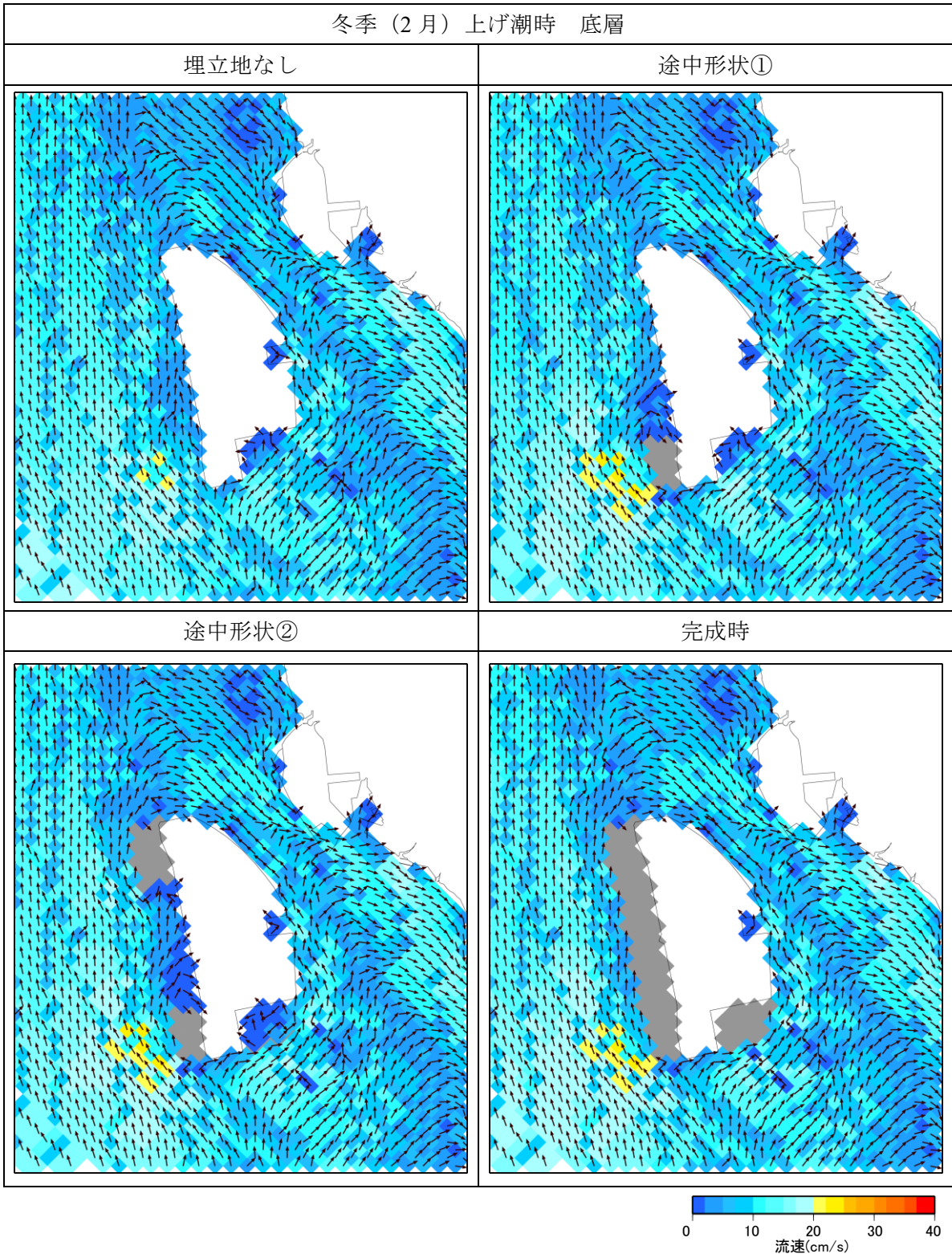
付図 8.6-4(10) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、冬季・上層、上げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の2月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



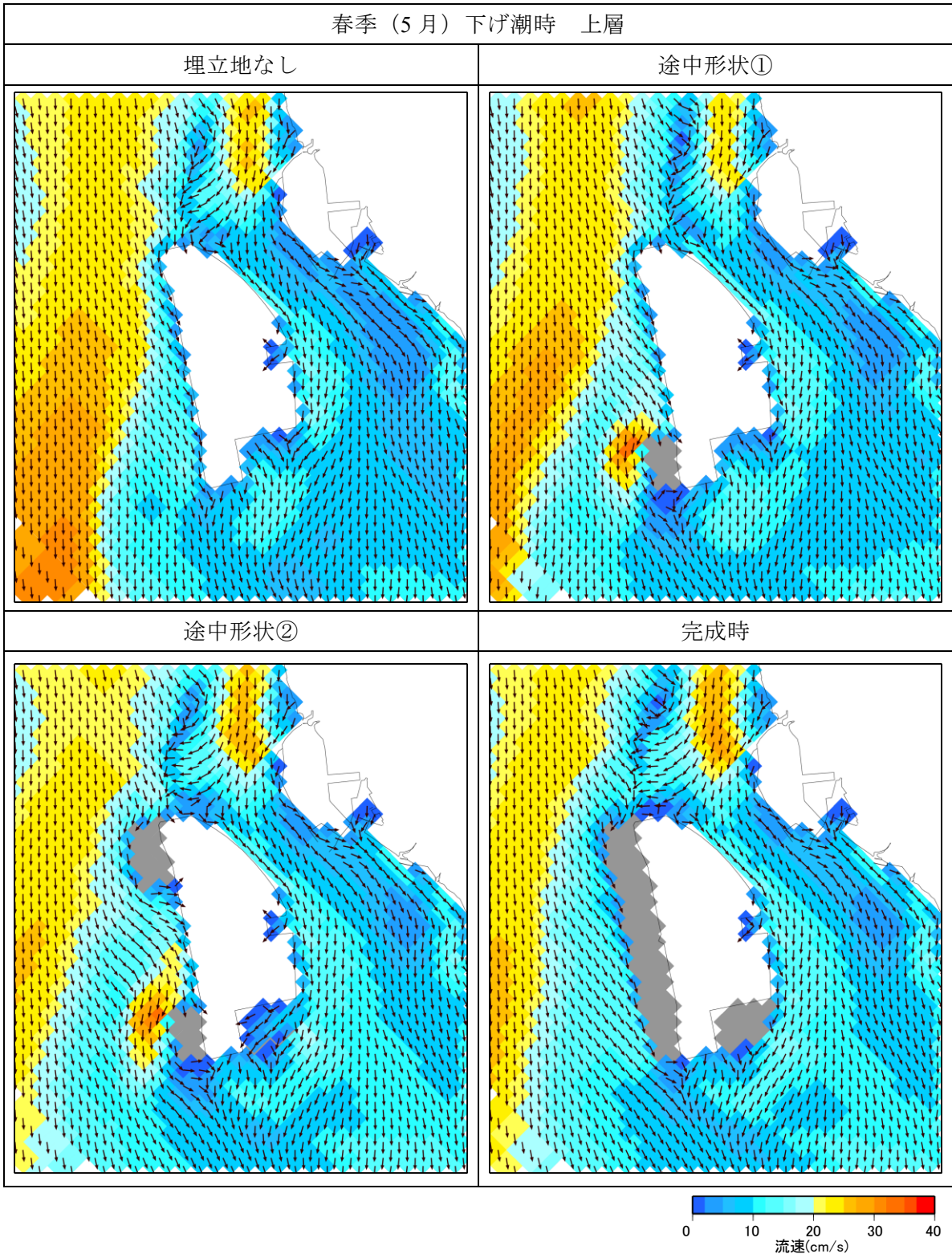
付図 8.6-4(11) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、冬季・中層、上げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 2 月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



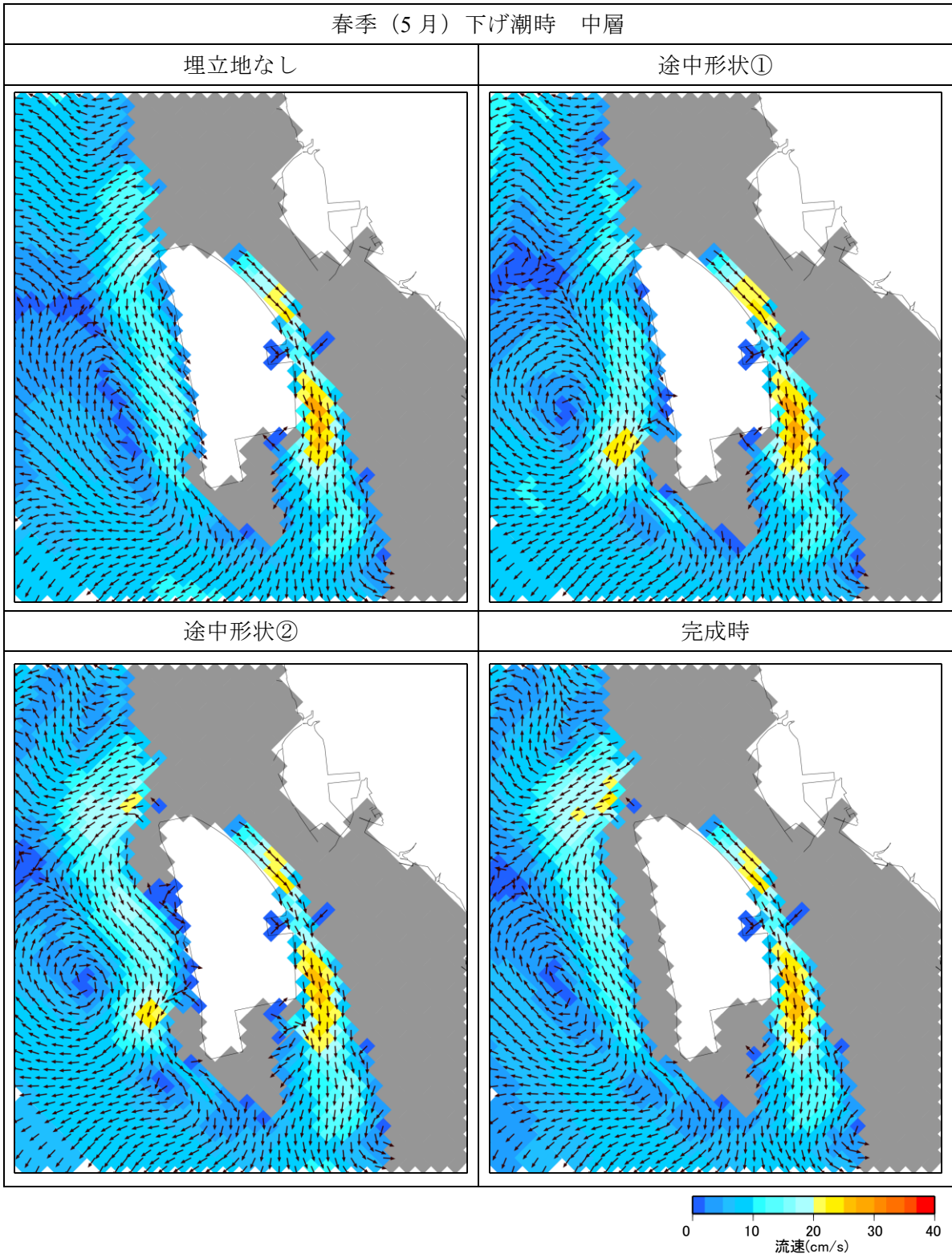
付図 8.6-4(12) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、冬季・底層、上げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の2月の大潮期の上げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



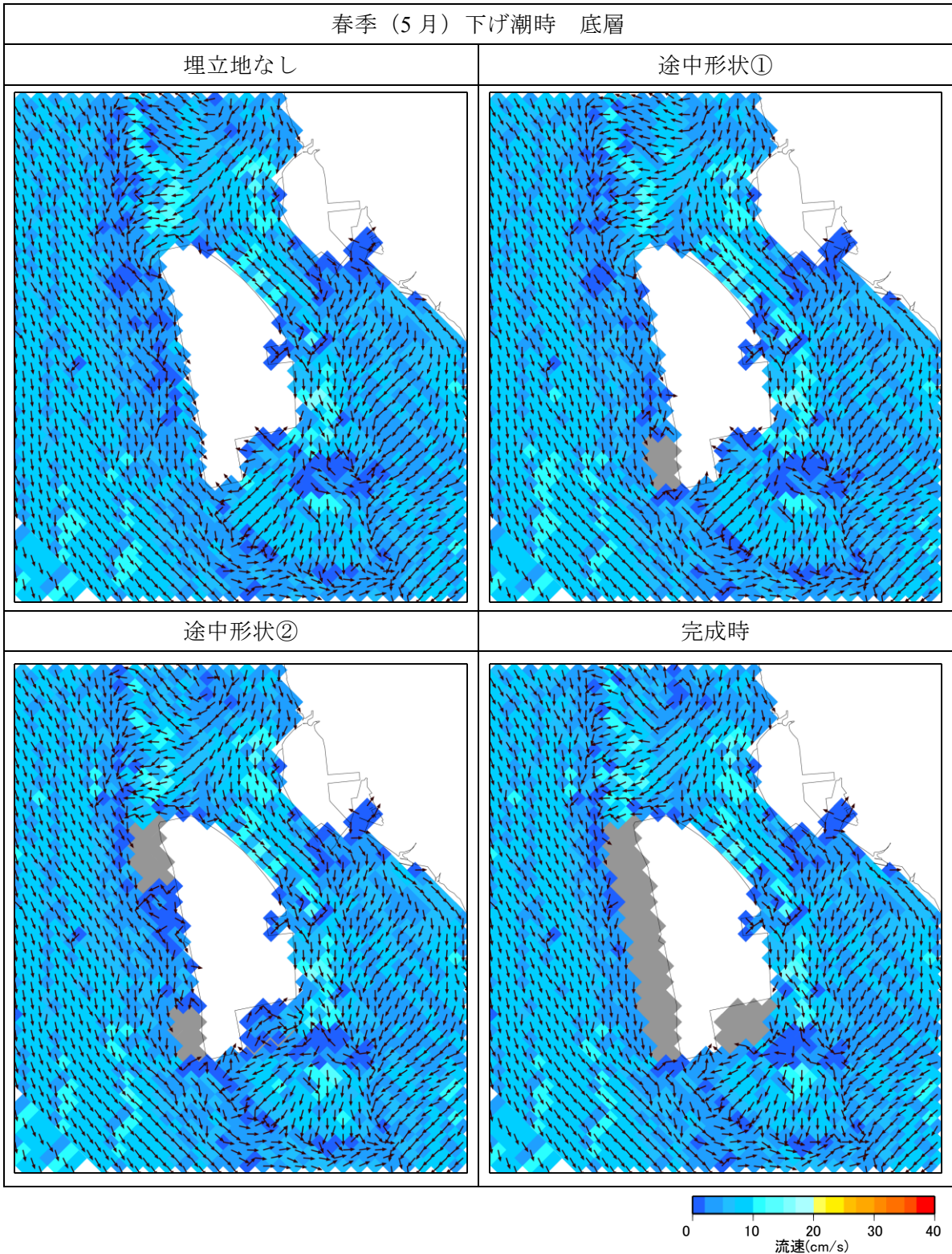
付図 8.6-5(1) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、春季・上層、下げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の5月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



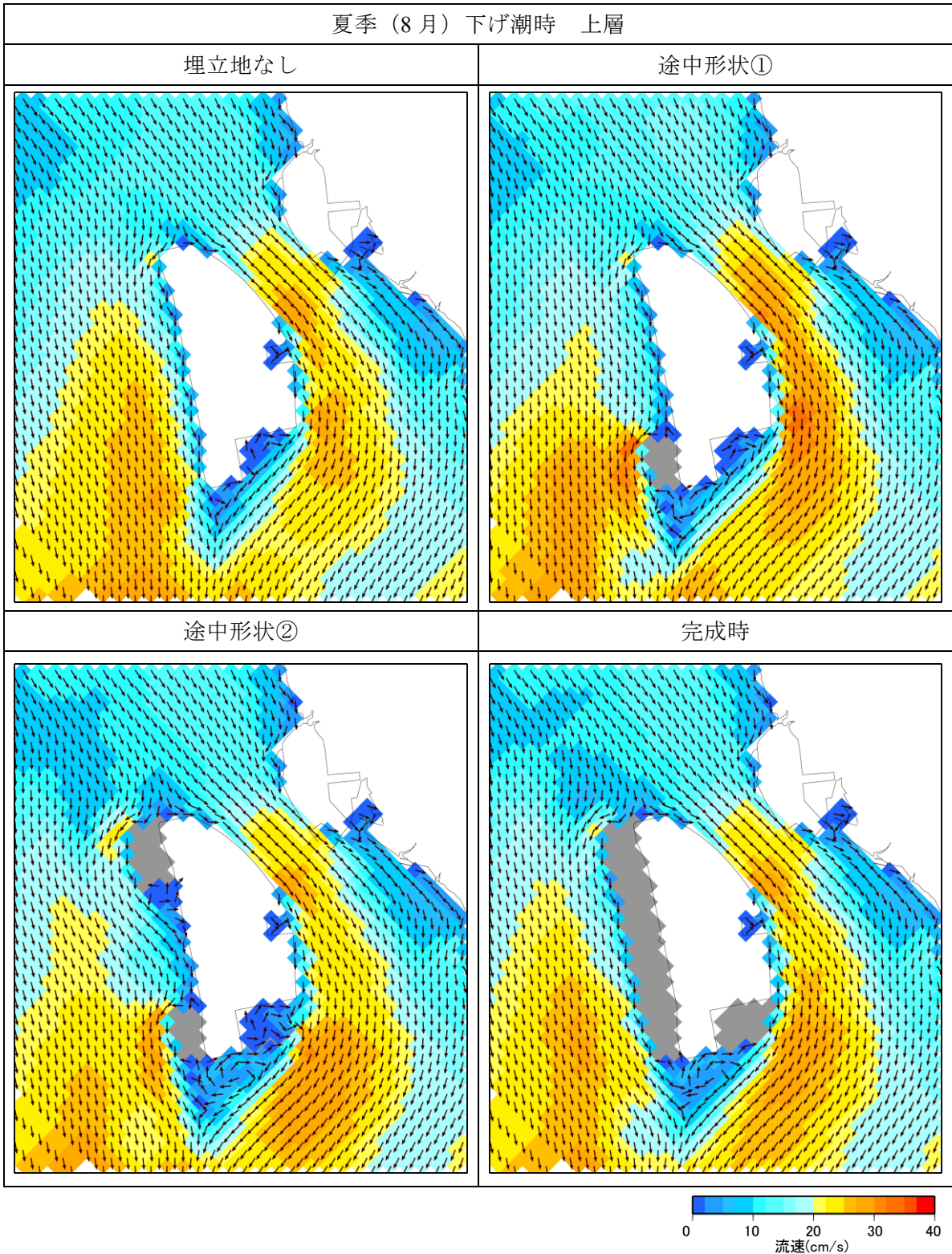
付図 8.6-5(2) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、春季・中層、下げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の5月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



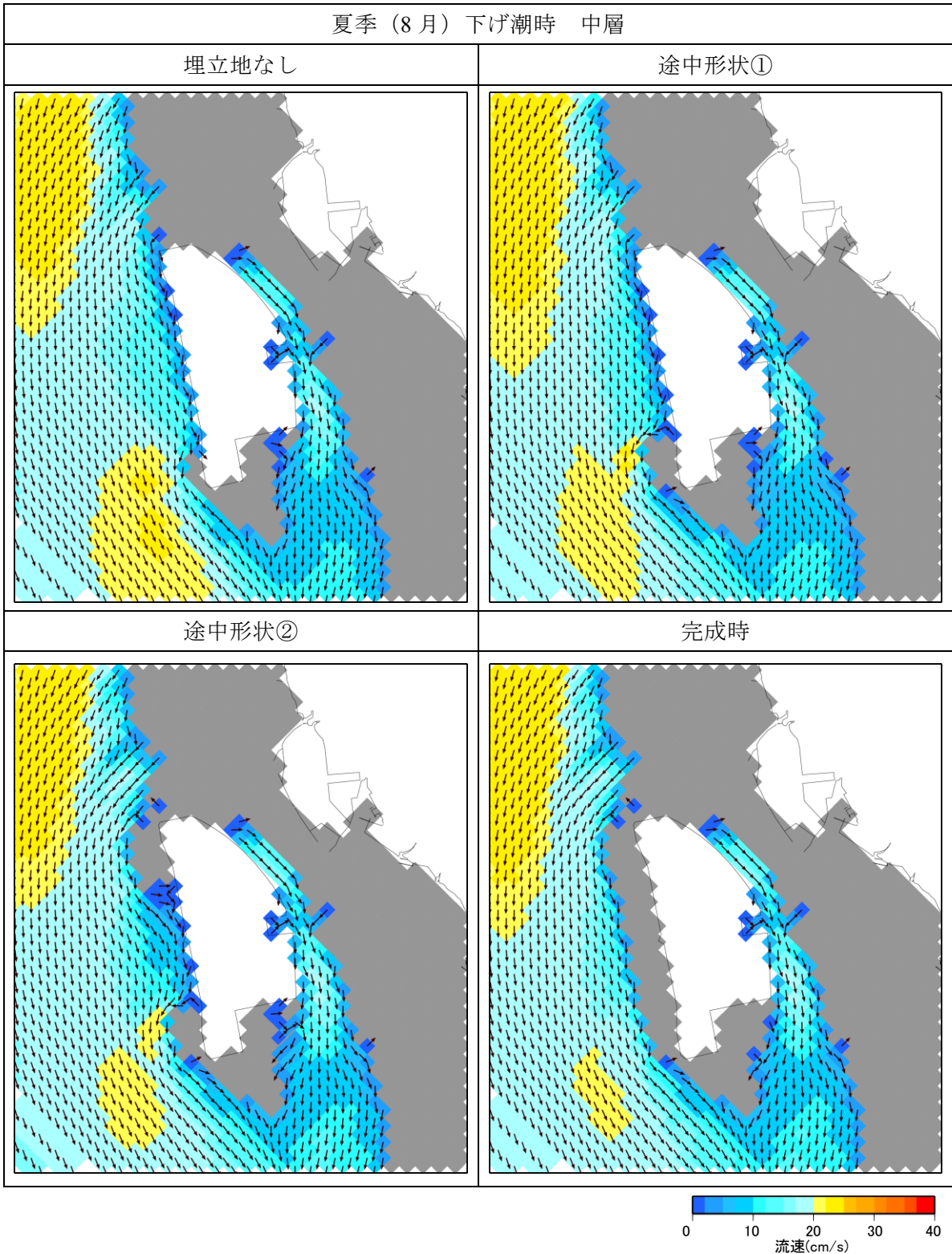
付図 8.6-5(3) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、春季・底層、下げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の5月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



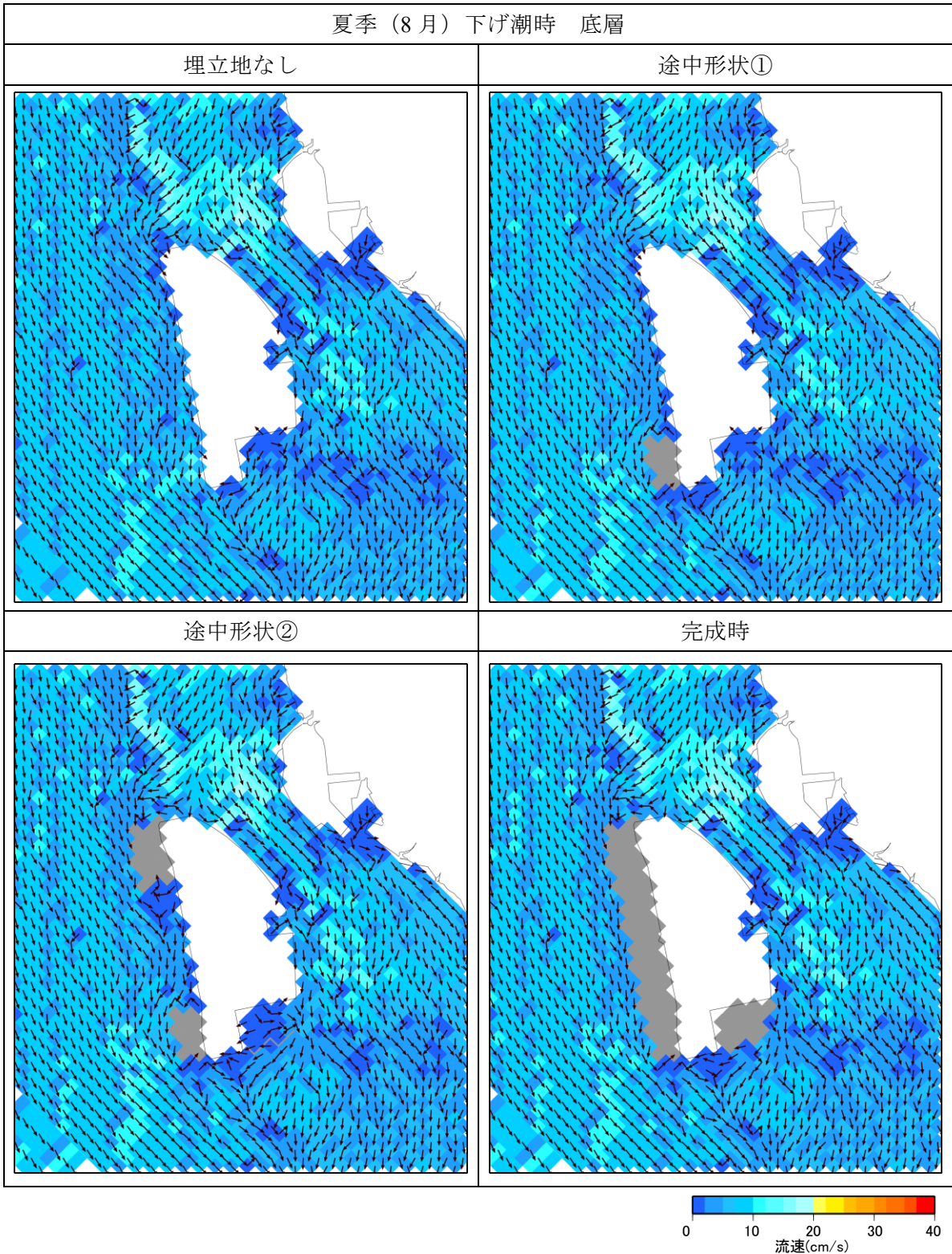
付図 8. 6-5(4) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 (空港島周辺、夏季・上層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の8月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



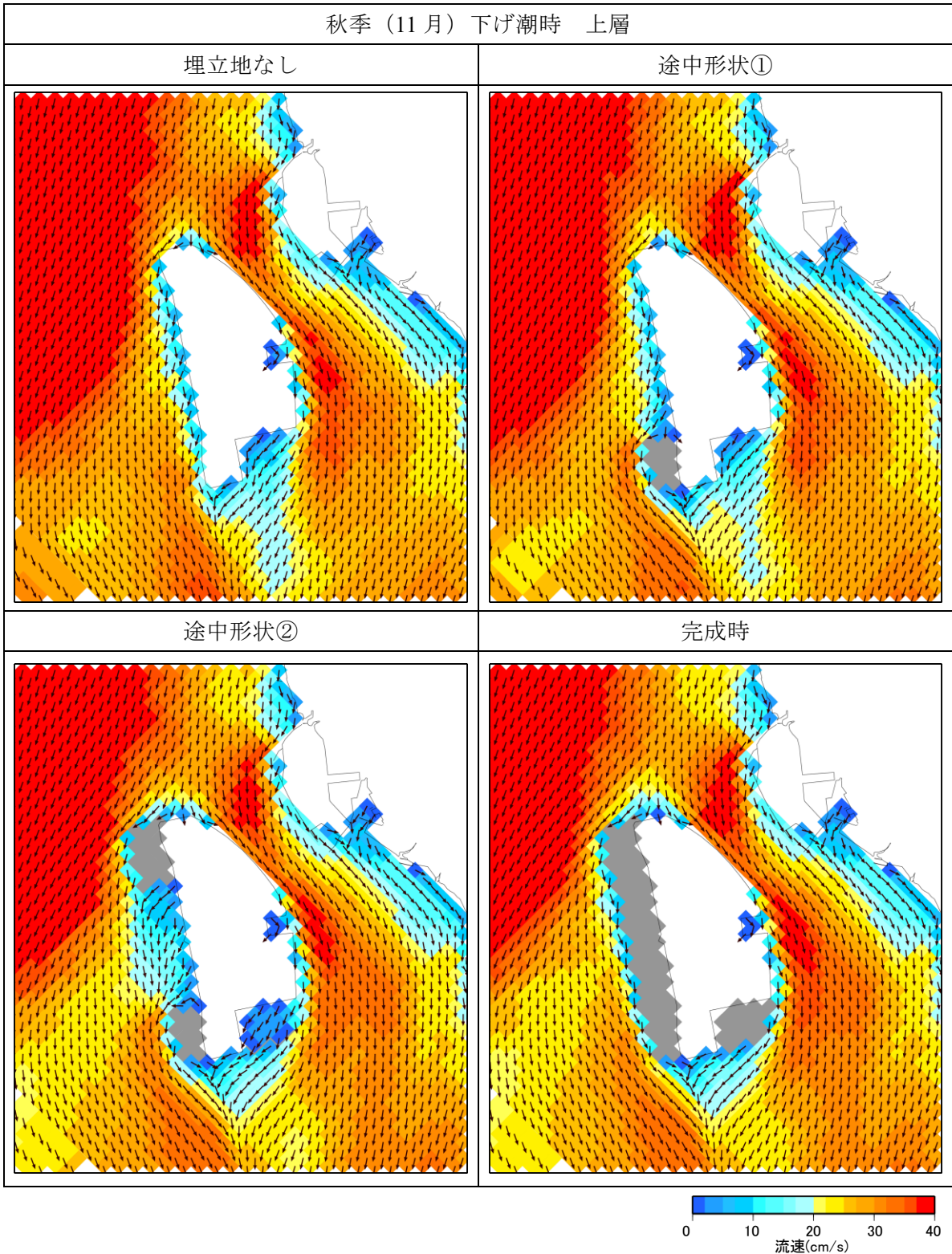
付図 8. 6-5(5) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(空港島周辺、夏季・中層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 8 月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



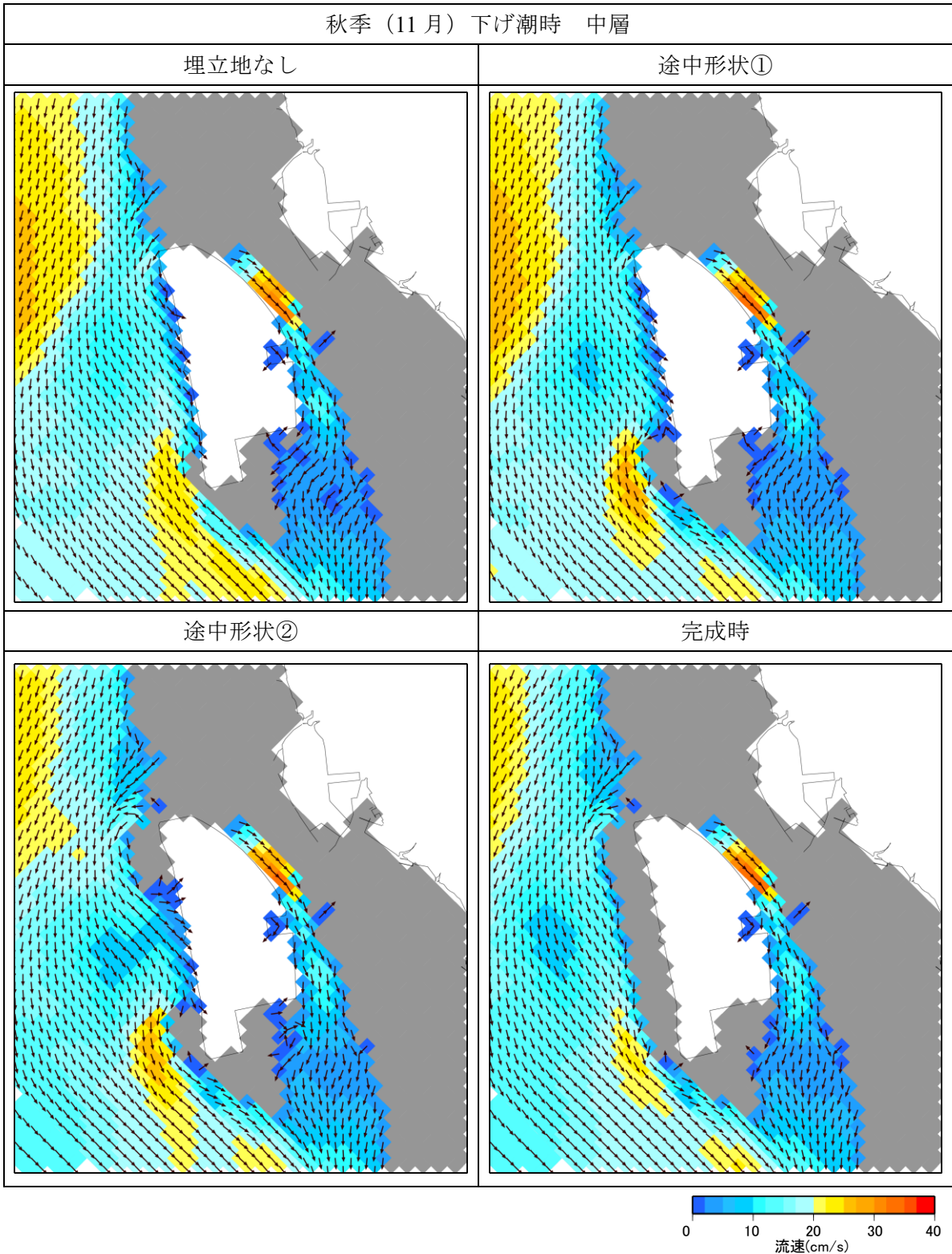
付図 8. 6-5(6) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、夏季・底層、下げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の8月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



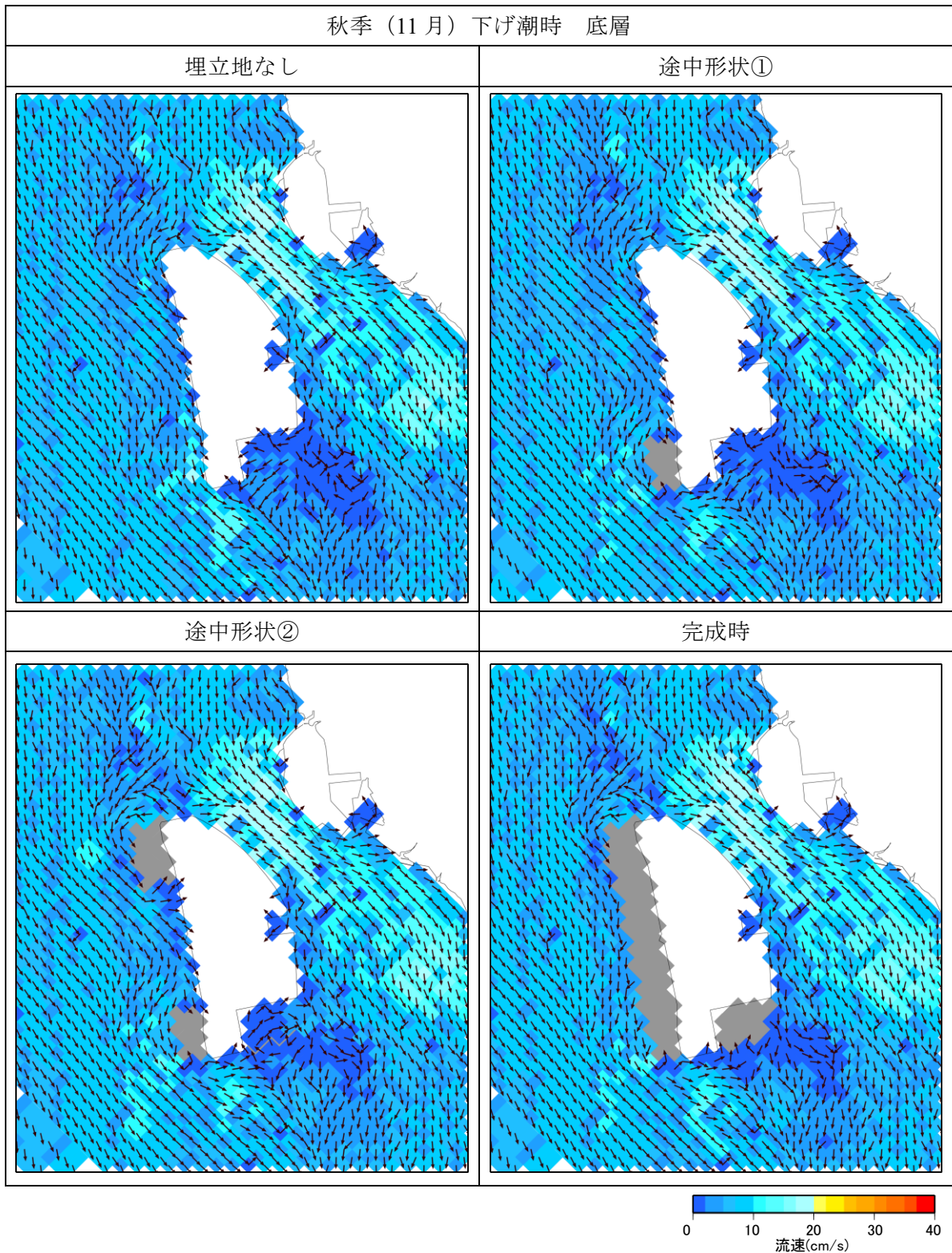
付図 8.6-5(7) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 (空港島周辺、秋季・上層、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の11月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



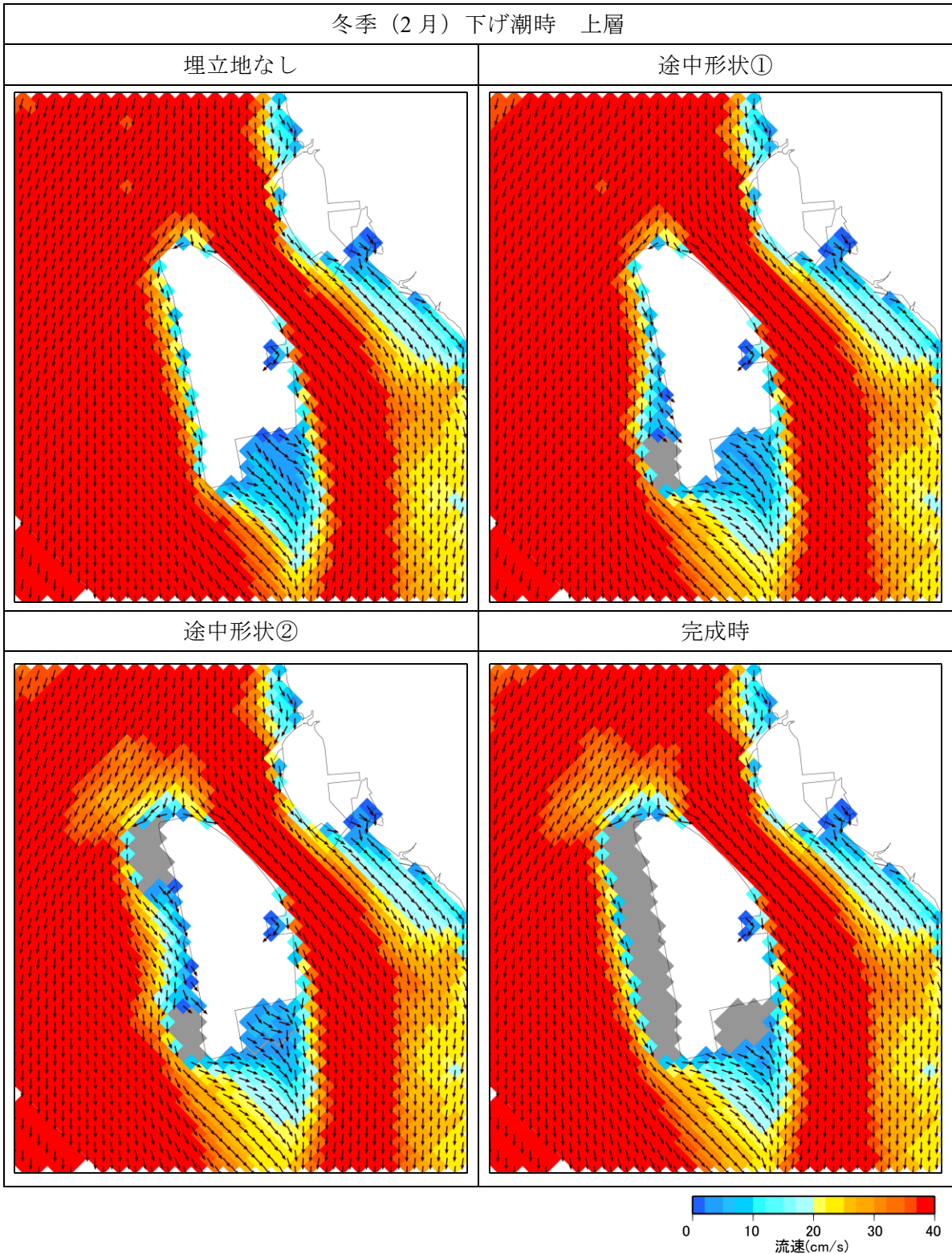
付図 8. 6-5(8) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 （空港島周辺、秋季・中層、下げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 11 月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



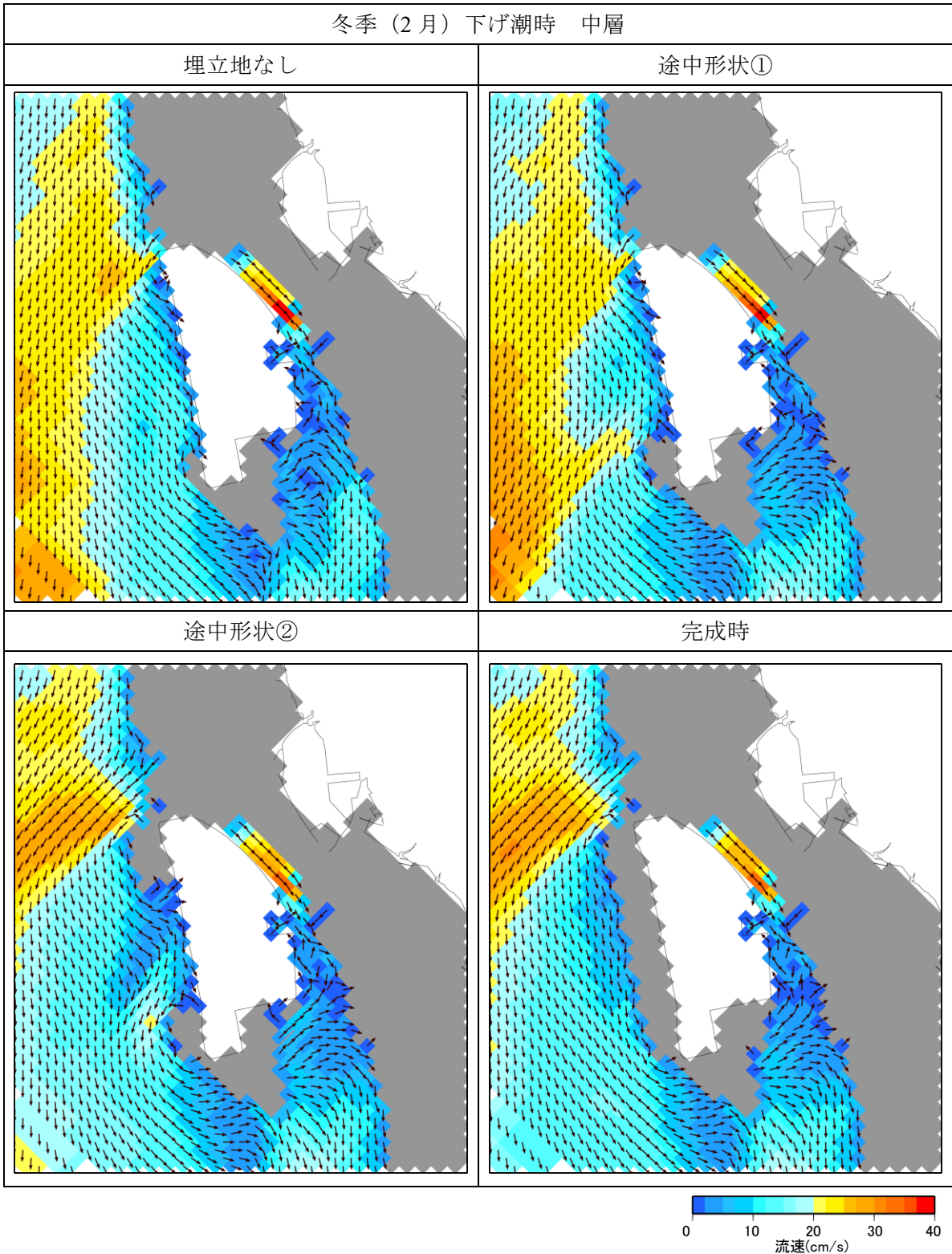
付図 8.6-5(9) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、秋季・底層、下げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の11月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



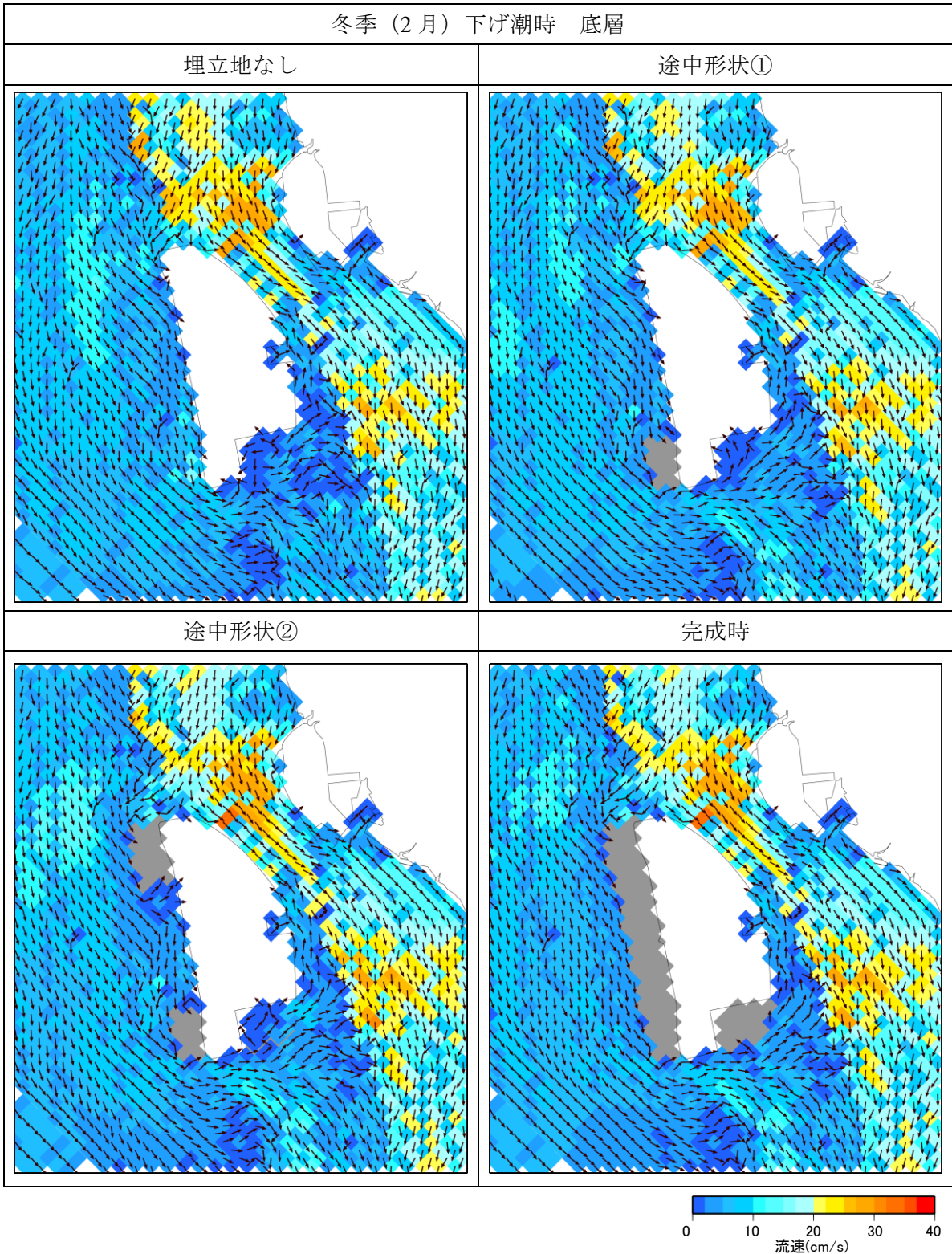
付図 8.6-5(10) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、冬季・上層、下げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の2月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



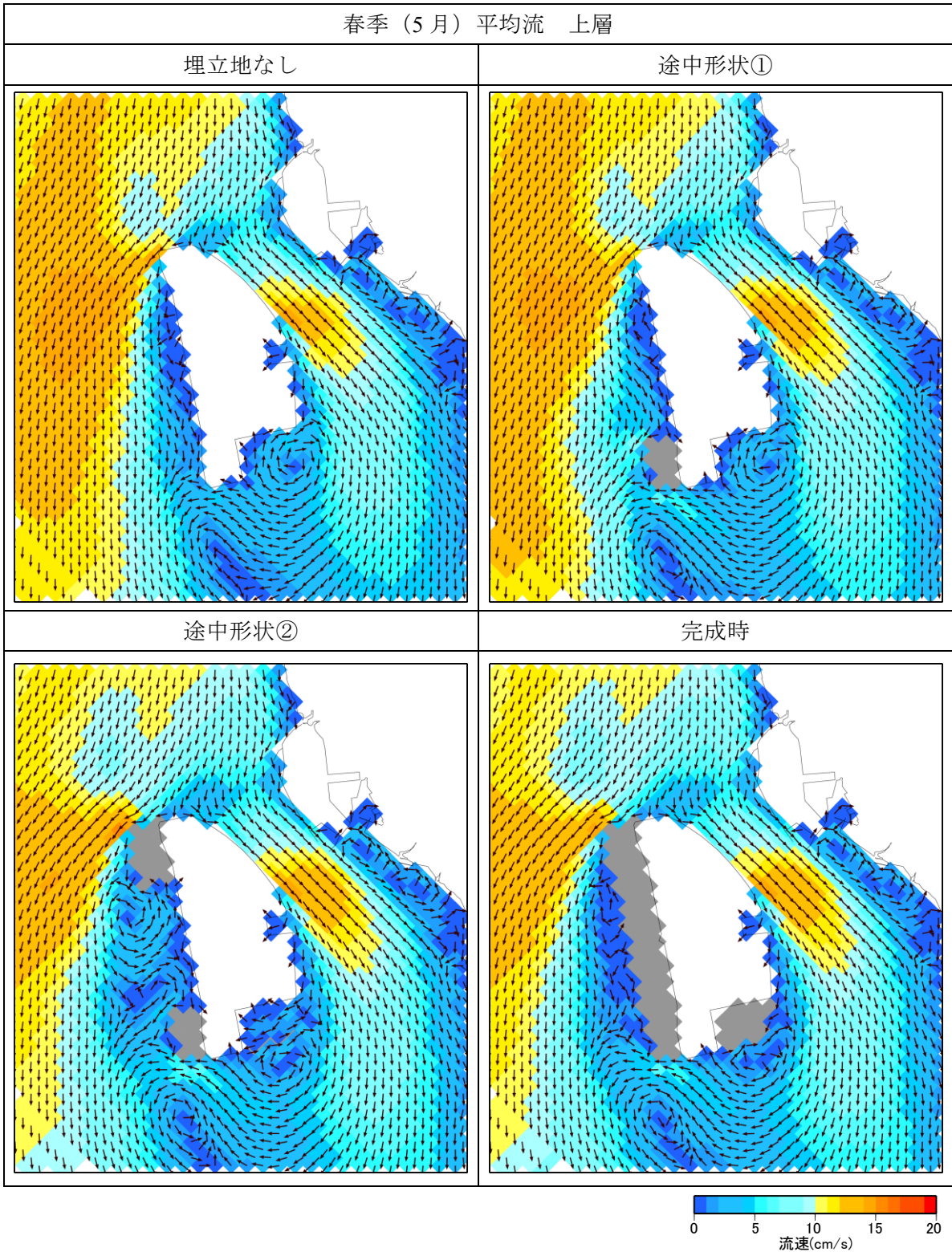
付図 8.6-5(11) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、冬季・中層、下げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 2 月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



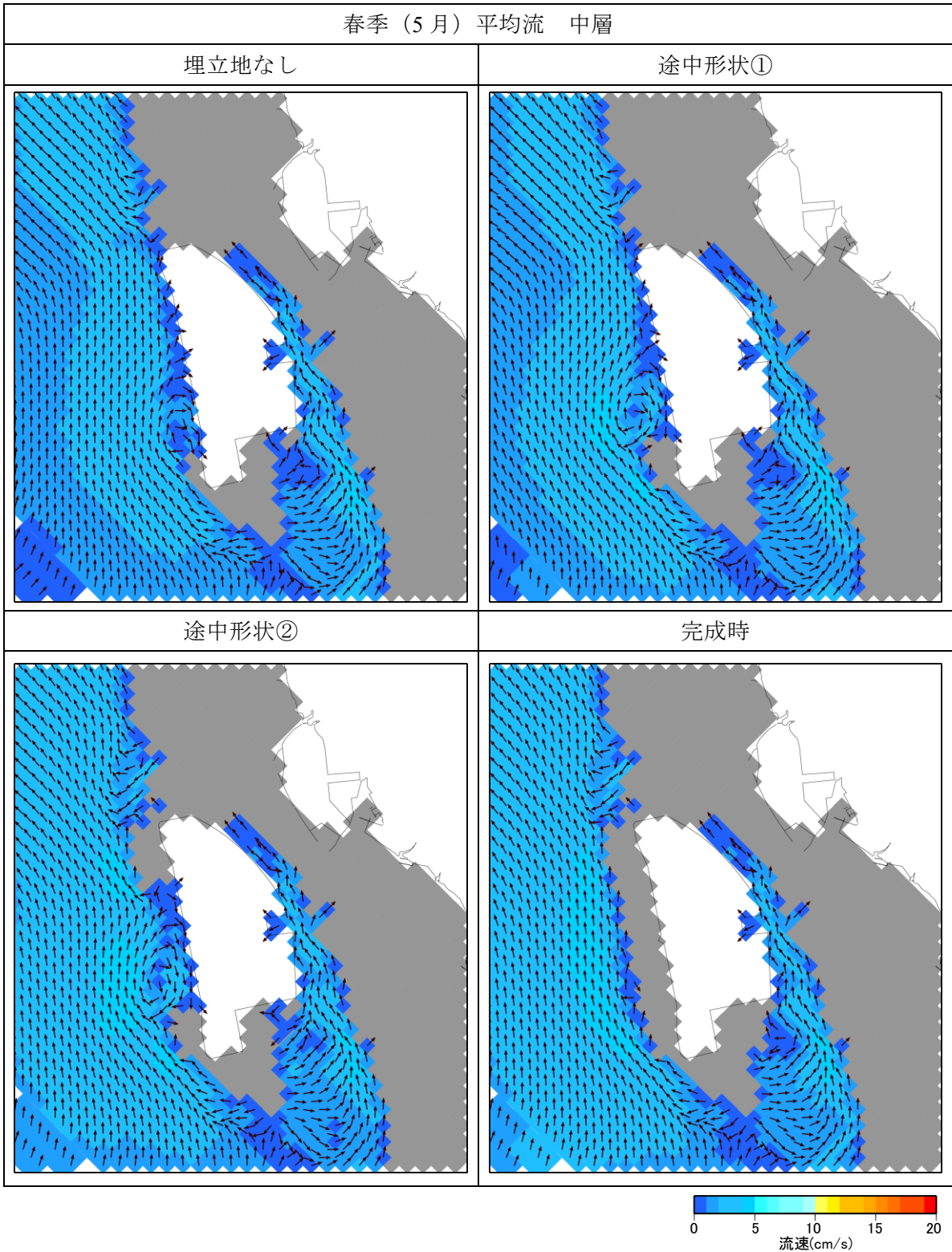
付図 8.6-5(12) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
（空港島周辺、冬季・底層、下げ潮時）

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の2月の大潮期の下げ潮時を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



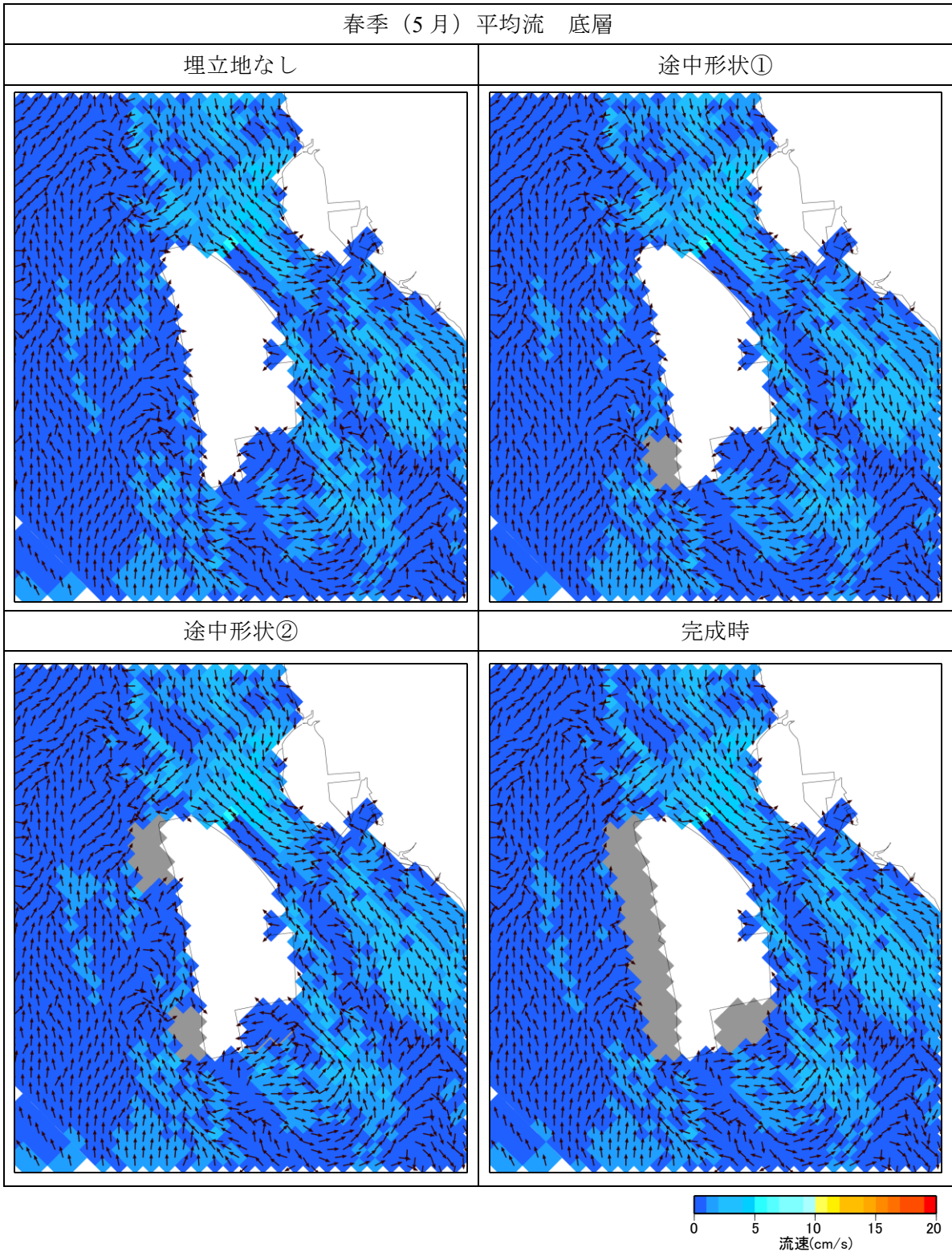
付図 8. 6-6(1) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 （空港島周辺、春季・上層、平均流）

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の5月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



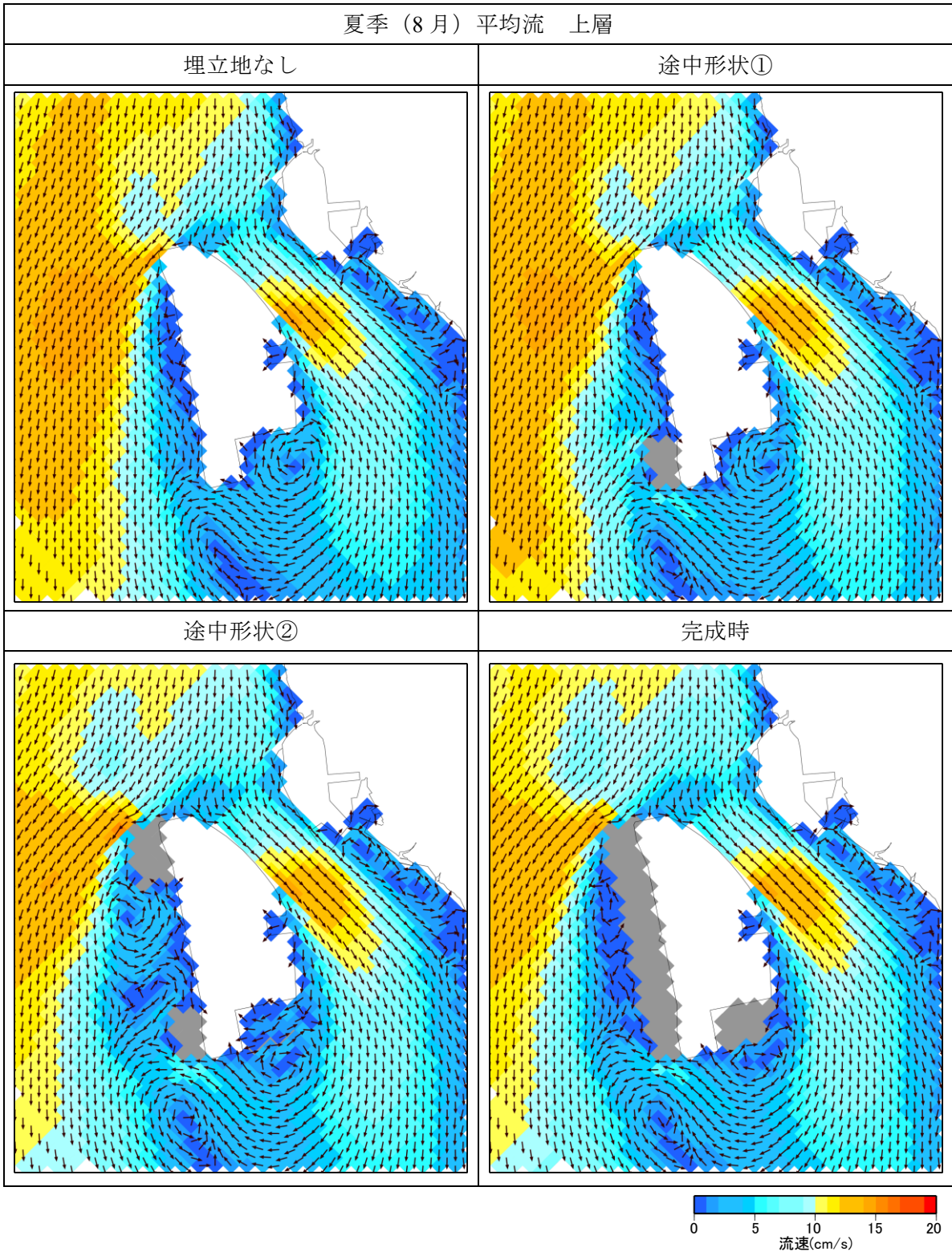
付図 8. 6-6(2) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(空港島周辺、春季・中層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 5 月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



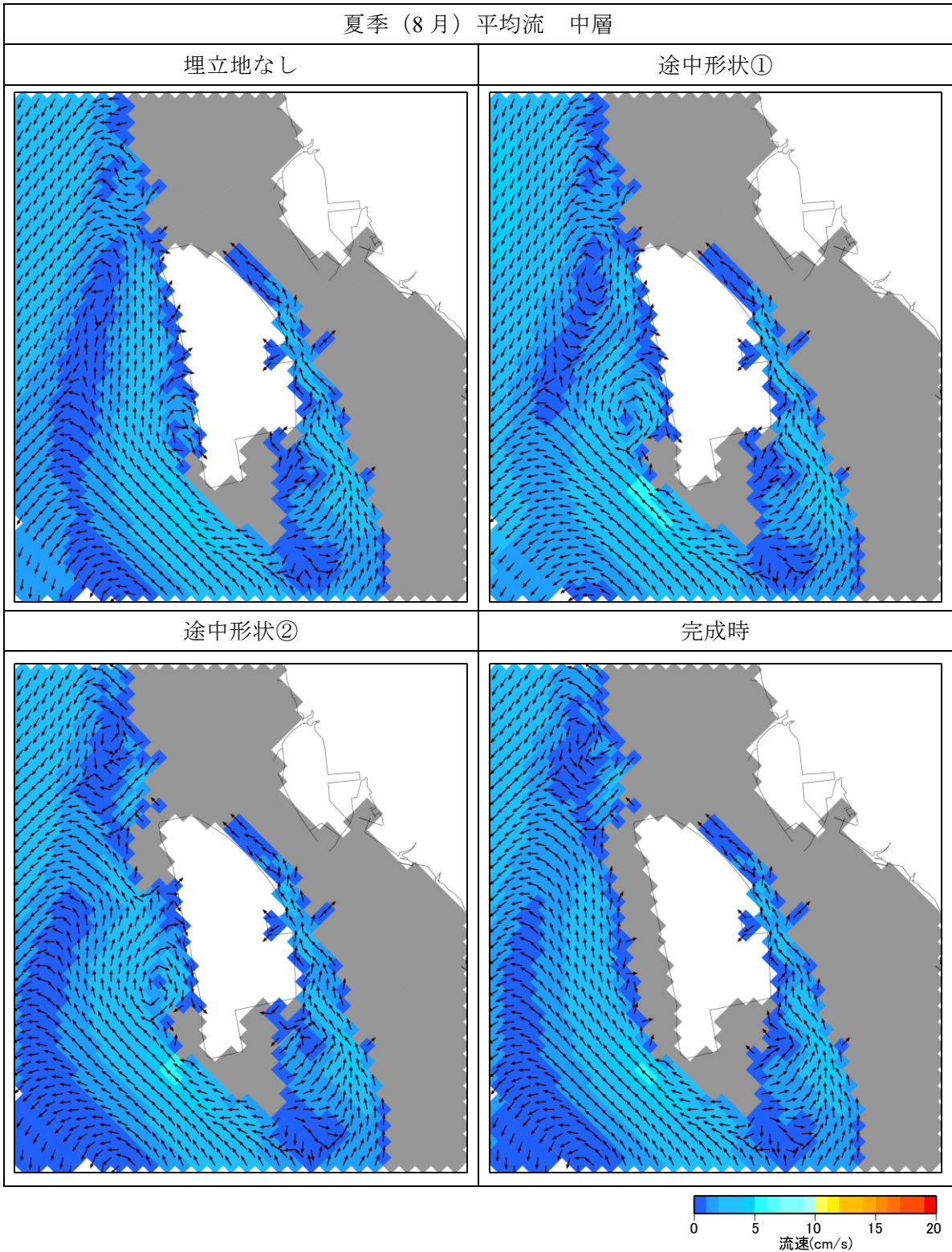
付図 8. 6-6(3) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(空港島周辺、春季・底層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の5月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



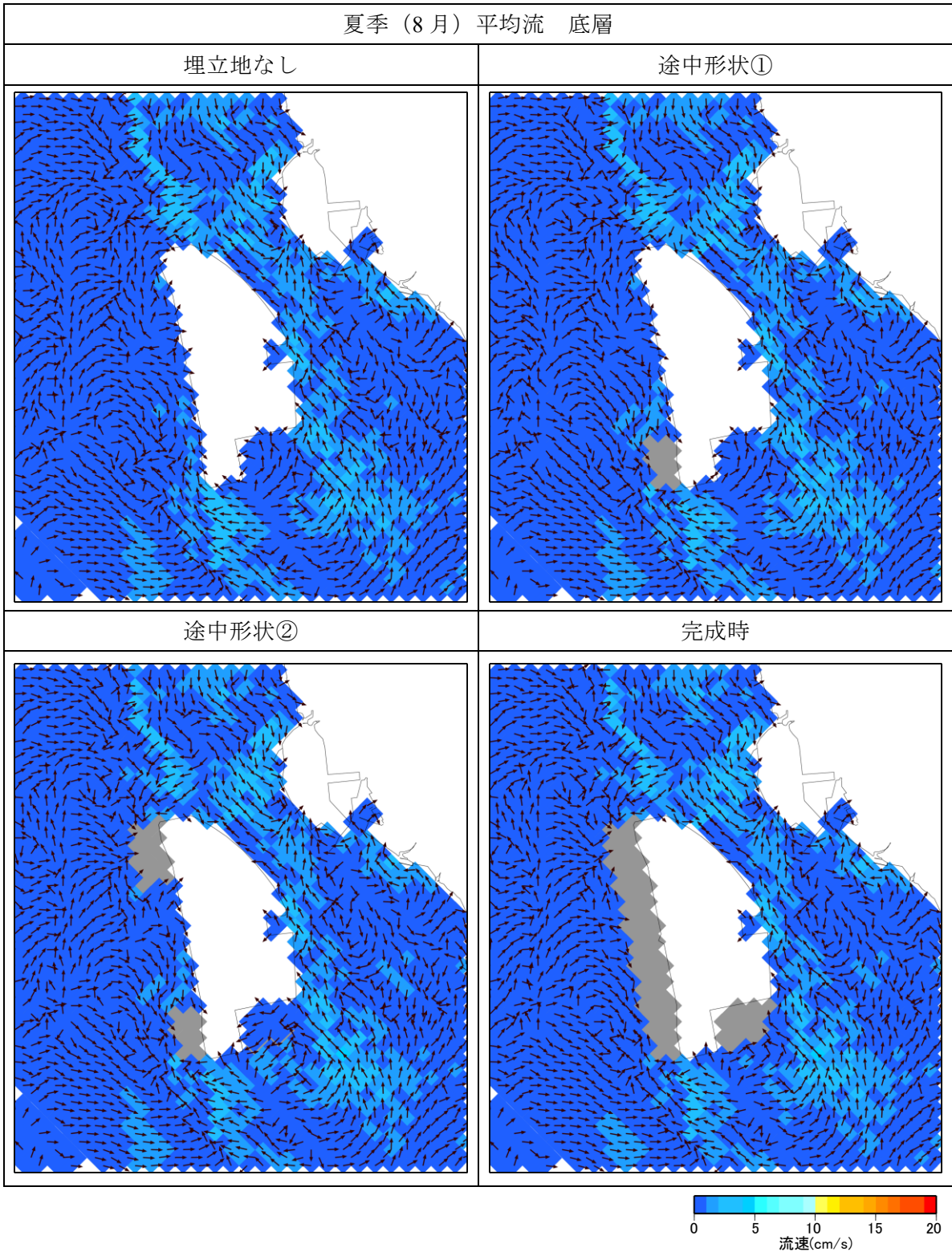
付図 8. 6-6(4) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(空港島周辺、夏季・上層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の8月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



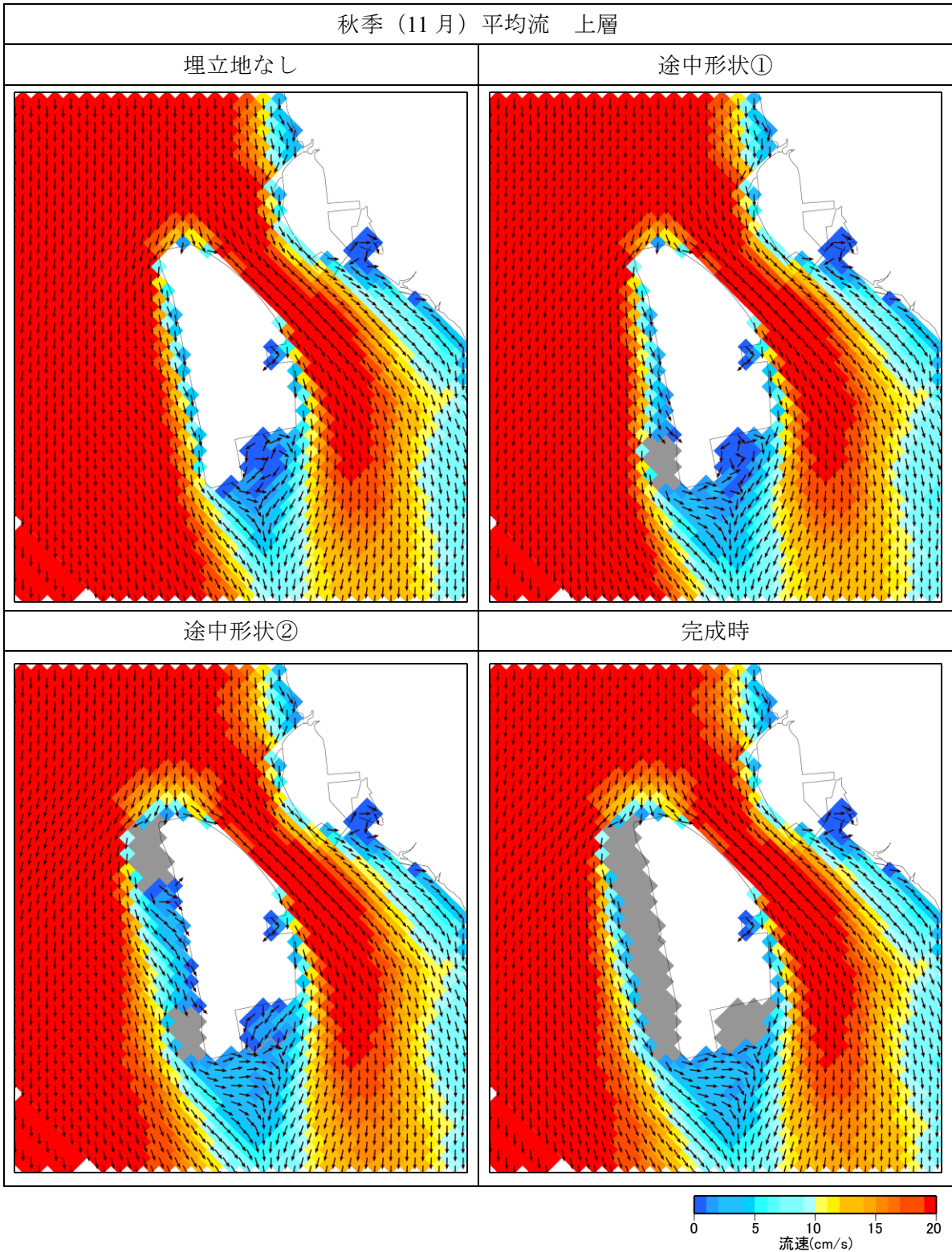
付図 8. 6-6(5) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(空港島周辺、夏季・中層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 8 月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



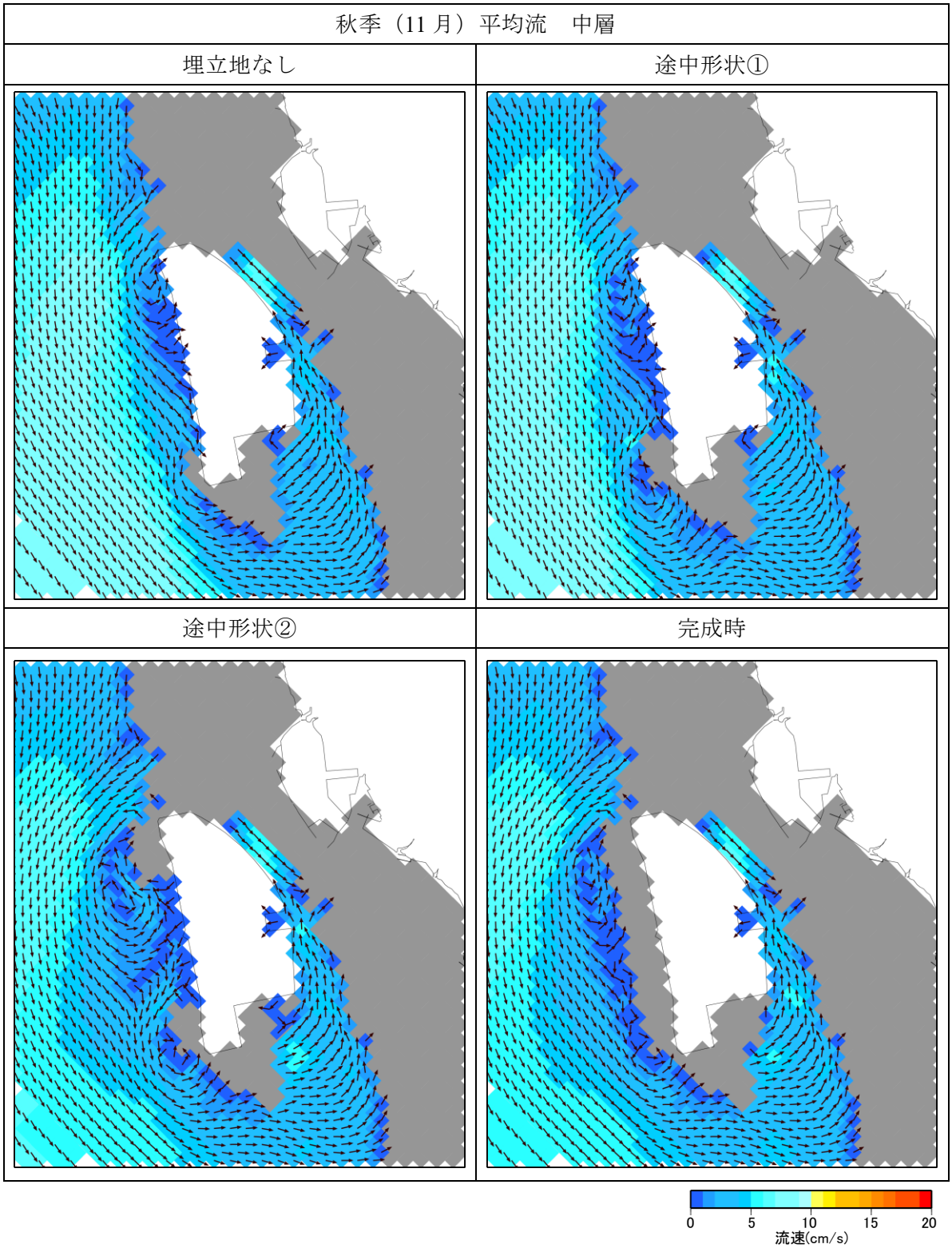
付図 8. 6-6(6) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(空港島周辺、夏季・底層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の8月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



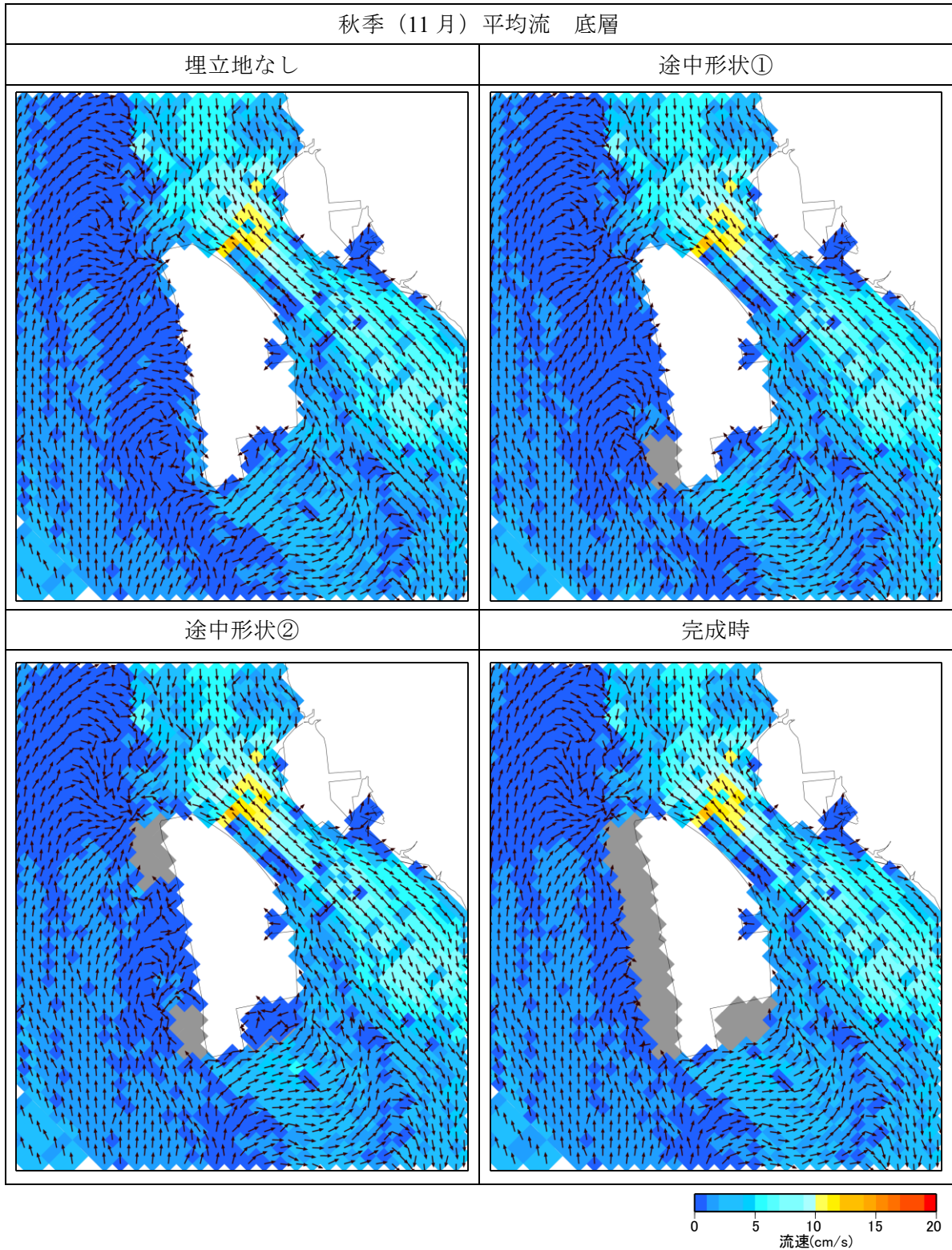
付図 8. 6-6(7) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 （空港島周辺、秋季・上層、平均流）

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の11月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



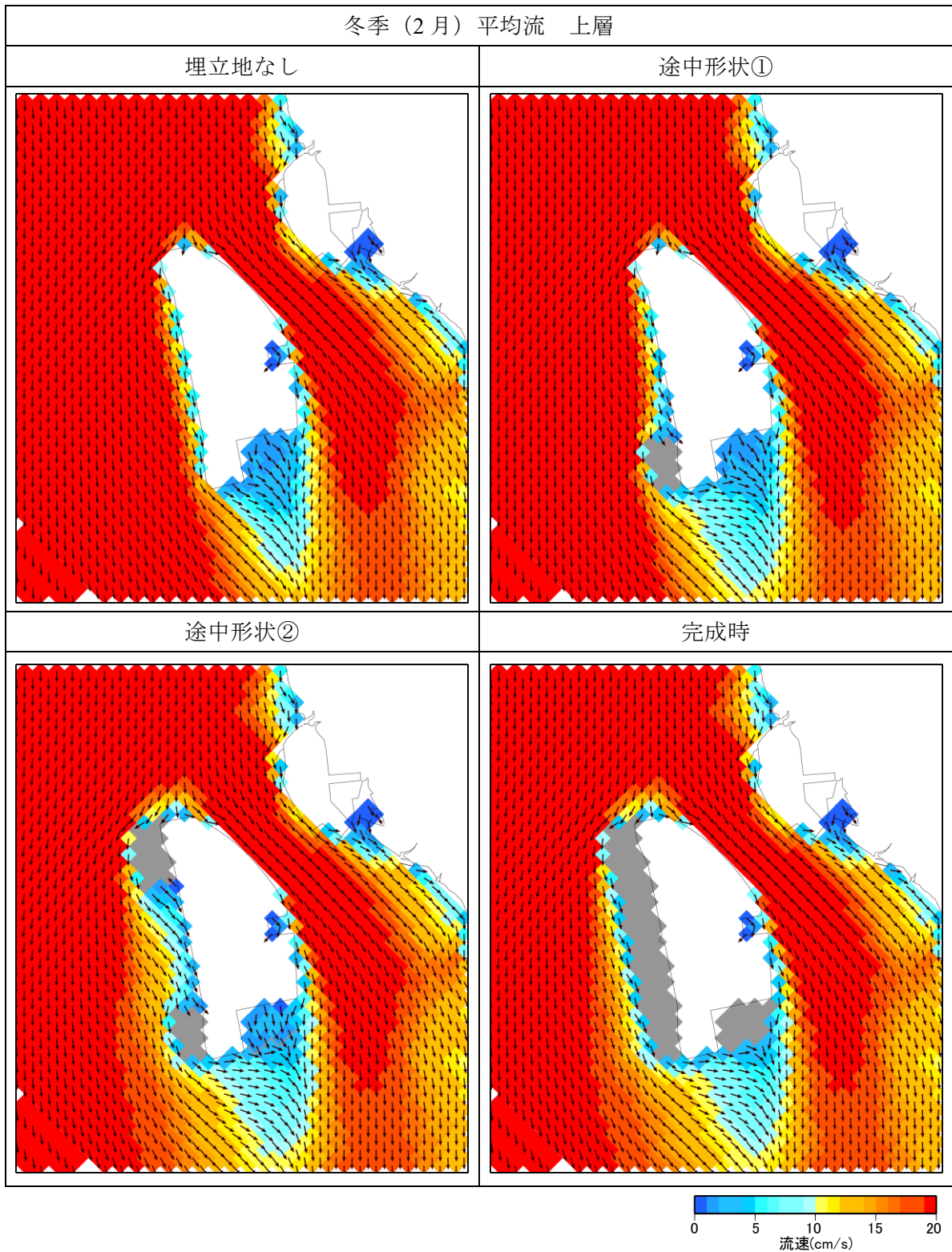
付図 8. 6-6(8) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
 （空港島周辺、秋季・中層、平均流）

- 注：1. 流向・流速は中層（水深 7～8m）の 11 月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



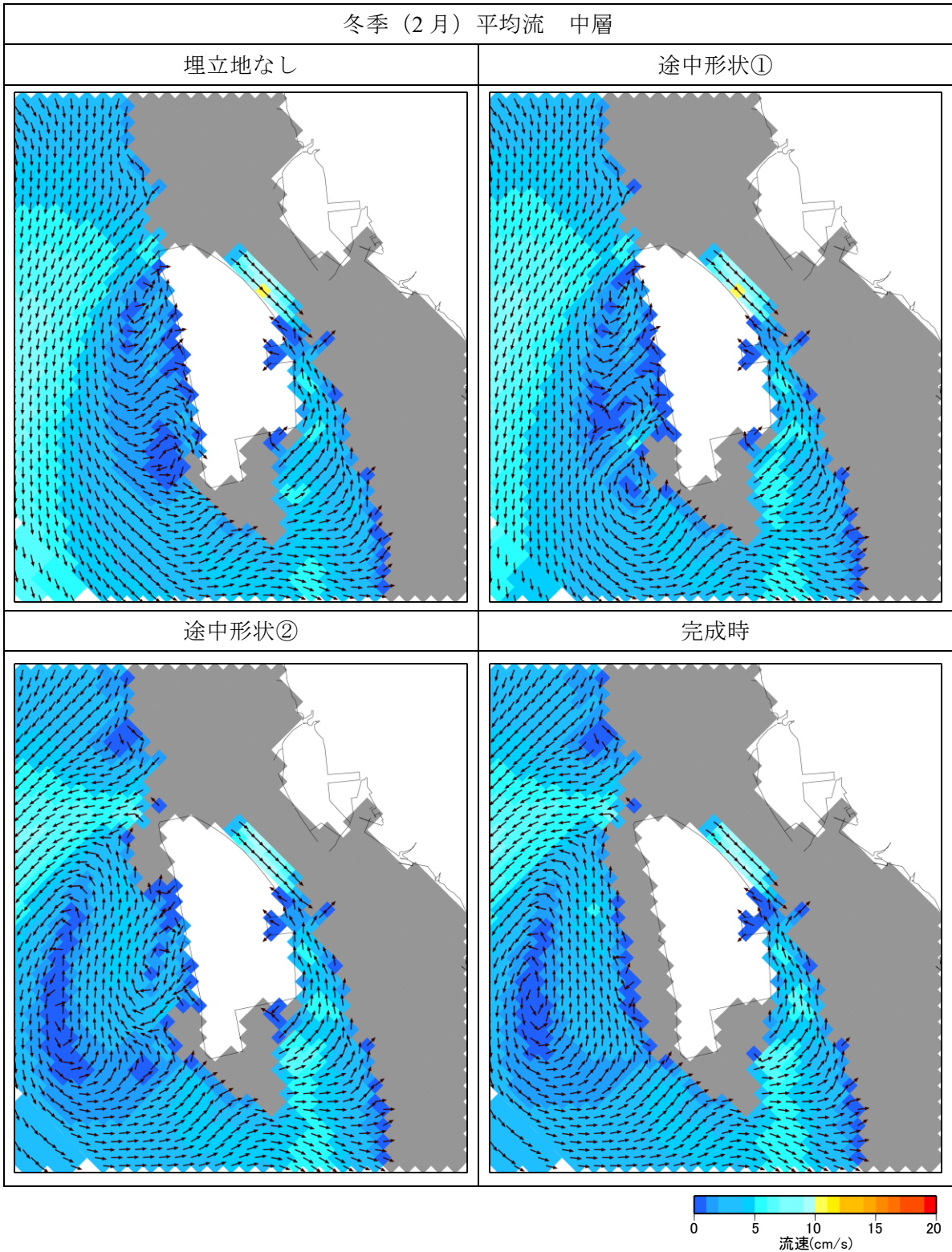
付図 8. 6-6(9) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(空港島周辺、秋季・底層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の11月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



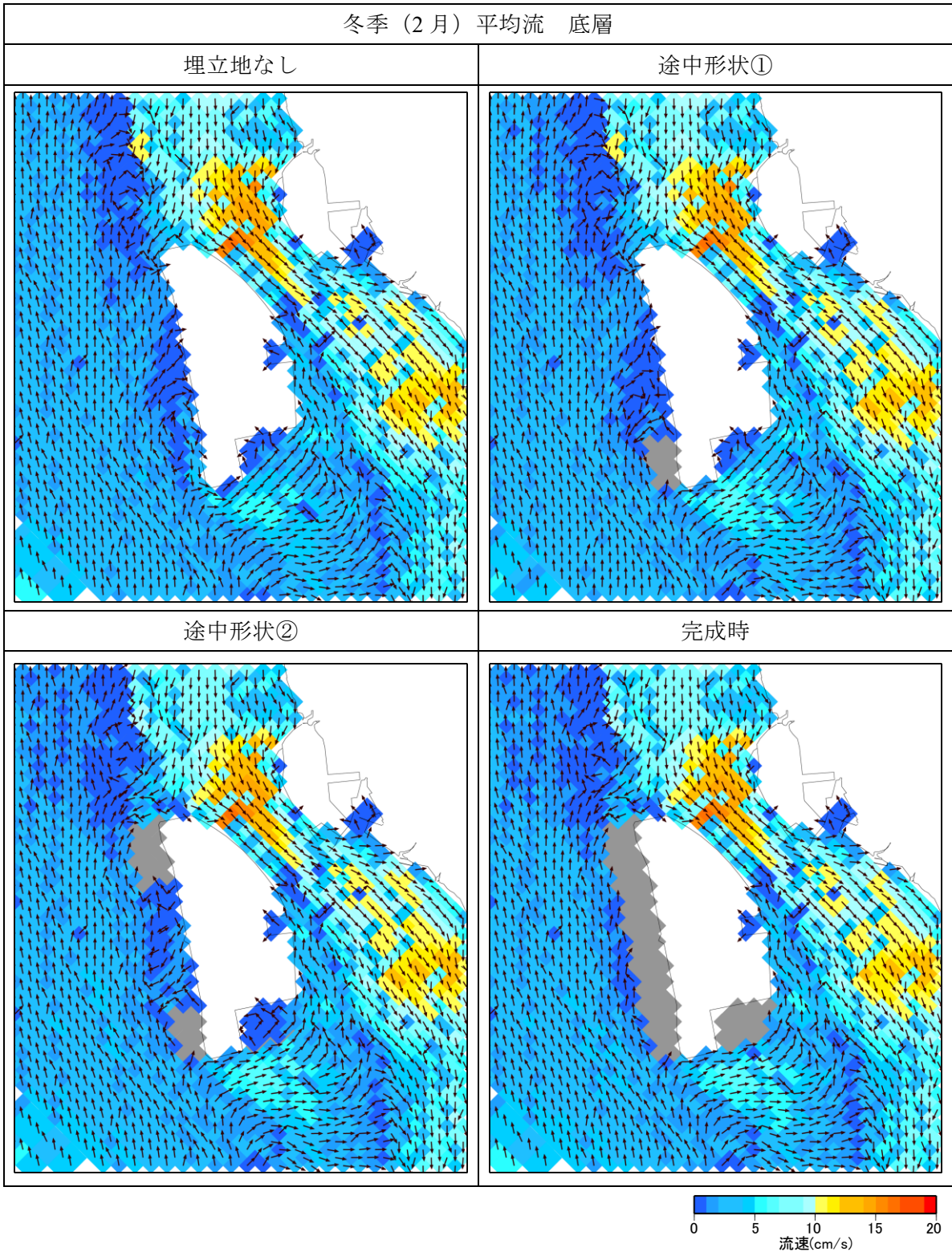
付図 8.6-6(10) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(空港島周辺、冬季・上層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は上層（水深0～0.5m）の2月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



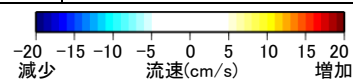
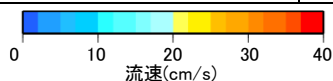
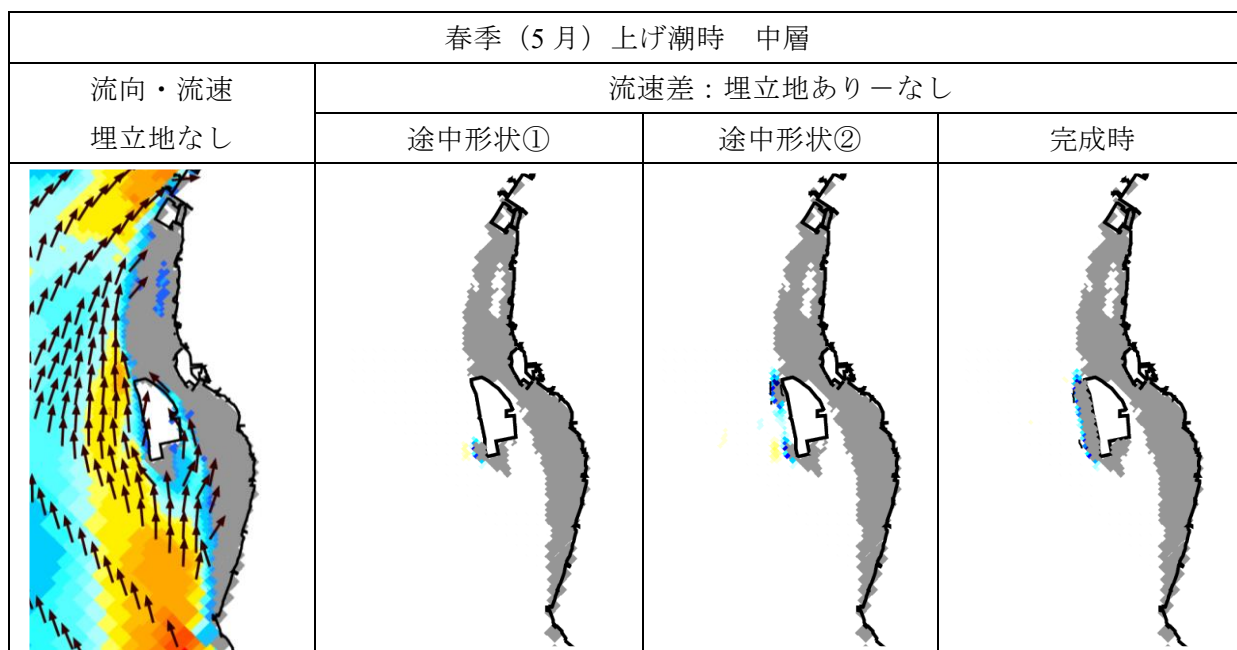
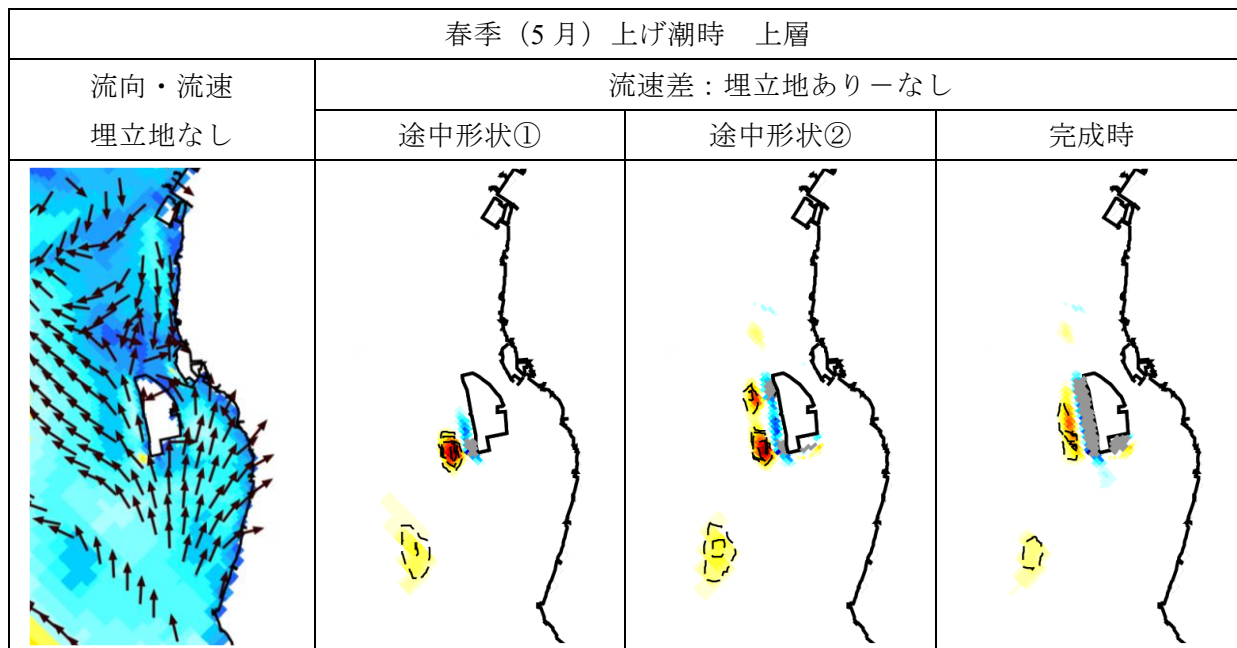
付図 8.6-6(11) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(空港島周辺、冬季・中層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は中層（水深7～8m）の2月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



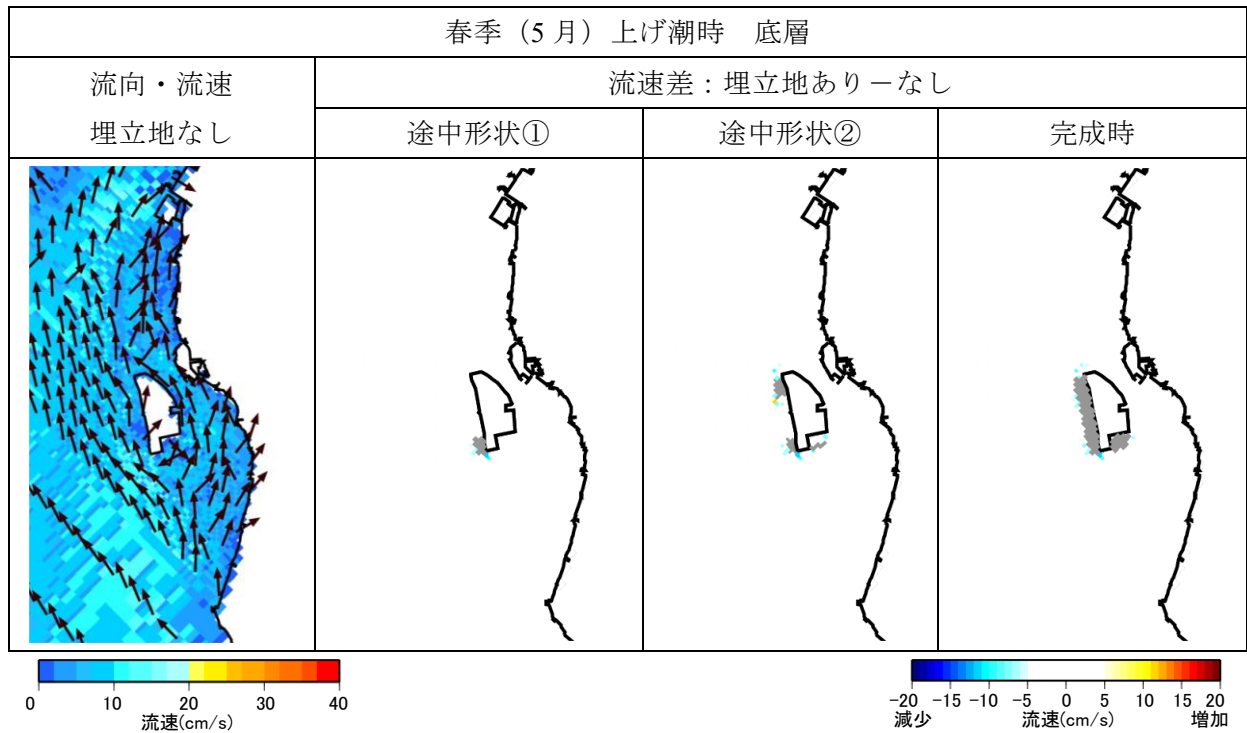
付図 8.6-6(12) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(空港島周辺、冬季・底層、平均流)

- 注：1. 流向・流速は底層（各計算格子の最下層）の2月の月平均を表す。
 2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
 3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



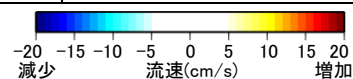
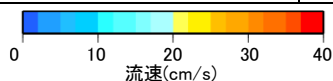
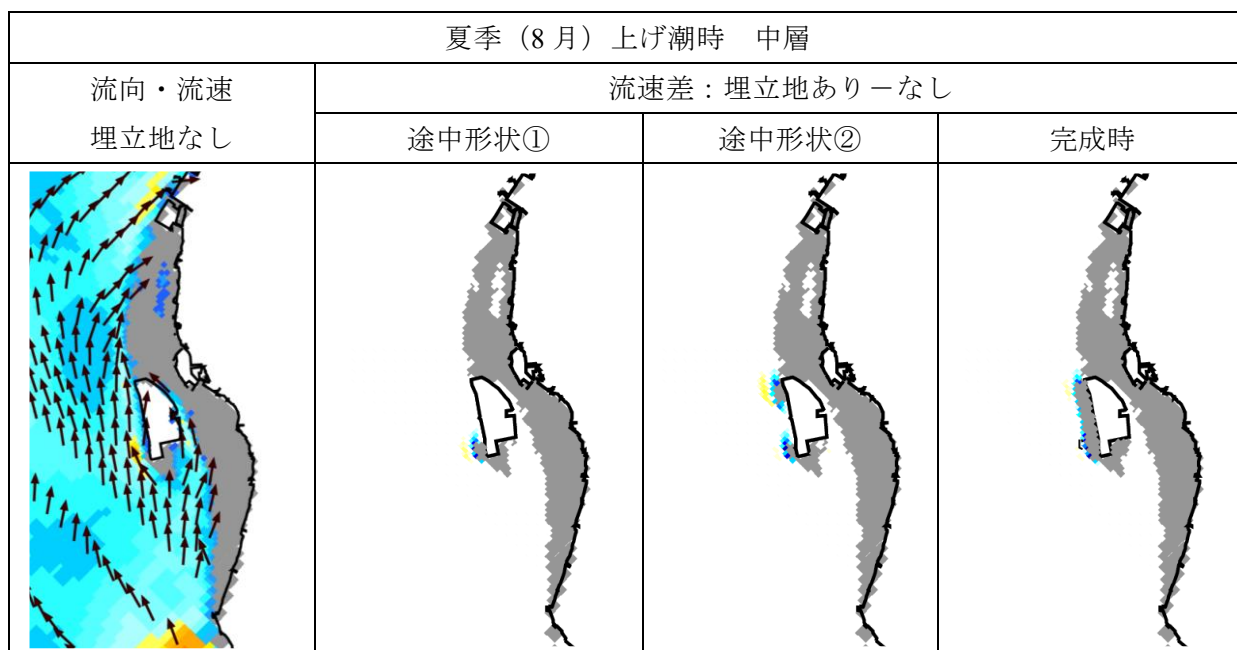
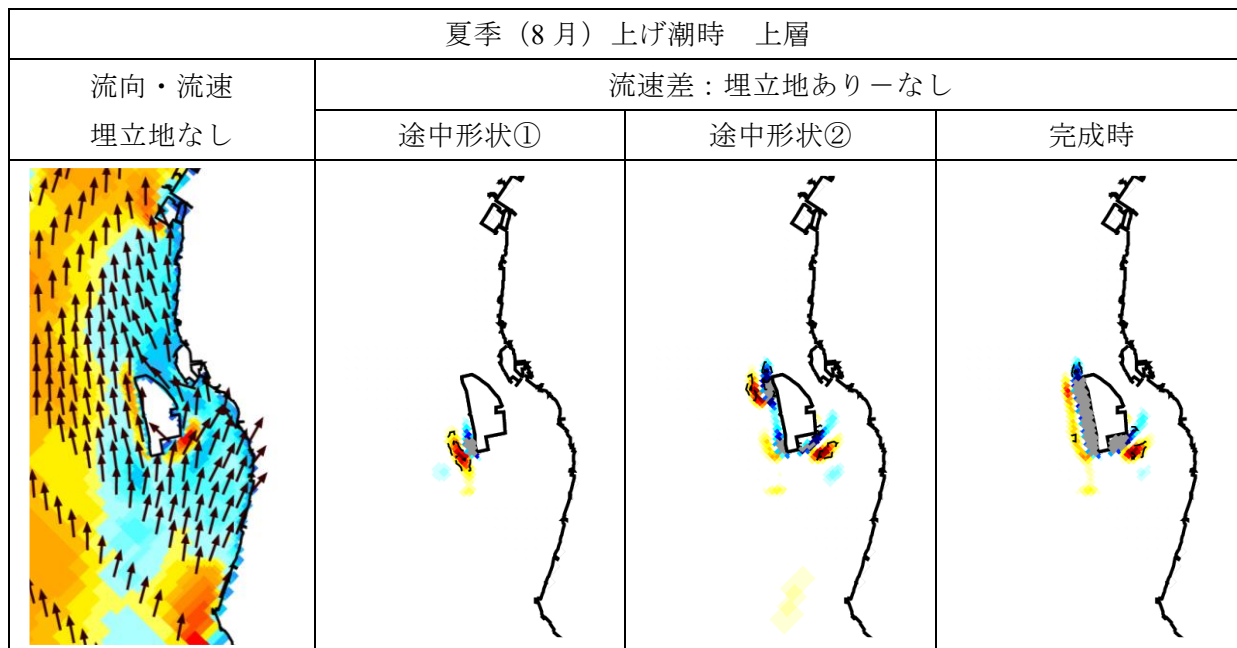
付図 8.6-7(1) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、春季、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における5月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



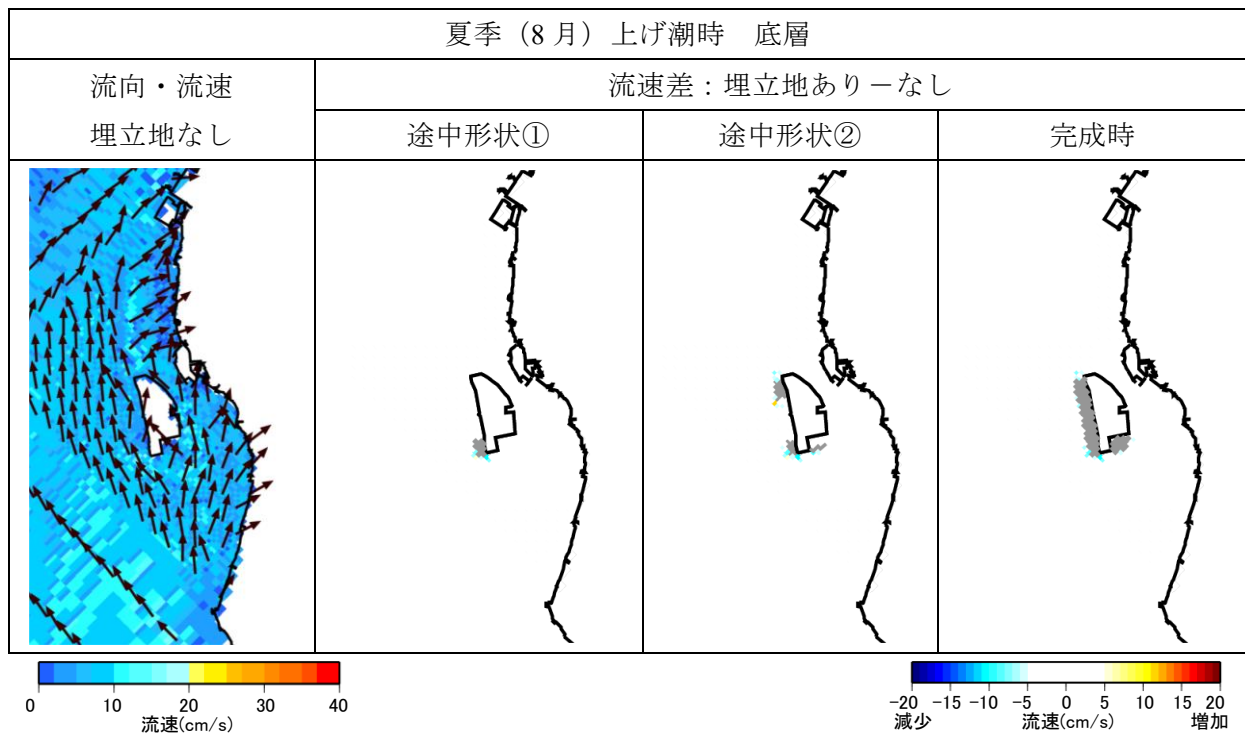
付図 8.6-7(2) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、春季、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における5月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



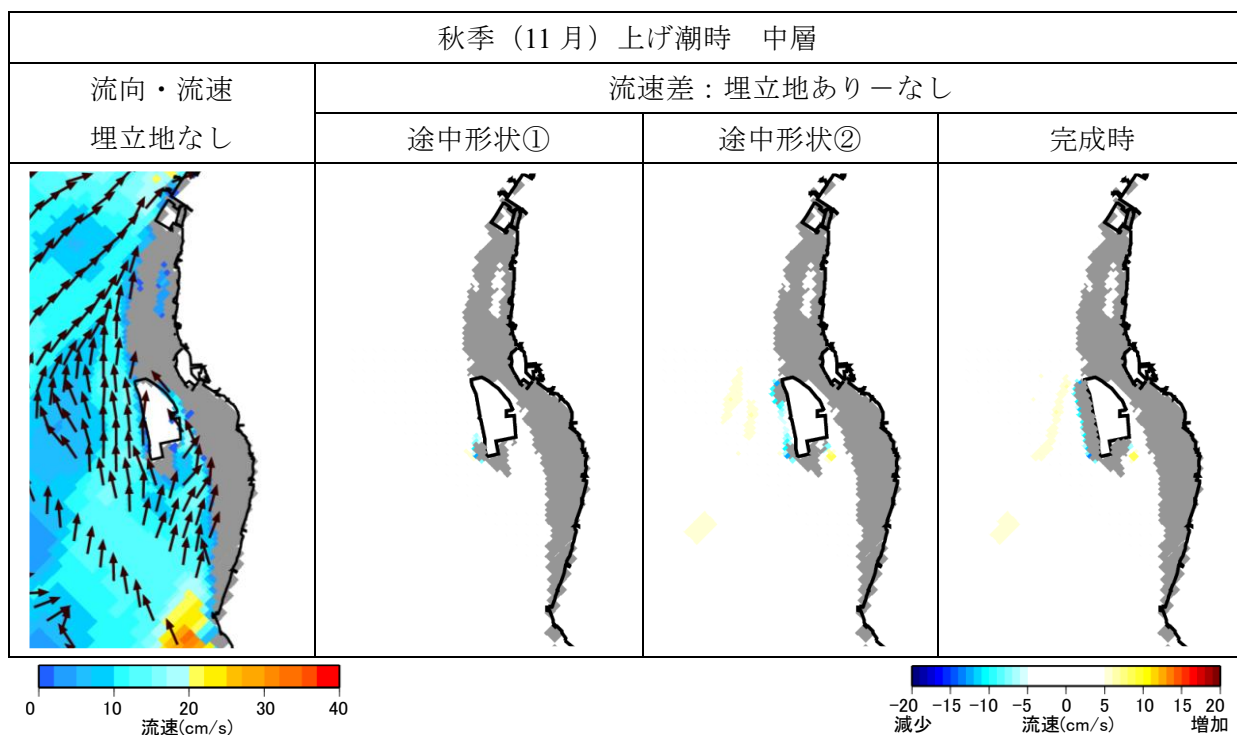
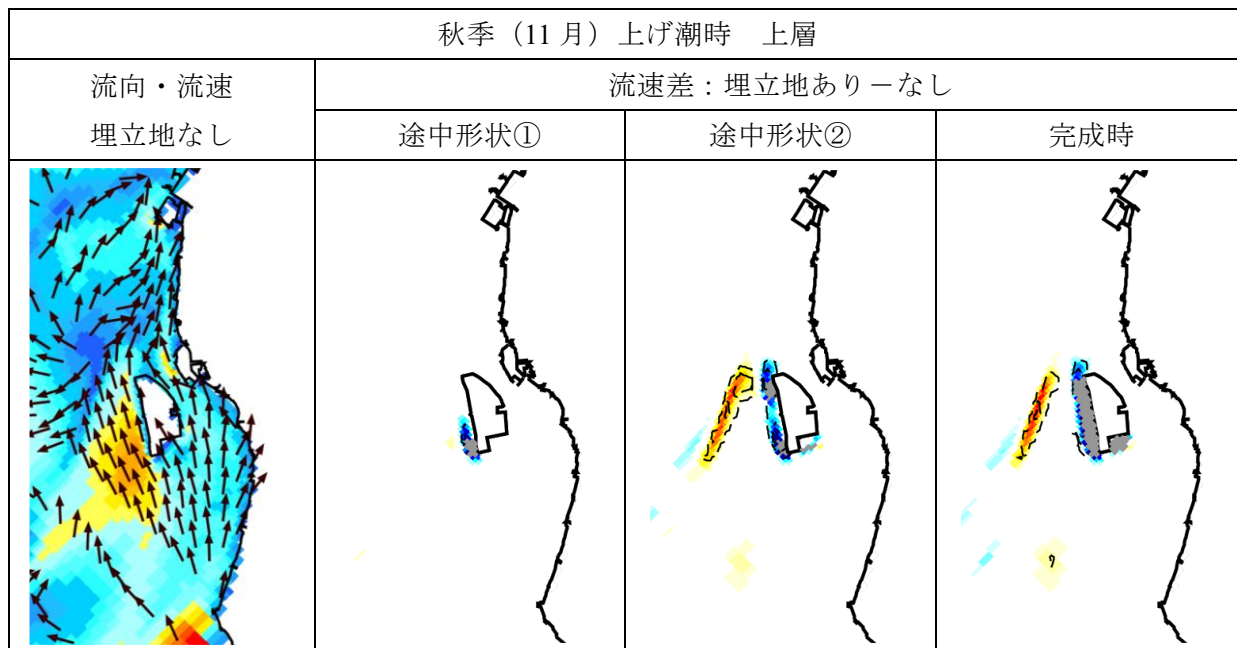
付図 8.6-7(3) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、夏季、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における8月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



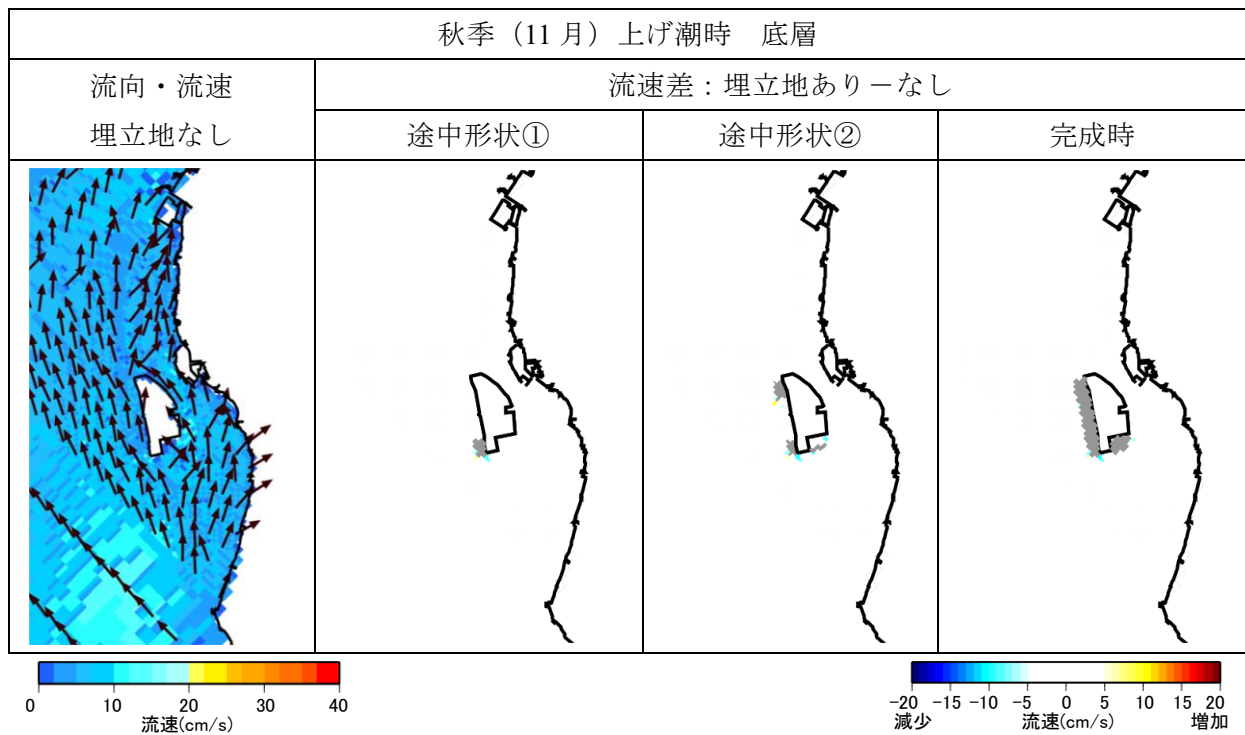
付図 8.6-7(4) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、夏季、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における8月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



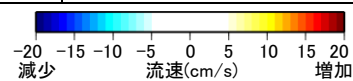
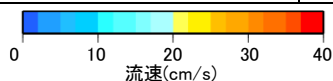
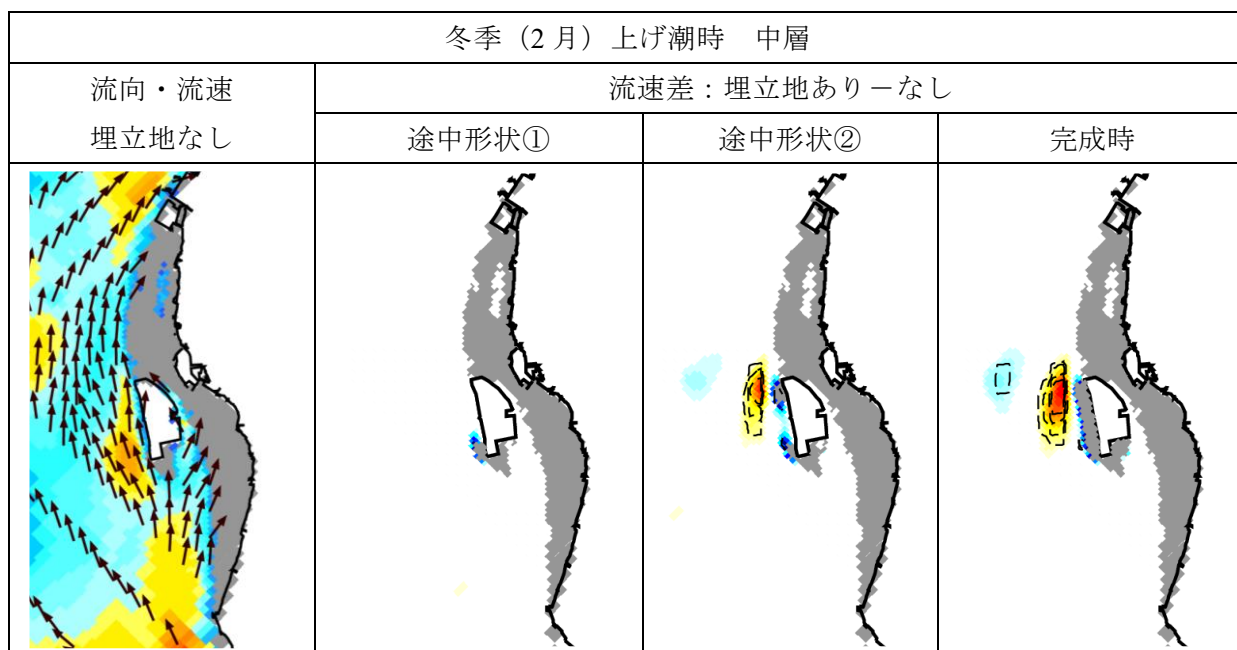
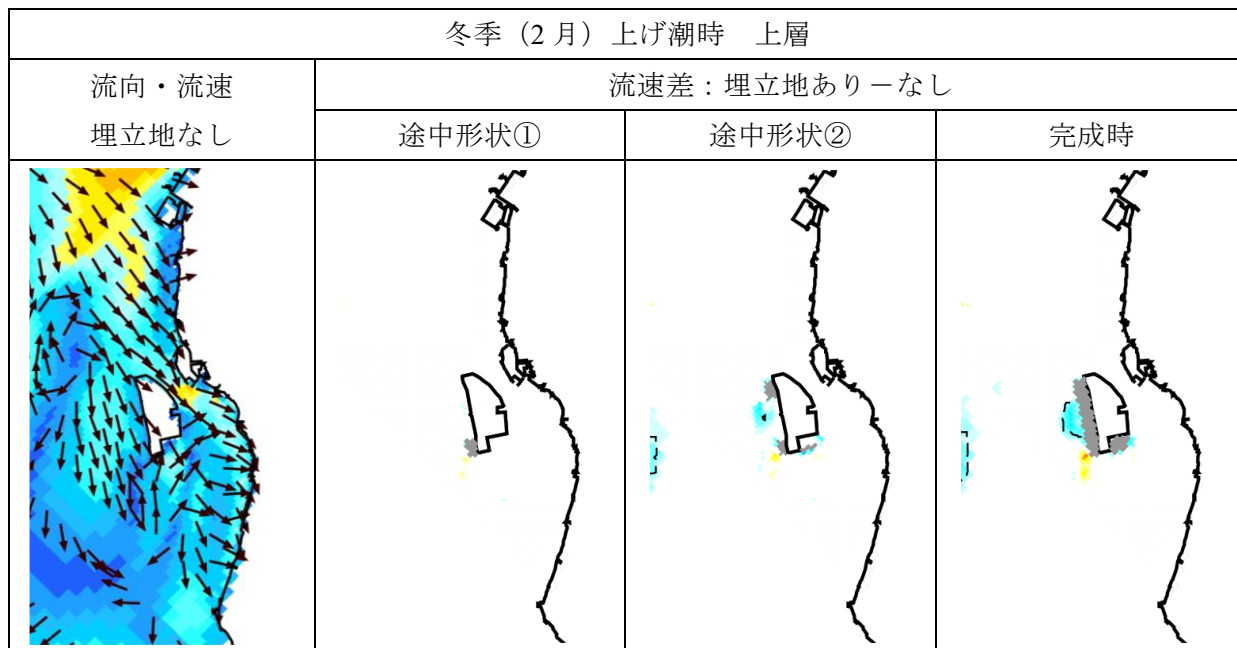
付図 8.6-7(5) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、秋季、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における11月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



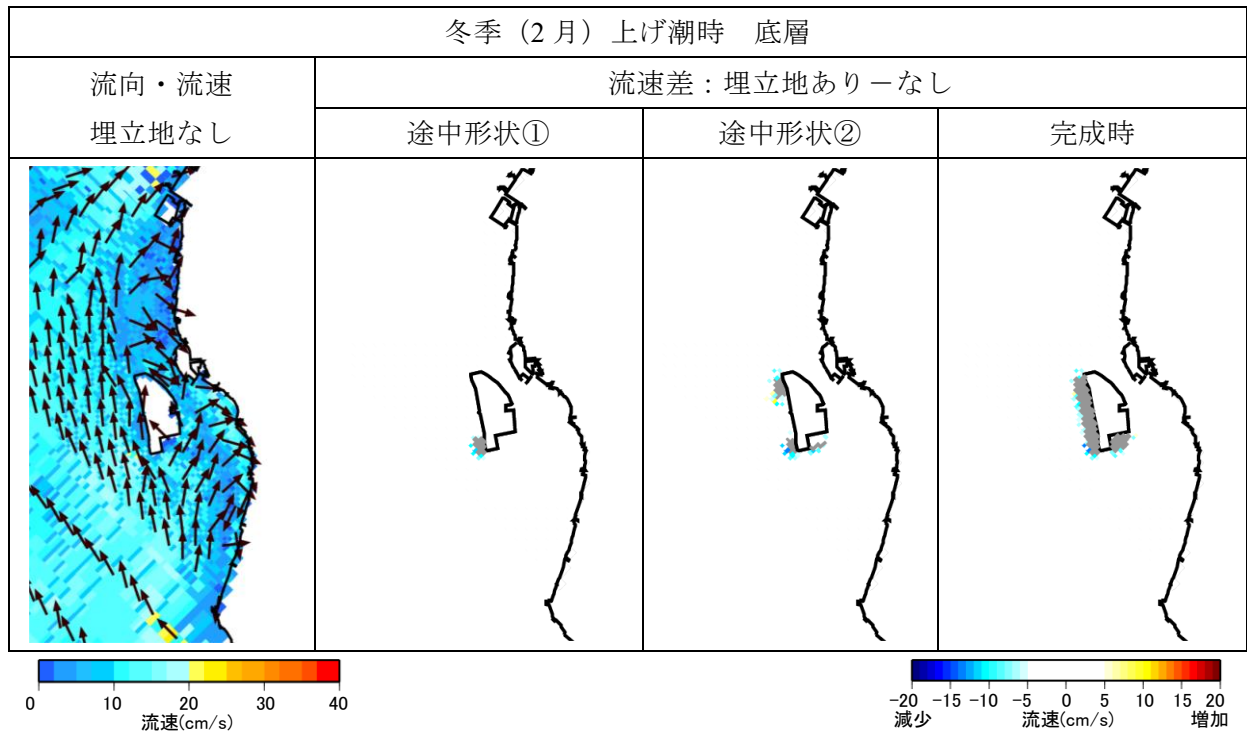
付図 8. 6-7 (6) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、秋季、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における 11 月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



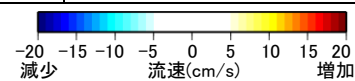
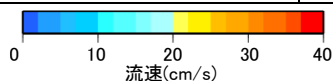
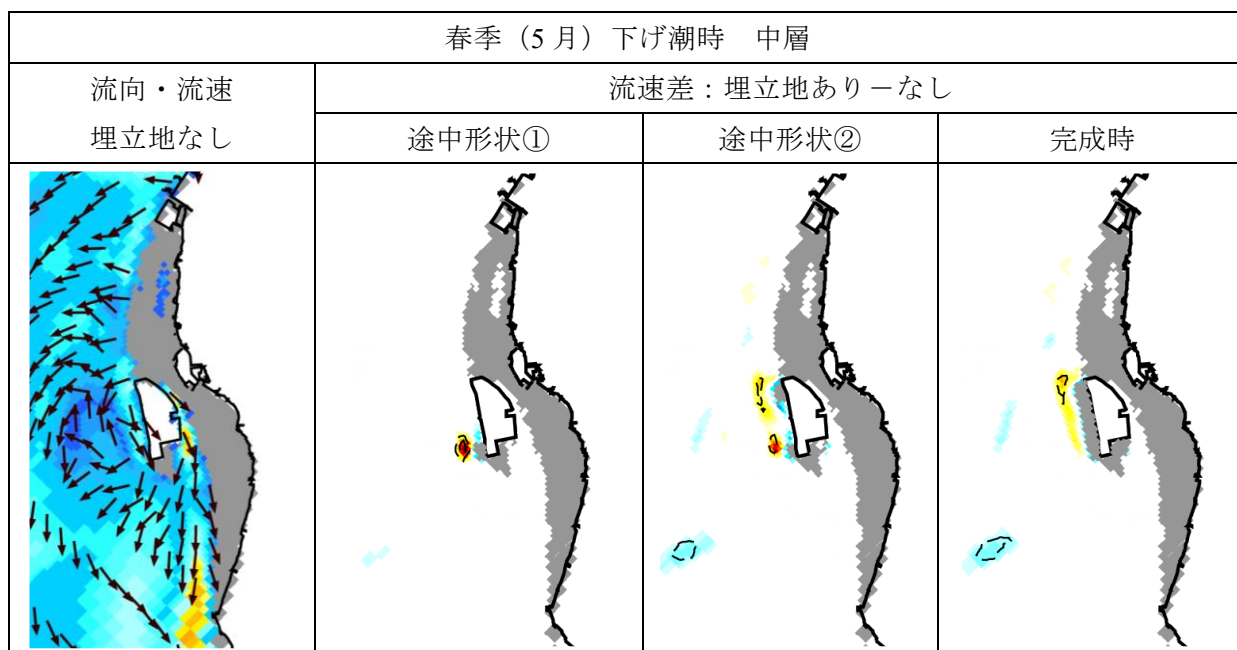
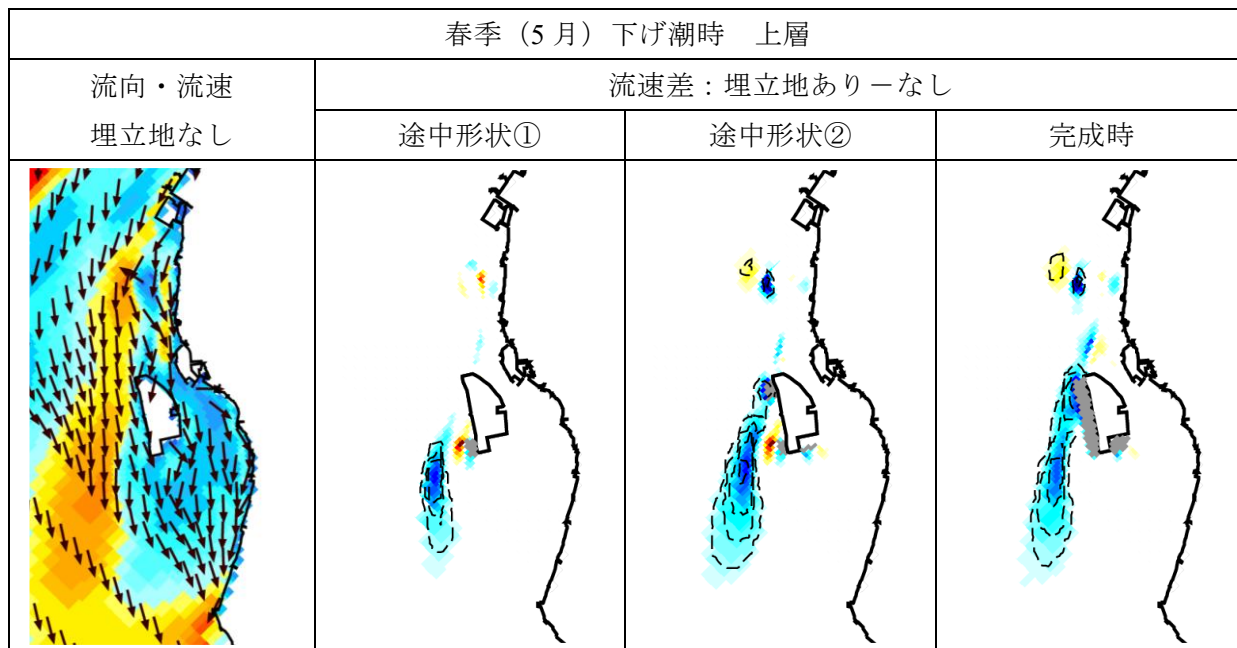
付図 8.6-7(7) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、冬季、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における2月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



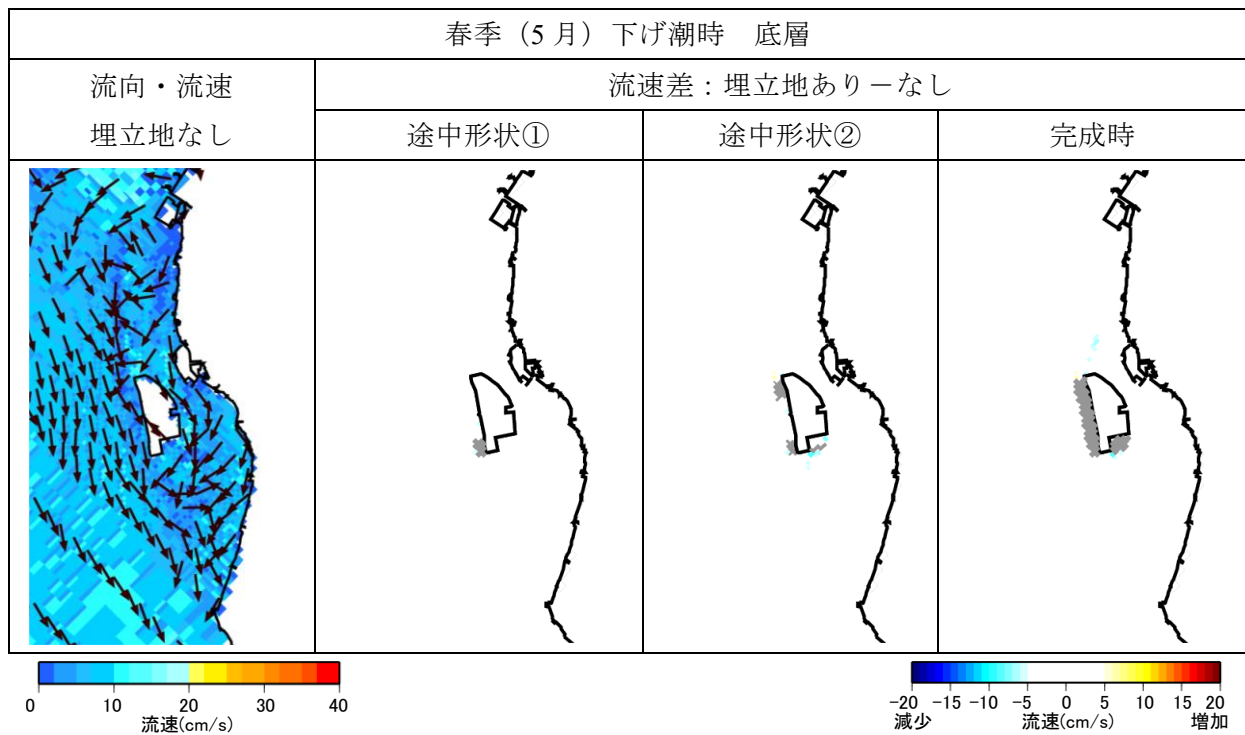
付図 8.6-7(8) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、冬季、上げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における2月の大潮期の上げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



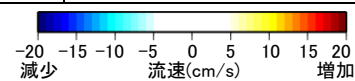
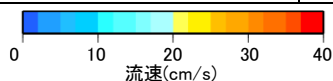
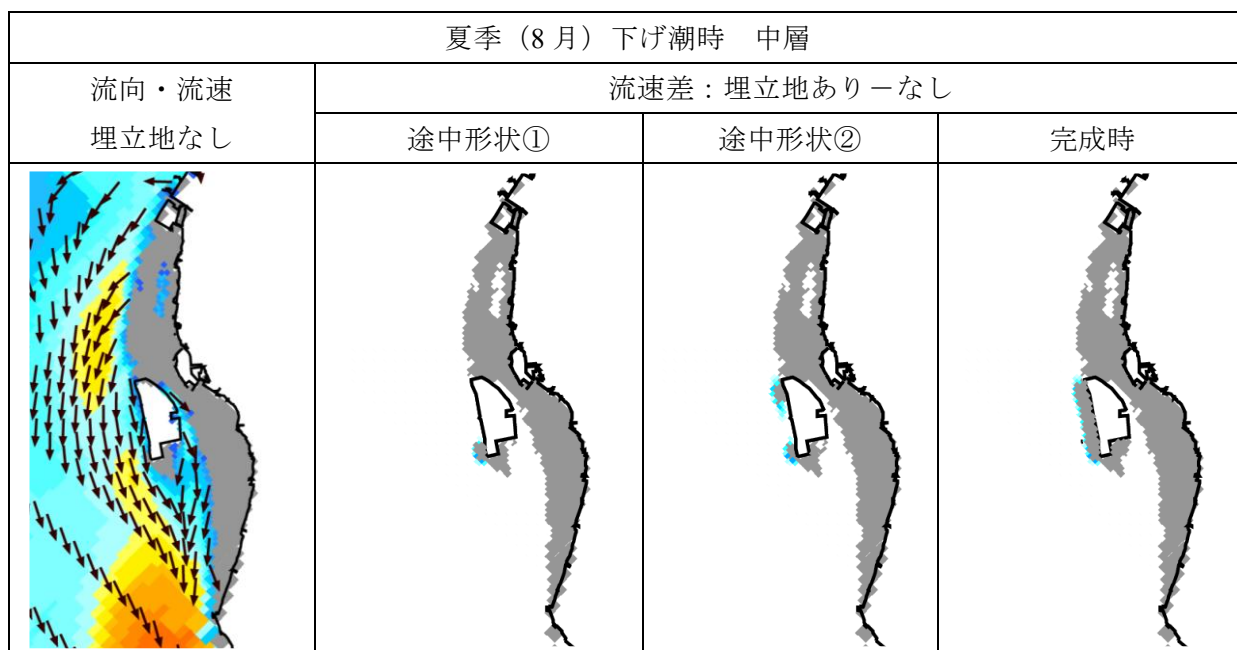
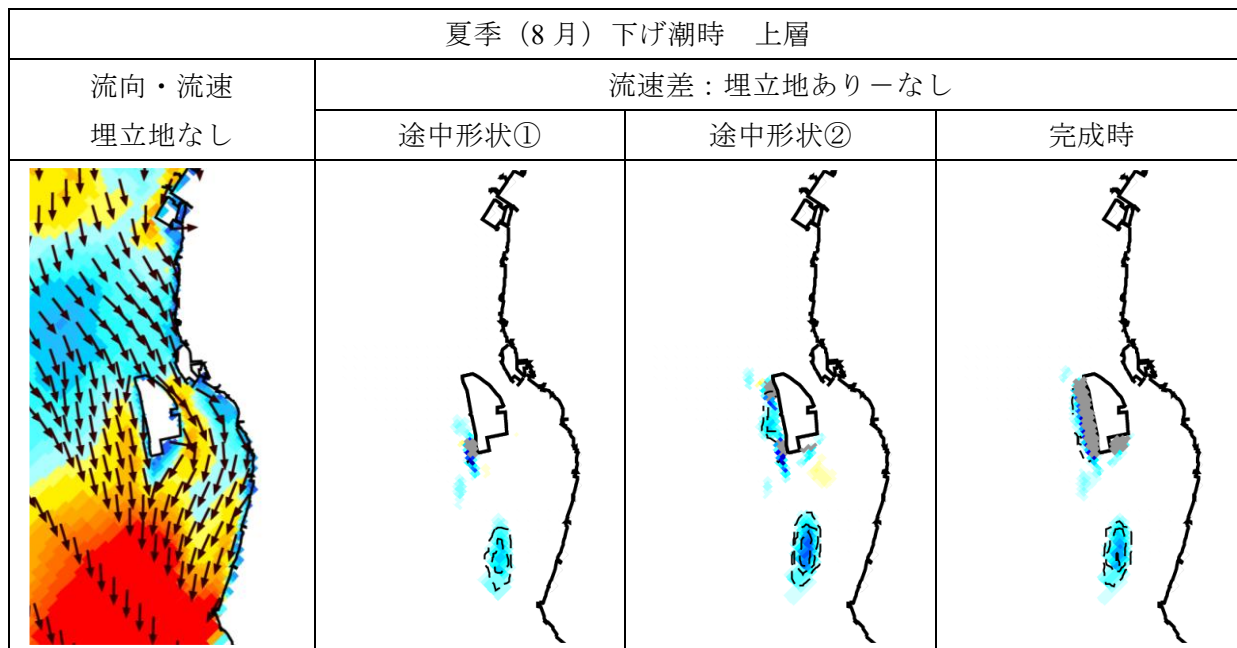
付図 8.6-8(1) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、春季、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における5月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



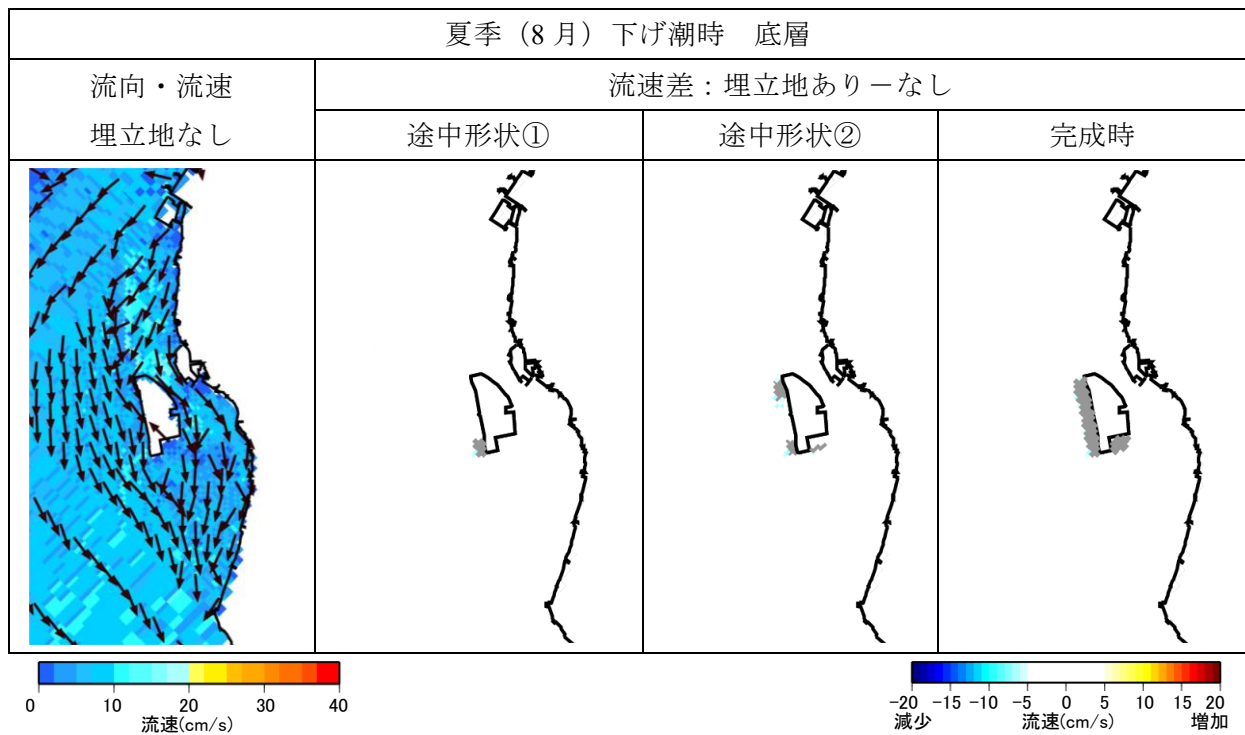
付図 8.6-8(2) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、春季、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における5月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



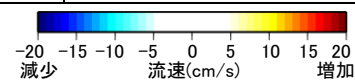
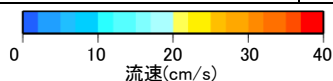
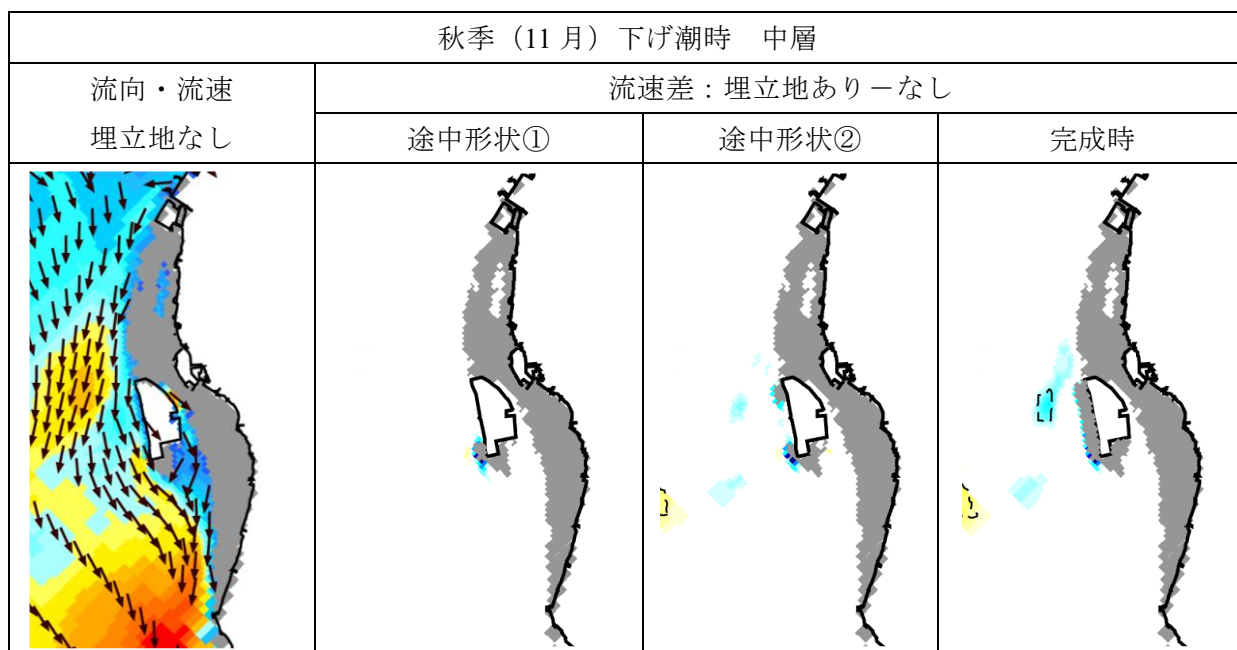
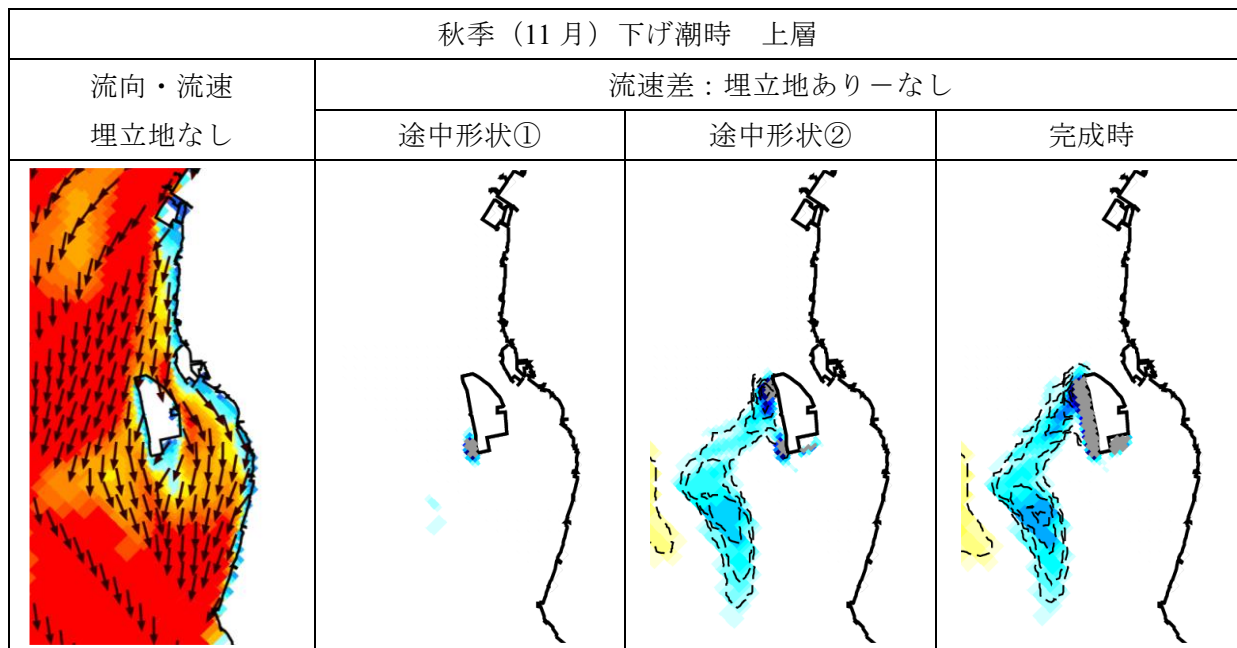
付図 8.6-8(3) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、夏季、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における8月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



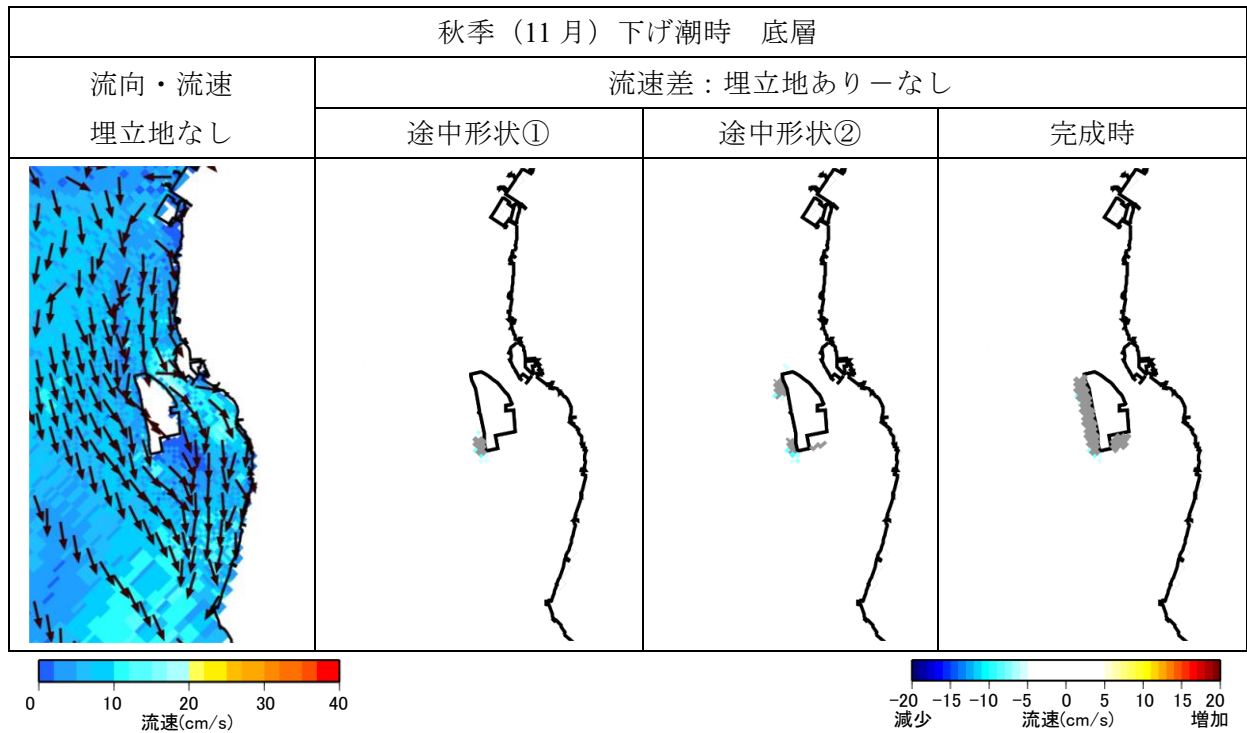
付図 8.6-8(4) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、夏季、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における8月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



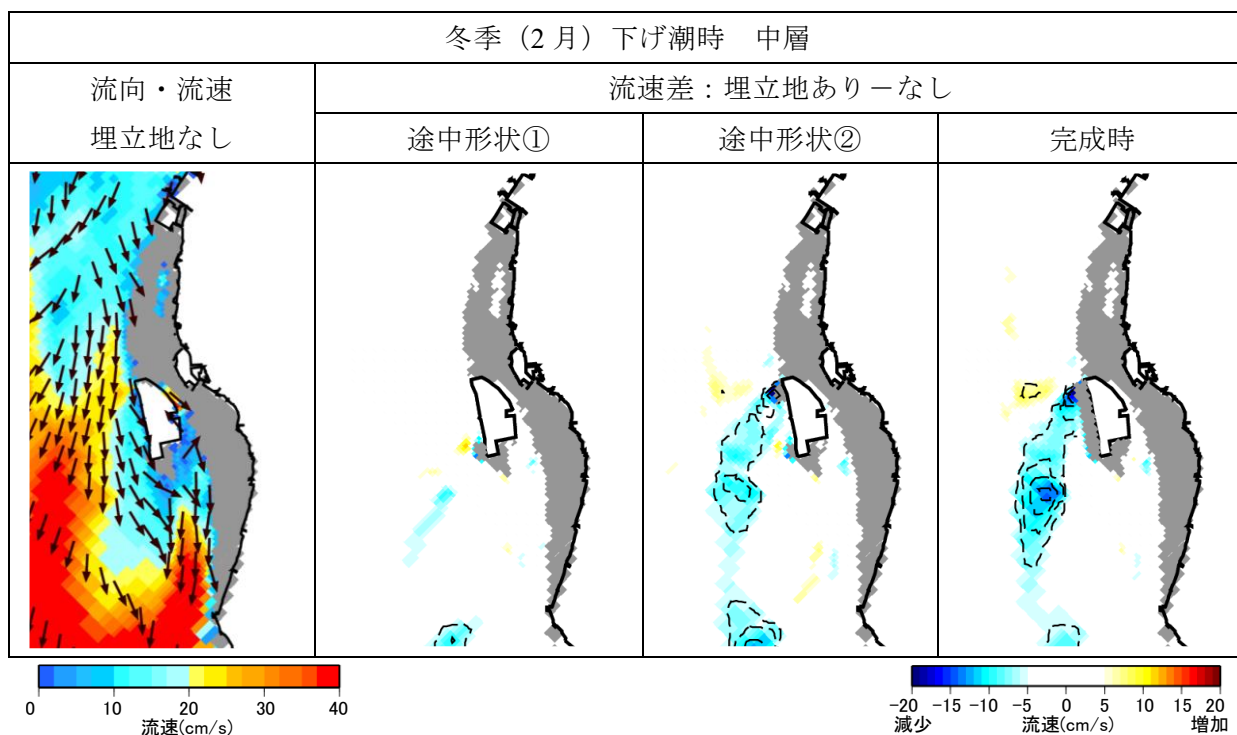
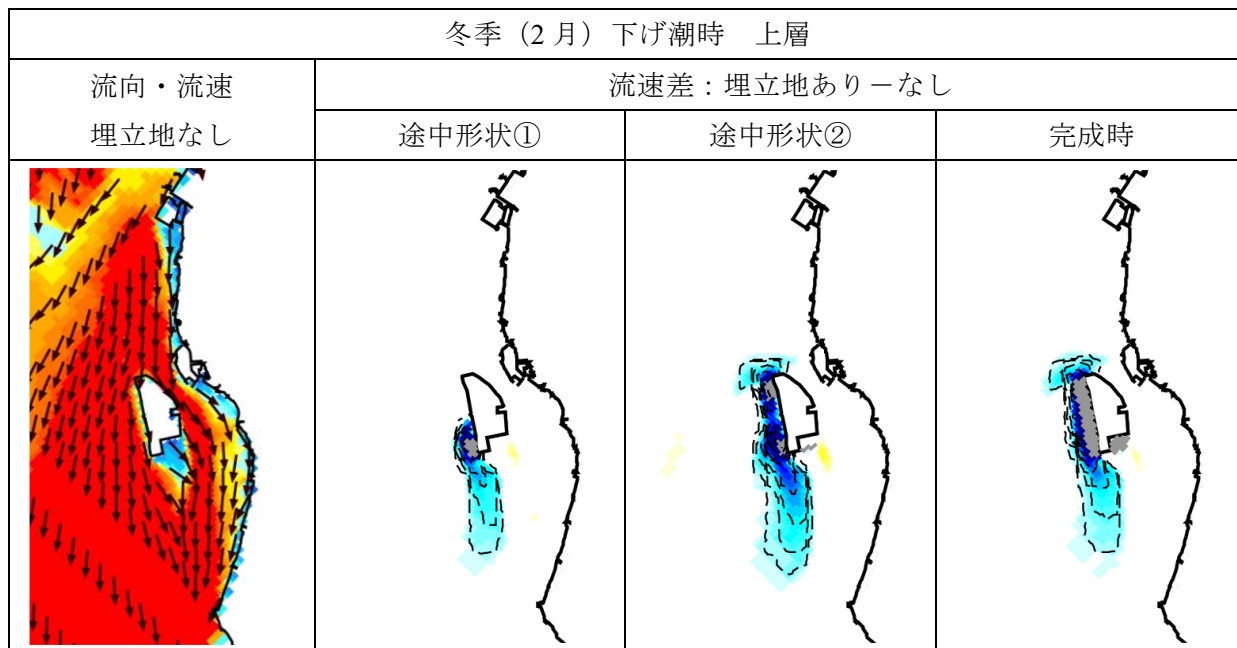
付図 8.6-8(5) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、秋季、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における11月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



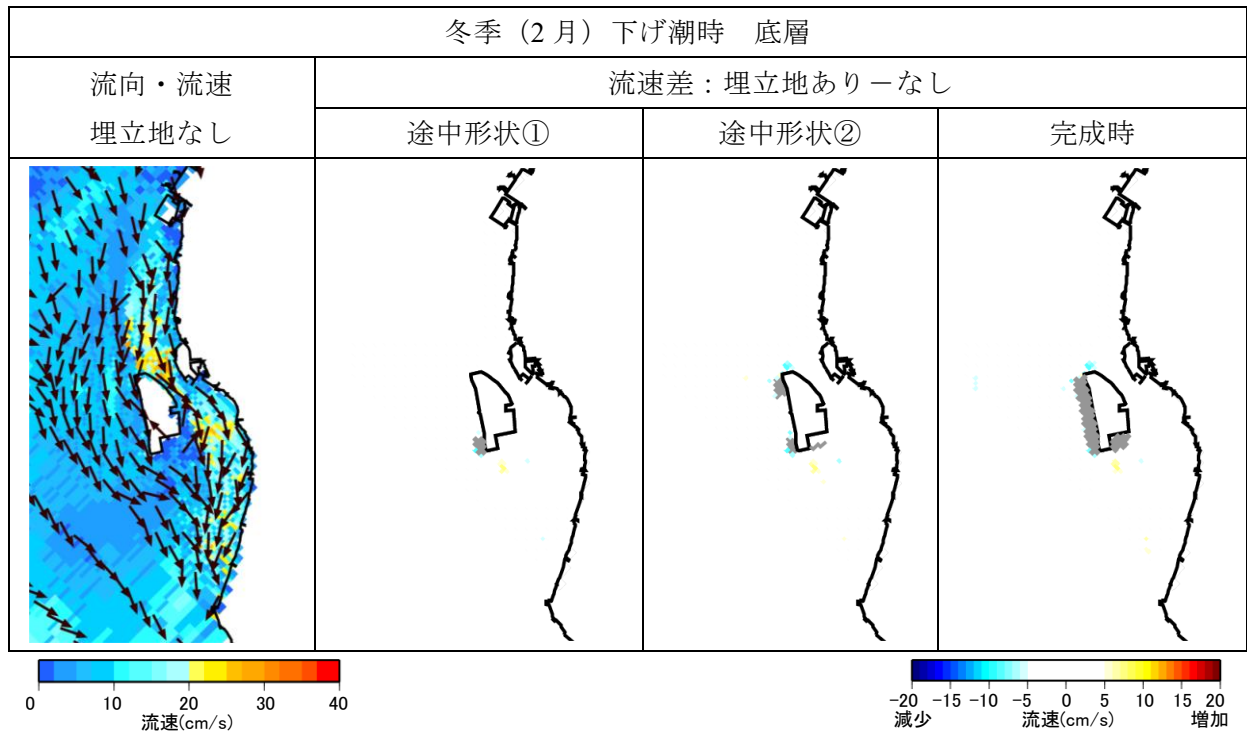
付図 8. 6-8(6) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、秋季、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における 11 月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



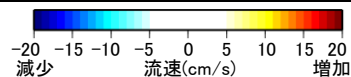
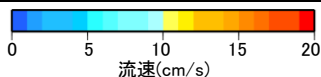
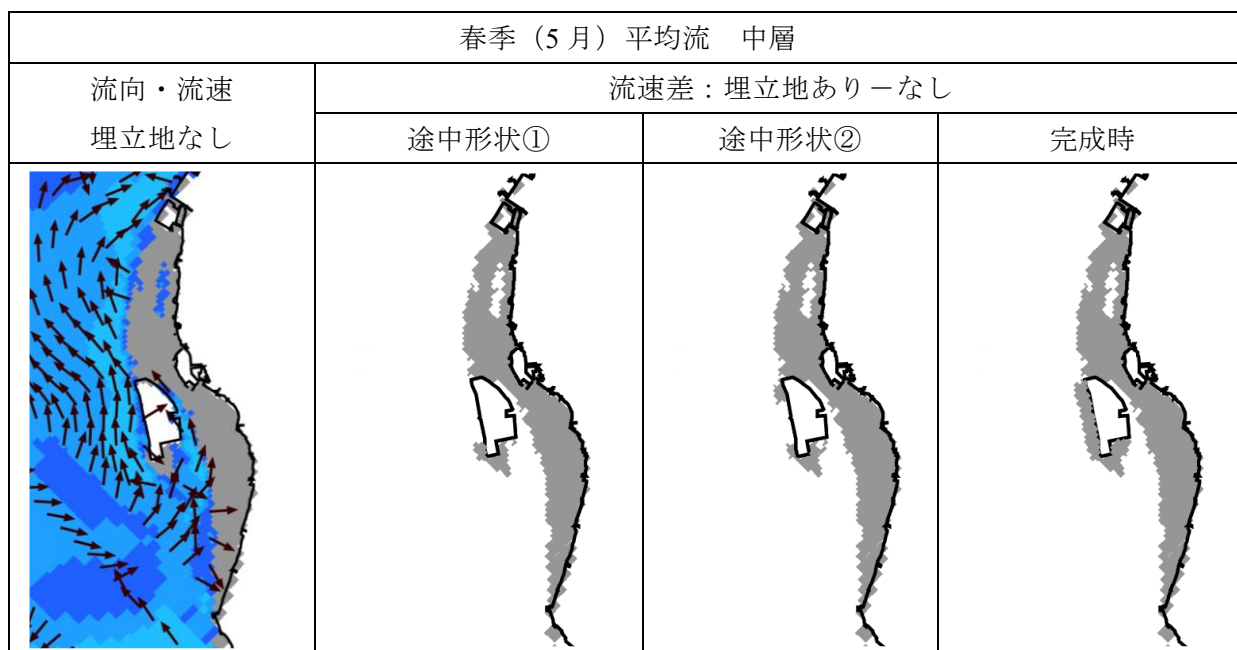
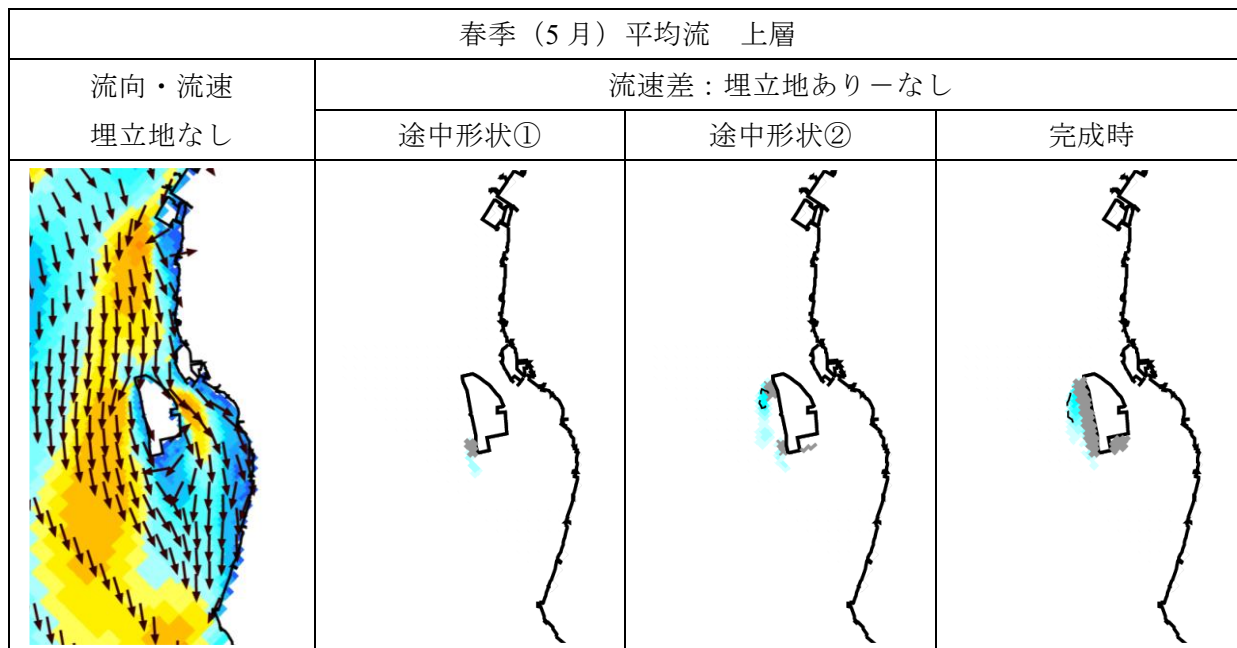
付図 8.6-8(7) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、冬季、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における2月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



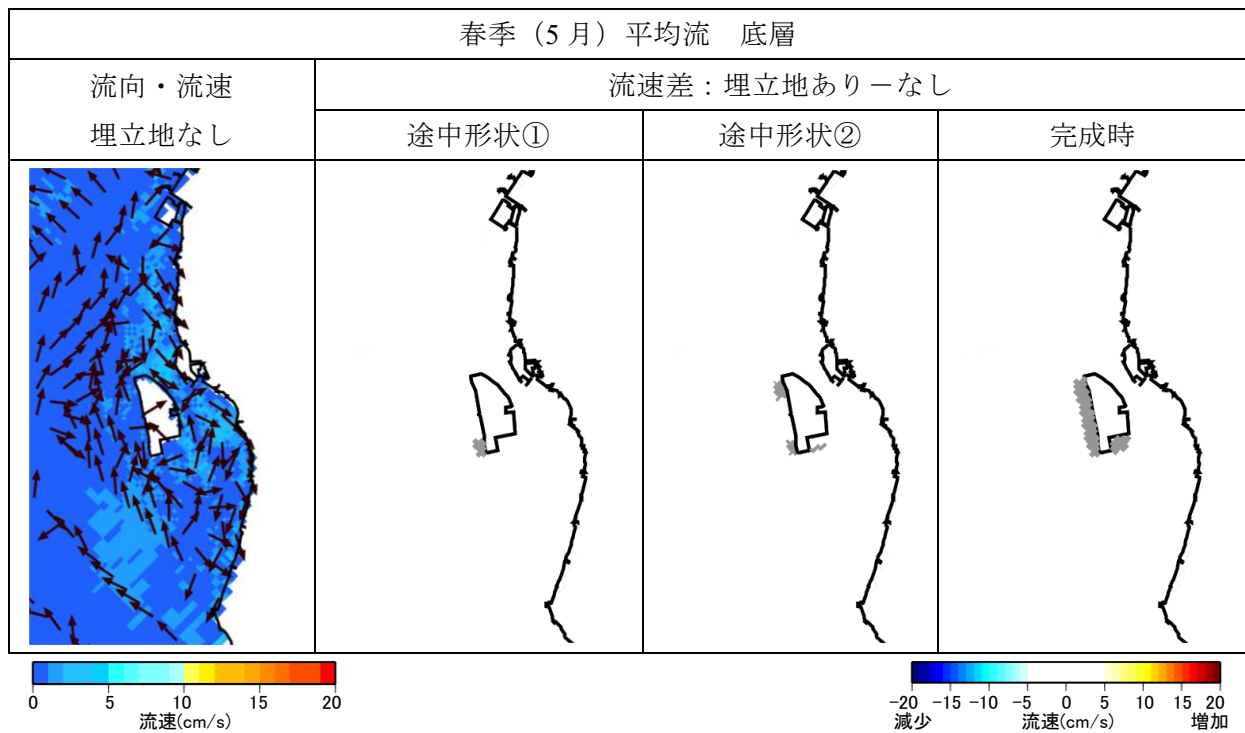
付図 8.6-8(8) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、冬季、下げ潮時)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における2月の大潮期の下げ潮時、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



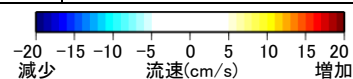
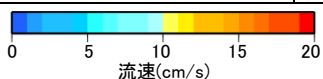
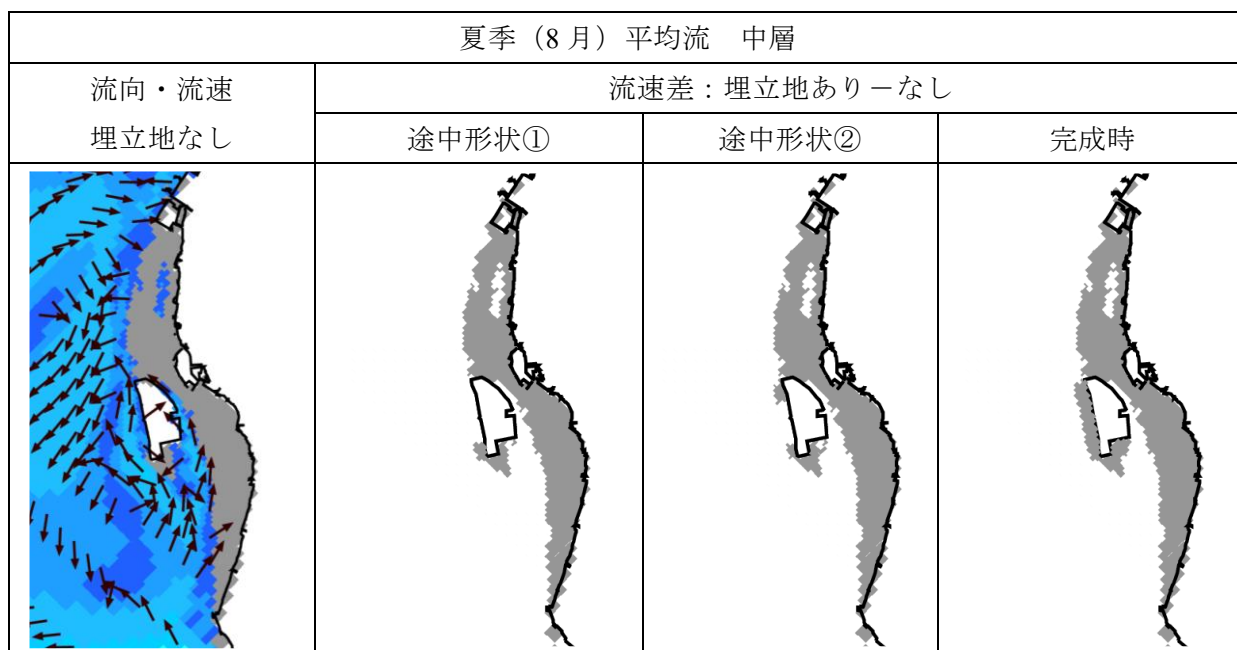
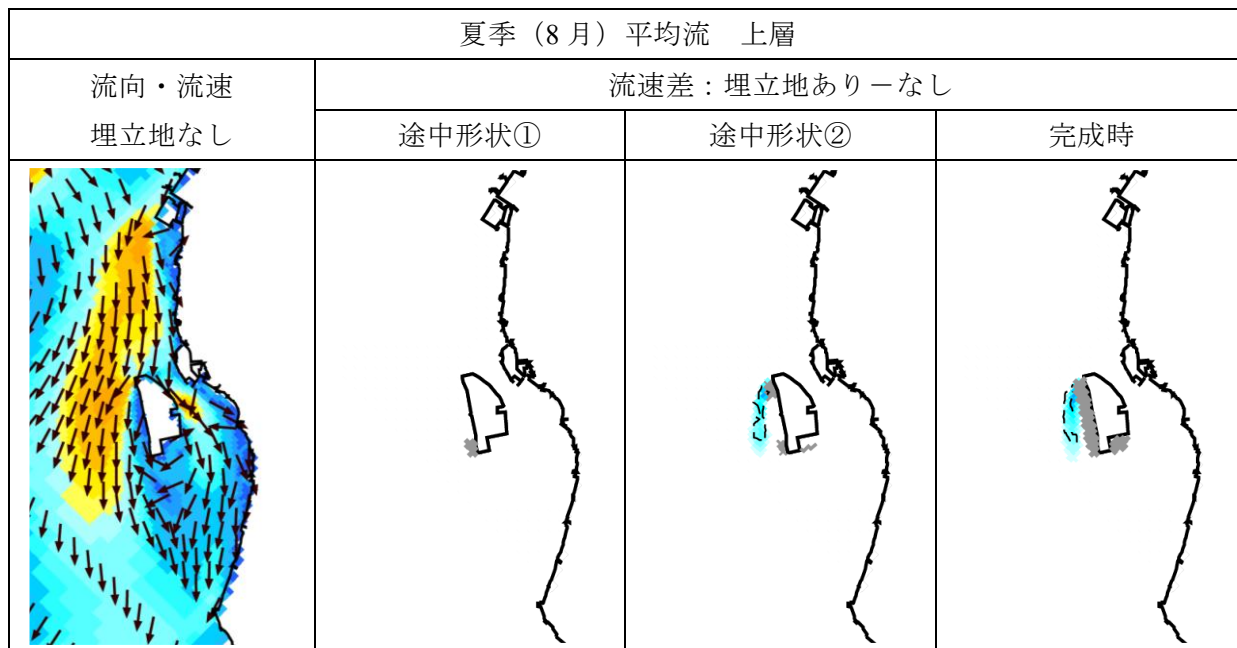
付図 8.6-9(1) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、春季、平均流)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における5月の月平均、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



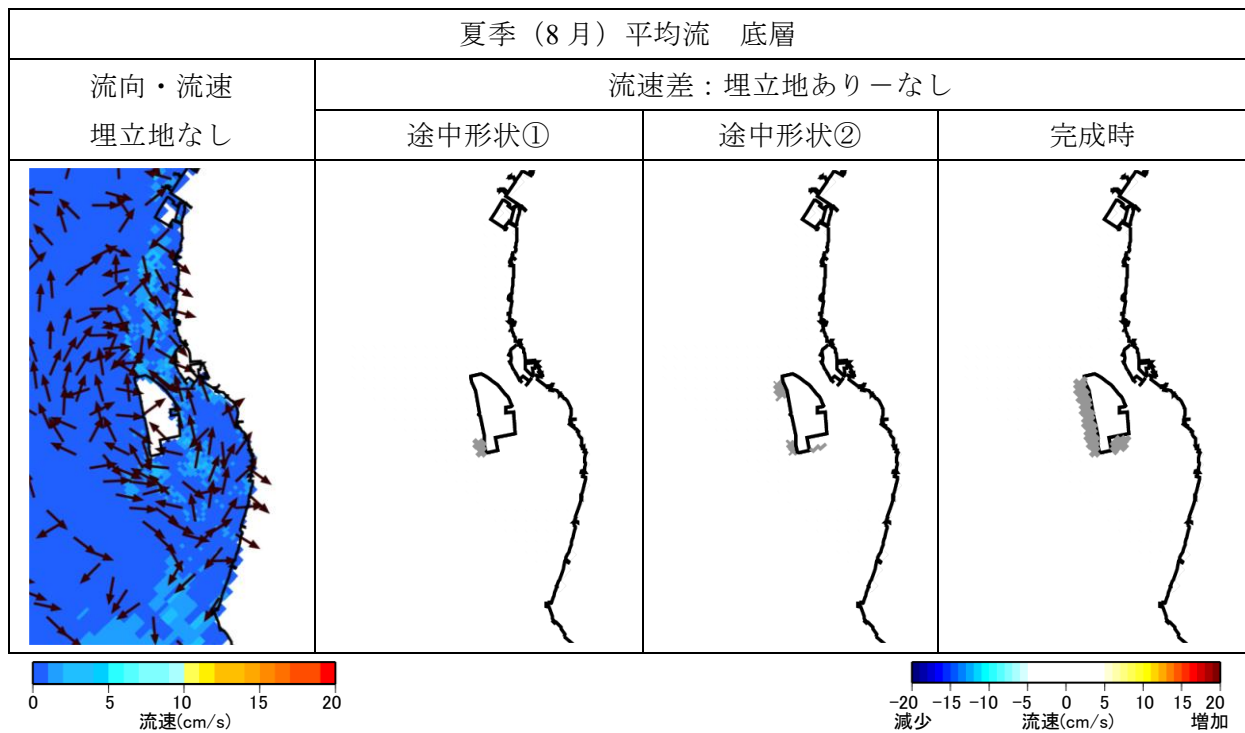
付図 8. 6-9 (2) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、春季、平均流)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における5月の月平均、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



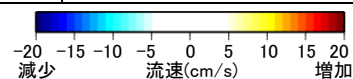
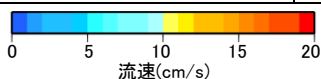
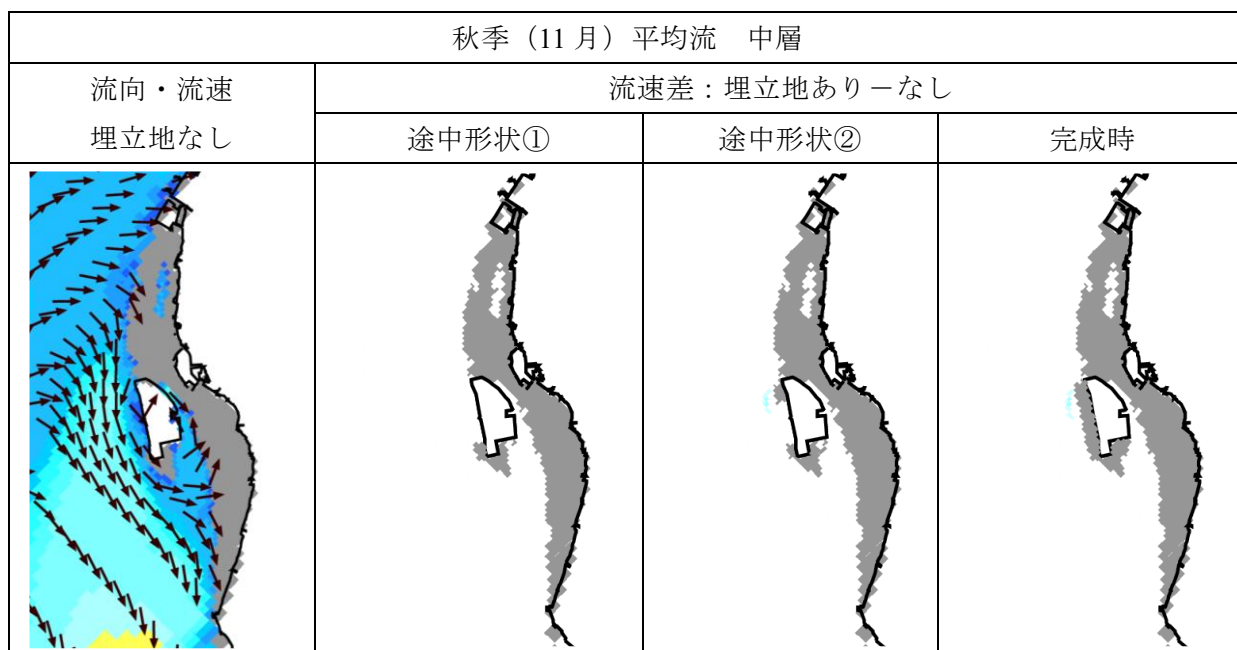
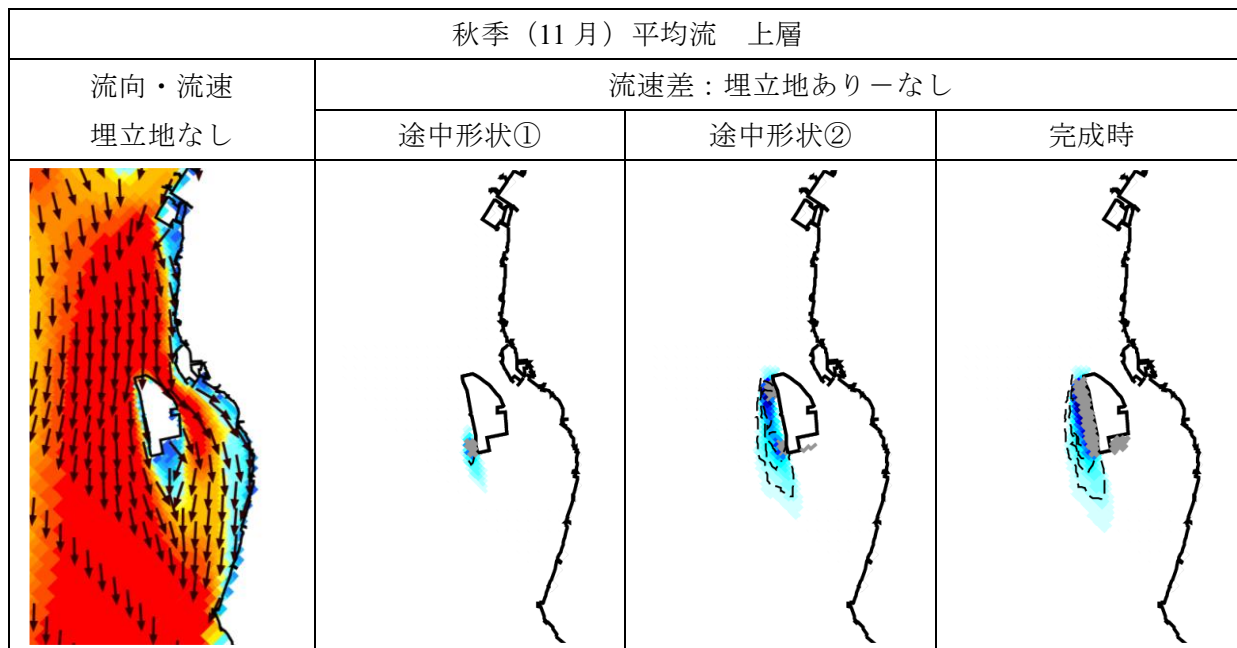
付図 8.6-9(3) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、夏季、平均流)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における8月の月平均、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



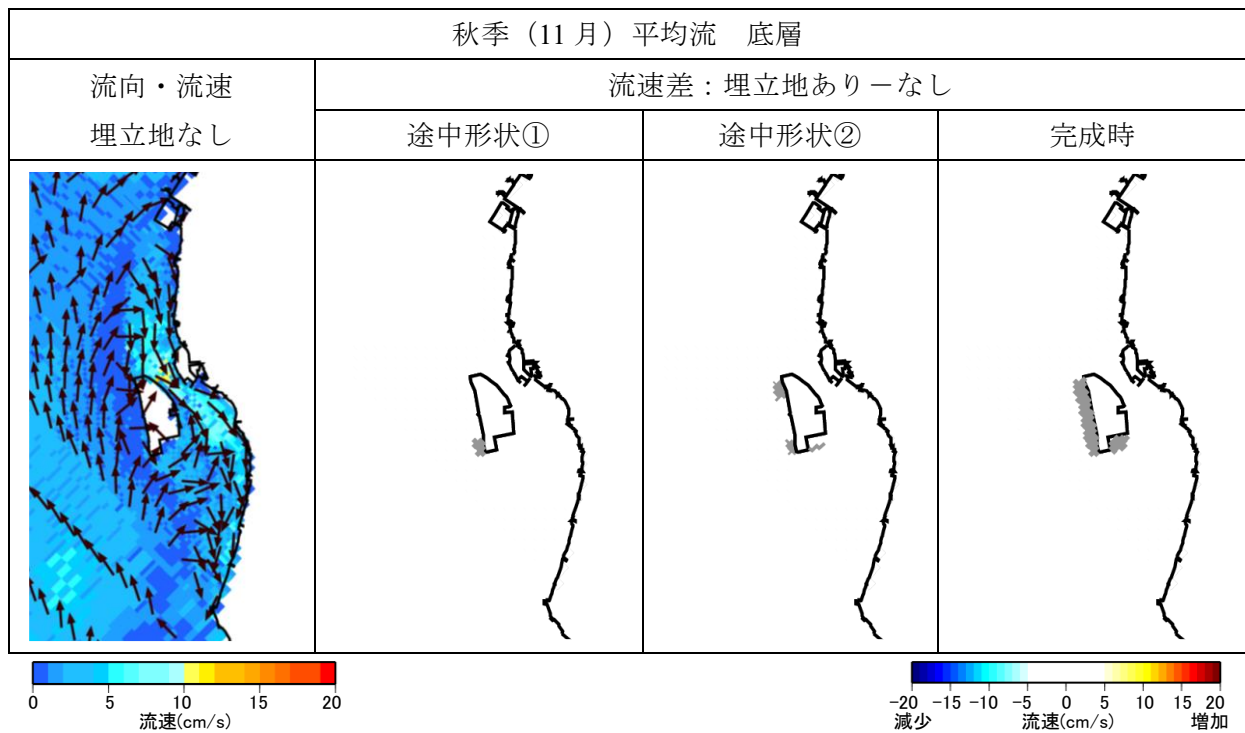
付図 8.6-9(4) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、夏季、平均流)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における8月の月平均、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



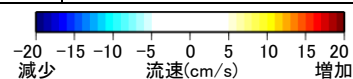
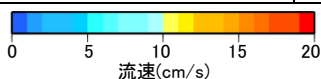
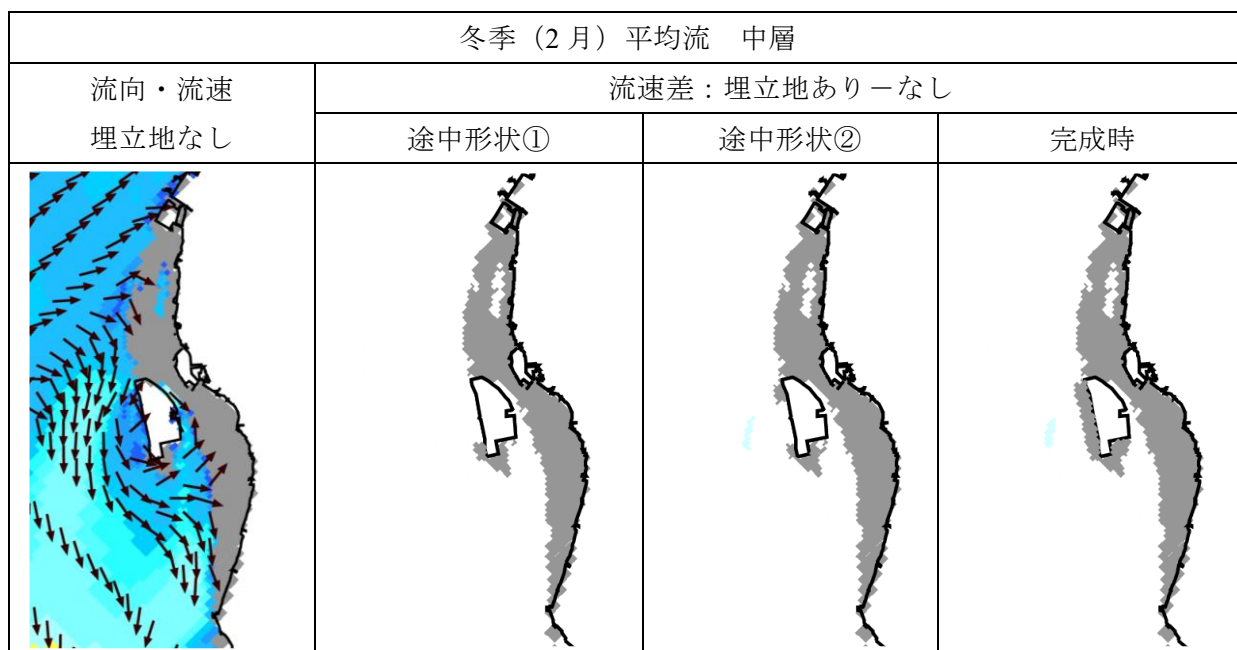
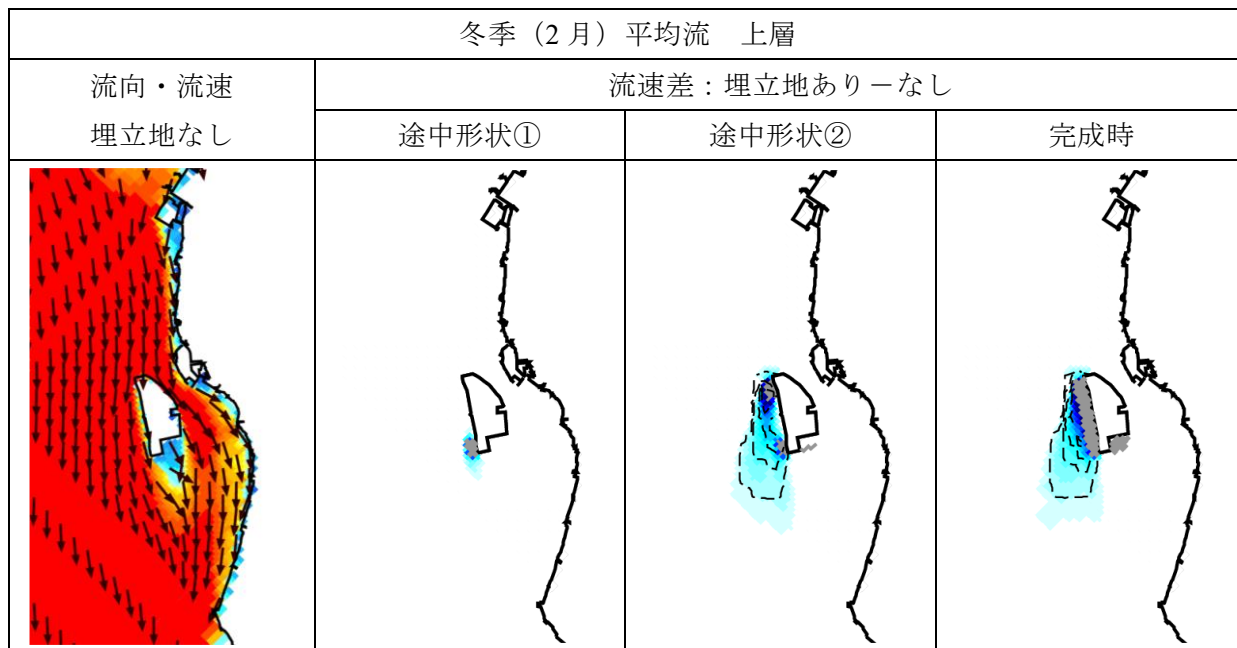
付図 8.6-9(5) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、秋季、平均流)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における11月の月平均、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



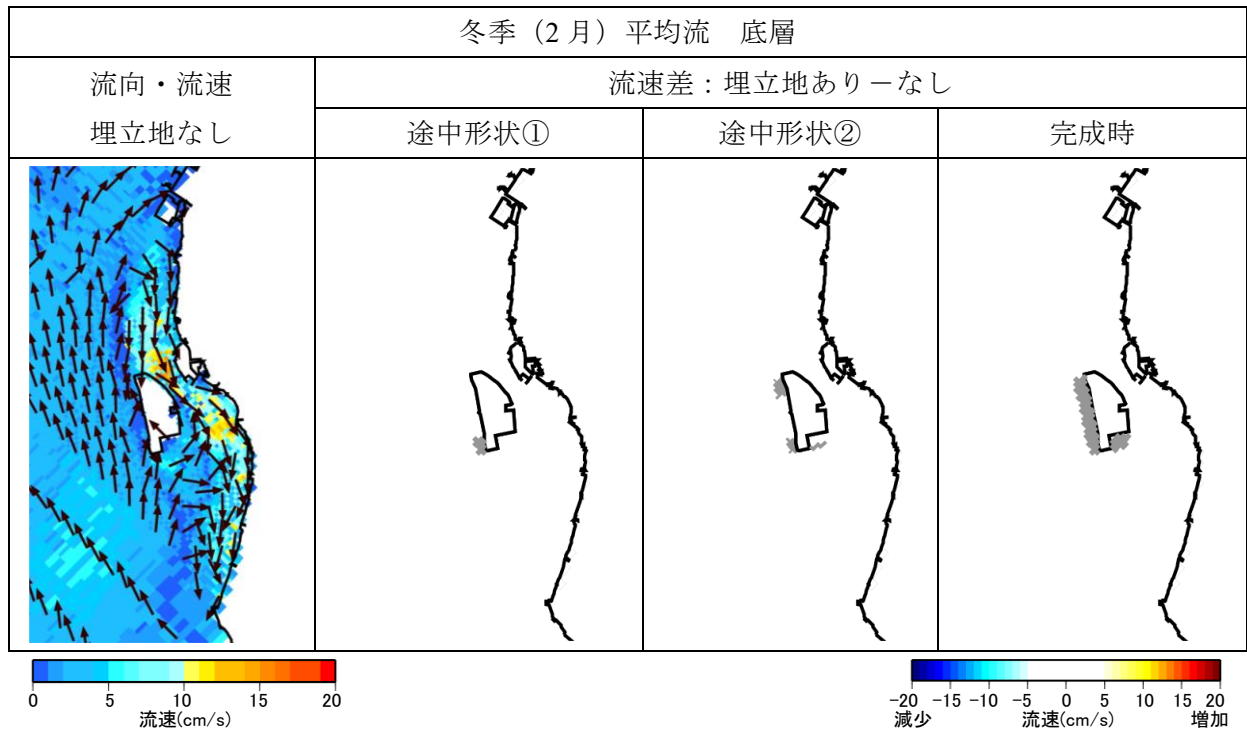
付図 8.6-9(6) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、秋季、平均流)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における 11 月の月平均、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



付図 8.6-9(7) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、冬季、平均流)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は上層（水深0～0.5m）と中層（水深7～8m）における2月の月平均、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。



付図 8.6-9(8) 埋立ての途中形状及び完成時における流向及び流速の予測結果
(狭域、冬季、平均流)

- 注：1. 流向・流速（埋立地なし）は底層（各計算格子の最下層）における2月の月平均、流速差は埋立地あり（途中形状①、途中形状②、完成時）から埋立地なしの流速値を差し引いた値で表す。
2. 流向を矢印で表し、流速値をカラーで示す。
3. ■の領域は該当水深がなくデータがない領域を示す。

8.8 動物に係る資料



付図 8.8-1 営巣地の確認状況

付表 8. 8-1(1) 動物プランクトン出現状況 (平成 26 年度)

調査期日 項目	平成26年4月15日			平成26年5月14日			平成26年6月13日			平成26年7月13日		
出現種類数 〔158〕	50			57			60			62		
出現個体数 (個体/m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	7,850	226,500	46,244	17,602	152,886	69,056	9,734	108,000	34,055	8,746	677,146	136,116
主 な 出現種 (%)	橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (52.2) <i>Acartia</i> spp. (copepodite) (10.9)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (21.8) <i>Acartia</i> spp. (copepodite) (15.3) <i>Podon polyphemoides</i> (12.8) <i>Stenosemella</i> spp. (10.7)			クモヒトデ綱の オフィオブルテウス幼生 (14.0) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (13.7) ゴカイ綱の ネクトキータ幼生 (10.5)			<i>Oithona</i> spp. (copepodite) (21.0) <i>Oithona davisae</i> (14.4) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (13.9) <i>Paracalanus</i> spp. (copepodite) (12.7)		

調査期日 項目	平成26年8月24日			平成26年9月9日			平成26年10月8日			平成26年11月8日		
出現種類数 〔158〕	77			84			88			80		
出現個体数 (個体/m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	5,075	441,331	96,799	5,032	387,371	96,088	8,842	158,121	51,100	9,174	107,422	51,280
主 な 出現種 (%)	<i>Oithona</i> spp. (copepodite) (24.3) <i>Oithona davisae</i> (14.6) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (14.0) <i>Penilia avirostris</i> (12.5)			<i>Oithona</i> spp. (copepodite) (24.3) <i>Penilia avirostris</i> (20.0) <i>Oithona davisae</i> (12.8)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (14.1) <i>Oncaea</i> spp. (copepodite) (11.2) <i>Oncaea scottodicarloi</i> (10.3)			<i>Microsetella norvegica</i> (20.6) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (17.4) <i>Oncaea scottodicarloi</i> (11.9) <i>Oncaea</i> spp. (copepodite) (10.7)		

調査期日 項目	平成26年12月8日			平成27年1月6日			平成27年2月4日			平成27年3月6日		
出現種類数 〔158〕	73			59			52			37		
出現個体数 (個体/m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	3,509	69,068	38,811	2,642	104,803	29,316	5,671	71,475	24,637	3,974	35,500	15,454
主 な 出現種 (%)	<i>Microsetella norvegica</i> (20.9) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (20.4) <i>Oncaea scottodicarloi</i> (12.0)			<i>Microsetella norvegica</i> (31.6) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (13.5)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (53.3) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (12.7)			<i>Oithona</i> spp. (copepodite) (14.6) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (14.3) カラヌス科の コペポダイト期幼生 (12.4) <i>Acartia</i> spp. (copepodite) (12.2) <i>Microsetella norvegica</i> (10.0)		

注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個体数に対する個体数比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

付表 8.8-1(2) 動物プランクトン出現状況 (平成 27 年度)

調査期日 項目	平成27年4月19日			平成27年5月19日			平成27年6月16日			平成27年7月20日		
出現種類数 〔137〕	62			54			59			59		
出現個体数 (個体/m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	2,303	72,000	21,623	1,868	244,200	54,383	14,587	149,685	51,825	9,292	432,001	81,265
主 な 出現種 (%)	<i>Acartia omorii</i> (30.6) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (19.4)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (19.9) ニマイガイ綱の 殻頂期幼生 (11.3)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (30.5)			<i>Oithona davisae</i> (43.2) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (10.2) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (10.1)		

調査期日 項目	平成27年8月15日			平成27年9月12日			平成27年10月13日			平成27年11月10,11日		
出現種類数 〔137〕	72			82			89			78		
出現個体数 (個体/m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	10,050	403,637	99,408	4,864	103,498	25,964	9,140	116,100	41,877	10,724	108,500	37,956
主 な 出現種 (%)	<i>Oithona davisae</i> (36.1) <i>Penilia avirostris</i> (18.3) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (11.8)			<i>Oithona</i> spp. (copepodite) (20.6) <i>Oithona davisae</i> (16.2) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (13.4)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (21.6)			<i>Oithona</i> spp. (copepodite) (14.7) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (11.3) <i>Oncaea</i> spp. (copepodite) (10.3)		

調査期日 項目	平成27年12月12日			平成28年1月9～11日			平成28年2月9日			平成28年3月8日		
出現種類数 〔137〕	64			61			51			46		
出現個体数 (個体/m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	2,138	52,612	24,100	2,018	84,600	29,319	19,600	108,550	45,811	967	29,088	9,832
主 な 出現種 (%)	橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (21.8) <i>Oncaea</i> spp. (copepodite) (13.0)			<i>Oncaea scottodicarloi</i> (16.9) <i>Microsetella norvegica</i> (13.7) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (12.6)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (29.2) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (13.1) <i>Oikopleura</i> spp. (13.1)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (20.1) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (15.8)		

注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
2. 組成比率は、各調査期間における総個体数に対する個体数比(%)を示す。
3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成28年)より作成〕

付表 8. 8-1 (3) 動物プランクトン出現状況 (平成 28 年度)

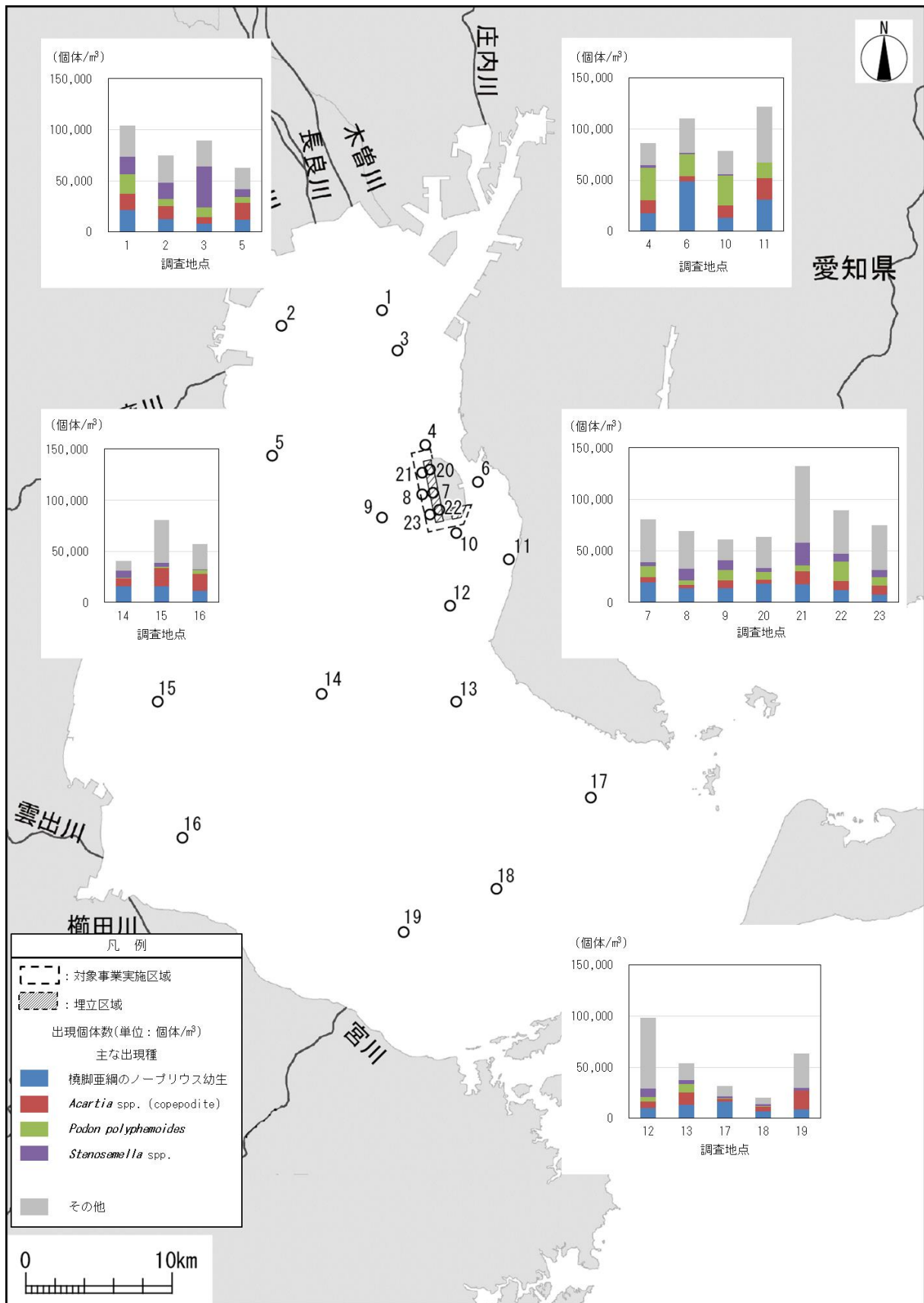
調査期日 項目	平成28年4月19日			平成28年5月7日			平成28年6月18日			平成28年7月19日		
出現種類数 〔130〕	49			53			66			66		
出現個体数 (個体/m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	7,821	57,800	26,590	19,520	88,800	56,458	11,060	121,446	31,937	7,513	969,524	106,594
主 な 出現種 (%)	橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (26.2) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (20.9)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (45.8)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (14.9) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (14.2) <i>Oithona davisae</i> (13.0) <i>Acartia</i> spp. (copepodite) (11.4)			<i>Oithona davisae</i> (45.6) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (28.0)		

調査期日 項目	平成28年8月16日			平成28年9月17日			平成28年10月15日			平成28年11月15日		
出現種類数 〔130〕	68			60			70			73		
出現個体数 (個体/m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	25,067	307,620	126,102	11,133	327,945	74,763	16,920	237,956	76,650	20,853	142,958	45,858
主 な 出現種 (%)	<i>Oithona davisae</i> (28.7) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (21.0) <i>Penilia avirostris</i> (12.8)			<i>Oithona davisae</i> (24.2) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (18.3) <i>Paracalanus</i> spp. (copepodite) (13.5) <i>Paracalanus crassirostris</i> (10.1)			<i>Oithona</i> spp. (copepodite) (20.7) <i>Oithona davisae</i> (17.7) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (11.7)			<i>Paracalanus</i> spp. (copepodite) (18.3) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (14.0)		

調査期日 項目	平成28年12月13日			平成29年1月28日			平成29年2月 15,16日			平成29年3月 11,12日		
出現種類数 〔130〕	56			52			55			52		
出現個体数 (個体/m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	5,122	88,737	31,231	9,191	182,881	43,989	4,799	34,948	15,864	2,269	18,779	8,250
主 な 出現種 (%)	<i>Oncaea scottodicarloi</i> (17.7) 橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (14.6)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (22.5) <i>Oncaea scottodicarloi</i> (10.7) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (10.4)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (31.0)			橈脚亜綱の ノープリウス幼生 (24.8) <i>Oithona similis</i> (19.1) <i>Oithona</i> spp. (copepodite) (19.1)		

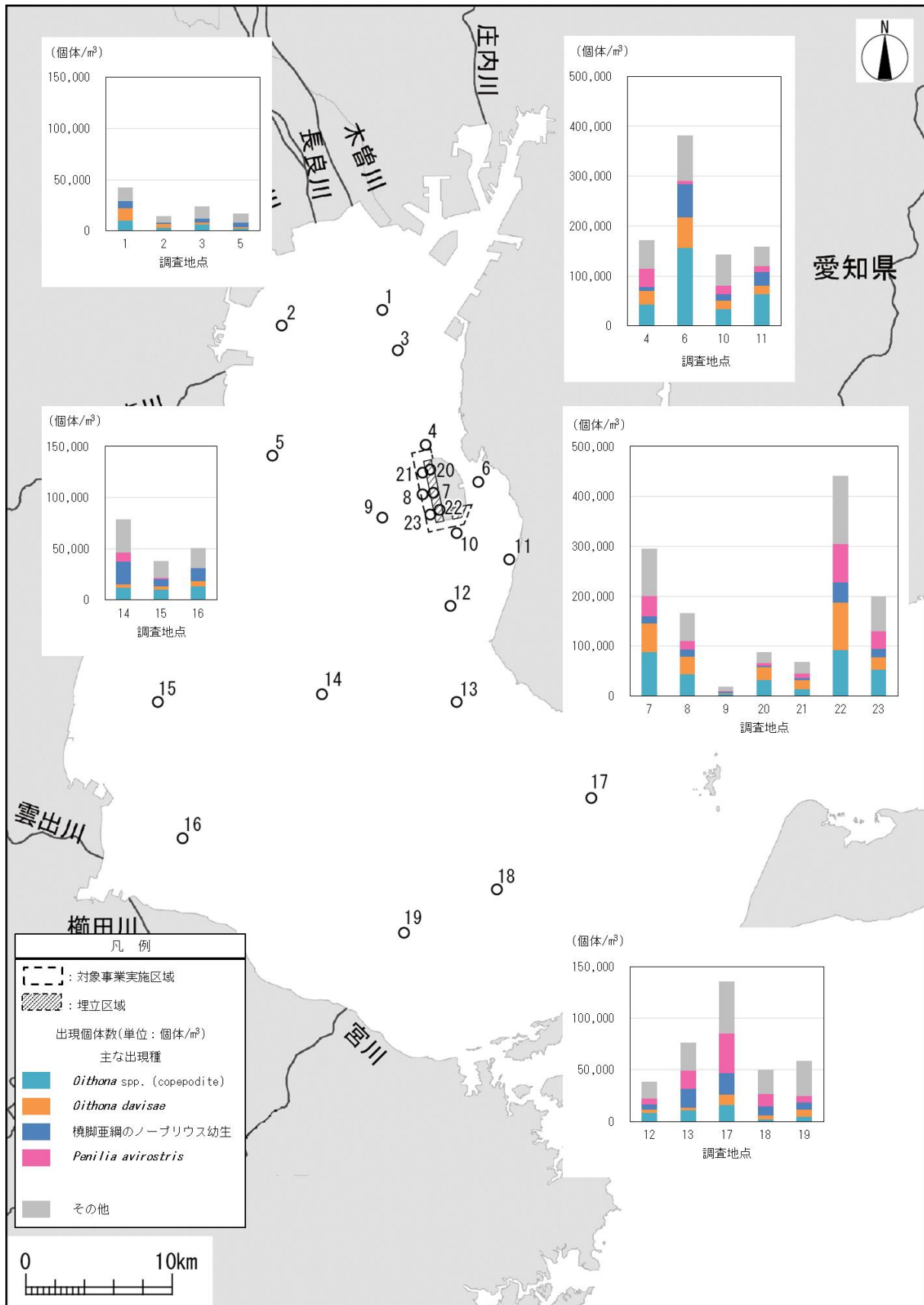
- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個体数に対する個体数比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成〕



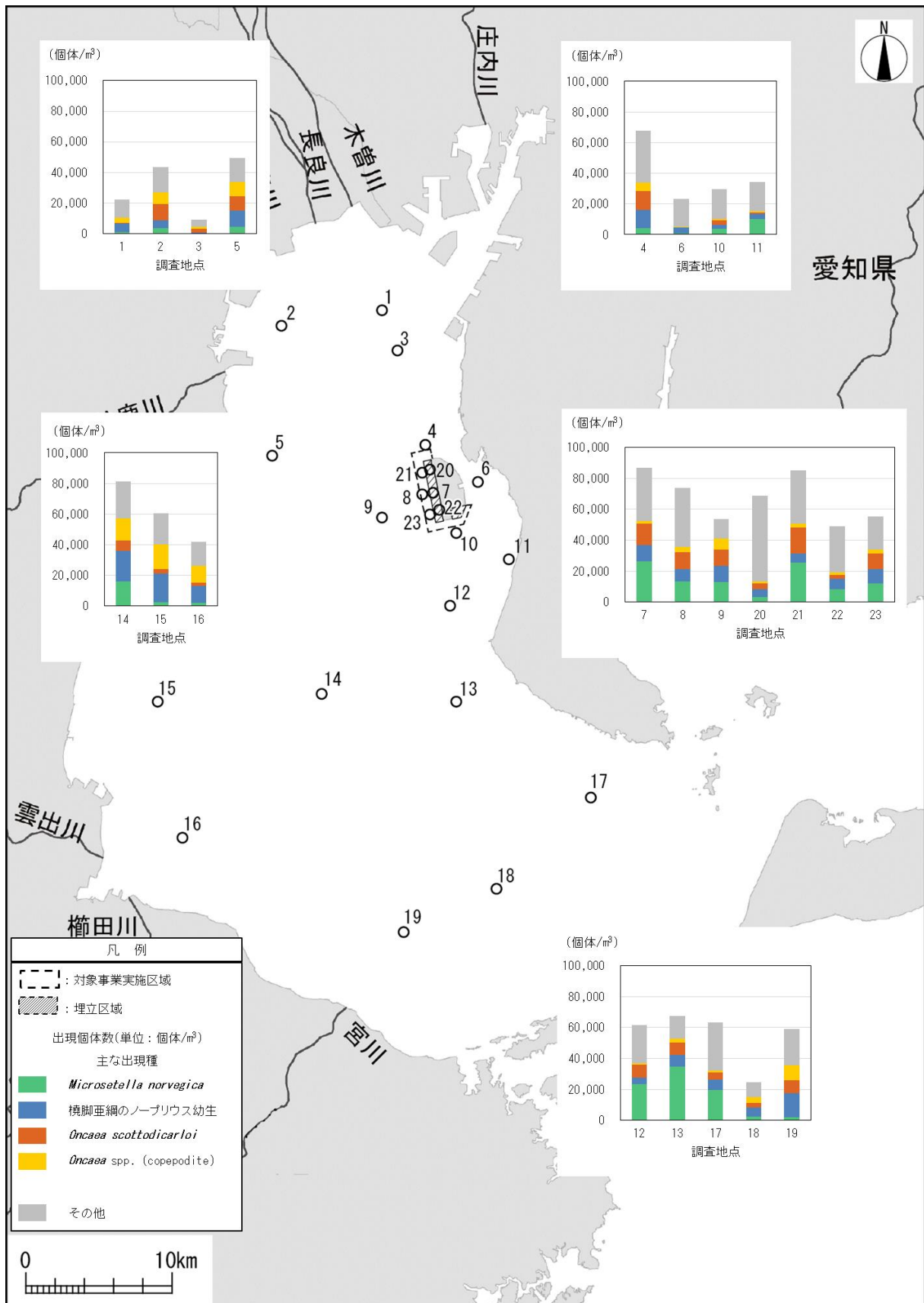
付図 8.8-2(1) 動物プランクトン出現状況 (平成 26 年 5 月)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



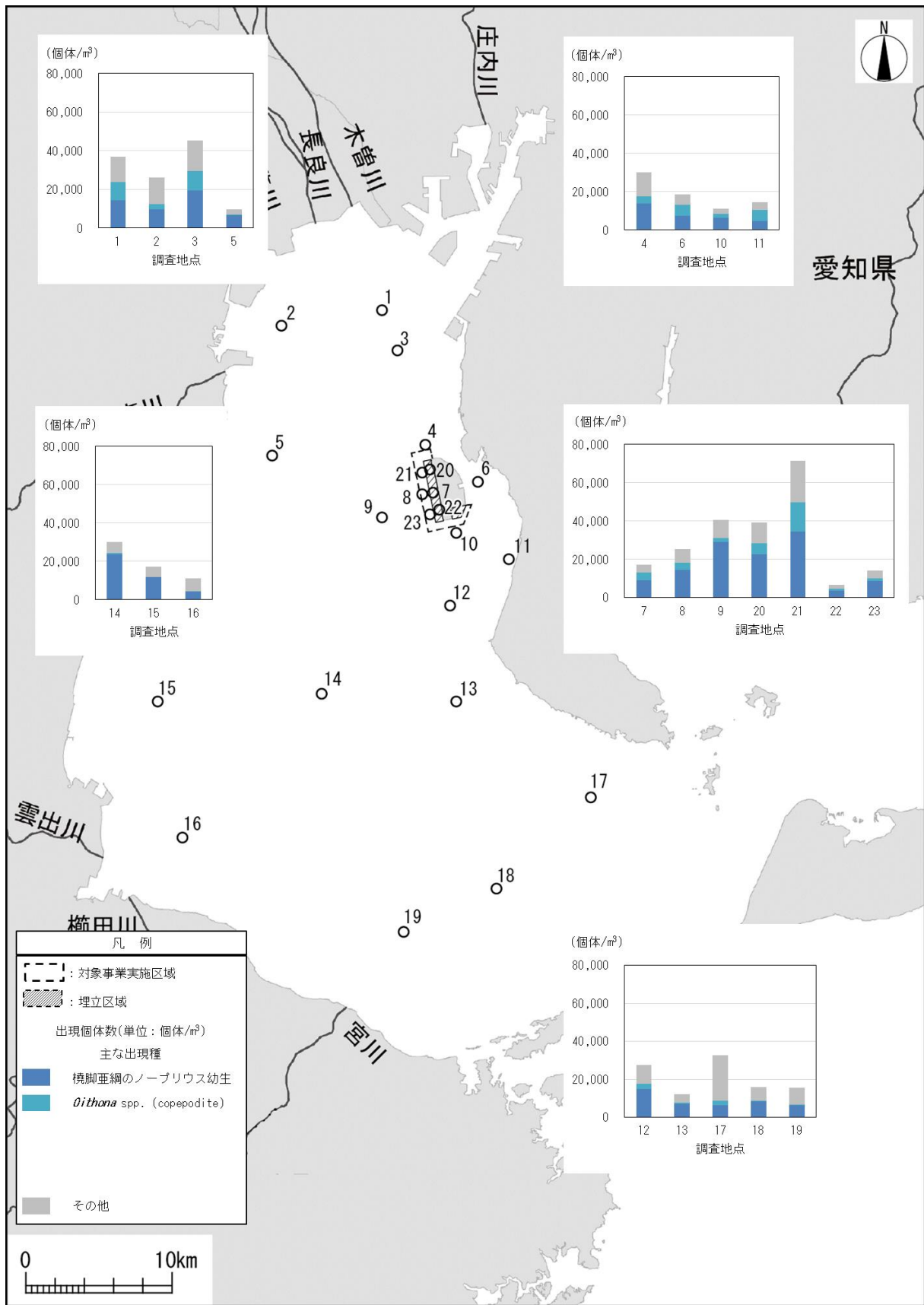
付図 8.8-2(2) 動物プランクトン出現状況 (平成 26 年 8 月)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



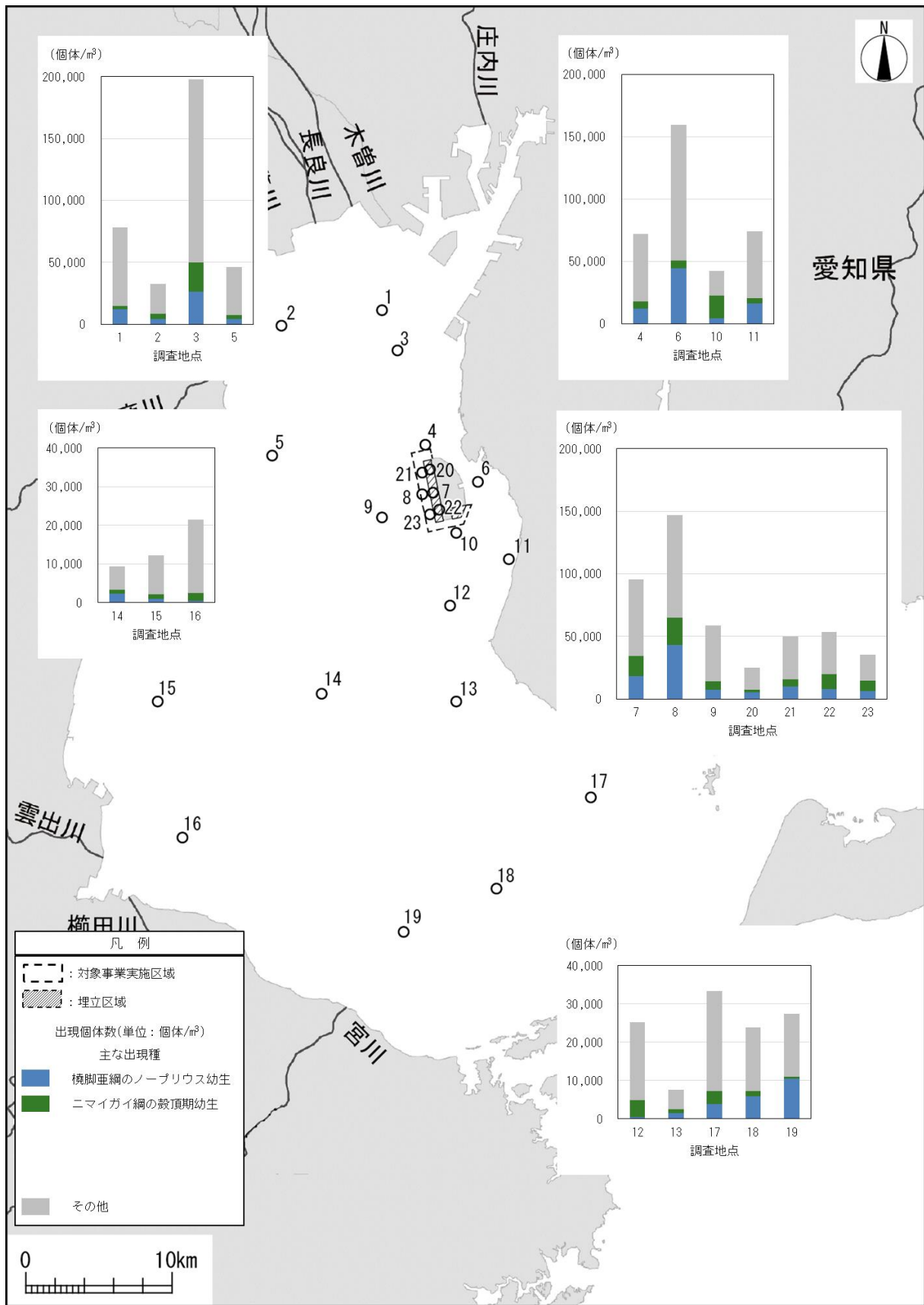
付図 8.8-2(3) 動物プランクトン出現状況 (平成 26 年 11 月)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



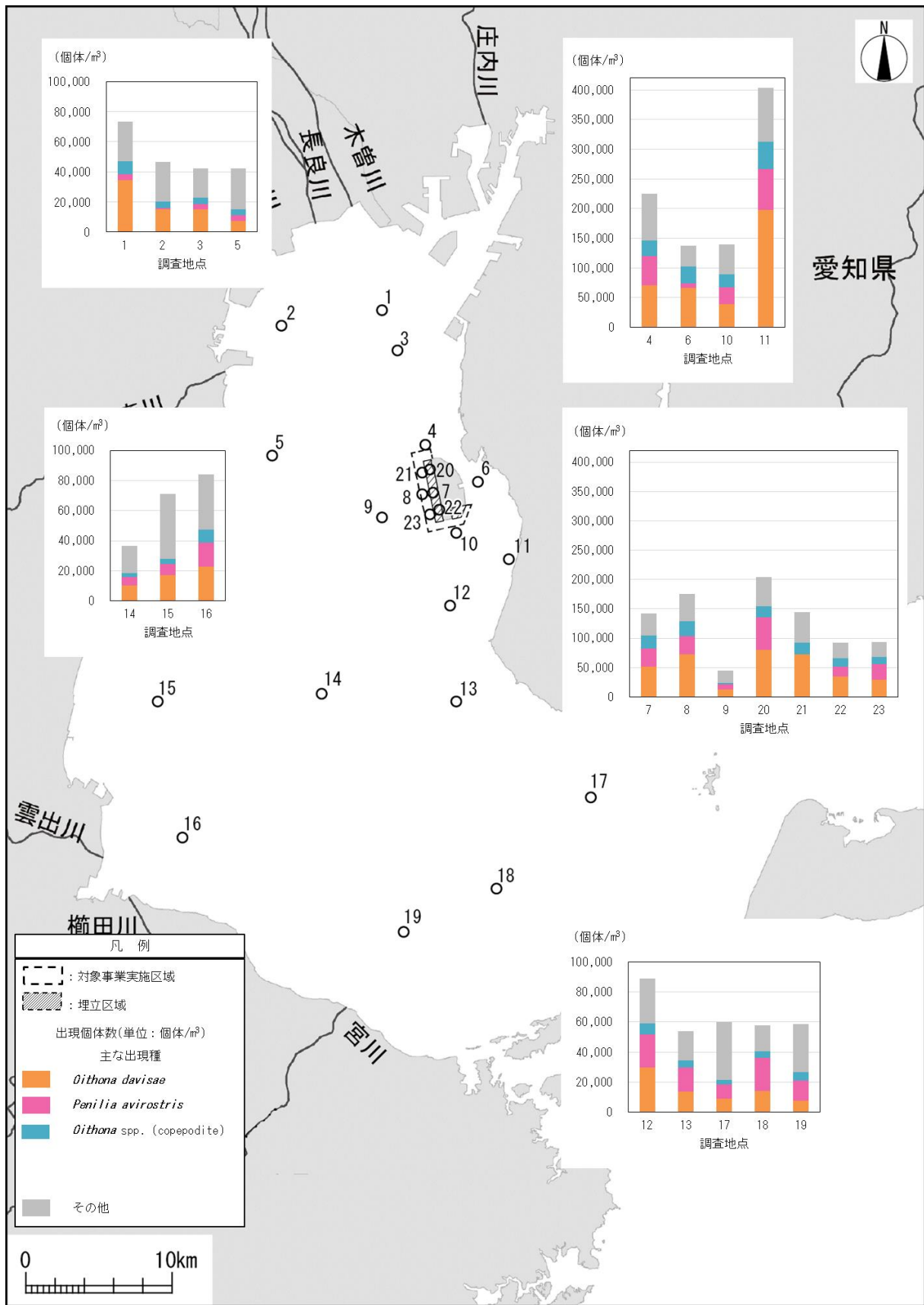
付図 8.8-2(4) 動物プランクトン出現状況 (平成 27 年 2 月)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



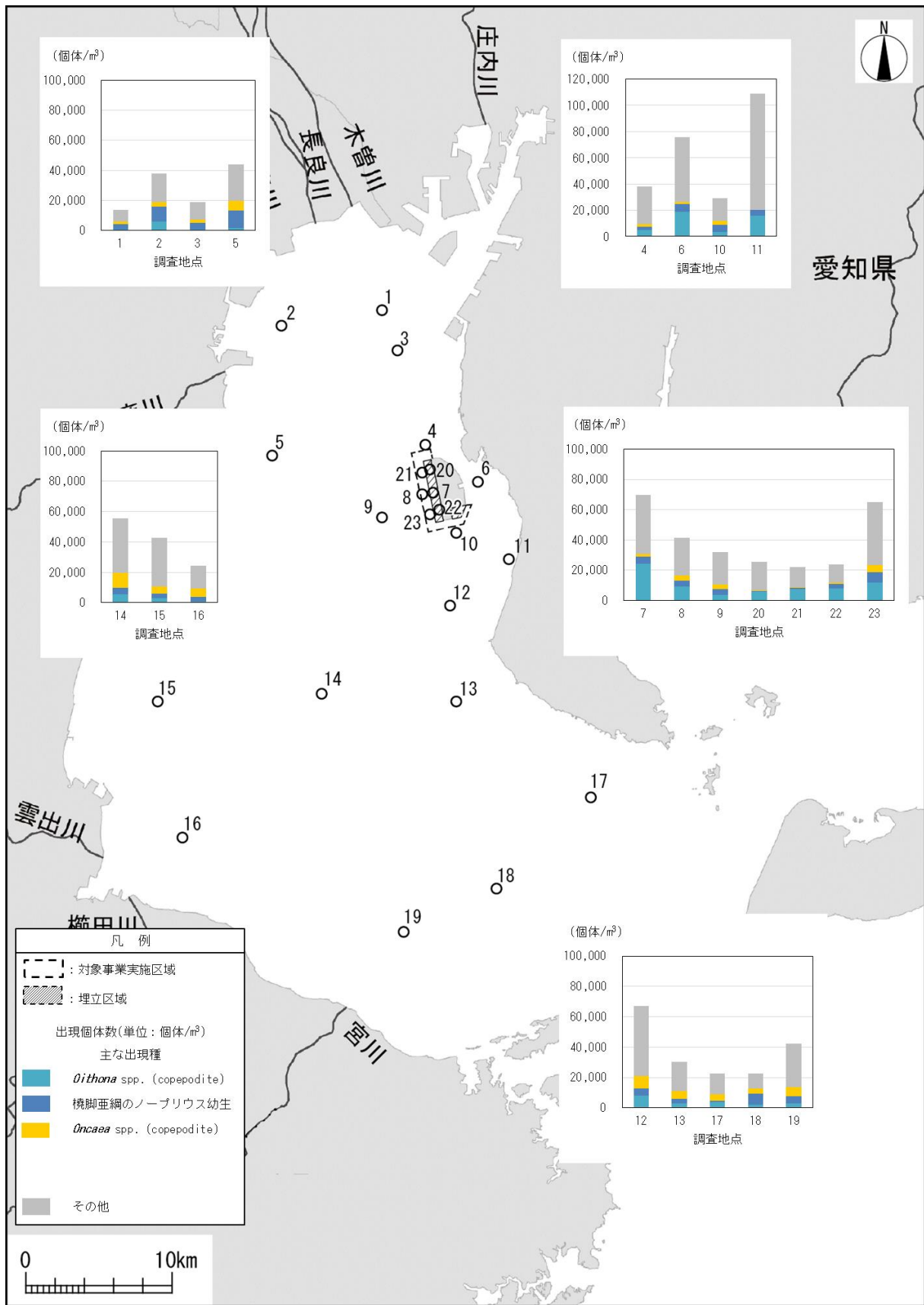
付図 8.8-2(5) 動物プランクトン出現状況 (平成 27 年 5 月)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



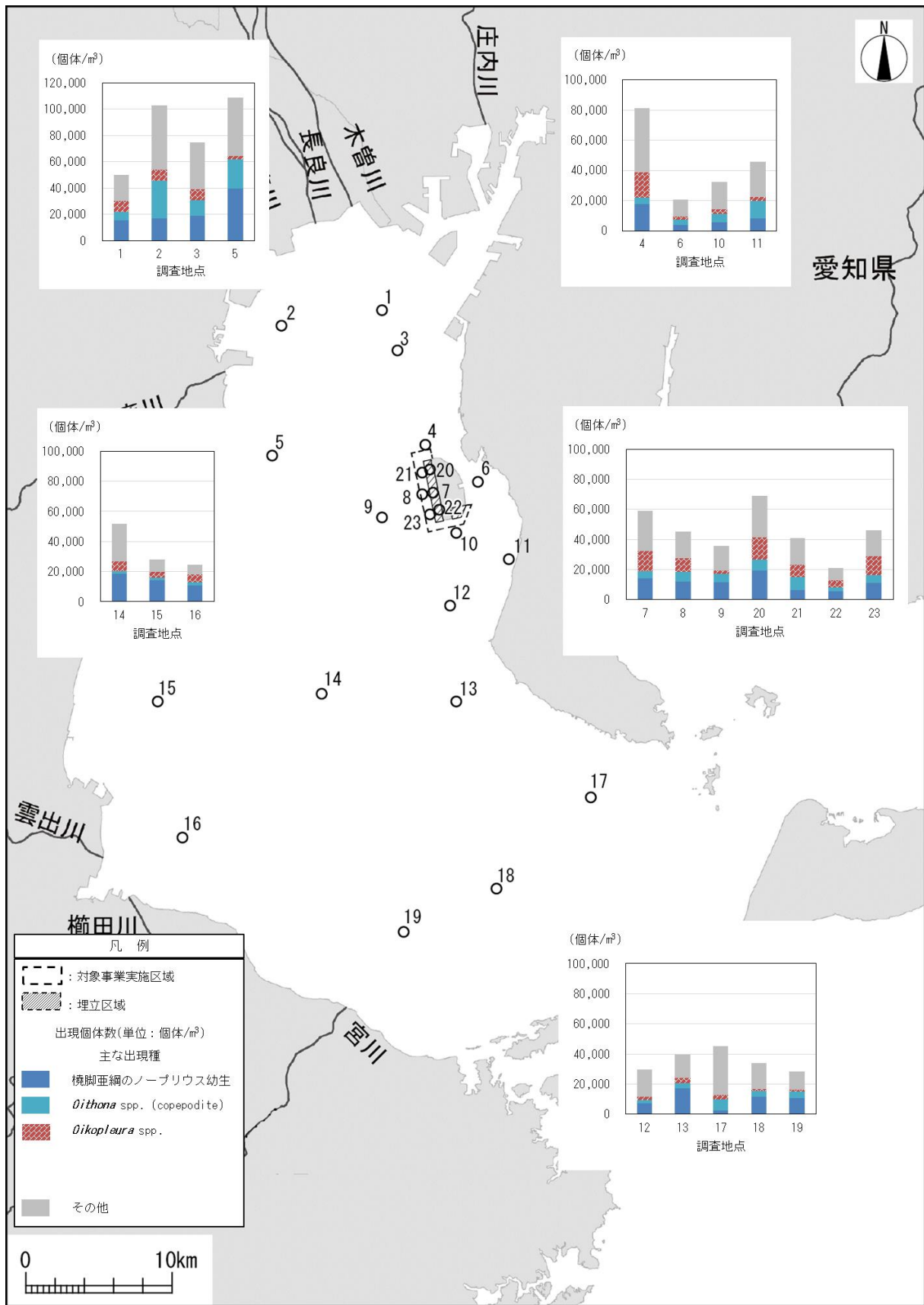
付図 8.8-2(6) 動物プランクトン出現状況 (平成 27 年 8 月)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



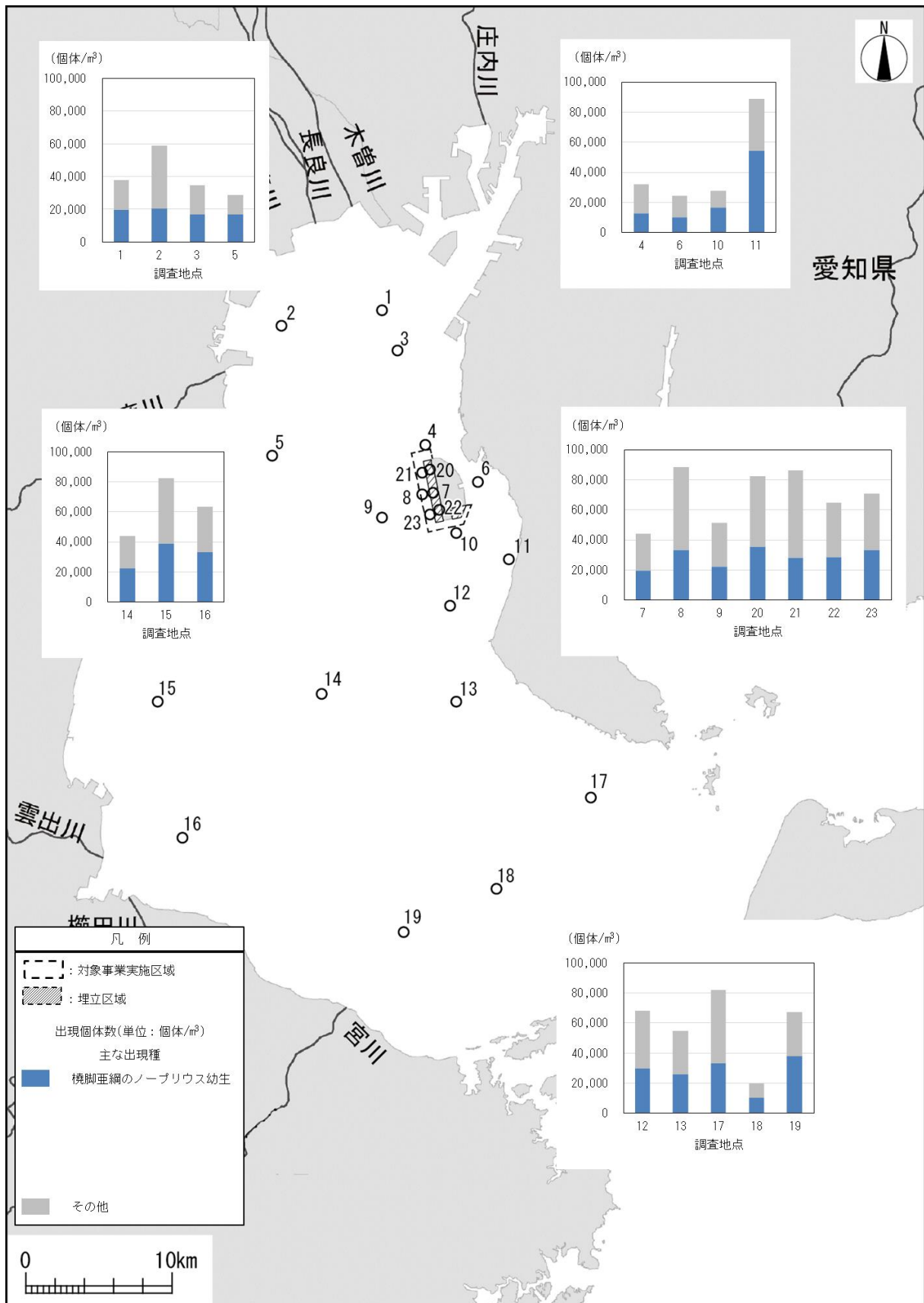
付図 8.8-2(7) 動物プランクトン出現状況 (平成 27 年 11 月)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



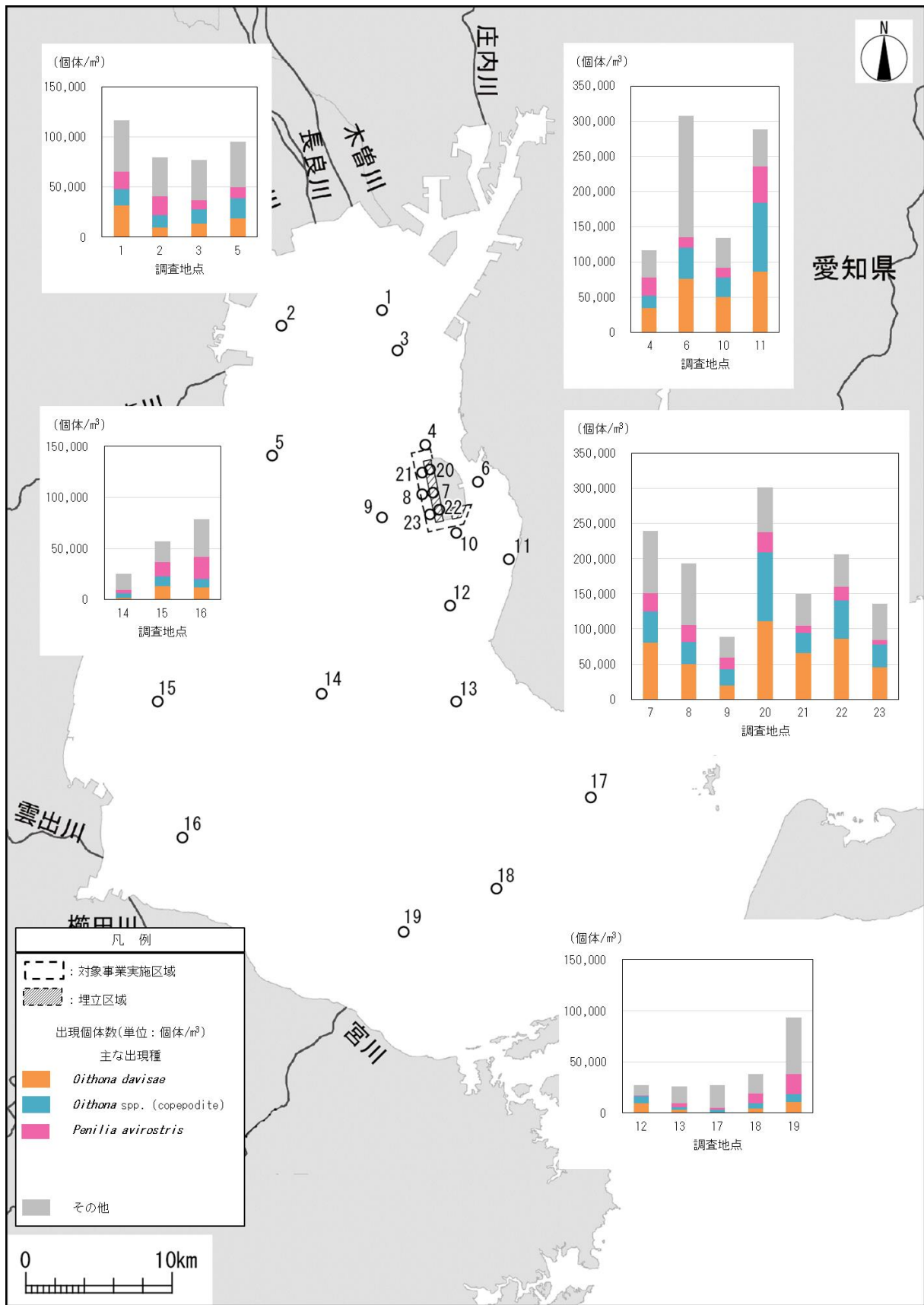
付図 8.8-2(8) 動物プランクトン出現状況 (平成 28 年 2 月)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



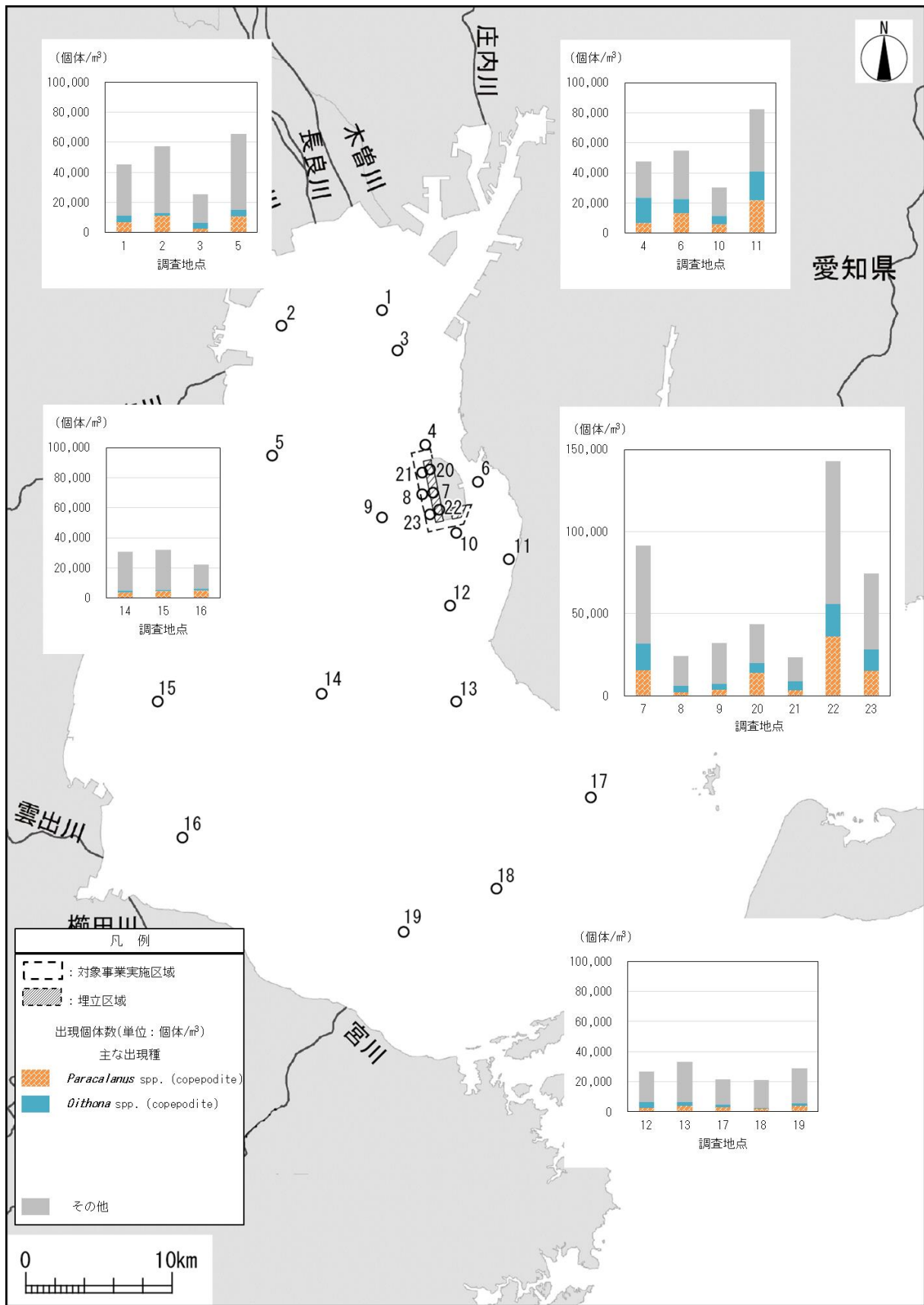
付図 8.8-2(9) 動物プランクトン出現状況 (平成 28 年 5 月)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



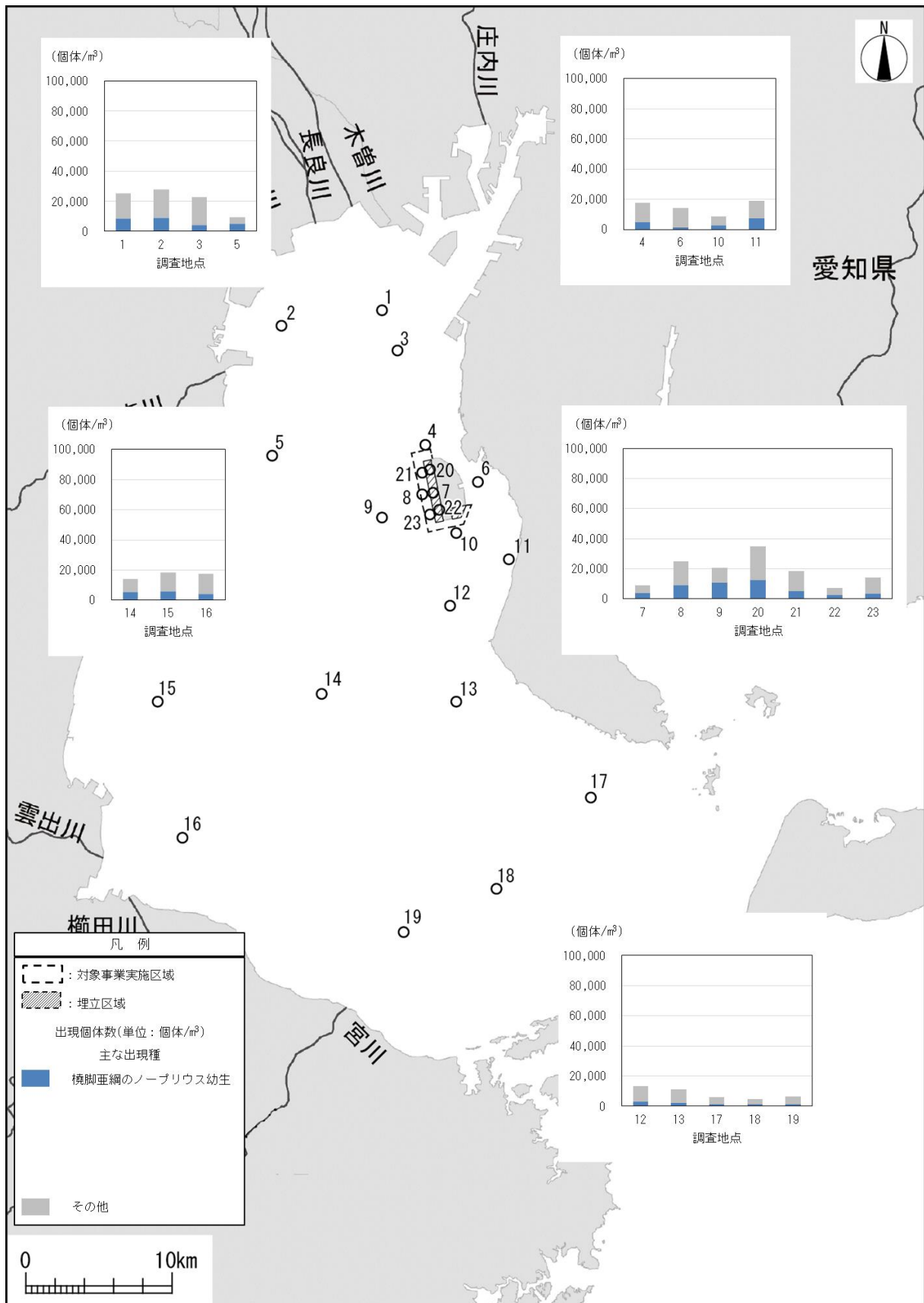
付図 8.8-2(10) 動物プランクトン出現状況 (平成 28 年 8 月)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-2(11) 動物プランクトン出現状況 (平成 28 年 11 月)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-2(12) 動物プランクトン出現状況 (平成 29 年 2 月)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-2(1) 底生生物の出現状況（平成 26 年度）

調査期日		平成26年5月12、15日	平成26年8月13日	平成26年11月5日	平成27年2月3日
項目	出現種類数 〔267〕	145	164	135	158
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	308 (30.2)	66 (8.9)	85 (9.1)	86 (7.9)
	環形動物	555 (54.4)	549 (73.6)	745 (79.6)	663 (60.9)
	節足動物	83 (8.1)	63 (8.5)	41 (4.4)	222 (20.4)
	棘皮動物	28 (2.7)	40 (5.4)	33 (3.6)	84 (7.7)
	その他	46 (4.5)	27 (3.6)	31 (3.3)	34 (3.1)
	合 計	1,020	745	935	1,089
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	24.37 (13.9)	15.85 (19.3)	12.91 (5.8)	13.09 (3.6)
	環形動物	15.83 (9.1)	8.99 (11.0)	9.72 (4.3)	8.79 (2.4)
	節足動物	7.84 (4.5)	3.81 (4.6)	7.51 (3.4)	5.97 (1.7)
	棘皮動物	125.66 (71.9)	50.98 (62.2)	193.17 (86.2)	326.86 (90.4)
	その他	1.07 (0.6)	2.38 (2.9)	0.88 (0.4)	6.89 (1.9)
	合 計	174.77	82.01	224.19	361.60
主な 出現種 (%)	個体数	シズクガイ (25.9)	シノブハネエラスピオ (13.4) カタマガリギボシイソメ (13.0)	シノブハネエラスピオ (51.7) カタマガリギボシイソメ (10.6)	カタマガリギボシイソメ (14.8) シノブハネエラスピオ (10.9)
	湿重量	ハスノハカシパン (68.8)	ハスノハカシパン (55.4)	ハスノハカシパン (84.8)	ハスノハカシパン (87.2)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比(%)を示す。四捨五入の関係で合計が100にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

付表 8.8-2(2) 底生生物の出現状況 (平成 27 年度)

調査期日		平成27年5月20、23日	平成27年8月12、13日	平成27年11月6、9日	平成28年2月6、8日
項目	出現種類数 [238]	149	133	158	166
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	113 (13.3)	78 (8.6)	74 (8.6)	101 (9.7)
	環形動物	588 (68.9)	604 (66.6)	556 (65.0)	657 (63.6)
	節足動物	97 (11.3)	171 (18.9)	151 (17.7)	186 (18.0)
	棘皮動物	29 (3.4)	17 (1.9)	26 (3.1)	32 (3.1)
	その他	26 (3.0)	36 (4.0)	48 (5.6)	58 (5.6)
	合 計	853	906	855	1,034
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	12.94 (12.5)	10.92 (6.6)	8.33 (6.5)	19.26 (7.7)
	環形動物	11.69 (11.3)	5.93 (3.6)	9.87 (7.7)	10.01 (4.0)
	節足動物	5.40 (5.2)	2.68 (1.6)	1.89 (1.5)	2.77 (1.1)
	棘皮動物	61.19 (59.3)	145.23 (87.3)	99.56 (77.7)	216.26 (86.4)
	その他	11.96 (11.6)	1.60 (1.0)	8.52 (6.6)	2.03 (0.8)
	合 計	103.18	166.36	128.17	250.33
主な 出現種 (%)	個体数	カタマガリギボシイソメ (15.6)	カタマガリギボシイソメ (13.6) <i>Dipolydora</i> sp. (11.9) クダオソコエビ属 (11.1)	シノブハネエラスピオ (12.0) <i>Dipolydora</i> sp. (10.6)	カタマガリギボシイソメ (11.8)
	湿重量	ハスノハカシパン (50.0) ムラサキハナギンチャク (10.7)	ハスノハカシパン (83.5)	ハスノハカシパン (67.1)	ハスノハカシパン (82.8)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8.8-2(3) 底生生物の出現状況 (平成 28 年度 : 4~7 月)

調査期日		平成28年4月18日	平成28年5月7、13日	平成28年6月15、18日	平成28年7月15、19日
項目	出現種類数 [336]	153	173	147	141
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	118 (9.6)	115 (8.5)	101 (8.7)	137 (9.8)
	環形動物	738 (60.0)	831 (61.6)	781 (67.7)	1,009 (71.8)
	節足動物	177 (14.4)	177 (13.1)	116 (10.1)	100 (7.1)
	棘皮動物	108 (8.8)	85 (6.3)	86 (7.4)	78 (5.5)
	その他	89 (7.3)	141 (10.4)	71 (6.1)	81 (5.8)
	合 計	1,230	1,349	1,155	1,405
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	29.07 (38.6)	16.59 (24.1)	29.66 (46.8)	33.38 (42.0)
	環形動物	22.48 (29.9)	16.40 (23.8)	17.75 (28.0)	20.75 (26.1)
	節足動物	5.52 (7.3)	5.22 (7.6)	2.24 (3.5)	1.87 (2.4)
	棘皮動物	13.01 (17.3)	18.19 (26.4)	11.04 (17.4)	21.43 (27.0)
	その他	5.25 (7.0)	12.52 (18.2)	2.67 (4.2)	2.07 (2.6)
	合 計	75.33	68.92	63.36	79.50
主な 出現種 (%)	個体数	該当種なし	カタマガリギボシイソメ (11.8)	カタマガリギボシイソメ (12.3)	該当種なし
	湿重量	クチベニガイ (17.2) ミズヒキゴカイ (15.2)	オカメブンブク (15.2)	ハナムシロ (17.5) ミズヒキゴカイ (15.9) クチベニガイ (11.1)	クチベニガイ (11.9) ミズヒキゴカイ (11.1)

- 注 : 1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

付表 8.8-2(4) 底生生物の出現状況 (平成 28 年度 : 8~11 月)

調査期日		平成28年8月8、16日	平成28年9月12、17日	平成28年10月11、15日	平成28年11月7、15日
項目	出現種類数 [336]	124	136	133	121
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	97 (9.1)	316 (23.5)	177 (15.2)	123 (15.8)
	環形動物	671 (63.3)	704 (52.3)	691 (59.4)	532 (64.6)
	節足動物	168 (15.8)	195 (14.5)	138 (11.9)	87 (10.6)
	棘皮動物	81 (7.6)	75 (5.6)	96 (8.2)	47 (5.8)
	その他	44 (4.2)	55 (4.1)	61 (5.2)	34 (4.1)
	合 計	1,061	1,345	1,163	823
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	56.31 (56.9)	30.24 (47.3)	30.12 (53.2)	23.48 (36.6)
	環形動物	16.44 (16.6)	10.17 (15.9)	10.47 (18.5)	12.60 (19.7)
	節足動物	9.68 (9.8)	3.72 (5.8)	1.01 (1.8)	1.32 (2.1)
	棘皮動物	14.64 (14.8)	17.92 (28.0)	13.37 (23.6)	26.17 (40.8)
	その他	1.89 (1.9)	1.91 (3.0)	1.64 (2.9)	2.51 (0.8)
	合 計	98.96	63.96	56.61	66.08
主な 出現種 (%)	個体数	カタマガリギボシイソメ (20.6) ラスバンマメガニ (10.1)	シズクガイ (12.7)	該当種なし	<i>Eunice</i> sp. (11.4)
	湿重量	ツメタガイ (40.3)	クチベニガイ (16.2) モミジガイ (12.1) オカメブンブク (10.8)	クチベニガイ (24.9) モミジガイ (14.9)	オカメブンブク (23.8) クチベニガイ (14.0) モミジガイ (12.4) ミズヒキゴカイ (10.9)

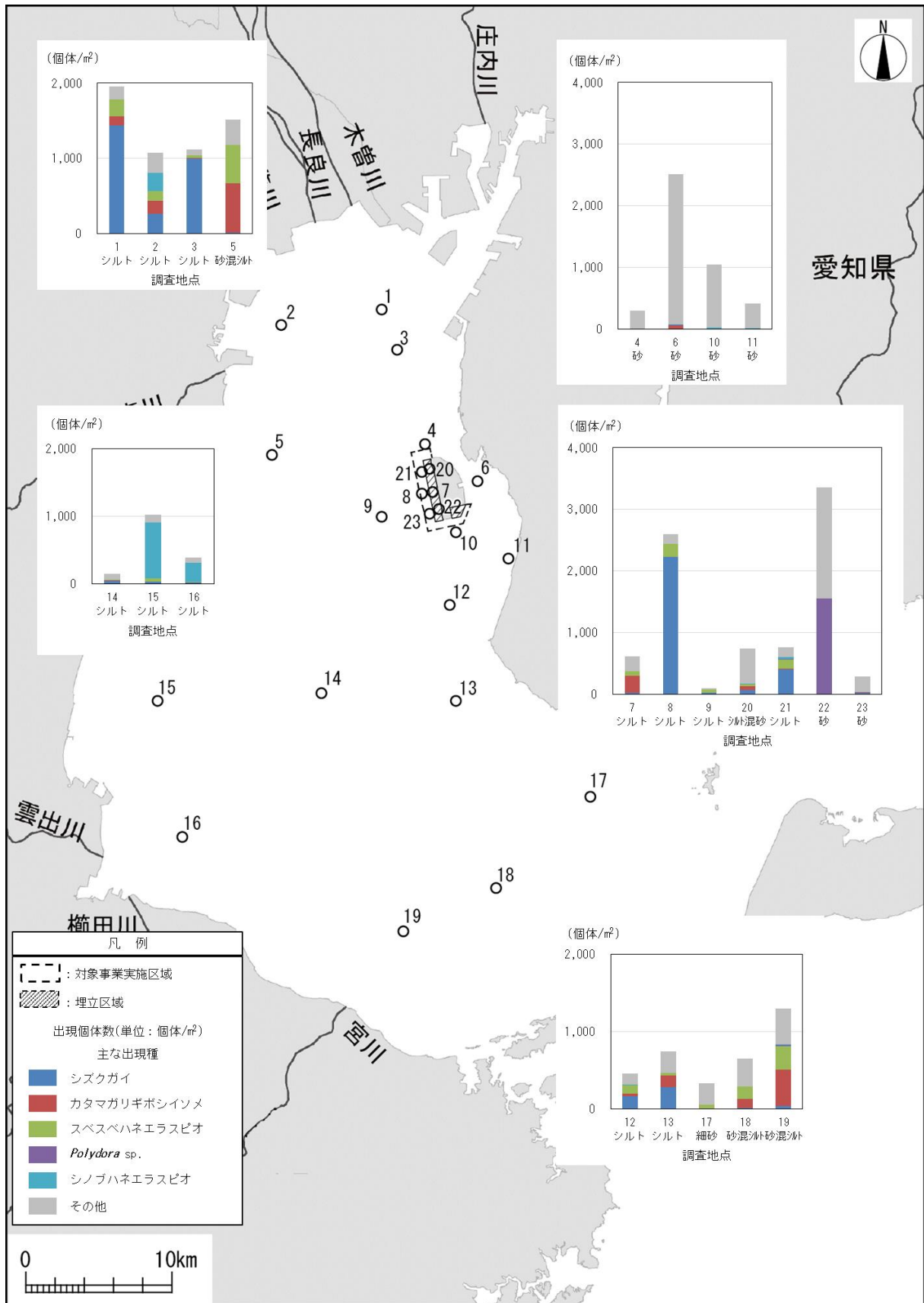
- 注 : 1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

付表 8.8-2(5) 底生生物の出現状況（平成 28 年度：12～3 月）

調査期日		平成28年12月8、13日	平成29年1月10、28日	平成29年2月8、15日	平成29年3月11、12日
項目	出現種類数 [336]	149	140	137	163
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	173 (13.9)	150 (12.3)	92 (5.1)	238 (9.2)
	環形動物	757 (61.0)	613 (50.4)	788 (44.1)	731 (28.4)
	節足動物	145 (11.7)	300 (24.7)	772 (43.2)	1443 (56.0)
	棘皮動物	84 (6.8)	70 (5.7)	62 (3.4)	86 (3.3)
	その他	81 (6.5)	83 (6.8)	75 (4.2)	80 (3.1)
	合 計	1,240	1,216	1,789	2,578
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	10.58 (22.1)	12.65 (13.4)	13.75 (17.2)	10.57 (8.1)
	環形動物	11.63 (24.3)	20.45 (21.7)	22.41 (28.1)	25.14 (19.2)
	節足動物	3.22 (6.7)	1.79 (1.9)	18.76 (23.5)	26.08 (19.9)
	棘皮動物	21.09 (44.1)	51.58 (54.7)	14.35 (18.0)	64.15 (49.0)
	その他	1.26 (2.6)	7.87 (8.3)	10.60 (13.3)	4.99 (3.8)
	合 計	47.78	94.34	79.87	130.93
主な 出現種 (%)	個体数	<i>Eunice</i> sp. (30.0)	<i>Eunice</i> sp. (12.6)	ラスバンマメガニ (18.2) マメガニ属 (12.7)	マメガニ属 (34.8)
	湿重量	モミジガイ (22.3) オカメブンプク (14.8)	オカメブンプク (26.0) スナヒトデ (16.5) ミズヒキゴカイ (13.5)	ミズヒキゴカイ (14.7) オカメブンプク (11.3)	スナヒトデ (18.8) オカメブンプク (15.6) ミズヒキゴカイ (13.4) マメガニ属 (12.8) モミジガイ (12.1)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

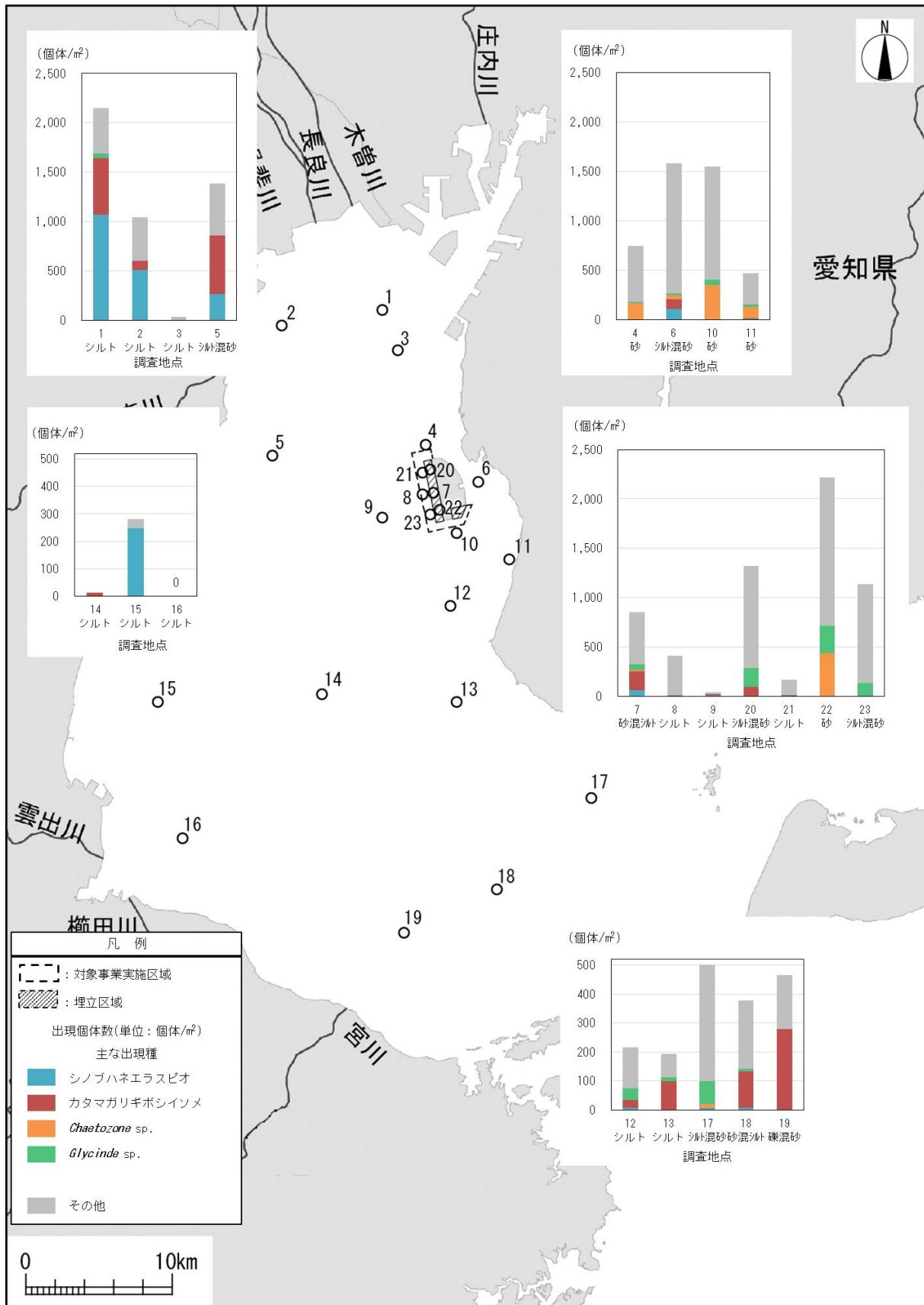
「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-3(1) 底生生物の出現状況 (平成 26 年 5 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

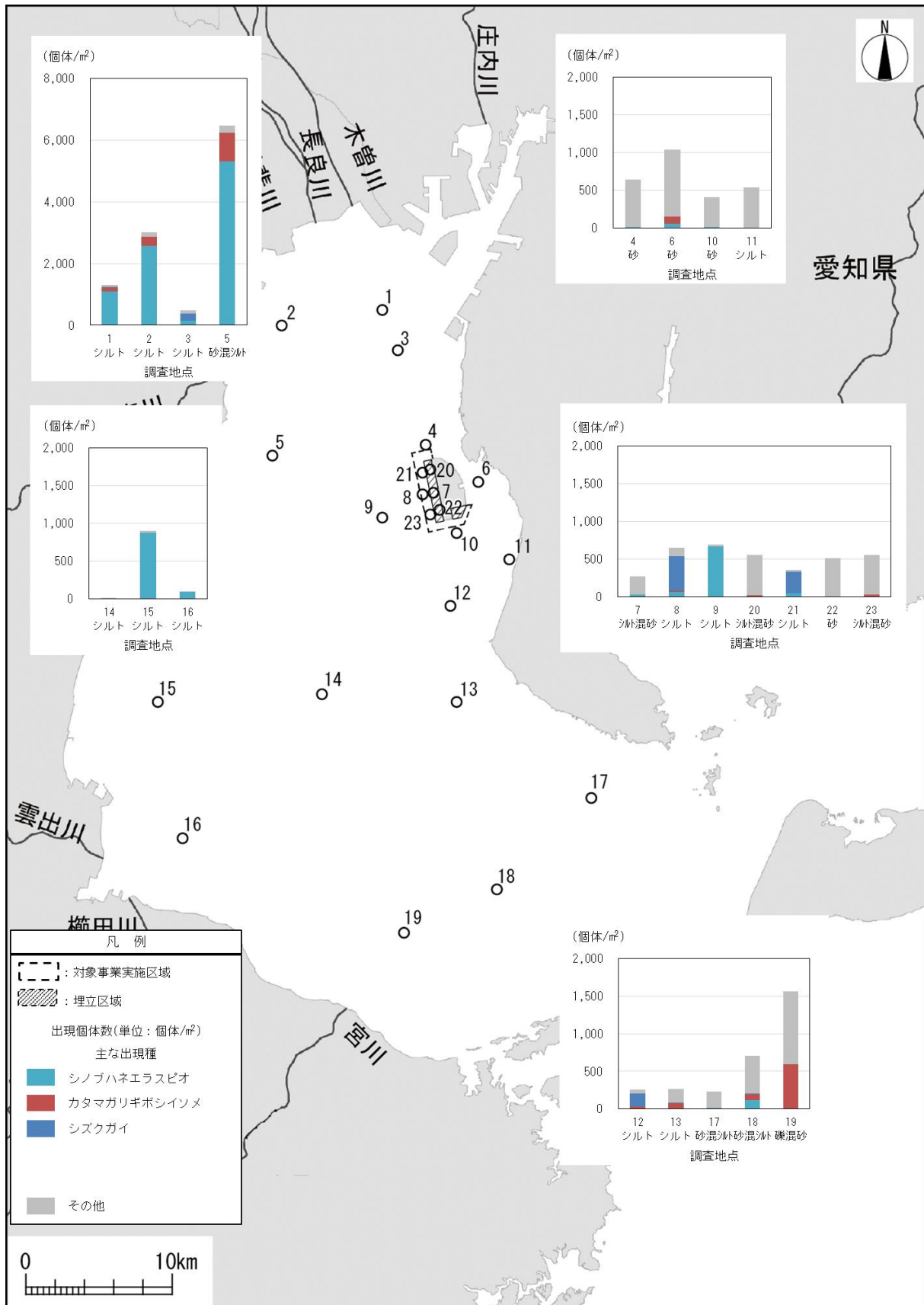
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-3(2) 底生生物の出現状況 (平成 26 年 8 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

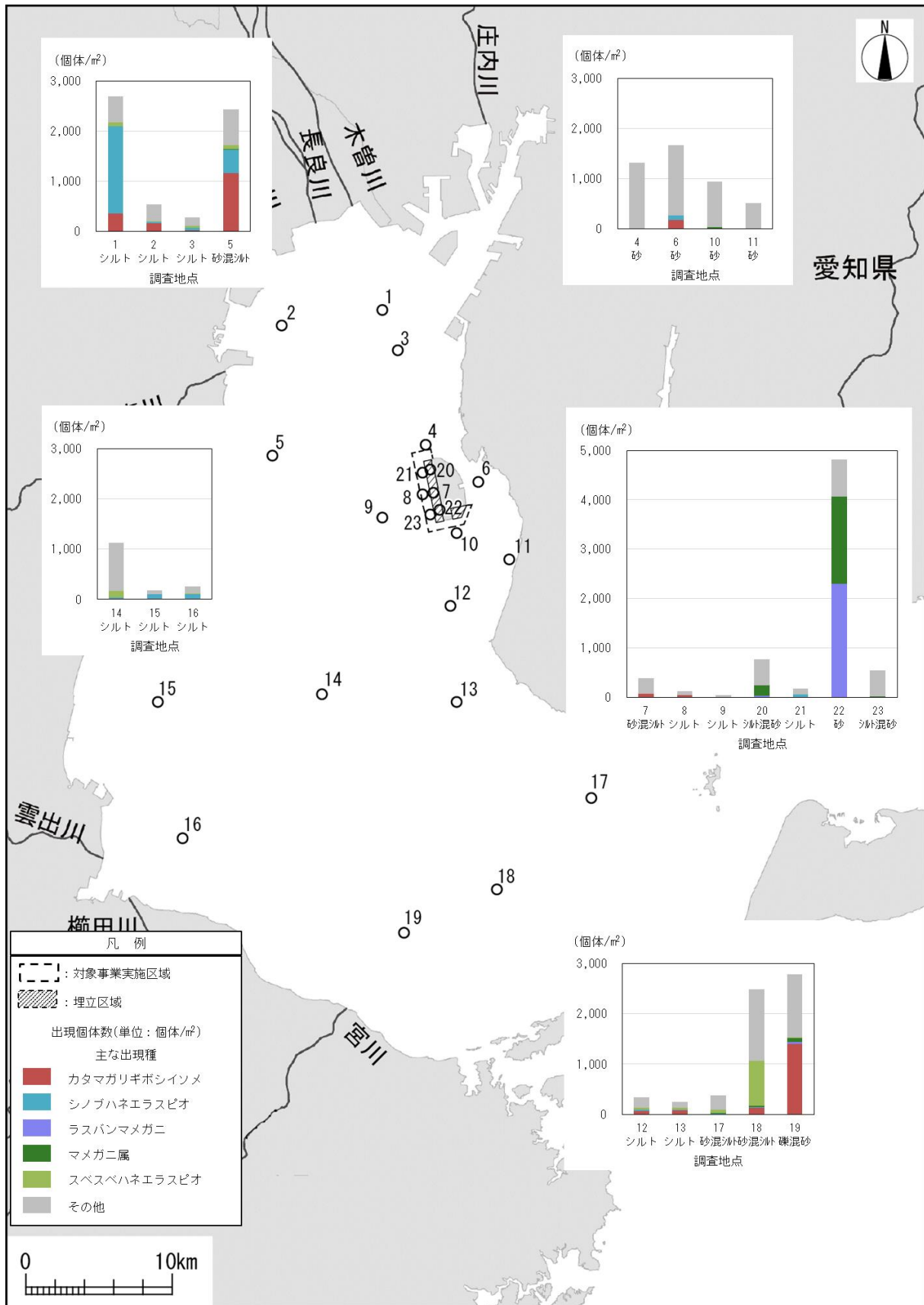
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-3(3) 底生生物の出現状況 (平成 26 年 11 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

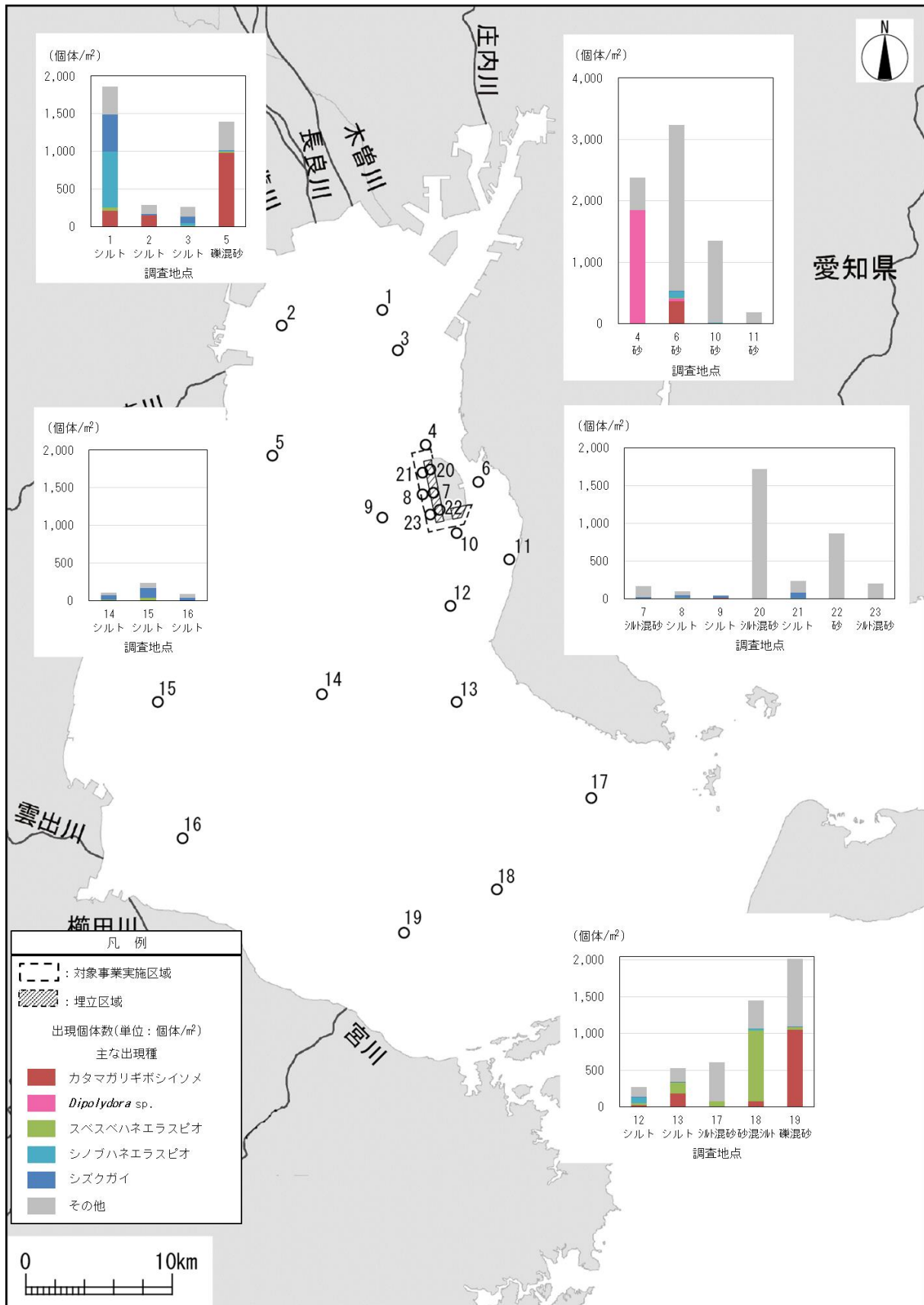
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-3(4) 底生生物の出現状況 (平成 27 年 2 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

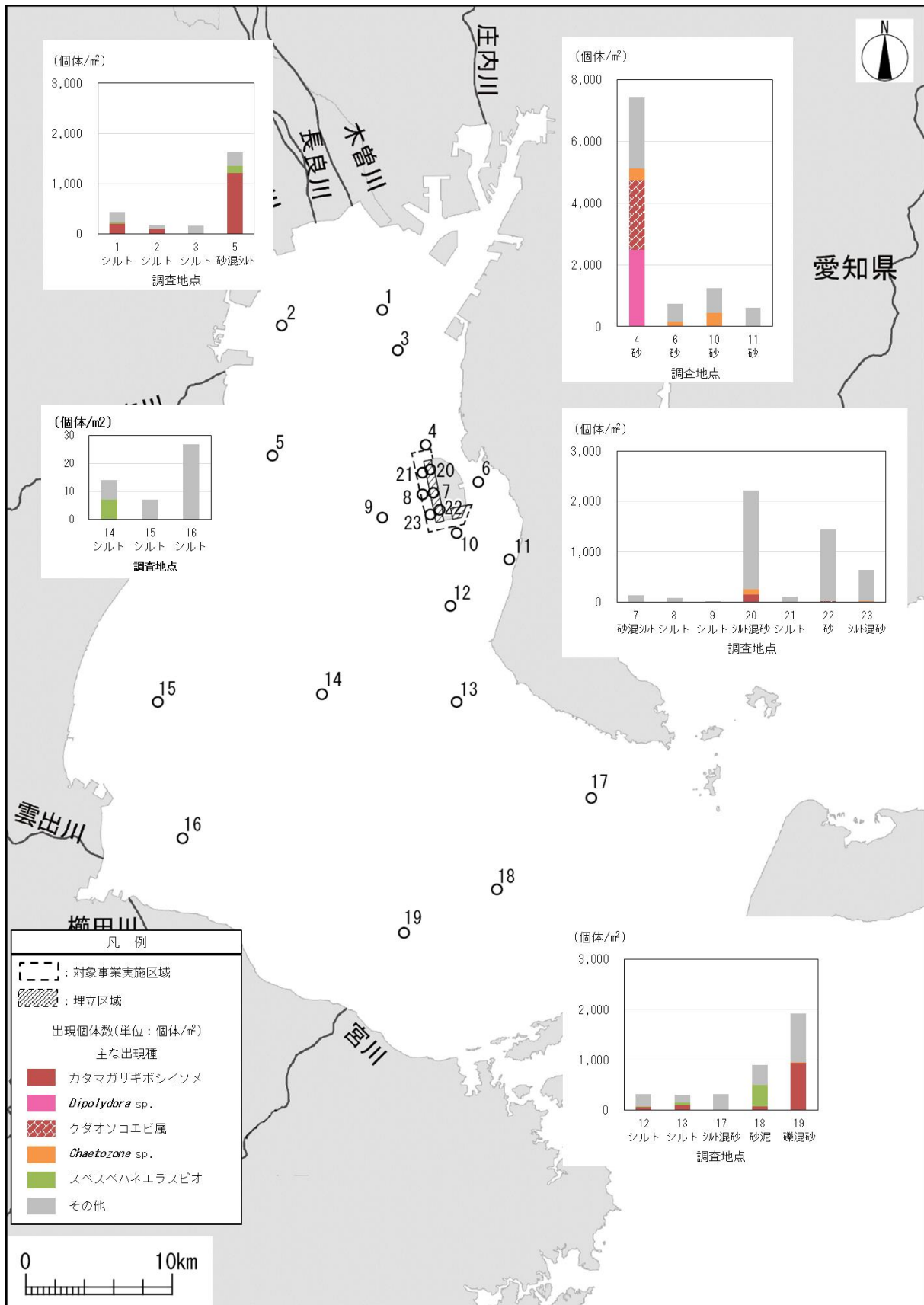
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-3(5) 底生生物の出現状況 (平成 27 年 5 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

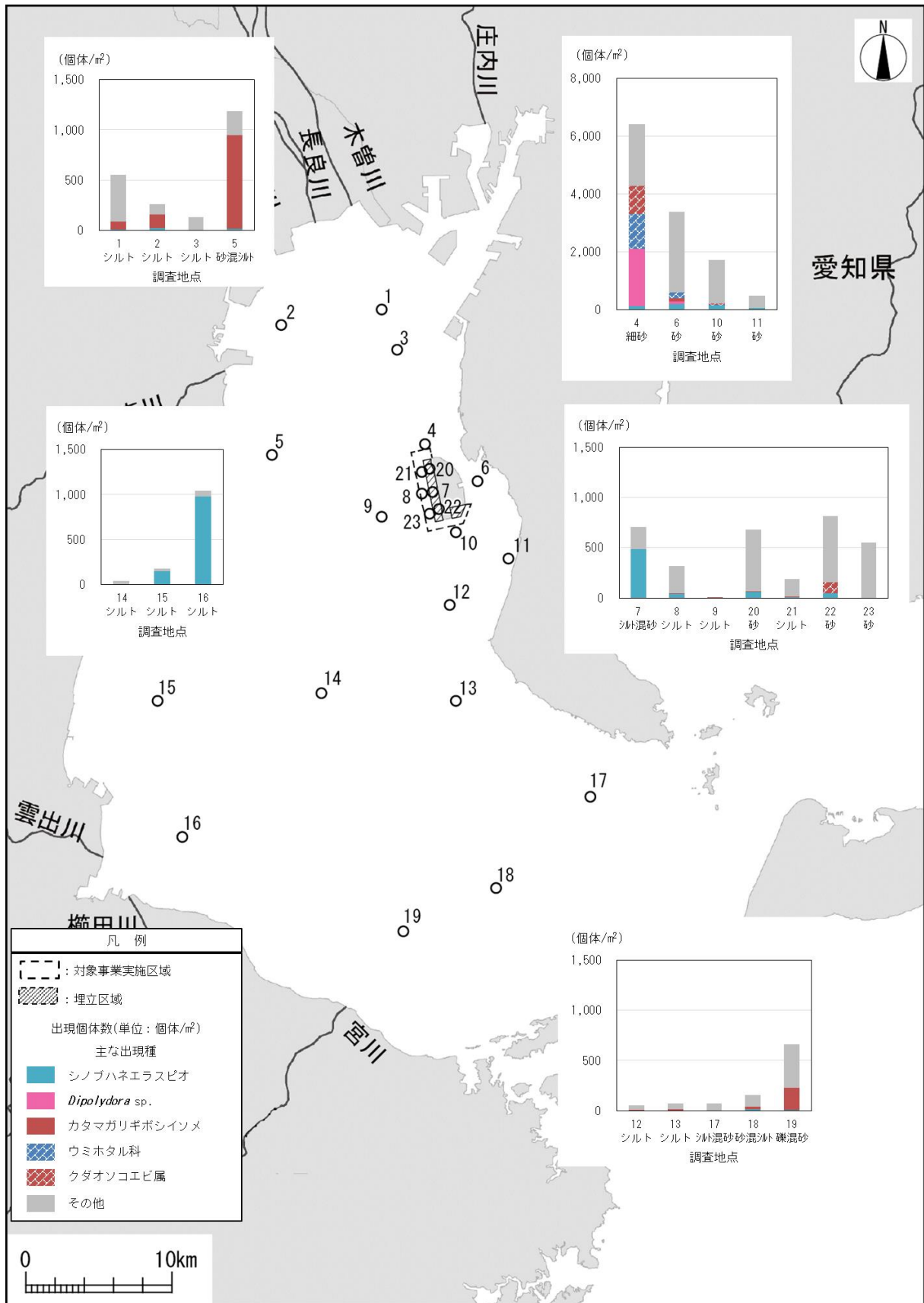
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



付図 8.8-3(6) 底生生物の出現状況 (平成 27 年 8 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

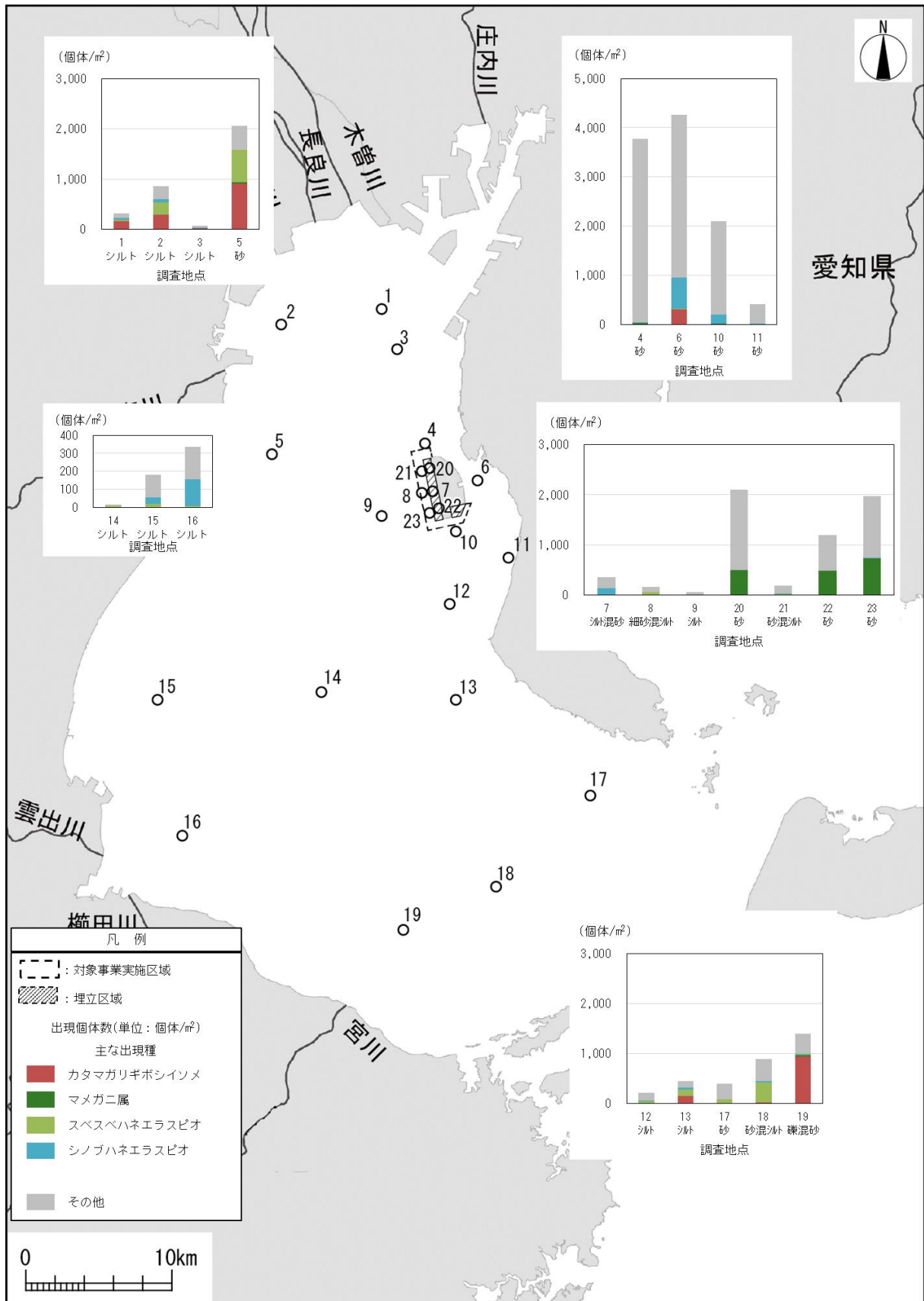
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



付図 8.8-3(7) 底生生物の出現状況 (平成 27 年 11 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

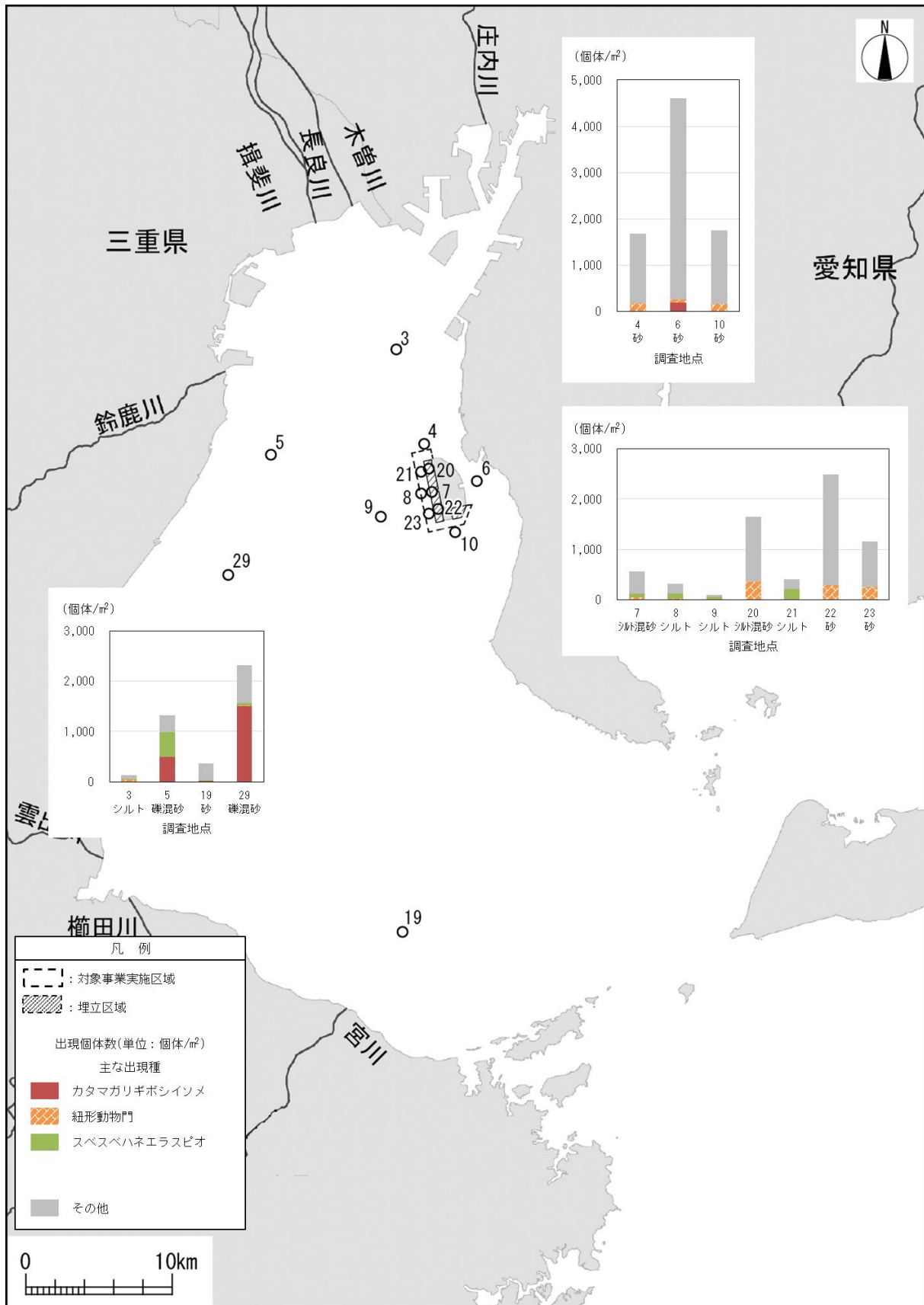
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



付図 8.8-3(8) 底生生物の出現状況 (平成 28 年 2 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

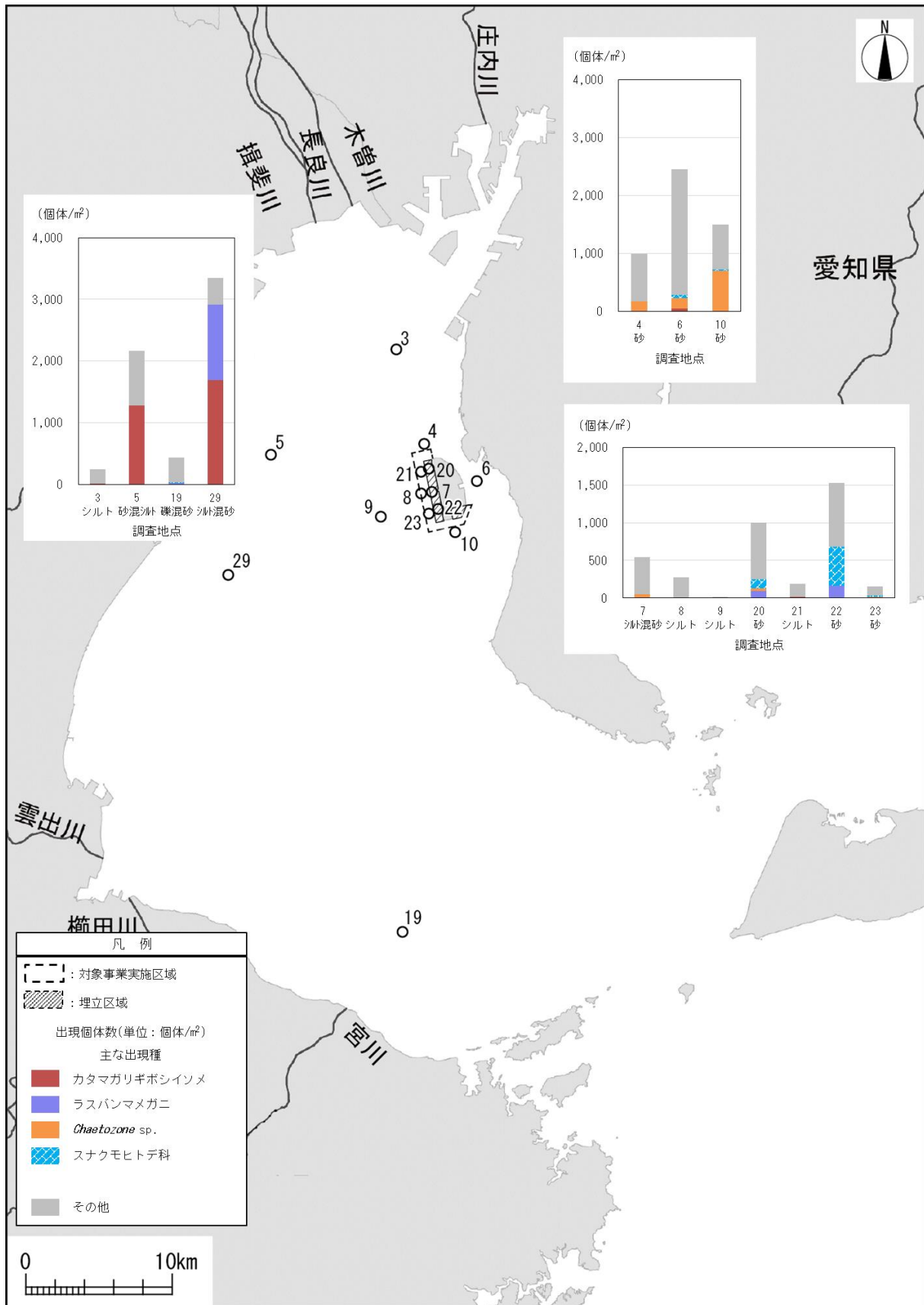
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



付図 8.8-3(9) 底生生物の出現状況 (平成 28 年 5 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

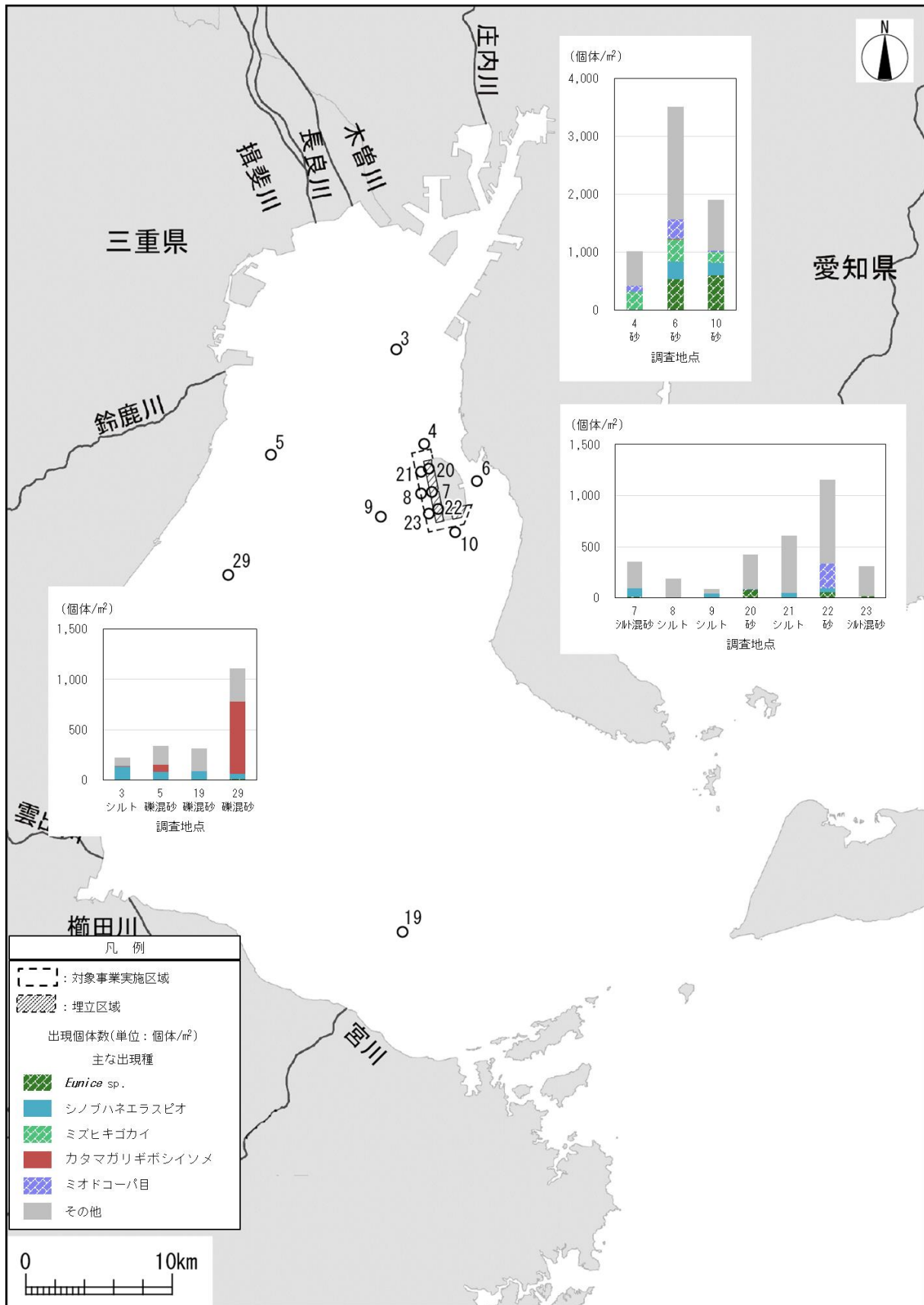
「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検予測業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-3(10) 底生生物の出現状況 (平成 28 年 8 月)

注：グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

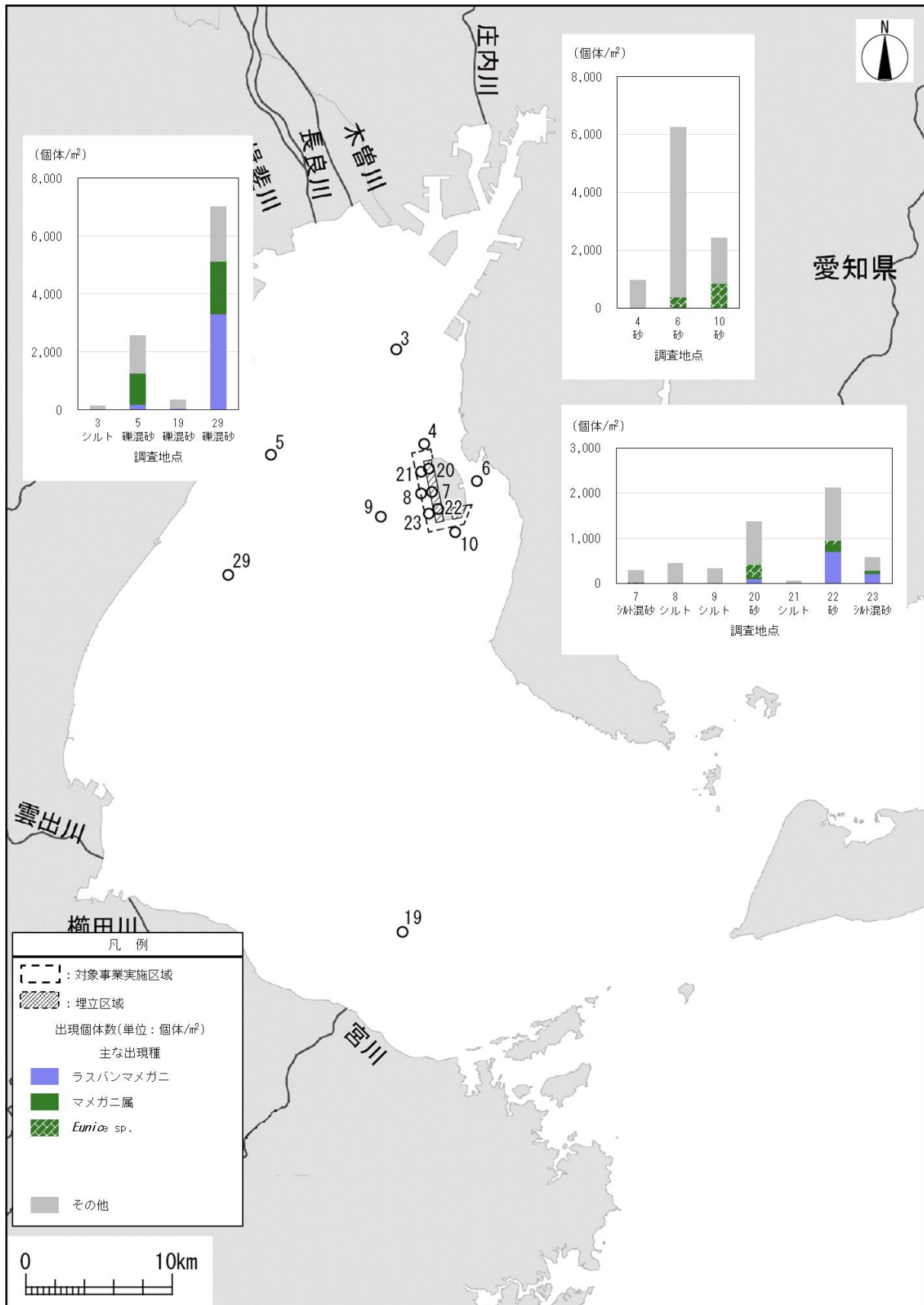
「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検予測業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-3(11) 底生生物の出現状況 (平成 28 年 11 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検予測業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-3(12) 底生生物の出現状況 (平成 29 年 2 月)

注: グラフの横軸は調査地点番号と底質の外観性状を示す。

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検予測業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-3(1) 付着生物（動物）の出現状況（目視観察調査：平成 26 年度）

調査期日		平成26年5月19～21、 23、26日	平成26年8月18～22日	平成26年11月17～20、25 日	平成27年2月7、8、 10～12日
出現種類数 〔109〕	軟体動物	29	33	36	30
	環形動物	2	4	5	5
	節足動物	11	6	7	6
	その他	28	29	32	22
	合計	70	72	80	63
主な 出現種	軟体動物	ウノアシ コシダカガンガラ アラレタマキビ タマキビ イボニシ カラマツガイ	コシダカガンガラ アラレタマキビ タマキビ オオヘビガイ レイシガイ イボニシ アクキガイ科 クロシタナシウミウシ ナミマガシワガイ科	コシダカガンガラ アラレタマキビ タマキビ オオヘビガイ レイシガイ イボニシ アクキガイ科 カラマツガイ キクノハナガイ ナミマガシワガイ科	コシダカガンガラ アラレタマキビ タマキビ レイシガイ ムギガイ キクノハナガイ
	環形動物	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	
	節足動物	イワフジツボ クロフジツボ	イワフジツボ クロフジツボ フジツボ属	イワフジツボ クロフジツボ ヤドカリ科	イワフジツボ ヤドカリ科
	その他	イソギンチャク目 アミメコケムシ科 唇口目 イトマキヒトデ キンコ科 ホヤ亜綱（群体性）	海綿動物 タテジマイソギンチャク イソギンチャク目 アミメコケムシ科 イタボヤ科 ホヤ亜綱（単体性）	海綿動物 イソギンチャク目 <i>Phoronis</i> sp. アミメコケムシ科 フサコケムシ科 イトマキヒトデ サンショウウニ マメボヤ科 ホヤ亜綱（単体性） ホヤ亜綱（群体性）	イトマキヒトデ マナマコ

注：1. 主な出現種は各季節で7測線以上に出現した種を示す。
2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成〕

付表 8.8-3(2) 付着生物（動物）の出現状況（目視観察調査：平成27年度）

調査期日		平成27年5月11、14～17、19日	平成27年8月3～7、14日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～5日
項目					
出現種類数 〔97〕	軟体動物	28	30	25	25
	環形動物	5	6	6	4
	節足動物	7	12	7	6
	その他	28	20	26	30
	合計	68	68	64	65
主な 出現種	軟体動物	ウノアシ コシダカガンガラ アラレタマキビ タマキビ シマメノウフネガイ オオヘビガイ レイシガイ イボニシ アクキガイ科 カラマツガイ キクノハナガイ	ウノアシ コシダカガンガラ アラレタマキビ タマキビ シマメノウフネガイ オオヘビガイ レイシガイ イボニシ アクキガイ科 カラマツガイ キクノハナガイ	コシダカガンガラ アラレタマキビ タマキビ オオヘビガイ レイシガイ イボニシ アクキガイ科 カラマツガイ キクノハナガイ クロシタナシウミウシ	ウノアシ コシダカガンガラ アラレタマキビ タマキビ シマメノウフネガイ オオヘビガイ レイシガイ アクキガイ科 カラマツガイ キクノハナガイ
	環形動物	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科
	節足動物	イワフジツボ クロフジツボ	イワフジツボ クロフジツボ	イワフジツボ クロフジツボ ヤドカリ科	イワフジツボ クロフジツボ
	その他	海綿動物 イソギンチャク目 唇口目 アミメコケムシ フサコケムシ科 クモヒトデ綱 キンコ科 ホヤ亜綱（単体性） ホヤ亜綱（群体性）	海綿動物 ヒドロ虫綱 イソギンチャク目 唇口目 アミメコケムシ フサコケムシ科 ホヤ亜綱（単体性） ホヤ亜綱（群体性）	海綿動物 イソギンチャク目 <i>Phoronis</i> sp. アミメコケムシ サンショウウニ クロマメイタボヤ ホヤ亜綱（単体性） ホヤ亜綱（群体性）	イシサンゴ目 海綿動物 タテジマイソギンチャク イソギンチャク目 <i>Phoronis</i> sp. アミメコケムシ イトマキヒトデ ムラサキウニ サンショウウニ キンコ科 マナマコ ホヤ亜綱（単体性） ホヤ亜綱（群体性）

注：1. 主な出現種は各季節で7測線以上に出現した種を示す。
2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成28年）より作成〕

付表 8.8-3(3) 付着生物（動物）の出現状況（目視観察調査：平成 28 年度）

項目	調査期日	平成28年5月2、5～9日	平成28年8月1～3、5、7日	平成28年11月1～2、4～5、8日	平成29年2月1～2、4～5、9、25日
	出現種類数 〔94〕		25	29	27
	軟体動物	3	5	3	4
	環形動物	4	6	3	5
	その他	28	27	26	28
	合計	60	67	59	59
主な 出現種	軟体動物	ウノアシ アラレタマキビ タマキビ オオヘビガイ レイシガイ イボニシ アクキガイ科 カラマツガイ キクノハナガイ	ウノアシ コシダカガンガラ アラレタマキビ タマキビ オオヘビガイ レイシガイ イボニシ アクキガイ科 カラマツガイ キクノハナガイ キクザルガイ科	ウノアシ アラレタマキビ タマキビ オオヘビガイ イボニシ アクキガイ科 カラマツガイ キクノハナガイ	コシダカガンガラ アラレタマキビ タマキビ オオヘビガイ レイシガイ アクキガイ科 ムギガイ カラマツガイ キクノハナガイ
	環形動物	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	ウズマキゴカイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科
	節足動物	イワフジツボ クロフジツボ	イワフジツボ クロフジツボ	イワフジツボ クロフジツボ	イワフジツボ クロフジツボ
	その他	海綿動物 ヒドロ虫綱 タテジマイソギンチャク イソギンチャク目 <i>Phoronis</i> sp. アミメコケムシ フサコケムシ科 唇口目 キンコ科 マナマコ ホヤ亜綱（単体性） ホヤ亜綱（群体性）	海綿動物 タテジマイソギンチャク イソギンチャク目 アミメコケムシ フサコケムシ科 キンコ科 クロマメイタボヤ ホヤ亜綱（単体性） ホヤ亜綱（群体性）	海綿動物 タテジマイソギンチャク イソギンチャク目 イシサンゴ目 <i>Phoronis</i> sp. アミメコケムシ フサコケムシ科 唇口目 キンコ科 クロマメイタボヤ ホヤ亜綱（単体性） ホヤ亜綱（群体性）	海綿動物 ヒドロ虫類 タテジマイソギンチャク イソギンチャク目 <i>Phoronis</i> sp. アミメコケムシ イトマキヒトデ ムラサキウニ キンコ科 マナマコ ホヤ亜綱（単体性） ホヤ亜綱（群体性）

注：1. 主な出現種は各季節で7測線以上に出現した種を示す。

2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 29 年〕より作成

付表 8. 8-4(1) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 26 年度）

項目		調査期日				
		平成26年5月19～26日	平成26年8月18～22日	平成26年11月17～25日	平成27年2月7～12日	
出現種類数 [288]		193	175	201	179	
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	2,326 (11.9)	784 (2.8)	767 (6.8)	370 (4.0)	
	環形動物	10,305 (52.8)	3,745 (73.6)	5,957 (52.7)	4,305 (47.0)	
	節足動物	6,073 (31.1)	22,391 (8.5)	960 (8.5)	2,155 (23.6)	
	棘皮動物	95 (0.5)	32 (5.4)	39 (0.3)	30 (0.3)	
	その他	735 (3.8)	974 (3.6)	3,583 (31.7)	2,290 (25.0)	
	合計	19,534	27,926	11,306	9,150	
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	85.57 (19.3)	184.61 (40.2)	145.29 (32.8)	89.21 (23.5)	
	環形動物	182.54 (41.2)	80.67 (17.6)	58.47 (13.2)	101.13 (26.7)	
	節足動物	28.92 (6.5)	90.97 (19.8)	19.73 (4.5)	10.36 (2.7)	
	棘皮動物	9.28 (2.1)	1.32 (0.3)	3.05 (0.7)	6.20 (1.6)	
	その他	136.88 (30.9)	101.43 (22.1)	216.09 (48.8)	172.23 (45.4)	
	合計	443.19	459.00	442.63	379.13	
主な 出現種 (%)	個 体 数	軟体動物				
		環形動物	エゾカサネ カンザシゴカイ (41.0)		Dodecaceria sp. (33.7)	Dodecaceria sp. (24.5)
		節足動物	マルエラワレカラ (24.3)	サンカクフジツボ (79.0)		
		その他			Phoronis sp. (27.4)	Phoronis sp. (20.3)
	湿 重 量	軟体動物		オオヘビガイ (28.2)	オオヘビガイ (20.1)	オオヘビガイ (13.4)
		環形動物	エゾカサネ カンザシゴカイ (30.5)			Thelepiniae (18.5)
		節足動物		サンカクフジツボ (18.7)		
		その他		シロボヤ科 (群体性) (12.2)	シロボヤ科 (群体性) (12.1)	マンジュウボヤ科 (14.8)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

付表 8. 8-4(2) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 27 年度）

項目		調査期日				
		平成27年5月11～19日	平成27年8月3～7日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～5日	
出現種類数 [338]		236	236	237	200	
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	5,682 (59.4)	3,750 (36.2)	411 (13.9)	474 (18.7)	
	環形動物	1,428 (14.9)	5,578 (53.9)	1,533 (52.0)	934 (37.0)	
	節足動物	958 (10.0)	595 (5.8)	397 (13.5)	358 (14.2)	
	棘皮動物	93 (1.0)	32 (0.3)	35 (1.2)	78 (3.1)	
	その他	1,409 (14.7)	393 (3.8)	570 (19.4)	683 (27.0)	
	合計	9,570	10,348	2,947	2,527	
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	147.08 (43.6)	143.55 (30.3)	119.69 (43.1)	150.97 (53.5)	
	環形動物	42.11 (12.5)	37.09 (7.8)	22.50 (8.1)	21.83 (7.7)	
	節足動物	9.55 (2.8)	43.62 (9.2)	8.18 (2.9)	24.18 (8.6)	
	棘皮動物	7.62 (2.3)	2.66 (0.6)	2.61 (0.9)	37.40 (13.3)	
	その他	130.88 (38.8)	246.74 (52.1)	124.85 (44.9)	47.77 (16.9)	
	合計	337.24	473.66	277.83	282.15	
主な 出現種 (%)	個 体 数	軟体動物	キヌマトイガイ (44.0)	キヌマトイガイ (18.9)		
		環形動物		エゾカサネ カンザシゴカイ (45.9)	エゾカサネ カンザシゴカイ (20.3)	Thelepiniae (12.9)
		節足動物			Thelepiniae (12.2)	
		その他	<i>Phoronis</i> sp. (24.3)		<i>Phoronis</i> sp. (14.5)	<i>Phoronis</i> sp. (22.4)
	湿 重 量	軟体動物	オオヘビガイ (22.6) キヌマトイガイ (11.5)	オオヘビガイ (13.2)	オオヘビガイ (29.9)	オオヘビガイ (35.1)
		環形動物				
		節足動物				
		その他	マンジュウボヤ科 (11.7)	シロボヤ科 (群体性) (35.6)	シロボヤ科 (群体性) (30.4)	イシコ (12.2)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比（%）を示す。四捨五入の関係で合計が100にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

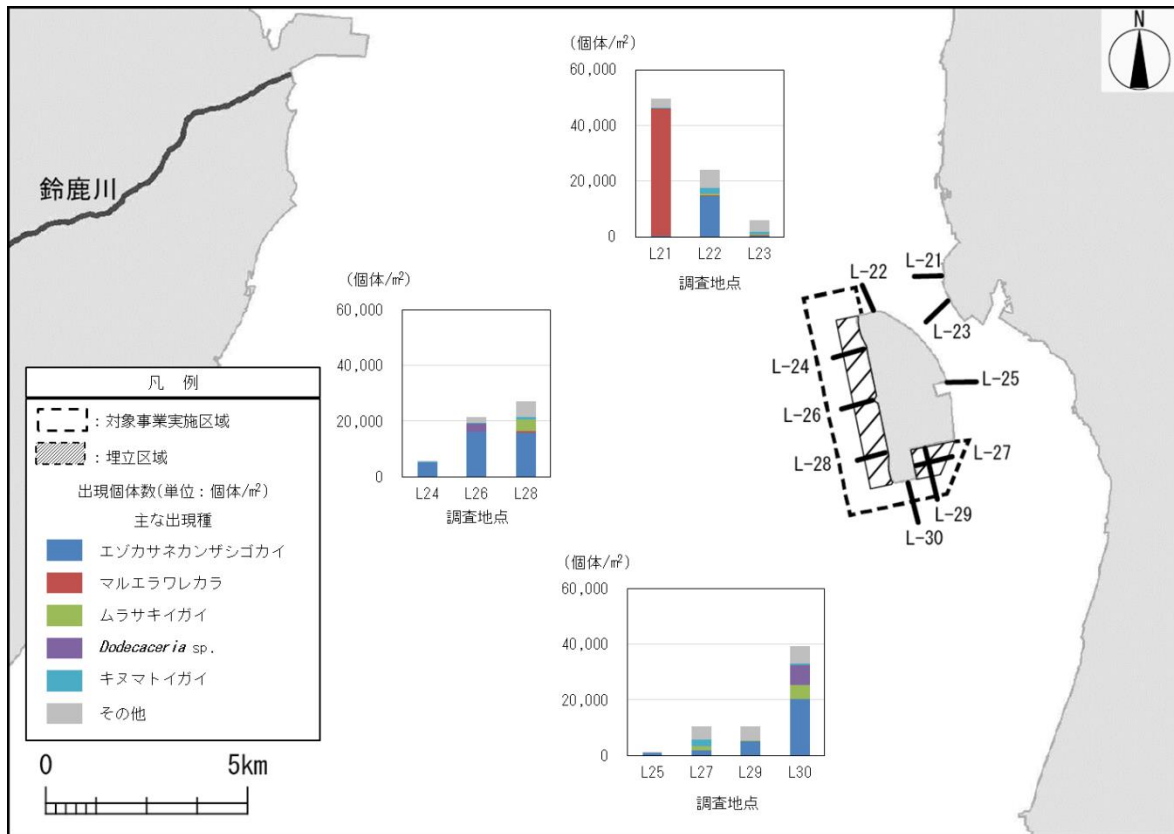
〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕

付表 8. 8-4(3) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 28 年度）

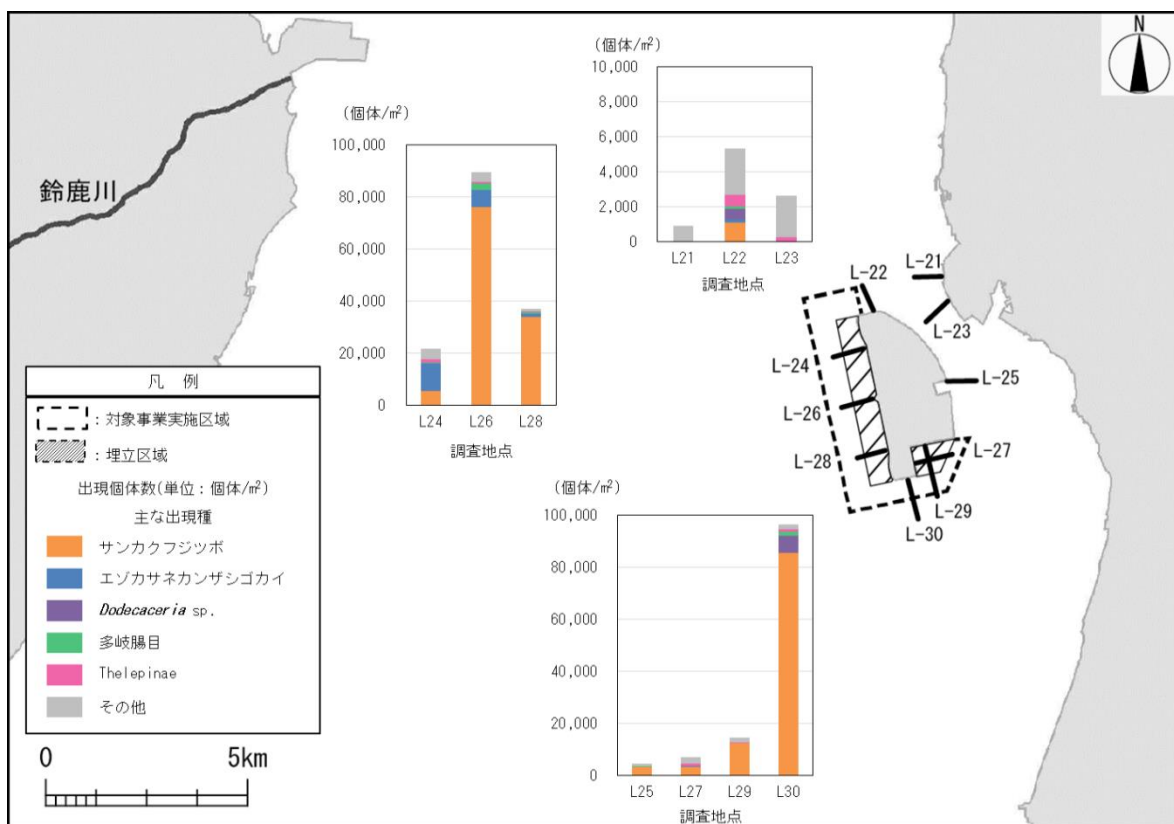
調査期日		平成28年5月2、5～6、 8～9日	平成28年8月1～3、 5～6日	平成28年11月1、2、 4～5、8日	平成29年2月7～12日	
出現種類数 〔332〕		226	222	239	217	
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	1,005 (36.4)	1,684 (12.9)	1,953 (47.9)	1,688 (39.7)	
	環形動物	732 (26.5)	8,359 (64.2)	1,222 (30.0)	866 (20.4)	
	節足動物	831 (30.2)	1,034 (7.9)	681 (16.7)	1,465 (34.5)	
	棘皮動物	46 (1.7)	122 (0.9)	75 (1.8)	79 (1.9)	
	その他	143 (5.2)	1,827 (14.0)	146 (3.6)	153 (3.6)	
	合計	2,757	13,027	4,078	4,252	
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	132.45 (48.8)	172.03 (28.0)	137.27 (36.2)	150.74 (63.9)	
	環形動物	19.93 (7.3)	67.70 (11.0)	37.98 (10.0)	28.83 (12.2)	
	節足動物	5.95 (2.2)	7.01 (1.1)	7.02 (1.9)	11.52 (4.9)	
	棘皮動物	8.72 (3.2)	15.73 (2.6)	7.22 (1.9)	16.85 (7.1)	
	その他	104.51 (38.5)	352.28 (57.3)	189.65 (50.0)	27.98 (11.9)	
	合計	271.56	614.75	379.14	235.92	
主な 出現種 (%)	個 体 数	軟体動物	ムギガイ (11.4) ムラサキガイ (11.2)		シマハマツボ (31.7)	シマハマツボ (27.3)
		環形動物		エゾカサネ カンザシゴカイ (50.7)	Thelepiniae (12.6)	
		節足動物				
		その他		<i>Phoronis</i> sp. (12.7)		
	湿 重 量	軟体動物	オオヘビガイ (25.6)	オオヘビガイ (20.9)	オオヘビガイ (24.6)	オオヘビガイ (44.9)
		環形動物				
		節足動物				
		その他		シロボヤ科(群体性) (42.2)	シロボヤ(群体性) (43.4)	

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

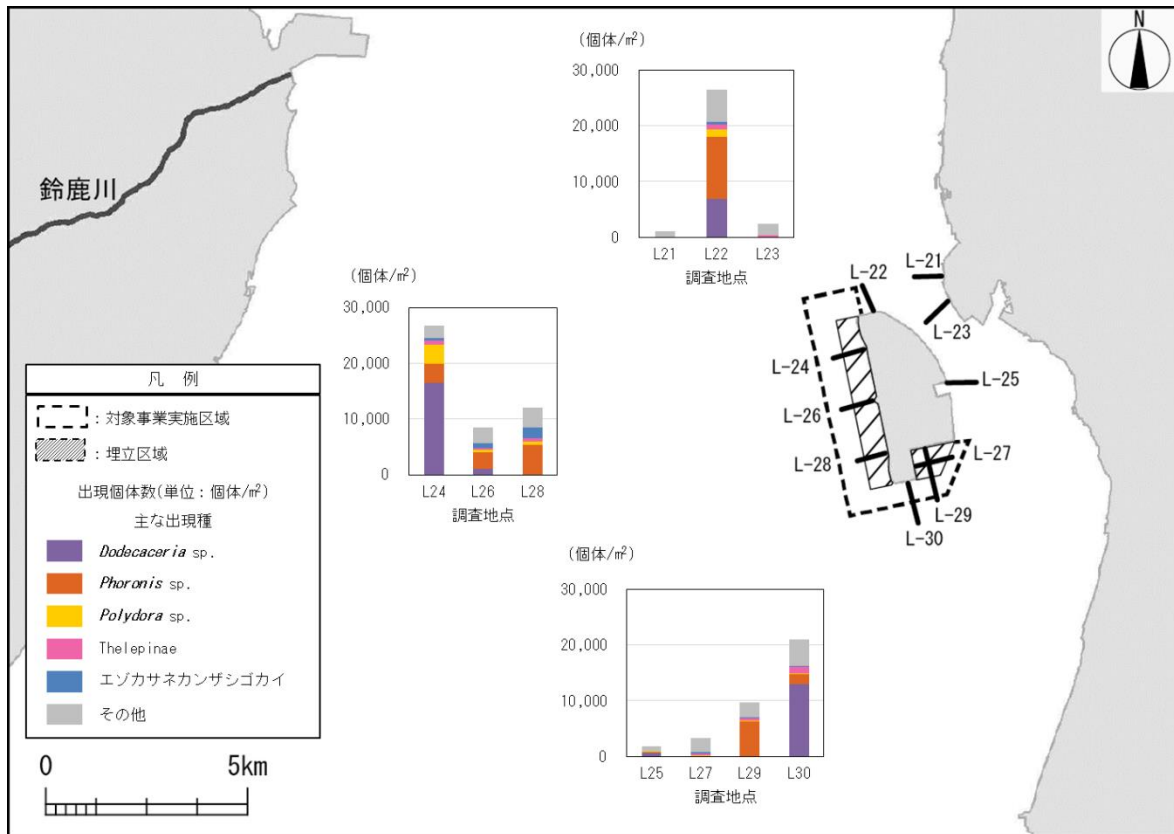


付図 8.8-4(1) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 26 年 5 月）

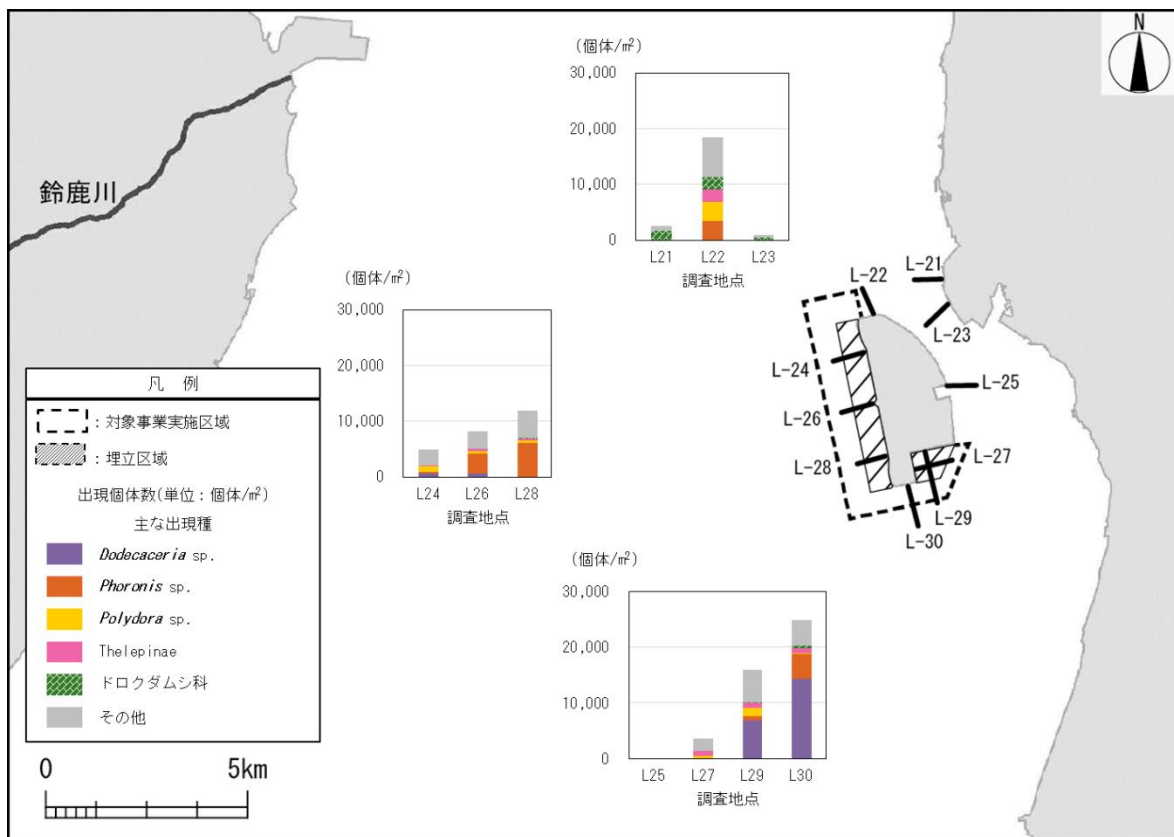


付図 8.8-4(2) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 26 年 8 月）

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成

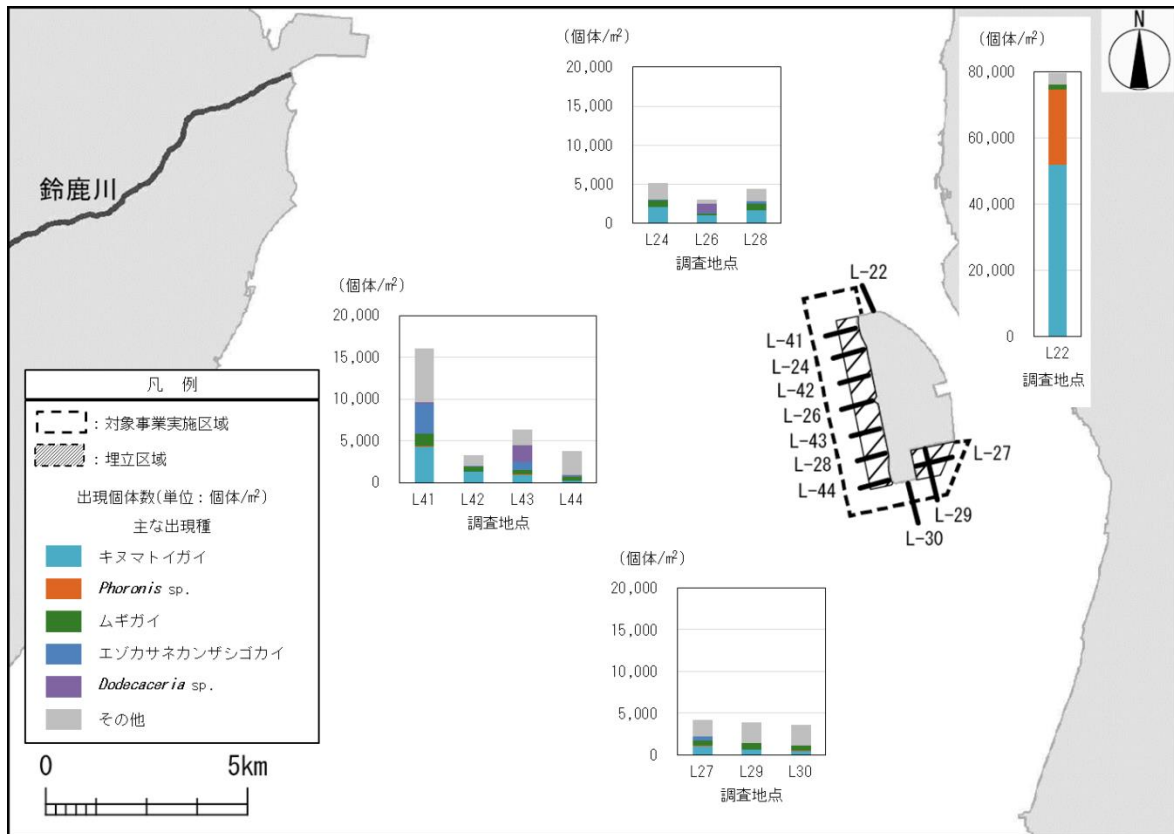


付図 8.8-4(3) 付着生物(動物)出現状況(枠取り調査:平成26年11月)

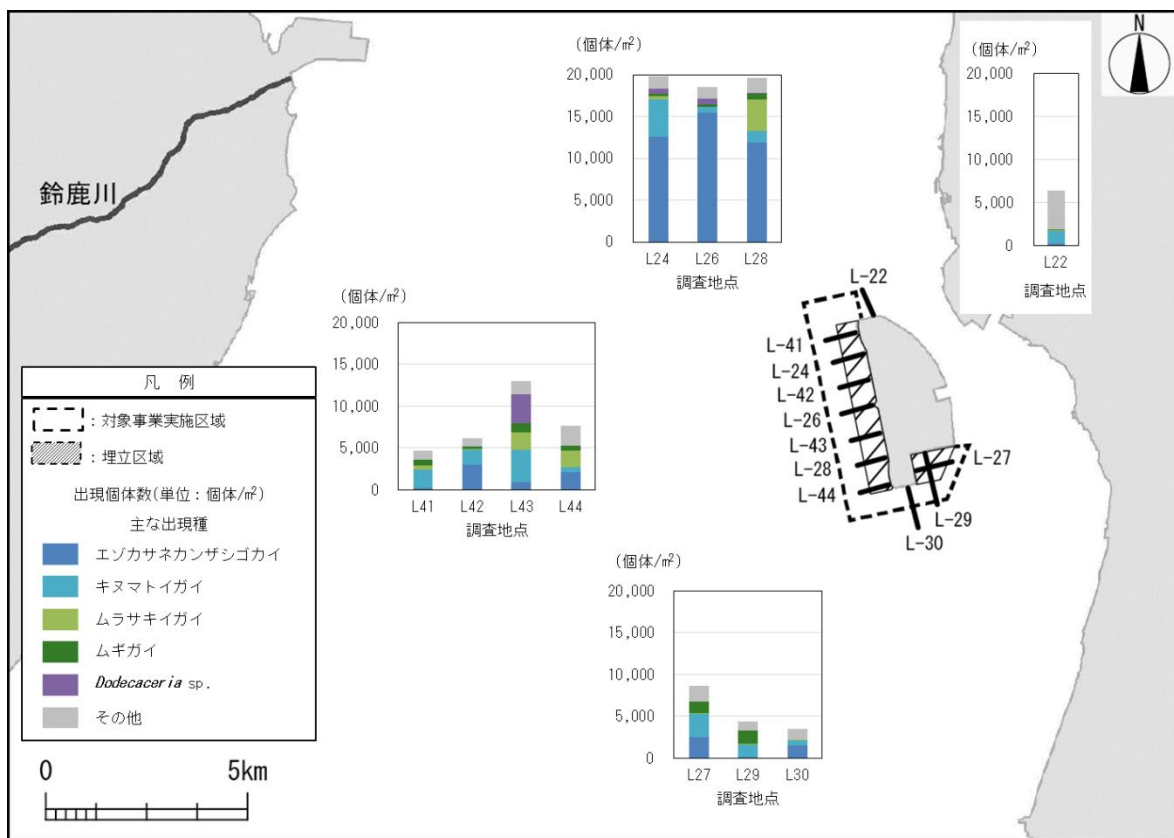


付図 8.8-4(4) 付着生物(動物)出現状況(枠取り調査:平成27年2月)

「平成25年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成27年)より作成

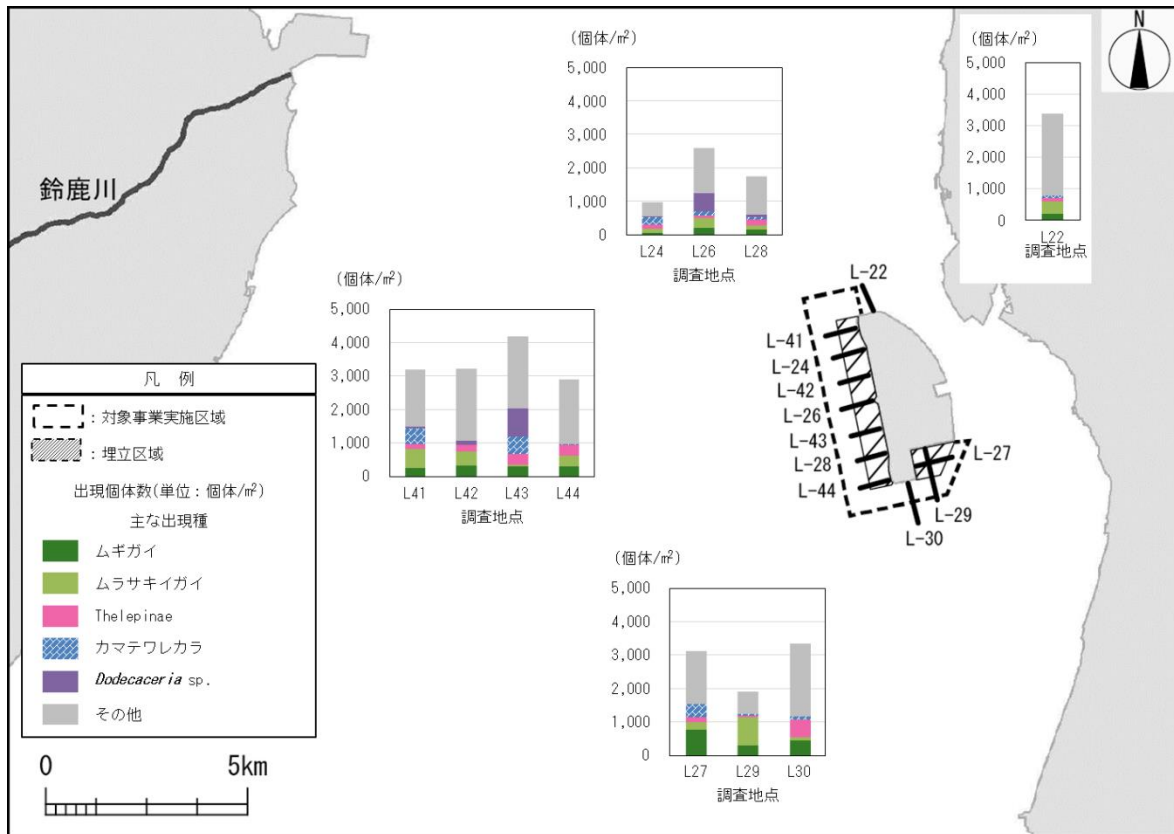


付図 8.8-4(5) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 27 年 5 月）

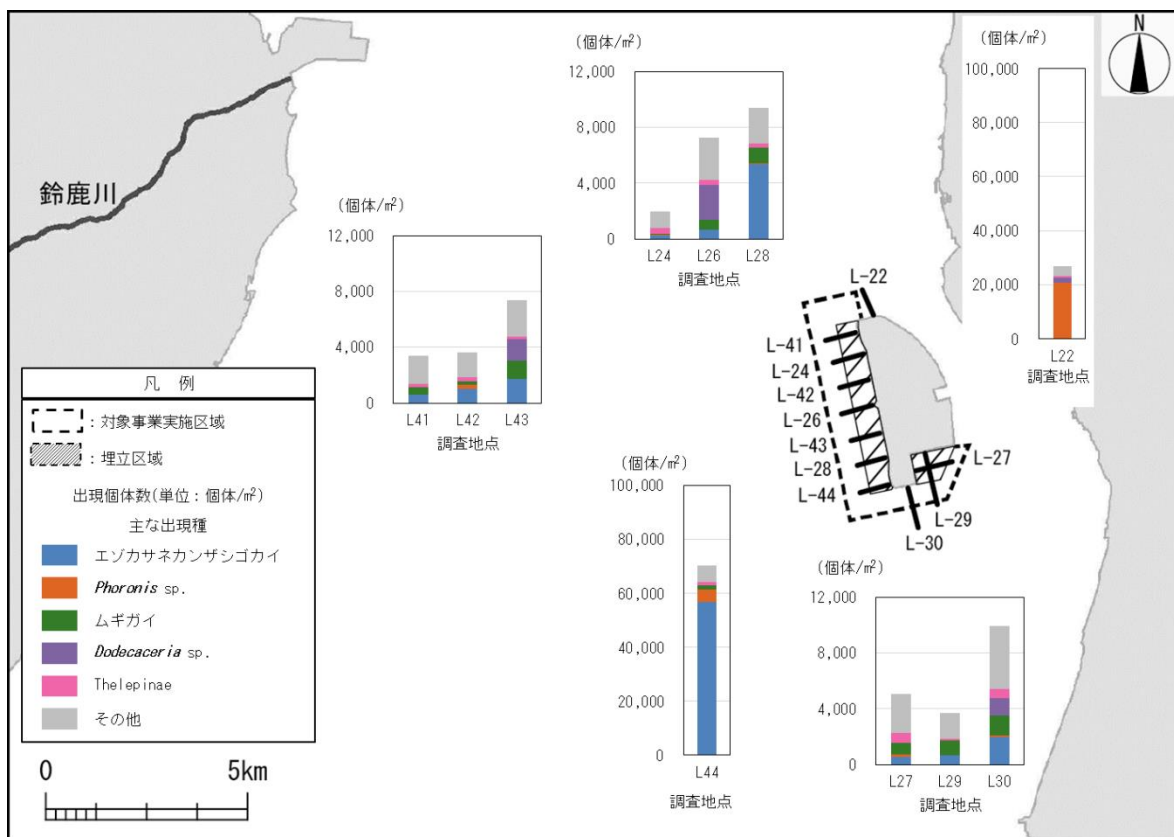


付図 8.8-4(6) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 27 年 8 月）

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

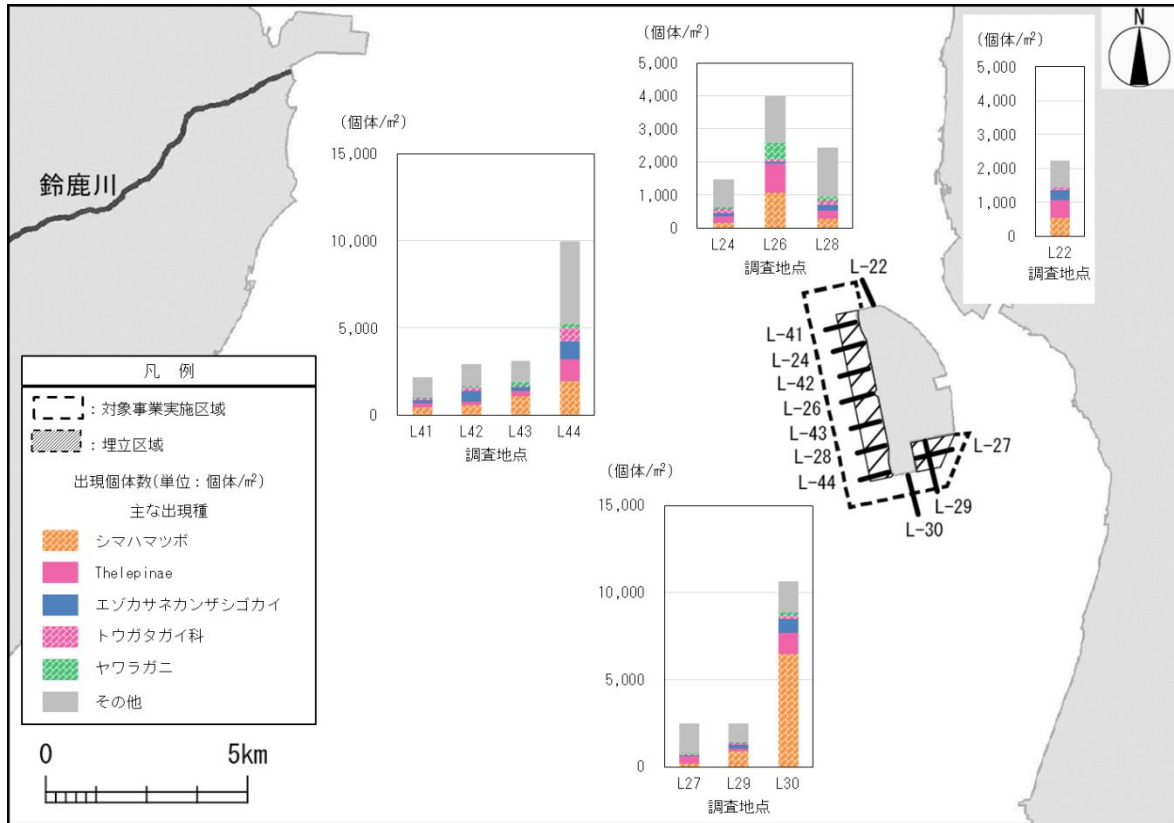


付図 8.8-4(9) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 28 年 5 月）

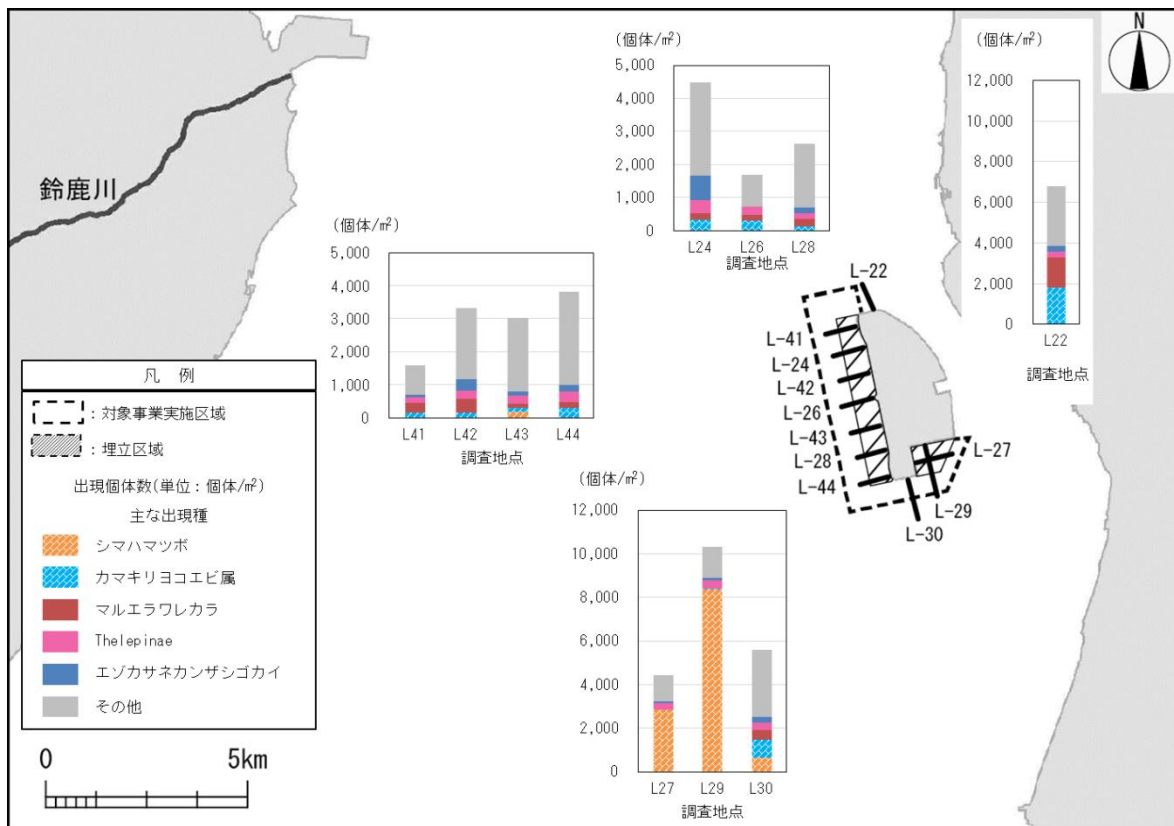


付図 8.8-4(10) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 28 年 8 月）

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-4(11) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 28 年 11 月）



付図 8.8-4(12) 付着生物（動物）出現状況（枠取り調査：平成 29 年 2 月）

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-5(1) 魚卵出現状況 (平成 26 年度)

調査期日 項目	平成26年4月15日			平成26年4月29日			平成26年5月14日			平成26年5月28日		
出現種類数 [23]	5			8			11			10		
出現個数 (個/1,000m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	74	8,705	3,243	806	20,299	3,920	1,283	182,593	27,526	502	149,802	39,931
主な 出現種 (%)	ネズッコ科 (75.7) カタクチイワシ (20.7)			カタクチイワシ (47.6) ネズッコ科 (25.2) 単脂卵 A (19.8)			カタクチイワシ (59.1) 単脂卵 B (17.8) ネズッコ科 (15.8)			カタクチイワシ (67.4) コノシロ (20.6)		

調査期日 項目	平成26年6月13日			平成26年6月27日			平成26年7月13日			平成26年8月24日		
出現種類数 [23]	13			14			14			14		
出現個数 (個/1,000m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	657	494,399	36,919	361	260,327	47,493	2,658	668,918	147,587	113	50,552	13,359
主な 出現種 (%)	単脂卵 C (46.7) カタクチイワシ (29.1)			単脂卵 D (37.0) 単脂卵 E (23.9) ギマ (13.6) 単脂卵 F (11.1)			単脂卵 G (33.1) カタクチイワシ (29.7) 単脂卵 H (13.2)			単脂卵 I (39.1) サツパ (31.2)		

調査期日 項目	平成26年9月9日			平成26年10月8日			平成26年11月8日			平成26年12月8日		
出現種類数 [23]	17			12			11			9		
出現個数 (個/1,000m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	0	18,700	6,031	12	104,615	9,429	0	39,625	8,820	0	11,873	3,515
主な 出現種 (%)	ネズッコ科 (30.8) 単脂卵 J (26.0) ウシノシタ科 (19.5) カタクチイワシ (18.3)			カタクチイワシ (85.0)			ネズッコ科 (80.9) ウシノシタ科 (13.5)			カタクチイワシ (49.0) スズキ属 (21.7) マイワシ (15.7)		

調査期日 項目	平成27年1月6日			平成27年2月4日			平成27年3月6日			平成27年3月20日		
出現種類数 [23]	4			3			6			3		
出現個数 (個/1,000m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	0	5,110	710	0	77	4	0	22	3	0	340	20
主な 出現種 (%)	スズキ属 (50.8) カレイ科 (47.6)			スズキ属 (64.4) カレイ科 (21.1) ネズッコ科 (14.4)			単脂卵 K (29.7) 単脂卵 L (14.9) 単脂卵 M (14.9) 単脂卵 N (13.5) 単脂卵 O (13.5) ホウボウ科 (13.5)			ネズッコ科 (95.9)		

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個数に対する比(%)を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示すが、不明卵は総出現種類数に含めない。
 4. 単脂卵の卵径等は、付表 8.8-6 のとおりである。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年)より作成〕

付表 8.8-5(2) 魚卵出現状況 (平成 27 年度 4~8 月)

調査期日 項目		平成27年4月19日			平成27年5月2日			平成27年5月19日			平成27年6月1日		
出現種類数 [25]		9			9			11			14		
出現個数 (個/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		188	87,171	19,178	267	764,538	138,483	166	103,304	22,611	20	187,677	16,325
中層		594	117,047	15,999	1,270	342,159	68,410	222	86,001	17,432	65	209,050	22,926
全層		188	117,047	17,589	267	764,538	103,446	166	103,304	20,021	20	209,050	19,626
主 な 出現種 (%)	上層	ネズッコ科 (66.2) コノシロ (31.3)			コノシロ (52.2) 単脂卵 P (38.5)			ネズッコ科 (72.9) 単脂卵 Q (14.7) カタクチイワシ (11.3)			単脂卵 R (51.6) 単脂卵 S (17.1) ネズッコ科 (16.7)		
	中層	ネズッコ科 (69.3) コノシロ (26.2)			単脂卵 P (44.0) コノシロ (31.1) ネズッコ科 (20.3)			ネズッコ科 (77.0) 単脂卵 Q (12.1) カタクチイワシ (9.2)			ネズッコ科 (55.0) 単脂卵 R (25.6)		
	全層	ネズッコ科 (67.6) コノシロ (28.9)			コノシロ (45.2) 単脂卵 P (40.3)			ネズッコ科 (74.7) 単脂卵 Q (13.5) カタクチイワシ (10.4)			ネズッコ科 (39.1) 単脂卵 R (36.4) 単脂卵 S (12.1)		

調査期日 項目		平成27年6月16日			平成27年7月1日			平成27年7月20日			平成27年8月15日		
出現種類数 [25]		13			20			13			16		
出現個数 (個/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		545	992,858	67,237	125	395,322	28,765	1,351	470,326	122,758	7,802	445,542	78,156
中層		418	337,198	29,462	0	173,760	16,080	3,063	201,489	47,540	1,401	336,822	35,409
全層		418	992,858	48,350	0	395,322	22,422	1,351	470,326	86,227	1,401	445,542	56,782
主 な 出現種 (%)	上層	単脂卵 T (57.1) カタクチイワシ (19.5)			カタクチイワシ (46.8) 単脂卵 U (21.8)			単脂卵 W (41.7) カタクチイワシ (21.0) ギマ (18.3)			単脂卵 X (39.7) サッパ (36.5) カタクチイワシ (16.0)		
	中層	カタクチイワシ (48.1) ネズッコ科 (26.8)			カタクチイワシ (51.3) 単脂卵 U (24.0)			単脂卵 W (37.5) ギマ (13.9) サッパ (12.1) カタクチイワシ (11.8)			カタクチイワシ (57.0) 単脂卵 X (25.7)		
	全層	単脂卵 T (42.7) カタクチイワシ (28.2) ネズッコ科 (14.9)			カタクチイワシ (38.5) 単脂卵 U (17.9) 単脂卵 V (13.9)			単脂卵 W (40.5) カタクチイワシ (18.4) ギマ (17.0)			単脂卵 X (35.4) カタクチイワシ (28.8) サッパ (27.0)		

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個数に対する比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示すが、不明卵は総出現種類数に含めない。
 4. 単脂卵の卵径は、付表 8.8-6 のとおりである。

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8.8-5(3) 魚卵出現状況 (平成 27 年度 9~3 月)

調査期日		平成27年9月12日			平成27年10月13日			平成27年11月10日			平成27年12月12日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 [25]		14			17			12			10		
出現個数 (個/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		88	46,944	9,623	572	22,456	6,576	347	19,526	2,971	35	13,193	1,572
中層		75	9,020	3,355	22	18,522	5,055	46	32,658	2,600	20	11,620	1,565
全層		75	46,944	6,489	22	22,456	5,815	46	32,658	2,785	20	13,193	1,568
主 な 出現種 (%)	上層	単脂卵 Y (37.3) カタクチイワシ (33.3) ウシノシタ科 (23.5)			ネズッコ科 (49.0) カタクチイワシ (36.7) ウシノシタ科 (13.3)			カタクチイワシ (46.4) ネズッコ科 (45.4)			マイワシ (79.7) スズキ属 (15.8)		
	中層	ウシノシタ科 (42.2) カタクチイワシ (23.1) 単脂卵 Y (16.5) ネズッコ科 (16.3)			ネズッコ科 (60.9) カタクチイワシ (31.2)			カタクチイワシ (71.5) ネズッコ科 (19.9)			マイワシ (82.2) スズキ属 (14.2)		
	全層	単脂卵 Y (32.0) カタクチイワシ (30.7) ウシノシタ科 (28.3)			ネズッコ科 (54.2) カタクチイワシ (34.3) ウシノシタ科 (10.7)			カタクチイワシ (58.1) ネズッコ科 (33.5)			マイワシ (81.0) スズキ属 (15.0)		

調査期日		平成28年1月9日			平成28年2月9日			平成28年3月8日			平成28年3月22日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 [25]		8			7			2			7		
出現個数 (個/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		61	5,471	1,580	0	77	9	0	4	1	0	41	15
中層		124	3,343	1,105	0	95	6	0	0	0	0	39	6
全層		61	5,471	1,343	0	95	7	0	4	0	0	41	11
主 な 出現種 (%)	上層	カレイ科 (53.8) マイワシ (32.6) スズキ属 (12.8)			スズキ属 (86.3)			単脂卵 AA (71.4) 単脂卵 AB (28.6)			単脂卵 AC (67.1) ネズッコ科 (17.0)		
	中層	カレイ科 (47.9) マイワシ (38.5) スズキ属 (12.6)			スズキ属 (72.1) 単脂卵 Z (14.0) カタクチイワシ (14.0)			出現せず			ネズッコ科 (64.8) 単脂卵 AC (20.0)		
	全層	カレイ科 (51.4) マイワシ (35.0) スズキ属 (12.7)			スズキ属 (80.6)			単脂卵 AA (71.4) 単脂卵 AB (28.6)			単脂卵 AC (53.3) ネズッコ科 (31.1)		

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個数に対する比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示すが、不明卵は総出現種類数に含めない。
 4. 単脂卵の卵径は、付表 8.8-6 のとおりである。

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8.8-5(4) 魚卵出現状況 (平成 28 年度 4~8 月)

調査期日		平成28年4月19日			平成28年5月7日			平成28年5月17日			平成28年6月4日		
項目		8			10			15			12		
出現種類数 [30]													
出現個数 (個/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		69	13,462	3,221	2,707	161,763	40,620	1,914	117,014	35,762	161	240,491	40,113
中層		10	7,263	1,084	3,199	126,875	28,987	3,402	78,964	24,213	77	186,536	20,689
全層		10	13,462	2,152	2,707	161,763	34,803	1,914	117,014	29,988	77	240,491	30,401
主 な 出現種 (%)	上層	コノシロ (72.2) ネズッコ科 (15.9)			カタクチイワシ (76.0) 単脂卵 AD (11.4)			カタクチイワシ (60.0) 単脂卵 AE (22.6) コノシロ (10.9)			カタクチイワシ (96.6)		
	中層	コノシロ (70.1) ネズッコ科 (17.0)			カタクチイワシ (67.1) 単脂卵 AD (16.4) コノシロ (11.2)			カタクチイワシ (54.6) コノシロ (22.4) 単脂卵 AE (16.0)			カタクチイワシ (95.6)		
	全層	コノシロ (71.6) ネズッコ科 (16.2)			カタクチイワシ (72.3) 単脂卵 AD (13.5)			カタクチイワシ (57.8) 単脂卵 AE (19.9) コノシロ (15.6)			カタクチイワシ (96.3)		

調査期日		平成28年6月18日			平成28年7月5日			平成28年7月19日			平成28年8月16日		
項目		13			14			16			25		
出現種類数 [30]													
出現個数 (個/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		54	117,486	19,861	318	429,750	68,638	1,008	1,516,537	125,562	5,003	178,490	63,585
中層		49	80,643	10,753	206	140,106	17,270	129	533,492	44,337	1,614	235,780	44,210
全層		49	117,486	15,307	206	429,750	42,954	129	1,516,537	84,949	1,614	235,780	53,898
主 な 出現種 (%)	上層	カタクチイワシ (33.1) 単脂卵 AF (19.5) ギマ (15.4)			カタクチイワシ (28.5) ギマ (21.9) 単脂卵 AH (17.5) 単脂卵 AI (11.4)			カタクチイワシ (64.6) ギマ (10.8) 単脂卵 AJ (10.3)			カタクチイワシ (34.5) 単脂卵 AK (33.0) サッパ (19.9)		
	中層	カタクチイワシ (43.7) 単脂卵 AG (15.2) サバ属 (10.6) ギマ (10.6)			カタクチイワシ (50.5) 単脂卵 AI (17.6)			カタクチイワシ (77.2)			カタクチイワシ (64.1) 単脂卵 AK (13.3)		
	全層	カタクチイワシ (36.8) 単脂卵 AF (13.8) ギマ (13.7) 単脂卵 AG (11.3)			カタクチイワシ (32.9) ギマ (18.4) 単脂卵 AH (15.0) 単脂卵 AI (12.6)			カタクチイワシ (67.9)			カタクチイワシ (46.7) 単脂卵 AK (24.9) サッパ (15.6)		

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個数に対する比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示すが、不明卵は総出現種類数に含めない。
 4. 単脂卵の卵径は、付表 8.8-6 のとおりである。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-5(5) 魚卵出現状況 (平成 28 年度 9~3 月)

調査期日		平成28年9月17日			平成28年10月15日			平成28年11月15日			平成28年12月13日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 [30]		13			17			12			10		
出現個数 (個/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		131	76,292	8,898	62	14,885	2,837	17	27,960	3,401	59	57,142	3,935
中層		16	26,195	4,999	11	37,230	3,934	28	11,764	2,952	26	30,234	3,530
全層		16	76,292	6,948	11	37,230	3,385	17	27,960	3,177	26	57,142	3,733
主 な 出現種 (%)	上層	単脂卵 AL (50.6) ウシノシタ科 (31.9)			ネズッポ科 (45.3) カタクチイワシ (26.0) ウシノシタ科 (24.6)			カタクチイワシ (45.0) マイワシ (31.0) ネズッポ科 (14.0)			マイワシ (65.2) スズキ属 (17.0)		
	中層	ウシノシタ科 (29.3) 単脂卵 AL (28.7) カタクチイワシ (28.5)			カタクチイワシ (79.1) ネズッポ科 (14.6)			カタクチイワシ (63.2) ネズッポ科 (23.6)			マイワシ (67.0) スズキ属 (14.4)		
	全層	単脂卵 AL (42.7) ウシノシタ科 (31.0) カタクチイワシ (12.1)			カタクチイワシ (56.9) ネズッポ科 (27.5) ウシノシタ科 (13.6)			カタクチイワシ (53.5) マイワシ (19.4) ネズッポ科 (18.5)			マイワシ (66.1) スズキ属 (15.8)		

調査期日		平成29年1月28日			平成29年2月15日			平成29年3月1日			平成29年3月11日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 [30]		7			7			7			9		
出現個数 (個/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		0	658	70	0	106	10	0	75	5	0	68	15
中層		0	452	49	0	182	9	0	10	1	0	48	10
全層		0	658	59	0	182	10	0	75	3	0	68	13
主 な 出現種 (%)	上層	スズキ属 (77.4) カレイ科 (21.1)			スズキ属 (70.1) ホウボウ科 (13.0)			単脂卵 AN (51.8) ホウボウ科 (14.5) スズキ属 (11.8)			単脂卵 AO (40.6) 単脂卵 AP (28.2) カタクチイワシ (13.5)		
	中層	スズキ属 (74.8) カレイ科 (18.6)			スズキ属 (76.6) 単脂卵 AM (14.0)			単脂卵 AN (100.0)			単脂卵 AO (26.6) 単脂卵 AP (26.2) 単脂卵 AQ (19.0) ホウボウ科 (13.9)		
	全層	スズキ属 (76.4) カレイ科 (20.1)			スズキ属 (73.3)			単脂卵 AN (58.6) ホウボウ科 (12.5) スズキ属 (10.2)			単脂卵 AO (34.9) 単脂卵 AP (27.4) 単脂卵 AQ (10.8)		

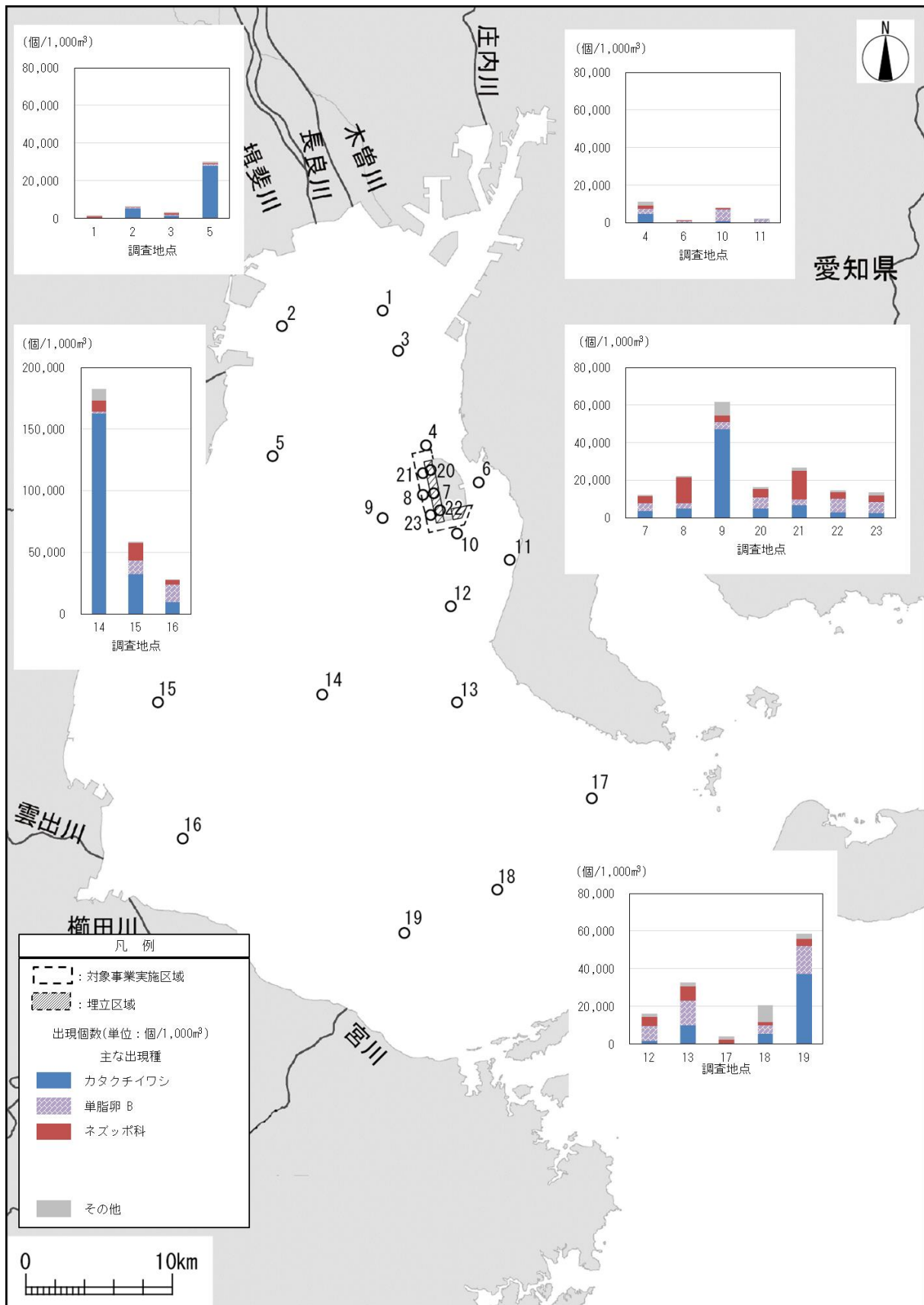
- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個数に対する比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示すが、不明卵は総出現種類数に含めない。
 4. 単脂卵の卵径は、付表 8.8-6 のとおりである。

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-6 不明卵の卵径

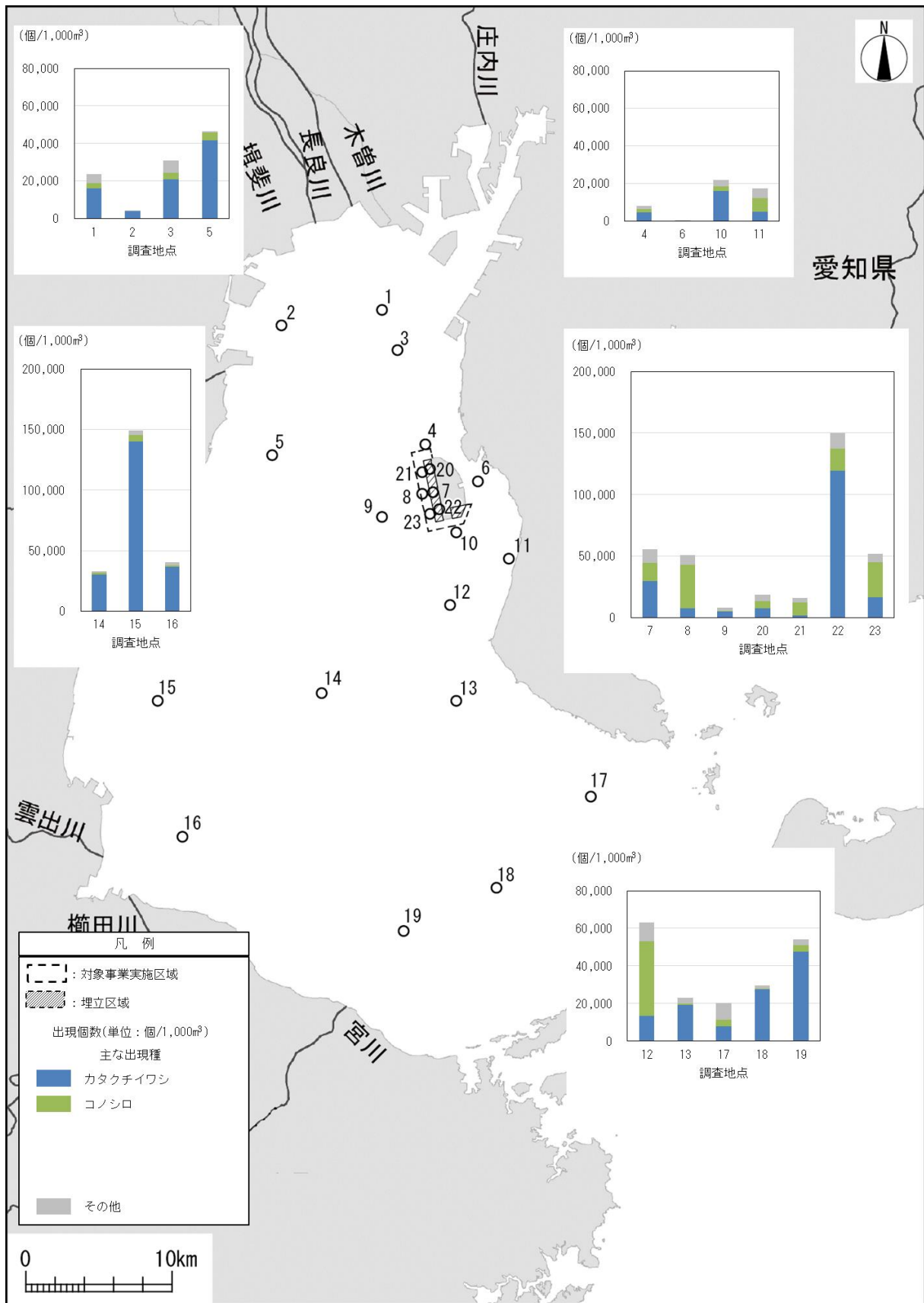
調査年月日	不明卵名	卵径範囲 (mm)	調査年月日	不明卵名	卵径範囲 (mm)
平成 26 年 4 月 29 日	単脂卵 A	0.83~0.98	平成 27 年 7 月 20 日	単脂卵 W	0.58~0.68
平成 26 年 5 月 14 日	単脂卵 B	0.80~0.93	平成 27 年 8 月 15 日	単脂卵 X	0.57~0.69
平成 26 年 6 月 13 日	単脂卵 C	0.62~0.68	平成 27 年 9 月 12 日	単脂卵 Y	0.62~0.72
平成 26 年 6 月 27 日	単脂卵 D	0.57~0.60	平成 28 年 2 月 9 日	単脂卵 Z	0.80~0.81
平成 26 年 6 月 27 日	単脂卵 E	0.70~0.75	平成 28 年 3 月 8 日	単脂卵 AA	0.90~0.95
平成 26 年 6 月 27 日	単脂卵 F	0.62~0.68	平成 28 年 3 月 8 日	単脂卵 AB	0.78
平成 26 年 7 月 13 日	単脂卵 G	0.58~0.60	平成 28 年 3 月 22 日	単脂卵 AC	0.88~1.04
平成 26 年 7 月 13 日	単脂卵 H	0.62~0.68	平成 28 年 5 月 7 日	単脂卵 AD	0.85~0.97
平成 26 年 8 月 24 日	単脂卵 I	0.64~0.68	平成 28 年 5 月 17 日	単脂卵 AE	0.83~0.97
平成 26 年 9 月 9 日	単脂卵 J	0.65~0.73	平成 28 年 6 月 18 日	単脂卵 AF	0.67~0.75
平成 27 年 3 月 6 日	単脂卵 K	1.08~1.13	平成 28 年 6 月 18 日	単脂卵 AG	0.76~0.80
平成 27 年 3 月 6 日	単脂卵 L	0.75	平成 28 年 7 月 5 日	単脂卵 AH	0.61~0.70
平成 27 年 3 月 6 日	単脂卵 M	0.80	平成 28 年 7 月 5 日	単脂卵 AI	0.73~0.78
平成 27 年 3 月 6 日	単脂卵 N	0.88	平成 28 年 7 月 19 日	単脂卵 AJ	0.73~0.80
平成 27 年 3 月 6 日	単脂卵 O	1.02	平成 28 年 8 月 16 日	単脂卵 AK	0.56~0.68
平成 27 年 5 月 2 日	単脂卵 P	0.84~1.00	平成 28 年 9 月 17 日	単脂卵 AL	0.63~0.70
平成 27 年 5 月 19 日	単脂卵 Q	0.80~0.95	平成 29 年 2 月 15 日	単脂卵 AM	0.72~0.81
平成 27 年 6 月 1 日	単脂卵 R	0.70~0.76	平成 29 年 3 月 1 日	単脂卵 AN	0.70~0.81
平成 27 年 6 月 1 日	単脂卵 S	0.79~0.92	平成 29 年 3 月 11 日	単脂卵 AO	0.87~0.96
平成 27 年 6 月 16 日	単脂卵 T	0.70~0.75	平成 29 年 3 月 11 日	単脂卵 AP	1.03~1.09
平成 27 年 7 月 1 日	単脂卵 U	0.62~0.70	平成 29 年 3 月 11 日	単脂卵 AQ	0.70~0.79
平成 27 年 7 月 1 日	単脂卵 V	0.70~0.78			

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年)
 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年)
 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



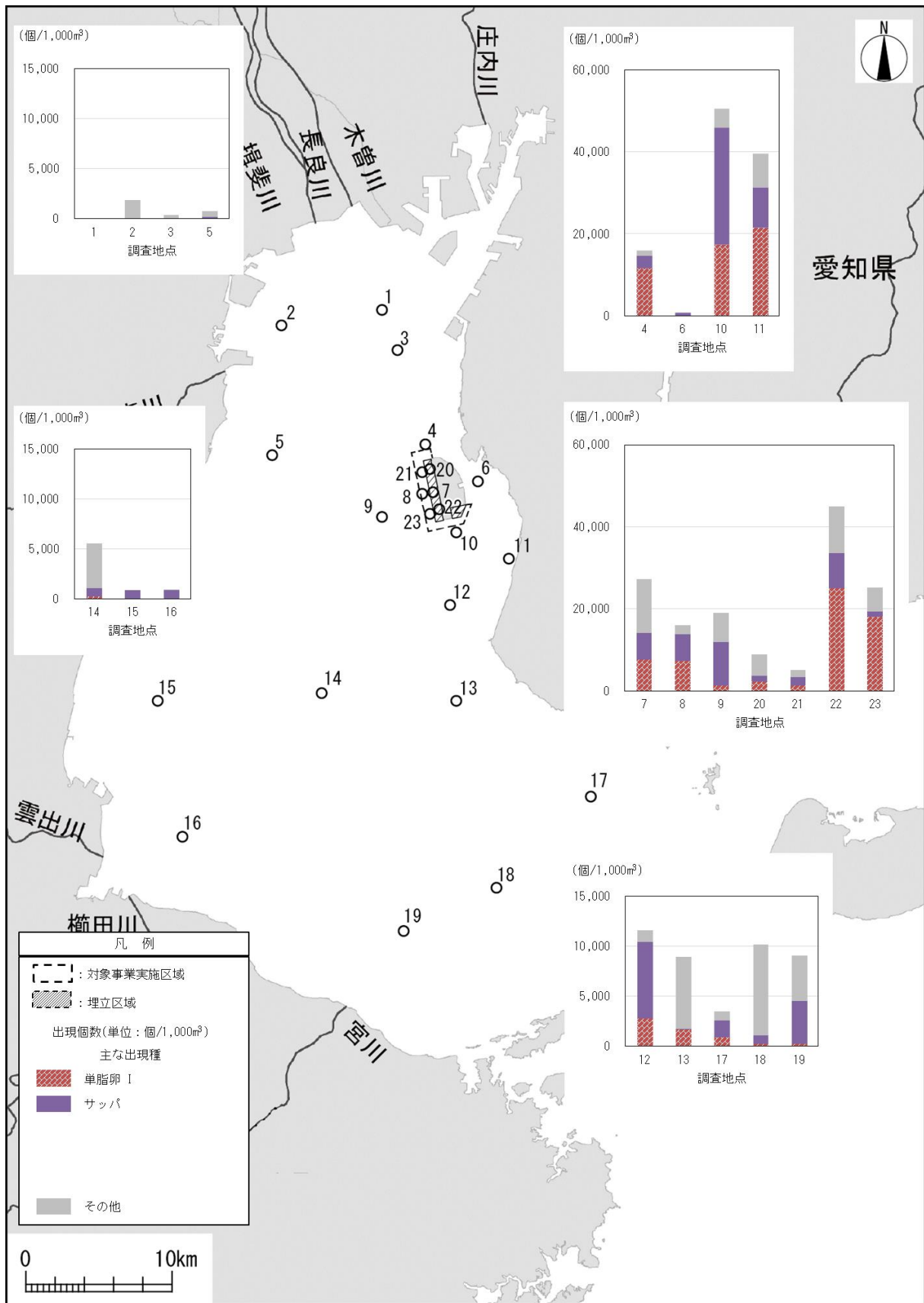
付図 8.8-5(1) 魚卵出現状況 (平成 26 年 5 月 14 日)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



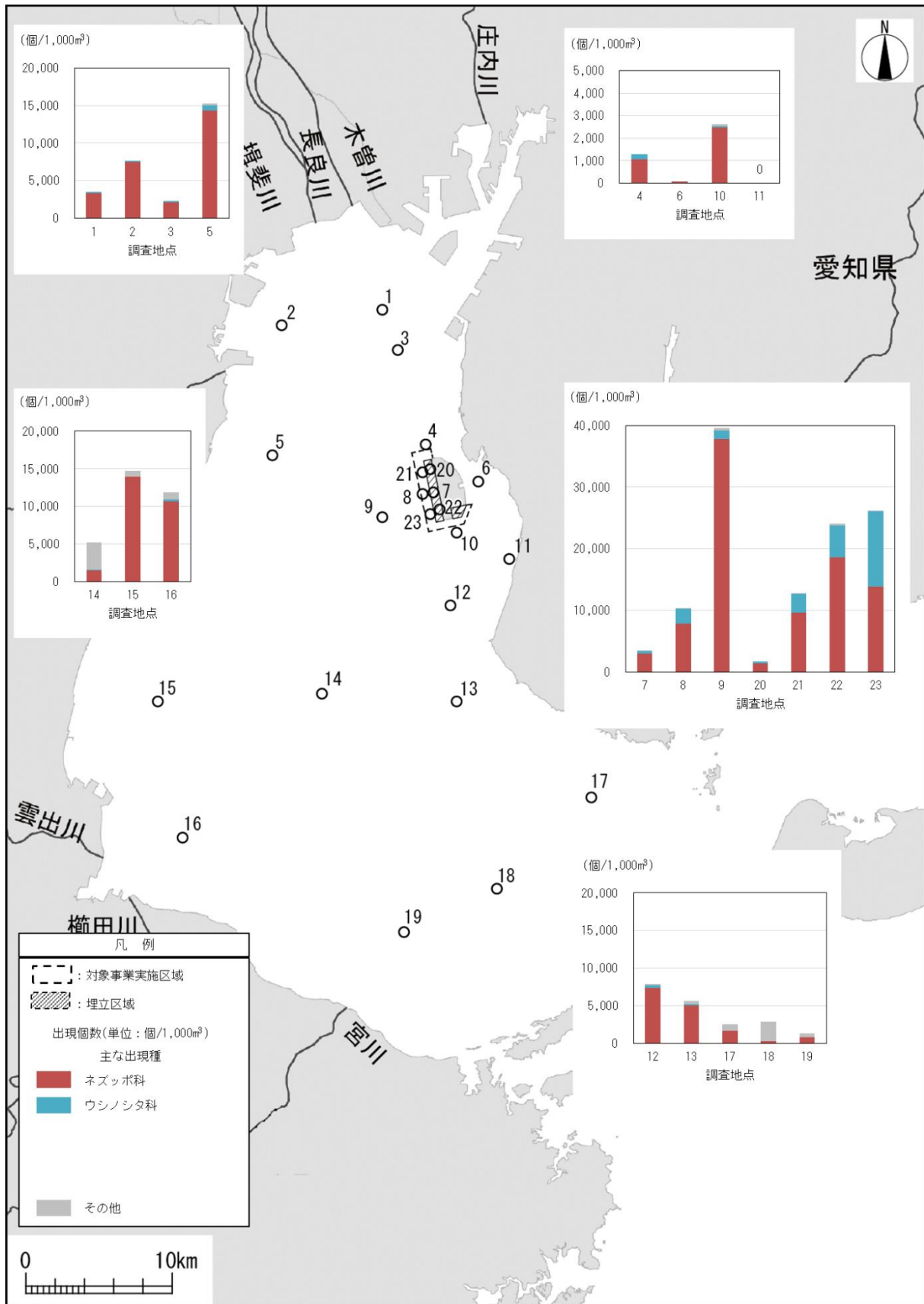
付図 8.8-5(2) 魚卵出現状況 (平成 26 年 5 月 28 日)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



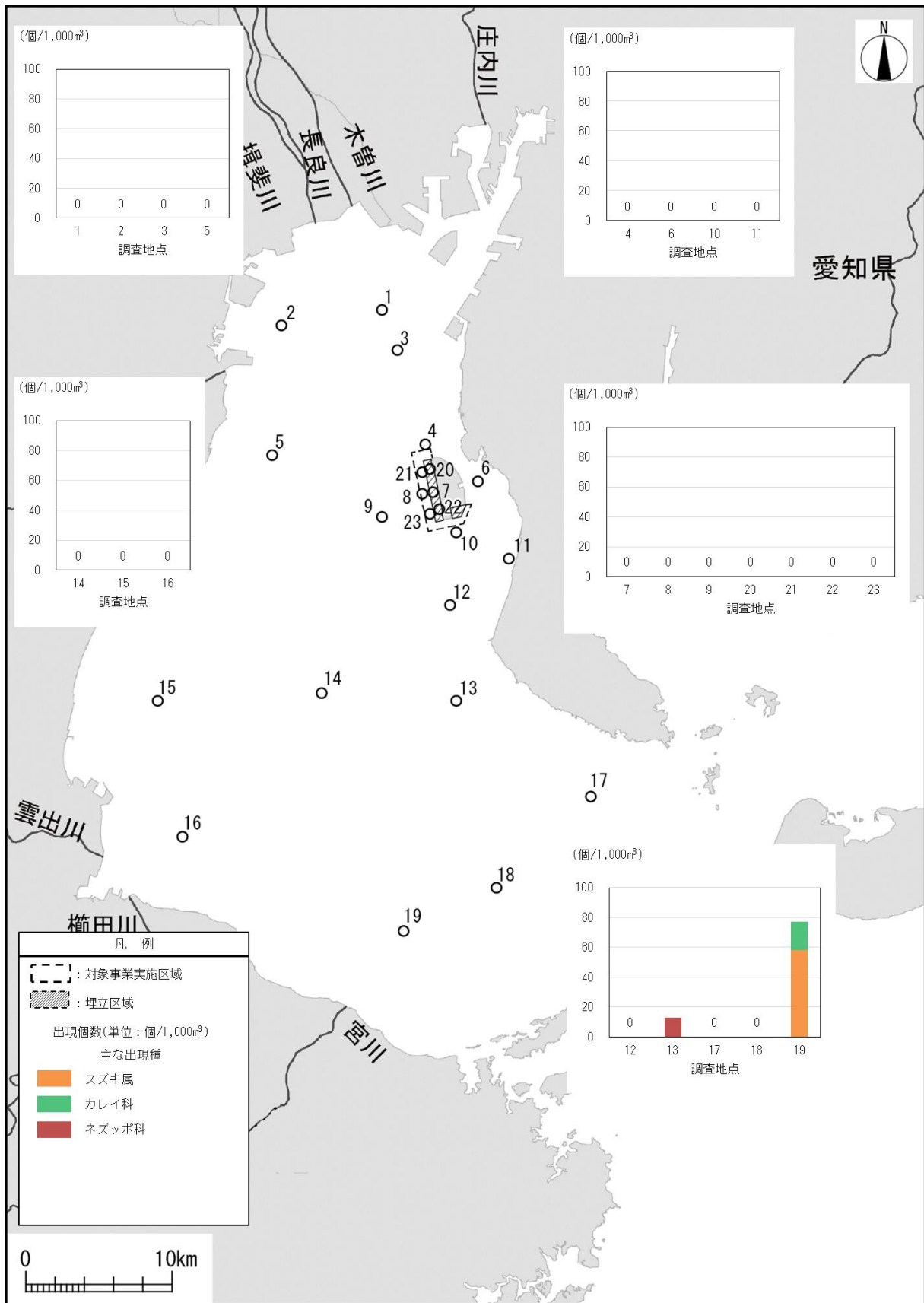
付図 8.8-5(3) 魚卵出現状況 (平成 26 年 8 月 24 日)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



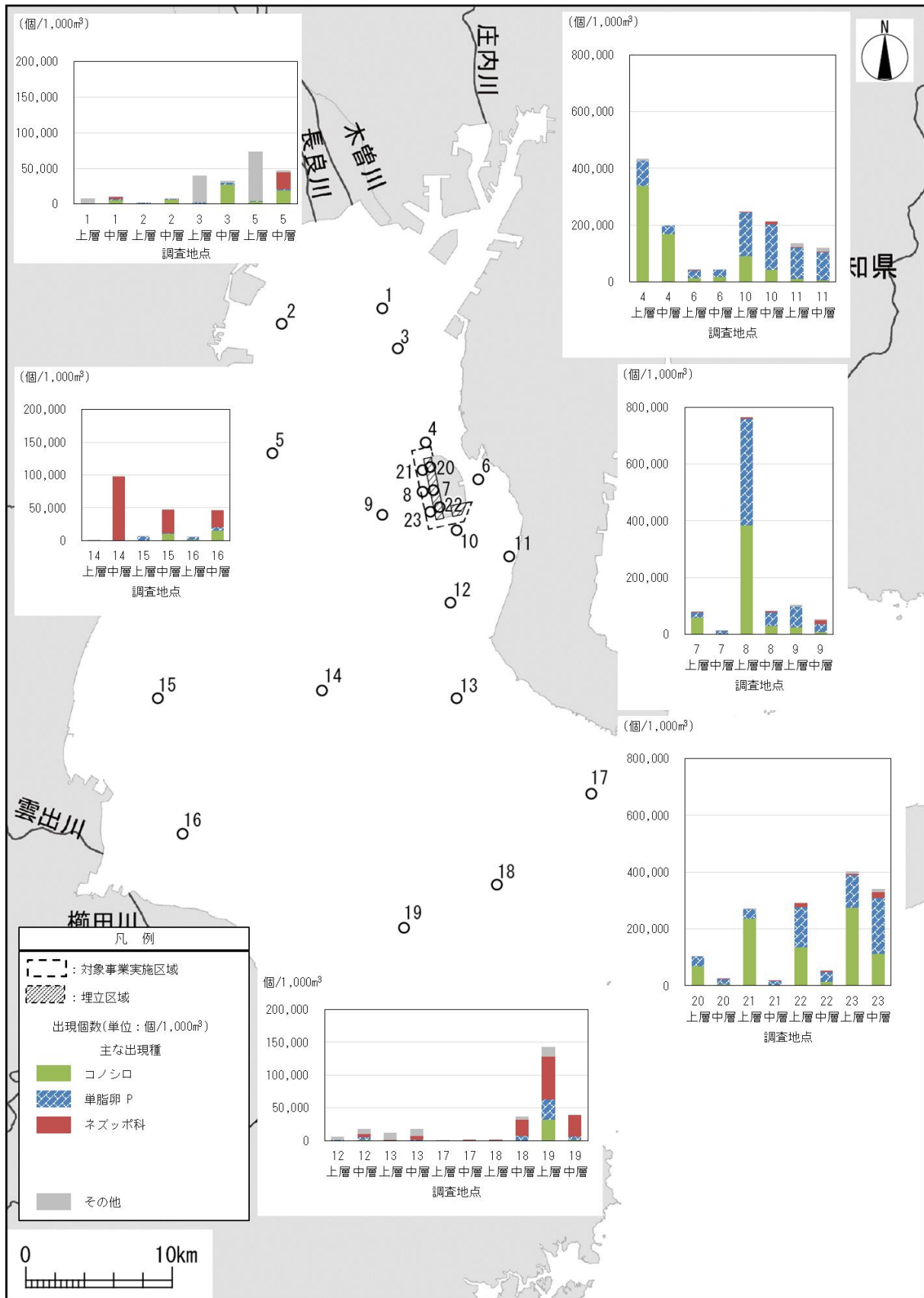
付図 8.8-5(4) 魚卵出現状況 (平成 26 年 11 月 8 日)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



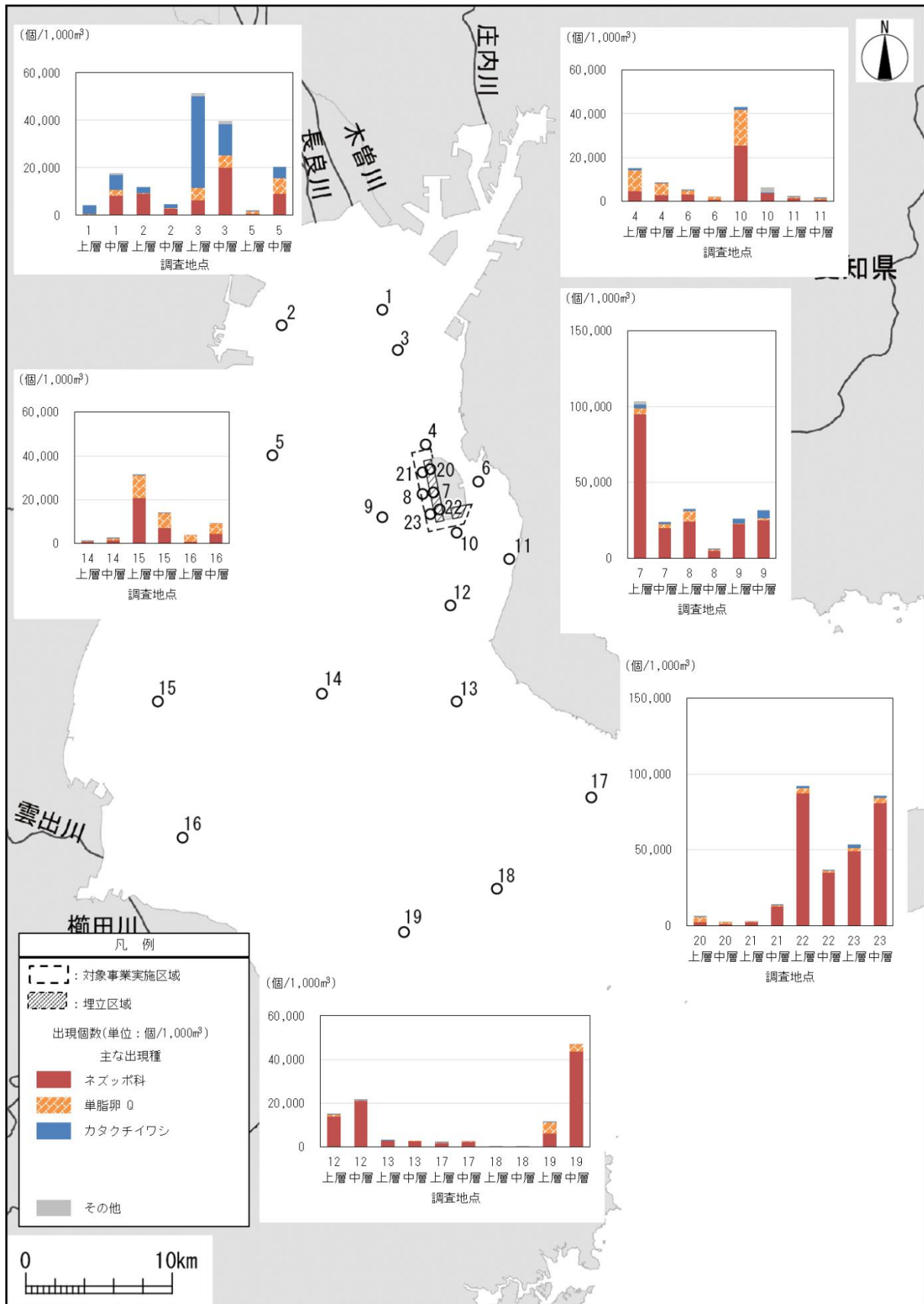
付図 8.8-5(5) 魚卵出現状況 (平成 27 年 2 月 4 日)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



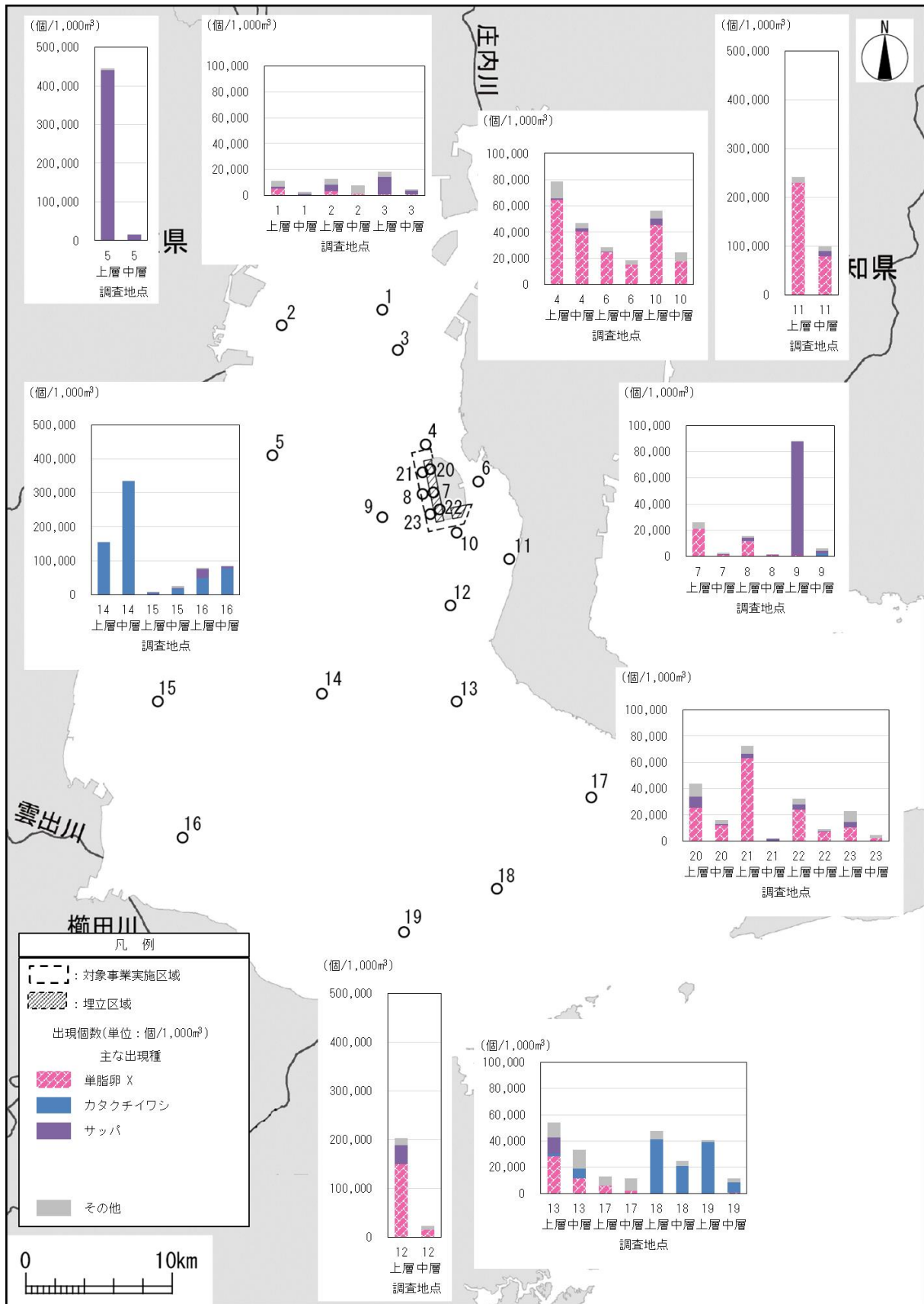
付図 8.8-5(6) 魚卵出現状況 (平成 27 年 5 月 2 日)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



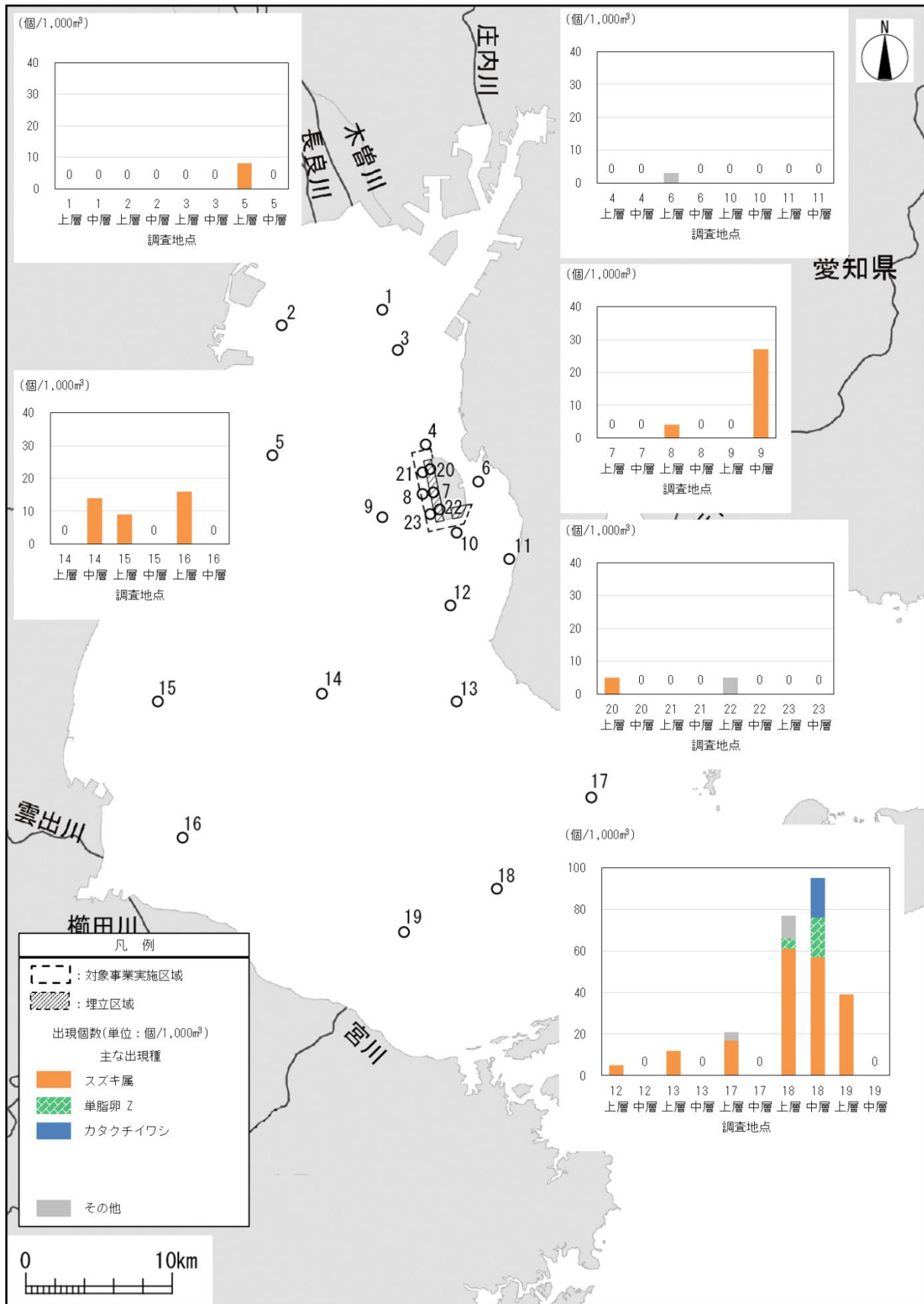
付図 8.8-5(7) 魚卵出現状況 (平成 27 年 5 月 19 日)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



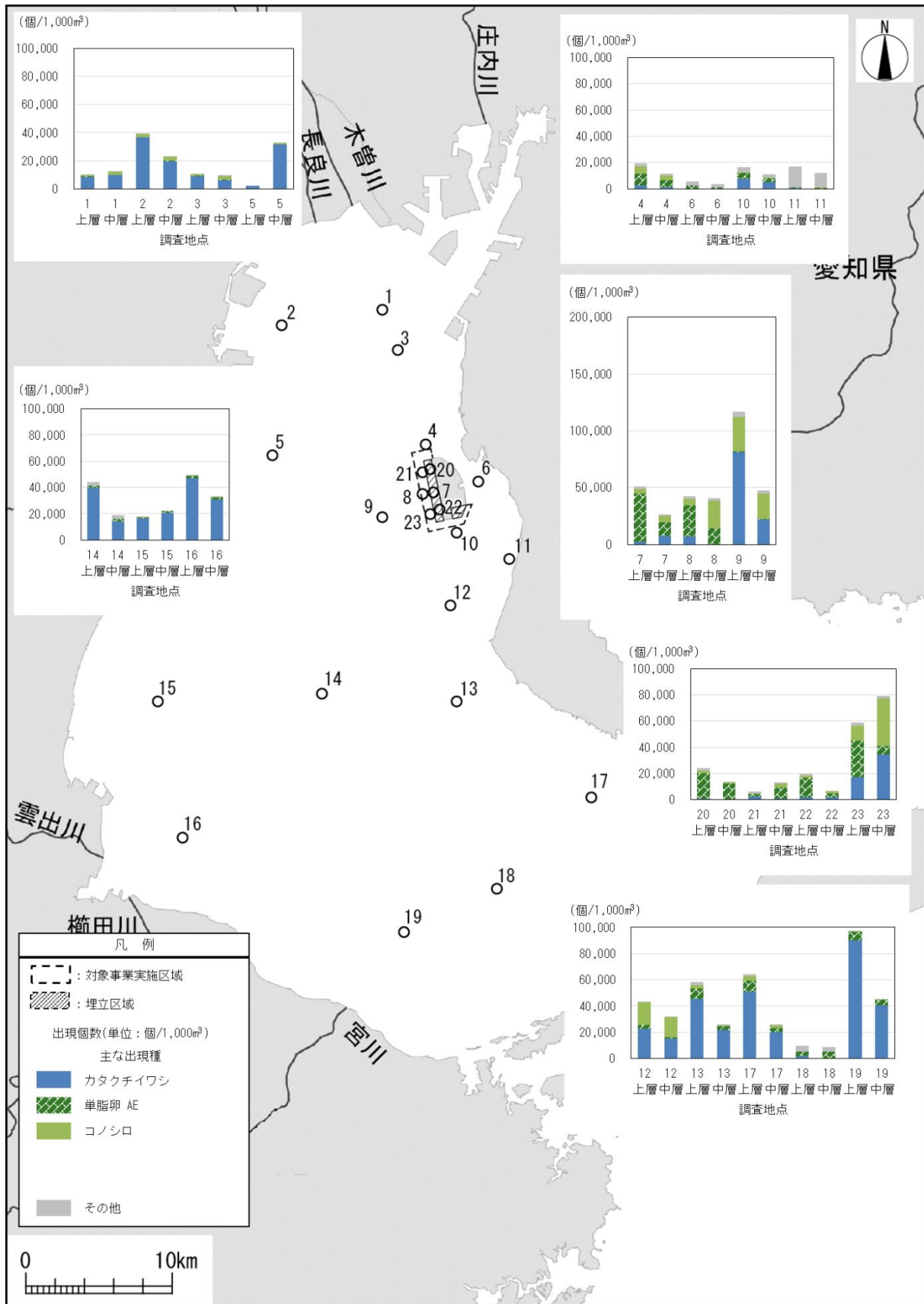
付図 8.8-5(8) 魚卵出現状況 (平成 27 年 8 月 15 日)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



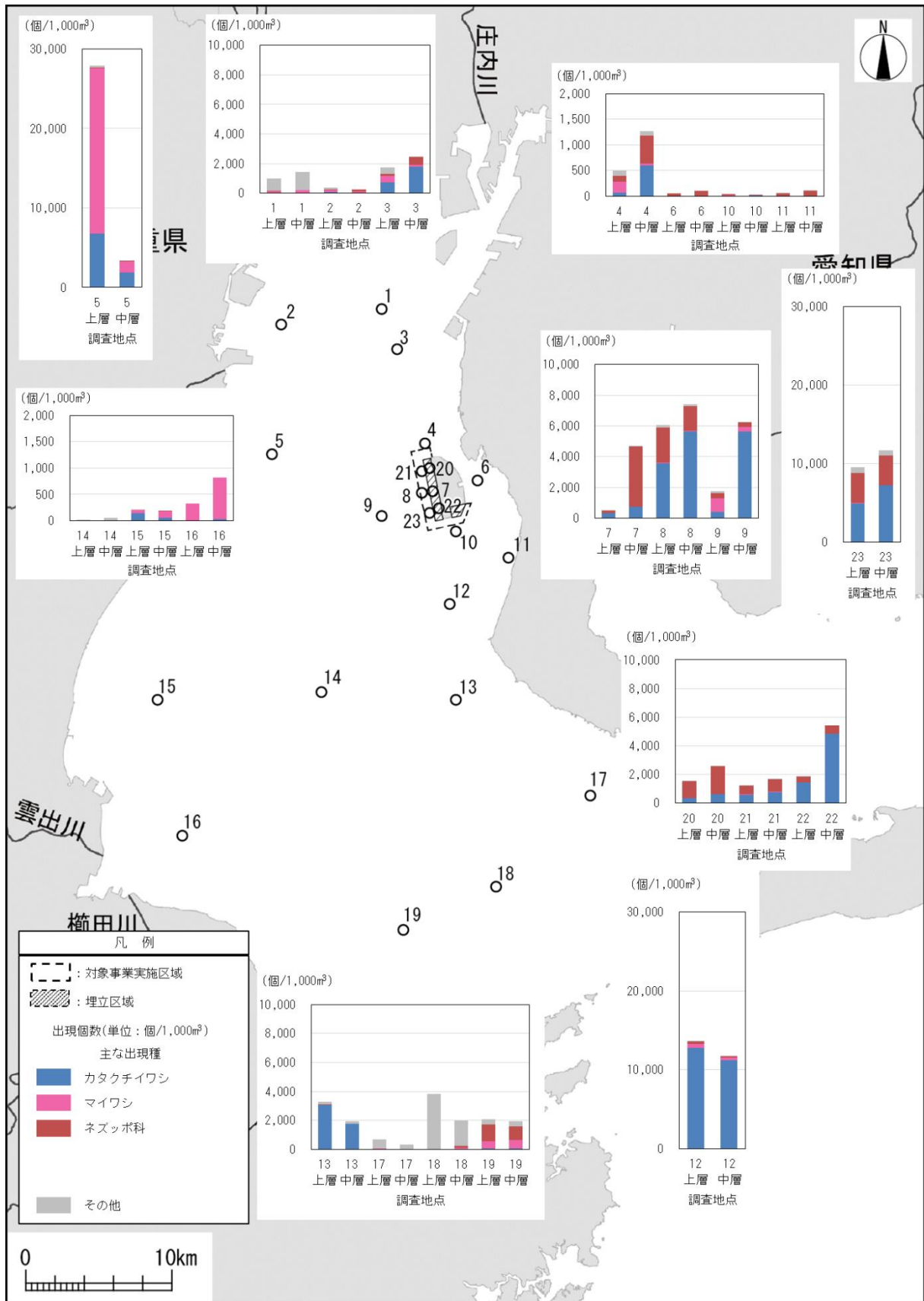
付図 8.8-5(10) 魚卵出現状況 (平成 28 年 2 月 9 日)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



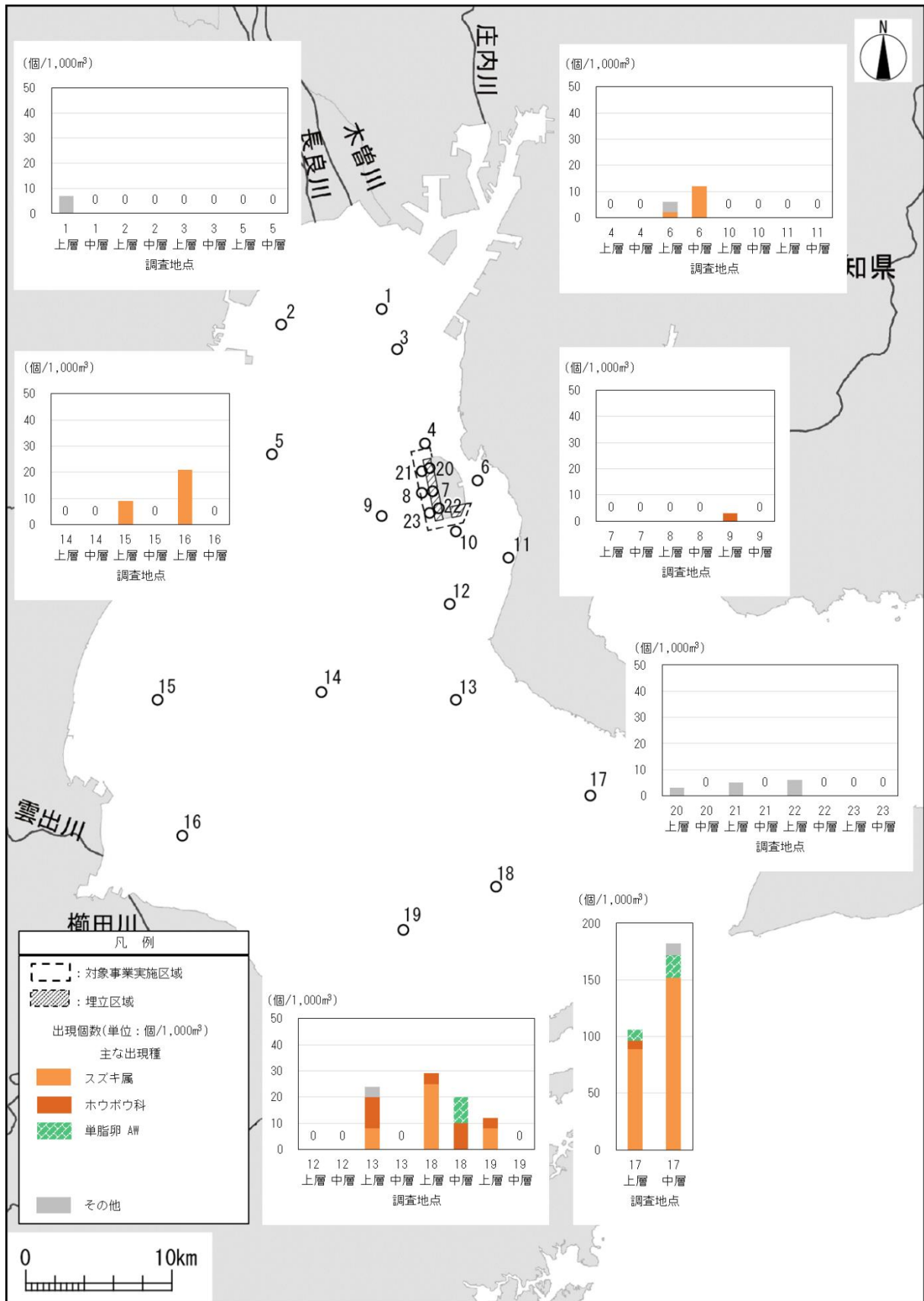
付図 8.8-5(12) 魚卵出現状況 (平成 28 年 5 月 17 日)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-5(14) 魚卵出現状況 (平成 28 年 11 月 15 日)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-5(15) 魚卵出現状況 (平成 29 年 2 月 15 日)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-7(1) 稚仔魚出現状況 (平成 26 年度)

調査期日 項目	平成26年4月15日			平成26年4月29日			平成26年5月14日			平成26年5月28日		
出現種類数 〔82〕	8			16			14			18		
出現個体数 (個体/1,000m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	0	845	158	28	822	247	88	17,023	2,286	238	7,263	2,165
主な 出現種 (%)	カサゴ (46.4) ミミズハゼ属 (26.9)			ネズッコ科 (34.4) カサゴ (27.7) ハゼ科 (18.3)			カタクチイワシ (76.4) ネズッコ科 (15.0)			カタクチイワシ (52.7) ネズッコ科 (20.6) コノシロ (11.6)		

調査期日 項目	平成26年6月13日			平成26年6月27日			平成26年7月13日			平成26年8月24日		
出現種類数 〔82〕	18			26			34			31		
出現個体数 (個体/1,000m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	49	943	279	82	15,390	1,295	926	41,882	11,096	87	19,259	4,493
主な 出現種 (%)	ネズッコ科 (30.0) ハゼ科 (19.1) ナベカ属 (10.8)			カタクチイワシ (27.5) アジ科 (21.8) ネズッコ科 (14.1) ハゼ科 (11.8)			カタクチイワシ (31.8) サッパ (28.1)			サッパ (42.1) 不明稚仔魚 (13.4) シロギス (10.6)		

調査期日 項目	平成26年9月9日			平成26年10月8日			平成26年11月8日			平成26年12月8日		
出現種類数 〔82〕	43			31			22			20		
出現個体数 (個体/1,000m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	559	16,944	4,806	61	6,177	1,424	31	4,319	1,244	732	13,388	4,065
主な 出現種 (%)	ネズッコ科 (53.3) ウシノシタ科 (10.1)			カタクチイワシ (31.3) ネズッコ科 (29.7) ハゼ科 (17.8) ウシノシタ科 (12.0)			ネズッコ科 (70.3) カタクチイワシ (15.6)			カタクチイワシ (34.7) ネズッコ科 (25.6) マイワシ (17.0) カサゴ (10.4)		

調査期日 項目	平成27年1月6日			平成27年2月4日			平成27年3月6日			平成27年3月20日		
出現種類数 〔82〕	19			12			16			7		
出現個体数 (個体/1,000m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	156	9,447	1,815	42	758	273	0	716	170	10	661	214
主な 出現種 (%)	カサゴ (33.2) イシガレイ (18.6) イカナゴ (17.3)			カサゴ (42.3) ハゼ科 (27.7)			ハゼ科 (40.6) ミミズハゼ属 (25.3) カサゴ (23.1)			カサゴ (50.9) ミミズハゼ属 (25.1) ハゼ科 (20.5)		

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個体数に対する比(%)を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示すが、不明稚仔魚は総出現種類数に含めない。
 4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年)より作成〕

付表 8.8-7(2) 稚仔魚出現状況 (平成 27 年度 4~8 月)

調査期日		平成27年4月19日			平成27年5月2日			平成27年5月19日			平成27年6月1日		
項目													
出現種類数 [122]		13			21			18			29		
出現個体数 (個体/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		0	489	108	190	67,057	10,638	0	392	83	0	3,967	444
中層		0	1,733	277	1,148	62,687	11,787	0	1,419	241	0	6,060	1,028
全層		0	1,733	192	190	67,057	11,213	0	1,419	162	0	6,060	736
主な出現種 (%)	上層	カサゴ (76.1) ネズッコ科 (11.0)			コノシロ (64.5) タイ科 (14.8)			ハゼ科 (43.4) ヒメイカ (16.8) イソギンボ (15.2)			ネズッコ科 (39.5) ハゼ科 (18.9) コノシロ (13.6) クロダイ (11.4)		
	中層	カサゴ (65.4) ミミズハゼ属 (26.3)			ネズッコ科 (40.4) タイ科 (21.7) コノシロ (19.7)			ハゼ科 (49.9) ヒメイカ (19.1) ミミズハゼ属 (18.7)			ネズッコ科 (42.8) カタクチイワシ (23.8) ハゼ科 (11.4)		
	全層	カサゴ (68.4) ミミズハゼ属 (21.5)			コノシロ (41.0) ネズッコ科 (23.7) タイ科 (18.4)			ハゼ科 (48.2) ヒメイカ (18.5) ミミズハゼ属 (13.9)			ネズッコ科 (41.8) カタクチイワシ (18.6) ハゼ科 (13.7)		

調査期日		平成27年6月16日			平成27年7月1日			平成27年7月20日			平成27年8月15日		
項目													
出現種類数 [122]		34			32			38			59		
出現個体数 (個体/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		12	19,384	1,746	0	991	167	316	6,680	1,932	59	14,407	4,784
中層		0	70,997	7,228	0	1,915	419	163	12,751	3,414	260	173,022	19,758
全層		0	70,997	4,487	0	1,915	293	163	12,751	2,673	59	173,022	12,271
主な出現種 (%)	上層	アジ科 (64.5) ネズッコ科 (15.3) カタクチイワシ (13.8)			カタクチイワシ (25.1) ハゼ科 (18.1) 不明稚仔魚 (13.9) ネズッコ科 (10.1)			サッパ (54.9)			カタクチイワシ (26.0) アジ科 (16.3) ハゼ科 (14.6) サッパ (13.0) シロギス (11.4)		
	中層	アジ科 (47.6) カタクチイワシ (28.3) ネズッコ科 (19.5)			ハゼ科 (36.6) ネズッコ科 (22.3) カタクチイワシ (21.0)			サッパ (23.1) アジ科 (22.8) カタクチイワシ (19.6)			カタクチイワシ (64.3) サッパ (13.4)		
	全層	アジ科 (50.9) カタクチイワシ (25.5) ネズッコ科 (18.7)			ハゼ科 (31.3) カタクチイワシ (22.2) ネズッコ科 (18.8)			サッパ (34.6) アジ科 (16.6) カタクチイワシ (15.6)			カタクチイワシ (56.8) サッパ (13.3)		

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個体数に対する比(%)を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示すが、不明稚仔魚は総出現種類数に含めない。
 4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年)より作成〕

付表 8.8-7(3) 稚仔魚出現状況 (平成 27 年度 9~3 月)

調査期日		平成27年9月12日			平成27年10月13日			平成27年11月10日			平成27年12月12日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 〔122〕		44			44			34			26		
出現個体数 (個体/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		15	780	219	3	1,509	443	15	10,093	2,120	13	1,600	443
中層		45	1,551	312	14	3,337	590	38	21,638	5,591	86	1,252	469
全層		15	1,551	265	3	3,337	516	15	21,638	3,855	13	1,600	456
主 な 出現種 (%)	上層	ハゼ科 (29.1) ネズッコ科 (22.6) シロギス (20.3) イソギンポ (10.7)			ネズッコ科 (33.8) ハゼ科 (24.0) カタクチイワシ (17.0)			カタクチイワシ (61.3) アユ (14.8)			カタクチイワシ (32.6) カサゴ (23.6) アユ (18.2) ネズッコ科 (15.6)		
	中層	ハゼ科 (35.2) ネズッコ科 (23.1)			ネズッコ科 (22.4) ハゼ科 (21.5) カタクチイワシ (17.3) イソギンポ (11.0)			カタクチイワシ (75.5) ネズッコ科 (10.2)			ネズッコ科 (36.7) カタクチイワシ (24.1) カサゴ (21.2) マイワシ (13.2)		
	全層	ハゼ科 (32.7) ネズッコ科 (22.9) シロギス (12.4)			ネズッコ科 (27.3) ハゼ科 (22.6) カタクチイワシ (17.2)			カタクチイワシ (71.6)			カタクチイワシ (28.2) ネズッコ科 (26.5) カサゴ (22.4) マイワシ (10.8) アユ (10.0)		

調査期日		平成28年1月9日			平成28年2月9日			平成28年3月8日			平成28年3月22日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 〔122〕		20			15			13			11		
出現個体数 (個体/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		15	1,672	440	0	249	47	0	816	137	0	1,302	172
中層		82	2,628	904	0	894	140	0	1,215	346	0	1,181	335
全層		15	2,628	672	0	894	94	0	1,215	241	0	1,302	253
主 な 出現種 (%)	上層	マイワシ (38.0) カサゴ (27.1) スズキ属 (16.6) イシガレイ (11.8)			カサゴ (57.6) スズキ属 (15.2) マイワシ (10.2)			カサゴ (58.0) ミミズハゼ属 (39.5)			ミミズハゼ属 (71.7) カサゴ (17.3) ハゼ科 (10.4)		
	中層	マイワシ (32.9) カサゴ (24.6) スズキ属 (19.2) イシガレイ (17.1)			カサゴ (52.6) ハゼ科 (15.4)			カサゴ (51.5) ミミズハゼ属 (39.9)			ミミズハゼ属 (62.5) カサゴ (20.2) ハゼ科 (15.5)		
	全層	マイワシ (34.6) カサゴ (25.4) スズキ属 (18.3) イシガレイ (15.3)			カサゴ (53.9) ハゼ科 (13.4) スズキ属 (10.4)			カサゴ (53.3) ミミズハゼ属 (39.8)			ミミズハゼ属 (65.6) カサゴ (19.3) ハゼ科 (13.8)		

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個体数に対する比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示すが、不明稚仔魚は総出現種類数に含めない。
 4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕

付表 8.8-7(4) 稚仔魚出現状況 (平成 28 年度 4~8 月)

調査期日 項目		平成28年4月19日			平成28年5月7日			平成28年5月17日			平成28年6月4日		
出現種類数 〔122〕		21			19			30			36		
出現個体数 (個体/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		0	1,719	333	25	1,703	366	21	2,457	683	9	1,553	314
中層		0	1,912	361	58	2,656	537	66	7,217	1,694	0	3,301	720
全層		0	1,912	347	25	2,656	452	21	7,217	1,188	0	3,301	517
主 な 出現種 (%)	上層	ウキゴリ属 (73.7)			ネズッコ科 (50.5) カタクチイワシ (18.8) コノシロ (15.5)			カタクチイワシ (46.7) ハゼ科 (18.5) コノシロ (14.4)			カタクチイワシ (53.1) ハゼ科 (13.5)		
	中層	ウキゴリ属 (64.8) カサゴ (12.3) ハゼ科 (12.3)			ネズッコ科 (31.2) コノシロ (31.0) カタクチイワシ (19.8)			カタクチイワシ (70.2) ネズッコ科 (11.5)			カタクチイワシ (56.1) ハゼ科 (10.3)		
	全層	ウキゴリ属 (69.1) カサゴ (10.1)			ネズッコ科 (39.0) コノシロ (24.7) カタクチイワシ (19.4)			カタクチイワシ (63.4) ネズッコ科 (10.6)			カタクチイワシ (55.2) ハゼ科 (11.3)		

調査期日 項目		平成28年6月18日			平成28年7月5日			平成28年7月19日			平成28年8月16日		
出現種類数 〔122〕		41			44			39			54		
出現個体数 (個体/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		21	13,196	2,087	28	6,395	810	22	18,791	1,450	339	74,852	22,286
中層		44	24,337	4,415	9	14,191	1,373	83	60,028	5,064	343	156,240	31,009
全層		21	24,337	3,251	9	14,191	1,085	22	60,028	3,257	339	156,240	26,647
主 な 出現種 (%)	上層	カタクチイワシ (53.1) ネズッコ科 (14.3) ハゼ科 (11.9)			カタクチイワシ (20.4) サツパ (19.1) ハゼ科 (14.3)			カタクチイワシ (66.8)			カタクチイワシ (67.8) サツパ (10.3)		
	中層	カタクチイワシ (38.8) ネズッコ科 (27.5) アジ科 (15.8)			カタクチイワシ (31.1) アジ科 (27.4)			カタクチイワシ (68.5) アジ科 (11.6)			カタクチイワシ (79.4)		
	全層	カタクチイワシ (43.4) ネズッコ科 (23.3) アジ科 (12.5)			カタクチイワシ (27.0) アジ科 (20.1)			カタクチイワシ (68.1) アジ科 (10.9)			カタクチイワシ (74.6)		

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個体数に対する比(%)を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示すが、不明稚仔魚は総出現種類数に含めない。
 4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

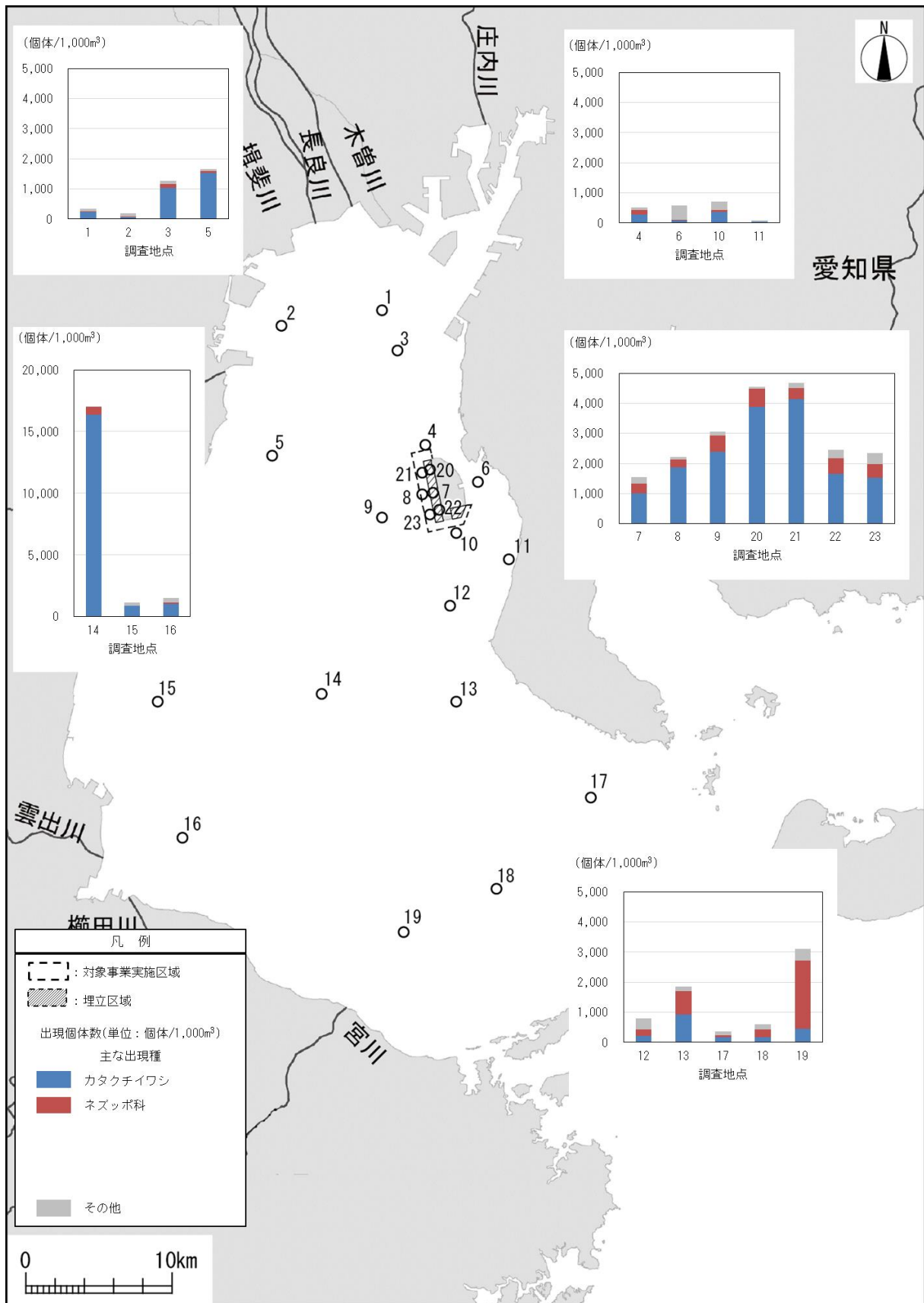
付表 8.8-7(5) 稚仔魚出現状況 (平成 28 年度 9~3 月)

調査期日		平成28年9月17日			平成28年10月15日			平成28年11月15日			平成28年12月13日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 [122]		42			45			35			26		
出現個体数 (個体/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		19	2,524	444	4	5,007	697	26	3,334	1,259	50	1,588	524
中層		0	38,163	2,378	12	4,336	858	139	24,045	5,910	181	3,284	1,181
全層		0	38,163	1,411	4	5,007	777	26	24,045	3,584	50	3,284	852
主な出現種 (%)	上層	カタクチイワシ (46.1) ハゼ科 (21.0) ネズッコ科 (12.2)			ハゼ科 (52.0) ネズッコ科 (19.4) カタクチイワシ (18.7)			カタクチイワシ (53.5) ネズッコ科 (24.0) マイワシ (12.7)			マイワシ (50.5) カタクチイワシ (17.4) カサゴ (16.9)		
	中層	カタクチイワシ (75.4)			カタクチイワシ (57.5) ネズッコ科 (29.4)			カタクチイワシ (56.7) ネズッコ科 (23.5) マイワシ (16.5)			マイワシ (46.6) カタクチイワシ (23.0) カサゴ (19.5)		
	全層	カタクチイワシ (70.8)			カタクチイワシ (40.1) ハゼ科 (26.4) ネズッコ科 (24.9)			カタクチイワシ (56.1) ネズッコ科 (23.6) マイワシ (15.8)			マイワシ (47.8) カタクチイワシ (21.2) カサゴ (18.7)		

調査期日		平成29年1月28日			平成29年2月15日			平成29年3月1日			平成29年3月11日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 [122]		19			17			18			12		
出現個体数 (個体/1,000m ³)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		0	389	115	6	666	125	0	726	117	4	911	162
中層		23	1,020	307	26	1,565	348	24	1,552	414	16	3,788	499
全層		0	1,020	211	6	1,565	237	0	1,552	265	4	3,788	331
主な出現種 (%)	上層	カサゴ (60.1) スズキ属 (16.4)			カサゴ (82.8)			カサゴ (62.3) ミミズハゼ属 (30.5)			ミミズハゼ属 (66.5) カサゴ (28.6)		
	中層	カサゴ (48.2) スズキ属 (18.9)			カサゴ (73.8) ミミズハゼ属 (13.1)			ミミズハゼ属 (59.4) カサゴ (22.0) ハゼ科 (16.1)			ミミズハゼ属 (62.5) カサゴ (20.5) ハゼ科 (16.2)		
	全層	カサゴ (51.4) スズキ属 (18.2)			カサゴ (76.2) ミミズハゼ属 (11.4)			ミミズハゼ属 (53.1) カサゴ (30.9) ハゼ科 (13.2)			ミミズハゼ属 (63.5) カサゴ (22.4) ハゼ科 (13.3)		

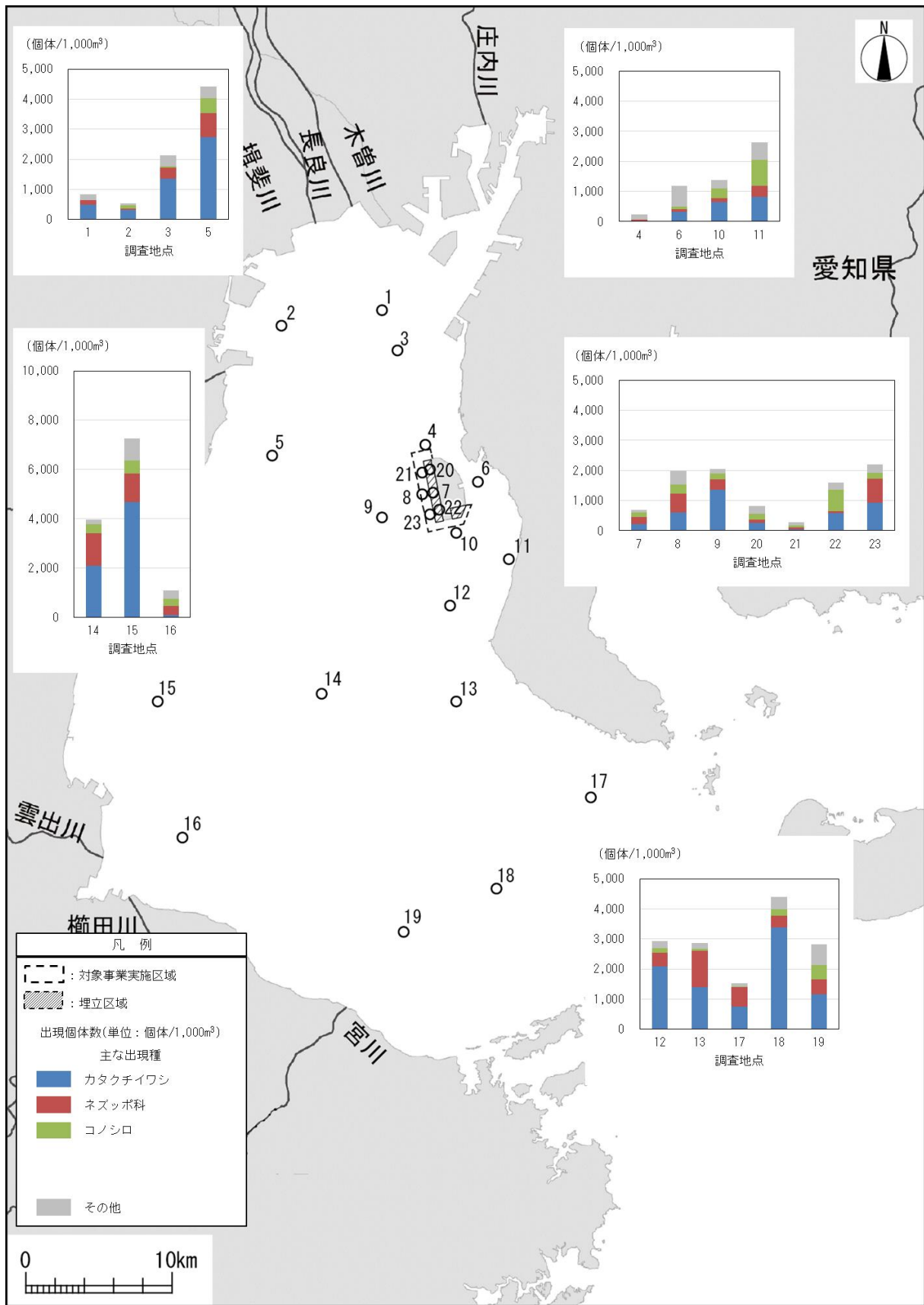
- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個体数に対する比(%)を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示すが、不明稚仔魚は総出現種類数に含めない。
 4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



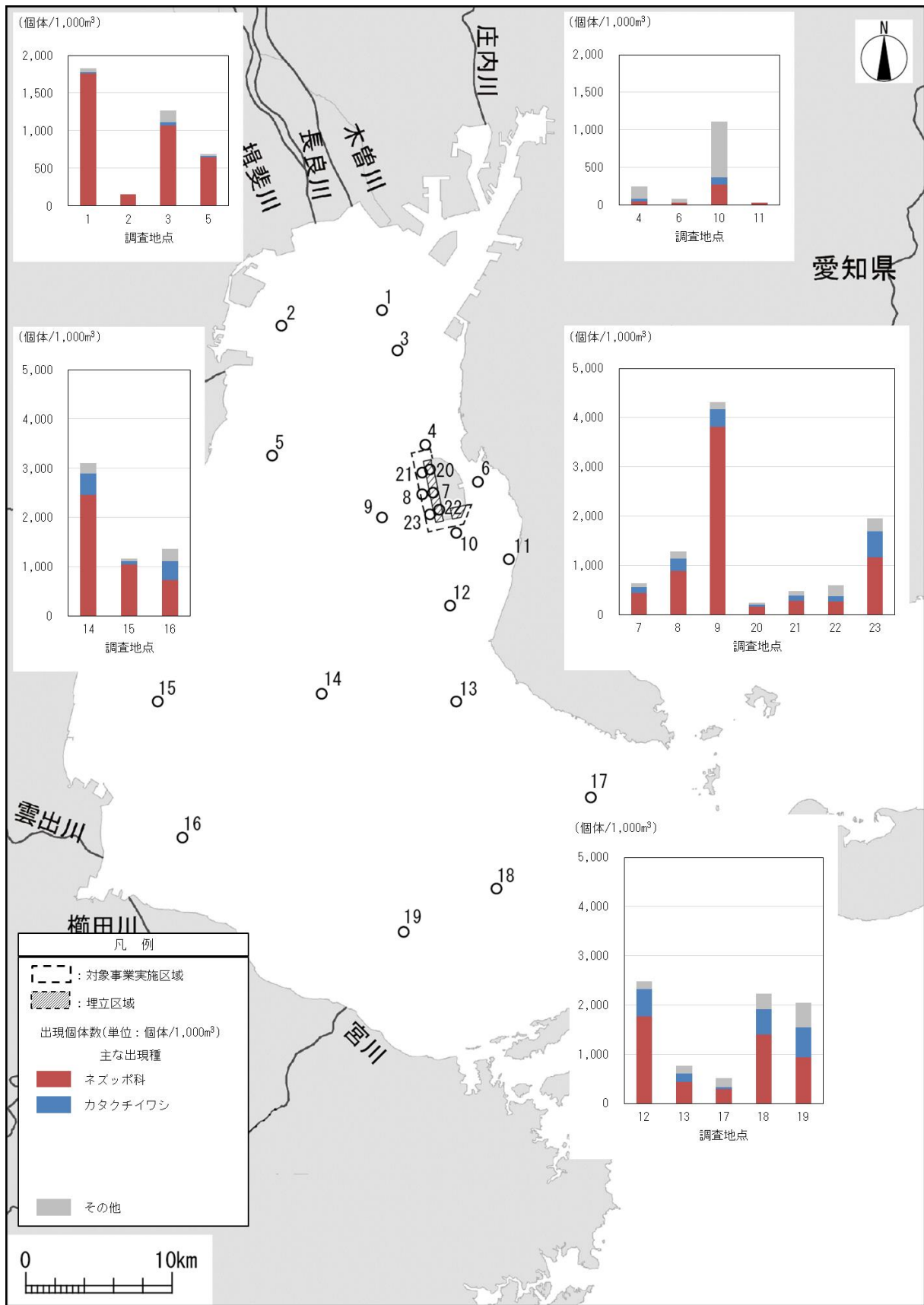
付図 8.8-6(1) 稚仔魚出現状況 (平成 26 年 5 月 14 日)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



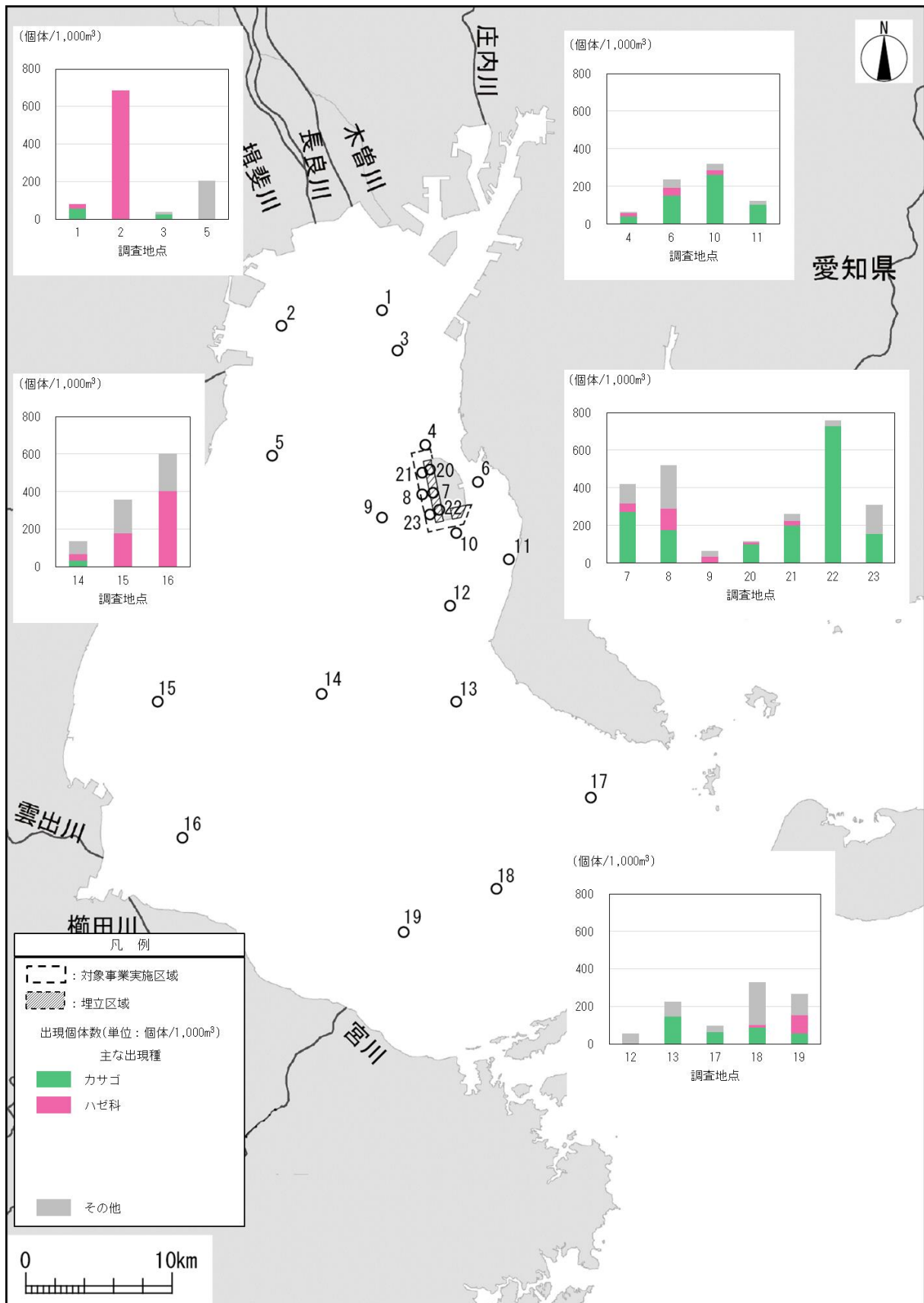
付図 8.8-6(2) 稚子魚出現状況 (平成 26 年 5 月 28 日)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



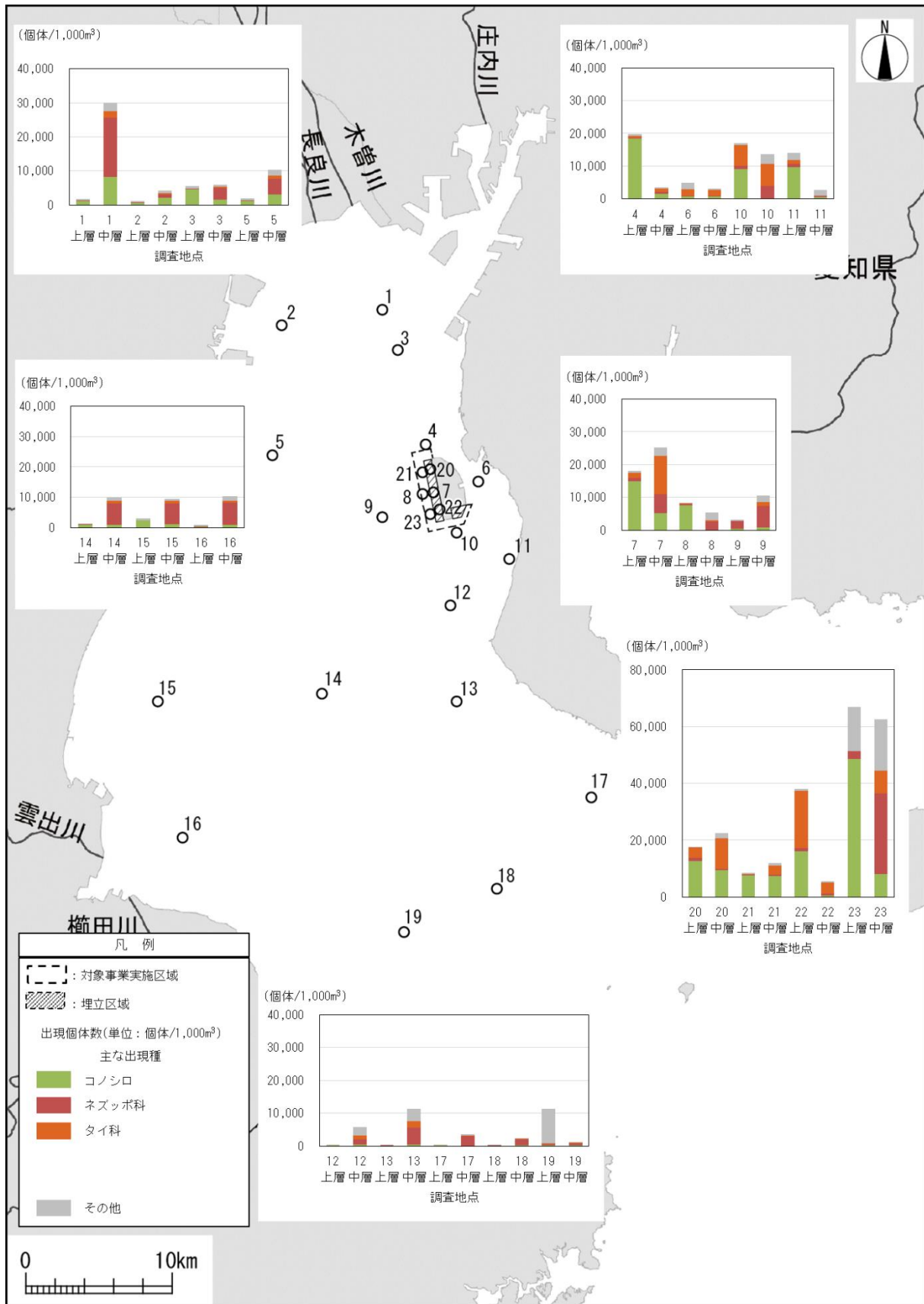
付図 8.8-6(4) 稚仔魚出現状況 (平成 26 年 11 月 8 日)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



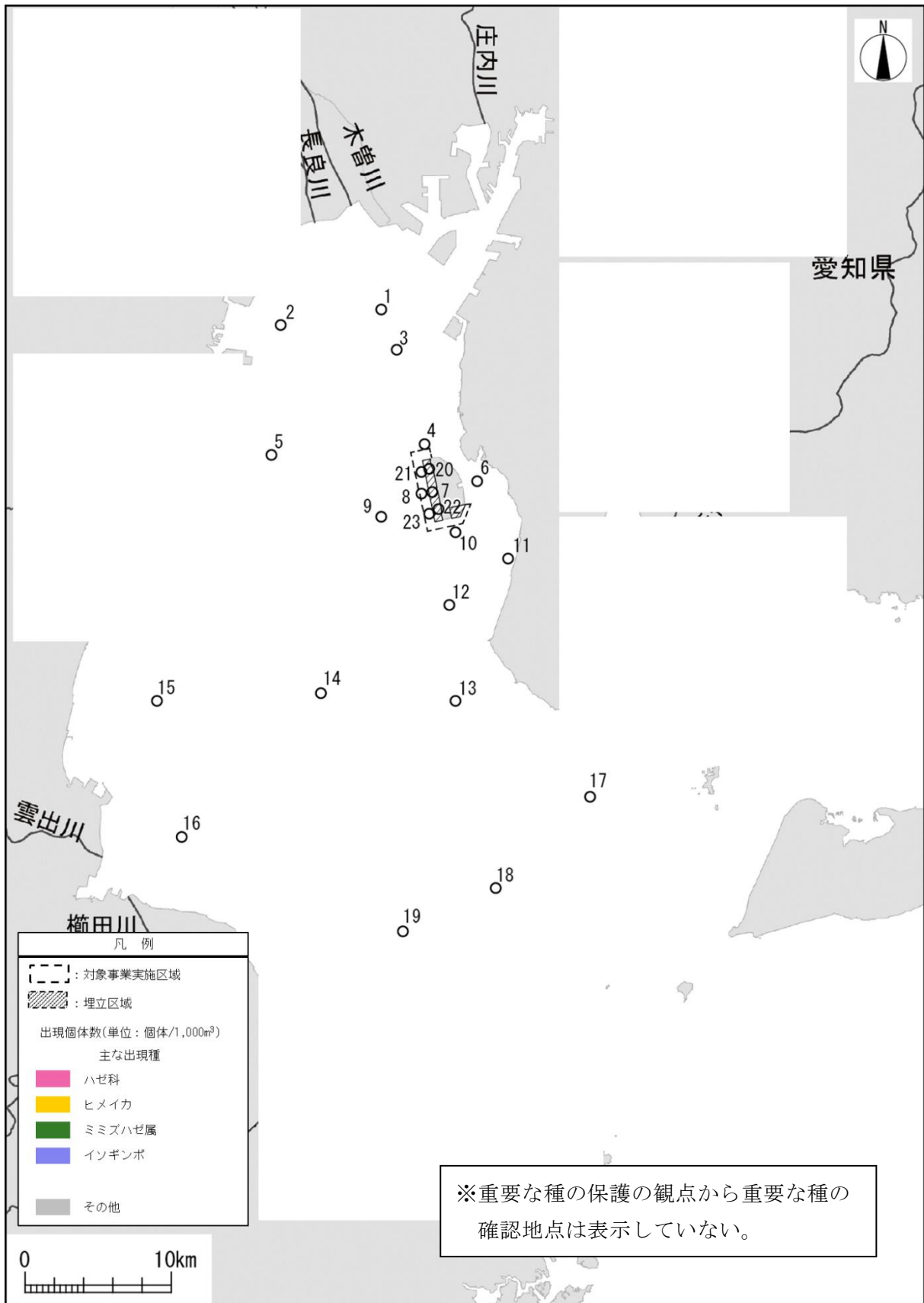
付図 8.8-6(5) 稚子魚出現状況 (平成 27 年 2 月 4 日)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



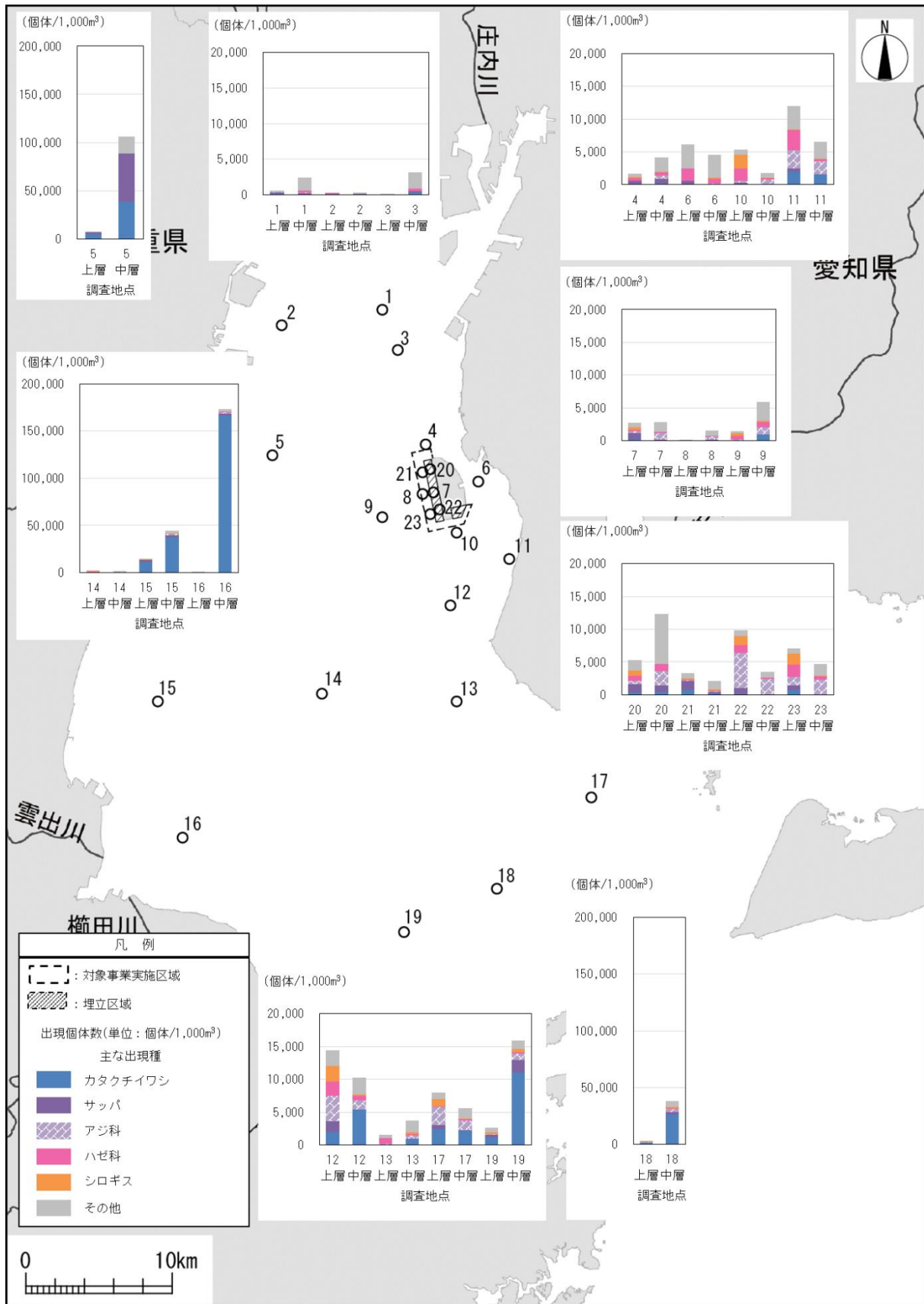
付図 8.8-6(6) 稚仔魚出現状況 (平成 27 年 5 月 2 日)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



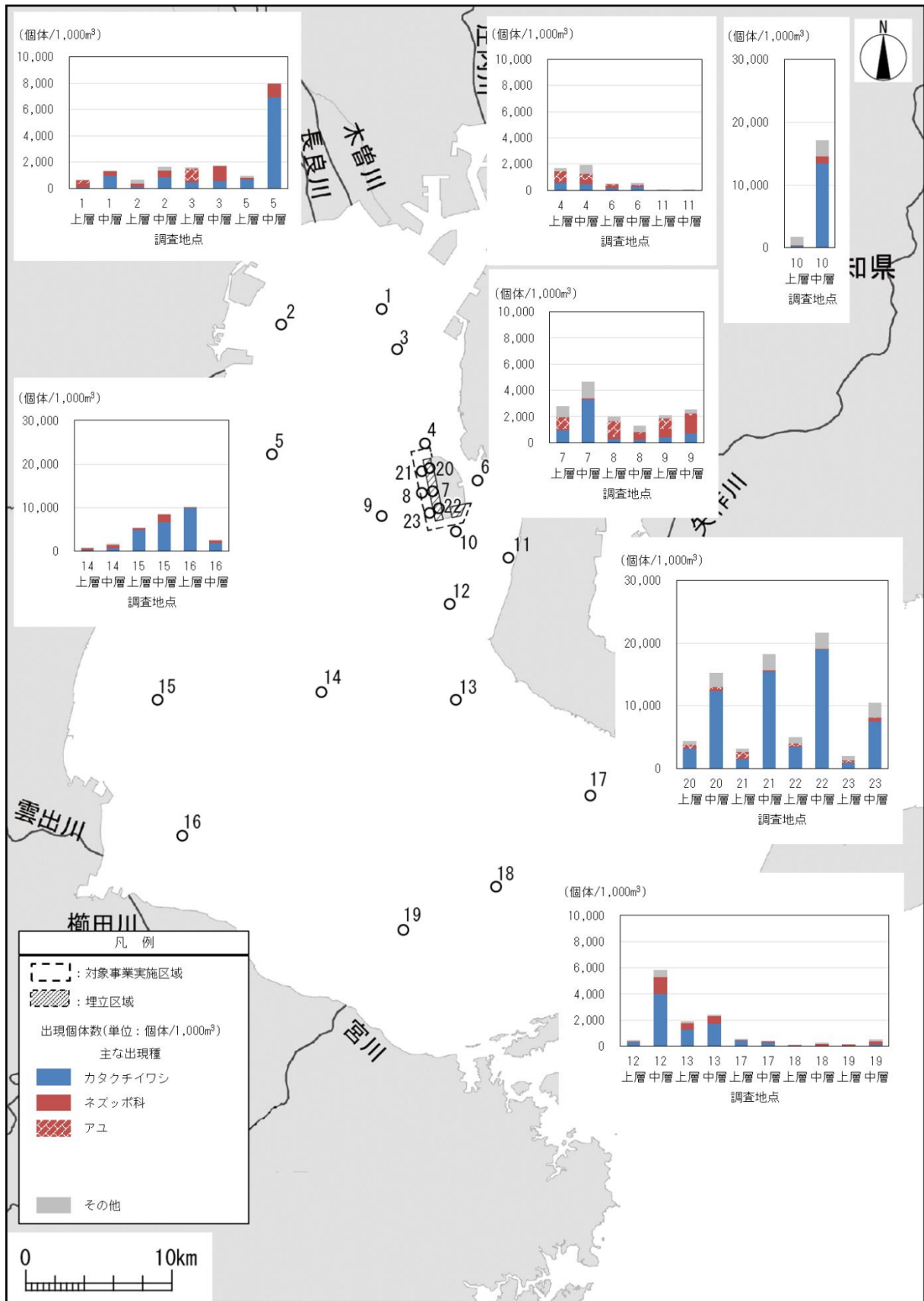
付図 8.8-6(7) 稚仔魚出現状況 (平成 27 年 5 月 19 日)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



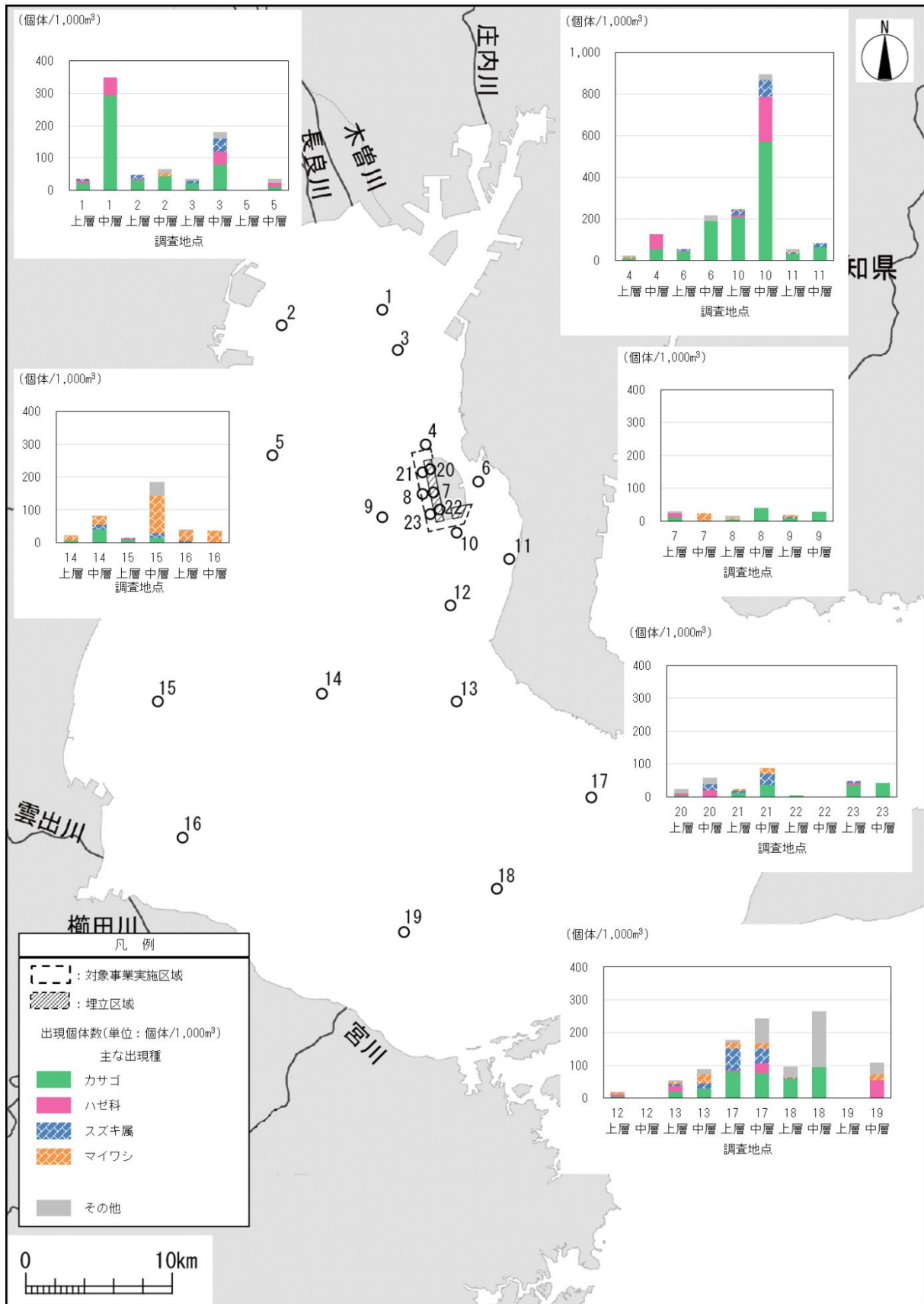
付図 8.8-6(8) 稚仔魚出現状況 (平成 27 年 8 月 15 日)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



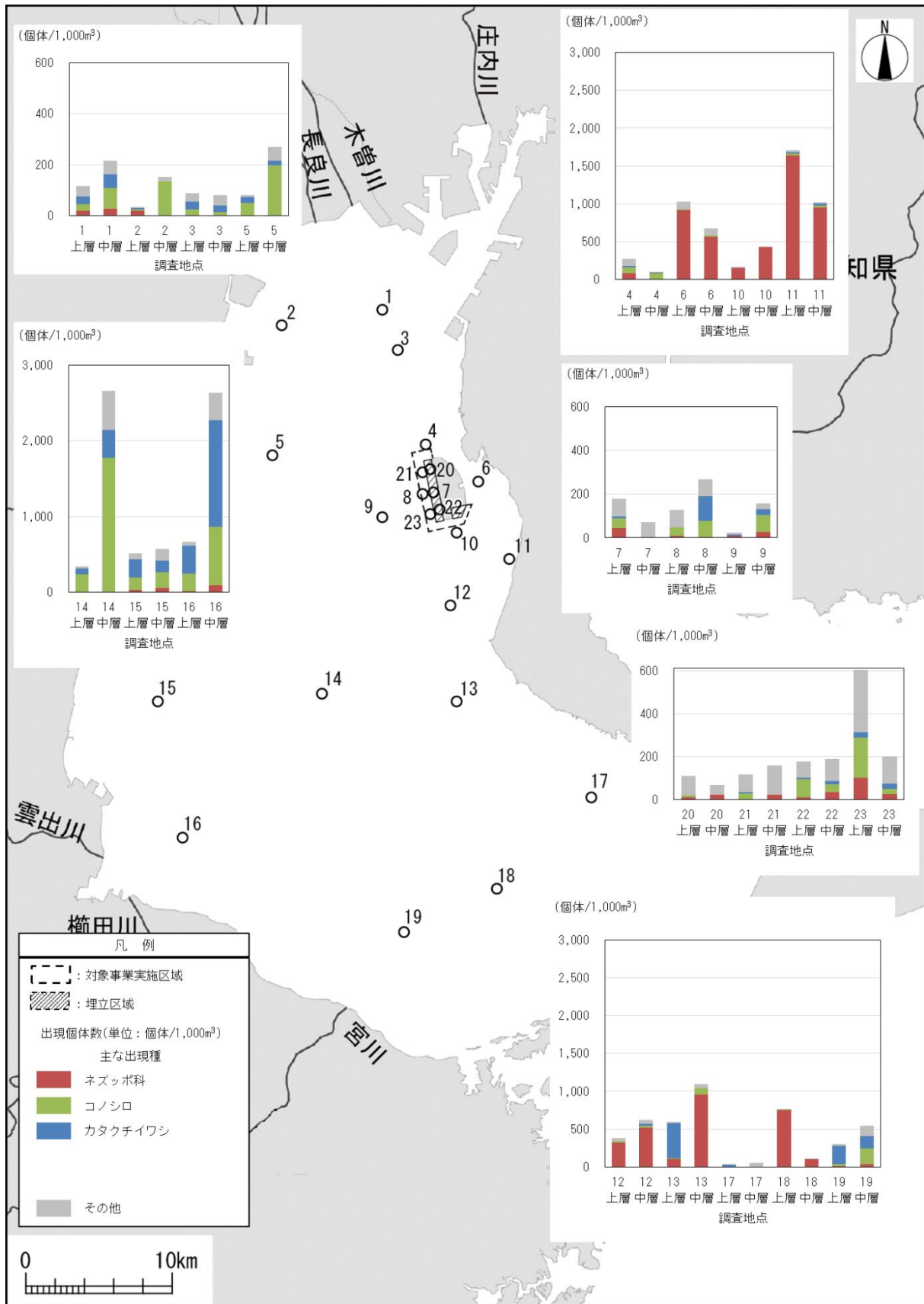
付図 8.8-6(9) 稚仔魚出現状況 (平成 27 年 11 月 10 日)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



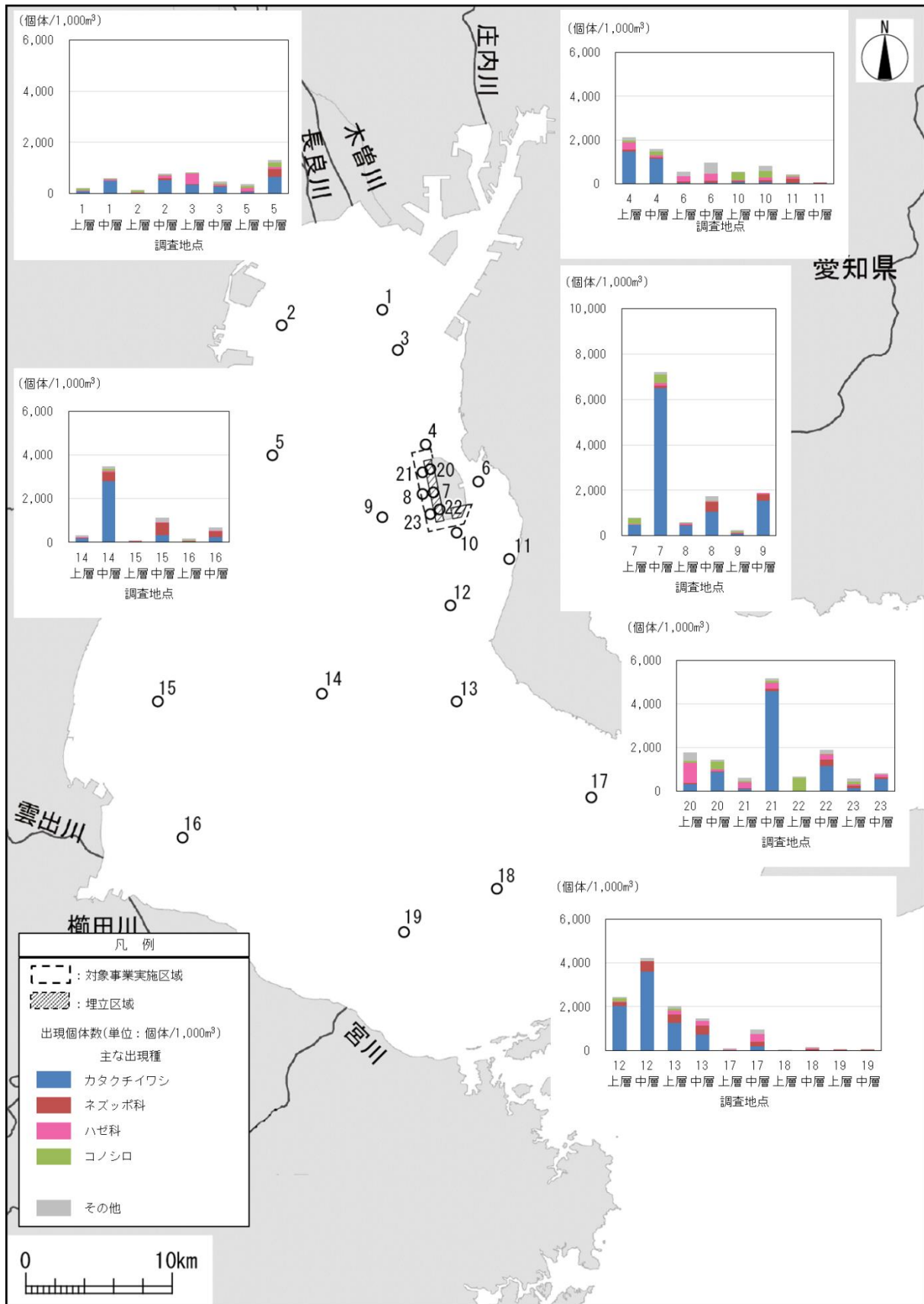
付図 8.8-6(10) 稚仔魚出現状況（平成 28 年 2 月 9 日）

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成



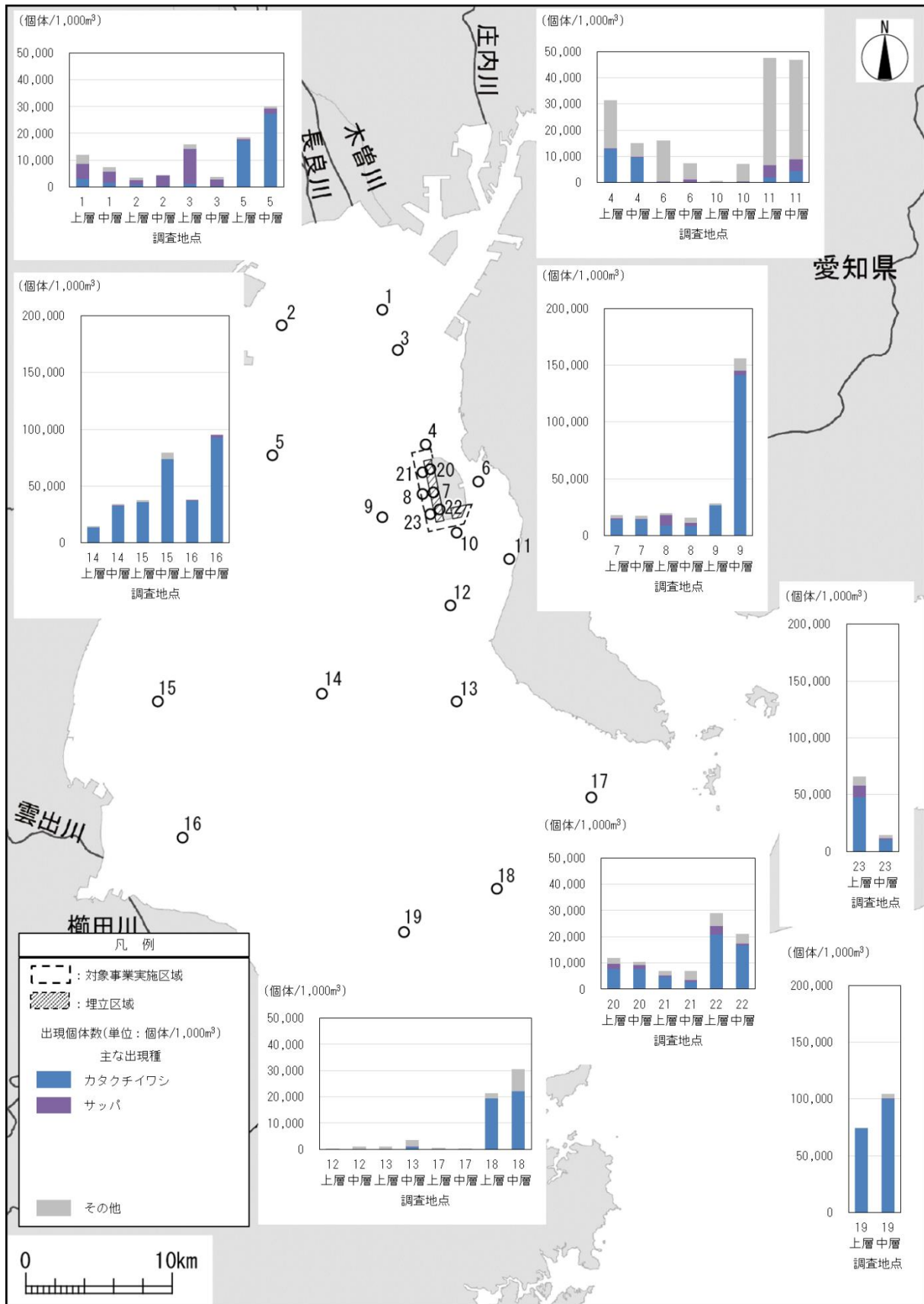
付図 8.8-6(11) 稚仔魚出現状況 (平成 28 年 5 月 7 日)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



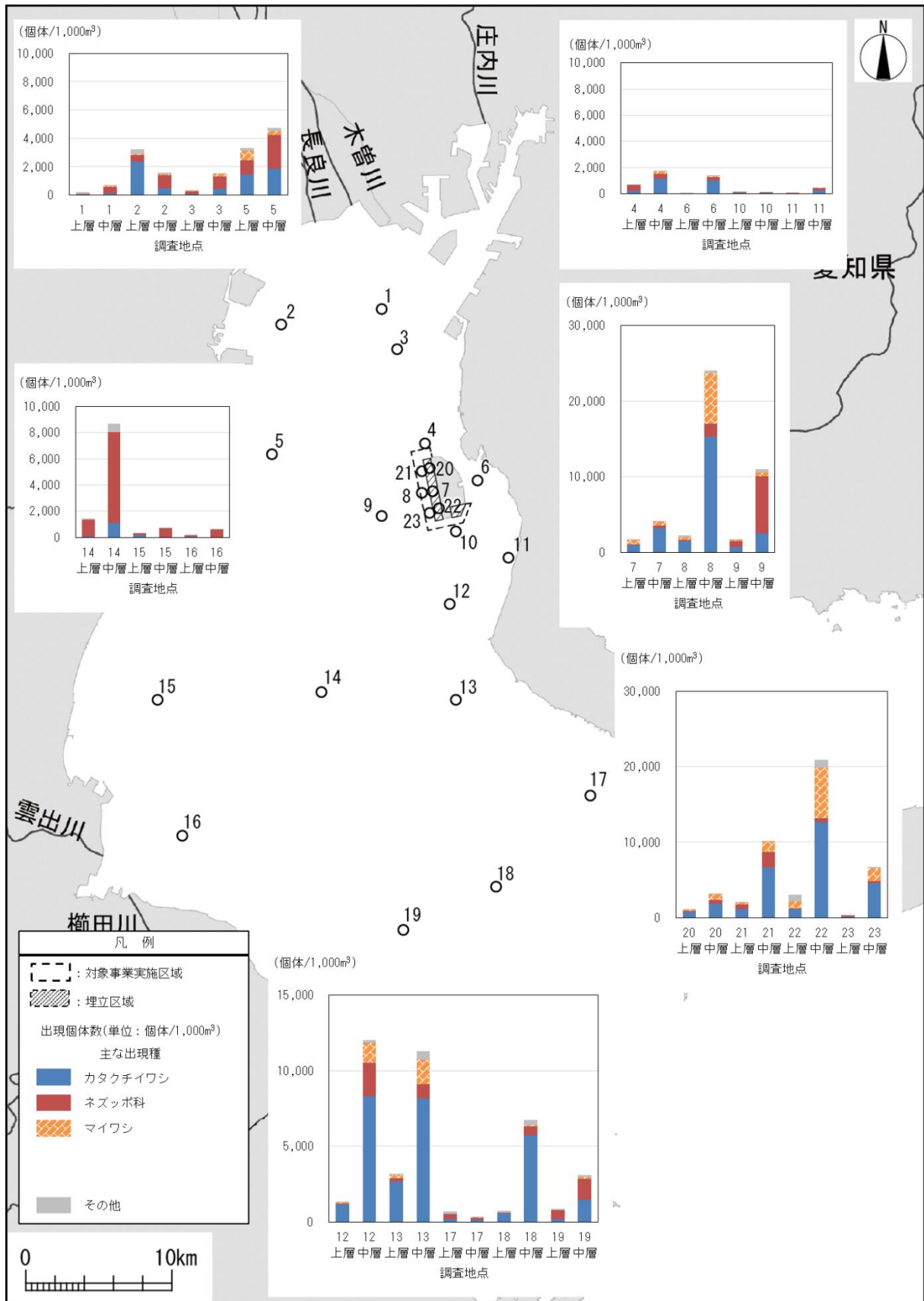
付図 8.8-6(12) 稚仔魚出現状況 (平成 28 年 5 月 17 日)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



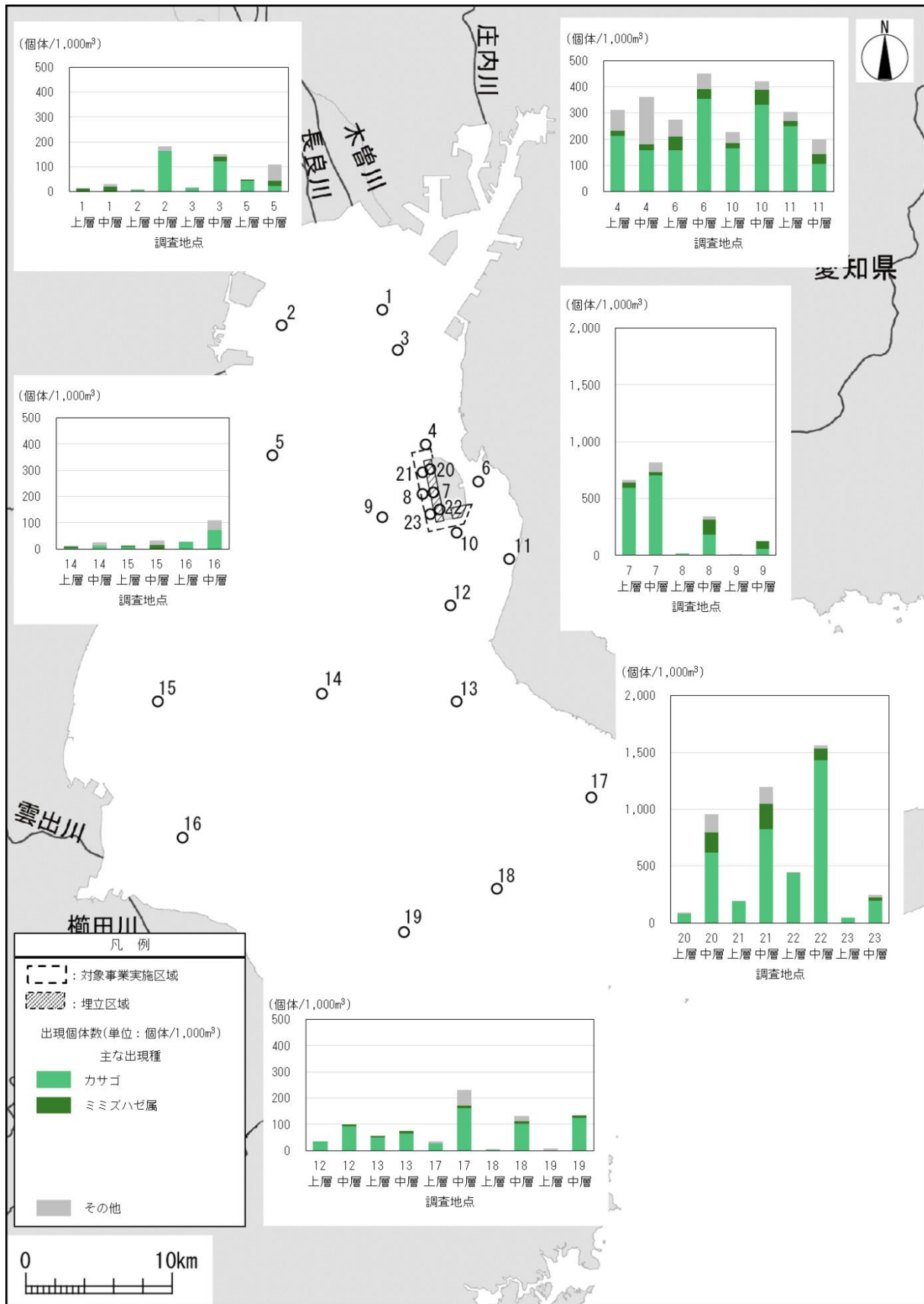
付図 8.8-6(13) 稚仔魚出現状況 (平成 28 年 8 月 16 日)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-6(14) 稚仔魚出現状況 (平成 28 年 11 月 15 日)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-6(15) 稚仔魚出現状況 (平成 29 年 2 月 15 日)

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-8(1) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 26 年度 4～11 月）

調査期日		平成26年4月22、23、26日	平成26年5月26～28、31日	平成26年6月23～26日	平成26年7月21～23日
出現種類数 〔288〕	魚類	50	51	61	60
	その他	75	74	73	91
	合計	125	125	134	151
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	352 (11.2)	351 (11.5)	1,230 (22.5)	686 (11.6)
	その他	2,791 (88.8)	2,705 (88.5)	4,241 (77.5)	5,205 (88.4)
	合計	3,143	3,056	5,471	5,891
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	9,770.1 (41.9)	6,912.6 (38.1)	9,280.1 (27.1)	11,204.1 (20.1)
	その他	13,523.6 (58.1)	11,216.3 (61.9)	24,923.9 (72.9)	44,638.2 (79.9)
	合計	23,293.7	18,128.9	34,203.9	55,842.3
主な 出現種 (%)	個体数	モミジガイ (43.6) シャコ (10.3)	モミジガイ (29.7) シャコ (16.4) フタホシイシガニ (13.5) スナヒトデ (10.5)	シャコ (22.7) モミジガイ (20.4) フタホシイシガニ (16.3) ハタタテヌメリ (12.5)	シャコ (34.2) ケブカエンコウガニ (21.6) モミジガイ (12.8)
	湿重量	トカゲエソ (16.5) スナヒトデ (13.4) アカエイ (12.7) モミジガイ (10.9)	シャコ (20.6) アカエイ (13.5) スナヒトデ (12.1)	シャコ (30.4) フタホシイシガニ (13.8)	シャコ (40.8) オカメブンプク (10.3)

調査期日		平成26年8月25～27日	平成26年9月23～27日	平成26年10月29、30日、11月1日	平成26年11月25、26、29日
出現種類数 〔288〕	魚類	59	54	58	68
	その他	80	72	58	70
	合計	139	126	116	138
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	476 (9.7)	565 (29.1)	1,562 (70.1)	1,121 (42.4)
	その他	4,447 (90.3)	1,375 (70.9)	665 (20.9)	1,523 (57.6)
	合計	4,923	1,940	2,227	2,644
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	7,227.9 (20.2)	7,835.8 (53.2)	15,049.8 (77.1)	25,176.4 (78.1)
	その他	28,623.7 (79.8)	6,903.2 (46.8)	4,464.0 (22.9)	7,063.9 (21.9)
	合計	35,851.6	14,739.0	19,513.8	32,240.3
主な 出現種 (%)	個体数	ケブカエンコウガニ (39.6) モミジガイ (26.9) シャコ (10.4)	モミジガイ (31.9) シャコ (10.5)	カタクチイワシ (23.4) ヒイラギ (21.7) ハタタテヌメリ (12.5) モミジガイ (12.3)	モミジガイ (21.3) ヒイラギ (13.2)
	湿重量	ケブカエンコウガニ (20.5) シャコ (15.0) タイラギ (14.3)	アカエイ (16.7) シャコ (13.8) モミジガイ (12.7)	カタクチイワシ (17.1) アカエイ (14.7) ヒイラギ (13.1)	アカエイ (19.8) マイワシ (18.9) スズキ (10.3)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。
4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

付表 8.8-8(2) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 26 年度 12～3 月）

調査期日		平成26年12月16、19、 20日	平成27年1月20～22日	平成27年2月11～12、 17～18日	平成27年3月13～14、 16～17日
出現種類数 〔288〕	魚類	69	51	49	42
	その他	72	77	77	75
	合計	141	128	126	117
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	647 (35.8)	237 (11.3)	141 (9.6)	171 (10.2)
	その他	1,162 (64.2)	1,852 (88.7)	1,331 (90.4)	1,507 (89.8)
	合計	1,809	2,089	1,472	1,678
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	19,836.1 (78.2)	10,774.1 (61.8)	3,032.5 (34.6)	3,368.4 (34.5)
	その他	5,541.7 (21.8)	6,669.4 (38.2)	5,744.1 (65.4)	6,385.0 (65.5)
	合計	25,377.8	17,443.5	8,776.6	9,753.4
主な 出現種 (%)	個体数	モミジガイ (21.1) ヤリイカ科 (10.6)	モミジガイ (45.6)	モミジガイ (32.3)	モミジガイ (32.9)
	湿重量	スズキ (25.5) アカエイ (23.3)	アカエイ (51.3) モミジガイ (10.9)	モミジガイ (18.5) アカエイ (16.7) スナヒトデ (11.8)	モミジガイ (13.4) シロボヤ科 (12.5) スズキ (12.2)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。
4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

付表 8. 8-8(3) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 27 年度 4～11 月）

調査期日		平成27年4月22～25、 29日	平成27年5月19～20、 22～23日	平成27年6月22～24日	平成27年7月20～22日
出現種類数 〔266〕	魚類	55	72	66	77
	その他	80	84	73	76
	合計	135	156	139	153
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	179 (6.7)	433 (14.0)	1,106 (34.1)	2,626 (51.5)
	その他	2,487 (93.3)	2,672 (86.0)	2,133 (65.9)	2,475 (48.5)
	合計	2,666	3,105	3,239	5,101
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	5,064.9 (32.9)	8,813.8 (41.4)	7,928.4 (37.4)	21,637.1 (49.6)
	その他	10,312.5 (67.1)	12,456.3 (58.6)	13,243.0 (62.6)	21,981.2 (50.4)
	合計	15,377.4	21,270.1	21,171.4	43,618.3
主な 出現種 (%)	個体数	モミジガイ (34.9) キセワタガイ (10.5)	モミジガイ (25.1) キセワタガイ (11.5) シャコ (10.7)	モミジガイ (22.3) カタクチイワシ (15.6) シャコ (15.3)	シャコ (22.5) カタクチイワシ (15.5) モミジガイ (14.2) マイワシ (13.3)
	湿重量	モミジガイ (23.1) クロダイ (11.4)	モミジガイ (17.5) スナヒトデ (11.6) アカエイ (11.5)	シャコ (14.8) モミジガイ (14.2)	シャコ (21.0) マイワシ (13.6) マダコ (13.0)

調査期日		平成27年8月18～19、 21～22日	平成27年9月14～16日	平成27年10月3日	平成27年11月17～18、 22～23日
出現種類数 〔266〕	魚類	62	70	68	73
	その他	74	72	69	79
	合計	136	142	137	152
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	1,979 (46.0)	2,031 (47.1)	509 (45.5)	506 (34.1)
	その他	2,328 (54.0)	2,286 (52.9)	611 (54.5)	978 (65.9)
	合計	4,307	4,317	1,120	1,484
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	22,196.7 (55.7)	27,548.4 (71.6)	10,396.4 (77.8)	10,530.9 (74.3)
	その他	17,684.6 (44.3)	10,952.7 (28.4)	2,967.7 (22.2)	3,637.1 (25.7)
	合計	39,881.3	38,501.1	13,364.1	14,168.0
主な 出現種 (%)	個体数	シャコ (28.3) カタクチイワシ (16.9) マイワシ (16.2) フタホシイシガニ (11.1)	モミジガイ (28.5) マイワシ (20.8) カタクチイワシ (17.6) シャコ (12.1)	モミジガイ (18.3) ヤリイカ科 (14.1) ウルメイワシ (11.5)	モミジガイ (24.9) テンジクダイ (14.2) スナヒトデ (13.5) ヤリイカ科 (11.5)
	湿重量	シャコ (24.6) マイワシ (20.2) アカエイ (10.3)	マイワシ (34.2) シャコ (12.4)	アカエイ (16.1) ウルメイワシ (12.2) マイワシ (11.0)	アカエイ (17.6) スズキ (15.8)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。
4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕

付表 8.8-8(4) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 27 年度 12～3 月）

調査期日		平成27年12月15～16、 20～21日	平成28年1月12～13、 15～16日	平成28年2月17～18、 20日	平成28年3月16～18日
出現種類数 〔266〕	魚類	67	60	51	53
	その他	79	72	66	75
	合計	146	132	117	128
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	331 (24.6)	228 (16.1)	315 (24.0)	94 (7.6)
	その他	1,015 (75.4)	1,184 (83.9)	998 (76.0)	1,145 (92.4)
	合計	1,346	1,412	1,313	1,239
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	7,598.2 (61.3)	6,153.6 (59.9)	5,423.4 (52.3)	2,211.6 (23.8)
	その他	4,790.6 (38.7)	4,111.4 (40.1)	4,941.6 (47.7)	7,075.3 (76.2)
	合計	12,388.8	10,265.0	10,365.0	9,286.9
主な 出現種 (%)	個体数	モミジガイ (30.5)	モミジガイ (38.2)	モミジガイ (35.4)	モミジガイ (20.7)
		ヤリイカ科 (16.4)	ウミエラ目 (13.1)	ヒイラギ (13.3)	スナヒトデ (11.2)
		スナヒトデ (11.8)	スナヒトデ (11.1)		
	湿重量	アカエイ (13.8)	モミジガイ (13.0)	モミジガイ (17.3)	モミジガイ (14.3)
		ヤリイカ科 (13.7)	アカエイ (12.6)	アカエイ (16.6)	シャコ (11.7)
		スズキ (10.2)	シログチ (12.2)		
		トカゲエソ (11.6)			

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比（%）を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。
4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成〕

付表 8. 8-8(5) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 28 年度 4～11 月）

項目		調査期日		平成28年6月14～15、 17、20日	平成28年7月21～23日
		平成28年4月23～25日	平成28年5月14～16日		
出現種類数 〔259〕	魚類	60	74	73	67
	その他	69	72	80	72
	合計	129	146	153	139
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	271 (16.6)	382 (16.8)	2,043 (51.2)	784 (37.5)
	その他	1,360 (83.4)	1,893 (83.2)	1,943 (48.8)	1,305 (62.5)
	合計	1,631	2,275	3,986	2,088
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	4,045.4 (37.5)	9,504.2 (49.6)	13,745.5 (52.5)	12,900.0 (59.1)
	その他	6,749.8 (62.5)	9,650.5 (50.4)	12,433.0 (47.5)	8,927.1 (40.9)
	合計	10,795.2	19,154.8	26,178.4	21,827.1
主な 出現種 (%)	個体数	モミジガイ (29.5) エビジャコ属 (13.9)	モミジガイ (24.2) エビジャコ属 (17.8)	スズキ (20.4) モミジガイ (14.1) マアジ (10.7)	モミジガイ (34.2) カタクチイワシ (16.5)
	湿重量	スナヒトデ (17.9) モミジガイ (15.6) アカエイ (10.7)	アカエイ (29.8) スナヒトデ (12.9) モミジガイ (10.1)	アカエイ (12.3)	モミジガイ (14.0) アカエイ (11.5)

項目		調査期日		平成28年10月18～20日	平成28年11月19、22日
		平成27年8月23～25日	平成28年9月21、 23～24日		
出現種類数 〔259〕	魚類	79	72	66	64
	その他	68	66	61	63
	合計	147	138	127	127
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	663 (27.6)	335 (17.8)	367 (22.7)	468 (33.6)
	その他	1,741 (72.4)	1,550 (82.2)	1,252 (77.3)	924 (66.4)
	合計	2,404	1,885	1,619	1,392
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	15,274.4 (64.5)	11,413.9 (60.5)	11,235.2 (69.3)	9,473.4 (69.8)
	その他	8,413.1 (35.5)	7,458.2 (39.5)	4,970.5 (30.7)	4,103.9 (30.2)
	合計	23,687.4	18,872.1	16,205.7	13,577.3
主な 出現種 (%)	個体数	モミジガイ (40.7)	モミジガイ (58.2)	モミジガイ (33.6) ウミエラ目 (11.8)	ヤリイカ科 (13.5) モミジガイ (13.2) オカメブンプク (12.3) オキヒイラギ (10.3)
	湿重量	アカエイ (18.4) モミジガイ (13.0)	モミジガイ (23.4) アカエイ (21.2)	アカエイ (20.3) モミジガイ (11.2)	アカエイ (23.2) スズキ (13.6)

注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。

- 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
- 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。
- 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

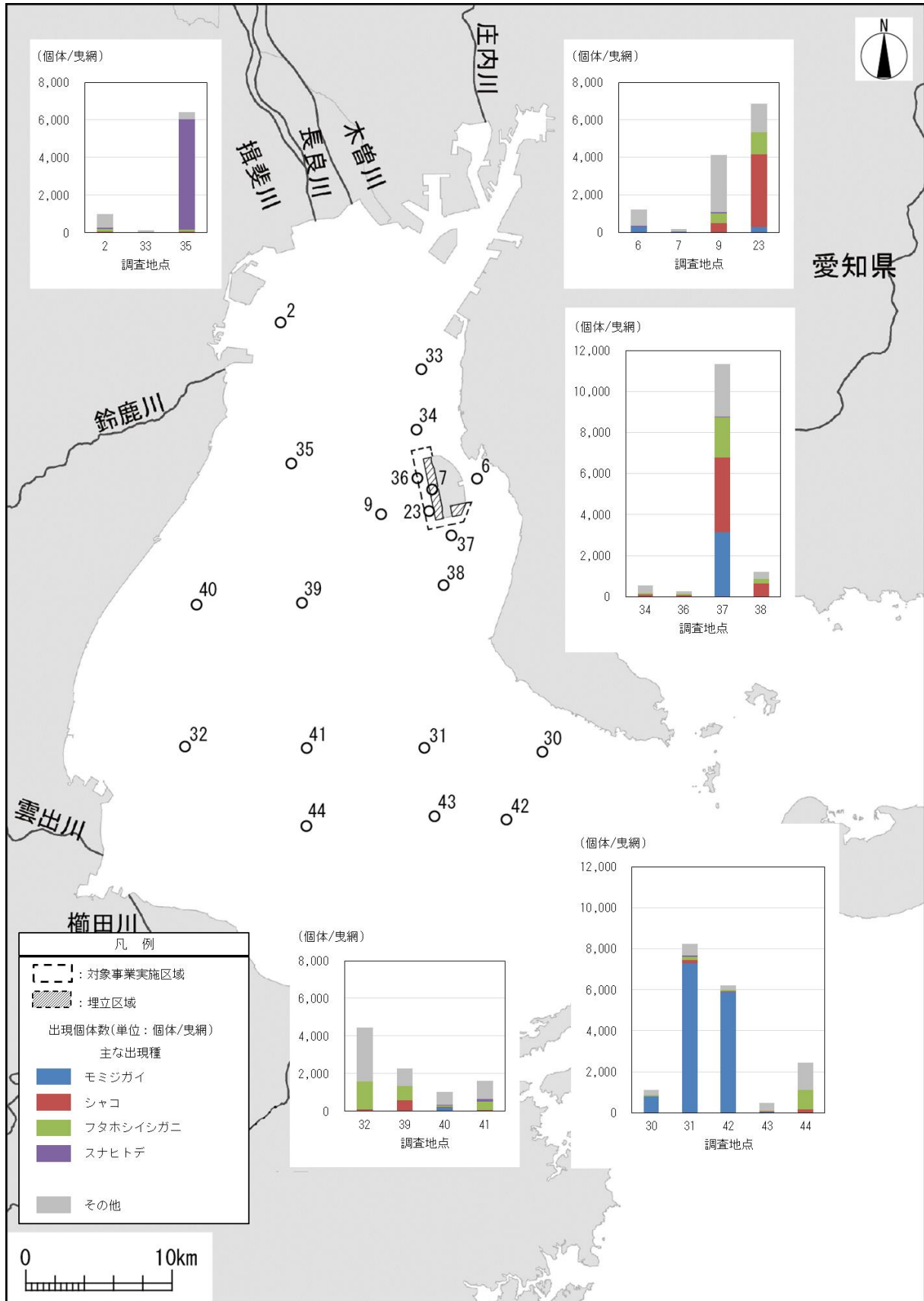
〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 29 年〕より作成

付表 8.8-8(6) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 28 年度 12～3 月）

調査期日		平成28年12月 17～18、29日	平成29年1月 18～19、24日	平成29年2月14～16日	平成29年3月18～20日
出現種類数 〔259〕	魚類	64	62	40	45
	その他	52	65	69	75
	合計	116	127	109	120
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	256 (21.2)	296 (22.0)	231 (17.7)	125 (13.9)
	その他	953 (78.8)	1,046 (78.0)	1,070 (82.3)	775 (86.1)
	合計	1,209	1,342	1,301	900
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	9,130.6 (62.4)	6,940.7 (51.7)	7,303.9 (54.2)	1,965.0 (23.6)
	その他	5,509.7 (37.6)	6,487.2 (48.3)	6,170.0 (45.8)	6,368.7 (76.4)
	合計	14,640.3	13,427.9	13,473.9	8,333.7
主な 出現種 (%)	個体数	モミジガイ (19.8) オカメブンブク (16.6) ヤリイカ科 (12.6)	モミジガイ (19.9) ヤリイカ科 (11.4)	モミジガイ (13.2) フタホシイシガニ (11.9)	モミジガイ (16.9) キセワタガイ (15.8)
	湿重量	アカエイ (26.1)	スナヒトデ (15.2) アカエイ (14.8)	アカエイ (26.3) ヒガンフグ (12.2)	アメフラシ (18.1) シロボヤ科 (11.3)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。
4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

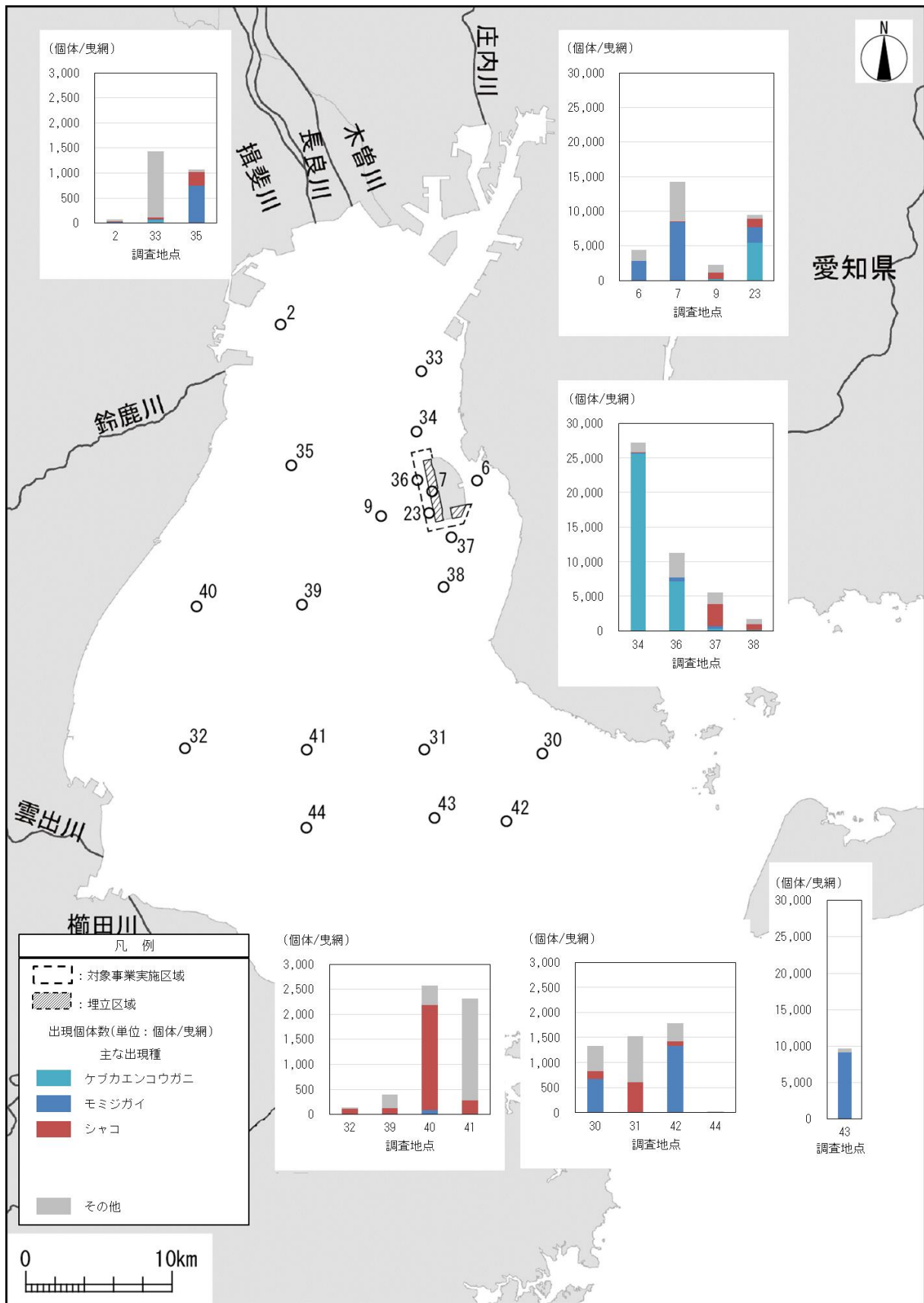
〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-7(1) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 26 年 5 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

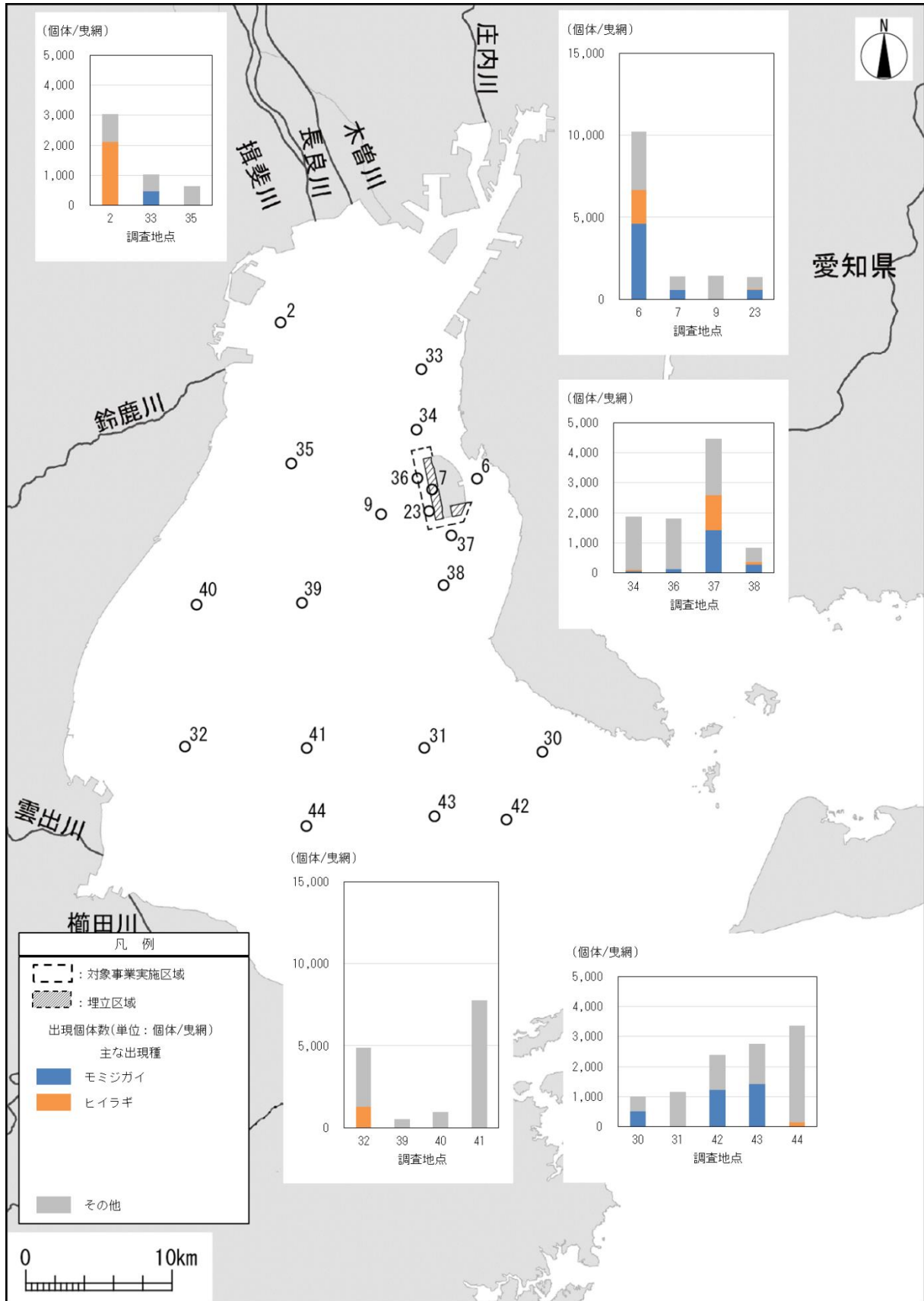
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-7(2) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 26 年 8 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

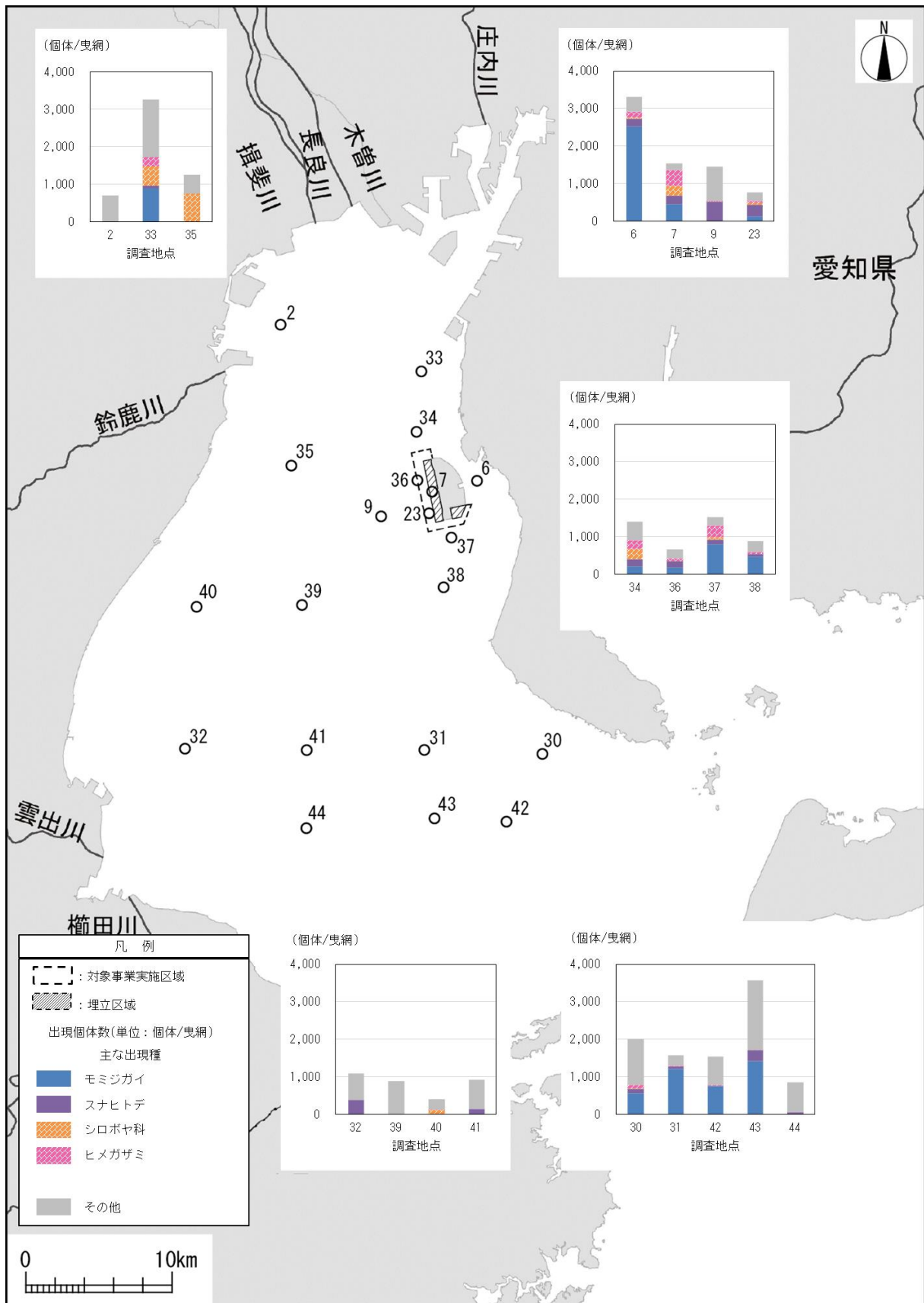
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-7(3) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 26 年 11 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

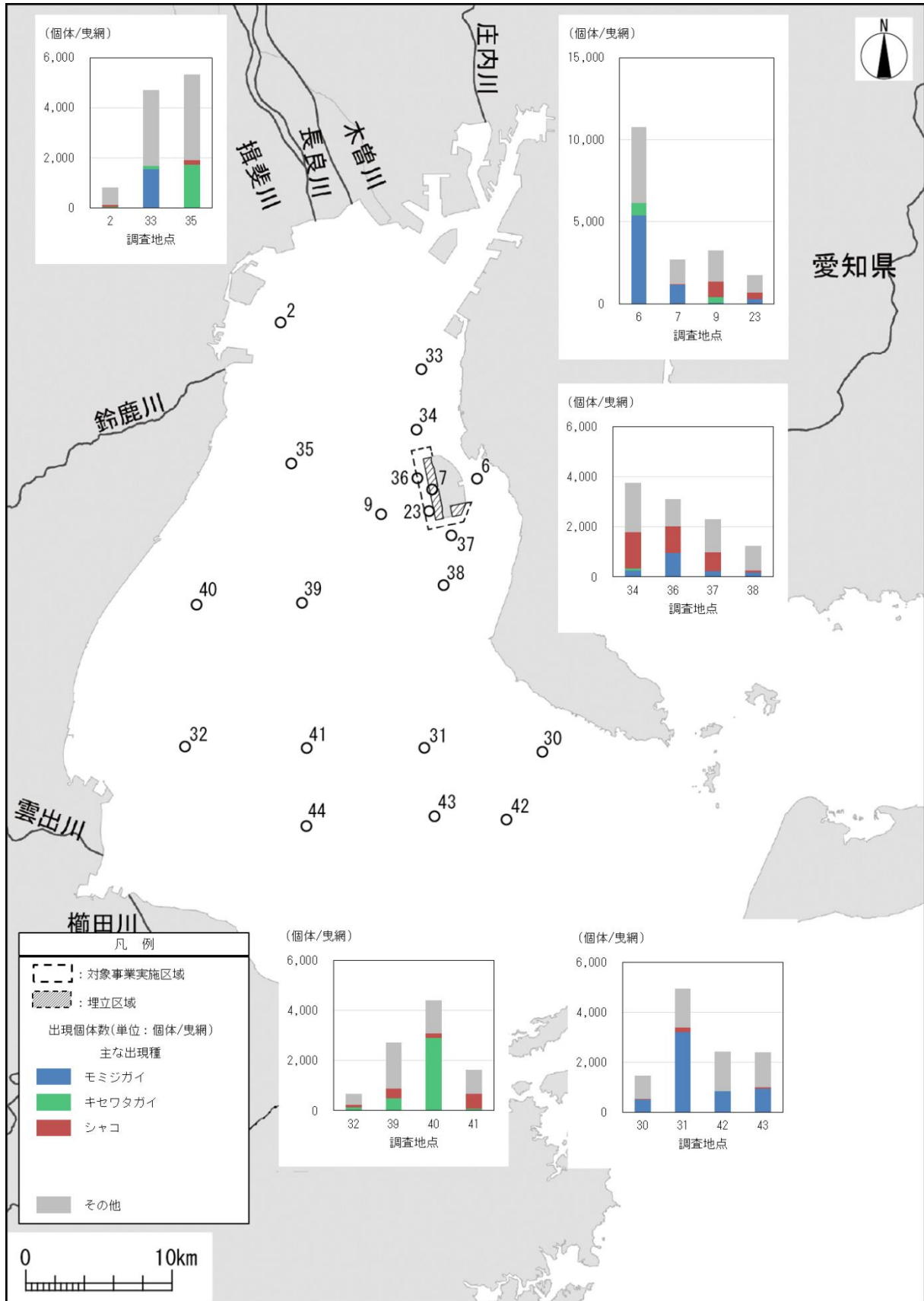
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-7(4) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 27 年 2 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

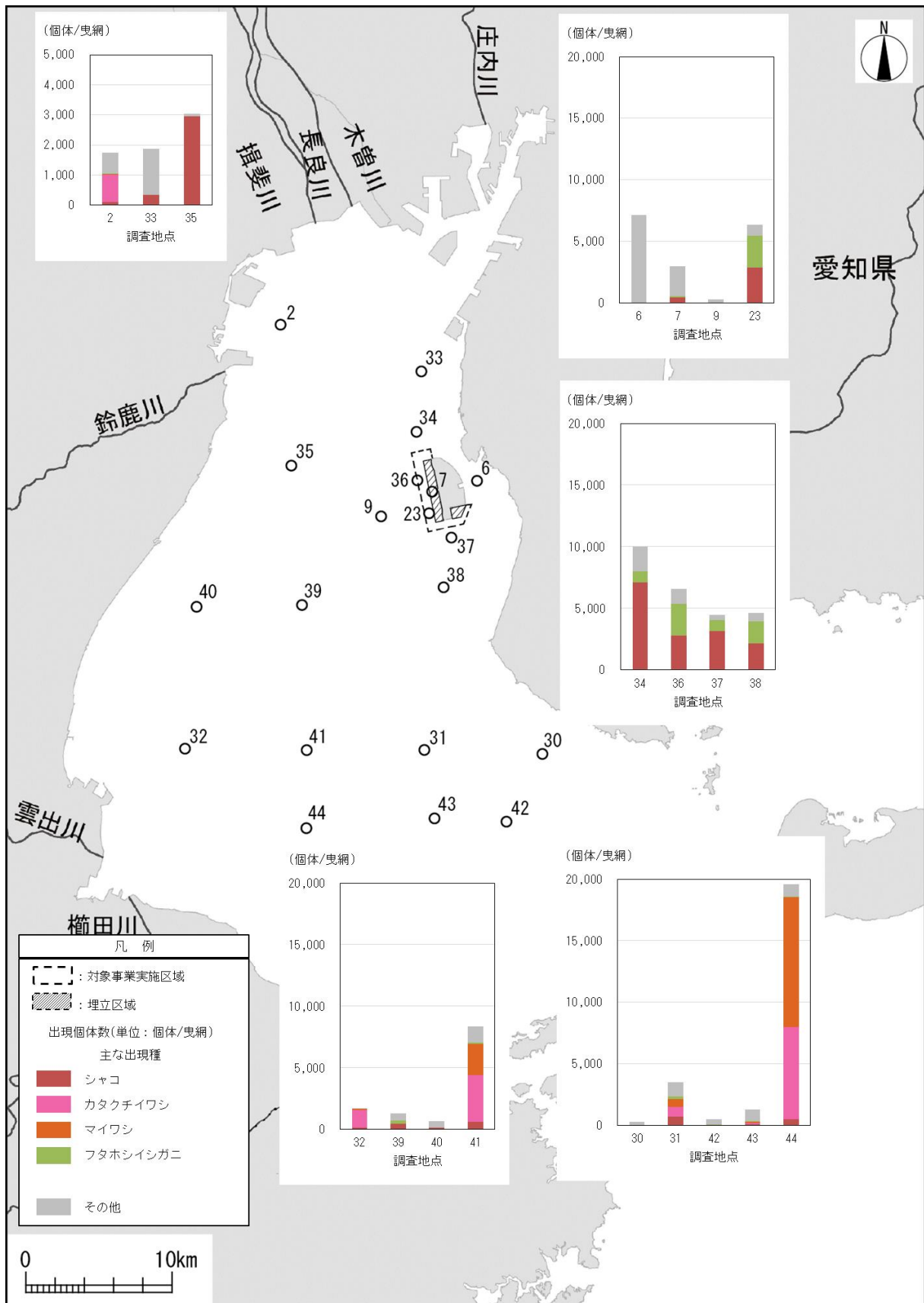
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-7(5) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 27 年 5 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

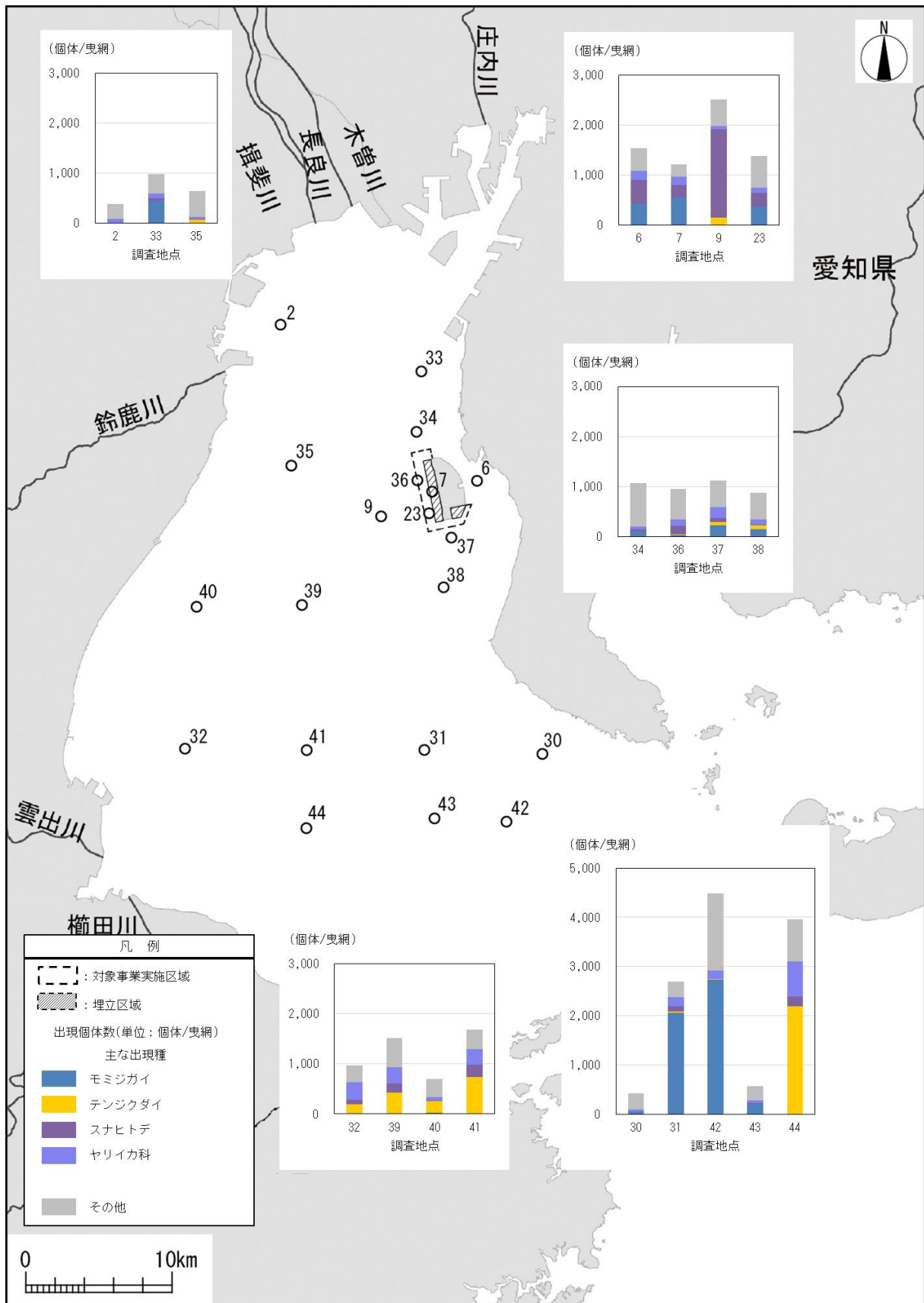
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



付図 8.8-7(6) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 27 年 8 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

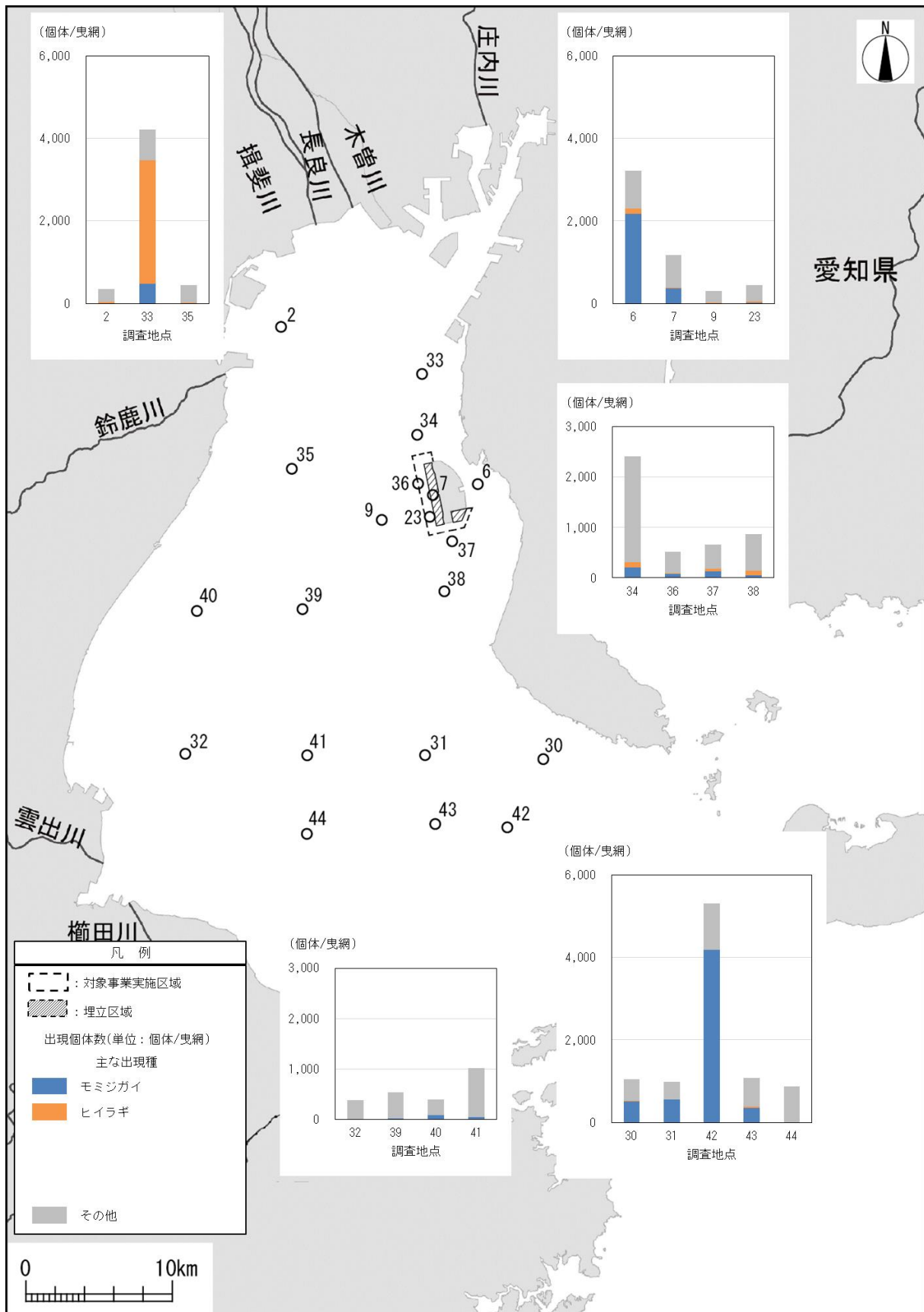
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



付図 8.8-7(7) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 27 年 11 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

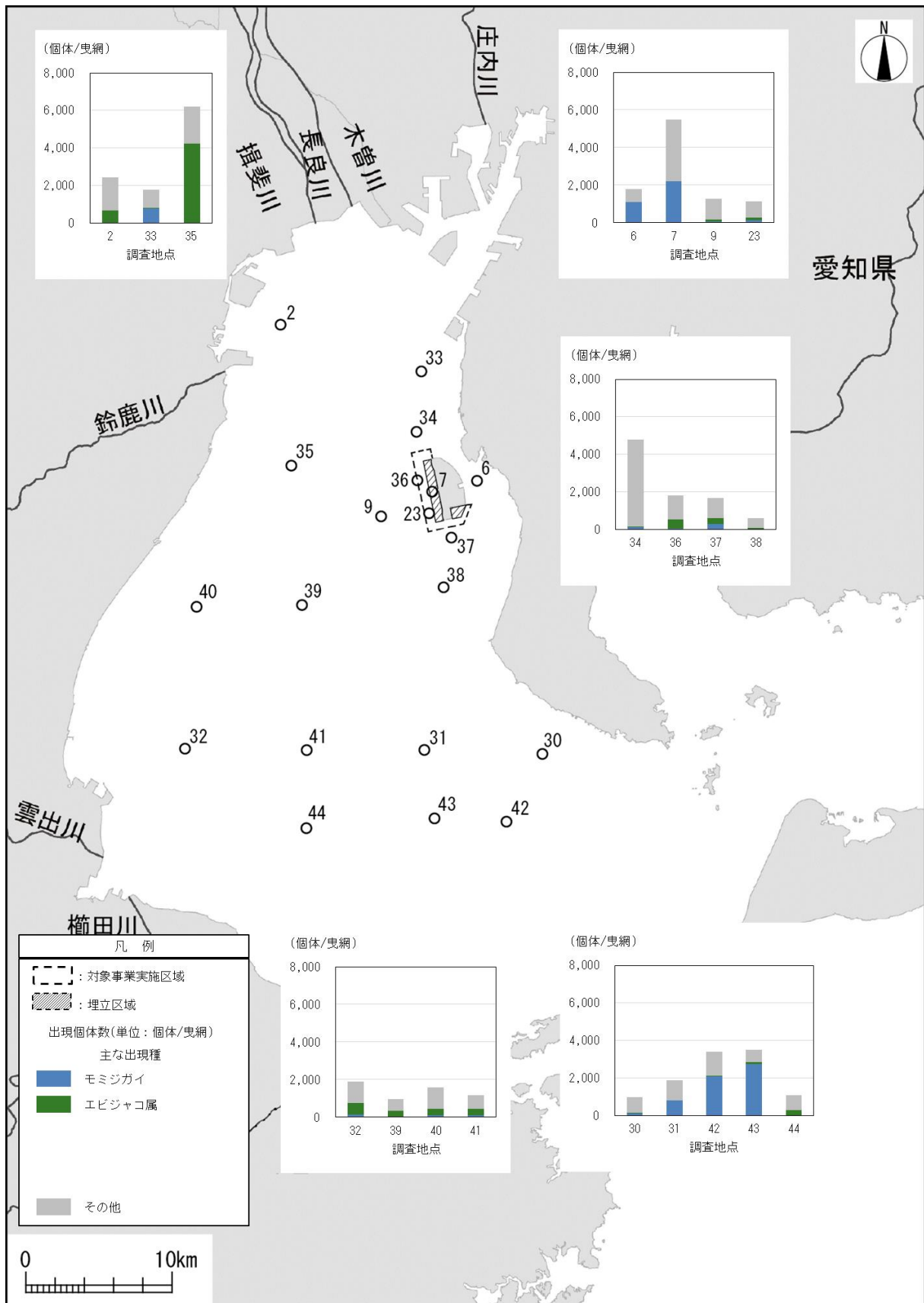
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



付図 8.8-7(8) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 28 年 2 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

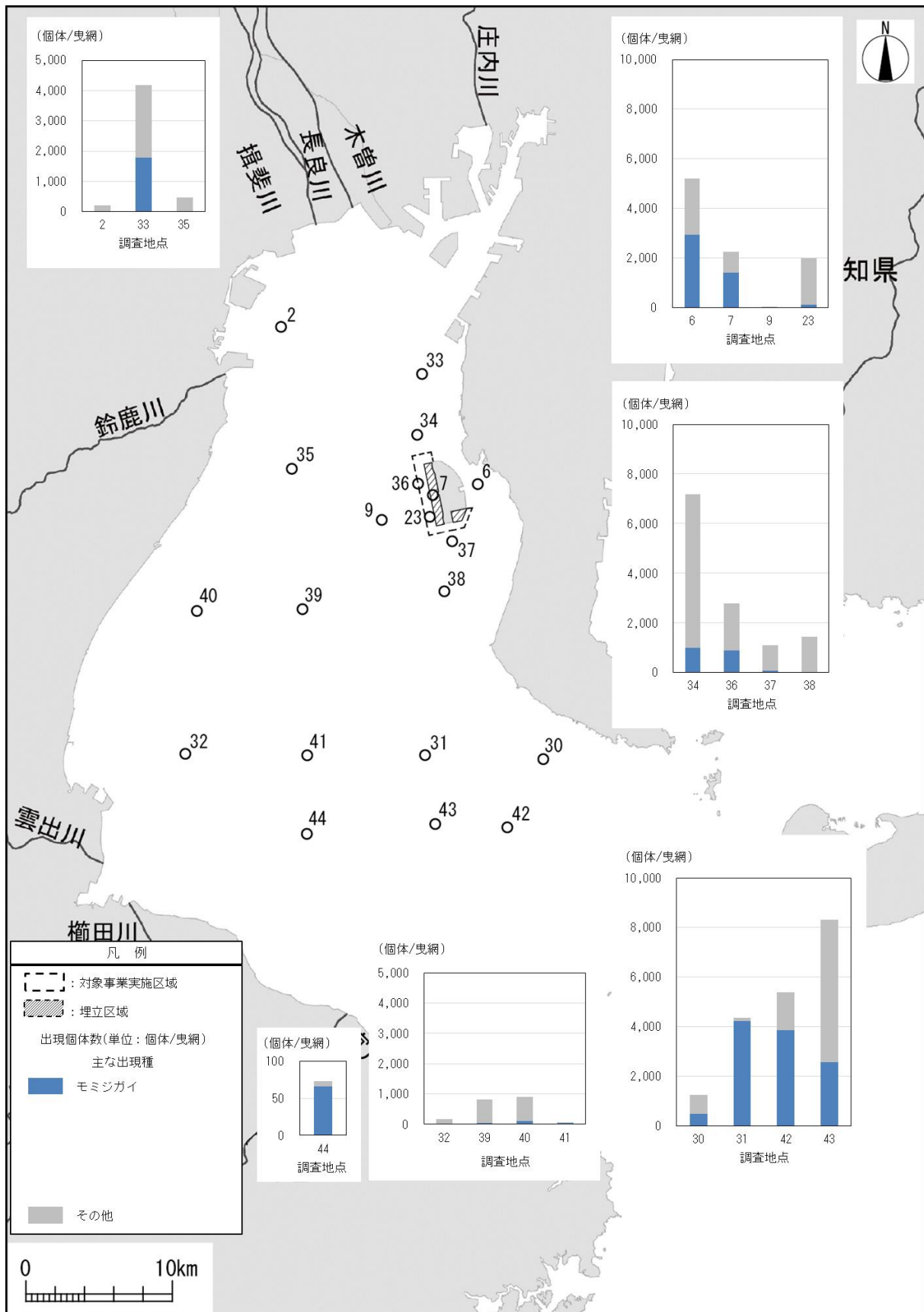
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成



付図 8.8-7(9) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 28 年 5 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

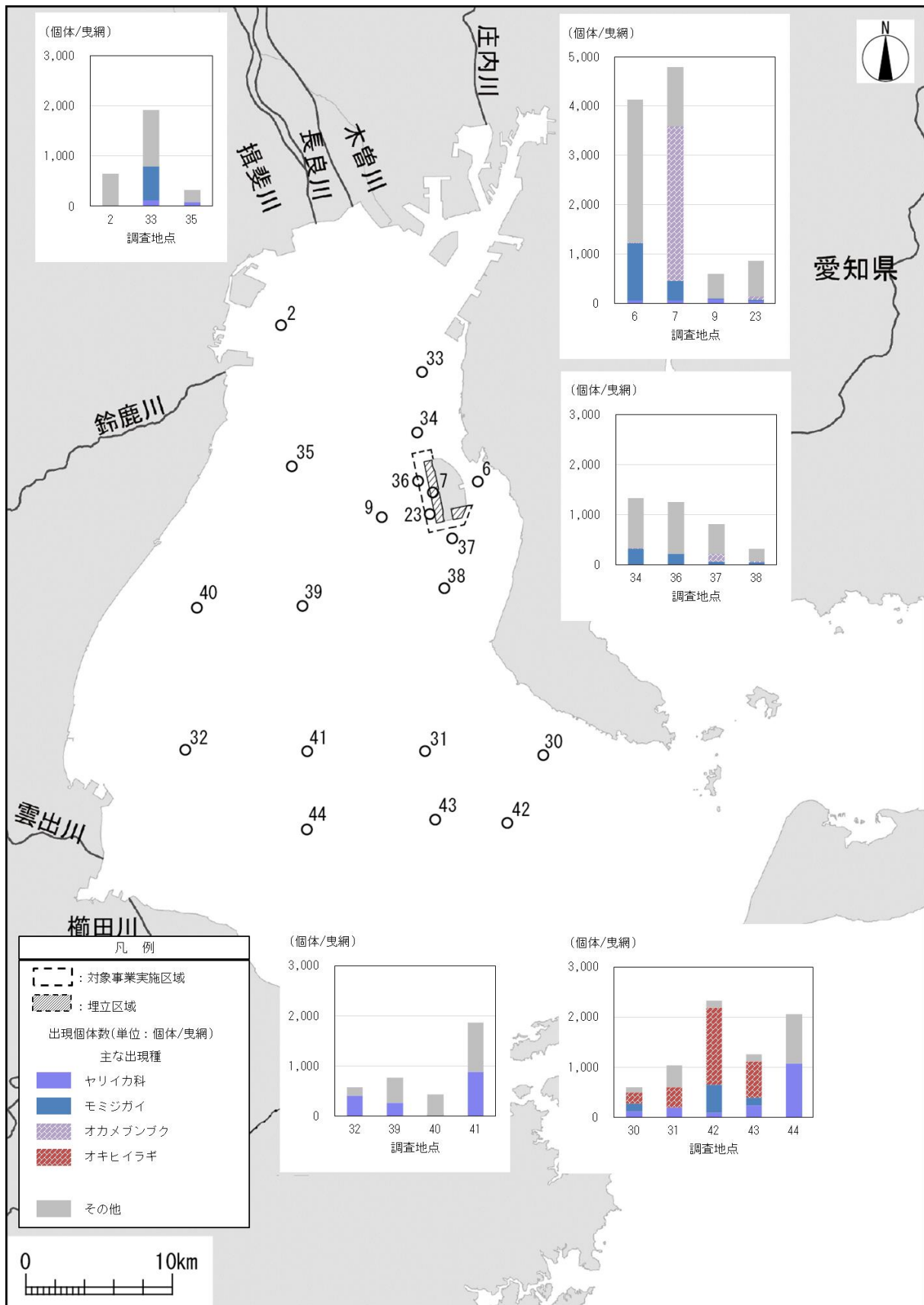
「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成



付図 8.8-7(10) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 28 年 8 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

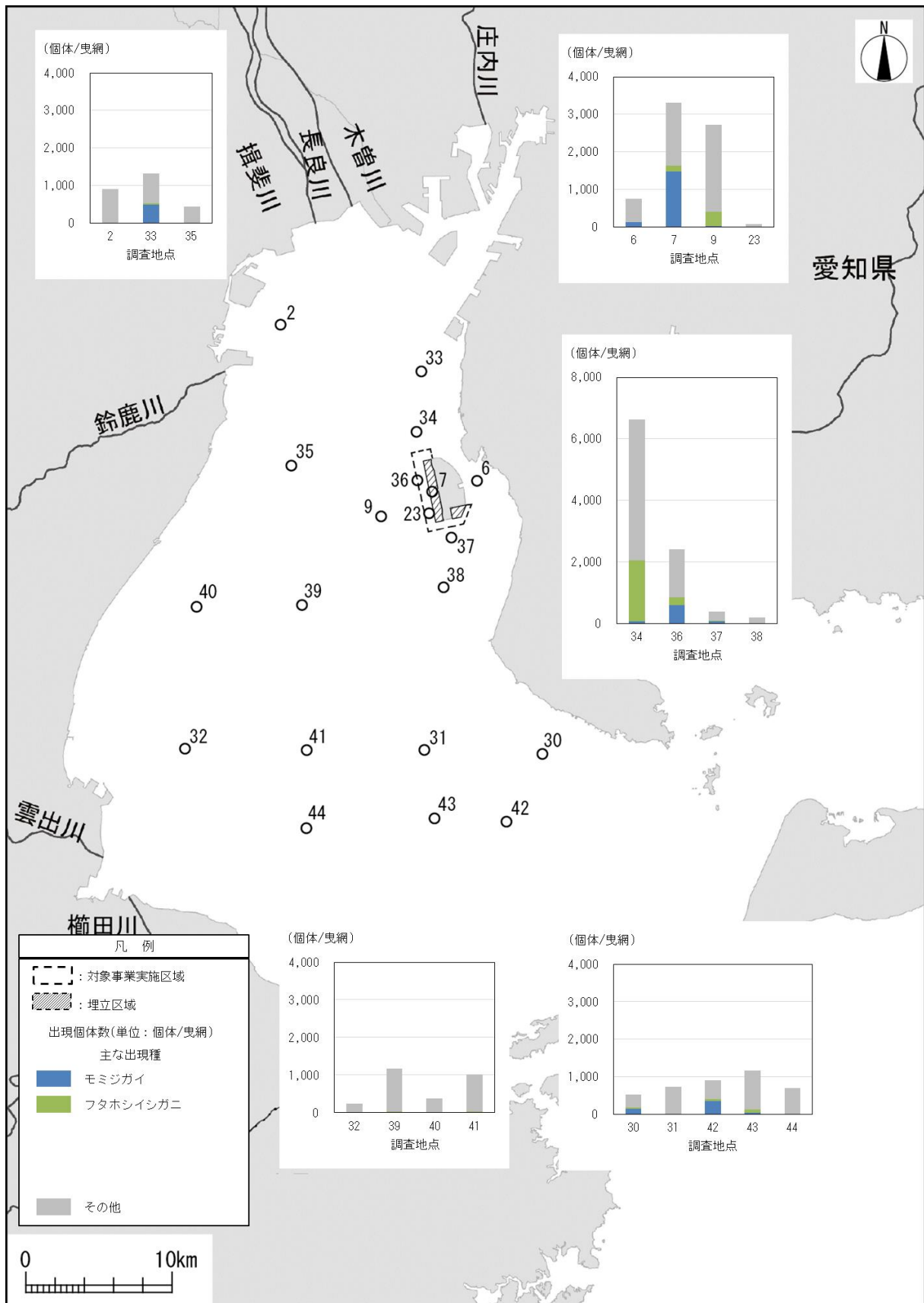
「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-7(11) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 28 年 11 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-7(12) 魚類等（底生魚類等）の出現状況（平成 29 年 2 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-9(1) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 26 年度）

調査期日		平成26年4月26日	平成26年5月24日	平成26年6月14日	平成26年7月5日
出現種類数 〔74〕	魚類	7	14	14	20
	その他	4	5	2	3
	合計	11	19	16	23
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	73,282 (99.9)	35,922 (99.8)	85,654 (100.0)	684,105 (100.0)
	その他	52 (0.1)	79 (0.2)	36 (0.0)	17 (0.0)
	合計	73,334	36,001	85,690	684,122
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	152,652.8 (99.9)	399,776.0 (99.9)	194,426.4 (99.9)	1,497,252.6 (100.0)
	その他	98.5 (0.1)	251.7 (0.1)	254.4 (0.1)	125.3 (0.0)
	合計	152,751.3	400,027.7	194,680.8	1,497,377.9
主な 出現種 (%)	個体数	イカナゴ (89.6)	カタクチイワシ (99.7)	カタクチイワシ (94.6)	カタクチイワシ (97.0)
	湿重量	イカナゴ (58.3) カタクチイワシ (41.1)	カタクチイワシ (99.9)	カタクチイワシ (92.9)	カタクチイワシ (93.8)

調査期日		平成26年8月23日	平成26年9月13日	平成26年10月25日	平成26年11月18日
出現種類数 〔74〕	魚類	22	13	16	15
	その他	8	3	2	3
	合計	30	16	18	18
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	215,589 (99.7)	67,314 (99.7)	437,006 (99.7)	53,130 (99.8)
	その他	581 (0.3)	174 (0.3)	1,281 (0.3)	102 (0.2)
	合計	216,170	67,488	438,287	53,232
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	223,598.5 (99.5)	125,164.2 (99.6)	301,180.0 (99.3)	119,256.4 (99.6)
	その他	1,202.3 (0.5)	467.8 (0.4)	2,154.8 (0.7)	493.1 (0.4)
	合計	224,800.8	125,632.0	303,334.8	119,749.5
主な 出現種 (%)	個体数	カタクチイワシ (97.3)	カタクチイワシ (99.1)	カタクチイワシ (98.4)	カタクチイワシ (97.1)
	湿重量	カタクチイワシ (90.9)	カタクチイワシ (93.4)	カタクチイワシ (77.0) マイワシ (12.1)	カタクチイワシ (90.5)

調査期日		平成26年12月9日	平成27年1月20日	平成27年2月17日	平成27年3月14日、15日
出現種類数 〔74〕	魚類	16	18	15	15
	その他	8	8	5	3
	合計	24	26	20	18
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	2,576 (8.9)	142 (64.2)	66,059 (99.9)	94,987 (99.3)
	その他	26,365 (91.1)	79 (35.8)	86 (0.1)	648 (0.7)
	合計	28,941	221	66,145	95,635
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	796.4 (13.3)	839.7 (83.7)	12,838.3 (99.7)	71,398.6 (98.7)
	その他	5,175.4 (86.7)	163.0 (16.3)	32.7 (0.3)	951.3 (1.3)
	合計	5,971.8	1,002.7	12,871.0	72,349.9
主な 出現種 (%)	個体数	アキアミ (90.8)	アナゴ科幼生 (29.0) カタクチイワシ (26.5) スルメイカ (16.9) イカ類 (10.0)	イカナゴ (95.1)	イカナゴ (84.1)
	湿重量	アキアミ (82.6)	スズキ (64.5)	イカナゴ (79.7) アナゴ科幼生 (18.1)	イカナゴ (82.9) アナゴ科幼生 (14.5)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。
4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 27 年〕より作成

付表 8. 8-9(2) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 27 年度 4～11 月）

調査期日		平成27年4月25日	平成27年5月23、26日	平成27年6月13、20日	平成27年7月11日、23日
項目	魚類	16	9	13	24
	その他	6	3	8	5
	合計	22	12	21	29
平均	魚類	8,266 (97.8)	206,554 (99.9)	89,617 (99.3)	15,189 (99.5)
	その他	185 (2.2)	127 (0.1)	594 (0.7)	76 (0.5)
	合計	8,451	206,681	90,211	15,265
出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	3,553.5 (91.2)	60,669.0 (99.9)	55,659.1 (99.7)	73,609.1 (99.6)
	その他	341.4 (8.8)	91.0 (0.1)	190.8 (0.3)	331.8 (0.4)
	合計	3,894.9	60,760.0	55,849.9	73,940.9
平均	魚類	3,553.5 (91.2)	60,669.0 (99.9)	55,659.1 (99.7)	73,609.1 (99.6)
	その他	341.4 (8.8)	91.0 (0.1)	190.8 (0.3)	331.8 (0.4)
	合計	3,894.9	60,760.0	55,849.9	73,940.9
主な 出現種 (%)	個体数	ハゼ科 (79.4) アナゴ科幼生 (15.6)	カタクチイワシ (81.8) マイワシ (17.5)	カタクチイワシ (51.3) ウルメイワシ (31.4) マイワシ (15.6)	カタクチイワシ (57.3) マイワシ (38.7)
	湿重量	アナゴ科幼生 (65.9) ハゼ科 (21.8)	カタクチイワシ (69.4) マイワシ (29.9)	カタクチイワシ (54.7) マイワシ (38.4)	マイワシ (71.4) カタクチイワシ (22.3)

調査期日		平成27年8月1、22日	平成27年9月12、19日	平成27年10月3日	平成27年11月21日
項目	魚類	19	25	23	18
	その他	5	3	5	8
	合計	24	28	28	26
平均	魚類	6,097 (99.4)	186,499 (97.6)	24,084 (44.3)	71,878 (99.6)
	その他	36 (0.6)	4,562 (2.4)	30,253 (55.7)	311 (0.4)
	合計	6,133	191,061	54,337	72,189
出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	9,831.5 (99.8)	485,794.0 (100.0)	315,793.3 (99.7)	11,749.4 (96.8)
	その他	17.6 (0.2)	119.9 (0.0)	1,001.6 (0.3)	388.5 (3.2)
	合計	9,849.1	485,913.9	316,795.5	12,137.9
平均	魚類	9,831.5 (99.8)	485,794.0 (100.0)	315,793.3 (99.7)	11,749.4 (96.8)
	その他	17.6 (0.2)	119.9 (0.0)	1,001.6 (0.3)	388.5 (3.2)
	合計	9,849.1	485,913.9	316,795.5	12,137.9
主な 出現種 (%)	個体数	カタクチイワシ (91.7)	カタクチイワシ (96.1)	シャコ科 (54.1) マイワシ (27.8) カタクチイワシ (12.9)	カタクチイワシ (99.1)
	湿重量	カタクチイワシ (85.2)	カタクチイワシ (94.0)	マイワシ (98.3)	カタクチイワシ (86.3)

注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。

2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。

3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8. 8-9(3) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 27 年度 12～3 月）

項目		調査期日		平成27年12月28日	平成28年1月10、11、16日	平成28年2月13日	平成28年3月12、23日				
		魚類	その他	合計	魚類	その他	合計	魚類	その他	合計	魚類
出現種類数 〔83〕	魚類	25	14	19	16						
	その他	9	6	6	3						
	合計	34	20	25	19						
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	904 (86.5)	2,325 (97.4)	398,392 (99.3)	58,063 (99.9)						
	その他	142 (13.5)	63 (2.6)	2,652 (0.7)	85 (0.1)						
	合計	1,046	2,388	401,043	58,148						
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	2,868.0 (90.1)	6,496.0 (98.9)	19,508.8 (92.8)	14,505.4 (99.4)						
	その他	316.3 (9.9)	69.9 (1.1)	1,506.9 (7.2)	94.5 (0.6)						
	合計	3,184.3	6,566.0	21,015.7	14,599.9						
主な 出現種 (%)	個体数	カタクチイワシ (60.8)	タチウオ (83.5)	フサカサゴ科 (42.0)	フサカサゴ科 (38.8)						
		タチウオ (13.7)		カレイ科 (18.6)	スズキ属 (20.0)						
				マイワシ (10.6)	マイワシ (12.5)						
	湿重量	カタクチイワシ (47.7)	タチウオ (93.1)	フサカサゴ科 (28.9)	イカナゴ (54.5)						
		タチウオ (17.7)		カタクチイワシ (19.7)	フサカサゴ科 (20.7)						
		マイワシ (15.5)		カレイ科 (14.1)	アナゴ科幼生 (14.5)						
		アナゴ科幼生 (10.1)									

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。
4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8. 8-9(4) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 28 年度 4～11 月）

調査期日		平成28年4月23日	平成28年5月7日	平成28年6月4、11日	平成28年7月2、12日
出現種類数 〔65〕	魚類	20	17	12	19
	その他	7	6	5	6
	合計	27	23	17	25
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	24,197 (97.9)	144,168 (99.5)	258,414 (100.0)	94,665 (99.9)
	その他	515 (2.1)	785 (0.5)	108 (0.0)	98 (0.1)
	合計	24,712	144,953	258,522	94,762
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	9,349.9 (93.4)	12,903.8 (82.8)	336,075.4 (99.9)	415,315.8 (100.0)
	その他	661.6 (6.6)	2,683.4 (17.2)	451.7 (0.1)	131.8 (0.0)
	合計	10,011.5	15,587.2	336,527.1	415,447.6
主な 出現種 (%)	個体数	ハゼ科 (31.5) フサカサゴ科 (18.2) コモチジャコ (14.2) カサゴ (13.1) アナゴ科幼生 (11.5)	カタクチイワシ (48.6) ハゼ科 (43.2)	カタクチイワシ (89.4) マイワシ (10.4)	カタクチイワシ (69.7) マイワシ (29.2)
	湿重量	アナゴ科幼生 (58.4) フサカサゴ科 (15.3)	カタクチイワシ (42.1) ハゼ科 (24.2) スルメイカ (12.3)	カタクチイワシ (74.7) マイワシ (24.7)	マイワシ (77.0) カタクチイワシ (22.3)

調査期日		平成27年8月6、10日	平成28年9月10、17日	平成28年10月15日	平成28年11月19日、22日
出現種類数 〔65〕	魚類	19	13	17	11
	その他	3	5	4	3
	合計	22	18	21	14
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	8,475 (99.9)	35,090 (100.0)	66,270 (97.6)	94,225 (99.7)
	その他	10 (0.1)	6 (0.0)	1,604 (2.4)	255 (0.3)
	合計	8,485	35,096	67,875	94,480
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	3,553.5 (91.2)	451,217.4 (100.0)	106,461.2 (100.0)	29,112.5 (99.6)
	その他	341.4 (8.8)	7.3 (0.0)	52.7 (0.0)	104.6 (0.4)
	合計	3,894.9	451,224.7	106,513.9	29,217.1
主な 出現種 (%)	個体数	マイワシ (68.5) カタクチイワシ (27.5)	マイワシ (50.9) カタクチイワシ (48.9)	カタクチイワシ (92.6)	カタクチイワシ (99.3)
	湿重量	マイワシ (91.8)	マイワシ (84.5) カタクチイワシ (15.4)	マイワシ (50.3) カタクチイワシ (48.3)	カタクチイワシ (97.2)

注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。

2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。

3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

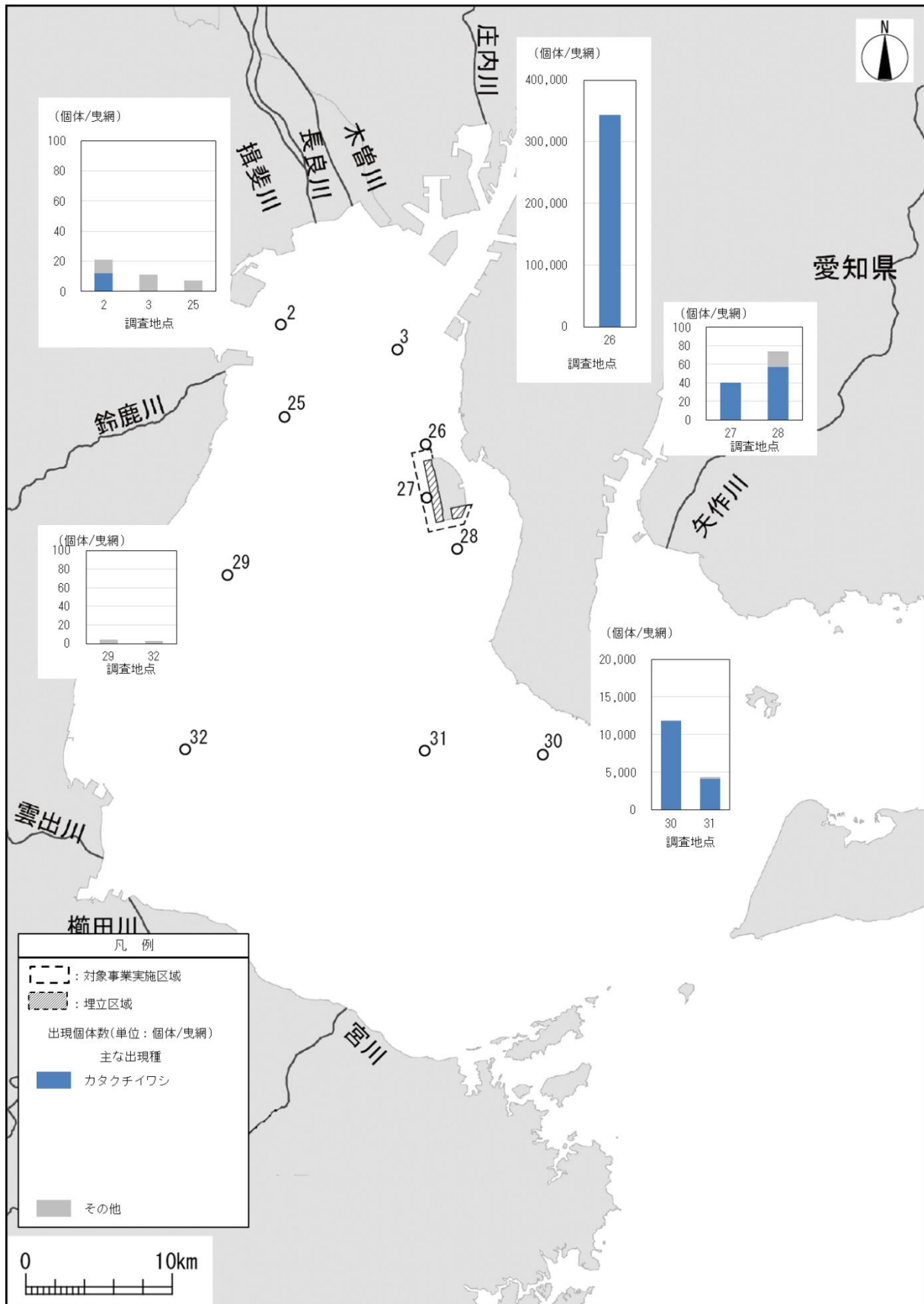
〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8. 8-9(5) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 28 年度 12～3 月）

項目		調査期日		平成29年1月18日	平成29年2月4、17日	平成29年3月4日
		平成28年12月17、20日				
出現種類数 〔65〕	魚類	15		14	19	14
	その他	6		7	7	6
	合計	21		21	26	20
平均 出現個体数 (個体/1 曳網)	魚類	18,988 (92.8)		491 (41.4)	4,689 (94.4)	7,852 (98.1)
	その他	1,473 (7.2)		695 (58.6)	278 (5.6)	150 (1.9)
	合計	20,461		1,186	4,967	8,002
平均 出現湿重量 (g/1 曳網)	魚類	101,808.5 (97.1)		839.3 (59.7)	11,889.5 (93.2)	3,585.1 (93.0)
	その他	2,988.2 (2.9)		567.0 (40.3)	868.1 (6.8)	268.7 (7.0)
	合計	104,796.7		1,406.3	12,757.6	3,853.8
主な 出現種 (%)	個体数	カタクチイワシ (60.9) テンジクダイ (11.8)	エビ類 (44.2) アナゴ科幼生 (19.0)	アナゴ科幼生 (63.9) カタクチイワシ (12.8)	ハゼ科 (33.4) イカナゴ (29.8) フサカサゴ科 (16.1) アナゴ科幼生 (11.2)	
	湿重量	カタクチイワシ (67.4) シログチ (14.1)	アナゴ科幼生 (31.3) ジンドウイカ (25.6) カタクチイワシ (16.5)	アナゴ科幼生 (65.0) シログチ (12.5) カタクチイワシ (12.4)	アナゴ科幼生 (50.4) タチウオ (17.6)	

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数または湿重量の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。
4. 調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

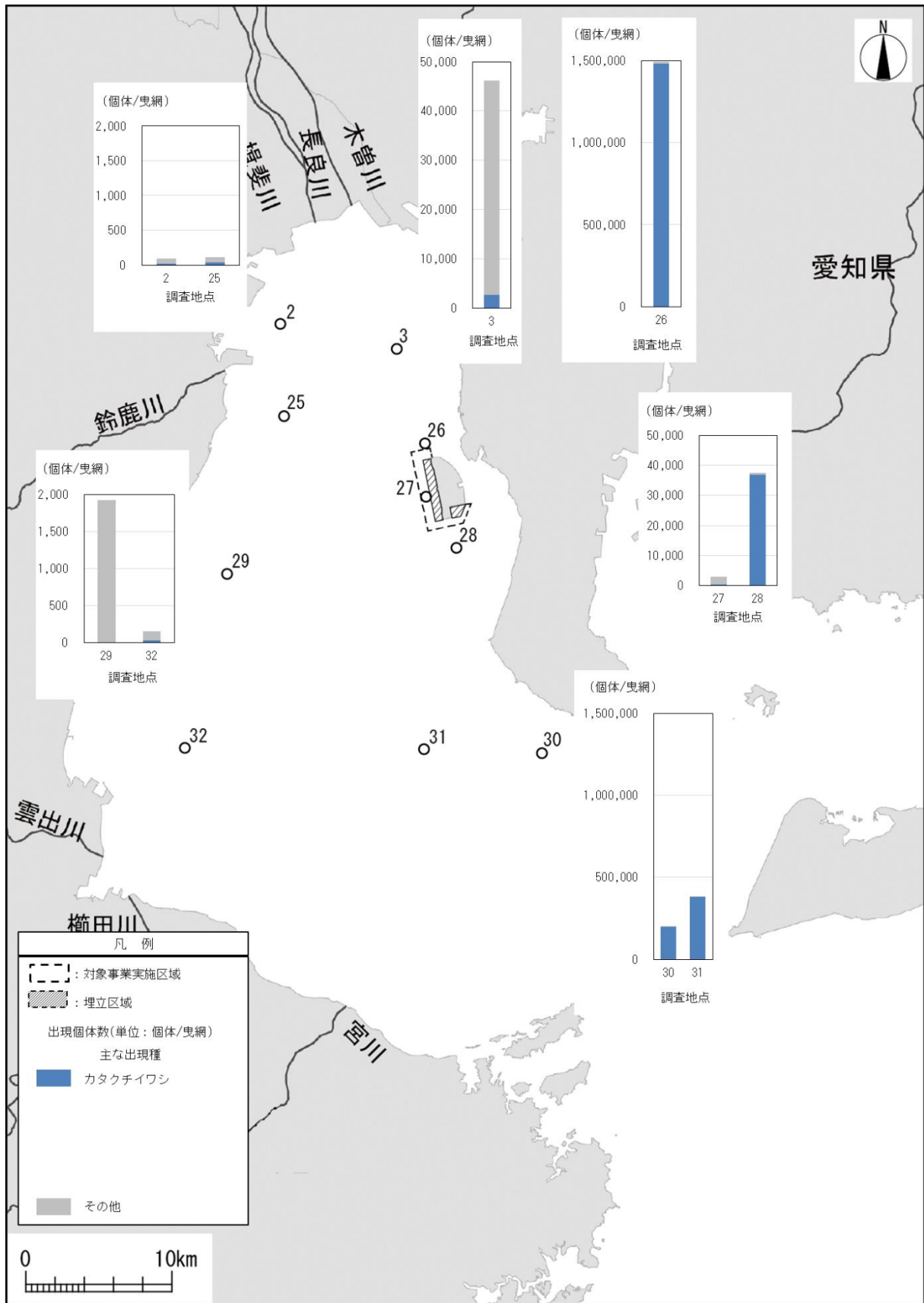
〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 29 年〕より作成



付図 8.8-8(1) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 26 年 5 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

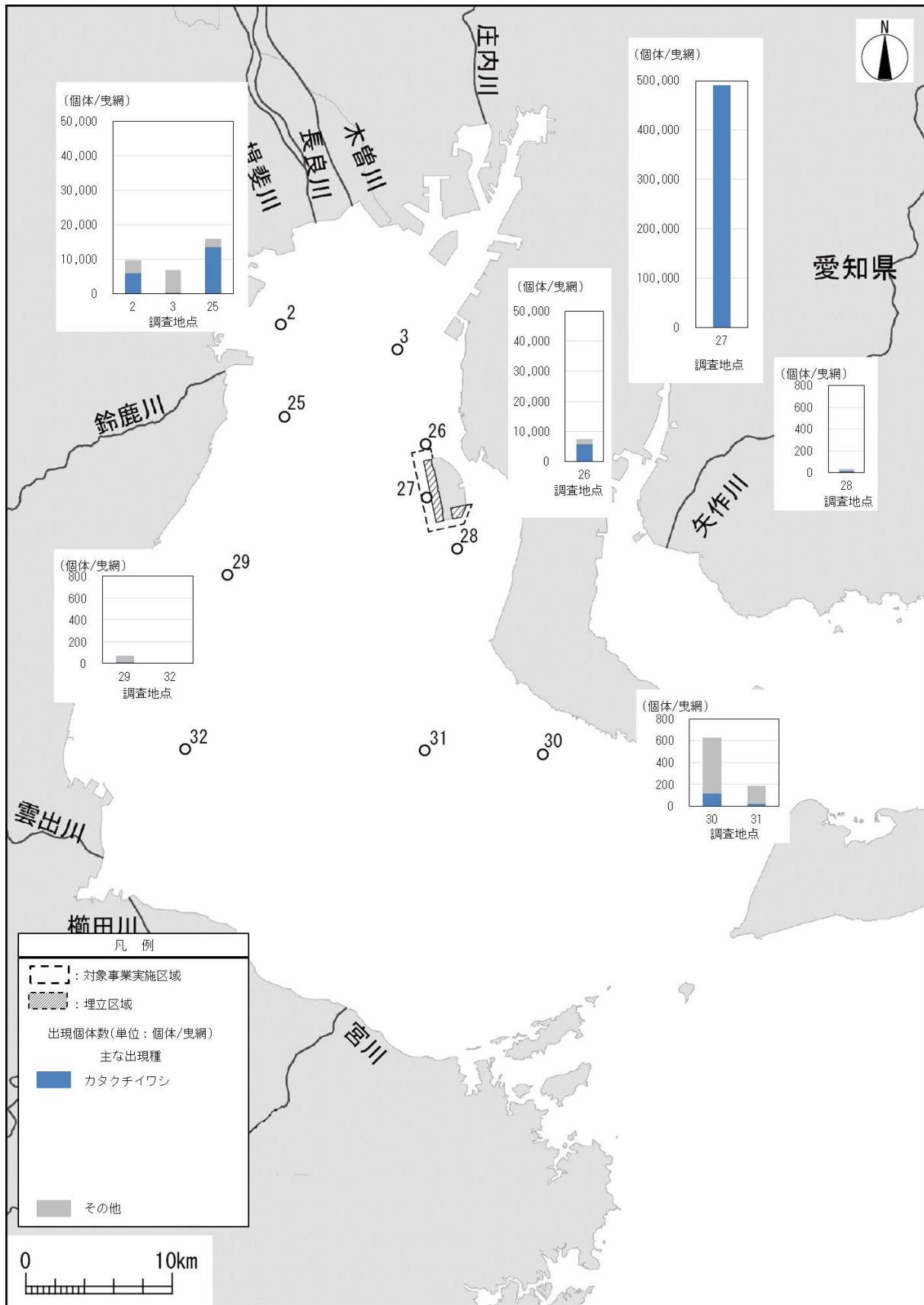
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-8(2) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 26 年 8 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

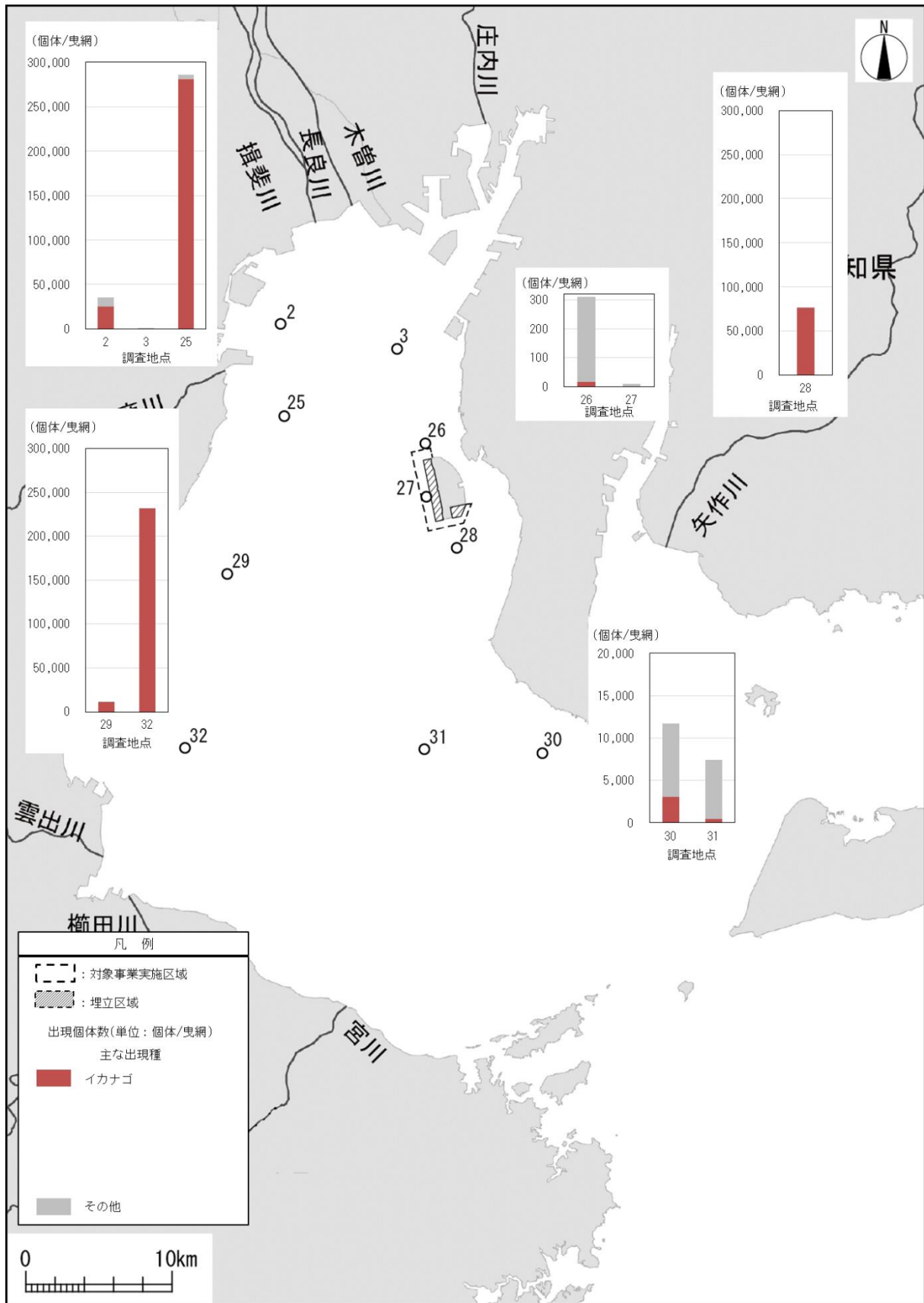
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-8(3) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 26 年 11 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

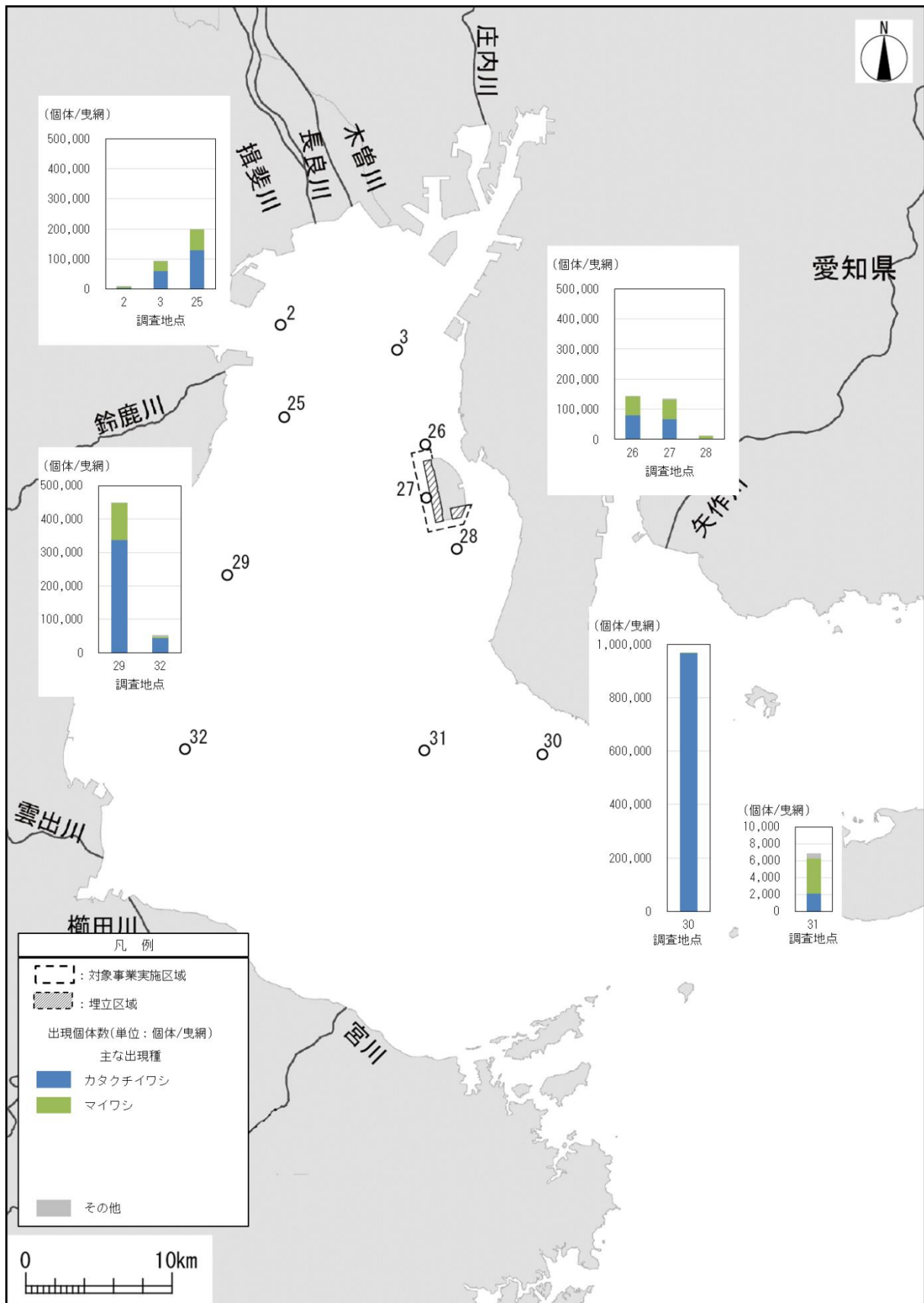
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成



付図 8.8-8(4) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 27 年 2 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

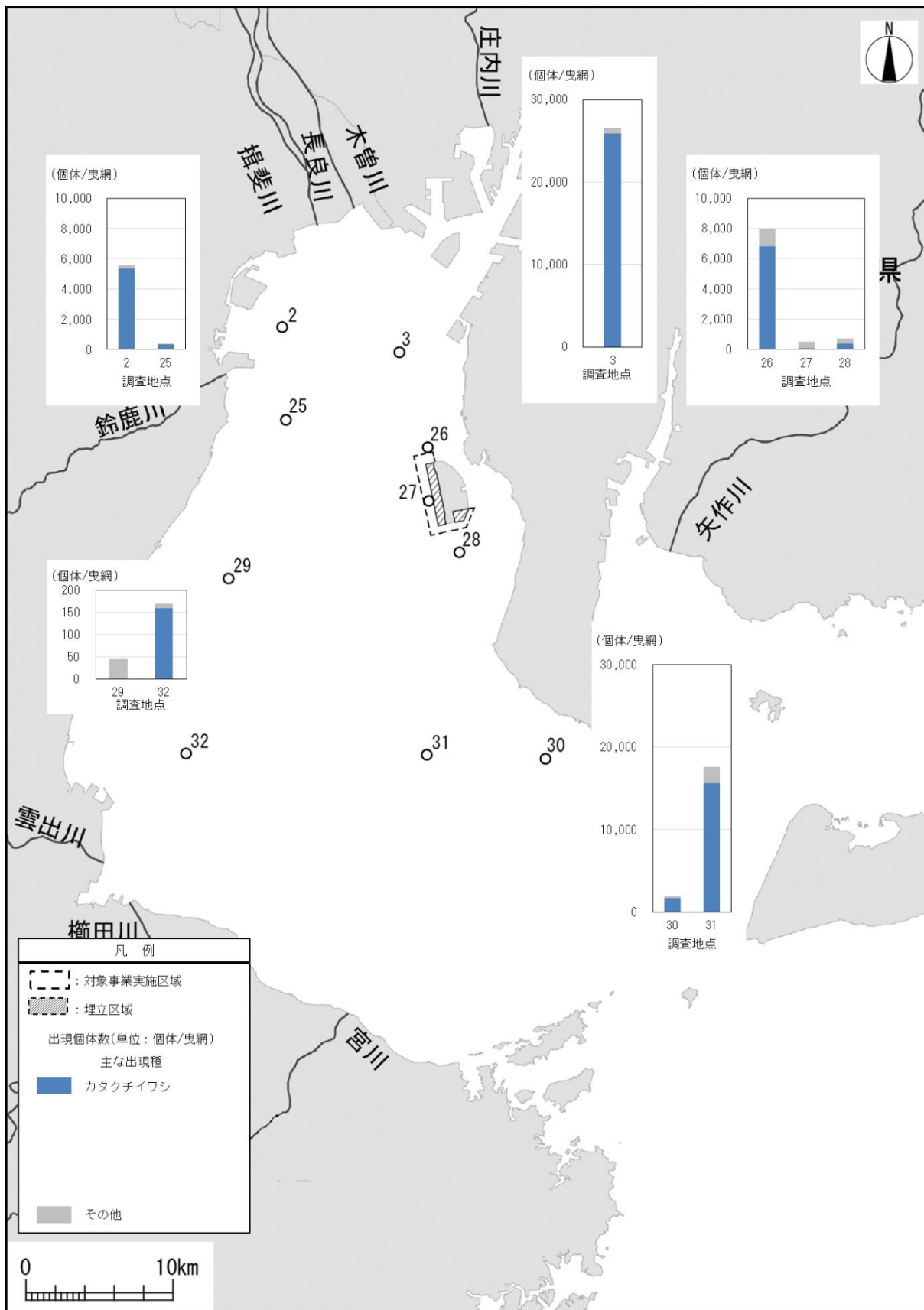
「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



付図 8.8-8(5) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 27 年 5 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

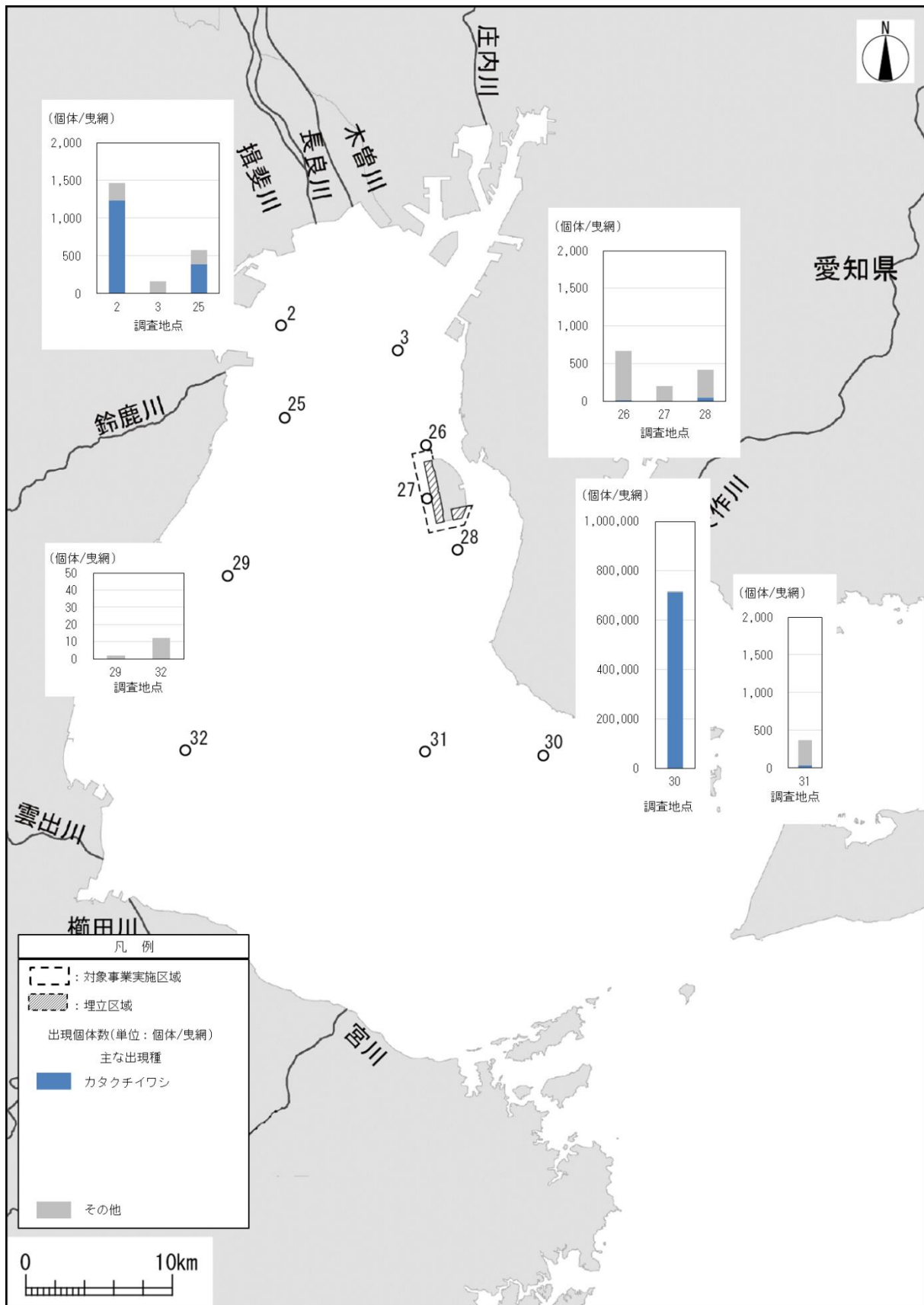
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成



付図 8.8-8(6) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 27 年 8 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

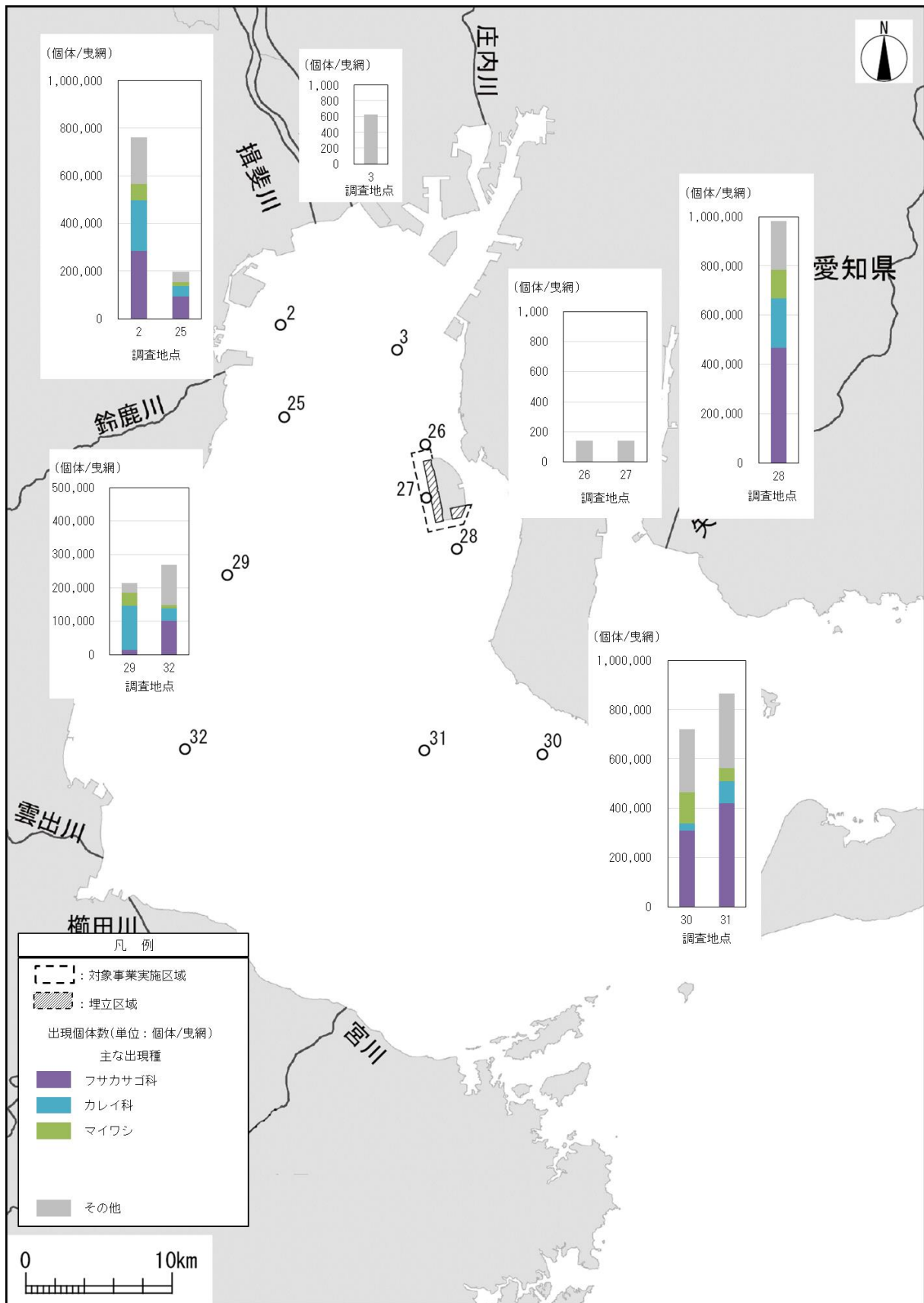
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成



付図 8.8-8(7) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 27 年 11 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

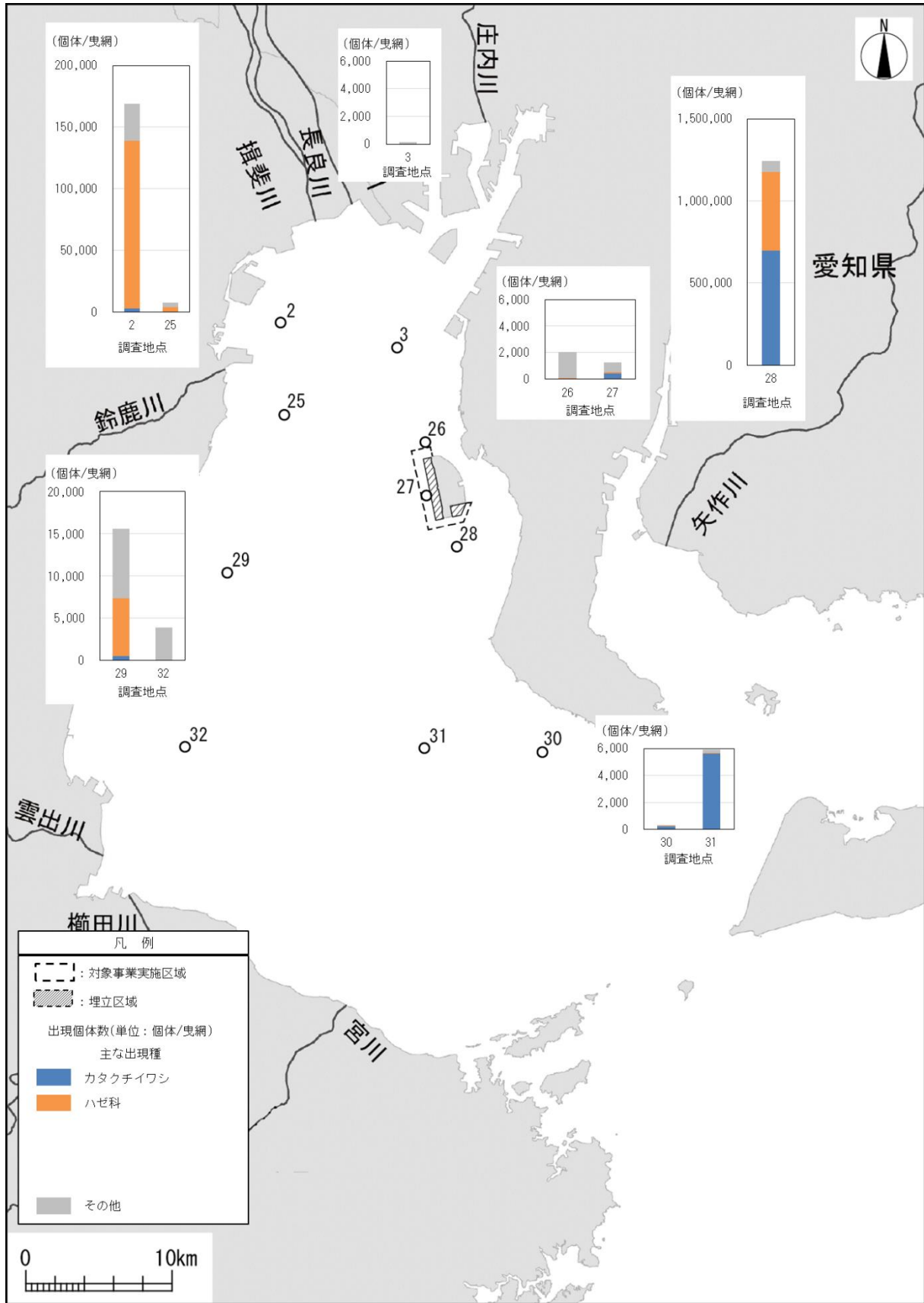
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成



付図 8.8-8(8) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 28 年 2 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

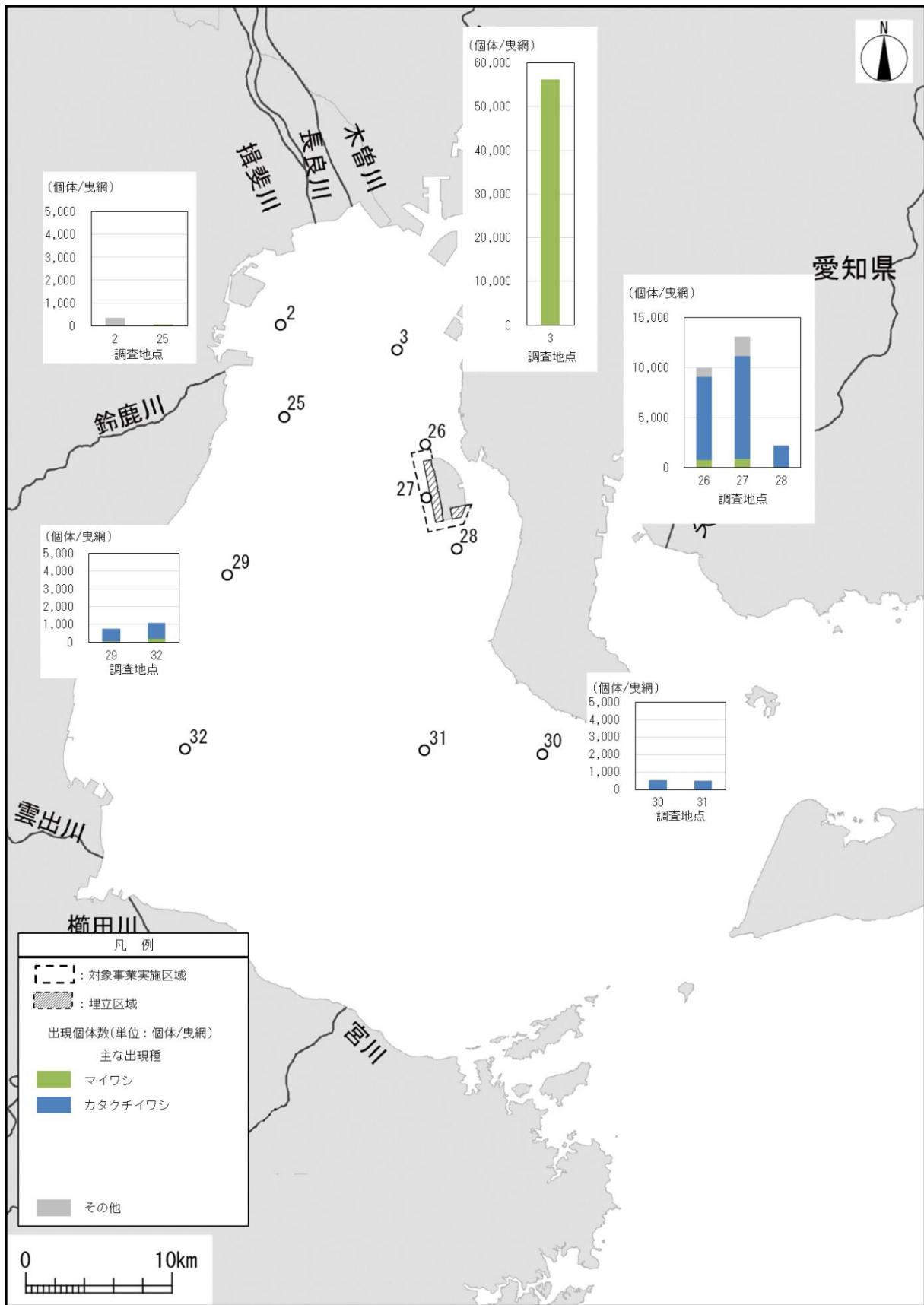
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



付図 8.8-8(9) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 28 年 5 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

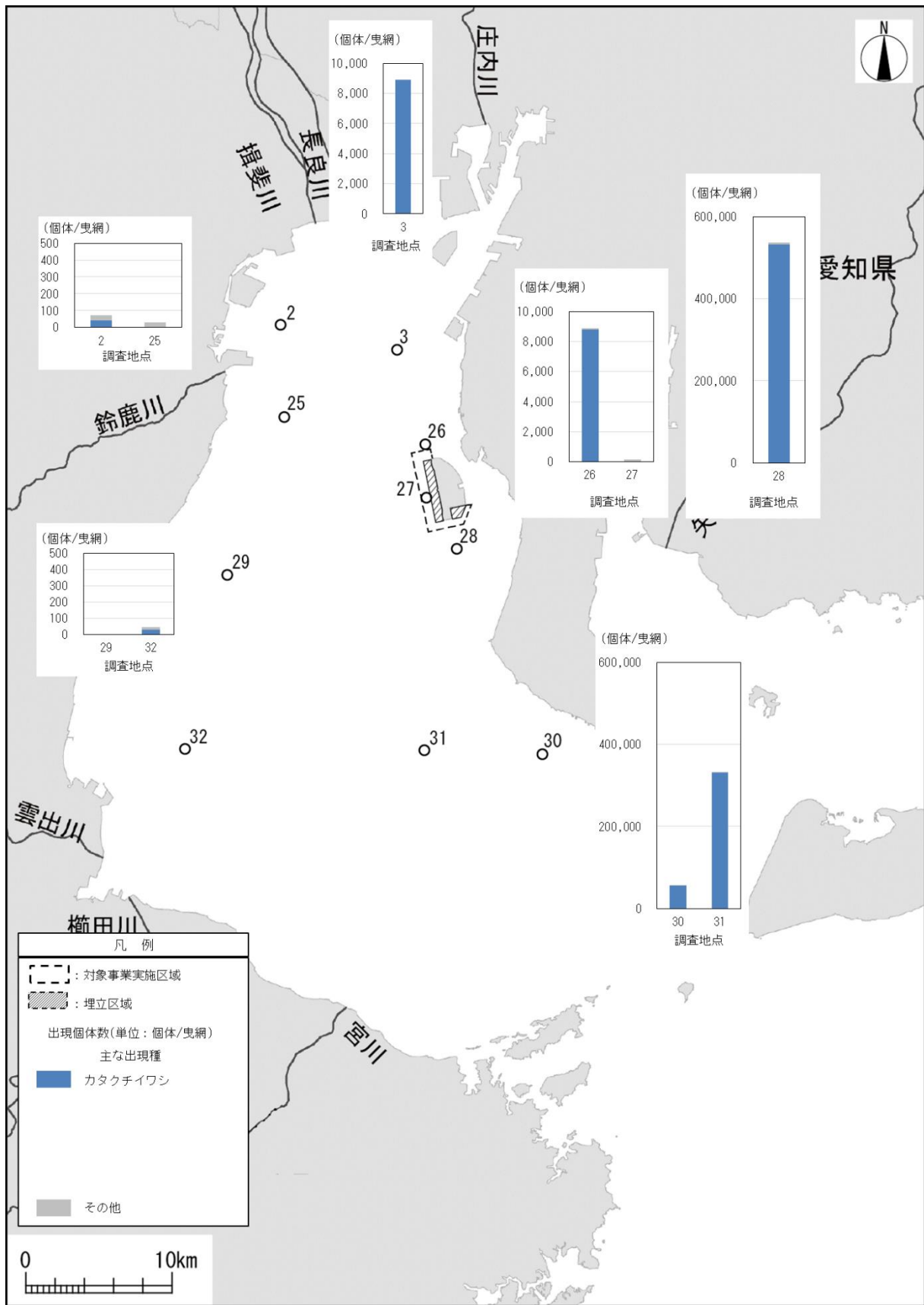
「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-8(10) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 28 年 8 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

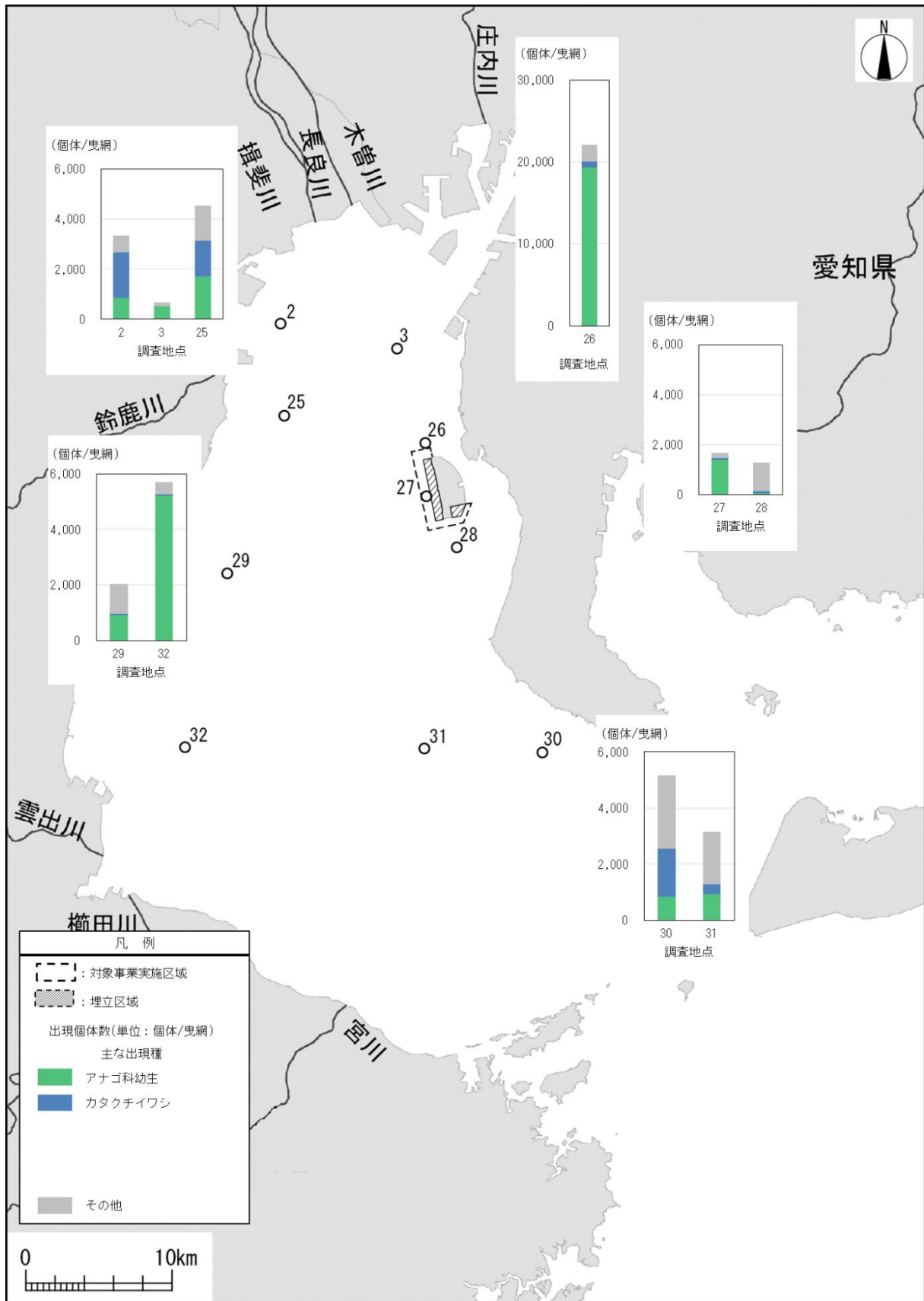
「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-8(11) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 28 年 11 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.8-8(12) 魚類等（浮魚類等）の出現状況（平成 29 年 2 月）

注：調査結果は調査方法毎に整理しているため、図表名と異なる分類群が含まれている場合がある。

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-10(1) 干潟生物（底生生物）の出現状況（平成 26 年度）

調査期日		平成26年5月 12~15、17日	平成26年8月4~8日	平成26年11月 16~17、19、21日	平成27年1月 29~30日、2月2~3日
項目	出現種類数 [77]	40	32	42	34
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	91 (37.3)	3,044 (86.6)	528 (82.0)	140 (45.5)
	環形動物	66 (27.0)	155 (4.4)	53 (8.2)	61 (19.8)
	節足動物	68 (27.9)	239 (6.8)	6 (0.9)	59 (19.2)
	棘皮動物	10 (4.1)		4 (0.6)	12 (3.9)
	その他	9 (3.7)	78 (2.2)	53 (8.2)	36 (11.7)
	合計	244	3,516	644	308
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	97.48 (93.6)	513.11 (98.9)	368.19 (96.8)	43.76 (87.2)
	環形動物	2.89 (2.8)	1.62 (0.3)	3.52 (0.9)	1.53 (3.0)
	節足動物	1.24 (1.2)	2.96 (0.6)	0.42 (0.1)	2.90 (5.8)
	棘皮動物	2.17 (2.1)		2.86 (0.8)	0.18 (0.4)
	その他	0.31 (0.3)	1.26 (0.2)	5.25 (1.4)	1.81 (3.6)
	合計	104.09	518.95	380.24	50.18
主な 出現種 (%)	個体数	アサリ (13.1) ハエ目 (12.2) アラムシロ (11.4) ミナミシロガネゴカイ (10.5)	アサリ (52.4) ユウシオガイ (13.1)	アサリ (34.1) アラムシロ (32.1)	アラムシロ (24.2) ヒメスナホリムシ (16.3) ユウシオガイ (11.3)
	湿重量	アサリ (41.1) シオフキ (24.9) サルボウガイ (17.4)	ユウシオガイ (46.3) アサリ (36.5)	アサリ (70.9) アラムシロ (13.5)	アサリ (46.5) アラムシロ (32.9)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成

付表 8.8-10(2) 干潟生物（底生生物）の出現状況（平成 27 年度）

調査期日		平成27年5月11～16日	平成27年8月3～5、 7～8日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～4日
項目	出現種類数 [91]	43	37	43	55
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	75 (28.1)	280 (71.4)	212 (51.6)	485 (58.0)
	環形動物	76 (28.5)	62 (15.8)	119 (29.0)	179 (21.4)
	節足動物	66 (24.7)	17 (4.3)	46 (11.2)	131 (15.7)
	棘皮動物	17 (6.4)		1 (0.2)	18 (2.2)
	その他	33 (12.4)	33 (8.4)	33 (8.0)	23 (2.8)
	合計	267	392	411	836
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	30.30 (70.8)	21.18 (84.4)	94.86 (92.7)	118.93 (89.8)
	環形動物	4.73 (11.1)	2.55 (10.2)	3.40 (3.3)	3.19 (2.4)
	節足動物	1.42 (3.3)	0.64 (2.5)	1.32 (1.3)	3.42 (2.6)
	棘皮動物	2.92 (6.8)			5.57 (4.2)
	その他	3.41 (8.0)	0.73 (2.9)	2.74 (2.7)	1.40 (1.1)
	合計	42.78	25.10	102.32	132.51
主な 出現種 (%)	個体数	ミナミシロガネゴカイ (16.6) アラムシロ (13.2)	マテガイ (36.4) アサリ (17.0)	<i>Glycera</i> sp. (17.1) ムラクモキジビキガイ (13.9) シオフキ (10.6)	シマハマツボ (39.1)
	湿重量	アラムシロ (23.8) シオフキ (16.4) ツメタガイ (16.2) バカガイ (11.2)	シオフキ (27.1) ツメタガイ (15.4) アサリ (14.8) アラムシロ (12.9)	シオフキ (64.5) アサリ (13.5)	アサリ (41.8) シオフキ (26.9) ツメタガイ (10.6)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8.8-10(3) 干潟生物（底生生物）の出現状況（平成 28 年度）

調査期日		平成28年5月7～11日	平成28年8月1～5日	平成28年11月 1～2、4～6日	平成29年2月1～2日、 2月4～5、9日
項目	出現種類数 [87]	50	42	43	48
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	95 (30.3)	332 (56.1)	150 (40.0)	325 (39.9)
	環形動物	143 (45.5)	196 (33.1)	173 (46.1)	356 (43.7)
	節足動物	55 (17.5)	27 (4.6)	22 (5.9)	67 (8.2)
	棘皮動物	4 (1.3)	1 (0.2)		31 (3.8)
	その他	17 (5.4)	36 (6.1)	30 (8.0)	36 (4.4)
	合計	314	592	375	815
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	101.14 (78.0)	25.40 (74.9)	55.86 (85.9)	83.84 (89.8)
	環形動物	1.96 (1.5)	4.87 (14.4)	5.49 (8.4)	4.55 (4.9)
	節足動物	23.75 (18.3)	0.62 (1.8)	0.45 (0.7)	1.08 (1.2)
	棘皮動物	0.94 (0.7)	0.38 (1.1)		0.68 (0.7)
	その他	1.87 (1.4)	2.62 (7.7)	3.24 (5.0)	3.22 (3.4)
	合計	129.66	33.89	65.04	93.37
主な 出現種 (%)	個体数	ミナミシロガネゴカイ (28.5)	シオフキ (25.9) アサリ (11.5) <i>Glycera</i> sp. (11.4) ミナミシロガネゴカイ (11.3)	ミナミシロガネゴカイ (18.9) シマハマツボ (11.1) アラムシロ (10.6) アサリ (10.4)	アラムシロ (14.5) <i>Arandia</i> sp. (12.6)
	湿重量	シオフキ (43.6) カガミガイ (22.2) イシガニ (17.0)	アサリ (30.2) シオフキ (11.1)	アサリ (63.4) アラムシロ (11.4)	アサリ (51.7) アラムシロ (30.6)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-11(1) 干潟生物（幼稚仔：碎波帯ネット）の出現状況（平成 27 年度）

調査期日		平成27年5月11、 13～16日	平成27年8月4～5、 7～8日	平成27年11月2、 4～7日	平成28年2月1～4日
出現種類数 〔39〕	軟体動物	1 (9.1)	2 (12.5)	3 (17.6)	
	節足動物	2 (18.2)	6 (37.5)	7 (41.2)	1 (14.3)
	魚類	8 (72.7)	8 (72.7)	4 (0.6)	6 (85.7)
	その他			1 (5.9)	
	合計	11	16	17	7
平均 出現個体数 (個体/100m)	軟体動物	2 (10.5)	1 (1.1)	1 (1.8)	
	節足動物	2 (10.5)	74 (83.1)	13 (23.6)	1 (7.1)
	魚類	15(78.9)	14 (15.7)	41 (74.5)	13 (92.9)
	その他			0 (0.0)	
	合計	19	89	55	14
主な 出現種 (%)	ハゼ科	(26.4)	クルマエビ科 (70.7)	アユ (49.5)	アユ (74.4)
	ボラ科	(16.0)		キチヌ (17.2)	フウライボラ (15.9)
	メナダ属	(11.3)		アキアミ (11.7)	
	スズキ属	(10.4)			
	クロダイ	(10.4)			

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比（%）を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は、年間の総出現種類数を示す。

〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8.8-11(2) 干潟生物（幼稚仔：碎波帯ネット）の出現状況（平成 28 年度）

調査期日		平成28年5月2、 7～11日	平成28年8月2～6日	平成28年11月2、 4～7日	平成29年2月1～2、 4～5、9日
出現種類数 〔41〕	軟体動物	1 (4.2)	1 (7.1)		
	節足動物	5 (20.8)	3 (21.4)		4 (44.4)
	魚類	18 (75.0)	10 (71.4)	9 (100.0)	5 (55.6)
	その他				
	合計	24	14	9	9
平均 出現個体数 (個体/100m)	軟体動物	2 (5.4)	0 (0.0)		
	節足動物	9 (24.3)	1 (10.0)		2 (12.5)
	魚類	26 (70.3)	9 (90.0)	4 (100.0)	14 (87.5)
	その他				
	合計	37	10	4	16
主な 出現種 (%)	ヒメハゼ	(16.1)	スズキ属 (59.0)	アユ (29.2)	アユ (42.6)
	スズキ属	(15.7)		コトヒキ (29.2)	ボラ科 (35.1)
	エビジャコ属	(13.9)		マタナゴ (12.5)	

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比（%）を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は、年間の総出現種類数を示す。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-12(1) 干潟生物(幼稚仔:水流噴射式ネット)の出現状況(平成27年度)

調査期日		平成27年5月 11、14、16、27～28日	平成27年8月5、 7～8、10日	平成27年11月4～7日	平成28年2月1～2、 4～6日
出現種類数 〔67〕	軟体動物	15 (45.5)	17 (58.6)	19 (54.3)	14 (32.6)
	節足動物	10 (30.3)	7 (24.1)	13 (37.1)	18 (41.9)
	魚類	2 (6.1)	4 (13.8)	1 (2.9)	2 (4.7)
	その他	6 (18.2)	1 (3.4)	2 (5.7)	9 (20.9)
	合計	33	29	35	43
平均 出現個体数 (個体/100m)	軟体動物	941 (95.1)	146 (96.7)	2,245 (98.3)	570 (88.9)
	節足動物	6 (0.6)	3 (2.0)	9 (0.4)	19 (3.0)
	魚類	1 (0.1)	1 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
	その他	41 (4.1)	1 (0.7)	30 (1.3)	52 (8.1)
	合計	989	151	2,284	641
主な 出現種 (%)	アサリ (90.1)	シオフキ (36.5) アサリ (22.0)	シオフキ (43.2) アサリ (34.1)	シオフキ (68.6)	

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比(%)を示す。四捨五入の関係で合計が100にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は、年間の総出現種類数を示す。

〔平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成28年)より作成

付表 8.8-12(2) 干潟生物(幼稚仔:水流噴射式ネット)の出現状況(平成28年度)

調査期日		平成28年5月2、 9～11日	平成28年8月3～6日	平成28年11月4～7日	平成29年2月2、 4～5、14日
出現種類数 〔72〕	軟体動物	21 (41.2)	21 (52.5)	18 (47.4)	19 (45.2)
	節足動物	17 (33.3)	12 (30.0)	16 (42.1)	17 (40.5)
	魚類	5 (9.8)	4 (10.0)	2 (5.3)	2 (4.8)
	その他	8 (15.7)	3 (7.5)	2 (5.3)	4 (9.5)
	合計	51	40	38	42
平均 出現個体数 (個体/100m)	軟体動物	333 (63.7)	228 (89.8)	2,873 (99.4)	1,008 (93.5)
	節足動物	5 (1.0)	5 (2.0)	6 (0.2)	9 (0.8)
	魚類	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	その他	184 (35.2)	21 (8.3)	10 (0.3)	60 (5.6)
	合計	523	254	2,889	1,077
主な 出現種 (%)	シオフキ (46.2) ハスノハカシパン (34.3)	シオフキ (36.0) バカガイ (22.0) ユウシオガイ (15.0)	アサリ (63.7) シオフキ (22.3)	シオフキ (56.0) アサリ (21.1) バカガイ (14.0)	

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比(%)を示す。四捨五入の関係で合計が100にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は、年間の総出現種類数を示す。

〔平成28年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成29年)より作成

付表 8.8-13(1) 底生生物（アマモ場）の出現状況（平成 26 年度）

調査期日		平成26年5月12～17日、 19～20日	平成26年8月1～2日、 4～8、14日	平成26年11月15～17日、 19～22日	平成27年1月29～30日、 2月1～5日
項目	出現種類数 [182]	108	120	109	108
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	393 (21.2)	577 (32.5)	11,641 (93.8)	288 (28.3)
	環形動物	1,025 (55.2)	618 (34.8)	340 (2.7)	441 (43.3)
	節足動物	87 (4.7)	331 (18.6)	201 (1.6)	113 (11.1)
	棘皮動物	273 (14.7)	148 (8.3)	156 (1.3)	116 (11.4)
	その他	80 (4.3)	103 (5.8)	70 (0.6)	61 (6.0)
	合 計	1,858	1,777	12,408	1,019
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	63.90 (6.7)	77.48 (6.6)	289.98 (16.4)	52.38 (7.3)
	環形動物	21.42 (2.3)	14.34 (1.2)	9.38 (0.5)	21.83 (3.0)
	節足動物	1.34 (0.1)	3.27 (0.3)	5.62 (0.3)	4.91 (0.7)
	棘皮動物	860.84 (90.5)	1,059.38 (90.3)	1,453.48 (82.3)	635.13 (88.5)
	その他	3.79 (0.4)	18.75 (1.6)	7.30 (0.4)	3.71 (0.5)
	合 計	951.29	1,173.22	1,765.76	717.96
主な 出現種 (%)	個体数	Chone sp. (27.4) ハスノハカシパン (13.1)	ヨーロッパフジツボ (13.1)	シマハマツボ (91.4)	シマハマツボ (17.1) ミナミシロガネゴカイ (11.5) ハスノハカシパン (10.1)
	湿重量	ハスノハカシパン (89.0)	ハスノハカシパン (89.3)	ハスノハカシパン (81.8)	ハスノハカシパン (85.2)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成

付表 8.8-13(2) 底生生物（アマモ場）の出現状況（平成 27 年度）

調査期日		平成27年5月11～16日	平成27年8月3～5日、 7～8日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～5日
項目	出現種類数 [196]	106	111	129	118
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	154 (21.7)	4,421 (87.9)	9,364 (87.7)	1,053 (48.8)
	環形動物	318 (44.9)	301 (6.0)	703 (6.6)	646 (29.9)
	節足動物	52 (7.3)	106 (2.1)	395 (3.7)	198 (9.2)
	棘皮動物	118 (16.6)	121 (2.4)	146 (1.4)	173 (8.0)
	その他	67 (9.4)	79 (1.6)	70 (0.7)	90 (4.2)
	合 計	709	5,028	10,678	2,160
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	87.92 (7.5)	209.48 (11.0)	129.74 (8.4)	67.26 (4.8)
	環形動物	17.38 (1.5)	21.52 (1.1)	33.68 (2.2)	19.37 (1.4)
	節足動物	0.63 (0.1)	1.56 (0.1)	3.71 (0.2)	2.28 (0.2)
	棘皮動物	1,065.44 (90.3)	1,672.86 (87.7)	1,369.88 (88.8)	1,317.55 (93.4)
	その他	8.47 (0.7)	3.14 (0.2)	5.11 (0.3)	4.60 (0.3)
	合 計	1,179.84	1,908.56	1,542.12	1,411.06
主な 出現種 (%)	個体数	ハスノハカシパン (13.0)	シマハマツボ (70.0)	シマハマツボ (84.0)	シマハマツボ (40.1)
	湿重量	ハスノハカシパン (88.3)	ハスノハカシパン (87.1)	ハスノハカシパン (88.4)	ハスノハカシパン (93.1)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8.8-13(3) 底生生物（アマモ場）の出現状況（平成 28 年度）

調査期日		平成28年5月7～11日	平成28年8月1～5日	平成28年11月1～2、4～6日	平成29年2月1～2日、4～5、9日
項目	出現種類数 [212]	131	112	138	139
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	791 (36.0)	2,368 (74.0)	1,955 (54.9)	680 (22.0)
	環形動物	700 (31.8)	493 (15.4)	1,046 (29.4)	1,311 (42.5)
	節足動物	497 (22.6)	144 (4.5)	307 (8.6)	792 (25.7)
	棘皮動物	156 (7.1)	111 (3.5)	98 (2.8)	151 (4.9)
	その他	55 (2.5)	86 (2.7)	153 (4.3)	151 (4.9)
	合 計	2,199	3,202	3,559	3,085
平均 出現湿重量 (g/m ²)	軟体動物	113.98 (6.5)	84.95 (4.0)	197.00 (12.0)	181.89 (10.0)
	環形動物	33.21 (1.9)	15.06 (0.7)	27.26 (1.7)	29.83 (1.6)
	節足動物	5.11 (0.3)	2.28 (0.1)	2.75 (0.2)	6.88 (0.4)
	棘皮動物	1,600.76 (91.1)	2,012.71 (95.1)	1,411.94 (85.9)	1,587.78 (87.5)
	その他	4.13 (0.2)	1.94 (0.1)	4.98 (0.3)	8.69 (0.5)
	合 計	1,757.19	2,116.94	1,643.93	1,815.07
主な 出現種 (%)	個体数	シマハマツボ (13.2) チャイロタマキビ属 (13.2)	シマハマツボ (33.5) ホトトギスガイ (11.4)	シマハマツボ (35.3)	<i>Eumice</i> sp. (15.0)
	湿重量	ハスノハカシパン (90.2)	ハスノハカシパン (94.8)	ハスノハカシパン (85.5)	ハスノハカシパン (86.4)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-14(1) 葉上生物（アマモ場）の出現状況（平成 26 年度）

調査期日		平成26年5月12～17日、 19～20日	平成26年8月1～2日、 4～8、14日	平成26年11月15～17日、 19～22日	平成27年1月29～30日、 2月1～5日
出現種類数 〔110〕		64	56	34	35
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	2,148 (75.9)	9,294 (96.0)	446 (80.4)	199 (90.0)
	環形動物	20 (0.7)	35 (0.4)	9 (1.6)	2 (0.9)
	節足動物	654 (23.1)	326 (3.4)	94 (16.9)	16 (7.2)
	その他	8 (0.3)	29 (0.3)	6 (1.1)	4 (1.8)
	合計	2,830	9,684	555	221
主な 出現種 (%)		シマハマツボ (65.3) マルエラワレカラ (11.2) チャイロタマキビ属 (10.1)	シマハマツボ (91.0)	シマハマツボ (77.6) ヨーロッパフジツボ (13.3)	シマハマツボ (63.2) アラムシロ (15.9)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

付表 8.8-14(2) 葉上生物（アマモ場）の出現状況（平成 27 年度）

調査期日		平成27年5月11～16日	平成27年8月3～5、 7～8日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～5日
出現種類数 〔120〕		42	56	70	54
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	523 (31.6)	3,858 (68.9)	32,879 (96.9)	4,132 (94.6)
	環形動物	1,015 (61.3)	1,406 (25.1)	110 (0.3)	11 (0.3)
	節足動物	117 (7.1)	282 (5.0)	890 (2.6)	221 (5.1)
	その他	1 (0.1)	54 (1.0)	52 (0.2)	4 (0.1)
	合計	1,656	5,600	33,931	4,368
主な 出現種 (%)		ウズマキゴカイ亜科 (61.0) チャイロタマキビ属 (23.7)	シマハマツボ (64.9) ウズマキゴカイ亜科 (24.4)	シマハマツボ (96.7)	シマハマツボ (94.4)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕

付表 8.8-14(3) 葉上生物（アマモ場）の出現状況（平成 28 年度）

項目		調査期日			
		平成28年5月7～11日	平成28年8月1～5日	平成28年11月1～2日、 4～6日	平成29年2月1～2日、 4～5日、9日
出現種類数 [146]		76	82	80	59
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	721 (67.4)	74,886 (97.6)	36,577 (97.7)	641 (45.5)
	環形動物	27 (2.5)	209 (0.3)	54 (0.1)	25 (1.8)
	節足動物	316 (29.6)	1,522 (2.0)	769 (2.1)	735 (52.1)
	その他	5 (0.5)	124 (0.2)	40 (0.1)	9 (0.6)
	合 計	1,069	76,741	37,440	1,410
主な 出現種 (%)		シマハマツボ (42.3) チャイロタマキビ属 (24.6)	シマハマツボ (96.7)	シマハマツボ (97.3)	シマハマツボ (44.7) アゴナガヨコエビ属 (16.5)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比（%）を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-15(1) 葉上生物（空港島護岸）の出現状況（平成 27 年度）

調査期日		平成27年5月14日、18日	平成27年6月12日	平成27年7月10日、23日	平成27年8月8日
項目	出現種類数 [142]	74	80	74	75
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	1,100 (9.1)	1,509 (19.2)	418 (32.0)	210 (32.0)
	環形動物	37 (0.3)	61 (0.8)	79 (6.0)	50 (7.6)
	節足動物	10,942 (90.4)	6,270 (79.7)	787 (60.3)	370 (56.3)
	棘皮動物	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	その他	24 (0.2)	27 (0.3)	22 (1.7)	27 (4.1)
	合計	12,103	7,867	1,306	657
主な 出現種 (%)		マルエラワレカラ (86.3)	マルエラワレカラ (68.7)	マルエラワレカラ (18.8)	ホソワレカラ (11.4)

調査期日		平成27年9月14日	平成27年10月15日	平成27年11月4日、7日	平成27年12月9日、10日
項目	出現種類数 [142]	54	67	69	63
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	26 (19.5)	40 (21.3)	36 (15.1)	24 (10.3)
	環形動物	17 (12.8)	20 (10.6)	19 (8.0)	18 (7.8)
	節足動物	83 (62.4)	119 (63.3)	175 (73.5)	179 (77.2)
	棘皮動物	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (1.7)
	その他	7 (5.3)	9 (4.8)	8 (3.4)	7 (3.0)
	合計	133	188	238	232
主な 出現種 (%)		ヒゲナガヨコエビ属 (10.1)	ヒゲナガヨコエビ属 (19.4)	ヒゲナガヨコエビ属 (15.8)	マルエラワレカラ (25.8) カマキリヨコエビ属 (14.6) ヒゲナガヨコエビ属 (10.4)

調査期日		平成28年1月12日、13日	平成28年2月6日、8日	平成28年3月12日、13日
項目	出現種類数 [142]	51	58	76
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	15 (8.8)	10 (4.6)	29 (0.3)
	環形動物	11 (6.5)	11 (5.0)	24 (0.2)
	節足動物	136 (80.0)	191 (87.6)	11,120 (99.4)
	棘皮動物	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (0.0)
	その他	8 (4.7)	6 (2.8)	14 (0.1)
	合計	170	213	11,190
主な 出現種 (%)		カマキリヨコエビ属 (26.9) マルエラワレカラ (19.8)	カマキリヨコエビ属 (29.4) マルエラワレカラ (22.8)	マルエラワレカラ (88.3)

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比(%)を示す。四捨五入の関係で合計が100にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は、年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年)より作成〕

付表 8.8-15(2) 葉上生物（空港島護岸）の出現状況（平成 28 年度）

調査期日		平成28年4月24、25日	平成28年5月10日	平成28年6月9日
項目	出現種類数 〔157〕	84	82	81
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	57 (2.1)	97 (5.5)	432 (7.5)
	環形動物	34 (1.3)	32 (1.8)	69 (1.2)
	節足動物	2,593 (95.9)	1,611 (91.2)	5,259 (90.8)
	棘皮動物	5 (0.2)	3 (0.2)	2 (0.0)
	その他	15 (0.6)	24 (1.4)	32 (0.6)
	合計	2,704	1,767	5,794
主な 出現種 (%)	マルエラワレカラ (47.3) カマキリヨコエビ属 (28.2)	マルエラワレカラ (46.5) ホソワレカラ (11.4) モクズヨコエビ科 (10.6)	ホソワレカラ (34.8) マルエラワレカラ (28.0) モクズヨコエビ科 (12.2)	

調査期日		平成28年7月11日	平成28年9月12、26日	平成28年11月5、6日
項目	出現種類数 〔157〕	88	83	78
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	413 (19.9)	339 (28.1)	657 (57.5)
	環形動物	144 (6.9)	97 (8.0)	22 (1.9)
	節足動物	1,486 (71.7)	733 (60.7)	408 (35.7)
	棘皮動物	4 (0.2)	4 (0.3)	12 (1.1)
	その他	25 (1.2)	34 (2.8)	43 (3.8)
	合計	2,072	1,207	1,142
主な 出現種 (%)	ドロノミ属 (13.1) マルエラワレカラ (11.2) ホソワレカラ (10.6)	シマハマツボ (24.9) マルエラワレカラ (20.7) ホソワレカラ (18.7)	シマハマツボ (53.6) マルエラワレカラ (13.3)	

調査期日		平成29年1月11、18日	平成29年2月3、4、17日	平成29年3月6、13日
項目	出現種類数 〔157〕	80	81	78
平均 出現個体数 (個体/m ²)	軟体動物	592 (14.7)	155 (2.0)	529 (7.0)
	環形動物	14 (0.3)	33 (0.4)	23 (0.3)
	節足動物	3,370 (83.7)	7,334 (96.9)	6,971 (92.2)
	棘皮動物	10 (0.2)	15 (0.2)	9 (0.1)
	その他	40 (1.0)	32 (0.4)	27 (0.4)
	合計	4,026	7,569	7,559
主な 出現種 (%)	マルエラワレカラ (46.3) カマキリヨコエビ属 (19.6) シマハマツボ (14.0)	マルエラワレカラ (58.8) カマキリヨコエビ属 (21.1)	マルエラワレカラ (57.5) カマキリヨコエビ属 (20.1)	

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-16(1) 魚卵（アマモ場）の出現状況（平成 26 年度）

(ネット採集調査)

調査期日 項目	平成26年 5月12～17、 19、20日			平成26年 8月1～2、 4～8、14日			平成26年11月15～17、 19～22日			平成27年1月29、30日、 2月1～5日		
出現種類数 〔7〕	5			8			1			0		
出現個数 (個/1,000m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	0	3,277	826	237	168,138	29,130	0	88	15			
主 な 出現種 (%)	単脂卵 A (84.5)			単脂卵 B (93.9)			ネズッコ科 (100.0)					

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個数に対する比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示すが、不明卵は総出現種類数に含めない。
 4. 単脂卵の卵径は以下のとおりである。

調査年月日	不明卵名	卵径範囲 (mm)	調査年月日	不明卵名	卵径範囲 (mm)
平成 26 年 5 月	単脂卵 A	0.82～0.86	平成 26 年 8 月	単脂卵 B	0.56～0.58

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成

付表 8.8-16(2) 魚卵（アマモ場）の出現状況（平成 27 年度）

(ネット採集調査)

調査期日 項目	平成27年 5月11、12、 14～16日			平成27年8月5、7、 8、10日			平成27年11月4～7日			平成28年2月1～4日		
出現種類数 〔7〕	6			6			4			0		
出現個数 (個/1,000m ³)	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
	0	1,031	354	196	779,776	179,451	0	576	114			
主 な 出現種 (%)	ネズッコ科 (39.7) カタクチイワシ (26.7) 単脂卵 C (16.8)			単脂卵 D (86.4)			ネズッコ科 (47.4) ウシノシタ亜目 (28.2) メイタガレイ属 (14.1) カタクチイワシ (10.3)					

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総個数に対する比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示すが、不明卵は総出現種類数に含めない。
 4. 単脂卵の卵径は以下のとおりである。

調査年月日	不明卵名	卵径範囲 (mm)	調査年月日	不明卵名	卵径範囲 (mm)
平成 27 年 5 月	単脂卵 C	0.81～0.82	平成 27 年 8 月	単脂卵 D	0.56～0.60

〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8.8-17(1) 幼稚仔（アマモ場）の出現状況（平成 26 年度）

（ソリネット調査）

調査期日		平成26年5月12～17日、 19～20日	平成26年8月1～2日、 4～8、14日	平成26年11月15～17日、 19～22日	平成27年1月29～30日、 2月1～5日
項目	出現種類数 [79]	38	39	35	27
平均 出現個体数 (個体/曳網)	軟体動物	11 (7.0)	220 (87.6)	4 (4.3)	54 (23.6)
	節足動物	54 (34.2)	11 (4.4)	51 (55.4)	68 (29.7)
	魚類	59 (37.3)	18 (7.2)	31 (33.7)	87 (38.0)
	その他	34 (21.5)	2 (0.8)	6 (6.5)	20 (8.7)
	合計	158	251	92	229
主な 出現種 (%)	エビジャコ属 (31.7)	シオフキ (34.6)	エビジャコ属 (30.8)	イシガレイ (30.7)	
	ハスノハカシパン (21.6)	アサリ (28.9)	ヒメハゼ (23.0)	バカガイ (21.8)	
	ヒメハゼ (17.6)	ホトトギスガイ (18.6)	モエビ科 (16.4)	モエビ科 (21.6)	

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成

付表 8.8-17(2) 幼稚仔（アマモ場）の出現状況（平成 27 年度）

（ソリネット調査）

調査期日		平成27年5月11～16日	平成27年8月3～5、 7～8日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～5日
項目	出現種類数 [105]	43	45	63	40
平均 出現個体数 (個体/100m)	軟体動物	19 (8.9)	34 (24.3)	35 (8.9)	45 (39.8)
	節足動物	109 (51.2)	59 (42.1)	93 (23.5)	22 (19.5)
	魚類	73 (34.3)	28 (20.0)	38 (9.6)	33 (29.2)
	その他	12 (5.6)	19 (13.6)	229 (58.0)	13 (11.5)
	合計	213	140	395	113
主な 出現種 (%)	エビジャコ属 (45.2)	エビジャコ属 (36.4)	サンショウウニ科 (53.3)	ヒメイカ (31.4)	
	ヒメハゼ (11.6)	バカガイ (18.1)	ヒラツノモエビ (10.1)	ヒメハゼ (26.1)	
		ハスノハカシパン (13.5)			

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8.8-17(3) 幼稚仔（アマモ場）の出現状況（平成 28 年度）

（ソリネット調査）

調査期日		平成28年5月2、8～11日	平成28年8月3～6、8日	平成28年11月4～7日	平成29年2月1～2、4～5、14日
項目	出現種類数 〔107〕	57	59	54	35
平均 出現個体数 (個体/100m)	軟体動物	36 (19.1)	147 (60.7)	17 (25.8)	30 (17.5)
	節足動物	48 (25.5)	20 (8.3)	19 (28.8)	36 (21.1)
	魚類	63 (33.5)	67 (27.7)	14 (21.2)	49 (28.7)
	その他	41 (21.8)	8 (3.3)	16 (24.2)	56 (32.7)
	合計	188	242	66	171
主な 出現種 (%)	エビジャコ属 (22.5) ハスノハカシパン (20.8) キセワタガイ属 (13.8)	バカガイ (29.7) ヒメハゼ (20.1) シオフキ (14.8) アサリ (13.7)	バカガイ (17.2) エビジャコ属 (12.7) ハスノハカシパン (12.1) ユビナガスジエビ (10.1)	ハスノハカシパン (30.8) イシガレイ (19.0) エビジャコ属 (18.9) バカガイ (13.7)	

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比（%）を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は、年間の総出現種類数を示す。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.8-17(4) 幼稚仔（アマモ場）の出現状況（平成 27 年度）

（藻曳網調査）

調査期日		平成27年5月27～28、6月1日	平成27年8月5、7～8、10日	平成27年11月4～7日	平成28年2月1～2、4～6日
項目	出現種類数 〔75〕	28	34	41	19
平均 出現個体数 (個体/100m)	軟体動物	2 (3.8)	0 (0.0)	1 (1.7)	1 (16.7)
	節足動物	13 (25.0)	3 (9.7)	5 (8.3)	1 (16.7)
	魚類	37 (71.2)	28 (90.3)	10 (16.7)	1 (16.7)
	その他		0 (0.0)	44 (73.3)	3 (50.0)
	合計	52	31	60	6
主な 出現種 (%)	メバル属 (40.7) タケノコメバル (15.2)	クロソイ (33.2) メバル属 (26.1) ギマ (10.9)	サンショウウニ科 (71.7) アミメハギ (10.5)	サンショウウニ科 (31.4) トゲモミジガイ (22.9)	

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比（%）を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は、年間の総出現種類数を示す。

〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8.8-17(5) 幼稚仔（アマモ場）の出現状況（平成 28 年度）

（藻曳網調査）

調査期日		平成28年5月2、9～11日	平成28年8月3～6日	平成28年11月5～7日	平成29年2月2、4～5、14日
項目	出現種類数 [74]	35	39	28	23
平均 出現個体数 (個体/100m)	軟体動物	10 (22.2)	1 (4.8)	2 (25.0)	2 (40.0)
	節足動物	3 (6.7)	2 (9.5)	1 (12.5)	1 (20.0)
	魚類	22 (48.9)	17 (81.0)	2 (25.0)	0 (0.0)
	その他	10 (22.2)	1 (4.8)	3 (37.5)	2 (40.0)
	合計	45	21	8	5
主な 出現種 (%)	メバル属 (24.0)	メバル属 (26.4)	サンショウウユニ科 (25.0)	キセワタガイ属 (25.0)	
	サンショウウユニ科 (22.1)	クロソイ (12.4)	トゲアメフラシ (14.6)	サンショウウユニ科 (14.3)	
	タケノコメバル (15.5)	スズキ属 (10.9)	ハスノハカシパン (10.4)	エビジャコ属 (10.7)	
	ヒメイカ (11.8)			ハスノハカシパン (10.7)	
	キセワタガイ属 (10.7)				

- 注：1. 調査期間のいずれかにおいて、個体数の組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比（%）を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は、年間の総出現種類数を示す。

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成

付表 8.8-18(1) 魚類等（空港島護岸）の出現状況（平成 26 年度）

項目	調査期日	平成26年5月19～21、 23、26日	平成26年8月18～22日	平成26年11月17～20、25 日	平成27年2月7、8、 10～12日
出現種類数 [46]		21	36	35	8
主な 出現種		メバル アカオビシマハゼ	メバル カサゴ ウミタナゴ キュウセン アサヒアナハゼ アカカマス	メバル カサゴ クロダイ ウミタナゴ メジナ キュウセン アサヒアナハゼ アカオビシマハゼ	該当種なし

- 注：1. 主な出現種は各季節ですべての調査点に出現した種及び7測線以上（3/4以上）に出現し、かついずれかの観察枠においてCR法（多い方からcc、c、+、r、rr）のcc、cに該当する種を示す。
2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成〕

付表 8.8-18(2) 魚類等（空港島護岸）の出現状況（平成 27 年度）

項目	調査期日	平成27年5月11、 14～17、19日	平成27年8月3～7、14日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～5日
出現種類数 [58]		29	35	45	15
主な 出現種		メバル キュウセン アサヒアナハゼ ナベカ アカオビシマハゼ	メバル カサゴ クロダイ マダイ ウミタナゴ スズメダイ メジナ キュウセン	メバル カサゴ クロダイ ウミタナゴ スズメダイ メジナ キュウセン アカオビシマハゼ ハゼ科	メバル

- 注：1. 主な出現種は各季節ですべての調査点に出現した種及び7測線以上（3/4以上）に出現し、かついずれかの観察枠においてCR法（多い方からcc、c、+、r、rr）のcc、cに該当する種を示す。
2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成〕

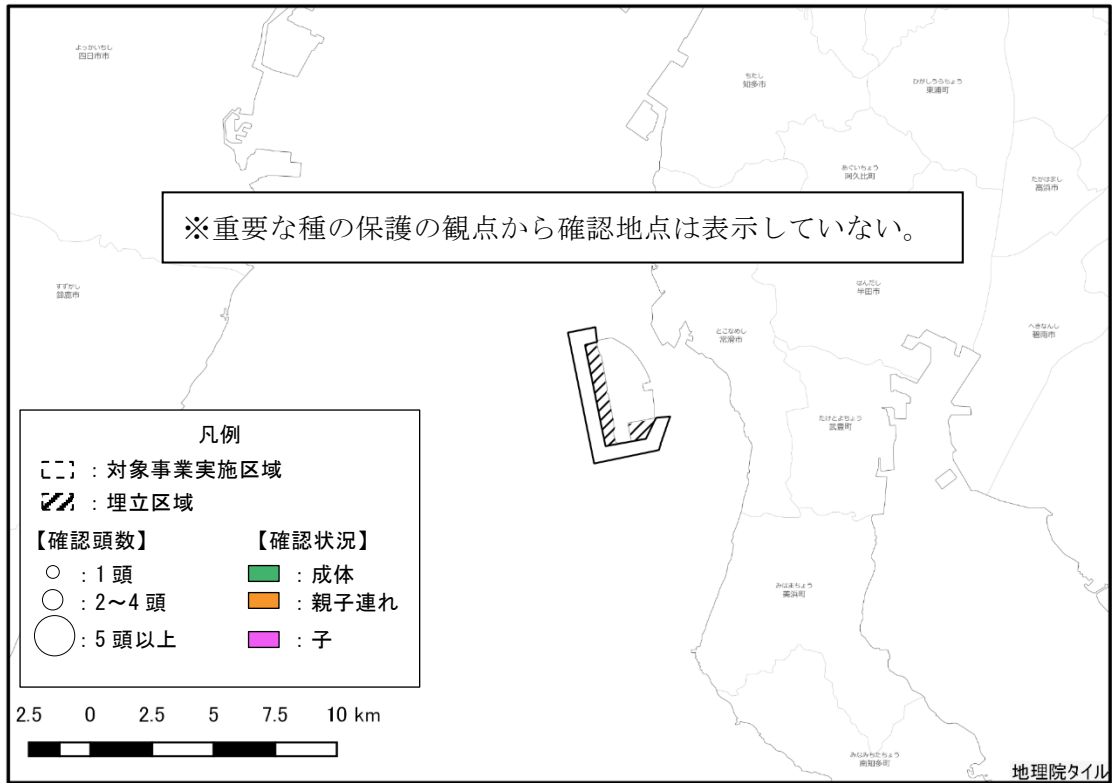
付表 8.8-18(3) 魚類等（空港島護岸）の出現状況（平成 28 年度）

項目 \ 調査期日	平成28年5月2、5～9日	平成28年8月1～3、5、7日	平成28年11月1～2、4～5、8日	平成29年2月1～2、4～5、9、25日
出現種類数 〔54〕	28	31	45	13
主な 出現種	メバル カサゴ クロダイ ウミタナゴ スズメダイ キュウセン ハゼ科	メバル カサゴ クロダイ ウミタナゴ スズメダイ キュウセン アサヒアナハゼ ハゼ科	メバル カサゴ クロダイ ウミタナゴ スズメダイ キュウセン アカオビシマハゼ ハゼ科	該当種なし

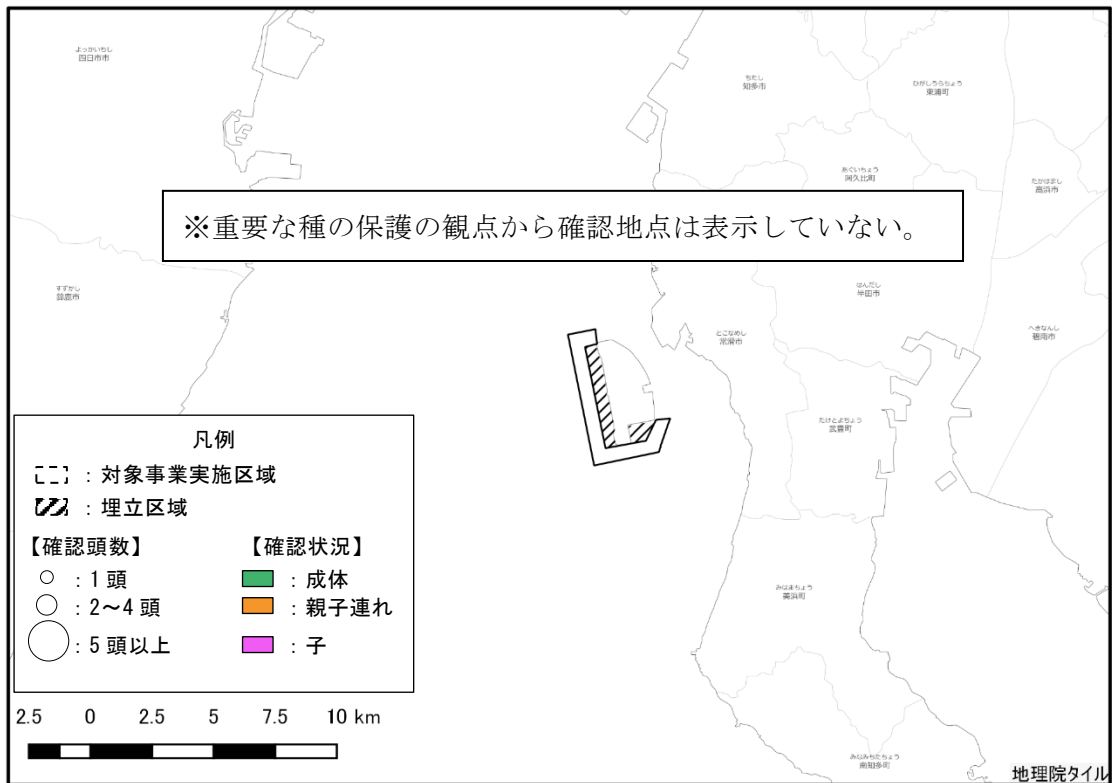
注：1. 主な出現種は各季節ですべての調査点に出現した種及び7測線以上（3/4以上）に出現し、かついずれかの観察枠においてCR法（多い方からcc、c、+、r、rr）のcc、cに該当する種を示す。

2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

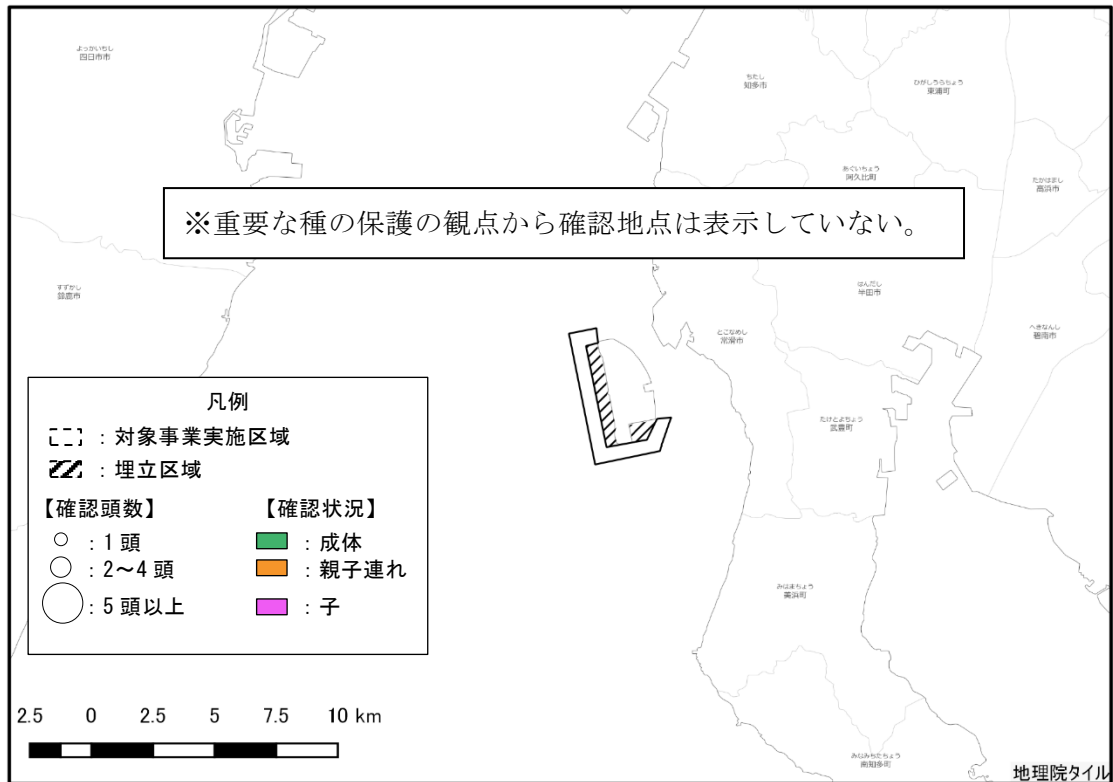
〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 （国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成



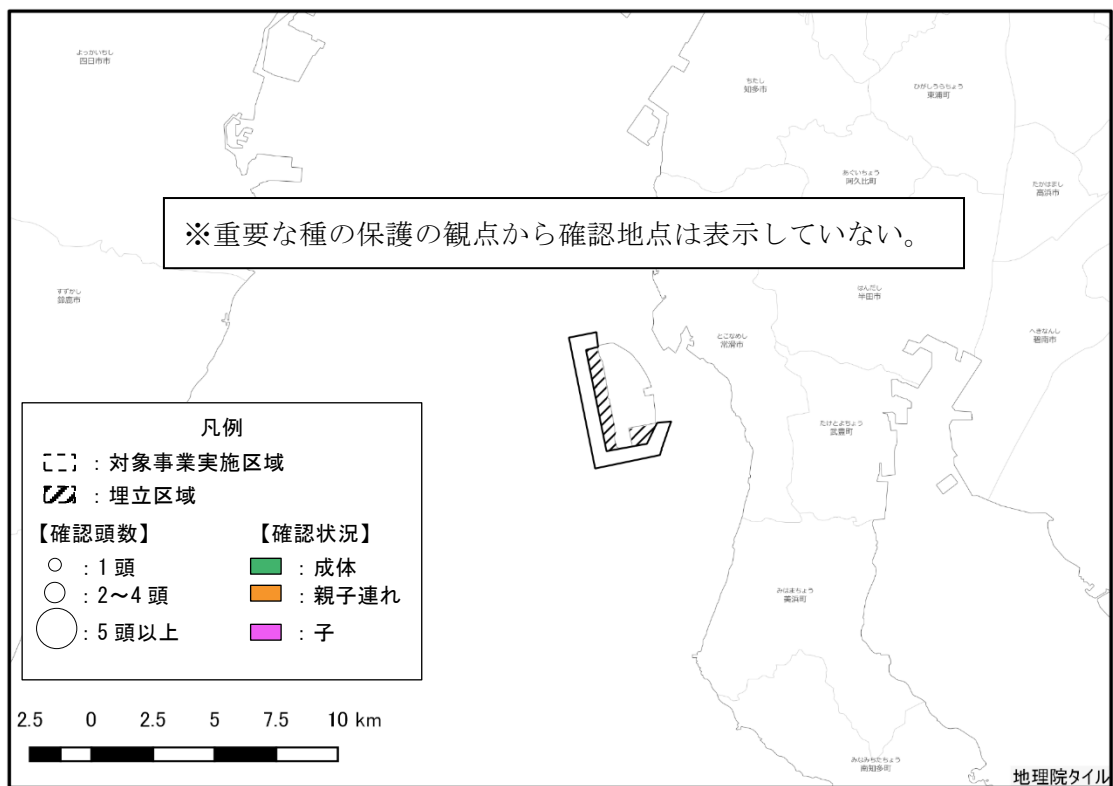
付図 8.8-9(1) スナメリ確認位置 (平成 28 年 5 月)



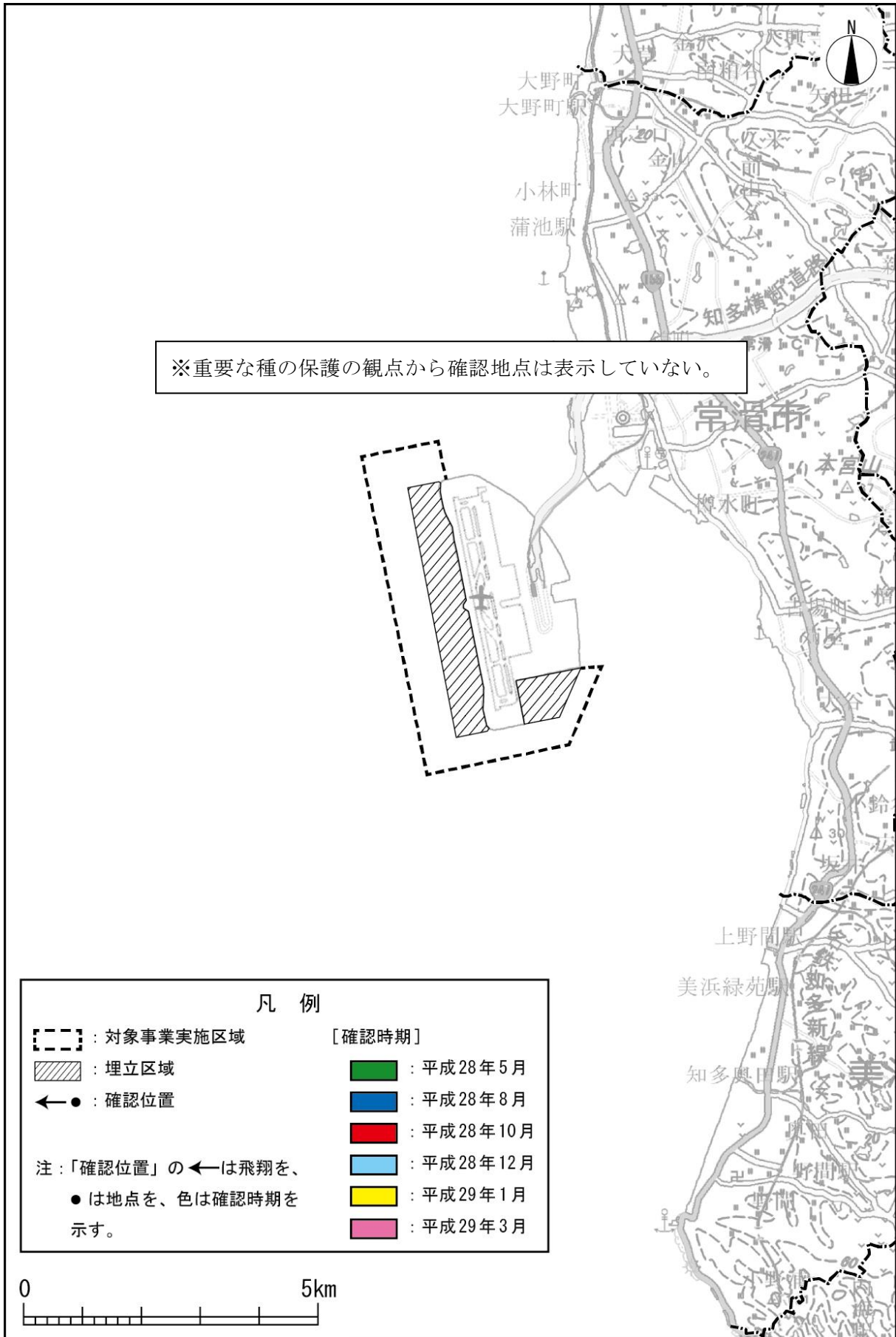
付図 8.8-9(2) スナメリ確認位置 (平成 28 年 8 月)



付図 8.8-9(3) スナメリ確認位置 (平成 28 年 11 月)



付図 8.8-9(4) スナメリ確認位置 (平成 29 年 2 月)



付図 8.8-10 重要な種の確認状況（鳥類）



付図 8.8-11 重要な種の確認状況（海生動物）

8.9 植物に係る資料

付表 8.9-1(1) 植物プランクトン出現状況 (平成 26 年度 4~9 月)

調査期日		平成26年4月15日			平成26年5月14日			平成26年6月13日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 〔116〕		48			51			46		
出現細胞数 (細胞/L)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		95,760	5,545,200	2,044,422	639,600	14,168,900	4,187,926	2,533,900	23,396,100	7,301,404
中層		234,900	5,223,000	2,095,255	477,200	6,150,400	2,688,130	2,004,500	24,835,200	6,596,965
底層		—	—	—	26,160	5,116,900	1,124,214	—	—	—
全層		95,760	5,545,200	2,069,838	26,160	14,168,900	2,666,757	2,004,500	24,835,200	6,949,185
主 な 出現種 (%)	上層	<i>Skeletonema</i> spp. (58.8) <i>Prorocentrum minimum</i> (14.2)			Unidentified flagellates (36.2) <i>Skeletonema</i> spp. (36.4) Cryptophyceae (10.9)			<i>Skeletonema</i> spp. (65.8) <i>Thalassiosira</i> spp. (23.2)		
	中層	<i>Skeletonema</i> spp. (56.9) <i>Prorocentrum minimum</i> (15.4)			Unidentified flagellates (46.4) <i>Skeletonema</i> spp. (24.3) Cryptophyceae (13.9)			<i>Skeletonema</i> spp. (67.1) <i>Thalassiosira</i> spp. (21.7)		
	底層	—			Unidentified flagellates (42.4) <i>Skeletonema</i> spp. (22.3) Cryptophyceae (16.4)			—		
	全層	<i>Skeletonema</i> spp. (57.8) <i>Prorocentrum minimum</i> (14.8)			Unidentified flagellates (40.5) <i>Skeletonema</i> spp. (30.4) Cryptophyceae (12.7)			<i>Skeletonema</i> spp. (66.4) <i>Thalassiosira</i> spp. (22.5)		

調査期日		平成26年7月13日			平成26年8月24日			平成26年9月9日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 〔116〕		54			70			60		
出現細胞数 (細胞/L)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		3,298,600	42,163,200	12,766,754	3,673,800	27,975,600	10,520,887	269,280	26,591,100	5,231,252
中層		153,600	15,837,600	5,608,883	133,080	12,023,600	4,548,764	326,280	22,271,100	4,642,613
底層		—	—	—	91,200	9,419,600	1,721,297	—	—	—
全層		153,600	42,163,200	9,187,818	91,200	27,975,600	5,596,983	269,280	26,591,100	4,936,933
主 な 出現種 (%)	上層	<i>Skeletonema</i> spp. (81.8)			<i>Skeletonema</i> spp. (77.7)			<i>Thalassiosira</i> spp. (52.3) <i>Skeletonema</i> spp. (27.9)		
	中層	<i>Skeletonema</i> spp. (78.1)			<i>Skeletonema</i> spp. (73.6)			<i>Skeletonema</i> spp. (51.9) <i>Thalassiosira</i> spp. (26.8)		
	底層	—			<i>Skeletonema</i> spp. (66.3) <i>Chaetoceros</i> spp. (11.3)			—		
	全層	<i>Skeletonema</i> spp. (80.6)			<i>Skeletonema</i> spp. (75.4)			<i>Skeletonema</i> spp. (52.1) <i>Thalassiosira</i> spp. (27.4)		

- 注：1. 組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総細胞数に対する細胞数比(%)を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。
 4. 「—」は測定が行われていないことを示す。
 5. 「上層」は海面下0.5m、「中層」は4、6、7、9月は海面下2.0m、5、8月は海面下5.0m又は採水時水深の1/2m、「底層」は海底上1.0mを示す。

〔「平成25年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成27年)より作成〕

付表 8.9-1(2) 植物プランクトン出現状況 (平成 26 年度 10~3 月)

調査期日		平成26年10月8日			平成26年11月8日			平成26年12月8日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 [116]		65			62			64		
出現細胞数 (細胞/L)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		55,800	1,118,520	507,647	175,440	2,569,800	695,512	85,800	631,200	261,235
中層		50,160	1,094,040	486,480	146,280	883,440	532,158	76,080	532,320	267,976
底層		—	—	—	39,480	807,960	259,002	—	—	—
全層		50,160	1,118,520	497,063	39,480	2,569,800	495,557	76,080	631,200	264,605
主な出現種 (%)	上層	<i>Skeletonema</i> spp. (44.0)			<i>Pseudo-nitzschia multistriata</i> (23.1) Cryptophyceae (16.5) Unidentified flagellates (14.0) <i>Skeletonema</i> spp. (10.6)			<i>Skeletonema</i> spp. (46.1) Cryptophyceae (21.1) Unidentified flagellates (14.0)		
	中層	<i>Skeletonema</i> spp. (43.3)			Cryptophyceae (21.5) <i>Pseudo-nitzschia multistriata</i> (19.9) Unidentified flagellates (13.1) <i>Skeletonema</i> spp. (11.8)			<i>Skeletonema</i> spp. (40.9) Cryptophyceae (26.3) Unidentified flagellates (12.6)		
	底層	—			Cryptophyceae (19.2) <i>Pseudo-nitzschia multistriata</i> (18.9) <i>Skeletonema</i> spp. (15.7) Unidentified flagellates (12.9) <i>Chaetoceros</i> spp. (11.4)			—		
	全層	<i>Skeletonema</i> spp. (43.7)			<i>Pseudo-nitzschia multistriata</i> (21.2) Cryptophyceae (18.8) Unidentified flagellates (13.5) <i>Skeletonema</i> spp. (11.9)			<i>Skeletonema</i> spp. (43.5) Cryptophyceae (23.7) Unidentified flagellates (13.3)		

調査期日		平成27年1月6日			平成27年2月4日			平成27年3月6日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 [116]		52			56			47		
出現細胞数 (細胞/L)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		144,480	811,320	361,617	458,280	7,431,960	2,338,377	121,680	527,040	259,706
中層		109,440	842,520	349,231	449,400	6,046,440	2,570,703	124,080	588,960	250,179
底層		—	—	—	539,160	4,539,960	1,794,923	—	—	—
全層		109,440	842,520	355,424	449,400	7,431,960	2,234,668	121,680	588,960	254,943
主な出現種 (%)	上層	Unidentified flagellates (33.8) Cryptophyceae (22.5) <i>Skeletonema</i> spp. (21.2)			<i>Skeletonema</i> spp. (86.7)			Cryptophyceae (45.2) Unidentified flagellates (26.8)		
	中層	Unidentified flagellates (32.1) Cryptophyceae (22.0) <i>Skeletonema</i> spp. (20.8)			<i>Skeletonema</i> spp. (86.6)			Cryptophyceae (44.5) Unidentified flagellates (27.0)		
	底層	—			<i>Skeletonema</i> spp. (84.5)			—		
	全層	Unidentified flagellates (33.0) Cryptophyceae (22.3) <i>Skeletonema</i> spp. (21.0)			<i>Skeletonema</i> spp. (86.1)			Cryptophyceae (44.8) Unidentified flagellates (26.9)		

- 注：1. 組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総細胞数に対する細胞数比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。
 4. 「—」は測定が行われていないことを示す。
 5. 「上層」は海面下 0.5m、「中層」は 10、12、1、3 月は海面下 2.0m、11、2 月は海面下 5.0m 又は採水時水深の 1/2m、「底層」は海底上 1.0m を示す。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕

付表 8.9-1(3) 植物プランクトン出現状況 (平成 27 年度 4~9 月)

調査期日		平成27年4月19日			平成27年5月19日			平成27年6月16日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 〔130〕		49			47			52		
出現細胞数 (細胞/L)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		619,920	4,513,680	2,253,141	263,520	11,085,840	2,024,880	697,440	5,995,200	2,350,320
中層		561,240	4,966,080	2,325,704	304,800	12,463,440	2,021,009	694,560	4,740,000	2,020,007
底層		—	—	—	69,720	2,153,280	544,216	—	—	—
全層		561,240	4,966,080	2,289,423	69,720	12,463,440	1,530,035	694,560	5,995,200	2,185,163
主 な 出現種 (%)	上層	Skeletonema spp. (61.0) Cryptophyceae (10.8)			Skeletonema spp. (64.9)			Thalassiosira spp. (33.3) Skeletonema spp. (13.2) Prorocentrum triestinum (11.7)		
	中層	Skeletonema spp. (60.7) Cryptophyceae (13.1)			Skeletonema spp. (63.1)			Thalassiosira spp. (36.5) Skeletonema spp. (11.3) Pseudo-nitzschia sp.(cf.pungens) (10.7)		
	底層	—			Skeletonema spp. (47.1) Cryptophyceae (14.8) Unidentified flagellates (10.9)			—		
	全層	Skeletonema spp. (60.8) Cryptophyceae (12.0)			Skeletonema spp. (62.0)			Thalassiosira spp. (34.8) Skeletonema spp. (12.3) Pseudo-nitzschia sp.(cf.pungens) (10.0)		

調査期日		平成27年7月20日			平成26年8月15日			平成27年9月12日		
項目		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
出現種類数 〔130〕		51			83			59		
出現細胞数 (細胞/L)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		273,600	14,965,920	5,514,078	486,960	10,048,320	3,220,367	170,160	12,240,480	3,249,725
中層		284,760	10,725,840	3,617,969	403,440	4,406,040	1,222,722	456,480	10,925,760	2,668,083
底層		—	—	—	31,200	3,850,200	645,840	—	—	—
全層		273,600	14,965,920	4,566,023	31,200	10,048,320	1,696,310	170,160	12,240,480	2,958,404
主 な 出現種 (%)	上層	Skeletonema spp. (46.4) Chaetoceros spp. (27.4) Thalassiosira spp. (10.3)			Chaetoceros spp. (53.6) Leptocylindrus minimus (11.8) Neodelphineis pelagica (11.2)			Thalassiosira spp. (40.4) Skeletonema spp. (35.5)		
	中層	Skeletonema spp. (35.1) Chaetoceros spp. (31.7)			Chaetoceros spp. (31.9) Neodelphineis pelagica (23.7)			Thalassiosira spp. (39.9) Skeletonema spp. (32.6)		
	底層	—			Chaetoceros spp. (39.8) Neodelphineis pelagica (19.2)			—		
	全層	Skeletonema spp. (42.0) Chaetoceros spp. (29.1)			Chaetoceros spp. (46.7) Neodelphineis pelagica (15.2)			Thalassiosira spp. (40.2) Skeletonema spp. (34.2)		

- 注：1. 組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総細胞数に対する細胞数比 (%) を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。
 4. 「—」は測定が行われていないことを示す。
 5. 「上層」は海面下 0.5m、「中層」は 4、6、7、9 月は海面下 2.0m、5、8 月は海面下 5.0m 又は採水時水深の 1/2m、「底層」は海底上 1.0m を示す。

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕

付表 8.9-1(4) 植物プランクトン出現状況（平成 27 年度 10～3 月）

調査期日		平成27年10月13日			平成27年11月10,11日			平成27年12月12日		
項目										
出現種類数 〔130〕		59			70			73		
出現細胞数 (細胞/L)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		34,560	5,125,440	2,485,503	49,440	468,240	183,266	61,440	291,360	139,617
中層		15,960	5,816,160	2,269,367	16,080	792,240	212,734	70,080	282,240	159,167
底層		—	—	—	39,240	364,320	107,802	—	—	—
全層		15,960	5,816,160	2,377,435	16,080	792,240	167,934	61,440	291,360	149,392
主な 出現種 (%)	上層	<i>Skeletonema</i> spp. (83.4)			Cryptophyceae (41.2) Unidentified flagellates (28.7)			Cryptophyceae (37.7) Unidentified flagellates (19.1)		
	中層	<i>Skeletonema</i> spp. (83.4)			Cryptophyceae (56.9) Unidentified flagellates (28.1)			Cryptophyceae (38.5) Unidentified flagellates (17.3)		
	底層	—			Cryptophyceae (47.4) Unidentified flagellates (28.6)			—		
	全層	<i>Skeletonema</i> spp. (83.4)			Cryptophyceae (49.1) Unidentified flagellates (28.5)			Cryptophyceae (38.1) Unidentified flagellates (18.1)		

調査期日		平成28年1月9～11日			平成28年2月9日			平成28年3月8日		
項目										
出現種類数 〔130〕		80			66			41		
出現細胞数 (細胞/L)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		106,560	2,076,960	524,557	81,000	1,198,320	581,896	65,400	2,144,400	581,739
中層		104,400	1,769,400	552,485	83,160	1,106,640	587,238	63,840	1,063,680	423,083
底層		—	—	—	78,840	936,720	288,402	—	—	—
全層		104,400	2,076,960	538,521	78,840	1,198,320	485,845	63,840	2,144,400	502,411
主な 出現種 (%)	上層	<i>Chaetoceros debile</i> (53.5)			<i>Leptocylindrus danicus</i> (34.9) <i>Skeletonema</i> spp. (15.7)			<i>Skeletonema</i> spp. (41.6) <i>Chaetoceros debile</i> (24.2) Cryptophyceae (11.6)		
	中層	<i>Chaetoceros debile</i> (56.0)			<i>Leptocylindrus danicus</i> (37.5) <i>Skeletonema</i> spp. (14.9)			<i>Skeletonema</i> spp. (27.8) Cryptophyceae (23.5) <i>Chaetoceros debile</i> (20.6)		
	底層	—			<i>Leptocylindrus danicus</i> (21.7) Cryptophyceae (12.6)			—		
	全層	<i>Chaetoceros debile</i> (54.8)			<i>Leptocylindrus danicus</i> (33.3) <i>Skeletonema</i> spp. (14.2)			<i>Skeletonema</i> spp. (35.8) <i>Chaetoceros debile</i> (22.7) Cryptophyceae (16.6)		

- 注：1. 組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総細胞数に対する細胞数比（%）を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。
 4. 「—」は測定が行われていないことを示す。
 5. 「上層」は海面下 0.5m、「中層」は 10、12、1、3 月は海面下 2.0m、11、2 月は海面下 5.0m 又は採水時水深の 1/2m、「底層」は海底上 1.0m を示す。

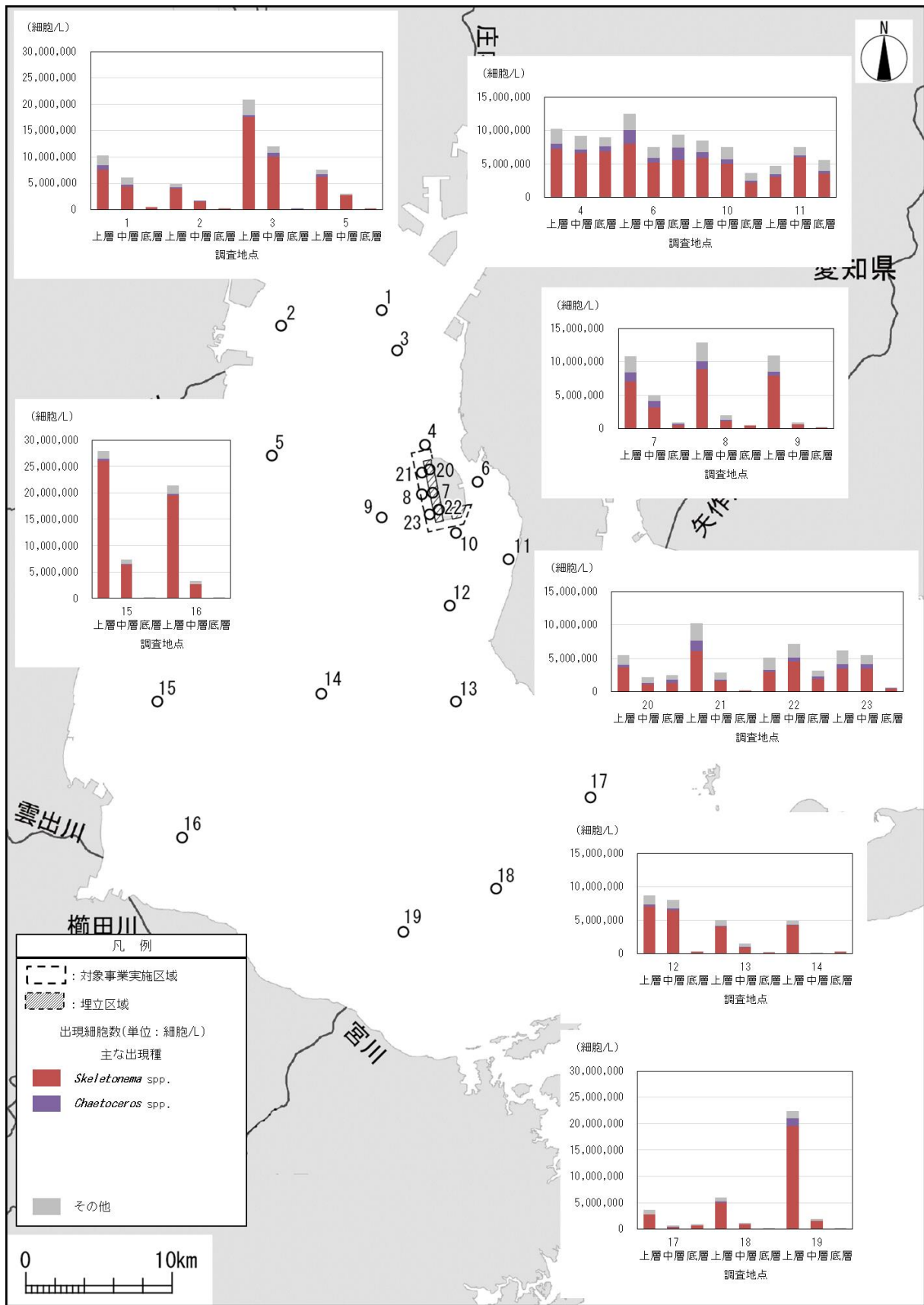
〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕

付表 8.9-1(5) 植物プランクトン出現状況（平成 28 年度）

調査期日		平成28年8月16日			平成28年11月15日			平成29年2月15日		
項目										
出現種類数 〔86〕		56			56			51		
出現細胞数 (細胞/L)		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
上層		420,720	4,741,440	1,268,433	14,520	322,920	169,027	161,100	2,340,480	1,142,407
中層		336,840	1,515,960	945,127	22,800	323,880	116,733	231,720	1,642,800	650,113
底層		40,320	1,494,240	701,680	29,520	291,480	90,240	61,620	981,120	362,873
全層		40,320	4,741,440	971,747	14,520	323,880	125,333	61,620	2,340,480	718,464
主 な 出現種 (%)	上層	<i>Skeletonema</i> spp. (17.9) <i>Pseudo-nitzschia</i> spp. (14.8) <i>Leptocylindrus danicus</i> (13.4)			Cryptophyceae (38.0) Unidentified flagellates (21.4) <i>Thalassiosira</i> spp. (14.7)			<i>Skeletonema</i> spp. (81.5)		
	中層	<i>Leptocylindrus danicus</i> (28.5) <i>Pseudo-nitzschia</i> spp. (18.3)			Cryptophyceae (40.5) Unidentified flagellates (24.7) <i>Thalassiosira</i> spp. (11.7)			<i>Skeletonema</i> spp. (69.7)		
	底層	<i>Leptocylindrus danicus</i> (28.3) <i>Pseudo-nitzschia</i> spp. (14.6)			Cryptophyceae (29.0) Unidentified flagellates (22.3) <i>Thalassiosira</i> spp. (19.3)			<i>Skeletonema</i> spp. (63.8) Cryptophyceae (11.1)		
	全層	<i>Leptocylindrus danicus</i> (21.9) <i>Pseudo-nitzschia</i> spp. (15.9)			Cryptophyceae (36.6) Unidentified flagellates (22.6) <i>Thalassiosira</i> spp. (14.9)			<i>Skeletonema</i> spp. (74.9)		

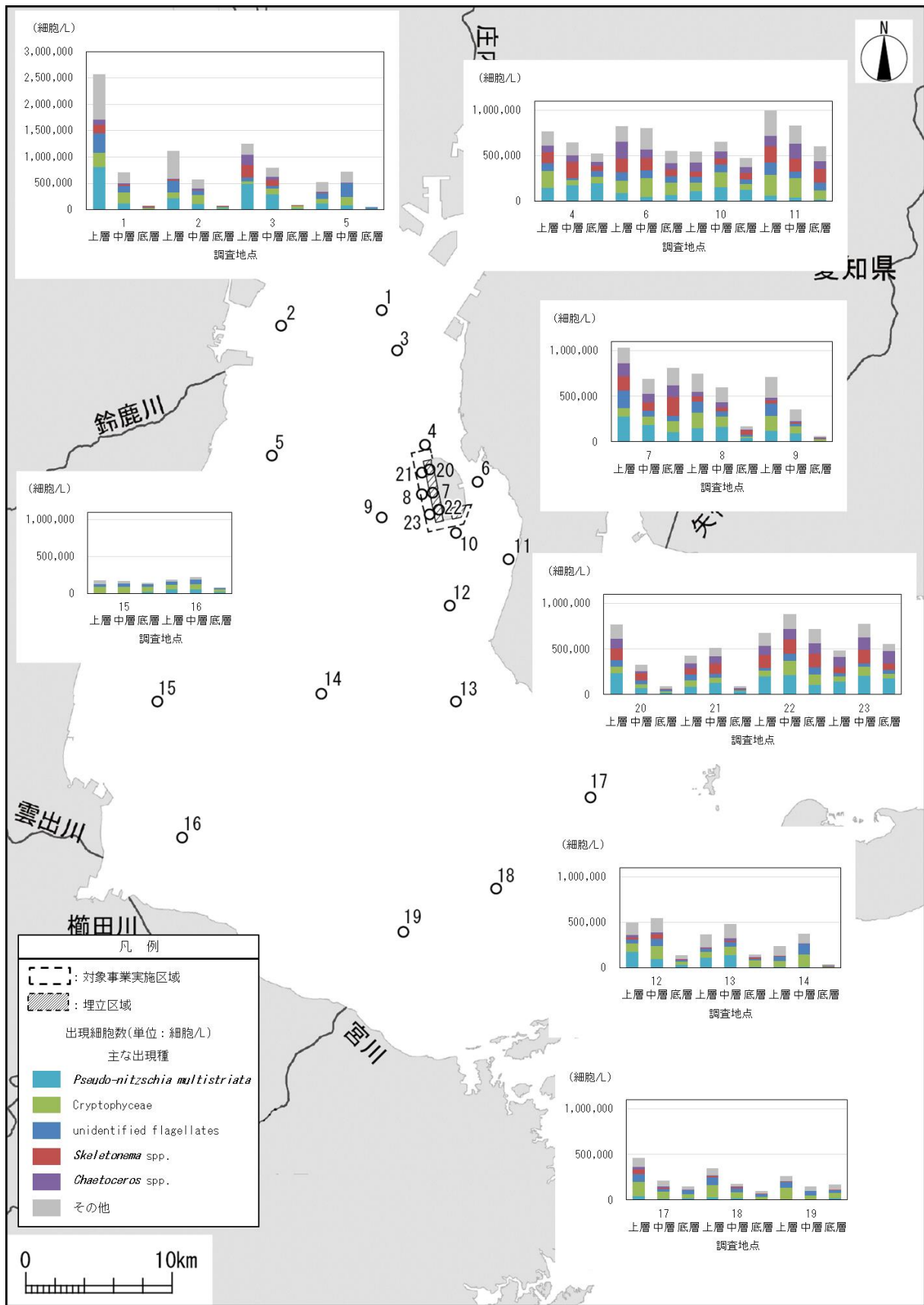
- 注：1. 組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総細胞数に対する細胞数比（%）を示す。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。
 4. 「上層」は海面下 0.5m、「中層」は採水時水深の 1/2m、「底層」は海底上 1.0mを示す。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



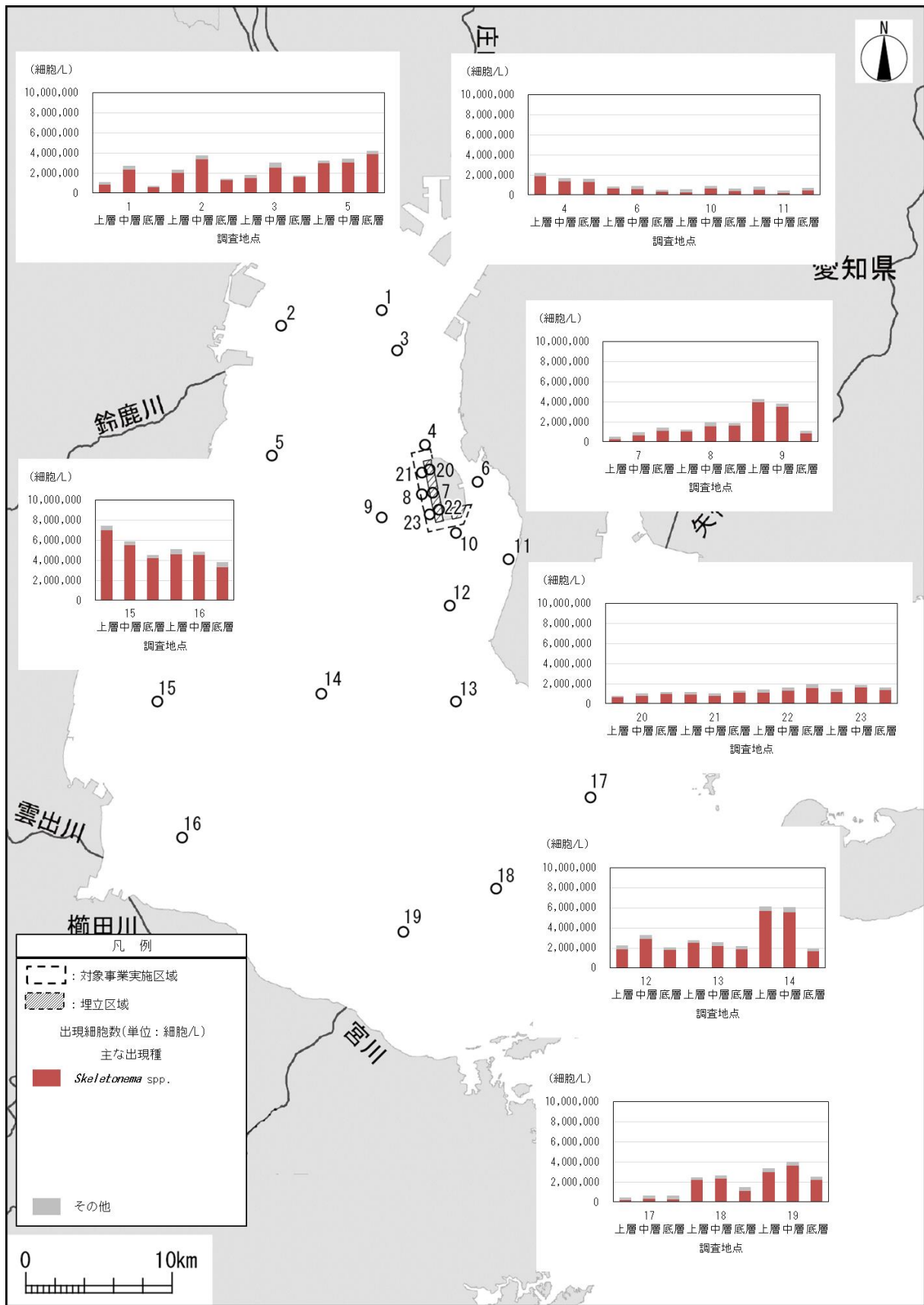
付図 8.9-1(2) 植物プランクトン出現状況 (平成 26 年 8 月)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



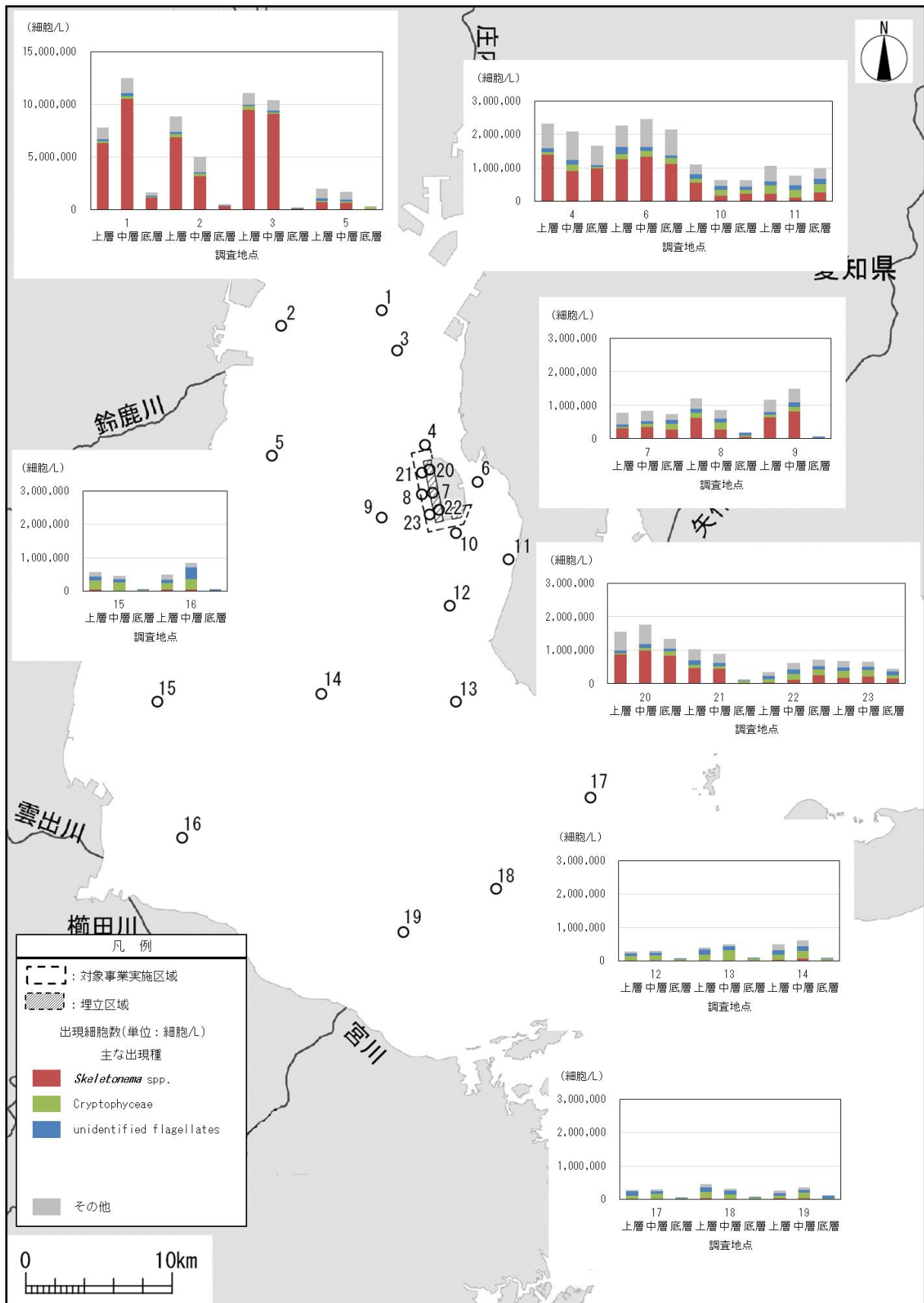
付図 8.9-1(3) 植物プランクトン出現状況 (平成 26 年 11 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



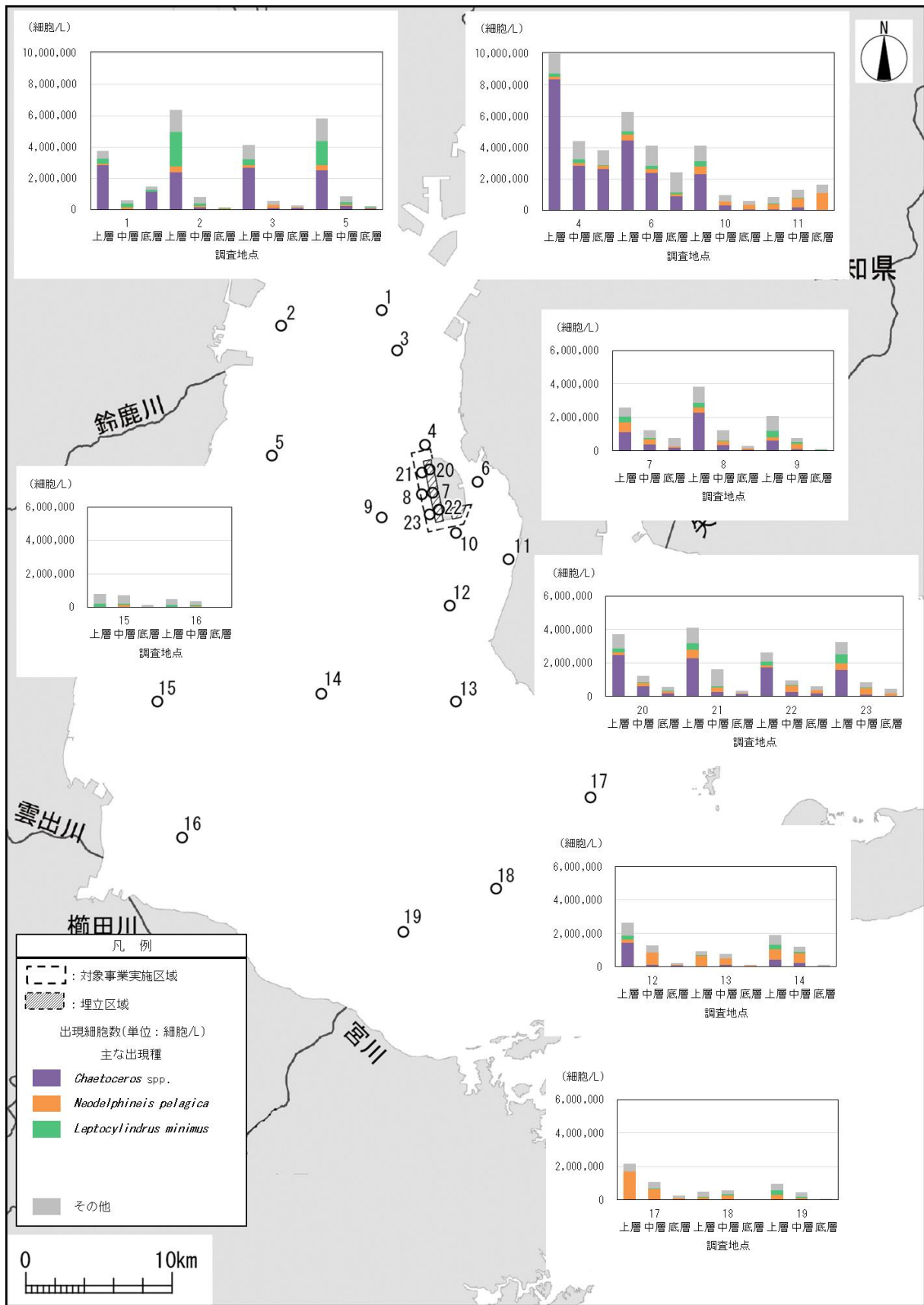
付図 8.9-1(4) 植物プランクトン出現状況 (平成 27 年 2 月)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



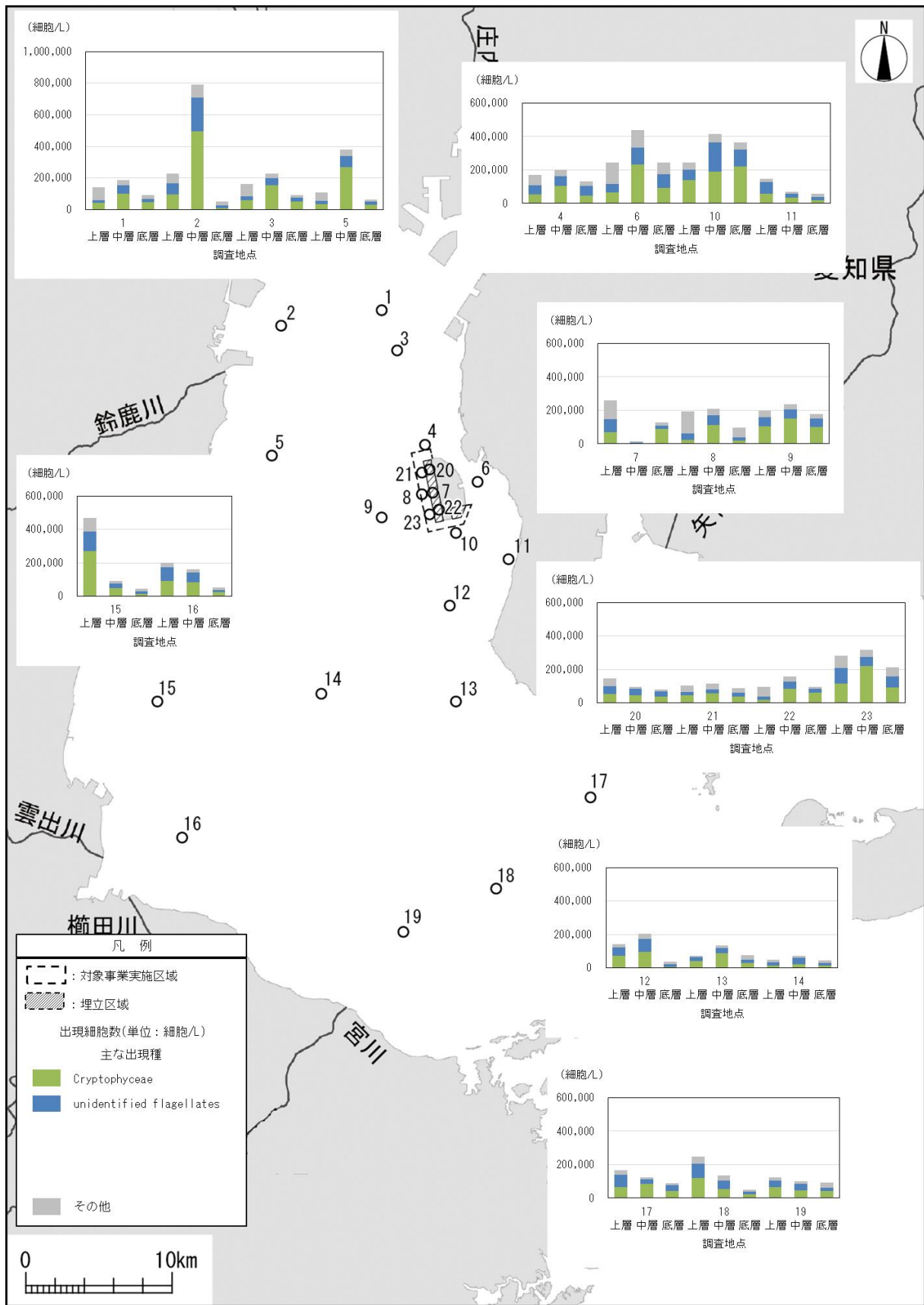
付図 8.9-1(5) 植物プランクトン出現状況 (平成 27 年 5 月)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



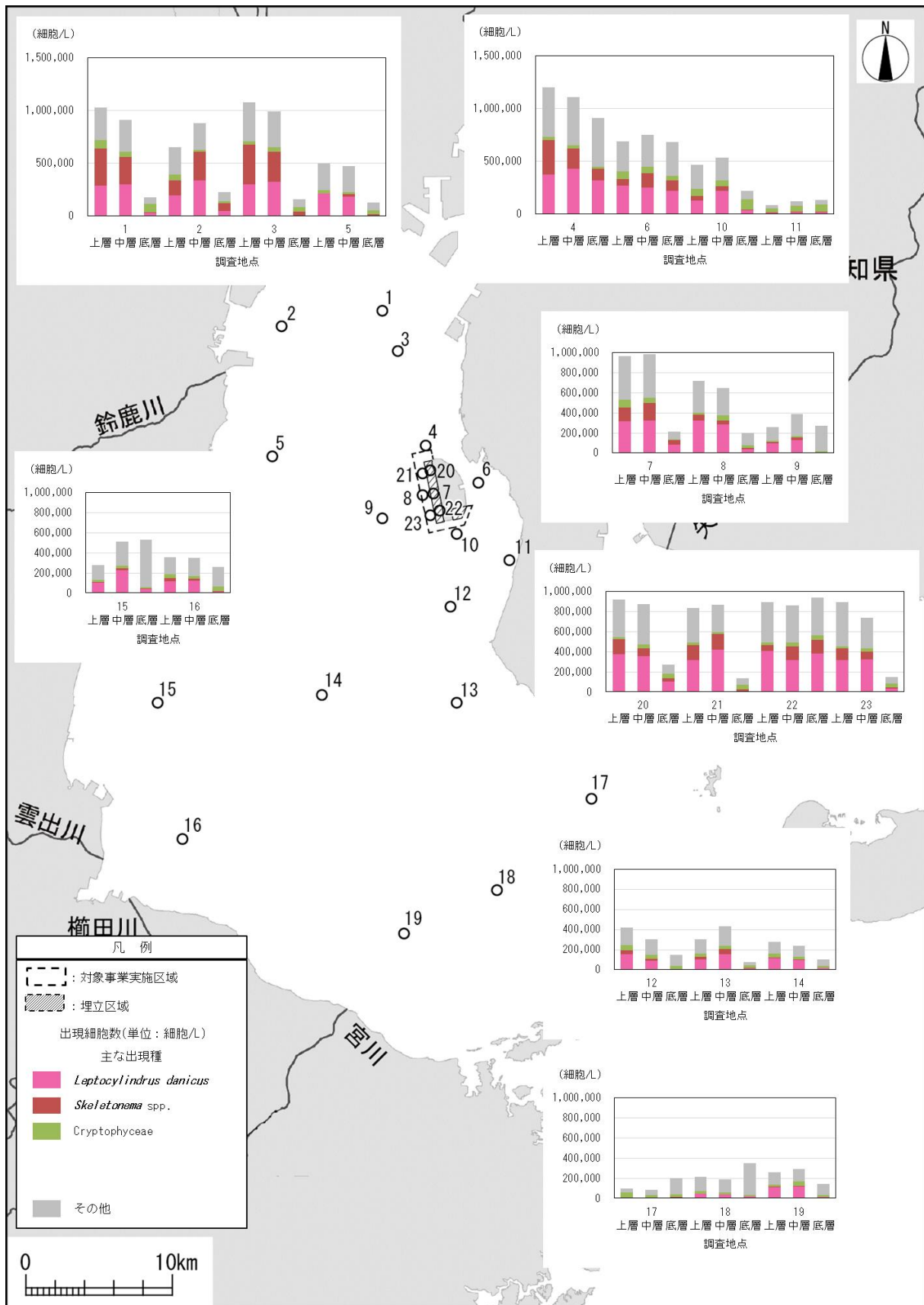
付図 8.9-1(6) 植物プランクトン出現状況 (平成 27 年 8 月)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



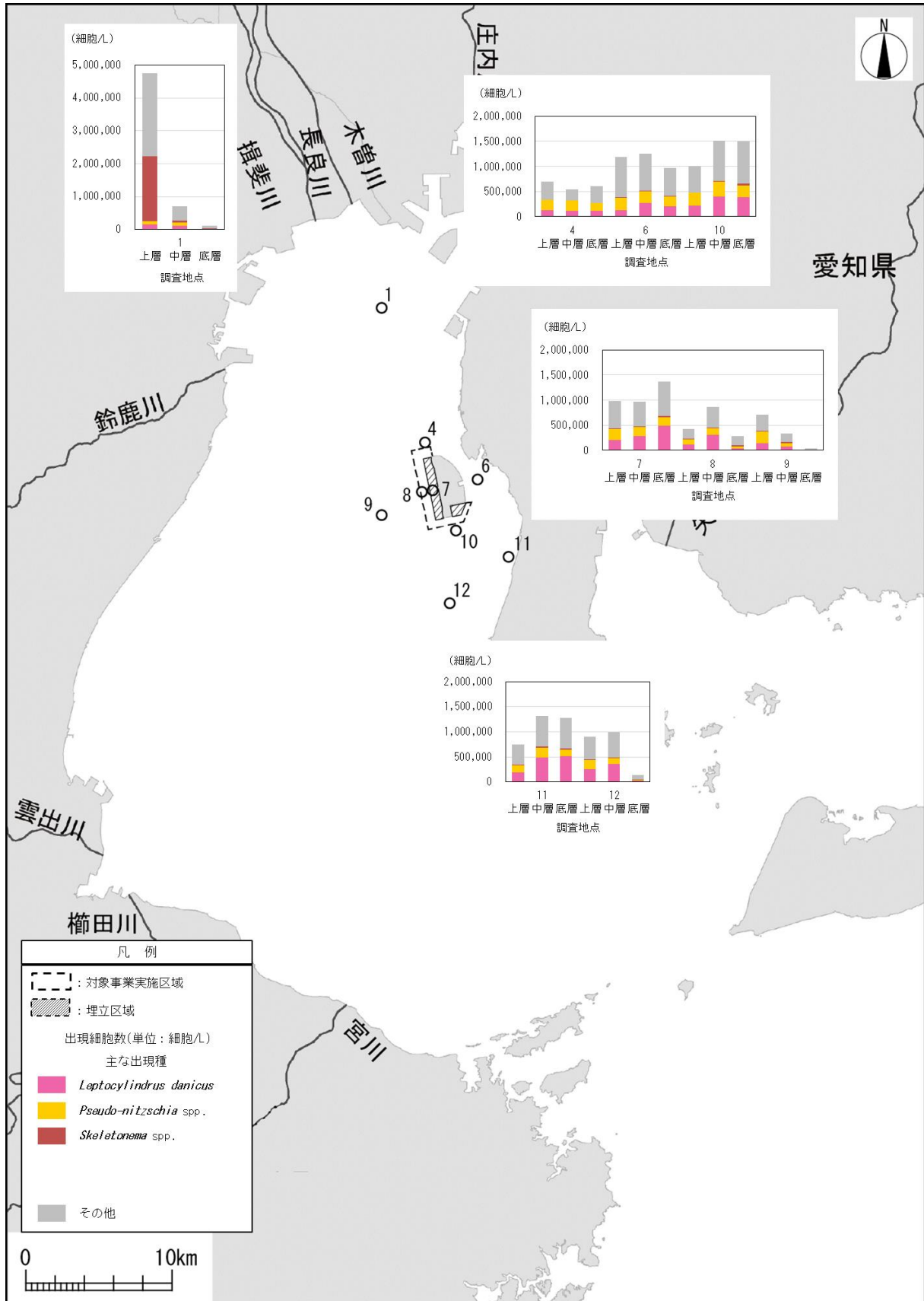
付図 8.9-1(7) 植物プランクトン出現状況 (平成 27 年 11 月)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



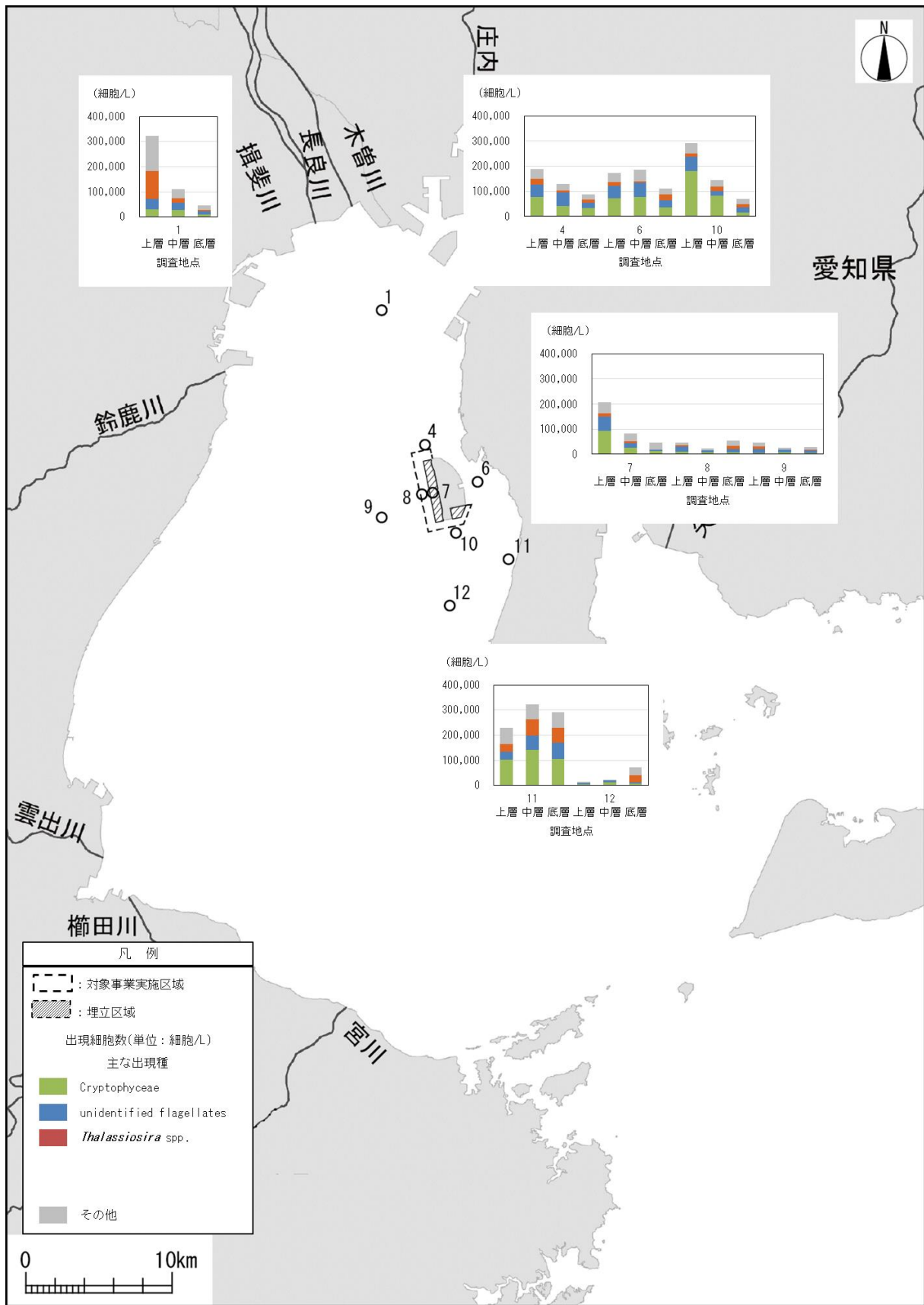
付図 8.9-1(8) 植物プランクトン出現状況 (平成 28 年 2 月)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



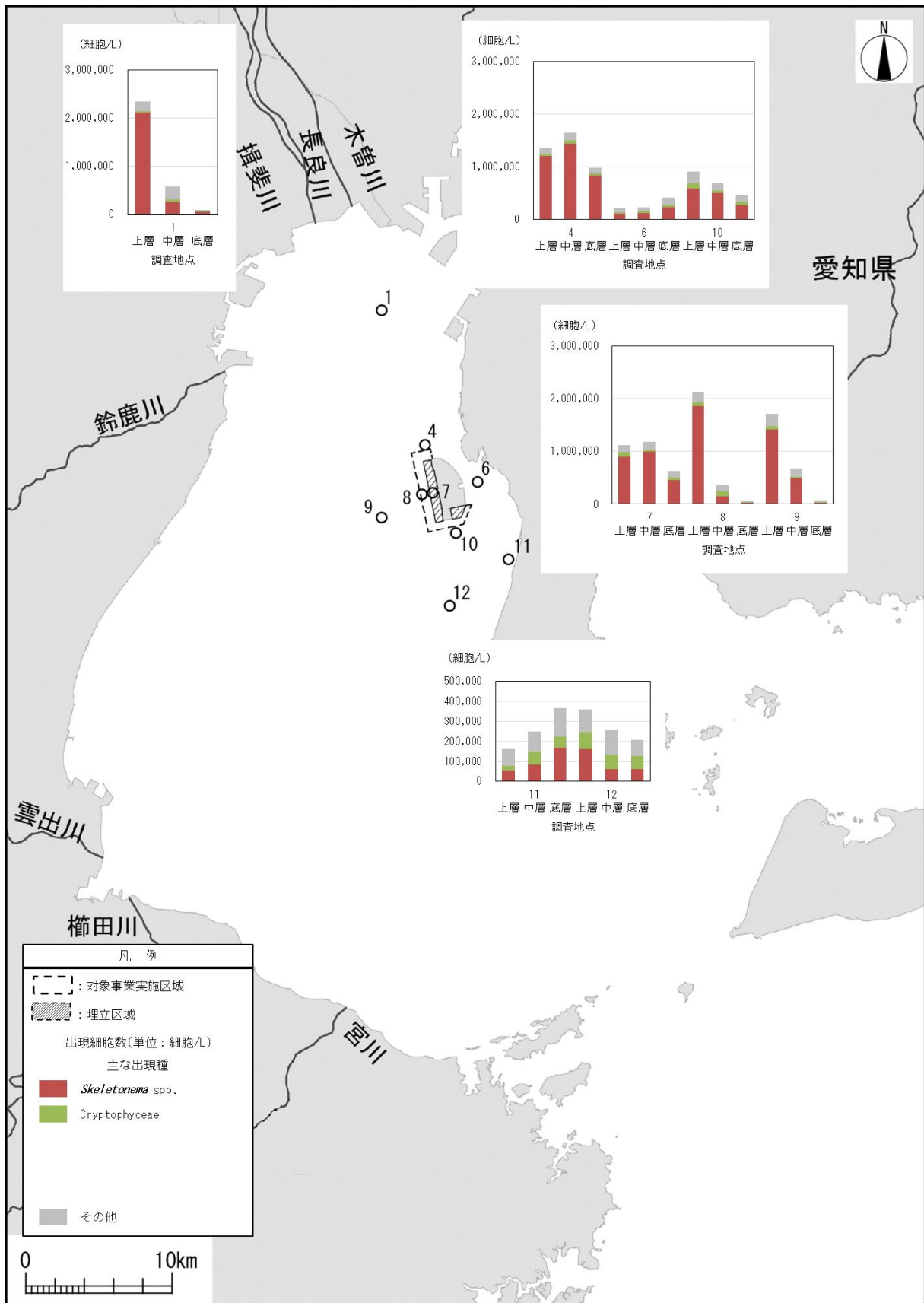
付図 8.9-1(9) 植物プランクトン出現状況 (平成 28 年 8 月)

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成〕



付図 8.9-1(10) 植物プランクトン出現状況 (平成 28 年 11 月)

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成〕



付図 8.9-1(11) 植物プランクトン出現状況（平成 29 年 2 月）

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成〕

付表 8.9-2(1) 海草藻類目視観察調査結果（平成 26 年度）

項目	調査期日	平成26年5月 12、14～15、17日	平成26年8月4～8日	平成26年11月 16～17、19、21日	平成27年1月29～30日 2月2～3日
	出現種類数 〔17〕	緑藻綱	2	5	3
褐藻綱		2	0	0	0
紅藻綱		3	2	3	3
その他		1	1	2	3
合計		8	8	8	8
主な 出現種	緑藻綱	アオサ属	アオサ属	アオサ属	アオサ属
	褐藻綱				
	紅藻綱		オゴノリ属	オゴノリ属	アマノリ属
	その他	アマモ	アマモ	アマモ コアマモ	アマモ コアマモ

注：1. 主な出現種は、3 調査測線以上に出現した種とした。
2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

付表 8.9-2(2) 海草藻類目視観察調査結果（平成 27 年度）

項目	調査期日	平成27年5月 11～12、14～16日	平成27年8月 3～5、7～8日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～5日
	出現種類数 〔22〕	緑藻綱	3	4	7
褐藻綱		2	0	0	3
紅藻綱		4	4	4	6
その他		1	2	3	3
合計		10	10	14	15
主な 出現種	緑藻綱	アオサ属	アオサ属	アオサ属 アオノリ属 ハネモ属	
	褐藻綱				
	紅藻綱		イトグサ属	イトグサ属	
	その他	アマモ	アマモ	アマモ 珪藻綱	アマモ コアマモ

注：1. 主な出現種は、3 調査測線以上に出現した種とした。
2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

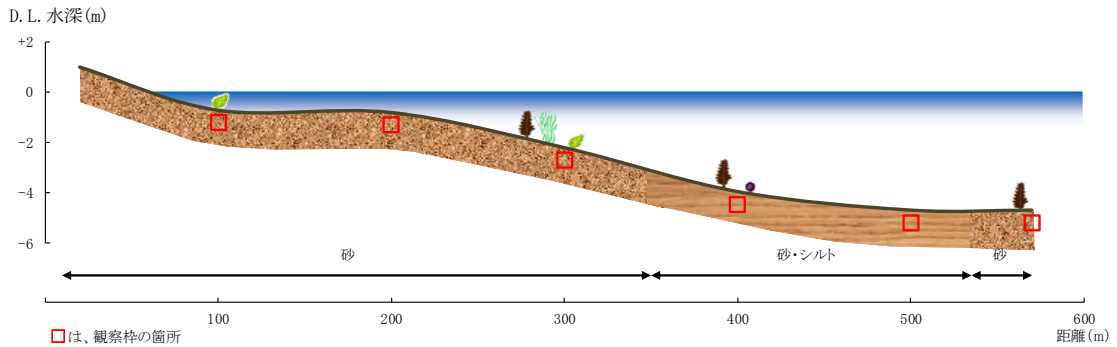
付表 8.9-2(3) 海草藻類目視観察調査結果（平成 28 年度）

項目	調査期日	平成28年5月7～11日	平成28年8月1～5日	平成28年11月 1～2、4～6日	平成29年2月 1～2、4～5、9日
	出現種類数 〔24〕	緑藻綱	3	4	4
褐藻綱		5	0	1	4
紅藻綱		4	6	4	4
その他		2	2	3	3
合計		14	12	12	15
主な 出現種	緑藻綱	アオサ属	アオサ属 ホソジュズモ	アオサ属 アオノリ属 ハネモ属	
	褐藻綱				ハバモドキ
	紅藻綱	イトグサ属	イトグサ属		
	その他	アマモ コアマモ	アマモ コアマモ	アマモ コアマモ	アマモ コアマモ

注：1. 主な出現種は、3 調査測線以上に出現した種とした。
2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

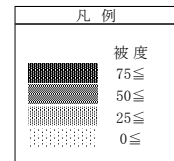
〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）
「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）
「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成〕

【L-1】



調査月	観察枠の箇所 (m)	100		200		300		400		500		570	
		枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外
平成27年 5月	D.L. 水深 (m)	-0.7		-0.8		-2.2		-4.0		-4.7		-4.7	
	種名 /												
	アオサ属												
平成27年 8月	D.L. 水深 (m)	-0.5		-1.2		-2.2		-4.1		-4.9		-5.0	
	種名 /												
	アオサ属												
平成27年 11月	D.L. 水深 (m)	-0.5		-0.9		-2.2		-4.1		-4.9		-4.9	
	種名 /												
	アオノリ属												
平成28年 2月	D.L. 水深 (m)	-1.0		-1.1		-2.2		-4.2		-4.9		-4.5	
	種名 /												
	該当種なし												

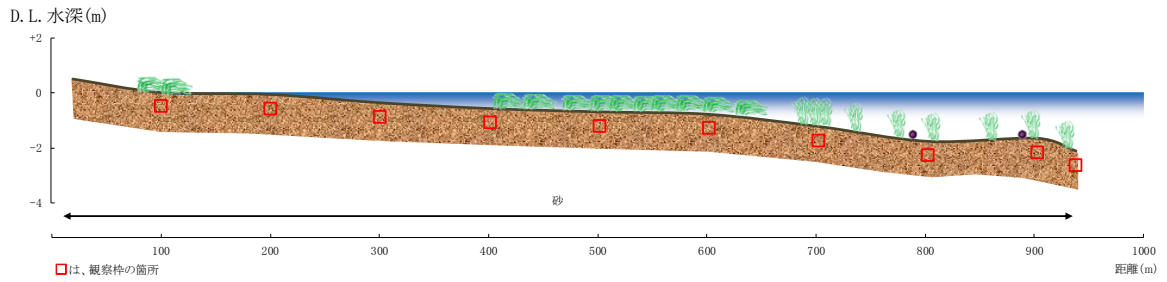
注：各調査月の主な出現種について記載した。



付図 8.9-2(1) 海草藻類分布状況（平成27年度 目視観察調査：L-1）

〔平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 （国土交通省中部地方整備局、平成28年）より作成

【L-2】



平成27年 5月	観察枠の箇所 (m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	935
	D.L. 水深 (m)	0.0	-0.1	-0.4	-0.6	-0.7	-0.8	-1.2	-1.8	-1.7	-2.1
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ	●●●●				■	■	■	■	■	■
アオサ属											

平成27年 8月	観察枠の箇所 (m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	935
	D.L. 水深 (m)	-0.1	-0.1	-0.4	-0.6	-1.0	-0.8	-1.2	-1.9	-1.9	-2.0
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ	●●●●				■	■	■	■	■	■
アオサ属											
イトグサ属											

平成27年 11月	観察枠の箇所 (m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	935
	D.L. 水深 (m)	+0.0	-0.2	-0.4	-0.5	-0.9	-0.8	-1.0	-1.7	-1.7	-2.0
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ	●●●●				■	■	■	■	■	■
	アオノリ属										
	アオサ属										
ハネモ属											
珪藻綱											

平成28年 2月	観察枠の箇所 (m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	935
	D.L. 水深 (m)	-0.3	-0.4	-0.6	-0.9	-1.0	-0.8	-1.3	-2.1	-1.9	-2.1
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
アマモ	●●●●				■	■	■	■	■	■	

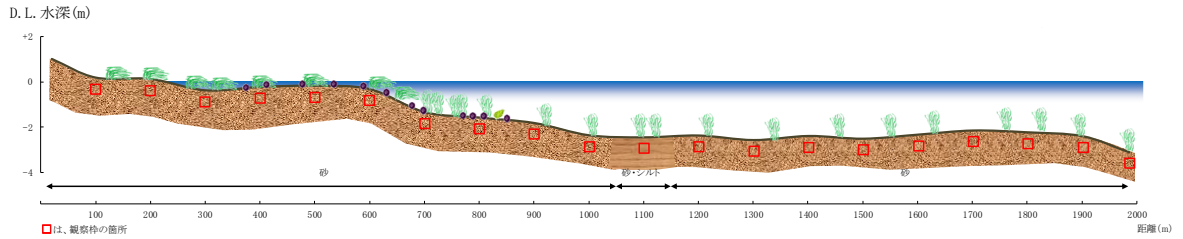
注：各調査月の主な出現種について記載した。

凡例	
■	被度 75 ≧
■	50 ≧
■	25 ≧
●	0 ≧

付図 8.9-2(2) 海草藻類分布状況 (平成27年度 目視観察調査：L-2)

〔平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成28年) より作成

【L-3】



平成27年 5月	観察枠の箇所 (m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900	1985		
	D.L. 水深 (m)	+0.2	+0.1	-0.4	-0.2	-0.2	-0.3	-1.3	-1.6	-1.8	-2.4	-2.5	-2.4	-2.6	-2.4	-2.5	-2.3	-2.2	-2.2	-2.4	-3.1		
	種名 /	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外
	アマモ アオサ属																						

平成27年 8月	観察枠の箇所 (m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900	1985		
	D.L. 水深 (m)	+0.1	-0.2	-0.5	-0.6	-0.4	-0.6	-1.5	-1.8	-1.9	-2.4	-2.5	-2.7	-2.5	-2.5	-2.5	-2.3	-2.5	-2.6	-3.6			
	種名 /	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外
	アマモ アオサ属 イトグサ属																						

平成27年 11月	観察枠の箇所 (m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900	1985		
	D.L. 水深 (m)	+0.3	+0.1	-0.1	-0.4	-0.2	-0.4	-1.8	-1.8	-1.9	-2.5	-2.5	-2.6	-2.8	-2.6	-2.6	-2.2	-2.2	-2.5	-2.6	-3.0		
	種名 /	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外
	アマモ ハネモ属 イトグサ属 珪藻綱																						

平成28年 2月	観察枠の箇所 (m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900	1985		
	D.L. 水深 (m)	+0.1	-0.0	-0.3	-0.5	-0.2	-0.5	-1.5	-1.8	-1.9	-2.5	-2.5	-2.6	-2.8	-2.6	-2.6	-2.5	-2.2	-2.4	-2.5	-3.2		
種名 /	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	
アマモ																							

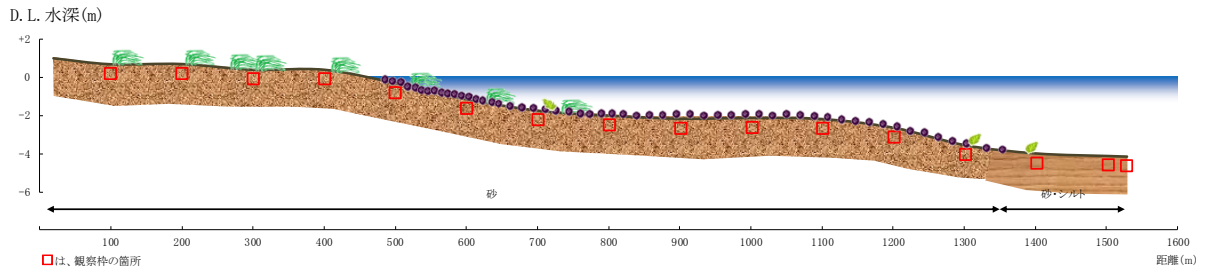
注：各調査月の主な出現種について記載している。

凡例	
	被度 75 ≧
	50 ≧
	25 ≧
	0 ≧

付図 8.9-2(3) 海草藻類分布状況 (平成27年度 目視観察調査:L-3)

〔「平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成28年)より作成〕

【L-4】



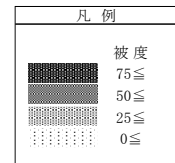
平成27年 5月	観察枠の箇所(m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1526
	D.L. 水深(m)	+0.7	+0.7	+0.4	+0.4	-0.3	-1.1	-1.7	-2.0	-2.2	-2.1	-2.2	-2.6	-3.6	-4.0	-4.1	-4.1
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ アオサ属	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度

平成27年 8月	観察枠の箇所(m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1526
	D.L. 水深(m)	+0.4	+0.4	+0.3	-0.2	-0.4	-1.4	-2.2	-2.3	-2.5	-2.5	-2.4	-2.8	-3.7	-4.2	-4.3	-4.3
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ アオサ属	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度

平成27年 11月	観察枠の箇所(m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1526
	D.L. 水深(m)	+0.4	+0.3	+0.0	-0.1	-0.6	-1.5	-2.1	-2.4	-2.6	-2.5	-2.5	-2.9	-3.9	-4.3	-4.4	-4.4
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度
	アオノリ属	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度
	ハネモ属 イトグサ属 珪藻綱	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度

平成28年 2月	観察枠の箇所(m)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1526
	D.L. 水深(m)	+0.3	+0.3	+0.2	-0.2	-0.4	-1.4	-2.1	-2.2	-2.4	-2.4	-2.3	-2.7	-3.6	-4.3	-4.4	-4.4
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ コアマモ	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度	被度

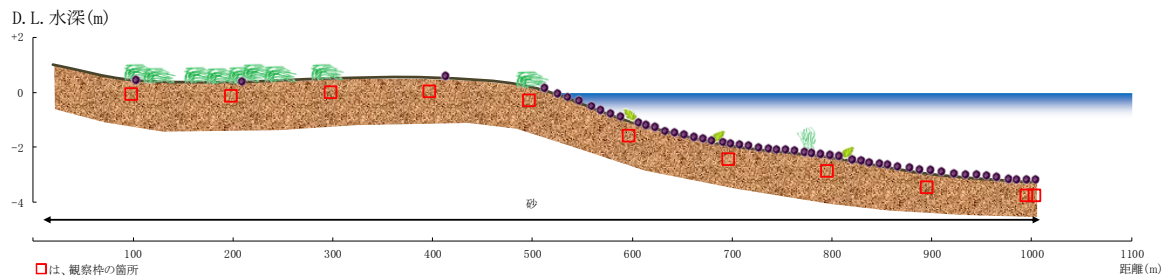
注：各調査月の主な出現種について記載している。



付図 8.9-2(4) 海草藻類分布状況（平成27年度 目視観察調査：L-4）

〔「平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成28年）より作成〕

【L-5】



観察枠の箇所 (m)		100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1008
平成27年 5月	D.L. 水深 (m)	+0.4	+0.4	+0.5	+0.5	+0.2	-1.1	-1.9	-2.4	-3.0	-3.3	-3.2
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ	■	■	■								
	アオサ属	□	□	□								
平成27年 8月	D.L. 水深 (m)	+0.4	0.0	+0.4	+0.3	-0.2	-1.0	-2.0	-2.7	-3.0	-3.5	-3.5
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ	■	■	■								
	アオサ属	□	□	□								
イトグサ属	○	○	○									
平成27年 11月	D.L. 水深 (m)	+0.7	+0.3	+0.4	+0.5	-0.6	-1.1	-2.1	-2.6	-3.1	-3.5	-3.6
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ	■	■	■								
	イトグサ属	○	○	○								
平成28年 2月	D.L. 水深 (m)	+0.3	+0.1	+0.3	+0.4	-0.4	-0.9	-2.2	-2.7	-3.1	-3.4	-3.5
	種名 /	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外	枠内 枠外
	アマモ	■	■	■								
	コアマモ	□	□	□								

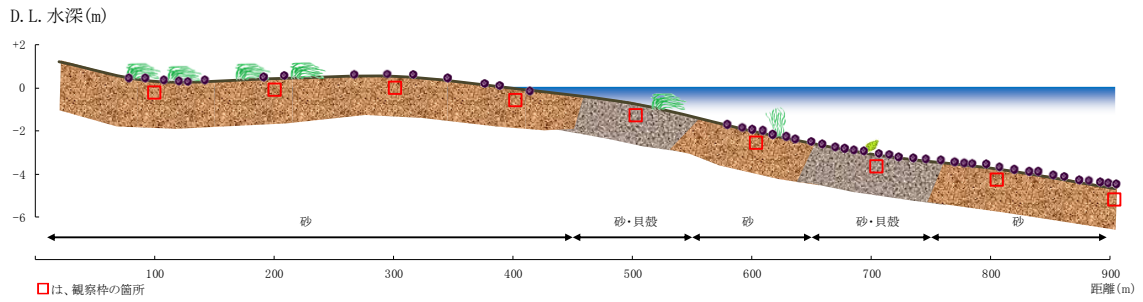
注：各調査月の主な出現種について記載している。

凡例	
■	被度 75 ≤
▨	50 ≤
▤	25 ≤
□	0 ≤

付図 8.9-2(5) 海草藻類分布状況（平成27年度 目視観察調査：L-5）

〔「平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成28年）より作成〕

【L-6】



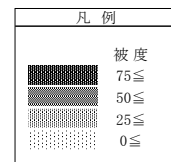
平成27年 5月	観察枠の箇所(m)	100		200		300		400		500		600		700		800		897	
	D.L.水深(m)	+0.3		+0.4		+0.5		-0.1		-0.8		-2.1		-3.1		-3.8		-4.7	
	種名 /	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外
	アマモ	[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]	
アオサ属	[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		

平成27年 8月	観察枠の箇所(m)	100		200		300		400		500		600		700		800		897	
	D.L.水深(m)	+0.2		+0.2		+0.8		-0.2		-0.9		-2.4		-3.3		-4.0		-4.7	
	種名 /	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外
	アマモ	[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]	
イトグサ属	[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		

平成27年 11月	観察枠の箇所(m)	100		200		300		400		500		600		700		800		897	
	D.L.水深(m)	+0.3		+0.3		+0.8		+0.0		-0.8		-2.2		-3.0		-3.6		-4.7	
	種名 /	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外
	アマモ	[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]	
アオサ属	[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		
ハネモ属	[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		

平成28年 2月	観察枠の箇所(m)	100		200		300		400		500		600		700		800		897	
	D.L.水深(m)	+0.1		+0.2		+0.7		-0.2		-0.7		-2.4		-3.2		-3.9		-4.7	
	種名 /	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外	枠内	枠外
	アマモ	[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]	
コアマモ	[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		[Pattern]		

注：各調査月の主な出現種について記載している。



付図 8.9-2(6) 海草藻類分布状況（平成27年度 目視観察調査：L-6）

〔「平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成28年）より作成〕

付表 8.9-3(1) 海草藻類出現状況（枠取り調査：平成 26 年度）

調査期日		平成26年5月 12～15、17日	平成26年8月4～8日	平成26年11月 16～17、19、21日	平成27年1月29～30日、 2月2～3日
出現種類数 〔22〕		16	7	3	7
平均 出現湿重量 (g/m ²)	緑藻綱	57.50 (10.7)	30.02 (26.7)	出現せず	出現せず
	褐藻綱	206.18 (38.5)	出現せず	出現せず	0.08 (0.3)
	紅藻綱	45.75 (8.5)	2.19 (1.9)	0.00 (0.0)	0.14 (0.5)
	その他	225.81 (42.2)	80.35 (71.4)	411.64 (100.0)	30.19 (99.3)
	合 計	535.24	112.56	411.64	30.41
主な 出現種 (%)	緑藻綱	アオサ属 (10.6)	アオサ属 (26.7)		
	褐藻綱	ワカメ (38.5)			
	その他	アマモ (42.2)	アマモ (71.4)	アマモ (100.0)	アマモ (75.6) コアマモ (23.6)

- 注：1. 組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

付表 8.9-3(2) 海草藻類出現状況（枠取り調査：平成 27 年度）

調査期日		平成27年5月 11、13～16日	平成27年8月 3～5、7～8日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～5日
出現種類数 〔30〕		19	5	16	22
平均 出現湿重量 (g/m ²)	緑藻綱	193.11 (43.8)	5.29 (2.1)	5.52 (3.5)	0.06 (0.0)
	褐藻綱	35.92 (8.1)	出現せず	出現せず	4.20 (3.0)
	紅藻綱	11.78 (2.7)	0.27 (0.1)	2.76 (1.8)	21.43 (15.3)
	その他	200.09 (45.4)	240.70 (97.7)	147.16 (94.7)	114.47 (81.7)
	合 計	440.90	246.26	155.44	140.16
主な 出現種 (%)	緑藻綱	アオサ属 (29.6) ウスバアオノリ (14.2)			
	その他	アマモ (45.4)	アマモ (73.0) コアマモ (24.8)	アマモ (64.0) コアマモ (30.7)	アマモ (64.4) コアマモ (17.3)

- 注：1. 組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の [] は年間の総出現種類数を示す。

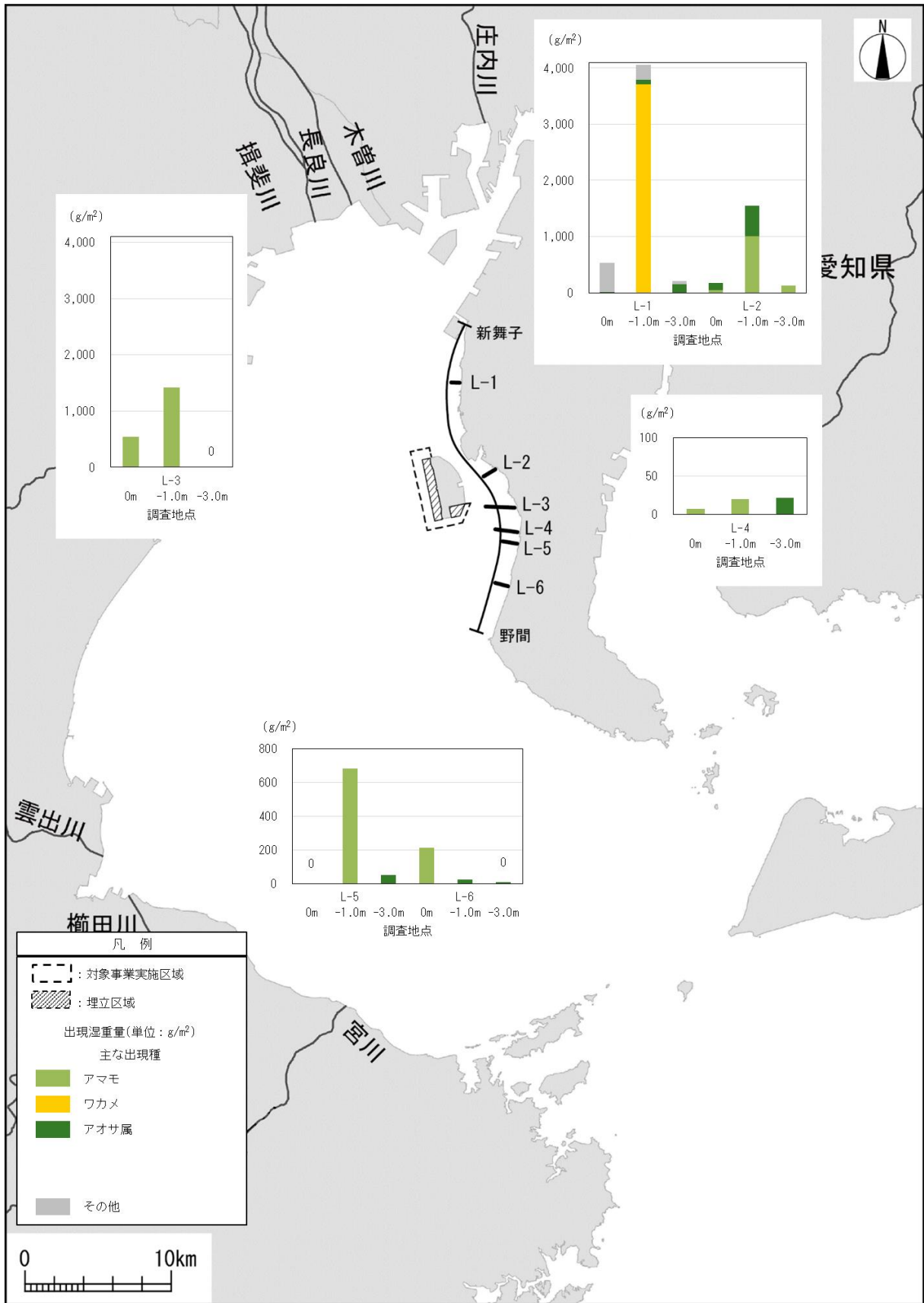
〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年)
 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成〕

付表 8.9-3(3) 海草藻類出現状況（枠取り調査：平成 28 年度）

項目		調査期日	平成28年5月 2、7～11日	平成28年8月1～5日	平成28年11月 1～2、4～6日	平成29年2月 1～2、4～5、9日
出現種類数 [22]			16	10	12	16
平均 出現湿重量 (g/m ²)	緑藻綱		2.61 (0.6)	49.14 (10.8)	8.38 (3.1)	0.02 (0.0)
	褐藻綱		0.02 (0.0)	出現せず	出現せず	2.19 (1.6)
	紅藻綱		10.20 (2.2)	0.62 (0.1)	13.48 (5.0)	15.67 (11.3)
	その他		455.11 (97.3)	406.23 (89.1)	249.24 (91.9)	121.33 (87.2)
	合 計		467.94	455.99	271.10	139.21
主な 出現種 (%)	緑藻綱			ジュズモ属 (10.4)		
	その他		アマモ (86.6) コアマモ (10.7)	アマモ (63.7) コアマモ (25.4)	アマモ (67.9) コアマモ (24.0)	アマモ (72.3) コアマモ (14.8)

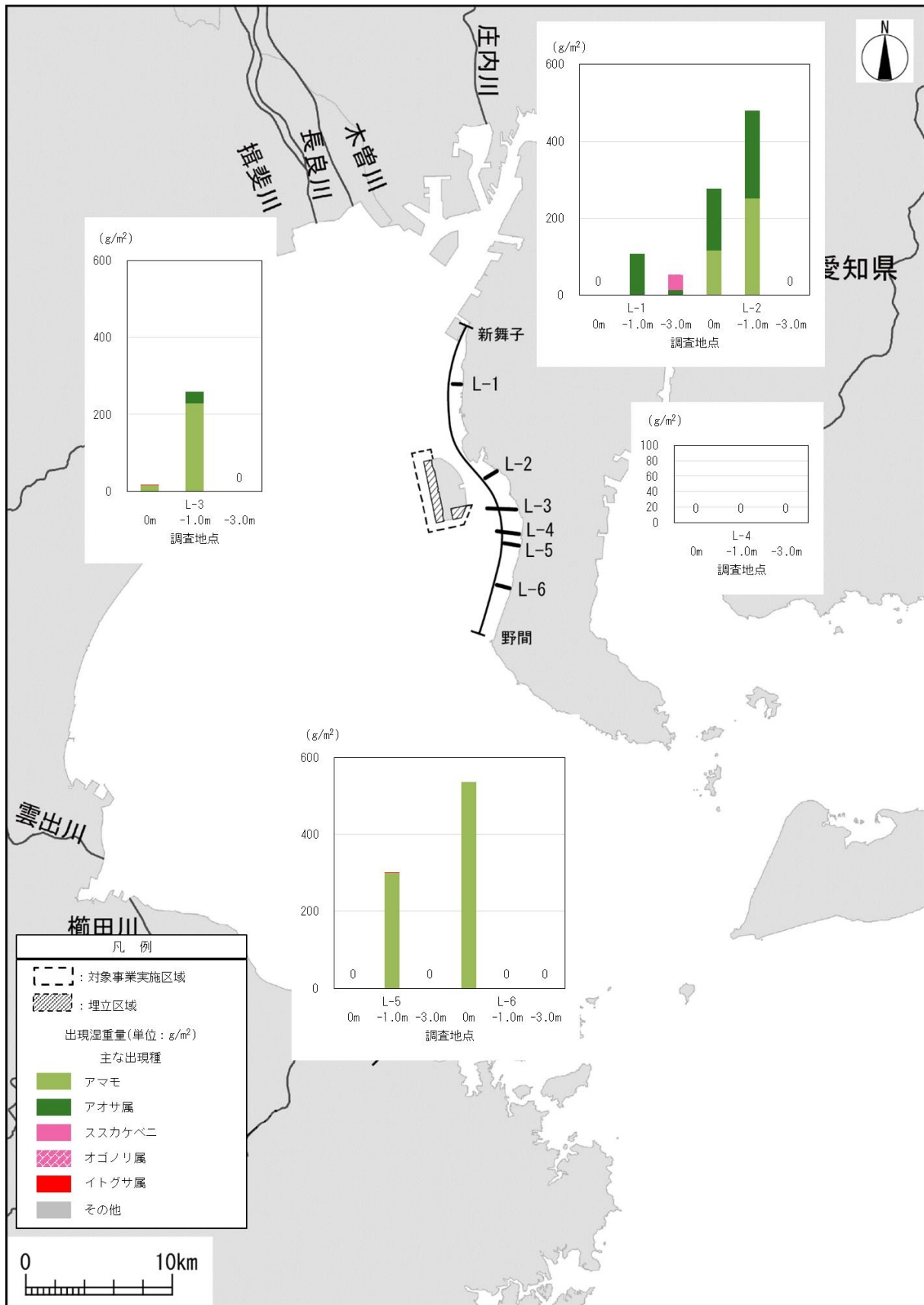
- 注：1. 組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比（%）を示す。四捨五入の関係で合計が100にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成〕



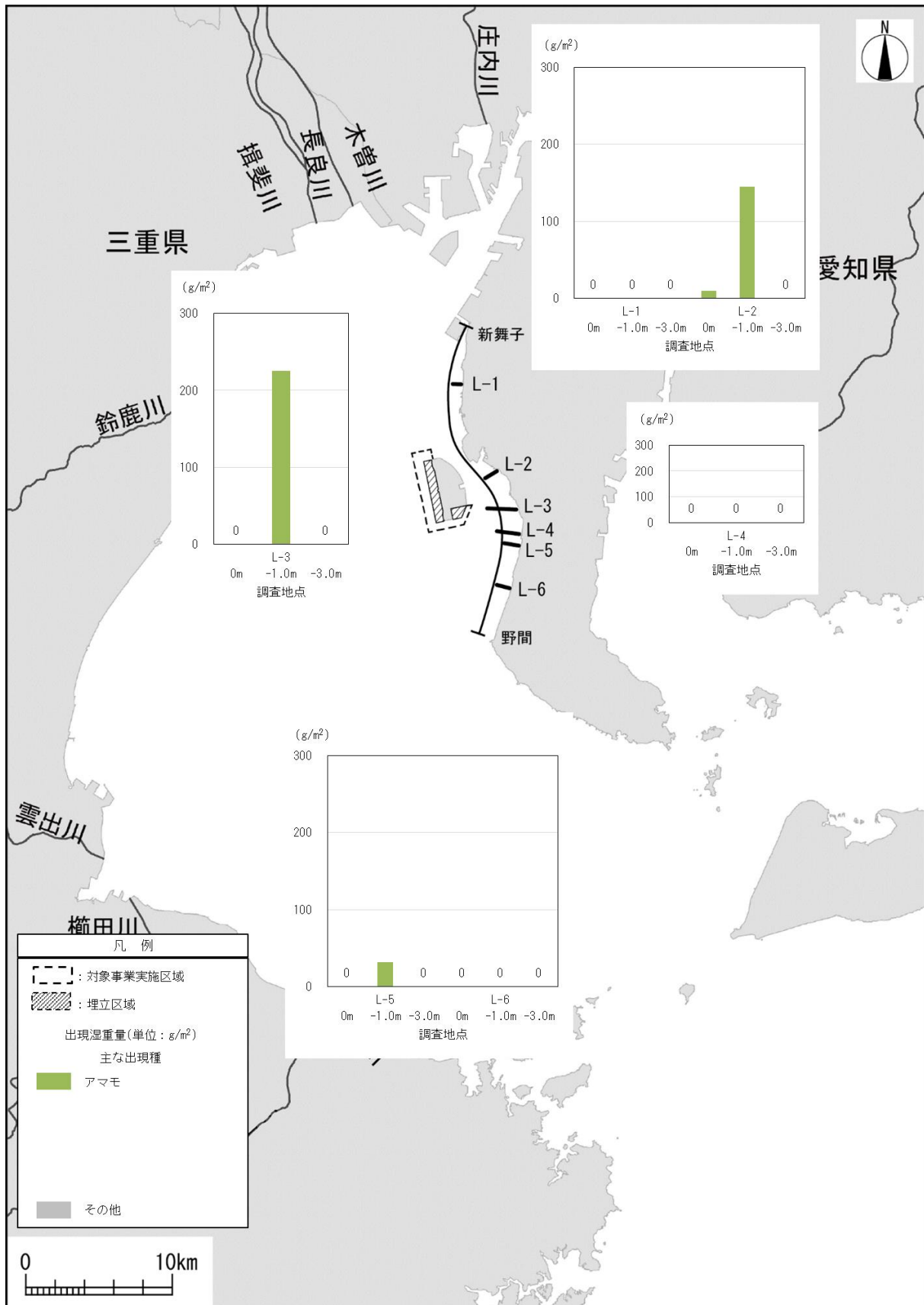
付図 8.9-3(1) 海草藻類分布状況 (平成 26 年 5 月 枠取り調査)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



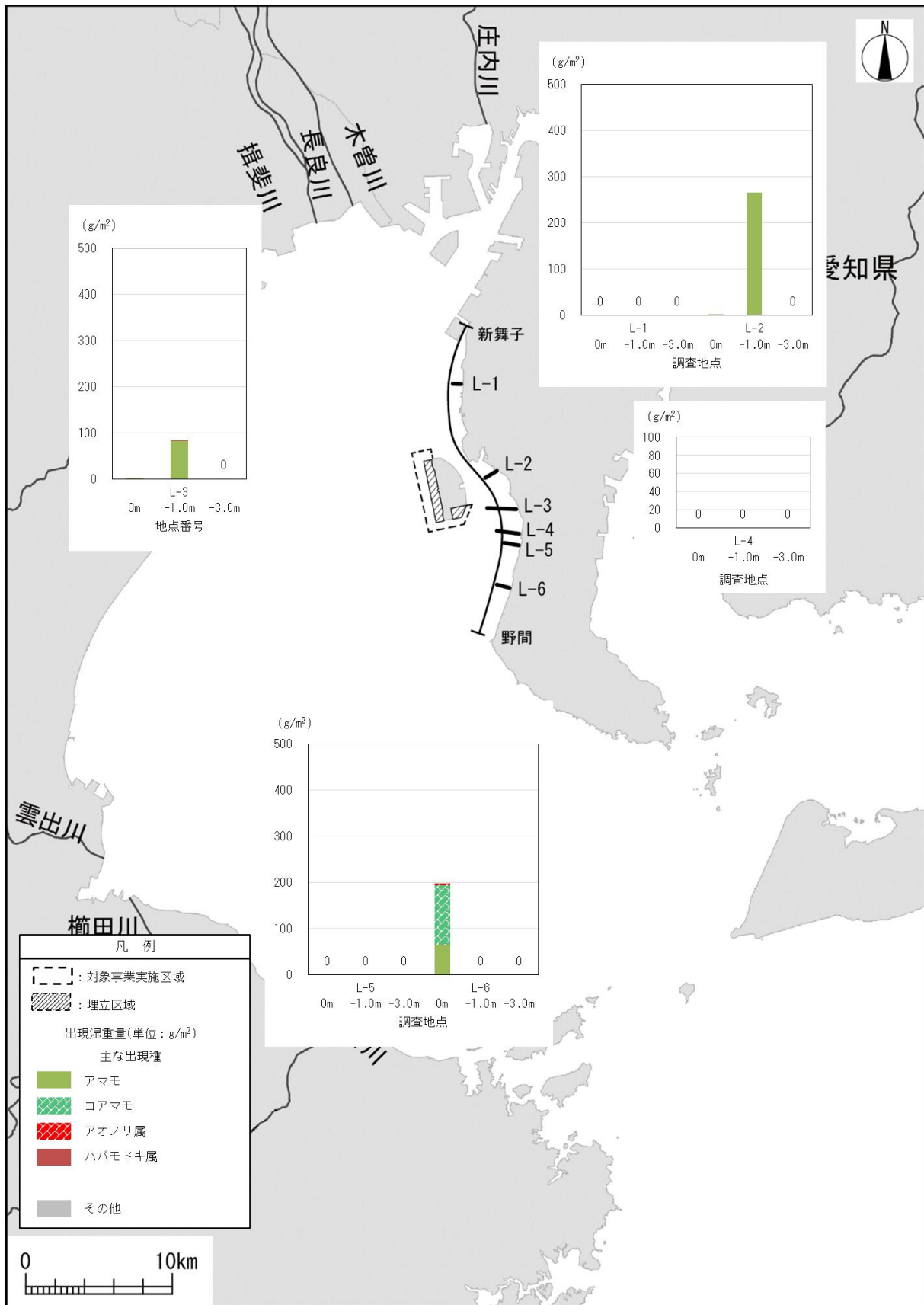
付図 8.9-3(2) 海草藻類分布状況 (平成 26 年 8 月 柁取り調査)

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



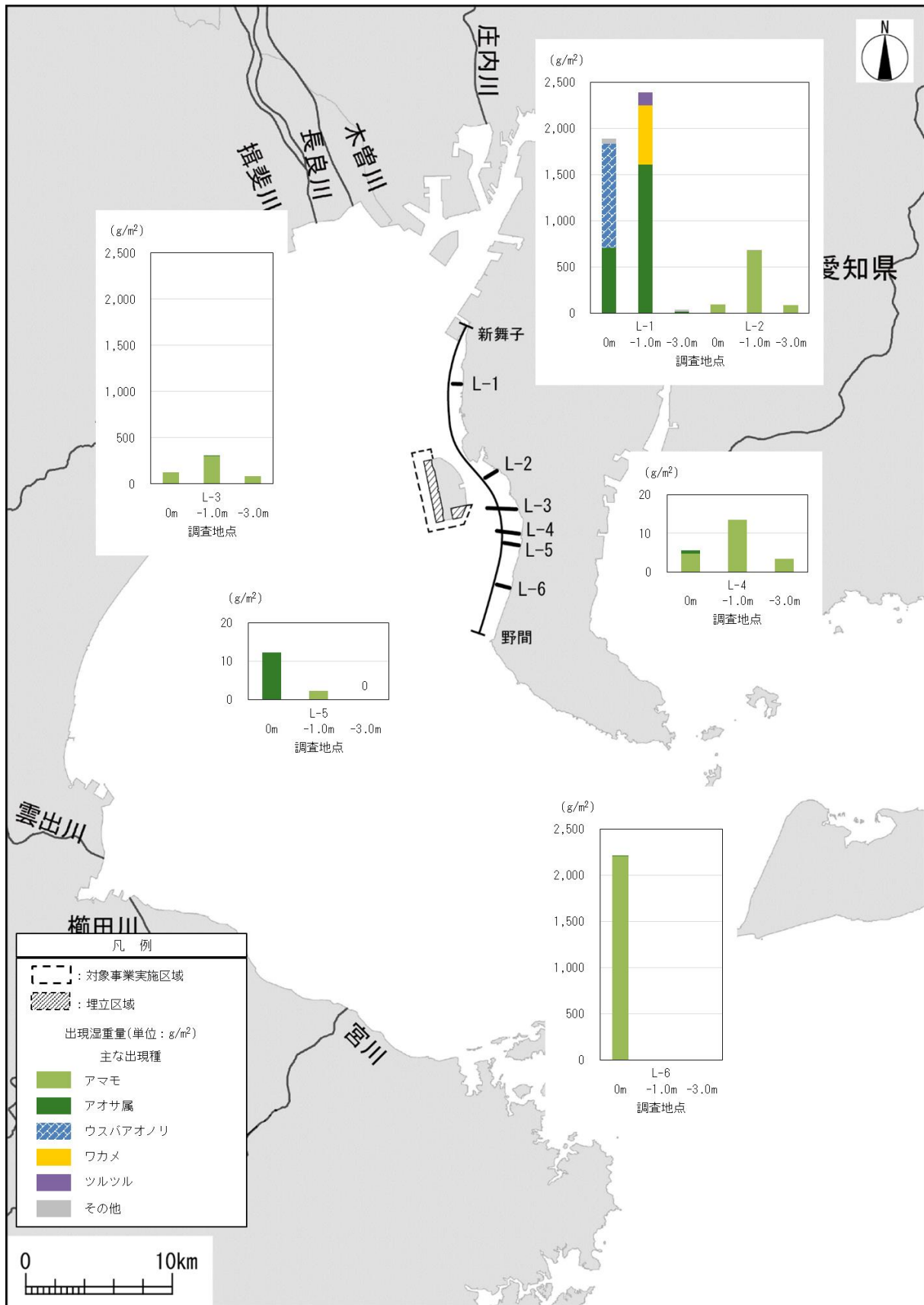
付図 8.9-3(3) 海草藻類分布状況 (平成 26 年 11 月 枠取り調査)

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成



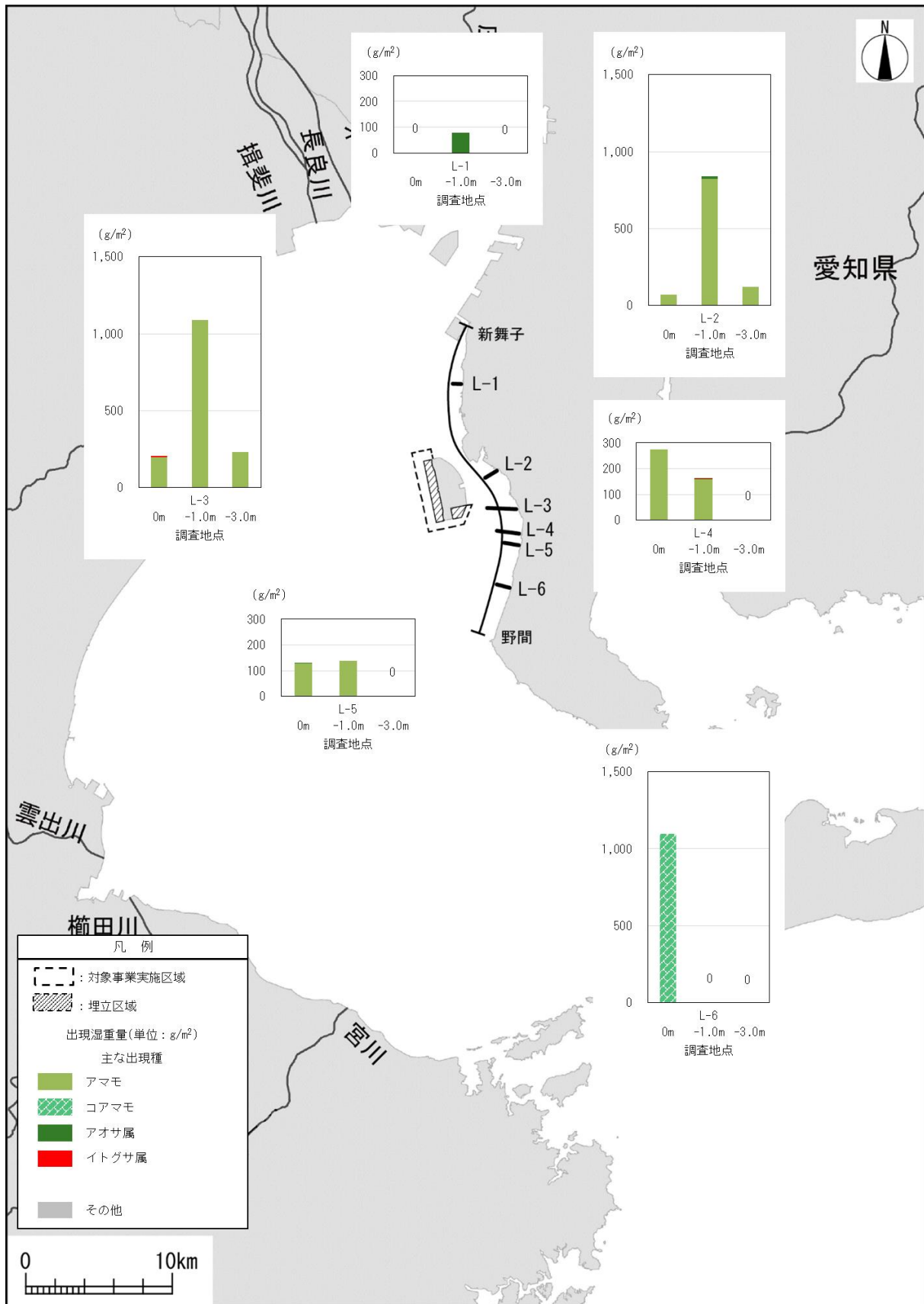
付図 8.9-3(4) 海草藻類分布状況 (平成 27 年 2 月 柁取り調査)

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 27 年) より作成〕



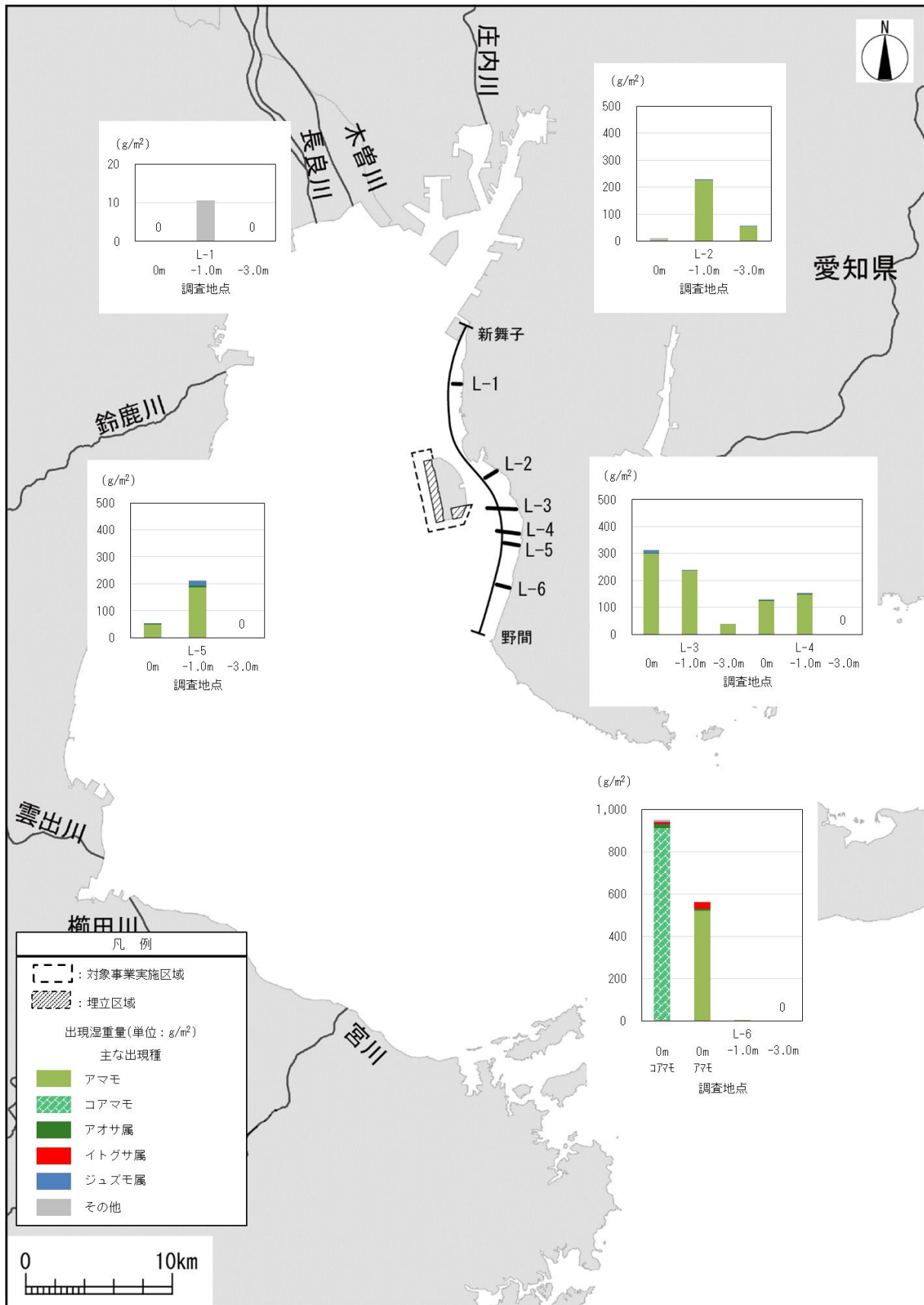
付図 8.9-3(5) 海草藻類分布状況 (平成 27 年 5 月 枠取り調査)

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



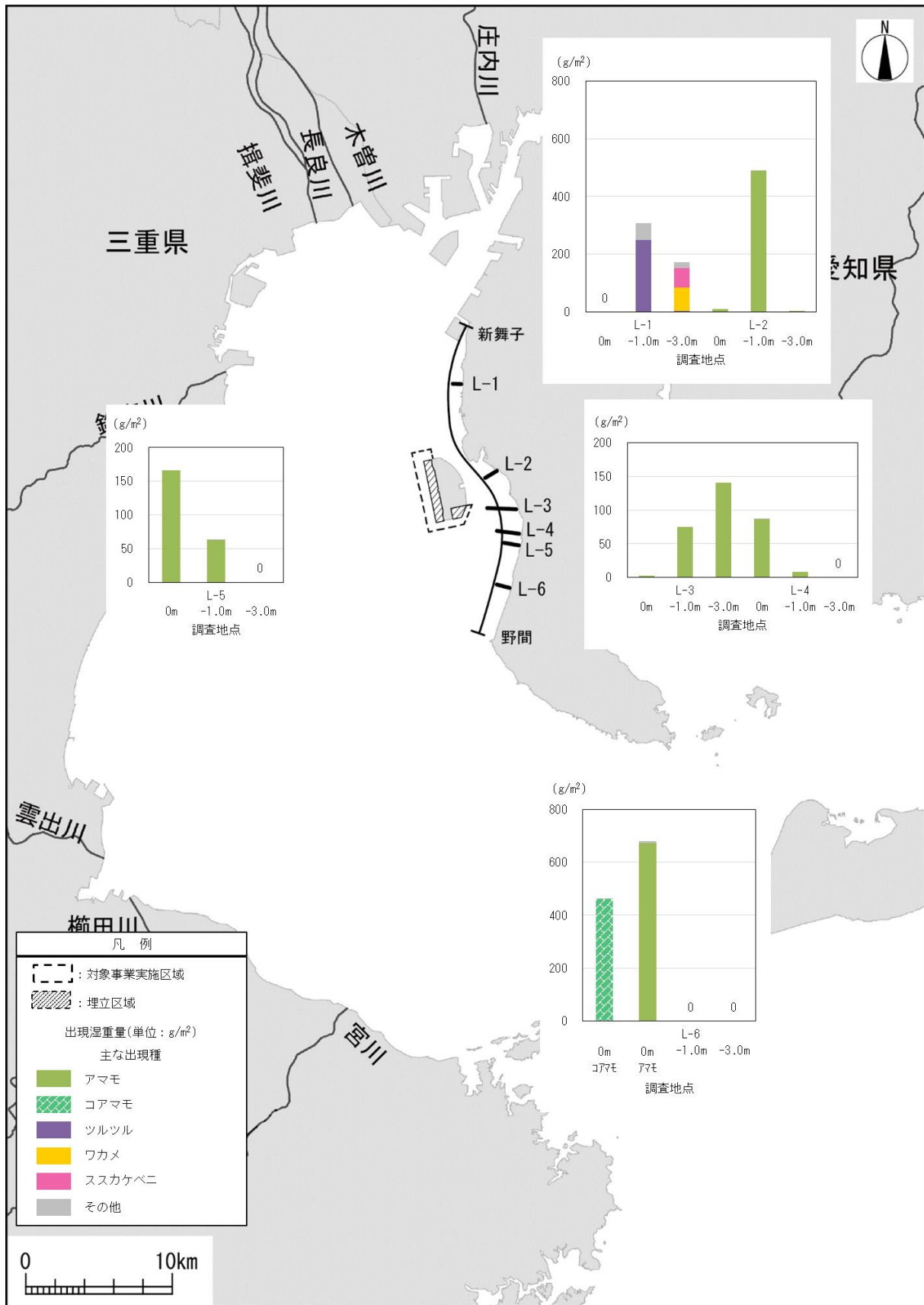
付図 8.9-3(6) 海草藻類分布状況 (平成 27 年 8 月 枠取り調査)

〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



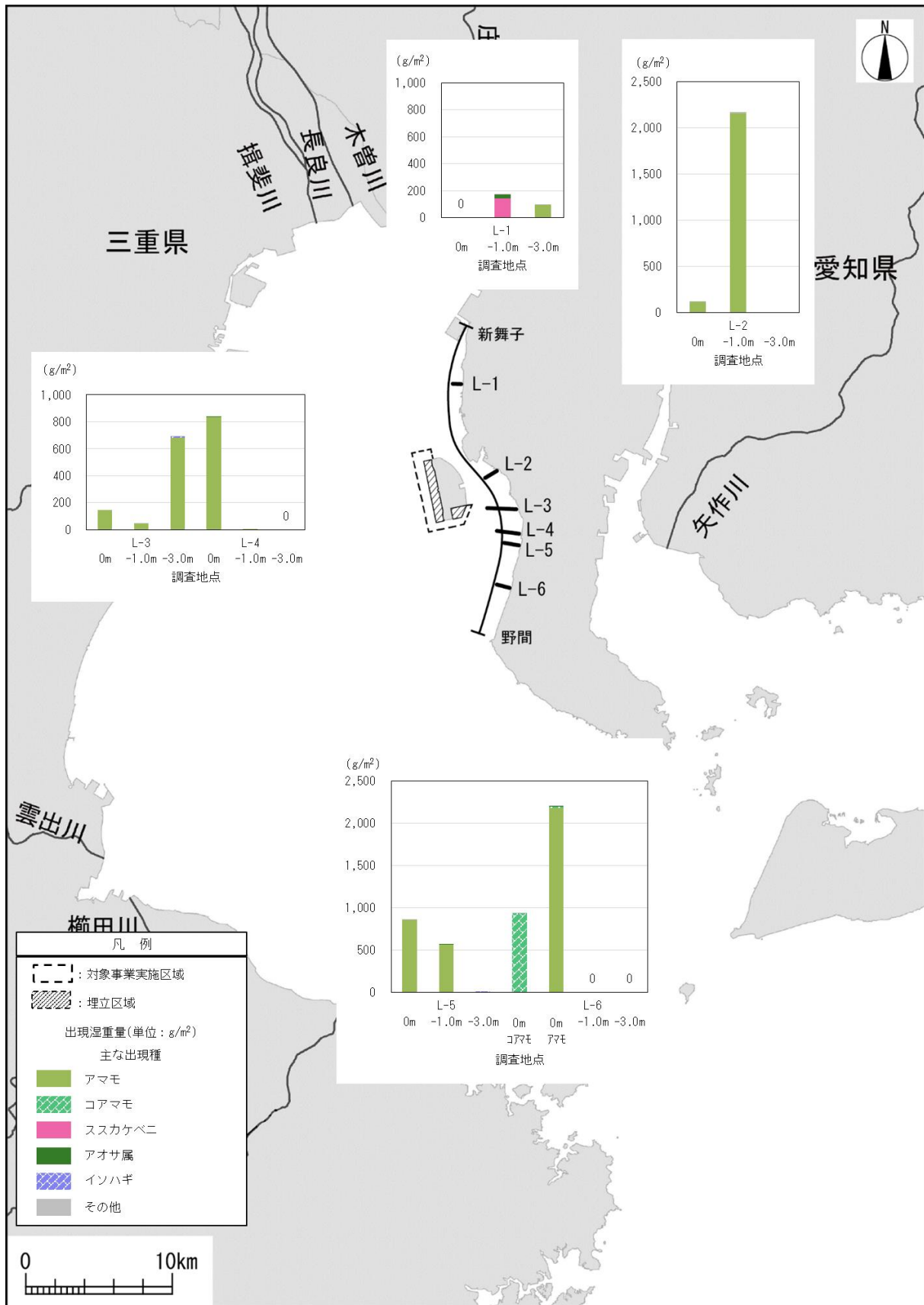
付図 8.9-3(7) 海草藻類分布状況 (平成 27 年 11 月 枠取り調査)

〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



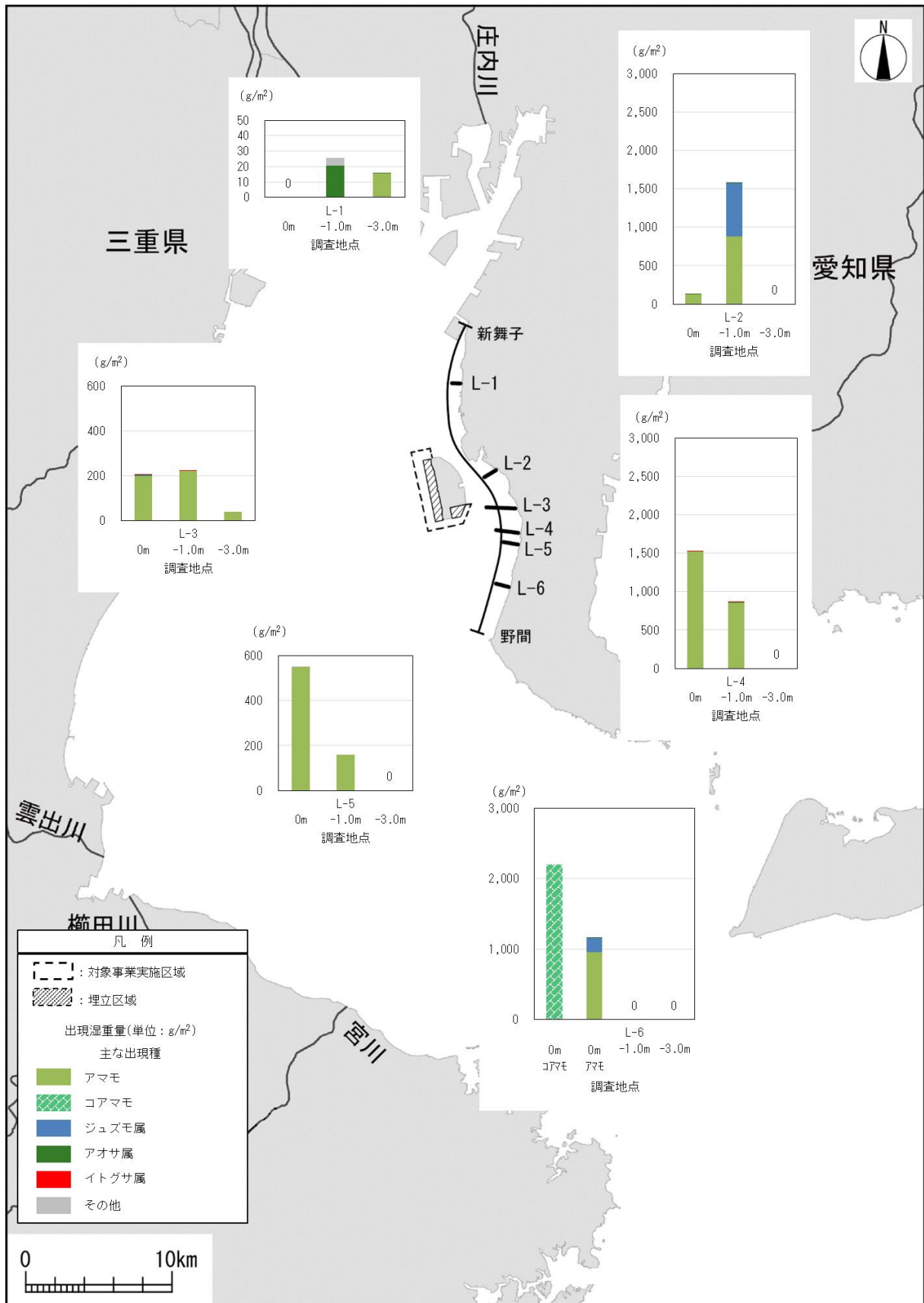
付図 8.9-3(8) 海草藻類分布状況 (平成 28 年 2 月 枠取り調査)

〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成



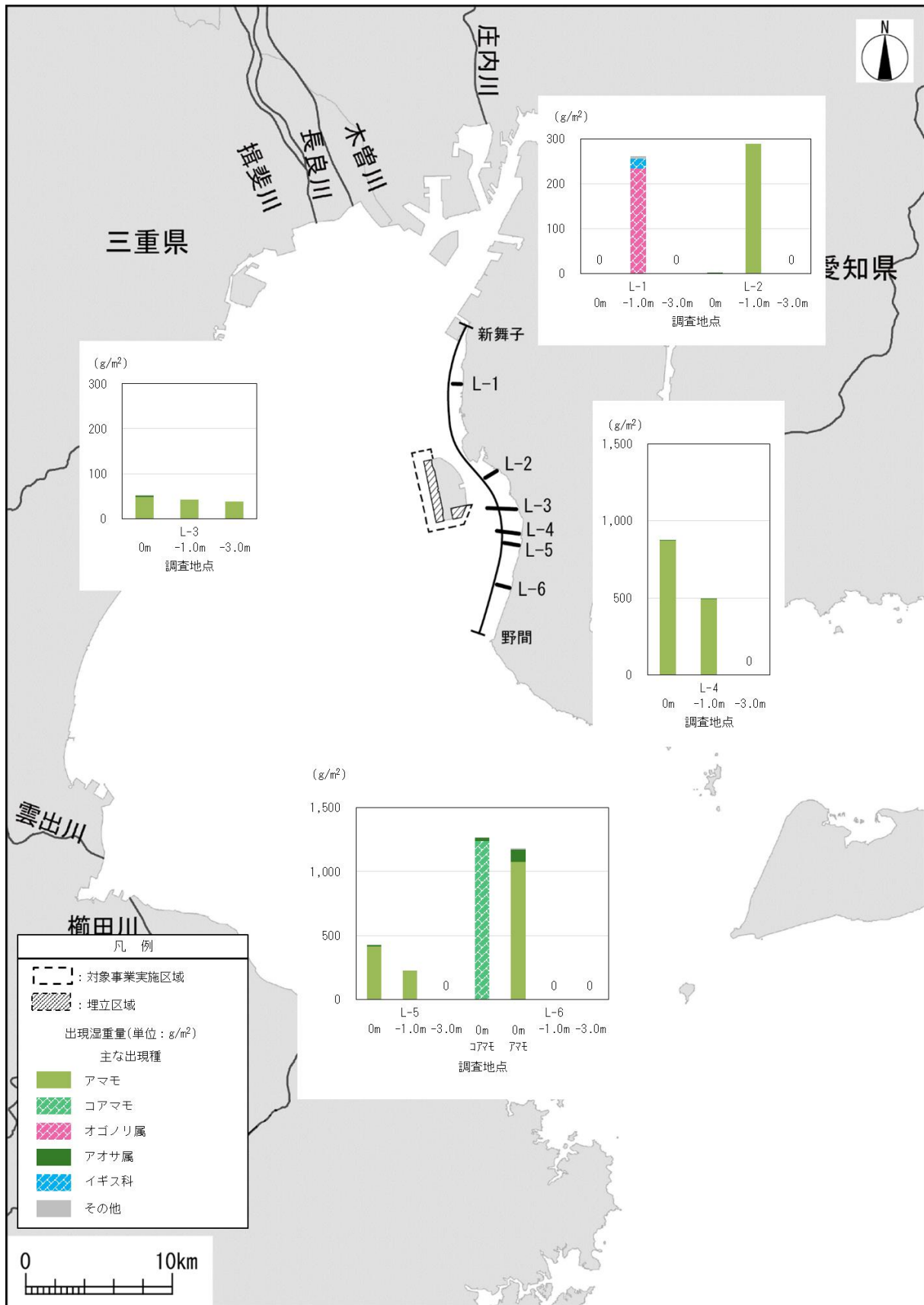
付図 8.9-3(9) 海草藻類分布状況 (平成 28 年 5 月 枠取り調査)

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成〕



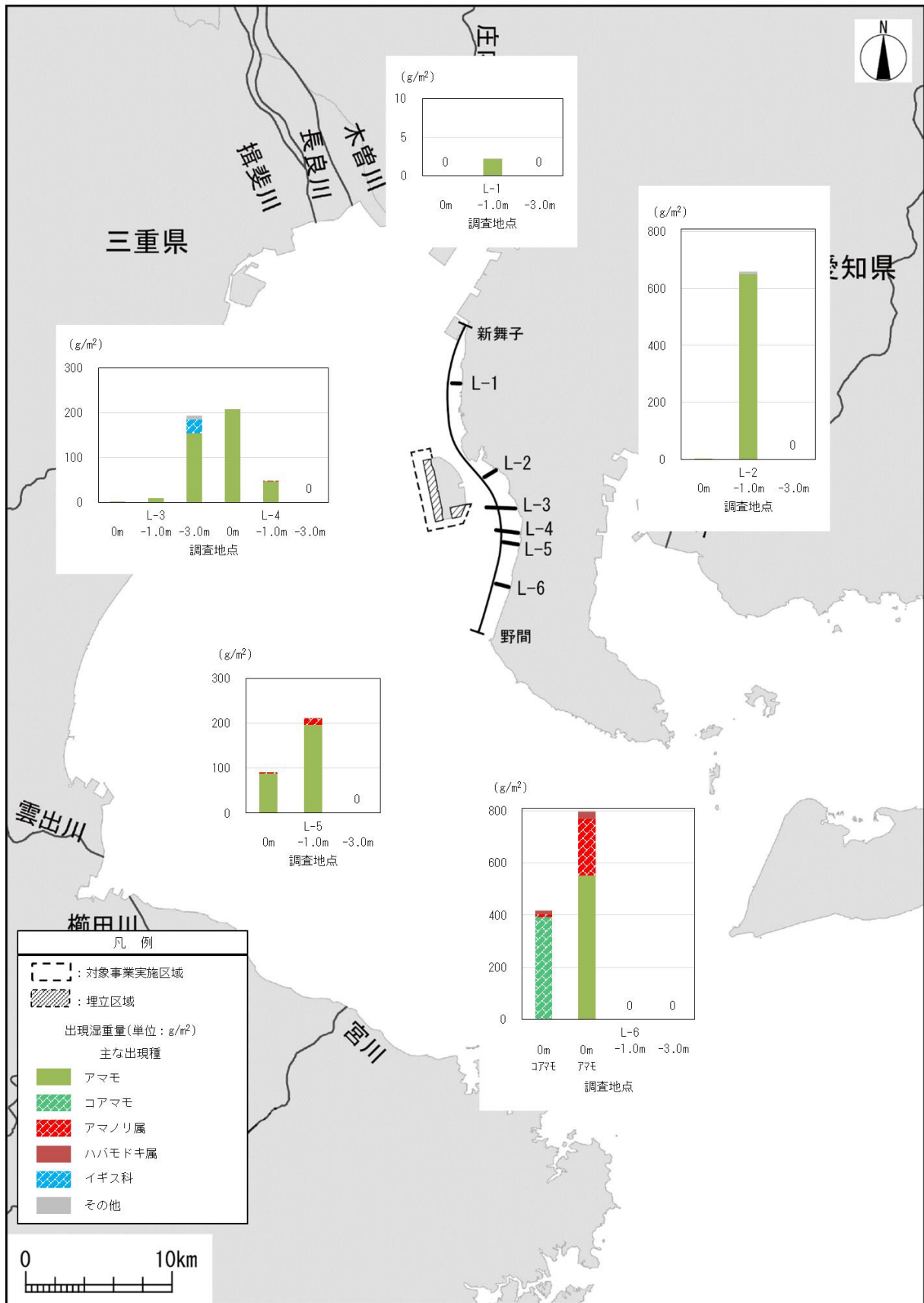
付図 8.9-3(10) 海草藻類分布状況 (平成 28 年 8 月 枠取り調査)

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.9-3(11) 海草藻類分布状況 (平成 28 年 11 月 枠取り調査)

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成



付図 8.9-3(12) 海草藻類分布状況 (平成 29 年 2 月 枠取り調査)

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 29 年) より作成

付表 8.9-4(1) 付着生物（植物）の目視観察調査結果（平成 26 年度）

項目	調査期日	平成26年5月 19～21、23、26日	平成26年8月18～22日	平成26年11月 17～20、25日	平成27年2月 7、8、10～12日
	出現種類数 〔61〕	緑藻綱	4	4	5
褐藻綱		8	4	9	11
紅藻綱		26	19	24	32
その他		1	1	3	3
合計		39	28	41	49
主な 出現種 (%)	緑藻綱	アオサ属		アオサ属	アオサ属
	褐藻綱	アミジグサ属 アカモク ワカメ		アカモク タマハハキモク	アカモク ワカメ
	紅藻綱	マクサ ムカデノリ属 イソダンツウ	マクサ イソダンツウ	マクサ 無節サンゴモ イソダンツウ	ムカデノリ属 イトグサ属
	その他	藍藻綱	藍藻綱	藍藻綱	藍藻綱

注：1. 主な出現種は各季節で7測線以上（3/4以上）に出現し、かついずれかの観察枠で50%以上出現している種を示す。

2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 27 年）より作成〕

付表 8.9-4(2) 付着生物（植物）の目視観察調査結果（平成 27 年度）

項目	調査期日	平成27年5月 11、14～17、19日	平成27年8月3～7、14日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～5日
	出現種類数 〔53〕	緑藻綱	4	5	3
褐藻綱		10	7	8	11
紅藻綱		23	22	24	29
その他		3	3	3	2
合計		40	37	38	45
主な 出現種 (%)	緑藻綱	アオサ属			
	褐藻綱	アミジグサ属 アカモク ワカメ		アカモク	アカモク
	紅藻綱	イソダンツウ シキンノリ	マクサ イソダンツウ	イソダンツウ シキンノリ	イソダンツウ ツノマタ属 シキンノリ イギス科
	その他		藍藻綱	藍藻綱	藍藻綱

注：1. 主な出現種は各季節で7測線以上（3/4以上）に出現し、かついずれかの観察枠で50%以上出現している種を示す。

2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成〕

付表 8.9-4(3) 付着生物（植物）の目視観察調査結果（平成 28 年度）

項目	調査期日		平成28年8月	平成28年11月	平成29年2月
	平成28年5月2、5～9日		1～3、5、7日	1～2、4～5、8日	1～2、4～5、9、25日
出現種類数 〔58〕	緑藻綱	4	4	4	4
	褐藻綱	11	7	6	13
	紅藻綱	27	19	25	32
	その他	2	2	2	2
	合計	44	32	37	51
主な 出現種 (%)	緑藻綱	アオサ属			アオサ属
	褐藻綱	アカモク	ウミウチワ	アカモク	アカモク
	紅藻綱	イソダンツウ	マクサ	イソダンツウ	イソダンツウ
		ツノマタ属 シキンノリ	ツノマタ属 シキンノリ	ツノマタ属 シキンノリ イギス科	ツノマタ属 シキンノリ
その他	藍藻綱	藍藻綱	藍藻綱	藍藻綱	

注：1. 主な出現種は各季節で7測線以上（3/4以上）に出現し、かついずれかの観察枠で50%以上出現している種を示す。

2. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書〕
〔国土交通省中部地方整備局、平成 29 年〕より作成

付表 8.9-5(1) 付着生物（植物）の出現状況（枠取り調査：平成 26 年度）

項目		調査期日			
		平成26年5月19～26日	平成26年8月18～22日	平成26年11月17～25日	平成27年2月7～12日
出現種類数 〔64〕		38	32	36	53
平均 出現湿重量 (g/m ²)	緑藻綱	35.76 (0.9)	3.53 (3.0)	0.88 (0.3)	91.88 (6.6)
	褐藻綱	3,592.83 (89.3)	9.60 (8.2)	185.58 (60.3)	1,109.48 (79.9)
	紅藻綱	392.71 (9.8)	104.04 (88.8)	121.47 (39.4)	186.69 (13.5)
	その他	出現せず	出現せず	出現せず	出現せず
	合 計	4,021.30	117.17	307.93	1,388.05
主な 出現種 (%)	褐藻綱	ワカメ (53.3) アカモク (30.3)		アカモク (26.5) タマハハキモク (22.9)	ワカメ (34.6) アカモク (26.0) タマハハキモク (12.6)
	紅藻綱		マクサ (68.5) ツノマタ (11.9)	マクサ (32.8)	

- 注：1. 組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

付表 8.9-5(2) 付着生物（植物）の出現状況（枠取り調査：平成 27 年度）

項目		調査期日			
		平成27年5月11～19日	平成27年8月3～7日	平成27年11月2～6日	平成28年2月1～5日
出現種類数 〔77〕		58	41	46	58
平均 出現湿重量 (g/m ²)	緑藻綱	4.38 (0.2)	0.03 (0.0)	0.08 (0.1)	13.78 (2.2)
	褐藻綱	1,945.69 (96.4)	40.51 (16.6)	54.52 (53.5)	561.69 (88.8)
	紅藻綱	67.78 (3.4)	204.06 (83.4)	46.94 (46.0)	56.51 (8.9)
	その他	出現せず	出現せず	0.40 (0.4)	0.37 (0.1)
	合 計	2,017.85	244.60	101.94	632.35
主な 出現種 (%)	褐藻綱	ワカメ (82.0)		ヨレモクモドキ (36.9) アカモク (13.7)	アカモク (69.2)
	紅藻綱		マクサ (61.2) ツノマタ (18.2)	マクサ (26.2)	

- 注：1. 組成比率が 10%以上の種を主な出現種として整理した。
 2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比 (%) を示す。四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある。
 3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 27 年)
 〔平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成 28 年) より作成

付表 8.9-5(3) 付着生物（植物）の出現状況（枠取り調査：平成 28 年度）

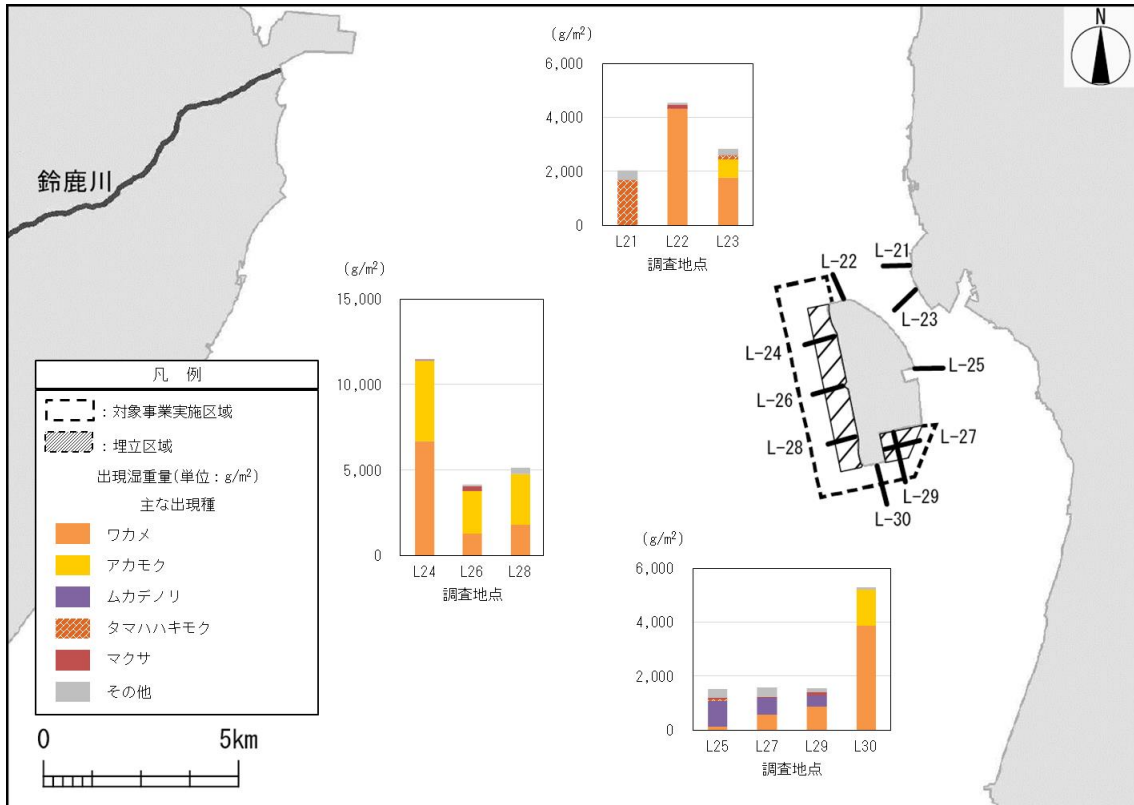
項目		調査期日			
		平成28年5月 2、5、6、8、9日	平成28年8月1～5日	平成28年11月 1、2、4、5、8日	平成29年2月 1～2、4～5、9、17日
出現種類数 〔73〕		56	45	44	55
平均 出現湿重量 (g/m ²)	緑藻綱	42.29 (3.0)	2.67 (0.6)	0.58 (0.2)	23.98 (2.9)
	褐藻綱	1,184.37 (82.6)	294.94 (66.2)	228.60 (83.7)	726.44 (86.7)
	紅藻綱	206.73 (14.4)	147.55 (33.1)	43.97 (16.1)	82.72 (9.9)
	その他	0.01 (0.0)	0.40 (0.1)	0.10 (0.0)	4.69 (0.6)
	合 計	1,433.40	445.56	273.25	837.83
主な 出現種 (%)	褐藻綱	ワカメ (31.2) アカモク (29.4) ヨレモクモドキ (11.3)	ウミウチワ (50.9) ヨレモクモドキ (11.2)	アカモク (44.3) ヨレモクモドキ (27.7)	アカモク (64.2) ヨレモクモドキ (10.3)
	紅藻綱		マクサ (16.1)		

注：1. 組成比率が10%以上の種を主な出現種として整理した。

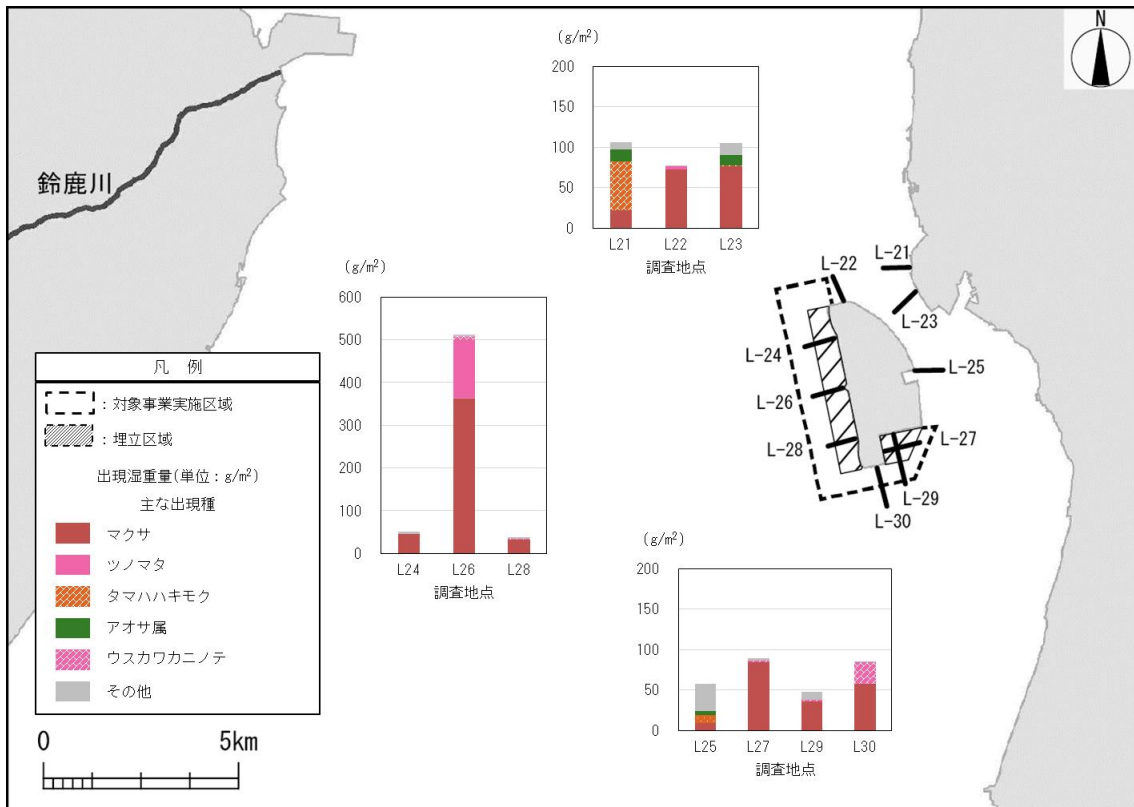
2. 組成比率は、各調査期間における総数に対する比（%）を示す。四捨五入の関係で合計が100にならないことがある。

3. 出現種類数の欄の〔 〕は年間の総出現種類数を示す。

〔「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
（国土交通省中部地方整備局、平成 29 年）より作成〕

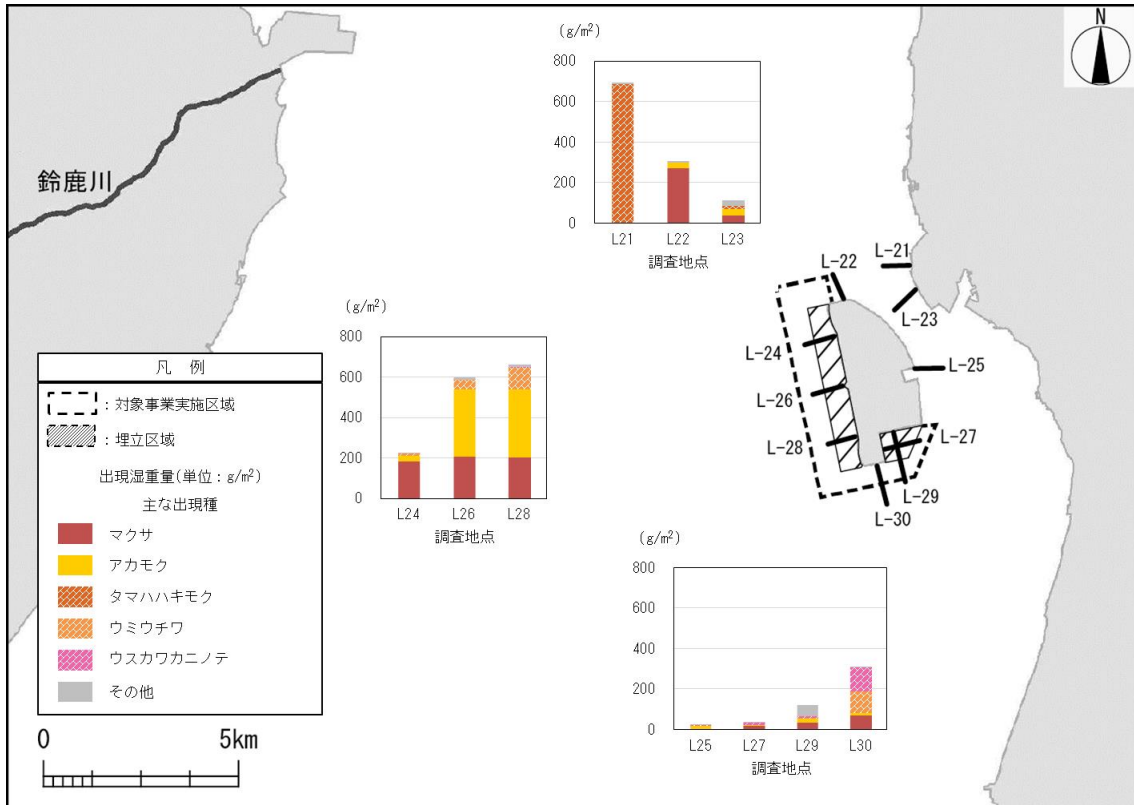


付図 8.9-4(1) 付着生物(植物)の分布状況(平成26年5月 枠取り調査)

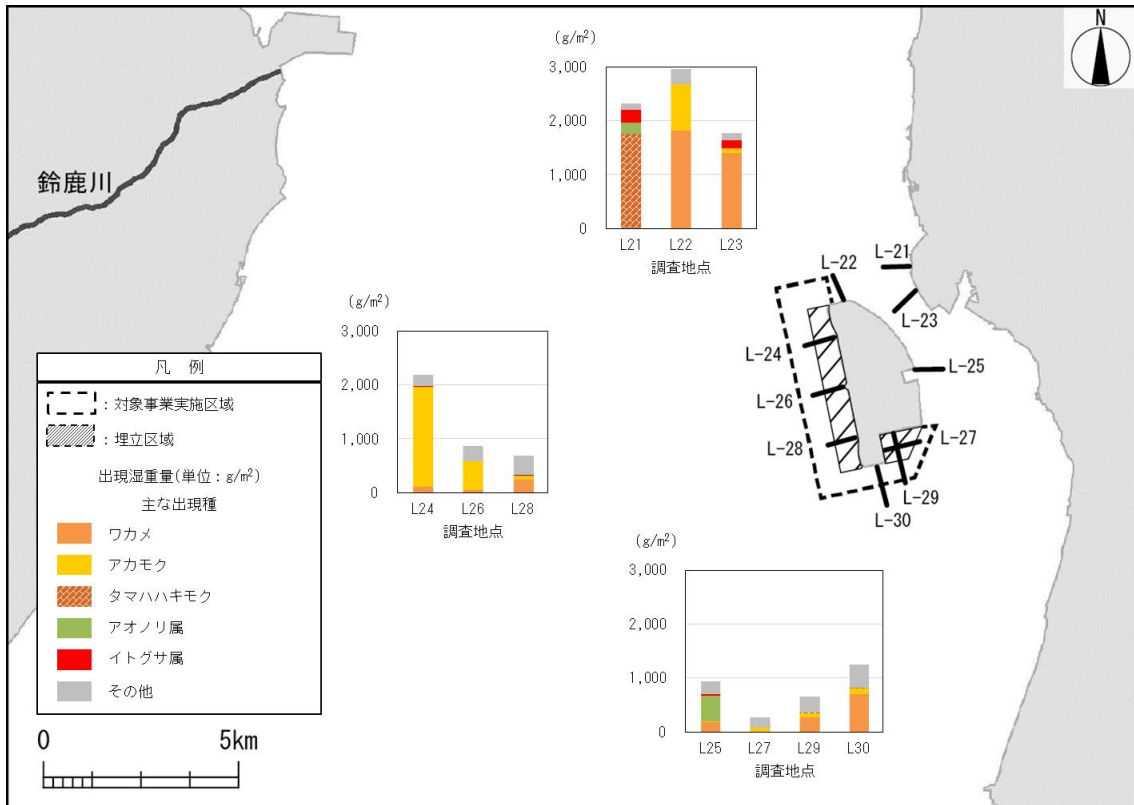


付図 8.9-4(2) 付着生物(植物)の分布状況(平成26年8月 枠取り調査)

〔平成25年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成27年)より作成

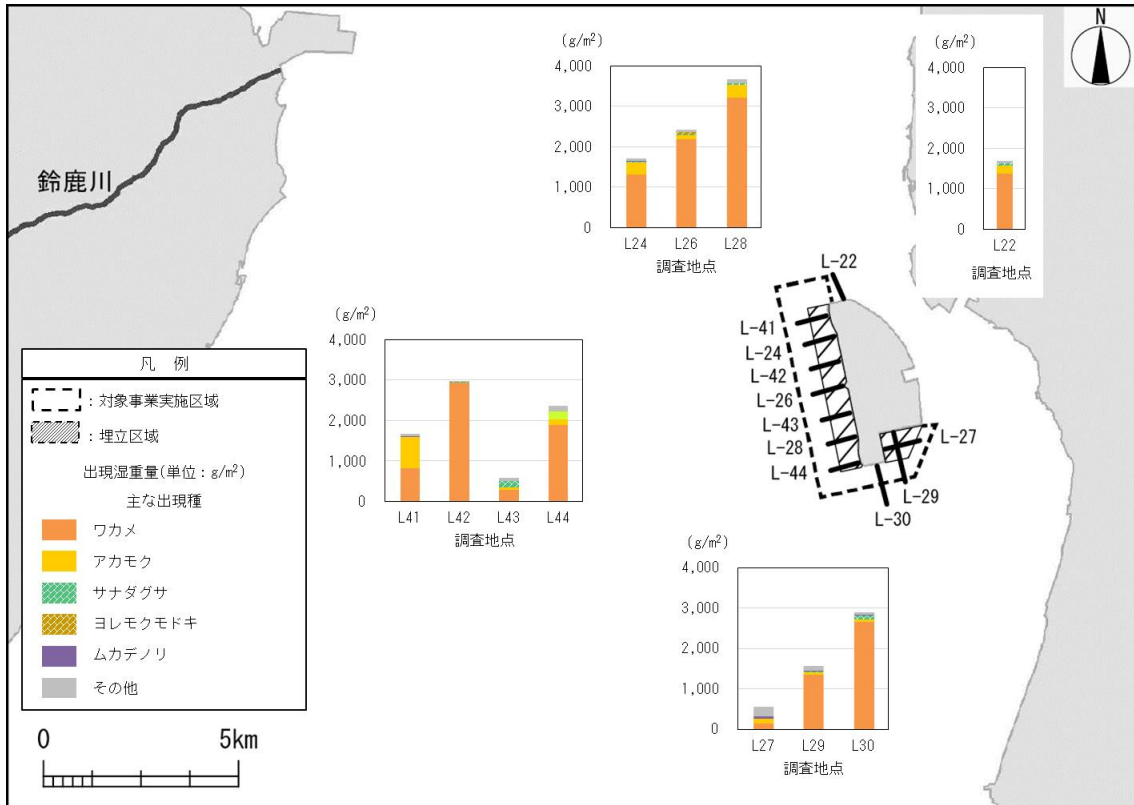


付図 8.9-4(3) 付着生物(植物)の分布状況(平成26年11月 枠取り調査)

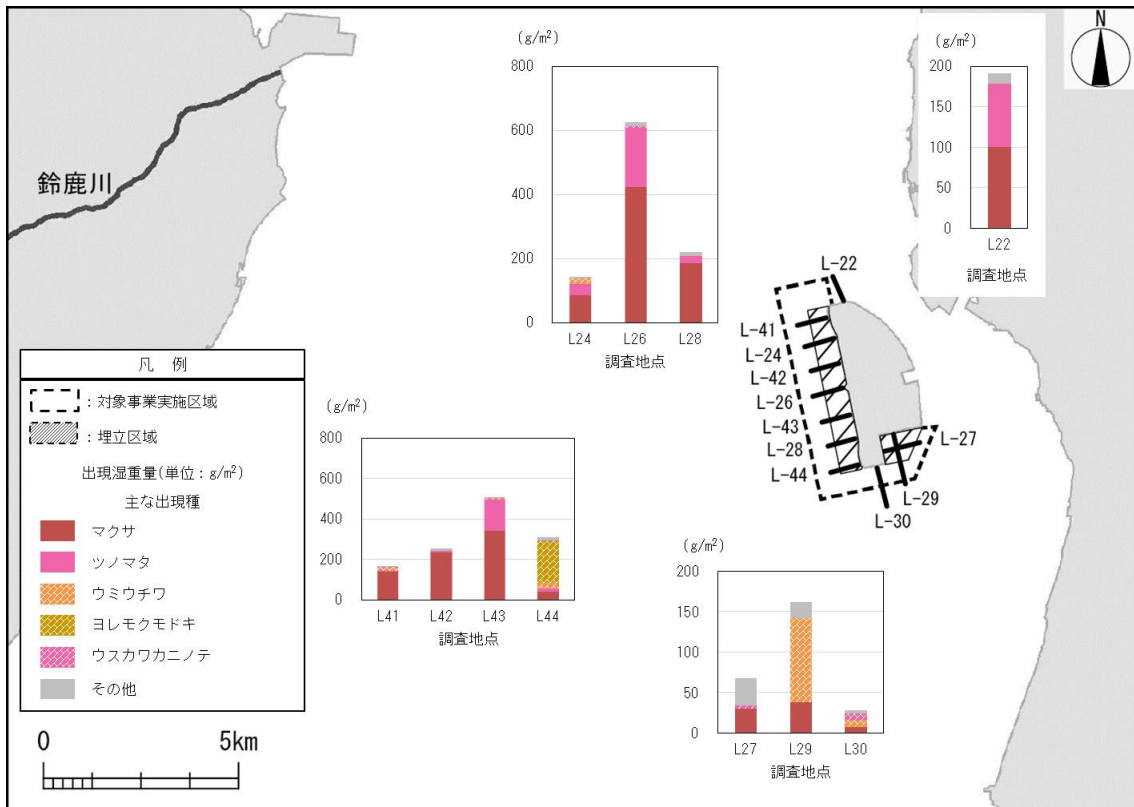


付図 8.9-4(4) 付着生物(植物)の分布状況(平成27年2月 枠取り調査)

「平成25年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
(国土交通省中部地方整備局、平成27年)より作成

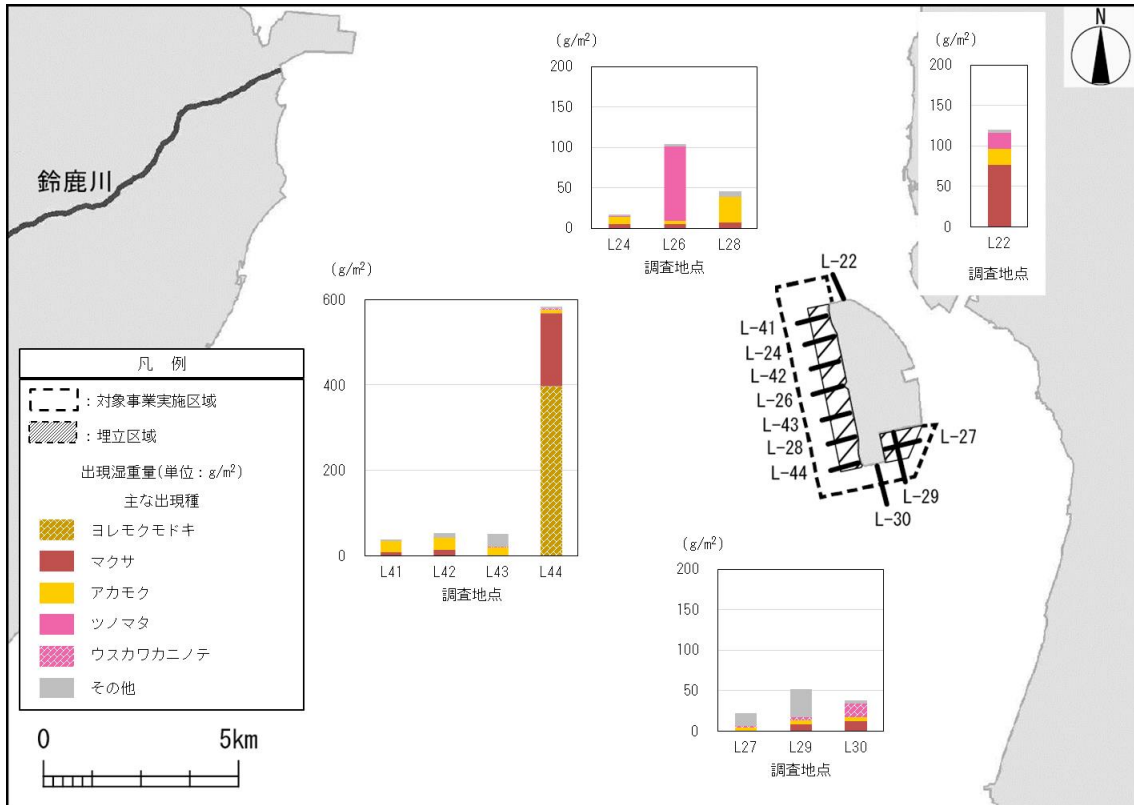


付図 8.9-4(5) 付着生物（植物）の分布状況（平成 27 年 5 月 枠取り調査）

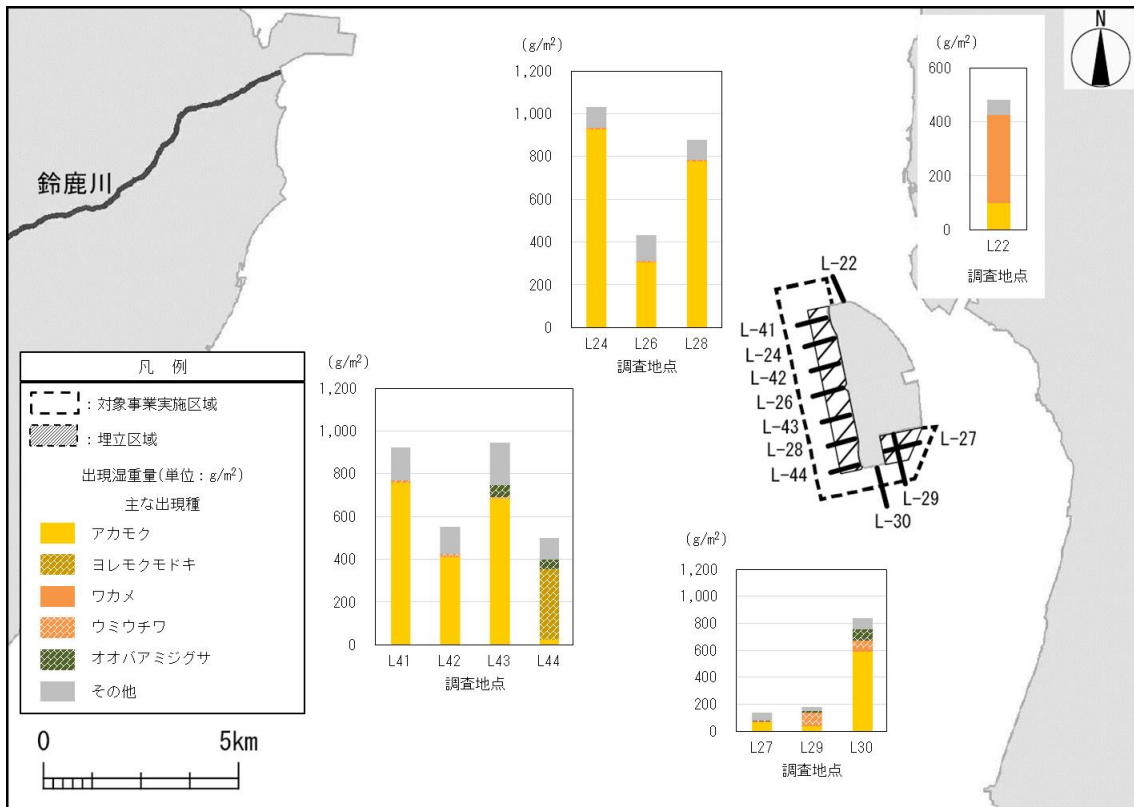


付図 8.9-4(6) 付着生物（植物）の分布状況（平成 27 年 8 月 枠取り調査）

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」
 （国土交通省中部地方整備局、平成 28 年）より作成

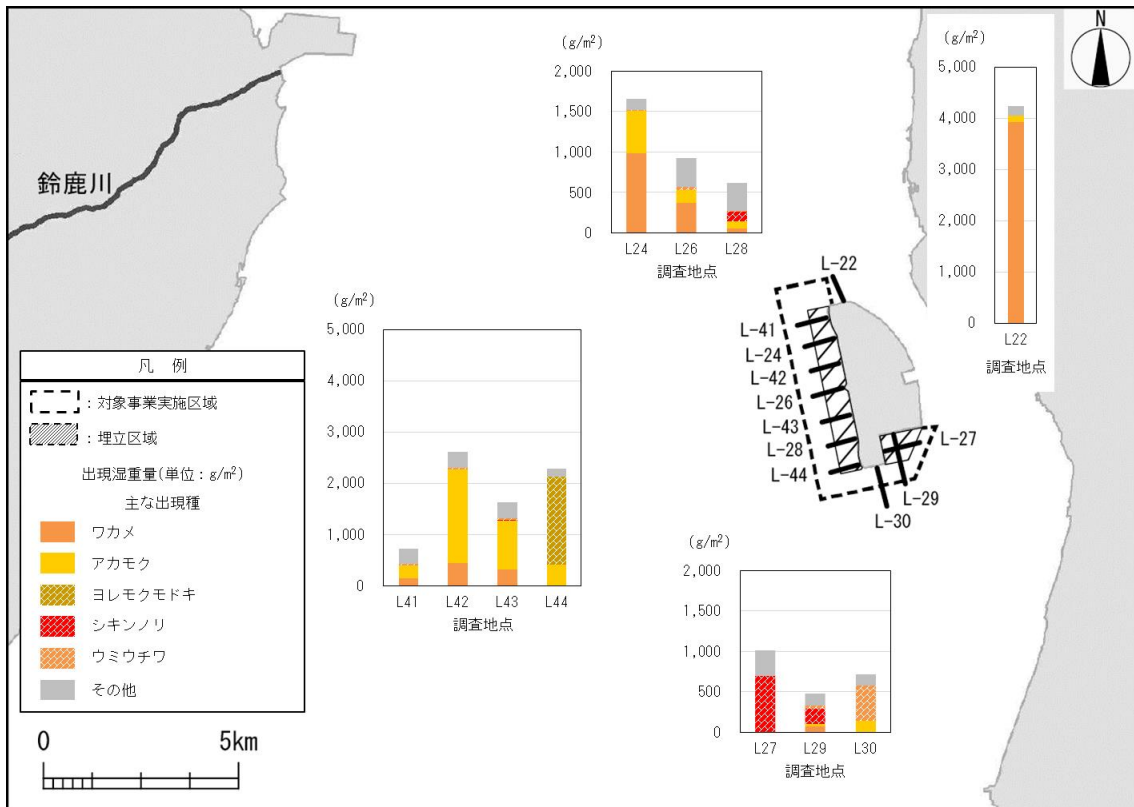


付図 8.9-4(7) 付着生物(植物)の分布状況(平成27年11月 枠取り調査)

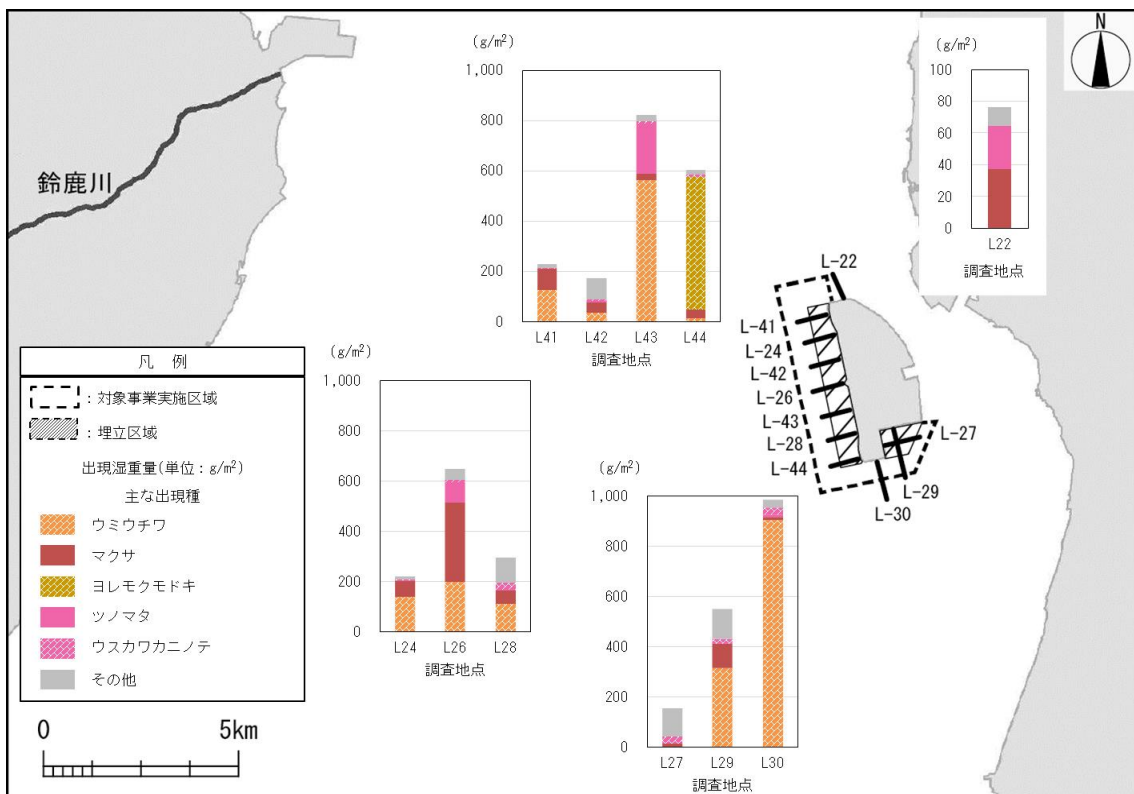


付図 8.9-4(8) 付着生物(植物)の分布状況(平成28年2月 枠取り調査)

〔平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書〕
 (国土交通省中部地方整備局、平成28年)より作成



付図 8.9-4(9) 付着生物(植物)の分布状況(平成28年5月 枠取り調査)



付図 8.9-4(10) 付着生物(植物)の分布状況(平成28年8月 枠取り調査)

「平成28年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」
 (国土交通省中部地方整備局、平成29年)より作成

